



# 授業計画書 2013

平成 25 年度 Syllabus (全年生用)



# 2013 年度 授業計画書について

この授業計画書は、在学生の皆さんが、大学でどのような授業が行なわれるかを知るうえで、とても大切な冊子です。これを見ながら、履修登録や普段の授業に活用してください。

## 【見方について】

経済・国際 → 経済学部・国際学部共通のシラバスです。

経済 → 経済学部用のシラバスです。

国際 → 国際学部用のシラバスです。

科目は、学部ごと、授業回数ごと（15回→30回→集中授業）で

アイウエオ順になっています。

※この授業計画書は、2013年4月15日現在のものです。場合によっては、本文の内容が変わる場合もありますので、KCN（Keiai Campus Navigator）の Web シラバスも併せて参照してください。

# 目次

学部	科目名	教員氏名	頁	学部	科目名	教員氏名	頁
経済・国際	アジアの歴史と社会	家近 亮子	1	経済・国際	地理歴史科指導法	福田 靖	37
経済・国際	アルゴリズム論 I	森島 隆晴	2	経済・国際	哲学概論 I	小林 秀樹	38
経済・国際	インターンシップ (キャリアデザイン 6)	キャリアセンター	3	経済・国際	哲学概論 II	小林 秀樹	39
経済・国際	環境科学	中村 圭三	4	経済・国際	哲学入門	壁谷 彰慶	40
経済・国際	教育行政	赤羽 良明	5	経済・国際	道德教育研究	中山 幸夫	41
経済・国際	教育実践研究 (中・高)	奈良 明	6	経済・国際	道德教育研究	中山 幸夫	42
経済・国際	教育心理学	藤井 輝男	7	経済・国際	特別活動指導法	池谷 美佐子	43
経済・国際	教育心理学	田中 未央	8	経済・国際	日本史概論 I	小山 幸伸	44
経済・国際	教育相談	田中 未央	9	経済・国際	日本史概論 II	小山 幸伸	45
経済・国際	教育相談	藤井 輝男	10	経済・国際	日本地誌	戸田 真夏	46
経済・国際	教育法規	赤羽 良明	11	経済・国際	日本の文学	畑中 千晶	47
経済・国際	教育方法・技術論	柳原 由美子	12	経済・国際	発達心理学	藤井 輝男	48
経済・国際	教職概論	坂本 義孝	13	経済・国際	発達心理学	田中 未央	49
経済・国際	教職概論	武内 清	14	経済・国際	比較文学	畑中 千晶	50
経済・国際	敬天愛人講座	教務部委員会	15	経済・国際	フランス語 I	寺尾 いづみ	51
経済・国際	公民科指導法	福田 靖	16	経済・国際	フランス語 I	浅野 信二	52
経済・国際	システム設計論 I	高橋 和子	17	経済・国際	フランス語 II	寺尾 いづみ	53
経済・国際	システム設計論 II	高橋 和子	18	経済・国際	フランス語 II	浅野 信二	54
経済・国際	社会科・公民科指導法 I	福田 靖	19	経済・国際	ベンチャービジネス論	川西 正己	55
経済・国際	社会科・公民科指導法 II	福田 靖	20	経済・国際	法学入門	覚正 豊和	56
経済・国際	社会科・地歴科指導法 I	奈良 明	21	経済・国際	ヨーロッパ経済論 I	飯野 由美子	57
経済・国際	社会科・地歴科指導法 II	奈良 明	22	経済・国際	ヨーロッパ経済論 II	飯野 由美子	58
経済・国際	社会学	菊池 真弓	23	経済・国際	歴史学入門	山本 健	59
経済・国際	社会思想史 I	折原 裕	24	経済	Cプログラミング	染谷 広幸	60
経済・国際	情報概論	高橋 和子	25	経済	Excel データ解析	井手 雅哉	61
経済・国際	政治学概論 I	櫛田 久代	26	経済	OS 論	森島 隆晴	62
経済・国際	政治学概論 II	櫛田 久代	27	経済	Perl プログラミング	染谷 広幸	63
経済・国際	政治学概論 II	櫛田 久代	28	経済	TOEIC 向上講座 I	田 文揚	64
経済・国際	政治学入門	櫛田 久代	29	経済	TOEIC 向上講座 II	田 文揚	65
経済・国際	生徒指導論	福田 靖	30	経済	VB プログラミング	小林 忠	66
経済・国際	世界史概論 I	山本 健	31	経済	Web デザイン	井手 雅哉	67
経済・国際	世界史概論 II	山本 健	32	経済	アジア経済論	中川 雅彦	68
経済・国際	世界地誌	高田 洋子	33	経済	アジアの工業立地	青木 英一	69
経済・国際	中東経済論	水口 章	34	経済	アジアの地理	青木 英一	70
経済・国際	地理学概論 I	永野 征男	35	経済	アジアビジネス論	金 珍淑	71
経済・国際	地理学概論 II	永野 征男	36	経済	アメリカ経済論 I	牧野 俊重	72
				経済	アメリカ経済論 II	牧野 俊重	73

# 目次

学部	科目名	教員氏名	頁	学部	科目名	教員氏名	頁
経済	英会話 III	Scot Hill	74	経済	外国経営書講読 II	平屋 伸洋	111
経済	英会話 IV	Scot Hill	75	経済	外国経済書講読 I	土井 修	112
経済	英語 I	芳賀 理彦	76	経済	外国経済書講読 II	土井 修	113
経済	英語 I	伊東 隆子	77	経済	会社法	野口 明宏	114
経済	英語 I	武井 みち子	78	経済	環境経済学 I	和田 良子	115
経済	英語 I	内野 泰子	79	経済	環境経済学 II	和田 良子	116
経済	英語 I	伊東 隆子	80	経済	環境地理学 I	三澤 正	117
経済	英語 I	芳賀 理彦	81	経済	環境地理学 II	三澤 正	118
経済	英語 I	芳賀 理彦	82	経済	環境問題 I	金子 林太郎	119
経済	英語 I	田 文揚	83	経済	環境問題 II	金子 林太郎	120
経済	英語 II	芳賀 理彦	84	経済	観光事業論 I	奥山 隆哉	121
経済	英語 II	伊東 隆子	85	経済	観光事業論 II	奥山 隆哉	122
経済	英語 II	武井 みち子	86	経済	管理会計論	平屋 伸洋	123
経済	英語 II	内野 泰子	87	経済	企業金融論 I	三田村 智	124
経済	英語 II	伊東 隆子	88	経済	企業金融論 II	三田村 智	125
経済	英語 II	芳賀 理彦	89	経済	企業経営と心理学	藤井 輝男	126
経済	英語 II	芳賀 理彦	90	経済	企業と産業組織 I	森谷 英樹	127
経済	英語 II	田 文揚	91	経済	企業と産業組織 II	森谷 英樹	128
経済	英語 III	芳賀 理彦	92	経済	企業法	野口 明宏	129
経済	英語 III	武井 みち子	93	経済	基礎数学	経済教務委員会	130
経済	英語 III	伊東 隆子	94	経済	基礎数学	経済教務委員会	131
経済	英語 III	武井 みち子	95	経済	基礎数学	経済教務委員会	132
経済	英語 III	芳賀 理彦	96	経済	基礎数学	経済教務委員会	133
経済	英語 III	伊東 隆子	97	経済	キャリア基礎開発 I	キャリアセンター	134
経済	英語 III	芳賀 理彦	98	経済	キャリア基礎開発 II	キャリアセンター	135
経済	英語 III	内野 泰子	99	経済	キャリア基礎開発 III	キャリアセンター	136
経済	英語 IV	芳賀 理彦	100	経済	キャリア基礎開発 III	キャリアセンター	137
経済	英語 IV	武井 みち子	101	経済	キャリアディベロップメント	キャリアセンター	138
経済	英語 IV	伊東 隆子	102	経済	キャリアディベロップメント	キャリアセンター	139
経済	英語 IV	武井 みち子	103	経済	キャリア教育特殊講義	キャリアセンター	140
経済	英語 IV	芳賀 理彦	104	経済	キャリアプランニング	キャリアセンター	141
経済	英語 IV	伊東 隆子	105	経済	キャリアプランニング	キャリアセンター	142
経済	英語 IV	芳賀 理彦	106	経済	キャリアプランニング	キャリアセンター	143
経済	英語 IV	内野 泰子	107	経済	教育原論 I	中山 幸夫	144
経済	会計学 I	鈴木 明男	108	経済	教育原論 II	中山 幸夫	145
経済	会計学 II	鈴木 明男	109	経済	教育福祉論	佐藤 真生子	146
経済	外国経営書講読 I	岸本 太一	110	経済	教職時事演習	中山 幸夫	147

# 目次

学部	科目名	教員氏名	頁	学部	科目名	教員氏名	頁
経済	行政法 I	小野寺 邦広	148	経済	計量経済学 I	馬場 正弘	185
経済	行政法 II	小野寺 邦広	149	経済	計量経済学 II	馬場 正弘	186
経済	銀行論 I	添田 利光	150	経済	原価計算論 I	柴田 寛幸	187
経済	銀行論 II	添田 利光	151	経済	原価計算論 II	柴田 寛幸	188
経済	金融経済の基礎知識	東 浩規	152	経済	健康科学	福川 裕司	189
経済	金融事情 I	飯野 由美子	153	経済	健康科学	福川 裕司	190
経済	金融事情 II	飯野 由美子	154	経済	憲法 II	覚正 豊和	191
経済	金融論 I	添田 利光	155	経済	公共経済学	仁平 耕一	192
経済	金融論 II	添田 利光	156	経済	公共選択論	仁平 耕一	193
経済	経営学 I	高木 朋代	157	経済	口頭表現	経済教務委員会	194
経済	経営学 II	高木 朋代	158	経済	口頭表現	経済教務委員会	195
経済	経営財務論	石鍋 信孝	159	経済	口頭表現	経済教務委員会	196
経済	経営史 I	白井 泉	160	経済	口頭表現	経済教務委員会	197
経済	経営史 II	白井 泉	161	経済	国際金融論 I	添田 利光	198
経済	経営戦略論 I	岸本 太一	162	経済	国際金融論 II	添田 利光	199
経済	経営戦略論 II	岸本 太一	163	経済	国際経営論	長島 芳枝	200
経済	経営組織論 I	高木 朋代	164	経済	国際経済論 I	土井 修	201
経済	経営組織論 II	高木 朋代	165	経済	国際経済論 II	土井 修	202
経済	経営分析 I	平屋 伸洋	166	経済	国際法 I	庄司 真理子	203
経済	経営分析 II	平屋 伸洋	167	経済	国際法 II	庄司 真理子	204
経済	経営立地論	青木 英一	168	経済	サービス産業論	金 珍淑	205
経済	経済学史 I	加茂川 益郎	169	経済	財政学 I	金子 林太郎	206
経済	経済学史 II	加茂川 益郎	170	経済	財政学 II	金子 林太郎	207
経済	経済学方法論 I	折原 裕	171	経済	産業論 I	森谷 英樹	208
経済	経済学方法論 II	折原 裕	172	経済	産業論 II	森谷 英樹	209
経済	経済数学 I	小林 忠	173	経済	時事英語 III	内野 泰子	210
経済	経済数学 II	小林 忠	174	経済	時事英語 IV	内野 泰子	211
経済	経済政策 AI	馬場 正弘	175	経済	自然地理学 I	近藤 昭彦	212
経済	経済政策 AII	馬場 正弘	176	経済	自然地理学 II	近藤 昭彦	213
経済	経済政策 BI	仁平 耕一	177	経済	実践会話 I	斉木 かおり	214
経済	経済政策 BII	仁平 耕一	178	経済	実践会話 I	斉木 かおり	215
経済	経済統計 I	稲葉 弘道	179	経済	実践会話 II	斉木 かおり	216
経済	経済統計 II	稲葉 弘道	180	経済	実践会話 II	斉木 かおり	217
経済	経済理論 AI	加茂川 益郎	181	経済	社会学概論	菊池 真弓	218
経済	経済理論 AII	加茂川 益郎	182	経済	社会思想史 II	折原 裕	219
経済	経済理論 BI	和田 良子	183	経済	社会心理学	藤井 輝男	220
経済	経済理論 BII	和田 良子	184	経済	社会政策 I	星 真実	221

# 目次

学部	科目名	教員氏名	頁	学部	科目名	教員氏名	頁
経済	社会政策 II	星 真実	222	経済	人的資源管理 II	高木 朋代	259
経済	社会福祉論	星 真実	223	経済	心理学	藤井 輝男	260
経済	商業科教材研究	坂本 義孝	224	経済	進路支援講座 (金融・情報) III	平屋 伸洋	261
経済	商業科指導法	坂本 義孝	225	経済	進路支援講座 (金融・情報) IV	平屋 伸洋	262
経済	証券経済論 I	土井 修	226	経済	進路支援講座 (経済) III	小山 幸伸	263
経済	証券経済論 II	土井 修	227	経済	進路支援講座 (経済) IV	小山 幸伸	264
経済	消費者行動論	藤井 輝男	228	経済	進路支援講座 I (経済系コース共通)	経済教務委員会	265
経済	情報科指導法 I	須之内 義昭	229	経済	進路支援講座 II (経済系コース共通)	経済教務委員会	266
経済	情報科指導法 II	須之内 義昭	230	経済	進路支援講座 (公務員) III	経済教務委員会	267
経済	情報基礎 I	清水 麻実	231	経済	進路支援講座 (公務員) IV	経済教務委員会	268
経済	情報基礎 I	成富 慶子	232	経済	数学 I	小林 忠	269
経済	情報基礎 I	清水 麻実	233	経済	数学 II	小林 忠	270
経済	情報基礎 I	清水 麻実	234	経済	スポーツ教育 I	福川 裕司	271
経済	情報基礎 I	清水 麻実	235	経済	スポーツ教育 I	福川 裕司	272
経済	情報基礎 I	成富 慶子	236	経済	スポーツ産業論	二宮 雅也	273
経済	情報基礎 I	清水 麻実	237	経済	スポーツビジネス論	二宮 雅也	274
経済	情報基礎 I	濱野 和人	238	経済	税務会計論 I	鈴木 明男	275
経済	情報基礎 I	濱野 和人	239	経済	税務会計論 II	鈴木 明男	276
経済	情報基礎 I	濱野 和人	240	経済	西洋経済史 I	牧野 俊重	277
経済	情報基礎 II	清水 麻実	241	経済	西洋経済史 II	牧野 俊重	278
経済	情報基礎 II	清水 麻実	242	経済	世界経済地理	青木 英一	279
経済	情報基礎 II	清水 麻実	243	経済	専門演習 I	牧野 俊重	280
経済	情報基礎 II	成富 慶子	244	経済	専門演習 I	野口 明宏	281
経済	情報基礎 II	成富 慶子	245	経済	専門演習 I	加茂川 益郎	282
経済	情報基礎 II	清水 麻実	246	経済	専門演習 I	仁平 耕一	283
経済	情報基礎 II	清水 麻実	247	経済	専門演習 I	森谷 英樹	284
経済	情報基礎 II	濱野 和人	248	経済	専門演習 I	青木 英一	285
経済	情報基礎 II	濱野 和人	249	経済	専門演習 I	折原 裕	286
経済	情報基礎 II	濱野 和人	250	経済	専門演習 I	飯野 由美子	287
経済	情報社会と倫理	井手 雅哉	251	経済	専門演習 I	小山 幸伸	288
経済	情報セキュリティ論	森島 隆晴	252	経済	専門演習 I	和田 良子	289
経済	情報と職業	須之内 義昭	253	経済	専門演習 I	馬場 正弘	290
経済	情報マネジメント	森島 隆晴	254	経済	専門演習 I	星 真実	291
経済	職業指導 I	坂本 義孝	255				
経済	職業指導 II	坂本 義孝	256				
経済	食料経済論	稲葉 弘道	257				
経済	人的資源管理 I	高木 朋代	258				

# 目次

学部	科目名	教員氏名	頁	学部	科目名	教員氏名	頁
経済	専門演習 I	金子 林太郎	292	経済	専門導入演習 I	金 珍淑	329
経済	専門演習 I	岸本 太一	293	経済	専門導入演習 I	平屋 伸洋	330
経済	専門演習 I	添田 利光	294	経済	専門導入演習 II	土井 修	331
経済	専門演習 I	金 珍淑	295	経済	専門導入演習 II	野口 明宏	332
経済	専門演習 II	牧野 俊重	296	経済	専門導入演習 II	加茂川 益郎	333
経済	専門演習 II	野口 明宏	297	経済	専門導入演習 II	仁平 耕一	334
経済	専門演習 II	加茂川 益郎	298	経済	専門導入演習 II	森谷 英樹	335
経済	専門演習 II	仁平 耕一	299	経済	専門導入演習 II	青木 英一	336
経済	専門演習 II	森谷 英樹	300	経済	専門導入演習 II	折原 裕	337
経済	専門演習 II	青木 英一	301	経済	専門導入演習 II	飯野 由美子	338
経済	専門演習 II	折原 裕	302	経済	専門導入演習 II	小山 幸伸	339
経済	専門演習 II	飯野 由美子	303	経済	専門導入演習 II	藤井 輝男	340
経済	専門演習 II	小山 幸伸	304	経済	専門導入演習 II	和田 良子	341
経済	専門演習 II	和田 良子	305	経済	専門導入演習 II	森島 隆晴	342
経済	専門演習 II	馬場 正弘	306	経済	専門導入演習 II	馬場 正弘	343
経済	専門演習 II	星 真実	307	経済	専門導入演習 II	高木 朋代	344
経済	専門演習 II	金子 林太郎	308	経済	専門導入演習 II	金子 林太郎	345
経済	専門演習 II	岸本 太一	309	経済	専門導入演習 II	岸本 太一	346
経済	専門演習 II	添田 利光	310	経済	専門導入演習 II	添田 利光	347
経済	専門演習 II	金 珍淑	311	経済	専門導入演習 II	金 珍淑	348
経済	専門導入演習 I	土井 修	312	経済	専門導入演習 II	平屋 伸洋	349
経済	専門導入演習 I	野口 明宏	313	経済	総合科目 I「国際社会を知る」	飯野 由美子	350
経済	専門導入演習 I	加茂川 益郎	314	経済	総合科目 II「国際社会を知る」	飯野 由美子	351
経済	専門導入演習 I	仁平 耕一	315	経済	卒業演習 I	牧野 俊重	352
経済	専門導入演習 I	森谷 英樹	316	経済	卒業演習 I	野口 明宏	353
経済	専門導入演習 I	青木 英一	317	経済	卒業演習 I	加茂川 益郎	354
経済	専門導入演習 I	折原 裕	318	経済	卒業演習 I	仁平 耕一	355
経済	専門導入演習 I	飯野 由美子	319	経済	卒業演習 I	森谷 英樹	356
経済	専門導入演習 I	小山 幸伸	320	経済	卒業演習 I	青木 英一	357
経済	専門導入演習 I	藤井 輝男	321	経済	卒業演習 I	折原 裕	358
経済	専門導入演習 I	和田 良子	322	経済	卒業演習 I	飯野 由美子	359
経済	専門導入演習 I	森島 隆晴	323	経済	卒業演習 I	小山 幸伸	360
経済	専門導入演習 I	馬場 正弘	324	経済	卒業演習 I	和田 良子	361
経済	専門導入演習 I	高木 朋代	325	経済	卒業演習 I	森島 隆晴	362
経済	専門導入演習 I	金子 林太郎	326	経済	卒業演習 I	鈴木 明男	363
経済	専門導入演習 I	岸本 太一	327	経済	卒業演習 I	馬場 正弘	364
経済	専門導入演習 I	添田 利光	328	経済	卒業演習 I	星 真実	365



# 目次

学部	科目名	教員氏名	頁	学部	科目名	教員氏名	頁
経済	卒業演習 I	金子 林太郎	366	経済	中国語 II	山影 統	403
経済	卒業演習 I	添田 利光	367	経済	中国語 II	山影 統	404
経済	卒業演習 I	畢 滔滔	368	経済	中国語 II	矢澤 秀昭	405
経済	卒業演習 II	牧野 俊重	369	経済	中国語 II	矢澤 秀昭	406
経済	卒業演習 II	野口 明宏	370	経済	中国語 III	黄 麗華	407
経済	卒業演習 II	加茂川 益郎	371	経済	中国語 III	黄 麗華	408
経済	卒業演習 II	仁平 耕一	372	経済	中国語 III	矢澤 秀昭	409
経済	卒業演習 II	森谷 英樹	373	経済	中国語 III	矢澤 秀昭	410
経済	卒業演習 II	青木 英一	374	経済	中国語 IV	黄 麗華	411
経済	卒業演習 II	折原 裕	375	経済	中国語 IV	黄 麗華	412
経済	卒業演習 II	飯野 由美子	376	経済	中国語 IV	矢澤 秀昭	413
経済	卒業演習 II	小山 幸伸	377	経済	中国語 IV	矢澤 秀昭	414
経済	卒業演習 II	和田 良子	378	経済	中国語検定講座 I	矢澤 秀昭	415
経済	卒業演習 II	森島 隆晴	379	経済	中国語検定講座 II	矢澤 秀昭	416
経済	卒業演習 II	鈴木 明男	380	経済	日本語検定講座 I	沢野 美由紀	417
経済	卒業演習 II	馬場 正弘	381	経済	日本語検定講座 II	沢野 美由紀	418
経済	卒業演習 II	星 真実	382	経済	中国の流通産業	畢 滔滔	419
経済	卒業演習 II	金子 林太郎	383	経済	中国ビジネス論	畢 滔滔	420
経済	卒業演習 II	添田 利光	384	経済	中小企業論 I	岸本 太一	421
経済	卒業演習 II	畢 滔滔	385	経済	中小企業論 II	岸本 太一	422
経済	地域企業会計論	高橋 隆明	386	経済	データベースオペレーション	成富 慶子	423
経済	地域企業マネジメント論	三幣 利夫	387	経済	データベースオペレーション	成富 慶子	424
経済	地域産業論	青木 英一	388	経済	データベース論	森島 隆晴	425
経済	地域ボランティア活動	松藤 和生	389	経済	ドイツ語 I	志村 哲也	426
経済	知的財産権論	森島 隆晴	390	経済	ドイツ語 II	志村 哲也	427
経済	地方財政論 I	金子 林太郎	391	経済	ドイツ語 III	志村 哲也	428
経済	地方財政論 II	金子 林太郎	392	経済	ドイツ語 III	高島 明	429
経済	地方自治論 I	岡崎 加奈子	393	経済	ドイツ語 IV	高島 明	430
経済	地方自治論 II	岡崎 加奈子	394	経済	ドイツ語 IV	志村 哲也	431
経済	中国語 I	矢澤 秀昭	395	経済	統計学 I	小林 忠	432
経済	中国語 I	矢澤 秀昭	396	経済	統計学 II	小林 忠	433
経済	中国語 I	山影 統	397	経済	統計学総論 I	稲葉 弘道	434
経済	中国語 I	山影 統	398	経済	統計学総論 II	稲葉 弘道	435
経済	中国語 I	矢澤 秀昭	399	経済	日本経済史 I	小山 幸伸	436
経済	中国語 I	矢澤 秀昭	400	経済	日本経済史 II	小山 幸伸	437
経済	中国語 II	矢澤 秀昭	401	経済	日本経済地理	青木 英一	438
経済	中国語 II	矢澤 秀昭	402	経済	日本経済論 I	馬場 正弘	439



# 目次

学部	科目名	教員氏名	頁	学部	科目名	教員氏名	頁
経済	日本経済論 II	馬場 正弘	440	経済	簿記論 I	塚本 利平	477
経済	日本語 I	沢野 美由紀	441	経済	簿記論 I	鈴木 明男	478
経済	日本語 I	沢野 美由紀	442	経済	簿記論 I	平屋 伸洋	479
経済	日本語 I	銅直 信子	443	経済	簿記論 II	塚本 利平	480
経済	日本語 II	沢野 美由紀	444	経済	簿記論 II	鈴木 明男	481
経済	日本語 II	銅直 信子	445	経済	簿記論 II	平屋 伸洋	482
経済	日本語 II	沢野 美由紀	446	経済	保険論	千々松 愛子	483
経済	日本語 III	沢野 美由紀	447	経済	Marketing Manegement	金 珍淑	484
経済	日本語 III	銅直 信子	448	経済	マーケティングリサーチ I	金 珍淑	485
経済	日本語 III	銅直 信子	449	経済	マーケティングリサーチ II	金 珍淑	486
経済	日本語 IV	沢野 美由紀	450	経済	マーケティング論	金 珍淑	487
経済	日本語 IV	銅直 信子	451	経済	マクロ経済学 I	仁平 耕一	488
経済	日本語 IV	銅直 信子	452	経済	マクロ経済学 II	仁平 耕一	489
経済	入門経営学	経済教務委員会	453	経済	ミクロ経済学 I	和田 良子	490
経済	入門経営学	経済教務委員会	454	経済	ミクロ経済学 II	和田 良子	491
経済	入門経済学	経済教務委員会	455	経済	民法 I	古川 晴雄	492
経済	入門経済学	経済教務委員会	456	経済	民法 II	古川 晴雄	493
経済	ネットワークシステム論	森島 隆晴	457	経済	有価証券法	野口 明宏	494
経済	農業政策	稲葉 弘道	458	経済	有価証券法 II	野口 明宏	495
経済	ハードウェアシステム論	森島 隆晴	459	経済	流通情報論	金 珍淑	496
経済	ビジネス英語 III	内野 泰子	460	経済	流通論	金 珍淑	497
経済	ビジネス英語 IV	内野 泰子	461	経済	労働経済論 I	星 真実	498
経済	福祉経済論	星 真実	462	経済	労働経済論 II	星 真実	499
経済	フランス語 III	寺尾 いづみ	463	経済	労働法	高橋 良裕	500
経済	フランス語 III	浅野 信二	464	国際	アグリ・フードサイエンス	平井 静	501
経済	フランス語 IV	寺尾 いづみ	465	国際	アグリ・フードビジネス	平井 静	502
経済	フランス語 IV	浅野 信二	466	国際	アフリカ	大月 隆成	503
経済	プレゼンテーション論 II	井手 雅哉	467	国際	アフリカの歴史と社会	大月 隆成	504
経済	プレゼンテーション論 I	成富 慶子	468	国際	アメリカの経済	織井 啓介	505
経済	プレゼンテーション論 I	成富 慶子	469	国際	アメリカの社会	村川 庸子	506
経済	プログラミング入門 C	染谷 広幸	470	国際	アメリカの政治	櫛田 久代	507
経済	プログラミング入門 Perl	染谷 広幸	471	国際	アメリカの文化と社会	増井 由紀美	508
経済	プログラミング入門 VB	小林 忠	472	国際	アメリカの歴史と社会	土田 宏	509
経済	文章表現	経済教務委員会	473	国際	アメリカ文学史	有馬 容子	510
経済	文章表現	経済教務委員会	474	国際	イギリスの文化と社会	新堀 司	511
経済	文章表現	経済教務委員会	475	国際	イギリス文学史	新堀 司	512
経済	文章表現	経済教務委員会	476	国際	イスラムの歴史と社会	水口 章	513

# 目次

学部	科目名	教員氏名	頁	学部	科目名	教員氏名	頁
国際	いのちと環境	池谷 美佐子	514	国際	環境マネジメント	松本 太	551
国際	異文化コミュニケーション	嶋川 洋一	515	国際	基礎数学	大月 隆成	552
国際	異文化コミュニケーション	田村 孝	516	国際	キャリア基礎教養 I	キャリアセンター	553
国際	English for Children I	J.Ikeshima	517	国際	キャリアデザイン I	キャリアセンター	554
国際	English for Children II	J.Ikeshima	518	国際	キャリアデザイン II	キャリアセンター	555
国際	英語学概論	加藤 希	519	国際	キャリアデザイン 1	キャリアセンター	556
国際	英語学特講 II	加藤 希	520	国際	キャリアデザイン 2	キャリアセンター	557
国際	英語科指導法 I	柳原 由美子	521	国際	キャリアデザイン 2	キャリアセンター	558
国際	英語科指導法 II	柳原 由美子	522	国際	キャリアデザイン 3	キャリアセンター	559
国際	英語科指導法 III	柳原 由美子	523	国際	キャリアデザイン 4	キャリアセンター	560
国際	英語科指導法 IV	柳原 由美子	524	国際	キャリアデザイン 5	キャリアセンター	561
国際	英語史	新堀 司	525	国際	キャリアデザイン 7 (成田プログラム)	キャリアセンター	562
国際	英語の音声	柳原 由美子	526	国際	キャリアデザイン基礎 I	キャリアセンター	563
国際	英文法	加藤 希	527	国際	キャリアデザイン基礎 I	キャリアセンター	564
国際	英米文学概論	有馬 容子	528	国際	キャリアデザイン基礎 II	キャリアセンター	565
国際	英米文学講読 II	増井 由紀美	529	国際	キャリアデザイン実習	キャリアセンター	566
国際	英米文学特講 I	平出 昌嗣	530	国際	キャリア特殊 1	キャリアセンター	567
国際	英米文学特講 II	増井 由紀美	531	国際	キャリア特殊 1	キャリアセンター	568
国際	英米文学特講 III	新堀 司	532	国際	教育原論 I	武内 清	569
国際	英米文学特講 IV	増井 由紀美	533	国際	教育原論 II	武内 清	570
国際	援助政策	大月 隆成	534	国際	教育実践研究 (小学校)	山口 政之	571
国際	音楽	山本 陽子	535	国際	教職実践演習	田村 孝	572
国際	音楽と表現 I (合唱)	山本 陽子	536	国際	教職実践演習	山口 政之	573
国際	音楽と表現 II (リコーダ)	山本 陽子	537	国際	教職実践演習	田中 未央	574
国際	音楽と表現 III (ピアノ)	山本 陽子	538	国際	教職実践演習	辻山 洋介	575
国際	外国語特殊 I	森 万佑子	539	国際	教職実践演習 (中・高)	奈良 明	576
国際	外国語特殊 II	森 万佑子	540	国際	金融論	織井 啓介	577
国際	数の不思議	辻山 洋介	541	国際	経営学	岸本 太一	578
国際	かたちの数学	辻山 洋介	542	国際	経営学入門	畑野 浩	579
国際	家庭	関 弘子	543	国際	経済学概論 I (マクロ経済学)	小林 啓祐	580
国際	College English I	国際英語教員	544	国際	経済学概論 II (ミクロ経済学)	小林 啓祐	581
国際	College English II	国際英語教員	545	国際	経済学入門	小林 啓祐	582
国際	College English III	G.Whalley	546	国際	刑法	覚正 豊和	583
国際	College English III	増井 由紀美	547	国際	健康運動科学	岩井 幸博	584
国際	College English IV	G.Whalley	548	国際	健康運動科学	西野 明	585
国際	College English IV	増井 由紀美	549				
国際	環境資源工ネルギー論	松本 太	550				

# 目次

学部	科目名	教員氏名	頁	学部	科目名	教員氏名	頁
国際	言語学入門	黄 麗華	586	国際	児童福祉論	矢作 由美子	623
国際	憲法	覚正 豊和	587	国際	児童文学論	畑中 千晶	624
国際	口頭表現	櫻木 紀子	588	国際	社会	田村 孝	625
国際	口頭表現	本多 久美子	589	国際	小学校英語 I	佐藤 佳子	626
国際	口頭表現	坂東 実子	590	国際	小学校英語 II	佐藤 佳子	627
国際	口頭表現	山口 政之	591	国際	小学校英語指導法 I	佐藤 佳子	628
国際	国語	畑中 千晶	592	国際	情報処理 I (情報基礎)	田口 功	629
国際	国際移動論	村川 庸子	593	国際	情報処理 I (情報基礎)	佐竹 勇子	630
国際	国際会計	織井 啓介	594	国際	情報処理 II (プレゼンテーション演習)	佐竹 勇子	631
国際	国際関係入門	櫛田 久代	595	国際	情報処理 II (プレゼンテーション演習)	田口 功	632
国際	国際関係入門	高田 洋子	596	国際	情報処理 III (データベース)	佐竹 勇子	633
国際	国際協力入門	水口 章	597	国際	情報ビジネス論	高橋 和子	634
国際	国際協力の理念と実践	清水 俊弘	598	国際	書写	板倉 由香里	635
国際	国際協力法	庄司 真理子	599	国際	初等音楽科指導法	山本 陽子	636
国際	国際金融論	織井 啓介	600	国際	初等家庭科指導法	関 弘子	637
国際	国際経営	畑野 浩	601	国際	初等国語科指導法	山口 政之	638
国際	国際経済学	織井 啓介	602	国際	初等社会科指導法	田村 孝	639
国際	国際社会学	水口 章	603	国際	初等体育科指導法	藤井 喜一	640
国際	国際社会と犯罪	覚正 豊和	604	国際	初等理科指導法	土井 仁	641
国際	国際政治学	金子 新	605	国際	人文地理学	松尾 宏	642
国際	国際政治史	家近 亮子	606	国際	心理学	田中 未央	643
国際	国際法	庄司 真理子	607	国際	心理言語学	黄 麗華	644
国際	国際連合の仕組みと活動	庄司 真理子	608	国際	図画工作	山口 荘一	645
国際	国際連合の仕組みと活動	庄司 真理子	609	国際	Speaking I	Scot Hill	646
国際	こどもと科学教育	田口 功	610	国際	Speaking I	T.O'Leary	647
国際	こどもと家庭の関係論	池谷 美佐子	611	国際	Speaking I	Scot Hill	648
国際	こどもと国際交流	庄司 真理子	612	国際	Speaking I	T.O'Leary	649
国際	こどもとメディア	武内 清	613	国際	Speaking II	Scot Hill	650
国際	こどもの心と体	田中 未央	614	国際	Speaking II	T.O'Leary	651
国際	算数	辻山 洋介	615	国際	Speaking II	J.Ikeshima	652
国際	算数科指導法	辻山 洋介	616	国際	Speaking II	Scot Hill	653
国際	自然地理学	谷地 隆	617	国際	Speaking II	池嶋 保幸	654
国際	実践英語 II	G.Whalley	618	国際	スポーツ教育 (実技)	藤井 喜一	655
国際	実践英語 III	増井 由紀美	619	国際	生活	池谷 美佐子	656
国際	実践日本語 I	銅直 信子	620	国際	生活科指導法	池谷 美佐子	657
国際	実践日本語 I	本多 久美子	621				
国際	実践日本語 II	櫻木 紀子	622				

# 目次

学部	科目名	教員氏名	頁	学部	科目名	教員氏名	頁
国際	世界のこども教育	山本 陽子	658	国際	日本社会と多文化共生	小林 聡明	695
国際	世界の食と農	原山 浩介	659	国際	日本の経済	小林 啓祐	696
国際	世界の人権論	覚正 豊和	660	国際	日本の歴史	家近 亮子	697
国際	造形と表現 I	山口 荘一	661	国際	日本文化論	畑中 千晶	698
国際	造形と表現 II	山口 荘一	662	国際	日本理解 I (日本の伝統文化と社会)	土田 宏	699
国際	総合講座 II	Steve Ryan	663	国際	日本理解 II (日本の現代カルチャー)	土田 環	700
国際	体育	藤井 喜一	664	国際	比較文化論	村川 庸子	701
国際	大気・水環境論	中村 圭三	665	国際	ビジネス英語	嶋川 洋一	702
国際	地図学	松尾 宏	666	国際	ファイナンス	織井 啓介	703
国際	千葉学 I	宿城 高興	667	国際	フィールド調査	村川 庸子	704
国際	千葉学 II	小林 啓祐	668	国際	文章表現	櫻木 紀子	705
国際	千葉学 III	三幣 利夫	669	国際	文章表現	山口 政之	706
国際	中国語 I	山影 統	670	国際	文章表現	坂東 実子	707
国際	中国語 II	山影 統	671	国際	文章表現	櫻木 紀子	708
国際	中国の政治	家近 亮子	672	国際	平和・安全保障論	庄司 真理子	709
国際	中東イスラム圏	水口 章	673	国際	簿記会計基礎	佐竹 勇子	710
国際	朝鮮	森 万佑子	674	国際	ボランティア活動 I	水口 章	711
国際	Debate I	増井 由紀美	675	国際	ボランティア活動 II	大月 隆成	712
国際	Debate II	T.O'Leary	676	国際	マーケティングリサーチ I	中嶋 励子	713
国際	東南アジアの地誌	田中 和彦	677	国際	マーケティングリサーチ II	高橋 和子	714
国際	途上国社会経済論	高田 洋子	678	国際	Mother Goose I	佐藤 佳子	715
国際	日米関係	村川 庸子	679	国際	ユニバーサル コミュニケーション	国際教務委員会	716
国際	日韓関係	森 万佑子	680	国際	ヨーロッパの政治	山本 健	717
国際	日中関係	家近 亮子	681	国際	ヨーロッパの歴史と社会	山本 健	718
国際	日中翻訳	家近 亮子	682	国際	Writing I	山本 陽子	719
国際	日本・アフリカ関係	大月 隆成	683	国際	Writing I	Scot Hill	720
国際	日本・東南アジア関係	高田 洋子	684	国際	Writing I	Scot Hill	721
国際	日本語学 I	長谷川 頼子	685	国際	Writing I	櫛田 久代	722
国際	日本語学 II	長谷川 頼子	686	国際	Writing II	J.Ikeshima	723
国際	日本語学入門	長谷川 頼子	687	国際	Writing II	池嶋 保幸	724
国際	日本語教育実習	長谷川 頼子	688	国際	Writing II	山本 陽子	725
国際	日本語教授法 I	稲村 すみ代	689	国際	Writing II	G.Whalley	726
国際	日本語教授法 I	長谷川 頼子	690	国際	ラテンアメリカの歴史と社会	高橋 慶介	727
国際	日本語教授法 II	長谷川 頼子	691	国際	理科	土井 仁	728
国際	日本語教授法 II	稲村 すみ代	692				
国際	日本語教授法 III	長谷川 頼子	693				
国際	日本語教授法 IV	長谷川 頼子	694				

# 目次

学部	科目名	教員氏名	頁	学部	科目名	教員氏名	頁
国際	理科	田口 功	729	国際	3年次専門研究	田口 功	764
国際	理科の観察実験 I	土井 仁	730	国際	3年次専門研究	武内 清	765
国際	Listening I	山本 陽子	731	国際	3年次専門研究	高橋 和子	766
国際	Listening I	池嶋 保幸	732	国際	3年次専門研究	山本 健	767
国際	Listening II	池嶋 保幸	733	国際	3年次専門研究	庄司 真理子	768
国際	Listening II	山本 陽子	734	国際	3年次専門研究	水口 章	769
国際	Listening II	山本 陽子	735	国際	3年次専門研究	柳原 由美子	770
国際	Listening II	池嶋 保幸	736	国際	3年次専門研究	山口 政之	771
国際	World English I	J.Ikeshima	737	国際	3年次専門研究	長谷川 頼子	772
国際	World English II	J.Ikeshima	738	国際	3年次専門研究	辻山 洋介	773
国際	1年基礎演習	国際学科 専任教員	739	国際	3年次専門研究	大月 隆成	774
国際	1年基礎演習	こども学科 専任教員	740	国際	4年次専門研究	中村 圭三	775
国際	2年次専門研究	大月 隆成	741	国際	4年次専門研究	村川 庸子	776
国際	2年次専門研究	田村 孝	742	国際	4年次専門研究	池谷 美佐子	777
国際	2年次専門研究	高橋 和子	743	国際	4年次専門研究	高田 洋子	778
国際	2年次専門研究	中村 圭三	744	国際	4年次専門研究	織井 啓介	779
国際	2年次専門研究	庄司 真理子	745	国際	4年次専門研究	覚正 豊和	780
国際	2年次専門研究	山口 政之	746	国際	4年次専門研究	家近 亮子	781
国際	2年次専門研究	山本 健	747	国際	4年次専門研究	山本 健	782
国際	2年次専門研究	畑中 千晶	748	国際	4年次専門研究	武内 清	783
国際	2年次専門研究	水口 章	749	国際	4年次専門研究	佐藤 佳子	784
国際	2年次専門研究	櫛田 久代	750	国際	4年次専門研究	有馬 容子	785
国際	2年次専門研究	有馬 容子	751	国際	4年次専門研究	高橋 和子	786
国際	2年次専門研究	家近 亮子	752	国際	4年次専門研究	田口 功	787
国際	2年次専門研究	覚正 豊和	753	国際	4年次専門研究	田村 孝	788
国際	2年次専門研究	辻山 洋介	754	国際	4年次専門研究	山本 陽子	789
国際	2年次専門研究	増井 由紀美	755	国際	4年次専門研究	J.Ikeshima	790
国際	2年次専門研究	池谷 美佐子	756	国際	4年次専門研究	田中 未央	791
国際	3年次専門研究	中村 圭三	757	国際	4年次専門研究	畑中 千晶	792
国際	3年次専門研究	高田 洋子	758	国際	4年次専門研究	三幣 利夫	793
国際	3年次専門研究	田中 未央	759	国際	総合日本語 I	銅直 信子	794
国際	3年次専門研究	織井 啓介	760	国際	総合日本語 I	中沢 佐企子	795
国際	3年次専門研究	山本 陽子	761	国際	総合日本語 II	銅直 信子	796
国際	3年次専門研究	田村 孝	762	国際	総合日本語 II	中沢 佐企子	797
国際	3年次専門研究	村川 庸子	763	経済・国際	敬愛プログラム	教務部委員会	798
				経済	海外事情研修 I (アメリカ)	教務部委員会	799
				経済	海外事情研修 II (中国)	教務部委員会	800

# 目次

---

学部	科目名	教員氏名	頁
経済	海外事情研修 III (オーストラリア)	教務部委員会	801
経済	海外事情研修 IV (イギリス)	教務部委員会	802
経済	高等学校教育実習	中山 幸夫	803
経済	サイバー刑法	山内 義廣	804
経済	地方自治論実習	牧瀬 稔	805
経済	中学校教育実習	中山 幸夫	806
国際	海外語学研修 I	国際教務委員会	807
国際	海外スクーリング I	国際教務委員会	808
国際	教育実習 (小学校)	池谷 美佐子	809
国際	高等学校教育実習	柳原 由美子	810
国際	国内スクーリング I	国際教務委員会	811
国際	実習特殊 I	村川 庸子	812
国際	中学校教育実習	柳原 由美子	813

# 経済・国際

授業番号	A300380001				
科目名 (英語表記)	アジアの歴史と社会 (Asian History and Society)				
担当者 (英語表記)	家近 亮子 (Ryoko Iechika)	対象学年	1 (経済学部のみ2年)	単位数	2
授業のねらいと到達目標	冷戦終結後、国際社会においてはグローバル化が進むと同時に地域統合の動きが活発化しました。EUはその典型的な例といえます。アジアにおいてもアジア統合について盛んに論議されるようになりましたが、現実にはむずかしい問題を抱えています。アジアには世界の人口の60%以上が生活し、また、中国やインドを始めとして経済発展を続けている国も多く存在します。21世紀はアジアの時代であるといえることができます。本授業においては、今後日本との関係が重要となる東南アジア、中国、韓国、台湾の歴史と現在の政治・経済・社会、及びその相互関係について論じていきます。到達目標はこれらの国の地理と歴史を知り、その国情と日本との関係を理解することにあります。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は特にありません。授業は、授業用に作成した講義ノートと資料を授業の進行に合わせて配布し、進めていきます。必要に応じて、映像資料も使っていきます。				
成績評価方法 基準	小テスト・・・30%、期末テスト・・・70%				
授業の予習・復習	予習：配布資料を事前に読んでおくこと。アジアに関するニュースに関心を持つこと。 復習：配付資料とノートの整理。白地図の完成など。疑問点をまとめて提出すること。				
教科書	本授業の内容は、他分野にわたるため、教科書は指定しません。 授業用に作成した講義ノート及び資料を配布し、教科書の代わりとします。				
参考文献	それぞれの単元ごとに、専門の本を紹介していきます。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	講義の内容と進め方、評価の方法の説明 「アジアとは何か?」「世界の中のアジア」について			
第2回	アジアの近現代史①	アジアにおける近代の共通点と相違点			
第3回	アジアの近現代史②	ヨーロッパ諸国のアジア進出の歴史			
第4回	アジアの近現代史③	イギリスのアジア進出と植民地支配—インド、マレー半島を中心として			
第5回	アジアの近現代史④	フランスのアジア進出と植民地支配—インドシナ半島			
第6回	アジアの近現代史⑤	日本の植民地支配—朝鮮、台湾を中心として			
第7回	映像資料と小テスト	歴史単元の映像資料と確認テストの実施			
第8回	東南アジア諸国の地理	白地図による国の確認と地理的特徴			
第9回	東南アジア事情①	東南アジアの政治・経済・社会・外交①			
第10回	東南アジア事情②	東南アジアの政治・経済・社会②			
第11回	東南アジア単元の小テスト、東アジアについて	東南アジア単元の確認テスト + 東アジアとは?			
第12回	東アジアの地理	白地図の作成と完成			
第13回	東アジア事情①	中国・台湾・香港・マカオの政治・経済・社会			
第14回	東アジア事情②	日本・韓国の政治・経済・社会・外交			
第15回	アジアの人口と教育問題	アジアの人口問題の特徴と学校制度の比較			



経済・国際

授業番号	A300300001				
科目名 (英語表記)	アルゴリズム論 I (Algorithm I)				
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	2 (経済学部のみ 1 年)	単位数	2
授業のねらいと到達目標	授業のねらいは、コンピュータによる問題解決法であるアルゴリズムおよびデータ構造の仕組み・機能・性能ついて学ぶことで、到達目標はこれら知識と技能を習得することです。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義と AccessVBA を用いてデータベースの操作の演習を行います。そのため、「データベース論 (前期)」を履修しているか、Access でのデータベースの構築経験があることが履修条件です。履修希望者は第 1 回目から必ず出席してください。				
成績評価方法	実技の期末試験 (60%)、演習における提出ファイル (40%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	授業の最後に次回の予習項目を示しますので、予習しておいてください。また、その回でやったことを次回以降使いますので、何度も復習し、身に付けておいてください。				
教科書	毎回、資料とデータを配布します。				
参考文献	藤原暁宏 『アルゴリズムとデータ構造』 森北出版社 結城圭介 『超入門 AccessVBA プログラミング講座』 技術評論社 結城圭介 『超入門 AccessVBA データベース構築講座』 技術評論社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認、講義の概要、AccessVBA の基本操作			
第 2 回	アルゴリズムとデータ構造	AccessVBA の仕組み、プロシージャ、データ構造			
第 3 回	アルゴリズムの表現方法 1	アルゴリズムの基本構造と PAD、順次構造			
第 4 回	アルゴリズムの表現方法 2	選択構造の PAD と VBA の構文			
第 5 回	アルゴリズムの表現方法 3	繰返し構造の PAD と VBA の構文			
第 6 回	AccessVBA による操作 1	フォームの操作			
第 7 回	AccessVBA による操作 2	レポートの操作			
第 8 回	AccessVBA による操作 3	テーブル、クエリの操作			
第 9 回	SQL による操作 1	レコードの選択と抽出、テーブルの結合			
第 10 回	SQL による操作 2	集計、重複データの除去、レコードの追加・更新・削除			
第 11 回	VBA での SQL 実行	レコードの選択・抽出・追加・更新・削除を VBA で実行			
第 12 回	データの検索アルゴリズム	2 分探索法、ハッシュ法			
第 13 回	基本的なソートアルゴリズム	選択ソート、挿入ソート			
第 14 回	基本的なソートアルゴリズムの比較	バブルソート、基本的なソートアルゴリズムの性能比較			
第 15 回	まとめ	要点のまとめと模擬試験			

経済・国際

授業番号	A300290001				
科目名 (英語表記)	インターンシップ (キャリアデザイン 6) (Internship)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	3年生の学生諸君に、夏期休暇中の一定期間、県内外の企業・団体等で実習を行う機会を提供します。企業活動の現場を知るとともに、将来の進路決定の一助としてもらうことを目的としています。				
授業の進め方 (履修条件など)	「参加者学内選考」 → 「マッチング (実習先決定)」 → 「事前指導」 → 「実習」 → 「事後指導」の5段階で進みます。形式は、全参加者を集めて「集合研修」並びに担当教員による各学生への「個別指導」の2本立てで行います。授業回数は全18回。 その他、報告会の練習等を含め20回程度となります。 ・3年生対象です。				
成績評価方法	出席日数・レポート・実習報告会プレゼン内容、“チバイチバン”力評価等、総合的に判断します。				
基準					
授業の予習・復習	実習先企業等への提出書類、実習先の調査報告、報告書の原稿、報告会のプレゼンテーションなどについては、個別指導を踏まえて、自宅等で作業することを求めます。				
教科書	事前指導時に「講義資料」、実習に行く前に「実習ノート」を配布します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	事前指導	5/9 インターンシップ及び講座の概要と修得目標			
第2回	事前指導	5/16 アルバイト業務 ≠ 社員業務の視点からインターンシップを考える			
第3回	事前指導	仕事を比較し、現場をイメージする材料を集める 5/23 業種モデル比較 5/30 職種モデル比較 ケース① 6/6 職種モデル比較 ケース②			
第4回	事前指導	仕事を比較し、現場をイメージする材料を集める 6/13 同業他社モデル比較 ケース① 6/20 同業他社モデル比較 ケース②			
第5回	事前指導	6/27 インターンシップ先企業の調査、分析			
第6回	事前指導	7/4 インターンシップでの取材項目リストアップ① 7/11 インターンシップでの取材項目リストアップ②			
第7回	事前指導	7/18 ビジネスマナー、インターンシップ留意事項			
第8回	実習 (8月～9月)	インターンシップ実習			
第9回	事後指導	9/26 PowerPoint 講習会			
第10回	事後指導	10/3 発表準備 (材料洗い出し)			
第11回	事後指導	10/10 発表準備 (材料編集)			
第12回	事後指導	10/17 発表準備 (PowerPoint 作成)			
第13回	事後指導	10/24 発表準備 (PowerPoint 作成)			
第14回	報告会	10/31 体験発表プレゼンテーション			
第15回	事後指導	11/7 リフレクション			

経済・国際

授業番号	A300130001		
科目名 (英語表記)	環境科学 (Environmental Science)		
担当者 (英語表記)	中村 圭三 (Keizo Nakamura)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	今日、地球環境は急激に変化しつつある。我々の豊かな生活を育んできた美しい地球は、この先一体どうなるのだろうか。本講義では、実際の研究事例を通して、環境を科学するための基礎力を養成する。		
授業の進め方 (履修条件など)	最初に各週の授業内容に関する基礎事項をテキストの「基礎技法」で学習する。その上で、調査事例を中心とした授業内容を展開する。		
成績評価方法	授業態度と、定期試験で成績を評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：テキストの「基礎技法」を学習しておくこと。 復習：学習した授業内容に関連する環境問題に関心を持って生活すること。		
教科書	『フィールドの環境科学』 中村圭三著 青山社 2007.		
参考文献	授業の中で、適宜指示する。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	環境科学概説	
第 2 回	環境と気象・気候 (1)	山の気象・気候	
第 3 回	環境と気象・気候 (2)	海岸の気象・気候	
第 4 回	環境と気象・気候 (3)	平地の気象・気候	
第 5 回	環境と気象・気候 (4)	都市の気候	
第 6 回	気候と生物	生物季節	
第 7 回	地球温暖化 (1)	地球温暖化の発生原因	
第 8 回	地球温暖化 (2)	地球温暖化の影響と対策	
第 9 回	オゾン層の破壊	オゾン層の破壊と対策	
第 10 回	酸性雨 (1)	酸性雨の発生原因	
第 11 回	酸性雨 (2)	酸性雨の現状	
第 12 回	酸性雨 (3)	酸性雨の影響と対策	
第 13 回	生活と環境 (1)	水質	
第 14 回	生活と環境 (2)	水の利用	
第 15 回	まとめ	総括	

経済・国際

授業番号	A300420001				
科目名 (英語表記)	教育行政 (Educational administration)				
担当者 (英語表記)	赤羽 良明 (Yoshiaki Akahane)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この科目は、将来教職を目指す学生が教育制度や教育法規を理解する中で、教育行政の総合的な基礎知識を理解することを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎授業でレジュメと資料を配布します。教科書「教育小六法」や配布資料を活用しながら講義形式で授業を進めます。また、毎時間 20 分程度、学校の中で起こる諸問題を教育行政の視点から考察する実践的な討議形式も採用します。				
成績評価方法	定期試験 (60%)、課題レポート (10%)、授業への参加態度 (30%)				
基準					
授業の予習・復習	新聞等で毎授業に関連する教育情報の収集、把握に努めます。また、配布するレジュメの項目に沿って講義内容を整理しておきます。				
教科書	「教育小六法」(学陽書房・平成 25 年版) = 「教育法規」の授業でも使用します =				
参考文献	必要に応じて提示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	教育行政とは何か	授業の内容や進め方の説明、教育行政の概念定義の概説。			
第 2 回	公教育の誕生	諸外国の公教育誕生の歴史的経緯と我が国の公教育制度。			
第 3 回	教育政策の変遷 I	明治期の「学制」から第二次世界大戦までの教育制度や教育施策の変遷。			
第 4 回	教育政策の変遷 II	第二次世界大戦以降の教育制度や教育施策の変遷。			
第 5 回	教育制度と教育法規	日本国憲法、教育基本法、学校教育法等の教育関係法規の体系と特徴。教育制度とその法的根拠。			
第 6 回	教育行政組織と機能 I	国の教育行政組織とその機能、役割。			
第 7 回	教育行政組織と機能 II	都道府県・市町村の教育行政組織 (教育委員会) とその機能、役割。			
第 8 回	学校教育と教育行政	教育を取り巻く社会的状況、学校教育の現状と課題の分析。今後の教育施策や教育行政の方向性。			
第 9 回	学校運営上の諸課題	学校教育全般にわたる運営上の諸課題、教育行政施策との関係性。			
第 10 回	学校組織と運営体制	学校組織、教職員の校務分掌、地域連携体制等の概説、考察。			
第 11 回	教育課程の編成	教育課程の編成、「学習指導要領」、「教科書」等の法的根拠。			
第 12 回	教員の職務	教員の身分、職務、服務と法的根拠。教員の特殊性。			
第 13 回	教員の研修と評価	教員の研修制度と研修体系、人事評価と処遇。			
第 14 回	教育財政	義務教育の無償制と私費。学校予算、国庫負担等、学校関連の教育財政の現状と課題。			
第 15 回	教育改革と展望	中央教育審議会、教育再生会議等で論ぜられる審議経緯の概要と新たな教育の展望。			

経済・国際

授業番号	A300560001		
科目名 (英語表記)	教育実践研究 (中・高) (Educational Practice)		
担当者 (英語表記)	奈良 明 (Akira Nara)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	教育実習を前に教育者としての心構えを学。学校教育に対する理解を深めるため、学習指導要領の理解、専門性など、教員としての責務、役割等について理解を深める。		
授業の進め方 (履修条件など)	中学校学習指導要領解説—総則編を中心教材に、あわせて配付資料等により、実践を意識した理論学習を行う。学校参観はレポートにまとめる。実践に必要な指導方法や技術等は、講義の中で適宜指導する。		
成績評価方法	レポート作成 (40点)、定期試験 (50点)、参観実習 (10点)		
基準			
授業の予習・復習	予習：前時の内容に目を通しておく。 復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておく。		
教科書	中学校学習指導要領 (平成 20 年 9 月) 解説—総則編 文部科学省		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、現代の教育課題	
第 2 回	学校教育の条件	学校の教育機能	
第 3 回	〃	学校の組織、施設、教職員	
第 4 回	学校の教育活動の展開 (教育課程)	教育課程の編成及び実施 (基準、法則、一般方針)	
第 5 回	〃	〃 (道徳、体育、健康)	
第 6 回	〃	〃 (内容の取り扱いに関する共通的事項)	
第 7 回	〃	〃 (授業時数等)	
第 8 回	〃	〃 (指導計画の作成)	
第 9 回	〃	〃 (体験、問題解決学習)	
第 10 回	〃	〃 (生徒指導、進路指導)	
第 11 回	〃	〃 (学習活動、個に応じた指導)	
第 12 回	〃	〃 (特別支援、帰国生徒、情報教育)	
第 13 回	〃	〃 (部活動、指導の評価、地域連携)	
第 14 回	学校の理解	学校参観の意義と方法 (事前研修)	
第 15 回	〃	学校参観実習	

経済・国際

授業番号	A300390002				
科目名 (英語表記)	教育心理学 (Educational psychology)			経済・国際・こども (中高免許取得者用)	
担当者 (英語表記)	藤井 輝男 (Teruo Fujii)	対象学年	1 (国際学 科のみ 2)	単位数	2
授業のねらいと 到達目標	児童・生徒の学習過程に関する心理学的知見を修得し、教育場面で役立てられることを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式で進めるが、配付資料を利用して学生諸君の発言を求めたり、課題提出を求めたりする。必要に応じてビデオ等を利用する。				
成績評価方法 基準	定期試験 (80%)・レポート及びその他の課題 (20%) で評価する予定である。				
授業の予習・復習	予習：事前に教科書を読んでおくこと。 復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておくこと。				
教科書	山崎史郎編「教育心理学ルック・アラウンド」ブレーン出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて			
第2回	教育心理学の領域と課題	教育心理学の研究分野の紹介			
第3回	発 達 (1)	発達理論、発達段階			
第4回	発 達 (2)	母性剥奪について			
第5回	教育と発達 (1)	成熟と学習の関係について			
第6回	教育と発達 (2)	英才教育は役に立つのか？			
第7回	知 能	知能とは。知能指数の算出方法など。			
第8回	性 格 (1)	性格の形成過程について			
第9回	性 格 (2)	エゴグラム			
第10回	動機づけ	「やる気」とは			
第11回	授業の過程	教授学習過程について			
第12回	評 価	教育評価の内容			
第13回	適応と障害 (1)	適応と教育			
第14回	適応と障害 (2)	障害の理解			
第15回	まとめ	まとめと質問			

経済・国際

授業番号	A300390003				
科目名 (英語表記)	教育心理学 (Educational psychology)			小免のみ希望者専用	
担当者 (英語表記)	田中 未央 (Mio Tanaka)	対象学年	1 (国際学 科のみ 2)	単位数	2
授業のねらいと 到達目標	①教育現場で活用できる心理学的知見 (主に認知・発達・学習・人格) の習得を目指す。 ②教育現場に特有のコミュニティである学級について心理学的見地から考察する。				
授業の進め方 (履修条件など)	①原則として講義形式で授業を進めるが、授業内で簡単な実習や議論を行う場合がある。 ②実習や議論を行った際には履修者にリアクションペーパーの提出を求める場合がある。 ③必要に応じてビデオなどの映像資料を使用する。 ④15回の授業内で3回の小テストを実施する。				
成績評価方法 基準	学期末試験・授業内小テスト・リアクションペーパーを成績評価の対象とする。 評価基準は学期末試験 (70%)・授業内小テスト (20%)・リアクションペーパー (10%) である。				
授業の予習・復習	予習: テキストの該当する箇所を読む。 復習: 授業の内容を整理し、テキストの該当する箇所を読む。				
教科書	「新 発達と教育の心理学」 藤田主一他 福村出版				
参考文献	「人はいかに学ぶかー日常認知の世界ー」 (中公新書) 「考えることの科学ー推論の認知心理学への招待」 (中公新書)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	講義の概要, 講義の進め方, 評価方法, 受講マナーについて			
第2回	学習①	学習の理論 (レスポデント条件づけ・オペラント条件づけ)			
第3回	学習②	学習効果に影響する要因 (動機づけ・報酬と罰・テスト不安)			
第4回	記憶①	記憶のしくみ (短期記憶・長期記憶)			
第5回	記憶②	知識が出来るまで			
第6回	人格①	性格とはなにか? 性格の違いを説明する理論			
第7回	人格②	性格検査を体験する。			
第8回	学習指導法①	学習指導の形態 (発見学習・有意受容学習)			
第9回	学習指導法②	効果的な学習指導法とは?			
第10回	教育評価	教育効果の評価法について			
第11回	学校における人間関係①	教師ー生徒の人間関係			
第12回	学校における人間関係②	生徒ー生徒の人間関係			
第13回	学校における人間関係①	学級とはどんな集団か? 教師 - 生徒の人間関係			
第14回	学校における人間関係③	いじめの問題			
第15回	まとめ	第2回～第14回で扱ったテーマに関するまとめ, および質問への回答			



経済・国際

授業番号	A300540001		
科目名 (英語表記)	教育相談 (Educational consultation)		
担当者 (英語表記)	田中 未央 (Mio Tanaka)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	教育場面において生じる諸問題 (いじめ, 不登校, メンタルヘルスなど) に関する知見や事例を紹介し, 問題を抱えた子どもに対する支援方法について検討する。また, 授業内容を踏まえ, 受講者自身が支援計画を作成し, 実習 (ロールプレイ) する。支援計画の実習を通して, 教育相談への理解を深める。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業は演習形式で実施するので, 遅刻・欠席は厳禁である。初回の授業で授業計画を説明し, 演習の担当日を決定する。したがって, 担当日に無断欠席した場合には当該授業の履修を放棄したとみなし, それ以降の受講は認めない。2? 1 4 回目の授業では授業後にリアクションペーパーの提出を求める。必要に応じてビデオなどの映像資料も使用する。		
成績評価方法 基準	以下の3点を成績評価の対象とする。 ① 授業内演習 (50%) ② リアクションペーパー (20%) ③ 学期末レポート (30%) ①+②+③の評価点を100点満点とし, 60点以上を合格とする。 ただし, 授業内演習 (担当課題) を実施していない履修者には単位の認定は行わない。		
授業の予習・復習	予習: テキストの該当する箇所を読む。演習するトピックに関する情報収集をする。 復習: 授業の内容を整理し, テキストの内容を整理する。		
教科書	『よくわかる教育相談』春日井敏之・伊藤美奈子 (編著) ミネルヴァ書房		
参考文献	学校臨床心理学入門—スクールカウンセラーによる実践の知恵 (有斐閣アルマ) 伊藤美奈子・平野直己 (著) 有斐閣		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	講義の概要, 授業の進め方, 評価方法, 受講マナーについて 演習スケジュールの決定	
第2回	【講義】教育相談とは?	教育場面における臨床的視点の重要性, カウンセリングマインド	
第3回	【講義】問題行動と教育相談	問題行動とは? 教育現場でみられる問題行動の例	
第4回	【講義】発達障害と教育相談	発達障害とは? 発達障害に対する誤解	
第5回	【講義】教師・保護者のメンタルヘルス	燃え尽き症候群 モンスターペアレント	
第6回	【演習】不登校の子どもに対する相談と指導	不登校問題の特徴についてまとめ, その対応について考察する。	
第7回	【演習】暴力といじめ問題に対する相談と指導	学校内での暴力, いじめ問題の特徴についてまとめ, その対応について考察する。	
第8回	【演習】学力問題に対する相談と指導	学力問題 (学習遅滞) についてまとめ, その対応について考察する。	
第9回	【演習】ケータイ・ネット問題に対する指導	現代の子どもを取り巻くネット環境の特徴と問題点についてまとめ, ケータイ・ネットの使用法に関する指導の方法について考察する。	
第10回	【演習】摂食障害に対する理解と支援	摂食障害の特徴についてまとめ, 摂食障害をもつ子どもへの支援方法, 摂食障害を防止するための対処法について考察する。	
第11回	【演習】発達障害をもつ子どもに対する支援	発達障害についてまとめ, 発達障害を持つ子ども, その親に対する支援の方法について考察する。	
第12回	【演習】児童虐待問題に対する支援	児童虐待問題についてまとめ, その対応方法について考察する。	
第13回	【演習】保護者への支援	問題を抱えた保護者・モンスターペアレント問題についてまとめ, その対応について考察する。	
第14回	【演習】教師への支援	教師のメンタルヘルス (燃え尽き症候群・うつ病など) についてまとめ, 教師に対する支援方法について考察する。	
第15回	まとめ	第2回~第14回で扱ったテーマのレビュー, 質問への対応, レポート作成	

経済・国際

授業番号	A300540003		
科目名 (英語表記)	教育相談 (Educational consultation)		
担当者 (英語表記)	藤井 輝男 (Teruo Fujii)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	教員となった時に必要となる「学校教育相談」に関して修得し、教育場面における生徒との対応の仕方について理解する。		
授業の進め方 (履修条件など)	まず、教育相談における生徒理解の考え方を概説する。その後、教科書の各章を学生が各自分担し、報告を行う。その報告内容に対して教員が補足説明を行う形式で進める。		
成績評価方法	発表及びその他の課題 (60%)・授業態度 (40%)		
基準			
授業の予習・復習	事前に教科書を読んでおくこと。		
教科書	春日井・伊藤 編「よくわかる教育相談」ミネルヴァ書房		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて	
第2回	生徒指導、教育相談とは	発達の視点からの教育相談	
第3回	学校でのカウンセリング (1)	教師と生徒の関係について	
第4回	学校でのカウンセリング (2)	カウンセリングマインドについて	
第5回	教師に求められる臨床的視点	生徒指導、教育相談、カウンセリング	
第6回	子どもの発達課題	各発達時期における教育相談の役割	
第7回	学校現場における「問題行動」	いじめ、不登校、児童虐待など	
第8回	特別支援教育	発達障害等への対応	
第9回	予防・開発的取り組み	よりよい対人関係を目指して	
第10回	教師への支援	教師のメンタルヘルスとサポート体制	
第11回	保護者への支援	保護者への対応について考える	
第12回	学校内の相談システム	学校内での教育相談の役割	
第13回	スクールカウンセラー	スクールカウンセラーの意義、スクールソーシャルワーカーの課題	
第14回	専門機関との支援ネットワーク	専門機関や地域との連携について	
第15回	まとめ	まとめと質問	

経済・国際

授業番号	A300430001				
科目名 (英語表記)	教育法規 (Educational regulation)				
担当者 (英語表記)	赤羽 良明 (Yoshiaki Akahane)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	公教育に携わる教職員の拠り所の一つに教育法規があります。教師を志す学生にとって、学校教育を理解するには法的側面の認識を欠かせません。授業では、教育法規に関する基礎知識を理解するとともに、具体的事例に対して法的根拠に基づいた対応ができる実践力も身に付けていきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎授業でレジュメを配布し、教科書「教育小六法」や配付資料を使用した講義形式で進行しますが、毎時間 20 分程度の実践的な判断力や行動力を養う個人発表形式も採用します。				
成績評価方法	定期試験 (60%)、課題レポート (10%)、授業への参加態度 (30%)				
基準					
授業の予習・復習	新聞等で毎授業に関連する教育情報の収集に努めます。また、毎回配布するレジュメの項目に沿って講義内容を法規との関連から整理しておきます。				
教科書	「教育小六法」(学陽書房・平成 25 年版) = 「教育行政学」の授業でも使用します =				
参考文献	必要に応じて提示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス - 教育法規とは -	授業の内容や進め方のガイダンス。教育法規の概念定義の概説。			
第 2 回	我が国の教育法規 I - 明治から戦前 -	1945 年以前の教育制度の変遷と教育法規。			
第 3 回	我が国の教育法規 II - 戦後から現在 -	1945 年以後の教育制度の変遷と教育法規。			
第 4 回	憲法と教育基本法	憲法の教育規定の理念及び現行教育基本法の特徴。			
第 5 回	教育行政と法規	教育行政 (国と地方) の役割と課題、地教法と教育行政。			
第 6 回	学校教育制度と法規	義務教育制度等の学校教育制度を規定した関係法規の概説。			
第 7 回	学校組織と法規	学校の組織の特徴。校務分掌、職員会議の法的根拠。			
第 8 回	学校運営と法規	学校運営の現状と課題。関係法規の概説。			
第 9 回	教育課程と法規	教育課程の編成と学習指導要領、教科書制度の法的根拠。			
第 10 回	生徒指導と法規	学校における児童・生徒の生活指導の法的根拠と学校が抱える諸問題への対応。			
第 11 回	学校安全と法規	学校の安全管理、健康診断等の法的根拠と学校が抱える諸問題への対応。			
第 12 回	教員の専門性と法規	教員の専門性や研修、評価と処遇について規定した関係法規の概説。			
第 13 回	教員の身分と法規	教員の資格や身分、職務等について規定した関係法規の概説。			
第 14 回	特別支援教育と法規	特別支援教育の設置根拠と特別支援学校 (学級) の概要。特別に支援を要する児童・生徒に関する関係法規の概説。			
第 15 回	国際教育法規範	「世界人権宣言」、「児童の権利に関する条約」等、国際的な教育関連法規範の概説。			

経済・国際

授業番号	A300440001				
科目名 (英語表記)	教育方法・技術論 (Methodology of Education and Techniques)				
担当者 (英語表記)	柳原 由美子 (Yumiko Yanagihara)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業は、将来教員を目指す学生たちが受講することを前提に、学校教育の実践に必要な基礎的理論を理解し、その理論を踏まえて、現実の授業実態や最近の方法技術の特質を探ることを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回レジュメを配布し、その単元で習得すべき事柄を最初に提示し、それに沿って授業を展開していきます。				
成績評価方法 基準	次のように行いますが、2)と3)についてはどちらかを選択します。 1) 筆記試験 (中間・期末) 70% 2) コンピュータや教材提示装置などの教具を利用したミニ授業 30% 3) プログラム学習教材の作成 30%				
授業の予習・復習	復習: 毎回配布のレジュメに書かれている、各単元での重要事項の理解がなされているかどうか、各自確認すること				
教科書	毎回配布する印刷物 (レジュメ etc.) を利用します。				
参考文献	初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	クラス・オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、プレゼンテーションなどについての説明			
第2回	教えるという仕事	柔軟な方法観の必要性、TTTIとは、スキーマとは、など			
第3回	変貌する教室	学校の転換期、教室の風景の変貌、欧米と日本の相違など			
第4回	授業の様式	教える2つの様式とその歴史、日本の学校文化			
第5回	授業の歴史 (1)	近代以前の教育方法、近代の教育学の成立			
第6回	授業の歴史 (2)	ペスタロッチ、ヘルバルト、ツィラーなどの教授の変遷			
第7回	授業の歴史 (3)	子ども中心の教育、効率主義の教育、行動科学の教育			
第8回	中間試験	試験の解説 (復習)			
第9回	いろいろな教育 (1)	オープン教育の発展と現状、その難しさと可能性			
第10回	いろいろな教育 (2)	プログラム学習、完全習得学習、応答する環境			
第11回	いろいろな教育 (3)	視聴覚メディアの特質とその利用、視聴覚教育の変遷			
第12回	プレゼンテーション (1)	学生による視聴覚機器を利用した発表			
第13回	プレゼンテーション (2)	学生による視聴覚機器を利用した発表			
第14回	授業のデザイン	授業の組織、授業の構造、授業をデザインし創造する			
第15回	授業の評価	行動科学の方法、質的研究の方法、工学的接近と羅生門的接近など			

経済・国際

授業番号	A300410001				
科目名 (英語表記)	教職概論 (Teaching profession introduction)				
担当者 (英語表記)	坂本 義孝 (Yoshitaka Sakamoto)	対象学年	1 (国際学 科のみ 2)	単位数	2
授業のねらいと 到達目標	教員を目指す者として教職の意義を理解し、教職への進路意識をより明確にするとともに、教師としての使命感、責任感を自覚できるようにすること。				
授業の進め方 (履修条件など)	教職に関する事項を広範囲に講義する予定である。したがって、学生自らが教職への意欲や適性を確認できるように進める。				
成績評価方法 基準	レポート提出、平常点、定期試験、その他の小テストの結果を勘案し評価する。				
授業の予習・復習	その都度指示する。				
教科書	「教職概論」(第3次改訂版) 学陽書房刊				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	教職の意義 (1)	教職を目指す者にとって			
第2回	教職の意義 (2)	教員養成について			
第3回	教職員の任用と服務 (1)	教職員の配置と任用			
第4回	教職員の任用と服務 (2)	教職員の服務			
第5回	教職員の任用と服務 (3)	教職員の勤務条件			
第6回	教師の職務内容 (1)	校務分享の意義と組織			
第7回	教師の職務内容 (2)	管理職について			
第8回	教師の職務内容 (3)	主任層について			
第9回	教師の職務内容 (4)	学習指導等について			
第10回	教師の職務内容 (5)	生徒指導について			
第11回	教師の職務内容 (6)	生徒理解と教育相談			
第12回	教師の職務内容 (7)	学校外との連携・協力			
第13回	教師の資質向上	教師のライフステージと研修制度			
第14回	教育実習	その意義と心得			
第15回	教職への道	教員採用選考の現状			

経済・国際

授業番号	A300410002				
科目名 (英語表記)	教職概論 (Teaching profession introduction)			こども専用	
担当者 (英語表記)	武内 清 (Kiyoshi Takeuchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	教員の仕事内容について広く学ぶ。教員の置かれた社会的背景、教員の採用、研修、教員の属する学校組織の特質、校務分掌、教職倫理、教師・生徒関係、親との関係、地域社会との関係など、教員として仕事をしていく上で必要な知識や技法を学ぶ。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義を中心に行うが、毎時間、自分の考えや質問を書くリアクションペーパーを課す。討論も取り入れる。				
成績評価方法	授業での発言 10%、リアクションペーパー 30%、学期末試験 60%。				
基準					
授業の予習・復習	配布されたプリントを読み、復習をよくすること。				
教科書	使用しない。プリントを配布。				
参考文献	授業時に指示。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	導入	教職の意義について			
第 2 回	専門職	教職は専門職か。			
第 3 回	教育法規	教育法規と教師の役割			
第 4 回	研修	教育実習、校内研修、外部研修			
第 5 回	教員の地位	教員の社会的背景、身分、倫理			
第 6 回	教師のメンタルヘルス	教師の多忙感、バーンアウト、病気対策			
第 7 回	ライフスタイル	教師のタイプ、日常生活			
第 8 回	仕事内容	教科指導、生徒指導、部活の指導、校務分掌			
第 9 回	管理職	校長、教頭、主任の役割			
第 10 回	教師－生徒関係	その実際とあるべき姿			
第 11 回	問題行動	生徒の問題行動への対処の仕方			
第 12 回	キャリア教育	その教育内容と方法			
第 13 回	カリキュラム	教科書の使い方、教科書以外の教材の使い方			
第 14 回	親、地域社会	小中高大連携			
第 15 回	まとめ	教師の現実と理想			

経済・国際

授業番号	A300010002		
科目名 (英語表記)	敬天愛人講座 (Soul of establishment of a school)		
担当者 (英語表記)	教務部委員会 (Kyoumubu)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>本学の建学の精神である「敬天愛人」の具現化を図るために設けられたものである。「天を敬い、人を愛する」という言葉の持つ意味は極めて広く深い。人間関係のみならず、人間と社会、人間と自然との関係にも関わってくる。従って、この理念の具体化もさまざまな形で行われることになる。この講座をきっかけとして、「敬天愛人」の精神が、学内はもとより、学外にも広く浸透していくことを期待している。</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	「敬天愛人」に関する複数のテーマを掲げ、各専門の先生方に講義していただく。		
成績評価方法	複数のテーマのうち2つを選び、それぞれの問題について回答する。(論文形式)		
基準	出席：40%、筆記試験：60%。		
授業の予習・復習	メディアセンターにある「敬天愛人文庫」の中の間連書物を読んでおくことが望ましい。(本学ホームページからのアクセスが可能)		
教科書	教科書は用いず、毎回レジュメを配布する。		
参考文献	「野の花」 長戸路 信行 著		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	第1回「4月12日」 講師「和田 良子」	オリエンテーション	
第2回	第2回「4月19日」 講師「角田 勲」	敬愛学園の成り立ちと建学の理念 I	
第3回	第3回「4月26日」 講師「角田 勲」	敬愛学園の成り立ちと建学の理念 II	
第4回	第4回「5月10日」 講師「土井 修」	敬愛大学の建学理念 I	
第5回	第5回「5月17日」 講師「土井 修」	敬愛大学の建学理念 II	
第6回	第6回「5月24日」 講師「館野 受男」	人の品性、知性 I	
第7回	第7回「5月31日」 講師「館野 受男」	人の品性、知性 II	
第8回	第8回「6月7日」 講師「長戸路 政行」	命の尊厳 I	
第9回	第9回「6月14日」 講師「長戸路 政行」	命の尊厳 II	
第10回	第10回「6月21日」 講師「金子 林太郎」	21世紀の環境問題	
第11回	第11回「6月28日」 講師「星 真実」	格差社会はなぜ生まれるか	
第12回	第12回「7月5日」 講師「畑中 千晶」	文芸を楽しむ 「西鶴に学ぶ商人の生き方」	
第13回	第13回「7月12日」 講師「高田 洋子」	戦争と平和 「語り継ぐ原爆の日」	
第14回	第14回「7月19日」 講師「池谷 美佐子」	人と社会のコミュニケーション 「道徳教育の可能性」	
第15回	第15回「7月26日」 講師「三幣 利夫」	敬天愛人のめざすもの	



経済・国際

授業番号	A300500001				
科目名 (英語表記)	公民科指導法 (Department method of instruction of a citizen)				
担当者 (英語表記)	福田 靖 (Yasushi Fukuda)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	主に高校の公民科教員となった場合に必要とされる, 教員としての心構えを育成するとともに最重要の教育内容についての扱い方と基本知識を身につける				
授業の進め方 (履修条件など)	主として高校公民科の政経, 倫理, 現代社会の各科目を想定した内容で授業を進める。プリントを使用した講義形式。公民科教員となったときに不可欠な基礎的知識の習得に特に重点を置きつつ, 公民科におけるいくつかの主要テーマについて, 授業での取り扱い方を解説する。座席は指定し, 固定する。				
成績評価方法	試験, レポート等により評価する。				
基準					
授業の予習・復習	復習: ノートの内容をプリントに整理しながら, プリントを再度読むこと。				
教科書	特になし				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	高校学習指導要領について	平成 21 年版学習指導要領高校公民科改訂の要点			
第 2 回	宗教をどう教えるか その 1	キリスト教			
第 3 回	宗教をどう教えるか その 2	仏教			
第 4 回	宗教をどう教えるか その 3	イスラム教			
第 5 回	経済事象の取り扱い方 その 1	市場経済の原理			
第 6 回	経済事象の取り扱い方 その 2	経済現象の図式化			
第 7 回	経済事象の取り扱い方 その 3	市場の失敗			
第 8 回	経済事象の取り扱い方 その 4	価格弾力性			
第 9 回	哲学をどう教えるか その 1	宗教と哲学の違い, 哲学の諸課題			
第 10 回	哲学をどう教えるか その 2	ソクラテスの「善く生きること」について			
第 11 回	哲学をどう教えるか その 3	「ソクラテスの死」について			
第 12 回	哲学をどう教えるか その 4	ベーコンとデカルトについて			
第 13 回	国際貿易をどう教えるか その 1	国際貿易の原理 - リカード比較優位説			
第 14 回	国際貿易をどう教えるか その 2	国際貿易協定の諸問題			
第 15 回	国際貿易をどう教えるか その 3	T P P について			

経済・国際

授業番号	A300340001				
科目名 (英語表記)	システム設計論 I (Design of Information Systems I)				
担当者 (英語表記)	高橋 和子 (Kazuko Takahashi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	授業のねらいは、企業をはじめ官庁や教育機関など社会のあらゆる場で運用されている情報システムの設計を行う上で必要な基礎的知識を解説することです。到達目標は、これらの知識を身につけることで、将来、担当するであろうどのような業務に対しても、高度な情報技術を活用できる能力を身につけることです。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的に教科書にしたがって講義を進め、不足する部分は配布プリントで補います。履修条件は特にありません。理解を深めるために、毎回、授業の途中で小テスト (クイズ) を数回行います。				
成績評価方法	平常点：授業内小テスト (毎回) 40% 定期試験：60%				
基準					
授業の予習・復習	予習：日頃から情報システムに関連するニュースに注意してください。 復習：専門用語が多いので、授業中によく理解し、復習に努めるようにしてください。				
教科書	『ソフトウェア開発の基本』 谷口功著 秀和システム 2011年				
参考文献	『情報システム基礎』 神沼靖子著 オーム社 2006年				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	情報システムとは	情報システムとコンピュータ、情報システムの形態			
第2回	情報システムの事例 (1)	社会基盤としての情報システム、生活基盤としての情報システム			
第3回	情報システムの事例 (2)	行政と情報システム、ビジネス戦略と情報システム			
第4回	システム開発の工程	システムのライフサイクルと開発モデル			
第5回	システム開発 (1)	開発計画、工数の見積り			
第6回	システム開発 (2)	要求分析と要求定義			
第7回	システム開発 (3)	外部設計			
第8回	システム開発 (4)	ファイル設計			
第9回	システム開発 (5)	内部設計			
第10回	システム開発 (6)	プログラム設計			
第11回	システム開発 (7)	単体テスト、結合テスト、システムテスト			
第12回	システム開発 (8)	システムの運用管理と評価指標			
第13回	データベース設計	概念設計、論理設計、物理設計			
第14回	オブジェクト指向によるシステム設計	オブジェクト指向とは			
第15回	開発環境と開発ツール	統合開発環境、CASE ツール、コンポーネントウェア			

経済・国際

授業番号	A300350001				
科目名 (英語表記)	システム設計論 II (Design of Information Systems II)				
担当者 (英語表記)	高橋 和子 (Kazuko Takahashi)	対象学年	3(経済学部のみ2年)	単位数	2
授業のねらいと到達目標	「システム設計論 I」で学んだ知識をもとに、情報システムの設計を行うためのより高度な知識を解説することです。到達目標は、企業や官庁などさまざまな職場において、情報システムの構築や改善を提案できる高度 IT 人材となるために必要な知識を身につけることです。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には教科書にしたがって講義を進め、不足する部分は配布プリントで補います。「システム設計論 I」を履修していることが望ましい。理解を深めるために、毎回、授業の途中で小テスト (クイズ) を数回行います。				
成績評価方法	平常点: 授業内小テスト (毎回) 40% 定期試験: 60%				
基準					
授業の予習・復習	予習: 日頃から企業の情報システムに関連するニュースに注意してください。 復習: 専門用語が多いので、授業中によく理解し、復習に努めるようにしてください。				
教科書	『システム設計論』布広永示他著 コロナ社 2003 年				
参考文献	適宜、プリントを配布します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいと到達目標、評価方法			
第 2 回	情報システムの設計思想 (1)	企業情報システムの処理形態			
第 3 回	情報システムの設計思想 (2)	構造化技法とソフトウェア工学			
第 4 回	情報システムの変革	クライアント/サーバシステム			
第 5 回	システム設計・構築 (1)	システム開発モデル システム設計・構築の流れ			
第 6 回	システム設計・構築 (2)	テスト計画・設計			
第 7 回	システム設計・構築 (3)	プロジェクト管理 CASE ツール			
第 8 回	インフラ設計	インフラ設計の必要性とその流れ			
第 9 回	システム分析設計技法	各工程における構造化分析設計技法			
第 10 回	アプリケーション設計・構築 (1)	アプリケーション設計・構築の流れ			
第 11 回	アプリケーション設計・構築 (2)	ユーザインタフェース設計の流れ Web 技術の利用			
第 12 回	データベース設計・構築	データベース設計の流れ			
第 13 回	システム運用設計・運用管理	システムの構築・テストと運用管理の流れ			
第 14 回	企業情報システムの課題と改革	モデル駆動型アジャイル開発			
第 15 回	まとめ	システム設計に必要な知識の総復習			

経済・国際

授業番号	A300480001				
科目名 (英語表記)	社会科・公民科指導法 I (Social studies and the department method of instruction I of a citizen)				
担当者 (英語表記)	福田 靖 (Yasushi Fukuda)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	主に中学校社会科教員となった場合に必要とされる教員としての心構え, 教育上の諸技法の基礎的理論と現実を理解する				
授業の進め方 (履修条件など)	プリントを使用した講義及び演習。 教室内での座席は指定し, 固定する。				
成績評価方法	試験, レポート等により評価する。				
基準					
授業の予習・復習	復習: ノートの内容をプリントに整理しながら, プリントを再度読むこと。				
教科書	1.『社会科中学生の公民 (教科書)』 帝国書院 2013 2.『新編中学校社会科地図』 帝国書院 2013				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	教師とはどんな仕事か	教育とは何か, 教師とはどんな職業か			
第 2 回	教育における場の設定	生徒理解, 生徒との間合いの取り方			
第 3 回	社会科を教えるということ	社会科教員としての基礎的資質			
第 4 回	中学校学習指導要領について	20 年版 中学校学習指導要領の主な改訂点			
第 5 回	高校入試 (社会科) について	公立高校入試問題への対応			
第 6 回	学習指導案の書き方	学習指導案作成上の留意点			
第 7 回	社会科における基礎知識演習 - 1	日本の行政区分			
第 8 回	生徒の思考回路を回すということ	発問の仕方, プリントの作り方			
第 9 回	社会科における評価	生徒を多角的に評価すること			
第 10 回	授業のビジュアル化	視聴覚教材を扱う上での留意点			
第 11 回	国際理解教育を考える	国際人としての資質の育成			
第 12 回	社会科における基礎知識演習 - 2	世界の国家構成			
第 13 回	グループワークの進め方 その 1	事前準備 どのような資料を与えるか			
第 14 回	グループワークの進め方 その 2	論点の整理 討議のさせ方の実際			
第 15 回	グループワークの進め方 その 3	多様な意見のまとめかた			

経済・国際

授業番号	A300490001				
科目名 (英語表記)	社会科・公民科指導法 II (Social studies and the department method of instruction II of a citizen)				
担当者 (英語表記)	福田 靖 (Yasushi Fukuda)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	主に中学校社会科教員となった場合に必要とされる, 心構え, 知識, 授業展開の技能などを実践的に育成する。				
授業の進め方 (履修条件など)	社会科・公民科指導法 I の先修を原則とする。プリントを使用した講義形式。社会科・公民科教員となったときに不可欠な基礎的知識の習得に特に重点を置きつつ, 社会科・公民科におけるいくつかの主要テーマについて, 授業での取り扱い方を解説する。教室内での座席は指定し, 固定する。				
成績評価方法	試験, レポート等により評価する。				
基準					
授業の予習・復習	復習: ノートの内容をプリントに整理しながら, プリントを再度読むこと。				
教科書	1.『社会科中学生の公民 (教科書)』 帝国書院 2013 2.『新編中学校社会科地図』 帝国書院 2013				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	今日の世界と日本の抱える諸問題 その 1	第二次大戦の終結			
第 2 回	今日の世界と日本の抱える諸問題 その 2	冷戦下の世界			
第 3 回	今日の世界と日本の抱える諸問題 その 3	雪解けと諸国の自立			
第 4 回	今日の世界と日本の抱える諸問題 その 4	アメリカの覇権の揺らぎ			
第 5 回	今日の世界と日本の抱える諸問題 その 5	社会主義陣営の解体と中国			
第 6 回	グローバル経済の諸問題をどう教えるか その 1	EU の抱える矛盾			
第 7 回	グローバル経済の諸問題をどう教えるか その 2	混迷する世界経済			
第 8 回	裁判員となることを考えさせる その 1	市民と裁判との関係をどう教えるか			
第 9 回	裁判員となることを考えさせる その 2	我が国の司法制度改革			
第 10 回	裁判員となることを考えさせる その 3	裁判員制度の諸課題			
第 11 回	環境問題をどう教えるか。その 1	環境保護と経済成長の諸問題			
第 12 回	環境問題をどう教えるか。その 2	地球温暖化問題とは何か			
第 13 回	環境問題をどう教えるか。その 3	地球温暖化対策をめぐる国際協調の諸問題			
第 14 回	日本国憲法をどう教えるか その 1	憲法改正の諸問題			
第 15 回	日本国憲法をどう教えるか その 2	平和主義の諸問題			

経済・国際

授業番号	A300450001				
科目名 (英語表記)	社会科・地歴科指導法 I (Teaching Methods in Social Studies and Geography I)				
担当者 (英語表記)	奈良 明 (Akira Nara)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	知識基盤社会化やグローバル化が進む時代において、中学校社会科が果たす役割は非常に大きい。そのために学習指導要領を深く理解し、中学校社会科教員として身につける、基礎理論、教材理論、研究の方法、授業の方法論等を地理的、歴史的分野において習得する。				
授業の進め方 (履修条件など)	中学校学習指導要領解説―社会編と教師作成のプリントで授業を進める。				
成績評価方法	課題小論文 (50 点)、定期試験 (50 点)				
基準					
授業の予習・復習	予習：前時の内容に目を通しておく。 復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておく。				
教科書	中学校学習指導要領 (平成 20 年 9 月) 解説―社会編 文部科学省				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	社会科教育の現状と課題	オリエンテーション、社会科で何を教えるのか。			
第 2 回	社会科教育の基本	社会科教育の理念			
第 3 回	社会科教育の基本	社会科教育の変遷			
第 4 回	社会科教育の基本	これからの社会科教育			
第 5 回	社会科の学力観	学力を構成するもの			
第 6 回	社会科の授業観	分かる授業、楽しい授業とは			
第 7 回	社会科地歴学習の基礎理論	地理的分野の学習			
第 8 回	社会科地歴学習の基礎理論	地理的分野の指導と方法			
第 9 回	社会科地歴学習の基礎理論	歴史的分野の学習			
第 10 回	社会科地歴学習の基礎理論	歴史的分野の指導と方法			
第 11 回	社会科地歴学習の基礎理論	年間指導計画の作成			
第 12 回	社会科授業の方法論	地理、歴史の教材研究			
第 13 回	社会科授業の方法論	地理、歴史の指導技術			
第 14 回	社会科の評価	評価規準の設定			
第 15 回	社会科の評価	観点別学習状況評価			

経済・国際

授業番号	A300460001				
科目名 (英語表記)	社会科・地歴科指導法 II (Teaching Methods in Social Studies and Geography II)				
担当者 (英語表記)	奈良 明 (Akira Nara)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	社会科・地歴科指導法 I (前期) で学んだ理論を背景として、授業実践に結びつく力を身につける。実際に使用されている教科書を使い、学習内容や指導方法を具体的に習得する。				
授業の進め方 (履修条件など)	社会科・地歴科指導法 I (前期) を履修したものが受講できる。教科書を使用しながら、学習指導要領の内容と関連させ、指導のポイントを理解する。				
成績評価方法	レポート作成 (40 点)、課題発表 (60 点)				
基準					
授業の予習・復習	予習：発表者は準備しておく。 復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておく。				
教科書	中学校学習指導要領 (平成 20 年 9 月) 解説—社会編 文部科学省 中学校教科書 東京書籍版 「地理」「歴史」 帝国書院版 「地図帳」				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、指導案作成の仕方			
第 2 回	地理的分野の学習内容と学習指導の研究	地理的分野の年間学習指導計画			
第 3 回	〃	学生による模擬授業 (世界のすがた)			
第 4 回	〃	〃 (世界各地の人々の生活と環境)			
第 5 回	〃	〃 (世界の諸地域)			
第 6 回	〃	〃 (日本のすがた)			
第 7 回	〃	〃 (世界から見た日本のすがた)			
第 8 回	〃	〃 (日本の諸地域)			
第 9 回	歴史的分野の学習内容と学習指導の研究	歴史的分野の年間学習指導計画			
第 10 回	〃	学生による模擬授業 (古代までの日本)			
第 11 回	〃	〃 (中世の日本)			
第 12 回	〃	〃 (近世の日本)			
第 13 回	〃	〃 (開国と近代日本の歩み)			
第 14 回	〃	〃 (二度の世界大戦と日本)			
第 15 回	授業参観	中学校社会科授業参観とレポート提出			



# 経済・国際

授業番号	A300120001		
科目名 (英語表記)	社会学 (Sociology)		
担当者 (英語表記)	菊池 真弓 (Mayumi Kikuchi)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	本授業では、社会学的な理論や方法論、社会学の歴史を学ぶことを目的とする。また、家族、地域社会の基本的な視点を学び、わが国の少子高齢化、情報化といった社会変動の過程や背景を取り上げ、現代社会に起こっている虐待、介護、環境、ジェンダーなどの問題とその課題について考える力をつけることを目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業の進め方は、新聞や統計・世論調査、ビデオ教材などの資料に基づき、私達を取り巻く身近な人と人との関係、集団との関係、現代社会に起こっている様々な問題とその対策について考える。		
成績評価方法	定期試験 (70%)、授業内小レポート (20%)、授業態度 (10%) を総合的に勘案して評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：次回の講義までに指示するテキストなどを熟読して講義に臨むこと。 復習：①授業終了時に質問・感想をまとめる時間を設ける。②次回授業で、質問に対する回答とともに復習を行う。		
教科書	久門道利他『スタートライン現代社会の諸相—社会学の視点』弘文堂, 2008年		
参考文献	秋元・石川・羽田・袖井『社会学入門』有斐閣新書, 1991年 森下伸也『社会学がわかる事典』日本実業出版, 2000年		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	社会学とは何か	社会学的な視点・方法	
第2回	社会的存在としての人間	社会集団と文化	
第3回	社会学の歴史 (1)	社会学の成立・確立期	
第4回	社会学の歴史 (2)	社会学の展開と今後	
第5回	家族	家族とは、機能と役割	
第6回	地域社会	都市と農村、コミュニティ形成	
第7回	社会問題とは何か	社会問題の定義とその捉え方	
第8回	現代社会の社会問題 (1)	少子高齢社会の現状と課題	
第9回	現代社会の社会問題 (2)	社会福祉の現状と課題	
第10回	現代社会の社会問題 (3)	環境問題の現状と課題	
第11回	現代社会の社会問題 (4)	ジェンダーの現状と課題	
第12回	情報化	メディアの変容と情報化	
第13回	国際化	エスニシティと地域社会	
第14回	運動・ネットワーク	ネットワーキングと社会運動	
第15回	まとめ	社会調査・社会計画とは	

経済・国際

授業番号	A300360001				
科目名 (英語表記)	社会思想史 I (History of Social Thought I)				
担当者 (英語表記)	折原 裕 (Yutaka Orihara)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	ヨーロッパ社会思想史の前半期について理解します。				
授業の進め方 (履修条件など)	ルネサンスから、宗教改革を経て、市民革命にいたる、ヨーロッパ社会思想史の歩みの前半期を概観します。種々の思想家の思想像のみならず、その人物像や、時代背景についても、できる限り触れることにしたいと思います。				
成績評価方法	定期試験 (60%)、授業内小テスト (40%)。				
基準					
授業の予習・復習	予習：分野にこだわらず多くの書物を読んで下さい。 復習：簡単でいいから励行して下さい。				
教科書	市販のテキストは用いず、毎回講義の概要を記載した印刷物「講義メモ」を配布します。これに、講義中の指示などによって学生諸君が適宜書き込みをほどこしたものが、テキスト兼ノートになります。				
参考文献	塩野七生『わが友マキアヴェッリ』中央公論社、橋爪大三郎・大澤真幸『ふしぎなキリスト教』講談社現代新書 (いずれも、メディアセンター所定のコーナーに5冊ずつ常備してあります。)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義ガイダンス	本講義の特徴、成績について等			
第2回	ルネサンスの思想	マキアヴェリ			
第3回	ルネサンスの思想	トマス・モア			
第4回	ルネサンスの思想	エラスムス			
第5回	宗教改革	ルター			
第6回	宗教改革	カルヴァン			
第7回	小テスト	小テスト			
第8回	イギリス市民革命の展開	トマス・ホッブズ			
第9回	イギリス市民革命の展開	ジョン・ロック			
第10回	フランス啓蒙思想	モンテスキュー			
第11回	フランス啓蒙思想	ヴォルテール			
第12回	フランス啓蒙思想	デイドロ			
第13回	フランス啓蒙思想	ルソー			
第14回	小テスト	小テスト			
第15回	まとめ	まとめ			

経済・国際

授業番号	A300330001		
科目名 (英語表記)	情報概論 (Introduction to Information Processing)		
担当者 (英語表記)	高橋 和子 (Kazuko Takahashi)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	現代社会に不可欠なコンピュータやコンピュータネットワークシステム、さらにはインターネット上で、情報がどのように扱われ、処理されるのかについて解説します。到達目標は、高度情報社会に対応できる基本的な情報知識を身につけることです。		
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は特にありません。理解を深めるために、毎回、授業の途中で小テスト (クイズ) を数回行います		
成績評価方法	平常点：授業内小テスト (毎回) 40% 定期試験：60%		
基準			
授業の予習・復習	予習：日頃から IT 関連のニュースに注意するようにしてください。 復習：専門用語が多いので、授業中によく理解し、復習に努めるようにしてください。		
教科書	『コンピュータと情報システム』 草薙信照著 サイエンス社 2007 年		
参考文献	適宜、プリントを配布します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	コンピュータの基礎知識	コンピュータの歴史、種類、基本構成	
第 2 回	情報とデータ	情報の単位、補助単位、論理演算	
第 3 回	ハードウェア (1)	中央処理装置	
第 4 回	ハードウェア (2)	周辺処理装置	
第 5 回	ハードウェア (3)	インタフェース	
第 6 回	ソフトウェア	OS、アプリケーション、プログラム言語	
第 7 回	情報の表現 (1)	数値情報、2 進数と 10 進数の相互変換	
第 8 回	情報の表現 (2)	数値情報の演算、テキスト情報	
第 9 回	情報の表現 (3)	画像情報、音声情報、情報圧縮と解凍方法	
第 10 回	コンピュータネットワークシステム	LAN、WAN、通信回線	
第 11 回	インターネット (1)	インターネットのしくみと利用方法	
第 12 回	インターネット (2)	インターネットにおけるセキュリティ	
第 13 回	情報倫理	情報倫理	
第 14 回	I C T における現在の動向と将来	クラウドコンピューティング、ビッグデータなど	
第 15 回	まとめ	情報に関する知識の総まとめ	

経済・国際

授業番号	A300280001		
科目名 (英語表記)	政治学概論 I (Introduction to Political Science I)		
担当者 (英語表記)	榎田 久代 (Hisayo Kushida)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	世の中を知り考えるための一つの方法論として政治学を学びます。授業では、政治学の基礎概念や政治の仕組みについての理論に重点を置いています。そして、この授業を通して、国家内部においてだけでなく国民国家を超える国際政治の領域において、政治がどのように作用しているのかを理解することを目的にしています。		
授業の進め方 (履修条件など)	配布したプリントを中心に進めていきます。時折、みなさんの理解を確認するために、演習形式で授業を進めます。学則では、単位取得のためには、原則として3分の2以上の出席が履修条件です。		
成績評価方法	期末試験 80%、授業内に適宜行う小レポート 20%により総合的に評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習として心がけてほしいのは、日頃から時事ニュースに関心を持って下さい。復習としては、授業でわからなかったことを自分で調べ、ノートに整理することを試みて下さい。		
教科書	指定無し。		
参考文献	久米郁男他編『政治学 (New Liberal Arts Selection) 補訂版』(有斐閣、2011年)他。 参考文献は、3階メディアセンターの「指定図書」榎田コーナーにあります。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	政治を見る目	日本政治の今	
第2回	国家について (1)	権力と国家	
第3回	国家について (2)	国家	
第4回	ナショナリズム (1)	国民国家とナショナリズム	
第5回	ナショナリズム (2)	民族のナショナリズム	
第6回	ナショナリズム (3)	ビデオ鑑賞	
第7回	民主政治 (1)	民主政治の起源	
第8回	民主政治 (2)	民主政治の発達	
第9回	民主政治 (3)	民主政治の定義をめぐって	
第10回	選挙 (1)	選挙制度	
第11回	選挙 (2)	選挙制度改革	
第12回	政治組織 (1)	政党制	
第13回	政治組織 (2)	政党変遷の流れ	
第14回	政治組織 (3)	利益集団	
第15回	まとめ	現代の日本政治	

経済・国際

授業番号	A300110001				
科目名 (英語表記)	政治学概論 II (Introduction to Political Science II)			国際学部専用	
担当者 (英語表記)	榎田 久代 (Hisayo Kushida)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、日本の政治過程を扱います。政治学入門あるいは政治学概論 I で学んだ政治の基礎概念や基礎理論が、日本政治の中でどのように展開しているのかを主眼に、政治の実態を具体的に理解し政治的知識を増やすことを目的としています。国際学部の社会科学教職科目でもありますから、しっかりと知識を身につけてもらいたいと思います。				
授業の進め方 (履修条件など)	配布するプリントを中心に授業を進めます。時折、みなさんの理解を確認するために演習形式で行うときもあります。なお、社会科学関係の教職課程の学生は必修です。				
成績評価方法	期末試験 80%、授業内に適宜行う小レポート 20%により総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：日頃から時事ニュースに関心を持つようにして下さい。 復習：授業中わからなかったことは、授業後解決するようにして下さい。				
教科書	なし。				
参考文献	久米郁男他編『政治学 (New Liberal Arts Selection) 補訂版』(有斐閣、2011 年) 他。 ※参考文献は、3 階メディアセンターの榎田「指定図書」コーナーにあります。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	日本政治の今			
第 2 回	政治を見る目 (1)	日本政治の課題			
第 3 回	政治を見る目 (2)	外交と国内政治			
第 4 回	日本の政治制度	議院内閣制と政党			
第 5 回	行政部 (1)	内閣と行政部			
第 6 回	行政部 (2)	行政部の現状と問題点			
第 7 回	立法部 (1)	国会			
第 8 回	立法部 (2)	立法過程			
第 9 回	立法部 (3)	立法の現状と問題点			
第 10 回	司法部 (1)	裁判所の役割			
第 11 回	司法部 (2)	市民の司法参加			
第 12 回	マスメディアと世論	第 4 の権力			
第 13 回	地方自治 (1)	地方自治の推進			
第 14 回	地方自治 (2)	地方自治が抱える課題			
第 15 回	まとめ	日本政治の現状再考			

経済・国際

授業番号	A300110002		
科目名 (英語表記)	政治学概論 II (Introduction to Political Science II)	経済学部専用	
担当者 (英語表記)	榎田 久代 (Hisayo Kushida)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、日本の政治の仕組みを学ぶことで、政治がどのような制度の中で動いているのかを知り、政治が現代社会を変えうる手段であることを理解することを狙いとしています。授業を通して、みなさんが現代の日本社会の問題を理解し、問題打開のために政治に何ができるのかを考えてられるようになることが目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	配布するプリントを中心に授業を進めます。時折、みなさんの理解を確認するために演習形式で行うときもあります。なお、社会科学関係の教職課程の学生は必修です。		
成績評価方法	期末試験 80%、授業内に適宜行う小レポート 20%により総合的に評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：日頃から時事ニュースに関心を持つようにして下さい。 復習：授業中わからなかったことは、授業後解決するようにして下さい。		
教科書	なし。		
参考文献	久米郁男他編『政治学 (New Liberal Arts Selection) 補訂版』(有斐閣、211年) 他。 ※参考文献は、3階メディアセンターの榎田「指定図書」コーナーにあります。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	政治記事を読む	
第2回	政治を見る目 (1)	2012年衆議院議員総選挙	
第3回	政治を見る目 (2)	政権交代の現状	
第4回	日本の政治制度	議院内閣制と政党	
第5回	行政部 (1)	内閣と行政部	
第6回	行政部 (2)	政治家と官僚	
第7回	立法部 (1)	国会	
第8回	立法部 (2)	立法過程	
第9回	立法部 (3)	国会議員の日常と仕事	
第10回	司法部 (1)	裁判所の役割	
第11回	司法部 (2)	市民の司法参加	
第12回	マスメディアと世論	第4の権力	
第13回	地方自治 (1)	地方自治の推進	
第14回	地方自治 (2)	地域間格差	
第15回	期末試験	期末試験の実施と試験問題の解説	

経済・国際

授業番号	A300100001		
科目名 (英語表記)	政治学入門 (Introduction to Political Science)		
担当者 (英語表記)	榎田 久代 (Hisayo Kushida)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	世の中を知り考えるための一つの方法論として政治学を学びます。授業では、政治学の基礎概念や政治の仕組みについての理論に重点を置いています。そして、この授業を通して、国家内部においてだけでなく国民国家を超える国際政治の領域において、政治がどのように作用しているのかを理解することを目的にしています。		
授業の進め方 (履修条件など)	配布したプリントを中心に進めていきます。時折、みなさんの理解を確認するために、演習形式で授業を進めます。学則では、単位取得のためには、原則として3分の2以上の出席が履修条件です。		
成績評価方法	期末試験 80%、授業内に適宜行う小レポート 20%により総合的に評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習として心がけてほしいのは、日頃から時事ニュースに関心を持って下さい。復習としては、授業でわからなかったことを自分で調べ、ノートに整理することを試みて下さい。		
教科書	指定無し。		
参考文献	久米郁男他編『政治学 (New Liberal Arts Selection) 補訂版』(有斐閣、2011年)他。 参考文献は、3階メディアセンターの「指定図書」榎田コーナーにあります。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	政治を見る目 (1)	日本政治の課題	
第2回	政治を見る目 (2)	日本政治の今を考える。	
第3回	国家について (1)	権力と国家	
第4回	国家について (2)	国家	
第5回	ナショナリズム (1)	国民国家とナショナリズム	
第6回	ナショナリズム (2)	民族のナショナリズム	
第7回	ナショナリズム (3)	ビデオ鑑賞	
第8回	民主政治 (1)	民主政治の起源	
第9回	民主政治 (2)	民主政治の発達	
第10回	民主政治 (3)	民主政治の定義をめぐって	
第11回	民主政治 (4)	世界の民主的政治制度	
第12回	選挙制度	選挙制度	
第13回	政治組織 (1)	政党制	
第14回	政治組織 (2)	利益集団	
第15回	まとめ	現代の日本政治	

経済・国際

授業番号	A300530001				
科目名 (英語表記)	生徒指導論 (Student Guidance)				
担当者 (英語表記)	福田 靖 (Yasushi Fukuda)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	生徒指導を実践するために必要な最低限の基礎知識・諸技法を実践的に身につける。				
授業の進め方 (履修条件など)	プリントを使用した講義及び演習。				
成績評価方法	試験, レポート等により評価する。				
基準					
授業の予習・復習	復習: ノートの内容をプリントに整理しながら, プリントを再度読むこと。				
教科書	特になし				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	学校の原理・原則	学校が教育の場であることを生徒指導の観点から再確認する。			
第 2 回	“個性” をどう考えるか	個性尊重と言うことの社会的意味を明らかにする。			
第 3 回	生徒指導とは何か	前 2 回の授業を踏まえた上で, 生徒指導とは何かを明らかにする。			
第 4 回	生徒との間合いの取り方	生徒との距離感の大切さを明らかにし, 波長の合う生徒合わない生徒とのつきあい方を考察する。			
第 5 回	学級集団づくり	学級集団作りの要点, 学級通信の作成方法などを明らかにする。			
第 6 回	いじめについて	いじめの根深さと, いじめ防止のための実践的学級経営例を考察する。			
第 7 回	体罰について	厳しい指導と体罰との関係を明らかにする。			
第 8 回	生徒指導とカウンセリング	生徒指導の原理とカウンセリングの原理の違いを明らかにし, 学校におけるその調和点をどう見いだすかを考察する。			
第 9 回	対教師暴力への対処	生徒による教師刺殺事件から対教師暴力への対処の仕方を探る。			
第 10 回	「キレル」子ども	「キレル」子どもの特徴, キレル原因をその生育歴から明らかにする。			
第 11 回	生徒指導のケーススタディ - 1	無断外泊を繰り返す生徒の例から, 生徒指導の実践的方法を考察する。			
第 12 回	生徒指導のケーススタディ - 2	万引きを繰り返す生徒の指導例から実践的生徒指導の方法を考察する。			
第 13 回	豊かな社会の実現と生徒・保護者の変化	今日の生徒指導上の問題と生活水準の向上との関係を明らかにする。			
第 14 回	現在の生徒指導の危機の根源	前時の授業を踏まえ, 今日の生徒指導上の諸問題のおおもとはどこにあるかを考察する。			
第 15 回	生徒指導とキャリア教育	生徒指導とキャリア教育の関係を明らかにする。			



## 経済・国際

授業番号	A300200001		
科目名 (英語表記)	世界史概論 I (Introduction to World History I)		
担当者 (英語表記)	山本 健 (Takeshi Yamamoto)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	概論 I ではヨーロッパ世界を中心に、封建時代の崩壊から絶対主義の時代 (16/17 世紀) までを学習する。 絶対主義の①正当性とは、②戦争の正当性とは、③近代国家の矛盾や、④複合国家の矛盾などの問題点を考え、近代という時代の合理化の過程に潜む差別体質やその本質などを明らかにする。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業は高校時代の『世界史』の教科書に沿って行う。また事前に配布するプリントを読んで、自分が理解できなかった事柄を質問シートに記させ、それに答える形で授業を進める。		
成績評価方法 基準	試験そして質問シートの提出状況などで評価する。原則としては、出席率が規定の (2/3) に達していない学生は評価外とする。		
授業の予習・復習	予習：高校時代の『世界史』の該当する箇所を読んで、疑問点などを整理しておくこと。 復習：受講後、質問シートを再検討すること。		
教科書	毎回、配布するプリント		
参考文献	『詳説世界史』(山川出版)、『世界史用語集』(山川出版)		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についての説明	
第 2 回	昨年度の講義の総括	ヨーロッパ封建社会 (分裂状態) の形成—発展—崩壊 (中央集権国家の成立)	
第 3 回	ヨーロッパ近代の誕生①	ルネサンス—近代精神の誕生	
第 4 回	ヨーロッパ近代の誕生②	ヨーロッパ世界の拡大—大航海時代の幕開け	
第 5 回	ヨーロッパ近代の誕生③	宗教改革 (カトリック vs プロテスタント)	
第 6 回	ヨーロッパ近代国家の形成①	絶対主義の概念説明と社会構造	
第 7 回	ヨーロッパ近代国家の形成②	スペイン、イギリス、オランダの 3 国関とフランスの独自性	
第 8 回	ヨーロッパ近代国家の成立③	30 年戦争 (その具体的実態—ドイツのアウクスブルク市を中心に)	
第 9 回	ヨーロッパ近代国家の形成④	後進国プロイセンとオーストリアの動向	
第 10 回	近代国家の形成⑤	ロシアの膨張とポーランド消滅の意義	
第 11 回	ヨーロッパ列強の植民活動	絶対主義国家を支えたアジア・アフリカの役割	
第 12 回	アメリカの独立革命	社会契約に基づく人工国家の誕生	
第 13 回	アメリカ独立宣言の特徴	ジョン・ロックの抵抗権と幸福なる期待権の意義	
第 14 回	国家システムの移り変わり	国王を中心とする主権国家	
第 15 回	まとめ—ヨーロッパの絶対主義とその役割	諸問題への仮設提示	

経済・国際

授業番号	A300210001		
科目名 (英語表記)	世界史概論 II (Introduction to World History II)		
担当者 (英語表記)	山本 健 (Takeshi Yamamoto)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この概論 II では前期の講義 I を受けて、18 - 19 世紀ヨーロッパによる世界制覇の時代まで学習する。 新しい経済システム (資本主義経済) と政治システム (国民国家) を組み合わせたヨーロッパは圧倒的な優位に立ち、諸地域世界をヨーロッパに従属させ、ヨーロッパの過剰人口を世界各地に移民として送り込んだ。この世界システムの実態や『二重革命』の役割などを説明しながら、18 - 19 世紀の意義を明らかにする。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業は高校時代の『世界史』の教科書に準じて行う。また事前に配布するプリントを読んで、自分が理解できなかった事柄を質問シートに記させ、それに答える形で授業を進める。		
成績評価方法 基準	試験そして質問シートの提出状況などで評価する。原則としては、出席率が規定の(2/3)に達していない学生は評価外とする。		
授業の予習・復習	予習：高校時代の『世界史』の該当する箇所を読んで、疑問点などを整理しておくこと。 復習：受講後、質問シートを再検討する。		
教科書	毎回、配布するプリント		
参考文献	『詳説世界史』(山川出版)、『世界史用語集』(山川出版)		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についての説明	
第 2 回	前期講義 I の総括	絶対主義国家の崩壊とその原因	
第 3 回	イギリス産業革命①	軽工業の発達と自由な市民社会の出現	
第 4 回	イギリス産業革命 ②	重工業の発展と独占問題の発生 (帝国主義化の問題)	
第 5 回	フランス革命前夜	特権身分の横暴と財政改革	
第 6 回	フランス革命の推移①	立憲君主派からジャコバン独裁まで	
第 7 回	フランス革命の推移②	ナポレオン時代 (台頭とその栄光、そして挫折へ)	
第 8 回	国民国家の出現	国家システムの変遷	
第 9 回	ウィーン体制とその意味	自由主義 v s . ナショナリズム (国民主義 or 民族主義)	
第 10 回	フランス 7 月革命と 2 月革命	ブルジョア支配の確立	
第 11 回	ドイツ帝国の成立	政治的な分裂状態を「上からの統一」で克服	
第 12 回	独立前後のアメリカと米英戦争	イギリスからの経済的自立化と領土拡張	
第 13 回	アメリカ合衆国の形成と南北問題	アメリカの完全な独立経済圏の形成に成功	
第 14 回	ラテンアメリカの独立とその意味	ウィーン体制を崩壊させるが、アメリカ経済圏へ従属	
第 15 回	まとめ—世界覇権の行方	欧州のアジア支配とアメリカの南米支配	

# 経済・国際

授業番号	A300240002				
科目名 (英語表記)	世界地誌 (World Topography)				
担当者 (英語表記)	高田 洋子 (Yoko Takada)	対象学年	2 (経済学部のみ1年)	単位数	2
授業のねらいと到達目標	地誌学は、地球上の特定の場所についての地理学的研究を通して、地域やその景観、人びとの生活世界を描き出すことを目的とする学問です。地誌学の基本的な考え方と方法論を学び、中学・高校での地誌教育で生かすことを目指しましょう。				
授業の進め方 (履修条件など)	初めに地誌教育の目的と重要性について概説し、次に世界各地の地誌概説を講義します。最後に興味を持った地域の地誌研究をグループごとに行い、発表することによって、より主体的に地誌学の方法に接近してもらいます。				
成績評価方法	課題のグループ発表と定期試験によって成績を付けます。				
基準					
授業の予習・復習	授業の予習として、指定された資料集を良く読み、世界の諸地域に関する地理的教養を日頃から身につける努力を重ねること。				
教科書	指定しません。毎回、資料・統計、レジュメを配付します。それらをしっかりファイルしておくこと。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	イントロダクション	世界地誌はどんな学問か 世界各地を地誌的に学ぶ楽しさや面白さを知る。また中・高校教育における地誌教育の大切さ、重要性についても理解する。			
第2回	地誌学とその周辺	地誌学と関連して、地理学に含まれる自然地理学、人文地理学の方法を概説し、特定の場所について、地域性格を描き出す地誌学との共通性、差異性などを考察する。また地域研究と比較考察する。			
第3回	地誌学の研究方法	ある地域社会を理解するために、時間的変化および他地域との比較の視点が有効であることを学ぶ。また地図上の分布と計量的検討、地域区分、地域形成、地域構造、地域連関などの分析方法を学ぶ。			
第4回	世界の中の日本を知る	世界の諸社会をみる前に、私たちの日本の地域性格を確認しておこう。日本の地理的位置、歴史的位相、政治・経済・文化が東アジア圏の一部であることを理解する。			
第5回	世界の自然環境と地域区分	地域の自然的・社会的環境を規定する地球全体の自然環境、および人間活動をめぐって世界の地域区分を試みる。			
第6回	主要なアジアの地誌	東アジア、南アジアの自然、国々、人口分布、各地の産業などを比較考察する。			
第7回	東南アジアの地誌	東アジアと南アジアの狭間に位置する東南アジアの地誌を詳細に講義する。大陸部 (インドシナ半島) と島嶼部に2分し、自然と社会、緊密化する日本との関係などを学ぶ。			
第8回	西アジア・北アフリカの地誌	西アジアおよびマグレブ地域の自然と風土、ムスリム社会の人びとの営みを学ぶ。戦争や最近の政変・内紛などの要因を理解する。			
第9回	サハラ以南のアフリカの地誌	アフリカ大陸の自然と民族、奴隷貿易、ヨーロッパ近代の植民地支配のほか、現代の変化と課題について学ぶ。			
第10回	北ユーラシアの地誌	広大なユーラシア大陸の自然環境、旧ソ連邦解体後のロシアをはじめとした多様な諸共和国について、その社会と課題を学ぶ。			
第11回	ヨーロッパの地誌	ヨーロッパの自然環境と諸国家の分布、言語圏、経済と社会、近代の世界分割、文化、EUの目的と課題などについて学ぶ。			
第12回	北アメリカの地誌	北アメリカ大陸の自然環境、諸エスニック分布、ヨーロッパ人の入植と移民の歴史、産業、日本との関係などについて学ぶ。			
第13回	中南米の地誌	ラテンアメリカの自然と社会、移民史、日本との関係などについて学ぶ。			
第14回	まとめ (1) : 地誌を書いてみよう	興味を持った地域について、地誌を実際に書いてみよう。グループごとに特定した地域に関する資料や文献を集め、それらを基に自然環境とそこで暮らす人々の営み、精神世界、社会問題などをまとめてみよう。			
第15回	まとめ (2) : 研究した地誌を発表しよう	グループ研究で仕上げた各地誌を口頭発表し、質疑応答を通して、地誌教育の目的と意義を確認し合う。			

## 経済・国際

授業番号	A300320001				
科目名 (英語表記)	中東経済論 (Middle Eastern Economy)				
担当者 (英語表記)	水口 章 (Akira Mizuguchi)	対象学年	3(経済学部のみ2年)	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本授業では、世界経済に影響を与えるアラブ産油国の経済構造と世界的に注目されるイスラム金融について理解を深めてもらうことに主眼を置きます。そのことにより、21世紀の経済動向を考える力を身につけることを到達目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	各回授業は基本的には講義形式をとります。また、授業を3区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討論を行います。				
成績評価方法	学習態度 (課題レポート、討論参加、授業態度) 20%、定期試験 80%で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。 復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めてください。				
教科書	水口章『中東を理解する』日本評論社、2010年3月				
参考文献	糠谷英輝『拡大するイスラム金融』蒼天社出版、2007年9月 加藤博『イスラム世界の経済史』NTT出版、2005年7月				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	世界経済システムと中東地域	大航海時代後の物流変化について			
第2回	インド洋貿易と中東	ペルシャ湾、紅海の変遷について			
第3回	工業化と中東	中東の資本、労働力、技術力の市場について			
第4回	アジア経済と中東経済	アジアと中東の経済発展の差について			
第5回	グループ討論「中東の経済停滞」	「中東諸国の発展の遅れ」を考える			
第6回	イスラムとは	イスラムにとっての「財」について			
第7回	イスラム金融のスキーム1	「ムダラバ」「ムシャラカ」などについて			
第8回	イスラム金融のスキーム2	イスラム保険・投資ファンドについて			
第9回	イスラム金融の課題と展望	国際金融との関係について			
第10回	グループ討論「公平と利益分配」	「イスラム経済の特徴」を考える			
第11回	サウジアラビア	オイルマネーの国際還流について			
第12回	エジプト	肥大化した公共部門について			
第13回	ドバイ	観光・中継貿易中心の国家戦略について			
第14回	トルコ	復活するトルコ経済について			
第15回	まとめ	中東諸国の経済発展の特性について			

経済・国際

授業番号	A300220001				
科目名 (英語表記)	地理学概論 I (Introduction to Geography I)				
担当者 (英語表記)	永野 征男 (Yukio Nagano)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	大学での「地理学」の特色は、私たちの周りにみられる自然と人間との関わり学ぶことにある。つまり、人間生活にとって基本となることからの見方と考え方を、具体的な地域の実態から習得する。そこで本講義では、「異文化の理解」を中心に、世界一の多文化社会、また日本との関係も深い、アメリカ合衆国を事例として考察する。				
授業の進め方 (履修条件など)	社会系の教職課程履修者は必修である。授業では、講義内容のプリント (ノート作成を兼ねた) を毎回配布し、視聴覚教材を用いながら進める。				
成績評価方法	定期試験 (70%) に、授業中の提出物 (30%) などを加味して、総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	講義ごとに、内容に即したプリント類が配布されるので、毎時後に整理することが肝要である。				
教科書	とくに教科書は指定しない。配布物で代用する。				
参考文献	授業の中で、進度に合わせて関連する書籍を紹介をする。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義内容の概要説明	いま、なぜ異文化の理解が大切なのか			
第 2 回	多文化国家への認知度	アンケート調査を実施			
第 3 回	大国・アメリカへのアプローチ	国名・地名からみえる国家の歴史			
第 4 回	植民地社会の形成	各ヨーロッパ人の都市形成の特色			
第 5 回	国民性と教育制度	歴史にみる学校制度の変遷			
第 6 回	教育実態の日米比較	大学の誕生と大学組織の違い			
第 7 回	大学の地理教育の実態	州立ワシントン大の現状			
第 8 回	実社会に有効な高等教育	大学院に対する高い認知度			
第 9 回	アメリカ社会と MBA 資格	制度の特色と人気の低迷			
第 10 回	留学生と移民	多文化の根幹に迫る			
第 11 回	米国大学の海外進出	最盛期そして今			
第 12 回	米国大学の日本への進出	新潟県胎内市の事例			
第 13 回	少数の民族集団のとらえ方	ワスプ層との対比			
第 14 回	先住アメリカ人の苦悩	ルーツと社会的な地位			
第 15 回	多文化多民族の総括	国家と国民性			

経済・国際

授業番号	A300230001		
科目名 (英語表記)	地理学概論 II (Introduction to Geography II)		
担当者 (英語表記)	永野 征男 (Yukio Nagano)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	地理学の主要課題から「アメリカ地誌」に絞って講義をする。わが国と多方面で密接な関係にある合衆国を理解することは、改めて日本を知ることに通じる。とくに、多文化・多民族社会を特徴とするアメリカは、その民族性を学ぶことにより、この国の多くの謎も解けてくる。		
授業の進め方 (履修条件など)	教職履修者にとって本講義は必修である。毎時の講義では、関連する資料プリントをノートとしても使用する。異文化集団を扱うために、視聴覚教材を多用する。併せて「概論 I」の受講を希望したい。		
成績評価方法	定期試験 (70%) に授業中の提出課題 (30%) を加味し、総合的な評価をおこなう。		
基準			
授業の予習・復習	毎時、多くのプリント類を配布する。それらの系統的な整理が肝要である。		
教科書	とくに使用しない。配布プリント類で代用する。		
参考文献	授業の進度に合わせ、関連する図書類を紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	講義の概要説明	授業の流れと学習法	
第 2 回	国内における民族グループ	マジョリティとマイノリティ	
第 3 回	アメリカ・インディアンへの再認識	「概論 I」の補充部分	
第 4 回	移民史にみる日系アメリカ人 ①	明治期の日本の国内事情	
第 5 回	移民史にみる日系アメリカ人 ②	ハワイ王国と日本人	
第 6 回	移民史にみる日系アメリカ人 ③	アメリカ本土への流入時期	
第 7 回	移民史にみる日系アメリカ人 ④	第二次世界大戦時の苦悩	
第 8 回	旧日本人町の実態	シアトル市街地の事例	
第 9 回	急増するヒスパニック	不法流入の諸問題	
第 10 回	ユダヤ系アメリカ人の実力	政財界への影響力	
第 11 回	都市内におけるマイノリティ	ロサンゼルス暴動にみる階層闘争	
第 12 回	民族の住み分け現象	生態学的な分析結果	
第 13 回	地理的事象の具体例 ①	カリフォルニア州の農業問題	
第 14 回	地理的事象の具体例 ②	カリフォルニア州の産業実態	
第 15 回	合衆国の地理的視点	多民族社会と日本との比較	

経済・国際

授業番号	A300470001				
科目名 (英語表記)	地理歴史科指導法 (Department method of instruction of geography history)				
担当者 (英語表記)	福田 靖 (Yasushi Fukuda)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	主に高校の地歴科教員となった場合に必要とされる, 教員としての心構えを育成するとともに最重要の教育内容についての扱い方と基本知識を身につける				
授業の進め方 (履修条件など)	主として高校地歴科の日本史, 世界史, 地理の各科目を想定した内容で授業を進める。 プリントを使用した講義形式。地歴科教員となったときに不可欠な基礎的知識の習得に特に重点を置きつつ, 地歴科におけるいくつかの主要テーマについて, 授業での取り扱い方を解説する。座席は指定し, 固定する。				
成績評価方法	試験, レポート等により評価する。				
基準					
授業の予習・復習	復習: ノートの内容をプリントに整理しながら, プリントを再度読むこと。				
教科書	特になし				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	地歴科を教えるということ	学問としての地理・歴史と授業としてのそれとの違い			
第2回	講義録とプリントをどう作るか	魅力的な講義, わかりやすいプリントとは			
第3回	インパクトのある語り	生徒の印象に残る歴史叙述とは			
第4回	地理的空間認識演習 - 1	アジア地域の地図の作成演習			
第5回	学習指導要領について	学習指導要領高校地歴科の改訂点			
第6回	世界史における現代史の扱い方 その1	帝国主義と第1次世界大戦			
第7回	世界史における現代史の扱い方 その2	大戦間時代と大衆社会の出現			
第8回	世界史における現代史の扱い方 その3	世界恐慌と第二次大戦			
第9回	地理的空間認識演習 - 2	西アジア, アフリカ地域の地図の作成演習			
第10回	日本史における地域教材の扱い方 その1	荘園の発展と武士団の形成			
第11回	日本史における地域教材の扱い方 その2	千葉常胤と鎌倉幕府の成立			
第12回	地理的空間認識演習 - 3	ヨーロッパ地域の地図の作成演習			
第13回	地理で隣国中国をどう扱うか その1	中国の歩みと人びと			
第14回	地理的空間認識演習 - 4	アメリカ, オセアニア地域の地図の作成演習			
第15回	地理で隣国中国をどう扱うか その2	世界の工場としての中国			

経済・国際

授業番号	A300260001		
科目名 (英語表記)	哲学概論 I (Philosophy introduction I)		
担当者 (英語表記)	小林 秀樹 (Hideki Kobayashi)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	西洋思想の歴史的展開を追いながら、西洋哲学に関する基本的な知識や哲学的なものの見方・考え方を身につけ、哲学という営みをもつ意義について理解を深めることをねらいとする。前期は古代ギリシャの哲人に学び、各々の思索の特色や相違を理解し、要点を説明できるようになることを到達目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	哲学概論 I (前期) は教職課程の必修科目であるため、出席を特に重視する。講義を通じて、世界や人間存在に関する多様な見方・考え方があることに気づき、思惟することの楽しさが実感できるよう進めたい。		
成績評価方法	定期試験の結果 (70%)、授業態度ならびに小レポート (30%) を総合的に勘案して評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：該当する部分の教科書を読み、重要と思われる点・不明な点などに傍線を引いておくこと。 復習：講義内容について理解できなかった点を中心に調べ、講義内容の理解を深めておくこと。		
教科書	貴成人『図説・標準 哲学史』新書館		
参考文献	荻野弘之『哲学の饗宴』日本放送出版協会 今道友信『西洋哲学史』講談社学術文庫		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーションー哲学で学ぶこと	・「哲学」の語源 ・哲学はどのようなことを問題にするのか	
第 2 回	自然哲学 (1)	・古代のギリシャ世界 (歴史、民族、文化) ・イオニア学派の哲学	
第 3 回	自然哲学 (2)	・エレア学派の哲学	
第 4 回	自然哲学 (3)	・多元論者・原子論者の哲学	
第 5 回	ソフィストの登場	・ソフィスト登場の背景と意義 ・ピュシスからノモスへ	
第 6 回	ソクラテス (1)	・無知の知、問答法、魂への配慮	
第 7 回	ソクラテス (2)	・ソフィストとの相違 ・正義について (1)	
第 8 回	プラトン (1)	・イデア論	
第 9 回	プラトン (2)	・国家論 ・正義について (2)	
第 10 回	アリストテレス (1)	・イデア論批判 ・アリストテレスの形而上学	
第 11 回	アリストテレス (2)	・アリストテレスの論理学	
第 12 回	アリストテレス (3)	・アリストテレスの倫理学 ・正義について (3)	
第 13 回	ヘレニズムの思想	・ゼノン、エピクロス ・ヘレニズム	
第 14 回	ユダヤ・キリスト教思想との出会い	・西洋思想のもう一つの源流について	
第 15 回	講義のまとめ	・要点の確認、質疑応答	



経済・国際

授業番号	A300270001		
科目名 (英語表記)	哲学概論 II (Philosophy introduction II)		
担当者 (英語表記)	小林 秀樹 (Hideki Kobayashi)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	西洋思想の歴史的展開を追いながら、西洋哲学に関する基本的な知識や哲学的なものの見方・考え方を身につけ、哲学という営みをもつ意義について理解を深めることをねらいとする。後期はユダヤ・キリスト思想との葛藤を経て近代に到る西洋哲学の歩みを理解し、要点を説明できるようになることを到達目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	哲学概論 II (後期) は教職課程の必修科目であるため、出席を特に重視する。後期はユダヤ・キリスト教および主に近世以降の哲学思想を扱うが、映像資料なども用いて講義を進めたい。		
成績評価方法	定期試験の結果 (70%)、授業態度ならびに小レポート (30%) を総合的に勘案して評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：該当する部分の教科書を読み、重要と思われる点・不明な点などに傍線を引いておくこと。 復習：講義内容について理解できなかった点を中心に調べ、講義内容の理解を深めておくこと。		
教科書	貴成人『図説・標準 哲学史』新書館		
参考文献	山形孝夫『聖書物語』岩波書店 今道友信『西洋哲学史』講談社学術文庫		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション—後期で学ぶこと	・ 前期の復習	
第 2 回	ユダヤ教 (1)	・ ヘブライ民族の歴史 ・ 旧約聖書 (創世記) について	
第 3 回	ユダヤ教 (2)	・ モーセの出エジプト ・ シナイ契約	
第 4 回	キリスト教 (1)	・ キリストの生涯 (1)	
第 5 回	キリスト教 (2)	・ キリストの生涯 (2)	
第 6 回	キリスト教 (3)	・ 贖罪論、教義の確立	
第 7 回	中世の思想	・ 教父哲学 ・ スコラ哲学の概要	
第 8 回	ルネサンスの思想	・ 古典復興、人間と世界の再発見、宗教改革	
第 9 回	ベーコン	・ イドラ論、帰納法	
第 10 回	デカルト	・ 方法的懐疑 ・ 心身二元論	
第 11 回	ロック—経験論の哲学	・ イギリス経験論 ・ 社会契約論①	
第 12 回	ルソー	・ 「自然に帰れ」 ・ 社会契約論②	
第 13 回	カント (1)	・ 理性の限界、コペルニクスの転回	
第 14 回	カント (2)	・ 義務倫理学	
第 15 回	講義のまとめ	・ 要点の確認、質疑応答	

経済・国際

授業番号	A300050001		
科目名 (英語表記)	哲学入門 (Introduction to Philosophy)		
担当者 (英語表記)	壁谷 彰慶 (Akiyoshi Kabeya)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>今期は、現代の哲学者トマス・ネーゲルの『コウモリであるとはどのようなことか』の検討を中心に、常識や思い込みからいったん離れ (= 哲学的に)、きちんと (論理的に) 考える練習をします。他人の意見を吟味し、自分の意見を相手に伝えるスキルの向上が目標です。よって、毎回少しずつ意見を述べてもらう予定です。</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	<p>講義形式。毎回小テスト (短いレポート) を課します。講義で紹介した議論を自分で再構成し、各自で意見を述べてもらいます。興味深いテーマを用意するつもりなので、積極的に参加してください。</p>		
成績評価方法	各回的小テスト + 期末試験の総合点。(比率は 5 : 5 の予定)		
基準			
授業の予習・復習	<p>予習：シラバスの授業項目と前回の講義内容に関して、身近な場面にあてはめて考えてみる。  復習：授業の内容を思い出しながら、疑問や意見を書き出す (授業内課題で報告)。</p>		
教科書	資料は授業内で配布します。		
参考文献	トマス・ネーゲル、『コウモリであるとはどのようなことか』, 頸草書房, 1989年。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	イントロダクション	講義の概要、受講方法、成績評価	
第 2 回	コウモリであるとはどのようなことか (1)	第 12 章の概説 (テーマ: 心と脳、他者の経験)	
第 3 回	コウモリであるとはどのようなことか (2)	第 12 章の検討 (テーマ: 心と脳、他者の経験)	
第 4 回	道徳における運について (1)	第 3 章の概説 (テーマ: 運、責任、後悔など)	
第 5 回	道徳における運について (2)	第 3 章の検討 (テーマ: 運、責任、後悔など)	
第 6 回	死と人生について (1)	第 1 章・第 2 章の概説 (テーマ: 生と死)	
第 7 回	死と人生について (2)	第 1 章・第 2 章の検討 (テーマ: 生と死)	
第 8 回	戦争と大量虐殺 (1)	第 5 章の概説 (テーマ: 功利主義と絶対主義、有害行為の正当性など)	
第 9 回	戦争と大量虐殺 (2)	第 5 章の検討 (テーマ: 功利主義と絶対主義、有害行為の正当性など)	
第 10 回	平等について (1)	第 8 章の概説 (テーマ: 政策、平等、権利など)	
第 11 回	平等について (2)	第 8 章の検討 (テーマ: 政策、平等、権利など)	
第 12 回	価値の分裂 (1)	第 9 章の概説 (テーマ: 葛藤、合理性、意志決定など)	
第 13 回	価値の分裂 (2)	第 9 章の検討 (テーマ: 葛藤、合理性、意志決定など)	
第 14 回	主観的と客観的 (1)	第 14 章の概説 (テーマ: 主観と客観、帰結主義と個人)	
第 15 回	主観的と客観的 (2) / まとめ	第 14 章の検討 (テーマ: 主観と客観、帰結主義と個人) / まとめ	

経済・国際

授業番号	A300510001				
科目名 (英語表記)	道徳教育研究 (Moral education research)			(A)	
担当者 (英語表記)	中山 幸夫 (Yukio Nakayama)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	今日のわが国社会の現状を視野に取めながら、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育のあり方を検討する。道徳および道徳教育の本質について学ぶことを通して、学生諸君が人間としてのより善い生き方、あり方に関心を深めることを目標としたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業内容に即した講義要項を配付し、それをもとに授業を進めていく。「道徳」授業の実際については具体的な資料 (副読本) や実践例について検討を加える。ほぼ毎回、課題レポートの提出を求めるので、息の長い取り組みが求められる。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・課題レポート (30%)・授業参加態度 (20%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：課題レポートの作成。 復習：課題レポートの再検討				
教科書	平野智美監修 中山幸夫・田中正浩編 『新たな時代の道徳教育』 八千代出版 文部科学省 『小学校/学習指導要領解説 道徳編』 東洋館出版 文部科学省 『中学校/学習指導要領解説 道徳編』 日本文教出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	道徳教育の体験、道徳教育の意義と課題 (総論)			
第2回	わが国における道徳教育の歩み	戦前の道徳教育			
第3回	わが国における道徳教育の歩み	戦後の道徳教育			
第4回	道徳教育の思想と理論	道徳教育の思想			
第5回	道徳教育の思想と理論	道徳性の発達理論			
第6回	家庭、学校、地域社会の連携	家庭における道徳教育			
第7回	家庭、学校、地域社会の連携	地域社会における道徳教育			
第8回	学校の教育活動と道徳教育	教科指導と道徳教育			
第9回	学校の教育活動と道徳教育	特別活動と道徳教育			
第10回	学校の教育活動と道徳教育	総合的な学習の時間と道徳教育			
第11回	「道徳」授業のあり方	学習指導要領における「道徳」の時間			
第12回	「道徳」授業のあり方	「道徳」授業の現実			
第13回	「道徳」授業のあり方	「道徳」授業の課題			
第14回	「道徳」授業のあり方	「道徳」授業の改善			
第15回	総括	道徳的実践力の育成はいかにして可能となり得るか			

経済・国際

授業番号	A300510002				
科目名 (英語表記)	道徳教育研究 (Moral education research)			(B)	
担当者 (英語表記)	中山 幸夫 (Yukio Nakayama)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	今日のわが国社会の現状を視野に取めながら、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育のあり方を検討する。道徳および道徳教育の本質について学ぶことを通して、学生諸君が人間としてのより善い生き方、あり方に関心を深めることを目標とした。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業内容に即した講義要項を配付し、それをもとに授業を進めていく。「道徳」授業の実際については具体的な資料 (副読本) や実践例について検討を加える。ほぼ毎回、課題レポートの提出を求めるので、息の長い取り組みが求められる。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・課題レポート (30%)・授業参加態度 (20%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：課題レポートの作成。 復習：課題レポートの再検討				
教科書	平野智美監修 中山幸夫・田中正浩編 『新たな時代の道徳教育』 八千代出版 文部科学省 『小学校/学習指導要領解説 道徳編』 東洋館出版 文部科学省 『中学校/学習指導要領解説 道徳編』 日本文教出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	道徳教育の体験、道徳教育の意義と課題 (総論)			
第 2 回	わが国における道徳教育の歩み	戦前の道徳教育			
第 3 回	わが国における道徳教育の歩み	戦後の道徳教育			
第 4 回	道徳教育の思想と理論	道徳教育の思想			
第 5 回	道徳教育の思想と理論	道徳性の発達理論			
第 6 回	家庭、学校、地域社会の連携	家庭における道徳教育			
第 7 回	家庭、学校、地域社会の連携	地域社会における道徳教育			
第 8 回	学校の教育活動と道徳教育	教科指導と道徳教育			
第 9 回	学校の教育活動と道徳教育	特別活動と道徳教育			
第 10 回	学校の教育活動と道徳教育	総合的な学習の時間と道徳教育			
第 11 回	「道徳」授業のあり方	学習指導要領における「道徳」の時間			
第 12 回	「道徳」授業のあり方	「道徳」授業の現実			
第 13 回	「道徳」授業のあり方	「道徳」授業の課題			
第 14 回	「道徳」授業のあり方	「道徳」授業の改善			
第 15 回	総括	道徳実践力の育成はいかにして可能となり得るか			

## 経済・国際

授業番号	A300520001				
科目名（英語表記）	特別活動指導法（Extracurricular-activities method of instruction）				
担当者（英語表記）	池谷 美佐子（Misako Ikeya）	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校の特別活動の目標と内容について理解し、実践に生かしていくことのできる市道力を養うことを目指します。				
授業の進め方（履修条件など）	小学校学習指導要領を参考にしながら、特別活動の目標やそれぞれの内容の特性について具体的な活動も取り入れながら理解を深めます。主体的な参加態度が必要です。				
成績評価方法	授業への参加態度 毎時間のリアクションペーパーの内容 期末試験				
基準					
授業の予習・復習	予習 次の授業内容について教科書を通読し、関連する体験や事例を整理しておく。 復習 理論と実践の関係性を整理しておく。				
教科書	こども学科：小学校学習指導要領解説 特別活動編（文部科学省） 国際学科、経済学部：中学校学習指導要領解説 特別活動編（文部科学省） ※こども学科で中学校教諭免許の取得も希望する者は中学校学習指導要領解説もあわせて購入するのが望ましい。				
参考文献	必要に応じて紹介します				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス 特別活動の変遷について	授業の進め方についての説明と特別活動の変遷についての解説			
第2回	特別活動の目標	特別活動の目標についての理解と他教科との関連性について			
第3回	特別活動の教育的意義	望ましい集団活動とは何か、自己の生き方とは何かについて考える。			
第4回	学級活動（1）	学級活動とは何かについて理解する。			
第5回	学級活動（2）	学級や学校の望ましい集団の作り方について理解する。			
第6回	学級活動（3）	学級づくりの実際例（係活動）を学ぶ。			
第7回	学級活動（4）	「適応と成長及び健康・安全」「学業と進路」について考える。			
第8回	児童会活動	児童会活動とは何かについて考える。			
第9回	クラブ活動	クラブ活動とは何かについて考える。			
第10回	学校行事（1）	各種行事の内容の特性について解説。			
第11回	学校行事（2）	儀式的行事・文化的行事の指導法について考える。			
第12回	学校行事（3）	体育・宿泊を伴う行事の指導法について考える。			
第13回	特別活動の指導法（1）	特別活動年間計画についての説明と実践例			
第14回	特別活動の指導法（2）	特別活動の指導計画の作成について			
第15回	特別活動の評価	特別活動の評価とその活用について			

## 経済・国際

授業番号	A300180001		
科目名 (英語表記)	日本史概論 I (Japanese history introduction I)		
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、教員として歴史の授業が担当できるようになるために、古代・中世の基礎的な知識と指導法を身に付けることをねらいとする。各単元の基礎的な歴史用語や、歴史の流れを理解すること、そしてそれを授業で教える工夫ができるようになることを目標としている。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、最初に小テストを実施。その後、各単元をまとめたプリントに基づき、歴史の流れを解説する。またその際に、指導上の留意点なども解説する予定である。学習した単元については、指導案と板書ノートを作成すること。		
成績評価方法	定期試験 (50%)、小テスト (25%)、指導案・板書ノート (25%)		
基準			
授業の予習・復習	" 予習：高校時代の教科書・史料集などを読んでおくこと 復習：小テストに備えて歴史用語の暗記、指導案・板書ノートの作成 "		
教科書	『詳説日本史図録』(山川出版)		
参考文献	『日本史用語集』(山川出版)		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、指導案の書き方	
第 2 回	第 1 講 日本文化の黎明	旧石器時代～弥生時代	
第 3 回	第 2 講 古代国家の成立	ヤマト政権	
第 4 回	第 3 講 古代国家の確立	推古朝の政治～持統朝の政治	
第 5 回	第 4 講 律令国家 (1)	律令制度	
第 6 回	第 5 講 律令国家 (2)	奈良時代	
第 7 回	第 6 講 王朝国家 (1)	律令国家の再建、摂関政治	
第 8 回	第 7 講 王朝国家 (2)	荘園制、武士の成長、院政	
第 9 回	第 8 講 古代の文化	飛鳥文化、白鳳文化、天平文化、弘仁貞観文化、国風文化、院政期文化	
第 10 回	第 9 講 武家政権の成立	鎌倉幕府の成立、執権政治	
第 11 回	第 10 講 武家社会の成長	鎌倉時代の社会経済、元寇、幕府の衰退	
第 12 回	第 1 1 講 武家社会の発展	建武の新政と南北朝の動乱、室町幕府と守護大名	
第 13 回	第 12 講 武家社会の変質 (1)	東アジア諸国との通交関係、惣村と土一揆	
第 14 回	第 13 講 武家社会の変質 (2)	戦国大名、国一揆・一向一揆	
第 15 回	第 14 講 中世の文化	鎌倉文化、北山文化、東山文化、戦国期文化	

経済・国際

授業番号	A300190001				
科目名 (英語表記)	日本史概論 II (Japanese history introduction II)				
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、教員として歴史の授業が担当できるようにするために、近世・近代の基礎的な知識と指導法を身に付けることをねらいとする。各単元の基礎的な歴史用語や、歴史の流れを理解すること、そしてそれを授業で教える時の工夫などを考えることができるようになることを目標としている。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、最初に小テストを実施。その後、各単元をまとめたプリントに基づき、歴史の流れを解説する。またその際に、指導上の留意点なども解説する予定である。学習した単元については、指導案と板書ノートを作成すること。				
成績評価方法	定期試験 (50%)、小テスト (25%)、指導案・板書ノート (25%)				
基準					
授業の予習・復習	" 予習：高校時代の教科書・史料集などを読んでおくこと 復習：小テストに備えて歴史用語の暗記、指導案・板書ノートの作成 "				
教科書	『詳説日本史図録』(山川出版)				
参考文献	『日本史用語集』(山川出版)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	第 15 講 近世社会の成立	ヨーロッパ人の来航、織豊政権			
第 2 回	第 16 講 幕藩体制の成立	江戸幕府の成立、鎖国			
第 3 回	第 17 講 幕藩体制の確立	文治政治、産業の発展			
第 4 回	第 18 講 幕藩体制の動揺	三大改革、欧米の接近			
第 5 回	第 19 講 近世の文化	安土桃山文化、寛永文化、元禄文化、化政文化			
第 6 回	第 20 講 幕藩体制の崩壊	開国、幕末の政局			
第 7 回	第 21 講 近代国家の形成	明治維新、初期外交、富国強兵・殖産興業			
第 8 回	第 22 講 近代国家の確立	自由民権運動、憲法制定			
第 9 回	第 23 講 立憲国家の展開	政党と藩閥、日清戦争			
第 10 回	第 24 講 大日本帝国の成立	日露戦争、日本資本主義の確立			
第 11 回	第 25 講 第 1 次世界大戦と日本	大正政変、護憲体制			
第 12 回	第 26 講 ワシントン体制と日本	ワシントン会議、大正デモクラシー			
第 13 回	第 27 講 大日本帝国の崩壊	満州事変、日中戦争、太平洋戦争			
第 14 回	第 28 講 戦後の日本	戦後改革、経済復興			
第 15 回	第 29 講 近代の文化	明治・大正・昭和の文化			

経済・国際

授業番号	A300250001				
科目名 (英語表記)	日本地誌 (Japanese Topography)				
担当者 (英語表記)	戸田 真夏 (Manatsu Toda)	対象学年	2 (経済学部のみ1年)	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本の人々が生活する地域・風土・環境の基本的な地理的特徴について学びます。各地域に広がる景観について講義し、地域にある特徴の見方・捉え方を学びます。対象として日本を取り扱うが、環境と人間活動の関わりについて理解するとともに、世界と日本の地理的関わり・位置づけについても理解することを目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	PowerPoint (パワーポイント) を使用して講義を行います。				
成績評価方法	レポートで評価を行いますが、出席および授業の取り組みも重視します。				
基準					
授業の予習・復習	普段から日本の各地域について関心を持ち、新聞・インターネット・テレビ等から様々な地域情報を得ることを心掛けること。				
教科書	教科書は特に指定しませんが、地図帳を持参して下さい。				
参考文献	必要に応じて、授業内に適宜紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	はじめに	講義予定内容の紹介と地理学、地誌学の説明			
第2回	日本の領土・領域	日本の地域区分について			
第3回	日本の風土と環境	湿潤変動帯			
第4回	日本の自然観	日本人と自然環境について			
第5回	日本の自然と人間活動	日本の自然と人々の関わり合いについて			
第6回	平野・台地の人々の生活	平野・台地の地形と土地利用について			
第7回	山地の人々の生活	中央高地の地形と生活			
第8回	川・海の水と産業	三陸の自然環境と生活			
第9回	都市の人間活動	都市部の生活			
第10回	地域の環境と開発	秘境黒部 観光ルートと電源開発			
第11回	地域と産業	水をめぐる産業立地			
第12回	地域と観光	観光地の明と暗			
第13回	風土と食	名物にうまいもの・・・			
第14回	交通	機上から見た日本			
第15回	房総の地方誌	地質と水と生活			



経済・国際

授業番号	A300060001				
科目名 (英語表記)	日本の文学 (Japanese Literature)				
担当者 (英語表記)	畑中 千晶 (Chiaki Hatanaka)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	人の「心の闇」を浮き彫りにしていく西鶴の短編小説を読みます。自分なりの視点で作品の謎に迫ることができるようになること、これが到達目標です。文学を学ぶということは、文学史を暗記することでも、有名な学説を覚えて唱えることでもありません。自分の力で作品に向き合い、「読む」力を鍛えることなのです。				
授業の進め方 (履修条件など)	300年以上も前に書かれた日本語を読みます。つまり「古文」。しかし、恐れる必要はありません。やさしい現代語訳付きのテキストを用います。留学生は、日本語能力試験 N1 (1 級) 程度の日本語力を持つほうが望ましいでしょう。				
成績評価方法	クラスで指示した課題への取り組み (50%)、期末試験 (50%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：テキストに目を通して流れを理解しておく。特に留学生の場合は予習が必須です。 復習：クラスで出題されたタスクに取り組み、次回のクラスで提出する。				
教科書	西鶴研究会編 (2004)『西鶴が語る江戸のミステリー』ペリかん社				
参考文献	江本裕 / 谷脇理史編 (1996)『西鶴事典』おうふう 乾克己 / 小池正胤 / 志村有弘 / 高橋貢 / 鳥越文蔵編 (1986)『日本伝奇伝説大事典』角川書店				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方、「読む」ということ			
第 2 回	読み始める前に	江戸時代について			
第 3 回	読み始める前に	西鶴について (映像資料を含む)			
第 4 回	「一生にただ一人の男」	内容読解			
第 5 回	「一生にただ一人の男」	空白 (抜けている情報) を読む			
第 6 回	「殺されたふたりの女商人」	内容読解			
第 7 回	「殺されたふたりの女商人」	ファンタジーの構造、本当は怖い後日譚			
第 8 回	「瓜ふたつの謀略」	内容読解			
第 9 回	「瓜ふたつの謀略」	心の謎を読む			
第 10 回	「口は禍の門」	内容読解			
第 11 回	「口は禍の門」	謎絵が語っているものは			
第 12 回	「逃げても追いかける怨霊」	内容読解			
第 13 回	「逃げても追いかける怨霊」	容姿の美醜という裏テーマ			
第 14 回	発展項目	江戸の人々と怪異			
第 15 回	発展項目	江戸の人々と芝居			

経済・国際

授業番号	A300400001		
科目名 (英語表記)	発達心理学 (Developmental psychology)	経済・国際・こども (中高免許取得者用)	
担当者 (英語表記)	藤井 輝男 (Teruo Fujii)	対象学年	1 (国際学 科のみ2) 単位数 2
授業のねらいと 到達目標	児童・生徒の発達過程に関する心理学的知見を修得し、教育場面で役立てられることを目的とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式で進めるが、配付資料を利用して学生諸君の発言を求めたり、課題提出を求めたりする。必要に応じてビデオ等を利用する。		
成績評価方法 基準	定期試験 (80%)・レポート及びその他の課題 (20%)		
授業の予習・復習	授業内容をその都度、整理し、理解しておくこと。		
教科書	教科書は使用しない。		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて説明する。	
第2回	成熟と学習	発達における成熟と学習の関連について	
第3回	本能的行動	「インプティング」を例に、本能と学習を考える	
第4回	遺伝と環境	遺伝と環境の相互作用について	
第5回	胎児、新生児期	胎児、新生児期の特徴について	
第6回	幼児期	幼児期の特徴について	
第7回	児童期	児童期の特徴について	
第8回	青年期	青年期の特徴について	
第9回	発達理論 (1)	ピアジェの発達理論について	
第10回	発達理論 (2)	エリクソンの発達理論	
第11回	発達理論 (3)	その他の発達理論	
第12回	発達障害 (1)	LD、ADHD、広汎性発達障害について	
第13回	発達障害 (2)	事例紹介 その1	
第14回	発達障害 (3)	事例紹介 その2	
第15回	まとめ	まとめと質問	

経済・国際

授業番号	A300400003				
科目名 (英語表記)	発達心理学 (Developmental psychology)			小免のみ希望者専用	
担当者 (英語表記)	田中 未央 (Mio Tanaka)	対象学年	1 (国際学 科のみ 2)	単位数	2
授業のねらいと 到達目標	①教育場で活用できる発達心理学の知見 (知的発達・言語発達・社会性の発達) の習得を目指す。 ②発達障がいに関する知見と事例を紹介し、発達障がいを持つ児童に対する理解を深める。				
授業の進め方 (履修条件など)	①原則として講義形式で授業を進めるが、授業内で簡単な実習やグループワークを求める場合がある。 ②必要に応じてビデオなどの映像資料も使用する。 ③実習やグループワークを行った際にはリアクションペーパーの提出を求める。 ④全 15 回の授業内で 3 回の小テストを実施する。				
成績評価方法	学期末試験・授業内小テスト・リアクションペーパーを成績評価の対象とする。				
基準	評価基準は学期末試験 (70%)・授業内小テスト (20%)・リアクションペーパー (10%) である。				
授業の予習・復習	予習: テキストの該当する箇所を読む。 復習: 授業の内容を整理し、授業内容に関連する文献を読む。				
教科書	「新 発達と教育の心理学」 藤田圭一他 福村出版				
参考文献	子どもの「10歳の壁」とは何か? 乗り越えるための発達心理学 (光文社新書) / 発達障害に気づかない大人たち (祥伝社新書)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要, 授業の進め方, 評価方法, 受講マナーについて			
第 2 回	発達とは何か?	発達と成熟、発達に影響する要因 (遺伝か環境か)			
第 3 回	子どもの言語発達①	言語獲得の準備段階について (発話? 喃語の発生)			
第 4 回	子どもの言語発達②	ことばの獲得 (初語・一語文・二語文・語彙爆発)			
第 5 回	子どもの知的発達①	思考の発達 (ピアジェの知的発達段階)			
第 6 回	子どもの知的発達②	表象の獲得・心の理論			
第 7 回	子どもの知的発達③	知能について			
第 8 回	子どもの社会性の発達①	愛着の形成・遊びの発達			
第 9 回	子どもの社会性の発達②	環境移行・小1プロブレム			
第 10 回	子どもの社会性の発達③	友人関係の形成と変化・ギャングエイジ			
第 11 回	子どもの社会性の発達④	道徳性の発達			
第 12 回	発達障害について①	学習障害 (LD)・知的障害			
第 13 回	発達障害について②	広汎性発達障害			
第 14 回	発達障害について③	発達障害のアセスメント			
第 15 回	まとめ	第 2 回～第 14 回で扱ったテーマのレビュー, 質問への対応			

経済・国際

授業番号	A300070001		
科目名 (英語表記)	比較文学 (Comparative Literature)		
担当者 (英語表記)	畑中 千晶 (Chiaki Hatanaka)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この講義では、比較文学の方法論を用いて、①日本の作家が英米文化をどのように理解し受容したのか、②来日外国人が日本文化をどのように理解し受容したのか、この両面から検討を行います。 異文化接触が人の精神・考えにどのような影響を及ぼすのか、具体的な材料に基づいて語れるようになることが到達目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	「比較文学」という学問の性質上、講義で用いる日本語レベルは高度なものとなります。留学生の場合には、日本語能力試験 N1 (1 級) 取得者であるか、もしくはそれに相当する日本語理解力が必要です。		
成績評価方法	クラスで指示した課題への取り組み (50%)、期末試験 (50%)		
基準			
授業の予習・復習	予習：配布資料に目を通す。 復習：指定の形式でノートを整理し、学習内容について再考する時間を持つ。		
教科書	配付資料を用いる。		
参考文献	秋山正幸 / 榎本義子編 (2005) 『比較文学の世界』 南雲堂		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方、ノートの取り方など	
第 2 回	総論 1	比較文学とは	
第 3 回	総論 2	影響研究と対比研究	
第 4 回	総論 3	多様なメディア間での受容と変容	
第 5 回	総論 4	対比研究の具体例	
第 6 回	夏目漱石におけるイギリス 1	略年譜、留学時代について	
第 7 回	夏目漱石におけるイギリス 2	『カーライル博物館』の読解と分析	
第 8 回	夏目漱石におけるイギリス 3	『倫敦塔』の分析、印象派の絵画との対比	
第 9 回	有島武郎におけるアメリカ 1	略年譜、父の存在、キリスト教との出会い	
第 10 回	有島武郎におけるアメリカ 2	留学時代、ホイットマン	
第 11 回	有島武郎におけるアメリカ 3	『或る女』『カインの末裔』のあらすじ、分析	
第 12 回	ラフカディオ・ハーンの日本 1	略年譜、文化的混淆、マイノリティの自覚	
第 13 回	ラフカディオ・ハーンの日本 2	『怪談』『耳なし芳一』『雪女』(映像視聴・原文読解)	
第 14 回	ラフカディオ・ハーンの日本 3	新たに植え直された伝説	
第 15 回	まとめ	学習内容の整理、補足項目等	

経済・国際

授業番号	A300020001		
科目名 (英語表記)	フランス語 I (French I)	(A) 経済学部のみ	
担当者 (英語表記)	寺尾 いつみ (Izumi Terao)	対象学年	1 単位数 1
授業のねらいと到達目標	誰にも多少なじみがあるが、とっつきにくいイメージもあるフランス語の学習を通じて、文化の多様性を実感する機会を提供したい。この授業では、フランス語の音とリズムに慣れ、文法の特徴を理解することを目指す。前期は簡単な自己紹介、物についての応答、好みについての応答ができるようにする。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書の会話を聞き、繰り返して覚える。単語を入れ替えて語彙・文法を定着させる。教師と、あるいは学生どうしでやりとりを練習し、流暢さを身に着ける。		
成績評価方法	授業内小テスト7回 (35%)、オーラルテスト3回 (15%)、定期試験 (50%) の合計点で評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：学習する課の会話を CD や podcast で聞いてシャドーイングする。 復習：学習した課の単語を対応アプリで学習する。		
教科書	『話してみようフランス語—Oui ;-)』 大久保政憲著、朝日出版社、2011年、2415円		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第1回	フランス語とは？	フランス語の音とリズムの特徴に触れる。数字 1～12 を言う。	
第2回	第1課「挨拶、自己紹介」	挨拶・自己紹介の表現を覚える。アルファベットの読み方を学ぶ。	
第3回	同上	動詞 ? t re の活用、国籍を表す形容詞を覚える。	
第4回	同上	国籍の尋ね方・答え方を覚える。	
第5回	第2課「～があります」	名詞の性・数に応じた「これは～です」の文を使い分けを学ぶ。	
第6回	同上	不定冠詞・定冠詞を覚える。	
第7回	同上	提示表現を覚える。	
第8回	第3課「～を持っている」	家族について話す。数字 13～30 を覚える。	
第9回	同上	動詞 avoir の活用を覚える。否定文のしくみを学ぶ。	
第10回	同上	疑問文、応答文のしくみを学ぶ。	
第11回	第4課「好みを言う」	好きなもの・ことについて話す。	
第12回	同上	第一群規則動詞の活用パターンを覚える。	
第13回	同上	動詞 prendre の活用、部分冠詞を覚える。	
第14回	同上	中性代名詞 en の使い方を学ぶ。	
第15回	まとめ	前期の学習内容を概観し復習する。	

経済・国際

授業番号	A300020002		
科目名 (英語表記)	フランス語 I (French I)		
担当者 (英語表記)	浅野 信二 (Shinji Asano)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	はじめてフランス語を学ぶ人が、日常よく使う簡単な会話表現を中心に、「聞く」「話す」「読む」「書く」能力をバランスよく総合的に習得することを目指す。同時にフランス文化について基本的な知識を学ぶ。		
授業の進め方 (履修条件など)	AV 教材を活用し、繰り返し「読む練習」「書く練習」を行う。また、教科書などの練習問題を解くことで、基礎文法と語彙力をつけていく。毎回の積み重ねを前提に授業を進めていくので、できるだけ欠席しないこと。		
成績評価方法	定期試験 50%・授業中に行う小テスト 30%・授業参加態度 20%		
基準			
授業の予習・復習	短い文章の書きとりを毎回授業の冒頭で行うので、よく練習しておくこと。		
教科書	藤田裕二『パリのクール・ジャパン』(朝日出版社)		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明・アルファベットの発音	
第 2 回	Le?on1(1)	主語人称代名詞	
第 3 回	Le?on1 (2)	国籍を言う (国籍を表す名詞)	
第 4 回	Le?on2 (1)	自己紹介をする	
第 5 回	Le?on2 (2)	規則動詞の活用	
第 6 回	Le?on3 (1)	名詞の性・数と定冠詞	
第 7 回	Le?on3 (2)	疑問文	
第 8 回	Le?on4 (1)	疑問代名詞 que	
第 9 回	Le?on4 (2)	不定冠詞と指示代名詞	
第 10 回	Le?on5 (1)	否定文	
第 11 回	Le?on5 (2)	疑問副詞 他	
第 12 回	Le?on6(1)	avoir の活用	
第 13 回	Le?on6 (2)	職業を表す名詞	
第 14 回	Le?on7 (1)	部分冠詞・冠詞のまとめ	
第 15 回	Le?on7 (2)	定冠詞の縮約	

経済・国際

授業番号	A300030001		
科目名 (英語表記)	フランス語 II (French I I)	(A) 経済学部のみ	
担当者 (英語表記)	寺尾 いつみ (Izumi Terao)	対象学年	1 単位数 1
授業のねらいと到達目標	前期の学習を踏まえ、フランス語を話すことに慣れ、より細かい情報を理解できるようになることを目指す。買い物をしたり、行動を説明する場面で、適切なやりとりができるようにする。 前期にフランス語 I A を履修した学生を対象とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書の会話文を聞き、繰り返して覚える。単語を入れ替えて語彙・文法を定着させる。教師と、あるいは学生どうしでやりとりを練習し、流暢さを身に着ける。		
成績評価方法	授業内小テスト 5 回 (25%)、オーラルテスト 5 回 (25%)、定期試験 (50%) の合計点で評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：学習する課の会話を CD や podcast で聞いてシャドーイングする。 復習：学習した課の単語を対応アプリで学習する。		
教科書	フランス語 I A と同じ。この教科書は来年度フランス語Ⅲ、Ⅳでも引き続き使います。		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	復習	前期の学習内容を復習し、不十分なところがあれば補う。	
第 2 回	第 5 課「どんな物？」	買い物で使う表現を学ぶ。	
第 3 回	同上	動詞 vouloir の活用を覚える。形容詞の位置と性数について学ぶ。	
第 4 回	同上	指示形容詞、疑問形容詞を覚える。	
第 5 回	同上	所有形容詞のしくみを学ぶ。	
第 6 回	第 6 課「～へ行く、～から来る」	どこから来てどこへ行くか言う。定冠詞の縮約について学ぶ。	
第 7 回	同上	動詞 aller の活用を覚える。疑問副詞「どこ (へ)」、「～国へ」を含む応答を学ぶ。	
第 8 回	同上	動詞 venir の活用を覚える。疑問副詞「どこから」、「～国から」を含む応答を学ぶ。	
第 9 回	同上	疑問副詞「どのように」「なぜ」、交通手段の言い方を学ぶ。	
第 10 回	同上	動詞 pouvoir の活用を覚える。	
第 11 回	第 7 課「いつ? 何時に？」	時刻について話す。	
第 12 回	同上	強勢形人称代名詞を覚える。	
第 13 回	同上	疑問副詞「いつ」、週・月・季節の表現を学ぶ。	
第 14 回	同上	疑問副詞「いくつ/いくら」を含む表現を学ぶ。	
第 15 回	まとめ	後期の学習内容を概観し復習する。	

経済・国際

授業番号	A300030002				
科目名 (英語表記)	フランス語 II (French I I)				
担当者 (英語表記)	浅野 信二 (Shinji Asano)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	前期に続いて、日常よく使う簡単な会話表現を中心に、フランス語の「聞く」「話す」「読む」「書く」能力をバランスよく総合的に習得することを目指す。同時にフランス文化について基本的な知識を学ぶ。				
授業の進め方 (履修条件など)	AV 教材を活用し、繰り返し「読む練習」「書く練習」を行う。また、教科書などの練習問題を解くことで、基礎文法と語彙力をつけていく。毎回の積み重ねを前提に授業を進めていくので、できるだけ欠席しないこと。				
成績評価方法	定期試験 50%・授業中に行う小テスト 30%・授業参加態度 20%				
基準					
授業の予習・復習	短い文章の書きとりを毎回授業の冒頭で行うので、よく練習しておくこと。				
教科書	藤田裕二『パリのクール・ジャパン』(朝日出版社)				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明・前期の復習			
第 2 回	Le?on8 (1)	所有形容詞			
第 3 回	Le?on8 (2)	人称代名詞の強勢形			
第 4 回	Le?on9 (1)	指示形容詞・指示代名詞			
第 5 回	Le?on9 (2)	形容詞の比較級			
第 6 回	Le?on10 (1)	命令形			
第 7 回	Le?on10 (2)	補語人称代名詞			
第 8 回	Le?on11 (1)	代名動詞			
第 9 回	Le?on11 (2)	非人称構文			
第 10 回	Le?on12 (1)	疑問代名詞 qui			
第 11 回	Le?on12 (2)	複合過去 (1)			
第 12 回	Le?on13 (1)	複合過去 (2)			
第 13 回	Le?on13 (2)	疑問副詞			
第 14 回	Le?on14 (1)	単純未来			
第 15 回	Le?on14 (2)	近接未来			



経済・国際

授業番号	A300370001		
科目名 (英語表記)	ベンチャービジネス論 (Venture business theory)		
担当者 (英語表記)	川西 正己 (Masami Kawanishi)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	昨今では、企業全体の7割が赤字経営であり、しかも、勝ち組といわれる企業は、全体の1割程度という厳しい市場環境・経営環境にある。新規創業にあっても、創業後3年以内には半数が消滅し、10年後には2割程度しか存続していないという「多産多死」の状況にある。そのような前提に立って、学生自身が起業する、あるいは会社内にて新規事業を立ち上げる(社内ベンチャー)という場合において、勝ち残れるだけの「力相応に勝てる場と勝ち残れる条件」を備えた経営法について学ぶ。		
授業の進め方(履修条件など)	「大きな会社」と「小さな会社」の経営法はまるで別物であるということを確認しながら、起業の準備段階から「事業計画書」(マーケティングプラン、マネジメントプラン)の作成までを、段階的かつ具体的に授業を進める。		
成績評価方法	ケース・スタディによる定期試験の結果および授業態度を勘定し評価する。		
基準			
授業の予習・復習	「復習」は授業内容を復習して理解することをもって足りる。		
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。		
参考文献	必要に応じて参考文献・関連資料のコピーを配布する。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	経営の現場からの視点とメッセージ	「2極化の傾向」にあるデフレ不況化の経営。後世の「1番企業」は不況期に創業しているという現実注目。	
第2回	「儲かる業種」と「儲かる人間」とは	この世に「儲かる業種」、「損する業種」のパターンはないが「儲かる人間」、「損する人間」のパターンはあるようだ。	
第3回	「商い」とは	「自分よし、相手よし、世間よし」という「三方良しの経営」こそが本物の経営法。	
第4回	経営の基本は「不易流行」にあり	「創業の志」を踏まえて、「時流に適應すること」および「経営の原理・原則を踏まえること」の2つの条件を同時に満たすこと。	
第5回	消費者は商品を通じて「経営理念」を見抜く	企業も団体も人間も「必要な者は、この世に存在しえない」という。逆に、「必要あるところビジネスチャンスあり」ともいう。	
第6回	生き残る者は「時流」に適應しえた者①	消費者が「何を基準にして商品やサービスを選択するか」は時代によって移り変わる。	
第7回	生き残る者は「時流」に適應しえた者②	質の良い「下限商品・サービス」は消費者に強いインパクトを与える。安さは品質・サービスの劣化の言い訳にならない。	
第8回	生き残る者は「時流」に適應しえた者③	「世のため、人のため、自分のため」というソーシャルビジネスが注目されている。	
第9回	「経営の原理・原則」①	中小企業の経営戦略では「1点突破全面展開法」(小さくても何かで1番のものを持つこと)が原則。	
第10回	「経営の原理・原則」②	小さくても1番になるための視点は、頭文字をとって「ODSR」の4点が切り口となる。	
第11回	「経営の原理・原則」③	小さくても何かで1番をつくるための「地域1番商品戦略化」を目指すための絞込みの方法とは。	
第12回	商品開発のアイデア発想法	既存マーケットの中から差別化を図るアイデア発想法。既存の要素を合体させるアイデア発想法。	
第13回	事業スタイルと狙うマーケット	ニッチ市場でのトップを目指すという「ニッチトップ戦略」が中小企業の基本戦略(鶏口牛後の戦略発想)。	
第14回	起業・新事業を成功させるには	起業・新事業は「小さく産んで、大きく育てる」のが原則。事業を起こす3つの相性判断とは。	
第15回	「事業計画書」のつくり方	「マーケティングプラン」および「マネジメントプラン」のそれぞれのプランを作成するに当たっての主な留意点について。	

# 経済・国際

授業番号	A300090001		
科目名 (英語表記)	法学入門 (General Law)		
担当者 (英語表記)	寛正 豊和 (Toyokazu Kakusho)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	「社会あるところに法あり」の法格言に示されるがごとく、社会には無数の法が存在します。本講義は、社会生活に必然する法を理解するために必要な基本原理・原則・基礎理論をととして法学への導入とし、次に社会生活における法的思考方法、法律的名ものの考え方 (legal mind) を具体的事例、判例などによって理解することを目的とします。それは、今日、とくとくと流れる国際化のなかで言語習慣、考え方の相違する人達が共存していくために必要不可欠な学習に他なりません。		
授業の進め方 (履修条件など)	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開します。		
成績評価方法	平常点 (授業内に適応おこなうリアクションペーパー等や、任意課題レポート 30%・定期試験 70%で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	教科書等を読み、よくできない点を把握し、確認しましょう。		
教科書	斎藤静敬・寛正豊和 共著『法学・憲法』八千代出版		
参考文献	『六法』(岩波) (三省堂) (有斐閣) などを持参するとよいでしょう。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	導入	受講のガイダンス	
第 2 回	法の概念	法とはなにか	
第 3 回	法と法則、法と道徳	法と法則の相違、法と道徳の相異、法と道徳の関係	
第 4 回	法の構造	規範構造からみた法と道徳の相異	
第 5 回	法の目的 1	正義、法的安定性	
第 6 回	法の目的 2	具体的事例の検討、比較法的考察	
第 7 回	法源論	法の発現形式、法の存在形式	
第 8 回	成文法	成文法とは	
第 9 回	不文法	不文法 (慣習法、判例法) とは	
第 10 回	法の分類	法二分説、法三分説など	
第 11 回	法の適用と解釈	法の適用と解釈の必要性について	
第 12 回	法の実質的効力	規範的妥当性、実効性	
第 13 回	法の形式的効力	時間、場所、人についての適用範囲	
第 14 回	権利と義務	法律関係、権利、義務	
第 15 回	総括	まとめおよび質疑	

# 経済・国際

授業番号	A300570001				
科目名 (英語表記)	ヨーロッパ経済論 I (Europe economy theory I)				
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	3(経済学部のみ2年)	単位数	2
授業のねらいと到達目標	EU (欧州連合) は今年 28 カ国に増える予定で、現在の人口は 5 億人近くにも及びます。統一通貨のユーロを導入している国はそのうち 17 カ国にのぼります。このように密な統合はどのような背景で行われたのでしょうか? ヨーロッパ経済論 I では第 2 次大戦直後にさかのぼって欧州統合の歴史を勉強します。				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>経済学の応用科目なので、「経済学理論」「経済政策」の基礎知識を必要とします。</p> <p>授業では、“moodle” という e-learning (パソコンを使った授業) を行うので、アカウントをお持ちでない方は、ガイダンスの翌週に行う講習を必ず受けて下さい。もし受けられない場合は、他の授業等での講習を受け、必ずアカウントをとっておいて下さい。</p> <p>レジュメないしフローチャートを内容とするプリントを配布し、パワーポイントのパネルやモニターに映された web 画面を補助としてプリントにキーワードを書き込んで頂きながら、それぞれの出来事の背景や事項間の因果関係を勉強していきます。</p>				
成績評価方法 基準	全体を 100% とした場合のめやすとしては、定期試験 (80%)、授業内小テスト (20%) です。小テストは moodle での小論文と選択問題です。小論文式小テストでは、学習した出来事の背景や事項間の因果関係を文章で表現できるかどうか見えます。				
授業の予習・復習	「授業項目」の区切りを見当として小テストを行います。そのため、復習として、プリントや各自のメモを参考にし、文章できちんと因果関係等の説明が出来るようご用意下さい。小テストのコメントを参考にし、より良い小論文を作成し保存しておいて下さい。定期試験で役に立ちます。コメントがわかりづらかったらご質問下さい。				
教科書	教科書は指定しません。参考文献、web 上の情報などを参考にして下さい。				
参考文献	田中 素香 (著), 長部 重康 (著), 久保 広正 (著), 岩田 健治 (著) 現代ヨーロッパ経済 第 3 版 (有斐閣アルマ) →メディアアセンダー指定図書コーナーに置いてあります。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評点等についてお話しします			
第 2 回	moodle 登録	今後授業で使う moodle のアカウントを作り、コース登録します。これをしないと小テストが受けられませんので、アカウントをお持ちでない方は必ずご出席下さい。			
第 3 回	第 2 次大戦後のヨーロッパ	第 2 次大戦の諸結果、IMF-GATT 体制			
第 4 回	第 2 次大戦後のヨーロッパ	小テスト (小論文形式)			
第 5 回	ドル体制の展開とヨーロッパ	ヨーロッパ復興計画、アメリカのドル散布による国内経済の拡大			
第 6 回	ドル体制の展開とヨーロッパ	ヨーロッパ諸国の経済的自立化と課題			
第 7 回	ドル体制の展開とヨーロッパ	ヨーロッパ経済の復興 - ドイツとフランスの例			
第 8 回	ドル体制の展開とヨーロッパ	小テスト (小論文形式)			
第 9 回	EEC の成立	ヨーロッパ共同市場の必然性			
第 10 回	EEC の成立	小テスト (小論文形式)			
第 11 回	EEC の成立後のヨーロッパ	50-60 年代ヨーロッパ貿易の拡大・経済成長			
第 12 回	EEC の成立後のヨーロッパ	小テスト (小論文形式)			
第 13 回	ヨーロッパ経済の停滞 (1970 年代)	IMF 体制の崩壊と世界的インフレ・ヨーロッパ高度成長要因の消失			
第 14 回	ヨーロッパ経済の停滞 (1970 年代)	小テスト (小論文形式)			
第 15 回	まとめ	まとめ			

# 経済・国際

授業番号	A300580001		
科目名 (英語表記)	ヨーロッパ経済論 II (Europe economy theory II)		
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	3(経済学部のみ2年) 単位数 2
授業のねらいと到達目標	EU (欧州連合) は今年 28 カ国に増える予定で、現在の人口は 5 億人近くにも及びます。統一通貨のユーロを導入している国はそのうち 17 カ国にのぼります。このように密な統合はどのような背景で行われたのでしょうか? ヨーロッパ経済論 II では 1980 年代から遡って、EU の現状に至る流れを勉強します。		
授業の進め方 (履修条件など)	<p>経済学の応用科目なので、「経済学理論」「経済政策」の基礎知識を必要とします。</p> <p>授業では、“moodle” という e-learning (パソコンを使った授業) を行うので、アカウントをお持ちでない方は、ガイダンスの翌週に行う講習を必ず受けて下さい。もし受けられない場合は、他の授業等での講習を受け、必ずアカウントをとっておいて下さい。</p> <p>レジュメないしフローチャートを内容とするプリントを配布し、パワーポイントのパネルやモニターに映された web 画面を補助としてプリントにキーワードを書き込んで頂きながら、それぞれの出来事の背景や事項間の因果関係を勉強していきます。</p>		
成績評価方法 基準	全体を 100% とした場合のめやすとしては、定期試験 (80%)、授業内小テスト (20%) です。小テストは moodle での小論文と選択問題です。小論文式小テストでは、学習した出来事の背景や事項間の因果関係を文章で表現できるかどうか見えます。		
授業の予習・復習	「授業項目」の区切りを見当として小テストを行います。そのため、復習として、プリントや各自のメモを参考にして、文章できちんと因果関係等の説明が出来るようご用意下さい。小テストのコメントを参考にして、より良い小論文を作成し保存しておいて下さい。定期試験で役に立ちます。コメントがわかりづらかったらご質問下さい。		
教科書	教科書は指定しません。参考文献、web 上の情報などを参考して下さい。		
参考文献	田中 素香 (著), 長部 重康 (著), 久保 広正 (著), 岩田 健治 (著) 現代ヨーロッパ経済 第 3 版 (有斐閣アルマ) →メディアアセンダー指定図書コーナーに置いてあります。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス、moodle 登録	授業の進め方、評点等、ヨーロッパ経済論 I のエッセンスについてお話し、今後授業で使う moodle のアカウントを作り、コース登録します。これをしないと小テストが受けられないので、アカウントをお持ちでない方は必ずご出席下さい。	
第 2 回	ヨーロッパ経済の停滞 (1980 年代)	産業の ME 化とヨーロッパの地位低下	
第 3 回	ヨーロッパ経済の停滞 (1980 年代)	小テスト (小論文形式)	
第 4 回	1992 年欧州市場統合	今までの統合は不十分、3 つの障壁	
第 5 回	1992 年欧州市場統合	1992 年欧州市場統合期待と現実	
第 6 回	1992 年欧州市場統合	小テスト (小論文形式)	
第 7 回	欧州通貨統合	欧州通貨統合へのプロセス (戦後ヨーロッパ通貨の歩み)	
第 8 回	欧州通貨統合	欧州通貨統合の効果	
第 9 回	欧州通貨統合	ECB の金融政策	
第 10 回	欧州通貨統合	小テスト (小論文形式)	
第 11 回	21 世紀のヨーロッパ経済	ヨーロッパの産業、労働市場	
第 12 回	21 世紀のヨーロッパ経済	2008 年金融危機とヨーロッパ経済	
第 13 回	21 世紀のヨーロッパ経済	ヨーロッパソブリン危機とヨーロッパ経済	
第 14 回	21 世紀のヨーロッパ経済	小テスト (小論文形式)	
第 15 回	まとめ	まとめ	

# 経済・国際

授業番号	A300080001				
科目名 (英語表記)	歴史学入門 (Introduction to Historical Science)				
担当者 (英語表記)	山本 健 (Takeshi Yamamoto)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本は、明治の開国期と大戦敗北後の2回、近代化（欧米化）を受け入れ、物質的に豊かになったが、精神的にはどうであろうか。この原因を、明治（1868年）以降から現代に至る長いスパンの中で探り、精神的な「自立」の処方箋を考えてみたい。そして歴史を批判的に見る目を身につけさせることが、本講義の目的である。				
授業の進め方 (履修条件など)	日本の近代化の受容を基本的に学び、日本以外のアジア諸国の受容との比較にも言及しながら、その時代背景などを説明し、「協調」と「追随」の功罪などを解説する。				
成績評価方法 基準	試験、レポート(感想文や課題文)などで評価する。なお、原則として、出席率が規定(2/3)に達していない学生は評価外とする。				
授業の予習・復習	予習：前もって配布する「古典」の抜粋プリントを読んで、問題点などを整理しておくこと。 復習：課題文の作成のため、新聞やTVのニュースを見る習慣をつけること。				
教科書	加藤哲郎『戦後意識の変貌』(岩波ブックレット、シリーズ昭和史 No14、1989年)				
参考文献	①奥井知之『日本問題』(中公新書、1994年) ②富永健一『近代化の理論—近代化における東洋と西洋』(講談社学術文庫、1996年) ③野口悠紀夫『バブルの経済学—日本経済に何が起こったのか』(日本経済新聞社、1993年)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明			
第2回	問題点の提示	大江健三郎『あいまいな日本と私』を音読させ、解説。			
第3回	明治時代の近代化の受容①	日本の支配的価値観と近代化受容をめぐる問題点			
第4回	同 上②	「外圧」としての近代化—帝国主義時代の背景			
第5回	同 上③	「脱亜入欧」と第二次世界大戦			
第6回	戦後の「アメリカ」受容	「脱亜入米」と変更されるアメリカの占領政策			
第7回	「政治」から「経済」へ	戦争特需と所得倍増計画の意味			
第8回	模倣国アメリカの変化	ベトナム戦争とアメリカ経済の衰退、相対主義の台頭			
第9回	石油危機と不確実性の時代	エゴイズムとモデル不在の時代の到来			
第10回	日米経済摩擦	経済大国ジャパンの出現と日本異質論の台頭			
第11回	バブル景気と躁状態の日本	平成バブルの発生メカニズムの分析			
第12回	湾岸戦争と日本の対応	湾岸戦争の背景と「一国繁栄主義」の日本			
第13回	小泉内閣の登場と民営化問題	市場経済の導入と食い荒らされる金融資産			
第14回	中国経済の発展と日本の対応	日本の「工場」の移転と産業の空洞化・若者の失業問題			
第15回	サブプライム問題と金融危機	恒常化したバブル経済とその背景			

経済

授業番号	B201700001		
科目名 (英語表記)	Cプログラミング (C programming)		
担当者 (英語表記)	染谷 広幸 (Hiroyuki Someya)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	C言語の基礎的なプログラムができることを前提に、コンピュータの特性や効率的なプログラミング方法や基本的なアルゴリズム、データ構造について学習します。また、少し長めのプログラムを作成し、大規模プログラムの構造やシステム開発の方法などにも触れます。		
授業の進め方 (履修条件など)	前期のプログラム入門Cの継続科目となっていますので、前期の講義の履修が前提となります。関連知識については講義形式で行い、実際にコンピュータを用いてプログラムの作成や動作確認を行います。		
成績評価方法	定期試験 (30%)・課題提出 (40%)・取組姿勢および創意工夫 (30%)		
基準			
授業の予習・復習	動かなかったプログラムは次回までに修正を行うこと。修正できないときにはエラー内容を示して質問して下さい。		
教科書	配付資料		
参考文献	高橋麻奈『やさしいCアルゴリズム編』SBCr 田中和明『C言語 10課データ構造とアルゴリズム編』CUTT		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	プログラム作成まとめ	
第2回	処理の流れと作図	プログラムの構造と流れ図	
第3回	基本的なアルゴリズム	処理の流れを操作する	
第4回	配列・構造体・ポインタ	コンピュータの中でのデータ配置	
第5回	配列とリスト	データの配置とその利用	
第6回	スタックとキュー	データ構造と入出力	
第7回	ファイル処理	外部データの読み書き	
第8回	サーチ	複数データから目的の値を探す	
第9回	ソート	データを並び替える	
第10回	リスト構造	関連を持つデータの作成	
第11回	木構造	大小の関連を持つデータ構造	
第12回	二分探索	効率的なデータ探索	
第13回	ハッシュ関数	データを代表する数値の作成	
第14回	アドレス帳の作成	プログラムの分割とコンパイル	
第15回	プログラム作成まとめ	プログラム開発手順	

経済

授業番号	B201650001				
科目名 (英語表記)	Excel データ解析 (Excel data analysis)				
担当者 (英語表記)	井手 雅哉 (Masaya Ide)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	Excel の応用的な分析ツールを使いこなすことによって、数値の抽出、集計、加工をおこない、迅速・的確な状況把握、プランの立案などの実務に役立たせるためのノウハウを習得することを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件：「情報基礎Ⅱ」の単位を取得していることが望ましい。 例題を踏まえた上で、練習問題に取り組んでもらい、その提出 (5 回程度) によって評価をおこなう。				
成績評価方法	レポート及びその他の課題 (60%) ・取組姿勢 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	復習：関連書籍が多数出版されているので、それらを用いて同様の問題に取り組んでみる。				
教科書	教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。				
参考文献	早坂清志, 『Excel データ分析テクニック 140』, 毎日コミュニケーションズ, 2010.7.29.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業内容・進め方・評価に関する説明			
第 2 回	Excel の復習 1	数式・関数の利用, 書式設定, グラフの作成			
第 3 回	Excel の復習 2	練習問題 1			
第 4 回	表における視覚化分析 1	色付け, データバー			
第 5 回	表における視覚化分析 2	カラースケール, アイコン			
第 6 回	表における視覚化分析 3	練習問題 2			
第 7 回	度数分布 1	ヒストグラム分析ツール			
第 8 回	度数分布 2	練習問題 3			
第 9 回	アンケート調査結果の分析 1	ピボットテーブル			
第 10 回	アンケート調査結果の分析 2	クロス集計			
第 11 回	アンケート調査結果の分析 3	練習問題 4			
第 12 回	グラフを利用したデータ分析 1	箱ひげ図, ファンチャート			
第 13 回	グラフを利用したデータ分析 2	バレー図, PPM グラフ			
第 14 回	グラフを利用したデータ分析 3	練習問題 5			
第 15 回	まとめ	練習問題の解答例紹介など			

経済

授業番号	B201780001				
科目名 (英語表記)	OS 論 (OS theory)				
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	情報化の進んだ今日では、コンピュータに関する知識と理解が必須となっています。授業のねらいはコンピュータの基本ソフトウェアである OS(オペレーティングシステム)の仕組みを学ぶことで、到達目標は、各 OS の特性に応じた適切な利用方法を理解することです。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は、「ハードウェアシステム論(前期)」を履修していることです。配布資料と PowerPoint を用いて講義を行います。配布資料はキーワードが抜けていますので、講義を聞きながら穴埋めしてもらいます。最後に穴埋め式の小テストを毎回行います。				
成績評価方法	期末試験(60%)、小テスト(40%)で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	授業の最後に次回の予習項目を示しますので、予習しておいてください。また、復習としてキーワードとその内容をよく理解しておいてください。				
教科書	毎回、資料を配布します。				
参考文献	日経バイト編『最新パソコン技術体系 2003 OS 編』日経 B P 社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認、講義の概要			
第 2 回	ソフトウェア	基本ソフトとアプリケーションソフト			
第 3 回	OS の基本機能	OS の機能と役割			
第 4 回	ユーザインターフェース	コマンドシェルとビジュアルシェル			
第 5 回	カーネルの機能	タスク管理とメモリ管理の仕組み			
第 6 回	カーネルのアーキテクチャ	マルチタスクの仕組み			
第 7 回	ファイルシステム	ファイル管理の仕組み			
第 8 回	中間テスト	第 7 回目までの範囲の論述試験			
第 9 回	ソフトウェア連携	データ交換と自動処理			
第 10 回	ネットワーク機能	情報通信機能の基礎			
第 11 回	インターネット	電子メール、WWW の仕組み			
第 12 回	WindowsNT	WindowsNT の仕組み			
第 13 回	Windows95	Windows95 の仕組み			
第 14 回	UNIX/Linux	UNIX の仕組み			
第 15 回	まとめ	要点と試験対策			



経済

授業番号	B201710001				
科目名 (英語表記)	Perl プログラミング (Perl programming)				
担当者 (英語表記)	染谷 広幸 (Hiroyuki Someya)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	WWWサーバで利用されるCGIなどの作成を行うことで複数のシステムを利用するネットワークに関するプログラムについて学習する。システム環境やデータ移動、オブジェクト指向などを考慮したプログラムを作成する。到達目標はプログラムとは何かを理解し、問題解決のための処理を行うシステムが考えられることです。				
授業の進め方 (履修条件など)	プログラム入門 Perl の継続科目となりますので、前期の講義の履修が前提となります。文法などの基礎的な知識については講義形式で行い、実際にコンピュータを用いてプログラムの作成や動作確認を行います。				
成績評価方法	定期試験 (30%)・課題提出 (40%)・取組姿勢および創意工夫 (30%)				
基準					
授業の予習・復習	動かなかったプログラムは次回までに修正を行うこと。修正できない時はエラー内容を示し質問して下さい。				
教科書	配付資料				
参考文献	(株) アンク『Perl の絵本』 武藤健志他『独習 Perl 第2版』翔泳社				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	講義の進め方と成績評価方法			
第2回	数値の計算	変数と演算子			
第3回	プログラムの流れ	制御構造 (選択・繰返)			
第4回	プログラムの構造	サブルーチンとデータ構造			
第5回	外部データの利用	データ探索を用いた簡易 DB			
第6回	外部との関連	OS を利用した操作			
第7回	リファレンス	アドレスなどの利用			
第8回	オブジェクト指向	Perl で行うオブジェクト指向			
第9回	外部プログラムの利用	モジュールなどの使い方			
第10回	WWW の基本構造	Web で用いられる HTML			
第11回	CGI についての基礎知識	Web を利用したプログラムの作成			
第12回	Web を使ったデータの送受信	データの送信, 受信など			
第13回	ブラウザで入力したデータの処理	双方向的なプログラム			
第14回	CGI の活用	簡易掲示板の作成			
第15回	Perl を用いた Web 提供データ利用	XML 等のデータ処理			

経済

授業番号	B202010001				
科目名 (英語表記)	T O E I C 向上講座 I (TOEIC? Support lecture)				
担当者 (英語表記)	田 文揚 (Fumiaki Den)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項や既得の英語力の現状及び問題点を知り、4技能の中の弱点の補完を目指す。</li> <li>・T O E I C テストの PART 1 から PART 7 までの各パートの問題形式への理解を深めると共に素早く応答できる能力を習得する。</li> <li>・T O E I C スコアー 6 0 0 点代を目指す。</li> </ul>				
授業の進め方 (履修条件など)	TOEIC テストの形式で編集されたテキストを主に用いて各テーマ・トピックスごとの設問に答えることを通して、LITENING や READING の力を養う。また、定期的に単語テストや小テストを実施する。				
成績評価方法	小テスト及び単語テスト (予定表別紙) イディオムテスト [70%]・授業参加態度 [30%]				
基準					
授業の予習・復習	各レッスン未知の単語やイディオム及び、不確かな文法事項を下調べする。既習事項を付属の CD を用いて反習する。また、配布されたプリント教材に取り組む。				
教科書	TOEIC テキスト及び英単語・熟語集。詳細は初回の授業にて指示致します。その他開発教材・ニュース、文法資料。				
参考文献	必要に応じて適宜指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	GUIDANCE & ORIENTATION INTRODUCTION & TACTICS	講座の進め方及び評価、受講要領に関する説明。自己紹介。			
第 2 回	TOEIC テストの体験	TOEIC テスト攻略の Strategies ・ミニ TOEIC テスト			
第 3 回	LESSON 1	Listening: 短縮形・Short Talk / Quiz			
第 4 回	L 2	READING: 否定 ・ Reading Comprehension 2 / Quiz2 / 作文			
第 5 回	L 3	L: イディオムの音 ・ Short Talk / Quiz 3 ニュースの英語			
第 6 回	L 4	R: 接続詞 ・ Reading 4 慣用句			
第 7 回	L 5	L: 消える音 弱い音 Short Talk / Quiz 5 ナチュラルスピード			
第 8 回	L 6	R: 文型 サブジェクト / Reading / Main Idea を捉える。			
第 9 回	L 7	L: つながる音 Short Talk / Quiz 6 / 感情の表現			
第 10 回	L 8	R: 現在時制 ・ Reading C / Quiz 7 時系列を意識した読み方			
第 11 回	L 9	L: 応答の予測 ・ Short Talk / Quiz 8 あいづちの色々			
第 12 回	L 10	R: 過去時制 ・ Reading C / Funny story を読む。			
第 13 回	L 11	L: 有声化する音・ Short Talk / 区別の困難な表現を理解する。			
第 14 回	L 12	R: 関係詞 Reading C / 修飾句を多用した文を読み取る。			
第 15 回	Consolidation	前期の学習のまとめ及び到達度のチェック。			

経済

授業番号	B202020001				
科目名 (英語表記)	TOEIC 向上講座 II (TOEIC? Support lecture)				
担当者 (英語表記)	田 文揚 (Fumiaki Den)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの英語学習を更に発展させ、より高度な文章の LISTENING 力 Reading 力の涵養を目指す。</li> <li>TOEIC テストの PART 1 から PART 7 までの各パートの問題形式への理解を深めると共に素早く応答できる能力を習得する。</li> <li>TOEIC スコア 700 点代を目指す。</li> </ul>				
授業の進め方 (履修条件など)	TOEIC テストの形式で編集されたテキストを主に用いて各テーマ・トピックスごとの設問に答えることを通して、LISTENING や READING の力を養う。また、定期的に単語テストや小テストを実施する。				
成績評価方法	小テスト及び単語テスト (予定表別紙) イディオムテスト [70%]・授業参加態度 [30%]				
基準					
授業の予習・復習	各レッスン未知の単語やイディオム及び、不確かな文法事項を下調べする。既習事項を付属の CD を用いて反習する。また、配布されたプリント教材に取り組む。				
教科書	TOEIC テキスト及び英単語・熟語集。詳細は初回の授業で指示致します。その他開発教材・ニュース、文法資料				
参考文献	必要に応じて適宜指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	GUIDANCE & ORIENTATION INTRODUCTION & TACTICS	講座の進め方及び評価受講要領に関する説明。最新のニュース記事			
第 2 回	TOEIC テストの到達度を知る。	TOEIC テスト攻略の Strategies・簡易 TOEIC テストで到達度を計る。			
第 3 回	LESSON 1 3	Listening: パーティーを開く・Short Talk / Quiz 咄嗟の一言。			
第 4 回	L 14	READING: 使役動詞と知覚動詞・ Reading Comprehension 1 1			
第 5 回	L 15	L: 現代生活 ・ Short Talk / Renting / Quiz 1 0/ ニュースの英語			
第 6 回	L 16	R: 仮定法・ Reading C ・エドワード デノボを読む。			
第 7 回	L 17	L: 区別しにくい音 弱い音 Short Talk / Quiz 1 3 / 否定表現。			
第 8 回	L 18	R: 比較 ・ / Reading / Main Idea を捉える。比喩表現。			
第 9 回	L 19	L: カタカナ英語の聞き取り・ Short Talk / Quiz 1 4 / 依頼の表現。			
第 10 回	L 20	R: 代名詞 ・ Reading C / Quiz 1 5 / 論説文を読む。			
第 11 回	L 21	L: 家庭生活 ・ Short Talk / Quiz 1 6/ 放送の英語を理解する。			
第 12 回	L 22	R: 形容詞 ・ Reading C / 書類の英語を読む。Funny story を読む。			
第 13 回	L 23	L: 色々な場面でのスピーチ・Short Talk / I d e o m T e s t			
第 14 回	L 24	R: 未来時制 Reading C / Mystery を読む。理解度テスト。			
第 15 回	Consolidation	後期及び 1 年間の学習のまとめと到達度のチェック。			

経済

授業番号	B201690001		
科目名 (英語表記)	VBプログラミング (VB programming)		
担当者 (英語表記)	小林 忠 (Tadashi Kobayashi)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	基本的な制御文、配列、ファイルの取扱い等を確認に理解し、簡単なプログラムが作れるようになることを目的とします。		
授業の進め方 (履修条件など)	受講者は「プログラミング入門」を履修済みのこと。初回または二回目の講義に必ず出席すること。尚、受講者は15名以内とします。 言語はVBを使用し、コードモジュールを完成するだけで動作する環境を用意します。		
成績評価方法	試験成績 50%、授業参加態度 50%		
基準			
授業の予習・復習	予習：前回の授業で強調した箇所を確り復習して、授業に臨んで下さい。 復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。		
教科書	プリントを用意します。		
参考文献	林晴比古著『新 VisualBasic 入門』ソフトバンク		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	プログラミング	万年暦を作る (1)	
第2回	プログラミング	万年暦を作る (2)	
第3回	プログラミング	万年暦を作る (3)	
第4回	プログラミング	乱数を作る (1)	
第5回	プログラミング	乱数を作る (2)	
第6回	プログラミング	乱数を作る (3)	
第7回	プログラミング	有理数の循環小数表示 (1)	
第8回	プログラミング	有理数の循環小数表示 (2)	
第9回	プログラミング	有理数の循環小数表示 (3)	
第10回	プログラミング	順列組合せのファイル作成 (1)	
第11回	プログラミング	順列組合せのファイル作成 (2)	
第12回	プログラミング	順列組合せのファイル作成 (3)	
第13回	プログラミング	巡回セールスマン問題 (1)	
第14回	プログラミング	巡回セールスマン問題 (2)	
第15回	プログラミング	巡回セールスマン問題 (3)	

経済

授業番号	B201640001				
科目名 (英語表記)	Web デザイン (Web design)				
担当者 (英語表記)	井手 雅哉 (Masaya Ide)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	WWW のしくみやファイル群の構成について理解し、デザインソフトによる編集、サーバへのセットを実行することで情報を発信することにも興味をもってもらいたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件：「情報基礎」履修済相当 (学外サイトへのアクセス権とある程度のワープロソフト操作能力が必要)				
成績評価方法	レポート及びその他の課題 (60%) ・取組姿勢 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：作品の構想を練ったり、資料・素材を集めておく。				
教科書	桑名由美, 『はじめてのホームページビルダー 14』, 秀和システム, 2010.1.28.				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業内容・進め方・評価に関する説明			
第 2 回	WWW の基礎知識	WWW のしくみ, デザインソフトの概要			
第 3 回	Web デザインの基本的編集操作 1	テキストの編集			
第 4 回	Web デザインの基本的編集操作 2	画像の配置			
第 5 回	Web デザインの基本的編集操作 3	ハイパーリンク等の設定			
第 6 回	Web デザインの基本的編集操作 4	表の編集			
第 7 回	Web デザインの基本的編集操作 5	フレーム			
第 8 回	実践と応用的編集操作 1	テーマの設定, 準備			
第 9 回	実践と応用的編集操作 2	作品の製作, プラグインツールの利用			
第 10 回	実践と応用的編集操作 3	作品の製作, オリジナルボタンの作成			
第 11 回	実践と応用的編集操作 4	作品の製作, ロールオーバー効果の設定			
第 12 回	実践と応用的編集操作 5	作品の製作, スライドショー			
第 13 回	実践と応用的編集操作 6	作品の製作, アップロードの準備			
第 14 回	実践と応用的編集操作 7	作品の製作, サーバへのアップロード			
第 15 回	実践と応用的編集操作 8	作品の製作, カウンタなどの設置			

# 経済

授業番号	B201550001				
科目名 (英語表記)	アジア経済論 (Asia economy theory)				
担当者 (英語表記)	中川 雅彦 (Masahiko Nakagawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済発展論での重要な諸概念を日本や韓国、その他アジア諸国の例によって解説する。				
授業の進め方 (履修条件など)	シラバスにしたがって、講義をすすめることを原則とする。				
成績評価方法	定期試験 (100%)				
基準	・資料持込み可の試験とする。また、授業における有益な質問や意見などの授業参加態度は成績に加味する。				
授業の予習・復習	授業中に指示する。				
教科書	授業中に指示する。				
参考文献	授業で示す。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション			
第2回	二重経済論 (1)	ルイス理論とその例			
第3回	" (2)	ルイス理論とその例			
第4回	後発性優位論	ガーシェンクロン理論とその例			
第5回	輸入代替論	輸入代替工業化の諸例とその結果			
第6回	複線型発展論	韓国の工業化の例			
第7回	生産サイクル論	直接投資の役割			
第8回	従属論	従属の事例			
第9回	社会主義工業化	自力更生と改革・開放			
第10回	経済発展と文化変容 (1)	福沢諭吉の脱亜入欧			
第11回	" (2)	伝統社会と近代社会			
第12回	経済発展と教育	高学歴化とその問題点			
第13回	まとめ	まとめ			
第14回	討論 (1)	討論 (1)			
第15回	討論 (2)	討論 (2)			

# 経済

授業番号	B202340001		
科目名 (英語表記)	アジアの工業立地 (Industrial location of Asia)		
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	現実の工業立地がどのようにして決定されたのかを知り、立地論の理論通りに説明できる場合と説明できない場合があることを具体例を通して学びます。日本を含むアジアの工業立地を事例にして学びます。アジアの工業立地の実態を正しく理解できるようにすることが目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	配付資料をもとにして、日本やアジアの工業立地を具体的に検討します。日本では各工業ごとに、アジアでは各地域ごとに説明します。日本ではソニー、トヨタなど企業の立地事例を通して、解りやすく説明します。		
成績評価方法	定期試験 (50%) と平常点 (50%、コメントカードの内容による) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	参考文献などを利用して予め各工業・各地域の立地の特色をつかんでおき、授業後はノートや配布資料をよく見直しておくこと。		
教科書	使用しません。毎時間プリントを配布します。		
参考文献	渡辺利夫編「アジア経済読本 (第4版)」東洋経済新報社 上野和彦編「中国 (世界地誌シリーズ2)」朝倉書店		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、授業の受け方、参考文献の解説	
第2回	アジアにおける工業の特質	過去と現在の比較、世界との比較	
第3回	日本における工業立地 (1)	鉄鋼業、事例企業研究 (新日本製鐵)	
第4回	日本における工業立地 (2)	電気機械工業、事例企業研究 (ソニー)	
第5回	日本における工業立地 (3)	自動車工業、事例企業研究 (トヨタ)	
第6回	日本における工業立地 (4)	食料品工業	
第7回	日本における工業立地 (5)	繊維工業	
第8回	中国における工業立地 (1)	経済改革以前の立地	
第9回	中国における工業立地 (2)	鉄鋼業	
第10回	中国における工業立地 (3)	自動車工業、エレクトロニクス工業	
第11回	中国における工業立地 (4)	立地の地域的特質	
第12回	その他のアジア諸国における工業立地 (1)	韓国における工業立地	
第13回	その他のアジア諸国における工業立地 (2)	東南アジア諸国における工業立地	
第14回	その他のアジア諸国における工業立地 (3)	インドにおける工業立地	
第15回	まとめ	授業内容のまとめ	

# 経済

授業番号	B202410001		
科目名 (英語表記)	アジアの地理 (Geography of Asia)		
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	近年、アジアの経済は世界経済をリードしています。日本企業は多数アジア各地に進出しており、日本にも多くのアジア企業が進出しています。その割に私たち日本人はアジアのことを知りません。また、留学生も日本のことを深くは知りません。この講義は日本のことやアジアのことを、地理的な面から理解してもらうことを目的にしています。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎時間パワーポイントを使用して授業を行います。最初はアジア全体の地理的特色から入り、次いで日本の地理、中国の地理、その他のアジア諸国の地理について説明します。内容は、自然環境、人口、民族、産業などです。		
成績評価方法	定期試験 (50%)、平常点 (50%、毎時間提出してもらうコメントカードの内容による) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予め参考文献や地図帳を利用して、各国の状況を把握するとともに、授業後は配付資料やノートなどにより必ず復習すること。		
教科書	使用しません。資料を配付します。		
参考文献	青木英一・北村嘉行「世界を読む 改訂版」原書房 上野和彦編「中国 (世界地誌シリーズ 2)」朝倉書店 二宮書店「データブック オブ・ザ・ワールド」二宮書店		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、授業の受け方、参考文献の解説	
第 2 回	アジア地域の地理的特質 (1)	位置、自然環境	
第 3 回	アジア地域の地理的特質 (2)	人口と民族	
第 4 回	アジア地域の地理的特質 (3)	生産と消費	
第 5 回	日本の地理 (1)	地体構造、地形	
第 6 回	日本の地理 (2)	気候、水	
第 7 回	日本の地理 (3)	大都市圏と地方圏	
第 8 回	日本の地理 (4)	人口移動	
第 9 回	中国の地理 (1)	自然環境	
第 10 回	中国の地理 (2)	人口と民族	
第 11 回	中国の地理 (3)	産業と開発	
第 12 回	その他のアジア諸国の地理 (1)	韓国の自然と産業構造	
第 13 回	その他のアジア諸国の地理 (2)	東南アジア諸国の自然と産業構造	
第 14 回	その他のアジア諸国の地理 (3)	インドの自然と産業構造	
第 15 回	まとめ	授業内容のまとめ	



# 経済

授業番号	B202310001				
科目名 (英語表記)	アジアビジネス論 (Asia business theory)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	アジアは、グローバリゼーションが進むなかで、対外貿易と海外投資に大きく門戸を開きながら発展を続けてきた地域です。本講義は、文化的にも経済的にも多様性に富んでいるアジア各国の相互関係、各国が歩んできた成長経路と直面している課題、そして、今後の発展方向についての理解を深めることを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業は講義形式でおこないます。パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で講義し、必要に応じて、ケーススタディのためのビデオ教材を用います。				
成績評価方法	中間レポート (40%)、定期試験 (60%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の進行に合わせ参考文献を読んでおくことをおすすめします。 復習：前回の講義資料を再読しておくことをおすすめします。				
教科書	特にありません。毎回必要な資料を作成し講義します。				
参考文献	渡辺利夫編『アジア経済読本 第4版』東洋経済新報社、2009年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方についての説明			
第2回	日本	アジアにおける日本経済の現状；主要業種の競争力			
第3回	NIES	受託製造によって支えられる台湾の産業構造			
第4回	NIES	香港の変容する自由放任主義			
第5回	NIES	都市国家シンガポールの開発体制			
第6回	韓国	韓国型経済システムの形成と変化			
第7回	韓国	通貨危機と構造改革			
第8回	韓国	グローバル化とIT革命			
第9回	東南アジア	タイの経済発展戦略			
第10回	東南アジア	多民族国家マレーシアの新工業国への構造変化			
第11回	東南アジア	インドネシア経済成長の新基盤			
第12回	アジア社会主義国	中国の市場経済システム			
第13回	アジア社会主義国	ベトナムの構造変化と脆弱性の克服課題			
第14回	インド亜大陸	台頭するインドのグローバル・パワー			
第15回	インド亜大陸	バングラデシュの産業構造と経済成長			

# 経済

授業番号	B201510001		
科目名 (英語表記)	アメリカ経済論 I (U.S. Economy I)		
担当者 (英語表記)	牧野 俊重 (Toshishige Makino)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	アメリカ資本主義の発展過程を概観し、現代アメリカ経済の歴史的基礎、プログレッシブ・ムーヴメントとニュー・ディールの歴史的意義について解説し、現代アメリカ資本主義の特質を理解せしめる。		
授業の進め方 (履修条件など)	口授と黒板利用による。時にコピーを配布する。ノートを用意して毎回出席すること。		
成績評価方法 基準	定期試験 100% 出席が著しく不良な場合は受験を認めないし、点数がボーダーライン近くにあつて出席が極めて良好な場合はそれを考慮する。		
授業の予習・復習	毎回、キーワードや敷衍して学ぶべき関連事項について言及するので、それらを調べながら復習を行い、幅広く知識を広げ理解して欲しい。		
教科書	使用しない。		
参考文献	ハロルド・U・フォークナー著 小原敬士訳『アメリカ経済史』至誠堂 高木八尺 著『近代アメリカ政治史』岩波書店 アメリカ経済研究会編『ニューディールの経済政策』慶応通信 古米淑郎編『第二次大戦後のアメリカ経済』ミネルヴァ書店 榊原・藤原・馬場 共著『アメリカ経済をみる眼』有斐閣新書 林 敏彦 著『大恐慌のアメリカ』岩波書店 その他については講義中随時紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業の方針と進め方、評点等について	
第 2 回	アメリカの産業革命	アンティ・ベラム期の工業化	
第 3 回	アメリカの産業革命	その要因	
第 4 回	南北戦争	経済的原因とその結果	
第 5 回	ダイナミックな経済発展	ビッグ・ビジネスの成立	
第 6 回	ダイナミックな経済発展	政府の果たした役割	
第 7 回	ダイナミックな経済発展	資本主義的発展がもたらした欠陥と弊害	
第 8 回	改革の時代 (I)	プログレッシブ・ムーヴメントの性格 (1)	
第 9 回	改革の時代 (I)	プログレッシブ・ムーヴメントの性格 (2)	
第 10 回	第一次世界大戦と 1920 年代	アメリカの参戦と 20 年代の経済	
第 11 回	改革の時代 (II)	大恐慌とニュー・ディール (1)	
第 12 回	改革の時代 (II)	大恐慌とニュー・ディール (2)	
第 13 回	第二次世界大戦と戦後	第二次大戦とアメリカ	
第 14 回	第二次世界大戦と戦後	大戦後の経済発展	
第 15 回	第二次世界大戦と戦後	世界経済とアメリカ	

# 経済

授業番号	B201520001				
科目名 (英語表記)	アメリカ経済論 II (U.S. Economy II)				
担当者 (英語表記)	牧野 俊重 (Toshishige Makino)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済にウェイトを置きながら、地域研究・総合研究の視点からアメリカのアメリカ的なもの (本質・特性) について考察する。				
授業の進め方 (履修条件など)	口授と黒板利用による。時にコピーを配布する。ノートを用意して毎回出席すること。				
成績評価方法 基準	定期試験 100% 出席が著しく不良な場合は受験を認めないし、点数がボーダーライン近くにあつて出席が極めて良好な場合はそれを考慮する。				
授業の予習・復習	毎回、キーワードや敷衍して学ぶべき関連事項について言及するので、それらを調べながら復習を行い、幅広く知識を広げ理解して欲しい。				
教科書	使用しない。				
参考文献	前期の参考文献の項に同じ。参照されたい。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の方針等と進め方、評点等について			
第 2 回	アメリカの地域研究・総合研究	イギリスの重商主義政策・独立・国家の性格 (1)			
第 3 回	アメリカの地域研究・総合研究	イギリスの重商主義政策・独立・国家の性格 (2)			
第 4 回	アメリカの地域研究・総合研究	アメリカの自然と人文 (1)			
第 5 回	アメリカの地域研究・総合研究	アメリカの自然と人文 (2)			
第 6 回	アメリカの地域研究・総合研究	西部とフロンティア (1)			
第 7 回	アメリカの地域研究・総合研究	西部とフロンティア (2)			
第 8 回	アメリカの地域研究・総合研究	アメリカ経済史の特殊性 (1)			
第 9 回	アメリカの地域研究・総合研究	アメリカ経済史の特殊性 (2)			
第 10 回	アメリカの地域研究・総合研究	新大陸の意味するもの (1)			
第 11 回	アメリカの地域研究・総合研究	新大陸の意味するもの (2)			
第 12 回	アメリカの地域研究・総合研究	多元的国民の統一の問題と先住民インディアン			
第 13 回	アメリカの地域研究・総合研究	アメリカのビジネス風土 (1)			
第 14 回	アメリカの地域研究・総合研究	アメリカのビジネス風土 (2)			
第 15 回	アメリカの地域研究・総合研究	アメリカ経済の現状			

経済

授業番号	B200300001				
科目名 (英語表記)	英会話 III (English conversation I I I)				
担当者 (英語表記)	Scot Hill (Scot Hill)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This is an intermediate course in English speaking. It will include study in speaking, listening, vocabulary and grammar. Class work will be interactive, and students will be expected to work together in pairs as well as individually.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have basic English conversation ability and should have completed Speaking I and Speaking II.				
成績評価方法	Evaluation will be based on class participation, classroom work and tests.				
基準					
授業の予習・復習	Students should prepare by reading lessons before class and being familiar with the vocabulary in each lesson. Bringing a dictionary to class is recommended.				
教科書	English FIRSHAND 2				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction 1	Introductions and greetings			
第 2 回	Introduction 2	Question and answer practice			
第 3 回	Relationships 1	Interviewing			
第 4 回	Relationships 2	Verb tense review			
第 5 回	Emotions 1	Sharing news			
第 6 回	Emotions 2	If / will be / feelings			
第 7 回	Places and Travel 1	Understanding topics / planning a vacation			
第 8 回	Places and Travel 2	Comparatives and superlatives			
第 9 回	Test	Test 1-3			
第 10 回	Opinion adjectives	Describing an experience / stating opinions			
第 11 回	Problems and reasons 1	Reasons and responses			
第 12 回	Problems and reasons 2	Borrowing things / cause and effect clauses			
第 13 回	Symbols and traditions 1	Describing a trip / discussing your own culture			
第 14 回	Symbols and traditions 2	Relative pronouns and adjective clauses			
第 15 回	Test	Test 4-6			

経済

授業番号	B200310001				
科目名 (英語表記)	英会話 IV (English conversation I V)				
担当者 (英語表記)	Scot Hill (Scot Hill)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This is an intermediate course in English speaking. It will include speaking, listening, vocabulary and grammar. Class work will be interactive, and students will be expected to work together in pairs as well as individually.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have basic English conversation ability and should have completed Speaking I and Speaking II. This course is a continuation of Speaking III.				
成績評価方法	Evaluation will be based on class participation, classroom work and tests.				
基準					
授業の予習・復習	Students should prepare by reading lessons before class and being familiar with the vocabulary in each lesson. Bringing a dictionary to class is recommended.				
教科書	English FIRSHAND 2				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction 1	Introductions and greetings			
第 2 回	Introduction 2	Question and answer practice			
第 3 回	Experiences and past events 1	Talking about personal experiences			
第 4 回	Experiences and past events 2	Irregular past tense verbs			
第 5 回	Leisure time activities 1	Planning a party			
第 6 回	Leisure time activities 2	Auxiliary verbs / vocabulary			
第 7 回	Personal problems 1	Making decisions			
第 8 回	Personal problems 2	Unreal conditional verbs / advice			
第 9 回	Test	Test 7-9			
第 10 回	Storys	Describing something / simple past and past continuous verbs			
第 11 回	World issues 1	Discussing controversial topics			
第 12 回	World issues 2	Giving opinions / present perfect tense			
第 13 回	Dreams and goals 1	Understanding goals and identifying actions			
第 14 回	Dreams and goals 2	Discussing future events / verbs: will and be going to			
第 15 回	Test	Test 10-12			

経済

授業番号	B200100001		
科目名 (英語表記)	英語 I (English I)	(EX)	
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	正しい英語の発音の仕方をトレーニングし、カタカナ発音からの脱却を図る。また英語で自主的に発言することに慣れるために、会話演習を中心とした様々なペアワーク、グループワークを行う。さらに、TOEIC 対策用テキストを用い、リスニング力、語彙力を強化していく。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業前半で『リズムで覚える英語のリスニング』のテキストを使い、徹底的に発音のトレーニングをする。授業後半は『Fast Lane to the TOEIC Test』のテキストを使用して、TOEIC リスニングパートのスコアアップを目指す。		
成績評価方法	単語テスト 20%、発音テスト 10%、期末テスト 70%		
基準			
授業の予習・復習	予習：わからない単語を調べておく。単語テストの準備。 復習：発音の反復練習。		
教科書	根間弘海『リズムで覚える英語のリスニング』、Koji Hayakawa『Fast Lane to the TOEIC Test』		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Introduction 発音練習	母音 (基礎)	
第 2 回	発音練習 TOEIC Listening	子音 (基礎) Unit 1: Office Work	
第 3 回	発音練習 TOEIC Listening	子音 (応用) Unit 2: Meetings	
第 4 回	発音練習 TOEIC Listening	発音ゲーム (子音) Unit 3: Presentations	
第 5 回	発音練習 TOEIC Listening	子音、母音 (応用) Unit 4: Commercial Transactions	
第 6 回	発音練習 TOEIC Listening	母音 (応用) Unit 5: Marketing and Sales	
第 7 回	発音練習 TOEIC Listening	発音ゲーム (母音) Unit 6: Personnel	
第 8 回	発音練習	発音個別カウンセリング	
第 9 回	発音練習 TOEIC Listening	語の連結、子音の脱落 Unit 7: Business Trips	
第 10 回	発音練習 TOEIC Listening	隣接音の変化、弾き音の [D] Unit 8: Advertisement	
第 11 回	発音練習 TOEIC Listening	肯定、否定縮約形 Unit 9: Computers and the Internet	
第 12 回	発音練習 TOEIC Listening	縮約形、強勢 Unit 10: Economy	
第 13 回	発音練習 TOEIC Listening	弱形 Unit 11: Finance and Banking	
第 14 回	発音練習 TOEIC Listening	弱形、強形 Unit 12: Transportation	
第 15 回	発音練習	発音テスト	

経済

授業番号	B200100002				
科目名 (英語表記)	英語 I (English I)			(1)	
担当者 (英語表記)	伊東 隆子 (Takako Ito)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	主人公 Keiko Yamamoto を通して日本から San Francisco への「旅行編」を通して、アメリカ社会の文化的背景やマナーを理解し、実用的なコミュニケーションができるような対話練習を重ね、重要な英文や単語などを暗記できる練習をしていく。				
授業の進め方 (履修条件など)	はじめの30分間で前回の復習テストをし、用紙に記入して提出する。テキストに沿って授業を進めポイント事項は記述し、時には暗記をしていく。授業の進行次第で英語の pun (語呂合せ) に関するプリントを学習する。				
成績評価方法	定期試験 (60%)、授業参加態度 (20%)、提出物 (20%)。				
基準					
授業の予習・復習	予習では、テキストを読んでわからない単語や語句を調べておくこと。わからない英文などに印を付けておくこと。復習は、テキストを読んで内容の再確認をし、授業でのポイント事項を暗記しておく。				
教科書	Viva San Francisco: Macmillan Languagehouse				
参考文献	コミュニケーションのためのパターン別英文600: 金星堂				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法・復習テストの方法などの説明と自己紹介を所定用紙に記入する。			
第2回	Where do I get the bus?	空港での手続きで使用する英語表現を学習する。			
第3回	Do you have a reservation, Ma'am?	ホテル宿泊時に使用する英語表現を学習する。			
第4回	Could you repeat that?	道を尋ねる・道を教える英語表現を学習する。			
第5回	I'll take the wrangler convertible.	レンタカー会社での基本的な英語表現を学習する。			
第6回	Would you like a soup or salad?	レストランでの注文の仕方や食事に使う英語表現を学習する。			
第7回	Where's the fitting room?	shopping で、店員が使う英語表現と客が使う英語表現を学習する。			
第8回	Would you mind taking my picture?	初対面の人に丁寧に依頼するときや友人に許可を求めるときなど「望む・希望を言う」ときに使う英語表現を学習する。			
第9回	Good to see you!	親しい人への挨拶や様子を尋ねたり様子を聞かれたときの英語表現を学習する。			
第10回	I enjoyed my stay.	ホテルでの checkout 時や感謝や礼を言う時、別れの挨拶に使う英語表現を学習する。			
第11回	Aisle seat ,please.	空港の checkincounter や機内・税関で使われる英語表現を学習する。			
第12回	各 chapter(1~5) の "face the camera"	"face the camera" での重要英語表現をまとめる。			
第13回	各 chapter(6~10) の "face the camera"	chapter(6~10) の重要英語表現をまとめる。			
第14回	chapter1~5 までのまとめ。	chapter1~5 までの重要英語表現をまとめる。			
第15回	chapter6~10 までのまとめ。	chapter6~10 までの重要英語表現のまとめ。			

経済

授業番号	B200100003				
科目名 (英語表記)	英語 I (English I)	(2)			
担当者 (英語表記)	武井 みち子 (Michiko Takei)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	文法の理解に重点を置き、英語の基礎力を習得します。				
授業の進め方 (履修条件など)	文法解説後、学生が多数の練習問題を解き、英文を書いたり読んだりする力がつくように指導します。				
成績評価方法	定期試験 50%、授業への積極的参加度 50% で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：分からない単語を調べて授業に参加してください。 復習：文法事項の確認。				
教科書	「English Primer」 南雲堂				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	発音	発音とアクセントの学習			
第 2 回	英語の基本文型	英語の語順の学習			
第 3 回	Unit 1	be 動詞			
第 4 回	Unit 2	一般動詞 ( 現在 )			
第 5 回	Unit 3	一般動詞 ( 過去 )			
第 6 回	Unit 4.	進行形			
第 7 回	Unit 5	未来形			
第 8 回	Unit 16	現在完了形			
第 9 回	復習	英語の時 ( 現在 過去 未来 現在完了 ) の復習			
第 10 回	Unit 6	助動詞			
第 11 回	Unit 7	名詞・冠詞			
第 12 回	Unit 8	代名詞			
第 13 回	Unit 9	前置詞			
第 14 回	Unit 10	形容詞・副詞			
第 15 回	総復習	復習および試験の対策			



経済

授業番号	B200100004		
科目名 (英語表記)	英語 I (English I)	(3)	
担当者 (英語表記)	内野 泰子 (Yasuko Uchino)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	国際コミュニケーションのための英語力を身につけることを目指し、基本文法の復習に加えて、聞く、話す、読む、書くの4技能が向上する様々なアクティビティを通じた多角的学習を行います。		
授業の進め方 (履修条件など)	英語を使えるようになることを目指し、楽しく学習することを目指します。		
成績評価方法	平常点 50 パーセント、期末テスト 50 パーセントで評価します。		
基準			
授業の予習・復習	授業内で指示しますので、指示に必ず従って授業にのぞんで下さい。		
教科書	English Ace ( コミュニケーションのための実践基礎英語)、A. Yamamoto, N. Osuka, C. Mano, K. Okamoto, B. Rowlett, 成美堂		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Unit 1	be 動詞	
第 2 回	Unit 1	故郷を紹介しよう	
第 3 回	Unit 2	一般動詞	
第 4 回	Unit 2	趣味もいろいろ	
第 5 回	Unit 3	名詞、代名詞	
第 6 回	Unit 3	買い物に行くならどこ？	
第 7 回	Unit 4	Wh 疑問文	
第 8 回	Unit 4	クイズに挑戦	
第 9 回	Unit 5	前置詞	
第 10 回	Unit 5	理想的な住まいとは？	
第 11 回	Unit 6	接続詞	
第 12 回	Unit 6	好きな食べ物は何？	
第 13 回	Unit 7	過去形	
第 14 回	Unit 7	デートは最初が肝心	
第 15 回	前期のまとめ	Unit 1-7 のまとめ	

経済

授業番号	B200100005		
科目名 (英語表記)	英語 I (English I)	(4)	
担当者 (英語表記)	伊東 隆子 (Takako Ito)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	英語の基礎となる 5 文型を中心に英文の構造並びに各文型の構成要素である品詞の理解を深めていく。さらに、現在形から進行形・完了形へと英語の理解を進めていく。		
授業の進め方 (履修条件など)	はじめの 30 分で前回の授業の復習問題を用紙に記入し、提出する。テキストに沿って授業を進め、ポイント事項を記入し、時には暗記をしていく。授業の進行次第で英語の pun (語呂合わせ) に関するプリントを学習する。		
成績評価方法	定期試験 (60%)、授業参加態度 (20%)、課題提出 (20%)		
基準			
授業の予習・復習	予習では、テキストを読んで分からない英単語や熟語を調べておく。分らない英文には印を付けておく。復習では、テキストを再度読んで内容を理解し、授業でのポイント事項を暗記しておく。		
教科書	Basic College Writing with 5 sentence patterns: センゲージ ラーニング		
参考文献	英語日記表現書き込みドリル: アルク社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法・復習問題の扱い方などの説明と自己紹介を所定用紙に記入する。	
第 2 回	5 文型 (自動詞と他動詞)	自動詞と他動詞の区別と、5 文型の基本を学習する。	
第 3 回	S+V(+ 修飾語句)	S+V+ 副詞/前置詞句。There is(are)~/ Here is (are)~ 構文と Here+S+V 構文を学習する。	
第 4 回	S+V+C(1)	S+V+C 構文の補語 (C) が、名詞、代名詞、形容詞、分詞、to 不定詞、前置詞句の場合を学習する。	
第 5 回	S+V+C(2)	S+V+C の補語 (C) が to 不定詞、動名詞、前置詞句や名詞節の場合と、S+V+to be+C (形容詞) の構文を学習する。	
第 6 回	S+V+O(1)	S+V+O の目的語 (O) が、名詞、代名詞、to 不定詞、動名詞の構文の場合を学習する。	
第 7 回	S+V+O(2)	S+V+O+ 前置詞句や S+V+O の目的語 (O) が疑問詞 + to 不定詞、名詞節、引用句の構文の場合を学習する。	
第 8 回	S+V+IO+DO	S+V+IO+DO の間接目的語 (IO) が名詞と代名詞の場合と、直接目的語 (DO) が名詞、代名詞、疑問詞 +to 不定詞、名詞節、to 不定詞の構文の場合を学習する。	
第 9 回	S+V+O+C	S+V+O+C の目的語が、名詞、代名詞で補語が名詞、形容詞、現在分詞、過去分詞、前置詞句、原形動詞の場合を学習する。	
第 10 回	基本時制	現在時制、過去時制、未来時制の構文を学習する。	
第 11 回	進行形・完了形	現在 (過去) 進行形と現在完了形の構文を学習する。	
第 12 回	英語の pun (語呂合せ) のプリントを使っての 5 文型 (1)	L.H.Hill 氏のテキストから pun (語呂合せ) に関する簡単で面白い話を題材にして、5 文型を学習する。	
第 13 回	英語の pun のプリント (2)	L.H.Hill 氏のテキストから pun に関する簡単で面白い話を題材にして 5 文型の学習する。	
第 14 回	Unit 1~5 までのまとめ。	Unit 1~5 までの授業中でのポイント事項をまとめる。	
第 15 回	Unit 6~10 までのまとめ。	Unit 6~10 までの授業中のポイント事項をまとめる。	

経済

授業番号	B200100006		
科目名 (英語表記)	英語 I (English I)	(P)	
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	正しい英語の発音の仕方をトレーニングし、カタカナ発音からの脱却を図る。また英語で自主的に発言することに慣れるために、会話演習を中心とした様々なペアワーク、グループワークを行う。さらに、TOEIC 対策用テキストを用い、リスニング力、語彙力を強化していく。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業前半で『リズムで覚える英語のリスニング』のテキストを使い、徹底的に発音のトレーニングをする。授業後半は『Fast Lane to the TOEIC Test』のテキストを使用して、TOEIC リスニングパートのスコアアップを目指す。		
成績評価方法	単語テスト 20%、発音テスト 10%、期末テスト 70%		
基準			
授業の予習・復習	予習：わからない単語を調べておく。単語テストの準備。 復習：発音の反復練習。		
教科書	根間弘海『リズムで覚える英語のリスニング』、Koji Hayakawa『Fast Lane to the TOEIC Test』		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Introduction 発音練習	母音 (基礎)	
第 2 回	発音練習 TOEIC Listening	子音 (基礎) Unit 1: Office Work	
第 3 回	発音練習 TOEIC Listening	子音 (応用) Unit 2: Meetings	
第 4 回	発音練習 TOEIC Listening	発音ゲーム (子音) Unit 3: Presentations	
第 5 回	発音練習 TOEIC Listening	子音、母音 (応用) Unit 4: Commercial Transactions	
第 6 回	発音練習 TOEIC Listening	母音 (応用) Unit 5: Marketing and Sales	
第 7 回	発音練習 TOEIC Listening	発音ゲーム (母音) Unit 6: Personnel	
第 8 回	発音練習	発音個別カウンセリング	
第 9 回	発音練習 TOEIC Listening	語の連結、子音の脱落 Unit 7: Business Trips	
第 10 回	発音練習 TOEIC Listening	隣接音の変化、弾き音の [D] Unit 8: Advertisement	
第 11 回	発音練習 TOEIC Listening	肯定、否定縮約形 Unit 9: Computers and the Internet	
第 12 回	発音練習 TOEIC Listening	縮約形、強勢 Unit 10: Economy	
第 13 回	発音練習 TOEIC Listening	弱形 Unit 11: Finance and Banking	
第 14 回	発音練習 TOEIC Listening	弱形、強形 Unit 12: Transportation	
第 15 回	発音練習	発音テスト	

経済

授業番号	B200100007			
科目名 (英語表記)	英語 I (English I)	R (a)		
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	1	単位数
			1	1
授業のねらいと到達目標	TOEIC 対策用のテキストを使い、重要文法事項を整理しながら、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を磨き、英語でのコミュニケーション能力を上げるとともに、TOEIC のスコアアップを目指す。			
授業の進め方 (履修条件など)	授業前半では、TOEIC リスニングパートの演習を通じて、英語の聞き取りのポイントを押さえるとともに、重要単語、フレーズを学び、発音練習を行う。授業後半では、TOEIC リーディングパートの演習を通じて、重要文法事項の確認と、様々なタイプの英文読解を行う。			
成績評価方法	単語テスト 20%、定期試験 80%			
基準				
授業の予習・復習	予習：文法事項のまとめを読んでおく。 復習：重要単語の確認と、単語テストの準備をする。			
教科書	Masami Tanabe『The TOEIC Test Trainer Target 350』			
参考文献				
回数	授業項目	授業内容		
第 1 回	Introduction	Pre-test		
第 2 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 1: 自動詞と他動詞		
第 3 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 2: 形容詞・副詞・前置詞		
第 4 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 3: 名詞と冠詞		
第 5 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 4: 進行形		
第 6 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 5: 完了形		
第 7 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 6: 不定詞		
第 8 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 7: 動名詞		
第 9 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 8: 関係代名詞と関係副詞		
第 10 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 9: 複文		
第 11 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 10: 受動態		
第 12 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 11: 分詞		
第 13 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 12: 比較表現		
第 14 回	TOEIC Listening & Reading	Post-test		
第 15 回	TOEIC Listening & Reading	まとめ		

経済

授業番号	B200100008				
科目名 (英語表記)	英語 I (English I)			R (b)	
担当者 (英語表記)	田 文揚 (Fumiaki Den)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	これまでの学習の中で見落としや、理解が不十分な学習項目について英語力を補強する。より多様でしかもタイムリーな教材を用い、読む力・聴く力を中心に英語力の涵養をめざす。				
授業の進め方 (履修条件など)	TOEIC テストの形式で編集されたテキストを主に用いて、各テーマ、トピックスごとの設問に答えることを通して listening や reading の力を養う。また、定期的に課ごとに小テストを実施し習熟度を確認する。				
成績評価方法	定期テスト (50%)・授業内小テスト (10%)・レポート及びその他の課題 (10%) にて評価。				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習 各チャプターの中の未知の単語やイディオム及び、不確かな文法事項を調べする。</p> <p>復習 既習事項を付属のCDを用いて反芻する。また、配布したプリント教材を再度一読する。</p>				
教科書	"Essential Approach for the TOEIC TEST" 成美堂 大須賀直子・塚野壽一				
参考文献	授業の進行に従い、適宜創作教材や投げ込み教材 (創作教材・ニュース記事・文法資料) を配布する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義に関するガイダンス。	講義の進め方と評価、受講要領の説明。次週実施予定のミニテストの概要説明。			
第2回	ミニ (簡易) TOEIC TEST.	簡易 TOEIC TEST を実施後解答及び解説をする。			
第3回	UNIT 1	聴き取る技術 : 音の変化と音の脱落。			
第4回	UNIT 2	聴き取る技術 : ナチュラルスピード・名詞。			
第5回	UNIT 2	聴き取る技術 : 子音と母音の連結・発音記号。			
第6回	UNIT 2	聴き取る技術 : 紛らわしい音・冠詞・形容詞。			
第7回	UNIT 3	読み取る技術 : 語義・品詞。			
第8回	UNIT 3	読み取る技術 : 分の構造・副詞。			
第9回	UNIT 4	読み取る技術 : パラグラフ・大意把握。			
第10回	UNIT 4	読み取る技術 : 主題の発見・比較。			
第11回	UNIT 5	書き取る技術 : 作文の基礎ルール。			
第12回	UNIT 5	書き取る技術 : 作文の実際・動詞と時。			
第13回	UNIT 6	書き取る技術 : Eメールの作文表現。			
第14回	UNIT 6	書き取る技術 : 履歴書の作成。			
第15回	Review & Consolidation [ 講義のまとめ ]	これまでの学習の復習とまとめ。			

経済

授業番号	B200110001		
科目名 (英語表記)	英語 II (English I I)	(E X)	
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	1 単位数 1
授業のねらいと到達目標	比較的平易な文章で書かれたテキストを、速読および熟読することによって、語彙力、読解力の向上を図る。並行して、TOEIC 対策のテキストを用い、重要文法事項を確認しながら、TOEIC リーディングパートのスコアアップを目指す。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業前半は、英文読解の演習として、『More Two-Minute Mysteries』を一定時間内に読み、内容に関する演習をグループワークなどで取り組む。授業後半は『Fast Lane to the TOEIC Test』のテキストを使用して、重要文法事項の確認と、様々なタイプの英文読解を行う。		
成績評価方法	読解演習 30%、期末テスト 70%		
基準			
授業の予習・復習	予習：『Fast Lane to the TOEIC Test』の問題を解いておく。わからない単語は意味を調べておく。 復習：『More Two-Minute Mysteries』の内容を確認する。		
教科書	Donald Sobol 『More Two-Minute Mysteries』、Koji Hayakawa 『Fast Lane to the TOEIC Test』		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Introduction 読解演習	『More Two-Minute』, pp.2-3	
第 2 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.4-7 Unit 1: Office Work	
第 3 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.8-11 Unit 2: Meetings	
第 4 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.12-15 Unit 3: Presentations	
第 5 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.16-19 Unit 4: Commercial Transactions	
第 6 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.20-23 Unit 5: Marketing and Sales	
第 7 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.24-27 Unit 6: Personnel	
第 8 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.28-31 Unit 7: Business Trips	
第 9 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.32-35 Unit 8: Advertisement	
第 10 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.36-39 Unit 9: Computers and the Internet	
第 11 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.40-43 Unit 10: Economy	
第 12 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.44-47 Unit 11: Finance and Banking	
第 13 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.48-51 Unit 12: Transportation	
第 14 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.52-55 Unit 13: Dining	
第 15 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.56-59 Unit 14: Entertainment	

# 経済

授業番号	B200110002				
科目名 (英語表記)	英語 II (English I I)			(1)	
担当者 (英語表記)	伊東 隆子 (Takako Ito)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	主人公 Keiko Yamamoto を通して日本から San Francisco での「留学」体験からアメリカ社会の文化的背景やマナーを理解し、実用的なコミュニケーションを学んでいく。その際使われる英文や語句などを対話練習で習得していく。				
授業の進め方 (履修条件など)	はじめの30分間で前回の授業の復習問題をし、用紙に記入して提出する。テキストに沿って授業を進め、ポイント事項は記述し、時には暗記する。授業の進行次第で英語の pun (語呂合せ) のプリントを学習する。				
成績評価方法	定期試験 (60%)、授業参加態度 (20%)、提出物 (20%)				
基準					
授業の予習・復習	予習は、テキストを読んで分からない英単語や語句を調べて置くこと。またわからない英文には印を付けておく。復習では、テキストを読んで内容の理解をし、ポイント事項を暗記しておく。				
教科書	Viva San Francisco :MaCmillan Languagehouse				
参考文献	コミュニケーションのためのパターン別英文600 : 金星堂				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	前期授業の総復習	前期授業で習得したポイント事項の再確認と復習問題を記述し提出する。授業の進行状態では、英語の pun (語呂合わせ) のプリントを行う。			
第2回	You are one of the family now.	ホームステイ先での生活習慣の違いや文化的背景を学習する。			
第3回	I want to help!	ホームステイ先での歓迎パーティで使われる「好みを尋ねる」「申し出を受ける」「申し出る」表現を学習する。			
第4回	So,what's your major?	授業中に使われる表現を学習する。「自己紹介・紹介された時の挨拶・忠告」			
第5回	I'll try to do my best.	授業では、積極的な態度で自分の意見を述べる時の表現を学習する。「助言を求める・体調・様子を探ねる・心配しているという」			
第6回	When do I have to return this?	図書館で使う表現を学習する。「許可を求める・～しなければならぬか尋ねる・許可を与える」			
第7回	Do you have any ID?	両替所で使われる表現を学習する。「銀行での基本的な会話・銀行で客が使う表現・銀行員が使う表現」			
第8回	How about sea mail?	郵便局で使われる表現を学習する。			
第9回	Would you like to join us?	人を誘う時や、誘われたり、それらを受けたり、断ったりするときの表現を学習する。			
第10回	I have a sore throat.	病院や薬局での使われる表現を学習する。「医者が使う表現・体が悪い時の表現・忠告を求める」			
第11回	Let' s keep in touch,OK?	別れるときの表現を学習する。「別れの挨拶・分かれる時に使いたい表現」			
第12回	各 chapter(11~15) の "face the camera"	chapter(11~15) の "face the camera" での重要表現をまとめる。			
第13回	各 chapter(16~20) の "face the camera"	chapter(16~20) の "face the camera" での重要表現をまとめる。			
第14回	chapter 11~15 までのまとめ。	chapter11~15 までの重要英語表現をまとめる。			
第15回	chapter 16~20 までのまとめ。	chapter 16~20 までの英語重要表現をまとめる。			

経済

授業番号	B200110003				
科目名 (英語表記)	英語 II (English I I)			(2)	
担当者 (英語表記)	武井 みち子 (Michiko Takei)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	文法の理解に重点を置き、英語の基礎力を習得します。				
授業の進め方 (履修条件など)	文法解説後、学生が多数の練習問題を解き、英文を書いたり読んだりする力がつくように指導します。				
成績評価方法	定期試験 50%、授業への積極的参加度 50% で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：分からない単語を調べて授業に参加してください。 復習：文法事項の確認。				
教科書	「English Primer」 南雲堂				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Unit 11	比較			
第 2 回	Unit 12	命令文・感嘆文			
第 3 回	Unit 13	接続詞 ( I )			
第 4 回	Unit 14	不定詞 ( I ) 動名詞 ( I )			
第 5 回	Unit 15	受動態			
第 6 回	Unit 17	接続詞 ( II )			
第 7 回	Unit 18	5 つの基本文型			
第 8 回	Unit 19	各種疑問文			
第 9 回	Unit 20	不定詞 ( II )			
第 10 回	Unit 21	It の特別用法			
第 11 回	分詞	現在分詞と過去分詞の学習			
第 12 回	Unit 22	分詞・動名詞 ( II )			
第 13 回	Unit 23	関係代名詞			
第 14 回	Unit 24	仮定法			
第 15 回	総復習	復習および試験の対策			



経済

授業番号	B200110004		
科目名 (英語表記)	英語 II (English I I)	(3)	
担当者 (英語表記)	内野 泰子 (Yasuko Uchino)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	国際コミュニケーションのための英語力を身につけることを目指し、基本文法の復習に加えて、聞く、話す、読む、書くの4技能が向上する様々なアクティビティを通じた多角的学習を行います。		
授業の進め方 (履修条件など)	英語を使えるようになることを目指し、楽しく学習することを目指します。		
成績評価方法	平常点 50 パーセント、期末テスト 50 パーセントで評価します。		
基準			
授業の予習・復習	授業内で指示しますので、指示に必ず従って授業にのぞんで下さい。		
教科書	English Ace ( コミュニケーションのための実践基礎英語)、A. Yamamoto, N. Osuka, C. Mano, K. Okamoto, B. Rowlett, 成美堂		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Unit 8	進行形	
第 2 回	Unit 8	探偵は真実を求める	
第 3 回	Unit 9	現在完了形	
第 4 回	Unit 9	経歴を話そう	
第 5 回	Unit 10	未来表現	
第 6 回	Unit 10	パーティーに行こう！	
第 7 回	Unit 11	助動詞	
第 8 回	Unit 11	ルールにもお国柄	
第 9 回	Unit 12	受動態	
第 10 回	Unit 12	発明、発見はひらめきが大切	
第 11 回	Unit 13	形容詞、副詞	
第 12 回	Unit 13	映画評論	
第 13 回	Unit 14	比較級、最上級	
第 14 回	Unit 14	世界記録もさまざま	
第 15 回	Unit 15	不定詞、動名詞 / 将来の夢を語ろう	

経済

授業番号	B200110005		
科目名 (英語表記)	英語 II (English I I)	(4)	
担当者 (英語表記)	伊東 隆子 (Takako Ito)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	英語の基礎となる 5 文型の応用編を理解するため、郡動詞・助動詞・受動態・比較表現・否定表現・関係詞・接続詞・仮定法を学習していく。		
授業の進め方 (履修条件など)	はじめの 30 分で前回の授業の復習問題を用紙に記述し、提出する。テキストに沿って授業を進め、ポイント事項を記述し、時には暗記をしていく。授業の進行次第で英語の pun( 語呂合わせ) に関するプリントを学習する。		
成績評価方法	定期試験 (60%)、授業参加態度 (20%)、提出物 (20%)。		
基準			
授業の予習・復習	予習では、テキストを読んで分からない英単語・熟語を調べておく。わからない英文などに印を付けておくこと。復習では、テキストを再度読んで内容を理解し、授業でのポイント事項を暗記しておく。		
教科書	Basic College Writing with 5 sentence patterns: センゲージ ラーニング		
参考文献	秩序英作文：文英堂		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	前期授業の総復習	前期授業で習得したポイント事項の再確認と復習問題を記述し提出する。授業の進行状態では、英語の pun のプリントを行う。	
第 2 回	主語の選択	形式主語の it・強調構文・天候・時刻・距離・明暗・寒暖などを表す it、to 不定・動名詞 (doing)・名詞節・一般の人々が主語の場合を学習する。	
第 3 回	郡動詞の活用	動詞 + 前置詞、動詞 + 副詞、動詞 + 副詞 + 前置詞、動詞 + 名詞 + 前置詞の活用を学習する。	
第 4 回	助動詞の活用 (1)	can / could, may / might, must, will / would, shall /should の活用を学習する。	
第 5 回	助動詞の活用 (2)	be able to do= can , have todo~, ought to do ~, used to do~, had better do~, would like to do~, would rather do~, 助動詞 + have done の活用を学習する。	
第 6 回	受動態の活用	受動態の時制、受動態にならない動詞、by 以外の前置詞を用いる受動態、be 動詞以外の動詞を用いる受動態を学習する。	
第 7 回	比較表現の活用	原級、比較級、最上級、注意すべき比較構文を学習する。	
第 8 回	否定表現の活用	否定語、準否定語、部分否定、二重否定、否定語を用いない慣用表現を学習する。	
第 9 回	関係詞の活用	関係代名詞 (先行詞が人と物の場合)、関係代名詞 (that,what), 前置詞 + 関係代名詞、関係副詞などを学習する。	
第 10 回	接続詞の活用	当位接続詞、相関接続詞、従位接続詞などを学習する。	
第 11 回	仮定法の活用	wishi, if を使った仮定法、仮定法の慣用表現、if なしの仮定法などを学習する。	
第 12 回	英語の pun (語呂合わせ) を使った学習 (1)	L.H.Hill 氏のテキストから pun に関する簡単で面白い話を学習する。	
第 13 回	pun の学習 (2)	L.H.Hill 氏のテキストから pun に関する簡単で面白い話を学習する。	
第 14 回	Unit 11~15 までのまとめ	Int 11~15 までの授業中でのポイント事項をまとめる。	
第 15 回	Unit 16~20 までのまとめ	Unit 16~20 までの授業中のポイント事項をまとめる。	

経済

授業番号	B200110006				
科目名 (英語表記)	英語 II (English I I)			(P)	
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	比較的平易な文章で書かれたテキストを、速読および熟読することによって、語彙力、読解力の向上を図る。並行して、TOEIC 対策のテキストを用い、重要文法事項を確認しながら、TOEIC リーディングパートのスコアアップを目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業前半は、英文読解の演習として、『More Two-Minute Mysteries』を一定時間内に読み、内容に関する演習をグループワークなどで取り組む。授業後半は『Fast Lane to the TOEIC Test』のテキストを使用して、重要文法事項の確認と、様々なタイプの英文読解を行う。				
成績評価方法	読解演習 30%、期末テスト 70%				
基準					
授業の予習・復習	予習：『Fast Lane to the TOEIC Test』の問題を解いておく。わからない単語は意味を調べておく。 復習：『More Two-Minute Mysteries』の内容を確認する。				
教科書	Donald Sobol 『More Two-Minute Mysteries』、Koji Hayakawa 『Fast Lane to the TOEIC Test』				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction 読解演習	『More Two-Minute』, pp.2-3			
第 2 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.4-7 Unit 1: Office Work			
第 3 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.8-11 Unit 2: Meetings			
第 4 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.12-15 Unit 3: Presentations			
第 5 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.16-19 Unit 4: Commercial Transactions			
第 6 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.20-23 Unit 5: Marketing and Sales			
第 7 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.24-27 Unit 6: Personnel			
第 8 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.28-31 Unit 7: Business Trips			
第 9 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.32-35 Unit 8: Advertisement			
第 10 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.36-39 Unit 9: Computers and the Internet			
第 11 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.40-43 Unit 10: Economy			
第 12 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.44-47 Unit 11: Finance and Banking			
第 13 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.48-51 Unit 12: Transportation			
第 14 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.52-55 Unit 13: Dining			
第 15 回	読解演習 TOEIC Reading	『More Two-Minute』, pp.56-59 Unit 14: Entertainment			

経済

授業番号	B200110007				
科目名 (英語表記)	英語 II (English I I)			R (a)	
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	TOEIC 対策用のテキストを使い、重要文法事項を整理しながら、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を磨き、英語でのコミュニケーション能力を上げるとともに、TOEIC のスコアアップを目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業前半では、TOEIC リスニングパートの演習を通じて、英語の聞き取りのポイントを押さえるとともに、重要単語、フレーズを学び、発音練習を行う。授業後半では、TOEIC リーディングパートの演習を通じて、重要文法事項の確認と、様々なタイプの英文読解を行う。				
成績評価方法	単語テスト 20%、定期試験 80%				
基準					
授業の予習・復習	予習：文法事項のまとめを読んでおく。 復習：重要単語の確認と、単語テストの準備をする。				
教科書	Masami Tanabe『The TOEIC Test Trainer Target 470』				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	Pre-test			
第 2 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 1: 動詞・5 文型			
第 3 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 2: 名詞			
第 4 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 3: 形容詞・副詞			
第 5 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 4: フレーズリーディング			
第 6 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 5: 動名詞			
第 7 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 6: 不定詞			
第 8 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 7: 分詞			
第 9 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 8: スキャニング			
第 10 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 9: 受動態			
第 11 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 10: 比較			
第 12 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 11: 関係詞			
第 13 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 12: スキミング			
第 14 回	TOEIC Listening & Reading	Post-test			
第 15 回	TOEIC Listening & Reading	まとめ			

経済

授業番号	B200110008				
科目名 (英語表記)	英語 II (English I I)			R (b)	
担当者 (英語表記)	田 文揚 (Fumiaki Den)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>これまでの英語学習を更に発展させ、より高度な文章の読解と聴解の力を身につける。 また INPUT [ 読む・聴く ] から更に OUTPUT [ 書く・話す ] の力へと発展させて力を身につける。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>TOEIC の形式のテキストを主に用いて、各テーマ・トピックスごとの設問や課題に答えることを通して Listening や Reading 更には Writing の力を養う。また、適宜タイムリーな投げ込み教材や今日的な話題を取り上げるなどして、より多様な表現に慣れさせる。小テストを実施して到達度を確認する。</p>				
成績評価方法	<p>定期試験 (80%) ・ 授業内小テスト (10%) ・ レポート及びその他の課題 (10%) により評価。</p>				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習 各チャプターの未知の単語やイディオムを調べ、不確かな文法事項について下調べしておく。 復習 付属のCDを用い復習する。</p>				
教科書	<p>" Essential Approach for the TOEIC TEST" 成美堂 大須賀直子 ・ 塚野壽一</p>				
参考文献	<p>授業の進行に従い、適宜創作教材・投げ込み教材 (ニュース記事・文法資料等) を配布する。</p>				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義のガイダンス及び課題テスト	講義の進め方の説明及び課題のイディオムテストを実施する。			
第 2 回	UNIT 7	ローンワードとカタカナ英語&帰化語。			
第 3 回	UNIT 7&8	主語と動詞の呼応・時制の一致。			
第 4 回	UNIT 8&9	トピックスからの情報選択・能動と受動。			
第 5 回	UNIT 9&10	トピックスの場面をイメージする・分詞。			
第 6 回	プリントによる投げ込み教材	ニュースや物語を読む。			
第 7 回	UNIT 11	英文のショートストーリーの特徴を見つける・修飾句。			
第 8 回	UNIT 11&12	飛ばし読みの技術と実際。			
第 9 回	UNIT 12	Topic Sentence & Outline・接続詞。			
第 10 回	UNIT 13&14	大意把握と要約・関係詞。			
第 11 回	UNIT 14&15	速読の試み・前置詞と接続詞。			
第 12 回	UNIT 15	速読の実際・不定詞と動名詞。			
第 13 回	プリントによる投げ込み教材	ファニーストーリーを楽しむ・条件文と仮定法。			
第 14 回	論説文を読む・比較表現。	異文化理解に関する論説文を読む。			
第 15 回	Review & Consolidation	これまでの講義の総復習とまとめ。			

経済

授業番号	B200120001		
科目名 (英語表記)	英語 III (English I I I)	(E X)	
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	英語のポップソングを通して、リスニングやスピーキング (特に発音)、リーディング、文法などを総合的に学習していく。それぞれの歌の背景にある、英語圏の文化、社会についての理解を深めることを狙いとする。		
授業の進め方 (履修条件など)	最初に英語の音声の特徴について学び、リスニング、発音練習を行う。毎回、英語のポップソング一曲を取り上げ、聞き取りの演習を行い、その歌の意味や背景に関するエッセイのリーディングを行う。授業はペアワーク、グループワークが中心となるので、受講者の積極的な姿勢が望まれる。		
成績評価方法	授業内演習 20%、定期試験 80%		
基準			
授業の予習・復習	予習：わからない単語を調べておく。 復習：Unit 内の英文エッセイをもう一度読み直す。		
教科書	Nobuhiro Kumai 『Top of the Pops Listening』		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Introduction	テキストの説明 Sample Songs	
第 2 回	Listening & Reading	Unit 1: 強弱のリズム Sailing (Rod Stewart)	
第 3 回	Listening & Reading	Unit 2: 変化する音 (1) Wild Child (Enya)	
第 4 回	Listening & Reading	Unit 3: 変化する音 (2) Selfish (*NSYNC)	
第 5 回	Listening & Reading	Unit 4: 聞こえなくなる音 (1) I Want It That Way (Backstreet Boys)	
第 6 回	Listening & Reading	Unit 5: 聞こえなくなる音 (2) There You'll Be (Faith Hill)	
第 7 回	Listening & Reading	Unit 6: 聞こえなくなる音 (3) On Bended Knee (Boyz II Men)	
第 8 回	Listening & Reading	Unit 7: つながる音 (1) I'm Not a Girl, Not Yet a Woman (Britney Spears)	
第 9 回	Listening & Reading	Unit 8: つながる音 (2) Hard to Say I'm Sorry (Chicago)	
第 10 回	Listening & Reading	Unit 9: 短くなる音 (1) All the Love in the World (The Corrs)	
第 11 回	Listening & Reading	Unit 10: 短くなる音 (2) Heart of Mine (Boyz II Men)	
第 12 回	Listening & Reading	Unit 11: 短くなる音 (3) Goodbye Yellow Brick Road (Elton John)	
第 13 回	Listening & Reading	Unit 12: 弱くなる音 Wind beneath My Wings (Bette Midler)	
第 14 回	Listening & Reading	Sample Songs 2	
第 15 回	Listening & Reading	まとめ	

経済

授業番号	B200120002		
科目名 (英語表記)	英語 III (English I I I)	(1)	
担当者 (英語表記)	武井 みち子 (Michiko Takei)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	英語総合力の向上を目指します。		
授業の進め方 (履修条件など)	語彙、文法など基本的な学習事項を基に、読解力、作文力、聴力を伸ばします。		
成績評価方法	定期試験 50%、授業への積極的参加度 50% で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習： 分からない単語を調べて授業に出席してください。 復習： 文法事項の整理・定着		
教科書	「Power Up English < Intermediate >」 南雲堂		
参考文献	授業中に指示します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	発音	発音とアクセントの学習	
第 2 回	発音	発音・アクセント・イントネーションの演習	
第 3 回	英語の基本文型	英語の語順の学習	
第 4 回	Unit 1	文の構成	
第 5 回	Unit 2	主部を見分ける訓練	
第 6 回	Unit 3	目的語になるもの	
第 7 回	Unit 4	補語になるもの	
第 8 回	Unit 5	基本 5 文型	
第 9 回	Unit 6	完了時制・句動詞	
第 10 回	Unit 7	知覚動詞・使役動詞	
第 11 回	分詞	現在分詞・過去分詞の学習	
第 12 回	Unit 8	修飾語となるもの： 句	
第 13 回	関係代名詞	関係代名詞の学習	
第 14 回	Unit 9	修飾語となるもの： 節	
第 15 回	総復習	復習および試験の対策	

経済

授業番号	B200120003		
科目名 (英語表記)	英語 III (English I I I)	(3)	
担当者 (英語表記)	伊東 隆子 (Takako Ito)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	主人公 Keiko Yamamoto を通して日本から San Francisco への「旅行編」を通して、アメリカ社会の文化的背景やマナーを理解し、実用的なコミュニケーションができるような対話練習を重ね、重要な英文や単語などを暗記できる練習をしていく。		
授業の進め方 (履修条件など)	はじめの30分間で前回の復習テストをし、用紙に記入して提出する。テキストに沿って授業を進めポイント事項は記述し、時には暗記をしていく。授業の進行次第で英語の pun (語呂合せ) に関するプリントを学習する。		
成績評価方法	定期試験 (60%) 授業参加態度 (20%)、提出物 (20%)。		
基準			
授業の予習・復習	予習では、テキストを読んでわからない単語や語句を調べておくこと。わからない英文などに印を付けておくこと。復習は、テキストを読んで内容の再確認をし、授業でのポイント事項を暗記しておく。		
教科書	Viva San Francisco:MaCmillan Languagehouse		
参考文献	コミュニケーションのためのパターン別英文600:金星堂		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法・復習テストの方法などの説明と自己紹介を所定用紙に記入する。	
第2回	Where do I get the bus?	空港での手続きで使用する英語表現を学習する。	
第3回	Do you have a reservation, Ma'am?	ホテル宿泊時に使用する英語表現を学習する。	
第4回	Could you repeat that?	道を尋ねる・道を教える英語表現を学習する。	
第5回	I'll take the wrangler convertible.	レンタカー会社での基本的な英語表現を学習する。	
第6回	Would you like a soup or salad?	レストランでの注文の仕方や食事に使う英語表現を学習する。	
第7回	Where's the fitting room?	shopping で、店員が使う英語表現と客が使う英語表現を学習する。	
第8回	Would you mind taking my picture?	初対面の人に丁寧に依頼するときや友人に許可を求めるときなど「望む・希望を言う」ときに使う英語表現を学習する。	
第9回	Good to see you!	親しい人への挨拶や様子を尋ねたり様子を聞かれたときの英語表現を学習する。	
第10回	I enjoyed my stay.	ホテルでの checkout 時や感謝や礼を言う時、別れの挨拶に使う英語表現を学習する。	
第11回	Aisle seat ,please.	空港の checkincounter や機内・税関で使われる英語表現を学習する。	
第12回	各 chapter(1~5) の "face the camera"	"face the camera" での重要英語表現をまとめる。	
第13回	各 chapter(6~10) の "face the camera"	chapter(6~10) の重要英語表現をまとめる。	
第14回	chapter1~5 までのまとめ。	chapter1~5 までの重要英語表現をまとめる。	
第15回	chapter6~10 までのまとめ。	chapter6~10 までの重要英語表現のまとめ。	



経済

授業番号	B200120004		
科目名 (英語表記)	英語 III (English I I I)	(4)	
担当者 (英語表記)	武井 みち子 (Michiko Takei)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	様々なテーマに関する英文を効率的に読む英語力を養うとともに、英文を聴く力の向上を目指します。		
授業の進め方 (履修条件など)	文法解説後、演習で文法事項の定着を図ります。また、日常生活に密着したテーマの英文を読み、聴き、読解力と聴く力を磨きます。		
成績評価方法	定期試験 50%、授業への積極的参加度 50% で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：分からない単語を調べて授業に参加してください。 復習：文法の確認。		
教科書	「Power Up English <Basic>」 南雲堂		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	発音	発音とアクセントの学習	
第 2 回	英語の基本文型	英語の語順の学習	
第 3 回	Unit 1	Personal Correspondence ( 1 )	
第 4 回	Unit 2	Personal Correspondence ( 2 )	
第 5 回	Unit 3	Biography ( 1 )	
第 6 回	Unit 4	Biography ( 2 )	
第 7 回	Unit 5	Events & Festivals	
第 8 回	関係代名詞	関係代名詞の学習	
第 9 回	Unit 6	Directions & Locations ( ! )	
第 10 回	Unit 7	Directions & Locations ( 2 )	
第 11 回	Unit 8	Directions & Locations ( 3 )	
第 12 回	Unit 9	Occupations ( 1 )	
第 13 回	Unit 10	Occupations ( 2 )	
第 14 回	分詞	現在分詞・過去分詞の学習	
第 15 回	総復習	復習および試験の対策	

# 経済

授業番号	B200120005		
科目名 (英語表記)	英語 III (English I I I)	(6)	
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	英語のポップソングを通して、リスニングやスピーキング (特に発音)、リーディング、文法などを総合的に学習していく。それぞれの歌の背景にある、英語圏の文化、社会についての理解を深めることを狙いとする。		
授業の進め方 (履修条件など)	最初に英語の音声の特徴について学び、リスニング、発音練習を行う。毎回、英語のポップソング一曲を取り上げ、聞き取りの演習を行い、その歌の意味や背景に関するエッセイのリーディングを行う。授業はペアワーク、グループワークが中心となるので、受講者の積極的な姿勢が望まれる。		
成績評価方法	授業内演習 20%、定期試験 80%		
基準			
授業の予習・復習	予習：わからない単語を調べておく。 復習：Unit 内の英文エッセイをもう一度読み直す。		
教科書	Nobuhiro Kumai 『Top of the Pops Listening』		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Introduction	テキストの説明 Sample Songs	
第 2 回	Listening & Reading	Unit 1: 強弱のリズム Sailing (Rod Stewart)	
第 3 回	Listening & Reading	Unit 2: 変化する音 (1) Wild Child (Enya)	
第 4 回	Listening & Reading	Unit 3: 変化する音 (2) Selfish (*NSYNC)	
第 5 回	Listening & Reading	Unit 4: 聞こえなくなる音 (1) I Want It That Way (Backstreet Boys)	
第 6 回	Listening & Reading	Unit 5: 聞こえなくなる音 (2) There You'll Be (Faith Hill)	
第 7 回	Listening & Reading	Unit 6: 聞こえなくなる音 (3) On Bended Knee (Boyz II Men)	
第 8 回	Listening & Reading	Unit 7: つながる音 (1) I'm Not a Girl, Not Yet a Woman (Britney Spears)	
第 9 回	Listening & Reading	Unit 8: つながる音 (2) Hard to Say I'm Sorry (Chicago)	
第 10 回	Listening & Reading	Unit 9: 短くなる音 (1) All the Love in the World (The Corrs)	
第 11 回	Listening & Reading	Unit 10: 短くなる音 (2) Heart of Mine (Boz Scaggs)	
第 12 回	Listening & Reading	Unit 11: 短くなる音 (3) Goodbye Yellow Brick Road (Elton John)	
第 13 回	Listening & Reading	Unit 12: 弱くなる音 Wind beneath My Wings (Bette Midler)	
第 14 回	Listening & Reading	Sample Songs 2	
第 15 回	Listening & Reading	まとめ	

経済

授業番号	B200120006		
科目名 (英語表記)	英語 III (English I I I)	(P)	
担当者 (英語表記)	伊東 隆子 (Takako Ito)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	英語の基礎となる 5 文型を中心に英文の構造並びに各文型の構成要素である品詞の理解を深めていく。さらに、現在形から進行形・完了形へと英語の理解を進めていく。		
授業の進め方 (履修条件など)	はじめの 30 分で前回の授業の復習問題を用紙に記入し、提出する。テキストに沿って授業を進め、ポイント事項を記入し、時には暗記をしていく。授業の進行次第で英語の pun (語呂合わせ) に関するプリントを学習する。		
成績評価方法	定期試験 (60%)、授業参加態度 (20%)、課題提出 (20%)		
基準			
授業の予習・復習	予習では、テキストを読んで分からない英単語や熟語を調べておく。分らない英文には印を付けておく。復習では、テキストを再度読んで内容を理解し、授業でのポイント事項を暗記しておく。		
教科書	Basic College Writing with 5 sentence patterns: センゲージ ラーニング		
参考文献	英語日記表現書き込みドリル: アルク社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法・復習問題の扱い方などの説明と自己紹介を所定用紙に記入する。	
第 2 回	5 文型 (自動詞と他動詞)	自動詞と他動詞の区別と、5 文型の基本を学習する。	
第 3 回	S+V(+ 修飾語句)	S+V+ 副詞/前置詞句。There is(are)~/ Here is (are)~ 構文と Here+S+V 構文を学習する。	
第 4 回	S+V+C(1)	S+V+C 構文の補語 (C) が、名詞、代名詞、形容詞、分詞、to 不定詞、前置詞句の場合を学習する。	
第 5 回	S+V+C(2)	S+V+C の補語 (C) が to 不定詞、動名詞、前置詞句や名詞節の場合と、S+V+to be+C (形容詞) の構文を学習する。	
第 6 回	S+V+O(1)	S+V+O の目的語 (O) が、名詞、代名詞、to 不定詞、動名詞の構文の場合を学習する。	
第 7 回	S+V+O(2)	S+V+O+ 前置詞句や S+V+O の目的語 (O) が疑問詞 + to 不定詞、名詞節、引用句の構文の場合を学習する。	
第 8 回	S+V+IO+DO	S+V+IO+DO の間接目的語 (IO) が名詞と代名詞の場合と、直接目的語 (DO) が名詞、代名詞、疑問詞 +to 不定詞、名詞節、to 不定詞の構文の場合を学習する。	
第 9 回	S+V+O+C	S+V+O+C の目的語が、名詞、代名詞で補語が名詞、形容詞、現在分詞、過去分詞、前置詞句、原形動詞の場合を学習する。	
第 10 回	基本時制	現在時制、過去時制、未来時制の構文を学習する。	
第 11 回	進行形・完了形	現在 (過去) 進行形と現在完了形の構文を学習する。	
第 12 回	英語の pun (語呂合せ) のプリントを使つての 5 文型 (1)	L.H.Hill 氏のテキストから pun (語呂合せ) に関する簡単で面白い話を題材にして、5 文型を学習する。	
第 13 回	英語の pun のプリント (2)	L.H.Hill 氏のテキストから pun に関する簡単で面白い話を題材にして 5 文型の学習する。	
第 14 回	Unit 1~5 までのまとめ。	Unit 1~5 までの授業中でのポイント事項をまとめる。	
第 15 回	Unit 6~10 までのまとめ。	Unit 6~10 までの授業中のポイント事項をまとめる。	

経済

授業番号	B200120007		
科目名 (英語表記)	英語 III (English I I I)	R (a)	
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	TOEIC 対策用のテキストを使い、重要文法事項を整理しながら、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を磨き、英語でのコミュニケーション能力を上げるとともに、TOEIC のスコアアップを目指す。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業前半では、TOEIC リスニングパートの演習を通じて、英語の聞き取りのポイントを押さえるとともに、重要単語、フレーズを学び、発音練習を行う。授業後半では、TOEIC リーディングパートの演習を通じて、重要文法事項の確認と、様々なタイプの英文読解を行う。		
成績評価方法	単語テスト 20%、定期試験 80%		
基準			
授業の予習・復習	予習：文法事項のまとめを読んでおく。 復習：重要単語の確認と、単語テストの準備をする。		
教科書	Chizuko Tsumatori 『First Time Trainer for the TOEIC TEST』		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Introduction	Pre-test	
第 2 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 1: Shopping	
第 3 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 2: Daily Life	
第 4 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 3: Transportation	
第 5 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 4: Jobs	
第 6 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 5: Meals	
第 7 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 6: Communication	
第 8 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 7: Fun	
第 9 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 8: Office Work	
第 10 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 9: Meeting	
第 11 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 10: Travel	
第 12 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 11: Finance	
第 13 回	TOEIC Listening & Reading	Unit 12: Business	
第 14 回	TOEIC Listening & Reading	Post-test	
第 15 回	TOEIC Listening & Reading	まとめ	

経済

授業番号	B200120008				
科目名 (英語表記)	英語 III (English I I I)			R (b)	
担当者 (英語表記)	内野 泰子 (Yasuko Uchino)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	国際コミュニケーションのための英語力を身につけることを目指し、基本文法の復習に加えて、聞く、話す、読む、書くの4技能が向上する様々なアクティビティを通じた多角的学習を行います。				
授業の進め方 (履修条件など)	英語を使えるようになることを目指し、楽しく学習することを目指します。				
成績評価方法	平常点 50 パーセント、期末テスト 50 パーセントで評価します。				
基準					
授業の予習・復習	授業内で指示しますので、指示に従って授業にのぞんで下さい。				
教科書	English Ace ( コミュニケーションのための実践基礎英語)、Y. Yamamoto, N. Osuka, C.Mano, K. Okamoto, B. Rowlett, 成美堂				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Unit 1	b e 動詞			
第 2 回	Unit 1	故郷を紹介しよう			
第 3 回	Unit 2	一般動詞			
第 4 回	Unit 2	趣味もいろいろ			
第 5 回	Unit 3	名詞、代名詞			
第 6 回	Unit 3	買い物に行くならどこ？			
第 7 回	Unit 4	Wh 疑問文			
第 8 回	Unit 4	クイズに挑戦			
第 9 回	Unit 5	前置詞			
第 10 回	Unit 5	理想的な住まいとは？			
第 11 回	Unit 6	接続詞			
第 12 回	Unit 6	好きな食べ物は何？			
第 13 回	Unit 7	過去形			
第 14 回	Unit 7	デートは最初が肝心			
第 15 回	前期のまとめ	Unit 1-7 のまとめ			

経済

授業番号	B200130001		
科目名 (英語表記)	英語 IV (English I V)	(E X)	
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	様々なトピック、スタイルの英語の文章を精読することによって、語彙力の強化、文法事項の習得、読解力の向上を目指す。また自分の意見を簡単な英文で表現できるように英作文の力をつける。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎回様々なトピックの文章を読み、それに関する単語、リスニング、文法の演習を行う。グループ発表、グループディスカッションを中心に授業を進めるので、受講者の積極的な姿勢が望まれる。		
成績評価方法	単語テスト 20%、定期試験 80%		
基準			
授業の予習・復習	予習：わからない単語を調べておく。 復習：Unit の重要単語を復習し、単語テストに備える。		
教科書	Michiko Muroi 『TOMORROW』		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Introduction	テキストの説明 Sample Reading	
第 2 回	Reading	Unit 1: Sports (エッセイ)	
第 3 回	Reading	Unit 2: Education (会話)	
第 4 回	Reading	Unit 3: Science (エッセイ)	
第 5 回	Reading	Unit 4: Architecture (会話)	
第 6 回	Reading	Unit 5: Energy (プレゼンテーション)	
第 7 回	Reading	Unit 6: Culture (エッセイ)	
第 8 回	Reading	Unit 7: Food (インタビュー)	
第 9 回	Reading	Unit 8: Technology (会話)	
第 10 回	Reading	Unit 9: Entertainment (エッセイ)	
第 11 回	Reading	Unit 10: Country (エッセイ)	
第 12 回	Reading	Unit 11: Person (エッセイ)	
第 13 回	Reading	Unit 12: World (プレゼンテーション)	
第 14 回	Reading	Unit 13: Economy (会話)	
第 15 回	Reading	Unit 14: Philosophy (エッセイ)	

経済

授業番号	B200130002		
科目名 (英語表記)	英語 IV (English I V)	(1)	
担当者 (英語表記)	武井 みち子 (Michiko Takei)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	英語総合力の向上を目指します。		
授業の進め方 (履修条件など)	語彙、文法など基本的学習事項を基に、読解力、作文力、聴力を伸ばします。		
成績評価方法	定期試験 50%・授業への積極的参加度 50%で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習： 分からない単語を調べて授業に出席してください。 復習： 文法事項の整理・定着		
教科書	「Power- Up English < Intermediate >」 南雲堂		
参考文献	授業中に指示します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Unit 10	代名詞	
第 2 回	比較	比較の学習	
第 3 回	Unit 11	比較構文	
第 4 回	Unit 12	文の伝達方法	
第 5 回	仮定法	仮定法の学習	
第 6 回	Unit 13	仮定法	
第 7 回	Unit 14	倒置	
第 8 回	Unit 15	同格・挿入	
第 9 回	Unit 16	否定の表現法	
第 10 回	Unit 17	分詞構文	
第 11 回	Unit 18	無生物主語	
第 12 回	Unit 19	文と文の関係	
第 13 回	Unit 20	パラグラフ・エッセイの構成と展開	
第 14 回	模擬試験	模擬試験	
第 15 回	総復習	復習及び試験の対策	

# 経済

授業番号	B200130003		
科目名 (英語表記)	英語 IV (English I V)	(3)	
担当者 (英語表記)	伊東 隆子 (Takako Ito)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	主人公 Keiko Yamamoto を通して日本から San Francisco での「留学」体験からアメリカ社会の文化的背景やマナーを理解し、実用的なコミュニケーションを学んでいく。その際使われる英文や語句などを対話練習で習得していく。		
授業の進め方 (履修条件など)	はじめの30分間で前回の授業の復習問題をし、用紙に記入して提出する。テキストに沿って授業を進め、ポイント事項は記述し、時には暗記する。授業の進行次第で英語の pun (語呂合せ) のプリントを学習する。		
成績評価方法	定期試験 (60%)、授業参加態度 (20%)、提出物 (20%)		
基準			
授業の予習・復習	予習は、テキストを読んで分からない英単語や語句を調べて置くこと。またわからない英文には印を付けておく。復習では、テキストを読んで内容の理解をし、ポイント事項を暗記しておく。		
教科書	Viva San Francisco :Macmillan Languagehouse		
参考文献	コミュニケーションのためのパターン別英文600 : 金星堂		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	前期授業の総復習	前期授業で習得したポイント事項の再確認と復習問題を記述し提出する。授業の進行状態では、英語の pun (語呂合わせ) のプリントを行う。	
第2回	You are one of the family now.	ホームステイ先での生活習慣の違いや文化的背景を学習する。	
第3回	I want to help!	ホームステイ先での歓迎パーティで使われる「好みを尋ねる」「申し出を受ける」「申し出る」表現を学習する。	
第4回	So,what's your major?	授業中に使われる表現を学習する。「自己紹介・紹介された時の挨拶・忠告」	
第5回	I'll try to do my best.	授業では、積極的な態度で自分の意見を述べる時の表現を学習する。「助言を求める・体調・様子を探ねる・心配しているという」	
第6回	When do I have to return this?	図書館で使う表現を学習する。「許可を求める・～しなければならないか尋ねる・許可を与える」	
第7回	Do you have any ID?	両替所で使われる表現を学習する。「銀行での基本的な会話・銀行で客が使う表現・銀行員が使う表現」	
第8回	How about sea mail?	郵便局で使われる表現を学習する。	
第9回	Would you like to join us?	人を誘う時や、誘われたり、それらを受けたり、断ったりするときの表現を学習する。	
第10回	I have a sore throat.	病院や薬局での使われる表現を学習する。「医者が使う表現・体が悪い時の表現・忠告を求める」	
第11回	Let' s keep in touch,OK?	別れるときの表現を学習する。「別れの挨拶・分かれる時に使いたい表現」	
第12回	各 chapter(11~15) の "face the camera"	chapter(11~15) の "face the camera" での重要表現をまとめる。	
第13回	各 chapter(16~20) の "face the camera"	chapter(16~20) の "face the camera" での重要表現をまとめる。	
第14回	chapter 11~15 までのまとめ。	chapter11~15 までの重要英語表現をまとめる。	
第15回	chapter 16~20 までのまとめ。	chapter 16~20 までの英語重要表現をまとめる。	



経済

授業番号	B200130004		
科目名 (英語表記)	英語 IV (English I V)	(4)	
担当者 (英語表記)	武井 みち子 (Michiko Takei)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	様々なテーマに関する英文を効率的に読む力を養うとともに、英文を聴く力の向上を目指します。		
授業の進め方 (履修条件など)	文法解説後、演習で文法事項の定着を図ります。また、日常生活に密着したテーマの英文を読み、聴き、読解力と聴く力を磨きます。		
成績評価方法	定期試験 50%、授業への積極的参加度 50% で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：分からない単語を調べて授業に参加してください。 復習：文法事項の確認。		
教科書	「Power Up English<Basic>」 南雲堂		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Unit 1 1	Instructions	
第 2 回	Unit 12	Health & Physical Conditions	
第 3 回	Unit 13	Service Requests	
第 4 回	Unit 14	Special Orders	
第 5 回	Unit 15	Money	
第 6 回	名詞	名詞の学習	
第 7 回	Unit 16	Public Signs	
第 8 回	Unit 17	Sports	
第 9 回	受動態	受動態の学習	
第 10 回	Unit 18	History	
第 11 回	Unit 19	Sightseeing	
第 12 回	Unit 20	Science	
第 13 回	仮定法	仮定法の学習	
第 14 回	模擬試験	模擬試験	
第 15 回	総復習	復習および試験の対策	

経済

授業番号	B200130005				
科目名 (英語表記)	英語 IV (English I V)			(6)	
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	様々なトピック、スタイルの英語の文章を精読することによって、語彙力の強化、文法事項の習得、読解力の向上を目指す。また自分の意見を簡単な英文で表現できるように英作文の力をつける。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回様々なトピックの文章を読み、それに関する単語、リスニング、文法の演習を行う。グループ発表、グループディスカッションを中心に授業を進めるので、受講者の積極的な姿勢が望まれる。				
成績評価方法	単語テスト 20%、定期試験 80%				
基準					
授業の予習・復習	予習：わからない単語を調べておく。 復習：Unit の重要単語を復習し、単語テストに備える。				
教科書	Michiko Muroi 『TOMORROW』				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	テキストの説明 Sample Reading			
第 2 回	Reading	Unit 1: Sports (エッセイ)			
第 3 回	Reading	Unit 2: Education (会話)			
第 4 回	Reading	Unit 3: Science (エッセイ)			
第 5 回	Reading	Unit 4: Architecture (会話)			
第 6 回	Reading	Unit 5: Energy (プレゼンテーション)			
第 7 回	Reading	Unit 6: Culture (エッセイ)			
第 8 回	Reading	Unit 7: Food (インタビュー)			
第 9 回	Reading	Unit 8: Technology (会話)			
第 10 回	Reading	Unit 9: Entertainment (エッセイ)			
第 11 回	Reading	Unit 10: Country (エッセイ)			
第 12 回	Reading	Unit 11: Person (エッセイ)			
第 13 回	Reading	Unit 12: World (プレゼンテーション)			
第 14 回	Reading	Unit 13: Economy (会話)			
第 15 回	Reading	Unit 14: Philosophy (エッセイ)			

経済

授業番号	B200130006				
科目名 (英語表記)	英語 IV (English I V)	(P)			
担当者 (英語表記)	伊東 隆子 (Takako Ito)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	英語の基礎となる 5 文型の応用編を理解するため、郡動詞・助動詞・受動態・比較表現・否定表現・関係詞・接続詞・仮定法を学習していく。				
授業の進め方 (履修条件など)	はじめの 30 分で前回の授業の復習問題を用紙に記述し、提出する。テキストに沿って授業を進め、ポイント事項を記述し、時には暗記をしていく。授業の進行次第で英語の pun( 語呂合わせ) に関するプリントを学習する。				
成績評価方法	定期試験 (60%)、授業参加態度 (20%)、提出物 (20%)。				
基準					
授業の予習・復習	予習では、テキストを読んで分からない英単語・熟語を調べておく。わからない英文などに印を付けておくこと。復習では、テキストを再度読んで内容を理解し、授業でのポイント事項を暗記しておく。				
教科書	Basic College Writing with 5 sentence patterns: センゲージ ラーニング				
参考文献	秩序英作文：文英堂				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	前期授業の総復習	前期授業で習得したポイント事項の再確認と復習問題を記述し提出する。授業の進行状態では、英語の pun のプリントを行う。			
第 2 回	主語の選択	形式主語の it・強調構文・天候・時刻・距離・明暗・寒暖などを表す it、to 不定・動名詞 (doing)・名詞節・一般の人々が主語の場合を学習する。			
第 3 回	郡動詞の活用	動詞 + 前置詞、動詞 + 副詞、動詞 + 副詞 + 前置詞、動詞 + 名詞 + 前置詞の活用を学習する。			
第 4 回	助動詞の活用 (1)	can / could, may / might, must, will / would, shall /should の活用を学習する。			
第 5 回	助動詞の活用 (2)	be able to do= can , have todo~, ought to do ~, used to do~, had better do~, would like to do~, would rather do~, 助動詞 + have done の活用を学習する。			
第 6 回	受動態の活用	受動態の時制、受動態にならない動詞、by 以外の前置詞を用いる受動態、be 動詞以外の動詞を用いる受動態を学習する。			
第 7 回	比較表現の活用	原級、比較級、最上級、注意すべき比較構文を学習する。			
第 8 回	否定表現の活用	否定語、準否定語、部分否定、二重否定、否定語を用いない慣用表現を学習する。			
第 9 回	関係詞の活用	関係代名詞 (先行詞が人と物の場合)、関係代名詞 (that,what), 前置詞 + 関係代名詞、関係副詞などを学習する。			
第 10 回	接続詞の活用	当位接続詞、相関接続詞、従位接続詞などを学習する。			
第 11 回	仮定法の活用	wishi, if を使った仮定法、仮定法の慣用表現、if なしの仮定法などを学習する。			
第 12 回	英語の pun (語呂合わせ) を使った学習 (1)	L.H.Hill 氏のテキストから pun に関する簡単で面白い話を学習する。			
第 13 回	pun の学習 (2)	L.H.Hill 氏のテキストから pun に関する簡単で面白い話を学習する。			
第 14 回	Unit 11~15 までのまとめ	Int 11~15 までの授業中でのポイント事項をまとめる。			
第 15 回	Unit 16~20 までのまとめ	Unit 16~20 までの授業中でのポイント事項をまとめる。			

経済

授業番号	B200130007				
科目名 (英語表記)	英語 IV (English I V)			R (a)	
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	TOEIC 対策用のテキストを使い、重要文法事項を整理しながら、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を磨き、英語でのコミュニケーション能力を上げるとともに、TOEIC のスコアアップを目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業前半では、TOEIC リスニングパートの演習を通じて、英語の聞き取りのポイントを押さえるとともに、重要単語、フレーズを学び、発音練習を行う。授業後半では、TOEIC リーディングパートの演習を通じて、重要文法事項の確認と、様々なタイプの英文読解を行う。				
成績評価方法	単語テスト 20%、定期試験 80%				
基準					
授業の予習・復習	予習：文法事項のまとめを読んでおく。 復習：重要単語の確認と、単語テストの準備をする。				
教科書	Jonathan Lynch『Before-After Practice for the TOEIC TEST』				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	Pre-test			
第 2 回	TOEIC Listening	Unit 1: <Where can I ...?> questions; Office Situation			
第 3 回	TOEIC Reading	Unit 2: 前置詞、現在完了			
第 4 回	TOEIC Listening	Unit 3: <How can I ...?> questions; Shopping			
第 5 回	TOEIC Reading	Unit 4: 分詞、動詞句			
第 6 回	TOEIC Listening	Unit 5: <Why did you ...?> questions; Discussion			
第 7 回	TOEIC Reading	Unit 6: 副詞			
第 8 回	TOEIC Listening	Unit 7: <What/How are you ...ing?> questions; Telephone Message			
第 9 回	TOEIC Reading	Unit 8: 受動態			
第 10 回	TOEIC Listening	Unit 9: <When ... going to?> questions; Weather News			
第 11 回	TOEIC Reading	Unit 10: 現在完了、人称代名詞			
第 12 回	TOEIC Listening	Unit 11: <Would you like...?> questions; Presentation			
第 13 回	TOEIC Reading	Unit 12: 他動詞			
第 14 回	TOEIC Listening	Unit 13: <Who is/was that ...?> questions; Company Problems			
第 15 回	TOEIC Listening & Reading	Post-test			

経済

授業番号	B200130008		
科目名 (英語表記)	英語 IV (English I V)	R (b)	
担当者 (英語表記)	内野 泰子 (Yasuko Uchino)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	国際コミュニケーションのための英語力を身につけることを目指し、基本文法の復習に加えて、聞く、話す、読む、書くの4技能が向上するよう様々なアクティビティを通じた多角的学習を行います。		
授業の進め方 (履修条件など)	英語を使えるようになることを目指し、楽しく学習することを目指します。		
成績評価方法	平常点 50 パーセント、期末テスト 50 パーセントで評価します。		
基準			
授業の予習・復習	授業内で指示しますので、指示に必ず従って授業にのぞんで下さい。		
教科書	English Ace ( コミュニケーションのための実践基礎英語)、A. Yamamoto, N. Osuka, C. Mano, K. Okamoto, B. Rowlett, 成美堂		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Unit 8	進行形	
第 2 回	Unit 8	探偵は真実を求める	
第 3 回	Unit 9	現在完了形	
第 4 回	Unit 9	経歴を話そう	
第 5 回	Unit 10	未来表現	
第 6 回	Unit 10	パーティーに行こう！	
第 7 回	Unit 11	助動詞	
第 8 回	Unit 11	ルールにもお国柄	
第 9 回	Unit 12	受動態	
第 10 回	Unit 12	発明、発見はひらめきが大切	
第 11 回	Unit 13	形容詞、副詞	
第 12 回	Unit 13	映画評論	
第 13 回	Unit 14	比較級、最上級	
第 14 回	Unit 14	世界記録もさまざま	
第 15 回	Unit 15	不定詞、動名詞 / 将来の夢を語ろう	

# 経済

授業番号	B202050001				
科目名 (英語表記)	会計学 I (Accountancy I)				
担当者 (英語表記)	鈴木 明男 (Akio Suzuki)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は財務会計を対象として学習する。財務会計の任務は財務諸表を通じて財務情報を公開することによって、経済の健全な発展に寄与することである。講義はこの関連を明らかにするとともに、財務諸表に馴染むことを狙う。				
授業の進め方 (履修条件など)	関連する諸会計法規や財務諸表の内容等に馴染む必要があることから、教科書の説明にとどまらず、プリントを配布して現実の会計と社会の動きを理解する。毎回、今回の授業の狙いと前回及び次回の授業の関連を説明する。				
成績評価方法	定期試験 80%、授業内小テスト及び課題 20%を目安とする。				
基準					
授業の予習・復習	特に会計関連、資格の受験者には最近の出版物の予習・復習が望ましい。				
教科書	「財務会計入門」 田中建二 中央経済社				
参考文献	「会計法規集」 中央経済社 「現代会計学」 中村忠 白桃書房				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業内容の概要、狙いと運営方針			
第 2 回	財務会計の性格	財務会計の性格			
第 3 回	会計諸規定 I	会計諸基準と会計法規の概要と役割			
第 4 回	会計諸規定 I I	会計諸基準と会計法規の全体的関連			
第 5 回	損益計算の仕組 I	財産法と損益法、棚卸法と誘導法			
第 6 回	損益計算の仕組 I I	期間損益計算の仕組			
第 7 回	会計諸基準 I	企業会計原則と会計基準の展開と内容			
第 8 回	会計諸基準 I I	会計に関連する法律の展開と内容			
第 9 回	会計諸基準 I II	I、I I の各論			
第 10 回	会計諸基準 I V	I、I I の各論			
第 11 回	財務諸表 I	財務諸表の意義と概要、連結と個別			
第 12 回	財務諸表 I I	貸借対照表の内容			
第 13 回	財務諸表 I I I	損益計算書の内容			
第 14 回	財務諸表 I V	キャッシュ・フロー計算書の内容			
第 15 回	財務諸表 V	株主資本等変動計算書の内容			

# 経済

授業番号	B202060001		
科目名 (英語表記)	会計学 II (Accountancy II)		
担当者 (英語表記)	鈴木 明男 (Akio Suzuki)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	社会人として損益計算書や貸借対照表を手にとったとき、抵抗なくそれをある程度理解できるようにすることが狙いである。そのためには教科書の字句の解釈にこだわらず実際の財務諸表に馴染むようところがける。		
授業の進め方 (履修条件など)	実際の財務諸表に馴染む必要があることから、教科書的説明にとどまらず、プリントを配布して実際の財務諸表に絶えず触れる。毎回、今回の授業の狙いと前回及び次回の授業の関連を説明する。		
成績評価方法	定期試験 80%、授業内小テスト及び課題 20%を目安とする。		
基準			
授業の予習・復習	特に会計関連資格の受験者には最近の出版物の予習・復習が望ましい。		
教科書	「財務会計入門」 田中建二 中央経済社		
参考文献	「会計法規集」 中央経済社編 「現代会計学」 中村忠 白桃書房		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	貸借対照表 I	貸借対照表の機能と構造、連結と個別	
第 2 回	資産 I	資産の意味と内容および評価	
第 3 回	資産 I I	資産の意味と内容および評価	
第 4 回	資産 I I I	資産の意味と内容および評価	
第 5 回	資産 I V	減価償却と費用配分	
第 6 回	負債・引当金	負債および引当金の意味と内容	
第 7 回	純資産	資本金、剰余金の意味と内容	
第 8 回	損益計算書	損益計算書の機能と構造、連結と個別	
第 9 回	利益の計算	利益計算の構造、収益と費用の対応	
第 10 回	収益の認識	収益の意味と認識基準	
第 11 回	費用の認識	費用の意味と認識基準	
第 12 回	キャッシュ・フロー計算書等	キャッシュ・フロー計算書・株主資本等変動計算書の機能と構造	
第 13 回	財務諸表の見方 I	財務諸表から会社の業績や状況を知る	
第 14 回	財務諸表の見方 I I	財務諸表から会社の業績や状況を知る	
第 15 回	財務諸表の見方 I I I	財務諸表から会社の業績や状況を知る	

# 経済

授業番号	B202740001				
科目名 (英語表記)	外国経営書講読 I (Foreign management document subscription I)				
担当者 (英語表記)	岸本 太一 (Taichi Kishimoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この講義では次の2点を目標にします。①:英語で書かれた経営学の学術書およびビジネス書を独力で読めるようになる。②:書かれている内容の要旨をまとめ、分かり易く他人に説明する能力を高める。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回必ず課題を出します。具体的には、教科書の一部分を要約する形でプレゼン資料を作成してきてもらいます。当日の講義では、その資料をもとにディスカッションをします。				
成績評価方法	提出課題の質、ゼミにおける発言によって総合的に判断します。無断欠席した場合、単位を与えません。				
基準					
授業の予習・復習	予習: 毎回受講者全員に必ず何らかの課題を課します。その課題を行なってきて下さい。 復習: 適時、ゼミにおけるディスカッションおよび配布資料を振り返って下さい。				
教科書	Richard P. Rumelt 著「Good Strategy Bad Strategy: The Difference and Why it Matters」(出版社 Profile Books Ltd)				
参考文献	講義にて随時紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図など			
第2回	輪読およびディスカッション①	Introduction 前半			
第3回	輪読およびディスカッション②	Introduction 後半			
第4回	輪読およびディスカッション③	Chapter1 前半			
第5回	輪読およびディスカッション④	Chapter1 後半			
第6回	輪読およびディスカッション⑤	Chapter2 前半			
第7回	輪読およびディスカッション⑥	Chapter2 後半			
第8回	輪読およびディスカッション⑦	Chapter3 前半			
第9回	輪読およびディスカッション⑧	Chapter3 後半			
第10回	輪読およびディスカッション⑨	Chapter4 前半			
第11回	輪読およびディスカッション⑩	Chapter4 後半			
第12回	輪読およびディスカッション⑪	Chapter5 前半			
第13回	輪読およびディスカッション⑫	Chapter5 後半			
第14回	輪読およびディスカッション⑬	Chapter16 前半			
第15回	輪読およびディスカッション⑭	Chapter16 後半			



# 経済

授業番号	B202750001				
科目名 (英語表記)	外国経営書講読 II (Foreign management document subscription II)				
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、アカウンティングならびにファイナンスにおける英語文献の読解をつうじて読解能力の向上を図るとともに、企業経営におけるアカウンティングならびにファイナンスの役割と機能について理解することを目的とする。この授業では、こうした文献の読解をつうじて、わが国の制度との違いについて理解を深めることを到達目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修者は、毎回の授業開始時に配布する英語文献について、辞書を用いながら和訳を行う。そして、出席者全員が順番に音読し、和訳を発表していく。英文の解釈や文法の誤りなどがあれば適宜指摘するとともに、文献の内容に詳細に解説する。				
成績評価方法	課 題： 1 3 回の課題提出を義務づけており、各 1 0 点満点で採点し、それを成績評価に換算する。				
基準					
授業の予習・復習	次の授業までに、テキストの該当箇所を熟読して授業に臨むこと。またレポートについては、期日までに提出できるよう授業で取り上げた箇所の復習を怠らないこと。				
教科書	使用教材については、こちらでプリントを配布する。				
参考文献	Scott, W. R., Financial Accounting Theory, 6 edition, Prentice Hall, 2011. ロバート・アンソニー・レスリー・ブライトナー著、西山茂訳『アンソニー会計学入門 第2版』東洋経済新報社、2007年。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	本授業の概要と今後の進め方、成績評価について説明			
第 2 回	アカウンティング I	アカウンティングの定義			
第 3 回	アカウンティング II	財務諸表			
第 4 回	アカウンティング III	財務分析① 収益性分析			
第 5 回	アカウンティング IV	財務分析② 安全性分析			
第 6 回	アカウンティング V	財務分析③ 生産性分析			
第 7 回	アカウンティング VI	損益分岐点分析			
第 8 回	アカウンティング VII	分権組織の管理会計			
第 9 回	ファイナンス I	企業活動とコーポレート・ファイナンス			
第 10 回	ファイナンス II	時間的価値			
第 11 回	ファイナンス III	投資のリスク			
第 12 回	ファイナンス IV	投資評価方法			
第 13 回	ファイナンス V	資本コスト (WACC)			
第 14 回	ファイナンス VI	CAPM と配当政策			
第 15 回	ファイナンス VII	企業価値の計算			

# 経済

授業番号	B201980001				
科目名 (英語表記)	外国経済書講読 I (Foreign book-on-economics scription I)				
担当者 (英語表記)	土井 修 (Osamu Doi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと 到達目標	Gerald Bloomfield の” The World Automotive Industry” を輪読することを通じて、経済・経営英語を習熟するとともに、世界の自動車産業の概要を理解することを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書の輪読部分を各自に割り当て、順次日本語に翻訳し、それを発表してもらいます。				
成績評価方法 基準	テストの他、発表などの授業参加態度を加味して評価します。				
授業の予習・復習	予習は、割り当てられた部分を、発表日までに日本語に翻訳しておくこと、復習は、発表後再度チェックし、理解を深めることです。				
教科書	Gerald Bloomfield, The Automotive Industry(1978).				
参考文献	書籍、雑誌、新聞、インターネットなどを通じて世界の自動車産業に関する情報を取得すること。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	The Industry of Industries	Development of the Motor Vehicle			
第 2 回	The Production Process and the Plant	Contemporary Production Process			
第 3 回	Marketing the Motor Vehicle	Promotion by the Pioneers			
第 4 回	Economics and Management of the Automotive Industry	Elements of the Cost Structure			
第 5 回	Elements in the Location of Motor Vehicle Production	Locational Decision Making			
第 6 回	Industrial Cores and the Periphery	The World Pattern			
第 7 回	North America	The Great Lakes Region			
第 8 回	Western Europe	France, Germany, Britain			
第 9 回	Japan	---			
第 10 回	Soviet Union and Eastern Europe	---			
第 11 回	Latin America	Brazil, Argentina, Mexico			
第 12 回	Australia, New Zealand and South Africa	---			
第 13 回	The Undeveloped Periphery	Asia, Africa			
第 14 回	The International Motor Corporation	General Survey			
第 15 回	Trade and Trends	Growth of World Automotive Trade			

経済

授業番号	B201990001				
科目名 (英語表記)	外国経済書講読 II (Foreign book-on-economics scription II)				
担当者 (英語表記)	土井 修 (Osamu Doi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと 到達目標	Robert F.Lanzillotti の" The Automobile Industry" を輪読することを通じて、経済・経営英語を習熟するとともに、アメリカの自動車産業に対する理解を深めることを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書の輪読部分を各自に割り当て、順次日本語に翻訳し、それを発表してもらいます。				
成績評価方法 基準	テストの他、発表などの授業参加態度を加味して評価します。				
授業の予習・復習	予習は、割り当てられた部分を、発表日までに日本語に翻訳しておくこと、復習は、発表後再度チェックし、理解を深めることです。				
教科書	Robert F.Lanzillotti, The Automobile Industry(Walter Adams,ed., The Structure of American Industry,3rd Edition,1961)				
参考文献	著書、雑誌、インターネットなどを通してアメリカ自動車産業に関する情報を取得すること。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Section I:Introduction	History			
第 2 回	Section I:Introduction	Experimentation and Early Growth			
第 3 回	Section I:Introduction	Market Expansion and Mushrooming Entry			
第 4 回	Section I:Introduction	Early Attempt at Monopoly			
第 5 回	Section I:Introduction	Formation of General Motors			
第 6 回	Section I:Introduction	1911-22:The Growth of Ford and General Motors			
第 7 回	Section I:Introduction	The Twenties:Rise of the "Big Three"			
第 8 回	Section I:Introduction	The Disappearance of the Independents and the Closure of Entry			
第 9 回	Section II:Market Structure and Price Policy	Survival of the Few			
第 10 回	Section II:Market Structure and Price Policy	Capital Requirements			
第 11 回	Section II:Market Structure and Price Policy	Product Differentiation			
第 12 回	Section II:Market Structure and Price Policy	A Diversified Product-Line			
第 13 回	section III:Public Policy	Problem of Concentration and Size			
第 14 回	Section III:Public Policy	Auto Dealers			
第 15 回	Section III:Public Policy	Installment Financing			

# 経済

授業番号	B202530001				
科目名 (英語表記)	会社法 (Company law)				
担当者 (英語表記)	野口 明宏 (Akihiro Noguchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	会社法は、会社の設立、株式、組織などを定めた膨大な法律です。 授業の重点は、経済の主要な担い手である株式会社に置いて、解説します。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業は、要点を黒板に書きながら進めます。 ノートをとりながら、知識をまとめる習慣を身につけてください。				
成績評価方法	定期試験と小テストの成績にもとじて評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習—あらかじめテキストを読んでください。 復習—ノートをもとにテキストを読み返してください。				
教科書	近藤光男編「現代商法入門 (第8版)」有斐閣				
参考文献	必要な時は、授業の中で紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	会社の法的意義	営利性、社団性、法人性、法人格の否認			
第2回	会社の種類	株式・合名・合資・合同会社			
第3回	会社の権利能力	定款の目的による制限、政治献金			
第4回	会社法の定義	親・子会社、公開・閉鎖会社、大会社			
第5回	会社の設立	厳格な法規制、発起人、定款の作成			
第6回	会社の設立手続	発起・募集設立、預合、見せ金、検査役の調査			
第7回	設立中の会社	開業準備行為、設立登記、設立の無効			
第8回	株式の意義	細分化された社員の地位、内容について特別の定め			
第9回	種類株式	剰余金の配当額、残余財産の分配額など			
第10回	株券	原則不発行、有価証券としての株券			
第11回	株主名簿、株主	名簿の免責効果、名義書換、株主の有限責任			
第12回	株式譲渡の自由	投下資本の回収、株式の譲渡制限			
第13回	自己株式の取得	原則として取得可能、取得の要件			
第14回	株主総会 1	権限、種類、招集手続、株主提案権			
第15回	株主総会 2	説明義務、議決権、委任状、書面投票			

# 経済

授業番号	B201890001				
科目名 (英語表記)	環境経済学 I (Environmental economics I)				
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>環境問題と経済の関係を知り、さらに環境問題を経済学でとらえるとはどういうことか、経済学の分析ツールによって解決できる環境問題とはなにか、を学びます。</p> <p>最初に、環境をどのようにとらえるのかを、理論的に理解します。公共財、外部性、公共選択の理論などを学びます。その理解にのっとなって、日本の政府が取り組んでいる環境問題より重要なものを取り上げて学びます。</p> <p>循環型社会とは何か、環境リサイクル法、を理論的な立場から評価します。</p> <p>京都議定書のような国際的取組の制度を知るだけでなく、および理論的な理解をしていきます。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>経済理論 II B, ミクロ経済学, 公共経済学を履修していることが望ましい</p> <p>制度の学習では、環境省の HP を用います。プリントが適宜配布されます。</p> <p>理論的な学習においては、ノートをしっかり取るが必要になります。</p>				
成績評価方法	小テストをトピックスごとに行います。本テストによって 50% を評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習は不要ですが、レポートによって復習とすることがあります				
教科書	適宜プリント配布をします。				
参考文献	栗山浩一・馬奈木俊介「環境経済学をつかむ」有斐閣				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	イントロダクション	環境と経済活動, 環境経済学とは			
第 2 回	環境と経済活動	大量消費社会からの脱却			
第 3 回	経済学による環境の考え方	公共財と市場の資源配分の失敗, ビグー税			
第 4 回	公共財としての環境問題	公共財の生産量の決定, 公共選択の理論 (社会状態の決定の理論)			
第 5 回	環境問題の現状と対策	環境省の HP より, 循環型社会, 家電リサイクル法			
第 6 回	環境問題の現実と対策 2	ビグー税と産業廃棄物税			
第 7 回	メカニズムデザイン	公共財の生産量決定にとって良いメカニズムを探る			
第 8 回	メカニズムデザイン 2	適切なメカニズムデザインを知る。啓蒙運動と 3R			
第 9 回	ここまでのまとめ	公共財の理論的理解の前半と, それによる現実の評価を小テストします			
第 10 回	外部性	外部性とは何か, たばこを吸う人がいるときを例にとって解説します			
第 11 回	外部性 2	理論モデルを展開します			
第 12 回	大学の環境問題について話し合う	理論モデルの理解を踏まえて, 大学の喫煙問題について話し合いをします。グループディスカッションをし, レポートをまとめます			
第 13 回	大学の環境問題について回答	前回の討論を経て, 結論を各グループの代表に報告してもらい, 比較します			
第 14 回	外部性のまとめ	外部性があるとき, 社会選択で自分を偽る戦略が有効になることを学びます			
第 15 回	まとめ	前期に学んだことのまとめ			

経済

授業番号	B201900001				
科目名 (英語表記)	環境経済学 II (Environmental economics II)				
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	環境評価の目的とツールについて理論的・実践的に学びます。 谷津干潟でのフィールドワークを行い、環境評価の問題点や、鳥獣保護の観点を実践的に勉強します。				
授業の進め方 (履修条件など)	PCのエクセルにあるアドイン機能を用いて、環境評価のプログラムを使い、さまざまな手法を学びます。 その後、実際に谷津干潟に行って、授業で作ったアンケートを基に、環境を評価します				
成績評価方法 基準	出席が重要になってきます。 特に、谷津干潟での自然観察、環境評価、プロジェクトの参加が重要な評価になります。 レポート提出により成績が決まります				
授業の予習・復習	予習というよりも、実践において、定時的な観測が必要になったりします。				
教科書	栗山浩一・馬奈木俊介「環境経済学をつかむ」有斐閣				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	イントロダクション	環境評価とは何か、なぜ必要なのか			
第 2 回	環境の価値	環境評価すべき環境の価値を整理します			
第 3 回	自然公園の維持管理と経済学	自然公園の定義、過剰利用と管理			
第 4 回	環境価値と環境評価手法 1	自然環境の価値と分類、その評価法の概要			
第 5 回	環境評価法 1	トラベルコスト法			
第 6 回	環境評価法 2	トラベルコスト法の演習 (実証分析)			
第 7 回	環境評価法	CVM( 仮想評価法) 法の概要			
第 8 回	環境評価法 4	CVM 法のさまざまな質問形式を作る			
第 9 回	環境評価法 5	CVM 法で得たデータを解析する (最尤法)			
第 10 回	コンジョイント分析	コンジョイント分析の概要と適用例			
第 11 回	鳥獣保護、谷津干潟とラムサール条約	環境省が行っている鳥獣保護の実態を調べる。 習志野市の谷津干潟がラムサール条約で保護地となっていることを学ぶ			
第 12 回	谷津干潟での自然観察	谷津干潟に授業で行き、(実際にはどこかの日中を利用、補講を充てる) レンジャーの人から学習する。			
第 13 回	谷津干潟の環境評価アンケート	一般の人を対象に行う自然評価の手法を具体的に谷津干潟を用いて行うアンケートの結果をみて、全員で分析する			
第 14 回	谷津干潟の評価、自然の保護についてのメカニズムデザインを考える	ラムサール条約などの国際的な取り決めと、環境省が行っている環境保全について、さまざまな考え方を比較検討する。クラスでディスカッションを行う			
第 15 回	環境評価のまとめ	学んできたことをまとめます			

経済

授業番号	B200590001				
科目名 (英語表記)	環境地理学 I (Environmental geography I)				
担当者 (英語表記)	三澤 正 (Masashi Misawa)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	気候環境のなりたちと人間生活との関連を中心として、教職課程の環境地理学としての必要な基本的事項の修得と、環境教育プログラムの作成のための視点および教材化の能力の取得をめざす。				
授業の進め方 (履修条件など)	(1) 太陽エネルギーと地球 (2) 地球をめぐる大気の流れ (3) 環境としての気候の各項目について、基礎的事項から応用的内容へと展開し、高度な知識の習得を目指す。随時行う授業時間内の小テストによって受講者の理解度を確認しながら授業を進める。				
成績評価方法	定期試験 (70%)・授業内小テスト (30%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書の該当部分の予習が求められる。 復習：次週までの課題を通して授業内容の復習をする。				
教科書	三澤正編「大気環境と人間」開成出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の概要			
第 2 回	太陽エネルギーと地球 (1)	地球をめぐるエネルギーの流れ			
第 3 回	太陽エネルギーと地球 (2)	エネルギー収支			
第 4 回	太陽エネルギーと地球 (3)	温室効果と日傘効果			
第 5 回	太陽エネルギーと地球 (4)	地表面の熱収支			
第 6 回	地球をめぐる大気の流れ (1)	地表付近の大気の流れ			
第 7 回	地球をめぐる大気の流れ (2)	子午面循環			
第 8 回	地球をめぐる大気の流れ (3)	東西流と偏西風の波動			
第 9 回	地球をめぐる大気の流れ (4)	季節風・局地風			
第 10 回	環境としての気候 (1)	温度環境と人間生活			
第 11 回	環境としての気候 (2)	温度環境と植物			
第 12 回	環境としての気候 (3)	水収支と気候の乾湿			
第 13 回	環境としての気候 (4)	水と人間生活			
第 14 回	環境としての気候 (5)	自然災害			
第 15 回	まとめ	授業内容のまとめと討論			

経済

授業番号	B200600001				
科目名 (英語表記)	環境地理学 II (Environmental geography II)				
担当者 (英語表記)	三澤 正 (Masashi Misawa)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	地球温暖化やヒートアイランドなど人為的影響による大気環境の変化を中心として、教職課程の環境地理学としての必要な基本的事項の修得と、環境教育プログラムの作成のための視点および教材化の能力の取得をめざす。				
授業の進め方 (履修条件など)	(1) 気候変動 (2) 大気汚染 (3) 都市の自然環境の各項目について、基礎的事項から応用的内容へと展開し、高度な知識の習得を目指す。随時行う授業時間内の小テストによって受講者の理解度を確認しながら授業を進める。				
成績評価方法	定期試験 (70%)・授業内小テスト (30%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書の該当部分の予習が求められる。 復習：次週までの課題を通して授業内容の復習をする。				
教科書	三澤正編「大気環境と人間」開成出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の概要			
第 2 回	気候変動 (1)	地球気温の推移			
第 3 回	気候変動 (2)	地球温暖化と気候変化			
第 4 回	気候変動 (3)	地球温暖化と季節推移の変化			
第 5 回	気候変動 (4)	気候変動の影響			
第 6 回	大気汚染 (1)	大気汚染の変遷			
第 7 回	大気汚染 (2)	都市の大気汚染			
第 8 回	大気汚染 (3)	大気汚染の広域化			
第 9 回	大気汚染 (4)	酸性雨と森林破壊			
第 10 回	都市の自然環境 (1)	ヒートアイランド			
第 11 回	都市の自然環境 (2)	都市の砂漠化			
第 12 回	都市の自然環境 (3)	水質汚濁			
第 13 回	都市の自然環境 (4)	都市の自然環境変化の要因			
第 14 回	都市の自然環境 (5)	望ましい都市の自然環境			
第 15 回	まとめ	授業内容のまとめと討論			



# 経済

授業番号	B201910001				
科目名 (英語表記)	環境問題 I (Environmental problem I)				
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この講義では、環境問題・環境政策を経済学を用いて分析するための基礎を学び、さまざまな環境問題に対してどのような政策手段が有効と考えられるかを学ぶ。その際、各種環境問題と政策手段の特徴に注意を向ける。前期は総論、後期は各論である。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回 (テーマごとに) レジメや資料を配布し、板書を交えて解説しながら進める。毎回出席を取る。1, 2 回小レポートを課す。受講に当たって、ミクロ経済学を履修済みであることが望ましい。2 年生も受講を認める。				
成績評価方法	期末試験の点数を基本に、聴講態度、小レポートの内容を踏まえて評価する。				
基準					
授業の予習・復習	配布したプリントを整理して保管すること。新聞等で環境問題・政策関連のニュースをフォローすること。				
教科書	特定のテキストは使用しない。適宜プリントを配布する。				
参考文献	柴田弘文『環境経済学』東洋経済新報社 藤倉良・藤倉まなみ『文系のための環境科学入門』有斐閣				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	この講義の概要、進め方、評価方法の説明			
第 2 回	環境とは	環境の概念			
第 3 回	環境問題とは 1	地球環境の 3 大機能、環境の使用価値と交換価値			
第 4 回	環境問題とは 2	人口増加と環境の相対的希少化			
第 5 回	環境問題とは 3	なぜ環境問題が起こるのか			
第 6 回	環境問題の種類と特徴 1	環境問題の構図、経年的整理			
第 7 回	環境問題の種類と特徴 2	環境問題 (環境問題への関心・対処) の推移			
第 8 回	さまざまな環境問題 1	水質汚濁 (有機汚濁、富栄養化)			
第 9 回	さまざまな環境問題 2	水質汚濁 (鉱工業排水)、水質の維持・管理問題			
第 10 回	さまざまな環境問題 3	大気汚染 (ばいじん)			
第 11 回	さまざまな環境問題 4	大気汚染 (NO <sub>x</sub> 、SO <sub>x</sub> )			
第 12 回	さまざまな環境問題 5	有害物質の基準、規制基準			
第 13 回	さまざまな環境問題 6	地球温暖化			
第 14 回	さまざまな環境問題 7	地球温暖化 (続き)			
第 15 回	まとめ	この講義のまとめ、質疑応答			

# 経済

授業番号	B201920001				
科目名 (英語表記)	環境問題 II (Environmental problem II)				
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この講義では、環境問題・環境政策を経済学を用いて分析するための基礎を学び、さまざまな環境問題に対してどのような政策手段が有効と考えられるかを学ぶ。その際、各種環境問題と政策手段の特徴に注意を向ける。前期は総論、後期は各論である。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回 (テーマごとに) レジユメや資料を配布し、板書を交えて解説しながら進める。毎回出席を取る。1, 2 回小レポートを課す。受講に当たって、ミクロ経済学を履修済みであることが望ましい。2 年生も受講を認める。				
成績評価方法	期末試験の点数を基本に、聴講態度、小レポートの内容を踏まえて評価する。				
基準					
授業の予習・復習	配布したプリントを整理して保管すること。新聞等で環境問題・政策関連のニュースをフォローすること。				
教科書	特定のテキストは使用しない。適宜プリントを配布する。				
参考文献	田中勝『新・廃棄物学入門』中央法規 金子林太郎『産業廃棄物税の制度設計』白桃書房 『環境白書』				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	この講義の概要、進め方、評価方法の説明			
第 2 回	廃棄物問題と政策 1	廃棄物とは何か			
第 3 回	廃棄物問題と政策 2	廃棄物の分類と責任			
第 4 回	一般廃棄物問題 1	一般廃棄物の排出・処理状況、廃棄物処理とリスク			
第 5 回	一般廃棄物問題 2	一般廃棄物のリサイクルの状況、最終処分の状況			
第 6 回	産業廃棄物問題 1	産業廃棄物の排出・処理状況			
第 7 回	産業廃棄物問題 2	産業廃棄物の処理施設の整備状況、産廃の広域移動の現状			
第 8 回	廃棄物政策の課題 1	一般廃棄物政策・産業廃棄物政策の課題			
第 9 回	廃棄物政策の課題 2	循環型社会の形成			
第 10 回	一般廃棄物政策 1	ごみ有料化の意義、理論			
第 11 回	一般廃棄物政策 2	ごみ有料化の現状、課題			
第 12 回	産業廃棄物政策 1	産業廃棄物税創設の背景と現状			
第 13 回	産業廃棄物政策 2	産業廃棄物税の特徴と仕組み、効果と課題			
第 14 回	東日本大震災と廃棄物問題	震災がれきの処理問題、放射能汚染ごみの問題			
第 15 回	まとめ	この講義のまとめ、質疑応答			

# 経済

授業番号	B202560001				
科目名 (英語表記)	観光事業論 I (Tourist industry theory I)				
担当者 (英語表記)	奥山 隆哉 (Takaya Okuyama)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	21世紀は経済成長の著しいアジアを中心に地球規模で人的交流が劇的に増加し、世界的な観光交流の時代になる。国民生活面およびグローバル化において観光事業は産業としての重みを増してくる。前期授業では、観光事業の要となる旅行事業を中心に観光事業全般について経営的視点から学習し、顧客理解、ビジネス環境理解、地域ビジネス理解を進める。				
授業の進め方 (履修条件など)	経営一般の基礎知識を織り込みながら、各観光事業に固有の基礎事項と課題について、パワーポイントを用い授業を進める。また、その時々々の観光事業に関する時事 (新聞記事等) をもとに、経営の基礎知識面から解説を加える。				
成績評価方法	定期試験における筆記試験および学期中のクラス参加度により成績評価する。				
基準	筆記試験による配点は概ね60%前後、クラス参加度による配点は概ね40%前後とする。				
授業の予習・復習	予習: 旅行会社、ホテル/旅館、航空会社等の観光産業および国・自治体の観光施策等や地域観光振興に関する新聞記事などを読みひろって、目を通しておく。 復習: 配布プリントに目を通す。				
教科書	教科書は用いない。毎回プリントを配布する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義ガイダンス	前期授業内容の概要を簡単に説明			
第2回	観光全般 1 (観光の現状)	観光・旅行全般の状況、国内・訪日・海外旅行の市場と課題、世界の観光の現状			
第3回	観光全般 2 (観光の意義と概念)	観光事業の根底としての観光の意義、定義、観光の構成要素、観光対象、観光資源など			
第4回	観光事業の基盤 1 (観光サービスの特性)	観光行動、観光生産物、観光サービスの特性、観光事業の5つの力など			
第5回	観光事業の基盤 2 (観光事業の特性)	観光事業の特性、観光消費額、観光の経済規模、地域活性化と観光事業など			
第6回	観光 (事業) の発展過程 1 (日本)	千年企業 (温泉旅館)、伊勢参りと旅行業、技術革新とマストゥリズム、オールドトゥリズムとニュートゥリズムなど			
第7回	観光 (事業) の発展過程 2 (世界)	移動する人類、聖地巡礼とホスベス、ルネッサンスと旅行、近代トゥリズムとイベント、中産階級とマストゥリズムなど			
第8回	観光マーケティング 1 (マーケティングの基礎)	マーケティングの変遷、マーケティングのキーワード、ターゲティング、競争地位など			
第9回	観光マーケティング 2 (観光マーケティング)	観光マーケティングの特徴、マーケティング活動、ライフサイクル戦略、観光地域ブランドなど			
第10回	旅行事業 1 (旅行業の発展)	旅行業の登場、トーマス・クック、日本の旅行業と特性、旅行者のニーズの変化と旅行業など			
第11回	旅行事業 2 (旅行業の経営)	旅行業の特性、旅行業の機能と様態、旅行商品の特性、旅行業の存在価値、旅行業販売における変化など			
第12回	旅行事業 3 (旅行業の価値と役割)	時代の求めるものの変遷と「情報」「流通」「集客・交流」の価値、旅行の変化と旅行会社の対応、流通の変化と旅行業の対応 旅行会社の形態と今後の適応			
第13回	旅行事業 4 (情報化社会の進展と旅行業)	旅行業とインターネット、オンライン・トラベルエージェント、旅行情報流通と旅行者の意思決定、航空・宿泊業と旅行業の緊張関係など			
第14回	旅行事業 5 (旅行取引と消費者との関係)	旅行業法、旅行取引と約款、ネット取引、消費者保護、旅行業業務など			
第15回	リキャップ	本授業の整理と主要な点についての復習、テスト範囲について			

# 経済

授業番号	B202570001				
科目名 (英語表記)	観光事業論 II (Tourist industry theory II)				
担当者 (英語表記)	奥山 隆哉 (Takaya Okuyama)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	観光事業は世界的規模で高い成長が期待されている産業分野であり、政府は新成長戦略の柱として「観光立国」を国の重要施策に取り上げ、観光振興を推進している。後期授業では、国の観光事業としての「観光立国」政策、民の主要な観光事業としての宿泊、航空事業および地域における観光活性化を支える様々な事業について学習し、顧客理解、ビジネス環境理解を進める。				
授業の進め方 (履修条件など)	経営一般の基礎知識を織り込みながら、各観光事業に固有の基礎事項と課題についてパワーポイントを使用して授業を進める。また、観光事業に関する時事 (新聞記事等) をもとに、経営の基礎知識面から解説を加える。				
成績評価方法	定期試験における筆記試験と平常のクラス参加度により評価する。				
基準	配点は、筆記試験は概ね60%前後、クラス参加度は概ね40%前後とする。				
授業の予習・復習	予習： ホテル/旅館、航空会社、旅行会社等の観光産業および国・自治体の観光施策等に関する新聞記事などを読みひろって、目を通しておく。 復習： 配布プリントに目を通す。				
教科書	教科書は用いない。毎回プリントを配布する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義ガイダンス	後期授業の概要を簡単に説明			
第2回	観光立国 1 (観光政策)	日本の観光政策の変遷 (明治、戦後、万博、高度成長期)、観光振興施策の意味、観光立国の推進など			
第3回	観光立国 2 (国際観光)	国際観光市場の現状、海外諸国のプロモーション、ツーウェイ・ツーリズムなど			
第4回	観光立国 3 (インバウンド拡大)	外国人訪日旅行の市場、受入環境整備、訪日旅行者の消費行動、訪日旅行促進のマーケティング、多様な事業者の取組みなど			
第5回	宿泊事業 1 (宿泊業全般)	ホテルの発展史、旅館の歴史、国内宿泊旅行市場の状況、宿泊産業の動向、宿泊産業の特性など			
第6回	宿泊事業 2 (ホテル業)	ホテルの機能と発展、ホテルの分類、ホテルビジネスの経営形態、ホテルの経営組織、ホテルの収入構造、レベニューマネジメントの考え方など			
第7回	宿泊事業 3 (旅館業)	老舗企業としての旅館業、旅館の業務、おもてなしとホスピタリティ、旅館業と地域観光、旅館の特質と課題など			
第8回	航空事業 1 (航空産業全般)	航空会社を取り巻く課題、航空会社の組織、航空事業の特徴、航空業の特性、世界の航空市場とプレイヤーなど			
第9回	航空事業 2 (航空政策と空港)	空港の機能、空港の種別と分類、空港でのビジネス、空港と地域の関わり、航空政策の移り変わりと航空事業、空の自由、オープンスカイとアジアゲイトウェイ構想など			
第10回	航空事業 3 (航空事業の経営)	アライアンス、航空事業の経費構造、ローコストキャリア (LCC) の進出、チャーターと地域 (空港) など			
第11回	宿泊・航空事業共通 4 (レベニューマネジメント・イールドマネジメント)	レベニューマネジメント・イールドマネジメントの考え方、早割り、宿泊業における指標、航空業における指標など			
第12回	地域の観光事業 1 (地域活性化と観光事業)	地域の課題、観光圏整備事業、地域観光活性化のための課題、観光まちづくり、様々な観光地づくり、観光ブランディングと集客事業など			
第13回	地域の観光事業 2 (ニューツーリズムと着地型観光)	新しい旅のスタイル、ニューツーリズムを支える地域の事業、エコツーリズム、グリーン・ツーリズム、文化観光、産業観光、ヘルスツーリズム、スポーツ観光、医療観光など			
第14回	地域の観光事業 3 (コンベンションビジネス・MICE)	MICEとは、意義と効果、MICEと地域経済、MICE (ミーティング、インセンティブラベル、コンベンション、エグジビション・イベント) 事業、MICEの市場規模など			
第15回	リキャップ	本授業の整理と主要な点についての復習、テスト範囲について			

経済

授業番号	B202290001				
科目名 (英語表記)	管理会計論 (Administrative-accounting theory)				
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、管理会計の基礎的知識を理解し、企業経営者の意思決定や業績評価に役立つ会計情報を自分で計算できるようになることである。また到達目標は、CVP分析や予算管理、利益計画の策定や原価管理のしくみを理解することによって、企業の問題点を分析できることである。				
授業の進め方 (履修条件など)	本授業では、原価計算、利益管理、原価管理、予算管理、意思決定、バランススコアカードという五つの主要なテーマについて重点的に取り上げていく。また、管理会計 (原価計算) の知識とその手法が身につくよう、問題演習を取り入れた授業を行いながら、管理会計の理解を深められるようにする。				
成績評価方法	レポート： 30% (管理会計論では、3回のレポート提出を義務づけており、各10点満点で採点する。)				
基準	期末試験： 70% (期末試験は100点満点で採点し、それを成績評価の70%分に換算する。)				
授業の予習・復習	次の授業までに、テキストの該当箇所を熟読して授業に臨むこと。またレポートについては、期日までに提出できるように授業で取り上げた箇所の復習を怠らないこと。				
教科書	櫻井通晴著『管理会計 基礎編』同文館出版、2010年。				
参考文献	櫻井通晴著『管理会計 第四版』同文館出版、2009年。 森久・関利恵子・長野史麻・徳山英邦・蔣飛鴻著『財務分析からの会計学 第二版』森山書店、2011年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	本授業の概要と今後の進め方、成績評価について説明			
第2回	原価計算編 (1)	原価計算の前提			
第3回	原価計算編 (2)	部門費の計算			
第4回	原価計算編 (3)	個別原価計算			
第5回	原価計算編 (4)	総合原価計算			
第6回	原価計算編 (5)	標準原価計算			
第7回	原価計算編 (6)	直接原価計算			
第8回	管理会計編 (1)	意思決定会計			
第9回	管理会計編 (2)	CVP分析			
第10回	管理会計編 (3)	短期利益計画と長期利益計画			
第11回	管理会計編 (4)	戦略的投資			
第12回	管理会計編 (5)	管理会計の有用性について			
第13回	管理会計編 (6)	マネジメントコントロールと管理会計			
第14回	管理会計編 (7)	戦略的コストマネジメント			
第15回	管理会計編 (8)	VBMと日本の管理会計			

# 経済

授業番号	B201330001		
科目名 (英語表記)	企業金融論 I (Corporation finance theory I)		
担当者 (英語表記)	三田村 智 (Satoshi Mitamura)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義では、企業金融の基礎理論を学ぶ。具体的には、重要なキーワードである「資本コスト」と「現在価値」について解説した上で、企業の投資決定について講義する。資本調達やペイアウト政策などは企業金融論Ⅱ（後期）で取り上げる。両方を履修することで、1年間かけて、企業金融について体系的に学ぶことができる。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を中心に、配布プリントや関連する新聞・雑誌記事を用いて授業を行う。		
成績評価方法	2回のテストと授業への参加態度により評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：教科書を前もってよく読み、自ら理解できた部分とそうでない部分を明確すること。 復習：授業で学んだ内容についてよく復習し、理解できなかった部分は必ず質問すること。		
教科書	砂川伸幸『コーポレート・ファイナンス入門』（2004年、日本経済新聞社）		
参考文献	島義夫『入門コーポレート・ファイナンス』（2010年、日本評論社） 山澤光太郎『ビジネスマンのためのファイナンス入門』（2004年、東洋経済新報社） その他、適宜授業中に指定する。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	イントロダクション	本科目の概要、講義の進め方、評価の方法について	
第2回	リスクとリターン (1)	期待収益率、ファイナンスにおけるリスクについて	
第3回	リスクとリターン (2)	リスク・プレミアム、リスクとリターンの関係	
第4回	資本コスト (1)	債権者と株主のリスクとリターンについて	
第5回	資本コスト (2)	資本構成と総資本コストについて	
第6回	CAPM	資本資産評価モデル (CAPM) について	
第7回	総資本コストの推計	総資本コストの推計について	
第8回	中間試験	これまでの授業に関する確認テスト	
第9回	キャッシュフローの現在価値 (1)	現在価値と将来価値について	
第10回	キャッシュフローの現在価値 (2)	リスクがあるキャッシュフローの現在価値	
第11回	企業価値とキャッシュフロー	企業価値とキャッシュフローについて	
第12回	企業の投資決定 (1)	NPV法による投資の意思決定について	
第13回	企業の投資決定 (2)	RR法、EVA法による投資の意思決定について	
第14回	リアルオプション (1)	リアルオプションという考え方について	
第15回	リアルオプション (2)	リアルオプションを考慮した投資の意思決定	

# 経済

授業番号	B201340001				
科目名 (英語表記)	企業金融論 II (Corporation finance theory II)				
担当者 (英語表記)	三田村 智 (Satoshi Mitamura)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義では企業金融論 I (前期) の続きとして、企業による資本の調達や投資について学ぶ。実際の企業の財務戦略を取り上げたり、ケーススタディを行ったりすることで、企業金融の基礎を分かりやすく講義する。本講義では、特に企業の資本調達について解説する。また、ペイアウト政策や M & A についても取り上げる。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を中心に、配布プリントや関連する新聞・雑誌記事を用いて授業を行う。				
成績評価方法	2 回のテストと授業への参加態度により評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書を前もってよく読み、自ら理解できた部分とそうでない部分を明確すること。 復習：授業で学んだ内容についてよく復習し、理解できなかった部分は必ず質問すること。				
教科書	砂川伸幸『コーポレート・ファイナンス入門』(2004 年、日本経済新聞社)				
参考文献	島義夫『入門コーポレート・ファイナンス』(2010 年、日本評論社) 山澤光太郎『ビジネスマンのためのファイナンス入門』(2004 年、東洋経済新報社) その他、適宜授業中に指定する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	イントロダクション	本科目の概要、講義の進め方、評価の方法			
第 2 回	企業の資金調達と投資行動	企業の資金調達と投資行動の概要			
第 3 回	資本構成と企業価値	資本構成と企業価値の関係 (MM 命題)			
第 4 回	法人税とデフォルトコスト	トレードオフ理論、最適資本構成について			
第 5 回	長期資金調達の制度	我が国における企業の長期資金調達チャネル			
第 6 回	エクイティファイナンス	株式による資金調達について			
第 7 回	中間試験	これまでの授業に関する確認テスト			
第 8 回	情報の不完全性と資本構成 (1)	事前的な情報の不完全性と逆選択問題			
第 9 回	情報の不完全性と資本構成 (2)	事後的な情報の不完全性とエージェンシー問題			
第 10 回	配当政策と自社株買い (1)	MM の配当無関連命題について			
第 11 回	配当政策と自社株買い (2)	市場の不完全性と配当政策について			
第 12 回	配当政策と自社株買い (3)	市場の不完全性と自社株買いについて			
第 13 回	M & A とその経営・財務上の意味 (1)	M&A、そのメリット・デメリットなど			
第 14 回	M & A とその経営・財務上の意味 (2)	株式譲渡、株式交換による M&A について			
第 15 回	M & A とその経営・財務上の意味 (3)	TOB、LBO、MBO について			



# 経済

授業番号	B202550001				
科目名 (英語表記)	企業経営と心理学 (Corporate management and psychology)				
担当者 (英語表記)	藤井 輝男 (Teruo Fujii)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経営活動に関わる心理学的問題は、消費者行動のみならず組織と個人の問題、職場管理とリーダーシップ、職場内での人間関係など多岐にわたる。本講義では、経営活動を人間の行動との関わりからとらえ、経営活動について心理学的に理解することを旨とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	まず、消費者行動に関連して心理学的視点から概説する。その後、広告、購買行動、組織マネジメントワークモチベーション等の各テーマに関して、学生各自が分担して報告を行う。その報告内容に関して、教員が補足説明を加える形式で授業を進める。				
成績評価方法	試験 (40%)、発表及びその他の課題 (40%)、授業態度 (20%)				
基準					
授業の予習・復習	事前に配付資料等を読み込んでおくこと。				
教科書	初回授業時に指示する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて			
第2回	消費者心理と行動	ショッピング (物を買う) とは			
第3回	販売と購買心理	人の気持ちと購買行動			
第4回	ファッションの経営心理	衣服購入 (ファッション) に関わる問題について			
第5回	広告の方法と心理	様々な広告の影響について			
第6回	広告の深層心理	広告の知られざる効果について			
第7回	自己プレゼンテーション	顧客に与える印象とその効果			
第8回	企業の意志決定の方法	集団討議の功罪について			
第9回	管理者とリーダーシップ	職場環境とリーダーの特性について			
第10回	企業組織の活性化	組織活性化のための変革について			
第11回	性役割と経営心理	職場における男女の役割について			
第12回	人事測定	人事アセスメントとディベロップメント			
第13回	ワークモチベーション	意欲を高めるには			
第14回	仕事の成功と失敗	仕事への取り組みと性格との関連について			
第15回	職場のストレスと適応	ストレスに対処するには			



# 経済

授業番号	B202670001				
科目名 (英語表記)	企業と産業組織 I (A company and the industrial organization I)				
担当者 (英語表記)	森谷 英樹 (Hideki Moriya)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	通常の経済学では、個人や企業などの経済主体が、あたかもバクテリアのように平均的均一的であるかのように前提を置く。産業組織論では様々な規模と個性を持つ企業が、時に競争的に時に協調的に行動することに注目する。				
授業の進め方 (履修条件など)	板書と説明をノートにとりまとめる形で進める。教科書はないが随時プリントを配布して教材にする。基礎的な常識 (理論)、過去の経験 (歴史的な事実)、現状と問題点 (政策課題) など分かりやすく説明する。				
成績評価方法	定期試験 90%、出席 10%				
基準	試験では自筆ノートのみ持ち込み可。ノートがなければ合格は困難であろう。				
授業の予習・復習	予習：授業の始めに前回の復習をする。 復習：終わったあと分からないことについて質問を認める。				
教科書	使用しない				
参考文献	R. ケイヴス「産業組織論」東洋経済新報社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	授業の概要と目標	講義の聞き方、ノートのとり方、まとめ方			
第 2 回	生産性とは何か？	豊かな社会は何故可能か、落花生のケース			
第 3 回	産業組織の必要性	相互依存関係と産業組織、産業組織の決定			
第 4 回	ミクロ経済と産業組織	付加価値を増やすために			
第 5 回	アパレル産業のケース	売れる商品を調達する仕組みをどうする			
第 6 回	中間とりまとめ	市場か、社内か、系列取引先か			
第 7 回	市場構造①	アタリ社			
第 8 回	市場構造②	ロックフェラーのスタンダード石油			
第 9 回	市場構造③	スタンダード石油の分割命令			
第 10 回	独占禁止法とその運用	八幡・富士合併と公正取引委員会			
第 11 回	巨大合併の審査	新日本製鉄の誕生			
第 12 回	供給責任と日本企業	住友化学の事故			
第 13 回	ケーススタディ①	事例研究とその要点			
第 14 回	ケーススタディ②	事例研究とその要点			
第 15 回	試験対策	復習			

# 経済

授業番号	B202680001				
科目名 (英語表記)	企業と産業組織 II (A company and the industrial organization II)				
担当者 (英語表記)	森谷 英樹 (Hideki Moriya)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	通常の経済学では、個人や企業などの経済主体が、あたかもバクテリアのように平均的均一的であるかのように前提を置く。産業組織論では様々な規模と個性を持つ企業が、時に競争的に時に強制的に行動することに注目する。				
授業の進め方 (履修条件など)	板書と説明をノートにとりまとめる形で進める。教科書はないが随時プリントを配布して教材にする。基礎的な常識 (理論)、過去の経験 (歴史的な事実)、現状と問題点 (政策課題) など分かりやすく説明する。				
成績評価方法	定期試験 90%、出席 10%				
基準	試験では自筆ノートのみ持ち込み可。ノートがなければ合格は困難であろう。				
授業の予習・復習	予習：授業の始めに前回の復習をする。 復習：終わったあと分からないことについて質問を認める。				
教科書	使用しない。				
参考文献	清成、下川『現代の系列』日本産業評論社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	授業の概要と目標	講義の聞き方、ノートのとり方、まとめ方			
第 2 回	設備投資と技術進歩	経済成長と賃金、付加価値の増加			
第 3 回	日本の経済成長	無資源の優位性、自由貿易と比較優位			
第 4 回	技術進歩と経済成長	鉄鋼と自動車、新鋭工場と輸出			
第 5 回	産業組織とケイレツ	部品産業の育成、系列取引は合理的か			
第 6 回	対米産業政策	自動車産業政策、小型車戦略、現地生産			
第 7 回	産業技術と産業政策	電子工業の産業組織			
第 8 回	イノベーション	新しい商品開発、価格低下と大量生産			
第 9 回	中間とりまとめ	企業行動、競争と協力、多国籍生産			
第 10 回	空洞化論	付加価値と分業と貿易			
第 11 回	系列取引とサプライチェーン	取引コストの低減			
第 12 回	産業組織と環境問題	家電リサイクル法、PPP、RRR			
第 13 回	ケーススタディ①	事例研究とその要点			
第 14 回	ケーススタディ②	事例研究とその要点			
第 15 回	試験対策	復習			

# 経済

授業番号	B202520001				
科目名 (英語表記)	企業法 (Enterprise law)				
担当者 (英語表記)	野口 明宏 (Akihiro Noguchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>企業法とは、学説が現代の商法・会社法を表現するために、使用する言葉です。</p> <p>この授業は商法のなかで、総則と商行為の範囲を解説します。</p> <p>企業組織と企業取引の一般的ルールを理解できるように、分かりやすく説明します。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>授業は、要点を黒板に書きながら進めていきます。</p> <p>知識が身につくように、ノートをとってください。</p>				
成績評価方法	定期試験と小テストをもとに評価します。				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習—あらかじめテキストを読んでください。</p> <p>復習—ノートをもとにテキストを読み返してください。</p>				
教科書	近藤光男編「現代商法入門 (第8版)」有斐閣				
参考文献	必要に応じて、授業時間に紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	受講上の注意、試験の方法			
第2回	企業法の意義	形式的・実質的意義、商法企業法説			
第3回	商法の特性	営利性、定型性、公示主義、外観主義			
第4回	商法の適用	商事制定法、商慣習法、普通取引約款			
第5回	商人とは何か	商人と商行為、固有の商人、擬制商人、小商人			
第6回	商人資格の得喪	自然人の営業能力、法人の権利能力			
第7回	営業とは何か	主観的・客観的意義、のれん			
第8回	営業譲渡、営業所	営業用財産の一括譲渡、本店・支店			
第9回	商業登記	企業内容の公示、商業登記簿、登記手続			
第10回	商業登記の効力	一般的効力、悪意の擬制、不実の登記			
第11回	商号	商号自由主義、商号の登記、商号権			
第12回	商業帳簿	企業会計原則、会計帳簿、貸借対照表			
第13回	商業使用人	支配人、支配権、競争禁止義務、表見支配人			
第14回	代理商	締約代理商、媒介代理商、代理商契約			
第15回	商行為の種類	絶対的・営業的・付属的商行為			

# 経済

授業番号	B200030001				
科目名 (英語表記)	基礎数学 (Basic mathematics)			(3)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	数的パズルを通して基本的な計算力を身に付け、論理的思考力を養います。これにより、経済学など大学で扱う学問習得に必要な数的処理能力を習得するのが主な目標です。また、数的感覚を磨くことで、日常生活にも役立ち、SPI 非言語・CABなどの各種就職試験で高得点を取れるようにもしていきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	プリントを配布し、例題を説明した後で、練習問題を演習します。パズルを多く取り入れ、楽しく学び、数学に興味を持ってもらえるようにします。				
成績評価方法	定期試験・出席				
基準					
授業の予習・復習	授業で扱った問題は次回までにスラスラ解答できるように復習しておきましょう。				
教科書	使用しません。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の方針, 計算パズル			
第 2 回	四則計算	整数の四則計算と効率の良い計算方法			
第 3 回	小数・概算	CAB(暗算)の過去問演習, 割合の考え方			
第 4 回	分数	分数の四則計算, 約数と倍数			
第 5 回	文字式	累乗, 簡単な文字式の必要性・意味・扱い			
第 6 回	方程式 (1)	等式の性質, 一次方程式の解法			
第 7 回	方程式 (2)	一次方程式とその応用			
第 8 回	中間試験	第 1 ~ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	不等式	不等式を用いた表現, 一次不等式の解法			
第 10 回	平方根	平方根と根号 ( $\sqrt{\quad}$ ) の必要性・意味・扱い			
第 11 回	連立方程式	2 元一次連立方程式の解法とその応用			
第 12 回	座標平面 (1)	点の座標, 比例・反比例・一次関数のグラフ			
第 13 回	座標平面 (2)	連立方程式の解とグラフ			
第 14 回	展開・因数分解 (1)	簡単な式の展開と因数分解			
第 15 回	展開・因数分解 (2)	展開と因数分解の応用			

経済

授業番号	B200030002				
科目名 (英語表記)	基礎数学 (Basic mathematics)			(4) 留学生	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	数的パズルを通して基本的な計算力を身に付け、論理的思考力を養います。これにより、経済学など大学で扱う学問習得に必要な数的処理能力を習得するのが主な目標です。また、数的感覚を磨くことで、日常生活にも役立ち、SPI 非言語・CABなどの各種就職試験で高得点を取れるようにもしていきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	プリントを配布し、例題を説明した後で、練習問題を演習します。パズルを多く取り入れ、楽しく学び、数学に興味を持ってもらえるようにします。				
成績評価方法	定期試験・出席				
基準					
授業の予習・復習	授業で扱った問題は次回までにスラスラ解答できるように復習しておきましょう。				
教科書	使用しません。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の方針, 計算パズル			
第 2 回	四則計算	整数の四則計算と効率の良い計算方法			
第 3 回	小数・概算	CAB(暗算)の過去問演習, 割合の考え方			
第 4 回	分数	分数の四則計算, 約数と倍数			
第 5 回	文字式	累乗, 簡単な文字式の必要性・意味・扱い			
第 6 回	方程式 (1)	等式の性質, 一次方程式の解法			
第 7 回	方程式 (2)	一次方程式とその応用			
第 8 回	中間試験	第 1 ~ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	不等式	不等式を用いた表現, 一次不等式の解法			
第 10 回	平方根	平方根と根号 ( $\sqrt{\quad}$ ) の必要性・意味・扱い			
第 11 回	連立方程式	2 元一次連立方程式の解法とその応用			
第 12 回	座標平面 (1)	点の座標, 比例・反比例・一次関数のグラフ			
第 13 回	座標平面 (2)	連立方程式の解とグラフ			
第 14 回	展開・因数分解 (1)	簡単な式の展開と因数分解			
第 15 回	展開・因数分解 (2)	展開と因数分解の応用			

# 経済

授業番号	B200030003				
科目名 (英語表記)	基礎数学 (Basic mathematics)			(2)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	数的パズルを通して基本的な計算力を身に付け、論理的思考力を養います。これにより、経済学など大学で扱う学問習得に必要な数的処理能力を習得するのが主な目標です。また、数的感覚を磨くことで、日常生活にも役立ち、SPI 非言語・CABなどの各種就職試験で高得点を取れるようにもしていきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	プリントを配布し、例題を説明した後で、練習問題を演習します。パズルを多く取り入れ、楽しく学び、数学に興味を持ってもらえるようにします。				
成績評価方法	定期試験・出席				
基準					
授業の予習・復習	授業で扱った問題は次回までにスラスラ解答できるように復習しておきましょう。				
教科書	使用しません。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の方針, 計算パズル			
第 2 回	四則計算	整数の四則計算と効率の良い計算方法			
第 3 回	小数・概算	CAB(暗算)の過去問演習, 割合の考え方			
第 4 回	分数	分数の四則計算, 約数と倍数			
第 5 回	文字式	累乗, 簡単な文字式の必要性・意味・扱い			
第 6 回	方程式 (1)	等式の性質, 一次方程式の解法			
第 7 回	方程式 (2)	一次方程式とその応用			
第 8 回	中間試験	第 1 ~ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	不等式	不等式を用いた表現, 一次不等式の解法			
第 10 回	平方根	平方根と根号 ( $\sqrt{\quad}$ ) の必要性・意味・扱い			
第 11 回	連立方程式	2 元一次連立方程式の解法とその応用			
第 12 回	座標平面 (1)	点の座標, 比例・反比例・一次関数のグラフ			
第 13 回	座標平面 (2)	連立方程式の解とグラフ			
第 14 回	展開・因数分解 (1)	簡単な式の展開と因数分解			
第 15 回	展開・因数分解 (2)	展開と因数分解の応用			

# 経済

授業番号	B200030004				
科目名 (英語表記)	基礎数学 (Basic mathematics)			(1)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	数的パズルを通して基本的な計算力を身に付け、論理的思考力を養います。これにより、経済学など大学で扱う学問習得に必要な数的処理能力を習得するのが主な目標です。また、数的感覚を磨くことで、日常生活にも役立ち、SPI 非言語・CABなどの各種就職試験で高得点を取れるようにもしていきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	プリントを配布し、例題を説明した後で、練習問題を演習します。パズルを多く取り入れ、楽しく学び、数学に興味を持ってもらえるようにします。				
成績評価方法	定期試験・出席				
基準					
授業の予習・復習	授業で扱った問題は次回までにスラスラ解答できるように復習しておきましょう。				
教科書	使用しません。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の方針, 計算パズル			
第 2 回	四則計算	整数の四則計算と効率の良い計算方法			
第 3 回	小数・概算	CAB(暗算)の過去問演習, 割合の考え方			
第 4 回	分数	分数の四則計算, 約数と倍数			
第 5 回	文字式	累乗, 簡単な文字式の必要性・意味・扱い			
第 6 回	方程式 (1)	等式の性質, 一次方程式の解法			
第 7 回	方程式 (2)	一次方程式とその応用			
第 8 回	中間試験	第 1 ~ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	不等式	不等式を用いた表現, 一次不等式の解法			
第 10 回	平方根	平方根と根号 ( $\sqrt{\quad}$ ) の必要性・意味・扱い			
第 11 回	連立方程式	2 元一次連立方程式の解法とその応用			
第 12 回	座標平面 (1)	点の座標, 比例・反比例・一次関数のグラフ			
第 13 回	座標平面 (2)	連立方程式の解とグラフ			
第 14 回	展開・因数分解 (1)	簡単な式の展開と因数分解			
第 15 回	展開・因数分解 (2)	展開と因数分解の応用			

# 経済

授業番号	B200630001				
科目名 (英語表記)	キャリア基礎開発 I (Career basic development I)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	PBL (Problem Based Learning : 課題解決型) の授業。ビジネスシーンでの課題に向き合うことで、働くことの厳しさ、やりがいを感じてもらえることが目標です。自分に関する情報、企業など目標に対する情報、それらを取りまく社会に関する情報の 3 情報の収集の仕方、分析の仕方を学び、それらで発掘できた自分自身のリソースを活用した自分提案のトレーニングは、就活力向上に直結します。				
授業の進め方 (履修条件など)	5～6名程度のグループワーク (最大 15 グループ程度) で授業を進めます。 授業には 10 社の企業様にご参加いただき、授業運営や“チバイチバン”力の評価についてご協力をいただきます。評価結果は、採用試験の可否判断の材料として活用されます。 ・3年生を優先します (定員 100 名) ・4年生も履修が可能です ・履修申し込みは、キャリアセンターとします。				
成績評価方法 基準	出席、レポート、授業取組姿勢、“チバイチバン”力評価、などで総合的に評価します。				
授業の予習・復習	授業内に指示します。				
教科書	授業内で資料などを配布します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	Time Table、授業への取り組み方			
第 2 回	事例 1 (A 社の紹介)	課題提示と状況の推測、課題分析			
第 3 回	分析内容のプレゼン	分析内容の共有、視点確認			
第 4 回	インタビュー	社員の方からのヒアリング			
第 5 回	問題分析とプレゼン	ヒアリングを受けて課題分析と発表			
第 6 回	ソリューション企画	課題解決策の立案と発表			
第 7 回	プレゼンと評価	社員の方向けに発表			
第 8 回	再企画	社員の方からの評価を受けて、再立案			
第 9 回	事例 2 (B 社の紹介)	課題提示と状況の推測、課題分析			
第 10 回	分析内容のプレゼン	分析内容の共有、視点確認			
第 11 回	インタビュー	社員の方からのヒアリング			
第 12 回	問題分析とプレゼン	ヒアリングを受けて課題分析と発表			
第 13 回	ソリューション企画	課題解決策の立案と発表			
第 14 回	プレゼンと評価	社員の方向けに発表			
第 15 回	再企画	社員の方からの評価を受けて、再立案			



# 経済

授業番号	B200640001				
科目名 (英語表記)	キャリア基礎開発 II (Career basic development II)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本文化、日本の常識、ビジネス社会に必要な言葉遣い、マナー、ビジネス文書記述、およびプレゼンテーション力を学びます。就職活動においても有意義な内容になっています。				
授業の進め方 (履修条件など)	日本の社会での常識を積極的に学びたい人。 聴く、書く、まとめる、話す、立ち振る舞う、等々を実践的に行動に移す講座です。 ・3,4年生も履修が可能です				
成績評価方法	出席、定期試験・授業内小テスト・レポート及びその他の課題をもとに採点します。				
基準					
授業の予習・復習	講師からの課題は、事前に必ず準備しておいてください。 また講義終了後に配布したプリントには必ず目を通しファイリングして下さい。				
教科書	プリントを配布します。				
参考文献	その都度紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	ビジネス最前線と授業のねらいを説明します。			
第2回	ビジネスマナーとは	「知らなかった」では済まされない 「知る」ことの必要性、重要性の講義をします。			
第3回	ビジネスマナーの基本	第一印象の重要性と身だしなみについて			
第4回	言葉遣い ①	尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い方について			
第5回	言葉遣い ②	言葉遣いの間違いについて			
第6回	ビジネス文書 ①	文書の基本と作成手順について			
第7回	ビジネス文書 ②	文書の作成を実践します。			
第8回	電子メールの基本	メールの基本、ルールとマナーについて			
第9回	電話のかけ方と訪問の仕方	電話応対の基本について講義をします。			
第10回	自己紹介の仕方	プレゼンテーションの仕方について			
第11回	面接の対応 ①	自己PRについて考えてみます。			
第12回	面接の対応 ②	志望動機について考えてみます。			
第13回	面接の対応 ③	グループディスカッションについて考えてみます。			
第14回	ビジネスマナーの訓練	マナーの実践			
第15回	まとめ	いままでの講義について振り返りと 質疑応答します。			

経済

授業番号	B200650001				
科目名 (英語表記)	キャリア基礎開発 III (Career basic development III) (A)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	先入観や自分に縛られた将来像から脱却し、環境変化や自分の成長を入れ、選択肢を広げる。 ツールとしてコンビニエンスストアを素材としたソフトを使用します。				
授業の進め方 (履修条件など)	グループディスカッション、プレゼンテーション、質疑応答をファシリテートしていく形進行していきます。 シュミレーション教材を使用し、情報活用、合意形成、意思決定など 今の社会で必要とされているスキルを体験プログラムの中で身につけていきます。 ・3年生を優先します (各クラス 定員 28名) ・4年生も履修が可能です				
成績評価方法	出席、レポート、“チバイチバン”力評価、及びその他の課題				
基準	グループごとの相互評価と自己評価を成績評価に加味します。				
授業の予習・復習	前回講義のワークシート作成				
教科書	マイキャリアカードビジネスシュミレーション、コンビニ model、ワークシート				
参考文献	得になし				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	ビジネスシュミレーション講座の進め方			
第 2 回	行動へのキャリアデザイン	なぜ今キャリアデザイン？			
第 3 回	MYキャリアカード	キャリア占いゲーム編			
第 4 回	MYキャリアデザイン シート①	自分資源探索編			
第 5 回	MYキャリアデザイン シート②	ワークスタイル読解編			
第 6 回	求人情報からみた企業データ	求人情報読解編			
第 7 回	コンビニ model シュミレーション①	買う側から売る側への視点転換			
第 8 回	コンビニ model シュミレーション②	データから絵を読む情報読解			
第 9 回	コンビニ model シュミレーション③	仮説 ・ 検証 ・ 修正の実践			
第 10 回	コンビニ model シュミレーション④	欲しい情報を引き出す質問			
第 11 回	コンビニ model シュミレーション⑤	自分リソース活用との重ね合わせ			
第 12 回	志望企業調査 ①	エントリーシートの作成 ①			
第 13 回	志望企業調査 ②	エントリーシートの作成 ②			
第 14 回	調査発表 ①	プレゼンテーション、振り返り ①			
第 15 回	調査発表 ②	プレゼンテーション、振り返り ②			

経済

授業番号	B200650002				
科目名 (英語表記)	キャリア基礎開発 III (Career basic development III) (B)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	先入観や自分に縛られた将来像から脱却し、環境変化や自分の成長を入れ、選択肢を広げる。 ツールとしてコンビニエンスストアを素材としたソフトを使用します。				
授業の進め方 (履修条件など)	グループディスカッション、プレゼンテーション、質疑応答をファシリテートしていく形進行していきます。 シュミレーション教材を使用し、情報活用、合意形成、意思決定など 今の社会で必要とされているスキルを体験プログラムの中で身につけていきます。 ・3年生を優先します (各クラス 定員 28名) ・4年生も履修が可能です				
成績評価方法	出席、レポート、“チバイチバン” 力評価、及びその他の課題				
基準	グループごとの相互評価と自己評価を成績評価に加味します。				
授業の予習・復習	前回講義のワークシート作成				
教科書	マイキャリアカードビジネスシュミレーション、コンビニ model、ワークシート				
参考文献	得になし				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	ビジネスシュミレーション講座の進め方			
第 2 回	行動へのキャリアデザイン	なぜ今キャリアデザイン？			
第 3 回	MYキャリアカード	キャリア占いゲーム編			
第 4 回	MYキャリアデザイン シート①	自分資源探索編			
第 5 回	MYキャリアデザイン シート②	ワークスタイル読解編			
第 6 回	求人情報からみた企業データ	求人情報読解編			
第 7 回	コンビニ model シュミレーション①	買う側から売る側への視点転換			
第 8 回	コンビニ model シュミレーション②	データから絵を読む情報読解			
第 9 回	コンビニ model シュミレーション③	仮説 ・ 検証 ・ 修正の実践			
第 10 回	コンビニ model シュミレーション④	欲しい情報を引き出す質問			
第 11 回	コンビニ model シュミレーション⑤	自分リソース活用との重ね合わせ			
第 12 回	志望企業調査 ①	エントリーシートの作成 ①			
第 13 回	志望企業調査 ②	エントリーシートの作成 ②			
第 14 回	調査発表 ①	プレゼンテーション、振り返り ①			
第 15 回	調査発表 ②	プレゼンテーション、振り返り ②			

経済

授業番号	B200660001				
科目名 (英語表記)	キャリアディベロップメント (Career development)			(A)	
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	1年次に履修したキャリアプランニングの2年生向け授業です。 就業力向上・社会化の推進に向けて、社会情勢・就職活動の実態の理解や社会人へのインタビュー等を通じ、社会を知ると同時に自己理解を促します。 また、講座を通じ幅広いコミュニケーション能力及び主体性の向上をはかります。				
授業の進め方 (履修条件など)	具体的事例を取り入れながら、裏付けとなる理論、考え方を解説し 座学と実践演習を併用して進めていきます。 ・2年生を優先します (定員80名) ・3,4年生も履修が可能です。 ・履修申し込みは、キャリアセンターとします。				
成績評価方法 基準	出席、レポート、“チバイチバン”カ評価、及びその他の課題により判断します。				
授業の予習・復習	講師より出題された課題は事前に準備をしておいてください。				
教科書	プリントを配布します。				
参考文献	その都度紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス「社会を知る」ことの重要性	導入 動機づけ 現状把握			
第2回	業界動向と就職活動の実態	業界動向 就職活動の実態 就職活動の流れ			
第3回	興味を知る	興味ある職業領域・職業分類について目途を付ける			
第4回	コミュニケーション① (社会人と接する / 質問する)	マナー 質問の仕方			
第5回	ゲストスピーチ① 幅広いジャンルより選定	生き様に学ぶ			
第6回	ゲストスピーチ② 実績ある企業人より選定	生き様に学ぶ			
第7回	コミュニケーション② (レポート作成の基礎)	レポート作成			
第8回	OB / OGスピーチ ①	生き様に学ぶ			
第9回	OB / OG スピーチ②	生き様に学ぶ			
第10回	コミュニケーション ③ (インタビューの基礎)	インタビュー			
第11回	コミュニケーション ④ (プレゼンテーションの基礎)	プレゼンテーション			
第12回	発表会	グループ発表			
第13回	自己棚卸・自己理解	タイプの類型と目標			
第14回	活動計画 ①	1回～7回まとめ			
第15回	活動計画 ②	8回～13回まとめ			

経済

授業番号	B200660002				
科目名 (英語表記)	キャリアディベロップメント (Career development)			(B)	
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	1年次に履修したキャリアプランニングの2年生向け授業です。 就業力向上・社会化の推進に向けて、社会情勢・就職活動の実態の理解や社会人へのインタビュー等を通じ、社会を知ると同時に自己理解を促します。 また、講座を通じ幅広いコミュニケーション能力及び主体性の向上をはかります。				
授業の進め方 (履修条件など)	具体的事例を取り入れながら、裏付けとなる理論、考え方を解説し 座学と実践演習を併用して進めていきます。 ・2年生を優先します (定員80名) ・3,4年生も履修が可能です。 ・履修申し込みは、キャリアセンターとします。				
成績評価方法 基準	出席、レポート、“チバイチバン”カ評価、及びその他の課題により判断します。				
授業の予習・復習	講師より出題された課題は事前に準備をしておいてください。				
教科書	プリントを配布します。				
参考文献	その都度紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス「社会を知る」ことの重要性	導入 動機づけ 現状把握			
第2回	業界動向と就職活動の実態	業界動向 就職活動の実態 就職活動の流れ			
第3回	興味を知る	興味ある職業領域・職業分類について目途を付ける			
第4回	コミュニケーション① (社会人と接する / 質問する)	マナー 質問の仕方			
第5回	ゲストスピーチ① 幅広いジャンルより選定	生き様に学ぶ			
第6回	ゲストスピーチ② 実績ある企業人より選定	生き様に学ぶ			
第7回	コミュニケーション② (レポート作成の基礎)	レポート作成			
第8回	OB / OGスピーチ ①	生き様に学ぶ			
第9回	OB / OG スピーチ②	生き様に学ぶ			
第10回	コミュニケーション ③ (インタビューの基礎)	インタビュー			
第11回	コミュニケーション ④ (プレゼンテーションの基礎)	プレゼンテーション			
第12回	発表会	グループ発表			
第13回	自己棚卸・自己理解	タイプの類型と目標			
第14回	活動計画 ①	1回～7回まとめ			
第15回	活動計画 ②	8回～13回まとめ			

# 経済

授業番号	B200670001				
科目名 (英語表記)	キャリア教育 特殊講義 (Career education special lecture)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>産業界の研究をするためには、各種業界を知る必要があります。          業界・業種を知るためには数多くの方法がありますが、          業界で営業を経験したことのある方から話を聞くこと重要だと考え、営業管理職経験者を招聘します。          業界研究は就職活動の基本です。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>外部担当講師による講義となります。業界により異なる営業のシステムを学んでいただけます。          厳しい部分と楽しい部分、仕事のやりがいを語っていただけます。          ・4年生も履修が可能です          ・1、2年生も聴講できます (正課外)</p>				
成績評価方法	出席、各回ごとの感想文、“チバイチバン”力評価、及び最終レポートを参考にします。				
基準	遅刻、途中退回は絶対認めません。				
授業の予習・復習	<p>予習 : 該当業界の事前研究          復習 : 興味業界の場合一層の研究</p>				
教科書	プリントを配布				
参考文献	プリントを配布				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の案内			
	製造業：電機メーカー	株式会社東芝、芝浦メカトロニクス株式会社			
第2回	製造業：タイヤメーカー	株式会社ブリヂストン			
第3回	製造業：造船	三菱重工株式会社			
第4回	商社：水産	丸紅株式会社、株式会社ベニレイ、株式会社マルナミフーズ			
第5回	商社：非鉄金属	古河電気工業株式会社			
第6回	～ 特別授業 ～	～ インターンシップ報告会へ参加 ～			
第7回	メーカー：飲料	アサヒビール株式会社			
第8回	商社：農業	丸紅株式会社			
第9回	商社：トイレタリー (住宅設備)	花王株式会社			
第10回	金融：証券	山一証券株式会社			
第11回	情報：IT	日本アイ・ビー・エム株式会社			
第12回	サービス：レジャー	株式会社オリエンタルランド (ディズニーランド)			
第13回	サービス：映画	株式会社ワーナー・マイカル			
第14回	物流：通販ビジネス	株式会社リクルートホールディングス、株式会社セガ			
第15回	サービス：旅行	近畿日本ツーリスト株式会社			

経済

授業番号	B200060001				
科目名 (英語表記)	キャリアプランニング (Career planning)			(A) ~ (E)	
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	入学時より充実した学生生活を過ごすことがなぜ重要なのか、大学生活と卒業後の社会生活がどのように結びついているのかを学びます。最終的には、卒業後に目標とする人物像、(ロールモデル) を作成し、主体的な学生生活を過ごす姿勢を身につけることを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	20名前後のゼミ方式で、グループワークを中心に授業を進めます。それぞれのグループ (ゼミ) でワイワイガヤガヤとディスカッションをします。 ※必修科目				
成績評価方法	出席、提出物の内容、“チバイチバン” カ評価、併せて受講態度を加味して総合的に判断します。				
基準					
授業の予習・復習	予習 ・ 復習 : 講師より出題された課題は事前に準備をしておいて下さい。				
教科書	必要に応じて、プリント等を配布致します。				
参考文献	その都度、紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	キャリアとは	全体講義			
第2回	コミュニケーションの基礎 ①	～ 自分を語ろう ・ 相手を知ろう ~			
第3回	コミュニケーションの基礎 ②	～ 姿勢 ・ 動作 ・ 表情の基礎を知ろう ~			
第4回	コミュニケーションの基礎 ③	～ 話し方の基本 ・ 話し方の違いによる違いを知ろう ~			
第5回	ゲスト ・ スピーカー	全体講義			
第6回	ビジョンボードを創ろう	少人数制クラスでのファシリテーション			
第7回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ①			
第8回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ②			
第9回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ①			
第10回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ②			
第11回	チバイチバンカ«イ»	イノベーション			
第12回	チバイチバンカ«チ»	知識			
第13回	チバイチバンカ«バ»	バランス感覚			
第14回	チバイチバンカ«ン»	気づき notice			
第15回	まとめ	コンピテンシーモデルの作成			

経済

授業番号	B200060002				
科目名 (英語表記)	キャリアプランニング (Career planning)			(F) ~ (J)	
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	入学時より充実した学生生活を過ごすことがなぜ重要なのか、大学生活と卒業後の社会生活がどのように結びついているのかを学びます。最終的には、卒業後に目標とする人物像、(ロールモデル) を作成し、主体的な学生生活を過ごす姿勢を身につけることを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	20名前後のゼミ方式で、グループワークを中心に授業を進めます。それぞれのグループ (ゼミ) でワイワイガヤガヤとディスカッションをします。 ※必修科目				
成績評価方法	出席、提出物の内容、“チバイチバン” カ評価、併せて受講態度を加味して総合的に判断します。				
基準					
授業の予習・復習	予習 ・ 復習 : 講師より出題された課題は事前に準備をしておいて下さい。				
教科書	必要に応じて、プリント等を配布致します。				
参考文献	その都度、紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	キャリアとは	全体講義			
第2回	コミュニケーションの基礎 ①	～ 自分を語ろう ・ 相手を知ろう ～			
第3回	コミュニケーションの基礎 ②	～ 姿勢 ・ 動作 ・ 表情の基礎を知ろう ～			
第4回	コミュニケーションの基礎 ③	～ 話し方の基本 ・ 話し方の違いによる違いを知ろう ～			
第5回	ゲスト ・ スピーカー	全体講義			
第6回	ビジョンボードを創ろう	少人数制クラスでのファシリテーション			
第7回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ①			
第8回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ②			
第9回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ①			
第10回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ②			
第11回	チバイチバンカ«イ»	イノベーション			
第12回	チバイチバンカ«チ»	知識			
第13回	チバイチバンカ«バ»	バランス感覚			
第14回	チバイチバンカ«ン»	気づき notice			
第15回	まとめ	コンピテンシーモデルの作成			



経済

授業番号	B200060003				
科目名 (英語表記)	キャリアプランニング (Career planning)			(R)	
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	入学時より充実した学生生活を過ごすことがなぜ重要なのか、大学生活と卒業後の社会生活がどのように結びついているのかを学びます。最終的には、卒業後に目標とする人物像、(ロールモデル) を作成し、主体的な学生生活を過ごす姿勢を身につけることを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	20名前後のゼミ方式で、グループワークを中心に授業を進めます。それぞれのグループ (ゼミ) でワイワイガヤガヤとディスカッションをします。 ・再履修クラス (2～4年生対象)				
成績評価方法	出席、提出物の内容、“チバイチバン” カ評価、併せて受講態度を加味して総合的に判断します。				
基準					
授業の予習・復習	予習 ・ 復習 : 講師より出題された課題は事前に準備をしておいて下さい。				
教科書	必要に応じて、プリント等を配布致します。				
参考文献	その都度、紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	キャリアとは	全体講義			
第2回	コミュニケーションの基礎 ①	～ 自分を語ろう ・ 相手を知ろう ～			
第3回	コミュニケーションの基礎 ②	～ 姿勢 ・ 動作 ・ 表情の基礎を知ろう ～			
第4回	コミュニケーションの基礎 ③	～ 話し方の基本 ・ 話し方の違いによる違いを知ろう ～			
第5回	ゲスト ・ スピーカー	全体講義			
第6回	ビジョンボードを創ろう	少人数制クラスでのファシリテーション			
第7回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ①			
第8回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ②			
第9回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ①			
第10回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ②			
第11回	チバイチバンカ«イ»	イノベーション			
第12回	チバイチバンカ«チ»	知識			
第13回	チバイチバンカ«バ»	バランス感覚			
第14回	チバイチバンカ«ン»	気づき notice			
第15回	まとめ	コンピテンシーモデルの作成			

# 経済

授業番号	B202970001				
科目名 (英語表記)	教育原論 I (Educational theory I)				
担当者 (英語表記)	中山 幸夫 (Yukio Nakayama)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	教職を志望する学生諸君に健全な教育観、人間観を構築してもらうことを授業のねらいとする。教育の基礎理論、教育の思想、わが国の近代化と第二次大戦後の教育改革の軌跡を辿りながら、人間教育の本質と課題に関心を深めることを目標としたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストの内容をふまえた講義要項、資料を毎回配付し、それらをもとにしながら授業を進めていく。ビデオ、パワーポイント等の視聴覚教材も適宜用いる。まずは授業に出席し、「聞く」姿勢を大事にしてほしい。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・課題レポート (30%)・授業参加態度 (20%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：次回のテーマに関してテキスト、資料の指定範囲を読んでおく。 復習：授業の終わりに授業内容の確認を兼ねた課題レポートの提出を求める。				
教科書	平野智美監修、中山幸夫他編著 『教育学のグランドデザイン』 八千代出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	教育をめぐる今日の状況	問題としての教育、家庭・学校・地域社会の現状			
第 2 回	教育の意義	教育の語義、教育の概念、人間の発達と教育			
第 3 回	教育の目的	教育の理念、教育目的の普遍性と特殊性			
第 4 回	教育の目的	教育目的の歴史的変遷			
第 5 回	教育の思想	西洋古代・中世の教育思想			
第 6 回	教育の思想	西洋近世・近代の教育思想			
第 7 回	教育の思想	公教育思想の発展と近代公教育制度の成立			
第 8 回	教育の思想	新教育の思想と新教育運動の展開			
第 9 回	日本の近代化と教育	近代公教育の導入と明治期の教育			
第 10 回	日本の近代化と教育	大正デモクラシーと新教育			
第 11 回	日本の近代化と教育	戦争と教育			
第 12 回	教育改革の軌跡	戦後教育改革の始動と展開			
第 13 回	教育改革の軌跡	高度経済成長と教育			
第 14 回	教育改革の軌跡	教育改革の模索と臨時教育審議会			
第 15 回	教育改革の軌跡	今日の教育改革			

# 経済

授業番号	B202980001				
科目名 (英語表記)	教育原論 II (Educational theory II)				
担当者 (英語表記)	中山 幸夫 (Yukio Nakayama)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	教育原論 I の学習を踏まえて、学校教育を構成する教育課程 (カリキュラム) に関する基礎的知識を習得しながら、教育課程の制度や学校における教育課程編成の方法について理解することを目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業内容に沿った講義要項、資料プリントを毎回配付し、それをもとにしながら授業を進めていく。適宜、ビデオ、パワーポイント等の視聴覚教材も用いる。ほぼ毎回、授業の終わりに出欠と授業内容の確認を兼ねた小レポートの提出を求める。				
成績評価方法	定期試験 (50%) ・ 課題レポート (30%) ・ 授業参加態度 (20%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：次回のテーマに関してテキスト等の指定範囲を読んでおく。 復習：授業の終わりに授業内容の確認を兼ねた課題レポートの提出を求める。				
教科書	文部科学省 『小学校学習指導要領解説－総則編－』 東京書籍 文部科学省 『小学校学習指導要領』 東京書籍 文部科学省 『中学校学習指導要領』 東山書房 文部科学省 『高等学校学習指導要領』 東山書房				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	教育課程の意義と課題 (総論)			
第 2 回	教育課程の類型	教科中心カリキュラム、経験中心カリキュラム			
第 3 回	教育課程の類型	学問中心カリキュラム、人間中心カリキュラム			
第 4 回	学習指導要領の変遷	学問中心カリキュラム、人間中心カリキュラム			
第 5 回	学習指導要領の変遷	学習指導要領 (2) 昭和 33 年版、昭和 42 年版			
第 6 回	学習指導要領の変遷	学習指導要領 (3) 昭和 52 年版、平成元年版			
第 7 回	学習指導要領の変遷	学習指導要領 (4) 平成 10 年版、平成 20 年版			
第 8 回	教育課程編成の原理	教育課程にかかわる法令と編成基準			
第 9 回	教育課程編成の方法	小学校における教育課程編成の方法			
第 10 回	教育課程編成の方法	中学校における教育課程編成の方法			
第 11 回	教育課程編成の方法	高等学校における教育課程編成の方法			
第 12 回	教育課程編成の方法	総合的な学習の時間をめぐる問題			
第 13 回	教育課程編成の方法	総合学科のカリキュラムをめぐる問題			
第 14 回	教育課程編成の方法	教育課程と学力をめぐる問題			
第 15 回	教育課程編成の方法	教育課程の改善に向けて (総括)			

経済

授業番号	B203070001		
科目名 (英語表記)	教育福祉論 (Educational welfare theory)		
担当者 (英語表記)	佐藤 真生子 (Makiko Sato)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>本科目のねらいは、福祉社会において教員に求められる資質は何か、教育活動を展開するうえで、社会福祉など他の専門領域とどのような協働を図る必要があるのかを学ぶことである。</p> <p>達成目標は、①社会福祉に関する基本的な知識、視点を習得すること、②福祉社会における教員の役割を理解すること、③学んだ知識を生かして介護等体験実習に取り組みやすいようにすることである。</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	この授業は、介護等体験実習の事前準備として開講されているので、介護福祉士の方を招いて具体的に現場を理解するための授業も実施する。また、実習記録 (ノート) については、実習前、実習後に提出を求めるので、配布後は、毎回持参すること。		
成績評価方法	評価方法は、レポート課題による。評価基準は、レポート 8 割、実習ノートやその他授業内で求める課題 2 割とする。		
基準			
授業の予習・復習	予習については、毎日必ず、新聞、もしくはニュースを観ること。また、事前に資料などを配布するので、必ず読んでくること。復習は、授業内提示された課題を行うこと。		
教科書	齋藤友介・坂野純子・矢島弘樹 編「大学生のための福祉教育入門」 ナカニシヤ出版、2009		
参考文献	志村健一 / 岩田直子 編著 「障害のある人の支援と社会福祉」 ミネルヴァ書房		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション 教育福祉論で何を学ぶのか。	この科目の学習目標、学習内容の説明を通じ、なぜ介護等体験をおこなうのか、ということを知る。	
第 2 回	現代社会の理解 高齢社会と福祉社会	高齢社会の背景、インパクトを学ぶことを通じ、この社会の課題や方向性を学ぶ	
第 3 回	福祉社会における教育と社会福祉協働の意味	現代における子どもの育ちや子育て、学齢期にある子どもたちの生活実態、生活問題を学び、なぜ社会福祉と教育が連携する必要があるのかを学ぶ。	
第 4 回	おさえて欲しい社会福祉の理念	基本的人権の尊重、ノーマライゼーション、インテグレーションなどについて、それらの思想の背景や目指すものについて学習。	
第 5 回	障がいの概念と障がい者 (児) の実態	①障がいとは何か? どのような障がいがあるのか等について ②障がいをもつ人たちが、地域社会でどのような生活問題を抱えているのか、また、彼らが自ら選んだ場で暮らすためには何が必要であるのか、などについて学習。	
第 6 回	障がい児と特別支援教育	特別支援教育とは何か。特別支援学校ではどのような教育を行っているのか、その役割や特徴などについて学習。	
第 7 回	介護等体験実習前ガイダンス (予定)	実習にあたっての留意点、記録の書き方などについて	
第 8 回	特別支援学校実習後教育①	実習先の体験を発表	
第 9 回	特別支援学校実習後教育②	実習先の体験の発表をもとに、課題や問題点についてのまとめを行う。	
第 10 回	障害者福祉施設での支援について	障がい者福祉支援に携わる専門職から現場の話聞き、具体的に理解を深める。	
第 11 回	高齢者の理解	エイジング、高齢期の特徴について	
第 12 回	高齢者の生活実態	高齢者の健康、経済、地域や社会とのかかわりなどについて知り、日本の高齢者の状況を理解する。	
第 13 回	高齢者福祉施設の理解	実習先の施設の特徴や役割を学ぶ。	
第 14 回	高齢者福祉施設での支援の具体	高齢者福祉施設での高齢者の生活、どのような人がどのような支援を受けているのかについて VTR などを用いて具体的に学ぶ。	
第 15 回	学校と地域福祉活動の連携の在り方	学校と福祉サービスなど (地域の高齢者施設、その他の福祉施設、機関、ボランティア団体など) が有機的につながりあって活動している先駆的な取り組みを紹介し、その成果や意義について学習する。	

経済

授業番号	B203040001				
科目名 (英語表記)	教職時事演習 (Teaching profession current-events exercise)				
担当者 (英語表記)	中山 幸夫 (Yukio Nakayama)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、授業と学習指導、教師と子ども、カリキュラムと学力、いじめと不登校、教員採用選考など、教職の時事にかかわるテーマをとりあげて検討を進めていく。この取組みによって、確かな教育観、教師観を培うことを目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	演習と講義の両方を中心に進める。				
成績評価方法	発表 (50%) とレポート (50%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：課題レポートの作成 復習：テーマについて自己の見解を整理・総括。				
教科書	特になし。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今日の教育問題			
第 2 回	教育改革の課題	21 世紀を生きる児童・生徒の教育、「生きる力」と「確かな学力」			
第 3 回	教育改革の課題	知識基盤社会と教育、活用型の学力			
第 4 回	カリキュラム編成の課題	主体的な学び、授業が分からない生徒の問題			
第 5 回	カリキュラム編成の課題	カリキュラムの弾力化と多様化、選択と協同の学び			
第 6 回	カリキュラム編成の課題	学力低下論争、全国一斉学力テスト			
第 7 回	生徒指導の課題	いじめと不登校、スクール・カウンセラー制度、心の教育			
第 8 回	生徒指導の課題	学校行事、部活動			
第 9 回	教師の資質能力	教師になるということ			
第 10 回	教師の資質能力	専門職としての教師			
第 11 回	教師の資質能力	教員採用選考に向けて			
第 12 回	学校と社会	学校と家庭、地域の連携・協同			
第 13 回	学校と社会	新自由主義 (市場原理) と学校			
第 14 回	学校と社会	グローバル時代の学校			
第 15 回	まとめ	総括と展望			

経済

授業番号	B201170001		
科目名 (英語表記)	行政法 I (Administrative law I)		
担当者 (英語表記)	小野寺 邦広 (Kunihiro Onodera)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、行政法の基本原理、行政組織法、行政作用法について講義します。これらについての基礎知識の習得が到達目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書の内容を解説します。必要に応じて新聞記事などのコピーも配布します。		
成績評価方法	定期試験とレポートで評価します ( 定期試験 8 割、レポート 2 割 )		
基準			
授業の予習・復習	予習－教科書を読むこと 復習－授業中とったノートや教科書を読み返すこと		
教科書	石川敏行ほか『初めての行政法』(最新版) 有斐閣 『岩波判例セレクト六法平成 25 年版』岩波書店		
参考文献	授業で適宜指示します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	行政、行政法の意味等	
第 2 回	行政法の基本原理 ( 1 )	法律による行政の原理	
第 3 回	行政法の基本原理 ( 2 )	適正手続、情報公開 ( 含む行政手続法、情報公開法 )	
第 4 回	行政法の基本原理 ( 3 )	法の一般原理	
第 5 回	行政組織 ( 1 )	官庁理論、国と地方の行政組織	
第 6 回	行政組織 ( 2 )	国と地方の関係	
第 7 回	行政立法	法規命令、行政規則	
第 8 回	行政行為 ( 1 )	行政行為の意味、分類	
第 9 回	行政行為 ( 2 )	行政行為の特殊な効力	
第 10 回	行政行為 ( 3 )	行政行為の瑕疵	
第 11 回	行政行為 ( 4 )	行政行為の取り消しと撤回	
第 12 回	行政裁量	行政裁量の意味、行政裁量の法的コントロール	
第 13 回	行政指導、行政計画	意味、法的コントロール	
第 14 回	行政上の義務履行確保	総論、行政代執行法等	
第 15 回	行政調査、個人情報保護	強制調査、任意調査、個人情報保護法	

経済

授業番号	B201180001				
科目名 (英語表記)	行政法 II (Administrative law II)				
担当者 (英語表記)	小野寺 邦広 (Kunihiro Onodera)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、行政救済法と国家補償法について講義します。これらについての基礎知識を身につけることがこの授業の到達目標です。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書の内容を解説します。必要に応じて新聞記事等のコピーも配布します。				
成績評価方法	定期試験とレポートにより評価します (定期試験 8 割、レポート 2 割)。				
基準					
授業の予習・復習	予習 教科書を読むこと 復習 ノートや教科書等を読むこと				
教科書	石川敏行ほか『初めての行政法』(最新版) 有斐閣 『岩波判例セレクト六法平成 25 年版』岩波書店				
参考文献	適宜授業で指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	行政上の救済手続の概要、行政不服審査法			
第 2 回	司法権の範囲と限界	司法権と行政訴訟、司法権と法律上の争訟、統治行為など			
第 3 回	行政事件訴訟法 (1)	行政事件訴訟の諸類型—主観訴訟と客観訴訟、住民訴訟など			
第 4 回	行政事件訴訟法 (2)	行政事件訴訟の諸類型—抗告訴訟と当事者訴訟			
第 5 回	行政事件訴訟法 (3)	抗告訴訟の諸類型			
第 6 回	行政事件訴訟法 (4)	取り消し訴訟の訴訟要件—概説			
第 7 回	行政事件訴訟法 (5)	処分性の要件			
第 8 回	行政事件訴訟法 (6)	原告適格			
第 9 回	行政事件訴訟法 (7)	原告適格、訴えの利益など			
第 10 回	行政事件訴訟法 (8)	取り消し訴訟の審理・判決、執行停止制度、教示制度			
第 11 回	国家賠償法 (1)	国家賠償法の意義			
第 12 回	国家賠償法 (2)	国家賠償法 1 条—国、公共団体の賠償責任の本質、賠償の要件			
第 13 回	国家賠償法 (3)	国家賠償法 2 条—賠償の要件、水害訴訟、空港騒音訴訟など			
第 14 回	損失補償	意義、補償の要否の判定基準など			
第 15 回	国家賠償と損失補償の「谷間」の問題	予防接種禍訴訟など			

# 経済

授業番号	B201290001				
科目名 (英語表記)	銀行論 I (Bank theory I)				
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	銀行は、決済システムの中核を担うなど、経済上極めて大きく特異な役割を果たしています。そこで、本講義では、銀行の経済的な役割について解説します。後期開講の「銀行論Ⅱ」と比べるならば、経済学としての銀行論と言えるかもしれません。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を用いますが、講義レジュメ(プリント)を基に解説することもあります。金融論を学習していることが望ましいですが、前提ではありません。				
成績評価方法	出席などの取り組み姿勢 (40%)、定期試験 (60%)。				
基準	なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。				
授業の予習・復習	予習：教科書や参考文献を中心に行ってください。 復習：講義ノートを中心に行ってください。				
教科書	全国銀行協会金融調査部編『図説わが国の銀行』財経詳報社				
参考文献	鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社 この他、講義の中で随時紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の方針など			
第 2 回	日本の金融のすがた 1	資金循環表と金融のマクロ動向			
第 3 回	日本の金融のすがた 2	直接金融と間接金融			
第 4 回	銀行の機能 1	銀行の様々な機能、金融仲介機能			
第 5 回	銀行の機能 2	信用創造機能			
第 6 回	銀行の機能 3	資金決済機能			
第 7 回	日本の金融制度と銀行 1	大手行を中心に			
第 8 回	日本の金融制度と銀行 2	地域金融機関を中心に			
第 9 回	金融市場と銀行	インターバンク市場を中心に			
第 10 回	銀行への規制・監督 1	銀行法、健全性規制、BIS 規制			
第 11 回	銀行への規制・監督 2	その他の規制、監督行政			
第 12 回	中央銀行と金融政策 1	日本銀行の目的と機能			
第 13 回	中央銀行と金融政策 2	日本銀行の組織、他国の中央銀行制度			
第 14 回	銀行をめぐるミクロ経済理論	銀行の意義を理論的に考える			
第 15 回	まとめ	授業内容のまとめ			



# 経済

授業番号	B201300001		
科目名 (英語表記)	銀行論 II (Bank theory II)		
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	銀行は経済全般に大きな影響を及ぼすため、その経営は、一業界の問題として軽視することができません。そこで、本講義では、銀行の業務や経営、動向などについて解説します。前期開講の「銀行論 I」と比べるならば、ビジネスとしての銀行論と言えるかもしれません。また、特に千葉県地域金融機関についても論じます。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を用いますが、講義レジュメ(プリント)を基に解説することもあります。金融論を学習していることが望ましいですが、前提ではありません。		
成績評価方法	出席などの取り組み姿勢 (40%)、定期試験 (60%)。		
基準	なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。		
授業の予習・復習	予習：教科書や参考文献を中心に行ってください。 復習：講義ノートを中心に行ってください。		
教科書	全国銀行協会金融調査部編『図説わが国の銀行』財経詳報社		
参考文献	鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社 各行『ディスクロージャー誌』 この他、講義の中で随時紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業の方針など	
第 2 回	銀行の業務 1	預金業務	
第 3 回	銀行の業務 2	貸出業務	
第 4 回	銀行と顧客 1	個人の銀行取引	
第 5 回	銀行と顧客 2	中小企業の銀行取引	
第 6 回	銀行の業務 3	決済業務	
第 7 回	銀行の業務 4	証券業務、国際業務	
第 8 回	銀行の業務 5	デリバティブ・証券化関連業務	
第 9 回	銀行のディスクロージャー	銀行の財務資料を読む	
第 10 回	銀行の経営	収益構造、経営指標、グループ経営など	
第 11 回	千葉県の地域金融機関 1	千葉銀行、千葉興業銀行、京葉銀行	
第 12 回	千葉県の地域金融機関 2	信用金庫、信用組合、系統金融機関など	
第 13 回	銀行業界事情 1	新聞記事を用いた時事問題の解説	
第 14 回	銀行業界事情 2	新聞記事を用いた時事問題の解説	
第 15 回	まとめ	授業内容のまとめ	

# 経済

授業番号	B201840001				
科目名 (英語表記)	金融経済の基礎知識 (Basic knowledge of monetary economy)				
担当者 (英語表記)	東 浩規 (Hiroki Higashi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済や金融がわたしたちの暮らしや人生に大きな関わりを持っていることを理解し、「自立した個人」となるための素養・能力を養うことが、今求められています。本講義は、そうした中で、個人がライフステージのさまざまな局面に於いて自立的な意思決定や適切な判断を行うのに役立つ、金融知力を養成することを目指しています。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回レジュメを配布し、講義形式で関連する時事ニュース・話題なども紹介しつつ、基礎的な内容から実務の入り口まで解説を行い、実践的な知識の獲得を図ります。				
成績評価方法	学期末筆記試験 (70%)、課題提出 (30%) を基本に、理解の進捗度を確認するまとめ問題や出席等を総合評価				
基準					
授業の予習・復習	経済や金融に関する新聞記事に目を通して授業に臨んでいただきたい。日頃から関心を持つようにしてほしい。 授業で配布されたレジュメをよく読んで復習し、わからないところはまず自分で調べて理解できるようにする。				
教科書	『ファイナンス基礎 (第4版)』:「金融知力普及協会」発行 (講義では基本的に使用しません) 毎回レジュメを配布				
参考文献	特定のものは指定しません。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	かたち/金融知力の必要性	授業の到達目標、概要、成績の評価方法など			
第2回	金融・経済の基礎知識 (1)	GDP、景気、金融政策、金利などを学ぶ			
第3回	金融・経済の基礎知識 (2)	GDP、景気、金融政策、金利などを学ぶ			
第4回	ライフプランニング (1)	キャッシュ・フロー表の作成や、人生の三大資金について学ぶ			
第5回	ライフプランニング (2)	キャッシュ・フロー表の作成や、人生の三大資金について学ぶ			
第6回	貯蓄型商品	主な貯蓄型商品について学ぶ			
第7回	リスクとリターン、投資信託 (1)	リスクを分散する方法、投資信託の特徴や仕組みを解説			
第8回	リスクとリターン、投資信託 (2)	リスクを分散する方法、投資信託の特徴や仕組みを解説			
第9回	株式の基礎知識 (1)	株式に関する基礎知識を身につける			
第10回	株式の基礎知識 (2)	株式に関する基礎知識を身につける			
第11回	債券の基礎知識 (1)	債券に関する基礎知識、利回りや格付け等について学ぶ			
第12回	債券の基礎知識 (2)	債券に関する基礎知識、利回りや格付け等について学ぶ			
第13回	外貨建て商品、証券化、セフィネット (1)	外貨建て商品および証券化に関する基礎知識、セフィネットの仕組みについて学ぶ			
第14回	外貨建て商品、証券化、セフィネット (2)	外貨建て商品および証券化に関する基礎知識、セフィネットの仕組みについて学ぶ			
第15回	まとめ	まとめと試験対策			

# 経済

授業番号	B201820001		
科目名 (英語表記)	金融事情 I (Finance situation I)		
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	東京証券取引所と証券業協会が運営する「株式学習ゲーム」{ <a href="http://www.ssg.ne.jp/">http://www.ssg.ne.jp/</a> } (自宅 PC、スマホでも可) によって、擬似株式運用ゲームを行いながら、経済環境と株式市場の動きの関連を知り、同時に企業を見る目を養いましょう。 後期の金融事情 II を履修する方は、極力前期の金融事情 I を履修しておいて下さい。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、前半は講義、後半は PC を使って第 1 部・第 2 部・マザーズの擬似株式取引を行い、売買した企業の内容や売買の狙いをワークシートに書き込んでいきます。この作業に時間がかかります。実際の終値を基準に運用成績のランキングが記録されていきます。途中のフォローアップでは、株式取引ボードゲームも行います。最後に、こつこつ作成していったワークシートを材料にして、レポートを作成して頂きます。		
成績評価方法	レポート作成ないし授業中のプレゼンテーション (70%) と株式学習ゲーム実行状況 (30%) で評価します。運用成績自体は評価には反映しません。定期試験は実施しません。		
授業の予習・復習	経済全体や市場の状況に関する報道を毎日チェックして下さい。ゲームによる取引は授業時間以外も出来るので、状況を見つづつどこでもすばやく売買を行ってみましょう。レポート作成は課外での作業となります。		
教科書	東京証券取引所、証券業協会編『株式学習ゲームハンドブック』ほか、株式学習ゲームに必要な資料が配付されます。		
参考文献	大学からは、日経テレコンが使えます。その他、日経新聞のサイト、yahoo finance など、web 上の資料をご紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業ガイダンス、インターネットを使えない方へのガイダンス	
第 2 回	「株式学習ゲーム」アカウントの設定と取引のやり方、ワークシート記入の説明	東京証券取引所の「株式学習ゲーム」担当の方が説明にいらして下さい。それぞれのアカウントを設定し、これから取引を遂行するに必要な情報を得ますので、履修する方は必ずご出席下さい。	
第 3 回	金融と株式市場講義 + 株式学習ゲーム	前半は金融とは何か、株式市場とは何かについて講義、後半は株式学習ゲームを行います。	
第 4 回	株価変動要因の説明 + 株式学習ゲーム	前半は株価決定要因について講義、後半は株式学習ゲームを行います。	
第 5 回	経済状況と株価 (実例) + 株式学習ゲーム	株式を売買する際、どんな業種を買ったらいいか迷うことと思います。前回やった株価変動要因の応用として、過去に為替相場が変動した際株価がどう動いたか、金利がどう相場に影響を与えたか見ていきましょう。	
第 6 回	企業研究 + 株式学習ゲーム	取引対象とする企業はどんな視点で選んだらいいか、企業の特徴を知ったり評価する際のポイントをご紹介します。	
第 7 回	企業研究とニュースの検索 + 株式学習ゲーム	前回、一般的な企業分析のポイントを学びました。今回は、具体的な企業研究のツールとして日経テレコンをつかってみましょう。	
第 8 回	フォローアップ	フォローアップとして、東京証券取引所の方による講義、そしてボードゲームを使って、グループで株式取引ゲームを行います。	
第 9 回	戦後の日本の金融を振り返って (1) + 株式学習ゲーム	高度成長期の日本の金融	
第 10 回	戦後の日本の金融を振り返って (2) + 株式学習ゲーム	1980 年代日本の金融革命	
第 11 回	戦後の日本の金融を振り返って (3) + 株式学習ゲーム	1980 年代後半日本のバブル経済	
第 12 回	業界研究	上場企業の方にお話しを伺いましょう (詳細未定)	
第 13 回	それぞれの取引の報告に向けて	これまで毎週行ってきた株式取引を総括する方向にむけて、整理のしかたを勉強しましょう。	
第 14 回	プレゼンテーション	「株式学習ゲーム」に参加した学生さん数名によるプレゼンテーションを行います。プレゼンを行った方はレポートを提出する必要がありません。プレゼン希望者を募り、多かつたら抽選、少なかつたら指名します。	
第 15 回	レポート提出と上半期の経済状況・株式市場の回顧	ご自身が行った取引を整理し、取引の狙い、その結果、そうなった理由や背景、売買した株式の発行会社分析を内容とする 5 枚 (MS-Word で) 程度のレポートを提出して下さい。 その後、上半期の経済、株式市場の状況を振り返って、流れを整理してみましょう。	

# 経済

授業番号	B201830001		
科目名 (英語表記)	金融事情 II (Finance situation II)		
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	東京証券取引所と証券業協会が運営する「株式学習ゲーム」( <a href="http://www.ssg.ne.jp/">http://www.ssg.ne.jp/</a> ) (自宅 PC、スマホでも可) によって、疑似株式運用ゲームを行いながら、経済環境と株式市場の動きの関連を知り、同時に企業を見る目を養いましょう。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、前半は講義、後半は PC を使って第 1 部・第 2 部・マザーズの疑似株式取引を行い、売買した企業の内容や売買の狙いをワークシートに書き込んでいきます。この作業に時間がかかります。実際の終値を基準に運用成績のランキングが記録されていきます。途中のフォローアップでは、株式取引ボードゲームも行います。最後に、こつこつ作成していったワークシートを材料にして、レポートを作成して頂きます。		
成績評価方法	レポート作成ないし授業中のプレゼンテーション (70%) と株式学習ゲーム実行状況 (30%) で評価します。運用成績自体は評価には反映しません。定期試験は実施しません。		
基準			
授業の予習・復習	経済全体や市場の状況に関する報道を毎日チェックしてして下さい。ゲームによる取引は授業時間以外も出来るので、状況を見つづどこでもすばやく売買を行ってみましょう。レポート作成は課外での作業となります。		
教科書	東京証券取引所、証券業協会編『株式学習ゲームハンドブック』ほか、株式学習ゲームに必要な資料が配付されます。		
参考文献	大学からは、日経テレコンが使えます。その他、日経新聞のサイト、yahoo finance など、web 上の資料をご紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業ガイダンス、インターネットを使えない方へのガイダンス	
第 2 回	「株式学習ゲーム」アカウントの設定と取引のやり方、ワークシート記入の説明	東京証券取引所の「株式学習ゲーム」担当の方が説明にいらして下さい。それぞれのアカウントを設定し、これから取引を遂行するに必要な情報を得ますので、前期の金融事情 I を履修していない方は必ずご出席下さい。	
第 3 回	金融と株式市場 DVD による勉強 + 株式学習ゲーム	前半は、前期の金融事情 I で見なかった DVD を見て、後半は株式学習ゲームを行います。	
第 4 回	株価変動要因の説明 + 株式学習ゲーム	前半は株価決定要因について前期の復習として講義、後半は株式学習ゲームを行います。	
第 5 回	経済状況と株価 (実例) + 株式学習ゲーム	株式を売買する際、どんな業種を買ったらいいか迷うことと思います。前回やった株価変動要因の応用として、過去に為替相場が変動した際株価がどう動いたか、金利がどう相場に影響を与えたか見ていきましょう。	
第 6 回	企業研究 + 株式学習ゲーム	取引対象とする企業はどんな視点で選んだらいいのか、企業の特徴を知ったり評価する際のポイントをご紹介します。	
第 7 回	企業研究とニュースの検索 + 株式学習ゲーム	前回、一般的な企業分析のポイントを学びました。今回は、具体的な企業研究のツールとして日経テレコンをつかってみましょう。	
第 8 回	フォローアップ	フォローアップとして、東京証券取引所の方による講義、そしてボードゲームを使って、グループで株式取引ゲームを行います。	
第 9 回	21 世紀の金融 (1) + 株式学習ゲーム	デリバティブズ、金融の IT 化	
第 10 回	21 世紀の金融 (2) + 株式学習ゲーム	2008 年世界金融危機とマーケット	
第 11 回	21 世紀の金融 (3) + 株式学習ゲーム	ヨーロッパのソブリン危機とマーケット	
第 12 回	業界研究	上場企業の方にお話しを伺いましょう (詳細未定)	
第 13 回	それぞれの取引の報告に向けて	これまで毎週行ってきた株式取引を総括する方向にむけて、整理のしかたを勉強しましょう。	
第 14 回	プレゼンテーション	「株式学習ゲーム」に参加した学生さん数名によるプレゼンテーションを行います。プレゼンを行った方はレポートを提出する必要がありません。プレゼン希望者を募り、多かつたら抽選、少なかったら指名します。	
第 15 回	レポート提出と上半期の経済状況・株式市場の回顧	ご自身が行った取引を整理し、取引の狙い、その結果、そうなった理由や背景、売買した株式の発行会社分析を内容とする 5 枚 (MS-Word で) 程度のレポートを提出して下さい。 その後、上半期の経済、株式市場の状況を振り返って、流れを整理してみましょう。	

# 経済

授業番号	B200970001		
科目名 (英語表記)	金融論 I (Financial science I)		
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	金融論とは、「おカネの動き」をめぐる議論です。個人、企業、政府などの経済活動の多くが、おカネを媒介として行われるため、金融論のあつかう（あるいは関連する）領域は極めて広いです。そこで、本講義では、金融の世界に特有の用語法や考え方の習得を基本課題とし、我々に身近な金融・経済現象を系統立てて理解する基礎を作ります。		
授業の進め方 (履修条件など)	パワーポイントを使い、金融の世界の諸概念を説明します。また、これら諸概念のイメージを鮮明にするため、新聞記事や映像などを多数活用します。定期試験は、講義の趣旨に鑑みて、用語の理解が十分かどうかを確かめるものとなります。		
成績評価方法	出席などの取り組み姿勢 (40%)、定期試験 (60%)。		
基準	なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。		
授業の予習・復習	予習：教科書や参考文献を中心に行ってください。 復習：講義ノートを中心に行ってください。		
教科書	日本経済新聞社編『ベーシック/金融入門』日本経済新聞		
参考文献	細野薫、石原秀彦、渡部和孝『グラフィック金融論』新世社 鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社 館龍一郎、浜田宏一『金融』岩波書店 この他、講義の中で随時紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業の方針など	
第 2 回	通貨とは何か	物々交換経済と貨幣経済、通貨の機能・範囲	
第 3 回	金融とは何か	資金循環表、金融取引の典型、様々な金融	
第 4 回	金利とは何か	金融サービスの対価、金利と景気、様々な金利	
第 5 回	金融市場とは何か	広義の金融、金融商品、様々な金融市場	
第 6 回	金融機関とは何か	金融の取引コスト、様々な金融機関	
第 7 回	銀行の機能 1	銀行の様々な機能	
第 8 回	銀行の機能 2	決済機能を中心に	
第 9 回	中央銀行 1	中央銀行の機能	
第 10 回	中央銀行 2	日本銀行の設立経緯・概要・目的	
第 11 回	民間金融機関 1	都市銀行、その他普通銀行	
第 12 回	民間金融機関 2	長期金融機関、協同組織金融機関	
第 13 回	民間金融機関 3	証券会社、保険会社、その他金融機関	
第 14 回	金融政策とは何か	金融政策の手段	
第 15 回	まとめ	授業内容のまとめ	

# 経済

授業番号	B200980001				
科目名 (英語表記)	金融論 II (Financial science II)				
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	原則として「金融論 I」の履修者を対象に、金融に関する近年の動向や初歩的な理論、専門的なトピック、関連科目などを取り上げ、簡単に解説します。金融に関する興味や関心を広げることと、現実の具体的な問題を論理的に考察する力を養うことが課題です。				
授業の進め方 (履修条件など)	適宜にパワーポイントを使います。定期試験は、講義の趣旨に鑑みて論述問題とします。				
成績評価方法	出席などの取り組み姿勢 (40%)、定期試験 (60%)。				
基準	なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。				
授業の予習・復習	予習：参考文献を中心に行ってください。 復習：講義ノートを中心に行ってください。				
教科書	教科書は使用しません。プリントを配布します。				
参考文献	細野薫、石原秀彦、渡部和孝『グラフィック金融論』新世社 鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社 館龍一郎、浜田宏一『金融』岩波書店 この他、講義の中で随時紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の方針など			
第 2 回	信用創造機能 1	キーワード解説、統計			
第 3 回	信用創造機能 2	信用創造プロセス、計算問題			
第 4 回	国際金融論入門 1	国際収支の概念としくみ (前編)			
第 5 回	国際金融論入門 2	国際収支の概念としくみ (後編)			
第 6 回	ファイナンス理論入門 1	資産選択の理論、資本市場の均衡理論			
第 7 回	ファイナンス理論入門 2	企業金融の理論、市場の効率性・非効率性			
第 8 回	金融の潮流 1	現代の潮流、金融規制と自由化 (前編)			
第 9 回	金融の潮流 2	金融規制と自由化 (後編)			
第 10 回	現代の金融市場と金融機関 1	金融取引の費用と金融機関の役割			
第 11 回	現代の金融市場と金融機関 2	情報化による金融仲介業の変貌			
第 12 回	現代の金融市場と金融機関 3	銀行業衰退論と銀行の変貌			
第 13 回	現代の金融市場と金融機関 4	サブプライムローン問題と金融危機			
第 14 回	現代の金融市場と金融機関 5	リスクマネーの供給システム			
第 15 回	まとめ	授業内容のまとめ			

# 経済

授業番号	B202030001				
科目名 (英語表記)	経営学 I (Business administration I)				
担当者 (英語表記)	高木 朋代 (Tomoyo Takagi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、経営学を学ぶ人が、この分野において必ず理解しておかなければならない基本的な知識と論理を、体系的に理解することを目的としています。最終的には、授業を通じてみなさんが、経営学を机上の学問としてではなく、経営の現実を実感し、企業や組織について理解を深めることを目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	経営学 I と II を合わせて受講することをお勧めします。経営学 I では、特に「戦略論」「組織論」「経営思想史」を中心に勉強します。授業では、随所において現実のケースの例示やビデオ鑑賞と討論をまじえていきます。				
成績評価方法	授業内で実施する小論文 (30%) と定期試験 (70%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。 復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。				
教科書	必要に応じて独自に資料を配布します。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図			
第 2 回	経営について考える	企業および企業活動とは何か			
第 3 回	経営戦略論	戦略の定義、戦略の次元			
第 4 回	経営戦略論	戦略の策定、内部分析と外部分析			
第 5 回	経営戦略論	競争戦略①			
第 6 回	経営戦略論	競争戦略②			
第 7 回	経営戦略論	戦略の選択と同時追求の問題			
第 8 回	経営戦略論	全社戦略			
第 9 回	経営戦略論	国際化戦略			
第 10 回	経営組織論	国際企業の組織構造と類型			
第 11 回	経営組織論	分析的戦略論 VS 組織力			
第 12 回	経営組織論	組織 VS 市場			
第 13 回	経営組織論	優れた組織とは			
第 14 回	経営思想史	20 世紀の企業経営者たちの思想と実践			
第 15 回	経営思想史	経営理論はどのようにして生み出されるのか			



# 経済

授業番号	B202040001				
科目名 (英語表記)	経営学 II (Business administration II)				
担当者 (英語表記)	高木 朋代 (Tomoyo Takagi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、経営学を学ぶ人が、この分野において必ず理解しておかなければならない基本的な知識と論理を、体系的に理解することを目的としています。最終的には、授業を通じてみなさんが、経営学を机上の学問としてではなく、経営の現実を実感し、企業や組織について理解を深めることを目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	経営学 I と II を合わせて受講することをお勧めします。経営学 II では、特に日本企業の経営に焦点を絞り、勉強します。授業では、随所において現実のケースの例示やビデオ鑑賞と討論をまじえていきます。				
成績評価方法	授業内で実施する小論文 (30%) と定期試験 (70%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。 復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。				
教科書	必要に応じて独自に資料を配布します。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図			
第 2 回	日本企業論	日本的経営の功罪			
第 3 回	日本企業論	日本の会計基準とグループ経営			
第 4 回	日本企業論	経済産業界の慣行			
第 5 回	日本企業論	日本企業が抱える財務管理上の問題			
第 6 回	日本企業論	不良債権問題と資本主義ルール			
第 7 回	日本企業論	経営破綻と民事再生法と会社更生法			
第 8 回	日本企業論	経営支配権と日本の株主			
第 9 回	日本企業論	敵対的買収と買収防衛策			
第 10 回	日本企業論	会社は誰のものか			
第 11 回	現代日本企業の経営	日本企業の経営、その特質と課題			
第 12 回	現代日本企業の経営	諸外国から見た日本と日本企業			
第 13 回	現代日本企業の経営	日本における人と組織のマネジメント			
第 14 回	現代日本企業の経営	日本企業の組織原理と創造性の開発			
第 15 回	現代日本企業の経営	日本的経営の普遍性を問う			



# 経済

授業番号	B202240001				
科目名 (英語表記)	経営財務論 (Management financial theory)				
担当者 (英語表記)	石鍋 信孝 (Nobutaka Ishinabe)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	会計学の初学者にもわかりやすく、企業経営の立場から利益管理と資金管理を実務に即した内容で展開します。ケーススタディ等実在の企業を題材に取り上げており、企業経営の財務に関する基本的事項は、この講義でマスターできます。企業経営のお金に関する分野を理解して、就職活動を強力に、また、就職後の実務に役立つ授業構成です。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を中心に、鮮度の高い情報や実務に役立つ知識を学習します。講義はパワーポイントを使用し、適宜、実存企業の最新の財務諸表等も使用します。				
成績評価方法	定期試験 (100%)				
基準					
授業の予習・復習	授業の予習として教科書の事前精読が、復習は講義内容の再確認が望まれます。				
教科書	「経営に活かす財務マネジメント」 産業能率大学出版部 石鍋信孝著				
参考文献	「与信管理の戦略と実践」 産業能率大学出版部 石鍋信孝著				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、経営財務の基礎			
第2回	経営財務の概要	制度会計、企業会計原則、指導原理			
第3回	簿記	仕訳、帳簿組織、工業簿記			
第4回	財務諸表 1 (P/L)	損益計算書			
第5回	財務諸表 2 (B/S)	貸借対照表			
第6回	財務諸表 3 (C/S)	キャッシュフロー計算書			
第7回	最近の潮流	I F R S と経営財務			
第8回	財務分析	財務分析モデル			
第9回	企業税務	法人税等、実効税率			
第10回	資金管理	資金の調達、事業ポートフォリオ			
第11回	予算管理	予算と予算管理			
第12回	採算分析 1 (短期)	損益分岐点分析 (B E P)			
第13回	採算分析 2 (長期)	投資分析 (N P V, I R R, W A C C)			
第14回	ケース・スタディ 1 (S社)	S社の財務政策			
第15回	ケース・スタディ 2 (SW)	ソフトウェア産業と経営財務			

# 経済

授業番号	B202130001		
科目名 (英語表記)	経営史 I (Business history I)		
担当者 (英語表記)	白井 泉 (Izumi Shirai)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、江戸期から戦前期を対象に、日本の企業経営がどのような展開を遂げてきたのかを歴史的視点から学ぶ。時代毎に企業経営を取り巻く日本・世界経済の状況、産業構造等をマクロ的に把握したうえで、その時代を牽引した企業の経営組織、経営管理のあり方、企業活動や技術開発を支えた諸制度等のミクロな部分、さらには企業家の活動に注目して解説を行う。企業行動を軸として日本の歴史を自分なりに解説できるようになることを目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義の導入で前週の復習をしたのち、レポートの中から好例を紹介する。質問に対する回答も同時に行う。その後、その回の授業テーマを確認し、それに答えていく形式で授業を進める。毎回の授業では出席レポート (授業の感想・質問等を自由に記述) の提出を課す。		
成績評価方法	出席レポート (2点×15回) 30%、定期試験 70%で採点する。試験では直筆のメモ (A4×1枚、両面) のみ持込み可とする。		
基準			
授業の予習・復習	予習：毎回の講義の最後に次週の概要を述べるので、参考文献の該当部分を読んでくるのが望ましい。 復習：毎回の講義の冒頭で前週の内容の復習をする。		
教科書	教科書は用いず、毎回レジュメを配布する。		
参考文献	宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橘川武郎『日本経営史〔新版〕—江戸時代から21世紀へ』有斐閣、2007年、粕谷誠『ものづくり日本経営史』名古屋大学出版会、2012年、経営史学会編『日本経営史の基礎知識』有斐閣、2004年。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	イントロダクション	経営史とは?、歴史を学ぶ意義、講義の聴き方・勉強の仕方	
第2回	江戸時代の経営	江戸時代の経済発展、所有構造・企業形態・企業統治、管理組織、同業組織	
第3回	商家の経営システム	所有と経営の分離、商家の労務管理	
第4回	近代産業の定着	明治前・中期の日本経済と産業構造の変化	
第5回	近代的経営組織の形成	会社制度の形成、政商から財閥へ、専門経営者の出現	
第6回	近代的経営管理の形成	技術導入の担い手、初期の工場と労働、会計制度の形成	
第7回	明治国家と企業	殖産興業政策と官業払下げ、金融機関と企業、貿易の展開と企業	
第8回	農作物ブランドと地域の組合経営	地域産業の発展、村の経営	
第9回	日露戦後から昭和初年に至る日本経済	企業者機会の拡大、産業構造の変化と大企業の盛衰	
第10回	大企業時代の到来	企業の合併・集中運動とカルテル活動、4大財閥の覇権確立	
第11回	新興産業の勃興と産業開拓運動	国産技術の開発、「都市型」産業の誕生	
第12回	企業活動の国際化	日本企業の国外進出、外国企業の日本市場進出	
第13回	経営管理の進展	現代企業の出現と専門経営者の成長、日本人人事労務管理の生成と経営家族主義、経営合理化と「科学的管理法」の導入	
第14回	大企業体制の変遷	財閥の拡大と再編、財閥解体、企業集団の形成	
第15回	まとめと要点の整理	復習と試験対策	

# 経済

授業番号	B202140001		
科目名 (英語表記)	経営史 II (Business history II)		
担当者 (英語表記)	白井 泉 (Izumi Shirai)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、高度成長期から現代を対象に、日本の企業経営がどのような展開を遂げてきたのかを歴史的視点から学ぶ。時代毎に企業経営を取り巻く日本・世界経済の状況、国家的方針、産業構造等をマクロ的に把握したうえで、その時代を牽引した企業の経営組織、経営管理のあり方、企業活動や技術開発を支えた諸制度等のミクロな部分、さらには企業家の活動に注目して解説を行う。また、授業の後半では近年注目される環境・エネルギー関連産業について取り上げる。授業で学んだことを踏まえ、歴史的な観点から現実の世界を見ることが出来るようになることを目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義の導入で前週の復習をしたのち、レポートの中から好例を紹介する。質問に対する回答も同時に行う。その後、その回の授業テーマを確認し、それに答えていく形式で授業を進める。毎回の授業では出席レポート (授業の感想・質問等を自由に記述) の提出を課す。		
成績評価方法	出席レポート (2点×15回) 30%、定期試験 70%で採点する。試験では直筆のメモ (A4×1枚、両面) のみ持込み可とする。		
基準			
授業の予習・復習	予習：毎回の講義の最後に次週の概要を述べるので、参考文献の該当部分を読んでくることが望ましい。 復習：毎回の講義の冒頭で前週の内容の復習をする。		
教科書	教科書は用いず、毎回レジュメを配布する。		
参考文献	宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橘川武郎『日本経営史 (新版) 一江戸時代から 21 世紀へ』有斐閣、2007 年、粕谷誠『ものづくり日本経営史』名古屋大学出版会、経営史学会編『日本経営史の基礎知識』有斐閣、2004 年、鈴木良隆・橋野知子・白鳥圭志『MBA のための日本経営史』有斐閣、2007 年、宇田川勝・生島淳『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣、2011 年、小堀聡『日本のエネルギー革命—資源小国の近現代』名古屋大学出版会、2010 年。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	イントロダクション	経営史とは?、歴史を学ぶ意義、講義の聴き方・勉強の仕方	
第 2 回	高度成長期以降の日本経済	高度成長から長期不況期へ、代表的企業の変遷	
第 3 回	大衆消費社会の出現	戦後型の資本家経営者、耐久消費財生産企業の展開	
第 4 回	成長を実現したメカニズム	中間組織の成長促進機能、日本的経営と協調的労使関係、経営者企業の成長指向型意思決定	
第 5 回	資本家企業や中小企業の役割	資本家企業の急成長、中小企業と産業集積、自立する中小企業	
第 6 回	第三次産業の動向	企業金融の変化と銀行、流通業の革新	
第 7 回	ベンチャー企業の躍進	ベンチャー企業と企業家、ベンチャーブームの到来と終焉	
第 8 回	技術革新と技術開発	技術革新と技術貿易、多品種少量生産体制の構築、「トヨタ生産方式」の登場	
第 9 回	日本的経営の光と影	経営管理技法の移入と日本化、日本的経営の移出	
第 10 回	環境・エネルギー産業の経営史 1	エネルギー節約の取組み 1920-55 年	
第 11 回	環境・エネルギー産業の経営史 2	エネルギー革命の進展とエネルギー政策 1950 年代	
第 12 回	環境・エネルギー産業の経営史 3	エネルギー需要増大への対応 1955-60 年代	
第 13 回	環境・エネルギー産業の経営史 4	企業経営と環境問題 1	
第 14 回	環境・エネルギー産業の経営史 5	企業経営と環境問題 2	
第 15 回	まとめと要点の整理	復習と試験対策	

# 経済

授業番号	B202150001		
科目名 (英語表記)	経営戦略論 I (Management-strategy theory I)		
担当者 (英語表記)	岸本 太一 (Taichi Kishimoto)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、大きく2つあります。一つは、事業戦略論の基礎的な内容を理解することです。もう一つは、学んだ理論を用いて現実の企業を分析するための初歩的なスキルを身につけることです。		
授業の進め方 (履修条件など)	内容は大きく2つに分かれます。一つは、戦略の理論に関するレクチャーです。もう一つは、紹介した理論を用いて、企業の事例を分析する (ケーススタディー) という内容です。この二つの内容を交互に進めていきます。		
成績評価方法	中間レポート (40%)、期末レポート (40%)、授業への貢献 (20%) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：次のテーマに関連しそうな企業について、調べておいてください。 復習：講義で板書したノートを再読し、理解を深めて下さい。		
教科書	特に使用しません。講義におけるプレゼン資料が教科書となります。		
参考文献	伊丹敬之著『経営戦略の論理 第4版』(日本経済新聞社) 伊丹敬之・西野和美編著『ケースブック経営戦略の論理 (全面改訂版)』(日本経済新聞社)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図など	
第2回	事業戦略とは	経営戦略論 (事業戦略分野) の全体像	
第3回	マーケティング戦略①	理論紹介：顧客のニーズをとらえる	
第4回	マーケティング戦略②	理論紹介：ニーズの多様性と相互作用を利用する	
第5回	マーケティング戦略③	ケーススタディー：花王	
第6回	競争戦略①	理論紹介：競争優位をつくる	
第7回	競争戦略②	理論紹介：反撃を見越す、敵にしない	
第8回	競争戦略③	ケーススタディー：三星電子	
第9回	中間レポートセッション	優秀レポートを用いた発表セッション	
第10回	技術戦略①	理論紹介：技術を活かし、技術が動かす	
第11回	技術戦略②	理論紹介：	
第12回	技術戦略③	ケーススタディー：セイコーエプソン	
第13回	戦略の組織適合①	理論紹介：戦略自体が組織を動かし、刺激する	
第14回	戦略の組織適合②	理論紹介：	
第15回	戦略の組織適合③	ケーススタディー：アサヒビール	

# 経済

授業番号	B202160001				
科目名 (英語表記)	経営戦略論 II (Management-strategy theory II)				
担当者 (英語表記)	岸本 太一 (Taichi Kishimoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、大きく2つあります。一つは、全社戦略論の基礎的な内容を理解することです。もう一つは、学んだ理論を用いて現実の企業を分析するための初歩的なスキルを身につけることです。				
授業の進め方 (履修条件など)	内容は大きく2つに分かれます。一つは、戦略の理論に関するレクチャーです。もう一つは、紹介した理論を用いて、企業の事例を分析する (ケーススタディー) という内容です。この二つの内容を交互に進めていきます。				
成績評価方法	中間レポート (40%)、期末レポート (40%)、授業への貢献 (20%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：次回のテーマに関連しそうな企業について、調べておいてください。 復習：講義で板書したノートを再読し、理解を深めて下さい。				
教科書	教科書は特に使用しません。講義で紹介するスライドが教科書代わりとなります。				
参考文献	伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞社 伊丹敬之著『経営戦略の論理 第4版』日本経済新聞社				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図など			
第2回	全社戦略とは	経営戦略論 (全社戦略分野) の全体像			
第3回	ビジネスシステム戦略①	理論紹介：ビジネスシステムで差別化する			
第4回	ビジネスシステム戦略②	理論紹介			
第5回	ビジネスシステム戦略③	ケーススタディー：ミスミ			
第6回	多角化戦略①	理論紹介：多角化			
第7回	多角化戦略②	理論紹介：事業ポートフォリオのマネジメント			
第8回	多角化戦略③	ケーススタディー：シャープ			
第9回	中間レポートセッション	優秀レポートを用いた発表セッション			
第10回	国際化戦略①	理論紹介：国のポートフォリオ戦略			
第11回	国際化戦略②	理論紹介：経営資源の移転と政治・為替問題への対応			
第12回	国際化戦略③	ケーススタディー：日産自動車			
第13回	M & A 戦略①	理論紹介：M & A			
第14回	M & A 戦略②	理論紹介：戦略的提携			
第15回	M & A 戦略③	ケーススタディー：セコム			

# 経済

授業番号	B202180001				
科目名 (英語表記)	経営組織論 I (Management organization theory I)				
担当者 (英語表記)	高木 朋代 (Tomoyo Takagi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、経営組織論の基本理論を体系的に理解し、企業や人への理解を深めることを目的としています。組織論は、2人以上の人々が協働する組織体の行動や構造を明らかにする学問であり、最終的には、授業を通じてみなさんが、組織に存在する諸問題の解決に向けて応用力を身に付けていくことを目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	経営組織論 I と II を合わせて受講することをお勧めします。経営組織論 I では、特に「ミクロ組織論」を中心に勉強します。授業では主要理論を紹介しつつ、特に現代日本企業において重要と考えられる事項に着目して議論を行います。				
成績評価方法	授業内で実施する小論文 (30%) と定期試験 (70%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。 復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。				
教科書	必要に応じて独自に資料を配布します。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図			
第 2 回	組織への基本的理解	組織の定義、人間行動と意思決定			
第 3 回	ミクロ組織論	モチベーション：内容理論			
第 4 回	ミクロ組織論	モチベーション：過程理論			
第 5 回	ミクロ組織論	働きがいと人事施策			
第 6 回	ミクロ組織論	集団活動と集団意思決定			
第 7 回	ミクロ組織論	組織メンバー行動のコントロール			
第 8 回	ミクロ組織論	パワーとコンフリクト			
第 9 回	ミクロ組織論	コンフリクト・マネジメント			
第 10 回	ミクロ組織論	<実習>：ビデオ鑑賞と討論			
第 11 回	ミクロ組織論	リーダーシップ論①			
第 12 回	ミクロ組織論	リーダーシップ論②			
第 13 回	ミクロ組織論	<実習>：ビデオ鑑賞と討論			
第 14 回	ミクロ組織論	管理者行動			
第 15 回	組織論の学説史	ミクロ組織論の諸学説			

# 経済

授業番号	B202190001				
科目名 (英語表記)	経営組織論 II (Management organization theory II)				
担当者 (英語表記)	高木 朋代 (Tomoyo Takagi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、経営組織論の基本理論を体系的に理解し、企業や人への理解を深めることを目的としています。組織論は、2人以上の人々が協働する組織体の行動や構造を明らかにする学問であり、最終的には、授業を通じてみなさんが、組織に存在する諸問題の解決に向けて応用力を身に付けていくことを目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	経営組織論 I と II を合わせて受講することをお勧めします。経営組織論 II では、特に「マクロ組織論」を中心に勉強します。授業では主要理論を紹介しつつ、特に現代日本企業において重要と考えられる事項に着目して議論を行います。				
成績評価方法	授業内で実施する小論文 (30%) と定期試験 (70%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。 復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。				
教科書	必要に応じて独自に資料を配布します。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図			
第 2 回	組織への基本的理解	なぜ組織が必要なのか			
第 3 回	マクロ組織論	有効性と効率性の問題			
第 4 回	マクロ組織論	組織構造の概念と特徴			
第 5 回	マクロ組織論	諸特徴がもたらす逆機能の問題			
第 6 回	マクロ組織論	組織構造に影響を与える要因			
第 7 回	マクロ組織論	代表的な組織構造			
第 8 回	マクロ組織論	組織構造の変遷と時代背景			
第 9 回	マクロ組織論	環境と組織			
第 10 回	マクロ組織論	組織の戦略的選択と環境適合			
第 11 回	マクロ組織論	組織の成長とライフサイクル			
第 12 回	マクロ組織論	組織の成長と組織コンフィギュレーション			
第 13 回	マクロ組織論	組織文化の機能			
第 14 回	マクロ組織論	<実習>：ビデオ鑑賞と討論			
第 15 回	組織論の学説史	マクロ組織論の諸学説			

経済

授業番号	B202200001				
科目名 (英語表記)	経営分析 I (Business analysis I)				
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、財務諸表を利用して企業の経営状態を把握できるようになることである。また到達目標は、収益性に関する財務比率を自分で計算し、それを分析することである。				
授業の進め方 (履修条件など)	企業会計の役割、経営分析の目的と方法などについて理解したうえで、収益性を分析するために、資本利益率、売上高利益率、資本回転率という三つのテーマを取り上げていく。				
成績評価方法	定期試験を 50%、レポートを 50%の割合で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書の該当章を 3 回読み、疑問点を明らかにする。 復習：計算方法、分析の仕方について確認する。				
教科書	森久・関利恵子・徳山英邦・蔣飛鴻・長野史麻著『財務分析からの会計学』森山書店、2011 年。				
参考文献	桜井久勝著『財務会計講義 < 第 11 版 >』中央経済社、2010 年。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価方法			
第 2 回	会計と社会、企業	企業会計の役割			
第 3 回	経営分析の課題	経営分析の目的と方法			
第 4 回	分析資料	財務データの入手方法			
第 5 回	貸借対照表	貸借対照表の形式と内容			
第 6 回	損益計算書	損益計算書の形式と内容			
第 7 回	資本利益率 (その 1)	資本利益率についての講義			
第 8 回	資本利益率 (その 2)	資本利益率に関する計算			
第 9 回	資本利益率 (その 3)	資本利益率による収益性の分析			
第 10 回	売上高利益率 (その 1)	売上高利益率についての講義			
第 11 回	売上高利益率 (その 2)	売上高利益率に関する計算			
第 12 回	売上高利益率 (その 3)	売上高利益率による収益性の分析			
第 13 回	資本回転率 (その 1)	資本回転率についての講義			
第 14 回	資本回転率 (その 2)	資本回転率に関する計算			
第 15 回	資本回転率 (その 3)	資本回転率による収益性の分析			



# 経済

授業番号	B202210001				
科目名 (英語表記)	経営分析 II (Business analysis II)				
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、財務諸表を利用して企業の経営状態を把握できるようになることである。また到達目標は、生産性と安全性に関する財務比率を自分で計算し、それを分析することである。				
授業の進め方 (履修条件など)	生産性と安全性の分析方法を学ぶ。生産性はそれ自体で一つのテーマとする。安全性については、ストック指標、キャッシュフロー分析、その他の指標という三つのテーマを取り上げる。				
成績評価方法	定期試験を 50%、レポートを 50%の割合で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書の該当章を 3 回読み、疑問点を明らかにする。 復習：計算方法、分析の仕方について確認する。				
教科書	森久・関利恵子・徳山英邦・蔣飛鴻・長野史麻著『財務分析からの会計学』森山書店、2011 年。				
参考文献	桜井久勝著『財務会計講義 < 第 11 版 >』中央経済社、2010 年。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価方法			
第 2 回	財務諸表	経営分析の資料			
第 3 回	収益性分析	収益性分析の方法			
第 4 回	生産性分析 (その 1)	生産性の分析についての講義			
第 5 回	生産性分析 (その 2)	生産性の分析に関する計算			
第 6 回	生産性分析 (その 3)	財務比率による生産性の分析			
第 7 回	安全性分析 I (その 1)	ストック指標についての講義			
第 8 回	安全性分析 I (その 2)	ストック指標に関する計算			
第 9 回	安全性分析 I (その 3)	ストック指標による安全性の分析			
第 10 回	安全性分析 II (その 1)	フロー指標についての講義			
第 11 回	安全性分析 II (その 2)	フロー指標に関する計算			
第 12 回	安全性分析 II (その 3)	フロー指標による安全性の分析			
第 13 回	安全性分析 III (その 1)	その他の指標についての講義			
第 14 回	安全性分析 III (その 2)	その他の指標に関する計算			
第 15 回	安全性分析 III (その 3)	その他の指標による安全性の分析			

# 経済

授業番号	B202330001		
科目名 (英語表記)	経営立地論 (Management theory of location)		
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	企業経営や産業経営を考える上で立地論の考え方は欠かせません。その立地論の考え方とはどのようなものなのかを、チューネンの農業立地論、ウェーバーの工業立地論、レッシュの市場地域論などを通して学びます。立地論の考え方を通して、現実の経営立地を理解することが目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	最初の4時間は、立地についての考え方を具体的事例を通して説明します。5時間目以降は、世界的に知られた代表的な立地論などを易しく説明し、具体的な事例の紹介もします。理解度を確認するために毎時間コメントカードを提出してもらいます。		
成績評価方法	定期試験 (50%) と平常点 (50%、コメントカードの内容による) で評価します		
基準			
授業の予習・復習	参考文献を利用して予め授業内容のポイントをつかみ、授業後はノートや配付資料を見直しておくこと。		
教科書	使用しません。毎時間プリントを配布します。		
参考文献	西岡久雄「経済地理分析」大明堂 富田和暁「地域と産業」原書房 松原 宏編著「立地論入門」古今書院		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、授業の受け方、参考文献の解説	
第2回	立地とは何か	立地の概念、立地論の目的、具体的事例	
第3回	立地条件	立地条件の種類と性質	
第4回	立地因子	立地因子の種類と性質	
第5回	農業立地論 (1)	チューネンの農業立地論 (地代概念について)	
第6回	農業立地論 (2)	チューネンの農業立地論 (耕作限界と耕作境界)	
第7回	農業の立地	世界における農業立地の事例	
第8回	工業立地論 (1)	ウェーバーの工業立地論 (概要)	
第9回	工業立地論 (2)	ウェーバーの工業立地論 (評価と批判)	
第10回	工業の立地	世界における工業立地の事例	
第11回	市場の形成	レッシュの市場地域論	
第12回	商業の立地	商店の立地、商店街の立地	
第13回	オフィスの立地	都市構造とオフィスの立地	
第14回	企業組織の立地	集中か分散か	
第15回	まとめ	授業内容のまとめ	

# 経済

授業番号	B201150001				
科目名 (英語表記)	経済学史 I (The history of economics I)				
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	古典派経済学を中心として、形成期の経済学説の課題と理論を理解する。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを使って板書しながら説明する。				
成績評価方法	参加態度 (20 点) と定期試験 (80 点) による。				
基準					
授業の予習・復習	予習 テキストを読むこと 復習 ノートをまとめて理解を確かめること				
教科書	井上義朗『コア・テキスト 経済学史』新世社				
参考文献	スミス『国富論』 リカード『経済学および課税の原理』				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	はじめに	経済学史の課題と方法			
第 2 回	重商主義	重金主義、貿易差額論、各国の重商主義			
第 3 回	重農主義	自然法思想、純生産物、三階級			
第 4 回	重農主義	経済表			
第 5 回	古典派経済学—スミス『国富論』	国富論の体系、富とは何か、富の増進方法			
第 6 回	『国富論』	投下労働価値説と支配労働価値説への移行			
第 7 回	『国富論』	資本蓄積論、富裕の進歩の差異			
第 8 回	『国富論』	重商主義批判、自由主義			
第 9 回	古典派経済学—マルサス	人口法則と私有財産制			
第 10 回	古典派経済学—リカード『経済学原理』	穀物法論争と比較優位論			
第 11 回	『経済学原理』	投下労働価値説の徹底、価値分解論			
第 12 回	『経済学原理』	差額地代論			
第 13 回	『経済学原理』	自然価格、賃金論、利潤論			
第 14 回	『経済学原理』	資本蓄積論			
第 15 回	まとめ	重商主義、重農主義、古典派経済学の総括			

# 経済

授業番号	B201160001				
科目名 (英語表記)	経済学史 II (The history of economics II)				
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済学の三大潮流であるマルクス経済学、新古典派経済学、ケインズ経済学を理解する。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを使って板書しながら説明する。				
成績評価方法	参加態度 (20 点) と定期試験 (80 点) による。				
基準					
授業の予習・復習	予習 テキストをよく読むこと 復習 ノートを整理して理解を深めること				
教科書	井上義朗『コア・テキスト 経済学史』 新世社				
参考文献	マルクス『資本論』 マーシャル『経済学原理』 ケインズ『雇用、利子および貨幣の一般理論』				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	マルクス経済学 I	マルクス経済学の生成、『資本論』への道			
第 2 回	マルクス経済学 II	『資本論』の構造			
第 3 回	マルクス経済学 III	労働価値説、剰余価値論			
第 4 回	マルクス経済学	資本蓄積論、産業予備軍			
第 5 回	新古典派経済学 I	新古典派経済学とは何か。限界効用理論。			
第 6 回	新古典派経済学 II	メンガーの効用価値論			
第 7 回	新古典派経済学 III	ワルラスの一般均衡理論			
第 8 回	新古典派経済学 IV	マーシャルの動態的市場理論			
第 9 回	新古典派経済学 V	シュンペーターの経済発展理論			
第 10 回	ケインズ経済学 I	失業者の発生—ケインズの考え方			
第 11 回	ケインズ経済学 II	有効需要の原理—消費、貯蓄、乗数効果			
第 12 回	ケインズ経済学 III	投資と利子、流動性選好			
第 13 回	ケインズ経済学 IV	ケインズの政策と思想			
第 14 回	現代経済学の諸潮流	社会経済学、新リカード学派、現代マルクス学派			
第 15 回	まとめ	マルクス、新古典派、ケインズ経済学の総括			

# 経済

授業番号	B201850001				
科目名 (英語表記)	経済学方法論 I (Methodology of Economics I)				
担当者 (英語表記)	折原 裕 (Yutaka Orihara)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	マルクス経済学、「近代経済学」のいずれにも片寄らないで、経済学の方法を広く学びます。				
授業の進め方 (履修条件など)	この I では、経済学的方法的課題を留意しつつ、経済学の成立・発展過程を概観します。				
成績評価方法	定期試験 (60%)、授業内小テスト (40%)。				
基準					
授業の予習・復習	予習：分野にこだわらず多くの書物を読んで下さい。 復習：簡単でいいから励行して下さい。				
教科書	市販のテキストは用いず、毎回講義の概要を記載した印刷物「講義メモ」を配布します。これに、講義中の指示などによって学生諸君が適宜書き込みをほどこしたものが、テキスト兼ノートになります。				
参考文献	宇野弘蔵『経済学方法論』東京大学出版会 (講義だけでは飽き足らない勉強家の学生向け図書。現在入手不可能となっておりますので、メディアセンター所蔵のものを利用して下さい。)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義ガイダンス	本講義の特徴、成績について等			
第 2 回	経済理論の成立過程	重商主義の経済学説			
第 3 回	経済理論の成立過程	重農主義の経済学説			
第 4 回	経済理論の成立過程	自由主義の経済学説①アダム・スミス			
第 5 回	経済理論の成立過程	自由主義の経済学説②デーヴィッド・リカード			
第 6 回	経済理論の成立過程	自由主義の経済学説③ J・S・ミル			
第 7 回	小テスト	小テスト			
第 8 回	マルクス経済学	マルクス経済学の確立			
第 9 回	マルクス経済学	マルクス経済学の発展			
第 10 回	マルクス経済学	宇野理論の考え方			
第 11 回	「近代経済学」の潮流	限界革命の経済学			
第 12 回	「近代経済学」の潮流	新古典派経済学の展開			
第 13 回	「近代経済学」の潮流	ケインズの経済学			
第 14 回	小テスト	小テスト			
第 15 回	まとめ	まとめ			

# 経済

授業番号	B201860001				
科目名 (英語表記)	経済学方法論 II (Methodology of Economics II)				
担当者 (英語表記)	折原 裕 (Yutaka Orihara)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	マルクス経済学、「近代経済学」のいずれにも片寄らないで、経済学の方法を広く学びます。				
授業の進め方 (履修条件など)	このIIでは、前半でマルクス経済学の方法、後半で「近代経済学」の方法を取り扱います。				
成績評価方法	定期試験 (60%)、授業内小テスト (40%)。				
基準					
授業の予習・復習	予習：分野にこだわらず多くの書物を読んで下さい。 復習：簡単でいいから励行して下さい。				
教科書	市販のテキストは用いず、毎回講義の概要を記載した印刷物「講義メモ」を配布します。これに、講義中の指示などによって学生諸君が適宜書き込みをほどこしたものが、テキスト兼ノートになります。				
参考文献	宇野弘蔵『経済学方法論』東京大学出版会 (講義だけでは飽き足りない勉強家の学生向け図書。現在入手不可能となっておりますので、メディアセンター所蔵のものを利用して下さい。)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義ガイダンス	本講義の特徴、成績について等			
第2回	マルクス経済学の方法	経済学の対象			
第3回	マルクス経済学の方法	経済学原理論と純粋資本主義			
第4回	マルクス経済学の方法	原理論と段階論の分化			
第5回	マルクス経済学の方法	原理論の方法			
第6回	マルクス経済学の方法	段階論の方法			
第7回	マルクス経済学の方法	現状分析の方法			
第8回	小テスト	小テスト			
第9回	「近代経済学」の方法	ロビンズとハチソン			
第10回	「近代経済学」の方法	ケインズ革命と新古典派総合			
第11回	「近代経済学」の方法	マハループとフリードマン			
第12回	「近代経済学」の方法	ポスト・ケインジアンの方法			
第13回	「近代経済学」の方法	新オーストリア学派の方法			
第14回	小テスト	小テスト			
第15回	まとめ	まとめ			

# 経済

授業番号	B201960001				
科目名 (英語表記)	経済数学 I (Economic mathematics I)				
担当者 (英語表記)	小林 忠 (Tadashi Kobayashi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済学やオペレーションズ・リサーチなどの領域で利用される線形数学の基礎を確立し、線形計画法について解説します。				
授業の進め方 (履修条件など)	コンピュータを使って、行列式、行列の積、逆行列等の基本概念を正確に修得し、それと同時にコンピュータの素晴らしさを体験してもらいます。 受講者は「数学 I, II」または「統計学 I, II」を履修済みのこと。初回または二回目の講義に必ず出席すること。尚、受講者は 20 名以内とします。				
成績評価方法	試験成績 80%、授業参加態度 20%				
基準					
授業の予習・復習	予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。 復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。				
教科書	プリントを用意します。				
参考文献	二階堂副包著『経済のための線型数学』培風館				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義準備	コンピュータの取扱い方			
第 2 回	線形代数概論	行列の積、行列式			
第 3 回	線形代数概論	逆行列、クラメル公式			
第 4 回	線形代数概論	ベクトルの一次独立、内積			
第 5 回	線形計画法	目的、問題の定式化			
第 6 回	線形計画法	変数が二つの場合			
第 7 回	線形計画法	単体法、許容領域、凸領域			
第 8 回	線形計画法	スラック変数、連立一次方程式			
第 9 回	線形計画法	目的関数の内積表示			
第 10 回	線形計画法	最大値問題、例題演習			
第 11 回	線形計画法	双対定理、例題演習			
第 12 回	輸送問題	モデル、定式化 (1)			
第 13 回	輸送問題	モデル、定式化 (2)			
第 14 回	Scheduling	PERT, critical path(1)			
第 15 回	Scheduling	PERT, critical path(2)			

経済

授業番号	B201970001				
科目名 (英語表記)	経済数学 II (Economic mathematics II)				
担当者 (英語表記)	小林 忠 (Tadashi Kobayashi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	ゲームの理論の入門部分を解説します。				
授業の進め方 (履修条件など)	コンピュータシミュレーションで実験確認をしてもらいます。 受講者は「数学 I, II」または「統計学 I, II」を履修済みのこと。初回または二回目の講義に必ず出席すること。尚、受講者は 20 名以内とします。				
成績評価方法	試験成績 80%、授業参加態度 20%				
基準					
授業の予習・復習	予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。 復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。				
教科書	プリントを用意します。				
参考文献	坂口実著『ゲームの理論』森北出版				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義準備	コンピュータの取扱い方			
第 2 回	在庫問題	モデル、在庫管理費用の計算			
第 3 回	在庫問題	定期、定量発注方式			
第 4 回	動的計画法	資金の配分問題			
第 5 回	階層比意思決定法	階層構造、一対比較と整合性			
第 6 回	ゲームの理論	概論			
第 7 回	ゲームの理論	鞍点、ミニマックスの定理			
第 8 回	ゲームの理論	不動点定理			
第 9 回	ゲームの理論	じゃんけんゲーム、定式化			
第 10 回	ゲームの理論	行列ゲーム、定式化			
第 11 回	ゲームの理論	混合戦略、最適戦略、ゲームの値 (1)			
第 12 回	ゲームの理論	混合戦略、最適戦略、ゲームの値 (2)			
第 13 回	ゲームの理論	混合戦略、最適戦略、ゲームの値 (3)			
第 14 回	ゲームの理論	特殊な行列ゲーム、演習 (1)			
第 15 回	ゲームの理論	特殊な行列ゲーム、演習 (2)			



# 経済

授業番号	B200890001				
科目名 (英語表記)	経済政策 AI (Economic policy A.I.)				
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	雇用と物価の安定、経済成長を目標とした経済政策を中心に、現代経済が直面しうる様々な政策上の問題について、その理論的基礎と政策を論じる。前期に開講される本科目では、景気変動および国民所得決定の理論の学習を通じて、後期の経済政策 A II およびその他の諸科目におけるより進んだ学習の基盤となる基礎的知識の確実な習得を目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	入門的な教科書を主に利用しながら、様々な関連トピックについても毎回プリントを配布しながら論じる (講義内容の多くは何らかの形で教科書と対応するが、それだけにとどめることはしない)。定期試験などは毎回の講義内容に関するものなので、毎回出席し、かつ積極的に受講することが必要。講義スケジュールは受講者の様子を見て変更もありうる。				
成績評価方法	定期試験 (80%)、レポート及びその他の課題 (20%) を考慮して評価する。ただし著しい出席不良・課題提出不良者には				
基準	定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。				
授業の予習・復習	予習: 前回の講義での説明を参考にして、教科書の関連する部分を見ておく。 復習: テキストや毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさないこと。				
教科書	長谷川啓之編「経済政策の理論と現実」学文社、2009年。				
参考文献	必要に応じて講義時に紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	はじめに	講義内容紹介・前期および年間の計画			
第 2 回	経済政策の考え方	政府と政策、公共部門の意義と役割			
第 3 回	景気循環と経済安定化 (1)	景気循環の考え方			
第 4 回	景気循環と経済安定化 (2)	景気循環と失業・インフレーション			
第 5 回	国民所得の理論と政策 (1)	4 5 度線モデルと生産物市場均衡			
第 6 回	国民所得の理論と政策 (2)	総需要管理政策 (乗数効果)			
第 7 回	国民所得の理論と政策 (3)	IS-LM モデルと安定化政策			
第 8 回	国民所得の理論と政策 (4)	IS-LM 曲線の形状と政策効果			
第 9 回	国民所得の理論と政策 (5)	国際収支とオープンマクロ経済学			
第 10 回	国民所得の理論と政策 (6)	オープンマクロ経済学における財政・金融政策			
第 11 回	国民所得の理論と政策 (7)	ここまでの論点の整理と復習			
第 12 回	経済成長の理論と政策 (1)	経済成長の理論			
第 13 回	経済成長の理論と政策 (2)	経済成長と資本蓄積			
第 14 回	経済成長の理論と政策 (3)	経済成長と労働、技術進歩			
第 15 回	経済成長の理論と政策 (4)	ここまでの論点の整理と全体の復習			

# 経済

授業番号	B200900001				
科目名 (英語表記)	経済政策 AII (Economic policy AII)				
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	雇用問題と産業組織に関する経済政策を中心に、現代経済が直面している様々な政策上の問題について、その政策手段を論じる。本科目では、財政・金融政策の政策手段とその評価、景気刺激では解決しない構造的失業、経済の構造変化と成長のための産業政策を中心に、前期に論じた経済政策の理論がどのような政策手段によって実現されているかを理解することを目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	入門的な教科書を主に利用しながら、様々な関連トピックについてもプリントを配布しながら論じる (講義内容の多くは何らかの形で教科書と対応するが、それだけにとどめることはしない)。定期試験などは毎回の講義内容に関するものなので、毎回出席し、かつ積極的に受講することが必要となろう。講義スケジュールは受講者の様子を見て変更もありうる。				
成績評価方法 基準	定期試験 (80%)、レポート及びその他の課題 (20%) を考慮して評価する。ただし著しい出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。				
授業の予習・復習	予習：前回の講義での説明を参考にして、教科書の関連する部分を見ておく。 復習：テキストや毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさないこと。				
教科書	長谷川啓之編「経済政策の理論と現実」学文社、2009年。				
参考文献	必要に応じて講義時に紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	はじめに	講義内容紹介・「経済政策 A I」との橋渡し			
第2回	失業と物価問題 (1)	失業とインフレーションの諸概念			
第3回	失業と物価問題 (2)	財政政策の手段			
第4回	失業と物価問題 (3)	金融政策の手段			
第5回	失業と物価問題 (4)	総需要管理政策をめぐる様々な議論			
第6回	失業と物価問題 (5)	非循環的失業と政府の役割①			
第7回	失業と物価問題 (6)	非循環的失業と政府の役割②			
第8回	失業と物価問題 (7)	供給インフレーション			
第9回	失業と物価問題 (8)	ここまでの論点の整理と復習			
第10回	産業政策 (1)	経済成長、経済発展と産業政策			
第11回	産業政策 (2)	独占の非効率性と競争政策			
第12回	産業政策 (3)	直接規制政策～経済的規制と社会的規制			
第13回	産業政策 (4)	直接規制政策の根拠と規制緩和			
第14回	産業政策 (5)	技術革新と産業政策			
第15回	産業政策 (6)	ここまでの論点の整理と全体の復習			

# 経済

授業番号	B200910001		
科目名 (英語表記)	経済政策 BI (Economic policy BI)		
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	バブル崩壊以降、日本経済は深刻なデフレ経済に陥ってしまった。これは雇用・所得を大きく損ない私たちの生活に大きな影を落としている。このような状態から脱するためには何が必要なのだろうか。本講義は、経済政策 (特に財政・金融政策) の理論と実際的手段を概説したのちに、課題解決に求められる政策対応について考察する。		
授業の進め方 (履修条件など)	必要であればプリントを配布するが、授業は板書を中心に進めていくので、しっかりノートをとること。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、質問、意見を記入すれば次の授業の初めに答える。		
成績評価方法	定期試験 (70%)・授業内小テスト (15%)・レポート及びその他の課題 (15%)		
基準			
授業の予習・復習	予習：下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。 復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。		
教科書	使用しない		
参考文献	『ゼミナール経済政策入門』日本経済新聞社、岩田 規久男 飯田 泰之 『日本経済読本 [第 17 版]』東洋経済、金森久雄、香西泰、加藤裕己		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	経済政策とは	市場の限界と経済政策の役割	
第 2 回	バブル崩壊後の経済政策 (1)	バブル経済とバブル崩壊のメカニズム	
第 3 回	バブル崩壊後の経済政策 (2)	デフレ下の経済政策	
第 4 回	財政政策と経済の安定化	経済安定化政策の目的と手段	
第 5 回	財政政策の基礎理論 (1)	三面等価と均衡国民所得の決定	
第 6 回	財政政策の基礎理論 (2)	政府部門の導入による均衡国民所得の変化	
第 7 回	乗数効果 (1)	投資乗数と政府支出乗数	
第 8 回	乗数効果 (2)	減税の政策効果と租税乗数	
第 9 回	財政政策の有効性	GDP 創出、雇用創出、格差是正などから見た財政政策の有効性について	
第 10 回	金融政策のための基礎理論 (1)	貨幣の導入と金融部門の役割	
第 11 回	金融政策のための基礎理論 (2)	マネーサプライとマネタリーベース	
第 12 回	金融面から見た景気対策 (1)	金融政策のメカニズムとマネーサプライの変化	
第 13 回	金融面から見た景気対策 (2)	景気対策としての伝統的な金融政策手段	
第 14 回	金融面から見た景気対策 (3)	金融政策の有効性とポリシーミックス	
第 15 回	授業のまとめ	財政・金融政策の復習	

# 経済

授業番号	B200920001		
科目名 (英語表記)	経済政策 BII (Economic policy BII)		
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	バブル崩壊以降の雇用形態の変化や所得格差による問題、また年金や医療など将来への不安から脱するためには何が必要なのだろうか。本講義は、物価政策、経済発展、さらに所得分配政策について基礎理論と実際的手段を概説したのちに、課題解決に求められる政策対応について考察する。		
授業の進め方 (履修条件など)	必要であればプリントを配布するが、授業は板書を中心に進めていくので、しっかりノートをとること。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、質問、意見を記入すれば次の授業の初めに答える。		
成績評価方法	定期試験 (70%)・授業内小テスト (15%)・レポート及びその他の課題 (15%)		
基準			
授業の予習・復習	予習：下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。 復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。		
教科書	使用しない		
参考文献	『ゼミナール経済政策入門』日本経済新聞社、岩田 規久男 飯田 泰之 『日本経済読本 [第 17 版]』東洋経済、金森久雄、香西泰、加藤裕己		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	物価と貨幣	マネーサプライと貨幣数量説	
第 2 回	物価指数と価格の変動	消費者物価、卸売物価、GDPデフレーター の計測	
第 3 回	物価変動の要因分析	ディマンドプル・インフレとコストプッシュ・インフレ	
第 4 回	価格政策	インフレ抑制策としての金融引締め	
第 5 回	デフレ下の金融政策	バランスシートからみた金融状況とゼロ金利政策	
第 6 回	社会資本の供給 (1)	公共財としての社会資本の建設と経済発展	
第 7 回	社会資本の供給 (2)	公共事業と財政赤字	
第 8 回	経済発展政策 (1)	経済発展の要因と貧困の悪循環	
第 9 回	経済発展政策 (2)	資本蓄積と技術進歩	
第 10 回	経済発展政策 (3)	発展途上国の成長政策の課題	
第 11 回	所得分配政策 (1)	市場の所得分配と所得再分配政策の手段	
第 12 回	所得分配政策 (2)	公的保険の概要と仕組み	
第 13 回	所得分配政策 (3)	日本の医療保険制度の課題	
第 14 回	所得分配政策 (4)	日本の年金保険制度の課題	
第 15 回	授業のまとめ	全体の復習と確認テスト	

# 経済

授業番号	B202720001		
科目名 (英語表記)	経済統計 I (Economic statistics I)		
担当者 (英語表記)	稲葉 弘道 (Hiromichi Inaba)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済統計についての知識を高め、経済統計データを使っての初歩的なデータ整理の方法を習得し、さらに統計分析することを目的とします。ネットワークを使っての経済データ収集の方法を学びます。代表的な統計調査である法人企業統計と家計調査を解説します。		
授業の進め方 (履修条件など)	データ整理や分析にはパソコン (EXCEL) を使います。この講義に必要なパソコンやネットワークの知識は初歩から説明します。レジュメなどは、ネットワーク上に掲示します。		
成績評価方法	定期試験 ( 50 %)・課題作成 ( 20 %)・授業参加態度 ( 30 %)		
基準			
授業の予習・復習	予習：教科書をよく読んでおくこと。 復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行っておく。 特にパソコンでの課題と実習は常に行うこと。		
教科書	講義の内容はパワーポイントで提示する { <a href="http://www.boreas.dti.ne.jp/~kodo/data-ku/index.htm">http://www.boreas.dti.ne.jp/~kodo/data-ku/index.htm</a> }		
参考文献	橋本・渡辺・櫻井編著『Excel で始める経済統計データの分析』(日本統計協会) 唯是康彦編著『EXCEL で学ぶ経済統計入門』東洋経済新報社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要	
第 2 回	インターネットで経済統計を検索	ネットワーク操作	
第 3 回	表計算操作法	表、グラフ作成	
第 4 回	表計算操作法	絶対参照座標	
第 5 回	統計データとは何か	統計と情報	
第 6 回	統計データとは何か	全数調査と標本調査	
第 7 回	統計データとは何か	統計データの種類	
第 8 回	『法人企業統計』の説明	「貸借対照表」と「損益計算書」	
第 9 回	『法人企業統計』の説明	『法人企業統計年表』とは	
第 10 回	『法人企業統計』で経営指標を計算する	経営分析	
第 11 回	『法人企業統計』で経営指標を計算する	主要経営指標の計算	
第 12 回	『家計調査年報』を統計的に分析する	『家計調査』とは	
第 13 回	『家計調査年報』を統計的に分析する	統計の作表と構成の計算	
第 14 回	『家計調査年報』を統計的に分析する	5 分位階級データの分析	
第 15 回	まとめ	まとめと質疑応答	

# 経済

授業番号	B202730001		
科目名 (英語表記)	経済統計 II (Economic statistics II)		
担当者 (英語表記)	稲葉 弘道 (Hiromichi Inaba)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済統計 II の知識を前提に、経済統計についての知識を高め、経済統計データを使つての初歩的なデータ整理の方法を習得し、さらに統計分析することを目的とする。ネットワークを使つての経済データ収集の方法を学びます。代表的な統計調査である家計調査と国民経済計算 (SNA) を解説します。		
授業の進め方 (履修条件など)	データ整理や分析にはパソコン (EXCEL) を使います。この講義に必要なパソコンやネットワークの知識は初歩から説明します。レジュメなどは、ネットワーク上に掲示します。		
成績評価方法	定期試験 ( 50 %) ・ 課題作成 ( 20 %) ・ 授業参加態度 ( 30 % )		
基準			
授業の予習・復習	予習：教科書をよく読んでおくこと。 復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行っておく。 特にパソコンでの課題と実習は常に行うこと。		
教科書	講義の内容は講義用ホームページに提示する { <a href="http://www.boreas.dti.ne.jp/~kodo/data-ku/index.htm">http://www.boreas.dti.ne.jp/~kodo/data-ku/index.htm</a> }		
参考文献	橋本・渡辺・櫻井編著『「Excel で始める経済統計データの分析」』(日本統計協会) 唯是康彦編著『E X C E L で学ぶ経済統計入門』東洋経済新報社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要	
第 2 回	『家計調査年報』から統計指標をつくる	平均と標準偏差の計算	
第 3 回	『家計調査年報』から統計指標をつくる	所得階層の度数分布	
第 4 回	『家計調査年報』から統計指標をつくる	標本からの度数分布作成	
第 5 回	『家計調査年報』から統計指標をつくる	正規分布と食料費	
第 6 回	「国内総生産」で景気と成長をみる	新 SNA とは	
第 7 回	「国内総生産」で景気と成長をみる	時系列統計の処理	
第 8 回	「国内総生産」で景気と成長をみる	成長と景気	
第 9 回	回帰分析で「消費関数」を計測する	所得の定義	
第 10 回	回帰分析で「消費関数」を計測する	相関関係	
第 11 回	回帰分析で「消費関数」を計測する	消費関数	
第 12 回	回帰分析で「消費関数」を計測する	回帰分析	
第 13 回	気楽に「線形計画法」を覚えよう	最適化問題	
第 14 回	気楽に「線形計画法」を覚えよう	ソルバーによる線形計画法	
第 15 回	まとめ	まとめと質疑応答	

# 経済

授業番号	B200770001				
科目名 (英語表記)	経済理論 AI (Economic theory AI)				
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	商品、貨幣、資本からなる市場と産業資本によって遂行される社会的再生産を学んで資本主義の存立構造を把握すること。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを使って板書しながら説明する。				
成績評価方法	参加態度 (20 点) と定期試験 (80 点) による。				
基準					
授業の予習・復習	予習 テキストを熟読すること 復習 ノートをまとめて論理を把握しておくこと				
教科書	日高普『経済原論』 有斐閣				
参考文献	山口重克『経済原論講義』 東京大学出版会 小幡道昭『経済原論 基礎と演習』 東京大学出版会 菅原陽心『経済原論』 御茶ノ水書房				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	序論	経済原論の対象、方法、構成			
第 2 回	流通論 I - 商品	商品、貨幣の生成			
第 3 回	流通論 II - 貨幣	価値尺度、流通手段			
第 4 回	流通論 II - 貨幣	貨幣としての貨幣 - 蓄蔵手段、支払い手段、資金			
第 5 回	流通論 III - 資本	資本の概念、資本の三形式 - 商人資本、金貸資本、産業資本、			
第 6 回	生産論 I - 資本の生産過程	資本による生産 - 労働生産過程			
第 7 回	生産論 I - 資本の生産過程	価値形成・増殖過程、剰余価値率			
第 8 回	生産論 I - 資本の生産過程	資本主義的生産方法 - 絶対的剰余価値、相対的剰余価値、機械制工業			
第 9 回	生産論 I - 資本の生産過程	賃金			
第 10 回	生産論 II - 資本の流過程	資本の流過程、固定資本と流動資本			
第 11 回	生産論 II - 資本の流過程	流通費用 - 売買費、保管費、運輸費			
第 12 回	生産論 III - 資本の再生産過程	資本の循環、再生産表式			
第 13 回	生産論 III - 資本の再生産過程	資本の蓄積 - 固定資本の増設的蓄積、更新的蓄積			
第 14 回	生産論 III - 資本の再生産過程	資本主義的人口法則			
第 15 回	まとめ	流通論、生産論の総括			

# 経済

授業番号	B200780001				
科目名 (英語表記)	経済理論 AII (Economic theory AII)				
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	剰余価値の分配としての利潤、地代、利子、および景気循環による資本主義的蓄積の現実的過程と意義を理解する。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを使って板書しながら説明する。				
成績評価方法	参加態度 (20 点) と定期試験 (80 点) による。				
基準					
授業の予習・復習	予習 テキストを熟読すること 復習 ノートをまとめ論理を把握しておくこと				
教科書	日高普『経済原論』 有斐閣				
参考文献	山口重克『経済原論講義』 東京大学出版会 小幡道昭『経済原論 基礎と演習』 東京大学出版会 菅原陽心『経済原論』 御茶ノ水書房				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	利潤 I	利潤と利潤率			
第 2 回	利潤 II	異部門間の利潤率均等化、一般的利潤率			
第 3 回	利潤 III	生産価格			
第 4 回	利潤 IV	同部門内の利潤率均等化			
第 5 回	地代 I	差額地代—一般、第一形態			
第 6 回	地代 II	差額地代第二形態、絶対地代			
第 7 回	地代 III	諸階級			
第 8 回	利子 I	信用—商業信用			
第 9 回	利子 II	銀行信用			
第 10 回	利子 III	銀行資本と銀行利潤			
第 11 回	利子 IV	商業資本と利潤			
第 12 回	景気循環 I	景気循環課程			
第 13 回	景気循環 II	景気循環の意義			
第 14 回	景気循環 III	価値法則とは何か			
第 15 回	まとめ	利潤、地代、利子、景気循環の総括			



# 経済

授業番号	B200790001				
科目名 (英語表記)	経済理論 BI (Economic theory BI)				
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済学によって、経済や世界をどのように捉えることができるのか学びます。マクロ経済学では、GDPや景気などの定義、財政問題を扱います。ミクロ経済学では、私たちの行動がどのような原理に基づいているのかを理解します。				
授業の進め方 (履修条件など)	2-3 問の小テストを毎週課題とします。これによって授業内容の確認・理解を深めるとともに、復習と予習が可能になるようにします。				
成績評価方法	小テストによって 5 割、期末テストによって 5 割を評価します。				
基準					
授業の予習・復習	KCN を用いて毎回出題される小テストを説くことが、予習件復習となります。一週間の間に問題を解くようにしてください。例題は授業中に出されます。				
教科書	井堀利宏 『コンパクト経済学』 新世社				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	イントロダクション	経済学の考え方、重要な概念、マクロ経済の主体			
第 2 回	マクロ経済学の目的	マクロ経済学の目的、GDP の定義、財政政策			
第 3 回	GDP の三面等価	GDP、成長率、実質と名目、インフレとデフレ			
第 4 回	経済主体とその活動	家計の消費、企業の投資、政府の支出			
第 5 回	経済主体とその活動	金融部門と海外部門			
第 6 回	景気の定義	景気とは何か、景気の現状の見方と予測の仕方			
第 7 回	乗数効果	乗数効果、限界消費性向			
第 8 回	国内所得の決定	国内所得の大きさはどのように決まるのか			
第 9 回	財政政策の評価	拡張的財政政策、均衡財政政策			
第 10 回	経済政策とは何か	公共投資、経済政策の評価			
第 11 回	貨幣と金融	貨幣需要とマネーサプライの供給			
第 12 回	IS-LM 分析	IS 曲線と LM 曲線の導出			
第 13 回	金融政策の評価	IS - LM 曲線のシフトと金融政策の評価、クラウディングアウト			
第 14 回	国際経済	貿易、国際収支と為替レート			
第 15 回	まとめと補足	足りない内容を補足します			

# 経済

授業番号	B200800001		
科目名 (英語表記)	経済理論 BII (Economic theory BII)		
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	ミクロ経済学の考え方によって経済事象や毎日の生活の行動原理を理解します。ミクロ経済学の最終的な目標が、効率的な資源配分にあることを繰り返し学び、理解していきます。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義ののち、小テストを毎回出します。これによって、復習と予習を促します。ノートを必ず取り、毎回の理解を積み上げていくこと。		
成績評価方法	小テストによって 5 割, 期末テストによって 5 割を評価の対象とします。		
基準			
授業の予習・復習	予習: 小テストによって行います。 復習: 小テストによって行います。		
教科書	井堀利宏 『コンパクト経済学』 新世社		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	イントロダクション	ミクロ経済学とはどのような学問か	
第 2 回	ミクロ経済学の目標	ミクロ経済学の理解目標と応用事例	
第 3 回	消費理論 1	選ぶということ, 最も良い選び方, 選好の仮定と効用	
第 4 回	消費理論 2	空間、消費集合、選好の合理的仮定と効用関数	
第 5 回	消費理論 3	無差別曲線, 予算制約	
第 6 回	消費理論 4	限界代替率, 予算制約化の効用の最大化	
第 7 回	配分 1	配分とはなにか, 配分方法, 価格メカニズム	
第 8 回	配分 2	厚生経済学、 配分や均衡を評価するパレート効率性, アローの一般可能性定理を学びます。	
第 9 回	生産理論 1	企業の活動目的, ステークホルダー	
第 10 回	生産理論 2	技術と生産関数 線形またはコブダグラス型効用関数を用いて学びます	
第 11 回	生産理論 3	利益の最大化と生産の理論	
第 12 回	生産理論 4	費用最小化問題, 平均費用, 限界費用	
第 13 回	社会選択の理論	選挙と多数決原理, マッチング理論についてのイントロダクション	
第 14 回	ゲームの理論	ゲームの理論, 代表的な囚人のジレンマを用いてナッシュ均衡を理解	
第 15 回	まとめと応用	環境経済学への応用	

# 経済

授業番号	B201870001		
科目名 (英語表記)	計量経済学 I (Econometrics I)		
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済・経営学における計量経済分析の位置づけ (どのようなことをする分析でどのように利用することができるツールなのか) および最小 2 乗法を中心とした回帰分析の基礎的概念と方法を説明する。統計学や数学に関する詳細な議論よりもむしろ、計量経済分析の方法を使って何が出来るのか、を示すことを主眼としたい。		
授業の進め方 (履修条件など)	科目の性質上数字や数式が使用される機会が多いが、抽象的な説明だけでなく具体的なデータの検討を通じて理解を促すよう努める。金融・証券 (情報) コースだけでなく経済・経営の様々なコースからの受講を期待する。意欲のある 2 年生の受講を歓迎する。		
成績評価方法	定期試験 (80%)、レポート及びその他の課題 (20%) を考慮して評価する。ただし出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。なお試験の際は指示する物件の参照を許可する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：前回の講義での説明を参考にして、教科書の関連する部分を見ておく。 復習：テキストや毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさないこと。		
教科書	山本拓「計量経済学」新世社。		
参考文献	縄田和満「Excel 統計解析ボックスによるデータ解析」朝倉書店など。必要に応じて講義時に紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	はじめに (1)	講義内容紹介・計量経済学とは	
第 2 回	はじめに (2)	経済学としての計量分析・実証分析の意味	
第 3 回	最小 2 乗法 (1)	データの整理…データの種類と基本統計量	
第 4 回	最小 2 乗法 (2)	正規方程式の計算	
第 5 回	最小 2 乗法 (3)	回帰直線の推定と意味	
第 6 回	最小 2 乗法 (4)	回帰直線のあてはまりの尺度	
第 7 回	最小 2 乗法 (5)	この章のまとめと練習	
第 8 回	単純回帰分析 (1)	単純回帰モデルの考え方	
第 9 回	単純回帰分析 (2)	推定量の期待値と分散	
第 10 回	単純回帰分析 (3)	仮説検定…仮説検定の考え方	
第 11 回	単純回帰分析 (4)	仮説検定… t 検定とその利用	
第 12 回	単純回帰分析 (5)	仮説検定…変数選択の方法としての t 検定	
第 13 回	単純回帰分析 (6)	回帰分析と予測	
第 14 回	単純回帰分析 (7)	多重回帰分析への展開	
第 15 回	単純回帰分析 (8)	この章のまとめと練習、全体の復習	

# 経済

授業番号	B201880001				
科目名 (英語表記)	計量経済学 II (Econometrics II)				
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>経済・経営学における計量経済分析の位置づけ (どのようなことをする分析でどのように利用することができるツールなのか) 及びその活用法を中心に、計量経済分析の実際の方法を説明する。前期科目の計量経済学 I の基礎的な理解を念頭に置きつつも、それとは独立して実際の統計データを回帰分析する手法を学んでもらう。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>特に本科目では実証分析の方法を中心に説明する。例えば、論文執筆に際して実証分析を行いたいので理論そのものよりも分析の手順を知りたい、というケースなども想定している。金融・証券 (情報) コースだけでなく経済・経営の様々なコースからの受講を期待する。意欲のある 2 年生の受講を歓迎する。</p>				
成績評価方法	<p>定期試験 (80%)、レポート及びその他の課題 (20%) を考慮して評価する。ただし出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。なお試験の際は指示する物件の参照を許可する。</p>				
授業の予習・復習	<p>予習：前回の講義での説明を参考にして、教科書の関連する部分を見ておく。 復習：テキストや毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさないこと。</p>				
教科書	山本拓「計量経済学」新世社。				
参考文献	縄田和満「Excel 統計解析ボックスによるデータ解析」朝倉書店など。必要に応じて講義時に紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	はじめに (1)	講義内容紹介・経済、経営における計量経済分析の意義			
第 2 回	はじめに (2)	計量経済学 I の復習、最小 2 乗法の考え方			
第 3 回	多重回帰分析 (1)	係数の推定と仮説検定			
第 4 回	多重回帰分析 (2)	自由度修正済み決定係数			
第 5 回	多重回帰分析 (3)	多重回帰分析における係数の解釈			
第 6 回	多重回帰分析 (4)	見せかけの相関と多重共線性			
第 7 回	多重回帰分析 (5)	この章のまとめと練習			
第 8 回	モデルの関数型 (1)	標準型モデルへの変数変換			
第 9 回	モデルの関数型 (2)	対数線形モデルの考え方と利用法			
第 10 回	モデルの関数型 (3)	ダミー変数とトレンド変数			
第 11 回	モデルの関数型 (4)	この章のまとめと練習			
第 12 回	誤差項の系列相関 (1)	時系列データと誤差項の性質			
第 13 回	誤差項の系列相関 (2)	ダービン・ワトソン検定の考え方			
第 14 回	誤差項の系列相関 (3)	コ克蘭・オーカット法による推定			
第 15 回	誤差項の系列相関 (4)	ここまでのまとめと練習			

# 経済

授業番号	B202220001		
科目名 (英語表記)	原価計算論 I (Cost-accounting theory I)		
担当者 (英語表記)	柴田 寛幸 (Hiroyuki Shibata)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	原価計算論 I では、製造業における「製造原価」の算定方法を学ぶ。ここでは、原価計算の目的、個別原価計算、総合原価計算を理解することを目的とする。日本商工会議所簿記検定 2 級の内容を理解し、その基礎を固めることを目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	製造原価の計算方法を説明したのちに、問題を提示し、各自で製造原価を計算してもらう。そのためには、電卓を必ず用意することが必要である。履修条件としては、簿記原理または会計学を履修した学生を対象とする。		
成績評価方法	毎回出席をとることを原則とする。また、随時、練習問題や小テストを行う。そして、試験を実施し、試験の結果を中心として総合的に判断する。		
授業の予習・復習	テキストに従って授業を進めていくので、予習をしてください。また、問題のすべてを授業時間内にはできないので、残った問題を必ず自宅で復習してください。		
教科書	『合格テキスト日商簿記 2 級 [ 工業簿記 ] Ver.6.0』 TAC 出版 2,100 円		
参考文献	『合格トレーニング日商簿記 2 級 [ 工業簿記 ] Ver.6.0』 TAC 出版		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	原価計算総論	原価計算の目的	
第 2 回	原価の分類	形態別、機能別、製品別、操業度別	
第 3 回	費目別計算 (1)	材料費	
第 4 回	費目別計算 (2)	労務費	
第 5 回	費目別計算 (3)	経費	
第 6 回	費目別計算 (4)	製造間接費の実際配賦と予定配賦	
第 7 回	部門別計算	製造部門、補助部門	
第 8 回	個別原価計算 (1)	部門個別費、部門共通費	
第 9 回	個別原価計算 (2)	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法	
第 10 回	総合原価計算 (1)	平均法	
第 11 回	総合原価計算 (2)	先入先出法	
第 12 回	工程別総合原価計算 (1)	平均法	
第 13 回	工程別総合原価計算 (2)	先入先出法	
第 14 回	組別総合原価計算	組別総合原価計算表	
第 15 回	等級別総合原価計算	等価係数	

# 経済

授業番号	B202230001				
科目名 (英語表記)	原価計算論 II (Cost-accounting theory II)				
担当者 (英語表記)	柴田 寛幸 (Hiroyuki Shibata)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	標準原価計算、直接原価計算、CVP (損益分岐点)、資本予算 (投資決定論)、資本コストを理解することを授業のねらいとし、日商簿記検定工業簿記・原価計算の2級・1級の基礎を固めることを到達目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	本講義では、原価計算の理論と実践について学ぶ。そのためには、数多くの計算問題を実際に解いていくことが重要である。したがって、様々な練習問題を解きながら、授業を進めていく方針である。履修条件としては、簿記原理または会計学を履修し、なおかつ、原価計算論 I を修得した学生を対象とする。				
成績評価方法	毎回出席をとることを原則とする。また、随時、練習問題や小テストを行う。そして、試験を実施し、試験の結果を中心として総合的に判断する。				
授業の予習・復習	テキストに従って授業を進めていくので、予習をしてください。また、問題のすべてを授業時間内にはできないので、残った問題を必ず自宅で復習してください。				
教科書	『合格テキスト日商簿記2級 [工業簿記] Ver.6.0』TAC 出版 2,100 円 原価計算のプリントを配布する。				
参考文献	瀬戸裕司、浅川昭久共著『やさしく学べる日商簿記1級マスター工業簿記原価計算テキスト』税務経理協会 2,600 円				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	標準原価計算 (1)	標準原価計算の目的、価格差異、数量差異			
第2回	標準原価計算 (2)	賃率差異、作業時間差異			
第3回	標準原価計算 (3)	予算差異、能率差異、操業度差異			
第4回	直接原価計算 (1)	貢献利益			
第5回	直接原価計算 (2)	固定費調整			
第6回	CVP 分析 (1)	損益分岐点			
第7回	CVP 分析 (2)	目標利益、営業レバレッジ度			
第8回	CVP 分析 (3)	固定費と変動費の分解方法			
第9回	最適セールス・ミックス	グラフによる解法			
第10回	資本予算 (1)	回収期間法、会計的利益率法			
第11回	資本予算 (2)	正味現在価値法、内部利益率法			
第12回	資本予算 (3)	収益性指数法、原価比較法			
第13回	資本コスト	加重平均資本コスト			
第14回	活動基準原価計算 (ABC)	多品種少量生産、コスト・ドライバー			
第15回	特殊原価	差額原価、機会原価、埋没原価等			

経済

授業番号	B200070003				
科目名 (英語表記)	健康科学 (Health science)			A: 前期	
担当者 (英語表記)	福川 裕司 (Yuji Fukukawa)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	スポーツ・運動と健康について科学の視点からアプローチし、心と体についての理解を深める。 また、主体的に問題を提起し、人への興味関心を深める。				
授業の進め方 (履修条件など)	視覚教材を用いて授業を展開していく。				
成績評価方法	定期試験 (50%)、授業内小レポート (10%)、授業への参加度 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	予習: メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットを利用することが必要。 予習: メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットを利用することが必要。				
教科書	使用しない。必要な資料はその都度配布する。				
参考文献	①新版 運動心理学入門、松田岩男・杉原隆編著、大修館書店 ②モチベーション理論の新展開ー スポーツ科学からのアプローチ ー、Glyn C Roberts 著、中島宣行監訳、株式会社創成社 ③健康・スポーツの心理学、青木高・太田壽城 監修、建帛社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業に関する説明など			
第 2 回	スポーツ・健康科学概論	スポーツ・運動は人によってどのような意味を持つのか			
第 3 回	スポーツと心身の健康 (1)	運動、栄養、休養について考える			
第 4 回	スポーツと心身の健康 (2)	スポーツと動機づけ			
第 5 回	人のからだ (1)	人体の不思議			
第 6 回	人のからだ (2)	発育と発達におけるスポーツの効果			
第 7 回	筋と骨	人はどのように力を発揮しているのか			
第 8 回	スポーツの心理的特性	スポーツの心理的効用とは			
第 9 回	スポーツにおけるメンタル	不安や緊張を取り除くには			
第 10 回	スポーツと安全	スポーツ外傷・障害とその予防			
第 11 回	トレーニングの基礎知識 (1)	運動を安全に実施するには			
第 12 回	トレーニングの基礎知識 (2)	より効果的な運動とは			
第 13 回	トレーニングの基礎知識 (3)	ストレッチングを考える			
第 14 回	スポーツと疾病	スポーツによる疾病予防について			
第 15 回	まとめ	総括			

経済

授業番号	B200070004		
科目名 (英語表記)	健康科学 (Health science)	B : 後期	
担当者 (英語表記)	福川 裕司 (Yuji Fukukawa)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	スポーツ・運動と健康について科学の視点からアプローチし、心と体についての理解を深める。 また、主体的に問題を提起し、人への興味関心を深める。		
授業の進め方 (履修条件など)	視覚教材を用いて授業を展開していく。		
成績評価方法	定期試験 (50%)、授業内小レポート (10%)、授業への参加度 (40%)		
基準			
授業の予習・復習	予習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットを利用することが必要。 予習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットを利用することが必要。		
教科書	使用しない。必要な資料はその都度配布する。		
参考文献	授業時に紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業に関する説明など	
第 2 回	スポーツ・健康科学概論	スポーツ・運動は人によってどのような意味を持つのか	
第 3 回	スポーツと心身の健康 (1)	運動、栄養、休養について考える	
第 4 回	スポーツと心身の健康 (2)	スポーツと動機づけ	
第 5 回	人のからだ (1)	人体の不思議	
第 6 回	人のからだ (2)	発育と発達におけるスポーツの効果	
第 7 回	筋と骨	人はどのように力を発揮しているのか	
第 8 回	スポーツの心理的特性	スポーツの心理的効用とは	
第 9 回	スポーツにおけるメンタル	不安や緊張を取り除くには	
第 10 回	スポーツと安全	スポーツ外傷・障害とその予防	
第 11 回	トレーニングの基礎知識 (1)	運動を安全に実施するには	
第 12 回	トレーニングの基礎知識 (2)	より効果的な運動とは	
第 13 回	トレーニングの基礎知識 (3)	ストレッチングを考える	
第 14 回	スポーツと疾病	スポーツによる疾病予防について	
第 15 回	まとめ	総括	



# 経済

授業番号	B200430002		
科目名 (英語表記)	憲法 II (Constitution II)		経済
担当者 (英語表記)	寛正 豊和 (Toyokazu Kakusho)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>憲法の概要は、すでに中学の「公民」や高等学校の「現代社会」「政治・経済」などで理解してきているように、国家の根本原則、すなわち国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方について定めた基本となる法律です。したがって、憲法をさらに把握理解し、よりよい社会の創造にむけていくことは、国民としての必須の事柄です。</p> <p>本講義は、憲法の統治機構の仕組みを理解し、また、問題点などについて諸外国との比較や判例・学説を素材として平易に具体的に理解していくことを目的とします。</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開していきますが、法学入門、憲法 I を併せて履修することが望ましいです。		
成績評価方法	平常点 (授業内に適応おこなうリアクションペーパー等や任意課題レポート) 30%、定期試験 70% で評価します		
基準			
授業の予習・復習	教科書等を読みよく理解できない点を把握し、確認しましょう。		
教科書	斉藤静敬・寛正豊和 共著『法学・憲法』八千代出版		
参考文献	各回の授業時において適宜紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	国家と憲法	憲法を学ぶ	
第 2 回	国会 (1)	国会中心主義	
第 3 回	国会 (2)	国会の構成と活動	
第 4 回	国会 (3)	国会議員の地位と機能	
第 5 回	内閣 (1)	内閣と議員内閣制	
第 6 回	内閣 (2)	内閣と国民主権	
第 7 回	裁判所 (1)	裁判所の組織と機能	
第 8 回	裁判所 (2)	違憲立法審査権の意義と性格	
第 9 回	裁判所 (3)	国民審査と国民主権、司法権の限界	
第 10 回	財政 (1)	財政民主主義	
第 11 回	財政 (2)	憲法原則	
第 12 回	地方自治 (1)	地方自治と憲法原則	
第 13 回	地方自治 (2)	地方公共団体の権能	
第 14 回	判例学習	憲法の判例学習および必要性	
第 15 回	総括	まとめおよび質疑	

# 経済

授業番号	B201040001		
科目名 (英語表記)	公共経済学 (Public economics)		
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義においては、まず市場経済の特質と限界を明らかにする。さらに、環境汚染などの外部性の問題やフリーライダー (ただ乗り) を排除できない公共財の問題について概説し、公共部門が果たすべき役割を明らかにする。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業は板書を中心に進めていくので、授業に出て、しっかりノートをとることが求められる。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、それに質問、意見などを記入すれば次の授業の初めに答える。		
成績評価方法	定期試験 (70%)・授業内小テスト (15%)・レポート及びその他の課題 (15%)		
基準			
授業の予習・復習	予習：下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。 復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。		
教科書	教科書は指定しないが、下記の参考文献の必要か書のコピーやその他の資料を適宜配布する。		
参考文献	『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社、井堀利宏著 『公共政策学入門』有斐閣、足立幸男著		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	公共経済学の目的と方法	公共経済学の考え方とは	
第 2 回	市場経済のメカニズム	市場経済と指令経済の比較	
第 3 回	市場経済の効率性と社会的厚生	消費者余剰および生産者余剰と市場の効率性	
第 4 回	市場の失敗	市場の失敗とは何か。	
第 5 回	効率と公平	効率性とパレート最適	
第 6 回	不完全競争の問題	独占・寡占市場における価格決定と市場の効率性	
第 7 回	外部性をめぐる問題 (1)	外部経済と外部不経済	
第 8 回	外部性をめぐる問題 (2)	外部性と市場の失敗	
第 9 回	外部性をめぐる問題 (3)	規制と罰金	
第 10 回	外部性をめぐる問題 (4)	規制措置の問題点	
第 11 回	公共財をめぐる問題 (1)	公共財とは	
第 12 回	公共財をめぐる問題 (2)	フリーライダーの問題	
第 13 回	公共財をめぐる問題 (3)	公共財の最適供給	
第 14 回	費用逓減産業における問題点	費用逓減産業における市場の失敗	
第 15 回	授業のまとめ	公共経済学からみた市場経済の限界について (総括)	

# 経済

授業番号	B201050001				
科目名 (英語表記)	公共選択論 (Public choice theory)				
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	公共選択論は経済学の分析手法を適用して政治的意思決定に関する課題について考察することを目的としている。本講義では公共選択論の基本課題 (多数決ルールの採択、投票のパラドックス、票の取引など) を概説し、現代の政治制度の持つ限界や陥穽を、有権者の行動、官僚制など具体的問題から明らかにする。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業は板書を中心に進めていくので、授業に出て、しっかりノートをとることが求められる。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、それに質問、意見などを記入すれば次の授業の初めに答える。				
成績評価方法	定期試験 (70%)・授業内小テスト (15%)・レポートまたはその他の課題 (15%)				
基準					
授業の予習・復習	予習: 下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。 復習: 復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。				
教科書	使用しない				
参考文献	『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社、井堀利宏著 『公共政策学入門』有斐閣、足立幸男著				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	政府の役割と政治的意思決定	公共選択論とは何か			
第 2 回	課税の公平性をめぐる問題 (1)	水平的公平性と垂直的公平性、応能原則と応益原則			
第 3 回	課税の公平性をめぐる問題 (2)	サイモンスの所得の定義と包括的所得税			
第 4 回	課税の公平性をめぐる問題 (3)	未実現キャピタルゲインの扱いと所得平均化措置の問題			
第 5 回	課税の公平性をめぐる問題 (4)	法人税と資産課税から見た公平性の問題			
第 6 回	課税の中立性 (1)	課税と市場の効率性			
第 7 回	課税の中立性 (2)	需要弾力性と税の中立性			
第 8 回	集会的選択ルールと投票 (1)	公共選択のルールと多数決原理			
第 9 回	集会的選択ルールと投票 (2)	投票のパラドックスと票の取引			
第 10 回	現実の政治における諸問題 (1)	直接民主制と代議制			
第 11 回	現実の政治における諸問題 (2)	投票者の合理的無視の効果、特殊利益集団			
第 12 回	現実の政治における諸問題 (3)	政治家の得票最大化行動			
第 13 回	官僚の役割と政策決定 (1)	官僚の役割と非効率性			
第 14 回	官僚の役割と政策決定 (2)	日本の政策決定における官僚の関与と問題点			
第 15 回	官僚の役割と政策決定 (3)	官僚主導型政策形成から政治主導政策形成への課題			

経済

授業番号	B200020001				
科目名 (英語表記)	口頭表現 (Oral expression)			(4) 留学生	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	プレゼンテーション技法および語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。 この講義の最終到達目標は、TPO にあった日本語の話し方を習得することである。				
授業の進め方 (履修条件など)	オリジナルプリント教材をもとにして、講義・演習・グループワークをおこなう。なお、語彙力増強のため、毎回漢字テストや作文を実施する。				
成績評価方法 基準	出席の状況や課題への取り組み、定期テストなどから総合的に評価する。 積極的に授業へ参加していないと判断した場合 (私語、内職、居眠り、携帯電話の操作等) 成績評価に影響する。				
授業の予習・復習	授業で扱った内容は、次回までにしっかり復習しておくこと。 毎回、発表の機会があるので、次回発表すると指示された内容について、前もって準備しておくこと。				
教科書	オリジナルプリント教材を使用する。 各自ファイルすること。				
参考文献	説明と説得のためのプレゼンテーション—文章表現、図解、話術、議論のすべて (海保博之著、共立出版) 現代プレゼンテーション正攻法 (プリプル・チャールズ、坂本 正裕著、ナカニシヤ出版) 小室淑恵の超実践プレゼン講座 (小室淑恵著、日経 BP ムック)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	前期の復習 (1) 漢字テスト (1)	前期の復習と、後期の口頭表現について理解する。			
第 2 回	話し方のポイントを学ぶ スピーチ練習 (自己紹介文) 漢字テスト (2)	早口言葉の練習を通して、はっきりと正確な言葉を話す練習をする。			
第 3 回	1 分間スピーチ (1) 本の紹介 漢字テスト (3)	本の紹介 スピーチ練習 「君にすすめる一冊の本」より紹介文を読む 自分が勧める本の紹介をする			
第 4 回	1 分間スピーチ (2) 同上・朗読 漢字テスト (4)	童話朗読 スティーブ・ジョブズ氏のスピーチ練習			
第 5 回	1 分間スピーチ (3) 自己 PR 文 漢字テスト (5)	エントリースーツ 自己 PR 文の練習 いくつかの模範文を練習する。 自分の自己 PR 文を書いて発表する。			
第 6 回	1 分間スピーチ (4) 「私のお薦め」 ロールプレイ (1)	私のお薦め スピーチ原稿内容を考える。 1 分間でスピーチする練習をする。			
第 7 回	1 分間スピーチ (5) ロールプレイ (2)	私のお薦め スピーチ原稿をテストで書く			
第 8 回	中 間 テ ス ト	第 1 ～ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	プレゼンテーションの方法と実践 (1)	プレゼンテーションの概要を学ぶ グループワーク (顔合わせ、自己紹介)			
第 10 回	プレゼンテーションの方法と実践 (2) 漢字テスト (6)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク (調査、発表内容の決定)			
第 11 回	プレゼンテーションの方法と実践 (3) 漢字テスト (7)	プレゼンテーションの方法を学ぶ プレゼン内容の概略を決定			
第 12 回	プレゼンテーションの方法と実践 (4) 漢字テスト (8)	プレゼンテーションの方法を学ぶ スピーチ原稿の完成とスピーチ練習			
第 13 回	プレゼンテーションのリハーサル (5) 漢字テスト (9)	グループワーク (リハーサル)			
第 14 回	プレゼンテーションの実践 (1)	グループごとにプレゼンテーションを行い、批評する			
第 15 回	プレゼンテーション (2)	グループごとにプレゼンテーションを行い、批評する			

経済

授業番号	B200020002		
科目名 (英語表記)	口頭表現 (Oral expression)		(3)
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1 単位数 2
授業のねらいと到達目標	プレゼンテーション技法および語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。 この講義の最終到達目標は、TPO にあった日本語の話し方を習得することである。		
授業の進め方 (履修条件など)	オリジナルプリント教材をもとにして、講義・演習・グループワークをおこなう。なお、語彙力増強のため、毎回漢字テストや作文を実施する。		
成績評価方法 基準	出席の状況や課題への取り組み、定期テストなどから総合的に評価する。 積極的に授業へ参加していないと判断した場合 (私語、内職、居眠り、携帯電話の操作等) 成績評価に影響する。		
授業の予習・復習	授業で扱った内容は、次回までにしっかり復習しておくこと。 毎回、発表の機会があるので、次回発表すると指示された内容について、前もって準備しておくこと。		
教科書	オリジナルプリント教材を使用する。 各自ファイルすること。		
参考文献	説明と説得のためのプレゼンテーション—文章表現、図解、話術、議論のすべて (海保博之著、共立出版) 現代プレゼンテーション正攻法 (プリフル・チャールズ、坂本 正裕著、ナカニシヤ出版) 小室淑恵の超実践プレゼン講座 (小室淑恵著、日経 BP ムック)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	前期の復習 (1) 漢字テスト (1)	前期の復習と、後期の口頭表現について理解する。	
第2回	話し方のポイントを学ぶ スピーチ練習 (自己紹介文) 漢字テスト (2)	早口言葉の練習を通して、はっきりと正確な言葉を話す練習をする。	
第3回	1分間スピーチ (1) 本の紹介 漢字テスト (3)	本の紹介 スピーチ練習 「君にすすめる一冊の本」より紹介文を読む 自分が勧める本の紹介をする	
第4回	1分間スピーチ (2) 同上・朗読 漢字テスト (4)	童話朗読 スティーブ・ジョブズ氏のスピーチ練習	
第5回	1分間スピーチ (3) 自己PR文 漢字テスト (5)	エントリーシート 自己PR文の練習 いくつかの模範文を練習する。 自分の自己PR文を書いて発表する。	
第6回	1分間スピーチ (4) 「私のお薦め」 ロールプレイ (1)	私のお薦め スピーチ原稿内容を考える。 1分間でスピーチする練習をする。	
第7回	1分間スピーチ (5) ロールプレイ (2)	私のお薦め スピーチ原稿をテストで書く	
第8回	中間テスト	第1～7講までの範囲で出題	
第9回	プレゼンテーションの方法と実践 (1)	プレゼンテーションの概要を学ぶ グループワーク (顔合わせ、自己紹介)	
第10回	プレゼンテーションの方法と実践 (2) 漢字テスト (6)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク (調査、発表内容の決定)	
第11回	プレゼンテーションの方法と実践 (3) 漢字テスト (7)	プレゼンテーションの方法を学ぶ プレゼン内容の概略を決定	
第12回	プレゼンテーションの方法と実践 (4) 漢字テスト (8)	プレゼンテーションの方法を学ぶ スピーチ原稿の完成とスピーチ練習	
第13回	プレゼンテーションのリハーサル (5) 漢字テスト (9)	グループワーク (リハーサル)	
第14回	プレゼンテーションの実践 (1)	グループごとにプレゼンテーションを行い、批評する	
第15回	プレゼンテーション (2)	グループごとにプレゼンテーションを行い、批評する	

# 経済

授業番号	B200020003				
科目名 (英語表記)	口頭表現 (Oral expression)			(1)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	プレゼンテーション技法および語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。 この講義の最終到達目標は、TPO にあった日本語の話し方を習得することである。				
授業の進め方 (履修条件など)	オリジナルプリント教材をもとにして、講義・演習・グループワークをおこなう。なお、語彙力増強のため、毎回漢字テストや作文を実施する。				
成績評価方法 基準	出席の状況や課題への取り組み、定期テストなどから総合的に評価する。 積極的に授業へ参加していないと判断した場合 (私語、内職、居眠り、携帯電話の操作等) 成績評価に影響する。				
授業の予習・復習	授業で扱った内容は、次回までにしっかり復習しておくこと。 毎回、発表の機会があるので、次回発表すると指示された内容について、前もって準備しておくこと。				
教科書	オリジナルプリント教材を使用する。 各自ファイルすること。				
参考文献	説明と説得のためのプレゼンテーション—文章表現、図解、話術、議論のすべて (海保博之著、共立出版) 現代プレゼンテーション正攻法 (プリブル・チャールズ、坂本 正裕著、ナカニシヤ出版) 小室淑恵の超実践プレゼン講座 (小室淑恵著、日経 BP ムック)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	前期の復習 (1) 漢字テスト (1)	前期の復習と、後期の口頭表現について理解する。			
第 2 回	話し方のポイントを学ぶ スピーチ練習 (自己紹介文) 漢字テスト (2)	早口言葉の練習を通して、はっきりと正確な言葉を話す練習をする。			
第 3 回	1 分間スピーチ (1) 本の紹介 漢字テスト (3)	本の紹介 スピーチ練習 「君にすすめる一冊の本」より紹介文を読む 自分が勧める本の紹介をする			
第 4 回	1 分間スピーチ (2) 同上・朗読 漢字テスト (4)	童話朗読 スティーブ・ジョブズ氏のスピーチ練習			
第 5 回	1 分間スピーチ (3) 自己 PR 文 漢字テスト (5)	エントリーシート 自己 PR 文の練習 いくつかの模範文を練習する。 自分の自己 PR 文を書いて発表する。			
第 6 回	1 分間スピーチ (4) 「私のお薦め」 ロールプレイ (1)	私のお薦め スピーチ原稿内容を考える。 1 分間でスピーチする練習をする。			
第 7 回	1 分間スピーチ (5) ロールプレイ (2)	私のお薦め スピーチ原稿をテストで書く			
第 8 回	中 間 テ ス ト	第 1 ～ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	プレゼンテーションの方法と実践 (1)	プレゼンテーションの概要を学ぶ グループワーク (顔合わせ、自己紹介)			
第 10 回	プレゼンテーションの方法と実践 (2) 漢字テスト (6)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク (調査、発表内容の決定)			
第 11 回	プレゼンテーションの方法と実践 (3) 漢字テスト (7)	プレゼンテーションの方法を学ぶ プレゼン内容の概略を決定			
第 12 回	プレゼンテーションの方法と実践 (4) 漢字テスト (8)	プレゼンテーションの方法を学ぶ スピーチ原稿の完成とスピーチ練習			
第 13 回	プレゼンテーションのリハーサル (5) 漢字テスト (9)	グループワーク (リハーサル)			
第 14 回	プレゼンテーションの実践 (1)	グループごとにプレゼンテーションを行い、批評する			
第 15 回	プレゼンテーション (2)	グループごとにプレゼンテーションを行い、批評する			

経済

授業番号	B200020004		
科目名 (英語表記)	口頭表現 (Oral expression)		(2)
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1 単位数 2
授業のねらいと到達目標	プレゼンテーション技法および語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。 この講義の最終到達目標は、TPO にあった日本語の話し方を習得することである。		
授業の進め方 (履修条件など)	オリジナルプリント教材をもとにして、講義・演習・グループワークをおこなう。なお、語彙力増強のため、毎回漢字テストや作文を実施する。		
成績評価方法 基準	出席の状況や課題への取り組み、定期テストなどから総合的に評価する。 積極的に授業へ参加していないと判断した場合 (私語、内職、居眠り、携帯電話の操作等) 成績評価に影響する。		
授業の予習・復習	授業で扱った内容は、次回までにしっかり復習しておくこと。 毎回、発表の機会があるので、次回発表すると指示された内容について、前もって準備しておくこと。		
教科書	オリジナルプリント教材を使用する。 各自ファイルすること。		
参考文献	説明と説得のためのプレゼンテーション—文章表現、図解、話術、議論のすべて (海保博之著、共立出版) 現代プレゼンテーション正攻法 (プリプル・チャールズ、坂本 正裕著、ナカニシヤ出版) 小室淑恵の超実践プレゼン講座 (小室淑恵著、日経 BP ムック)		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	前期の復習 (1) 漢字テスト (1)	前期の復習と、後期の口頭表現について理解する。	
第 2 回	話し方のポイントを学ぶ スピーチ練習 (自己紹介文) 漢字テスト (2)	早口言葉の練習を通して、はっきりと正確な言葉を話す練習をする。	
第 3 回	1 分間スピーチ (1) 本の紹介 漢字テスト (3)	本の紹介 スピーチ練習 「君にすすめる一冊の本」より紹介文を読む 自分が勧める本の紹介をする	
第 4 回	1 分間スピーチ (2) 同上・朗読 漢字テスト (4)	童話朗読 スティーブ・ジョブズ氏のスピーチ練習	
第 5 回	1 分間スピーチ (3) 自己 PR 文 漢字テスト (5)	エントリーシート 自己 PR 文の練習 いくつかの模範文を練習する。 自分の自己 PR 文を書いて発表する。	
第 6 回	1 分間スピーチ (4) 「私のお薦め」 ロールプレイ (1)	私のお薦め スピーチ原稿内容を考える。 1 分間でスピーチする練習をする。	
第 7 回	1 分間スピーチ (5) ロールプレイ (2)	私のお薦め スピーチ原稿をテストで書く	
第 8 回	中 間 テ ス ト	第 1 ～ 7 講までの範囲で出題	
第 9 回	プレゼンテーションの方法と実践 (1)	プレゼンテーションの概要を学ぶ グループワーク (顔合わせ、自己紹介)	
第 10 回	プレゼンテーションの方法と実践 (2) 漢字テスト (6)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク (調査、発表内容の決定)	
第 11 回	プレゼンテーションの方法と実践 (3) 漢字テスト (7)	プレゼンテーションの方法を学ぶ プレゼン内容の概略を決定	
第 12 回	プレゼンテーションの方法と実践 (4) 漢字テスト (8)	プレゼンテーションの方法を学ぶ スピーチ原稿の完成とスピーチ練習	
第 13 回	プレゼンテーションのリハーサル (5) 漢字テスト (9)	グループワーク (リハーサル)	
第 14 回	プレゼンテーションの実践 (1)	グループごとにプレゼンテーションを行い、批評する	
第 15 回	プレゼンテーション (2)	グループごとにプレゼンテーションを行い、批評する	



# 経済

授業番号	B201310001		
科目名 (英語表記)	国際金融論 I (International finance theory I)		
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	国際金融論とは、「国境を超える金融」をめぐる議論です。金融論の国際版であるとともに、国際経済学の金融領域でもあります。国際化が飛躍的に進展した今日、様々な経済分析において、国際金融論の知識や視点が必要不可欠になります。国際金融論は様々な議論から構成されますが、本講義では、外国為替論を取り上げます。国際金融のイメージを鮮明にする第1歩となります。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義レジュメを使い、外国為替の諸概念を解説します。金融論を学習していることが望ましいですが、前提ではありません。		
成績評価方法	出席などの取り組み姿勢 (40%)、定期試験 (60%)。		
基準	なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。		
授業の予習・復習	予習：参考文献を中心に行ってください。 復習：講義ノートを中心に行ってください。		
教科書	教科書は指定しません。プリントを配布します。		
参考文献	桜井錠治郎『国際金融の基礎知識』中央経済社 経済法令研究会編『外国為替入門』経済法令研究会 この他、講義の中で随時紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	授業の方針など	
第2回	外国為替のしくみと形態 1	外国為替のしくみ・諸形態	
第3回	外国為替のしくみと形態 2	荷為替信用状取引	
第4回	外国為替のしくみと形態 3	輸入実務に見る決済の具体例	
第5回	外国為替市場 1	外国為替市場のすがた	
第6回	外国為替市場 2	世界の主要為替市場 - BIS 統計を中心に	
第7回	外国為替市場 3	中央銀行の市場介入	
第8回	外国為替相場 1	直物為替相場と先物為替相場	
第9回	外国為替相場 2	直先スプレッドの計算	
第10回	外国為替相場 3	銀行間相場と対顧客相場	
第11回	記事読解 1	外国為替関連記事の読み込み	
第12回	記事読解 2	外国為替関連記事の読み込み	
第13回	為替リスクの回避策 1	デリバティブのしくみ、多国籍企業の実例	
第14回	為替リスクの回避策 2	通貨オプション	
第15回	まとめ	授業内容のまとめ	



# 経済

授業番号	B201320001				
科目名 (英語表記)	国際金融論 II (International finance theory II)				
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	原則として「国際金融論 I」の履修者を対象に、国際収支分析と国際通貨制度を取り上げ、解説します。国際金融に関する現実の問題を論理的に考察する力を養います。また、より専門的な国際金融論を勉強するための足がかりを作ります。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義レジュメを使います。金融論を学習していることが望ましいですが、前提ではありません。				
成績評価方法	出席などの取り組み姿勢 (40%)、定期試験 (60%)。				
基準	なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。				
授業の予習・復習	予習：参考文献を中心に行ってください。 復習：講義ノートを中心に行ってください。				
教科書	教科書は使用しません。プリントを配布します。				
参考文献	桜井錠治郎『国際金融の基礎知識』中央経済社 経済法令研究会編『外国為替入門』経済法令研究会 この他、講義の中で随時紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の方針など			
第 2 回	国際収支の概念としくみ 1	国際収支とは何か、各収支項目の内容と関係			
第 3 回	国際収支の概念としくみ 2	経常収支と IS 理論、国際収支発展段階説など			
第 4 回	国際収支と為替相場の関係	為替相場の貿易収支調整機能、弾力性アプローチ			
第 5 回	為替相場の決定理論	古典的学説、近代理論			
第 6 回	国際通貨制度のしくみと評価	国際通貨 (制度)、国際通貨発行国の便益と負担			
第 7 回	国際通貨制度の変遷 1	国際金本位制			
第 8 回	国際通貨制度の変遷 2	国際金為替本位制			
第 9 回	国際通貨制度の変遷 3	ブレトンウッズ体制			
第 10 回	国際通貨制度の変遷 4	変動相場制			
第 11 回	ヨーロッパの通貨統合 1	経済統合から通貨統合へ、EMS			
第 12 回	ヨーロッパの通貨統合 2	単一通貨ユーロの誕生			
第 13 回	アジア共通通貨	円の国際化、アジア共通通貨構想			
第 14 回	記事読解	国際収支・国際通貨制度関連記事の読み込み			
第 15 回	まとめ	授業内容のまとめ			

# 経済

授業番号	B202370001		
科目名 (英語表記)	国際経営論 (International management theory)		
担当者 (英語表記)	長島 芳枝 (Yoshie Nagashima)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	国際経営の理解にあたっては、国際的な政治・経済環境や、企業の競争戦略、経営管理手法といった多様な課題の検討が必要となる。本講義の目的の一つに、履修者が多国籍企業及び企業を取り巻く環境に興味を持つようになることがある。また、国際経営に関わる基礎知識を習得したうえで、次のステップに進む準備とすることを目指す。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式でパワー・ポイントを利用して説明する。事例考察ではグローバルに事業展開する多国籍企業を対象とした映像教材も活用する。		
成績評価方法	定期試験 (40%)・小テスト・レポート (30%)・授業参加態度 (30%) の割合で成績を評価する。小テストは講義時間中に行う。レポートは事例考察にあたって作成する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：授業で紹介する参考文献や資料を読むこと。 復習：復習は配布資料を中心に行ない、講義内容を理解したか確認する。尚、本講義では復習が重要となる。		
教科書	教科書は特に使用せず、講義資料を配布する。		
参考文献	江夏健一・太田正孝・藤井健編『国際ビジネス入門』中央経済社、2008年 江夏健一・桑名義晴・IBI 国際ビジネス研究センター著『新版 理論とケースで学ぶ国際ビジネス』同文館出版、2006年		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	講義計画、成績評価基準の説明および教材の紹介	
第2回	国際経営を取り巻く環境	グローバル経済と企業活動	
第3回	多国籍企業とは	多国籍企業の定義と特徴	
第4回	先進国の多国籍企業	様々な分野における代表的な多国籍企業	
第5回	新興国市場の発展	事例考察	
第6回	国際経営分野の諸理論	国際経営の変遷と理論	
第7回	非製造業のグローバル展開	サービス企業によるグローバルな事業展開	
第8回	小テスト	習得度の確認	
第9回	グローバルマーケティング	マーケティングの理論と実践	
第10回	グローバル M&A	多国籍企業の買収統合活動	
第11回	海外生産と技能の国際移転①	事例考察	
第12回	海外生産と技能の国際移転②	国際的な生産活動の特徴	
第13回	国際経営組織と異文化経営	多国籍企業の組織モデルと人的資源管理	
第14回	国際ビジネスコミュニケーション	ビジネスコミュニケーションの異文化事例と認識ギャップ	
第15回	まとめ	全講義内容の主要な点について復習する。	

# 経済

授業番号	B200990001				
科目名 (英語表記)	国際経済論 I (International economy theory I)				
担当者 (英語表記)	土井 修 (Osamu Doi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	国際経済に関する基礎知識の習得を目的として、貿易、投資、移民、国際収支、国際通貨等に関する基礎理論および現状を説明します。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書は使用せず、プリントと板書によって授業を進めますので、ノートをきちんととることが大切です。				
成績評価方法	試験結果を中心としつつも、授業参加態度も加味します。				
基準					
授業の予習・復習	復習については、ノートを再度チェックし、理解を深めてください。予習については、参考書や新聞における国際経済関連記事を読むようにしてください。				
教科書	使用しません。				
参考文献	西川潤「世界経済入門」(岩波書店) 楊井克己「概説国際経済論」(東大出版会) 財経詳報社編「図説国際金融」(財経詳報社) 関下稔「現代世界経済論」(有斐閣)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	序論	国際経済研究動向			
第 2 回	国際収支	国際収支構造と経済発展			
第 3 回	国際収支	アメリカ経済と国際収支			
第 4 回	国際収支	日本経済と国際収支			
第 5 回	貿易	リカードの比較生産費説			
第 6 回	貿易	最近の世界の貿易動向			
第 7 回	貿易	最近の日本の貿易動向			
第 8 回	国際投資	資本輸出入に関する基礎理論			
第 9 回	国際投資	対外証券投資の理論と動向			
第 10 回	国際投資	対外直接投資の理論と類型			
第 11 回	国際投資	対外貸付投資の理論と動向			
第 12 回	国際通貨	国際通貨体制の変遷			
第 13 回	国際通貨	外国為替相場の仕組みとその変動要因			
第 14 回	国際労働力移動	移民・出稼ぎ労働者の経済的意義			
第 15 回	まとめ	授業の総括と質疑応答			

# 経済

授業番号	B201000001				
科目名 (英語表記)	国際経済論 II (International economy theory II)				
担当者 (英語表記)	土井 修 (Osamu Doi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義では、「国際経済論 I」の講義を踏まえて、国際経済の歴史的発展過程および現代国際経済の構造について説明します。歴史的発展過程については、15世紀末以降第二次世界大戦に至るまでの国際経済の生成・確立・発展・解体過程を概説し、現代国際経済については、第二次大戦以降現在に至るまでの国際経済を概観した後、その中における重要なテーマをいくつか取り上げ、それらを詳細に検討します。なお、貿易、国際投資、国際労働力移動、国際収支、国際通貨等に関する理論については、必要に応じて説明します。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書は使用せず、プリントや板書によって授業を進めますので、ノートをきちんととることが大切です。「国際経済論 I」を履修していることが望ましい。				
成績評価方法	試験結果を中心としつつも、授業参加態度も加味する。				
基準					
授業の予習・復習	復習については、ノートを再度チェックし理解を深めてください。予習については、参考書を読んでください。				
教科書	使用しません。				
参考文献	西川潤「世界経済入門」(岩波書店)、楊井克己「概説国際経済論」(東大出版会)、関下稔「現代世界経済論」(有斐閣ブックス)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	序論	国際経済学研究動向			
第 2 回	国際経済の確立	アメリカ・ヨーロッパ・東洋間貿易			
第 3 回	国際経済の確立	イギリスの対外経済政策と国際分業構造			
第 4 回	国際経済の発展	ドイツ、アメリカの台頭と国際経済構造の変容			
第 5 回	国際経済の発展	第一次大戦とアメリカ			
第 6 回	国際経済の発展	1920 年代の国際経済構造			
第 7 回	国際経済の解体	アメリカの 1929 年恐慌			
第 8 回	国際経済の解体	世界不況とブロック経済の形成			
第 9 回	現代国際経済	ドル体制の成立 (IMF=GATT 体制)			
第 10 回	現代国際経済	EU の成立と発展			
第 11 回	現代国際経済	「南北問題」の登場			
第 12 回	現代国際経済	アメリカ経済の衰退と日・欧の台頭			
第 13 回	現代国際経済	グローバル化の進展と多国籍企業の展開			
第 14 回	現代国際経済	中国の台頭と国際経済の再編成			
第 15 回	まとめ	授業の総括と質疑応答			

経済

授業番号	B202390001		
科目名 (英語表記)	国際法 I (International law I)		
担当者 (英語表記)	庄司 真理子 (Mariko Shoji)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	法とは何か? 法 の概念と歴史などの視点を織り込みつつ、法のなかでも国際法に焦点をあてて考察します。国際法とは何か? 国際法はどのような形をした法律であるか? などの観点から考察を深めていきます。次に国際法の主体、特に国家についてどのように捉えているかを考察します。最後に、外交関係と国際法の関連についても言及します。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式で進めます。講義への参加度、各自が自分で主体的にものを考えているかを確認しながらすすめます。		
成績評価方法	講義の参加態度 40%、中間のテスト 30%、期末試験 30%		
基準			
授業の予習・復習	予習としては、講義予定の箇所の教科書を読んできて下さい。基本的に授業中が勝負です。授業に真剣に取り組んで欲しいと思います。復習としては、講義ノート、配布資料、教科書を中心に行ってください。		
教科書	中谷・河野・山本・植木・森田著『国際法』有斐閣アルマ		
参考文献	奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。 門広・船尾・降矢・松田『INVITATION 法律学入門』不磨書房。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	授業のガイダンス	この授業の内容を概観する	
第 2 回	法源論の基本的考察	法とは何か?	
第 3 回	国際法とは何か	国際法の法源について考察します。	
第 4 回	条約 I	成文法としての条約について、条約の定義について学ぶ	
第 5 回	条約 II	条約の成立プロセス、留保などを学ぶ。	
第 6 回	国際慣習法	不文法としての国際慣習法: 国際慣習法について学ぶ	
第 7 回	国際法の主体	国際社会の多様なアクター	
第 8 回	中間まとめ	中間のテストをする	
第 9 回	国家	国家をめぐる国際法上の諸問題、国家承認論	
第 10 回	承認論	政府承認論、交戦団体の承認	
第 11 回	国家承継論	外国承継について学ぶ	
第 12 回	国家と国際関係	外交使節と領事: 外交使節、外交特権	
第 13 回	領事について	その職務内容は何か。外交特権、領事特権	
第 14 回	主権、平等、国内事項不干涉	国家主権、平等、国内事項不干涉	
第 15 回	まとめ	国際法学について習得した知識を確認します。	

# 経済

授業番号	B202400001				
科目名 (英語表記)	国際法 II (International law II)				
担当者 (英語表記)	庄司 真理子 (Mariko Shoji)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	基礎的な国際法の知識に加えて、国際法学をひととおり勉強することを目指します。まずは国際責任と紛争の解決、裁判について学びます。次に、国際法と領域について、陸・海・空さらに時間があれば宇宙空間についても学びます。公務員試験および教員採用試験などにも役立つように講義を進めます。				
授業の進め方 (履修条件など)	国際法 I をすでに履修した学生のみを対象とする。 公務員試験、教員採用試験などを念頭において履修する学生も多いため、すでに国際法の基礎的な内容を習得しているものを対象として講義をすすめる。				
成績評価方法	授業の参加態度 40%、中間のテスト 30%、期末試験 30%				
基準					
授業の予習・復習	教科書を中心に予習をしてきてください。講義のあとで、講義ノート、配布資料、教科書をみながら復習してください。				
教科書	中谷・河野・山本・植木・森田著『国際法』有斐閣アルマ				
参考文献	奥脇直也『国際条約集』有斐閣				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	国際紛争の法的解決と地的管轄権			
第 2 回	国際紛争の法的解決 I	国際責任 I 中心的帰属と周辺の帰属			
第 3 回	国際紛争の法的解決 II	国際責任 II 外交的保護権			
第 4 回	国際紛争の法的解決 III	国際責任 III コンセッションの破棄 カルボー条項			
第 5 回	国際紛争の法的解決 IV	第三者の仲介と法的解決、平和的解決、仲裁裁判			
第 6 回	国際紛争の法的解決 V	国際司法裁判所 選択条項受託宣言 勧告的意見			
第 7 回	中間まとめ	中間テストを行う			
第 8 回	海の国際法 I	海の法秩序			
第 9 回	海の国際法 II	領海の幅 公海自由の原則			
第 10 回	海の国際法 III	接続水域・排他的経済水域をめぐる諸問題			
第 11 回	海の国際法 V	国際河川 国際海峡をめぐる諸問題			
第 12 回	海の国際法 VI	海底の秩序			
第 13 回	南極	南極について学ぶ			
第 14 回	空と宇宙の国際法	領空と宇宙について学ぶ			
第 15 回	まとめ	国際法学について習得した知識を確認します。			

# 経済

授業番号	B202580001				
科目名 (英語表記)	サービス産業論 (Service-industries theory)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	サービス産業は日本経済において大きなウェイトを占めています。本講義では、戦後日本経済においてみられた産業構造の変化を概観しながら、サービス産業の成長と現状、その課題について学びます。また、サービスにかかわるマーケティングについての理解を深めます。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式で理論とケースを学びます。パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で講義し、必要に応じて、ケース・スタディのためのビデオ教材を用います。				
成績評価方法	中間レポート (40%)、定期試験 (60%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の進行に合わせ参考文献を読んでおくことをおすすめします。 復習：前回の講義資料を再読しておくことをおすすめします。				
教科書	特にありません。毎回必要な資料を作成し講義します。				
参考文献	飯盛信男『構造改革とサービス産業』青木書店、2007年。 山本昭二『サービス・マーケティング入門』日本経済新聞出版社、2007年。 伊藤宗彦・高室裕史編著『1からのサービス経営』碩学舎、2010年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方についての説明			
第2回	イントロダクション	サービス産業とは			
第3回	イントロダクション	経済のサービス化で変わるビジネスと消費者			
第4回	産業構造の変化	産業構造からみた戦後日本経済の変遷			
第5回	産業構造の変化	構造改革のもとでの産業構造の変化			
第6回	サービス産業の展開	サービス産業の新たな展開			
第7回	サービス産業の展開	日本経済におけるサービス産業の役割			
第8回	サービス産業の展開	地域サービス産業の展開			
第9回	サービス・マーケティング	サービス・マーケティングとは			
第10回	県庁担当者による講義	地域と連携した商店街の活性化			
第11回	サービス・マーケティング	サービス品質の考え方			
第12回	サービス・マーケティング	サービス商品のプロモーション			
第13回	サービス・マーケティング	サービス・エンカウンター管理			
第14回	サービス・マーケティング	インターナル・マーケティング			
第15回	サービス・マーケティング	リレーションシップ・マーケティング			

# 経済

授業番号	B200950001				
科目名 (英語表記)	財政学 I (Public Finance I)				
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	現在、わが国の財政がどのような状況にあるか、どのような課題を抱えているのかを知ることがねらいである。また、課題に対する処方箋についても考えたい。財政学 I では、財政の役割、予算の意義を確認した上で、歳入面に注目して、わが国の税制の現状と課題を学ぶ。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回レジュメを配布し、スライドを示して解説しながら進める。受講者はノートを用意して、重要だと思った話をメモすることが望ましい。毎回出席を取る。また、数回小レポートを課す。				
成績評価方法	期末試験の点数を基本に、聴講態度、小レポートの内容を踏まえて評価する。				
基準					
授業の予習・復習	配布したレジュメを整理して保管すること。新聞等で財政・税制関連のニュースをフォローすること。				
教科書	特定のテキストは使用しない。適宜プリントを配布する。				
参考文献	神野直彦『財政学 (改訂版)』有斐閣 諏訪園健司『図説日本の税制 (平成 24 年度版)』財経詳報社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	この講義の概要と評価方法の説明			
第 2 回	財政の役割 1	財政の意義、役割			
第 3 回	財政の役割 2	財政の仕組み、特徴			
第 4 回	予算の意義と制度 1	予算の意義			
第 5 回	予算の意義と制度 2	予算原則			
第 6 回	予算の意義と制度 3	予算の内容と形式、予算過程			
第 7 回	前半のまとめ	前半の内容の確認、質疑、小テスト			
第 8 回	租税の基礎 1	政府の歳入と租税			
第 9 回	租税の基礎 2	課税の根拠・目的、租税原則			
第 10 回	租税の基礎 3	租税の分類と体系			
第 11 回	所得税 1	租税の生成と人税			
第 12 回	所得税 2	所得税の発生経路、所得概念			
第 13 回	所得税 3	所得税の仕組み			
第 14 回	所得税 4	所得税の課題			
第 15 回	まとめ	前期の授業内容のまとめ、質疑応答			



# 経済

授業番号	B200960001		
科目名 (英語表記)	財政学 II (Public Finance II)		
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	現在、わが国の財政がどのような状況にあるか、どのような課題を抱えているのかを知ることがねらいである。また、課題に対する処方箋についても考えたい。財政学 II では、前期に続いて歳入面 (消費課税、資産課税、公債金収入) に注目した後、歳出面にも目を向け、わが国の財政の現状と課題を学ぶ。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎回レジュメを配布し、スライドを示して解説しながら進める。受講者はノートを用意して、重要だと思った話をメモすることが望ましい。毎回出席を取る。また、数回小レポートを課す。		
成績評価方法	期末試験の点数を基本に、聴講態度、小レポートの内容を踏まえて評価する。		
基準			
授業の予習・復習	配布したレジュメを整理して保管すること。新聞等で財政・税制関連のニュースをフォローすること。		
教科書	特定の教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。		
参考文献	『図説日本の税制 (平成 25 年度版)』 財経詳報社 『図説日本の財政 (平成 25 年度版)』 東洋経済新報社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	この講義の概要と評価方法の説明、前期試験の解説	
第 2 回	法人税 1	法人税の意義、生成経路	
第 3 回	法人税 2	法人税の仕組み、現状と課題	
第 4 回	消費課税 1	消費税 (付加価値税) の体系、個別消費税	
第 5 回	消費課税 2	個別消費税の転嫁と帰着、一般消費税の誕生と発展	
第 6 回	消費課税 3	消費税 (付加価値税) の誕生、付加価値の計算方式	
第 7 回	消費課税 4	付加価値税の計算方式、付加価値税の現状と課題	
第 8 回	公債金収入 1	公債の意義・種類、公債原則	
第 9 回	公債金収入 2	公債負担転嫁論	
第 10 回	公債金収入 3	IS-LM モデルとクラウディングアウト	
第 11 回	公債金収入 4	公債管理政策、公債発行のこれまでの歩み・現状・課題	
第 12 回	公共財の理論 1	公共財の理論、無償のサービス供給	
第 13 回	公共財の理論 2	公共財の最適供給量の決定	
第 14 回	公共支出の現状と課題	公共支出の分類と体系、公共支出の現状と課題	
第 15 回	まとめ	後期の授業のまとめ、質疑応答	

# 経済

授業番号	B202090001		
科目名 (英語表記)	産業論 I (Industrial theory I)		
担当者 (英語表記)	森谷 英樹 (Hideki Moriya)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	産業および企業活動を観察して興味を持ち、自分の人生にプラスになる多くの智恵を得ることが目的である。誤解をおそれずにあえて言うならば、楽しんで得するには、何を勉強して何になるのがいいか、知ることである。		
授業の進め方 (履修条件など)	板書と説明をノートにとりまとめる形で進める。教科書はないが随時プリントを配布して教材にする。基礎的な常識 (理論)、過去の経験 (歴史的な事実)、現状と問題点 (政策課題) など分かりやすく説明する。		
成績評価方法	定期試験 90%、出席 10%		
基準	試験では自筆ノートのみ持ち込み可。ノートがなければ合格は困難であろう。		
授業の予習・復習	授業の始めに前回の復習をする。		
教科書	使用しない。		
参考文献	南亮進『日本の経済発展』東洋経済新報社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	授業の概要と目標	講義の聞き方、ノートのとり方、まとめ方	
第 2 回	産業とは何か、企業とは何か?	付加価値のひみつ、珈琲一杯の価格	
第 3 回	企業行動	市場・価格・原価、企業の目的	
第 4 回	損益分岐点 (1)	固定費と変動費、費用と収益の関係	
第 5 回	損益分岐点 (2)	損益分岐点を計算する	
第 6 回	規模の経済性、外部経済	大量生産・大量販売	
第 7 回	企業成長論	競争と比較優位、企業戦略、輸出戦略	
第 8 回	近代経済成長論	日本の成功は何故か	
第 9 回	日本の産業化の経験から	初期の近代化・産業政策とその評価	
第 10 回	セットアップコスト論	産業政策と貿易立国、幼稚産業育成論	
第 11 回	経済成長論	付加価値生産性と賃金、成長政策論	
第 12 回	乗用車産業論	産業政策と経営者、新規参入	
第 13 回	ケーススタディ (1)	事例研究とその要点	
第 14 回	ケーススタディ (2)	事例研究とその要点	
第 15 回	試験対策	復習	

# 経済

授業番号	B202100001		
科目名 (英語表記)	産業論 II (Industrial theory II)		
担当者 (英語表記)	森谷 英樹 (Hideki Moriya)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	産業および企業活動を観察して興味を持ち、自分の人生にプラスになる多くの智恵や手かがりを得てほしい。講義の前半は公的規制をめぐる問題を取り扱い、後半は国際化するアジア、日本、米国の産業について取り扱う。		
授業の進め方 (履修条件など)	板書と説明をノートにとりまとめる形で進める。教科書はないが随時プリントを配布して教材にする。基礎的な常識 (理論)、過去の経験 (歴史的な事実)、現状と問題点 (政策課題) など分かりやすく説明する。		
成績評価方法	定期試験 90%、出席 10%		
基準	試験では自筆ノートのみ持ち込み可。ノートがなければ合格は困難であろう。		
授業の予習・復習	予習：授業の始めに前回の復習をする。 復習：終わったあと分からないことについて質問を認める。		
教科書	使用しない		
参考文献	植草益『公約規制の経済学』筑摩書房		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	授業の概要と目標	講義の聞き方、ノートのとおり方、まとめ方	
第 2 回	公的規制の経済学	ルールと裁量、自由と責任	
第 3 回	市場の失敗	政府の規制とその根拠、目標	
第 4 回	規制の目標と現実	参入規制、価格規制をめぐる議論	
第 5 回	規制緩和論と事例研究	電力、鉄道、水道、政策としての問題	
第 6 回	総括原価主義と問題点	特定都市鉄道整備積立金制度	
第 7 回	中間とりまとめ	規制緩和論について (事例研究と要点)	
第 8 回	産業育成と外国貿易	貿易立国は可能か	
第 9 回	世界最適調達	JC ペニーの事例	
第 10 回	技術知識と公共財的性格	外部経済と市場指向の製品戦略	
第 11 回	経済成長と工業の発展	雁行形態論、空洞化論	
第 12 回	産業内貿易と国際分業	付加価値を求めて	
第 13 回	ケーススタディ (1)	事例研究とその要点	
第 14 回	ケーススタディ (2)	事例研究とその要点	
第 15 回	試験対策	復習	

# 経済

授業番号	B200340001				
科目名 (英語表記)	時事英語 III (Current English I I I)				
担当者 (英語表記)	内野 泰子 (Yasuko Uchino)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	グローバル化が進む中、世界で起こっている色々な出来事の多くは私たちの生活と密接に関連しています。このクラスでは、テレビ、インターネット、新聞などで報じられた最新の英語ニュースをフォローして英語の基礎力アップをはかるとともに、私たちをとりまく様々な出来事や問題への関心を深め、世界に向けて視野を広げていきましょう。				
授業の進め方 (履修条件など)	様々な分野の平易な最新英語ニュースをとりあげ、時事英語の特徴や時事英語でよく使われる表現を学習し、時事英語理解の基礎力を固めます。また、ニュースの背景情報を知るため、日本語のニュース記事資料も適宜配布し、時事問題についての理解も一緒に深めていきましょう。平易なテレビ・ニュースを使ってリスニング活動も行います。なじみやすいトピックから始めます。				
成績評価方法	平常点 50 パーセント、期末テスト 50 パーセントで評価します。				
基準					
授業の予習・復習	授業内で指示しますので、指示に必ず従って次の授業にのぞんで下さい。				
教科書	最新英語ニュースの配布プリント (教科書は使いません。)				
参考文献	必要に応じて授業内で指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	導入	時事英語とは？			
第 2 回	トピック 1-1 (身近な話題)	スポーツ・エンタメ			
第 3 回	トピック 1-2 (身近な話題)	スポーツ・エンタメ			
第 4 回	トピック 2-1 (自然をめぐるニュース)	天気・天候・災害			
第 5 回	トピック 2-2 (自然をめぐるニュース)	天気・天候・災害			
第 6 回	トピック 3-1 (事件・事故をめぐるニュース)	最近話題になった事件			
第 7 回	トピック 3-2 (事件・事故をめぐるニュース)	最近話題となった事故			
第 8 回	トピック 4-1 (環境・社会問題をめぐるニュース)	環境汚染・エネルギー問題など			
第 9 回	トピック 4-2 (環境・社会問題をめぐるニュース)	高齢化社会、就職事情など			
第 10 回	トピック 5-1 (国内政治ニュース)	安倍新政権発足など			
第 11 回	トピック 5-2 (国内経済ニュース)	最新動向			
第 12 回	トピック 6-1 (国際政治ニュース)	米国・欧州・中国などをめぐる最新事情			
第 13 回	トピック 6-2 (国際経済ニュース)	国際貿易、国際金融などをめぐる最新動向			
第 14 回	トピック 7-1	その他			
第 15 回	トピック 7-2	その他、まとめ			

# 経済

授業番号	B200350001				
科目名 (英語表記)	時事英語 IV (Current English I V)				
担当者 (英語表記)	内野 泰子 (Yasuko Uchino)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	グローバル化が進む中、世界で起こっている色々な出来事の多くは私たちの生活と密接に関連しています。このクラスでは、テレビ、インターネット、新聞などで報じられた最新の英語ニュースをフォローして英語の基礎力アップをはかるとともに、私たちがとりまく様々な出来事や問題への関心を深め、世界に向けて視野を広げていきましょう。				
授業の進め方 (履修条件など)	様々な分野の平易な最新英語ニュースをとりあげ、時事英語の特徴や時事英語でよく使われる表現を学習し、時事英語理解の基礎力を固めます。また、ニュースの背景情報を知るため、日本語のニュース記事資料も適宜配布し、時事問題についての理解も一緒に深めていきましょう。平易なテレビ・ニュースを使ってリスニング活動も行います。				
成績評価方法	平常点 50 パーセント、期末テスト 50 パーセントで評価します。				
基準					
授業の予習・復習	授業内で指示しますので、指示に必ず従って次の授業にのぞんで下さい。				
教科書	最新英語ニュースの配布プリント (教科書は使いません。)				
参考文献	必要に応じて授業内で指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	導入	夏休み中の重大ニュース			
第 2 回	トピック 1-1 (ビジネス・ニュース)	日本企業の動向			
第 3 回	トピック 1-2 (ビジネス・ニュース)	日本企業の海外事業など			
第 4 回	トピック 2-1 (政治・経済ニュース)	最新動向			
第 5 回	トピック 2-2 (政治・経済ニュース)	最新動向			
第 6 回	トピック 3-1 (スポーツ・エンタメ・ニュース)	スポーツのビッグ・イベント			
第 7 回	トピック 3-2 (スポーツ・エンタメ・ニュース)	最新エンタメ情報			
第 8 回	トピック 4-1 (環境・社会問題)	原発動向など			
第 9 回	トピック 4-2 (環境・社会問題)	雇用情勢、食糧事情など			
第 10 回	トピック 5-1 (サイエンス関連)	宇宙・科学・医療の最新動向			
第 11 回	トピック 5-2 (サイエンス関連)	宇宙・科学・医療の最新動向			
第 12 回	トピック 6-1 (事件・事故・災害)	最新情報			
第 13 回	トピック 6-2 (事件・事故・災害)	最新情報			
第 14 回	トピック 7-1	その他			
第 15 回	トピック 7-2	その他、まとめ			

# 経済

授業番号	B200570001		
科目名 (英語表記)	自然地理学 I (Physical geography I)		
担当者 (英語表記)	近藤 昭彦 (Akihiko Kondoh)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	自然地理学は“人と自然の関係”を扱う学問分野です。地形学、気候学、水文学、生態学を中心に自然のあり方と生活との関係を、日本と世界各地の事例を通じて学びます。前期は主に地形学に関する内容を解説します。講義を通じて環境の多様性、関連性、空間性、歴史性、階層性を認識する力を身につけることを目標とします。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書に沿って講義を進めますが、様々な地域の景観を観察するためプロジェクトを使って画像・写真も紹介します。発展的内容、関連情報も示しながら自然と人の関わりの総合的な理解を目指します。		
成績評価方法	定期試験の成績と授業参加態度を勘案して評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：基本は教科書を良く読むこと。 復習：教科書にない内容はノートで復習すること。関連する情報を様々な情報源から取得する習慣を身につけること。		
教科書	古今書院、杉谷・平井・松本著、風景の中の自然地理。		
参考文献	高橋日出男・小泉武栄編著「自然地理学概論」、朝倉書店、173p。 その他、講義中にその都度指示します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	講義概要概説	自然環境の仕組みについて概説する。	
第 2 回	火山 I	日本の風土を形成する火山と人間の関わり (前半)。	
第 3 回	火山 II	日本の風土を形成する火山と人間の関わり (後半)。	
第 4 回	山と川 I	地形を形成するプロセスと人間の関わり (前半)。	
第 5 回	山と川 II	地形を形成するプロセスと人間の関わり (後半)。	
第 6 回	台地と丘陵 I	暮らしと関わりの深い地形の性質 (前半)。	
第 7 回	台地と丘陵 II	暮らしと関わりの深い地形の性質 (後半)。	
第 8 回	平野 I	人間活動の主要な場である平野の性質 (前半)。	
第 9 回	平野 II	人間活動の主要な場である平野の性質 (後半)。	
第 10 回	湖沼 I	湖沼の成因と人間による改変 (前半)。	
第 11 回	湖沼 II	湖沼の成因と人間による改変 (後半)。	
第 12 回	海岸 I	海岸地形の成因と人間による改変 (前半)。	
第 13 回	海岸 II	海岸地形の成因と人間による改変 (後半)。	
第 14 回	日本の地形 I	これまでに学んだ地形を日本各地の空中写真により判読 (前半)。	
第 15 回	日本の地形 II	これまでに学んだ地形を日本各地の空中写真により判読 (後半)。	

経済

授業番号	B200580001				
科目名 (英語表記)	自然地理学 II (Physical geography II)				
担当者 (英語表記)	近藤 昭彦 (Akihiko Kondoh)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	自然地理学は“人と自然の関係”を扱う学問分野です。地形学、気候学、水文学、生態学を中心に自然のあり方と生活との関係を、日本と世界各地の事例を通じて学びます。後期は気候・植生および災害について解説します。講義を通じて環境の多様性、関連性、空間性、歴史性、階層性を認識する力を身につけることを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書と配付資料に沿って講義を進めますが、プロジェクタを使って様々な画像・写真をみながら発展的内容、関連情報を紹介します。自然と人の関わりを理解し、自然の恵みを楽しむ態度の習得を目指します。				
成績評価方法	定期試験の成績と授業参加態度を勘案して評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：基本は教科書を良く読むこと。 復習：教科書にない内容はノートで復習すること。関連する情報を様々な情報源から取得する習慣を身につけること。				
教科書	今書院、杉谷・平井・松本著、風景の中の自然地理。				
参考文献	高橋日出男・小泉武栄編著「自然地理学概論」、朝倉書店、173p。 その他、講義中にその都度指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義概要概説	自然環境と人間の関わりについて概説する。			
第 2 回	森林と人間 I	森林の景観の形成と人との関わり (前半)。			
第 3 回	森林と人間 II	森林の景観の形成と人との関わり (後半)。			
第 4 回	水と森林 I	人の暮らしに関わる森林の機能 (前半)。			
第 5 回	水と森林 II	人の暮らしに関わる森林の機能 (後半)。			
第 6 回	沙漠と沙漠化	乾燥・半乾燥地域の環境と人間の関係。			
第 7 回	気象・気候と人間 I	気象・気候がもたらす恵みと災いについて (前半)。			
第 8 回	気象・気候と人間 II	気象・気候がもたらす恵みと災いについて (後半)。			
第 9 回	自然災害 I	低地の災害－水害。			
第 10 回	自然災害 II	山地の災害－地すべり、土石流。			
第 11 回	自然災害 III	地震・津波災害。			
第 12 回	自然災害 IV	火山災害。			
第 13 回	自然災害 V	その他の災害。			
第 14 回	地球温暖化と人間 I	気候変動と人の暮らし。			
第 15 回	地球温暖化と人間 II	食糧・水・エネルギー問題と地球温暖化。			

経済

授業番号	B200610001		
科目名 (英語表記)	実践会話 I (Practice conversation I)	(B)	
担当者 (英語表記)	斉木 かおり (Kaori Saiki)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	日常の会話表現を豊かにし、自分の考え、意見を相手に分かりやすく伝えられるようにする。社会や周辺の出来事に目を向け、たくさんの言葉や情報に触れ、自分らしい表現で会話できるようにする。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義だけではなく、ロールプレイ、会話、スピーチなど実践中心の授業です。演習形式で、コミュニケーションスキルを楽しく身につけていきます。		
成績評価方法	発表内容及びスピーチ、授業への取り組みで評価。積極的な参加、意欲的な発表を重視します。		
基準			
授業の予習・復習	授業に応じてテーマを考えたり 資料を集めたりするなど、課題が出る場合があります。		
教科書	講義ごとに、雑誌、写真、新聞など身近なものを使用。 また プリントをワークシートとして配布。		
参考文献	特になし		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、コミュニケーションの大切さ	
第 2 回	声を出そう	聞きやすい声とは？発声、滑舌トレーニング	
第 3 回	会話術	話し言葉と書き言葉の違いは？	
第 4 回	インタビュー	言葉のキャッチボール インタビューの極意を学ぶ	
第 5 回	実践会話術 I	わかりやすく話すために必要なことは	
第 6 回	実践会話術 II	言葉の持つ力、時間感覚をさぐる。	
第 7 回	実践会話術 III	会話の楽しさをゲームを通して身につける。	
第 8 回	情報収集	気になる話題を集め、会話にいかす。	
第 9 回	豊かな表現 I	状況、情景描写にチャレンジ	
第 10 回	豊かな表現 II	比喩を使った表現 キャッチコピーを考える。	
第 11 回	パネルトーク I	写真をもとに、話を広げよう。	
第 12 回	パネルトーク II	パネルを使って、紙芝居のように話を組み立てる。	
第 13 回	グループディスカッション	テーマを決めて討論 賛成反対の意見を主張する	
第 14 回	スピーチ	実践スピーチに挑戦	
第 15 回	前期まとめ	前期の振り返り、質疑応答	



経済

授業番号	B200610002				
科目名 (英語表記)	実践会話 I (Practice conversation I)			(A)	
担当者 (英語表記)	斉木 かおり (Kaori Saiki)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日常の会話表現を豊かにし、自分の考え、意見を相手に分かりやすく伝えられるようにする。社会や周辺の出来事に目を向け、たくさんの言葉や情報に触れ、自分らしい表現で会話できるようにする。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義だけではなく、ロールプレイ、会話、スピーチなど実践中心の授業です。演習形式で、コミュニケーションスキルを楽しく身につけていきます。				
成績評価方法	発表内容及びスピーチ、授業への取り組みで評価。積極的な参加、意欲的な発表を重視します。				
基準					
授業の予習・復習	授業に応じてテーマを考えたり 資料を集めたりするなど、課題が出る場合があります。				
教科書	講義ごとに、雑誌、写真、新聞など身近なものを使用。 また プリントをワークシートとして配布。				
参考文献	特になし				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、コミュニケーションの大切さ			
第 2 回	声を出そう	聞きやすい声とは？発声、滑舌トレーニング			
第 3 回	会話術	話し言葉と書き言葉の違いは？			
第 4 回	インタビュー	言葉のキャッチボール インタビューの極意を学ぶ			
第 5 回	実践会話術 I	わかりやすく話すために必要なことは			
第 6 回	実践会話術 II	言葉の持つ力、時間感覚をさぐる。			
第 7 回	実践会話術 III	会話の楽しさをゲームを通して身につける。			
第 8 回	情報収集	気になる話題を集め、会話にいかす。			
第 9 回	豊かな表現 I	状況、情景描写にチャレンジ			
第 10 回	豊かな表現 II	比喩を使った表現 キャッチコピーを考える。			
第 11 回	パネルトーク I	写真をもとに、話を広げよう。			
第 12 回	パネルトーク II	パネルを使って、紙芝居のように話を組み立てる。			
第 13 回	グループディスカッション	テーマを決めて討論 賛成反対の意見を主張する			
第 14 回	スピーチ	実践スピーチに挑戦			
第 15 回	前期まとめ	前期の振り返り、質疑応答			

経済

授業番号	B200620001		
科目名 (英語表記)	実践会話 II (Practice conversation II)	(A)	
担当者 (英語表記)	斉木 かおり (Kaori Saiki)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	日常の会話表現を豊かにし、自分の考えを相手にわかりやすく伝えることを目指します。コミュニケーション能力を高めることはもちろん、就職活動に役立つ会話術やマナーも習得する。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義だけではなく、ロールプレイ、対話、スピーチなど実践中心の授業です。テーマによっては、小テストもあり、身体全体で自己表現法を習得してもらいます。		
成績評価方法	発表内容及びスピーチ、小テスト、授業への取り組み、積極的な参加を評価します。		
基準			
授業の予習・復習	講義によっては、テーマを考えてくるなどの課題が、またスピーチやレポートの準備が必要です。		
教科書	新聞、雑誌等を使用。プリントを作成し、ワークシートとして配布。		
参考文献	特になし		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	前期のまとめ	自己紹介、前期の振り返り	
第 2 回	スピーチ実践	夏休みの出来事、体験を伝える。	
第 3 回	プレゼンテーション	図表を使って、伝えるおもしろさを習得する。	
第 4 回	敬語 I	敬語の基本を学ぶ	
第 5 回	敬語 II	ロールプレイやプリントワークで実践的に学ぶ。	
第 6 回	敬語 III	小テスト 実践敬語が身についたか確認します。	
第 7 回	グループディスカッション	相手の意見を聞きながらいかに主張するか。	
第 8 回	自己 PR I	自分史を作ってセールスポイントをさがす。	
第 9 回	自己 PR II	実践自己 PR あなたの印象は？	
第 10 回	マナーについて	学生、社会人としてのマナーとは？	
第 11 回	面接実践 I	好印象を持たれるには？	
第 12 回	面接実践 II	模擬面接に挑戦しましょう。	
第 13 回	グループスピーチ	説得力のあるスピーチとは？	
第 14 回	即興スピーチ	今までの力だめし。即興スピーチにチャレンジしましょう。	
第 15 回	後期のまとめ	後期の振り返り、質疑応答	

経済

授業番号	B200620002		
科目名 (英語表記)	実践会話 II (Practice conversation II)	(B)	
担当者 (英語表記)	斉木 かおり (Kaori Saiki)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	日常の会話表現を豊かにし、自分の考えを相手にわかりやすく伝えることを目指します。コミュニケーション能力を高めることはもちろん、就職活動に役立つ会話術やマナーも習得する。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義だけではなく、ロールプレイ、対話、スピーチなど実践中心の授業です。テーマによっては、小テストもあり、身体全体で自己表現法を習得してもらいます。		
成績評価方法	発表内容及びスピーチ、小テスト、授業への取り組み、積極的な参加を評価します。		
基準			
授業の予習・復習	講義によっては、テーマを考えてくるなどの課題が、またスピーチやレポートの準備が必要です。		
教科書	新聞、雑誌等を使用。プリントを作成し、ワークシートとして配布。		
参考文献	特になし		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	前期のまとめ	自己紹介、前期の振り返り	
第 2 回	スピーチ実践	夏休みの出来事、体験を伝える。	
第 3 回	プレゼンテーション	図表を使って、伝えるおもしろさを習得する。	
第 4 回	敬語 I	敬語の基本を学ぶ	
第 5 回	敬語 II	ロールプレイやプリントワークで実践的に学ぶ。	
第 6 回	敬語 III	小テスト 実践敬語が身についたか確認します。	
第 7 回	グループディスカッション	相手の意見を聞きながらいかに主張するか。	
第 8 回	自己 PR I	自分史を作ってセールスポイントをさがす。	
第 9 回	自己 PR II	実践自己 PR あなたの印象は？	
第 10 回	マナーについて	学生、社会人としてのマナーとは？	
第 11 回	面接実践 I	好印象を持たれるには？	
第 12 回	面接実践 II	模擬面接に挑戦しましょう。	
第 13 回	グループスピーチ	説得力のあるスピーチとは？	
第 14 回	即興スピーチ	今までの力だめし。即興スピーチにチャレンジしましょう。	
第 15 回	後期のまとめ	後期の振り返り、質疑応答	

# 経済

授業番号	B200560001				
科目名 (英語表記)	社会学概論 (Sociology introduction)				
担当者 (英語表記)	菊池 真弓 (Mayumi Kikuchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本授業では、社会学的な理論や方法論、社会学の歴史を学ぶことを目的とする。また、新聞や統計・世論調査、ビデオ教材、ロールプレイなどに基づき、現代社会に起こっている社会問題と課題について学び、考え、討論につなげる力をつけることを目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業の進め方は、社会学の理論や方法論、歴史などの基礎を学びながら、私たちの身近な人間関係、集団との関係、現代社会に起こっている少子高齢化、環境、ジェンダーなどの問題とその課題について考え、報告・討論を行う。				
成績評価方法	レポート課題及び口頭発表 (70%)、授業内の課題 (10%)、授業態度 (20%) を総合的に勘案して評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：次回のテーマを事前予告して、資料収集や身近な社会問題に関心をもってもらう。 復習：毎回授業の終了時に授業を振り返り、質問時間を設ける。				
教科書	教科書は使用しない。新聞や統計・世論調査などの資料を必要に応じて配布する。				
参考文献	秋元・石川・羽田・袖井『社会学入門』有斐閣新書, 1991年 森下伸也『社会学がわかる事典』日本実業出版, 2000年				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	社会学とは何か	社会学的な視点・方法			
第2回	社会的存在としての人間	社会集団と文化			
第3回	社会学の歴史	社会学の成立・確立・展開			
第4回	家族とは何か	現代家族の機能・役割とその変化			
第5回	地域社会とは何か	都市と農村の現状と課題、コミュニティ形成			
第6回	社会問題とは何か	社会問題の定義とその捉え方			
第7回	現代社会の社会問題 (1)	少子高齢社会の現状と課題			
第8回	現代社会の社会問題 (2)	環境問題の現状と課題			
第9回	現代社会の社会問題 (3)	社会福祉の現状と課題			
第10回	現代社会の社会問題 (4)	ジェンダーの現状と課題			
第11回	現代社会の社会問題 (5)	災害・復興の現状と課題			
第12回	社会調査・社会計画	社会調査・社会計画について			
第13回	社会問題を考える (1)	報告・討論 (個人・家族・地域の視点から)			
第14回	社会問題を考える (2)	報告・討論 (マクロの視点から)			
第15回	まとめ	全体のまとめと今後の展望			

# 経済

授業番号	B201810001				
科目名 (英語表記)	社会思想史 II (History of Social Thought II)				
担当者 (英語表記)	折原 裕 (Yutaka Orihara)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	ヨーロッパ社会思想史の後半期について理解します。				
授業の進め方 (履修条件など)	市民革命以後の、ヨーロッパ社会思想史の歩みの後半期を概観します。種々の思想家の思想像のみならず、その人物像や、時代背景についても、できる限り触れることにしたいと思います。				
成績評価方法	定期試験 (60%)、授業内小テスト (40%)。				
基準					
授業の予習・復習	予習：分野にこだわらず多くの書物を読んで下さい。 復習：簡単でいいから励行して下さい。				
教科書	市販のテキストは用いず、毎回講義の概要を記載した印刷物「講義メモ」を配布します。これに、講義中の指示などによって学生諸君が適宜書き込みをほどこしたものが、テキスト兼ノートになります。				
参考文献	土屋恵一郎『ベンサムという男』青土社、ナガイ・ケイ『喧嘩屋マルクス』富士書房、上野千鶴子『家父長制と資本制』岩波書店、上野千鶴子『主婦論争を読む』勁草書房 (すべて、メディアセンター所定のコーナーに5冊ずつ常備してあります。)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義ガイダンス	本講義の特徴、成績について等			
第2回	アダム・スミスの思想	スミスの倫理学			
第3回	アダム・スミスの思想	スミスの経済学			
第4回	功利主義	ベンサム			
第5回	功利主義	J・S・ミル			
第6回	小テスト	小テスト			
第7回	初期社会主義	ロバート・オウエン			
第8回	初期社会主義	サン・シモン			
第9回	初期社会主義	シャルル・フーリエ			
第10回	マルクス主義	マルクスの生涯と思想			
第11回	マルクス主義	マルクスの経済学			
第12回	フェミニズム	フェミニズムの諸理論			
第13回	フェミニズム	主婦論争について			
第14回	小テスト	小テスト			
第15回	まとめ	まとめ			

経済

授業番号	B200410001		
科目名 (英語表記)	社会心理学 (Social psychology)		
担当者 (英語表記)	藤井 輝男 (Teruo Fujii)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	対人行動に関連する心理学の研究成果を概観し、人間の行動に対して他者や環境がどのように影響を及ぼしているかを心理学的に理解する。		
授業の進め方 (履修条件など)	具体的な研究例を取り上げ、わかりやすく概説する。その際、必要に応じてプリント、ビデオ、パワーポイント等を利用する。		
成績評価方法	定期試験 (80%)・レポート及びその他の課題 (20%)		
基準			
授業の予習・復習	授業内容をその都度、整理し、理解しておくこと。		
教科書	使用しない。適宜、印刷資料を配付する。		
参考文献	重野純編著「キーワードコレクション・心理学」新曜社		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて	
第2回	動機 (1)	動機の種類について	
第3回	動機 (2)	動機の働きについて	
第4回	動機 (3)	日常生活における動機について	
第5回	感情、表情	シャクターの情動二要因説などを解説	
第6回	性格 (1)	性格の記述方法について	
第7回	性格 (2)	類型論、特性論の解説	
第8回	性格 (3)	測定方法、性格検査について	
第9回	性格 (4)	性格に関するの事例研究の紹介	
第10回	社会と個人	個人が集団からどのように影響を受けるか	
第11回	態度変化 (1)	態度変化はどのような状況で生じるのか	
第12回	態度変化 (2)	説得行動に関する代表的研究の紹介	
第13回	態度変化 (3)	日常生活における説得行動について	
第14回	対人魅力	対人魅力を規定している要因について	
第15回	まとめ	まとめと質問	

# 経済

授業番号	B200930001		
科目名 (英語表記)	社会政策 I (Social policy I)		
担当者 (英語表記)	星 真実 (Masami Hoshi)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	「社会政策」とは、歴史的には労働運動にたいする国家の譲歩策として成立した。そこで、本講義では、労働経済論の概説的意味を含めて、広く労働問題に関わって考察を行う。具体的には、労働時間、賃金、雇用などの各論を概説する。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。		
成績評価方法	授業内小テスト (感想文) と、期末試験により判定する。		
基準			
授業の予習・復習	講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。		
教科書	特に使用しない。		
参考文献	土六文人『社会政策制度史論』啓文社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス	
第 2 回	はじめに	「社会政策」とは何か	
第 3 回	社会政策の制度体系	労働経済と社会保障	
第 4 回	労働問題に関わる社会政策	労働時間用語の多様化	
第 5 回	労働問題に関わる社会政策	労働時間の歴史的推移と規制	
第 6 回	労働問題に関わる社会政策	日本の労働時間問題	
第 7 回	労働問題に関わる社会政策	労働時間と賃金の実態	
第 8 回	労働問題に関わる社会政策	雇用・失業問題	
第 9 回	労働問題に関わる社会政策	雇用情勢の現況	
第 10 回	労働問題に関わる社会政策	フリーターの実態 I	
第 11 回	労働問題に関わる社会政策	フリーターの実態 II	
第 12 回	労働問題に関わる社会政策	フリーターの実態 III	
第 13 回	労働問題に関わる社会政策	「日本の経営」とは何か	
第 14 回	労働問題に関わる社会政策	閉鎖的労働市場について	
第 15 回	おわりに	まとめ	

# 経済

授業番号	B200940001		
科目名 (英語表記)	社会政策 II (Social policy II)		
担当者 (英語表記)	星 真実 (Masami Hoshi)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	「社会政策」とは、現段階では国民生活全般に大きな影響を与える学問である。そこで、本講義では、社会保障論の概論的意味を含めて、広く生活問題に関わって考察を行う。具体的には、労働災害、介護、生活保護、社会福祉などの各論を概説する。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。		
成績評価方法	授業内小テスト (感想文) と、期末試験により判定する。		
基準			
授業の予習・復習	講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。		
教科書	特に使用しない。		
参考文献	土穴文人『社会政策制度史論』啓文社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス	
第 2 回	はじめに	「社会政策」とは何か	
第 3 回	社会政策の制度体系	労働経済と社会保障	
第 4 回	生活問題に関わる社会政策	健康保険	
第 5 回	生活問題に関わる社会政策	公的年金制度	
第 6 回	生活問題に関わる社会政策	労災保険と雇用保険	
第 7 回	生活問題に関わる社会政策	介護保険と要介護認定	
第 8 回	生活問題に関わる社会政策	介護保険の実施実態	
第 9 回	生活問題に関わる社会政策	生活保護とは	
第 10 回	生活問題に関わる社会政策	8 つの法定扶助と児童手当	
第 11 回	生活問題に関わる社会政策	社会福祉とは	
第 12 回	生活問題に関わる社会政策	パートタイマーの実態 I	
第 13 回	生活問題に関わる社会政策	パートタイマーの実態 II	
第 14 回	生活問題に関わる社会政策	不安定就業層について	
第 15 回	おわりに	まとめ	



経済

授業番号	B201130001		
科目名 (英語表記)	社会福祉論 (Social welfare theory)		
担当者 (英語表記)	星 真実 (Masami Hoshi)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	「社会福祉」という学問は限りなく拡大解釈可能であるが、本講義では社会保障制度の一環としての「狭義」の社会福祉について考察する。その歴史的展開過程を辿り、国際比較を交えつつ、生活最低限という視点から分析を行う。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。		
成績評価方法	授業内小テスト (感想文) と、期末試験により判定する。		
基準			
授業の予習・復習	講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。		
教科書	特に使用しない。		
参考文献	寺久保光良 『「福祉」が人を殺すとき』 あけび書房		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	ガイダンス	
第2回	はじめに	「社会福祉論」の学問領域	
第3回	救貧制度史	「エリザベス救貧法」と貧困観	
第4回	救貧制度史	「改正救貧法」と貧困観	
第5回	救貧制度史	公衆衛生について	
第6回	救貧制度史	日本の救貧制度史	
第7回	公的扶助論	生活保護法とは	
第8回	公的扶助論	生活保護をめぐる訴訟・事件Ⅰ	
第9回	公的扶助論	生活保護をめぐる訴訟・事件Ⅱ	
第10回	公的扶助論	生活保護の現況	
第11回	公的扶助論	生活保護と公的年金制度	
第12回	社会福祉の三本柱	高齢者福祉	
第13回	社会福祉の三本柱	障がい者福祉	
第14回	社会福祉の三本柱	児童福祉	
第15回	おわりに	まとめ	

経済

授業番号	B203000001				
科目名 (英語表記)	商業科教材研究 (Department teaching-materials research of commerce)				
担当者 (英語表記)	坂本 義孝 (Yoshitaka Sakamoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	商業科教員としての指導力、実践力の育成を主たる目標とし、各科目の具体的な指導法を身に付けさせる。				
授業の進め方 (履修条件など)	指導計画や学習指導案を実際に作成し、模擬授業をとおして学習指導にかかる計画、実施、評価についての実践力がつくように進める。 なお、「商業科指導法」を履修・修得済であること。				
成績評価方法	レポート提出、平常点、定期試験、その他の小テストの結果を勘案し、評価する。				
基準					
授業の予習・復習	その都度指示する。				
教科書	「高等学校学習指導要領解説商業編」文部科学省				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	学習指導の工夫 (1)	学習指導計画について			
第2回	学習指導の工夫 (2)	指導形態や指導方法について			
第3回	学習指導の工夫 (3)	教科書や副教材について			
第4回	学習指導案 (1)	指導案の意義とその作成方法			
第5回	学習指導案 (2)	模擬授業用指導案の検討			
第6回	模擬授業 (1)	基礎的な科目による			
第7回	模擬授業 (2)	マーケティング分野の科目による			
第8回	模擬授業 (3)	ビジネス経済分野の科目による			
第9回	模擬授業 (4)	会計分野の科目による			
第10回	模擬授業 (5)	ビジネス情報分野の科目による			
第11回	教育課程の編成 (1)	教育課程の意義とその編成			
第12回	教育課程の編成 (2)	各校の教育課程表にみる特色			
第13回	商業教育と評価	評価のあり方と単位認定			
第14回	商業教育と研修	指導力の向上を目指した研修			
第15回	商業教育の展望	これまでとこれから			

# 経済

授業番号	B202990001				
科目名 (英語表記)	商業科指導法 (Department method of instruction of commerce)				
担当者 (英語表記)	坂本 義孝 (Yoshitaka Sakamoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	商業教育に関する基本的な事項について学習するとともに、商業科教師として必要な知識・技術の習得を目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	高等学校における商業教育の担当者として活躍できるように、できるだけ実践的な内容とするとともに、学生からの質問やそれへの回答をととして学生が意欲的に学習できるように進める。				
成績評価方法	レポート提出、平常点、定期試験、その他の小テストの結果を勘案し評価する。				
基準					
授業の予習・復習	その都度指示する。				
教科書	「高等学校学習指導要領解説商業編」文部科学省				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	学校教育と学習指導要領	後期中等教育としての高校教育			
第 2 回	普通教育と専門教育	普通科高校と専門高校			
第 3 回	商業高校と商業教育	産業教育としての商業教育			
第 4 回	教科「商業」の目標	商業教育の目指すもの			
第 5 回	教科の組織	学習分野と科目の構成			
第 6 回	商業諸科目の内容 (1)	基礎的な科目について			
第 7 回	商業諸科目の内容 (2)	総合的な科目について			
第 8 回	商業諸科目の内容 (3)	マーケティング分野の科目について			
第 9 回	商業諸科目の内容 (4)	ビジネス経済分野の科目について			
第 10 回	商業諸科目の内容 (5)	会計分野の科目について			
第 11 回	商業諸科目の内容 (6)	ビジネス情報分野の科目について			
第 12 回	商業に関する学科	各専門学科の特色について			
第 13 回	学習指導と資格取得	商業に関する職業資格とその指導			
第 14 回	商業教育とキャリア教育	商業高校における進路指導			
第 15 回	商業科指導法のまとめ	商業教育の現状と課題			

# 経済

授業番号	B201270001				
科目名 (英語表記)	証券経済論 I (Security Economy Theory I)				
担当者 (英語表記)	土井 修 (Osamu Doi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	現代資本主義の発展において、証券市場は必要不可欠であるが、本講義では証券および証券市場に対する基本的理解を得た上で、それらの経済全体および企業経営に果たしている役割を明らかにする。具体的には、株式、債券等の証券の特徴、証券価格の形成メカニズム、証券市場と景気循環との関係などについての基礎知識を習得し、それらを踏まえて主要資本主義国における経済発展と証券市場の相互関係を歴史的に概観する。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書に基づいて講義を進めるが、新聞・雑誌やインターネットの資料を配付し、証券および証券市場についての具体的・実際の理解を得られるよう努めたい。				
成績評価方法	試験の結果を中心としつつも、授業態度も加味する。				
基準					
授業の予習・復習	予習として教科書の該当部分を予め読んでおくこと。復習はノートを基に必ず行ってください。				
教科書	土井 修『証券経済論』(白桃書房)				
参考文献	『ゼミナール日本経済入門』(日本経済新聞出版社)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	序論	証券・証券市場についての概要と授業計画			
第 2 回	証券の種類と特徴	株式、債券等証券の種類と種別化の意味			
第 3 回	証券市場の構造と機能	金融市場と証券市場			
第 4 回	証券市場の構造と機能	株式の発行市場・流通市場			
第 5 回	証券市場の構造と機能	債券の発行市場と流通市場			
第 6 回	擬制資本	擬制資本の成立とその意義			
第 7 回	擬制資本	株式価格の変動要因			
第 8 回	擬制資本	株式価格と景気循環			
第 9 回	擬制資本	創業者利得			
第 10 回	資本主義の発展と証券市場	金融資本の成立と証券市場			
第 11 回	資本主義の発展と証券市場	イギリス			
第 12 回	資本主義の発展と証券市場	ドイツ			
第 13 回	資本主義の発展と証券市場	アメリカ			
第 14 回	資本主義の発展と証券市場	日本			
第 15 回	まとめ	授業の総括と質疑応答			

# 経済

授業番号	B201280001				
科目名 (英語表記)	証券経済論 II (Security Economy Theory II)				
担当者 (英語表記)	土井 修 (Osamu Doi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	アメリカと日本を中心として、経済の発展における証券市場の役割を歴史的・具体的に検討し、同時に、現在の日本や諸外国での国債発行残高の増大など最近の証券市場をめぐる諸問題にも触れる。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書に基づいて講義を進めるが、新聞・雑誌やインターネットの資料を配付し、証券および証券市場についての具体的・実的な理解を得られるよう努めたい。				
成績評価方法	試験結果を中心としつつも、授業態度も加味する。				
基準					
授業の予習・復習	予習として教科書の該当部分を予め読んでおくこと。復習はノートを基に必ず行ってください。				
教科書	土井 修『証券経済論』(白桃書房)				
参考文献	『ゼミナール日本経済入門』(日本経済新聞出版社)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	序論	経済発展における証券市場の役割の概要と授業計画			
第 2 回	資本主義の発展段階と証券市場	自由主義段階の証券市場 (イギリス)			
第 3 回	資本主義の発展段階と証券市場	帝国主義段階の証券市場 (アメリカ、ドイツ)			
第 4 回	アメリカ経済の発展と証券市場	金融資本の確立と証券市場			
第 5 回	アメリカ経済の発展と証券市場	第一次大戦期の証券市場			
第 6 回	アメリカ経済の発展と証券市場	1920 年代の証券市場と 1929 年恐慌			
第 7 回	アメリカ経済の発展と証券市場	1930 年代の不況と金融・証券制度改革			
第 8 回	アメリカ経済の発展と証券市場	企業金融形態の変化と証券市場 (1930 年代以降)			
第 9 回	アメリカ経済の発展と証券市場	国債の発行と証券市場の変化 (1930 年代以降)			
第 10 回	日本経済の発展と証券市場	産業資本の成立と証券市場			
第 11 回	日本経済の発展と証券市場	金融資本の成立と証券市場			
第 12 回	日本経済の発展と証券市場	第二次大戦期の証券市場			
第 13 回	日本経済の発展と証券市場	高度成長期の証券市場			
第 14 回	日本経済の発展と証券市場	不況期の証券市場			
第 15 回	まとめ	授業の総括と質疑応答			

# 経済

授業番号	B202690001				
科目名 (英語表記)	消費者行動論 (Consumer behavior)				
担当者 (英語表記)	藤井 輝男 (Teruo Fujii)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	購買→使用→廃棄にいたる消費過程、消費者の動向および消費者をとりまく文化要因など、消費者行動に関する基礎知識を修得し、消費者行動を心理学的に理解することを目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書に則して、消費者行動に関する基礎知識を概説する。必要に応じてビデオやパワーポイントでの説明も行う。				
成績評価方法	試験 (80%)、その他の課題 (20%)				
基準					
授業の予習・復習	事前に教科書を読んで授業に臨むこと。				
教科書	杉本徹雄編著 (1997)『消費者理解のための心理学』福村出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて			
第 2 回	消費者行動の概要 1	消費行動への心理学的アプローチ			
第 3 回	消費者行動の概要 2	消費者行動とマーケティング			
第 4 回	購買意思決定 1	問題解決過程としての購買意思決定			
第 5 回	購買意思決定 2	フレーミング効果について			
第 6 回	情報探索と選択肢評価 1	消費者の情報検索について			
第 7 回	情報探索と選択肢評価 2	意思決定に関する選択肢評価と決定方略			
第 8 回	購買決定後の過程	消費者の満足、不満足について			
第 9 回	消費者の態度形成と変容	説得的コミュニケーションについて			
第 10 回	消費者の関与	購買と関与について			
第 11 回	消費者の個人特性	消費者のライフスタイルと消費者行動の関係			
第 12 回	消費者行動と状況的要因	消費者行動に影響を及ぼす様々な状況について			
第 13 回	対人・集団の要因	口コミや情報の伝播について			
第 14 回	文化的要因	サブカルチャーと消費者行動			
第 15 回	まとめ	まとめと講義全般に関する質疑、試験に関する説明			

# 経済

授業番号	B203010001		
科目名 (英語表記)	情報科指導法 I (Department method of instruction I of information)		
担当者 (英語表記)	須之内 義昭 (Yoshiaki Sunouchi)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	情報化社会の現状と進展を考察するとともに、必修教科「情報」が設置された趣旨を理解し、小・中・高等学校を通じた情報教育を体系的に把握した上で、教科「情報」の各科目の目標、内容等について検討し効果的な指導方法・評価法を考察する。		
授業の進め方 (履修条件など)	小・中・高における情報教育全体の体系と高校生が身に付けるべき内容、及び実際に授業を行う際の指導法および留意すべき点について、前期は主に講義を中心に進める。		
成績評価方法	定期試験 (70%)・課題作成 (10%)・授業参加態度 (20%)		
基準			
授業の予習・復習	予習 : 高等学校の教科体系を把握するとともに、授業の展開を通じて教科「情報」の全容を周知できるよう学習すること。 復習 : 毎回の講義内容等を整理し、疑問点は調査や質問等により必ず解消しておくこと。		
教科書	高等学校学習指導要領解説 情報編 文部科学省 海隆堂出版 その他、プリント教材を配布して使用する。		
参考文献	「情報科教育のための指導法と展開例」 岡本敏雄、西野和典編著 実教出版 「新しい情報教育の理論と実践の方法」 宮地 功著 実教出版		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業計画と概要	
第 2 回	情報化社会の現状と進展	産業社会及び学校教育における情報化	
第 3 回	学校教育に係る法制度	法体系の概要と学習指導要領	
第 4 回	情報教育の設置経緯	教科「情報」の設定に至る背景と目標	
第 5 回	情報教育の体系と目標	小・中・高校を通じた教育体系	
第 6 回	高校における情報教育	学習指導要領に示される内容	
第 7 回	普通教科「情報」の科目 (1)	「社会と情報」の学習目標と指導内容	
第 8 回	普通教科「情報」の科目 (2)	「情報の科学」の学習目標と指導内容	
第 9 回	専門教科「情報」の科目	各科目の学習目標と指導内容	
第 10 回	教育評価	情報科教育における教育評価と工夫	
第 11 回	情報倫理とセキュリティ	学校教育における指導内容	
第 12 回	学校の情報管理	ネットワーク社会における管理	
第 13 回	情報の表現と発信	情報とデータ、情報量とデータ量	
第 14 回	社会における情報システム	具体例とシステムの役割	
第 15 回	まとめ	講義のまとめ	

# 経済

授業番号	B203020001				
科目名 (英語表記)	情報科指導法 II (Department method of instruction II of information)				
担当者 (英語表記)	須之内 義昭 (Yoshiaki Sunouchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	教科「情報」担当教員としての実践力を育成することを主たる目標とし、これまでに得た情報に関する知識・技術を学校教育における学習指導的視点で再構築する方策や、教材・教具の工夫、活用等について学ぶことを目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	教材の分析や問題把握、評価法等についての実践力を育成するため模擬授業を行うとともに、指導内容や方法等について互いにディスカッションする時間を多くとる。				
成績評価方法	定期試験 (60%)・模擬授業 (20%)・課題作成 (10%)・授業参加態度 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習： 高等学校学習指導要領に示された教科「情報」の目標及び内容とその取り扱いを熟読しておくこと。 復習： 毎回の講義内容等を整理し、疑問点は調査や質問等により必ず解消しておくこと。				
教科書	高等学校学習指導要領解説 情報編 文部科学省 海隆堂出版 その他、プリント教材を配布して使用する。				
参考文献	「情報科教育のための指導法と展開例」 岡本敏雄、西野和典編著 実教出版 「新しい情報教育の理論と実践の方法」 宮地 功著 実教出版				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	年間指導計画と学習指導案	作成の意義と内容			
第 2 回	学習評価	学習指導と評価の工夫			
第 3 回	情報通信ネットワーク	学習指導への利用			
第 4 回	学習指導の工夫 (1)	教材・教具の作成及び利用			
第 5 回	学習指導の工夫 (2)	プレゼンテーションの技法			
第 6 回	模擬授業準備 (1)	年間学習指導計画の作成			
第 7 回	模擬授業準備 (2)	学習指導案の内容、留意点			
第 8 回	模擬授業準備 (3)	学習指導案検討、教材研究			
第 9 回	模擬授業 (1)	模擬授業、授業内容・方法・評価法等討論			
第 10 回	模擬授業 (2)	模擬授業、授業内容・方法・評価法等討論			
第 11 回	模擬授業 (3)	模擬授業、授業内容・方法・評価法等討論			
第 12 回	模擬授業評価、総括	効果的な授業法			
第 13 回	情報倫理とセキュリティ	情報倫理・セキュリティの指導			
第 14 回	校務分掌と情報管理	校務分掌組織と情報管理			
第 15 回	まとめ	講義のまとめ			



# 経済

授業番号	B200080001				
科目名 (英語表記)	情報基礎 I (The information basics I)			(A)	
担当者 (英語表記)	清水 麻実 (Mami Shimizu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	パスワードの管理やネチケット、コンピュータに関する基礎的知識を理解し、Microsoft Office Word の知識・操作方法を学習します。実社会において Word を有効活用し、ビジネスで使用される文書の作成ができるようになることを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキスト必須です。Windows の基本操作やネチケットなども学習します。Word では表・図形を含めた基本的なビジネス文書の作成ができるようにします。操作等は個々の画面に提示しながら説明します。				
成績評価方法 基準	定期試験に授業時の課題を加味します。 課題をおこなわない・授業態度が悪い場合等は減点します。				
授業の予習・復習	タイピングは各自練習して下さい。欠席した場合は次回授業時までにはその分を終えておくことが望ましいです。				
教科書	ビジネス文書のためのワード活用法				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・お"い"と"わ"わ・パスワード変更			
第 2 回	Windows 入門	Windows の基本操作			
第 3 回	タイピングソフト・ネチケット	タイピング・E-Leaning による学習			
第 4 回	I Navi の使い方	パスワード変更等			
第 5 回	GRACE メール	メールの送受信・添付方法			
第 6 回	インターネット入門	インターネットの基礎知識・IE の概要・基本操作			
第 7 回	コンピュータのしくみ	五大機能・五大装置について			
第 8 回	IME 入門	文字の入力と編集・単語登録・検索			
第 9 回	Word の基礎 (MOS の範囲含む)	Word の概要・画面構成・設定・文字の編集			
第 10 回	Word の基礎 (MOS の範囲含む)	ページ設定・図形の作成・印刷・表作成①			
第 11 回	Word の基礎 (MOS の範囲含む)	表作成②・ワードアート・写真・イラスト挿入			
第 12 回	Word の基礎 (MOS の範囲含む)	組織図・図形・グラフ挿入			
第 13 回	Word の基礎 (MOS の範囲含む)	ビジネス文書作成① (社内文書)			
第 14 回	Word の基礎 (MOS の範囲含む)	ビジネス文書作成② (社外文書)			
第 15 回	まとめ	総合問題			

経済

授業番号	B200080002		
科目名 (英語表記)	情報基礎 I (The information basics I)	(G)	
担当者 (英語表記)	成富 慶子 (Keiko Naritomi)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている</p> <p>本講義では、コンピュータに関する基礎知識、ネチケットなどを理解し、Microsoft Word を使用した基本的な文書作成を習熟してもらう</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	Windows の基本操作からネチケットを学習し、Microsoft Word を使用して、実習を通して文書作成を行う		
成績評価方法	実技テストで総合評価する		
基準			
授業の予習・復習	<p>予習：教科書を見ながら操作する、またブライドタッチができるよう練習する</p> <p>復習：授業内に行った操作を配布プリント、教科書、練習問題などで復習する</p>		
教科書	<p>FOM 出版 Microsoft Office Word 2010 基礎 978-4-89311-849-3</p> <p>FOM 出版 Microsoft Office Excel 2010 基礎 978-4-89311-847-9</p>		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・講義概要 ログイン, ログオフ, パスワード変更	
第 2 回	Word の基礎知識	Word の概要, IME2010 の設定	
第 3 回	文書の作成	ページ設定, 文章入力, 範囲選択, 文字の削除・挿入・コピー・移動・配置・装飾, 文書の保存・印刷	
第 4 回	表の作成	表作成, 表の範囲選択, 表のレイアウト変更, 表の書式設定, 表にスタイルを適用, 段落罫線の設定	
第 5 回	文書の編集	さまざまな書式設定, 段組みの設定, ページ番号の挿入	
第 6 回	表現力をアップする機能	ワードアートの挿入, クリップアートの挿入, 図の挿入, 図形作成, ページ罫線の設定, テーマの設定	
第 7 回	文書の作成 2	フォントと段落の属性を適用, 文書内の検索, インデントとタブの設定, 文字間隔・行間隔の設定, 箇条書きと段落番号	
第 8 回	文書の編集 2	ページのレイアウトの設定, ページの背景, ヘッダーとフッター	
第 9 回	表現力をアップする機能 2	SmartArt の挿入, テキストボックスの挿入	
第 10 回	文書の校正	スペルチェック, オートコレクト, コメントを挿入・編集	
第 11 回	参考資料とハイパーリンク	ハイパーリンク, 文末脚注や脚注, 目次作成	
第 12 回	差し込み印刷の実行	差し込み印刷の設定と実行	
第 13 回	文書の共有と管理	さまざまな文書表示, 文書の保護, 文書のバージョン管理, 文書の共有, テンプレートの適用	
第 14 回	総合問題 1	総合問題 1	
第 15 回	総合問題 2	総合問題 2	

経済

授業番号	B200080003				
科目名 (英語表記)	情報基礎 I (The information basics I)			(R B)	
担当者 (英語表記)	清水 麻実 (Mami Shimizu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	Microsoft 社の Word は実社会において必須です。最初にネチケットを学習し、Word Ver.2010 の知識・操作を習得します。社内・社外文書の作成、オブジェクトの挿入、テンプレートの利用を学習など、実務上必要な操作をひとつとおり行います。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキスト必須です。基本的な操作はテキストを中心に行います。その他プリントも配布します。操作等は個々の画面に提示し、インターネットやプレゼンテーションを使い情報を与えることもあります。				
成績評価方法 基準	定期試験に授業時の課題を加味します。 課題をおこなわない・授業態度が悪い場合等は減点します。				
授業の予習・復習	タイピングは各自練習して下さい。欠席した場合は次回授業時までにはその分を終えておくことが望ましいです。				
教科書	30 時間でマスター Word2010 実教出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者確認、タ化°ンク°			
第 2 回	Windows の操作・ネットワーク°ル°	°ル°作成・Public の参照			
第 3 回	ネチケット・GRACE メール	ネチケット・メールの送受信			
第 4 回	五大機能・OS・IME	五大機能について・OS・IME の概要			
第 5 回	Word の基礎 (MOS の範囲含)	画面名称・入力・保存・拡張子について			
第 6 回	Word の基礎 (MOS の範囲含)	書式設定・ヘッ°-とフッター			
第 7 回	Word の基礎 (MOS の範囲含)	表の作成と編集、計算式の挿入			
第 8 回	Word の基礎 (MOS の範囲含)	クリップアート・ワードアートの挿入と編集			
第 9 回	Word の基礎 (MOS の範囲含)	セクション区切り、ページ°設定			
第 10 回	Word の基礎 (MOS の範囲含)	組織図・グラフの挿入と編集			
第 11 回	Word の基礎 (MOS の範囲含)	テン°レートの利用、PDF への変換			
第 12 回	Word の基礎 (MOS の範囲含)	ビ°°文書 (社内文書)・地図の作成			
第 13 回	Word の基礎 (MOS の範囲含)	ビ°°文書 (社外文書)・印刷°レビュー、印刷			
第 14 回	まとめ	総合問題			
第 15 回	試験対策	総合問題			

# 経済

授業番号	B200080004				
科目名 (英語表記)	情報基礎 I (The information basics I)			(B)	
担当者 (英語表記)	清水 麻実 (Mami Shimizu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	パスワードの管理やネチケット、コンピュータに関する基礎的知識を理解し、Microsoft Office Word の知識・操作方法を学習します。実社会において Word を有効活用し、ビジネスで使用される文書の作成ができるようになることを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキスト必須です。Windows の基本操作やネチケットなども学習します。Word では表・図形を含めた基本的なビジネス文書の作成ができるようにします。操作等は個々の画面に提示しながら説明します。				
成績評価方法 基準	定期試験に授業時の課題を加味します。 課題をおこなわない・授業態度が悪い場合等は減点します。				
授業の予習・復習	タイピングは各自練習して下さい。欠席した場合は次回授業時までにはその分を終えておくことが望ましいです。				
教科書	ビジネス文書のためのワード活用法				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・お"い"と"わ"わ・パスワード変更			
第 2 回	Windows 入門	Windows の基本操作			
第 3 回	タイピングソフト・ネチケット	タイピング・E-Leaning による学習			
第 4 回	I Navi の使い方	パスワード変更等			
第 5 回	GRACE メール	メールの送受信・添付方法			
第 6 回	インターネット入門	インターネットの基礎知識・IE の概要・基本操作			
第 7 回	コンピュータのしくみ	五大機能・五大装置について			
第 8 回	IME 入門	文字の入力と編集・単語登録・検索			
第 9 回	Word の基礎	Word の概要・画面構成・設定・文字の編集			
第 10 回	Word の基礎	ページ設定・図形の作成・印刷・表作成①			
第 11 回	Word の基礎	表作成②・ワードアート・写真・イラスト挿入			
第 12 回	Word の基礎	組織図・図形・グラフ挿入			
第 13 回	Word の基礎	ビジネス文書作成① (社内文書)			
第 14 回	Word の基礎	ビジネス文書作成② (社外文書)			
第 15 回	まとめ	総合問題			

経済

授業番号	B200080005				
科目名 (英語表記)	情報基礎 I (The information basics I)			(R A)	
担当者 (英語表記)	清水 麻実 (Mami Shimizu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	Microsoft 社の Word は実社会において必須です。最初にネチケットを学習し、Word Ver.2010 の知識・操作を習得します。社内・社外文書の作成、オブジェクトの挿入、テンプレートの利用を学習など、実務上必要な操作をひとつとおり行います。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキスト必須です。基本的な操作はテキストを中心に行います。その他プリントも配布します。操作等は個々の画面に提示し、インターネットやプレゼンテーションを使い情報を与えることもあります。				
成績評価方法 基準	定期試験に授業時の課題を加味します。 課題をおこなわない・授業態度が悪い場合等は減点します。				
授業の予習・復習	タイピングは各自練習して下さい。欠席した場合は次回授業時までその分を終えておくことが望ましいです。				
教科書	30 時間でマスター Word2010 実教出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者確認、タ化°ンク			
第 2 回	Windows の操作・ネットワーク	フォルダ作成・Public の参照			
第 3 回	ネチケット・GRACE メール	ネチケット・メールの送受信			
第 4 回	五大機能・OS・IME	五大機能について・OS・IME の概要			
第 5 回	Word の基礎 (MOS の範囲含)	画面名称・入力・保存・拡張子について			
第 6 回	Word の基礎 (MOS の範囲含)	書式設定・ヘッダとフッター			
第 7 回	Word の基礎 (MOS の範囲含)	表の作成と編集、計算式の挿入			
第 8 回	Word の基礎 (MOS の範囲含)	クリップアート・ワードアートの挿入と編集			
第 9 回	Word の基礎 (MOS の範囲含)	セクション区切り、ページ設定			
第 10 回	Word の基礎 (MOS の範囲含)	組織図・グラフの挿入と編集			
第 11 回	Word の基礎 (MOS の範囲含)	テンプレートの利用、PDF への変換			
第 12 回	Word の基礎 (MOS の範囲含)	ビジネス文書 (社内文書)・地図の作成			
第 13 回	Word の基礎 (MOS の範囲含)	ビジネス文書 (社外文書)・印刷プレビュー、印刷			
第 14 回	まとめ	総合問題			
第 15 回	試験対策	総合問題			

# 経済

授業番号	B200080006		
科目名 (英語表記)	情報基礎 I (The information basics I)	(H)	
担当者 (英語表記)	成富 慶子 (Keiko Naritomi)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている</p> <p>本講義では、コンピュータに関する基礎知識、ネチケットなどを理解し、Microsoft Word を使用した基本的な文書作成を習熟してもらう</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	Windows の基本操作からネチケットを学習し、Microsoft Word を使用して、実習を通して文書作成を行う		
成績評価方法	実技テストで総合評価する		
基準			
授業の予習・復習	<p>予習：教科書を見ながら操作する、またブラインドタッチができるよう練習する</p> <p>復習：授業内に行った操作を配布プリント、教科書、練習問題などで復習する</p>		
教科書	<p>FOM 出版 Microsoft Office Word 2010 基礎 978-4-89311-849-3</p> <p>FOM 出版 Microsoft Office Excel 2010 基礎 978-4-89311-847-9</p>		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・講義概要 ログイン, ログオフ, パスワード変更	
第 2 回	Word の基礎知識	Word の概要, IME2010 の設定	
第 3 回	文書の作成	ページ設定, 文章入力, 範囲選択, 文字の削除・挿入・コピー・移動・配置・装飾, 文書の保存・印刷	
第 4 回	表の作成	表作成, 表の範囲選択, 表のレイアウト変更, 表の書式設定, 表にスタイルを適用, 段落罫線の設定	
第 5 回	文書の編集	さまざまな書式設定, 段組みの設定, ページ番号の挿入	
第 6 回	表現力をアップする機能	ワードアートの挿入, クリップアートの挿入, 図の挿入, 図形作成, ページ罫線の設定, テーマの設定	
第 7 回	文書の作成 2	フォントと段落の属性を適用, 文書内の検索, インデントとタブの設定, 文字間隔・行間隔の設定, 箇条書きと段落番号	
第 8 回	文書の編集 2	ページのレイアウトの設定, ページの背景, ヘッダーとフッター	
第 9 回	表現力をアップする機能 2	SmartArt の挿入, テキストボックスの挿入	
第 10 回	文書の校正	スペルチェック, オートコレクト, コメントを挿入・編集	
第 11 回	参考資料とハイパーリンク	ハイパーリンク, 文末脚注や脚注, 目次作成	
第 12 回	差し込み印刷の実行	差し込み印刷の設定と実行	
第 13 回	文書の共有と管理	さまざまな文書表示, 文書の保護, 文書のバージョン管理, 文書の共有, テンプレートの適用	
第 14 回	総合問題 1	総合問題 1	
第 15 回	総合問題 2	総合問題 2	

# 経済

授業番号	B200080007				
科目名 (英語表記)	情報基礎 I (The information basics I)			(C)	
担当者 (英語表記)	清水 麻実 (Mami Shimizu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	パスワードの管理やネチケット、コンピュータに関する基礎的知識を理解し、Microsoft Office Word の知識・操作方法を学習します。実社会において Word を有効活用し、ビジネスで使用される文書の作成ができるようになることを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキスト必須です。Windows の基本操作やネチケットなども学習します。Word では表・図形を含めた基本的なビジネス文書の作成ができるようにします。操作等は個々の画面に提示しながら説明します。				
成績評価方法 基準	定期試験に授業時の課題を加味します。 課題をおこなわない・授業態度が悪い場合等は減点します。				
授業の予習・復習	タイピングは各自練習して下さい。欠席した場合は次回授業時までその分を終えておくことが望ましいです。				
教科書	ビジネス文書のためのワード活用法				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・お"い"と"わ"わ・パスワード変更			
第 2 回	Windows 入門	Windows の基本操作			
第 3 回	タイピングソフト・ネチケット	タイピング・E-Leaning による学習			
第 4 回	I Navi の使い方	パスワード変更等			
第 5 回	GRACE メール	メールの送受信・添付方法			
第 6 回	インターネット入門	インターネットの基礎知識・IE の概要・基本操作			
第 7 回	コンピュータのしくみ	五大機能・五大装置について			
第 8 回	IME 入門	文字の入力と編集・単語登録・検索			
第 9 回	Word の基礎	Word の概要・画面構成・設定・文字の編集			
第 10 回	Word の基礎	ページ設定・図形の作成・印刷・表作成①			
第 11 回	Word の基礎	表作成②・ワードアート・写真・イラスト挿入			
第 12 回	Word の基礎	組織図・図形・グラフ挿入			
第 13 回	Word の基礎	ビジネス文書作成① (社内文書)			
第 14 回	Word の基礎	ビジネス文書作成② (社外文書)			
第 15 回	まとめ	総合問題			

# 経済

授業番号	B200080008				
科目名 (英語表記)	情報基礎 I (The information basics I)			(F)	
担当者 (英語表記)	濱野 和人 (Kazuhito Hamano)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本講義では、①タッチタイピング、②電子メールによるビジネスメールの書き方、③インターネットを活用した情報検索スキルと情報発信スキル、④アカデミックスキルとしての文書作成方法やビジネス文書の作成方法、の基礎的知識および活用スキルの習得を目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件：実習中心の講義となるため、遅刻・欠席をすると後に響くので遅刻・欠席はしないこと。欠席をした場合は次回講義までに演習や課題をやっておくこと。 進め方：操作方法等を画面に提示しながら講義を進める。				
成績評価方法	①参加意欲・コメント (15%)、②タイピングテスト・演習・課題・試験 (85%) で総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	①最低 1 日 10 分のタイピング練習、②講義で扱った内容や操作方法を他人に教えられる程度にしておく。				
教科書	使用しない。				
参考文献	柏木将宏・坂田哲人・濱野和人他 (2012)『アカデミックリテラシー入門 [第三版]』, プイツーソリューション				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義概要、ログインとログオフ、パスワード変更			
第 2 回	タイピング入門 (1)	タッチタイピングによるタイピング練習			
第 3 回	電子メール入門 (1)	メールアドレスの仕組みとメールの流れ、操作方法			
第 4 回	電子メール入門 (2)	アドレス帳、署名、SMTP サーバ			
第 5 回	電子メール入門 (3)	フォルダ、フィルタリング、メールの書き方、添付ファイル			
第 6 回	インターネット入門 (1)	URL (URI) の形式と意味、検索技法、Web2.0			
第 7 回	インターネット入門 (2)	動画共有サイト、SNS への登録			
第 8 回	文書作成入門 (1)	リボンインターフェースの機能と書式設定			
第 9 回	文書作成入門 (2)	入力練習 + 検索力 + 文章表現力			
第 10 回	文書作成入門 (3)	図の挿入と編集			
第 11 回	文書作成入門 (4)	ビジネス文書 (内部向け) の作成			
第 12 回	文書作成入門 (5)	ビジネス文書 (外部向け) の作成			
第 13 回	文書作成入門 (6)	ページ番号、引用と脚注			
第 14 回	タイピング入門 (2)	タッチタイピングによるタイピングテスト			
第 15 回	総合演習	まとめ			



# 経済

授業番号	B200080009				
科目名 (英語表記)	情報基礎 I (The information basics I)			(E)	
担当者 (英語表記)	濱野 和人 (Kazuhito Hamano)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本講義では、①タッチタイピング、②電子メールによるビジネスメールの書き方、③インターネットを活用した情報検索スキルと情報発信スキル、④アカデミックスキルとしての文書作成方法やビジネス文書の作成方法、の基礎的知識および活用スキルの習得を目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件：実習中心の講義となるため、遅刻・欠席をすると後に響くので遅刻・欠席はしないこと。欠席をした場合は次回講義までに演習や課題をやっておくこと。 進め方：操作方法等を画面に提示しながら講義を進める。				
成績評価方法	①参加意欲・コメント (15%)、②タイピングテスト・演習・課題・試験 (85%) で総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	①最低 1 日 10 分のタイピング練習、②講義で扱った内容や操作方法を他人に教えられる程度にしておく。				
教科書	使用しない。				
参考文献	柏木将宏・坂田哲人・濱野和人他 (2012)『アカデミックリテラシー入門 [第三版]』, プイツーソリューション				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義概要、ログインとログオフ、パスワード変更			
第 2 回	タイピング入門 (1)	タッチタイピングによるタイピング練習			
第 3 回	電子メール入門 (1)	メールアドレスの仕組みとメールの流れ、操作方法			
第 4 回	電子メール入門 (2)	アドレス帳、署名、SMTP サーバ			
第 5 回	電子メール入門 (3)	フォルダ、フィルタリング、メールの書き方、添付ファイル			
第 6 回	インターネット入門 (1)	URL (URI) の形式と意味、検索技法、Web2.0			
第 7 回	インターネット入門 (2)	動画共有サイト、SNS への登録			
第 8 回	文書作成入門 (1)	リボンインターフェースの機能と書式設定			
第 9 回	文書作成入門 (2)	入力練習 + 検索力 + 文章表現力			
第 10 回	文書作成入門 (3)	図の挿入と編集			
第 11 回	文書作成入門 (4)	ビジネス文書 (内部向け) の作成			
第 12 回	文書作成入門 (5)	ビジネス文書 (外部向け) の作成			
第 13 回	文書作成入門 (6)	ページ番号、引用と脚注			
第 14 回	タイピング入門 (2)	タッチタイピングによるタイピングテスト			
第 15 回	総合演習	まとめ			

# 経済

授業番号	B200080010				
科目名 (英語表記)	情報基礎 I (The information basics I)			(D)	
担当者 (英語表記)	濱野 和人 (Kazuhito Hamano)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本講義では、①タッチタイピング、②電子メールによるビジネスメールの書き方、③インターネットを活用した情報検索スキルと情報発信スキル、④アカデミックスキルとしての文書作成方法やビジネス文書の作成方法、の基礎的知識および活用スキルの習得を目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件：実習中心の講義となるため、遅刻・欠席をすると後に響くので遅刻・欠席はしないこと。欠席をした場合は次回講義までに演習や課題をやっておくこと。 進め方：操作方法等を画面に提示しながら講義を進める。				
成績評価方法	①参加意欲・コメント (15%)、②タイピングテスト・演習・課題・試験 (85%) で総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	①最低 1 日 10 分のタイピング練習、②講義で扱った内容や操作方法を他人に教えられる程度にしておく。				
教科書	使用しない。				
参考文献	柏木将宏・坂田哲人・濱野和人他 (2012)『アカデミックリテラシー入門 [第三版]』, プイツーソリューション				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義概要、ログインとログオフ、パスワード変更			
第 2 回	タイピング入門 (1)	タッチタイピングによるタイピング練習			
第 3 回	電子メール入門 (1)	メールアドレスの仕組みとメールの流れ、操作方法			
第 4 回	電子メール入門 (2)	アドレス帳、署名、SMTP サーバ			
第 5 回	電子メール入門 (3)	フォルダ、フィルタリング、メールの書き方、添付ファイル			
第 6 回	インターネット入門 (1)	URL (URI) の形式と意味、検索技法、Web2.0			
第 7 回	インターネット入門 (2)	動画共有サイト、SNS への登録			
第 8 回	文書作成入門 (1)	リボンインターフェースの機能と書式設定			
第 9 回	文書作成入門 (2)	入力練習 + 検索力 + 文章表現力			
第 10 回	文書作成入門 (3)	図の挿入と編集			
第 11 回	文書作成入門 (4)	ビジネス文書 (内部向け) の作成			
第 12 回	文書作成入門 (5)	ビジネス文書 (外部向け) の作成			
第 13 回	文書作成入門 (6)	ページ番号、引用と脚注			
第 14 回	タイピング入門 (2)	タッチタイピングによるタイピングテスト			
第 15 回	総合演習	まとめ			

経済

授業番号	B200090001				
科目名 (英語表記)	情報基礎 II (The information basics I I)		(B)		
担当者 (英語表記)	清水 麻実 (Mami Shimizu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	Microsoft 社の表計算ソフト Excel は実社会において必要不可欠なソフトです。Ver.2007 での知識・操作を習得することを目的とし、単純な入力だけでなく、計算式の挿入、表やグラフの作成・編集、データベース機能など、実務上必要な操作をひとつお学習します。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的な操作はテキストを中心に行います。小テストや練習問題ではプリントで配布することもあります。操作等は個々の画面に提示し、インターネットやプレゼンテーションを使い情報を与えることもあります。				
成績評価方法 基準	定期試験に授業時の課題を加味します。 課題をおこなわない場合は減点します。				
授業の予習・復習	欠席した場合は次回授業時までその分を終えておくことが望ましいです。				
教科書	実務に必須！ Excel 活用法				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者確認、Q&A と Q&A			
第 2 回	Windows の操作・Excel の概要	ファイル削除・フォルダ作成・Excel の概要			
第 3 回	ネットワーク・Excel の基本	Public の参照方法、画面名称・入力・保存			
第 4 回	Excel の基礎	拡張子について・オートフィル機能・行 / 列の操作			
第 5 回	Excel の基礎	式の入力と修正・四則演算子・相対参照			
第 6 回	Excel の基礎	関数の書式・集合関数・比較演算子・絶対参照			
第 7 回	Excel の基礎	セルの書式設定・罫線・表のレイアウト			
第 8 回	Excel の基礎	シートの操作・シートの保護・ワークブックの設定			
第 9 回	Excel の基礎	グラフ作成・グラフの編集・関数②			
第 10 回	Excel の基礎	印刷範囲・ビュー・改ページビュー・ページ設定			
第 11 回	Excel の基礎	印刷・関数のネスト・ヘッダーとフッター			
第 12 回	Excel の基礎	複合グラフ・Word への表の貼り付け			
第 13 回	Excel の基礎	データベース機能・オブジェクトの作成			
第 14 回	Excel の基礎	テンプレートの利用・リンク貼り付け			
第 15 回	まとめ	試験対策			

経済

授業番号	B200090002				
科目名 (英語表記)	情報基礎 II (The information basics I I)		(C)		
担当者 (英語表記)	清水 麻実 (Mami Shimizu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	Microsoft 社の表計算ソフト Excel は実社会において必要不可欠なソフトです。Ver.2007 での知識・操作を習得することを目的とし、単純な入力だけでなく、計算式の挿入、表やグラフの作成・編集、データベース機能など、実務上必要な操作をひとつおろし学習します。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的な操作はテキストを中心に行います。小テストや練習問題ではプリントで配布することもあります。操作等は個々の画面に提示し、インターネットやプレゼンテーションを使い情報を与えることもあります。				
成績評価方法 基準	定期試験に授業時の課題を加味します。 課題をおこなわない場合は減点します。				
授業の予習・復習	欠席した場合は次回授業時までその分を終えておくことが望ましいです。				
教科書	実務に必須！ Excel 活用法				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者確認、Q&A と Q&A			
第 2 回	Windows の操作・Excel の概要	ファイル削除・フォルダ作成・Excel の概要			
第 3 回	ネットワーク・Excel の基本	Public の参照方法、画面名称・入力・保存			
第 4 回	Excel の基礎	拡張子について・オートフィル機能・行 / 列の操作			
第 5 回	Excel の基礎	式の入力と修正・四則演算子・相対参照			
第 6 回	Excel の基礎	関数の書式・集合関数・比較演算子・絶対参照			
第 7 回	Excel の基礎	セルの書式設定・罫線・表のレイアウト			
第 8 回	Excel の基礎	シートの操作・シートの保護・ワークブックの設定			
第 9 回	Excel の基礎	グラフ作成・グラフの編集・関数②			
第 10 回	Excel の基礎	印刷範囲・ビュー・改ページビュー・ページ設定			
第 11 回	Excel の基礎	印刷・関数のネスト・ヘッダーとフッター			
第 12 回	Excel の基礎	複合グラフ・Word への表の貼り付け			
第 13 回	Excel の基礎	データベース機能・オブジェクトの作成			
第 14 回	Excel の基礎	テンプレートの利用・リンク貼り付け			
第 15 回	まとめ	試験対策			

経済

授業番号	B200090003		
科目名 (英語表記)	情報基礎 II (The information basics I I)	(R B)	
担当者 (英語表記)	清水 麻実 (Mami Shimizu)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	Microsoft 社の表計算ソフト Excel は実社会において必要不可欠なソフトです。Ver.2007 での知識・操作を習得することを目的とし、単純な入力だけでなく、計算式の挿入、表やグラフの作成・編集、データベース機能など、実務上必要な操作をひとつおろし学習します。		
授業の進め方 (履修条件など)	テキストは必須です。基本的な操作はテキストを中心にいきます。小テストや練習問題ではプリントを配布することもあります。操作等は個々の画面に提示し、インターネットやプレゼンテーションを使い情報を与えることもあります。		
成績評価方法	定期試験に授業時の課題を加味します。		
基準	課題をおこなわない場合は減点します。		
授業の予習・復習	欠席した場合は次回授業時までその分を終えておくことが望ましいです。		
教科書	実務に必須！ Excel 活用法		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	利用法、Windows の操作	受講者確認、ファイル削除・フォルダ作成	
第 2 回	ワークブック、Excel の概要	Public の参照方法、Excel の概要	
第 3 回	Excel の基礎	画面名称・入力・保存、拡張子について	
第 4 回	Excel の基礎	オートフィル機能・行 / 列の操作・式の入力と修正	
第 5 回	Excel の基礎	四則演算子・相対参照・関数の書式・集合関数	
第 6 回	Excel の基礎	比較演算子・絶対参照・セルの書式設定	
第 7 回	Excel の基礎	表のレイアウト・シートの保護・オプションの設定	
第 8 回	Excel の基礎	グラフの作成・編集・関数②	
第 9 回	Excel の基礎	印刷範囲・改ページ・印刷範囲・ページ設定	
第 10 回	Excel の基礎	印刷・関数のネスト・ヘッダーとフッター	
第 11 回	Excel の基礎	複合グラフ・Word への表の貼り付け	
第 12 回	Excel の基礎	データベース機能・オブジェクトの作成	
第 13 回	Excel の基礎	テンプレートの利用・リンク貼り付け	
第 14 回	Excel の基礎	総合問題	
第 15 回	まとめ	試験対策	

経済

授業番号	B200090004				
科目名 (英語表記)	情報基礎 II (The information basics I I)			(H)	
担当者 (英語表記)	成富 慶子 (Keiko Naritomi)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている 本講義では表計算ソフト Microsoft Excel を使用した基本操作を習熟してもらう				
授業の進め方 (履修条件など)	Microsoft Excel を使用して、実習を通して表計算を行う				
成績評価方法	実技テストで総合評価する				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書を見ながら操作する 復習：授業内に行った操作を練習問題などで復習する				
教科書	FOM 出版 Microsoft Office Word 2010 基礎 978-4-89311-849-3 FOM 出版 Microsoft Office Excel 2010 基礎 978-4-89311-847-9				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・講義概要			
第 2 回	Excel の基礎知識	Excel の概要、データ入力、データを編集、セルの範囲選択、ブックの保存、オートフィルの利用			
第 3 回	表の作成	関数の入力、罫線の塗りつぶし・表示形式・配置・フォント書式・列幅や行の高さの設定、列・行を削除・挿入			
第 4 回	数式の入力	関数の入力 2、さまざまな関数の利用、相対参照と絶対参照			
第 5 回	表の印刷	表の印刷、改ページプレビュー			
第 6 回	複数シートの操作	シート名の変更、作業グループの設定、シートの移動・コピー、シート間の集計、シートを挿入・削除、別シートのセルの参照			
第 7 回	グラフの作成	グラフ機能と概要、円グラフ・棒グラフの作成			
第 8 回	データベースの利用	データベース機能の概要、データの並べ替え、データの抽出、データベースの効率的操作			
第 9 回	セルやワークシートの書式設定	セル結合・解除、列・行の見出し設定、列・行の表示・非表示、ページ設定のオプション、セルのスタイルの作成・適用			
第 10 回	数式の入力 2	優先順位の理解、数式の場合付き論理、数式の名前付き範囲、数式のセル範囲の適用			
第 11 回	視覚的データ	図の適用、画像作成・修正、スパークライン			
第 12 回	データの共有	Backstage の使用とブックの共有、コメントの管理			
第 13 回	データの分析と整理	条件付き書式			
第 14 回	総合問題 1	総合問題 1			
第 15 回	総合問題 2	総合問題 2			

経済

授業番号	B200090005				
科目名 (英語表記)	情報基礎 II (The information basics I I)			(G)	
担当者 (英語表記)	成富 慶子 (Keiko Naritomi)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている 本講義では表計算ソフト Microsoft Excel を使用した基本操作を習熟してもらう				
授業の進め方 (履修条件など)	Microsoft Excel を使用して、実習を通して表計算を行う				
成績評価方法	実技テストで総合評価する				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書を見ながら操作する 復習：授業内に行った操作を練習問題などで復習する				
教科書	FOM 出版 Microsoft Office Word 2010 基礎 978-4-89311-849-3 FOM 出版 Microsoft Office Excel 2010 基礎 978-4-89311-847-9				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・講義概要			
第 2 回	Excel の基礎知識	Excel の概要, データ入力, データを編集, セルの範囲選択, ブックの保存, オートフィルの利用			
第 3 回	表の作成	関数の入力, 罫線の塗りつぶし・表示形式・配置・フォント書式・列幅や行の高さの設定, 列・行を削除・挿入			
第 4 回	数式の入力	関数の入力 2, さまざまな関数の利用, 相対参照と絶対参照			
第 5 回	表の印刷	表の印刷, 改ページプレビュー			
第 6 回	複数シートの操作	シート名の変更, 作業グループの設定, シートの移動・コピー, シート間の集計, シートを挿入・削除, 別シートのセルの参照			
第 7 回	グラフの作成	グラフ機能と概要, 円グラフ・棒グラフの作成			
第 8 回	データベースの利用	データベース機能の概要, データの並べ替え, データの抽出, データベースの効率的操作			
第 9 回	セルやワークシートの書式設定	セル結合・解除, 列・行の見出し設定, 列・行の表示・非表示, ページ設定のオプション, セルのスタイルの作成・適用			
第 10 回	数式の入力 2	優先順位の理解, 数式の場合付き論理, 数式の名前付き範囲, 数式のセル範囲の適用			
第 11 回	視覚的データ	図の適用, 画像作成・修正, スパークライン			
第 12 回	データの共有	Backstage の使用とブックの共有, コメントの管理			
第 13 回	データの分析と整理	条件付き書式			
第 14 回	総合問題 1	総合問題 1			
第 15 回	総合問題 2	総合問題 2			

経済

授業番号	B200090006				
科目名 (英語表記)	情報基礎 II (The information basics I I)			(A)	
担当者 (英語表記)	清水 麻実 (Mami Shimizu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	Microsoft 社の表計算ソフト Excel は実社会において必要不可欠なソフトです。Ver.2010 での知識・操作を習得することを目的とし、単純な入力だけでなく、計算式の挿入、表やグラフの作成・編集、データベース機能など、実務上必要な操作をひとつおし学習します。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的な操作はテキストを中心に行います。小テストや練習問題ではプリントで配布することもあります。操作等は個々の画面に提示し、インターネットやプレゼンテーションを使い情報を与えることもあります。				
成績評価方法 基準	定期試験に授業時の課題を加味します。 課題をおこなわない場合は減点します。				
授業の予習・復習	欠席した場合は次回授業時までその分を終えておくことが望ましいです。				
教科書	実務に必須！ Excel 活用法 創成社				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者確認、Q&A と Q&A			
第 2 回	Windows の操作	ファイル削除・フォルダ作成・Windows の操作			
第 3 回	ネットワーク・Excel の概要	Public の参照方法、Excel の概要			
第 4 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	拡張子について・オートフィル機能・行 / 列の操作			
第 5 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	式の入力と修正・四則演算子・相対参照			
第 6 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	関数の書式・集合関数・比較演算子・絶対参照			
第 7 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	セルの書式設定・罫線・表のレイアウト			
第 8 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	シートの操作・シートの保護・ワークブックの設定			
第 9 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	グラフ作成・グラフの編集・関数②			
第 10 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	印刷プレビュー・改ページプレビュー・ページ設定			
第 11 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	印刷・関数のネスト・ヘッダーとフッター			
第 12 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	複合グラフ・Word への表の貼り付け			
第 13 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	データベース機能・オブジェクトの作成			
第 14 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	テンプレートの利用・リンク貼り付け			
第 15 回	まとめ	試験対策			



経済

授業番号	B200090007				
科目名 (英語表記)	情報基礎 II (The information basics I I)			(R A)	
担当者 (英語表記)	清水 麻実 (Mami Shimizu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	Microsoft 社の表計算ソフト Excel は実社会において必要不可欠なソフトです。Ver.2010 での知識・操作を習得することを目的とし、単純な入力だけでなく、計算式の挿入、表やグラフの作成・編集、データベース機能など、実務上必要な操作をひとつおし学習します。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストは必須です。基本的な操作はテキストを中心にいきます。小テストや練習問題ではプリントを配布することもあります。操作等は個々の画面に提示し、インターネットを使い情報を与えることもあります。				
成績評価方法 基準	定期試験に授業時の課題を加味します。 課題をおこなわない場合は減点します。				
授業の予習・復習	欠席した場合は次回授業時までその分を終えておくことが望ましいです。				
教科書	実務に必須！ Excel 活用法 創成社				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者確認、ファイル削除・フォルダ作成			
第 2 回	ネットワーク・Windows の操作	Excel の概要			
第 3 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	画面名称・入力・保存、拡張子について			
第 4 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	オートフィル機能・行 / 列の操作・式の入力と修正			
第 5 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	四則演算子・相対参照・関数の書式・集合関数			
第 6 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	比較演算子・絶対参照・セルの書式設定			
第 7 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	表のレイアウト・シートの保護・オプションの設定			
第 8 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	グラフの作成・編集・関数②			
第 9 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	印刷プレビュー・改ページプレビュー・ページ設定			
第 10 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	印刷・関数のネスト・ヘッダーとフッター			
第 11 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	複合グラフ・Word への表の貼り付け			
第 12 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	データベース機能・オブジェクトの作成			
第 13 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	テンプレートの利用・リンク貼り付け			
第 14 回	まとめ	総合問題			
第 15 回	試験対策	総合問題			

経済

授業番号	B200090008				
科目名 (英語表記)	情報基礎 II (The information basics I I)			(F)	
担当者 (英語表記)	濱野 和人 (Kazuhito Hamano)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本講義では、タッチタイピングの向上を目指すと共に、Excel を使用し、①スプレッドシートの基礎、②表計算の基礎、③関数の基礎、④グラフ作成の基礎、⑤データ分析の基礎、に関する知識やそれを活用するスキルの強化を通じて、数値情報による基礎的表現技法の習得を目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件：実習中心の講義となるため、遅刻・欠席をすると後に響くので遅刻・欠席はしないこと。欠席をした場合は次回講義までに演習や課題をやっておくこと。 進め方：操作方法等を画面に提示しながら講義を進める。				
成績評価方法	①参加意欲・コメント (15%)、②タイピングテスト・演習・課題・試験 (85%) で総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	①最低 1 日 10 分のタイピング練習、②講義で扱った内容や操作方法を他人に教えられる程度にしておく。				
教科書	使用しない。				
参考文献	柏木将宏・坂田哲人・濱野和人他 (2012)『アカデミックリテラシー入門 [第三版]』, プイツーソリューション				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義概要、タッチタイピングの確認テスト			
第 2 回	スプレッドシート入門 (1)	各部名称の説明、文字・数字の入力、書式設定			
第 3 回	スプレッドシート入門 (2)	罫線、セル調整・結合、オートフィル、ページレイアウト			
第 4 回	スプレッドシート入門 (3)	Sheet 名の変更、四則演算子、相対参照			
第 5 回	表計算入門 (1)	関数①、絶対参照			
第 6 回	表計算入門 (2)	制限時間内での入力練習			
第 7 回	表計算入門 (3)	関数②、複数シートの操作、入れ子関数			
第 8 回	表計算入門 (4)	関数③、ウィンドウ枠の固定、ソート、フィルタ			
第 9 回	表計算入門 (5)	関数④、区切り位置指定ウィザード、+ と & の違い			
第 10 回	グラフ作成入門	グラフの作成・編集 (棒、折れ線、円)			
第 11 回	データ分析入門 (1)	ピボットテーブル			
第 12 回	データ分析入門 (2)	アンケートの作成・調査・集計・分析			
第 13 回	総合演習 (1)	学習内容のおさらいと復習			
第 14 回	タイピング入門	タッチタイピングによるタイピングテスト			
第 15 回	総合演習 (2)	まとめ			

# 経済

授業番号	B200090009				
科目名 (英語表記)	情報基礎 II (The information basics I I)			(E)	
担当者 (英語表記)	濱野 和人 (Kazuhito Hamano)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本講義では、タッチタイピングの向上を目指すと共に、Excel を使用し、①スプレッドシートの基礎、②表計算の基礎、③関数の基礎、④グラフ作成の基礎、⑤データ分析の基礎、に関する知識やそれを活用するスキルの強化を通じて、数値情報による基礎的表現技法の習得を目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件：実習中心の講義となるため、遅刻・欠席をすると後に響くので遅刻・欠席はしないこと。欠席をした場合は次回講義までに演習や課題をやっておくこと。 進め方：操作方法等を画面に提示しながら講義を進める。				
成績評価方法	①参加意欲・コメント (15%)、②タイピングテスト・演習・課題・試験 (85%) で総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	①最低 1 日 10 分のタイピング練習、②講義で扱った内容や操作方法を他人に教えられる程度にしておく。				
教科書	使用しない。				
参考文献	柏木将宏・坂田哲人・濱野和人他 (2012) 『アカデミックリテラシー入門 [第三版]』, プイツーソリューション				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義概要、タッチタイピングの確認テスト			
第 2 回	スプレッドシート入門 (1)	各部名称の説明、文字・数字の入力、書式設定			
第 3 回	スプレッドシート入門 (2)	罫線、セル調整・結合、オートフィル、ページレイアウト			
第 4 回	スプレッドシート入門 (3)	Sheet 名の変更、四則演算子、相対参照			
第 5 回	表計算入門 (1)	関数①、絶対参照			
第 6 回	表計算入門 (2)	制限時間内での入力練習			
第 7 回	表計算入門 (3)	関数②、複数シートの操作、入れ子関数			
第 8 回	表計算入門 (4)	関数③、ウィンドウ枠の固定、ソート、フィルタ			
第 9 回	表計算入門 (5)	関数④、区切り位置指定ウィザード、+ と & の違い			
第 10 回	グラフ作成入門	グラフの作成・編集 (棒、折れ線、円)			
第 11 回	データ分析入門 (1)	ピボットテーブル			
第 12 回	データ分析入門 (2)	アンケートの作成・調査・集計・分析			
第 13 回	総合演習 (1)	学習内容のおさらいと復習			
第 14 回	タイピング入門	タッチタイピングによるタイピングテスト			
第 15 回	総合演習 (2)	まとめ			

# 経済

授業番号	B200090010				
科目名 (英語表記)	情報基礎 II (The information basics I I)			(D)	
担当者 (英語表記)	濱野 和人 (Kazuhito Hamano)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本講義では、タッチタイピングの向上を目指すと共に、Excel を使用し、①スプレッドシートの基礎、②表計算の基礎、③関数の基礎、④グラフ作成の基礎、⑤データ分析の基礎、に関する知識やそれを活用するスキルの強化を通じて、数値情報による基礎的表現技法の習得を目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件：実習中心の講義となるため、遅刻・欠席をすると後に響くので遅刻・欠席はしないこと。欠席をした場合は次回講義までに演習や課題をやっておくこと。 進め方：操作方法等を画面に提示しながら講義を進める。				
成績評価方法	①参加意欲・コメント (15%)、②タイピングテスト・演習・課題・試験 (85%) で総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	①最低 1 日 10 分のタイピング練習、②講義で扱った内容や操作方法を他人に教えられる程度にしておく。				
教科書	使用しない。				
参考文献	柏木将宏・坂田哲人・濱野和人他 (2012) 『アカデミックリテラシー入門 [第三版]』, プイツーソリューション				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義概要、タッチタイピングの確認テスト			
第 2 回	スプレッドシート入門 (1)	各部名称の説明、文字・数字の入力、書式設定			
第 3 回	スプレッドシート入門 (2)	罫線、セル調整・結合、オートフィル、ページレイアウト			
第 4 回	スプレッドシート入門 (3)	Sheet 名の変更、四則演算子、相対参照			
第 5 回	表計算入門 (1)	関数①、絶対参照			
第 6 回	表計算入門 (2)	制限時間内での入力練習			
第 7 回	表計算入門 (3)	関数②、複数シートの操作、入れ子関数			
第 8 回	表計算入門 (4)	関数③、ウィンドウ枠の固定、ソート、フィルタ			
第 9 回	表計算入門 (5)	関数④、区切り位置指定ウィザード、+ と & の違い			
第 10 回	グラフ作成入門	グラフの作成・編集 (棒、折れ線、円)			
第 11 回	データ分析入門 (1)	ピボットテーブル			
第 12 回	データ分析入門 (2)	アンケートの作成・調査・集計・分析			
第 13 回	総合演習 (1)	学習内容のおさらいと復習			
第 14 回	タイピング入門	タッチタイピングによるタイピングテスト			
第 15 回	総合演習 (2)	まとめ			

経済

授業番号	B201760001				
科目名 (英語表記)	情報社会と倫理 (Information society and ethics)				
担当者 (英語表記)	井手 雅哉 (Masaya Ide)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	情報技術の向上により社会における情報化が進展し、様々な分野にその成果をもたらしているが、同時に負の影響も少なからず存在する。本科目では、情報化の浸透を概観し、状況を理解するとともに、トラブルに巻き込まれたり、他者へ迷惑をかけたりしないような姿勢を身につけることを目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	通常の講義形式で、実例の紹介を多く取り入れていく。				
成績評価方法	定期試験 (100%)				
基準					
授業の予習・復習	予習・復習：関連報道・書籍に目を通す。				
教科書	教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。				
参考文献	村田潔、『情報倫理：インターネット時代の人と組織』、有斐閣、2004.12.25.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業内容・進め方・評価に関する説明			
第 2 回	社会における情報化の進展 1	コンピュータの普及と情報処理能力の向上			
第 3 回	社会における情報化の進展 2	ネットワークの形成			
第 4 回	社会における情報化の進展 3	産業における情報化の進展 1 (銀行オンライン, CRS など)			
第 5 回	社会における情報化の進展 4	産業における情報化の進展 2 (NC 工作, POS など)			
第 6 回	社会における情報化の進展 5	行政における情報化の進展			
第 7 回	社会における情報化の進展 6	生活における情報化の進展 (組込みシステム, インターネットの普及)			
第 8 回	社会における情報化の進展 7	情報社会の概念			
第 9 回	情報化の進展に伴う諸問題 1	セキュリティ確保の必要性 1 (機密性)			
第 10 回	情報化の進展に伴う諸問題 2	セキュリティ確保の必要性 2 (完全性)			
第 11 回	情報化の進展に伴う諸問題 3	セキュリティ確保の必要性 3 (可用性)			
第 12 回	情報化の進展に伴う諸問題 4	犯罪との関わり			
第 13 回	情報化の進展に伴う諸問題 5	情報発信手段の一般化とモラルの低下			
第 14 回	情報化の進展に伴う諸問題 6	ネチケット			
第 15 回	情報化の進展に伴う諸問題 7	著作権の保護			

# 経済

授業番号	B201390001		
科目名 (英語表記)	情報セキュリティ論 (Information security theory)		
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	情報化の進んだ今日では、インターネットを扱えることが必須となっています。しかし、インターネット利用の急激な普及とともに、セキュリティの確保が大きな問題となっています。授業のねらいはインターネットの危険性およびセキュリティ対策の仕組みを学ぶことで、到達目標は高いセキュリティ意識に基づく PC 利用能力を身につけることです。		
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件として、「ネットワークシステム論 (前期)」を履修していることです。配布資料と PowerPoint を用いて講義を行います。配布資料はキーワードが抜けていますので、講義を聞きながら穴埋めしてもらいます。最後に論述式の小テストを毎回行います。次回の講義で小テストの解説をします。		
成績評価方法	期末試験 (60%)、小テスト (40%) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	授業の最後に次回の予習項目を示しますので、予習しておいてください。また、常日頃情報セキュリティ関連のニュースに関心を持ってください。復習は、その授業で説明した内容を説明できるように、よく理解しておいてください。		
教科書	毎回、資料を配布します。		
参考文献	佐々木良一著『インターネットセキュリティ入門』岩波新書 熊谷誠治 著『誰も教えてくれなかったインターネットセキュリティのしくみ』日経 B P 社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認、講義の概要、セキュリティとコンプライアンス	
第 2 回	情報社会の危険性	インターネット利用に潜む危険性と事例	
第 3 回	意図的脅威の種類	脅威の分類、コンピュータ犯罪の事例	
第 4 回	セキュリティ対策	セキュリティ対策の分類	
第 5 回	アクセス管理技術 1	ユーザ認証技術	
第 6 回	アクセス管理技術 2	アクセス制限技術	
第 7 回	アクセス管理技術 3	ファイアウォールの仕組み	
第 8 回	中間テスト	第 7 回目までの範囲の論述試験	
第 9 回	暗号技術	暗号の仕組み、共通鍵暗号、公開鍵暗号	
第 10 回	デジタル署名	公開鍵暗号による本人認証とメッセージダイジェストによるメッセージ認証	
第 11 回	暗号技術の実際	Eメールにおける暗号技術の組み合わせ方、暗号強度	
第 12 回	間接的対策	セキュリティ監視、セキュリティ教育他	
第 13 回	個人レベルのセキュリティ対策	ユーザ自身がやるべきこと	
第 14 回	管理者レベルのセキュリティ対策	企業が信頼を失わないためのセキュリティ対策	
第 15 回	まとめ	要点と試験対策	

# 経済

授業番号	B203030001				
科目名 (英語表記)	情報と職業 (Information and an occupation)				
担当者 (英語表記)	須之内 義昭 (Yoshiaki Sunouchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	情報化社会の進展と情報関連職業、並びに情報倫理を含む職業観などを学び、情報に関する職業人としての在り方を理解することを目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	配布プリントによる講義形式を中心とし、情報化社会における情報産業の役割とそこで働く職業人として必要な基本的事柄を具体的な事例に基づき学習する。				
成績評価方法	定期試験 (70%)・課題作成 (10%)・授業参加態度 (20%)				
基準					
授業の予習・復習	予習： 情報関連の記事や文献等に日常的に目を通し、情報化社会の現状を把握しておくこと。 復習： 毎回の講義内容等を整理し、疑問点は調査や質問等により必ず解消しておくこと。				
教科書	プリント教材を配布して使用する。				
参考文献	「情報と職業」 豊田雄彦・加藤 晃・鈴木和雄共著 (株)日本教育訓練センター 「実践情報システム」 秋山哲男著 中央経済社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	「情報と職業」の意義	目標と授業計画			
第 2 回	情報産業と職業	産業の情報化と情報の産業化			
第 3 回	情報関連の業種	情報に関連した仕事			
第 4 回	情報化の進展と専門職	情報処理と情報関連専門職			
第 5 回	オフィス・コンピューティング	仕事の効率化と業績の向上			
第 6 回	情報に関連する職業資格	職業資格と職業適性			
第 7 回	キャリア形成と自己理解	キャリア形成と企業が求める人材像			
第 8 回	情報に関わる法制度 (1)	法体系と情報に関する法令			
第 9 回	情報に関わる法制度 (2)	情報化の進展と法制度の整備			
第 10 回	情報倫理	情報倫理の要素と情報モラル			
第 11 回	情報化とプライバシー	プライバシーポリシーとガイドライン			
第 12 回	情報リスクマネジメント	マネジメントとセキュリティポリシー			
第 13 回	キャリアデザイン	キャリア形成とキャリア支援			
第 14 回	情報技術とビジネス	ビジネスへの情報技術の活用			
第 15 回	まとめ	講義のまとめ			

# 経済

授業番号	B201030001		
科目名 (英語表記)	情報マネジメント (Information management)		
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	情報社会では、情報に価値があり、情報サービスそのものが商品として取引されています。授業のねらいは、そのような情報の特性やコンテンツビジネスに関する基本的な考え方や仕組みを学ぶことで、到達目標は基本的な考え方や仕組みを説明できる程に理解することです。		
授業の進め方 (履修条件など)	配布資料と PowerPoint を用いて講義を行います。配布資料はキーワードが抜けていますので、講義を聞きながら穴埋めしてもらいます。最後に論述式の小テストを毎回行います。次回の講義で小テストの解説をします。		
成績評価方法	期末試験 (60%)、小テスト (40%) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	授業の最後に次回の予習項目を示しますので、予習しておいてください。また、常日頃 IT 産業やコンテンツ産業関連のニュースに関心を持ってください。復習は、基本的な考え方や実例を説明できるように、よく理解しておいてください。		
教科書	毎回、資料を配布します。		
参考文献	カール＝シャピロ・ハル R バリアン『ネットワーク経済の法則』IDG コミュニケーションズ 新宅純二郎・柳川範之編『フリーコピーの経済学』日本経済新聞出版社 魏晶玄『韓国のオンラインゲームビジネス研究』東洋経済新報社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要、注意事項他	
第 2 回	情報の定義	情報社会における情報の価値と特徴	
第 3 回	情報の経済学的意義	伝統的経済学と情報の関係	
第 4 回	情報財市場	製品と価格の差別化	
第 5 回	情報財の価値	情報財の価格付け	
第 6 回	知的財産権のマネジメント	流通費用と生産費用の削減効果	
第 7 回	ロックイン効果	ロックイン効果の特徴と分類	
第 8 回	中間テスト	第 7 回までの範囲の論述試験	
第 9 回	無料ビジネスのマネジメント	無料ビジネスのタイプと特徴	
第 10 回	コンテンツ産業	コンテンツ産業の分類と現状	
第 11 回	ゲーム産業	任天堂と SCE の戦略	
第 12 回	ゲーム産業とフリーコピー	フリーコピー問題の本質	
第 13 回	オンラインゲームビジネス 1	ビジネスモデルと韓国での事例	
第 14 回	オンラインゲームビジネス 2	韓国企業の戦略	
第 15 回	まとめ	要点と試験対策	



経済

授業番号	B203080001				
科目名 (英語表記)	職業指導 I (Vocational counseling I)				
担当者 (英語表記)	坂本 義孝 (Yoshitaka Sakamoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	職業指導は、一人一人の生徒が自己を理解して自ら将来進むべき道を選択し、自ら決定できる能力を育てるとともに、自分の生きがいと深くかかわる自覚を深めさせる指導である。生徒に対してそのような指導ができる教員として必要な知識・技法について学び、在るべき職業指導について研究する。				
授業の進め方 (履修条件など)	職業指導の概念、歴史的背景等について考察し、職業指導、進路指導、キャリア教育の基礎理論を中心に進める。				
成績評価方法	レポート提出、平常点、定期試験、その他の小テストの結果を勘案し、評価する。				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習 自らの勤労観、職業観を考察するとともに、自己のキャリア形成の観点からも職業指導のあり方を展望し、関係情報を収集しておくこと。</p> <p>復習 毎回の講義内容を整理するとともに、疑問な点は調査確認をするなり、質問するなりして確実なものとすること。</p>				
教科書	プリント教材を配布する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業計画概要			
第 2 回	社会の変化と職業	職業の発生、職業の種類			
第 3 回	職業指導と進路指導	概念と定義			
第 4 回	職業指導・キャリア教育	草創と社会的背景			
第 5 回	キャリア教育	概念と定義			
第 6 回	我が国の職業指導	学校教育への導入と歴史的発展			
第 7 回	職業指導・キャリア教育	選択理論、適応理論、発達理論			
第 8 回	職業適性	適性の分類と検査法			
第 9 回	進路指導の理念と性格	基本的性格、進路指導の一般原理			
第 10 回	進路学習指導	教育課程への位置づけ			
第 11 回	進路指導の現状と課題	高等学校の進路指導の状況			
第 12 回	校内組織体制の確立	校内組織と指導体制			
第 13 回	進路指導・キャリア教育	各教員の役割			
第 14 回	進路指導と進路相談	進路相談の目的、担任の役割			
第 15 回	まとめ	講義のまとめ			

# 経済

授業番号	B203090001		
科目名 (英語表記)	職業指導 II (Vocational counseling II)		
担当者 (英語表記)	坂本 義孝 (Yoshitaka Sakamoto)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	職業指導は、一人一人の生徒が自己を理解して自ら将来進むべき道を選択し、自ら決定できる能力を育てるとともに、自分の生きがいと深くかかわる自覚を深めさせる指導である。生徒に対してそのような指導ができる教員として必要な知識・技法について学び、在るべき職業指導について研究する。		
授業の進め方 (履修条件など)	高等学校における進路キャリア教育の実践に必要な知識・技法について、できるだけ具体的な内容を取り上げ、教員としての実践的な指導力がつくように進める。		
成績評価方法	レポート提出、平常点、定期試験、その他の小テストの結果を勘案し、評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習 自らの勤労観、職業観を考察するとともに、自己のキャリア形成の観点からも職業指導のあり方を展望し、関係情報を収集しておくこと。 復習 毎回の講義内容を整理するとともに、疑問な点は調査確認するなり、質問するなりして確実なものとする。		
教科書	プリント教材を配布する。		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	学校におけるキャリア教育	現状とその重要性	
第 2 回	学ぶ力の育成とキャリア教育	キャリア教育の意義	
第 3 回	キャリア発達のガイドライン	育成する能力領域	
第 4 回	自己情報の理解	理解の方法と理解に当たっての留意点	
第 5 回	進路情報の理解	進路情報理解のための指導及び支援	
第 6 回	啓発的経験	キャリア教育における体験と経験	
第 7 回	キャリア カウンセリング	展開と手順並びに基礎的スキルと留意点	
第 8 回	進路選択決定への支援	進路選択・進路決定への支援	
第 9 回	追指導	追指導の内容と学校キャリア教育の評価	
第 10 回	キャリア教育の計画・実践・評価	目標と留意点	
第 11 回	産業界が重視する能力	企業が採用時に重視する能力	
第 12 回	インターンシップ	意義とその実施	
第 13 回	労働界における職業指導	経済・雇用状況と諸課題	
第 14 回	職業に関する法規	関係法規、雇用対策	
第 15 回	まとめ	講義のまとめ	

# 経済

授業番号	B201940001				
科目名 (英語表記)	食料経済論 (Food economy theory)				
担当者 (英語表記)	稲葉 弘道 (Hiromichi Inaba)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	わが国の食料需給は米などの過剰と大豆等の不足が共存している。一方、世界の食料需給については、穀物生産は量的には十分といえるが、先進国の過剰と開発途上国の不足が共存している。これは食料生産を増やせばよいというだけでなく、経済問題であることの証である。以上の困難な食料農業問題を考える能力をつけることを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	食料に関わる経済的な問題を基礎から説明する。まず、わが国および世界の食料農業問題の全体像を配布資料により簡潔に説明した後、教科書を使って個別の事項を詳しく学ぶ。説明にはパワーポイントを利用する。				
成績評価方法	定期試験 ( 60 %) ・ 課題作成および授業参加態度 ( 40 % )				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書と配布資料により予習をしておくこと。 復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行っておく。				
教科書	高橋正郎著『食料経済』理工学社				
参考文献	農林水産省『農業白書』農林統計協会				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要			
第 2 回	わが国の食料需給の現状	食生活の変化・主要農産物の生産動向			
第 3 回	わが国の食料需給の現状	農産物の自給率と農業政策			
第 4 回	わが国の食料需給の現状	農産物輸入と食料の安全保障			
第 5 回	世界の食料需給の現状	食料需要の変化と食料の南北問題			
第 6 回	世界の食料需給の現状	世界の食料の需給動向			
第 7 回	世界の食料需給の現状	世界の農業政策			
第 8 回	わが国の食料・農業問題と食の安全	わが国の食料供給の問題点			
第 9 回	わが国の食料・農業問題と食の安全	食料の安定供給と展望			
第 10 回	食生活の変遷と特徴	わが国の食生活小史			
第 11 回	食生活の変遷と特徴	第 2 次大戦後の食生活の変化			
第 12 回	食生活の変遷と特徴	食生活変化の背景			
第 13 回	食生活の変遷と特徴	“食”の国際比較			
第 14 回	食生活の変遷と特徴	“食”の地域性。地産地消とスローフード			
第 15 回	まとめ	まとめと質疑応答			

経済

授業番号	B202270001				
科目名 (英語表記)	人的資源管理 I (Human Resource Management I)				
担当者 (英語表記)	高木 朋代 (Tomoyo Takagi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	これから社会に出ていく皆さんが、企業内で行われている人事管理の仕組みを知っておくことは極めて重要といえます。本講義は、企業がどのような論理に基づいて、人の採用、配置、評価・処遇等を決めているのかを理解することを目的としています。				
授業の進め方 (履修条件など)	人的資源管理 I と II を合わせて受講することをお勧めします。人的資源管理 I では、特に「採用」「異動」「能力開発」を中心に勉強します。授業では、ビデオ鑑賞や討論などの実習をまじえながら、理論と実際の両方について解説します。				
成績評価方法	授業内で実施する小論文 (30%) と定期試験 (70%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。 復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。				
教科書	必要に応じて独自に資料を配布します。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図			
第 2 回	人という資源	人の育成と活用について考える			
第 3 回	採用のマネジメント	柔軟な企業モデルと人材ポートフォリオ			
第 4 回	採用のマネジメント	企業は新卒者に何を期待しているのか			
第 5 回	採用のマネジメント	採用の方法とその注意点、問題点			
第 6 回	異動のマネジメント	人事異動とジョブ・ローテーション			
第 7 回	異動のマネジメント	異動方式の多様化とその意味			
第 8 回	異動のマネジメント	キャリア開発としての異動、その注意点			
第 9 回	能力開発のマネジメント	能力の種類			
第 10 回	能力開発のマネジメント	能力開発の方法			
第 11 回	能力開発のマネジメント	能力開発をめぐる個人と組織			
第 12 回	企業と人	若年者雇用と人的資源管理			
第 13 回	企業と人	経営思想と人的資源管理			
第 14 回	企業と人	企業経営と人的資源管理			
第 15 回	日本の人的資源管理	採用・異動・能力開発における今日的課題			

# 経済

授業番号	B202280001				
科目名 (英語表記)	人的資源管理 II (Human Resource Management II)				
担当者 (英語表記)	高木 朋代 (Tomoyo Takagi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	これから社会に出ていく皆さんが、企業内で行われている人事管理の仕組みを知っておくことは極めて重要といえます。本講義は、企業がどのような論理に基づいて、人の採用、配置、評価・処遇等を決めているのかを理解することを目的としています。				
授業の進め方 (履修条件など)	人的資源管理 I と II を合わせて受講することをお勧めします。人的資源管理 II では、特に「評価・処遇」「組織からの退出」を中心に勉強します。授業では、ビデオ鑑賞や討論などの実習をまじえながら、理論と実際の両方について解説します。				
成績評価方法	授業内で実施する小論文 (30%) と定期試験 (70%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。 復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。				
教科書	必要に応じて独自に資料を配布します。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図			
第 2 回	評価・処遇のマネジメント	評価・処遇をめぐる個人と組織			
第 3 回	評価・処遇のマネジメント	人事考課と昇格・昇進システム			
第 4 回	評価・処遇のマネジメント	評価の仕組みとその注意点、問題点			
第 5 回	評価・処遇のマネジメント	賃金といわれるものの中身			
第 6 回	評価・処遇のマネジメント	賃金体系の特徴とそのメリット・デメリット			
第 7 回	退出のマネジメント	雇用調整の論理			
第 8 回	退出のマネジメント	雇用調整の時期と方法			
第 9 回	退出のマネジメント	解雇と中途退職			
第 10 回	退出のマネジメント	定年退職と雇用継続			
第 11 回	退出のマネジメント	入社から退職までの長期的なキャリアマネジメント			
第 12 回	ビデオ鑑賞と討論	成功者の職業キャリア①			
第 13 回	ビデオ鑑賞と討論	成功者の職業キャリア②			
第 14 回	働くということ	幸せな職業人生とは			
第 15 回	日本の人的資源管理	評価・処遇・退出管理における今日的課題			

経済

授業番号	B200400001				
科目名 (英語表記)	心理学 (Psychology)				
担当者 (英語表記)	藤井 輝男 (Teruo Fujii)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	「行動科学」とも呼ばれている心理学の研究手法、研究成果を理解し、人間の行動を心理学的に理解する。				
授業の進め方 (履修条件など)	具体的な研究例を取り上げ、初学者でも分かるように概説する。その際、必要に応じてプリント、OHP、ビデオ、パワーポイント等を利用する。				
成績評価方法	定期試験 (80%)・レポート及びその他の課題 (20%)				
基準					
授業の予習・復習	講義内容をその都度整理し、理解しておく。				
教科書	使用しない。授業時に資料を配付する。				
参考文献	重野純編著「キーワードコレクション・心理学」新曜社				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて			
第2回	心理学とは	行動科学としての心理学			
第3回	心理学の方法 (1)	観察法、実験法について具体例をあげて解説する			
第4回	心理学の方法 (2)	質問紙法、事例研究法などについて解説する			
第5回	心理学のもののとらえ方	心をどう考えるか、心を知るための研究とは			
第6回	感覚・知覚 (1)	視覚情報の入り口である目について解説する			
第7回	感覚・知覚 (2)	視覚の特性について			
第8回	感覚・知覚 (3)	錯視・錯覚現象について具体例をあげながら解説する			
第9回	学 習 (1)	古典的条件付け			
第10回	学 習 (2)	道具的条件付け			
第11回	学 習 (3)	学習理論と日常生活について			
第12回	記 憶 (1)	記憶の構造について			
第13回	記 憶 (2)	記憶の種類 (短期記憶と長期記憶)			
第14回	記 憶 (3)	忘却について			
第15回	まとめ	まとめと質問			

経済

授業番号	B201430001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座 (金融・情報) III (Course support lecture III Finance and information)				
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、ファイナンシャル・プランニング技能検定3級の内容について理解することにある。ファイナンシャル・プランニング技能検定の目的は、顧客の資産に応じた貯蓄・投資などのプランの立案・相談に必要な技能の程度を検定することである。この授業では、技能検定3級に合格できる知識と技能を習得することを到達目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には、テキストを活用して検定の出題範囲となるテーマを学習する。また、履修者の理解を促すために、適宜問題集や過去問題を用いた問題演習を行う。こうして、ファイナンシャル・プランニングの機能やその一連の流れについて理解できるようにする。さらに、毎回の授業では、前回までの復習を行うことで知識の定着を図る。				
成績評価方法	課題： 13回の課題提出を義務づけており、各10点満点で採点し、それを成績評価に換算する。				
基準					
授業の予習・復習	①次回の授業までに、テキストの該当箇所を熟読して授業に臨むこと。 ②授業で取り上げた箇所の復習を怠らないこと。 ③課題や宿題については必ずやり遂げ提出すること。				
教科書	ファイナンシャルバンク インスティテュート編著『わかる！FP技能士3級 最速テキスト 2012-2013年版』日本経済新聞出版社、2012年。 ファイナンシャルバンク インスティテュート編著『わかる！FP技能士3級 最速問題集 2012-2013年版』日本経済新聞出版社、2012年。				
参考文献	なし。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	本授業の概要と今後の進め方、成績評価について説明			
第2回	ライフプランニングと資金計画Ⅰ	ファイナンシャル・プランニングと倫理、ファイナンシャル・プランニングと関連法規			
第3回	ライフプランニングと資金計画Ⅱ	年金と税金、ライフプラン策定上の資金計画、ローン及びカード			
第4回	リスク管理Ⅰ	リスクマネジメント、保険制度全般、生命保険、損害保険			
第5回	リスク管理Ⅱ	第三分野の保険、リスク管理及び保険、リスク管理の最新の動向			
第6回	金融資産運用Ⅰ	マーケット環境の理解、預貯金・金融類似商品等、投資信託、債券投資、株式投資、外貨建商品			
第7回	金融資産運用Ⅱ	ポートフォリオ運用、金融商品と税金、セーフティネット、関連法規、金融資産運用の最新の動向			
第8回	タックスプランニングⅠ	わが国の税制、所得税の仕組み、各種所得の内容、損益通算、所得控除、税額控除、定率減税			
第9回	タックスプランニングⅡ	所得税の申告と納付、個人住民税、個人事業税、タックスプランニングの最新の動向			
第10回	不動産Ⅰ	不動産の見方、不動産の取引、不動産に関する法令上の規制、不動産の取得・保有に係る税金			
第11回	不動産Ⅱ	不動産の譲渡に係る税金、不動産の賃貸、不動産の有効活用、不動産の証券化			
第12回	相続・事業承継Ⅰ	贈与と法律、贈与と税金、相続と法律、相続及び税金			
第13回	相続・事業承継Ⅱ	相続財産の評価、不動産の相続対策、相続と保険の活用、相続・事業承継の最新の動向			
第14回	問題演習Ⅰ	過去に出題された問題を使用した問題演習の実施①			
第15回	問題演習Ⅱ	過去に出題された問題を使用した問題演習の実施②			

# 経済

授業番号	B201440001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座 (金融・情報) IV (Course support lecture IV Finance and information)				
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、日商簿記検定3級の内容について理解することにある。簿記とは、企業の経営活動を記録・計算・整理し、財政状態と経営成績を明らかにするための技法である。この授業では、簿記検定3級に合格できる知識と技能を習得することを到達目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には、テキストを活用して検定の出題範囲となるテーマを学習する。また、履修者の理解を促すために、適宜問題集や過去問題を用いた問題演習を行う。こうして、簿記一巡や財務諸表の作成について理解できるようにする。さらに、毎回の授業では、前回までの復習を行うことで知識の定着を図る。				
成績評価方法	課 題： 13回の課題提出を義務づけており、各10点満点で採点し、それを成績評価に換算する。				
基準					
授業の予習・復習	① 次回の授業までに、テキストの該当箇所を熟読して授業に臨むこと。 ② 授業で取り上げた箇所の復習を怠らないこと。 ③ 課題や宿題については必ずやり遂げ提出すること。				
教科書	TAC 簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記3級 Ver.6.0 (よくわかる簿記シリーズ)』TAC 出版、第6版、2011年。 TAC 簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記3級 Ver.6.0 (よくわかる簿記シリーズ)』TAC 出版、第6版、2011年。				
参考文献	なし。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	本授業の概要と今後の進め方、成績評価について説明			
第2回	簿記の基礎概念	資産と負債・純資産の均衡、収益と費用			
第3回	複式簿記の基本構造	取引の意義と複式記入、借方・貸方、勘定、仕訳、仕訳帳、元帳			
第4回	取引から決算まで	貸借平均の原理、取引の仕訳から決算まで			
第5回	資産勘定の処理	現金・預金・売掛金の仕訳、元帳転記			
第6回	負債・資本勘定の処理	買掛金・借入金・資本金等の仕訳、元帳転記			
第7回	収益・費用勘定の処理	売上・受取利息等の収益と給料・交通費・支払利息等の費用の仕訳、元帳転記			
第8回	諸勘定の仕訳と元帳転記	複雑な取引と元帳転記			
第9回	現金・預金の処理	小切手、小口現金、普通預金、当座預金等			
第10回	手形取引の処理	手形の意義、約束手形、為替手形の処理、裏書・割引、不渡、金融手形の意味			
第11回	決算の仕方と試算表	決算の意義・構造、試算表の構造			
第12回	決算整理 I	決算整理の処理①			
第13回	決算整理 II	決算整理の処理②			
第14回	精算表	精算表の仕組と作成			
第15回	財務諸表の作成	貸借対照表と損益計算書の作成練習			



# 経済

授業番号	B201600001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座 (経済) III (Course support lecture III Economy)				
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	多くの企業が採用テストとして実施している SPI 2のうち、非言語 (数学に相当) の問題で、とりわけ重要と思われるものに焦点を充てて解説する。解法のパターンを理解し、問題練習を行うことで、SPI 2の問題に対して「慣れる」ことを目標としている。				
授業の進め方 (履修条件など)	頻出単元を7つに絞り、各単元を2週で完結する。第1週目は、例題を使い解法を解説する。第2週目には問題演習に取り組んでもらう。授業時間内に解き切れなかった者には、後日解いて提出させる。				
成績評価方法	演習問題の解答提出状況 (時間内・時間外を問わない) = 50%、				
基準	定期試験 (SPI 2を想定した問題) = 50%				
授業の予習・復習	予習 = 計算力を維持するために、簡単な計算問題を毎日解くこと 復習 = 配布された例題や演習問題を完全に自力で解けるようになるまで繰り返し解き直すこと 解法を「暗記」するつもりで声に出して、自分で自分に教えてみる。				
教科書	毎回講師が作成したプリントを配布します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	SPI とは何か? 授業の進め方・評価方法の解説			
第2回	損益算①	例題の解説			
第3回	損益算②	問題演習			
第4回	分割払い①	例題の解説			
第5回	分割払い②	問題演習			
第6回	料金の割引①	例題の解説			
第7回	料金の割引②	問題演習			
第8回	代金の精算①	例題の解説			
第9回	代金の精算②	問題演習			
第10回	速さ・時間・距離①	例題の解説			
第11回	速さ・時間・距離②	問題演習			
第12回	順列・組み合わせ①	例題の解説			
第13回	順列・組み合わせ②	問題演習			
第14回	確率①	例題の解説			
第15回	確率②	問題演習			

# 経済

授業番号	B201610001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座 (経済) IV (Course support lecture IV Economy)				
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	多くの企業が採用テストとして実施している SPI 2のうち、非言語 (数学に相当) の問題で、とりわけ重要と思われるものに焦点を充てて解説する。解法のパターンを理解し、問題練習を行うことで、SPI 2の問題に対して「慣れる」ことを目標としている。				
授業の進め方 (履修条件など)	頻出単元を7つに絞り、各単元を2週で完結する。第1週目は、例題を使い解法を解説する。第2週目には問題演習に取り組んでもらう。授業時間内に解き切れなかった者には、後日解いて提出させる。				
成績評価方法	演習問題の解答提出状況 (時間内・時間外を問わない) = 50%、				
基準	定期試験 (SPI 2を想定した問題) = 50%				
授業の予習・復習	予習 = 計算力を維持するために、簡単な計算問題を毎日解くこと 復習 = 配布された例題や演習問題を完全に自力で解けるようになるまで繰り返し解き直すこと 解法を「暗記」するつもりで声に出して、自分で自分に教えてみる。				
教科書	毎回講師が作成したプリントを配布します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	推論①	例題の解説			
第2回	推論②	問題演習			
第3回	集合①	例題の解説			
第4回	集合②	問題演習			
第5回	表の読み取り①	例題の解説			
第6回	表の読み取り②	問題演習			
第7回	グラフの領域①	例題の解説			
第8回	グラフの領域②	問題演習			
第9回	ブラックボックス①	例題の解説			
第10回	ブラックボックス②	問題演習			
第11回	物の流れと比率①	例題の解説			
第12回	物の流れと比率②	問題演習			
第13回	総合演習①	SPI 2の問題を実践練習			
第14回	総合演習②	SPI 2の問題を実践練習			
第15回	総合演習③	SPI 2の問題を実践練習			

# 経済

授業番号	B201210001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座 I (経済系コース共通) (Course support lecture I)				
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本授業では、就職対策講座として公務員試験または民間就職筆記試験の基礎を学ぶことを目的とし、3年後の就職試験に万全の体制で臨むための基礎作りを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	公務員試験、民間就職筆記試験に対応できるよう基礎を繰り返し学習します。欠席せずに、受講すれば基礎が身につくよう講義を展開します。 なお、公務員就職希望、民間企業就職希望の学生は、ぜひ履修してください。				
成績評価方法	定期試験、授業態度				
基準					
授業の予習・復習	復習；授業で指示した箇所については、必ず次回の講義までに復習して授業に臨んでください。				
教科書	初回の授業時に指示します				
参考文献	初回の授業時に指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	数学の基礎①	整数の性質			
第 2 回	数学の基礎②	計算			
第 3 回	数学の基礎③	展開と因数分解			
第 4 回	数学の基礎④	方程式			
第 5 回	数学の基礎⑤	関数			
第 6 回	数学の基礎⑥	規則性			
第 7 回	数学の基礎⑦	比と割合			
第 8 回	数学の基礎⑧	速さ			
第 9 回	数学の基礎⑨	特殊算			
第 10 回	数学の基礎⑩	場合の数と確率			
第 11 回	数学の基礎⑪	図形の基本			
第 12 回	数学の基礎⑫	円の性質			
第 13 回	数学の基礎⑬	合同と相似			
第 14 回	数学の基礎⑭	三平方の定理			
第 15 回	数学の基礎全般	数学の基礎全般			

経済

授業番号	B201220001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座 II (経済系コース共通) (Course support lecture II)				
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本授業では、就職対策講座として公務員試験または民間就職筆記試験の基礎を学ぶことを目的とし、3年後の就職試験に万全の体制で臨むための基礎作りを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	公務員試験、民間就職筆記試験に対応できるよう基礎を繰り返し学習します。欠席せずに、受講すれば基礎が身につくよう講義を展開します。 なお、公務員就職希望、民間企業就職希望の学生は、ぜひ履修してください。				
成績評価方法	定期試験、授業態度				
基準					
授業の予習・復習	復習：授業で指示した箇所については、必ず次回の講義までに復習して授業に臨んでください。				
教科書	初回の授業時に指示します。				
参考文献	初回の授業時に指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	数的処理①	判断推理① (論理・真偽)			
第2回	数的処理②	判断推理② (対応関係)			
第3回	数的処理③	判断推理③ (順序関係・暗号)			
第4回	数的処理④	判断推理④ (操作手順)			
第5回	数的処理⑤	数的推理① (整数・比と割合)			
第6回	数的処理⑥	数的推理② (記数法・数列)			
第7回	数的処理⑦	数的推理③ (速さ・文章題)			
第8回	数的処理⑧	数的推理④ (場合の数・確率)			
第9回	数的処理⑨	図形① (正多面体・軌跡・移動)			
第10回	数的処理⑩	図形② (図形の計量)			
第11回	数的処理⑪	資料解釈 (資料の見方・簡単な計算)			
第12回	数的処理⑫	判断推理のまとめ			
第13回	数的処理⑬	数的推理のまとめ			
第14回	数的処理⑭	図形・資料解釈のまとめ			
第15回	数的処理⑮	数的処理全般			

経済

授業番号	B201230001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座 (公務員) III (Course support lecture III Government official)				
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本授業では、就職対策講座として公務員試験の基礎を学ぶことを目的とし、2年後の公務員試験に万全の体制で臨むための基礎作りを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	公務員試験に対応できるよう数的処理・文章理解・社会科学の基礎を繰り返し学習します。欠席せずに、受講すれば公務員試験の基礎が身につくよう講義を展開します。なお、民間就職希望の学生でも、役に立つ内容なのでぜひ履修してください。				
成績評価方法	定期試験、授業態度				
基準					
授業の予習・復習	復習：授業で指示した箇所については、必ず次回の講義までに復習して授業に臨んでください。				
教科書	初回の授業時に指示します。				
参考文献	初回の授業時に指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	数的処理 1	判断推理			
第2回	数的処理 2	判断推理			
第3回	数的処理 3	数的処理			
第4回	数的処理 4	数的処理			
第5回	数的処理 5	資料解釈			
第6回	文章表現 1	現代文			
第7回	文章表現 2	現代文			
第8回	文章表現 3	現代文			
第9回	文章表現 4	英文			
第10回	文章表現 5	英文			
第11回	社会科学 1	政治			
第12回	社会科学 2	政治			
第13回	社会科学 3	政治			
第14回	社会科学 4	経済			
第15回	社会科学 5	経済			

経済

授業番号	B201240001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座 (公務員) IV (Course support lecture IV Government official)				
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本授業では、就職対策講座として公務員試験の基礎を学ぶことを目的とし、2年後の公務員試験に万全の体制で臨むための基礎作りを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	公務員試験に対応できるよう数的処理・文章理解・社会科学の基礎を繰り返し学習します。欠席せずに、受講すれば公務員試験の基礎が身につくよう講義を展開します。なお、民間就職希望の学生でも、役に立つ内容なのでぜひ履修してください。				
成績評価方法	定期試験、授業態度				
基準					
授業の予習・復習	復習：授業で指示した箇所については、必ず次回の講義までに復習して授業に臨んでください。				
教科書	初回の授業時に指示します。				
参考文献	初回の授業時に指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	数的処理 1	判断推理			
第2回	数的処理 2	判断推理			
第3回	数的処理 3	数的処理			
第4回	数的処理 4	数的処理			
第5回	数的処理 5	図形			
第6回	文章表現 1	現代文			
第7回	文章表現 2	現代文			
第8回	文章表現 3	現代文			
第9回	文章表現 4	英文			
第10回	文章表現 5	英文			
第11回	社会科学 1	政治			
第12回	社会科学 2	政治			
第13回	社会科学 3	政治			
第14回	社会科学 4	経済			
第15回	社会科学 5	経済			

経済

授業番号	B200440001				
科目名 (英語表記)	数学 I (Mathematics I)				
担当者 (英語表記)	小林 忠 (Tadashi Kobayashi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	数学の基本的な思考法の習得を目標とし、線形代数の基礎部分を丁寧に紹介します。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本となる概念、定義を繰り返し説明しますので、欠席せずに受講すれば理解できる講義内容です。数学に関する予備知識としては、高校での数学 I 程度を必要とします。毎回演習を行います。				
成績評価方法	試験成績 80%、授業参加態度 20%				
基準					
授業の予習・復習	予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。 復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。				
教科書	矢野健太郎他著『社会学者のための基礎数学』裳華房				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	概論	線形代数論の紹介			
第 2 回	行列	行列の定義、行列の演算			
第 3 回	行列	特殊な行列、ベクトル、単位行列			
第 4 回	行列	行列の演算の諸性質			
第 5 回	行列	正方行列、逆行列の存在について			
第 6 回	行列式	互換、奇順列、偶順列			
第 7 回	行列式	行列式の定義、計算例			
第 8 回	行列式	行列式の四つの特性 (1)			
第 9 回	行列式	行列式の四つの特性 (2)			
第 10 回	行列式	行列式の計算の簡素化			
第 11 回	行列式	行列式の計算の簡素化 (余因子)			
第 12 回	行列式	行列式の余因子展開			
第 13 回	行列と行列式	逆行列の求め方			
第 14 回	行列と行列式	正則行列とその行列式の値 (1)			
第 15 回	行列と行列式	正則行列とその行列式の値 (2)			

経済

授業番号	B200450001		
科目名 (英語表記)	数学 II (Mathematics II)		
担当者 (英語表記)	小林 忠 (Tadashi Kobayashi)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	数学の基本的な思考法の習得を目標とし、線形代数と微積分の基礎部分を丁寧に紹介します。		
授業の進め方 (履修条件など)	「数学 I」に続く講義である。「数学 I」を履修済みのこと。 基本となる概念、定義を繰り返し説明しますので、欠席せずに受講すれば理解できる講義内容です。毎回演習を行います。		
成績評価方法	試験成績 80%、授業参加態度 20%		
基準			
授業の予習・復習	予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。 復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。		
教科書	矢野健太郎他著『社会科学者のための基礎数学』裳華房		
参考文献	齋藤正彦著『線型代数入門』東京大学出版会 高木貞二著『解析概論』岩波書店		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	行列と行列式	連立一次方程式とクラメルの公式	
第 2 回	ベクトル	ベクトルの一次独立、一次従属	
第 3 回	ベクトル	連立一次方程式と非自明解	
第 4 回	ベクトル	行列の階数 (1)	
第 5 回	ベクトル	行列の階数 (2)	
第 6 回	概論	微積分学の紹介	
第 7 回	準備	実数、数列の極限、関数の連続	
第 8 回	準備	三角関数と指数関数の定義	
第 9 回	微分	微分の定義、微分の公式	
第 10 回	微分	多項式の微分	
第 11 回	微分	指数関数の微分	
第 12 回	微分	三角関数の微分	
第 13 回	積分	原始関数、定積分	
第 14 回	積分	定積分と図形の面積、不定積分	
第 15 回	積分	微積分学の基本定理	



経済

授業番号	B200360003		
科目名 (英語表記)	スポーツ教育 I (Sport I)		A: 前期
担当者 (英語表記)	福川 裕司 (Yuji Fukukawa)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	運動・スポーツを通じて健康の保持・増進を図り、生涯スポーツとしてのスポーツ習慣を形成する。		
授業の進め方 (履修条件など)	室内で行う各種スポーツ実技を通して上記の狙いの達成を図る。 運動着および運動靴を着用する。		
成績評価方法	授業への参加度 (60%)・実技テスト (30%)・意欲・態度 (10%)		
基準			
授業の予習・復習	予習: スポーツ・運動の実践を通し、心身のコンディションを整えておくようにする。 復習: 授業後は十分なクーリングダウン時間がとれないため、積極的に体を動かし、積極的に疲労回復するようにする。また、個人技能を高めるように積極的にスポーツ・運動に取り組むようにする。		
教科書	使用しない。必要な資料はその都度配布する。		
参考文献	授業時に紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業に関する説明など	
第 2 回	バレーボール (1)	基本練習とゲーム (1)	
第 3 回	バレーボール (2)	基本練習とゲーム (2)	
第 4 回	バレーボール (3)	基本練習とゲーム (3)	
第 5 回	バレーボール (4)	基本練習とゲーム (4)	
第 6 回	バレーボール (5)	基本練習とゲーム (5)	
第 7 回	バスケットボール (1)	基本練習とオールコートゲーム (1)	
第 8 回	バスケットボール (2)	基本練習とオールコートゲーム (2)	
第 9 回	バスケットボール (3)	基本練習とオールコートゲーム (3)	
第 10 回	バスケットボール (4)	基本練習と 3on3 (1)	
第 11 回	バスケットボール (5)	基本練習と 3on3 (2)	
第 12 回	バトミントン (1)	基本練習とゲーム (1)	
第 13 回	バトミントン (2)	基本練習とゲーム (2)	
第 14 回	バトミントン (3)	基本練習とゲーム (3)	
第 15 回	バトミントン (4)	基本練習とゲーム (4)	

経済

授業番号	B200360004		
科目名 (英語表記)	スポーツ教育 I (Sport I)		B : 後期
担当者 (英語表記)	福川 裕司 (Yuji Fukukawa)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	運動・スポーツを通じて健康の保持・増進を図り、生涯スポーツとしてのスポーツ習慣を形成する。		
授業の進め方 (履修条件など)	室内で行う各種スポーツ実技を通して上記の狙いの達成を図る。 運動着および運動靴を着用する。		
成績評価方法	授業への参加度 (60%)・実技テスト (30%)・意欲・態度 (10%)		
基準			
授業の予習・復習	予習: スポーツ・運動の実践を通し、心身のコンディションを整えておくようにする。 復習: 授業後は十分なクーリングダウン時間がとれないため、積極的に体を動かし、積極的に疲労回復するようにする。また、個人技能を高めるように積極的にスポーツ・運動に取り組むようにする。		
教科書	使用しない。必要な資料はその都度配布する。		
参考文献	授業時に紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業に関する説明など	
第 2 回	バレーボール (1)	基本練習とゲーム (1)	
第 3 回	バレーボール (2)	基本練習とゲーム (2)	
第 4 回	バレーボール (3)	基本練習とゲーム (3)	
第 5 回	バレーボール (4)	基本練習とゲーム (4)	
第 6 回	バレーボール (5)	基本練習とゲーム (5)	
第 7 回	バスケットボール (1)	基本練習とオールコートゲーム (1)	
第 8 回	バスケットボール (2)	基本練習とオールコートゲーム (2)	
第 9 回	バスケットボール (3)	基本練習とオールコートゲーム (3)	
第 10 回	バスケットボール (4)	基本練習と 3on3 (1)	
第 11 回	バスケットボール (5)	基本練習と 3on3 (2)	
第 12 回	バトミントン (1)	基本練習とゲーム (1)	
第 13 回	バトミントン (2)	基本練習とゲーム (2)	
第 14 回	バトミントン (3)	基本練習とゲーム (3)	
第 15 回	バトミントン (4)	基本練習とゲーム (4)	

# 経済

授業番号	B202650001				
科目名 (英語表記)	スポーツ産業論 (Sport industrial theory)				
担当者 (英語表記)	二宮 雅也 (Masaya Ninomiya)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	私たちは、産業化されたスポーツを消費することによりスポーツを身近なものとして捉えている。テレビでスポーツを観戦したり、スポーツウェアを着てジョギングをしたり、ボーリング場で遊んだりする。こうした現象は、スポーツが産業化したことにより可能になった。この授業では、現代社会におけるスポーツの展開を産業論の視点から整理し、今後のスポーツ産業を展望する。				
授業の進め方 (履修条件など)	スポーツ産業の構造、健康産業の構造、スポーツ・健康政策の変容等をマネジメントの観点からケーススタディを通じて学習し、実践力を養う内容構成にする。				
成績評価方法	試験 70% 授業内リアクションペーパー 30%				
基準					
授業の予習・復習	自分とスポーツ産業の身近な関わりについて整理してください。(例:ボーリング場、フットサルコート、公営の体育館・プール・野球場、フィットネスクラブ等)				
教科書	テキストは使用せず、授業内のスライドにより解説します。				
参考文献	実践から読み解くスポーツマネジメント 加藤清孝編著 晃学出版				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	現代スポーツの特徴	スポーツ文化の構造			
第2回	スポーツ産業の歴史	スポーツ産業史について			
第3回	スポーツ産業の広がり	スポーツ文化を考える			
第4回	スポーツ産業の構造	スポーツ産業の分野について			
第5回	グループワーク1	課題別討論			
第6回	スポーツ指導サービス	スポーツ指導の産業化			
第7回	スポーツマネジメント	スポーツのマネジメントとは			
第8回	政策とスポーツ	スポーツを取り巻く政策について			
第9回	メディアとスポーツ	スポーツとメディアの関係性			
第10回	インターネットとスポーツ	IT スポーツのはじまり			
第11回	グループワーク2	課題別討論			
第12回	スポーツ産業のグローバル化	世界規模で広がるスポーツビジネス			
第13回	スポーツ産業の近未来	これからのスポーツ産業の方向性			
第14回	グループワーク3	課題別討論			
第15回	まとめ	スポーツ産業の功罪			

経済

授業番号	B202640001				
科目名 (英語表記)	スポーツビジネス論 (Sports business theory)				
担当者 (英語表記)	二宮 雅也 (Masaya Ninomiya)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	近年のグローバル化の進展は、スポーツを取り巻く構造を大きく変化させた。特に、情報技術の進展は、スポーツとメディアの結びつきを大きくし、メディアビジネスによってスポーツがコントロールされる状況にまで至っている。こうしたビジネスコンテンツとしてのスポーツの様相を批判的に検討しながら、スポーツビジネスの本質と多様性について授業を展開する。				
授業の進め方 (履修条件など)	スポーツ産業の構造、健康産業の構造、スポーツ・健康政策の変容等をマネジメントの観点からケーススタディを通じて学習し、実践力を養う内容構成にする。				
成績評価方法	試験 70% 授業内リアクションペーパー 30%				
基準					
授業の予習・復習	新聞や雑誌のスポーツビジネスに関する情報に注目してください。				
教科書	テキストは使用せず、授業内のスライドにより解説します。				
参考文献	実践から読み解くスポーツマネジメント 加藤清孝編著 晃学出版				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	消費社会とスポーツ	現代社会における消費構造について			
第 2 回	サッカービジネス	グローバル化するサッカービジネス			
第 3 回	オリンピックビジネス	オリンピックの商業化について			
第 4 回	ベースボールビジネス	大リーグの戦略について			
第 5 回	Jリーグのマーケティング	Jリーグの成り立ちと展開			
第 6 回	プロ野球ビジネス	プロ野球の地域戦略について			
第 7 回	ゴルフビジネス	ゴルフを取り巻く産業構造			
第 8 回	テニスビジネス	スポーツ指導サービスの実態			
第 9 回	健康ビジネス	フィットネス産業について			
第 10 回	スポーツコミッション	地域経済とスポーツ			
第 11 回	グループワーク 1	課題別討論			
第 12 回	グループワーク 2	課題別討論			
第 13 回	グループワーク 3	課題別討論			
第 14 回	スポーツのビジネス化の功罪	スポーツ格差を考える			
第 15 回	まとめ	スポーツビジネスのこれから			

# 経済

授業番号	B202480001		
科目名 (英語表記)	税務会計論 I (Theory of tax accounting I)		
担当者 (英語表記)	鈴木 明男 (Akio Suzuki)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	最終的には法人 (会社) の課税所得と税額算出を学ぶ。これらを規定する法人税法は、会社法や金融商品取引法と一体となつてわが国の会計制度を形成しそれぞれ関連しあうことから、あわせてこの概要を学ぶ。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を中心に授業を進めるが、近年法人税法を含め会計制度全般に極めて急速に変革が進められている。そのため、教科書の改訂を待つ時間的余裕がなく、口頭あるいはプリントを配布して教科書を補う。 毎回、今回の授業の狙いと前回及び次回の授業の関連を説明する。		
成績評価方法	定期試験 80% 授業内小テスト及び課題 20%を目安とする。		
基準			
授業の予習・復習	特に会計関連資格の受験者には最近の出版物の予習・復習が望ましい。		
教科書	「 Semester 法人税法」 鈴木明男・鈴木豊 税務経理協会		
参考文献	「税務会計総論」 富岡幸雄 森山書店 「体系法人税法」 山本守之 税務経理協会		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	運営方針と講義の概要	
第 2 回	法人税の特質と体系	法人税の役割と特徴	
第 3 回	法人税の法源性	租税法主義と関連法規	
第 4 回	法人税の本質	法人税、配当金二重課税の排除	
第 5 回	基礎概念	法人、同族会社、事業年度他	
第 6 回	企業会計	企業会計の概要及会計法規	
第 7 回	企業会計と税務会計 I	会計法規と税務会計の関連	
第 8 回	企業会計と税務会計 II	確定決算基準、国際会計と会社法・税法	
第 9 回	課税所得 I	課税所得の特徴	
第 10 回	課税所得 II	課税所得の算出と税務調整	
第 11 回	益金・損金 I	益金の内容と計上原則	
第 12 回	益金・損金 II	損金の内容と計上原則	
第 13 回	益金・損金 III	資産評価益・損	
第 14 回	益金・損金 IV	主要項目の益金・損金の概要	
第 15 回	課税所得と税額の算出	計算練習	

経済

授業番号	B202490001				
科目名 (英語表記)	税務会計論 II (Theory of tax accounting II)				
担当者 (英語表記)	鈴木 明男 (Akio Suzuki)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	法人〔会社〕の課税所得と税額算出やその根底にある基礎理念を学ぶが、法人税法の特徴を知るためあわせて個人の課税関係〔所得税法〕も検討する。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を中心に授業を進めるが、近年法人税法を含め会計制度全般に極めて急速に変革が進められている。そのため、教科書の改訂を待つ時間的余裕がなく、口頭あるいはプリントを配布して教科書を補う。 毎回、今回の授業の狙いと前回及び次回の授業の関連を説明する。				
成績評価方法	定期試験 80% 授業内小テスト及び課題 20%を目安とする。				
基準					
授業の予習・復習	特に会計関連資格の受験者には最近の出版物の予習・復習が望ましい。				
教科書	「 Semester 法人税法」 鈴木明男・鈴木豊 税務経理協会				
参考文献	「税務会計総論」 富岡幸雄 森山書店 「体系法人税法」 山本守之 税務経理協会				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	運営方針と講義の概要			
第 2 回	所得税と法人税 I	所得税と法人税の特徴・差異			
第 3 回	所得税と法人税 II	所得税と法人税の特徴・差異			
第 4 回	会社法決算と課税所得	確定決算基準と課税所得の算出			
第 5 回	益金各論 I	売上と益金			
第 6 回	益金各論 II	その他の収益と益金			
第 7 回	損金各論 I	売上原価、減価償却費と損金			
第 8 回	損金各論 II	給与、交際費と損金			
第 9 回	損金各論 III	租税公課、貸倒損失と損金			
第 10 回	損金各論 IV	その他の諸費用と損金			
第 11 回	資産	資産の計上と評価益・損の取扱			
第 12 回	引当金、準備金	税法上と会計上の引当金・準備金			
第 13 回	資本・課税所得と税額	資本及課税所得、税率、欠損金の繰越、繰戻し			
第 14 回	申告等	申告、更正・決定、修正、附帯税、不服申立			
第 15 回	課税所得と税額の算出	計算練習と解説			

# 経済

授業番号	B200830001				
科目名 (英語表記)	西洋経済史 I (Western Economic History I)				
担当者 (英語表記)	牧野 俊重 (Toshishige Makino)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	歴史と経済史を学ぶ意義とその研究方法を明らかにし、次いで総合的・グローバルな視点から経済発展を軸に経済史を考究する。				
授業の進め方 (履修条件など)	口授と黒板利用による。ノートを用意して毎回出席すること。				
成績評価方法 基準	定期試験 100% 出席が著しく不良の場合は受験を認めないし、点数がボーダーライン近くにあつて出席が極めて良好な場合はそれを考慮する。				
授業の予習・復習	毎回、キーワードや敷衍して学ぶべき関連事項について言及するので、それらを調べながら復習を行い、幅広く知識を広げ理解してください。				
教科書	使用しない。				
参考文献	Joel Mokyr (ed.) , The Oxford Encyclopedia of Economic History, 5 vols. ( 2003) . Rondo Cameron and Larry Neal, A Concise Economic History of the World, 4th ed. (2003) . Elias H. Tuma, European Economic History (1971) . その他は講義中随時紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の方針と進め方、評点等について			
第 2 回	歴史の意義と経済史学 I	歴史とは何か			
第 3 回	歴史の意義と経済史学 II	経済史学の研究対象			
第 4 回	歴史の意義と経済史学 III	経済史学の研究方法			
第 5 回	経済発展の要因 I	人口・資源・技術			
第 6 回	経済発展の要因 II	資本・その他			
第 7 回	経済発展の要因 III	シュンペーターとイノベーション			
第 8 回	経済発展段階説 I	ドイツ歴史学派の諸説 ( 1 )			
第 9 回	経済発展段階説 II	ドイツ歴史学派の諸説 ( 2 ) (リストとロツシャーの説)			
第 10 回	経済発展段階説 III	ドイツ歴史学派の諸説 ( 3 ) (ヒルデブラントとピュッヒャーとシュモラーの説)			
第 11 回	経済発展段階説 IV	マルクスの経済発展論			
第 12 回	W・W・ロストウの経済成長段階説 I	伝統的社会			
第 13 回	W・W・ロストウの経済成長段階説 II	先行条件とテイク・オフ			
第 14 回	W・W・ロストウの経済成長段階説 III	成熟への前進と高度大衆消費時代			
第 15 回	W・W・ロストウの経済成長段階説 IV	その後に来る社会			

# 経済

授業番号	B200840001				
科目名 (英語表記)	西洋経済史 II (Western Economic History II)				
担当者 (英語表記)	牧野 俊重 (Toshishige Makino)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	西洋諸国 (西ヨーロッパ) の経済史的基盤とその経済的発達のプロセスを考究する。				
授業の進め方 (履修条件など)	口授と黒板利用による。ノートを用意して毎回出席すること。				
成績評価方法 基準	定期試験 100% 出席が著しく不良の場合は受験を認めないし、点数がボーダーライン近くにあつて出席が極めて良好な場合はそれを考慮する。				
授業の予習・復習	毎回、キーワードや敷衍して学ぶべき関連事項について言及するので、それらを調べながら復習を行い、幅広く知識を広げ理解してください。				
教科書	使用しない。				
参考文献	前期の参考文献の項に同じ。参照されたい。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	封建社会と荘園制 I	封建社会の発達 (1)			
第 2 回	封建社会と荘園制 II	封建社会の発達 (2)			
第 3 回	封建社会と荘園制 III	荘園制と農村			
第 4 回	中世都市の発達 I	中世都市の成立			
第 5 回	中世都市の発達 II	都市経済の特質			
第 6 回	近代社会の成立と重商主義 I	ヨーロッパ近世の意義、文芸復興と宗教改革			
第 7 回	近代社会の成立と重商主義 II	重商主義政策 (1)			
第 8 回	近代社会の成立と重商主義 III	重商主義政策 (2)			
第 9 回	産業革命の進展 I	イギリスの産業革命 (1)			
第 10 回	産業革命の進展 II	イギリスの産業革命 (2)			
第 11 回	産業革命の進展 III	欧州諸国の産業革命			
第 12 回	産業革命の進展 IV	アメリカの産業革命			
第 13 回	独占資本主義の成立と両世界大戦 I	独占資本主義の成立、第一次世界大戦			
第 14 回	独占資本主義の成立と両世界大戦 II	戦間期の経済問題、第二次世界大戦			
第 15 回	独占資本主義の成立と両世界大戦 III	大戦後の世界経済			



# 経済

授業番号	B201500001		
科目名 (英語表記)	世界経済地理 (World economy geography)		
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	国際化が進む現在、私たちは様々な視点から世界を理解する必要があります。この授業では、経済地理的な視点すなわち空間的視点から世界を分析します。そこから、各地の空間的相違の実態やその意味を考えてみます。そして、諸君が世界の空間的な相違を理解できるようになることがこの授業の目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業は教科書を用いて行います。日本との関係が特に重視される中国とアメリカ合衆国に重点を置きながら、世界各地の特徴を明らかにしていきます。各地で取り上げるテーマは異なりますが、共通項としては民族がキーワードになります。		
成績評価方法	定期試験 (50%) と平常点 (50%、コメントカードの内容による) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	教科書を予め読んで授業内容のポイントをつかんでおき、授業後は必ず教科書やノートを見直しておくこと。		
教科書	青木英一・北村嘉行『世界を読む 改訂版』 原書房		
参考文献	高野 孟『最新・世界地図の読み方』講談社 21世紀研究会『民族の世界地図』文春新書		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	授業の方針、教科書・参考文献の解説	
第2回	空間的視点とは何か	空間的視点と地域的視点	
第3回	世界地図の利用法	メルカトル地図の特徴と限界	
第4回	人と環境から見た世界	民族問題、環境問題	
第5回	世界の経済と貿易	国際的分業の変化	
第6回	中国の経済改革 (1)	経済改革実施の背景	
第7回	中国の経済改革 (2)	経済改革の内容	
第8回	中国の経済改革 (3)	経済改革実施に伴う諸問題	
第9回	オセアニア諸国	対日関係の強化	
第10回	アメリカ合衆国 (1)	多様な地域性と日米関係	
第11回	アメリカ合衆国 (2)	産業の特質と資源環境	
第12回	ラテンアメリカ諸国	北アメリカとの開発の違い	
第13回	アフリカ諸国	遅れる工業化	
第14回	ヨーロッパ諸国	EUの形成と域内問題	
第15回	まとめ	授業内容のまとめ	

# 経済

授業番号	B200720001		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	牧野 俊重 (Toshishige Makino)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深め、併せて経済・経営に関する知識を広める。		
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読し、必要に応じて解説を加えるという方法をとる。出席は重視する。また、夏休みには新書版の本の中から選び1冊読んでレポートを出してもらい、秋から一時その発表に時間を割く。		
成績評価方法	レポート、口頭発表、出席状況等を総合的に勘案して評価する。		
基準			
授業の予習・復習	演習の時間において、為すべき予習・復習についてはその都度指示する。課題も与えるので、取り組まざるを得なくなるであろう。		
教科書	猿谷 要著 『物語アメリカの歴史』 (中公新書 820円 + 税)		
参考文献	演習中、個別の研究テーマに応じて随時紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	演習の方針と進め方等について。また、ゼミを行う中で、自分が何者なのかを見詰めさせる。そして、将来の目標を立て努力させる。	
第2回	テキスト講読 I	テキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。(1)	
第3回	テキスト講読 II	テキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。(2)	
第4回	テキスト講読 III	テキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。(3)	
第5回	テキスト講読 IV	テキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。(4)	
第6回	世界情勢研究 I	テキストを講読しながら、併せて夫々数回にわたって、世界情勢、経営 (学)、経済 (学) について学ぶ。それについては、新聞・雑誌・文献等をコピーして配布する。(1)	
第7回	世界情勢研究 II	テキストを講読しながら、併せて夫々数回にわたって、世界情勢、経営 (学)、経済 (学) について学ぶ。それについては、新聞・雑誌・文献等をコピーして配布する。(2)	
第8回	世界情勢研究 III	テキストを講読しながら、併せて夫々数回にわたって、世界情勢、経営 (学)、経済 (学) について学ぶ。それについては、新聞・雑誌・文献等をコピーして配布する。(3)	
第9回	経営 (学) 研究 I	テキストを講読しながら、併せて夫々数回にわたって、世界情勢、経営 (学)、経済 (学) について学ぶ。それについては、新聞・雑誌・文献等をコピーして配布する。(4)	
第10回	経営 (学) 研究 II	テキストを講読しながら、併せて夫々数回にわたって、世界情勢、経営 (学)、経済 (学) について学ぶ。それについては、新聞・雑誌・文献等をコピーして配布する。(5)	
第11回	経営 (学) 研究 III	テキストを講読しながら、併せて夫々数回にわたって、世界情勢、経営 (学)、経済 (学) について学ぶ。それについては、新聞・雑誌・文献等をコピーして配布する。(6)	
第12回	経済 (学) 研究 I	テキストを講読しながら、併せて夫々数回にわたって、世界情勢、経営 (学)、経済 (学) について学ぶ。それについては、新聞・雑誌・文献等をコピーして配布する。(7)	
第13回	経済 (学) 研究 II	テキストを講読しながら、併せて夫々数回にわたって、世界情勢、経営 (学)、経済 (学) について学ぶ。それについては、新聞・雑誌・文献等をコピーして配布する。(8)	
第14回	経済 (学) 研究 III	テキストを講読しながら、併せて夫々数回にわたって、世界情勢、経営 (学)、経済 (学) について学ぶ。それについては、新聞・雑誌・文献等をコピーして配布する。(9)	
第15回	総まとめ	この期の演習を総括	

# 経済

授業番号	B200720002		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	野口 明宏 (Akihiro Noguchi)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと 到達目標	現代経済の主要な担い手である株式会社を規制する、会社法の知識を習得します。 とくに株式会社法の仕組みを、基礎から考えていきます。		
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミ生の発表を中心に授業を進めていきます。		
成績評価方法 基準	小テスト、発表の内容、ゼミへの貢献などにもとづいて評価します。		
授業の予習・復習	予習—テキストの発表予定箇所を、あらかじめ読んでください。 復習—発表済みのレジュメをもとに、テキストを読み返してください。		
教科書	近藤光男編「現代商法入門 (第8版)」有斐閣		
参考文献	必要な時に、授業の中で紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	受講上の注意、自己紹介	
第2回	会社とは何か	営利・社団・法人性	
第3回	会社の種類	株式・合名・合資・合同会社	
第4回	資本金	資本充実・維持・不変の原則	
第5回	会社の権利能力	定款所定の目的に制限されるか、八幡製鉄政治献金事件	
第6回	会社法の定義	親・子会社、公開・閉鎖会社、大会社	
第7回	会社の設立	発起人、会社という社団の形成	
第8回	定款の作成	変態設立事項、現物出資、財産引受け、発起人の報酬、設立費用	
第9回	設立の手続	発起設立、募集設立、創立総会、検査薬の調査	
第10回	設立中の会社	同一性説、開業準備行為	
第11回	株式の意義	持分均一主義、持分複数主義	
第12回	特別の定めのある株式	譲渡制限株式、取得請求権付株式、取得条項付株式	
第13回	株券	株券発行会社は例外、有価証券としての株券、株券喪失登録制度	
第14回	株主名簿	株主は名簿の名義書換が必要、会社に免責効果付与	
第15回	前期のまとめ	後期へのアドバイス	

# 経済

授業番号	B200720003		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	戦後から現在までの日本経済の展開と日本型企業システムの形成・変容を学び、多くの新たな困難に直面する日本経済をいかに捉え、どのような処方箋を提示すべきかを考える。		
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読し、班別に報告してもらい、討論する。適時、時事経済問題を取り上げて議論する。		
成績評価方法	参加態度、発表、討論、レポートによって評価する。		
基準			
授業の予習・復習	テキストを何度も読んで、疑問点、問題点を調べ考えておくこと。ゼミでの討論を踏まえて要点を整理すること。		
教科書	橋本寿郎、長谷川信、宮島英昭、齊藤直『現代日本経済 第3版』有斐閣		
参考文献	『ゼミナール 現代日本経済入門』日本経済新聞社 山家悠紀夫『暮らし視点の経済学』新日本出版社		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	現代日本経済を見る眼	日本経済が直面する課題、基本的視点と叙述方法	
第2回	戦後改革	戦後改革のインパクト、経済改革、労働改革、	
第3回	高度成長のメカニズム、概説	輸出の成長と国際収支、小さな政府、産業構造の重化学工業化、労使関係の安定化	
第4回	産業政策の効果	産業政策の手段、コンピュータ企業と産業政策、産業政策の変化	
第5回	メインバンクシステム	メインバンクシステムの特徴、戦時・戦後改革期、高度成長期、メインバンクの役割	
第6回	安定株主化	1955年の経営者と株主、高度成長期前半、高度成長期後半、安定株主の役割	
第7回	輸出世界一の鉄鋼業	モデルとしてのコンパクトな工場	
第8回	「民族大移動」と大量消費社会の出現	「民族大移動」、都市化と核家族化、大量消費時代、労働力不足への転換、高度成長の到達点	
第9回	エネルギー革命	1ドル原油と工場の臨海立地	
第10回	石油危機と経済構造の転換、概説、	ニクソンショックと、石油ショック、スタグフレーションからの早期脱却	
第11回	安定成長への転換	安定成長の定着、減量経営、構造不況業種の発生、輸出拡大と円高の進展	
第12回	赤字国債	不況と税収、サミットと積極財政、増税論と行政改革	
第13回	下請制	下請けの定義、下請けはミゼラブルか、受注の多様化、長期相対関係下の組み立て企業と部品企業	
第14回	生産台数世界一の自動車産業	国内市場の制約と製品開発、世界的な需要構造の変化と競争優位	
第15回	前期ゼミ総括	内容理解の確認	

# 経済

授業番号	B200720004				
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済政策の理論として、マクロ経済学を習得し、その後現実の政策課題 (不良債権処理、バブル崩壊以降のデフレ経済からの脱却、財政赤字の問題、年金や医療など社会保障制度改革など) について研究することを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読しながら、経済政策の基礎となるマクロ経済学について習得する。本演習では、3年次終了時点で論文を作成することを義務づけているので、その指導も同時に行う。これは4年次の演習において指導する卒論作成の準備段階と位置づけるものである。				
成績評価方法	授業中の報告 (60%)・レポート及びその他の課題 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習:ゼミの授業はテキスト並びに配布プリントをある程度理解した上で、質疑応答、討論という形で進めていくため、予習していなければ学習効果は期待できない。</p> <p>復習:ゼミの時間は自分の研究を進めていくためのものであるから、自宅学習の時間を十分取り、早い段階で自分の研究テーマを見つけることが必要である。</p>				
教科書	『スティグリッツ 入門経済学 (第3版)』東洋経済新報社、J.E. スティグリッツ、C.E. ウォルシュ著				
参考文献	『スティグリッツ マクロ経済学 (第3版)』東洋経済新報社、スティグリッツ、C.E. ウォルシュ著				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	不完全市場 (1)	基本競争モデルの拡張			
第2回	不完全市場 (2)	不完全競争と市場構造			
第3回	不完全市場 (3)	不完全情報			
第4回	不完全市場 (4)	外部性			
第5回	不完全市場 (5)	公共財			
第6回	不完全市場 (6)	市場の失敗の様々な要因			
第7回	不完全市場 (7)	レポート作成と練習問題による演習			
第8回	公共部門 (1)	経済における政府の役割			
第9回	公共部門 (2)	税制の評価: アメリカの税制を例として			
第10回	公共部門 (3)	所得移転: 福祉給付、社会保険			
第11回	公共部門 (4)	政府による政策の決定と政府の失敗			
第12回	公共部門 (5)	レポート作成と練習問題による演習			
第13回	マクロ経済学と完全雇用 (1)	GDPと経済成長			
第14回	マクロ経済学と完全雇用 (2)	失業とインフレーション			
第15回	マクロ経済学と完全雇用 (3)	基本的マクロモデルによる均衡国民所得の決定			

# 経済

授業番号	B200720005		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	森谷 英樹 (Hideki Moriya)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	できるだけケーススタディを中心にしながら企業経営と収益動向に興味をもってもらえるようにしたい。テキストはマーケティングを取りあげる。企業は市場において厳しい競争に直面している。身近な企業の経営戦略について考えることを通して就職活動を支援する。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義を通じて人の話を理解して要点をメモすることが大切である。就職にあたって社会人として何が重要なのか言及する。卒論のテーマを早期に決定してそれをまとめることを期待している。新聞記事、雑誌、ネット、ビデオなどを教材に活用してみたい。		
成績評価方法	出席 40%、その他 60%		
基準			
授業の予習・復習	テキストを読んできて欲しい。復習は分からなかった時に質問に来て下さい。常時卒論のテーマを念頭においてもらいたい。		
教科書	『MBA マーケティング』改定3版 クロービス著 ダイアモンド社		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第1回	マーケティングとは	イントロダクション	
第2回	基礎編	①市場機会	
第3回	基礎編	②ターゲティング	
第4回	基礎編	③ポジショニング	
第5回	マーケティング戦略	④製品戦略	
第6回	マーケティング戦略	⑤価格戦略	
第7回	マーケティング戦略	⑥流通戦略	
第8回	マーケティング戦略	⑦コミュニケーション戦略	
第9回	応用編	⑧ブランド	
第10回	応用編	⑨低価格	
第11回	応用編	⑩サプライチェーン	
第12回	応用編	⑪最適調達	
第13回	応用編	⑫規模の経済	
第14回	応用編	⑬範囲の経済	
第15回	応用編	結びにかえて	

# 経済

授業番号	B200720006		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	立地論や経済地理の考え方や方法を使って、産業や地域の特色を分析し、産業と地域の関係を明らかにできるような能力の養成を目指します。このゼミを通して、資料の分析の仕方、分析結果のまとめ方、レポートの作成方法を学びます。産業と地域の関係をレポートで明らかにできるようになることが目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	産業と地域の関係を明らかにするために夏休み(9月)にゼミ合宿を行います。いくつかの班に分かれて担当する産業を決め、現地に行って企業見学や調査を行います。Iでは調査のための準備(資料集めや資料分析、調査項目の検討など)を行います。		
成績評価方法	レジュメを含む発表内容(60%)と平常点(40%)から評価します。		
基準			
授業の予習・復習	自分達が担当する分野の産業や企業については、予め文献や資料等で調べておく。ゼミ時に指導された分析方法や分析内容については必ず復習しておくこと。		
教科書	使用しません。必要に応じてプリントを配布します。		
参考文献	三菱総合研究所 産業・市場戦略研究本部編『日本産業読本(第8版)』東洋経済新報社 各企業単位で刊行されている『有価証券報告書総覧』		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方	
第2回	合宿地の決定	候補地の紹介、合宿地の決定、班分け	
第3回	合宿地の概況	合宿地に立地する産業の特色を解説	
第4回	産業分析(1)	全国を対象にした産業分析(班単位)	
第5回	産業分析(2)	合宿地を対象にした産業分析(班単位)	
第6回	産業分析(3)	産業分析結果のまとめ	
第7回	班別発表	レジュメを基に産業分析結果を発表	
第8回	企業分析(1)	企業全社を対象にした分析(班単位)	
第9回	企業分析(2)	合宿地の事業所を対象にした分析(班単位)	
第10回	企業分析(3)	企業分析結果のまとめ	
第11回	班別発表	レジュメを基に企業分析結果を発表	
第12回	調査項目の検討(1)	企業全社に関する内容の検討(班単位)	
第13回	調査項目の検討(2)	合宿地の事業所に関する内容の検討(班単位)	
第14回	班別発表	レジュメを基に調査項目を発表	
第15回	合宿打合せ	ゼミ合宿に参加する4年生との打合せ	

経済

授業番号	B200720008				
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	折原 裕 (Yutaka Orihara)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	一にも二にも卒業論文の準備につきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	前期は、折原が『敬愛大学・研究論集』に公表したものなどを材料に、論文の作成方法全般について学びます。				
成績評価方法	平常点とレポートなど課題との総合評価によります。				
基準					
授業の予習・復習	進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。				
教科書	折原裕「古典の読み方——『アリストテレス、スミス、マルクス』に寄せて——」『敬愛大学研究論集』第79号、他。コピーを配布します。				
参考文献	指定しません。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	テキスト輪読・Gレベル	テキスト輪読			
第2回	テキスト輪読・Gレベル	テキスト輪読			
第3回	テキスト輪読・Gレベル	テキスト輪読			
第4回	テキスト輪読・Gレベル	テキスト輪読			
第5回	テキスト輪読・Gレベル	テキスト輪読			
第6回	テキスト輪読・Hレベル	テキスト輪読			
第7回	テキスト輪読・Hレベル	テキスト輪読			
第8回	テキスト輪読・Hレベル	テキスト輪読			
第9回	テキスト輪読・Hレベル	テキスト輪読			
第10回	テキスト輪読・Hレベル	テキスト輪読			
第11回	テキスト輪読・Iレベル	テキスト輪読			
第12回	テキスト輪読・Iレベル	テキスト輪読			
第13回	テキスト輪読・Iレベル	テキスト輪読			
第14回	テキスト輪読・Iレベル	テキスト輪読			
第15回	テキスト輪読・Iレベル	テキスト輪読			



経済

授業番号	B200720009				
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	2年ゼミ同様楽しく・休まず続けましょう。新しく入る方は、PCが使えること、ディスカッションに溶け込んでくれることを希望します。				
授業の進め方 (履修条件など)	卒論草稿を書くこと、就職活動にも役立つグループディスカッションに慣れることを中心に進めます。後半は就職活動の準備も進めていきましょう。				
成績評価方法	レポート及びその他の課題 (50%)・授業中のパフォーマンス (50%)				
基準					
授業の予習・復習	卒論執筆が入り始めると、今までと違い、個人のスケジュールに沿って作業を進めるようになります。自分自身で作ったスケジュールに遅れぬよう、自宅での作業も必須となります。				
教科書	特に指定しません。				
参考文献	必要に応じて一緒に見つけましょう。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ディスカッション	インターンシップについてグループディスカッションしましょう。			
第2回	卒論	春休み中に進めた卒論本文の文章をチェックし、いくつかの論文を取り上げて講評します。講評で出たポイントに注意しながら、それぞれ自分の文章を直していきましょう。			
第3回	卒論	前回の続きをやりましょう。翌週の問題解決型ディスカッションのテーマを決めましょう。			
第4回	ディスカッション	テーマは前回選んだものでやりましょう。			
第5回	ディスカッション	図解を使って問題解決型のディスカッションをやりましょう。			
第6回	プレゼンテーション	前回の議論結果をそれぞれのグループが図解を提示しながら報告します。			
第7回	卒論	検索を進めながら、卒論の本文を付け加えていきましょう。進め方に迷う時期です。どんどん質問してください。			
第8回	卒論	前回の続きをやりましょう。翌週のディスカッション (ディベート型) のテーマを決めましょう。			
第9回	ディスカッション	前回選んだテーマでディベートをやりましょう。			
第10回	ディスカッション	図解を使って問題解決型のディスカッションをやりましょう。			
第11回	プレゼンテーション	前回の議論結果をそれぞれのグループが図解を提示しながら報告します。			
第12回	卒論報告 1	ゼミの 1/3 が卒論内容について報告します。残りの 2/3 の方々は口頭でそのコメントをします。			
第13回	卒論報告 2	ゼミの 1/3 が卒論内容について報告します。残りの 2/3 の方々は口頭でそのコメントをします。			
第14回	卒論報告 3	ゼミの 1/3 が卒論内容について報告します。残りの 2/3 の方々は口頭でそのコメントをします。			
第15回	ディスカッション	自由なテーマでディスカッションしましょう。			

経済

授業番号	B200720010		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	卒業論文作成に向けて、論文の書き方を修得させることをねらいとしている。 レポートや論文の書き方を学ぶことで、①調べること、②学ぶこと、③論理的に記述することができるようになることが到達目標である。		
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読する。内容を理解したら、実際に論文を読み、論文の書き方を確認する。その後、グループで共同研究するテーマを決め、どのように研究を進めていけば良いかを、ゼミ内でディスカッションすることを通して、研究方法を修得する。		
成績評価方法 基準	平常点で評価する。毎回の授業での発言 (20%)、報告 (30%)、レポート作成 (50%) など授業への参加姿勢によって判定する。		
授業の予習・復習	予習：テキストを読んでおくこと 復習：テキストをよく読むこと		
教科書	『新版論文の教室』(戸田山和久、NHK 出版、2012 年)		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方	
第 2 回	第 1 章 論文の宿題が出たら	辞書の活用、剽窃とは何か?なぜサイテーの行為なのか	
第 3 回	第 2 章 論文には「問いと主張と論証」が必要だ	論文とはどんな文章か、論文を書くときに絶対に忘れて欲しくないこと	
第 4 回	第 3 章 論文にはダンドリも必要	課題の主旨をよく理解すること、資料を探して読むこと、問題をデッチあげること、問いをきちんと定式化すること、調査を進めること、そして教員とはハサミは使いよう	
第 5 回	第 4 章 論文とは「型にはまった」文章である	模倣からアプローチ、論文の構成要素は 5 つ、問題提起・主張・論証	
第 6 回	第 5 章 論文の種としてのアウトライン	論文は構造化された文章、構造を与えるためのアウトライン、アウトラインをどうやって作るか	
第 7 回	第 6 章 論証のテクニック	論証って何だ?よい論証とダメ論証の違い、妥当な論証形式の例、帰納法・演繹法	
第 8 回	第 7 章 パラグラフ・ライティング	パラグラフと段落の違い、パラグラフの内部構造、ダメなパラグラフ	
第 9 回	第 8 章 わかりやすい文章を書くために	わかりやすけりゃいいのか?文章怪奇大事典、語の選び方	
第 10 回	第 9 章 最後の仕上げ	注を付けるとカッコイイ、引用の方法、参考文献、内容がイマイチならせめて体裁だけでもキレイにしてね	
第 11 回	論文を読んでみる①	実際に論文を読み、「構成」や「グラフ」などの引用、「注」の付け方を確かめる。	
第 12 回	論文を読んでみる②	実際に論文を読み、「構成」や「グラフ」などの引用、「注」の付け方を確かめる。	
第 13 回	グループ研究課題を発表	研究内容と課題を発表し、各自の分担を決める。	
第 14 回	研究のスケジュールを決める	夏休みおよび後期に向けて、各自の研究予定表を作成する。	
第 15 回	まとめ	前期の総括を行う。	

# 経済

授業番号	B200720011		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	企業のプロジェクト評価や、企業経営に財務活動がどのように影響するのか、リスクの分散とはどのようなことなのか、などをテキストと現実のデータを用いながら理解していきます。		
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読して PPT で報告してもらいます。報告者に決まったら、報告の少なくとも 2 週間前には準備を始め、わからないところは研究室で徹底的に理解します。PPT のビジュアルにもこだわり、美しくわかりやすいプレゼンテーションしてもらいます。 聞いている人は、その内容についていけるよう、ゼミの間だけは緊張感を持って出席してもらいます。あてられた人は即座に質問に回答しなければなりません。このような訓練を繰り返して、最終的に就職活動でも行うようなプレゼンができるようになることが到達目標です。		
成績評価方法	出席しているときの受け答えや、プレゼンテーションの内容で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	プレゼンテーションの準備が予習であり、ゼミで勉強したことを現実に活かして就職活動に役立てるのが復習となります。		
教科書	グロービス社「新版：MBA ファイナンス」		
参考文献	ゼミの中で適宜伝えます。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	イントロダクション：自己紹介	就職の面接のつもりで自己紹介してもらいます。 今まで力を入れてきたこと、自分が得意なことをアピールします。	
第 2 回	自己紹介とゼミでの役割の決定	ゼミでの役割の決定をします。ゼミ代表、副ゼミ代表を決め、連絡網を作ります。自分のことを客観的に伝えられるよう、皆の前で PPT を用いて自己紹介します。	
第 3 回	ファイナンスの基本－1 事業の収益性	事業の収益性を評価するさまざまな考え方を学びます。	
第 4 回	ファイナンスの基本－2 キャッシュフロー	キャッシュフローとは何か、その概念と企業の経営の在り方を学びます	
第 5 回	ファイナンスの基本－3 現在価値	将来の CF を現在価値に割り引き、比較することを理解します	
第 6 回	ファイナンスの基本－4 リスク	リスクの定義、ポートフォリオによるリスクの分散を学びます	
第 7 回	ファイナンスの基本－5 CAPM	ポートフォリオの管理とリスクの軽減方法を学びます。ベータ、CAPM を学びます。	
第 8 回	効率的市場仮説	効率的市場仮説について学びます	
第 9 回	資本コスト 1	資本コスト EBIT を学びます。それが負債コストと株式コストからできていること、負債比率を増やせば税金の支払いが小さくすむことなどを学びます	
第 10 回	資本コスト 2	現実の企業のなかから、ソフトバンクと NTT ドコモを用いて、その財務の大きな違いとそれがもたらす事業の収益性について学びます。	
第 11 回	バリエーション	NPV と EPV の違いについて学びます	
第 12 回	復習と発表の補足	今までの授業の中で報告が遅くなった人の分をここで行います	
第 13 回	就職活動に向けた取組	後期にはじまる就職活動の前に、企業の概要・沿革・決算短信からその性質を比較する方法を学び、知らない企業について知識を得る方法を学びます。	
第 14 回	ゼミで学んだことのまとめ	毎時間どんな新しい発見があったかについて、ファイナンスの基礎について話題を再度ピックアップつつ、全体の流れを理解します。	
第 15 回	後期に向けての準備	後期に向けて、ファイナンスの基礎を自分なりに噛み砕いた表現で解説できるようにします。	

# 経済

授業番号	B200720012		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	「戦後日本の経済発展と構造変化」をテーマとして、日本経済を景気循環および経済成長の過程に注目して捉え、戦後の日本経済の展開ならびに、雇用問題、所得分配と経済格差、社会保障など今日直面している諸問題を考える。3年次には、これらに関する共通の文献を講読することで上記の問題を中心に一通りの知識を確認することを目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	より進んだ学習のために必要な事項を学び、後期以降の本格的な研究の準備とする。		
成績評価方法	レポート及びその他の課題、出席の状況。後者にはゼミでの発言など参加の積極性を反映させる。		
基準			
授業の予習・復習	予習：発表担当者にはレジメ作成などの準備が、それ以外のメンバーには当該箇所に関する十分な予習が求められる。復習：毎回の内容を自分の卒業論文のテーマ選びに結びつけ、計画をたてる参考とする。		
教科書	雇用、所得分配と格差、経済制度などの観点から日本経済を捉えた日本語文献を選定、使用する。		
参考文献	浅子和美・篠原総一編「入門・日本経済 (第4版)」有斐閣、長谷川啓之編『経済政策の理論と現実』学文社など。その他、各回の論題や受講者の関心に応じて適宜紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	はじめに (1)	この科目の紹介、進め方などについて	
第2回	はじめに (2)	教科書の紹介と選定	
第3回	はじめに (3)	この演習を卒論執筆とどう結びつけるか	
第4回	基礎的事項の確認 (1)	日本経済をとりまくさまざまな問題 (1)	
第5回	基礎的事項の確認 (2)	日本経済をとりまくさまざまな問題 (2)	
第6回	レポートと発表について	進度に応じて、順序を変更する場合がある。	
第7回	レポート資料の探し方	進度に応じて、順序を変更する場合がある。	
第8回	文献講読と発表 (1)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第9回	文献講読と発表 (2)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第10回	文献講読と発表 (3)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第11回	文献講読と発表 (4)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第12回	文献講読と発表 (5)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第13回	文献講読と発表 (6)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第14回	文献講読と発表 (7)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第15回	前期のまとめ	夏休みの課題レポートと後期の専門演習に向けての準備	

経済

授業番号	B200720013				
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	星 真実 (Masami Hoshi)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門導入演習 II で行った実態調査をベースとして、調査報告書を作成する。また、就職活動のための準備を行う。				
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミ生のレジメ報告と検討を軸として、調査報告書を完成させる。就活準備として SPI テストと面接の受け方講座も実施する。				
成績評価方法	調査報告書で判断する。				
基準					
授業の予習・復習	調査報告レジメの準備と、報告後の手直し。				
教科書	特に使用しない。				
参考文献	星真実「千葉県のパートタイマー 2008」(『敬愛大学研究論集』74号)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	ゼミの進行方法について			
第 2 回	ヒアリング調査報告 (1 班)	調査内容についてのレジメ発表と質疑応答			
第 3 回	ヒアリング調査報告 (1 班)	前回の質疑を受けての訂正レジメ発表			
第 4 回	ヒアリング調査報告 (2 班)	調査内容についてのレジメ発表と質疑応答			
第 5 回	ヒアリング調査報告 (2 班)	前回の質疑を受けての訂正レジメ発表			
第 6 回	ヒアリング調査報告 (3 班)	調査内容についてのレジメ発表と質疑応答			
第 7 回	ヒアリング調査報告 (3 班)	前回の質疑を受けての訂正レジメ発表			
第 8 回	ヒアリング調査報告 (4 班)	調査内容についてのレジメ発表と質疑応答			
第 9 回	ヒアリング調査報告 (4 班)	前回の質疑を受けての訂正レジメ発表			
第 10 回	調査内容に関するプレゼン (1 班)	レジメ内容をプレゼンテーション			
第 11 回	調査内容に関するプレゼン (2 班)	レジメ内容をプレゼンテーション			
第 12 回	調査内容に関するプレゼン (3 班)	レジメ内容をプレゼンテーション			
第 13 回	調査内容に関するプレゼン (4 班)	レジメ内容をプレゼンテーション			
第 14 回	ヒアリング調査報告書作成 (ゼミ全体)	調査内容についてのディスカッション			
第 15 回	ヒアリング調査報告書作成 (ゼミ全体)	調査内容についての最終まとめ			

# 経済

授業番号	B200720014				
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	やや専門的な内容の本を読んで、4年次に卒業研究を行うための基盤を整えること (できれば卒論のテーマ設定) を目標とする。また、来るべき就職活動に向けて、心の準備を整えることも目標としたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的に前期はテキストを全員で輪読し、教員がポイントを解説する。その際、教員が一方向的に解説し、学生は聞くのではなく、内容に関する質疑を通して理解を深めてもらう。テキストの内容を要約する練習もする。				
成績評価方法	ゼミ中の態度 (発言の量、内容)、小レポートの内容等によって総合的に評価する。無断欠席は厳禁である。				
基準					
授業の予習・復習	予習: テキストの予告した範囲を読んでおくこと。 復習: 疑問に思ったことをインターネット等で調べること。				
教科書	大島賢一『原発のコスト-エネルギー転換への視点』(岩波新書)				
参考文献	石橋克彦編『原発を終わらせる』岩波新書 飯田哲也『エネルギー進化論』ちくま新書				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	ゼミの進め方、評価方法の説明、自己紹介等			
第2回	個人目標の設定	今年度の個人目標を設定、発表			
第3回	テキストの輪読1	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説			
第4回	テキストの輪読2	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説			
第5回	テキストの輪読3	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説			
第6回	復習と小レポート作成1	ここまでで輪読したテキストの内容の振り返りと小括レポートの作成			
第7回	テキストの輪読4	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説			
第8回	テキストの輪読5	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説			
第9回	テキストの輪読6	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説			
第10回	復習と小レポート作成2	ここまでで輪読したテキストの内容の振り返りと小括レポートの作成			
第11回	テキストの輪読7	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説			
第12回	テキストの輪読8	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説			
第13回	テキストの輪読9	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説			
第14回	復習と小レポート作成3	ここまでで輪読したテキストの内容の振り返りと小括レポートの作成			
第15回	前期のまとめ	前期のゼミで扱った内容の振り返り			

# 経済

授業番号	B200720015		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	岸本 太一 (Taichi Kishimoto)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	授業のねらいおよび到達目標は、次の3つです。①:ビジネス書および経営学・経済学の教科書を読めるようになること。②:他人が容易に理解可能なプレゼンテーション資料を作成できるようになること。③:意味のあるディスカッションができるようになること。ゼミという形式は、この3点を学ぶには最適の形式です		
授業の進め方 (履修条件など)	毎回必ず課題を出します。「本の数章を要約」、「本の内容を用いて企業を分析」等の課題です。その課題に対してプレゼン資料を作成してきてもらいます。当日のゼミでは、その資料をもとにディスカッションをします。		
成績評価方法	出席、提出課題の質、ゼミにおける発言によって総合的に判断します。無断欠席した場合、単位を与えません。		
基準			
授業の予習・復習	予習: 毎回受講者全員に必ず何らかの課題を課します。その課題を行なってきて下さい。 復習: 適時、ゼミにおけるディスカッションおよび配布資料を振り返って下さい。		
教科書	石井淳蔵・嶋口充輝・余田拓郎・栗木契著『ゼミナール マーケティング入門』日本経済新聞社		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図など	
第2回	輪読およびディスカッション①	『ゼミナールマーケティング入門』第1章	
第3回	輪読およびディスカッション②	『ゼミナールマーケティング入門』第2章	
第4回	輪読およびディスカッション③	『ゼミナールマーケティング入門』第3章	
第5回	輪読およびディスカッション④	『ゼミナールマーケティング入門』第4章	
第6回	輪読およびディスカッション⑤	『ゼミナールマーケティング入門』第5章	
第7回	輪読およびディスカッション⑥	『ゼミナールマーケティング入門』第6章	
第8回	輪読およびディスカッション⑦	『ゼミナールマーケティング入門』第7章	
第9回	輪読およびディスカッション⑧	『ゼミナールマーケティング入門』第8章	
第10回	輪読およびディスカッション⑨	『ゼミナールマーケティング入門』第9章	
第11回	輪読およびディスカッション⑩	『ゼミナールマーケティング入門』第10章	
第12回	輪読およびディスカッション⑪	『ゼミナールマーケティング入門』第11章	
第13回	輪読およびディスカッション⑫	『ゼミナールマーケティング入門』第12章	
第14回	輪読およびディスカッション⑬	『ゼミナールマーケティング入門』第13章	
第15回	輪読およびディスカッション⑭	『ゼミナールマーケティング入門』第14章	

# 経済

授業番号	B200720016		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	① 3～4年次の行動計画作り、②卒業論文の作成準備、③卒業論文の作成始動の3つです。		
授業の進め方 (履修条件など)	まず初めに、各自の以後2年間の状況を想定し、具体的な行動計画を作ります。つづいて、専門導入演習での学習を基に、専門的な論文を3点輪読します。その後、調査や資料集めの方法を学び、さらには自分で研究テーマを見つけ、自由に研究してもらいます。この際、継続的かつ頻繁にアドバイスをもらうよう心掛けてください。		
成績評価方法	出席などの取り組み姿勢 (60%)、報告などの成果 (40%)。		
基準			
授業の予習・復習	自分の課題に主体的に取り組んでください。		
教科書	教科書は指定しません。		
参考文献	鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社 高木仁『アメリカの金融制度』東洋経済新報社 銀行経理問題研究会編『銀行経理の実務』金融財政事情研究会 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社 この他、演習の中で随時紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	イントロダクション	2年間の行動計画作り	
第2回	論文の輪読 1	論文 1 (前編)	
第3回	論文の輪読 2	論文 1 (後編)	
第4回	論文の輪読 3	論文 2 (前編)	
第5回	論文の輪読 4	論文 2 (後編)	
第6回	論文の輪読 5	論文 3 (前編)	
第7回	論文の輪読 6	論文 3 (後編)	
第8回	論文の書き方	卒業論文の具体的な作成方法	
第9回	卒業論文のテーマ選び 1	テーマや計画について質疑応答 1	
第10回	卒業論文のテーマ選び 2	テーマや計画について質疑応答 2	
第11回	卒業論文のテーマ選び 3	テーマや計画について質疑応答 3	
第12回	卒業論文の作成 1	進捗状況の確認、内容について質疑応答 1	
第13回	卒業論文の作成 2	進捗状況の確認、内容について質疑応答 2	
第14回	卒業論文の作成 3	進捗状況の確認、内容について質疑応答 3	
第15回	卒業論文の作成 4	進捗状況の確認、内容について質疑応答 4	



経済

授業番号	B200720017				
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本演習では、教科書の輪読を進めるとともに、経済界で観察される面白い現象について自分なりの理解を深め他人とディスカッションする方法を学びます。また、ゼミ生の興味に沿ったディスカッション・テーマを設定し、グループ・ワークとして資料調査し、その結果を発表する練習をします。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回輪読の担当者(レポーターおよびコメンテーター)を決めてゼミ生の司会のもとディスカッションを進めます。レポーターは担当章のサマリーを、コメンテーターは担当章についての疑問点および自分なりの回答をまとめてきます。前期は2回のグループ・ワークを予定しています。				
成績評価方法	ディスカッションへの参加意欲 (50%)、授業態度 (50%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：輪読時は教科書の決められたチャプターを読んでください。 復習：教科書 (学習したチャプター) を再読してください。				
教科書	黒岩健一郎・水越康介『マーケティングをつかむ』有斐閣、2012年。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業内容、ゼミの進め方についての説明			
第2回	輪読	第1章 顧客の理解			
第3回	輪読	第2章 マーケティング政策の立案			
第4回	輪読	第3章 製品政策			
第5回	輪読	第4章 価格政策			
第6回	輪読	第5章 プロモーション政策			
第7回	輪読	第6章 流通政策			
第8回	グループ・ワーク1	テーマ決定、資料調査			
第9回	グループ・ワーク1	プレゼンテーション&グループ・ディスカッション			
第10回	輪読	第7章 マーケティング政策の統合			
第11回	輪読	第8章 マーケティング・リソース戦略			
第12回	輪読	第9章 マーケティング理論の変遷			
第13回	グループ・ワーク2	テーマ決定、資料調査			
第14回	グループ・ワーク2	資料調査			
第15回	グループ・ワーク2	プレゼンテーション&グループ・ディスカッション			

# 経済

授業番号	B200730001				
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	牧野 俊重 (Toshishige Makino)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深め、併せて経済・経営に関する知識を広める。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読し、必要に応じて解説を加えるという方法をとる。出席は重視する。また、夏休みには新書版の本の中から選び1冊読んでレポートを出してもらい、秋から一時その発表に時間を割く。				
成績評価方法	レポート、口頭発表、出席状況等を総合的に勘案して評価する。				
基準					
授業の予習・復習	演習の時間において、為すべき予習・復習についてはその都度指示する。課題も与えるので、取り組まざるを得なくなるであろう。				
教科書	猿谷 要著 『物語アメリカの歴史』 (中公新書 820円 + 税)				
参考文献	演習中、個別の研究テーマに応じて随時紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	演習の方針と進め方等について			
第2回	テキスト講読	テキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。			
第3回	テキスト講読	テキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。			
第4回	テキスト講読	テキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。			
第5回	テキスト講読	テキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。			
第6回	テキスト講読	テキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。			
第7回	テキスト講読	テキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。			
第8回	夏期課題の発表	夏期休暇の宿題を全員に発表してもらい、討論を行う。			
第9回	夏期課題の発表	夏期休暇の宿題を全員に発表してもらい、討論を行う。			
第10回	夏期課題の発表	夏期休暇の宿題を全員に発表してもらい、討論を行う。			
第11回	夏期課題の発表	夏期休暇の宿題を全員に発表してもらい、討論を行う。			
第12回	就職対策	近づいた就職活動に備えて、その全般的な指導を行う。面接の受け方 (対応の方法と答え方)、論文の書き方、学力 (基礎・専門)、時事問題等に対する対策が中心となる。			
第13回	就職対策	近づいた就職活動に備えて、その全般的な指導を行う。面接の受け方 (対応の方法と答え方)、論文の書き方、学力 (基礎・専門)、時事問題等に対する対策が中心となる。			
第14回	就職対策	近づいた就職活動に備えて、その全般的な指導を行う。面接の受け方 (対応の方法と答え方)、論文の書き方、学力 (基礎・専門)、時事問題等に対する対策が中心となる。			
第15回	総まとめ	この期の演習を総括			

# 経済

授業番号	B200730002		
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	野口 明宏 (Akihiro Noguchi)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと 到達目標	現代経済の主要な担い手である株式会社を規制する、会社法の基礎知識を習得します。 とくに株式会社法の仕組みを、基礎から考えていきます。		
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミ生の発表を中心に授業を進めていきます。 発表は、自分の能力を伸ばすことを意識して、取り組んでください。		
成績評価方法 基準	小テスト、発表の内容、ゼミへの貢献などにもとづいて評価します。		
授業の予習・復習	予習—テキストの発表予定箇所を、あらかじめ読んできてください。 復習—発表済みのレジュメをもとに、テキストを読み返してください。		
教科書	近藤光男編「現代商法入門 (第8版)」有斐閣		
参考文献	必要がある時に、授業の中で紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	受講上の注意	発表能力の向上を重視します	
第2回	株主	自益権、共益権、株主有限責任の原則	
第3回	株式譲渡自由の原則	投下資本の回収を保障、譲渡制限株式	
第4回	自己株式の取得	原則として取得可、取得の手続、自己株式の処分	
第5回	株主総会の権限	最高決議機関、定時総会、臨時総会	
第6回	招集手続	少数株主による招集請求、株主提案権	
第7回	議決権	普通・特別決議、代理人による出席、委任状、書面投票制度	
第8回	取締役の選任・終任	株主総会決議で選任・解任、任期	
第9回	取締役会設置会社の取締役・取締役会	取締役会が会社の業務執行を決定、決議要件	
第10回	取締役会設置会社の代表取締役	代表機関、執行機関、表見代表取締役	
第11回	善良な管理者の注意義務	善良な管理者の注意義務、経営判断の原則	
第12回	忠実義務	同質・異質説、取締役の利得の機会の奪取	
第13回	卒業論文テーマの決定1	個別面接により決定	
第14回	卒業論文テーマの決定2	個別面接により決定	
第15回	後期のまとめ	最終学年に向けてのアドバイス	

# 経済

授業番号	B200730003		
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	戦後の日本経済の展開と日本型生産システムの形成・変容を学び、多くの新たな困難に直面する日本経済をいかに捉え、どのような処方箋を提示すべきかを考える。		
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読し、班別に報告してもらい、討論する。適時、時事経済問題を取り上げ議論する。		
成績評価方法	参加態度、発表、討論、レポートによって評価する。		
基準			
授業の予習・復習	テキストを何度も読んで、疑問点、問題点を調べ考える。ゼミ討論を要約しておくこと。		
教科書	橋本寿郎、長谷川信、宮島英昭、斉藤直『現代日本経済 第3版』有斐閣		
参考文献	『ぜみなーる現代日本経済入門』日本経済新聞社 山家悠紀夫『暮らし視点の経済学』新日本出版会		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	債権国・経済大国への道、概説	安定成長化のマクロ経済、急速な円高から「平成景気」へ、民営化と規制緩和、日本経済のサービス化	
第2回	債権大国日本	債権大国への道、プラザ合意と直接投資の第3の波、証券投資の急拡大、債権国の含意	
第3回	日本企業の国際競争力	加工組立産業の比較優位、ハイテク・ハードウェアの競争優位、半導体メモリーへの集中	
第4回	トヨタ生産システム	トヨタ生産システムの基本、新生産システムの発生と洗練、トヨタ生産システムの普及	
第5回	流通革命	流通産業の構造、「流通革命」と日本型流通システム	
第6回	バブル崩壊と日本型企業システムの転換、概説	経済環境の変化、「失われた十年」、バブルの崩壊と不況の長期化	
第7回	長期停滞とその克服	銀行危機とデフレの進行、構造改革路線の定着、IT革命下の生産性	
第8回	財政赤字の深刻化	財政の急激な悪化、赤字財政の歴史的展開、日本財政の構造的課題	
第9回	東アジアの台頭	成長する東アジア経済圏、アジアとの関係強化、貿易構造の変容、対外開放の進展	
第10回	新たなビジネスモデルを模索する企業経営	産業構造変化の方向、貿易財産業の明暗、	
第11回	情報化のインパクトと組織革新	流通業の変化と通信インターネット事業の成長、企業組織の改革	
第12回	規制緩和の進展と企業制度改革	規制緩和と行政改革、金融システムの再編成、金融制度改革、企業制度改革	
第13回	日本型企業システムの転換点	変容する日本型企業システム、メインバンク関係の後退、株式相互持合いの解体	
第14回	リーマンショックと危機後の日本経済	インパクト、経済危機への対応、世界経済の構造変化と中国の大国化、山積する国内経済の課題、危機後の日本企業システムの再設計	
第15回	ゼミまとめ	テキスト読了後の要点、問題点の確認	

# 経済

授業番号	B200730004				
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済政策の理論として、マクロ経済学を習得し、その後現実の政策課題 (不良債権処理、バブル崩壊以降のデフレ経済からの脱却、財政赤字の問題、年金や医療など社会保障制度改革など) について研究することを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読しながら、経済政策の基礎となるマクロ経済学について習得する。本演習では、3年次終了時点で論文を作成することを義務づけているので、その指導も同時に行う。これは4年の演習において指導する卒論作成の準備段階と位置づけるものである。				
成績評価方法	授業中の報告 (60%)・レポート及びその他の課題 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	予習:ゼミの授業はテキスト並びに配布プリントをある程度理解した上で、質疑応答、討論という形で進めていくため、予習していなければ学習効果は期待できない。 復習:ゼミの時間は自分の研究を進めていくためのものであるから、自宅学習の時間を十分取り、早い段階で自分の研究テーマを見つけることが必要である。				
教科書	『スティグリッツ 入門経済学 (第3版)』東洋経済新報社、J.E. スティグリッツ、C.E. ウォルシュ著				
参考文献	『スティグリッツ マクロ経済学 (第3版)』東洋経済新報社、スティグリッツ、C.E. ウォルシュ著				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	乗数と国際貿易 (1)	乗数理論: 投資乗数と財政乗数			
第2回	乗数と国際貿易 (2)	国際貿易の影響			
第3回	乗数と国際貿易 (3)	レポート作成と練習問題による演習			
第4回	インフレーションとデフレーション (1)	インフレとデフレのコスト			
第5回	インフレーションとデフレーション (2)	インフレと失業の関係: フィリップス曲線			
第6回	インフレーションとデフレーション (3)	インフレの自己持続性			
第7回	インフレーションとデフレーション (4)	金融政策			
第8回	インフレーションとデフレーション (5)	金融政策と財政政策			
第9回	インフレーションとデフレーション (6)	日本の金融政策			
第10回	インフレーションとデフレーション (7)	日本の財政政策			
第11回	インフレーションとデフレーション (8)	レポート作成と練習問題による演習			
第12回	長期的経済成長の分析 (1)	投資と貯蓄			
第13回	長期的経済成長の分析 (2)	労働の質の改善			
第14回	長期的経済成長の分析 (3)	技術進歩と全要素生産性			
第15回	全体のまとめ	レポート作成と練習問題による演習			

# 経済

授業番号	B200730005		
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	森谷 英樹 (Hideki Moriya)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	できるだけケーススタディを中心にしながら企業経営と収益動向に興味をもってもらえるようにしたい。テキストはマーケティングを取りあげる。企業は市場において厳しい競争に直面している。身近な企業の経営戦略について考えることを通して就職活動を支援する。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義を通じて人の話を理解して要点をメモすることが大切である。就職にあたって社会人として何が重要なのか言及する。卒論のテーマを早期に決定してそれをまとめることを期待している。新聞記事、雑誌、ネット、ビデオなどを教材に活用してみたい。		
成績評価方法	出席 40%、その他 60%		
基準			
授業の予習・復習	テキストを読んできて欲しい。復習は分からなかった時に質問に来て下さい。常時卒論のテーマを念頭においてもらいたい。		
教科書	専門演習 I と同じ。		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	日本経済の課題	イントロダクション	
第 2 回	企業研究入門	①沿革	
第 3 回	企業研究入門	②経営者	
第 4 回	企業研究入門	③株式	
第 5 回	企業研究入門	④セグメント別	
第 6 回	企業研究入門	⑤総合評価	
第 7 回	企業研究入門	⑥総合評価	
第 8 回	企業研究入門	⑦総合評価	
第 9 回	産業研究入門	①鉄鋼	
第 10 回	産業研究入門	②電力	
第 11 回	産業研究入門	③鉄道	
第 12 回	産業研究入門	④自動車	
第 13 回	産業研究入門	⑤半導体	
第 14 回	産業研究入門	⑥石油	
第 15 回	産業研究入門	⑦日本の産業	

# 経済

授業番号	B200730006		
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	立地論や経済地理の考え方や方法を使って、産業や地域の特色を分析し、産業と地域の関係を明らかにできるような能力の養成を目指します。このゼミを通して、資料の分析の仕方、分析結果のまとめ方、レポートの作成方法を学びます。産業と地域の関係をレポートで明らかにできるようになることが目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミ合宿での調査結果のまとめを行います。レポートは班単位で提出してもらいます。提出後はディバートの練習を行います。		
成績評価方法	レポート (50%) と平常点 (50%、ゼミ合宿でのミーティング、ディバート等) から評価します。		
基準			
授業の予習・復習	自分達が担当する分野の産業や企業については、予め文献や資料等で調べておく。ゼミ時に指導された分析方法や分析内容については必ず復習しておくこと。		
教科書	使用しません。必要に応じてプリントを配布します。		
参考文献	三菱総合研究所 産業・市場戦略研究本部編『日本産業読本 (第8版)』東洋経済新報社 各企業単位で刊行されている『有価証券報告書総覧』		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	班別発表 (続き)	ゼミ合宿最終日に調査した班の調査報告	
第2回	レポートの作成について	資料や文献のまとめ方、レポートの構成等について指導	
第3回	調査結果のまとめ (1)	資料や文献等のまとめ	
第4回	調査結果のまとめ (2)	調査内容の分析	
第5回	調査結果のまとめ (3)	結論の検討	
第6回	調査結果のまとめ (4)	レポート下書きの検討 (班単位)	
第7回	レポートの作成	レポートを完成させて提出	
第8回	レポートの添削指導	レポート内容の修正指導	
第9回	ディバート練習 (1)	ディバートについての説明	
第10回	ディバート練習 (2)	ディバートの実施 (大学生活をテーマにして)	
第11回	ディバート練習 (3)	ディバートの実施 (社会問題をテーマにして)	
第12回	ディバート練習 (4)	ディバートの実施 (経済問題をテーマにして)	
第13回	卒業論文について (1)	卒業論文の意義と作成についての解説	
第14回	卒業論文について (2)	卒業論文テーマの指導 (目的について)	
第15回	卒業論文について (3)	卒業論文の研究方法について	

経済

授業番号	B200730008				
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	折原 裕 (Yutaka Orihara)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	一にも二にも卒業論文の準備につきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	後期は、夏休み中に書いてもらうレポートをもとに、卒業論文準備報告書を執筆することを目標にします。				
成績評価方法	平常点とレポートなど課題との総合評価によります。				
基準					
授業の予習・復習	進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。				
教科書	指定しません。				
参考文献	指定しません。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	レポートの検討・A レベル	レポートの検討			
第 2 回	レポートの検討・A レベル	レポートの検討			
第 3 回	レポートの検討・A レベル	レポートの検討			
第 4 回	レポートの検討・A レベル	レポートの検討			
第 5 回	レポートの検討・A レベル	レポートの検討			
第 6 回	レポートの検討・B レベル	レポートの検討			
第 7 回	レポートの検討・B レベル	レポートの検討			
第 8 回	レポートの検討・B レベル	レポートの検討			
第 9 回	レポートの検討・B レベル	レポートの検討			
第 10 回	レポートの検討・B レベル	レポートの検討			
第 11 回	レポートの検討・C レベル	レポートの検討			
第 12 回	レポートの検討・C レベル	レポートの検討			
第 13 回	レポートの検討・C レベル	レポートの検討			
第 14 回	レポートの検討・C レベル	レポートの検討			
第 15 回	レポートの検討・C レベル	レポートの検討			



経済

授業番号	B200730009				
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	2年ゼミ同様楽しく・休まず続けましょう。新しく入る方は、PCが使えること、ディスカッションに溶け込んでくれることを希望します。				
授業の進め方 (履修条件など)	卒論草稿を書くこと、就職活動にも役立つグループディスカッションに慣れることを中心に進めます。後半は就職活動の準備も進めていきましょう。				
成績評価方法	レポート及びその他の課題 (50%)・授業中のパフォーマンス (50%)				
基準					
授業の予習・復習	卒論執筆が入り始めると、今までと違い、個人のスケジュールに沿って作業を進めるようになります。自分自身で作ったスケジュールに遅れぬよう、自宅での作業も必須となります。				
教科書	特に指定しません。				
参考文献	必要に応じて一緒に見つけましょう。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ディスカッション	直近の新卒採用に関するニュースを見てグループディスカッションしましょう。			
第2回	卒論	夏休み中に進めた卒論本文の文章をファイルサーバに入れ、互いに見ながらいくつかの論文を取り上げて講評します。講評で出たポイントに注意しながら、それぞれ自分の文章を直していきましょう。			
第3回	卒論	前回の続きをやりましょう。翌週の問題解決型ディスカッションのテーマを決めましょう。			
第4回	ディスカッション	テーマは前回選んだものでやりましょう。			
第5回	ディスカッション	図解を使って問題解決型のディスカッションをやりましょう。			
第6回	プレゼンテーション	前回の議論結果をそれぞれのグループが図解を提示しながら報告します。			
第7回	卒論	検索を進めながら、卒論の本文を付け加えていきましょう。ご自宅での作業も含め、草稿の完成にむけて、どんどん内容メモを入力していきましょう。			
第8回	卒論	前回の続きをやりましょう。翌週のディスカッション (ディベート型) のテーマを決めましょう。			
第9回	ディスカッション	前回選んだテーマでディベートをやりましょう。			
第10回	ディスカッション	図解を使って問題解決型のディスカッションをやりましょう。			
第11回	プレゼンテーション	前回の議論結果をそれぞれのグループが図解を提示しながら報告します。			
第12回	卒論報告 1	ゼミの 1/3 が卒論内容について報告します。残りの 2/3 の方々は口頭でそのコメントをします。			
第13回	卒論報告 2	ゼミの 1/3 が卒論内容について報告します。残りの 2/3 の方々は口頭でそのコメントをします。			
第14回	卒論報告 3	ゼミの 1/3 が卒論内容について報告します。残りの 2/3 の方々は口頭でそのコメントをします。			
第15回	ディスカッション	自由なテーマでディスカッションしましょう。			

経済

授業番号	B200730010		
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	卒業論文作成に向けて、研究対象とする時代の経済状況や社会状況を調査することを体験することがねらいである。グループ研究を通して、調査すること、論文形式にまとめることができるようになることが到達目標である。		
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミで1つの研究課題を決め、グループごとに分担を決めて論文作成を行わせる。最後にドッキングさせたものを、各グループで再構成して論文として提出すること。		
成績評価方法	平常点で評価する。毎回の授業での発言 (20%)、報告 (30%)、論文作成 (50%) によって判定する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：各自が分担する調査・報告に取り組むこと 復習：添削指導などを活かして論文を作成すること		
教科書	使用しない		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第1回	研究の進捗状況確認	夏休み中の研究がどの程度進捗したのか、各自に報告してもらう。	
第2回	グループ研究①	各グループごとに、基本資料 (社史・HP・有価証券報告書など) を確認する	
第3回	グループ研究②	各グループごとに、基本文献を読み解く	
第4回	グループ研究③	各グループごとに、基本文献を参照しながら論文執筆	
第5回	グループ研究④	基礎データを入力	
第6回	グループ研究⑤	基礎データ入力	
第7回	グループ研究⑥	データのグラフ化	
第8回	グループ研究⑦	グラフに基づき分析。分析結果を執筆	
第9回	グループ研究⑧	各グループの分析結果を報告。報告内容を執筆	
第10回	グループ研究⑨	各グループのレポートをドッキング	
第11回	グループ研究⑩	ドッキングしたレポートを各グループで編集し直し、結論部分を執筆する。	
第12回	グループ研究⑪	注、参考文献などを整えて提出	
第13回	グループ研究⑫	各グループの論文に対する講評	
第14回	個別研究指導	論文作成の経験を活かして、各自の卒業研究のテーマを報告する	
第15回	まとめ	グループ研究を総括し、4年次における卒論テーマを確認する	

# 経済

授業番号	B200730011		
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	ファイナンスの応用を学びます。オプションなども含んだ難しい問題を、誰にでもわかるようにやさしく解説できるところまで、しっかりと理解をします。 テキストの内容を報告してもらいつつ、現実のデータにもアクセスして、企業活動とファイナンスの関係を読み解きます。		
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読し、PPTで報告します。 その際、他の人の報告内容を教員と他の学生で補完していきます。 2月にゼミ合宿1泊2日で行い、就職活動前の復習をします。		
成績評価方法	プレゼンの内容と、ゼミ合宿への参加で決定します		
基準			
授業の予習・復習	プレゼンの準備と、合宿の準備をもって予習とします。		
教科書	グロービス「新版：MBA ファイナンス」		
参考文献	適宜指示します		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	前期の復習と報告の順番決め	前期に学んだファイナンスの基礎を復習します。	
第2回	就職活動のためのリクナビ登録	リクナビ登録をします。キャリアセンター主導です	
第3回	ファイナンスの応用1. 企業価値	企業価値とは何か、株価とは何かを学び、株価を評価するPER、PBRなどの指標や、企業価値を高めるための経営の分散化について学びます。	
第4回	企業価値の2	M&Aによる企業価値の変化や、M&Aに会いやすい企業の条件、過去にあったM&Aの具体例、最近の動向について報告してもらいます。	
第5回	財務政策	企業価値を高める最適資本構成とはどのようなものか、最新のファイナンスの理論に基づいて学びます。	
第6回	オプション理論1	派生市場の一つであるオプション市場の価格付けについて理論を学びます。先物市場、先渡し市場についての理解を深めるため初回は講義です	
第7回	オプション理論2	オプション市場でのプライシングの基礎になる、コールとプット、権利の行使価格をリスクヘッジ、裁定取引などの戦略とともに学びます。	
第8回	オプション理論3	オプションの内容を決める要因について理解します。また、敵対的買収の評価を行います	
第9回	コーポレートガバナンス	今までの学習内容を含めてコーポレートガバナンスについて学習します。財務構成とコーポレートガバナンス、配当政策について特に理解します。	
第10回	卒業論文のテーマ決定	約1年かけて学んだことを用いて、卒業論文を書くにあたり、どのようなテーマが考えられるか、先輩の事例を基に考えます	
第11回	卒論のテーマ決定2	全員が、卒業論文のテーマを決めます。二つの同業の上場企業を選び、データを入手しておきます。	
第12回	先輩の就職活動から学ぶ	和田ゼミから内定を取った4年生に来てもらい、就職活動での失敗や成功への道のりについて、話してもらいます。	
第13回	ゼミ合宿の直前の準備	合宿先や当日のイベントなどを決定していきます。合宿先について行きたい場所が複数あればコンペを行い決定します	
第14回	まとめ	ゼミで学んだことを振り返りまとめます。全員が和田ゼミの内容を理解でき、就職活動で説明できるように訓練します	
第15回	ゼミ合宿	合宿先で自己アピールの特訓をします。体験型の学習も用意しています。ゼミの集大成です。	

# 経済

授業番号	B200730012		
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	「戦後日本の経済発展と構造変化」をテーマとして、日本経済を景気循環および経済成長の過程に注目して捉え、戦後の日本経済の展開ならびに、雇用問題、所得分配と経済格差、社会保障など今日直面している諸問題を考える。3年次には、これらに関する共通の文献を講読することで上記の問題を中心に一通りの知識を確認することを目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	より進んだ学習のために必要な事項を学び、後期以降の本格的な研究の準備とする過程において、卒業論文における自身の研究テーマを見つけ出し、4年次における論文執筆の準備とする。		
成績評価方法	レポート及びその他の課題、出席の状況。後者にはゼミでの発言など参加の積極性を反映させる。		
基準			
授業の予習・復習	予習：発表担当者にはレジュメ作成などの準備が、それ以外のメンバーには当該箇所に関する十分な予習が求められる。復習：毎回の内容を自分の卒業論文のテーマ選びに結びつけ、計画をたてる参考とする。		
教科書	雇用、所得分配と格差、経済制度などの観点から日本経済を捉えた日本語文献を選定、使用する。		
参考文献	浅子和美・篠原総一編「入門・日本経済 (第4版)」有斐閣、長谷川啓之編『経済政策の理論と現実』学文社など。その他、各回の論題や受講者の関心に応じて適宜紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	はじめに (1)	前期からのまとめ	
第2回	夏休みの課題レポート発表 (1)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第3回	夏休みの課題レポート発表 (2)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第4回	夏休みの課題レポート発表 (3)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第5回	文献講読と発表 (1)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第6回	文献講読と発表 (2)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第7回	文献講読と発表 (3)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第8回	文献講読と発表 (4)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第9回	文献講読と発表 (5)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第10回	文献講読と発表 (6)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第11回	文献講読と発表 (7)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第12回	卒業論文の計画について (1)	「卒業論文に向けての関心が生まれたか」、について各受講者の報告	
第13回	卒業論文の計画について (2)	「卒業論文に向けての関心が生まれたか」、について各受講者の報告	
第14回	卒業論文の計画について (3)	「卒業論文に向けての関心が生まれたか」、について各受講者の報告	
第15回	まとめ	4年次の演習、卒論執筆に向けての準備	

経済

授業番号	B200730013				
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	星 真実 (Masami Hoshi)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門導入演習 II で行った実態調査をベースとして、調査報告書を作成する。また、就職活動のための準備を行う。				
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミ生のレジюме報告と検討を軸として、調査報告書を完成させる。就活準備として SPI テストと面接の受け方講座も実施する。				
成績評価方法	調査報告書で判断する。				
基準					
授業の予習・復習	調査報告レジюмеの準備と、報告後の手直し。				
教科書	特に使用しない。				
参考文献	星真実「千葉県のパートタイマー 2008」(『敬愛大学研究論集』74号)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	パートタイマーについて 1	労働経済的なパートについての解説			
第 2 回	パートタイマーについて 2	社会保障的なパートについての解説			
第 3 回	パートタイマーについて 3	面接でのパートについての考え方			
第 4 回	ヒアリング調査のおさらい (1 班・2 班)	班毎のヒアリング調査アピールポイント確認			
第 5 回	ヒアリング調査のおさらい (3 班・4 班)	班毎のヒアリング調査アピールポイント確認			
第 6 回	ビジネス能力検定模試 3 級	模試を用いてのビジネスマナー解説			
第 7 回	ビジネス能力検定模試 2 級	模試を用いてのビジネスマナー解説			
第 8 回	SPI テスト	非言語能力			
第 9 回	SPI テスト	言語能力			
第 10 回	SPI テスト	SPI 模試			
第 11 回	20 答法	Who am I Test III			
第 12 回	面接練習	面接の受け方解説			
第 13 回	面接練習	ゼミ内面接練習 (一般)			
第 14 回	面接練習	ゼミ内面接練習 (一般)			
第 15 回	面接練習	ゼミ内面接練習 (圧迫)			

# 経済

授業番号	B200730014		
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	やや専門的な内容の本を読んで、4年次に卒業研究を行うための基盤を整えること（できれば卒論のテーマ設定）を目標とする。また、来るべき就職活動に向けて、心の準備を整えることも目標としたい。		
授業の進め方 (履修条件など)	基本的にテキストを全員で輪読し、教員がポイントを解説する。その際、教員が一方向的に解説し、学生は聞くのではなく、内容に関する質疑を通して理解を深めてもらう。テキストの内容を要約する練習もする。		
成績評価方法	ゼミ中の態度（発言の量、内容）、小レポートの内容等によって総合的に評価する。無断欠席は厳禁である。		
基準			
授業の予習・復習	予習：テキストの予告した範囲を読んでおくこと。 復習：疑問に思ったことをインターネット等で調べること。		
教科書	飯田哲也『エネルギー進化論』ちくま新書		
参考文献	石橋克彦編『原発を終わらせる』岩波新書 吉岡斉『原発と日本の未来』岩波ブックレット		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	ゼミの進め方、評価方法の説明、自己紹介等	
第2回	個人目標の確認、中間評価、修正	今年度の個人目標の中間評価、修正（後期の目標設定）、発表	
第3回	テキストの輪読1	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説	
第4回	テキストの輪読2	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説	
第5回	テキストの輪読3	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説	
第6回	復習と小レポート作成1	ここまでで輪読したテキストの内容の振り返りと小括レポートの作成	
第7回	テキストの輪読4	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説	
第8回	テキストの輪読5	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説	
第9回	テキストの輪読6	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説	
第10回	復習と小レポート作成2	ここまでで輪読したテキストの内容の振り返りと小括レポートの作成	
第11回	テキストの輪読7	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説	
第12回	テキストの輪読8	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説	
第13回	復習と小レポート作成3 / 卒業論文のテーマ検討1	ここまでで輪読したテキストの内容の振り返りと小括レポートの作成 / 卒業論文のテーマ設定についての解説、テーマ検討	
第14回	卒業論文のテーマ検討2	ゼミ卒業生の卒業論文テーマ参照、各自で卒業論文テーマの検討	
第15回	まとめ	今年度のゼミで扱った内容の振り返り、個人目標の達成状況評価	

経済

授業番号	B200730015				
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	岸本 太一 (Taichi Kishimoto)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	授業のねらいおよび到達目標は、次の3つです。①:企業を分析するための基礎的なノウハウを習得する。②:チームで考察・研究するというスタイルに馴染む。③:卒業論文の研究テーマを発見する。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回必ず課題を出します。「本の数章を要約」、「本の内容を用いて企業を分析」等の課題です。その課題に対してプレゼン資料を作成してきてもらいます。当日のゼミでは、その資料をもとにディスカッションをします。				
成績評価方法	出席、提出課題の質、ゼミにおける発言によって総合的に判断します。無断欠席した場合、単位を与えません。				
基準					
授業の予習・復習	予習:毎回受講者全員に必ず何らかの課題を課します。その課題を行なってきて下さい。 復習:適時、ゼミにおけるディスカッションおよび配布資料を振り返って下さい。				
教科書	伊藤邦雄著『ゼミナール企業価値評価』日本経済新聞出版社				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図など			
第2回	輪読およびディスカッション①	『ゼミナール企業価値評価』序章			
第3回	輪読およびディスカッション②	『ゼミナール企業価値評価』第2章			
第4回	輪読およびディスカッション③	『ゼミナール企業価値評価』第3章			
第5回	輪読およびディスカッション④	『ゼミナール企業価値評価』第4章			
第6回	輪読およびディスカッション⑤	『ゼミナール企業価値評価』第5章			
第7回	企業分析①	実際に財務データ分析を行ってみる①			
第8回	企業分析②	実際に財務データ分析を行ってみる②			
第9回	卒論研究準備①	研究とは何か、論文とは何か①			
第10回	卒論研究準備②	研究とは何か、論文とは何か②			
第11回	卒論研究準備③	テーマを探す①			
第12回	卒論研究準備④	テーマを探す②			
第13回	卒論研究準備⑤	テーマを探す③			
第14回	卒論研究準備⑥	手始めに調べてみる①			
第15回	卒論研究準備⑦	手始めに調べてみる②			

経済

授業番号	B200730016				
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門演習 I における学習の延長として、卒業論文の骨格を作ります。				
授業の進め方 (履修条件など)	自分が選んだ研究テーマについて、先行研究を調査・検討し、主張内容や検証方法、論文構成などを具体化しつつ、検証作業を進めます。各自による演習内での報告が中心となります。				
成績評価方法	出席などの取り組み姿勢 (60%)、報告などの成果 (40%)。				
基準					
授業の予習・復習	自分の課題に主体的に取り組んでください。				
教科書	教科書は指定しません。				
参考文献	各自研究テーマが異なるので、個別に紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	卒業論文の作成 5	進捗状況の確認、内容について質疑応答 5			
第 2 回	卒業論文の作成 6	進捗状況の確認、内容について質疑応答 6			
第 3 回	卒業論文の作成 7	進捗状況の確認、内容について質疑応答 7			
第 4 回	卒業論文の作成 8	進捗状況の確認、内容について質疑応答 8			
第 5 回	卒業論文の作成 9	進捗状況の確認、内容について質疑応答 9			
第 6 回	卒業論文の作成 10	進捗状況の確認、内容について質疑応答 10			
第 7 回	卒業論文の作成 11	進捗状況の確認、内容について質疑応答 11			
第 8 回	卒業論文の作成 12	進捗状況の確認、内容について質疑応答 12			
第 9 回	卒業論文の作成 13	進捗状況の確認、内容について質疑応答 13			
第 10 回	卒業論文の作成 14	進捗状況の確認、内容について質疑応答 14			
第 11 回	卒業論文の作成 15	進捗状況の確認、内容について質疑応答 15			
第 12 回	卒業論文の作成 16	進捗状況の確認、内容について質疑応答 16			
第 13 回	卒業論文の作成 17	進捗状況の確認、内容について質疑応答 17			
第 14 回	卒業論文の作成 18	進捗状況の確認、内容について質疑応答 18			
第 15 回	卒業論文の作成 19	進捗状況の確認、内容について質疑応答 19			



# 経済

授業番号	B200730017		
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	本演習では、教科書の輪読を進めるとともに、経済界で観察される面白い現象について自分なりの理解を深め他人とディスカッションする方法を学びます。また、卒論に備えゼミ生各自の興味分野について話し合い、研究テーマを決めていきます。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎回輪読の担当者(レポーターおよびコメンテーター)を決めてディスカッションを進めます。レポーターは担当章のサマリーを、コメンテーターは担当章についての疑問点および自分なりの回答をまとめてきます。後期の後半は各自の卒論テーマを決めていきます。		
成績評価方法 基準	ディスカッションへの参加意欲 (50%)、授業態度 (50%) で評価します。		
授業の予習・復習	予習：輪読時は教科書の決められたチャプターを読んでください。 復習：教科書 (学習したチャプター) を再読してください。		
教科書	徳田賢二『お買い物の経済心理学－何が買い手を動かすのか』ちくま新書、2011年。		
参考文献	必要に応じて紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	授業内容、ゼミの進め方についての説明	
第2回	輪読	第1章 人生すべてバランス感覚	
第3回	輪読	第2章 価格よりもお値ごろで選ぶ	
第4回	輪読	第3章 値ごろ感の正体は二乗のお得感	
第5回	輪読	第4章 買い物を誘う手練手管	
第6回	輪読	第5章 決断させる説得術	
第7回	輪読	第6章 現場の経済心理学	
第8回	輪読	第7章 買い手の弱み－揺らぐ値ごろ感	
第9回	輪読	第8章 売り手の弱み－値引作戦の落とし穴	
第10回	輪読	第9章 値ごろ感が軸－進化する買い手と売り手	
第11回	グループ・ディスカッション	興味分野の発表①	
第12回	グループ・ディスカッション	興味分野の発表②	
第13回	グループ・ディスカッション	興味分野の発表③	
第14回	グループ・ディスカッション	卒論テーマの決定①	
第15回	グループ・ディスカッション	卒論テーマの決定②	

# 経済

授業番号	B200700001		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)		
担当者 (英語表記)	土井 修 (Osamu Doi)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門教育への「橋渡し」を狙いとして、経済学の基礎的知識の習得とともに、各自がレジュメを作成し発表できるようにします (入門的経済知識の習得とプレゼン能力の涵養)。特に、本演習では国際経済に関する知識の習得に努めます。		
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミ生をいくつかのグループに分け、教科書をグループ毎に輪読します。各グループは、分担部分を各ゼミ生にさらに細かく割り当て、レジュメを作成・発表し、他グループとの質疑応答を行います。		
成績評価方法	授業参加態度と発表内容によって評価します。		
基準			
授業の予習・復習	輪読の分担部分に関する情報を集め (新聞やインターネットなど)、理解を深めプレゼンを充実させてください。		
教科書	西川潤『世界経済入門 (第三版)』(岩波新書)		
参考文献	著書、新聞、雑誌、インターネットなどを通して国際経済に関する情報を得ること。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方	
第 2 回	世界経済の現状	変わりゆく世界経済	
第 3 回	世界経済の現状	貿易の流れと経済摩擦	
第 4 回	世界経済の現状	多国籍企業と海外投資	
第 5 回	世界経済の現状	国際通貨体制と円	
第 6 回	地球経済の諸要因	世界の人口問題	
第 7 回	地球経済の諸要因	世界の食糧問題。	
第 8 回	地球経済の諸要因	エネルギーと資源	
第 9 回	地球経済の諸要因	工業化と公害・環境	
第 10 回	新しい国際経済秩序	南北問題と経済協力	
第 11 回	新しい国際経済秩序	様々な地域秩序	
第 12 回	新しい国際経済秩序	社会主義圏の経済	
第 13 回	世界経済の将来と日本	経済軍事化と平和	
第 14 回	世界経済の将来と日本	世界経済と日本	
第 15 回	まとめ	世界経済と日本経済の動向に関する総括と質疑応答。	

経済

授業番号	B200700002				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	野口 明宏 (Akihiro Noguchi)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門科目の基礎になる文献を、全員で読み進めていきます。 日本企業で優位な地位を占める、株式会社の制度、仕組みを理解します。				
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミ生の発表を中心に授業を進めます。 文献を読み、その内容をまとめて発表できるように、努力してください。				
成績評価方法 基準	小テスト、発表の状態、ゼミへの貢献などにもとづいて評価します。				
授業の予習・復習	予習—テキストの発表予定箇所を、あらかじめ読んできてください。 復習—授業の後、テキストを読み返し、知識をまとめてください。				
教科書	奥山宏「会社とはなにか」岩波ジュニア新書				
参考文献	必要な時に、授業の中で紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、自己紹介			
第 2 回	日本中、会社ばかり	テキストの輪読			
第 3 回	会社中心の社会	テキストの輪読			
第 4 回	政治献金	テキストの輪読			
第 5 回	日本を支配しているのは誰か	テキストの輪読			
第 6 回	発表 1	ミルの会社生活			
第 7 回	発表 2	日本人の出世観			
第 8 回	発表 3	会社の格と人間の格			
第 9 回	発表 4	バブルの発生と崩壊			
第 10 回	発表 5	会社人間よ、さようなら			
第 11 回	発表 6	会社、企業、法人			
第 12 回	発表 7	会社の種類			
第 13 回	発表 8	日本の会社数			
第 14 回	発表 9	株式会社の歴史			
第 15 回	導入演習 I のまとめ	後期への課題、アドバイス			

# 経済

授業番号	B200700003				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済を理解するための基礎的な知識の習得。主体的な勉強、研究心の涵養。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読し、内容を私が解説する。理解を確かめるためにゼミ生と質疑応答する。 日本経済、世界経済のニュースを話題にして、経済問題への関心を高め理解を深める。				
成績評価方法	参加態度、発表、討論、レポートによって評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習 テキストを熟読すること 復習 ポイントをノートしておくこと				
教科書	平野和之『ゼロからわかる経済入門 基本と常識』西東社				
参考文献	新聞、雑誌、ネットの記事				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	自己紹介。 ゼミ生各自の勉学目標、ゼミの達成目標。			
第 2 回	スタート	生活と経済、マクロ経済とミクロ経済、マネーリテラシー			
第 3 回	通貨の役目と経済の動き	通貨の発行。役目ー交換、価値尺度、蓄え			
第 4 回	通貨と世界	円高・円安とは？為替レート、円高・円安が進むと？			
第 5 回	経済と物価の関係	消費者物価指数、需要曲線、供給曲線、価格の決定			
第 6 回	インフレ、デフレと物価	インフレ、デフレ、デフレスパイラル、スタグフレーション			
第 7 回	まとめ	通貨、物価の復習			
第 8 回	もっとも身近な家計	家計・企業・政府、家計の収入・支出・貯蓄、給料、他の収入			
第 9 回	支出とお金の貸し借り	税金、支出、預金、ローン			
第 10 回	お金の貸し借りと投資	利息、固定金利と変動金利、貯蓄から投資へ			
第 11 回	企業の経済への影響	企業とは、企業の数、企業の利益			
第 12 回	企業とお金	直接金融、間接金融、利益を出すしくみ			
第 13 回	企業の今	競争、買収・合併、景気と雇用、正規雇用と非正規雇用			
第 14 回	まとめ	家計と企業の復習			
第 15 回	総まとめとレポート	通貨、物価、家計および企業の復習。夏休みレポート課題。			

# 経済

授業番号	B200700004				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門導入演習は3, 4年の演習に進むための基礎固めという位置づけである。3年以降では、より専門的な研究を目指すため、ここでは『経済学の基礎』を習得してもらう。経済学の基礎として幅広い知識はもちろん、『経済学の考え方』を身につけることに重点を置いて勉強していくことにしよう。				
授業の進め方 (履修条件など)	本ゼミは、テキストを輪読しながら、経済理論の基礎について習得する。毎回報告者 (発表者) を当てておくので、授業は報告者が予習し、理解したことを発表したのち、それに対する質疑応答を中心に進めていく。また『公務員試験』の過去問を解きながら演習を進めていく予定である。				
成績評価方法	レポート及びその他の課題 (60%)・授業中の発表、コメントなどの評価 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	テキストは必ず予習してくること。発表者はレジメ (報告要旨) を作ることを義務づける。 復習: セメスターの終わりに課題を与えるので、常にノートを整理しておくこと。				
教科書	『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版、西村和雄、八木尚志				
参考文献	『スティグリッツ 入門経済学』(第3版) 東洋経済新報社、J.E. スティグリッツ、 C.E. ウォルシュ、藪下 史郎、秋山 太郎				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	経済学とは何か (1)	ミクロ経済学とマクロ経済学			
第2回	経済学とは何か (2)	トレードオフ、インセンティブ、交換、分配			
第3回	科学としての経済学	因果関係と相関関係			
第4回	様々な経済理論	なぜ経済学者の意見は異なるのか			
第5回	基本的競争モデル (1)	合理的消費者と利潤極大企業			
第6回	基本的競争モデル (2)	競争的市場			
第7回	基本的競争モデル (3)	効率と配分、基準モデルとしての競争モデル			
第8回	機会集合とトレードオフ (1)	予算制約と時間制約			
第9回	機会集合とトレードオフ (2)	生産可能性曲線			
第10回	費用	機会費用、サンクコスト、限界費用			
第11回	経済学の考え方 (復習)	レポート作成と練習問題による演習			
第12回	取引と貿易 (1)	経済的相互依存の便益			
第13回	取引と貿易 (2)	交換と取引からの利益			
第14回	取引と貿易 (3)	比較優位の理論と貿易の利益			
第15回	競争モデルと貿易のまとめ	レポート作成と練習問題による演習			

# 経済

授業番号	B200700005		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)		
担当者 (英語表記)	森谷 英樹 (Hideki Moriya)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	流通を学ぶことにより日本経済について理解を深めてもらいます。単なる知識・教養ではなく現実に直面したとき自分なりの意見をもてるように指導します。		
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを中心にしますが、新聞記事、ビデオなども教材にしてできるだけ事例に即して進めます。		
成績評価方法	出席 40%、その他 60%		
基準			
授業の予習・復習	宿題があればしてきてください。なければ前回の復習をしてください。		
教科書	『流通の基本が面白いほどわかる本』 為広吉弘著 中経出版		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	流通は豊かさを支える	イントロダクション	
第 2 回	流通は豊かさを支える	消費の拡大	
第 3 回	流通は豊かさを支える	物流と商流	
第 4 回	流通は豊かさを支える	流通チャネル	
第 5 回	流通の高付加価値化	小売業	
第 6 回	流通の高付加価値化	プライベートブランド	
第 7 回	流通の高付加価値化	POS	
第 8 回	卸売業は変化する	卸売業の役割	
第 9 回	卸売業は変化する	情報機能	
第 10 回	卸売業は変化する	ロジスティックス	
第 11 回	卸売業は変化する	問屋無用論	
第 12 回	流通とメーカーの取引	マーケティング	
第 13 回	流通とメーカーの取引	流通チャネル	
第 14 回	流通とメーカーの取引	誰が価格を	
第 15 回	日本の流通	とりまとめ	

# 経済

授業番号	B200700006				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	日本の産業、特に工業が世界の中でどのような特色を持っているのかを、立地論という視点を通して学びます。授業の「経営立地論」では全体的な特色を講義を通して学びますが、ゼミではゼミ員一人一人がテーマを決めて主体的に取り組みます。日本の産業を立地論という視点で捉えることができるようになるのが目標です。				
授業の進め方 (履修条件など)	資料を利用して日本の産業の成り立ちや仕組み、立地を調べます。ゼミ員各自が調べる産業を決め、その産業の特色について毎時間報告し、報告の内容をさらに深めて、最後にレポートにして提出します。				
成績評価方法	レポート (60%) と平常点 (40%) から評価します。				
基準					
授業の予習・復習	毎時間報告しますから、必ず資料などで産業の特色を調べておくこと。授業後は、レポート作成に向けてさらに深く調べること。				
教科書	使用しません				
参考文献	三菱総合研究所 産業・市場戦略研究本部編『日本産業読本 (第8版)』東洋経済新報社				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方			
第2回	日本の工業の特色	形成、立地変化、業種・機能の変化について解説			
第3回	担当する産業の割り振り	ゼミ員の希望に基づく産業の割り振りや調査方法の指導			
第4回	各産業の成り立ち (1)	ゼミ員各自が報告			
第5回	各産業の成り立ち (2)	前週報告に対する追加報告			
第6回	各産業の組織 (1)	ゼミ員各自が報告			
第7回	各産業の組織 (2)	前週報告に対する追加報告			
第8回	各産業の立地 (1)	ゼミ員各自が報告			
第9回	各産業の立地 (2)	前週報告に対する追加報告			
第10回	各産業の近年の動向 (1)	ゼミ員各自が報告			
第11回	各産業の近年の動向 (2)	前週報告に対する追加報告			
第12回	各産業の課題 (1)	ゼミ員各自が報告			
第13回	各産業の課題 (2)	前週報告に対する追加報告			
第14回	レポート作成指導 (1)	資料や文献のまとめ方、レポートの作成方法の指導			
第15回	レポート作成指導 (2)	レポートの添削指導			

# 経済

授業番号	B200700008				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	折原 裕 (Yutaka Orihara)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済学発祥の地がヨーロッパであったことから、私達は、私達自身の経済的思惟のルーツを、とかくヨーロッパに求めがちです。けれども、私達日本人にも、固有の経済的思惟の歴史はありました。そうした日本の経済思想史を知ることによって、私達は、現在の私達が持つ経済思想の性格を、よりよく自覚することができるようになるでしょう。				
授業の進め方 (履修条件など)	当面は、下記のテキストによりつつ、日本人の経済的思惟の変遷をたどります。				
成績評価方法	平常点とレポートなど課題との総合評価によります。				
基準					
授業の予習・復習	進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。				
教科書	テッサ・モーリス・鈴木『日本の経済思想——江戸期から現代まで——』岩波書店、コピーを配布します。				
参考文献	指定しません。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	テキスト輪読・Aレベル	テキスト輪読			
第 2 回	テキスト輪読・Aレベル	テキスト輪読			
第 3 回	テキスト輪読・Aレベル	テキスト輪読			
第 4 回	テキスト輪読・Aレベル	テキスト輪読			
第 5 回	テキスト輪読・Aレベル	テキスト輪読			
第 6 回	テキスト輪読・Bレベル	テキスト輪読			
第 7 回	テキスト輪読・Bレベル	テキスト輪読			
第 8 回	テキスト輪読・Bレベル	テキスト輪読			
第 9 回	テキスト輪読・Bレベル	テキスト輪読			
第 10 回	テキスト輪読・Bレベル	テキスト輪読			
第 11 回	テキスト輪読・Cレベル	テキスト輪読			
第 12 回	テキスト輪読・Cレベル	テキスト輪読			
第 13 回	テキスト輪読・Cレベル	テキスト輪読			
第 14 回	テキスト輪読・Cレベル	テキスト輪読			
第 15 回	テキスト輪読・Cレベル	テキスト輪読			



# 経済

授業番号	B200700009				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	卒論の目次+各章・節・項の概要が出来上がることを目標とします。ディスカッションでは、就職活動でのグループディスカッションの練習をかねて、簡潔で論理的な発言に慣れましょう。この習慣が文章での表現にも現れることを期待しています。				
授業の進め方 (履修条件など)	3年次終了までに卒論の草稿が終わることを目的に、2年次では論文作成の基礎を勉強します。希望によっては、ディベート、グループディスカッションを頻繁に行います。				
成績評価方法	レポート及びその他の課題 (30%)・授業中のパフォーマンス (70%)				
基準					
授業の予習・復習	前の回の作業の上に次回の作業を積み重ねますので、極力休まず、休んだらその回の作業を課題としてやっておいて下さい。				
教科書	特に指定せず、必要があればプリントを使います。口頭の指示だけになる回もあります。				
参考文献	必要に応じて指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	いろいろな登録	moodle 登録、ゼミカルテ登録の後、お互いに名前がわかるよう歓談しましょう。			
第 2 回	ディベート	このゼミではディスカッションを多く行うことになると思います。まずは yes no にわかれて議論するディベートを身近なテーマでやってみましょう。			
第 3 回	卒論開始	卒論のテーマを仮決めし、そのテーマで文献が存在するか、検索を進めましょう。テーマの見つけ方、検索の方法も覚えましょう。			
第 4 回	卒論 2	卒論目次のテンプレートからアウトライン形式で卒論ファイルを作ります。章のタイトルを仮決めしましょう。			
第 5 回	グループディスカッション	グループディスカッションの形式と定番の進め方を覚えましょう。そして、軽いテーマで 1 回目のグループディスカッションを進めます。			
第 6 回	小論文	軽いテーマで小論文を 1 本書いてみましょう。短くても論文なので、それなりの構成と文体、表現が要求されます。これをもって、卒論の文体や表現について学びます。			
第 7 回	ディベート	時事テーマでディベートを行います。終わった後で、細かい点までコメントします。みなさんも相互にコメントしてください。			
第 8 回	文献利用方法	論文の内容は頭の中だけから出て来るわけではありません。文献を駆使して論文に組み立てていくことが必要です。その文献はどのように使えばいいのか、実際に講師が選んだ文献のコピーに書き込みをし、それを論文に利用していく作業をやってみましょう。			
第 9 回	グループディスカッション	時事テーマでグループディスカッションをやってみましょう。終わった後で、細かい点までコメントします。みなさんも相互にコメントしてください。			
第 10 回	卒論 3	章のタイトルの下に節を作り、そのタイトルを仮決めしましょう。それぞれの節にどんな内容が入りうるか、少し考えてみましょう。			
第 11 回	卒論 4	図解のいろいろを学びます。卒論に何を書き込むか考える時マインドマップが取っつきやすいので、これを学びましょう。さらに、論理を考える時、フローチャートが便利です。			
第 12 回	グラフィック・ファシリテーション	ディスカッションのやり方を工夫してみましょう。いろんなツールがディスカッションをわかりやすく、流れを見通しやすくします。前回学んだマインドマップやフローチャートも応用出来ます。			
第 13 回	グループディスカッション	前回学んだファシリテーションの応用として、グループごとに解決すべき問題に答えを見つけるため、図解を作りながら議論しましょう。			
第 14 回	プレゼンテーション	グループごとに、ソリューションを発表します。			
第 15 回	ディスカッション	極力学生自身のことに関するテーマを選び、ディスカッションしましょう。			

# 経済

授業番号	B200700010		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)		
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>経済学部で学んでいくための基礎的な知識を形成することをねらいとしている。そのため、次の3点を目標としている。</p> <p>① ミクロ経済学、マクロ経済学で学習すべき内容の基礎的な事柄を理解する</p> <p>② 経済学で頻出する数値をグラフを知る</p> <p>③ 経済学の歴史を知る</p> <p>テキストの内容をコンパクトにまとめた文章が作成できることを到達目標とする。</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	<p>テキストを輪読し、その内容に解説を加える。授業の最後に、学習した内容をコンパクトにまとめた文章を提出させる。提出された文章は添削して翌週には返却するので、内容理解とともに、文章力の向上を図ることを課題とする。</p>		
成績評価方法 基準	<p>毎回提出される提出物 (小レポート) を5段階で評価する。(5 × 14 = 70点)</p> <p>授業への参加態度を30点(2点×15)で加点する。</p>		
授業の予習・復習	<p>予習 ~ テキストを読んでおくこと</p> <p>復習 ~ 授業内に作成した小レポートをよく見直すこと</p>		
教科書	『はじめて学ぶ経済学』(石橋春男・関谷喜三郎・河口雄司、慶應義塾大学出版会) 2011年3月		
参考文献	<p>『ゼミナール経済学入門』(福岡正夫著、日本経済新聞社)</p> <p>『ハンドブック経済学』(神戸大学経済経営学会編、ミネルヴァ書房)</p>		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法を説明する。またテキストを紹介し、学習内容をダイジェストで紹介する。	
第2回	市場の原理	需要と供給、市場と企業、市場の構成主体、機会費用など	
第3回	需要曲線	需要曲線、価格と需要量、価格弾力性、需要曲線のシフト、需要と消費者心理など	
第4回	供給曲線	供給曲線、価格弾力性、供給曲線のシフト	
第5回	市場メカニズム	市場価格の決定、均衡価格、価格の変動、資源配分など	
第6回	市場の現実	価格の下方硬直性、低価格の時代、市場の暴走	
第7回	市場の失敗	公共財、外部効果の経済学、レモンの市場	
第8回	マクロ経済学とは	ミクロとマクロ、合成の誤謬、国内総生産 (GDP)、三面等価の原則、国民所得の分配面と支出面	
第9回	国民所得と政策	総需要と総供給、需要の優等生、財政政策の有効性、金融政策の有効性	
第10回	国際経済と現代経済の課題	貿易と為替レート、世界の市場経済化、少子高齢化、環境問題	
第11回	グラフを読み解く	需要曲線、供給曲線、弾力性、代替財など	
第12回	微分や対数で読み解く	収入・費用・利潤、微分の意味、対数とは何か、パレート分布、幾何級数	
第13回	マクロ経済を読み解く	成長率、寄与率、ゲタ、瞬間風速、物価指数	
第14回	経済学の歴史 (1)	アダム・スミス、レオン・ワルラス、カール・マルクス	
第15回	経済学の歴史 (2)	ケインズ、サミュエルソン、フリードマン	

# 経済

授業番号	B200700011				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	藤井 輝男 (Teruo Fujii)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済活動や経営活動を人間の行動との関わりから捉える一つの方法として、心理学的なアプローチがある。その手始めとして、心理学の基礎的研究方法 (主として実験法) を体験し心理学的視点から経済、経営を捉える基礎的訓練を体験することを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的に3週を1クルーとし、グループごとに基礎的実験を実施し、次の週に教員による解説を行い、3週目にエビデンスレポートの作成を行う。				
成績評価方法	エビデンスレポートの内容、参加状況等から総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	実験実習で行った内容をまとめ直しておくこと。				
教科書	使用しない。				
参考文献	その都度指示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション 1	授業の進め方、スケジュールの説明、個人紹介シート記入、自己紹介など			
第2回	オリエンテーション 2	心理学における実験とは			
第3回	実験実習 1	錯視 (M-L 錯視) の測定			
第4回	実験の解説 (1)	実験内容の説明を行う			
第5回	実験の解説 (2)	実験結果のまとめ方、レポートの書き方について			
第6回	エビデンスレポート作成	各自のデータを元に報告書をまとめる			
第7回	実験実習 2	鏡映描写実験			
第8回	実験の解説	実験内容の説明			
第9回	エビデンスレポート作成	各自のデータを元に報告書をまとめる			
第10回	実験実習 3	囚人のジレンマ			
第11回	実験の解説	実験内容の説明			
第12回	エビデンスレポート作成	各自のデータを元に報告書をまとめる			
第13回	実験実習 4	判断と意思決定			
第14回	実験の解説	実験内容の説明			
第15回	エビデンスレポート作成	各自のデータを元に報告書をまとめる			

# 経済

授業番号	B200700012		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)		
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	企業の成績表である、決算短信を読み解く力を付けます。エクセルでグラフを作り、客観的なデータを用いて、企業活動を理解します。PPT を用いて報告することで、ビジュアル的に説得力をつける方法も学びます。		
授業の進め方 (履修条件など)	報告のための準備をゼミの前に各自がしておいて、ゼミで報告します。仲間前で自分の考えを客観的に伝えるための手法を学びます。 ゼミの時間中は、前半はプレゼンに重きを置きます。 そのため、身近なテーマである出身地の紹介から始めます。 後半は決算短信を読み解くための基礎知識の解説を行います。 IR とは何か、企業のデータへのアクセス、株式による資金調達と負債による調達の違いは何かなど、専門ゼミで学ぶファイナンスを学ぶための基礎を作ります。		
成績評価方法 基準	ゼミでの発言、報告の内容、報告への積極性などが評価されます。		
授業の予習・復習	半年に 2 回あるプレゼンテーションのための準備は各自でしてもらいますので、予習が必要となります		
教科書	特定の教科書を用いず、公式の HP のデータベースにアクセスし、それを用います。 また便利な経済学・経営学の用語集やニュース解説などを用います。		
参考文献	授業内で適宜示します		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	自己紹介	独りよがりではなく、他人と話題を共有するために固有名詞を用いた自己紹介をするように訓練をします。	
第 2 回	他己紹介	初回に行った自己紹介のメモをもとに、ほかの人の紹介をします	
第 3 回	自己発見	自己紹介や他己紹介をうけてわかった自分の評価を書いて、企業のエントリーシートを書いてみます。その際、長所、短所など自己の分析をします。自分が何をしてきたか、ほかの人と比べてどこが優れているのかを見つけます	
第 4 回	地元の紹介	地元の市町村の HP にアクセスして基本的なデータを紹介するための準備をします。	
第 5 回	発表会 1	各自の地元を紹介します。(4 人程度)	
第 6 回	発表会 2	地元の紹介をします。(4 人程度)	
第 7 回	発表会 3	地元の発表をします	
第 8 回	稲毛区役所に行く	稲毛区役所に行き、区役所の仕事内容を調べます。	
第 9 回	イベントを伝える	区役所で学んだことを PPT を用いて報告します。 体験から客観的なことを伝えることと、 自分を表現することを分けることを学びます。 報告は 6 人程度	
第 10 回	イベントから学ぶ 2	イベントの報告の続きです。あとから報告するほうが差別化が難しいことを学びます。	
第 11 回	企業のデータベース検索	会社概要、沿革から企業の事業内容などを学びます	
第 12 回	IR から知る企業	株式を公開している企業について、IR の中にどのようなデータがあるのかを知ります。 決算報告、ニュースリリースなどをみて学びます	
第 13 回	決算の読み方	決算短信の読み方を学びます	
第 14 回	損益計算書からの企業活動概要の報告	損益決算書の読み方を学んだうえで、報告をしていきます。 好きな企業を選んで、収益、営業利益、経常利益、当期純利益と配当まで報告します。(6 人程度)	
第 15 回	損益決算書の報告	発表会の続きです。	

# 経済

授業番号	B200700013		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)		
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	本演習のねらいは、経済学・経営学の基礎知識およびデータや事例を基にした論理的思考方法を学ぶことで、到達目標は思考方法や表現方法を習得することです。		
授業の進め方 (履修条件など)	「情報マネジメント」を同時に履修してください。卒論作成のために必要な、ネットを用いた情報収集、Excel を用いたデータ分析、PowerPoint や Word を用いた論理的思考と文章表現、などの能力を高めてもらうために、経済・経営のトピックスについての調査・分析を演習としてグループで行ってまいります。		
成績評価方法	報告内容 (80%) と授業参加態度 (20%) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：報告用の資料作成などをおこなってください。経済・経営関連のニュースや解説記事や番組を見てください。 復習：報告や議論に必要な情報の収集や分析をおこなってください。		
教科書	小宮一慶著「一番役立つ！ロジカルシンキング」PHP ビジネス新書		
参考文献	遠藤 功 著 「経営戦略の教科書 (光文社新書)」光文社 南 俊基 著 「6W3H で読み解く決算書入門」日本経済新聞出版社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	講義スケジュールの確認	
第 2 回	経済学の観点	経済学的観点から事例を理解する	
第 3 回	経営学の観点	経営学的観点から事例を理解する	
第 4 回	研究対象 1	研究対象候補のリストアップ	
第 5 回	研究対象 2	研究対象候補の現状調査	
第 6 回	研究対象 3	研究対象候補の絞り込みまたは決定	
第 7 回	研究対象の報告	研究対象候補と選定理由の報告	
第 8 回	業界研究 1	研究対象業界の現状調査	
第 9 回	業界研究 2	研究対象業界の現状把握	
第 10 回	業界研究 3	研究対象業界の現状分析	
第 11 回	業界研究の報告	研究対象業界の現状報告	
第 12 回	企業研究 1	研究対象企業の現状調査	
第 13 回	企業研究 2	研究対象企業の現状把握	
第 14 回	企業研究 3	研究対象企業の現状分析	
第 15 回	企業研究の報告	研究対象企業の現状報告	

# 経済

授業番号	B200700014		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)		
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	現代の日本経済におけるさまざまな現象・課題を考えることを通じて、マクロ経済、企業、家計、財政と金融などの基礎的な考え方を学び、専門演習などより進んだ学習・研究のための基礎を作る。講義とは違って参加者自身が問題意識を持って能動的に取り組み、その成果を確実にすることを目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	日本経済に関する入門的な読み物を用い、直面する問題とその解決について考える。取り上げられた題材について自分自身の意見を整理し、理解を深める。なお、以下に示した各回の取り扱い内容は大まかな目安であり、進度と内容は参加者の関心の所在など状況を見て適宜修正し、変更することがある。また、これに加えてメディアセンター他での文献や資料の利用法、専門演習に向けての考え方などについても時間をとるため、内容の一部を削ることがある。		
成績評価方法	レポート及びその他の課題、出席の状況。後者にはゼミでの発言など参加の積極性を反映させる。		
基準			
授業の予習・復習	予習：事前に教科書の指定されたところを読み、それに関する自分の意見をまとめておく。 復習：その回の内容を整理し、さらに深く知るために受講すべき専門科目が何かを考える。		
教科書	浅子和美・篠原総一編「入門・日本経済」第4版、有斐閣を予定しているが、変更の可能性もある。		
参考文献	上記のほか、長谷川啓之編『経済政策の理論と現実』学文社、2009年など。この他にも適宜紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	はじめに (1)	この科目の紹介と演習の進め方①	
第2回	はじめに (2)	演習の進め方②	
第3回	レポート資料の探し方	回数、順序を変更する場合がある	
第4回	レポートと発表について	回数、順序を変更する場合がある	
第5回	日本経済の大きさと不安 (1)	日本の経済規模	
第6回	日本経済の大きさと不安 (2)	経済大国日本の不安	
第7回	日本経済の歩み (1)	戦後の経済復興	
第8回	日本経済の歩み (2)	高度成長の要因と帰結	
第9回	日本経済の歩み (3)	第一次石油ショックと経済の減速	
第10回	日本経済の歩み (4)	低成長期への転換	
第11回	バブル経済とその影響 (1)	資産価格の高騰	
第12回	バブル経済とその影響 (2)	バブルの崩壊、景気循環	
第13回	バブル経済とその影響 (3)	不良債権と金融システムの安定性	
第14回	バブル経済とその影響 (4)	沈んだ日本経済	
第15回	まとめ	前期のまとめと後期への橋渡し	

経済

授業番号	B200700015				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	高木 朋代 (Tomoyo Takagi)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	学生の皆さんが、将来的に、より堅実な職業人生を歩んでいけるよう、本演習では、人事管理について学びながら、自分の頭で考え整理し、物事の関連性を見極め、解決の糸口を見出していく論理的思考力を向上させることを目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	専門導入演習 I では、大学や演習での学びの意義と創造性の開発について、人事管理に関する議論をまじえながら学びます。授業は、文献の輪読と実習によって進めていきます。討論に積極的に参加することが求められます。				
成績評価方法	授業内で実施する課題 (50%) と参加態度 (50%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：演習の前に、前回の資料等を再読しておくことをお勧めします。 復習：演習で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。				
教科書	必要に応じて独自に資料を配布します。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図			
第 2 回	大学での学びについて考える	資料の輪読			
第 3 回	大学での学びについて考える	資料に関する討論			
第 4 回	大学での学びについて考える	<実習>：言葉で表現する、意味を汲み取る			
第 5 回	演習での学びについて考える	資料の輪読			
第 6 回	演習での学びについて考える	資料に関する討論			
第 7 回	演習での学びについて考える	日本の大学教育と諸外国の大学教育			
第 8 回	演習での学びについて考える	諸外国の教育の根底にある原理			
第 9 回	実 習	事実を認識する：情報の整理と理解			
第 10 回	実 習	推論と解釈			
第 11 回	実 習	現象の本質を捉える			
第 12 回	新しい何かをつくるということ	文献の輪読			
第 13 回	新しい何かをつくるということ	文献に関する討論			
第 14 回	新しい何かをつくるということ	文献の輪読			
第 15 回	新しい何かをつくるということ	文献に関する討論			



# 経済

授業番号	B200700016				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済学的なものの考え方を学んでもらうことが第 1 のねらいである。テキストの内容をレジュメにまとめ、みんなの前で報告してもらうことが第 2 のねらいである。報告に対してコメントや質問をして、報告者と討論をってもらうことが第 3 のねらいである。これらを通して、3, 4 年ゼミで卒業研究をする基礎を養う。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを 1 週に 1 章のペースで勉強して行く。最初は輪読形式をとる。適当な時期から報告者を指名し、報告者の報告を聞き、それ以外の者はそれにコメントや質問をして、全員で議論することで理解を深める。				
成績評価方法	ゼミ中の発言の積極性、発表 (プレゼンテーション) の出来栄等を踏まえて、総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：指定されたテキストの範囲に目を通しておくこと。 復習：ゼミで扱った内容を咀嚼すること。				
教科書	梶井厚志『故事成語でわかる経済学のキーワード』中公新書				
参考文献	外山滋比古『思考の整理学』ちくま文庫 横山光輝『史記』小学館文庫				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	ゼミの進め方の説明、自己紹介、個人目標設定、写真撮影			
第 2 回	テキスト輪読の準備 1	本の読み方、内容のまとめ方の説明			
第 3 回	テキスト輪読の準備 2	本の読み方、内容のまとめ方の説明の続きと練習			
第 4 回	テキストの輪読 1	第 1 章「覆水盆に返らずーサンク・コスト」の輪読、解説、討論			
第 5 回	テキストの輪読 2	第 2 章「蛇足ー追加的利害を考える」の輪読、解説、討論			
第 6 回	テキストの輪読 3	第 3 章「矛盾ートレードオフ」の輪読、解説、討論			
第 7 回	テキストの輪読 4	第 4 章「他山の石ー分業と専門の経済効果」の輪読、解説、討論			
第 8 回	テキストの輪読 5	第 5 章「洛陽の紙価を貴むー価格理論」の輪読、解説、討論			
第 9 回	テキストの輪読 6	第 6 章「先ず隗より始めよーケインズと乗数効果」の輪読、解説、討論			
第 10 回	グループ報告の準備 1	グループ報告の方法の説明、グループ分け (第 7 ~ 10 章)			
第 11 回	グループ報告の準備 2	報告準備 (グループワーク)			
第 12 回	グループ報告の準備 3	報告準備 (グループワーク) の続き			
第 13 回	グループ報告と講評	報告会、相互評価、講評			
第 14 回	夏休みの個人研究課題設定	夏休み中の個人研究課題の設定、研究方法の助言			
第 15 回	前期のまとめ	前期のゼミの総括			



# 経済

授業番号	B200700017				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	岸本 太一 (Taichi Kishimoto)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	この講義では次の3点を目標にします。①:ビジネス書及び経営学の教科書レベルの文献を独力で理解できるようになる。②:論理的にモノごとを考える思考法に馴染む。③:自分が考えたことを理解できるような形で表現できるようになる。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回必ず課題を出します。「本の数章を要約」、「本の内容を用いて企業を分析」等の課題です。その課題に対してプレゼン資料を作成してきてもらいます。当日のゼミでは、その資料をもとにディスカッションをします。				
成績評価方法	提出課題の質、ゼミにおける発言によって総合的に判断します。無断欠席した場合、単位を与えません。				
基準					
授業の予習・復習	予習: 毎回受講者全員に必ず何らかの課題を課します。その課題を行なってきて下さい。 復習: 適時、ゼミにおけるディスカッションおよび配布資料を振り返って下さい。				
教科書	伊丹敬之著『経営を見る眼』東洋経済新報社				
参考文献	ゼミにて適時紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図など			
第2回	輪読およびディスカッション①	『経営を見る眼』第13章			
第3回	輪読およびディスカッション②	『経営を見る眼』第14章			
第4回	輪読およびディスカッション③	『経営を見る眼』第15章			
第5回	輪読およびディスカッション④	『経営を見る眼』第16章			
第6回	輪読およびディスカッション⑤	『経営を見る眼』第17章			
第7回	輪読およびディスカッション⑥	『経営を見る眼』第18章			
第8回	輪読およびディスカッション⑦	『経営を見る眼』第19章			
第9回	輪読およびディスカッション⑧	『経営を見る眼』第8章			
第10回	輪読およびディスカッション⑨	『経営を見る眼』第9章			
第11回	輪読およびディスカッション⑩	『経営を見る眼』第10章			
第12回	輪読およびディスカッション⑪	『経営を見る眼』第11章			
第13回	企業分析①	実際に企業を分析してみる。①			
第14回	企業分析②	実際に企業を分析してみる。②			
第15回	企業分析③	実際に企業を分析してみる。③			

# 経済

授業番号	B200700018		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)		
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済を包括的に理解するには、実物的な側面 (モノの生産・販売や雇用など) だけでなく、カネの側面を理解する必要があります。しかも、カネの側面を良く理解し、その視点から実物的な側面を観察すると、まるで裏側から表舞台をみるような、広範で良好な視界を確保することができます。本演習では、入門的な金融論のテキストを用い、金融の基礎や企業の資金調達、銀行・金融システムについて学びます。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を輪読します。金融論の履修をお勧めします。		
成績評価方法	出席などの取り組み姿勢 (60%)、報告などの成果 (40%)。		
基準			
授業の予習・復習	予習：教科書や参考文献を中心に行ってください。 復習：演習後に残された課題について、引き続き調査・検討して下さい。		
教科書	細野薫、石原秀彦、渡部和孝『グラフィック金融論』新世社		
参考文献	日本経済新聞社編『ベーシック/金融入門』日本経済新聞 鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社 館龍一郎、浜田宏一『金融』岩波書店 この他、授業の中で随時紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	イントロダクション	ゼミ運営上の取りきめや重要事項	
第 2 回	金融システム 1	金融市場、金融仲介機関	
第 3 回	金融システム 2	リスク分散、情報生産 1	
第 4 回	金融システム 3	情報生産 2、流動性の供給	
第 5 回	金融システム 4	金融危機、金融規制、貯蓄と投資	
第 6 回	貨幣 1	貨幣の定義と機能、マネーストック	
第 7 回	貨幣 2	インフレ・デフレ、貨幣数量説	
第 8 回	企業の資金調達 1	企業の資本構成	
第 9 回	企業の資金調達 2	モジリアーニ・ミラー定理	
第 10 回	企業の資金調達 3	コーポレートファイナンスの実際	
第 11 回	銀行の役割と課題 1	銀行の活動	
第 12 回	銀行の役割と課題 2	銀行の財務	
第 13 回	金融規制 1	預金保険制度、自己資本比率規制 1	
第 14 回	金融規制 2	自己資本比率規制 2、政府の金融活動	
第 15 回	映像でみる金融	ビデオなどの視聴	

# 経済

授業番号	B200700019				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本演習では、教科書の輪読を進めるとともに、経済界で観察される面白い現象について自分なりの理解を深め他人とディスカッションする方法を学びます。また、ゼミ生の興味に沿ったディスカッション・テーマを設定し、グループ・ワークとして資料調査し、その結果を発表する練習をします。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回輪読の担当者(レポーターおよびコメンテーター)を決めてディスカッションを進めます。レポーターは担当章のサマリーを、コメンテーターは担当章についての疑問点および自分なりの回答をまとめてきます。前期は2回のグループ・ワークを予定しています。				
成績評価方法	ディスカッションへの参加意欲 (50%)、授業態度 (50%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：輪読時は教科書の決められたチャプターを読んでください。 復習：教科書 (学習したチャプター) を再読してください。				
教科書	徳田賢二『お買い物の経済心理学－何が買い手を動かすのか』ちくま新書、2011年。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業内容、ゼミの進め方についての説明			
第2回	輪読	第1章 人生すべてバランス感覚			
第3回	輪読	第2章 価格よりもお値ごろで選ぶ			
第4回	輪読	第3章 値ごろ感の正体は二乗のお得感			
第5回	輪読	第4章 買い物を誘う手練手管			
第6回	輪読	第5章 決断させる説得術			
第7回	輪読	第6章 現場の経済心理学			
第8回	グループ・ワーク1	テーマ決定、資料調査			
第9回	グループ・ワーク1	プレゼンテーション&グループ・ディスカッション			
第10回	輪読	第7章 買い手の弱み－揺らぐ値ごろ感			
第11回	輪読	第8章 売り手の弱み－値引作戦の落とし穴			
第12回	輪読	第9章 値ごろ感が軸－進化する買い手と売り手			
第13回	グループ・ワーク2	テーマの決定、資料調査			
第14回	グループ・ワーク2	資料調査			
第15回	グループ・ワーク2	プレゼンテーション&グループ・ディスカッション			

# 経済

授業番号	B200700020				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、日商簿記検定 2・3 級の内容について理解することにある。簿記とは、企業の経営活動を記録・計算・整理し、財政状態と経営成績を明らかにするための技法である。この授業では、簿記検定 2・3 級に合格できる知識と技能を習得することを到達目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には、テキストを活用して検定の出題範囲となるテーマを学習する。また、履修者の理解を促すために、適宜問題集や過去問題を用いた問題演習を行う。こうして、簿記一巡や財務諸表の作成について理解できるようにする。さらに、毎回の授業では、前回までの復習を行うことで知識の定着を図る。				
成績評価方法	課 題： 13 回の課題提出を義務づけており、各 10 点満点で採点し、それを成績評価に換算する。				
基準					
授業の予習・復習	① 次回の授業までに、テキストの該当箇所を熟読して授業に臨むこと。 ② 授業で取り上げた箇所の復習を怠らないこと。 ③ 課題や宿題については必ずやり遂げ提出すること。				
教科書	適宜、プリントを配布する。				
参考文献	TAC 簿記検定講座著『合格テキスト 日商簿記 3 級 Ver.6.0 (よくわかる簿記シリーズ)』TAC 出版、第 6 版、2011 年。 TAC 簿記検定講座著『合格トレーニング 日商簿記 3 級 Ver.6.0 (よくわかる簿記シリーズ)』TAC 出版、第 6 版、2011 年。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	本授業の概要と今後の進め方、成績評価について説明			
第 2 回	簿記の基礎概念	資産と負債・純資産の均衡、収益と費用			
第 3 回	複式簿記の基本構造	取引の意義と複式記入、借方・貸方、勘定、仕訳、仕訳帳、元帳			
第 4 回	取引から決算まで	貸借平均の原理、取引の仕訳から決算まで			
第 5 回	資産勘定の処理	現金・預金・売掛金の仕訳、元帳転記			
第 6 回	負債・資本勘定の処理	買掛金・借入金・資本金等の仕訳、元帳転記			
第 7 回	収益・費用勘定の処理	売上・受取利息等の収益と給料・交通費・支払利息等の費用の仕訳、元帳転記			
第 8 回	諸勘定の仕訳と元帳転記	複雑な取引と元帳転記			
第 9 回	現金・預金の処理	小切手、小口現金、普通預金、当座預金等			
第 10 回	手形取引の処理	手形の意義、約束手形、為替手形の処理、裏書・割引、不渡、金融手形の意味			
第 11 回	決算の仕方と試算表	決算の意義・構造、試算表の構造			
第 12 回	決算整理 I	決算整理の処理①			
第 13 回	決算整理 II	決算整理の処理②			
第 14 回	精算表	精算表の仕組と作成			
第 15 回	財務諸表の作成	貸借対照表と損益計算書の作成練習			

# 経済

授業番号	B200710001		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)		
担当者 (英語表記)	土井 修 (Osamu Doi)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門教育への「橋渡し」を狙いとして、経済学の基礎的知識の習得とともに、各自がレジュメを作成し発表できるようにします (入門的経済知識の習得とプレゼン能力の涵養)。特に、本演習では、国際経済に関する知識の習得に努めます。		
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミ生をいくつかのグループに分け、教科書をグループ毎に輪読します。各グループは、分担部分を各ゼミ生にさらに細かく割り当て、レジュメを作成・発表し、他グループとの質疑応答を行います。		
成績評価方法	授業参加態度と発表内容によって評価します。		
基準			
授業の予習・復習	輪読の分担部分に関する情報を集め (新聞やインターネットなど)、理解を深めプレゼンを充実させてください。		
教科書	宮崎勇他「世界経済図説 (第三版)」(岩波新書)		
参考文献	著書、雑誌、新聞、インターネットなどを通して国際経済に関する情報を得ること。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方	
第 2 回	世界経済の輪郭	国の数・国土、人口・民族、GNP	
第 3 回	世界経済の輪郭	産業構造、天然資源・エネルギー分布、国際化の進展	
第 4 回	国際貿易	貿易構造、関税・非関税障壁、GATT/WTO 体制	
第 5 回	国際金融	世界における資本の流れ、IMF 体制、ドル・ユーロ・円・人民元	
第 6 回	多極化と地域統合	世界経済の再編成、アジアの地域統合、日・韓・中の経済関係	
第 7 回	指令経済と「南」の市場経済化。	ソ連の解体、中国の市場経済化、インドの経済発展	
第 8 回	人口・食料・エネルギー・資源	世界人口の急増、食糧事情、エネルギー需給	
第 9 回	地球環境保全	広域化する環境問題、大気汚染・地球温暖化、自然環境と生態系	
第 10 回	軍縮の経済と「平和の配当」	軍拡のムダ、軍縮の経済効果、地域紛争と難民	
第 11 回	経済危機	繰り返される経済危機、1929 年のアメリカ大恐慌、1930 年代の世界不況	
第 12 回	経済危機	日本のバブル経済崩壊とその後の不況、アメリカ発グローバル金融危機	
第 13 回	世界経済の構造変化	市場経済の諸形態、世界経済の一体化、覇権国としてのアメリカ	
第 14 回	世界経済の構造変化	EU の挑戦、中国経済の躍進、世界の中の日本	
第 15 回	まとめ	世界経済の動向に関する総括と質疑応答	

# 経済

授業番号	B200710002				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	野口 明宏 (Akihiro Noguchi)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	前期に続き、専門科目の基礎になる文献を読み進めていきます。 日本企業で優位な地位を占める、株式会社の制度、仕組みを理解します。				
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミ生の発表を中心に、授業を進めていきます。 文献を読み、その内容をまとめて発表できるようにしてください。				
成績評価方法 基準	小テスト、発表の状況、ゼミへの貢献などにもとづいて評価します。				
授業の予習・復習	予習—テキストの発表予定箇所を、あらかじめ読んできてください。 復習—授業の後、テキストを読み返し、知識を整理してください。				
教科書	奥山宏「会社とはなにか」岩波ジュニア新書				
参考文献	必要な時は、授業中に紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	受講上の注意	指導の重点は発表能力の向上			
第 2 回	発表 1	株主は有限責任			
第 3 回	発表 2	合併によって巨大化			
第 4 回	発表 3	規模の経済			
第 5 回	発表 4	フォード T 型車			
第 6 回	発表 5	松下幸之助の水道哲学			
第 7 回	発表 6	大企業病			
第 8 回	発表の講評	問題点の指摘			
第 9 回	発表 7	系列化			
第 10 回	発表 8	国有企業の失敗			
第 11 回	発表 9	国有企業の株式会社化			
第 12 回	発表 1 0	日本の民営化			
第 13 回	発表 1 1	会社は株主のものか			
第 14 回	発表 1 2	資本家とは			
第 15 回	後期のまとめ	専門演習に向けてのアドバイス			

# 経済

授業番号	B200710003				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済を理解するための基礎的な知識の習得。 主体的な勉強、研究心の涵養。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読し、内容を私が解説する。理解を確かめるためにゼミ生と質疑応答する。 日本経済、世界経済のニュースを話題にし経済問題への関心を高め理解を深める。				
成績評価方法	参加態度、発表、討論、レポートによって評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習 テキストを熟読すること 復習 ポイントをノートしておくこと				
教科書	平野和之『ゼロからわかる経済入門 基本と常識』西東社				
参考文献	新聞、雑誌、ネットの記事				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	ゼミ生の夏休みの生活と勉学、レポート提出			
第 2 回	政府・日本銀行と経済の動き	政府の役割			
第 3 回	政府と日銀	日本銀行ー中央銀行、三つの役割			
第 4 回	金融政策	マネーストック、金利と物価、金融引き締め・金融緩和、ゼロ金利			
第 5 回	世界経済の流れ	アメリカ、ヨーロッパ、新興国、アジア、中東			
第 6 回	貿易と通貨、人口問題	基軸通貨ドル、通貨危機、貿易収支、人口爆発			
第 7 回	まとめ	政府・日本銀行と世界経済の復習			
第 8 回	日本経済のこれまでとこれから	GDP, バブル崩壊、景気拡大、世界金融危機から景気減速			
第 9 回	景気	景気動向指数、月例経済報告、景気循環			
第 10 回	日本の信用、収支	国債評価、プライマリーバランス、個人金融資産			
第 11 回	経済問題	食料自給率、少子高齢化、年金問題			
第 12 回	経済のこれから	日本の未来、少子化対策と日本の強み			
第 13 回	まとめ	日本経済のこれまでとこれからの復習			
第 14 回	総まとめ	日本経済の課題についてのフリーディベート			
第 15 回	ゼミ総括	ゼミで習得したものの、反省点をフリートーキング			

# 経済

授業番号	B200710004		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)		
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門導入演習は3, 4年の演習に進むための基礎固めという位置づけである。3年以降では、より専門的な研究を目指すため、ここでは『経済学の基礎』を習得してもらう。経済学の基礎として幅広い知識はもちろん、『経済学の考え方』を身につけることに重点を置いて勉強していくことにしよう。		
授業の進め方 (履修条件など)	本ゼミは、テキストを輪読しながら、経済理論の基礎について習得する。毎回報告者 (発表者) を当てておくので、授業は報告者が予習し、理解したことを発表したのち、それに対する質疑応答を中心に進めていく。また『公務員試験』の過去問を解きながら演習を進める予定である。		
成績評価方法	レポート及びその他の課題 (60%)・授業中の発表・コメントなどの評価 (40%)		
基準			
授業の予習・復習	予習: テキストは必ず予習してくる。発表者はレジメ (報告要旨) を作ることを義務づける。 復習: セメスターの終わりに課題を与えるので、常にノートを整理しておくこと。		
教科書	『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版、西村和雄、八木尚志		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第1回	需要・供給と価格 (1)	価格の役割	
第2回	需要・供給と価格 (2)	個別需要曲線、市場需要曲線	
第3回	需要・供給と価格 (3)	供給曲線の形状と限界費用	
第4回	需要・供給と価格 (4)	供給曲線のシフト要因	
第5回	需要・供給と価格 (5)	余剰分析: 生産者余剰、消費者余剰	
第6回	需要・供給と価格 (まとめ)	レポート作成と練習問題による演習	
第7回	需要・供給分析の応用 (1)	需要の価格弾力性	
第8回	需要・供給分析の応用 (2)	需要の価格弾力性の決定要因	
第9回	需要・供給分析の応用 (3)	供給の価格弾力性	
第10回	需要・供給分析の応用 (4)	需要・供給の価格弾力性の応用	
第11回	需要・供給分析の応用 (5)	不足と過剰	
第12回	需要・供給分析の応用 (6)	需要・供給の法則への介入: 上限価格規制と下限価格規制	
第13回	課税の経済効果 (1)	課税のタイプ	
第14回	課税の経済効果 (2)	物品税の帰着と転嫁	
第15回	需要・供給分析のまとめ	レポート作成と練習問題による演習	



経済

授業番号	B200710005		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)		
担当者 (英語表記)	森谷 英樹 (Hideki Moriya)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	I では売れない時代にモノを売ることについて流通の側から見てきた。II では同じことを消費者の側から消費の変化につき観察していく。		
授業の進め方 (履修条件など)	家計消費支出調査を使って消費支出の長期推移につき調べる。グループに分け作業をして報告してもらう。		
成績評価方法	出席 40% その他 60%		
基準			
授業の予習・復習	前回の作業を完成することが予習につながります。		
教科書	専門導入演習 I と同じ。		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	トレンドでみる家計消費	イントロダクション	
第 2 回	「おしゃれしたい」	衣 (1)	
第 3 回	「おしゃれしたい」	衣 (2)	
第 4 回	「おしゃれしたい」	衣 (3)	
第 5 回	「おいしく食べたい」	食 (1)	
第 6 回	「おいしく食べたい」	食 (2)	
第 7 回	「おいしく食べたい」	食 (3)	
第 8 回	「耐久消費財」	住 (1)	
第 9 回	「耐久消費財」	住 (2)	
第 10 回	「耐久消費財」	住 (3)	
第 11 回	「もっと楽しみたい」	サービス (1)	
第 12 回	「もっと楽しみたい」	サービス (2)	
第 13 回	「もっと楽しみたい」	サービス (3)	
第 14 回	「収入と消費」	「収入と消費」	
第 15 回	「消費と貯蓄」	「消費と貯蓄」	

# 経済

授業番号	B200710006				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	I (前期)では産業について研究しましたが、IIでは企業について研究します。やはり立地論という視点から研究します。各企業がそれぞれどのような活動をしているのかを自ら調べることで、立地論を活用できるようになることが目標です。				
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミ員各自が定めた企業を資料や文献等によって調べ、その内容を基にして立地の特色を考えていきます。ゼミ員は毎時間報告し、最後にレポートを提出します。				
成績評価方法	レポート (60%) と平常点 (40%) から評価します。				
基準					
授業の予習・復習	毎時間報告しますから、必ず資料などで企業の特徴を調べておくこと。授業後は、レポート作成に向けてさらに深く調べること。				
教科書	使用しません				
参考文献	各企業ごとに「有価証券報告書総覧」が発行されているので、参考にすると良い				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方、調べる企業の決定			
第 2 回	企業の事例研究	ソニーを事例にして歴史、組織、立地とその変化、課題について解説			
第 3 回	各企業の歴史 (1)	ゼミ員各自が報告			
第 4 回	各企業の歴史 (2)	前週報告に対する追加報告			
第 5 回	各企業の組織 (1)	ゼミ員各自が報告			
第 6 回	各企業の組織 (2)	前週報告に対する追加報告			
第 7 回	各企業の立地とその変化 (1)	ゼミ員各自が報告 (国内の立地)			
第 8 回	各企業の立地とその変化 (2)	ゼミ員各自が報告 (海外の立地)			
第 9 回	各企業の立地とその変化 (3)	前週・前々週報告に対する追加報告			
第 10 回	企業の立地の特色	ゼミ員全体でのディスカッション			
第 11 回	各企業の課題 (1)	ゼミ員各自が報告			
第 12 回	各企業の課題 (2)	前週報告に対する追加報告			
第 13 回	日本企業の将来展望	ゼミ員全体でのディスカッション			
第 14 回	レポート作成指導 (1)	資料や文献のまとめ方、レポートの作成方法の指導			
第 15 回	レポート作成指導 (2)	レポートの添削指導			

# 経済

授業番号	B200710008				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	折原 裕 (Yutaka Orihara)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済学発祥の地がヨーロッパであったことから、私達は、私達自身の経済的思惟のルーツを、とかくヨーロッパに求めがちです。けれども、私達日本人にも、固有の経済的思惟の歴史はありました。そうした日本の経済思想史を知ることによって、私達は、現在の私達が持つ経済思想の性格を、よりよく自覚することができるようになるでしょう。				
授業の進め方 (履修条件など)	当面は、下記のテキストによりつつ、日本人の経済的思惟の変遷をたどります。				
成績評価方法	平常点とレポートなど課題との総合評価によります。				
基準					
授業の予習・復習	進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。				
教科書	テッサ・モーリス・鈴木『日本の経済思想——江戸期から現代まで——』岩波書店、コピーを配布します。				
参考文献	指定しません。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	テキスト輪読・Dレベル	テキスト輪読			
第 2 回	テキスト輪読・Dレベル	テキスト輪読			
第 3 回	テキスト輪読・Dレベル	テキスト輪読			
第 4 回	テキスト輪読・Dレベル	テキスト輪読			
第 5 回	テキスト輪読・Dレベル	テキスト輪読			
第 6 回	テキスト輪読・Eレベル	テキスト輪読			
第 7 回	テキスト輪読・Eレベル	テキスト輪読			
第 8 回	テキスト輪読・Eレベル	テキスト輪読			
第 9 回	テキスト輪読・Eレベル	テキスト輪読			
第 10 回	テキスト輪読・Eレベル	テキスト輪読			
第 11 回	テキスト輪読・Fレベル	テキスト輪読			
第 12 回	テキスト輪読・Fレベル	テキスト輪読			
第 13 回	テキスト輪読・Fレベル	テキスト輪読			
第 14 回	テキスト輪読・Fレベル	テキスト輪読			
第 15 回	テキスト輪読・Fレベル	テキスト輪読			

# 経済

授業番号	B200710009				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	卒論の目次+各章・節・項の概要が出来上がることを目標とします。ディスカッションでは、就職活動でのグループディスカッションの練習をかねて、簡潔で論理的な発言に慣れましょう。この習慣が文章での表現にも現れることを期待しています。				
授業の進め方 (履修条件など)	3年次終了までに卒論の草稿が終わることを目的に、2年次では論文作成の基礎を勉強します。希望によっては、ディベート、グループディスカッションを頻繁に行います。				
成績評価方法	レポート及びその他の課題 (30%)・授業中のパフォーマンス (70%)				
基準					
授業の予習・復習	前の回の作業の上に次回の作業を積み重ねますので、極力休まず、休んだらその回の作業を課題としてやっておいて下さい。				
教科書	特に指定せず、必要があればプリントを使います。口頭の指示だけになる回もあります。				
参考文献	必要に応じて指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	夏休みの課題チェック	卒論目次の章タイトル、節タイトル、項タイトルを決めてもらいました。それぞれ1分間報告して頂きます。			
第2回	ディスカッション	時事テーマなどでグループディスカッション			
第3回	テキストリーディング	卒論作業は、文献を読んではメモをとり、そこから自分の論理を作ったり、自分の論理を実証するために生かしていく部分がほとんどとなります。そこで、実際に各自が使う文献を読んでマーキング、メモ→論文に利用という流れを実習しましょう。			
第4回	テキストリーディング	前回の続きです。			
第5回	ディスカッション	時事テーマなどでグループディスカッション			
第6回	卒論	項タイトルのもとに、10行ずつ内容をメモしていきましょう。			
第7回	卒論	それぞれの内容としてどの程度の論理を盛り込めるか、図解で確認していきましょう。			
第8回	ディスカッション	前回の続きをやりましょう。			
第9回	ディスカッション	グループごとに解決すべき問題に答えを見つけるため、図解を作りながら議論しましょう			
第10回	卒論	議論結果をそれぞれのグループが図解を提示しながら報告します。			
第11回	プレゼンテーション	先輩達の書いた卒論をざっと見て、どれが良い卒論か moodle 上で投票します。それぞれの卒論について、なぜ投票したかの理由を述べてもらい、講師が講評します。			
第12回	プレゼンテーション	自分の卒論の主旨と構成について1分間プレゼンテーションします。プレゼンテーションのコメントを皆さんにお願いします。			
第13回	ディスカッション	グループごとに解決すべき問題に答えを見つけるため、図解を作りながら議論しましょう			
第14回	プレゼンテーション	議論結果をそれぞれのグループが図解を提示しながら報告します。			
第15回	卒論	3年に向けて、卒論の文章を書き始めます。			
第16回	ディスカッション	職業観を問うテーマでグループディスカッションしましょう。			

# 経済

授業番号	B200710010				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>経済学部で学んでいくための基礎的な知識を形成することをねらいとしている。後期は基礎的な経営理論の習得をめざす。そのため、次の2点を目標としている。</p> <p>① 企業や経営についての基礎的な事柄を理解する</p> <p>② 経営指標を知るために決算書について基礎的な事柄を理解する</p> <p>テキストの内容をコンパクトにまとめた文章が作成できることを到達目標とする。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>テキストを輪読し、その内容に解説を加える。授業の最後に、学習した内容をコンパクトにまとめた文章を提出させる。提出された文章は添削して翌週には返却するので、内容理解とともに、文章力の向上を図ることを課題とする。</p>				
成績評価方法 基準	<p>毎回提出される提出物 (小レポート) を5段階で評価する。(5 × 14 = 70点)</p> <p>授業への参加態度を30点(2点×15)で加点する。</p>				
授業の予習・復習	<p>予習 ~ テキストを読んでおくこと</p> <p>復習 ~ 授業内に作成した小レポートをよく見直すこと</p>				
教科書	『はじめの一步 経営学』(守屋貴司・近藤宏一・小沢道紀、ミネルヴァ書房、2007年)				
参考文献	<p>『ゼミナール経営学入門』(伊丹敬之・加護野忠男著、日本経済新聞社)</p> <p>『ハンドブック経営学』(神戸大学経済経営学会編、ミネルヴァ書房)</p>				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法			
第2回	第1章 どんな会社があるのか	世界と日本の企業、主要な業界と代表的な企業、企業の分類、企業の種類			
第3回	第2章 会社は誰のものか	なぜ株式会社が多いのか、株式市場の仕組み、株式会社をめぐる法律の規定			
第4回	第3章 会社の一生	会社の歴史と創業者、会社の創業期、会社の規模とその成長			
第5回	第4章 会社は誰がうごかしているのか 第5章 会社で働くとはどういうことか	トップマネジメントの組織、企業組織の部門管理、マネジメントとは、組織とは、日本のマネジメントとは			
第6回	第6章 労働組合ってなに?	労働組合とは、日本の労働組合は今、労働組合の役割と労使関係			
第7回	第7章 会社は何に基づいて活動しているのか	経営戦略と経営環境、キャノンの目標と理念			
第8回	第8章 会社の動かし方としての「経営戦略」	大手私鉄企業の特徴、阪急電車の多角化、多様な戦略論			
第9回	第9章 ものが売れる仕組み	「おーいお茶」とお茶ブーム、市場のニーズ			
第10回	第10章 経済社会の動きと企業経営	日本経済と企業、経済と企業との関係、経済成長と景気循環			
第11回	第11章 企業の社会的責任と社会的企業の成長	企業と社会との関係、企業の雇用におけるさまざまな問題、社会から企業の範囲を越える活動			
第12回	第12章 国際化時代の企業	グローバル時代への変化、グローバル化のなかでのローカルな問題			
第13回	決算書の読み方(1)	決算書の種類、キャッシュフロー計算書			
第14回	決算書の読み方(2)	損益計算書			
第15回	決算書の読み方(3)	貸借対照表			

# 経済

授業番号	B200710011				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	藤井 輝男 (Teruo Fujii)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済活動や経営活動を人間の行動との関わりから捉える一つの方法として、心理学的なアプローチがある。その手始めとして、心理学の基礎的研究方法 (主として実験法) を体験し心理学的視点から経済、経営を捉える基礎的訓練を体験することを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的に3週を1クルーとし、グループごとに基礎的実験を実施し、次の週に教員による解説を行い、3週目にエビデンスレポートの作成を行う。				
成績評価方法	エビデンスレポートの内容、参加状況等から総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	実験実習で行った内容をまとめ直すしておくこと。				
教科書	使用しない。				
参考文献	その都度指示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	実験実習 1	記憶、認知領域の実験			
第2回	実験の解説	実験内容の説明			
第3回	エビデンスレポート作成	各自のデータを元に報告書をまとめる			
第4回	実験実習 2	性格の測定 (性格検査)			
第5回	実験の解説	実験内容の説明			
第6回	エビデンスレポート作成	各自のデータを元に報告書をまとめる			
第7回	実験実習 3	対人行動に関する実験			
第8回	実験の解説	実験内容の説明			
第9回	エビデンスレポート作成	各自のデータを元に報告書をまとめる			
第10回	実験実習 4	「フェルミ推定」			
第11回	実験の解説	「フェルミ推定」の実際			
第12回	エビデンスレポート作成	「フェルミ推定」が可能なテーマを探し実施する			
第13回	報告会 1	各グループごとの発表、相互評価、講評			
第14回	報告会 2	各グループごとの発表、相互評価、講評			
第15回	まとめ	年度全体のまとめと質疑			

# 経済

授業番号	B200710012		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)		
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	企業の損益計算書と財務諸表を用いて、企業の経営について、収益力、安定性、株主対策などの指標を用いて評価できるようになることが目標です。 同業の二つの企業のデータをエクセルに入力してグラフを作り、比較することで、経営の成果の違いを浮き彫りにします。		
授業の進め方 (履修条件など)	代表的な経営の指標について、はじめに解説をします。最初は上場している企業を一つ探して、その後、プレゼンの準備を各自してもらい、ゼミの中でプレゼンをしていきます。 一社の時系列での比較をしたら、次に二社の比較をして、プレゼンをまとめてもらい、発表してもらいます。		
成績評価方法	ゼミの中での発言と、プレゼンの内容で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	プレゼンの準備をすることが予習になります。		
教科書	教科書はありません。企業の HP や日経のデータベースなどになります。さまざまなデータにアクセスすることに慣れていきます		
参考文献	適宜指示します		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	企業の損益計算書の見方の復習	前期に学んだ、企業の損益計算書の見方を学びます。売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の違いをみます。原価率を計算してみます。	
第 2 回	企業の損益計算書の見方の復習 2	日経 goo の経営用語集を用いて、わからない経営用語を調べることを学びます。また、損益計算書のより詳細な読み解きかたを学びます。収益力を図るための利益率、ROE,ROA などの意味を知ります。	
第 3 回	プレゼンテーション 1	各自がひとつの企業を選んで、損益計算書と財務諸表をみながら、利益率などの収益力を評価したものを PPT でプレゼンします。	
第 4 回	プレゼンテーション 2	企業の収益力の指標を評価したものをプレゼンします。	
第 5 回	財務構成と経営 (講義)	総資本が他人資本と自己資本に分かれることを学びます。またその構成比率が経営に与える影響を学びます。	
第 6 回	資産と負債 (講義)	資産と負債の内容について、流動と固定の違い、流動比率の重要性を学びます。	
第 7 回	プレゼンテーション 3	財務構成と資産・負債の内容について、以前選んだ企業を選んで、企業の安定性を評価します。	
第 8 回	プレゼンテーション 4	プレゼンの続きです。ほかの人のプレゼンをみて、自分の企業のケースと比べます。	
第 9 回	プレゼンテーション 5	プレゼンの続きです。後で報告する人ほど、詳細な報告を求められます。	
第 10 回	企業の経営をデータから総合的に評価する	4 年間の時系列データを 2 つの企業についてとり、今まで学んだ経営指標を組み合わせて総合的に企業の経営を比較評価する方法を学びます。	
第 11 回	プレゼンテーション 6	2 つの上場企業をとり、その企業の事業内容、収益力と財務の安定性について総合的に PPT で報告します。I から学んできたことの集大成となります。	
第 12 回	プレゼンテーション 7	先週に引き続きプレゼンテーションをします。その中で他人の報告を評価して感想を述べる訓練をします	
第 13 回	プレゼンテーション 8	プレゼンの続きです。全員がプレゼンをします。	
第 14 回	まとめ 1	専門導入ゼミでやったことをまとめます	
第 15 回	まとめ 2	ゼミを振り返ります	

# 経済

授業番号	B200710013		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)		
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	本演習のねらいは、経済学・経営学の基礎知識およびデータや事例を基にした論理的思考方法を学ぶことで、到達目標は思考方法や表現方法を習得することです。		
授業の進め方 (履修条件など)	「知的財産権論」を同時に履修してください。卒論作成のために必要な、ネットを用いた情報収集、Excelを用いたデータ分析、PowerPoint や Word を用いた論理的思考と文章表現、などの能力を高めてもらうために、前期とは異なる経済・経営のトピックスについての調査・分析を演習として個人で行ってまいります。		
成績評価方法	報告内容 (80%) と授業参加態度 (20%) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：報告用の資料作成などをおこなってください。経済・経営関連のニュースや解説記事や番組を見てください。 復習：報告や議論に必要な情報の収集や分析をおこなってください。		
教科書	吉本佳生著「無料ビジネスの時代～消費不況に立ち向かう価格戦略」 筑摩書房		
参考文献	遠藤 功 著 「経営戦略の教科書 (光文社新書)」 光文社 南 俊基 著 「6W3H で読み解く決算書入門」 日本経済新聞出版社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	講義スケジュールの確認	
第 2 回	経営戦略の考え方	経営戦略の観点から事例を理解する	
第 3 回	経営分析の手法	経営分析の観点から事例を理解する	
第 4 回	研究対象 1	研究対象候補のリストアップ	
第 5 回	研究対象 2	研究対象候補の現状調査	
第 6 回	研究対象 3	研究対象候補の絞り込みまたは決定	
第 7 回	研究対象の報告	研究対象候補と選定理由の報告	
第 8 回	業界研究 1	研究対象業界の現状調査	
第 9 回	業界研究 2	研究対象業界の現状把握	
第 10 回	業界研究 3	研究対象業界の現状分析	
第 11 回	業界研究の報告	研究対象業界の現状報告	
第 12 回	企業研究 1	研究対象企業の現状調査	
第 13 回	企業研究 2	研究対象企業の現状把握	
第 14 回	企業研究 3	研究対象企業の現状分析	
第 15 回	企業研究の報告	研究対象企業の現状報告	



# 経済

授業番号	B200710014		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)		
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	現代の日本経済におけるさまざまな現象・課題を考えることを通じて、マクロ経済、企業、家計、財政と金融などの基礎的な考え方を学び、専門演習などより進んだ学習・研究のための基礎を作る。講義とは違って参加者自身が問題意識を持って能動的に取り組み、その成果を確実にすることを目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	前期の専門導入演習 I から継続して、日本経済に関する入門的な読み物を用い、直面する問題とその解決について考える。取り上げられた題材について自分自身の意見を整理し、理解を深める。なお、以下に示した各回の取り扱い内容はだまかな目安であり、進捗と内容は参加者の関心の所在など状況を見て適宜修正し、変更することがある。また、これに加えてメディアセンター他での文献や資料の利用法、専門演習に向けての考え方などについても時間をとるため、内容の一部を削ることがある。		
成績評価方法	レポート及びその他の課題、出席の状況。後者にはゼミでの発言など参加の積極性を反映させる。		
基準			
授業の予習・復習	予習：事前に教科書の指定されたところを読み、それに関する自分の意見をまとめておく。 復習：その回の内容を整理し、さらに深く知るために受講すべき専門科目が何かを考える。		
教科書	浅子和美・篠原総一編「入門・日本経済」第4版、有斐閣を予定しているが、変更の可能性もある。		
参考文献	上記のほか、長谷川啓之編『経済政策の理論と現実』学文社、2009年など。この他にも適宜紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	はじめに (1)	演習の進め方	
第2回	はじめに (2)	前期の復習	
第3回	日本経済の将来への展望 (1)	構造改革と日本経済の再生	
第4回	日本経済の将来への展望 (2)	リーマンショックと日本経済の調整	
第5回	日本経済の将来への展望 (3)	日本経済の将来と成長戦略	
第6回	日本経済と企業 (1)	日本の企業システムと近年の動向	
第7回	日本経済と企業 (2)	コーポレートガバナンス	
第8回	日本経済と企業 (3)	公共政策の課題	
第9回	日本の雇用問題 (1)	変貌する日本の雇用システム	
第10回	日本の雇用問題 (2)	若年層を取り巻く問題、女性の就労と今後	
第11回	ここまでのまとめ	専門演習をどう選ぶか	
第12回	日本の金融と金融危機 (1)	日本の金融市場	
第13回	日本の金融と金融危機 (2)	日本の金融システム	
第14回	日本の金融と金融危機 (3)	金融危機と対策	
第15回	全体のまとめ	3年次演習に向けて	

# 経済

授業番号	B200710015				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	高木 朋代 (Tomoyo Takagi)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	学生の皆さんが、将来的に、より堅実な職業人生を歩んでいけるよう、本演習では、人事管理について学びながら、自分の頭で考え整理し、物事の関連性を見極め、解決の糸口を見出していく論理的思考力を向上させることを目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	専門導入演習 II では、社会科学の方法論と人事管理の仕組みと論理について学びます。授業は、文献の輪読と実習によって進めていきます。討論に積極的に参加することが求められます。				
成績評価方法	授業内で実施する課題 (50%) と参加態度 (50%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：演習の前に、前回の資料等を再読しておくことをお勧めします。 復習：演習で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。				
教科書	必要に応じて独自に資料を配布します。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図			
第 2 回	社会科学の方法論	資料の輪読			
第 3 回	社会科学の方法論	資料に関する討論			
第 4 回	社会科学の方法論	<実習>：スライドを見てクイズに答える			
第 5 回	人の育成と活用について学ぶ I	働く人々の類型：資料の輪読			
第 6 回	人の育成と活用について学ぶ I	雇用と労働に関する討論			
第 7 回	人の育成と活用について学ぶ I	人を雇い入れる：資料の輪読			
第 8 回	人の育成と活用について学ぶ I	採用に関する討論			
第 9 回	社会調査の方法について学ぶ	資料の輪読			
第 10 回	社会調査の方法について学ぶ	資料に関する討論			
第 11 回	社会調査の方法について学ぶ	定性調査法と定量調査法についてまとめ			
第 12 回	人の育成と活用について学ぶ II	能力の種類：資料の輪読			
第 13 回	人の育成と活用について学ぶ II	職務能力に関する討論			
第 14 回	人の育成と活用について学ぶ II	能力の開発：資料の輪読			
第 15 回	人の育成と活用について学ぶ II	能力開発に関する討論			

# 経済

授業番号	B200710016				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済学的なものの考え方を学んでもらうことが第1のねらいである。テキストの内容を要約し、レジュメにまとめ、みんなの前で報告してもらうことが第2のねらいである。報告に対してコメントや質問をして、報告者と討論してもらうことが第3のねらいである。これらを通して、3, 4年ゼミで卒業研究をする基礎を養う。				
授業の進め方 (履修条件など)	後期は報告者 (最初はグループ、後に個人) を指名し、報告者の報告を聞き、報告者以外の者はそれにコメントや質問をして、全員で議論することで理解を深める。報告の仕方にも練習する。				
成績評価方法	ゼミ中の発言の積極性、発表 (プレゼンテーション) の出来栄等を踏まえて、総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習: 指定されたテキストの範囲に目を通しておくこと。 復習: ゼミで扱った内容を咀嚼すること。				
教科書	梶井厚志『故事成語でわかる経済学のキーワード』中公新書				
参考文献	横山光輝『史記』小学館文庫 藤沢晃次『「分かりやすい表現」の技術』講談社ブルーバックス				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	後期のゼミの概要確認、後期個人目標の設定			
第2回	夏休み中の個人研究発表会	夏休み中の個人研究の発表、講評			
第3回	第1回グループ報告の準備1	グループ分け、報告準備 (グループワーク) (第11章~13章)			
第4回	第1回グループ報告の準備2	報告準備 (グループワーク) の続き			
第5回	第1回グループ報告会	報告会、相互評価、講評			
第6回	第2回グループ発表の準備1	グループ分け、報告準備 (グループワーク) (第14章~16章)			
第7回	第2回グループ報告の準備2	報告準備 (グループワーク) の続き			
第8回	第2回グループ報告会	報告会、相互評価、講評			
第9回	第1回個人報告の準備1	分担の決定、報告準備 (個人作業) (第17章~第22章)			
第10回	第1回個人報告の準備2	報告準備 (個人作業) の続き			
第11回	第1回個人報告会	報告会、相互評価、講評			
第12回	第2回個人報告の準備	分担の決定、報告準備 (個人作業) (第23章~28章)			
第13回	第2回個人報告の準備2	報告準備 (個人作業) の続き			
第14回	第2回個人報告会	報告会、相互評価、講評			
第15回	まとめ	今年度のゼミの総括			

# 経済

授業番号	B200710017				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	岸本 太一 (Taichi Kishimoto)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	授業のねらいおよび到達目標は、次の3つです。①:ビジネス書および経営学・経済学の教科書を読めるようになること。②:他人が容易に理解可能なプレゼンテーション資料を作成できるようになること。③:意味のあるディスカッションができるようになること。ゼミという形式は、この3点を学ぶには最適の形式です。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回必ず課題を出します。「本の数章を要約」、「本の内容を用いて企業を分析」等の課題です。その課題に対してプレゼン資料を作成してきてもらいます。当日のゼミでは、その資料をもとにディスカッションをします。				
成績評価方法	出席、提出課題の質、ゼミにおける発言によって総合的に判断します。無断欠席した場合、単位を与えません。				
基準					
授業の予習・復習	予習: 毎回受講者全員に必ず何らかの課題を課します。その課題を行なってきて下さい。 復習: 適時、ゼミにおけるディスカッションおよび配布資料を振り返って下さい。				
教科書	フィル・ローゼンツワイク著・桃井緑美子訳『なぜビジネス書は間違うのか ハロー効果という妄想』日経 BP 社				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図など			
第2回	輪読およびディスカッション①	『なぜビジネス書は間違うのか』はじめに			
第3回	輪読およびディスカッション②	『なぜビジネス書は間違うのか』第1章			
第4回	輪読およびディスカッション③	『なぜビジネス書は間違うのか』第2章			
第5回	輪読およびディスカッション④	『なぜビジネス書は間違うのか』第3章			
第6回	輪読およびディスカッション⑤	『なぜビジネス書は間違うのか』第4章			
第7回	輪読およびディスカッション⑥	『なぜビジネス書は間違うのか』第5章			
第8回	輪読およびディスカッション⑦	『なぜビジネス書は間違うのか』第6章			
第9回	輪読およびディスカッション⑧	『なぜビジネス書は間違うのか』第7章			
第10回	輪読およびディスカッション⑨	『なぜビジネス書は間違うのか』第8章			
第11回	輪読およびディスカッション⑩	『なぜビジネス書は間違うのか』第9章			
第12回	輪読およびディスカッション⑪	『なぜビジネス書は間違うのか』第10章			
第13回	企業分析①	実際に企業を分析してみる。①			
第14回	企業分析②	実際に企業を分析してみる。②			
第15回	企業分析③	実際に企業を分析してみる。③			

# 経済

授業番号	B200710018				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門導入演習 I における学習の延長として、金融市場や金融政策について学びます。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を輪読します。金融論を履修することをお勧めします。				
成績評価方法	出席などの取り組み姿勢 (60%)、報告などの成果 (40%)。				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書や参考文献を中心に行ってください。 復習：演習後に残された課題について、引き続き調査・検討して下さい。				
教科書	細野薫、石原秀彦、渡部和孝『グラフィック金融論』新世社				
参考文献	日本経済新聞社編『ベーシック/金融入門』日本経済新聞 鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社 館龍一郎、浜田宏一『金融』岩波書店 この他、演習の中で随時紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	利子率 1	債券のリスクと利子率、利子率の期間構造			
第 2 回	利子率 2	割引現在価値			
第 3 回	利子率 3	名目利子率と実質利子率、資金の需要と供給			
第 4 回	株価 1	株式市場、株式の収益率とリスク、株価			
第 5 回	株価 2	ポートフォリオの理論、効率的市場仮説			
第 6 回	株価 3	株式収益率の決まり方			
第 7 回	為替相場 1	為替と為替相場、通貨制度			
第 8 回	為替相場 2	名目為替相場と実質為替相場、国際収支			
第 9 回	為替相場 3	為替相場の決まり方			
第 10 回	貨幣市場の需要と供給 1	貨幣供給のメカニズム、貨幣の取引需要			
第 11 回	貨幣市場の需要と供給 2	流動性選好、貨幣市場における名目利子率の決定			
第 12 回	金融政策 1	中央銀行、金融政策の目的と手段			
第 13 回	金融政策 2	金融政策のメカニズム、中央銀行の独立性			
第 14 回	映像でみる金融	ビデオなどの視聴			
第 15 回	まとめ	全体を通して興味や関心をもった内容の確認			

# 経済

授業番号	B200710019				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本演習では、教科書の輪読を進めるとともに、経済界で観察される面白い現象について自分なりの理解を深め他人とディスカッションする方法を学びます。また、ゼミ生の興味に沿ったディスカッション・テーマを設定し、グループ・ワークとして資料調査し、その結果を発表する練習をします。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回輪読の担当者(レポーターおよびコメンテーター)を決めてゼミ生の司会のもとディスカッションを進めます。レポーターは担当章のサマリーを、コメンテーターは担当章についての疑問点および自分なりの回答をまとめてきます。後期は1回のグループ・ワークを予定しています。				
成績評価方法	ディスカッションへの参加意欲 (50%)、授業態度 (50%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：輪読時は教科書の決められたチャプターを読んでください。 復習：教科書 (学習したチャプター) を再読してください。				
教科書	石井淳威『マーケティングを学ぶ』ちくま書房、2010年。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業内容、ゼミの進め方についての説明			
第2回	輪読	第I部 市場志向の戦略づくり①			
第3回	輪読	第I部 市場志向の戦略づくり②			
第4回	輪読	第II部 戦略志向の組織体制づくり①			
第5回	輪読	第II部 戦略志向の組織体制づくり②			
第6回	輪読	第II部 戦略志向の組織体制づくり③			
第7回	グループ・ワーク1	テーマ決定、資料調査			
第8回	グループ・ワーク1	資料調査			
第9回	グループ・ワーク1	プレゼンテーション&グループ・ディスカッション			
第10回	輪読	第III部 顧客との接点のマネジメント①			
第11回	輪読	第III部 顧客との接点のマネジメント②			
第12回	輪読	第III部 顧客との接点のマネジメント③			
第13回	輪読	第IV部 組織の情報リテラシーを確率する①			
第14回	輪読	第IV部 組織の情報リテラシーを確率する②			
第15回	輪読	第IV部 組織の情報リテラシーを確率する③			

# 経済

授業番号	B200710020				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、日商簿記検定 2・3 級の内容について理解することにある。簿記とは、企業の経営活動を記録・計算・整理し、財政状態と経営成績を明らかにするための技法である。この授業では、簿記検定 2・3 級に合格できる知識と技能を習得することを到達目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には、テキストを活用して検定の出題範囲となるテーマを学習する。また、履修者の理解を促すために、適宜問題集や過去問題を用いた問題演習を行う。こうして、簿記一巡や財務諸表の作成について理解できるようにする。さらに、毎回の授業では、前回までの復習を行うことで知識の定着を図る。				
成績評価方法	課 題： 13 回の課題提出を義務づけており、各 10 点満点で採点し、それを成績評価に換算する。				
基準					
授業の予習・復習	① 次回の授業までに、テキストの該当箇所を熟読して授業に臨むこと。 ② 授業で取り上げた箇所の復習を怠らないこと。 ③ 課題や宿題については必ずやり遂げ提出すること。				
教科書	適宜、プリントを配布する。				
参考文献	TAC 簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記 3 級 Ver.6.0 (よくわかる簿記シリーズ)』TAC 出版、第 6 版、2011 年。 TAC 簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記 3 級 Ver.6.0 (よくわかる簿記シリーズ)』TAC 出版、第 6 版、2011 年。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	本授業の概要と今後の進め方、成績評価について説明			
第 2 回	工業簿記の基礎概念	工業簿記の流れ			
第 3 回	費目別計算 I	材料費、労務費、経費			
第 4 回	費目別計算 II	製造間接費の配賦問題、先入先出法と平均法			
第 5 回	総合原価計算 I	単純総合原価計算			
第 6 回	総合原価計算 II	工程別総合原価計算			
第 7 回	総合原価計算 III	組別総合原価計算			
第 8 回	総合原価計算 IV	等級別総合原価計算			
第 9 回	直接原価計算	直接原価計算、損益分岐点、CVP 分析			
第 10 回	標準原価計算	標準原価計算			
第 11 回	本社工場会計	本社工場会計			
第 12 回	財務諸表	貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書の作成			
第 13 回	個別原価計算 I	個別原価計算の基礎			
第 14 回	個別原価計算 II	部門別個別原価計算			
第 15 回	問題演習	過去に出題された問題を用いて問題演習を行う。			

# 経済

授業番号	B200490001		
科目名 (英語表記)	総合科目 I 「国際社会を知る」 (A comprehensive subject I I International society)		
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この講義では、他の授業では比較的接することが少ないが重要な 3 つの国や地域を選んで、その国/地域の概要や世界の中での位置づけ、人々の生活など、身近な話題からその国を実感してもらおう、という目的で授業を進めます。講師は、その国/地域とのつながりが濃く、現地での生活経験のある先生方です。		
授業の進め方 (履修条件など)	3 人の先生がそれぞれの専門の国/地域について講義します。履修者は、基礎的情報の習得から、各自がその国/地域に関し意見が持てる程度までの学習が求められます。資料が配付されることもありますが、基本的にノートをしっかりとりながら聴講しましょう。先生方はそれぞれ 5 回の講義で各国/地域の全体像を知ってもらおうと全力で講義されます。ノートは、講義を聴きながら早書きのメモで記録し、後でわかりやすいようまとめ直しましょう。		
成績評価方法 基準	レポート (アラブのシリーズでは必須) と定期試験 (授業態度・小テスト等を若干加味) で決めます。但し定期試験時に電力需給が逼迫すれば全てレポートになるかも知れません。定期試験は小論文方式で、3 人の先生が 1 問ずつ出された 3 つの問題のうち 2 つを選んで解答します。定期試験では、講義内容を理解した上で自分の意見が書けるかどうかをみます。配付資料の copy & paste は評価されません		
授業の予習・復習	復習として、授業中のメモを後で見てもわかるような講義録にまとめなおす作業を 1 回 1 回すぐにやっておきましょう。先生が推薦された参考図書は極力メディアセンターに入れておくようにします。読んでおきましょう。		
教科書	テキストはありません。ノートをしっかりとして下さい。		
参考文献	各担当講師からその都度参考文献の紹介があります。先生が推薦された参考図書は極力メディアセンターに入れておくようにします。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	東欧を知ろう (森下 嘉之)	東欧という地域について (講義の前 5 分間ガイダンスがあります)	
第 2 回	東欧を知ろう (森下 嘉之)	東欧の歴史と文化を振り返る (19 世紀以前を中心に)	
第 3 回	東欧を知ろう (森下 嘉之)	東欧の歴史と文化を振り返る (20 世紀前半を中心に)	
第 4 回	東欧を知ろう (森下 嘉之)	社会主義という経験 (20 世紀後半)	
第 5 回	東欧を知ろう (森下 嘉之)	東欧のいま (21 世紀のチェコを中心に)	
第 6 回	アラブ世界を知ろう (水口 章)	アラブ人と国家 (20 世紀の創造物としての国境)	
第 7 回	アラブ世界を知ろう (水口 章)	国民国家と少数派 (宗教的少数派と民族的少数派)	
第 8 回	アラブ世界を知ろう (水口 章)	今日のアラブ社会 (人口、結婚、女性、教育)	
第 9 回	アラブ世界を知ろう (水口 章)	アラブ諸国の経済 (農業、商業、石油産業)	
第 10 回	アラブ世界を知ろう (水口 章)	時事問題から見るアラブ諸国 (「アラブの春」の行方、中東和平問題)	
第 11 回	朝鮮半島を知ろう (文 浩一)	南北朝鮮の人々の暮らし (講義の前 5 分間ガイダンスがあります)	
第 12 回	朝鮮半島を知ろう (文 浩一)	南北分断の歴史と統一問題	
第 13 回	朝鮮半島を知ろう (文 浩一)	韓国の政治と経済	
第 14 回	朝鮮半島を知ろう (文 浩一)	北朝鮮の政治と経済	
第 15 回	朝鮮半島を知ろう (文 浩一)	小テスト	



# 経済

授業番号	B200500001				
科目名 (英語表記)	総合科目 II「国際社会を知る」(A comprehensive subject I International society)				
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この講義では、他の授業では比較的接することが少ないが重要な3つの国や地域を選んで、その国/地域の概要や世界の中での位置づけ、人々の生活など、身近な話題からその国を実感してもらおう、という目的で授業を進めます。講師は、その国/地域とのつながりが濃く、現地での生活経験のある先生方です。				
授業の進め方 (履修条件など)	3人の先生がそれぞれの専門の国/地域について講義します。履修者は、基礎的情報の習得から、各自がその国/地域に関し意見が持てる程度までの学習が求められます。資料が配付されることもありますが、基本的にノートをしっかりとりながら聴講しましょう。先生方はそれぞれ5回の講義で各国/地域の全体像を知ってもらおうと全力で講義されます。ノートは、講義を聴きながら早書きのメモで記録し、後でわかりやすいようまとめ直しましょう。				
成績評価方法 基準	評点は、授業態度・小テスト等を若干加味し、主として定期試験の結果によって決めます。単位取得のため必須のレポートが出される場合もありますので、ご注意ください。定期試験は小論文方式で、3人の先生が1問ずつ出された3つの問題のうち2つを選んで解答します。定期試験では、講義内容を理解した上で自分の意見が書けるかどうかをみます。配付資料のcopy & pasteは評価されません。				
授業の予習・復習	復習として、授業中のメモを後で見てもわかるような講義録にまとめなおす作業を1回1回すぐにやっておきましょう。先生が推薦された参考図書は極力メディアセンターに入れておくようにします。読んでおきましょう。				
教科書	テキストはありません。ノートをしっかりとって下さい。				
参考文献	各担当講師からその都度参考文献の紹介があります。先生が推薦された参考図書は極力メディアセンターに入れておくようにします。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	深まる東南アジアと日本の経済関係 (山田 紀彦)	東南アジアの概要と歴史			
第2回	深まる東南アジアと日本の経済関係 (山田 紀彦)	ベトナム戦争			
第3回	深まる東南アジアと日本の経済関係 (山田 紀彦)	開発独裁と経済発展			
第4回	深まる東南アジアと日本の経済関係 (山田 紀彦)	東南アジアの民主化			
第5回	深まる東南アジアと日本の経済関係 (山田 紀彦)	東南アジアの社会主義			
第6回	ベトナムの現代史と人々の暮らし (小高 泰)	ベトナムの歴史と現在			
第7回	ベトナムの現代史と人々の暮らし (小高 泰)	フランス、アメリカとの関係			
第8回	ベトナムの現代史と人々の暮らし (小高 泰)	中国との関係			
第9回	ベトナムの現代史と人々の暮らし (小高 泰)	市場経済制度の中の生活の変化			
第10回	ベトナムの現代史と人々の暮らし (小高 泰)	ドイモイと日本との関係			
第11回	ロシアを知ろう (吉村 貴之)	多民族からなるロシア世界			
第12回	ロシアを知ろう (吉村 貴之)	世界帝国から革命へ			
第13回	ロシアを知ろう (吉村 貴之)	社会主義と民族問題			
第14回	ロシアを知ろう (吉村 貴之)	社会主義体制の発展と冷戦			
第15回	ロシアを知ろう (吉村 貴之)	再び体制転換			

# 経済

授業番号	B200740001				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)			(B)	
担当者 (英語表記)	牧野 俊重 (Toshishige Makino)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深め、併せて経済・経営に関する知識を広める。				
授業の進め方 (履修条件など)	前年度の研究を続行しながら、併せて各人の選択したテーマについて卒業論文の作成指導を行う。卒業に必要な所定単位の修得、就職の決定、卒業論文の作成が本年度の最大の目標となる。				
成績評価方法	レポート、口頭発表、出席状況、卒業論文等を総合的に勘案して評価する。				
基準					
授業の予習・復習	演習の時間において、為すべき予習・復習についてはその都度指示する。課題も与えるので、取り組まざるを得なくなるであろう。				
教科書	猿谷 要著 『物語アメリカの歴史』 (中公新書 820 円 + 税)				
参考文献	演習中、個別の研究テーマに応じて随時紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	演習の方針と進め方等について			
第 2 回	テキスト講読	前年に継続してテキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。			
第 3 回	テキスト講読	前年に継続してテキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。			
第 4 回	テキスト講読	前年に継続してテキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。			
第 5 回	テキスト講読	前年に継続してテキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。			
第 6 回	就職対策	就職活動指導			
第 7 回	就職対策	就職活動支援			
第 8 回	卒業論文の課題決定	全ゼミ生の作成必須である卒業論文の研究課題を資料・文献等を基にして早い時期に決定させる。これは個別指導となるために数回に及ぶ。			
第 9 回	卒業論文の課題決定	全ゼミ生の作成必須である卒業論文の研究課題を資料・文献等を基にして早い時期に決定させる。これは個別指導となるために数回に及ぶ。			
第 10 回	卒業論文の課題決定	全ゼミ生の作成必須である卒業論文の研究課題を資料・文献等を基にして早い時期に決定させる。これは個別指導となるために数回に及ぶ。			
第 11 回	卒業論文の課題決定	全ゼミ生の作成必須である卒業論文の研究課題を資料・文献等を基にして早い時期に決定させる。これは個別指導となるために数回に及ぶ。			
第 12 回	テキスト講読	前年に継続してテキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。			
第 13 回	テキスト講読	前年に継続してテキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。			
第 14 回	テキスト講読	この前期を以てテキストは読了する予定である。			
第 15 回	総まとめ	この期の演習を総括			

経済

授業番号	B200740002				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	野口 明宏 (Akihiro Noguchi)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	各自の選んだテーマについて、卒業論文を作成し、完成させてください。				
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミ生ごとに個別指導を行います。 たとえば、テーマに関する資料収集の方法、書けた文書の修正など、具体的に指導します。				
成績評価方法	小テスト、卒業論文作成の姿勢、ゼミへの貢献などにもとづいて評価します。				
基準					
授業の予習・復習	自分のテーマに関する単行本、新聞・雑誌の記事、HPなどを常に探すようにしてください。 書けた文書を常に推敲し、納得のいくものに仕上げてください。 地道に作業を継続することが大切です。				
教科書	使用しません。				
参考文献	各自のテーマごとに、必要な資料、その入手方法などを紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	論文作成のスケジュール、テーマの確認			
第 2 回	論文資料の探し方	単行本・雑誌論文・新聞記事・HPの探し方			
第 3 回	資料の読み方	アンダーライン、付箋、メモのとり方など			
第 4 回	論文の構成	書きたいことは何か、項目の組み立て方			
第 5 回	文書のまとめ方	抜き書き、引用、下書きメモ			
第 6 回	文書の推敲 1	丁寧に、慎重に、根気よく取り組む			
第 7 回	文書の推敲 2	パソコンの場合、コピー・ペーストの有効活用法			
第 8 回	個別指導 1	書いた範囲での文書指導			
第 9 回	個別指導 2	書いた範囲での文書指導			
第 10 回	個別指導 3	書いた範囲での文書指導			
第 11 回	講評－書き方のアドバイス	書き方の問題点の指摘			
第 12 回	個別指導 4	書いた範囲での文書指導			
第 13 回	個別指導 5	書いた範囲での文書指導			
第 14 回	個別指導 6	書いた範囲での文書指導			
第 15 回	全体的講評	後期に向けて、書き方の問題点を指摘			

経済

授業番号	B200740003				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	3年次に引き続いて日本経済の研究を進めるとともに、ゼミ生各自が研究テーマを絞り込み、卒論を執筆完成することを目標とする				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストの輪読、研究とともに、ゼミ生の卒論作成指導をおこなっていく。				
成績評価方法	参加態度、発表、討論、レポートによって評価する。				
基準					
授業の予習・復習	テキストの語句、疑問点を調べておくこと。ゼミ討論の内容、論点の整理をおこなっておくこと。				
教科書	『ゼミナール 現代日本経済入門』日本経済新聞社				
参考文献	経済雑誌、新聞の経済記事				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	卒論指導	ゼミ生の研究テーマの確定			
第 2 回	卒論作成手順	卒論の執筆要領、論文作成の方法			
第 3 回	国際経済と日本の貿易 I	世界経済のダイナミズム			
第 4 回	国際経済と日本の貿易 II	アジア経済、地域貿易協定			
第 5 回	国際経済と日本の貿易 III	自由貿易、経済摩擦、中国の WTO 加盟			
第 6 回	国際経済と日本の貿易 IV	日本の貿易構造、国際収支			
第 7 回	グローバル化下の円 I	通貨大競争、ドル支配の終わり			
第 8 回	グローバル化下の円 II	円の強弱、通貨新秩序			
第 9 回	グローバル化下の円 III	国際通貨制度、円の歴史			
第 10 回	変わる産業構造 I	グローバル化と日本の産業、製造業の動向			
第 11 回	変わる産業構造 II	伸びる産業、沈む産業			
第 12 回	変わる産業構造 III	産業構造の移り変わり、工業化の歴史			
第 13 回	卒論研究 I	ゼミ生の卒論研究の進捗確認と指導			
第 14 回	卒論研究 II	ゼミ生の卒論進捗確認と指導			
第 15 回	ゼミ前期総括	卒論指導と日本経済研究のまとめ			

# 経済

授業番号	B200740004		
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済政策の理論として、マクロ経済学を習得し、その後現実の政策課題 (不良債権処理、バブル崩壊以降のデフレ経済からの脱却、財政赤字の問題、年金や医療など社会保障制度改革など) について研究することを目的とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読しながら、経済政策の理論と具体的問題について研究する。		
成績評価方法	レポート及びその他の課題 (60%) ・授業中の発表・コメントなどの評価 (40%)		
基準			
授業の予習・復習	予習:ゼミの授業はテキスト並びに配布プリントをある程度理解した上で、質疑応答、討論という形で進めていくため、予習していなければ学習効果は期待できない。 復習:ゼミの時間は自分の研究を進めていくためのものであるから、自宅学習の時間を十分取り、早い段階で自分の研究テーマを見つけることが必要である。		
教科書	『スティグリッツ マクロ経済学 (第3版)』東洋経済新報社、スティグリッツ、C.E. ウォルシュ著		
参考文献	『スティグリッツ 入門経済学』(第3版) 東洋経済新報社、J.E. スティグリッツ、C.E. ウォルシュ、藪下 史郎、秋山 太郎		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	マクロ経済活動の測定 (1)	名目GDPと実質GDPの計測	
第2回	マクロ経済活動の測定 (2)	GDPを構成する要素と潜在GDP	
第3回	マクロ経済活動の測定 (3)	失業と失業統計	
第4回	マクロ経済活動の測定 (4)	失業の形態	
第5回	マクロ経済活動の測定 (5)	インフレーションの測定	
第6回	マクロ経済活動の測定 (6)	様々な物価指数: 消費者物価指数、卸売物価指数、GDPデフレーター	
第7回	マクロ経済活動の測定 (7)	国民経済計算とSNA	
第8回	マクロ経済活動の測定 (8)	練習問題による演習	
第9回	完全雇用マクロモデル (1)	総需要と均衡産出量	
第10回	完全雇用マクロモデル (2)	限界消費性向と投資乗数	
第11回	完全雇用マクロモデル (3)	政府の導入と乗数: 減税乗数と財政支出乗数	
第12回	完全雇用マクロモデル (4)	レポート作成	
第13回	貨幣と銀行システム (1)	貨幣の機能と役割	
第14回	貨幣と銀行システム (2)	金融システムのメカニズム	
第15回	貨幣と銀行システム (3)	マネーサプライの定義と計測	

# 経済

授業番号	B200740005				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	森谷 英樹 (Hideki Moriya)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	できるだけケーススタディを中心にしながら企業経営と収益動向に興味をもってもらえるようにしたい。テキストはマーケティングを取りあげる。企業は市場において厳しい競争に直面している。身近な企業の経営戦略について、考えることを通じて就職活動を支援する。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義を通じて人の話を理解して、要点をメモすることが大切である。就職にあたって社会人として何が重要なのか言及する。卒論のテーマを早期に決定してそれをまとめることを期待している。新聞記事、雑誌、ネット、ビデオなどを教材に活用してみたい。				
成績評価方法	出席 40%、その他 60%				
基準					
授業の予習・復習	.				
教科書	使用しない				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	「モノが売れない」	①百貨店			
第 2 回	日本の小売業	②スーパー			
第 3 回	日本の小売業	③専門店			
第 4 回	日本の小売業	④ CVS			
第 5 回	日本の小売業	⑤ SPA			
第 6 回	「産業と付加価値」	①鉄鋼業			
第 7 回	日本の産業	②自動車			
第 8 回	日本の産業	③エネルギー			
第 9 回	日本の産業	④ロボット			
第 10 回	日本の産業	⑤円高と産業			
第 11 回	「サービス産業の課題」	①ホテル			
第 12 回	日本のサービス産業	②外食			
第 13 回	日本のサービス産業	③エンタテインメント			
第 14 回	卒論準備	①個別相談			
第 15 回	卒論準備	②個別相談			

経済

授業番号	B200740006				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門演習 I・II (3年次) で学んだ産業と地域の関係を明らかにする手法を使って、各自がテーマを定め、準備し調査して内容をまとめ、論文として発表できるように指導していきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	3年次にすでにテーマは決まっているので、そのテーマに従って調べてきたことを順次発表します。また、3年次に引き続きディベート練習も行います。				
成績評価方法	レジュメを含む発表内容 (60%) と平常点 (40%、ディベート、他の発表者への質問等) から評価します。				
基準					
授業の予習・復習	発表には十分な準備を行うとともに、発表後は指摘された問題にしっかり対応すること。				
教科書	使用しません				
参考文献	一人一人異なるので個別に紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方			
第 2 回	ディベート練習 (1)	ディベートの実施 (産業立地問題をテーマにして)			
第 3 回	ディベート練習 (2)	ディベートの実施 (企業活動をテーマにして)			
第 4 回	ディベート練習 (3)	ディベートの実施 (千葉県産業をテーマにして)			
第 5 回	卒業論文のテーマと目的 (1)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (1～3)			
第 6 回	卒業論文のテーマと目的 (2)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (4～6)			
第 7 回	卒業論文のテーマと目的 (3)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (7～9)			
第 8 回	卒業論文のテーマと目的 (4)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (10～11)			
第 9 回	文献・資料の紹介 (1)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (1～3)			
第 10 回	文献・資料の紹介 (2)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (4～6)			
第 11 回	文献・資料の紹介 (3)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (7～9)			
第 12 回	文献・資料の紹介 (4)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (10～11)			
第 13 回	調査・研究方法 (1)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (1～6)			
第 14 回	調査・研究方法 (2)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (7～11)			
第 15 回	前期の講評	課題解決のための指導			

経済

授業番号	B200740007				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	折原 裕 (Yutaka Orihara)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	一にも二にも卒業論文の準備につきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	3年次春休みに書いてもらう卒業論文準備報告書を、次第に拡充していくことで、卒業論文を完成に導きます。文献や資料の使い方、論理や表現の仕方、なども学びます。				
成績評価方法	平常点とレポートなど課題との総合評価によります。				
基準					
授業の予習・復習	進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。				
教科書	指定しません。				
参考文献	指定しません。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	レポートの検討・D レベル	レポートの検討			
第 2 回	レポートの検討・D レベル	レポートの検討			
第 3 回	レポートの検討・D レベル	レポートの検討			
第 4 回	レポートの検討・D レベル	レポートの検討			
第 5 回	レポートの検討・D レベル	レポートの検討			
第 6 回	レポートの検討・E レベル	レポートの検討			
第 7 回	レポートの検討・E レベル	レポートの検討			
第 8 回	レポートの検討・E レベル	レポートの検討			
第 9 回	レポートの検討・E レベル	レポートの検討			
第 10 回	レポートの検討・E レベル	レポートの検討			
第 11 回	レポートの検討・F レベル	レポートの検討			
第 12 回	レポートの検討・F レベル	レポートの検討			
第 13 回	レポートの検討・F レベル	レポートの検討			
第 14 回	レポートの検討・F レベル	レポートの検討			
第 15 回	レポートの検討・F レベル	レポートの検討			



経済

授業番号	B200740008				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	将来ビジネス文書作成に応用出来るような卒論作成の手法を工夫しながら、4年制大学レベルの卒論完成を目指します。同時に、就職活動にも全力を尽くして下さい。				
授業の進め方 (履修条件など)	就職活動とのバランスを調整しながらのゼミ進行になると思います。前期は連絡を取り合いながら卒論完成と就職活動のお手伝い、後期は卒論報告と卒論草稿の修正作業で忙しくなります。				
成績評価方法	レポート及びその他の課題 (90%)・授業中のパフォーマンス (10%)				
基準					
授業の予習・復習	個人のスケジュールに沿って作業を進めるようになります。ゼミでの各作業の締切も設けますので、遅れ遅れにならぬよう自宅での作業が必須になります。				
教科書	指定しません				
参考文献	それぞれがインターネット等駆使して参考文献を見つけて下さい。授業ではそれをお手伝いします。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	卒論計画書チェック	これまでの卒論進行を振り返り、今年度一年間の計画書をチェックする			
第 2 回	卒論報告 1	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告します。(1)			
第 3 回	卒論報告 2	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告します。(2)			
第 4 回	卒論報告 3	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告します。(3)			
第 5 回	卒論報告 4	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告します。(4)			
第 6 回	卒論執筆 1	ゼミ生の 1/4 について、進めてきた卒論の内容を開示しあい、詳細な点についても全員の前でコメントします。(1)			
第 7 回	卒論執筆 2	ゼミ生の 1/4 について、進めてきた卒論の内容を開示しあい、詳細な点についても全員の前でコメントします。(2)			
第 8 回	卒論執筆 3	ゼミ生の 1/4 について、進めてきた卒論の内容を開示しあい、詳細な点についても全員の前でコメントします。(3)			
第 9 回	卒論執筆 4	ゼミ生の 1/4 について、進めてきた卒論の内容を開示しあい、詳細な点についても全員の前でコメントします。(4)			
第 10 回	卒論執筆 5	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告し、相互評価し合います (1)			
第 11 回	卒論執筆 6	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告し、相互評価し合います (2)			
第 12 回	卒論執筆 7	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告し、相互評価し合います (3)			
第 13 回	卒論執筆 8	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告し、相互評価し合います (4)			
第 14 回	卒論作成作業 1	これまでの相互評価・教員コメントを踏まえ、実際に卒論を修正し、教員がチェックします (1)			
第 15 回	卒論作成作業 2	これまでの相互評価・教員コメントを踏まえ、実際に卒論を修正し、教員がチェックします (2)			

経済

授業番号	B200740009				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	卒業論文執筆に向けて、卒論の書き方を理解すること、研究論文を輪読することで、先行研究の水準を知ることが目標である。				
授業の進め方 (履修条件など)	卒業論文執筆に向けて、卒論の書き方をレクチャーする。また、研究論文を輪読する。				
成績評価方法 基準	平常点で評価する。毎回の授業での発言・報告 (30%)、レポート作成 (70%) によって判定する。				
授業の予習・復習	" 予習：テキストを読んでおくこと 復習：発表の準備を行う "				
教科書	特に使用しない。論文などはコピーを配布する。				
参考文献	各自の卒論テーマに応じて指摘する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、卒論テーマ			
第 2 回	卒論の書き方①	研究とは？「アホ・バカ分布図」			
第 3 回	卒論の書き方②	調査方法			
第 4 回	卒論の書き方③	卒論の構成 (序論・本論・結論) と形式 (註、図表、参考文献)			
第 5 回	各自の卒論構成の検討	各自の卒論構成を作成			
第 6 回	研究論文を読む①	先行研究の論文を読んでみる。			
第 7 回	研究論文を読む②	先行研究の論文を読んでみる。			
第 8 回	研究論文を読む③	先行研究の論文を読んでみる。			
第 9 回	卒論を書いてみる①	個別指導			
第 10 回	卒論を書いてみる②	個別指導			
第 11 回	卒論を書いてみる③	個別指導			
第 12 回	卒論を書いてみる④	個別指導			
第 13 回	卒論を書いてみる⑤	個別指導			
第 14 回	卒論を書いてみる⑥	個別指導			
第 15 回	まとめ	卒論準備報告の提出			

# 経済

授業番号	B200740010				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	卒業論文を完成するためのテーマの選定, データの取り方について学びます				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的に講義形式です。講義のあと各自でその日の内容をまとめて、メールしてもらいます。最終的にテーマの選定と分析のためのデータすべてをエクセルに入力して提出します				
成績評価方法	最終的に提出された内容によって評価します				
基準					
授業の予習・復習	復習とは、卒業論文のためのデータを集めて加工することになります				
教科書	ありません。私が配布するファイルになります				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	テーマの選定	2つの企業を選び、比較分析します。上場しているか確認します			
第 2 回	テーマの選定と卒論の書き方	卒業論文のテーマ選定で陥りやすい失敗を学びながら、よいテーマ選定とはなにかを解説します			
第 3 回	テーマを選んでみる	手垢が付いていないテーマか、データが取れるか、などに注意しながらテーマを選定します。			
第 4 回	テーマの確定	この段階でテーマを完全に確定します			
第 5 回	テーマの確定	全員にテーマとデータベースとなる決算短信1年分を印刷して提出してもらいます			
第 6 回	データの入力	分析に必要なデータを打ち込んでいきます。エクセルで入力し、グラにします			
第 7 回	データの入力	全員がデータ入力を終わらせるまで、データの入力を助け合います			
第 8 回	グラフの作成	シェア分析、営業力分析、財務指標など、適切なグラフの書き方を学びながら、2社を比較していきます			
第 9 回	グラフの作成 2	前回と同じ内容ですが、全員が終わらせることが大切です			
第 10 回	論文の作成の注意点	論文の構成を学びます。また調べ学習ではないことを肝に銘じます。			
第 11 回	出展、参考文献	適切なつけ方を学びます			
第 12 回	注釈、補論	引用、注釈の仕方を学びます。また、本筋とは関係ないときの補論のつけ方を学びます			
第 13 回	ニュース検索	日経 NEEDS やデータベース検索から記事検索などを学びます			
第 14 回	報告書の作成	卒論作成の中間報告をします			
第 15 回	報告書の作成	中間報告書を作成し、提出します			

経済

授業番号	B200740011		
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	本演習のねらいは、論理的思考と卒業論文の作成方法について学んでもらうことで、到達目標は、卒論概要とアウトラインの完成です。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎回報告を通して卒論の概要 (課題・結論・理由・構成) とアウトラインを決定してもらいます。		
成績評価方法	報告内容 (100%) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：報告用の Word ファイルを事前に準備してください。 復習：授業時間中の指示に基づき調査検討作業を授業時間外におこなってください。		
教科書	なし。		
参考文献	坂田せい子他著『誰も教えなかった論文・レポートの書き方』総合法令 小宮一慶著『一番役立つ! ロジカルシンキング』PHP ビジネス新書 飯間浩明『非論理的な人のための論理的な文章の書き方入門』デズカガア・トインティン		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	講義スケジュールの確認	
第 2 回	結論と理由の検討 1	結論と理由の明確化 1	
第 3 回	結論と理由の検討 2	結論と理由の明確化 2	
第 4 回	結論と理由の検討 3	結論と理由の妥当性の検討 1	
第 5 回	結論と理由の検討 4	結論と理由の妥当性の検討 2	
第 6 回	理由と証拠の検討 1	理由を裏付ける証拠の検討 1	
第 7 回	理由と証拠の検討 2	理由を裏付ける証拠の検討 2	
第 8 回	理由と証拠の検討 3	理由を裏付ける証拠の検討 3	
第 9 回	理由と証拠の検討 4	理由を裏付ける証拠の検討 4	
第 10 回	事前情報の検討 1	証拠を正当化するための事前情報の検討 1	
第 11 回	事前情報の検討 2	証拠を正当化するための事前情報の検討 2	
第 12 回	事前情報の検討 3	証拠を正当化するための事前情報の検討 3	
第 13 回	構成の検討 1	事前情報、証拠など説明順序の検討 1	
第 14 回	構成の検討 2	事前情報、証拠など説明順序の検討 2	
第 15 回	構成の検討 3	事前情報、証拠など説明順序の検討 3	

経済

授業番号	B200740012				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	鈴木 明男 (Akio Suzuki)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	卒業論文のテーマを見出すこと、また、社会に出て必要な知識を得ることを意識しながら、数社の実際の財務諸表を例として会社の実態を分析・評価する方法を学ぶ。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を丹念に輪読すること、また、財務諸表や関連する経営分析資料を実際に各自分析し発表する。				
成績評価方法	授業参加への積極性と課題への取り組み姿勢等を総合的に判断し評価する。				
基準					
授業の予習・復習	特に会計関連資格の受験者には最近の出版物の予習・復習が望ましい。				
教科書	「会計学入門」 千代田邦夫 中央経済社				
参考文献	「財務会計入門」 田中建二 中央経済社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	今後の授業内容と進め方の説明。			
第 2 回	損益分岐点 - 1	変動費、固定費			
第 3 回	損益分岐点 - 2	グラフと計算式による損益分岐点の分析			
第 4 回	損益分岐点 - 3	損益分岐点と経営計画策定			
第 5 回	財務諸表の仕組み	貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の理解			
第 6 回	財務諸表を読む	全体的着眼点と注意点			
第 7 回	財務諸表分析の方法の概要	企業比較、期間比等、各種の分析手法			
第 8 回	企業の全体的特徴を見る	規模、事業内容等			
第 9 回	財務の健全性を見る - 1	流動比率、自己資本比率等			
第 10 回	財務の健全性を見る - 2	キャッシュ・フロー比率			
第 11 回	収益性を見る - 1	総資本利益率、自己資本利益率等			
第 12 回	収益性を見る - 2	売上利益率、各種利益率、各種費用比率等			
第 13 回	活動性を見る	総資本回転率、自己資本回転率、棚卸資産回転期間等			
第 14 回	生産性を見る	労働装備率等			
第 15 回	総合的判断をする	数社の財務上の特徴を比較分析し改善点を探る			

# 経済

授業番号	B200740013				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>「戦後日本の経済発展と構造変化」をテーマとして、日本経済を景気循環および経済成長の過程に注目して捉え、戦後の日本経済の展開と政府や企業、家計が今日直面している諸問題を考える。</p> <p>また、並行して卒業後の就職および進路について考えてもらう。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>前年の専門演習の受講者を対象に、3年次において日本経済の構造変化に関する共通の文献を講読することで上記の問題を中心に一通りの知識を確認してきたものを基礎として、卒業論文における自身の研究テーマを見つけ出し、論文執筆の準備とする。</p>				
成績評価方法	卒業論文、レポートおよびその他の課題、出席および参加の状況を考慮して評価する。				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習：発表担当者にはレジュメ作成などの準備が、それ以外のメンバーには当該箇所に関する十分な予習が求められる。</p> <p>復習：毎回の内容を自分の卒業論文のテーマ選びに結びつけ、計画をたてる参考とする。</p>				
教科書	マクロ経済学の観点から日本経済を捉えた専門書、論文集を引き続き使用する。				
参考文献	各回の論題にあわせて適宜紹介する他、卒論と結び付けられるよう研究テーマに応じて個別に紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	はじめに (1)	春休みの課題提出、コメント、卒論の計画書に向けて (1)			
第2回	はじめに (2)	春休みの課題提出、コメント、卒論の計画書に向けて (2)			
第3回	はじめに (3)	春休みの課題提出、コメント、卒論の計画書に向けて (3)			
第4回	文献講読および卒論計画 (1)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説			
第5回	文献講読および卒論計画 (2)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説			
第6回	文献講読および卒論計画 (3)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説			
第7回	文献講読および卒論計画 (4)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説			
第8回	文献講読および卒論計画 (5)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説			
第9回	文献講読および卒論計画 (6)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説			
第10回	文献講読および卒論計画 (7)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説			
第11回	文献講読および卒論計画 (8)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説			
第12回	文献講読および卒論計画 (9)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説			
第13回	詳細な卒論計画書について (1)	夏休みに必要な作業			
第14回	詳細な卒論計画書について (2)	課題の提示と指示			
第15回	詳細な卒論計画書について (3)	前期のまとめ			

経済

授業番号	B200740014				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	星 真実 (Masami Hoshi)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	2年・3年次の実態調査をもとに、卒業論文を完成させる。				
授業の進め方 (履修条件など)	執筆内容についての添削を中心に指導する。				
成績評価方法	卒業論文の内容によって評価する。				
基準					
授業の予習・復習	12,000字目指して先ずは書き進めること。				
教科書	特に使用しない。				
参考文献	卒業論文の内容に応じて随時紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	卒業論文作成を中心とするゼミの進め方			
第2回	卒業論文作成 1	卒論の章立てについて			
第3回	卒業論文作成 2	卒論の概要発表 (1班)			
第4回	卒業論文作成 3	卒論の概要発表 (2班)			
第5回	卒業論文作成 4	卒論の概要発表 (3班)			
第6回	卒業論文作成 5	卒論の概要発表 (4班)			
第7回	卒業論文作成 6	卒論のタイトル仮決定			
第8回	卒業論文作成 7	卒論の章立て発表 (1班)			
第9回	卒業論文作成 8	卒論の章立て発表 (2班)			
第10回	卒業論文作成 9	卒論の章立て発表 (3班)			
第11回	卒業論文作成 10	卒論の章立て発表 (4班)			
第12回	卒業論文作成 11	内容についてのディスカッション (1班)			
第13回	卒業論文作成 12	内容についてのディスカッション (2班)			
第14回	卒業論文作成 13	内容についてのディスカッション (3班)			
第15回	卒業論文作成 14	内容についてのディスカッション (4班)			

経済

授業番号	B200740015		
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	各自が設定したテーマをもとに卒業論文を書き上げることが最大の目標である。問題意識を明確にして常に意識し、調べたことを整理してまとめるという知的作業に励んでもらう。前期末までにテーマを固め、章立てができることを目標とする (構想メモを提出してもらい)。		
授業の進め方 (履修条件など)	前半は全員出席で卒論作成方法 (テーマ設定、構成の仕方、文献の調べ方等) を解説する。後半 (6月以降) は個別に卒論作成を進めてもらう。順番を決めて月に 1 回程度進捗状況を報告してもらい、必要な指導を行う。		
成績評価方法	全員出席の日と個人報告の日の参加態度 40%、卒論作成への取り組み方 30%、卒論構想メモの内容 30% で評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習: 個人報告の際は、草稿のほかにレジユメを用意すること。 復習: 指導された内容を踏まえ、適切に卒論の内容に反映させること。		
教科書	指定しない。		
参考文献	酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』(共立出版) 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書)		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	ゼミのスケジュール (卒論指導の進め方) の説明	
第 2 回	卒論作成方法の解説 1	論文を書くということ、論文のパターンについて	
第 3 回	卒論作成方法の解説 2	テーマの設定方法 (問題の絞り方) について	
第 4 回	卒論作成方法の解説 3	資料収集、分析方法について	
第 5 回	卒論作成方法の解説 4	論文の構成の仕方 (章立て、節割りなど) について	
第 6 回	卒論作成方法の解説 5	分かりやすい文章の書き方について	
第 7 回	卒論作成方法の解説 6	執筆上の注意 (卒論の体裁、わかりやすい文章の書き方)	
第 8 回	個別指導 1	ワークシートまたはレジユメに沿って卒論の構想報告 (2 人程度)	
第 9 回	個別指導 2	ワークシートまたはレジユメに沿って卒論の構想報告 (2 人程度)	
第 10 回	個別指導 3	ワークシートまたはレジユメに沿って卒論の構想報告 (2 人程度)	
第 11 回	進捗状況の確認 1	全員出席して進捗状況の報告	
第 12 回	個別指導 4	ワークシートまたはレジユメに沿って卒論の構想報告 (2 人程度)	
第 13 回	個別指導 5	ワークシートまたはレジユメに沿って卒論の構想報告 (2 人程度)	
第 14 回	個別指導 6	ワークシートまたはレジユメに沿って卒論の構想報告 (2 人程度)	
第 15 回	進捗状況の確認 2	全員出席して卒業論文のテーマ・問題意識・構想 (章立て案) の発表会	



経済

授業番号	B200740016				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門演習における取り組みの延長として、卒業論文の完成度を高めます。				
授業の進め方 (履修条件など)	就職活動の状況に十分配慮し、卒業論文の作成に専念します。個別の相談が中心となります。				
成績評価方法	出席などの取り組み姿勢。				
基準					
授業の予習・復習	自分の課題に主体的に取り組んでください。				
教科書	教科書は指定しません。				
参考文献	各自研究テーマが異なるので、個別に紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	卒業論文の作成 20	進捗状況の確認、内容について質疑応答 20			
第 2 回	卒業論文の作成 21	進捗状況の確認、内容について質疑応答 21			
第 3 回	卒業論文の作成 22	進捗状況の確認、内容について質疑応答 22			
第 4 回	卒業論文の作成 23	進捗状況の確認、内容について質疑応答 23			
第 5 回	卒業論文の作成 24	進捗状況の確認、内容について質疑応答 24			
第 6 回	卒業論文の作成 25	進捗状況の確認、内容について質疑応答 25			
第 7 回	卒業論文の作成 26	進捗状況の確認、内容について質疑応答 26			
第 8 回	卒業論文の作成 27	進捗状況の確認、内容について質疑応答 27			
第 9 回	卒業論文の作成 28	進捗状況の確認、内容について質疑応答 28			
第 10 回	卒業論文の作成 29	進捗状況の確認、内容について質疑応答 29			
第 11 回	卒業論文の作成 30	進捗状況の確認、内容について質疑応答 30			
第 12 回	卒業論文の作成 31	進捗状況の確認、内容について質疑応答 31			
第 13 回	卒業論文の作成 32	進捗状況の確認、内容について質疑応答 32			
第 14 回	卒業論文の作成 33	進捗状況の確認、内容について質疑応答 33			
第 15 回	卒業論文の作成 34	進捗状況の確認、内容について質疑応答 34			

経済

授業番号	B200740017				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	畢 滔滔 (Taotao Bi)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	この演習では、データ収集と分析の方法を説明し、卒業論文を作成する技法を身につけてもらう。期末にゼミ生全員が卒業論文のテーマを決めることを目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	演習の最初の 10 週間は、データ収集と分析の技法を講義する。残りの 5 週間は学生の卒業論文テーマの発表を中心に進めていく。10 回目の演習で次回以降の発表者たちを指定する。指定された学生たちは事前に論文テーマに関するレポートを作成し、演習の時間で発表する。発表者以外の受講者は、発表者のレポートについてコメントしてもらう。				
成績評価方法	レポートと授業態度 (積極的に発言するなど) で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：論文テーマに関するレポートを事前に作成する。 復習：演習の時間でもらったコメントに基づいてテーマを修正する。				
教科書	指定しない。				
参考文献	戸田山和久 (2002) 『論文の教室—レポートから卒論まで』日本放送出版協会。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	卒業論文の執筆要領			
第 2 回	卒業論文のテーマ	テーマを決める方法			
第 3 回	データ収集	1 次データと 2 次データ			
第 4 回	データ収集	1 次データの収集			
第 5 回	データ収集	2 次データの収集			
第 6 回	データ収集	敬愛大学メディアセンターのデータベース			
第 7 回	データ収集	実践：データベースを使って情報を収集する			
第 8 回	データ分析	データ分析とは何か			
第 9 回	データ分析	定量データの分析			
第 10 回	データ分析	定性データの分析			
第 11 回	卒業論文のテーマを決める	卒業論文テーマの発表 (グループ 1)			
第 12 回	卒業論文のテーマを決める	卒業論文テーマの発表 (グループ 2)			
第 13 回	卒業論文のテーマを決める	卒業論文テーマの発表 (グループ 3)			
第 14 回	卒業論文のテーマを決める	卒業論文テーマの発表 (グループ 4)			
第 15 回	卒業論文の作成に向けて	論文作成の準備作業			

経済

授業番号	B200750001				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)			(B)	
担当者 (英語表記)	牧野 俊重 (Toshishige Makino)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深め、併せて経済・経営に関する知識を広める。				
授業の進め方 (履修条件など)	前年度の研究を続行しながら、併せて各人の選択したテーマについて卒業論文の作成指導を行う。卒業に必要な所定単位の修得、就職の決定、卒業論文の作成が本年度の最大の目標となる。				
成績評価方法	レポート、口頭発表、出席状況、卒業論文等を総合的に勘案して評価する。				
基準					
授業の予習・復習	演習の時間において、為すべき予習・復習についてはその都度指示する。課題も与えるので、取り組まざるを得なくなるであろう。				
教科書	猿谷 要著 『物語アメリカの歴史』 (中公新書 820 円 + 税)				
参考文献	演習中、個別の研究テーマに応じて随時紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	演習の方針と進め方等について			
第 2 回	卒業論文の作成 I	卒業論文の作成指導を行い、完成に導く。(1)			
第 3 回	卒業論文の作成 II	卒業論文の作成指導を行い、完成に導く。(2)			
第 4 回	卒業論文の作成 III	卒業論文の作成指導を行い、完成に導く。(3)			
第 5 回	世界・経済・経営・企業の時局研究・総合研究 I	卒業論文の作成と同時に、併せて行う。資料については、新聞・雑誌・文献等のコピーを配布して、討論も含めて行う。(1)			
第 6 回	世界・経済・経営・企業の時局研究・総合研究 II	卒業論文の作成と同時に、併せて行う。資料については、新聞・雑誌・文献等のコピーを配布して、討論も含めて行う。(2)			
第 7 回	世界・経済・経営・企業の時局研究・総合研究 III	卒業論文の作成と同時に、併せて行う。資料については、新聞・雑誌・文献等のコピーを配布して、討論も含めて行う。(3)			
第 8 回	世界・経済・経営・企業の時局研究・総合研究 IV	卒業論文の作成と同時に、併せて行う。資料については、新聞・雑誌・文献等のコピーを配布して、討論も含めて行う。(4)			
第 9 回	世界・経済・経営・企業の時局研究・総合研究 V	卒業論文の作成と同時に、併せて行う。資料については、新聞・雑誌・文献等のコピーを配布して、討論も含めて行う。(5)			
第 10 回	卒業論文のレジュメ発表 I	卒業論文のレジュメを発表させ、論文の完全化を図る。(1)			
第 11 回	卒業論文のレジュメ発表 II	卒業論文のレジュメを発表させ、論文の完全化を図る。(2)			
第 12 回	卒業論文のレジュメ発表 III	卒業論文のレジュメを発表させ、論文の完全化を図る。(3)			
第 13 回	卒業論文のレジュメ発表 IV	卒業論文のレジュメを発表させ、論文の完全化を図る。(4)			
第 14 回	卒業論文の完成	卒業論文の完成へ。提出へ。			
第 15 回	総まとめ	演習の全般を総括			

経済

授業番号	B200750002		
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	野口 明宏 (Akihiro Noguchi)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	各自の選んだテーマについて、卒業論文の作成作業を継続し、それが完成できるように指導します。		
授業の進め方 (履修条件など)	たとえば、資料収集の方法、書き方の工夫、書けた段階の文書の修正などを、個人指導いたします。		
成績評価方法	卒業論文作成の姿勢、提出された論文の内容、ゼミへの貢献などにもとづいて評価します。		
基準			
授業の予習・復習	自分のテーマに関する単行本、新聞・雑誌の記事、HPなどを常に探してください。 書けた文書は常に推敲し、より分かりやすく、スジの通ったものに修正するよう、心がけてください。		
教科書	使用しません。		
参考文献	各自のテーマごとに、必要な資料、その入手方法を指導します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	後期授業の注意	卒業論文を完成できるように指導	
第 2 回	作成上のポイントの確認	文書作成上の諸注意を周知させる	
第 3 回	個別指導 1	書けた範囲の文書指導	
第 4 回	個別指導 2	書けた範囲の文書指導	
第 5 回	個別指導 3	書けた範囲の文書指導	
第 6 回	個別指導 4	書けた範囲の文書指導	
第 7 回	個別指導 5	書けた範囲の文書指導	
第 8 回	中間の講評	作成上の注意事項を指摘	
第 9 回	個別指導 6	書けた範囲の文書指導	
第 10 回	個別指導 7	書けた範囲の文書指導	
第 11 回	個別指導 8	書けた範囲の文書指導	
第 12 回	個別指導 9	書けた範囲の文書指導	
第 13 回	個別指導 1 0	書けた範囲の文書指導	
第 14 回	個別指導 1 1	書けた範囲の文書指導	
第 15 回	後期演習のまとめ	最後まで頑張ったゼミ生に、敬意を表する	

# 経済

授業番号	B200750003				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	日本経済の経営革新、雇用、地球環境問題の研究。卒論の執筆完成。				
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミ生のテキスト理解を深めさせ、日本の経済と経営の将来を考えさせる。卒論の中間発表をおこなわせて指導する。				
成績評価方法	参加態度、発表、卒論によっておこなう。				
基準					
授業の予習・復習	テキストを予習して内容理解に努める。ゼミでの指導を復習し整理しておくこと。				
教科書	『ゼミナール 現代日本経済入門』日本経済新聞社				
参考文献	経済雑誌。新聞の経済記事。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	卒論指導	卒論の進捗状況確認、指導			
第 2 回	経営革新と雇用問題 I	変革期を迎えた企業経営、動き出した企業合併			
第 3 回	経営革新と雇用問題 II	構造変化する労働市場			
第 4 回	経営革新と雇用問題 III	企業の労働需要、企業経営を読む			
第 5 回	経営革新と雇用問題 IV	経営分析			
第 6 回	地球環境問題 I	地球の限界と環境問題、卒論発表			
第 7 回	地球環境問題 II	京都議定書の枠組みと発効、卒論発表			
第 8 回	地球環境問題 III	ポスト京都議定書の温暖化対策、卒論発表			
第 9 回	地球環境問題 IV	生物多様性を守る、卒論発表			
第 10 回	地球環境問題 V	循環型社会、卒論発表			
第 11 回	地球環境問題 VI	公害防止先進国への道、外部不経済と公害、卒論発表			
第 12 回	地球環境問題 VII	環境対策、地球温暖化対策、卒論発表			
第 13 回	環境立国への道 I	新しい国家目標、ストック活用社会への道			
第 14 回	環境立国への道 II	低炭素社会への道、卒論提出確認			
第 15 回	ゼミまとめ	日本経済の進路、卒論提出確認			

# 経済

授業番号	B200750004		
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済政策の理論として、マクロ経済学を習得し、その後現実の政策課題 (不良債権処理、バブル崩壊以降のデフレ経済からの脱却、財政赤字の問題、年金や医療など社会保障制度改革など) について研究することを目的とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読しながら、経済政策の理論と具体的問題について研究する。後期は卒論作成の指導を併せておこなう。卒論のテーマについては柔軟に対応するつもりであるが、経済政策に関連するテーマを選択することを望む。		
成績評価方法	レポート及びその他の課題 (60%) ・授業中の発表・コメントなどの評価 (40%)		
基準			
授業の予習・復習	予習:ゼミの授業はテキスト並びに配布プリントをある程度理解した上で、質疑応答、討論という形で進めていくため、予習していなければ学習効果は期待できない。 復習:ゼミの時間は自分の研究を進めていくためのものであるから、自宅学習の時間を十分取り、早い段階で自分の研究テーマを見つけることが必要である。		
教科書	『スティグリッツ マクロ経済学 (第3版)』東洋経済新報社、スティグリッツ、C.E. ウォルシュ著		
参考文献	『スティグリッツ 入門経済学』(第3版) 東洋経済新報社、J.E. スティグリッツ、C.E. ウォルシュ、藪下 史郎、秋山 太郎		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	貨幣と銀行システム 2(1)	貨幣と信用	
第2回	貨幣と銀行システム 2(2)	マネーサプライと信用創造	
第3回	貨幣と銀行システム 2(3)	中央銀行の役割とフェデラル・ファンド・マーケット (コール市場)	
第4回	金融政策の手段 (1)	準備率操作: 準備金の需要と供給	
第5回	金融政策の手段 (2)	公開市場操作と公定歩合の変更	
第6回	金融政策の手段 (3)	金融政策の操作方法	
第7回	金融政策の手段 (4)	バブル崩壊後の日本の金融システムの破綻と不良債権問題	
第8回	金融政策の手段 (5)	練習問題による演習	
第9回	財政と開放経済 (1)	政府・海外部門の導入と資本市場	
第10回	財政と開放経済 (2)	開放経済における貯蓄・投資恒等式の導出	
第11回	財政と開放経済 (3)	財政赤字の世代間負担をめぐる議論	
第12回	財政と開放経済 (4)	小国開放経済における財政赤字の影響	
第13回	財政と開放経済 (5)	基本的な貿易の恒等式	
第14回	財政と開放経済 (6)	為替レートと貿易収支	
第15回	全体のまとめ	レポート作成	

経済

授業番号	B200750005		
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	森谷 英樹 (Hideki Moriya)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	できるだけケーススタディを中心にしながら企業経営と収益動向に興味をもってもらえるようにしたい。テキストはマーケティングを取りあげる。企業は市場において厳しい競争に直面している。身近な企業の経営戦略について、考えることを通して就職活動を支援する。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義を通じて人の話を理解して、要点をメモすることが大切である。就職にあたって社会人として何が重要なのか言及する。卒論のテーマを早期に決定してそれをまとめることを期待している。新聞記事、雑誌、ネット、ビデオなどを教材に活用してみたい。		
成績評価方法	出席 40%、その他 60%		
基準			
授業の予習・復習	.		
教科書	使用しない		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	既存研究集め	①問題発見	
第 2 回	既存研究集め	②問題発見	
第 3 回	既存研究集め	③問題発見	
第 4 回	既存研究集め	④問題発見	
第 5 回	データ・資料集め	①仮説と検討	
第 6 回	データ・資料集め	②仮説と検討	
第 7 回	データ・資料集め	③仮説と検討	
第 8 回	データ・資料集め	④仮説と検討	
第 9 回	中間稿報告	①データのとりまとめ	
第 10 回	中間稿報告	②データのとりまとめ	
第 11 回	中間稿報告	③データのとりまとめ	
第 12 回	中間稿報告	④データのとりまとめ	
第 13 回	個別報告	①最終調整	
第 14 回	個別報告	②最終調整	
第 15 回	個別報告	③最終調整	

経済

授業番号	B200750006				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門演習 I・II で学んだ手法を使って、各自が定めたテーマを基に、資料・文献収集や調査を通して、課題解決に至れるよう指導していきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	夏休み中に調査した内容をまとめて発表し、指摘された問題を解決するためにさらに補充調査を行って発表内容の質を高めていくようにします。				
成績評価方法	レジュメを含む発表内容 (60%) と平常点 (40%、他の発表者への質問等) から評価します。				
基準					
授業の予習・復習	発表には十分な準備を行うとともに、発表後は指摘された問題にしっかり対応すること。				
教科書	使用しません				
参考文献	一人一人異なるので個別に紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	既存研究の紹介	過去の卒業論文の事例紹介			
第 2 回	調査結果の報告 (1)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (1～3)			
第 3 回	調査結果の報告 (2)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (4～6)			
第 4 回	調査結果の報告 (3)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (7～9)			
第 5 回	調査結果の報告 (4)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (10～11)			
第 6 回	論文構成と目次	論文の構成の仕方について説明			
第 7 回	論文構成の報告 (1)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (1～3)			
第 8 回	論文構成の報告 (2)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (4～6)			
第 9 回	論文構成の報告 (3)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (7～9)			
第 10 回	論文構成の報告 (4)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (10～11)			
第 11 回	論文の執筆について	はしがきやむすびの書き方、図表の使い方について説明			
第 12 回	産業研究の紹介 (1)	外部の研究の事例紹介 (産業立地研究)			
第 13 回	産業研究の紹介 (2)	外部の研究の事例紹介 (地場産業研究)			
第 14 回	企業研究の紹介	外部の研究の事例紹介			
第 15 回	後期の講評	発表内容の評価			



経済

授業番号	B200750007				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	折原 裕 (Yutaka Orihara)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	一にも二にも卒業論文の準備につきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	3年次春休みに書いてもらう卒業論文準備報告書を、次第に拡充していくことで、卒業論文を完成に導きます。文献や資料の使い方、論理や表現の仕方、なども学びます。				
成績評価方法	平常点とレポートなど課題との総合評価によります。				
基準					
授業の予習・復習	進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。				
教科書	指定しません。				
参考文献	指定しません。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	レポートの検討・G レベル	レポートの検討			
第 2 回	レポートの検討・G レベル	レポートの検討			
第 3 回	レポートの検討・G レベル	レポートの検討			
第 4 回	レポートの検討・G レベル	レポートの検討			
第 5 回	レポートの検討・G レベル	レポートの検討			
第 6 回	レポートの検討・H レベル	レポートの検討			
第 7 回	レポートの検討・H レベル	レポートの検討			
第 8 回	レポートの検討・H レベル	レポートの検討			
第 9 回	レポートの検討・H レベル	レポートの検討			
第 10 回	レポートの検討・H レベル	レポートの検討			
第 11 回	レポートの検討・I レベル	レポートの検討			
第 12 回	レポートの検討・I レベル	レポートの検討			
第 13 回	レポートの検討・I レベル	レポートの検討			
第 14 回	レポートの検討・I レベル	レポートの検討			
第 15 回	レポートの検討・I レベル	レポートの検討			

経済

授業番号	B200750008				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	将来ビジネス文書作成に応用出来るような卒論作成の手法を工夫しながら、4年制大学レベルの卒論完成を目指します。同時に、就職活動にも全力を尽くして下さい。				
授業の進め方 (履修条件など)	就職活動とのバランスを調整しながらのゼミ進行になると思います。前期は連絡を取り合いながら卒論完成と就職活動のお手伝い、後期は卒論報告と卒論草稿の修正作業で忙しくなります。				
成績評価方法	レポート及びその他の課題 (90%)・授業中のパフォーマンス (10%)				
基準					
授業の予習・復習	個人のスケジュールに沿って作業を進めるようになります。ゼミでの各作業の締切も設けますので、遅れ遅れにならぬよう自宅での作業が必須になります。				
教科書	指定しません				
参考文献	それぞれがインターネット等駆使して参考文献を見つけて下さい。授業ではそれをお手伝いします。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	卒論計画書チェック	夏休みの卒論進行を振り返り、後期の計画書をチェックする			
第 2 回	卒論報告 1	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告します (1)			
第 3 回	卒論報告 2	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告します (2)			
第 4 回	卒論報告 3	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告します (3)			
第 5 回	卒論報告 4	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告します (4)			
第 6 回	卒論作成作業 1	これまでの相互評価・教員コメントを踏まえ、実際に卒論を修正し、教員がチェックします。(1)			
第 7 回	卒論作成作業 2	これまでの相互評価・教員コメントを踏まえ、実際に卒論を修正し、教員がチェックします。(2)			
第 8 回	卒論報告 1	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告します (1)			
第 9 回	卒論報告 2	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告します (2)			
第 10 回	卒論報告 3	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告します (3)			
第 11 回	卒論報告 4	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告します (4)			
第 12 回	卒論仕上げ作業 1	卒論の構成や個々の事例、脚注、図表等をチェックし、仕上げていきます。(1)			
第 13 回	卒論仕上げ作業 2	卒論の構成や個々の事例、脚注、図表等をチェックし、仕上げていきます。(2)			
第 14 回	卒論仕上げ作業 3	卒論の構成や個々の事例、脚注、図表等をチェックし、仕上げていきます。(3)			
第 15 回	卒論仕上げ作業 4	要旨を作成します。			

経済

授業番号	B200750009				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	卒業論文執筆のための指導を行う。より完成度の高い卒業論文が作成することが目標である。				
授業の進め方 (履修条件など)	各自 PC で作成し、机間巡視しながら個別指導を行う。				
成績評価方法	平常点で評価する。毎回の授業での取り組み方 (30%)、卒業論文の完成度 (70%) で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	" 予習：各自で卒論を執筆し、授業で個別指導を受ける準備をすること。 復習：指摘された問題点などを踏まえて、卒論に加筆修正を加えること。 "				
教科書	特に使用しない。				
参考文献	各自の卒論テーマごとに指摘する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、卒論準備報告を添削して返却する。			
第 2 回	卒論執筆①	個別指導			
第 3 回	卒論執筆②	個別指導			
第 4 回	卒論執筆③	個別指導			
第 5 回	卒論執筆④	個別指導			
第 6 回	卒論執筆⑤	個別指導			
第 7 回	中間報告	執筆出来ているところまでを中間報告			
第 8 回	卒論執筆⑥	個別指導			
第 9 回	卒論執筆⑦	個別指導			
第 10 回	卒論執筆⑧	個別指導			
第 11 回	卒論執筆⑨	個別指導			
第 12 回	卒論執筆⑩	個別指導			
第 13 回	卒論提出	卒論を完成させ提出する。			
第 14 回	卒論口頭試問	各自の卒論について口頭試問を行う			
第 15 回	卒論講評会	全員の卒論の講評ならびに優秀作を表彰			

# 経済

授業番号	B200750010		
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>ファイナンスの応用を学びます。オプションなども含んだ難しい問題を、誰にでもわかるようにやさしく解説できるところまで、しっかりと理解をします。</p> <p>テキストの内容を報告してもらいつつ、現実のデータにもアクセスして、企業活動とファイナンスの関係を読み解きます。</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	<p>テキストを輪読し、PPTで報告します。</p> <p>その際、他の人の報告内容を教員と他の学生で補完していきます。</p> <p>2月にゼミ合宿1泊2日で行い、就職活動前の復習をします。</p>		
成績評価方法	プレゼンの内容と、ゼミ合宿への参加で決定します		
基準			
授業の予習・復習	プレゼンの準備と、合宿の準備をもって予習とします。		
教科書	グロービス「新版：MBA ファイナンス」		
参考文献	適宜指示します		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	前期の復習と報告の順番決め	前期に学んだファイナンスの基礎を復習します。	
第2回	就職活動のためのリクナビ登録	リクナビ登録をします。キャリアセンター主導です	
第3回	ファイナンスの応用1. 企業価値	企業価値とは何か、株価とは何かを学び、株価を評価するPER、PBRなどの指標や、企業価値を高めるための経営の分散化について学びます。	
第4回	企業価値の2	M&Aによる企業価値の変化や、M&Aに会いやすい企業の条件、過去にあったM&Aの具体例、最近の動向について報告してもらいます。	
第5回	財務政策	企業価値を高める最適資本構成とはどのようなものか、最新のファイナンスの理論に基づいて学びます。	
第6回	オプション理論1	派生市場の一つであるオプション市場の価格付けについて理論を学びます。先物市場、先渡し市場についての理解を深めるため初回は講義です	
第7回	オプション理論2	オプション市場でのプライシングの基礎になる、コールとプット、権利の行使価格をリスクヘッジ、裁定取引などの戦略とともに学びます。	
第8回	オプション理論3	オプションの内容を決める要因について理解します。また、敵対的買収の評価を行います	
第9回	コーポレートガバナンス	今までの学習内容を含めてコーポレートガバナンスについて学習します。財務構成とコーポレートガバナンス、配当政策について特に理解します。	
第10回	卒業論文のテーマ決定	約1年かけて学んだことを用いて、卒業論文を書くにあたり、どのようなテーマが考えられるか、先輩の事例を基に考えます	
第11回	卒論のテーマ決定2	全員が、卒業論文のテーマを決めます。二つの同業の上場企業を選び、データを入手しておきます。	
第12回	先輩の就職活動から学ぶ	和田ゼミから内定を取った4年生に来てもらい、就職活動での失敗や成功への道のりについて、話してもらいます。	
第13回	ゼミ合宿の直前の準備	合宿先や当日のイベントなどを決定していきます。合宿先について行きたい場所が複数あればコンペを行い決定します	
第14回	まとめ	ゼミで学んだことを振り返りまとめます。全員が和田ゼミの内容を理解でき、就職活動で説明できるように訓練します	
第15回	ゼミ合宿	合宿先で自己アピールの特訓をします。体験型の学習も用意しています。ゼミの集大成です。	

経済

授業番号	B200750011		
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	本演習のねらいは、論理的思考と卒業論文の作成方法について学んでもらうことで、到達目標は、卒業論文の完成です。		
授業の進め方 (履修条件など)	夏休み中に完成させた卒論の内容を、毎回の報告で検討し、修正してもらいます。		
成績評価方法	報告内容 (100%) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：卒論の内容を説明できるように整理し理解しておいてください。 復習：授業時間中の指示に基づき卒論の修正作業を授業時間外におこなってください。		
教科書	なし。		
参考文献	坂田せい子他著『誰も教えなかった論文・レポートの書き方』総合法令 小宮一慶著『一番役立つ！ロジカルシンキング』PHP ビジネス新書 飯間浩明『非論理的な人のための論理的な文章の書き方入門』ディスカヴァー・トレンディ		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	講義スケジュールの確認と卒論第 1 稿の提出	
第 2 回	もくじ・構成の検討 1	もくじ・構成と結論の整合性 1	
第 3 回	もくじ・構成の検討 2	もくじ・構成と結論の整合性 2	
第 4 回	もくじ・構成の検討 3	もくじ・構成と結論の整合性 3	
第 5 回	現状分析と課題の検討 1	現状分析とデータの妥当性 1	
第 6 回	現状分析と課題の検討 2	現状分析とデータの妥当性 2	
第 7 回	現状分析と課題の検討 3	現状分析の課題設定の妥当性 1	
第 8 回	現状分析と課題の検討 4	現状分析の課題設定の妥当性 2	
第 9 回	理由と証拠の検討 1	証拠となるデータや事例の妥当性 1	
第 10 回	理由と証拠の検討 2	証拠となるデータや事例の妥当性 2	
第 11 回	理由と証拠の検討 3	証拠となるデータや事例の妥当性 3	
第 12 回	理由と証拠の検討 4	証拠となるデータや事例の妥当性 4	
第 13 回	文章校正 1	用語、説明文章、引用・出典の妥当性 1	
第 14 回	文章校正 2	用語、説明文章、引用・出典の妥当性 2	
第 15 回	文章校正 3	用語、説明文章、引用・出典の妥当性 3	

経済

授業番号	B200750012				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	鈴木 明男 (Akio Suzuki)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	4年間の専門分野の勉強の総括として、各自が関心を持つ分野の研究テーマを選択し関連文献や資料を収集・分析し結論を導き出す。				
授業の進め方 (履修条件など)	各自の研究テーマを発表し、全員がその内容等について討論する。また、随時研究室において過年度卒業生の研究テーマを参考にして論文の書き方等を学ぶ。				
成績評価方法	授業参加への積極性と研究テーマへの取り組み姿勢等を総合的に判断して評価する。				
基準					
授業の予習・復習	テーマの選択と分析には多数の参考文献や資料の予習・復習が不可欠となる。				
教科書	「会計学入門」 千代田邦夫 中央経済社				
参考文献	各自のテーマに沿った参考文献を紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	卒業演習 I の復習および今後の授業内容と進め方の説明。			
第2回	研究テーマの選択	資料の集め方、テーマ選択の方法の説明。			
第3回	文献の分析と纏め方	卒業生の論文等を参考にして論文の書き方を指導する。			
第4回	テーマの纏め方指導	一人ひとりの纏め方・論文作成相談に応ずる			
第5回	研究発表 -1	各自がレジюмеを作成、全員に配布して発表。全員で討論する。			
第6回	研究発表 -2	各自がレジюмеを作成、全員に配布して発表。全員で討論する。			
第7回	研究発表 -3	各自がレジюмеを作成、全員に配布して発表。全員で討論する。			
第8回	研究発表 -4	各自がレジюмеを作成、全員に配布して発表。全員で討論する。			
第9回	研究発表 -5	各自がレジюмеを作成、全員に配布して発表。全員で討論する。			
第10回	研究発表 -6	各自がレジюмеを作成、全員に配布して発表。全員で討論する。			
第11回	研究発表 -7	各自がレジюмеを作成、全員に配布して発表。全員で討論する。			
第12回	研究発表 -8	各自がレジюмеを作成、全員に配布して発表。全員で討論する。			
第13回	研究発表 -9	各自がレジюмеを作成、全員に配布して発表。全員で討論する。			
第14回	研究発表 -10	各自がレジюмеを作成、全員に配布して発表。全員で討論する。			
第15回	講評	研究発表全体に対する講評			

# 経済

授業番号	B200750013				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	「戦後日本の経済発展と構造変化」をテーマとして、日本経済を景気循環および経済成長の過程に注目して捉え、戦後の日本経済の展開と政府や企業、家計が今日直面している諸問題を考える。				
授業の進め方 (履修条件など)	前年および前期に学んだ文献のなかで提示された様々な論点を中心にしつつ、受講者の関心に応じてそれ以外の日本経済や経済学に関する分野も含めたなかから自身の研究テーマを選択し、卒業論文の完成を目指す。				
成績評価方法 基準	卒業論文、レポートおよびその他の課題、出席および参加の状況を考慮して評価する。卒業論文については、テーマ選びの妥当性、テーマと実際の執筆内容の一致性、研究のオリジナリティの程度、参考文献への依拠の十分性、論旨および文章の適切さなどの観点から、その完成度と努力の程度を評価する。				
授業の予習・復習	予習：自分の報告回にあわせて現時点での卒論執筆の途中経過をまとめ、準備をする。 復習：報告に対してコメントをするので、それを参考にして執筆方針と内容を再検討する。				
教科書	マクロ経済学の観点から日本経済を捉えた専門書、論文集を引き続き使用する。				
参考文献	各回の論題にあわせて適宜紹介する他、卒論と結び付けられるよう研究テーマに応じて個別に紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	はじめに	詳細な卒論計画書について			
第 2 回	卒論計画書へのコメントとリプライ (1)	卒論執筆の目標は定まったか			
第 3 回	卒論計画書へのコメントとリプライ (2)	卒論執筆の目標は定まったか			
第 4 回	卒業論文作成指導	全体および個々の受講者に対して並行して実施			
第 5 回	卒業論文作成指導	全体および個々の受講者に対して並行して実施			
第 6 回	卒業論文作成指導	全体および個々の受講者に対して並行して実施			
第 7 回	卒業論文作成指導	全体および個々の受講者に対して並行して実施			
第 8 回	卒業論文作成指導	全体および個々の受講者に対して並行して実施			
第 9 回	卒業論文作成指導	全体および個々の受講者に対して並行して実施			
第 10 回	卒業論文作成指導	全体および個々の受講者に対して並行して実施			
第 11 回	卒業論文作成指導	全体および個々の受講者に対して並行して実施			
第 12 回	卒業論文提出に向けて (1)	作成に関する注意事項			
第 13 回	卒業論文提出に向けて (2)	作成への最終まとめ			
第 14 回	卒業論文提出に向けて (3)	提出の際の注意事項			
第 15 回	全体の総括	卒業論文へのコメント			

経済

授業番号	B200750014				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	星 真実 (Masami Hoshi)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	前期に執筆した卒業論文を更に納得のいくまで仕上げていく。				
授業の進め方 (履修条件など)	卒業論文の添削を中心に指導を行う。				
成績評価方法	卒業論文の内容によって評価する。				
基準					
授業の予習・復習	前期に執筆した論文に推敲を重ねること。				
教科書	特に使用しない。				
参考文献	卒業論文の内容に応じて随時紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	前期内容のおさらい	前期に書き進めた内容についてのディスカッション			
第 2 回	卒業論文作成 15	卒論についての個別添削指導 (1 班)			
第 3 回	卒業論文作成 16	卒論についての個別添削指導 (2 班)			
第 4 回	卒業論文作成 17	卒論についての個別添削指導 (3 班)			
第 5 回	卒業論文作成 18	卒論についての個別添削指導 (4 班)			
第 6 回	卒業論文作成 19	卒論についての個別添削指導 (全体)			
第 7 回	卒業論文作成 20	卒論についての個別添削指導 (全体)			
第 8 回	卒業論文作成 21	まえがきとあとがきについて 1			
第 9 回	卒業論文作成 22	まえがきとあとがきについて 2			
第 10 回	卒業論文作成 23	卒論タイトルの本決定			
第 11 回	卒業論文作成 24	引用文献についての確認			
第 12 回	卒業論文作成 25	参考文献についての確認			
第 13 回	卒業論文作成 26	注釈についての確認			
第 14 回	卒業論文作成 27	卒論の完成			
第 15 回	卒業論文完成	卒論要旨の作成			



経済

授業番号	B200750015		
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	各自が設定したテーマをもとに卒業論文を書き上げることが最大の目標である。問題意識を明確にして常に意識し、調べたことを整理してまとめるという知的作業に励んでもらう。後期は、12月中には卒論を完成させ、1月のゼミで概要を発表することを到達目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	月に1回程度全員集合して進捗状況の確認・相互参照を行うほかは、毎週2人程度ずつ順番に個別指導を行う。ゼミの時間以外にも、可能な限り卒論指導に応じる。		
成績評価方法	全員出席の日と個人報告の日の参加態度 30%、卒論作成への取り組み方 30%、卒論の出来栄え 30%、卒論発表の出来栄え 10%で評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：個人報告の際は、草稿のほかにレジュメを用意すること。 復習：指導された内容を踏まえ、適切に卒論の内容に反映させること。		
教科書	指定しない。		
参考文献	酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』(共立出版) 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	後期のゼミのスケジュール (卒論指導の進め方) の説明	
第2回	進捗状況と課題の確認 1	全員出席して進捗状況と今後の課題の確認	
第3回	個別指導 1	構想メモ、レジュメ、草稿をもとに個別に執筆指導 (2人程度)	
第4回	個別指導 2	構想メモ、レジュメ、草稿をもとに個別に執筆指導 (2人程度)	
第5回	個別指導 3	構想メモ、レジュメ、草稿をもとに個別に執筆指導 (2人程度)	
第6回	進捗状況と課題の確認 2	全員出席して進捗状況と今後の課題の確認	
第7回	個別指導 4	構想メモ、レジュメ、草稿をもとに個別に執筆指導 (2人程度)	
第8回	個別指導 5	構想メモ、レジュメ、草稿をもとに個別に執筆指導 (2人程度)	
第9回	個別指導 6	構想メモ、レジュメ、草稿をもとに個別に執筆指導 (2人程度)	
第10回	進捗状況と課題の確認 3	全員出席して進捗状況と今後の課題の確認	
第11回	個別指導 7	構想メモ、レジュメ、草稿をもとに個別に執筆指導 (2人程度)	
第12回	個別指導 8	構想メモ、レジュメ、草稿をもとに個別に執筆指導 (2人程度)	
第13回	進捗状況と課題の確認 4	全員出席して進捗状況と今後の課題の確認	
第14回	卒業論文発表会	卒業論文の概要をゼミ生全員の前で報告 (プレゼンテーション)	
第15回	評価と講評	卒論発表の評価と講評	

経済

授業番号	B200750016				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	卒業演習 I における取り組みの延長として、卒業論文を完成させます。				
授業の進め方 (履修条件など)	卒業論文の評価を念頭に置いた報告会を開催します。ここで、最後の修正指導が入ります。				
成績評価方法	出席などの取り組み姿勢 (60%)、報告などの成果 (40%)。				
基準					
授業の予習・復習	自分の課題に主体的に取り組んでください。				
教科書	教科書は指定しません。				
参考文献	各自研究テーマが異なるので、個別に紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	卒業論文報告会 1	進捗状況の確認、報告会の説明			
第 2 回	卒業論文報告会 2	一人につき 20 分間の報告と 20 分間の質疑応答 1			
第 3 回	卒業論文報告会 3	一人につき 20 分間の報告と 20 分間の質疑応答 2			
第 4 回	卒業論文報告会 4	一人につき 20 分間の報告と 20 分間の質疑応答 3			
第 5 回	卒業論文報告会 5	一人につき 20 分間の報告と 20 分間の質疑応答 4			
第 6 回	卒業論文報告会 6	一人につき 20 分間の報告と 20 分間の質疑応答 5			
第 7 回	卒業論文の完成 1	修正作業 1			
第 8 回	卒業論文の完成 2	修正作業 2			
第 9 回	卒業論文の完成 3	修正作業 3			
第 10 回	卒業論文の完成 4	修正作業 4			
第 11 回	卒業論文の完成 5	修正作業 5			
第 12 回	卒業論文の完成 6	修正作業 6			
第 13 回	卒業論文の完成 7	修正作業 7			
第 14 回	卒業論文の完成 8	修正作業 8			
第 15 回	まとめ	3 年間の成果や成長の検証			

経済

授業番号	B200750017				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	畢 滔滔 (Taotao Bi)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	この演習では、学生にこれまで学んだ知識とデータ収集の技能を用いて、卒業論文を作成してもらう。				
授業の進め方 (履修条件など)	演習は学生の卒業論文の発表を中心に進めていく。1回目の演習で次回以降の発表者を指定する。指定された学生は事前に論文の原稿を作成し、演習の時間で発表する。発表者以外の受講者は、発表者の原稿についてコメントしてもらう。				
成績評価方法	卒業論文の提出および内容によって評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：論文の原稿を事前に作成する。 復習：演習の時間でもらったコメントに基づいて原稿を修正する。				
教科書	指定しない。				
参考文献	指定しない。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方、発表者のグループ分け、発表者順番の決定			
第 2 回	卒論内容発表 (第 1 回)	グループ 1 の発表、コメント			
第 3 回	卒論内容発表 (第 1 回)	グループ 2 の発表、コメント			
第 4 回	卒論内容発表 (第 1 回)	グループ 3 の発表、コメント			
第 5 回	卒論内容発表 (第 1 回)	グループ 4 の発表、コメント			
第 6 回	卒論内容発表 (第 2 回)	グループ 1 の発表、コメント			
第 7 回	卒論内容発表 (第 2 回)	グループ 2 の発表、コメント			
第 8 回	卒論内容発表 (第 2 回)	グループ 3 の発表、コメント			
第 9 回	卒論内容発表 (第 2 回)	グループ 4 の発表、コメント			
第 10 回	卒論内容発表 (最終回)	グループ 1 の発表、コメント			
第 11 回	卒論内容発表 (最終回)	グループ 2 の発表、コメント			
第 12 回	卒論内容発表 (最終回)	グループ 3 の発表、コメント			
第 13 回	卒論内容発表 (最終回)	グループ 4 の発表、コメント			
第 14 回	卒業論文の提出について	卒業論文の提出方法、注意事項、要旨の作成			
第 15 回	個別指導	個別指導			

# 経済

授業番号	B202590001				
科目名 (英語表記)	地域企業会計論 (Local business-accounting theory)				
担当者 (英語表記)	高橋 隆明 (Takaaki Takahashi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	地域の中堅企業の企業会計を念頭に置き、制度会計と会計理論の違いを明らかにしつつ財務諸表の表す意味・内容を理解する。				
授業の進め方 (履修条件など)	特に資産と負債の時価評価に着目し、社会問題でもある不良債権について発生の原因を探るとともに、解消方法も明らかにする。実務的な問題も具体的に取り上げることで、地域企業における会計を広く理解する。				
成績評価方法	定期試験 (10%)・授業内小テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (50%)				
基準					
授業の予習・復習	復習：授業内容を復習すれば足りる				
教科書	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。				
参考文献	必要に応じてコピーを配布する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	地域企業の概要	地域企業会計とは何か。経営成績・財政状態とは何か			
第2回	財務諸表の意味	財務諸表の種類と内容。P/L、B/Sの表す意味			
第3回	損益計算書 (総論)	経営成績について会計学の立場から理解する			
第4回	損益計算書 (各論)	収益・費用のとらえ方を会計学の立場から理解する			
第5回	貸借対照表 (総論)	財政状態について、会計学の立場から理解する			
第6回	貸借対照表 (各論)	資産と負債のとらえ方を理解する			
第7回	キャッシュフロー会計	キャッシュの動きに着目して財務諸表を理解する			
第8回	財務諸表の読み方	実際の財務諸表を理解する			
第9回	経営指標とビジネスプラン	経営指標の意味を理解するとともに、ビジネスプランを概観する			
第10回	資産・負債の時価価値	簿価と時価の違いを理解する			
第11回	信用リスクとは	地域企業における信用リスクとは何かを理解する			
第12回	不良債権の実態	不良債権の発生原因、解消方法を経済学の視点から明らかにする			
第13回	借入金過剰企業の問題	借入金過剰の地域企業の問題を経営学の視点から明らかにする			
第14回	経営破綻と企業倒産	経営が破綻する地域企業の問題を明らかにする			
第15回	まとめ	講義全体のまとめと試験 (レポート) 対策			

# 経済

授業番号	B202470001				
科目名 (英語表記)	地域企業マネジメント論 (Local company management theory)				
担当者 (英語表記)	三幣 利夫 (Toshio Sampei)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	国際ビジネスを展開する千葉県在の企業経営者から、経営戦略や実際の企業活動に関し直接話を伺い、県内の経済活動と国際ビジネスについての理解を深める。また、就職に向けてのキャリア教育も兼ねる。				
授業の進め方 (履修条件など)	企業経営者によるオムニバス形式の講義を中心に、企業訪問も行う。 これらを通じ学習したことを、レポートにまとめ、教室で発表し議論も行う。				
成績評価方法	企業ごとにレポートを必ず提出する。 また、授業における発表・議論を通じての参加度合を重視する。				
基準					
授業の予習・復習	予習： 経営者からの講義前に、各自で企業について調べ、質問も用意する。 復習： レポートを作成する。				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	講義の進め方の説明、千葉県経済の概要			
第2回	空港関連ビジネス (1)	経営者の講義 (成田国際空港)			
第3回	空港関連ビジネス (2)	空港見学			
第4回	空港関連ビジネス (3)	成田空港関連の事業活動についての復習			
第5回	空港関連ビジネス (4)	レポート発表			
第6回	千葉港関連ビジネス (1)	経営者の講義 (千葉共同サイロ)			
第7回	千葉港関連ビジネス (2)	企業見学			
第8回	千葉港関連ビジネス (3)	千葉港関連の事業活動についての復習			
第9回	千葉港関連ビジネス (4)	レポート発表			
第10回	物流関連ビジネス (1)	経営者の講義 (住商ロジスティクス)			
第11回	物流関連ビジネス (2)	物流施設見学			
第12回	物流関連ビジネス (3)	物流関連の事業活動についてのまとめ			
第13回	物流関連ビジネス (4)	レポート発表			
第14回	輸出関連ビジネス (1)	経営者の講義			
第15回	輸出関連ビジネス (2)	レポート発表			

# 経済

授業番号	B202540001		
科目名 (英語表記)	地域産業論 (Local-jobs theory)		
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	地域で生まれた地域産業は地元との関係が密接ですが、他地域から進出してきた企業も地元と様々な関係を有しています。この講義では特に千葉県に重点を置きながら、地域の中で産業がどのように成立し、地域とどのような関係を有しているのか等について考えます。千葉県の産業について正しく理解できるようになることが目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	前半では、他県を事例にして地域と産業の関係や、地域産業の成立・発展について検討します。後半では、千葉県を事例に特に工業の成立や特徴について検討します。なお、千葉県庁の担当者による経済政策の説明が2回行われる予定です。		
成績評価方法	定期試験 (50%)、平常点 (50%、コメントカードの内容による) から評価します。		
基準			
授業の予習・復習	参考文献や新聞、ウェブ検索などで授業に出てくる地域の産業を調べておく。授業後は配布プリントやノート等で理解を深めること。		
教科書	使用しません。プリントを配布します。		
参考文献	伊藤正昭『地域産業論』学文社 青木英一・仁平耕一編『変貌する千葉経済 - 新しい可能性を求めて -』白桃書房 山崎 充『豊かな地方づくりを目指して』中公新書		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、授業の受け方、参考文献解説	
第2回	地域産業を取り巻く環境	経済のグローバル化、政府の政策	
第3回	地域と産業の関係 (1)	三重県四日市市における大企業工場の進出	
第4回	地域と産業の関係 (2)	静岡県東伊豆町における観光産業	
第5回	地域産業のグローバル化	浜松市における楽器工業とオートバイ工業	
第6回	大都市における地場産業	名古屋市の仏壇産業	
第7回	地方における地場産業	高山市と旭川市の家具工業	
第8回	千葉県の産業概況	農業、水産業、工業の全国における位置づけ	
第9回	首都圏における千葉県の工業	東京都、神奈川県、埼玉県や北関東諸県と比較して見られる特色	
第10回	千葉県内の工業地域 (1)	京葉臨海地域の工業の特質	
第11回	千葉県内の工業地域 (2)	京葉内陸地域の工業の特質	
第12回	千葉県庁担当者による講義 (1)	千葉県の元気な地域・企業づくり	
第13回	千葉県庁担当者による講義 (2)	アクアラインや成田空港を活用した地域活性化戦略	
第14回	千葉県内の工業地域 (3)	房総東部地域の工業の特質	
第15回	まとめ	授業内容のまとめ	

# 経済

授業番号	B200550001				
科目名 (英語表記)	地域ボランティア活動 (Local activity volunteer)				
担当者 (英語表記)	松藤 和生 (Kazuki Matsufuji)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	ボランティア活動や社会貢献についての基礎的知識・原理原則並びに地域ボランティア活動の種類・活動方法を学び、一人ひとりの学生が、自己にあった地域ボランティア活動を見つけて、社会人・企業人としての心構えを学ぶ事を目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	ボランティア活動の基礎知識を講義により習得する。教員・福祉関係職を希望するものはもちろんだが、サービス職・営業職などを希望する学生でボランティア活動に興味がある学生は受講することが望ましい。				
成績評価方法	各自のボランティア活動の体験や将来の取組みについてレポートを期末に提出。定期試験は、教科書持込によるボランティア活動の基礎的知識の確認。定期試験 50%・レポート 50%で評価。				
授業の予習・復習	予習：特に予習は必要ない。 復習：授業の中で紹介されたボランティア活動で自身の興味のあるものについて、インターネット等を利用して調べる。				
教科書	『いちばんはじめのボランティア』(樹村房)				
参考文献	なし				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ボランティアの原理・原則	ボランティアとは何か?			
第 2 回	ボランティア活動の理念	ボランティアの基本と性格			
第 3 回	ボランティア活動の歴史	「ボランティア」の起源、ボランティア活動の歴史			
第 4 回	ボランティア活動の法と制度	NPO 法、ボランティア活動と助成団体、ボランティア保険			
第 5 回	ボランティア関係機関	社会福祉協議会、ボランティアセンター			
第 6 回	ボランティア活動の担い手	わが国のボランティア活動者の推移			
第 7 回	地域社会とボランティア活動	小地域の定義と地域ボランティア活動			
第 8 回	社会福祉施設とボランティア活動	社会福祉施設の種類の種類と社会福祉施設でのボランティア活動			
第 9 回	福祉教育とボランティア活動	福祉教育としてのボランティア活動			
第 10 回	災害支援とボランティア活動	災害時のボランティア活動			
第 11 回	企業の地域貢献とボランティア活動	企業と地域の繋がり、日本企業の地域貢献活動			
第 12 回	ボランティア活動の新しい形	NPO 法、住民参加型有償サービス、地域通貨			
第 13 回	国際社会とボランティア	海外のボランティア活動、国際支援、NGO 活動			
第 14 回	ボランティアコーディネーター	ボランティアコーディネーターの活動			
第 15 回	これからのボランティア活動	ボランティア論再考、ボランティア活動再考			

# 経済

授業番号	B201410001		
科目名 (英語表記)	知的財産権論 (Intellectual-property-rights theory)		
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	インターネットの普及により日常的に知的財産権を無意識に侵害する可能性が増えています。また、企業コンプライアンス (法令遵守) のみならず、知的財産の活用は企業の業績にも影響をあたえるようになってきました。授業のねらいは、知的財産の保護制度と知的財産の活用戦略について学ぶことで、到達目標は、基本的な考え方や実例を説明できる程に理解してもらうことです。		
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は「情報経済論 (情報マネジメント)」を履修し終えていることです。配布資料と PowerPoint を用いて講義を行います。配布資料はキーワードが抜けていますので、講義を聞きながら穴埋めしてもらいます。最後に論述式の小テストを毎回行います。次回の講義で小テストの解説をします。		
成績評価方法	期末試験 (60%)、小テスト (40%) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	授業の最後に次回の予習項目を示しますので、予習しておいてください。また、常日頃知的財産権関連のニュースに関心を持ってください。復習は、基本的な考え方や実例を説明できるように、よく理解しておいてください。		
教科書	毎回、資料を配布します。		
参考文献	寒河江孝允『知的財産権の知識』日経文庫 893 日本経済新聞社 経済産業省特許庁監修『事業戦略と知的財産マネジメント』独立行政法人工業所有権情報・研修館 2012 経済産業省特許庁監修『産業財産権標準テキスト総合編』独立行政法人工業所有権情報・研修館 2012		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認、講義の概要、アップルとサムソンの訴訟合戦	
第 2 回	知的財産とは	知的財産の問題と保護の必要性	
第 3 回	知的財産権	特許権・実用新案権・意匠権制度の概要	
第 4 回	商標権と著作権	商標権・著作権制度の概要	
第 5 回	不正競争防止法	営業秘密の法的保護、独占禁止法と知的財産権の保護	
第 6 回	ソフトウェアの知的財産権	知的財産権におけるソフトウェアの保護	
第 7 回	コンテンツと知的財産権	知的財産権におけるデジタルコンテンツの保護	
第 8 回	中間テスト	第 7 回目までの範囲の論述試験	
第 9 回	知財マネジメント	知的財産を事業展開に結びつけるためのマネジメント	
第 10 回	独占市場形成型事業の知財マネジメント	医薬品・機能素材事業における独占排他的知財戦略	
第 11 回	技術相互利用型事業の知財マネジメント	電気機械事業における協調と競争の知財戦略	
第 12 回	インサイドモデルとアウトサイドモデル	インテル社とアップル社の対照的知財戦略	
第 13 回	ビジネスモデルの変容と知財マネジメント	垂直統合型事業とその分断による変容とサービス化における知財戦略	
第 14 回	ブランドの知財マネジメント	事業戦略・マーケティング戦略からみたブランド戦略と知財マネジメントの関係	
第 15 回	まとめ	要点と試験対策	



# 経済

授業番号	B201060001				
科目名 (英語表記)	地方財政論 I (Local-public-finance theory I)				
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	私たちは生まれて (生まれる前) から死ぬ (死んだ後) まで、さまざまな公共サービスのお世話になる。その多くは、中央政府ではなく地方政府 (それも主に市町村) が提供している。本講義では、わが国の地方財政の現状と課題を、近年の地方分権 (地域主権) 改革の動きも意識しながら、紹介する。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回レジュメを配り、またスライドを示して解説しながら進める。話をよく聞き、重要と思うことをメモするのが望ましい。毎回出席を取る。数回小レポートを課す。財政学を履修中または履修済みであることが望ましい。				
成績評価方法	期末試験の成績を基本に、小レポートの成績、聴講態度を加味して評価する。				
基準					
授業の予習・復習	プリントやノートを整理し、講義で聞いた内容を咀嚼すること。新聞等で地方財政に関するニュースをフォローすること。				
教科書	特定のテキストは使用しない。適宜プリントを配布する。				
参考文献	小坂紀一郎『一番やさしい自治体財政の本』学陽書房 伊東弘文『入門地方財政』ぎょうせい 『地方財政白書』				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	この講義の概要、評価方法等の説明			
第 2 回	自治体財政への招待 1	自治体財政を知る意義、自治体の仕事の概観			
第 3 回	自治体財政への招待 2	自治体の種類、自治体間・国との役割分担			
第 4 回	自治体財政への招待 3	自治体財政 (歳入、歳出) の概要			
第 5 回	地方税 1	地方税の分類と体系、地方税原則			
第 6 回	地方税 2	住民税の現状と課題			
第 7 回	地方税 3	固定資産税の現状と課題			
第 8 回	地方税 4	事業税の現状と課題			
第 9 回	地方税 5	地方消費税の意義、現状と課題			
第 10 回	地方税 6	課税自主権活用の現状と課題			
第 11 回	政府間財政移転 1	地方交付税の意義と概要			
第 12 回	政府間財政移転 2	地方交付税の仕組み			
第 13 回	政府間財政移転 3	地方交付税の課題			
第 14 回	政府間財政移転 4	国庫支出金の意義、現状と課題			
第 15 回	まとめ	この講義のまとめ、期末試験に向けた諸注意、質疑応答			

# 経済

授業番号	B201070001				
科目名 (英語表記)	地方財政論 II (Local-public-finance theory II)				
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	私たちは生まれて (生まれる前) から死ぬ (死んだ後) まで、さまざまな公共サービスのお世話になる。その多くは、中央政府ではなく地方政府 (それも主に市町村) が提供している。本講義では、わが国の地方財政の現状と課題を、近年の地方分権 (地域主権) 改革の動きも意識しながら、紹介する。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回レジュメを配り、またスライドを示して解説しながら進める。話をよく聞き、重要と思うことをメモするのが望ましい。毎回出席を取る。数回小レポートを課す。財政学を履修中または履修済みであることが望ましい。				
成績評価方法	期末試験の成績を基本に、小レポートの成績、聴講態度を加味して評価する。				
基準					
授業の予習・復習	プリント、ノートを整理し、講義で聞いた内容を咀嚼すること。新聞等で地方財政に関するニュースをフォローすること。				
教科書	特定のテキストは使用しない。適宜プリントを配布する。				
参考文献	小坂紀一郎『一番やさしい自治体財政の本』学陽書房 伊東弘文『入門地方財政』ぎょうせい 『地方財政白書』				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	この講義の概要、評価方法等の説明、前期試験の解説			
第 2 回	地方債 1	地方債の意義と概要			
第 3 回	地方債 2	地方債の現状と課題			
第 4 回	自治体の予算 1	予算の意義、予算原則			
第 5 回	自治体の予算 2	予算の形式			
第 6 回	自治体の予算 3	予算循環			
第 7 回	予算の見方 1	歳入の勘所			
第 8 回	予算の見方 2	歳出の勘所			
第 9 回	自治体財政分析 1	決算を使った財政分析			
第 10 回	自治体財政分析 2	決算統計 (地方財政状況調査)、類似団体との比較、自治体財政の豊かさ			
第 11 回	自治体財政分析 3	財政収支に関する諸指標			
第 12 回	自治体財政分析 4	借金の重さに関する分析指標、財政構造の弾力性の分析指標			
第 13 回	自治体財政分析 5	人件費の分析、地方自治体財政の健全化			
第 14 回	自治体財政の課題	自治体の財政運営の目的、議会の意義、住民の監視			
第 15 回	まとめ	この講義のまとめ、期末試験に向けた諸注意、質疑応答			

# 経済

授業番号	B201080001				
科目名 (英語表記)	地方自治論 I (Local autonomy theory I)				
担当者 (英語表記)	岡崎 加奈子 (Kanakko Okazaki)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	わたしたちの生活において地方自治とはどのような意味をもち、どのような役割を果たしているのだろうか。本講義では地方自治について理解し、考えるための基礎的な力を身につけることを目的とする。 具体的には、地方自治に関する概念、歴史的経緯、制度について幅広く学び、政策・財政についての基本的な知識の取得を目指す。時事問題についても適時紹介し、私たちが暮らす現代社会が抱える地方自治の問題や課題について広く考えていく。				
授業の進め方 (履修条件など)	地方自治の制度的・政策的な事柄について、基本的な知識の習得と理解をめざしていく。				
成績評価方法	期末試験および平常点を考慮して、総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	講義の内容については、毎回講義後にノートやレジメを見直し、復習しておくこと。 また、普段から地方自治に関する時事的なニュースに関心をもつことがのぞましい。				
教科書	とくに指定しない。レジメを毎回配布する。				
参考文献	『自治体学入門 岩波テキストブック』(田村明著、岩波書店、2000年)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	講義全体の目標、内容、進め方などについての説明			
第2回	地方自治とは何か	市民による自治とは何か			
第3回	自治体とは何か ①	基礎自治体と広域自治体のしくみ			
第4回	自治体とは何か②	自治体と国の関係はどのようなものか			
第5回	自治体の変遷 ①	戦前期における自治体			
第6回	自治体の変遷 ②	戦後民主主義と自治体			
第7回	地方分権と自治体の変化 ①	地方分権改革の潮流			
第8回	地方分権と自治体の変化 ②	自治体の新たな役割と課題			
第9回	自治体の首長・行政機構 ①	自治体における首長の役割			
第10回	自治体の首長・行政機構 ②	行政機構の組織・人事や新たな課題について			
第11回	自治体の議会 ①	議会と議員の役割			
第12回	自治体の議会②	議会改革の潮流と議会における「討議」			
第13回	市民の役割 ①	市民による自治体への参加について考える			
第14回	市民の役割 ②	市民と、自治体や首長・議会との関係性について考える			
第15回	まとめ	講義全体のまとめをおこなう			

# 経済

授業番号	B201090001				
科目名 (英語表記)	地方自治論 II (Local autonomy theory II)				
担当者 (英語表記)	岡崎 加奈子 (Kanako Okazaki)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>本講義では地方自治に関して、より具体的な政策・財政の現状及び課題について理解し、考察することを目的とする。現代社会における自治体の役割とは何か。どのような政策をおこなうことが求められているのか。今日抱えるさまざまな政策課題や、地域における現状を踏まえたうえで、幅広い観点から地方自治についての理解を深めていく。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	自治体の政策とはどのようなものなのか、現在行われている様々な政策の具体的な事例についての講義をおこなう。実際の政策について考えていく中で、幅広い視野で地方自治について考えていく。				
成績評価方法	期末試験および平常点を考慮して、総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	講義内容については、毎回ノートやレジメを見直し、復習をしておくこと。また、普段から地方自治に関する時事的なニュースに関心を持つことがのぞましい。				
教科書	とくに指定しない。毎回レジメを配布する。				
参考文献	『自治体入門 岩波テキストブック』(田村明著、岩波書店、2000年)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	講義全体の目標、内容、進め方などについての説明			
第2回	政策とは何か ①	現代社会と政策の関係			
第3回	政策とは何か ②	政策の類型化と分化について			
第4回	自治体の政策 ①	基本条例と基本構想について			
第5回	自治体の政策 ②	政策形成のしくみについて			
第6回	自治体の政策 ③	政策法務について			
第7回	自治体の財政 ①	歳入と歳出のしくみ			
第8回	自治体の財政 ②	自治体財政の現状と課題			
第9回	ケーススタディ ①	まちづくり政策に関する事例紹介			
第10回	ケーススタディ ②	福祉政策に関する事例紹介			
第11回	ケーススタディ ③	環境政策に関する事例紹介			
第12回	自治体における国際化	国際化にともなう自治体の課題と取り組みについて			
第13回	政治意識と市民文化	現代社会における市民のあり方について考える			
第14回	地方自治をめぐる今後の課題	地方自治をめぐる今日的な問題性と課題について考える			
第15回	まとめ	講義全体のまとめをおこなう			

経済

授業番号	B200200001				
科目名 (英語表記)	中国語 I (Chinese I)			(A)	
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	まず、言葉の基本である発音を重点的に学習する。この学習には「ピンイン」という中国語のローマ字表記を使用し、これを習得する。その後、基本的な文型を学習する。小テストを随時実施し、その都度解説する。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『大学生のための 初級中国語 24 回』 白帝社				
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	中国語とは	中国語という言葉の概要			
第 2 回	発音 I	声調 四声の練習			
第 3 回	発音 II	母音 単母音と復母音の練習			
第 4 回	発音 III	鼻母音及び子音 鼻母音と唇音、舌尖音、舌根音の練習			
第 5 回	発音 IV	子音 舌面音、そり舌音、舌歯音の練習			
第 6 回	基本文型	基本語順 (日本語の膠着性と中国語の独立性の違いを踏まえて)			
第 7 回	疑問文 I	疑問詞疑問文			
第 8 回	疑問文 II	諾否疑問文 (疑問詞疑問文との違いを意識して)			
第 9 回	構造助詞	構造助詞「的」と連体修飾語			
第 10 回	指示代名詞 I	指示代名詞の基本			
第 11 回	指示代名詞 II	量詞 (助数詞) 量詞と指示代名詞の関係			
第 12 回	指示代名詞 III	この、その、あの、どのの表現 指示代名詞と名詞の関係			
第 13 回	数詞 I	数詞 ものの数え方			
第 14 回	判断動詞 I	判断動詞「是」の用法			
第 15 回	判断動詞 II	判断動詞「是」の省略文			

経済

授業番号	B200200002				
科目名 (英語表記)	中国語 I (Chinese I)			(B)	
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	まず、言葉の基本である発音を重点的に学習する。この学習には「ピンイン」という中国語のローマ字表記を使用し、これを習得する。その後、基本的な文型を学習する。小テストを随時実施し、その都度解説する。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『大学生のための 初級中国語 24 回』 白帝社				
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	中国語とは	中国語という言葉の概要			
第 2 回	発音 I	声調 四声の練習			
第 3 回	発音 II	母音 単母音と復母音の練習			
第 4 回	発音 III	鼻母音及び子音 鼻母音と唇音、舌尖音、舌根音の練習			
第 5 回	発音 IV	子音 舌面音、そり舌音、舌歯音の練習			
第 6 回	基本文型	基本語順 (日本語の膠着性と中国語の独立性の違いを踏まえて)			
第 7 回	疑問文 I	疑問詞疑問文			
第 8 回	疑問文 II	諾否疑問文 (疑問詞疑問文との違いを意識して)			
第 9 回	構造助詞	構造助詞「的」と連体修飾語			
第 10 回	指示代名詞 I	指示代名詞の基本			
第 11 回	指示代名詞 II	量詞 (助数詞) 量詞と指示代名詞の関係			
第 12 回	指示代名詞 III	この、その、あの、どのの表現 指示代名詞と名詞の関係			
第 13 回	数詞	数詞 ものの数え方			
第 14 回	判断動詞 I	判断動詞「是」の用法			
第 15 回	判断動詞 II	判断動詞「是」の省略文			

経済

授業番号	B200200003				
科目名 (英語表記)	中国語 I (Chinese I)			(C)	
担当者 (英語表記)	山影 統 (Subaru Yamakage)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	まず、言葉の基本である発音を重点的に学習する。この学習には「ピンイン」という中国語のローマ字表記を使用し、これを習得する。その後、基本的な文型を学習する。小テストを随時実施し、その都度解説する。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『大学生のための 初級中国語 24 回』 白帝社				
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	中国語とは	中国語という言葉の概要			
第 2 回	発音 I	声調 四声の練習			
第 3 回	発音 II	母音 単母音と復母音の練習			
第 4 回	発音 III	鼻母音及び子音 鼻母音と唇音、舌尖音、舌根音の練習			
第 5 回	発音 IV	子音 舌面音、そり舌音、舌歯音の練習			
第 6 回	基本文型	基本語順 (日本語の膠着性と中国語の独立性の違いを踏まえて)			
第 7 回	疑問文 I	疑問詞疑問文			
第 8 回	疑問文 II	諾否疑問文 (疑問詞疑問文との違いを意識して)			
第 9 回	構造助詞	構造助詞「的」と連体修飾語			
第 10 回	指示代名詞 I	指示代名詞 I			
第 11 回	指示代名詞 II	量詞 (助数詞) 量詞と指示代名詞の関係			
第 12 回	指示代名詞 III	この、その、あの、どのの表現 指示代名詞と名詞の関係			
第 13 回	数詞 I	数詞 ものの数え方			
第 14 回	判断動詞 I	判断動詞「是」の用法			
第 15 回	判断動詞 II	判断動詞「是」の省略文			

経済

授業番号	B200200004				
科目名 (英語表記)	中国語 I (Chinese I)			(D)	
担当者 (英語表記)	山影 統 (Subaru Yamakage)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	まず、言葉の基本である発音を重点的に学習する。この学習には「ピンイン」という中国語のローマ字表記を使用し、これを習得する。その後、基本的な文型を学習する。小テストを随時実施し、その都度解説する。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『大学生のための 初級中国語 24 回』 白帝社				
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	中国語とは	中国語という言葉の概要			
第 2 回	発音 I	声調 四声の練習			
第 3 回	発音 II	母音 単母音と復母音の練習			
第 4 回	発音 III	鼻母音及び子音 鼻母音と唇音、舌尖音、舌根音の練習			
第 5 回	発音 IV	子音 舌面音、そり舌音、舌歯音の練習			
第 6 回	基本文型	基本語順 (日本語の膠着性と中国語の独立性の違いを踏まえて)			
第 7 回	疑問文 I	疑問詞疑問文			
第 8 回	疑問文 II	諾否疑問文 (疑問詞疑問文との違いを意識して)			
第 9 回	構造助詞	構造助詞「的」と連体修飾語			
第 10 回	指示代名詞 I	指示代名詞 I			
第 11 回	指示代名詞 II	量詞 (助数詞) 量詞と指示代名詞の関係			
第 12 回	指示代名詞 III	この、その、あの、どのの表現 指示代名詞と名詞の関係			
第 13 回	数詞 I	数詞 ものの数え方			
第 14 回	判断動詞 I	判断動詞「是」の用法			
第 15 回	判断動詞 II	判断動詞「是」の省略文			



経済

授業番号	B200200005				
科目名 (英語表記)	中国語 I (Chinese I)			(R a)	
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	まず、言葉の基本である発音を重点的に学習する。この学習には「ピンイン」という中国語のローマ字表記を使用し、これを習得する。その後、基本的な文型を学習する。小テストを随時実施し、その都度解説する。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『中国語 基本文法と会話』 駿河台出版社				
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	中国語とは	中国語という言葉の概要			
第 2 回	発音 I	声調 四声の練習			
第 3 回	発音 II	母音 単母音と復母音の練習			
第 4 回	発音 III	鼻母音及び子音 鼻母音と唇音、舌尖音、舌根音の練習			
第 5 回	発音 IV	子音 舌面音、そり舌音、舌歯音の練習			
第 6 回	基本文型	基本語順 (日本語の膠着性と中国語の独立性の違いを踏まえて)			
第 7 回	疑問文 I	疑問詞疑問文			
第 8 回	疑問文 II	諾否疑問文 (疑問詞疑問文との違いを意識して)			
第 9 回	構造助詞	構造助詞「的」と連体修飾語			
第 10 回	指示代名詞 I	指示代名詞の基本			
第 11 回	指示代名詞 II	量詞 (助数詞) 量詞と指示代名詞の関係			
第 12 回	指示代名詞 III	この、その、あの、どのの表現 指示代名詞と名詞の関係			
第 13 回	数詞 I	数詞 ものの数え方			
第 14 回	判断動詞 I	判断動詞「是」の用法			
第 15 回	判断動詞 II	判断動詞「是」の省略文			

経済

授業番号	B200200006				
科目名 (英語表記)	中国語 I (Chinese I)		(R b)		
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	まず、言葉の基本である発音を重点的に学習する。この学習には「ピンイン」という中国語のローマ字表記を使用し、これを習得する。その後、基本的な文型を学習する。小テストを随時実施し、その都度解説する。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『新 表現の達人 I』 白帝社				
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	中国語とは	中国語という言葉の概要			
第 2 回	発音 I	声調 四声の練習			
第 3 回	発音 II	母音 単母音と復母音の練習			
第 4 回	発音 III	鼻母音及び子音 鼻母音と唇音、舌尖音、舌根音の練習			
第 5 回	発音 IV	子音 舌面音、そり舌音、舌歯音の練習			
第 6 回	基本文型	基本語順 (日本語の膠着性と中国語の独立性の違いを踏まえて)			
第 7 回	疑問文 I	疑問詞疑問文			
第 8 回	疑問文 II	諾否疑問文 (疑問詞疑問文との違いを意識して)			
第 9 回	構造助詞	構造助詞「的」と連体修飾語			
第 10 回	指示代名詞 I	指示代名詞の基本			
第 11 回	指示代名詞 II	量詞 (助数詞) 量詞と指示代名詞の関係			
第 12 回	指示代名詞 III	この、その、あの、どのの表現 指示代名詞と名詞の関係			
第 13 回	数詞 I	数詞 ものの数え方			
第 14 回	判断動詞 I	判断動詞「是」の用法			
第 15 回	判断動詞 II	判断動詞「是」の省略文			

経済

授業番号	B200210001				
科目名 (英語表記)	中国語 II (Chinese I I)	(A)			
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	前期の「中国語 I」で学習したことをふまえて、さらに必要と思われる構文、表現を学習する。小テストは随時実施しその都度かいせつをする。また、中国の文化や伝統といったものにも触れる。 中国語 I の単位を取得していること。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『大学生のための 初級中国語 24 回』 白帝社				
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	中国語 I の復習			
第 2 回	動詞述語文 I	動詞述語文			
第 3 回	動詞述語文 II	動詞「有」の用法			
第 4 回	時間表現 II	年月日、曜日、時刻の表現			
第 5 回	時間表現 II	時間名詞の文中の位置			
第 6 回	動詞述語文 III	連動文			
第 7 回	疑問文 III	反復疑問文			
第 8 回	小テスト	半期分のテスト及び解説			
第 9 回	連体修飾	構造助詞を用いない連体修飾			
第 10 回	副詞	「也」、「都」の用法			
第 11 回	形容詞 I	形容詞述語文			
第 12 回	形容詞 II	修飾語としての形容詞			
第 13 回	数詞 II	100 以上の数詞			
第 14 回	中国の通貨	口語と文語の「元」			
第 15 回	小テスト	半期分のテスト及び解説			

経済

授業番号	B200210002		
科目名 (英語表記)	中国語 II (Chinese I I)	(B)	
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。		
授業の進め方 (履修条件など)	前期の「中国語 I」で学習したことをふまえて、さらに必要と思われる構文、表現を学習する。小テストは随時実施しその都度かいせつをする。また、中国の文化や伝統といったものにも触れる。 中国語 I の単位を取得していること。		
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)		
基準			
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。		
教科書	『大学生のための 初級中国語 24 回』 白帝社		
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	復習	中国語 I の復習	
第 2 回	動詞述語文 I	動詞述語文	
第 3 回	動詞述語文 II	動詞「有」の用法	
第 4 回	時間表現 II	年月日、曜日、時刻の表現	
第 5 回	時間表現 II	時間名詞の文中の位置	
第 6 回	動詞述語文 III	連動文	
第 7 回	疑問文 III	反復疑問文	
第 8 回	復習	半期分のテスト及び解説	
第 9 回	連体修飾	構造助詞を用いない連体修飾	
第 10 回	副詞	「也」、「都」の用法	
第 11 回	形容詞 I	形容詞述語文	
第 12 回	形容詞 II	修飾語としての形容詞	
第 13 回	数詞 II	100 以上の数詞	
第 14 回	中国の通貨	口語と文語の「元」	
第 15 回	復習	半期分のテスト及び解説	

経済

授業番号	B200210003				
科目名 (英語表記)	中国語 II (Chinese I I)			(C)	
担当者 (英語表記)	山影 統 (Subaru Yamakage)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	前期の「中国語 I」で学習したことをふまえて、さらに必要と思われる構文、表現を学習する。小テストは随時実施しその都度かいせつをする。また、中国の文化や伝統といったものにも触れる。 中国語 I の単位を取得していること。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『大学生のための 初級中国語 24 回』 白帝社				
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	中国語 I の復習			
第 2 回	動詞述語文 I	動詞述語文			
第 3 回	動詞述語文 II	動詞「有」の用法			
第 4 回	時間表現 II	年月日、曜日、時刻の表現			
第 5 回	時間表現 II	時間名詞の文中の位置			
第 6 回	動詞述語文 III	連動文			
第 7 回	疑問文 III	反復疑問文			
第 8 回	小テスト	半期分のテスト及び解説			
第 9 回	連体修飾	構造助詞を用いない連体修飾			
第 10 回	副詞	「也」、「都」の用法			
第 11 回	形容詞 I	形容詞述語文			
第 12 回	形容詞 II	修飾語としての形容詞			
第 13 回	数詞 II	100 以上の数詞			
第 14 回	中国の通貨	口語と文語の「元」			
第 15 回	小テスト	半期分のテスト及び解説			

経済

授業番号	B200210004				
科目名 (英語表記)	中国語 II (Chinese I I)			(D)	
担当者 (英語表記)	山影 統 (Subaru Yamakage)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	前期の「中国語 I」で学習したことをふまえて、さらに必要と思われる構文、表現を学習する。小テストは随時実施しその都度かいせつをする。また、中国の文化や伝統といったものにも触れる。 中国語 I の単位を取得していること。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『大学生のための 初級中国語 24 回』 白帝社				
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	中国語 I の復習			
第 2 回	動詞述語文 I	動詞述語文			
第 3 回	動詞述語文 II	動詞「有」の用法			
第 4 回	時間表現 II	年月日、曜日、時刻の表現			
第 5 回	時間表現 II	時間名詞の文中の位置			
第 6 回	動詞述語文 III	連動文			
第 7 回	疑問文 III	反復疑問文			
第 8 回	小テスト	半期分のテスト及び解説			
第 9 回	連体修飾	構造助詞を用いない連体修飾			
第 10 回	副詞	「也」、「都」の用法			
第 11 回	形容詞 I	形容詞述語文			
第 12 回	形容詞 II	修飾語としての形容詞			
第 13 回	数詞 II	100 以上の数詞			
第 14 回	中国の通貨	口語と文語の「元」			
第 15 回	小テスト	半期分のテスト及び解説			

経済

授業番号	B200210005		
科目名 (英語表記)	中国語 II (Chinese I I)	(R a)	
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。		
授業の進め方 (履修条件など)	前期の「中国語 I」で学習したことをふまえて、さらに必要と思われる構文、表現を学習する。小テストは随時実施しその都度かいせつをする。また、中国の文化や伝統といったものにも触れる。 中国語 I の単位を取得していること。		
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)		
基準			
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。		
教科書	『中国語 基本文法と会話』 駿河台出版社		
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	復習	中国語 I の復習	
第 2 回	動詞述語文 I	動詞述語文	
第 3 回	動詞述語文 II	動詞「有」の用法	
第 4 回	時間表現 II	年月日、曜日、時刻の表現	
第 5 回	時間表現 II	時間名詞の文中の位置	
第 6 回	動詞述語文 III	連動文	
第 7 回	疑問文 III	反復疑問文	
第 8 回	復習	半期分のテスト及び解説	
第 9 回	連体修飾	構造助詞を用いない連体修飾	
第 10 回	副詞	「也」、「都」の用法	
第 11 回	形容詞 I	形容詞述語文	
第 12 回	形容詞 II	修飾語としての形容詞	
第 13 回	数詞 II	100 以上の数詞	
第 14 回	中国の通貨	口語と文語の「元」	
第 15 回	復習	半期分のテスト及び解説	

経済

授業番号	B200210006		
科目名 (英語表記)	中国語 II (Chinese I I)	(R b)	
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。		
授業の進め方 (履修条件など)	前期の「中国語 I」で学習したことをふまえて、さらに必要と思われる構文、表現を学習する。小テストは随時実施しその都度かいせつをする。また、中国の文化や伝統といったものにも触れる。 中国語 I の単位を取得していること。		
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)		
基準			
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。		
教科書	『新 表現の達人 I』 白帝社		
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	復習	中国語 I の復習	
第 2 回	動詞述語文 I	動詞述語文	
第 3 回	動詞述語文 II	動詞「有」の用法	
第 4 回	時間表現 II	年月日、曜日、時刻の表現	
第 5 回	時間表現 II	時間名詞の文中の位置	
第 6 回	動詞述語文 III	連動文	
第 7 回	疑問文 III	反復疑問文	
第 8 回	復習	半期分のテスト及び解説	
第 9 回	連体修飾	構造助詞を用いない連体修飾	
第 10 回	副詞	「也」、「都」の用法	
第 11 回	形容詞 I	形容詞述語文	
第 12 回	形容詞 II	修飾語としての形容詞	
第 13 回	数詞 II	100 以上の数詞	
第 14 回	中国の通貨	口語と文語の「元」	
第 15 回	復習	半期分のテスト及び解説	



経済

授業番号	B200220001		
科目名 (英語表記)	中国語 III (Chinese I I I)	(A)	
担当者 (英語表記)	黄麗華 (Ko Reika)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法 (文法) 等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。		
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)		
基準			
授業の予習・復習	予習 : 単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。		
教科書	『着実にまなぶ中国語』朝日出版社		
参考文献	『プログレッシブ中国語辞典』小学館		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	復習	中国語 I、II の復習	
第2回	存現文	存在表現 方位詞	
第3回	強調構文	強調構文	
第4回	動態表現 I	進行表現	
第5回	主述述語文	主述述語文	
第6回	助動詞 I	可能助動詞	
第7回	補語 I	結果補語	
第8回	小テスト	半期分のテスト及び解説	
第9回	助動詞 II	可能助動詞 II	
第10回	二重目的語の文	授与動詞構文	
第11回	補語 II	様態補語	
第12回	助動詞 III	可能助動詞 III	
第13回	「少々」の表現	動詞の重ね型	
第14回	補語 III	方向補語	
第15回	小テスト	半期分のテスト及び解説	

経済

授業番号	B200220002				
科目名 (英語表記)	中国語 III (Chinese I I I)			(B)	
担当者 (英語表記)	黄麗華 (Ko Reika)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法 (文法) 等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『着実にまなぶ中国語』 朝日出版社				
参考文献	『プログレッシブ中国語辞典』 小学館				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	復習	中国語 I、II の復習			
第2回	存現文	存在表現 方位詞			
第3回	強調構文	強調構文			
第4回	動態表現 I	進行表現			
第5回	主述述語文	主述述語文			
第6回	助動詞 I	可能助動詞			
第7回	補語 I	結果補語			
第8回	小テスト	半期分のテスト及び解説			
第9回	助動詞 II	可能助動詞 II			
第10回	二重目的語の文	授与動詞構文			
第11回	補語 II	様態補語			
第12回	助動詞 III	可能助動詞 III			
第13回	「少々」の表現	動詞の重ね型			
第14回	補語 III	方向補語			
第15回	小テスト	半期分のテスト及び解説			

経済

授業番号	B200220003				
科目名 (英語表記)	中国語 III (Chinese I I I)			(C)	
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法 (文法) 等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『着実にまなぶ中国語』 朝日出版社				
参考文献	『プログレッシブ中国語辞典』 小学館				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	中国語 I、II の復習			
第 2 回	存現文	存在表現 方位詞			
第 3 回	強調構文	強調構文			
第 4 回	動態表現 I	進行表現			
第 5 回	主述述語文	主述述語文			
第 6 回	助動詞 I	可能助動詞			
第 7 回	補語 I	結果補語			
第 8 回	復習	半期分のテスト及び解説			
第 9 回	助動詞 II	可能助動詞 II			
第 10 回	二重目的語の文	授与動詞構文			
第 11 回	補語 II	様態補語			
第 12 回	助動詞 III	可能助動詞 III			
第 13 回	「少々」の表現	動詞の重ね型			
第 14 回	補語 III	方向補語			
第 15 回	復習	半期分のテスト及び解説			

経済

授業番号	B200220004				
科目名 (英語表記)	中国語 III (Chinese I I I)		(R)		
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法 (文法) 等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『大学生のための 現代中国 12 話・Ⅲ』 白帝社				
参考文献	『プログレッシブ中国語辞典』 小学館				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	中国語 I、II の復習			
第 2 回	存現文	存在表現 方位詞			
第 3 回	強調構文	強調構文			
第 4 回	動態表現 I	進行表現			
第 5 回	主述述語文	主述述語文			
第 6 回	助動詞 I	可能助動詞			
第 7 回	補語 I	結果補語			
第 8 回	復習	半期分のテスト及び解説			
第 9 回	助動詞 II	可能助動詞 II			
第 10 回	二重目的語の文	授与動詞構文			
第 11 回	補語 II	様態補語			
第 12 回	助動詞 III	可能助動詞 III			
第 13 回	「少々」の表現	動詞の重ね型			
第 14 回	補語 III	方向補語			
第 15 回	復習	半期分のテスト及び解説			

経済

授業番号	B200230001				
科目名 (英語表記)	中国語 IV (Chinese I V)		(A)		
担当者 (英語表記)	黄麗華 (Ko Reika)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法 (文法) 等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『着実にまなぶ中国語』 朝日出版社				
参考文献	『プログレッシブ中国語辞典』 小学館				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	復習	中国語Ⅲの復習			
第2回	不定詞	疑問詞の不定用法			
第3回	仮定表現	仮定表現			
第4回	助動詞Ⅳ	助動詞のまとめ			
第5回	補語Ⅳ	可能補語			
第6回	介詞Ⅰ	「在」等の用法			
第7回	介詞Ⅱ	「把」等の用法			
第8回	小テスト	半期分のテスト及び解説			
第9回	選択疑問文	選択疑問文			
第10回	形容詞の重ね型	動詞の重ね型との違いに留意して			
第11回	介詞Ⅲ	使役表現			
第12回	未来表現	「要～了」等の表現			
第13回	介詞Ⅳ	受け身表現			
第14回	動態表現Ⅱ	完了および経験の表現			
第15回	小テスト	半期分のテスト及び解説			

経済

授業番号	B200230002				
科目名 (英語表記)	中国語 IV (Chinese I V)		(B)		
担当者 (英語表記)	黄麗華 (Ko Reika)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法 (文法) 等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『着実にまなぶ中国語』 朝日出版社				
参考文献	『プログレッシブ中国語辞典』 小学館				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	復習	中国語Ⅲの復習			
第2回	不定詞	疑問詞の不定用法			
第3回	仮定表現	仮定表現			
第4回	助動詞Ⅳ	助動詞のまとめ			
第5回	補語Ⅳ	可能補語			
第6回	介詞Ⅰ	「在」等の用法			
第7回	介詞Ⅱ	「把」等の用法			
第8回	小テスト	半期分のテスト及び解説			
第9回	選択疑問文	選択疑問文			
第10回	形容詞の重ね型	動詞の重ね型との違いに留意して			
第11回	介詞Ⅲ	使役表現			
第12回	未来表現	「要～了」等の表現			
第13回	介詞Ⅳ	受け身表現			
第14回	動態表現Ⅱ	完了および経験の表現			
第15回	小テスト	半期分のテスト及び解説			

経済

授業番号	B200230003				
科目名 (英語表記)	中国語 IV (Chinese I V)			(C)	
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法 (文法) 等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『着実にまなぶ中国語』 朝日出版社				
参考文献	『プログレッシブ中国語辞典』 小学館				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	中国語Ⅲの復習			
第 2 回	不定詞	疑問詞の不定用法			
第 3 回	仮定表現	仮定表現			
第 4 回	助動詞Ⅳ	助動詞のまとめ			
第 5 回	補語Ⅳ	可能補語			
第 6 回	介詞Ⅰ	「在」等の用法			
第 7 回	介詞Ⅱ	「把」等の用法			
第 8 回	復習	半期分のテスト及び解説			
第 9 回	選択疑問文	選択疑問文			
第 10 回	形容詞の重ね型	動詞の重ね型との違いに留意して			
第 11 回	介詞Ⅲ	使役表現			
第 12 回	未来表現	「要～了」等の表現			
第 13 回	介詞Ⅳ	受け身表現			
第 14 回	動態表現Ⅱ	完了および経験の表現			
第 15 回	復習	半期分のテスト及び解説			

経済

授業番号	B200230004				
科目名 (英語表記)	中国語 IV (Chinese I V)			(R)	
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法 (文法) 等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『大学生のための 現代中国 12 話・Ⅲ』 白帝社				
参考文献	『プログレッシブ中国語辞典』 小学館				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	中国語Ⅲの復習			
第 2 回	不定詞	疑問詞の不定用法			
第 3 回	仮定表現	仮定表現			
第 4 回	助動詞Ⅳ	助動詞のまとめ			
第 5 回	補語Ⅳ	可能補語			
第 6 回	介詞Ⅰ	「在」等の用法			
第 7 回	介詞Ⅱ	「把」等の用法			
第 8 回	復習	半期分のテスト及び解説			
第 9 回	選択疑問文	選択疑問文			
第 10 回	形容詞の重ね型	動詞の重ね型との違いに留意して			
第 11 回	介詞Ⅲ	使役表現			
第 12 回	未来表現	「要～了」等の表現			
第 13 回	介詞Ⅳ	受け身表現			
第 14 回	動態表現Ⅱ	完了および経験の表現			
第 15 回	復習	半期分のテスト及び解説			



経済

授業番号	B202420001		
科目名 (英語表記)	中国語検定講座 I (Chinese official approval lecture I)		
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	中国語 I 及び II の単位を取得した学生を対象とし、日本中国語検定協会の準 4 級から 4 級の合格を目指す。準 4 級認定基準に「基本単語約 500 語 (簡体字を正しく書けること)、ピンイン (表音ローマ字) の読み方と綴り方、単文の基本文型、簡単な日常挨拶語約 50 ~ 80」とあり、これらの完全習得を目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	発音においては単音節、複音節の音節を聞いてそれをピンインで書けるまでにする。基本文法においては判断動詞述語文、動詞述語文、形容詞述語文を 500 ほどの語彙で反復学習する。		
成績評価方法	定期試験 (50%) ・授業内テスト (40%) ・レポート及びその他の課題 (10%)		
基準			
授業の予習・復習	予習：発音練習を予めしておくこと。 復習：毎時間後発音の復習をすること。		
教科書	プリント配布		
参考文献	なし		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	今期の授業の概観、諸注意	
第 2 回	発音 1	ピンインの綴り方	
第 3 回	発音 2	リスニングからピンイン表記	
第 4 回	発音 3	発音総確認	
第 5 回	挨拶 1	出会いと別れ	
第 6 回	挨拶 2	感謝、労い等	
第 7 回	挨拶 3	挨拶総確認	
第 8 回	基本文型 1	判断動詞述語文	
第 9 回	基本文型 2	一般動詞述語文	
第 10 回	基本文型 3	形容詞述語文	
第 11 回	基本文型 4	疑問文	
第 12 回	基本文型 5	存現文	
第 13 回	実践テスト 1	過去問題によるテスト及び解説	
第 14 回	実践テスト 2	過去問題によるテスト及び解説	
第 15 回	実践テスト 3	予想問題によるテスト及び解説	

経済

授業番号	B202430001				
科目名 (英語表記)	中国語検定講座 II (Chinese official approval lecture II)				
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	中国語 I 及び II の単位を取得した学生を対象とし、日本中国語検定協会の 4 級以上の合格を目指し、3 級認定基準の到達を目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	2000 以上の語彙を習得する。これを用いて日本語から中国語、中国語から日本語へと訳せ、簡単な会話が出来るようにする。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：発音練習、新単語の意味調べを予めしておくこと。 復習：毎時間後、発音、新単語、新文型の復習をすること。				
教科書	プリント配布				
参考文献	なし				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今期の授業の概観、諸注意			
第 2 回	基本確認 1	ピンイン表記			
第 3 回	基本確認 2	基本文型			
第 4 回	作文 1	判断動詞述語文			
第 5 回	リスニング 1	判断動詞述語文			
第 6 回	会話 1	判断動詞述語文			
第 7 回	作文 2	一般動詞述語文 (含複文)			
第 8 回	リスニング 2	一般動詞述語文 (含複文)			
第 9 回	会話 2	一般動詞述語文 (含複文)			
第 10 回	作文 3	形容詞述語文			
第 11 回	リスニング 2	形容詞述語文			
第 12 回	会話 3	形容詞述語文			
第 13 回	実践テスト 1	過去問題によるテスト及び解説			
第 14 回	実践テスト 2	過去問題によるテスト及び解説			
第 15 回	実践テスト 3	予想問題によるテスト及び解説			

経済

授業番号	B202440001				
科目名 (英語表記)	日本語検定講座I (Japanese official approval lecture I)				
担当者 (英語表記)	沢野 美由紀 (Miyuki Sawano)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本語能力試験 N 1 合格できる力を習得することを目標とする。「言語知識 (文字・語彙・文法)」「読解」「聴解」の各分野で合格のために必要とされる点数をクリアできるように、日本語能力試験の概要を把握した上で、各分野の設問の特徴を掴み、N 1 レベルに対応した日本語能力を育成する。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義開始前に実力把握のため模試を行う。言語知識、読解、聴解について能力試験用の参考書・問題集に沿って各 4 限ずつ短期集中講義を行い、残りは 1 か月に 1 限ずつ 3 か月にわたって課題 (模擬問題) を与え、そのフィードバックを中心にした講義を行う。				
成績評価方法	定期試験 30%、課題・クラス内テスト 50%、クラス活動点 20% で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	毎回提出される課題を必ず行った上で受講すること。 講義で間違った問題は必ず復習する。				
教科書	講義開始前の模擬テストによって決定する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	言語知識 (1)	言語知識 演習 (1)			
第 2 回	読解 (1)	読解 演習 (1)			
第 3 回	聴解 (1)	聴解 演習 (1)			
第 4 回	言語知識 (2)	言語知識 演習 (2)			
第 5 回	読解 (2)	読解 演習 (2)			
第 6 回	聴解 (2)	聴解 演習 (2)			
第 7 回	言語知識 (3)	言語知識 演習 (3)			
第 8 回	読解 (3)	読解 演習 (3)			
第 9 回	聴解 (3)	聴解 演習 (3)			
第 10 回	言語知識 (4)	言語知識 演習 (4)			
第 11 回	読解 (4)	読解 演習 (4)			
第 12 回	聴解 (4)	聴解 演習 (4)			
第 13 回	模擬問題	模擬問題のフィードバック			
第 14 回	模擬問題	模擬問題のフィードバック			
第 15 回	模擬問題	模擬問題のフィードバック			

経済

授業番号	B202450001				
科目名 (英語表記)	日本語検定講座 II (Japanese official approval lecture II)				
担当者 (英語表記)	沢野 美由紀 (Miyuki Sawano)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本語検定講座 I に続き、「日本語能力試験」N 1 に合格できる日本語能力を習得することを目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義開始前に実力把握のため模試を行う。言語知識、読解、聴解について能力試験用の参考書・問題集に沿って各 4 限ずつ短期集中講義を行い、残りは 1 か月に 1 限ずつ 3 か月にわたって課題 (模擬問題) を与え、そのフィードバックを中心にした講義を行う。				
成績評価方法	定期試験 30%、課題・クラス内テスト 50%、クラス活動点 20% で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	毎回提出される課題を必ず行った上で受講すること。 講義で間違った問題は必ず復習する。				
教科書	講義開始前の模擬テストにより決定する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	言語知識 (5)	言語知識 演習 (5)			
第 2 回	読解 (5)	読解 演習 (5)			
第 3 回	聴解 (5)	聴解 演習 (5)			
第 4 回	言語知識 (6)	言語知識 演習 (6)			
第 5 回	読解 (6)	読解 演習 (6)			
第 6 回	聴解 (6)	聴解 演習 (6)			
第 7 回	言語知識 (7)	言語知識 演習 (7)			
第 8 回	読解 (7)	読解 演習 (7)			
第 9 回	聴解 (7)	聴解 演習 (7)			
第 10 回	言語知識 (8)	言語知識 演習 (8)			
第 11 回	読解 (8)	読解 演習 (8)			
第 12 回	聴解 (8)	聴解 演習 (8)			
第 13 回	模擬問題	模擬問題のフィードバック			
第 14 回	模擬問題	模擬問題のフィードバック			
第 15 回	模擬問題	模擬問題のフィードバック			

# 経済

授業番号	B202360001				
科目名 (英語表記)	中国の流通産業 (The Chinese distribution industry)				
担当者 (英語表記)	畢 滔滔 (Taotao Bi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業の到達目標は、学生に中国の消費財市場の特徴と流通構造を理解してもらうことである。具体的には、WTO加盟後の中国の流通政策、中国の消費者行動および流通業の現状を学生に理解してもらう。				
授業の進め方 (履修条件など)	この授業は、学生による事例研究を中心に進める。中国の消費者行動、主要消費財の流通チャネル、外資企業を含めて卸売業と小売業の経営について、学生に事例を配付し、事例を分析してもらった上で、事例に関連する流通理論を説明する。				
成績評価方法	事例研究の成績および期末試験によって評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：配布事例の読み、ポイントについてレジユメを作成する。 復習：要求しない。				
教科書	指定しない。毎回資料を配布する。				
参考文献	矢作敏行・関根孝・鐘淑玲・畢滔滔 (2009)『発展する中国の流通』白桃書房。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業内容の説明、事例研究の書き方			
第2回	計画経済時期の中国の流通	流通経路、流通機関			
第3回	中国の商業改革と対外開放政策	商業改革政策、商業開放政策			
第4回	中国の消費財市場	市場の拡大、地域間の格差			
第5回	中国の消費者の店舗選択行動	消費者の店舗選択行動、中国の消費者の特徴			
第6回	外資流通企業の中国進出	進出企業、企業戦略			
第7回	中国の流通企業の近代化	中国の流通企業の近代化、地域間の格差			
第8回	中国における耐久消費財の流通	流通経路、流通機関			
第9回	中国における生鮮食品の流通	流通経路、流通機関			
第10回	中国の卸売業	規模別卸売企業の特徴			
第11回	中国の小売業	業種、業態			
第12回	中国の流通産業における情報技術の発展	中国の流通産業における情報技術の発展、直面する課題			
第13回	中国におけるeコマースの発展	中国におけるeコマースの発展、直面する課題			
第14回	中国の物流の現状	中国の物流の現状、直面する課題			
第15回	講義内容のまとめ	講義内容のまとめ			

# 経済

授業番号	B202320001				
科目名 (英語表記)	中国ビジネス論 (China business theory)				
担当者 (英語表記)	畢 滔滔 (Taotao Bi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、中国市場におけるビジネス環境を説明する。授業は消費財と生産財両方を取り上げるが、重点は消費財におく。授業では中国に関する2つの内容を説明する。第1に、消費市場の特徴を説明する。市場全体のマクロデータに加えて、地域によって大きく異なる市場の特徴を解説する。第2に、主要産業と企業を説明する。主要な製造業、サービス産業と流通産業の現状を説明した上で、大手国内企業の経営状況と外資企業の進出状況を紹介する。この授業を通じて、学生に中国市場のビジネス環境を理解してもらう。				
授業の進め方 (履修条件など)	この授業は、学生による事例研究を中心に進める。中国の消費市場の特徴、主要産業と企業について、学生に事例を配付し、事例を分析してもらった上で、事例に関連する理論を説明する。				
成績評価方法	定期試験と事例研究で総合評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：事例研究は講義時間中行うため、講義時間外での資料の準備が必須となる。 復習：小テストを講義時間中行うため、講義時間外での復習が必須となる。				
教科書	指定しない。毎回授業の時に資料を配布する。				
参考文献	指定しない。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業内容の説明、事例研究の書き方			
第2回	中国の基礎データ	中国の基礎データ			
第3回	基礎的経済指標	中国の基礎的経済指標			
第4回	WTO・他協定加盟状況	WTO・他協定加盟状況			
第5回	投資促進機関	中国の投資促進機関			
第6回	中国における外資企業の進出	外資進出の現状			
第7回	自動車産業	中国の自動車産業の現状			
第8回	家電産業	中国の家電産業の発展			
第9回	食品製造業	食品製造業の現状			
第10回	ファッション・繊維産業	ファッション・繊維産業の現状			
第11回	伝統産品	中国の伝統産品			
第12回	環境・エネルギー産業	環境・エネルギー産業の現状			
第13回	金融業	金融業の現状			
第14回	流通業	流通業の現状			
第15回	まとめ	講義内容のまとめ			

# 経済

授業番号	B202500001		
科目名 (英語表記)	中小企業論 I (Small-and-medium-sized-enterprises I)		
担当者 (英語表記)	岸本 太一 (Taichi Kishimoto)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは二つあります。一つは、中小企業の〈長期存続〉を分析するための基礎的な理論的枠組みを理解することです。もう一つは、日本の製造業中小企業のそれらに関する現状と歴史に触れることです。到達目標は、講義で紹介した理論を用いて、自力で中小企業の基礎的な分析ができるようになる点にあります。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義の内容は二つあります。一つは理論に関するレクチャーです。もう一つは、紹介した理論に関連する中小企業の事例をふんだんに紹介することです。この二つの内容を交互に進めていきます。		
成績評価方法	中間レポート (40%)、期末レポート (40%)、授業への貢献 (20%) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：次回のテーマに関連しそうな企業について、調べておいてください。 復習：講義で板書したノートを再読し、理解を深めて下さい。		
教科書	教科書は使用しません。		
参考文献	講義にて随時紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図など	
第 2 回	中小企業論の必要性	経営学において、なぜ「中小企業論」が必要なのか	
第 3 回	中小企業論 I のテーマ	日本の中小企業は、空洞化問題にどのように適応してきたのか	
第 4 回	理論を生み出す基となった事例	精密機械の産業集積に立地する中小企業	
第 5 回	事業構造とビジネスモデルの転換	依存度の低さ	
第 6 回	空洞化適応の基本手段	今ある事業の日常的なアレンジ	
第 7 回	顧客を獲得するためのコアサービス	ブチ製品開発と量産整流化	
第 8 回	中間レポートセッション	優秀レポートを用いた発表セッション	
第 9 回	コアサービスを生み出す基礎能力	製品・工程アレンジ能力	
第 10 回	基礎能力の利用と蓄積のメカニズム	日常受注における細かなギャップの創出と解消	
第 11 回	新規顧客の獲得の仕方	新規顧客を獲得する活動の種類	
第 12 回	分業と雇用の構造	適応を支える企業内部の構造	
第 13 回	大手セットメーカーからの影響	コア能力蓄積への貢献、転換圧力の創出、つなぎの受注の供給	
第 14 回	産業集積からの影響	新規受注獲得の支援、地域での存続の目的化	
第 15 回	紹介した理論の全体像	まとめとして	

経済

授業番号	B202510001				
科目名 (英語表記)	中小企業論 II (Small-and-medium-sized-enterprises II)				
担当者 (英語表記)	岸本 太一 (Taichi Kishimoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは二つあります。一つは、中小企業の〈規模拡大〉と〈海外展開〉を分析するための基礎的な理論的枠組みを理解することです。もう一つは、日本の製造業中小企業におけるそれらの現状と歴史に触れることです。到達目標は、講義で紹介した理論を用いて、自力で中小企業の基礎的な分析ができるようになる点にあります。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業では「理論に関するレクチャー」と「紹介した理論に関連する中小企業の事例を紹介する」という二つの内容を交互に進めていきます。 中小企業論 I を履修しておくことを勧めます。 なお、本講義では千葉県庁担当者による講義が一回含まれます。				
成績評価方法	中間レポート (40%)、期末レポート (40%)、出席 (20%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：次回のテーマに関連しそうな企業について、調べておいてください。 復習：講義で板書したノートを再読することをお勧めします。				
教科書	特定のテキストを使用しません。				
参考文献	講義にて随時紹介していきます。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図など			
第 2 回	中小企業 II のテーマ	規模拡大、海外展開、理論の他産業への当てはめ			
第 3 回	理論を生み出す基となった事例	輸送用機械の産業集積に立地する中小企業			
第 4 回	中小企業の規模拡大①	実態の紹介			
第 5 回	中小企業の規模拡大②	拡大の基礎メカニズム (サプライチェーンにおけるポジショニングの視点から)			
第 6 回	中小企業の規模拡大③	拡大の基礎メカニズム (企業内分業と雇用の視点から)			
第 7 回	中小企業の海外展開①	グローバル化に直面する中小企業			
第 8 回	中間レポートセッション	優秀レポートを用いた発表セッション			
第 9 回	中小企業の海外展開②	海外での成功パターンと成功の論理			
第 10 回	千葉県庁担当者による講義	千葉県の中小企業振興政策			
第 11 回	海外拠点が国内拠点にもたらす影響①	マイナスの影響、それを小さくするための工夫			
第 12 回	海外拠点が国内拠点にもたらす影響②	プラスの影響、それを生み出すための工夫			
第 13 回	理論の他産業の当てはめ①	当てはまらない部分			
第 14 回	理論の他産業への当てはめ②	当てはまる部分			
第 15 回	紹介した理論の全体像	まとめとして			



経済

授業番号	B201730001				
科目名 (英語表記)	データベースオペレーション (Database operation)			(A)	
担当者 (英語表記)	成富 慶子 (Keiko Naritomi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている          本講義ではデータベースソフト Microsoft Access による実習を通して、データベースの利用と構築技能に習熟してもらう</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>Microsoft Access の操作を中心に データベースの構築・作成を行う          履修条件: 情報基礎 1,2 の単位を取得済み、または同等レベルであること</p>				
成績評価方法	実技テストで総合評価する				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習: 教科書を見ながら操作する          復習: 授業内に行った操作を練習問題などで復習する</p>				
教科書	FOM 出版 Microsoft Access2010 基礎 978-4-89311-854-7				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・講義概要			
第 2 回	データベースとは	Access の機能と概要			
第 3 回	データベースの設計と作成	データベースの設計とファイルの作成			
第 4 回	テーブル 1	フィールドの設定, 主キーの設定			
第 5 回	テーブル 2	プロパティの設定、データの入力、レコードの並べ替え、フィルター			
第 6 回	テーブル 3	リレーションシップの設定と種類、参照整合性、データのインポート			
第 7 回	クエリ 1	ソーステーブルとリレーションシップの管理、フィールドの結合、演算フィールドの作成			
第 8 回	フォーム 1	概要と種類、作成方法			
第 9 回	フォーム 2	レイアウトの変更、デザイン、配置、書式オプションの適用			
第 10 回	クエリ 2	条件の抽出、データの集計、関数の利用、フィールドプロパティ			
第 11 回	レポート 1	概要と種類、作成方法			
第 12 回	レポート 2	レイアウトの変更、デザイン・配置・書式・ページ設定オプションの適用、レコード並べ替え・フィルターの実行後のレポート作成			
第 13 回	クエリ 3	アクションクエリ・不一致クエリの作成			
第 14 回	総合練習問題 1	総合練習問題 1			
第 15 回	総合練習問題 2	総合練習問題 2			

経済

授業番号	B201730002				
科目名 (英語表記)	データベースオペレーション (Database operation)			(B)	
担当者 (英語表記)	成富 慶子 (Keiko Naritomi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている          本講義ではデータベースソフト Microsoft Access による実習を通して、データベースの利用と構築技能に習熟してもらう</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>Microsoft Access の操作を中心に データベースの構築・作成を行う          履修条件: 情報基礎 1,2 の単位を取得済み、または同等レベルであること</p>				
成績評価方法	実技テストで総合評価する				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習: 教科書を見ながら操作する          復習: 授業内に行った操作を練習問題などで復習する</p>				
教科書	FOM 出版 Microsoft Access2010 基礎 978-4-89311-854-7				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・講義概要			
第 2 回	データベースとは	Access の機能と概要			
第 3 回	データベースの設計と作成	データベースの設計とファイルの作成			
第 4 回	テーブル 1	フィールドの設定, 主キーの設定			
第 5 回	テーブル 2	プロパティの設定、データの入力、レコードの並べ替え、フィルター			
第 6 回	テーブル 3	リレーションシップの設定と種類, 参照整合性, データのインポート			
第 7 回	クエリ 1	ソーステーブルとリレーションシップの管理, フィールドの結合, 演算フィールドの作成			
第 8 回	フォーム 1	概要と種類、作成方法			
第 9 回	フォーム 2	レイアウトの変更, デザイン, 配置, 書式オプションの適用			
第 10 回	クエリ 2	条件の抽出, データの集計, 関数の利用, フィールドプロパティ			
第 11 回	レポート 1	概要と種類、作成方法			
第 12 回	レポート 2	レイアウトの変更, デザイン・配置・書式・ページ設定オプションの適用, レコード並べ替え・フィルターの実行後のレポート作成			
第 13 回	クエリ 3	アクションクエリ・不一致クエリの作成			
第 14 回	総合練習問題 1	総合練習問題 1			
第 15 回	総合練習問題 2	総合練習問題 2			

経済

授業番号	B201790001		
科目名 (英語表記)	データベース論 (Database theory)		
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	情報化の進んだ今日では、データベースは様々な業務を支えています。授業のねらいは、データベースをビジネスに活用するための技術と方法をまなぶことで、到達目標は、データベース構築・運用可能な技能の習得です。		
授業の進め方 (履修条件など)	データベースの仕組みと業務への応用方法、Access をもちいたデータベースの構築手順を講義し、課題に基づきデータベース構築の演習を行ってまいります。履修条件は「データベースオペレーション」を履修済みか Access の基本操作が可能なことです。		
成績評価方法	実技の期末試験 (60%)、演習における提出ファイル (40%) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	授業の最後に次回の予習項目を示しますので、予習しておいてください。また、その回でやったことを次回以降使いますので、何度も復習し、身に付けておいてください。		
教科書	毎回、資料とデータを配布します。		
参考文献	谷尻かおり『これだけはおさえておきたいデータベース基礎の基礎』 技術評論社 『よくわかる Access2007 ビジネス活用編』 FOM 出版社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認、講義の概要、データベースとは	
第 2 回	リレーショナルデータベース	リレーショナルデータベースの特徴と仕組み	
第 3 回	データベースの構築手順	データの正規化と設計	
第 4 回	Access の基本操作	仕組みとよく使う基本操作の復習	
第 5 回	商品管理テーブルの作成	Excel データの正規化と Access への読み込みとプロパティの設定	
第 6 回	商品管理用クエリとフォームの作成	商品管理用クエリとデータ入力用フォームの作成とプロパティの設定	
第 7 回	商品管理用レポートの作成	仕入先リスト、商品リストなどのレポートの作成とプロパティの設定	
第 8 回	商品管理用マクロの作成	操作効率化のためのマクロの作成、割り付け、動作確認	
第 9 回	顧客管理用テーブル、クエリ、レポートの作成	顧客管理用のテーブル、クエリ、レポートの作成とプロパティの設定	
第 10 回	顧客管理用マクロの作成	顧客管理用マクロの作成、割り付け、動作確認	
第 11 回	売上管理用テーブル、クエリ、フォームの作成	売上管理用のテーブル、クエリ、メイン・サブフォームの作成とプロパティの設定	
第 12 回	売上管理用レポートの作成 1	メイン・サブレポートによる請求書の作成	
第 13 回	売上管理用レポートの作成 2	月次別・日時別売上集計表の作成	
第 14 回	売上管理用マクロの作成	入力条件による出力の異なる伝票管理用マクロの作成、割り付け、動作確認	
第 15 回	まとめ	要点のまとめと模擬試験	

経済

授業番号	B200160002				
科目名 (英語表記)	ドイツ語 I (German I)			(B)	
担当者 (英語表記)	志村 哲也 (Tetsuya Shimura)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	ドイツ語の基礎の基礎を身に付ける。正確な読み書きの練習から始め、最重要文法項目に習熟する。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストをレッスン毎に読み進める。毎回配布する授業プリント (小テスト) が出席調査票・受講証明書となるので、必ず授業時間内に提出し、返却後も保管すること。				
成績評価方法	平常点 (50%) および定期試験 (50%) の合計で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：自発的にテキストを読んでおくこと。 復習：Web 上から授業プリントをダウンロードし反復練習すること。				
教科書	「新ドイツ語コミュニケーション」三修社。入谷幸江ほか。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	受講の心得			
第 2 回	序	アルファベット、つづりと発音			
第 3 回	Lektion 1	動詞の人称変化、語順			
第 4 回	Lektion 1	練習問題			
第 5 回	Lektion 2	sein, haben の人称変化			
第 6 回	Lektion 2	練習問題			
第 7 回	Lektion 3	名詞の性・数・格、定冠詞・不定冠詞の格変化			
第 8 回	Lektion 3	練習問題			
第 9 回	文法まとめ 1	Lektion 1-3 復習			
第 10 回	Lektion 4	不規則動詞の人称変化			
第 11 回	Lektion 4	練習問題			
第 12 回	Lektion 5	人称代名詞の 3・4 格、名詞の複数形			
第 13 回	Lektion 5	練習問題			
第 14 回	文法まとめ 2	Lektion 4-5 復習			
第 15 回	プレテスト	テスト形式による総復習			

経済

授業番号	B200170002		
科目名 (英語表記)	ドイツ語 II (German I I)	(B)	
担当者 (英語表記)	志村 哲也 (Tetsuya Shimura)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	ドイツ語 I に引き続きドイツ語の基礎を身に付ける。ドイツ語検定 4 級レベルの習得を目指す。		
授業の進め方 (履修条件など)	テキストをレッスン毎に読み進める。毎回配布する授業プリント (小テスト) が出席調査票・受講証明書となるので、必ず授業時間内に提出し、返却後も保管すること。		
成績評価方法	平常点 (50%) および定期試験 (50%) の合計で評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：自発的にテキストを読んでおくこと。 復習：Web 上から授業プリントをダウンロードし反復練習すること。		
教科書	「新ドイツ語コミュニケーション」三修社。入谷幸江ほか。		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	受講の心得	
第 2 回	ドイツ語 I 復習	Lektion 1-5 復習	
第 3 回	Lektion 6	不定冠詞類 (所有冠詞と否定冠詞)、定冠詞類	
第 4 回	Lektion 6	練習問題	
第 5 回	Lektion 7	前置詞 (1)	
第 6 回	Lektion 7	練習問題	
第 7 回	Lektion 8	前置詞 (2)	
第 8 回	Lektion 8	練習問題	
第 9 回	文法まとめ 1	Lektion 6-8 復習	
第 10 回	Lektion 9	助動詞の人称変化、助動詞を含む文	
第 11 回	Lektion 9	練習問題	
第 12 回	Lektion 10	分離動詞	
第 13 回	Lektion 10	練習問題	
第 14 回	文法まとめ 2	Lektion 9-10 復習	
第 15 回	プレテスト	テスト形式による総復習	

経済

授業番号	B200180001				
科目名 (英語表記)	ドイツ語 III (German I I I)		(B)		
担当者 (英語表記)	志村 哲也 (Tetsuya Shimura)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	長文読解を中心としたテキストを用い、初級文法の復習を交えつつ徐々に高度なドイツ語の習得を目指す。また独和辞典を使いこなせるようにする。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストをレッスン毎に読み進める。毎回配布する授業プリント (小テスト) が出席調査票・受講証明書となるので、必ず授業時間内に提出し、返却後も保管すること。ドイツ語 I・II 不合格者は原則として受講不可。				
成績評価方法	平常点 (50%) および定期試験 (50%) の合計で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：長文読解は宿題とし、授業で答え合わせをする。 復習：Web 上から授業プリントをダウンロードし反復練習すること。				
教科書	「ヴンダー！ヴンダー！」朝日出版社。藤由順子ほか。				
参考文献	独和辞典必須 (初回授業で紹介する)。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	受講の心得			
第 2 回	序	発音のポイント、母音、子音			
第 3 回	Lektion 1	主語になる代名詞と sein、人称代名詞、文の作り方			
第 4 回	Lektion 1	長文読解			
第 5 回	Lektion 2	動詞の現在形、名詞の数・性・格、不定冠詞の 1～4 格			
第 6 回	Lektion 2	長文読解			
第 7 回	Lektion 3	名詞の複数形、定冠詞、代名詞の注意点			
第 8 回	Lektion 3	長文読解			
第 9 回	Lektion 4	不規則動詞の現在人称変化、es の変わった使い方			
第 10 回	Lektion 4	長文読解			
第 11 回	Lektion 5	不定冠詞類、定冠詞類			
第 12 回	Lektion 5	長文読解			
第 13 回	Lektion 6	前置詞			
第 14 回	Lektion 6	長文読解			
第 15 回	まとめ	総復習			

経済

授業番号	B200180002				
科目名 (英語表記)	ドイツ語 III (German I I I)		(A)		
担当者 (英語表記)	高島 明 (Akira Takashima)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	ドイツ語圏であるドイツ・オーストリア・スイスに行った時に、簡単な日常会話ができるような、そのような授業内容にする。ドイツ語で挨拶ができ、簡単な会話ができるようになること。				
授業の進め方 (履修条件など)	文法の説明の後、その文法に関する練習問題を解くことにする。				
成績評価方法	定期試験 (60%)・平常点 (授業への貢献度、授業中小テストなど) (40%)				
基準	2/3 以上、授業に出席すること。				
授業の予習・復習	予習：次週に行う箇所を言うので、前もってテキストを読んでおくこと。 復習：習った箇所はもう一度読み返すこと。				
教科書	高島明著 『新しい太郎と花子のドイツ語教室』				
参考文献	良い辞典を買っておくこと。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ドイツ語 I の復習 (聞き取り練習)	留学生係で (1) 基数			
第2回	同上	同上 (2) 挨拶の仕方			
第3回	同上	やっと部屋を見つけた (1) 電話のかけ方			
第4回	同上	同上 (2) 住所の書き方			
第5回	同上	同上 (3) 天候			
第6回	第7課 複合動詞・再帰動詞・非人称の es	花子は太郎に電話をする			
第7回	同上	練習問題 (1) 複合動詞			
第8回	同上	同上 (2) 再帰動詞			
第9回	同上	同上 (3) 非人称の es			
第10回	第8課 話法の助動詞	太郎と花子はカフェテリアで談笑する			
第11回	同上	練習問題 (1) 動詞の現在人称変化			
第12回	同上	同上 (2) 未来形			
第13回	同上	同上 (3) 接続詞			
第14回	まとめ	復習 (1) 再帰代名詞			
第15回	同上	同上 (2) 小テスト			

経済

授業番号	B200190001				
科目名 (英語表記)	ドイツ語 IV (German I V)		(A)		
担当者 (英語表記)	高島 明 (Akira Takashima)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	ドイツ語圏であるドイツ・オーストリア・スイスの文化や経済などの理解を深め、辞典を使いながら簡単な文章が読めるようになること。				
授業の進め方 (履修条件など)	文法の説明の後、その文法に関する練習問題を解くことにする。				
成績評価方法	定期試験 (60%)・平常点 (授業への貢献度、授業中小テストなど) (40%)				
基準	2 / 3 以上、授業に出席すること。				
授業の予習・復習	予習：次週に行う箇所を言うので、前もってテキストを読んでおくこと。 復習：習った箇所はもう一度読み返すこと。				
教科書	高島明著 『新しい太郎と花子のドイツ語教室』				
参考文献	良い辞典を買っておくこと。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	第 9 課 動詞の 3 基本形と過去時称	太郎と花子はヘルムートを訪ねる			
第 2 回	同上	練習問題 (1) 規則動詞の過去形			
第 3 回	同上	同上 (2) 不規則動詞の過去形			
第 4 回	同上	同上 (3) sein と haben の過去形			
第 5 回	第 10 課 完了形・受動形	ヘルムートは日本の生活に慣れた			
第 6 回	同上	練習問題 (1) 完了形			
第 7 回	同上	同上 (2) sein 支配の動詞			
第 8 回	同上	同上 (3) 受動態			
第 9 回	第 11 課 zu を伴う不定詞・現在分詞と過去分詞の用法・関係代名詞	太郎と花子は同じ小学校で学んだ			
第 10 回	同上	練習問題 (1) 現在分詞と過去分詞			
第 11 回	同上	同上 (2) 関係代名詞			
第 12 回	第 12 課 接続法	太郎は花子の所にいる			
第 13 回	同上	練習問題 接続法			
第 14 回	まとめ	復習 (1) 動詞の三基本形			
第 15 回	同上	同上 (2) 小テスト			



経済

授業番号	B200190002				
科目名 (英語表記)	ドイツ語 IV (German I V)		(B)		
担当者 (英語表記)	志村 哲也 (Tetsuya Shimura)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	ドイツ語Ⅲに引き続き中級独文法に習熟しつつ、更に高度な長文読解力を身に付ける。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストをレッスン毎に読み進める。毎回配布する授業プリント (小テスト) が出席調査票・受講証明書となるので、必ず授業時間内に提出し、返却後も保管すること。ドイツ語Ⅰ・Ⅱ不合格者は原則として受講不可。				
成績評価方法	平常点 (50%) および定期試験 (50%) の合計で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：長文読解は宿題とし、授業で答え合わせをする。 復習：Web 上から授業プリントをダウンロードし反復練習すること。				
教科書	「ヴンダー！ヴンダー！」朝日出版社。藤由順子ほか。				
参考文献	独和辞典必須 (初回授業で紹介する)。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	受講の心得			
第 2 回	ドイツ語Ⅲ復習	Lektion 1-6 復習			
第 3 回	Lektion 7	話法の助動詞、未来の助動詞			
第 4 回	Lektion 7	長文読解			
第 5 回	Lektion 8	従属接続詞			
第 6 回	Lektion 8	長文読解			
第 7 回	Lektion 9	分離動詞、非分離動詞			
第 8 回	Lektion 9	長文読解			
第 9 回	Lektion 10	動詞の三基本形、過去人称変化			
第 10 回	Lektion 10	長文読解			
第 11 回	Lektion 11	現在完了、分詞			
第 12 回	Lektion 11	長文読解			
第 13 回	Lektion 12	形容詞、比較			
第 14 回	Lektion 12	長文読解			
第 15 回	まとめ	総復習			

経済

授業番号	B200460001				
科目名 (英語表記)	統計学 I (Statistics I)				
担当者 (英語表記)	小林 忠 (Tadashi Kobayashi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	記述統計学から推測統計学に至る現代統計学の基礎と基本的な統計手法の習得を目標とし、多くの実例から統計的なものの見方、考え方を丁寧に紹介します。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本となる概念、定義を繰り返し説明しますので、欠席せずに受講すれば理解できる講義内容です。数学に関する予備知識としては、高校での数学 I 程度を必要とします。毎回演習を行います。				
成績評価方法	試験成績 80%、授業参加態度 20%				
基準					
授業の予習・復習	予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。 復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。				
教科書	小寺平治著『新統計学入門』裳華房				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	概論	概論			
第 2 回	標本データの記述	データの分類、グラフによる表示			
第 3 回	標本データの記述	算術的記述			
第 4 回	標本データの記述	標準偏差の意味			
第 5 回	標本データの記述	中央値、最頻値			
第 6 回	確率	標本空間、事象の確率			
第 7 回	確率	加法、乗法の定理			
第 8 回	確率	独立事象の乗法の定理			
第 9 回	確率	ベイズの定理			
第 10 回	確率	計数の方法、順列組合せ (1)			
第 11 回	確率	計数の方法、順列組合せ (2)			
第 12 回	確率分布	確率変数、期待値、分散			
第 13 回	確率分布	離散型変数、連続型変数			
第 14 回	確率分布	確率分布の性質 (1)			
第 15 回	確率分布	確率分布の性質 (2)			

経済

授業番号	B200470001				
科目名 (英語表記)	統計学 II (Statistics II)				
担当者 (英語表記)	小林 忠 (Tadashi Kobayashi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	記述統計学から推測統計学に至る現代統計学の基礎と基本的な統計手法の習得を目標とし、多くの実例から統計的なものの見方、考え方を丁寧に紹介します。				
授業の進め方 (履修条件など)	「統計学 I」に続く講義である。「統計学 I」を履修済みのこと。 基本となる概念、定義を繰り返し説明しますので、欠席せずに受講すれば理解できる講義内容です。数学に関する予備知識としては、高校での数学 I 程度を必要とします。毎回演習を行います。				
成績評価方法	試験成績 80%、授業参加態度 20%				
基準					
授業の予習・復習	予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。 復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。				
教科書	小寺平治著『新統計学入門』裳華房				
参考文献	東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』東京大学出版会				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	主な確率分布	二項分布			
第 2 回	主な確率分布	正規分布 (1)			
第 3 回	主な確率分布	正規分布 (2)			
第 4 回	主な確率分布	大数の法則、中心極限定理			
第 5 回	標本抽出	無作為抽出、不偏推定値			
第 6 回	標本抽出	正規母集団からの抽出 (1)			
第 7 回	標本抽出	正規母集団からの抽出 (2)			
第 8 回	標本抽出	非正規母集団からの抽出			
第 9 回	推定	点推定と区間推定			
第 10 回	推定	点推定の考え方とその手順			
第 11 回	推定	区間推定			
第 12 回	仮説検定	検定の考え方			
第 13 回	仮説検定	正規母集団に対する仮説検定			
第 14 回	相関と回帰	直線回帰			
第 15 回	相関と回帰	最小二乗法			

# 経済

授業番号	B201010001				
科目名 (英語表記)	統計学総論 I (Statistics introduction I)				
担当者 (英語表記)	稲葉 弘道 (Hiromichi Inaba)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済社会の諸現象を理解するには質的だけでなく数量的に分析することが不可欠です。数量的に分析するための手法としての統計学を初歩から勉強します。理論よりも、実際にどのように統計学が利用されるかを学びます。使用する教科書はハンバーガーショップの経営で必要となる統計手法を題材にしています。				
授業の進め方 (履修条件など)	統計分析にはパソコン(EXCEL)を使います。レジュメなどは、ネットワーク上に掲示します。この講義に必要なパソコンやネットワークの知識は初歩から説明します。				
成績評価方法	定期試験 ( 50 %)・課題作成 ( 20 %)・授業参加態度 ( 30 %)				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書をよく読んでおくこと。 復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行っておく。 特にパソコンでの課題と実習は常に行うこと。				
教科書	向後千春・富永敦子著『統計学がわかる ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』技術評論社				
参考文献	小島寛之著『統計学入門』ダイヤモンド社 唯是康彦編著『EXCEL で学ぶ経済統計入門』東洋経済新報社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要			
第 2 回	パソコン操作基礎	パソコン操作の再確認			
第 3 回	表計算操作法	表、グラフ作成			
第 4 回	表計算操作法	絶対参照座標			
第 5 回	ポテトの長さは揃っている	平均と度数分布			
第 6 回	ポテトの長さは揃っている	分散と標準偏差			
第 7 回	ポテトの本数はどのくらい	母集団と標本			
第 8 回	ポテトの本数はどのくらい	区間推定の考えと信頼区間			
第 9 回	ライバル店と売り上げを比較	仮説検定の考え方			
第 10 回	ライバル店と売り上げを比較	カイ 2 乗検定			
第 11 回	どちらの商品がウケていますか	平均の差の信頼区間			
第 12 回	どちらの商品がウケていますか	t 検定 (対応なし)			
第 13 回	もっと詳しく調べたい	対応があるとは？			
第 14 回	もっと詳しく調べたい	t 検定 (対応あり)			
第 15 回	まとめ	まとめと質疑応答			

# 経済

授業番号	B201020001				
科目名 (英語表記)	統計学総論 II (Statistics introduction II)				
担当者 (英語表記)	稲葉 弘道 (Hiromichi Inaba)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	統計学総論 I と同様に、理論的よりも、実際にどのように統計学が利用されるかを学びます。使用する教科書はハンバーガーショップとアイスクリームショップの経営に必要な統計学です。アイスクリームの需要と温度の関係など、実践的な分析手法を学びます。				
授業の進め方 (履修条件など)	統計分析にはパソコン (EXCEL) を使います。レジュメなどは、ネットワーク上に掲示します。統計学総論 I の内容を理解しているものとして、講義を進めます。				
成績評価方法	定期試験 ( 50 %) ・ 課題作成 ( 20 %) ・ 授業参加態度 ( 30 % )				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書をよく読んでおくこと。 復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行っておく。 特にパソコンでの課題と実習は常に行うこと。				
教科書	向後千春・富永敦子著『統計学がわかる ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』技術評論社 向後千春・富永敦子著『統計学がわかる 回帰分析・因子分析編 アイスクリームで味わう、“関係”の統計学』技術評論社				
参考文献	小島寛之著『統計学入門』ダイヤモンド社 唯是康彦編著『EXCEL で学ぶ経済統計入門』東洋経済新報社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要			
第 2 回	3 つ目のライバル店現る	3 つともえのポテト競争			
第 3 回	3 つ目のライバル店現る	分散分析 ( 1 要因 )			
第 4 回	新メニューで差をつける	分散分析 ( 2 要因 )			
第 5 回	最高気温と客数の関係を知りたい	散布図			
第 6 回	相関の強さを知りたい	相関係数の計算			
第 7 回	相関の強さを知りたい	相関係数の意味			
第 8 回	その相関係数の意味はあるのか	無相関検定			
第 9 回	最高気温で客数を予測したい	回帰分析の原理			
第 10 回	最高気温で客数を予測したい	回帰直線の計算			
第 11 回	最低気温と客数の関係を知りたい	偏相関			
第 12 回	最低気温と客数の関係を知りたい	もうひとつの偏相関係数			
第 13 回	最高気温と最低気温から客数を予測したい	重回帰モデルでの予測			
第 14 回	最高気温と最低気温から客数を予測したい	重回帰分析の信頼性			
第 15 回	まとめ	まとめと質疑応答			

# 経済

授業番号	B200810001				
科目名 (英語表記)	日本経済史 I (The Japanese economic history I)				
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	近代日本 (明治時代) の経済成長の歴史を、近世 (江戸時代) から考える。この授業を通じて、近代日本経済史の通史的な理解が得られること、とりわけ資本主義成立過程についての理解を獲得することが目標である。また、毎回の授業テーマについて、内容要約文を書く課題を与える。論理的な文章を書く技術を修得してもらいたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回の授業内容をまとめたレジュメに基づいて講義を行います。講義を聴きながら、レジュメにキーワードや、まとめの文章などを記入する。最後に授業内容を確認するプリントを提出してもらいます。				
成績評価方法	定期試験 70%、毎回提出するプリント 30%				
基準					
授業の予習・復習	予習：参考文献を読むこと。復習：毎回の授業テーマを要約する文章を書いておくこと。希望者には添削指導を行う。				
教科書	使用しない。毎回レジュメを配布する。				
参考文献	三和良一『概説日本経済史』第2編 (東京大学出版会、2002年)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方、日本経済史とはどのような学問か			
第2回	第1講 経済史入門	生産様式による時代区分			
第3回	第2講 幕藩制的全国市場	全国的流通の成立			
第4回	第3講 近世の都市商業	流通に介在する新興商人の経営形態、経営管理の発展			
第5回	第4講 藩政改革と重商主義	藩政改革にみる国産化と重商主義政策			
第6回	第5講 開国と資本主義への包摂	開国の経済的影響			
第7回	第6講 明治維新と資本制社会	資本制社会構成体の成立			
第8回	第7講 明治前期の財政と金融	地租改正、国立銀行、秩禄処分			
第9回	第8講 殖産興業	殖産興業政策、官業払下げ			
第10回	第9講 原蓄過程	大隈財政、松方財政			
第11回	第10講 日本の産業革命	産業革命のメルクマール			
第12回	第11講 近代産業の発達①	綿紡績業、製糸業			
第13回	第12講 近代産業の発展②	重工業			
第14回	予備試験	定期試験の予備的試験、論述のポイントを解説			
第15回	まとめ	答案の返却、採点講評、前期授業全体のポイント解説			

# 経済

授業番号	B200820001		
科目名 (英語表記)	日本経済史 II (The Japanese economic history II)		
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	"現代日本の経済政策の歴史を、理論を踏まえて考える。この授業を通じて、現代日本経済史の通史的な理解が得られることと、その理論的な背景についての理解を獲得することが目標である。また、毎回の授業テーマについて、内容要約文を書く課題を与える。論理的な文章を書く技術を修得してもらいたい。"		
授業の進め方 (履修条件など)	"毎回の授業内容をまとめたレジюмеに基づいて講義を行います。講義を聴きながら、レジюмеにキーワードや、まとめの文章などを記入する。最後に授業内容を確認するプリントを提出してもらいます。"		
成績評価方法	定期試験 70%、毎回提出するプリント 30%		
基準			
授業の予習・復習	予習：参考文献を読むこと。復習：毎回の授業テーマを要約する文章を書いておくこと。希望者には添削指導を行う。		
教科書	使用しない。毎回レジюмеを配布する。		
参考文献	三和良一『概説日本経済史』第2編 (東京大学出版会、2002年)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	第13講 日清・日露期の日本経済	財政の拡大と近代化、日本の植民地経営	
第2回	第14講 第1次世界大戦期の日本経済	大戦ブーム、戦後恐慌	
第3回	第15講 1920年代の日本経済	世界経済の構造変化、日本経済の新局面	
第4回	第16講 金融恐慌	割引現在価値、震災手形処理問題	
第5回	第17講 金解禁	金本位制の機能	
第6回	第18講 昭和恐慌	昭和恐慌、ドル買いとテロ	
第7回	第19講 高橋財政	有効需要の創出	
第8回	第20講 戦時統制経済	ブロック経済、統制経済	
第9回	第21講 戦後の経済改革	財閥解体、農地改革、労働改革	
第10回	第22講 戦後の経済復興	金融緊急措置令、傾斜生産方式、ドッジラインと安定恐慌	
第11回	第23講 高度経済成長①	景気変動、耐久消費財の発展と設備投資	
第12回	第24講 高度経済成長②	二重構造 (大企業と中小企業・過疎と過密)、市場の失敗 (四大公害訴訟)	
第13回	第25講 安定成長からバブル経済	2つのショックと安定成長、プラザ合意とバブル景気	
第14回	予備試験	定期試験の予備的試験、論述のポイントを解説	
第15回	まとめ	答案の返却、採点講評、後期授業全体のポイント解説	

# 経済

授業番号	B201490001		
科目名 (英語表記)	日本経済地理 (Japanese economic geography)		
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本の首都圏、近畿圏、中京圏など場所が異なると、そこに展開する産業も違った特徴を見せています。どのように違うのか、なぜ違うのか、違うことにどのような意味があるのかについて考察していきます。授業を通して日本各地の地域性を正しく認識できるようになるのが目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業は教科書を用いて行います。最初は経済地理学的なものの考え方を説明し、その後に、日本を首都圏、近畿圏、中京圏などいくつかの地域に分けて、それぞれの地域の産業を中心とした経済地理的な特徴を説明していきます。毎時間、コメントカードを提出してもらいます。		
成績評価方法	定期試験 (50%) と平常点 (50%、コメントカードの内容による) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	教科書を予め読んで授業内容のポイントをつかんでおき、授業後は教科書やノートを見直しておくこと。		
教科書	青木英一・北村嘉行『世界を読む 改訂版』 原書房		
参考文献	竹内淳彦編著『日本経済地理読本 第8版』 東洋経済新報社 山本健児『経済地理学入門 新版』 原書房		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	授業の方針、教科書・参考文献の説明	
第2回	経済地理学の目的と方法	経済地理学とは何か、経済地理学の方法論	
第3回	都市と農村	都市化、都市圏の形成	
第4回	風土の地域差	関東と関西の相違	
第5回	首都圏 (1)	環境と産業	
第6回	首都圏 (2)	一極集中の形成と変容	
第7回	近畿圏	複核構造の都市圏と産業	
第8回	中京圏	多核的産業都市群の形成	
第9回	回廊地帯	交通体系の変容と産業変化	
第10回	日本海岸	風土的特質と環日本海経済圏	
第11回	東北	首都圏との一体化と産業変化	
第12回	北海道	道内産業の特質	
第13回	瀬戸内	域内連関の弱い産業	
第14回	九州	環東シナ海経済圏の形成	
第15回	まとめ	授業内容のまとめ	



# 経済

授業番号	B201470001		
科目名 (英語表記)	日本経済論 I (Japanese economy theory I)		
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	マクロ経済の視点から日本の経済復興と高度成長、中成長への移行、バブル経済の発生と崩壊、経済危機と構造改革について論じる。高度成長からバブル経済の崩壊と長期不況に至る時期を中心として、日本経済がこれまでどのような問題に直面し、どのように対処してきた結果今日に至るのかを知ることを目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	本科目では、上記の内容を中心に、経済の構造変化に直面した日本経済がどのように対応してきたのかという点から考える。テーマごとに論述課題を課し、成績評価に反映させるとともに試験勉強の際の参考に供する。		
成績評価方法 基準	定期試験 (80%)、レポート及びその他の課題 (20%) を考慮して評価する。ただし著しい出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。		
授業の予習・復習	予習：前回の講義での説明を参考にして、必要に応じて参考文献の関連する部分などを見ておく。 復習：参考文献や毎回配布するプリントなどをを用いた復習を欠かさないこと。		
教科書	指定しない。毎回プリントを配布する。ただし、以下の参考文献のうち少なくとも1つを見ておくこと。		
参考文献	正村公宏・山田節夫「日本経済論」東洋経済新報社。 篠原総一・浅子和美編「入門日本経済 (第4版)」有斐閣。 小峰隆夫「最新日本経済入門 (第3版)」日本評論社。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	はじめに	講義内容紹介・前期および年間の計画	
第2回	日本経済の現在と課題 (1)	今日の日本経済の姿	
第3回	日本経済の現在と課題 (2)	世界の中で見た日本経済、直面する問題の整理	
第4回	日本経済の歩み・復興から高成長へ	高度成長を準備した諸条件	
第5回	日本経済の歩み・高度経済成長 (1)	高成長のメカニズム (投資が投資を呼ぶ)	
第6回	日本経済の歩み・高度経済成長 (2)	高成長の帰結 (国際収支の天井と構造変化)	
第7回	日本経済の歩み・高成長の終わり (1)	通貨危機と石油危機	
第8回	日本経済の歩み・高成長の終わり (2)	企業の対応と財政政策の転換	
第9回	日本経済の歩み・中成長とバブル (1)	財政危機と失業の深刻化	
第10回	日本経済の歩み・中成長とバブル (2)	対外不均衡と円高、日本経済のストック化	
第11回	日本経済の歩み・中成長とバブル (3)	バブル経済を準備した諸要因、講義進度の調整	
第12回	バブル経済の形成と崩壊 (1)	バブル経済形成のメカニズム	
第13回	バブル経済の形成と崩壊 (2)	バブル経済の崩壊と実物経済への打撃	
第14回	バブル経済の形成と崩壊 (3)	平成不況と「失われた20年」	
第15回	バブル経済の形成と崩壊 (4)	日本経済の構造改革、講義全体のまとめ	

# 経済

授業番号	B201480001				
科目名 (英語表記)	日本経済論 II (Japanese economy theory II)				
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	今日の日本経済が直面し、解決を迫られている様々な課題について、産業、企業、雇用問題などを中心に日本の経済システムの変容という観点から分野別に展望する。かつて日本経済の強さの理由として語られていたこのシステムが、構造変動に直面してむしろ改革と成長を阻む壁になりうることを明らかにすることを目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	テーマごとに論述課題を課し、成績評価に反映させるとともに試験勉強の際の参考に供する。				
成績評価方法	定期試験 (80%)、レポート及びその他の課題 (20%) を考慮して評価する。ただし著しい出席不良・課題提出不良者には				
基準	定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。				
授業の予習・復習	予習：前回の講義での説明を参考にして、必要に応じて参考文献の関連する部分などを見ておく。 復習：テキストや毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさないこと。				
教科書	指定しない。毎回プリントを配布する。ただし、以下の参考文献のうち少なくとも1つを見ておくこと。				
参考文献	篠原総一・浅子和美編「入門日本経済 (第4版)」有斐閣。 小峰隆夫「最新日本経済入門 (第3版)」日本評論社。 上記を中心に次のものも適宜参照。 正村公宏・山田節夫「日本経済論」東洋経済新報社。 小峰隆夫「日本経済の構造変動」岩波書店。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	はじめに	講義内容紹介・後期授業計画について			
第2回	再論・日本経済の歩み (1)	バブル経済と平成不況がもたらしたもの			
第3回	再論・日本経済の歩み (2)	日本的経済システムの限界と構造改革政策			
第4回	再論・日本経済の歩み (3)	小泉内閣の構造改革政策とその評価			
第5回	日本の産業構造の変化 (1)	産業構造と経済成長に伴うその変化			
第6回	日本の産業構造の変化 (2)	日本の産業構造を変化させた要因			
第7回	日本の産業構造の変化 (3)	「リーディング・インダストリー」論について			
第8回	日本企業の行動と構造変化 (1)	日本の企業システム～企業を取り巻く環境変化			
第9回	日本企業の行動と構造変化 (2)	日本の企業システム～コーポレートガバナンス			
第10回	日本企業の行動と構造変化 (3)	構造変化のなかでの企業と政府の課題			
第11回	日本の雇用システム (1)	日本的雇用システムの特徴			
第12回	日本の雇用システム (2)	日本的雇用システムの変化			
第13回	日本の雇用システム (3)	若年層と女性の就労をめぐる問題			
第14回	財政と構造改革 (1)	財政構造改革、公共投資の構造改革			
第15回	財政と構造改革 (2)	公的部門の構造改革、講義内容のまとめ			

経済

授業番号	B200240001				
科目名 (英語表記)	日本語 I (Japanese I)				
担当者 (英語表記)	沢野 美由紀 (Miyuki Sawano)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	大学の講義を受講するために必要な日本語力の向上を目指す。「読む・書く・聞く・話す」の4技能を総合的に伸ばすこと、また、レポートや論文を作成するための日本語表現技術の習得を目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的にテキストに沿って行う。各課の理解を確認し演習問題を行いながら、補強すべきと思われる点については適宜資料を配布し、学習する。時事問題の理解のために新聞記事の読解やニュースの聞き取りなども行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%) 授業内小テスト (20 %) レポート及びその他の課題 (30%)				
基準					
授業の予習・復習	新たに学習する課について新出語彙等の確認を行い、講義後は学習した項目について与えられた課題を行う。				
教科書	『小論文への12のステップ』友松悦子著 スリーエーネットワーク				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	日本語の表記 1	日本語の表記のしかた			
第2回	日本語の表記 2	句読点の打ち方・原稿用紙の使い方			
第3回	日本語の文体 1	文章の種類と文体			
第4回	日本語の文体 2	書き言葉の文体			
第5回	文体のモードチェンジ 1	小論文の文体			
第6回	文体のモードチェンジ 2	叙述文			
第7回	文の構造 1	主語と述語			
第8回	文の構造 2	修飾語・被修飾語、文末制限			
第9回	文のつながり 1	指示語			
第10回	文のつながり 2	接続の表現			
第11回	小論文に用いる表現 1	文末表現			
第12回	小論文に用いる表現 2	助詞相当語			
第13回	段落と文の構成 1	段落と中心文			
第14回	段落と文の構成 2	中心文・支持文			
第15回	まとめ	1～15回のまとめ			

# 経済

授業番号	B200240002				
科目名 (英語表記)	日本語 I (Japanese I)				
担当者 (英語表記)	沢野 美由紀 (Miyuki Sawano)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	大学の講義を受講するために必要な日本語力の向上を目指す。「読む・書く・聞く・話す」の4技能を総合的に伸ばすこと、また、レポートや論文を作成するための日本語表現技術の習得を目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的にテキストに沿って行う。各課の理解を確認し演習問題を行いながら、補強すべきと思われる点については適宜資料を配布し、学習する。時事問題の理解のために新聞記事の読解やニュースの聞き取りなども行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%) 授業内小テスト (20%) レポート及びその他の課題 (30%)				
基準					
授業の予習・復習	新たに学習する課について新出語彙等の確認を行い、講義後は学習した項目について与えられた課題を行う。				
教科書	『小論文への12のステップ』友松悦子著 スリーエーネットワーク				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	日本語の表記1	日本語の表記のしかた			
第2回	日本語の表記2	句読点の打ち方・原稿用紙の使い方			
第3回	日本語の文体1	文章の種類と文体			
第4回	日本語の文体2	書き言葉の文体			
第5回	文体のモードチェンジ1	小論文の文体			
第6回	文体のモードチェンジ2	叙述文			
第7回	文の構造1	主語と述語			
第8回	文の構造2	修飾語・被修飾語、文末制限			
第9回	文のつながり1	指示語			
第10回	文のつながり2	接続の表現			
第11回	小論文に用いる表現1	文末表現			
第12回	小論文に用いる表現2	助詞相当語			
第13回	段落と文の構成1	段落と中心文			
第14回	段落と文の構成2	中心文・支持文			
第15回	まとめ	1～15回のまとめ			

# 経済

授業番号	B200240003				
科目名 (英語表記)	日本語 I (Japanese I)				
担当者 (英語表記)	銅直 信子 (Nobuko Dobeta)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	アカデミックな場面で必要とされる基礎的な日本語の口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。「日本語 I」では主として「話す・聞く」能力を向上させることを目的とする。表現したい内容を分かりやすく、簡潔に述べるのはどのような技法と作法を学べばいいのかをグループワークを通して学ぶ。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書に沿って各課の要点を理解した後、練習問題・演習問題と進めていく。課題は授業時間内に仕上げ提出する。適宜プリントを配布し、語彙の増強を図っていく。また、CDを聞き重要点を書き取っていく練習を重ね、口頭発表に備える。				
成績評価方法	定期試験 50%、レポート・クラス内テスト 30%、発表点 10%、クラス活動点 10%で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：語彙リストの中の漢字の読み方・語彙の意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。 復習：返却された小レポート類の誤用の原因を確認し、正しい用法を理解する。				
教科書	『小論文への 12 のステップ』友松悦子 スリーエーネットワーク 1,600 円				
参考文献	『聴解・発表ワークブック』犬飼康弘 スリーエーネットワーク				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス・記述文作成	ガイダンス後、「記述文」を 400 字以内で書く。			
第 2 回	表記の仕方	メモを取る練習。表記の練習問題			
第 3 回	表記の仕方	CDを聞いてレジユメを作成。表記の練習問題			
第 4 回	文体	さまざまな文体を理解する。練習問題			
第 5 回	文体	文体の異なる読解問題 ( N 1 レベル )			
第 6 回	話す技法	ブックレポートの説明→テーマを選びまとめる。			
第 7 回	話す技法	レジユメの作成 ( グループワーク )			
第 8 回	話す技法	各グループでプレゼンテーション→質疑応答			
第 9 回	話し言葉から書き言葉へ	新聞教材 練習問題			
第 10 回	話し言葉から書き言葉へ	新聞教材 練習問題			
第 11 回	正しい構造の文	主語と述語 修飾語と被修飾語			
第 12 回	文のつながり	指示語の使い方			
第 13 回	文のつながり	接続語の使い方			
第 14 回	小論文に使われる表現	テーマを決めアウトラインを構成する ( 設計図提出 ) 。			
第 15 回	小論文に使われる表現	意見文を書き提出する ( 600 ~ 800 字 ) 。			

経済

授業番号	B200250002				
科目名 (英語表記)	日本語 II (Japanese I I)				
担当者 (英語表記)	沢野 美由紀 (Miyuki Sawano)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	日本語 I で学んだことをベースに、更なる日本語力の向上を目指す。日本語 II では、各自テーマを決めアンケート調査を行って、レポートを作成する。また、プレゼンテーションの技法を学び、調査結果について発表を行う。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的にテキストに沿って行う。各課の理解を確認し、演習問題を行う。補強すべきと思われる点については、適宜資料を配布し、学習する。また、時事問題に加え、ビジネス日本語なども学ぶ。				
成績評価方法	定期試験 (50%) 授業内小テスト (20%) レポート及びその他の課題 (30%)				
基準					
授業の予習・復習	新たに学習する課、また、講義で学習した項目について、その都度予習と復習の内容と方法を指示する。				
教科書	『小論文への 12 のステップ』友松悦子著 スリーエーネットワーク				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	要約文の書き方 1	一段落の文の要約			
第 2 回	要約文の書き方 2	複段落の文の要約			
第 3 回	説明文の書き方 1	具体的な表現とは			
第 4 回	説明文の書き方 2	客観的な文を書くために			
第 5 回	意見文の書き方 1	事実と意見			
第 6 回	意見文の書き方 2	意見文を書くために			
第 7 回	事実の記述 1	数値の示し方			
第 8 回	事実の記述 2	文章の引用のしかた			
第 9 回	小論文の形式 1	序章の書き方			
第 10 回	小論文の形式 2	本論と結論の書き方			
第 11 回	アンケート調査 1	テーマと目的の決定			
第 12 回	アンケート調査 2	質問項目の作成			
第 13 回	アンケート調査 3	データの分析と考察			
第 14 回	アンケート調査 4	プレゼンテーションのアウトラインを考える			
第 15 回	アンケート調査 5	プレゼンテーション・フィードバック			

# 経済

授業番号	B200250003		
科目名 (英語表記)	日本語 II (Japanese I I)		
担当者 (英語表記)	銅直 信子 (Nobuko Dobeta)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	アカデミックな場面で必要とされる基礎的な日本語の口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。「日本語 II」では主として「読む・書く」能力を向上させることを目的とする。論文分析を行うことで、構成や展開における日本語表現を学ぶ。また、表現したい内容を説得力をもって書くにはどのような技法と作法が必要かグループ学習を通して学ぶ。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書に沿って各課の要点を理解した後、練習問題・演習問題と進めていく。課題は授業時間内に仕上げ提出する。適宜プリントを配布し、語彙の増強を図っていく。最後に各グループでアンケート調査を行い、その結果を各自レポートに上げる。		
成績評価方法	定期試験 50%、レポート・クラス内テスト 30%、発表点 10%、クラス活動点 10%で評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：語彙リストの中の漢字の読み方・語彙の意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。 復習：返却された小レポート類の誤用の原因を確認し、正しい用法を理解する。		
教科書	『小論文への 12 のステップ』友松悦子 スリーエーネットワーク 1,600 円		
参考文献	『聴解・発表ワークブック』犬飼康弘 スリーエーネットワーク		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	段落	段落のある文章を読む。練習問題	
第 2 回	段落	段落に分ける。中心文を探す。	
第 3 回	段落	段落のある文章を書く。	
第 4 回	小論文を書く	テーマに関することを調べ書く準備をする。	
第 5 回	小論文を書く	設計図に沿って 4 段落の文章を書く。→提出	
第 6 回	要約文	キーワードを拾い出し要約文を完成させる。	
第 7 回	要約文	新聞記事を読んで要約する。	
第 8 回	説明文	事実だけを書く。	
第 9 回	意見文	特定のテーマに関する複数の意見文を読む ( N 1 レベル )。	
第 10 回	報告文	新聞記事を読み事実を報告する。	
第 11 回	ビジネス文書	さまざまなビジネス文書を読み重要な情報を読み取る。	
第 12 回	レポート作成	テーマを決める。アンケートシートを作成する。	
第 13 回	レポート作成	グラフを説明する際の日本語表現を学ぶ。	
第 14 回	レポート作成	調査の目的、予想と調査結果との相違点を中心にまとめる。	
第 15 回	レポート作成	各自レポートを完成させ提出する。	

経済

授業番号	B200250005				
科目名 (英語表記)	日本語 II (Japanese I I)				
担当者 (英語表記)	沢野 美由紀 (Miyuki Sawano)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	日本語 I で学んだことをベースに、更なる日本語力の向上を目指す。日本語 II では、各自テーマを決めアンケート調査を行って、レポートを作成する。また、プレゼンテーションの技法を学び、調査結果について発表を行う。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的にテキストに沿って行う。各課の理解を確認し、演習問題を行う。補強すべきと思われる点については、適宜資料を配布し、学習する。また、時事問題に加え、ビジネス日本語なども学ぶ。				
成績評価方法	定期試験 (50%) 授業内小テスト (20%) レポート及びその他の課題 (30%)				
基準					
授業の予習・復習	新たに学習する課、また、講義で学習した項目について、その都度予習と復習の内容と方法を指示する。				
教科書	『小論文への 12 のステップ』友松悦子著 スリーエーネットワーク				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	要約文の書き方 1	一段落の文の要約			
第 2 回	要約文の書き方 2	複段落の文の要約			
第 3 回	説明文の書き方 1	具体的な表現とは			
第 4 回	説明文の書き方 2	客観的な文を書くために			
第 5 回	意見文の書き方 1	事実と意見			
第 6 回	意見文の書き方 2	意見文を書くために			
第 7 回	事実の記述 1	数値の示し方			
第 8 回	事実の記述 2	文章の引用のしかた			
第 9 回	小論文の形式 1	序章の書き方			
第 10 回	小論文の形式 2	本論と結論の書き方			
第 11 回	アンケート調査 1	テーマと目的の決定			
第 12 回	アンケート調査 2	質問項目の作成			
第 13 回	アンケート調査 3	データの分析と考察			
第 14 回	アンケート調査 4	プレゼンテーションのアウトラインを考える			
第 15 回	アンケート調査 5	プレゼンテーション・フィードバック			



経済

授業番号	B200260001		
科目名 (英語表記)	日本語 III (Japanese I I I)		
担当者 (英語表記)	沢野 美由紀 (Miyuki Sawano)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	論理的な日本語の文章を読むにはどのような技法が必要かということを中心に学ぶ。レポート・論文などの資料を理解するために必要な日本語の表現、文の構成等について学習し、専門的な資料が読めるようになることを目指す。		
授業の進め方 (履修条件など)	基本的にテキストに沿って行う。各課の理解を確認し、演習問題を行う。さらに、新聞、雑誌の記事や一般書、時事問題をもとに、ディスカッションや意見発表を行う。		
成績評価方法	定期試験 (50%) 授業内小テスト (20%) レポートおよびその他の課題 (30%)		
基準			
授業の予習・復習	予習として、事前に教材を読み、語彙や意味を調べておく。復習の内容と方法はその都度指示する。		
教科書	『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』 一橋大学留学生センター		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	文の内容理解 1	キーワードの探し方	
第 2 回	文の内容理解 2	キーワードを用いた要約	
第 3 回	文の内容理解 3	応用文の読解	
第 4 回	文の主題 1	主題を探す	
第 5 回	文の主題 2	序論と本論	
第 6 回	文の主題 3	応用文の読解	
第 7 回	文の主張を読み取る 1	文章の「問い」を探す	
第 8 回	文の主張を読み取る 2	論点表示文	
第 9 回	文の主張を読み取る 3	応用文の読解	
第 10 回	歴史を扱った文章 1	ものごとの因果関係・前後関係の理解	
第 11 回	歴史を扱った文章 2	時系列に沿った文章の読み方	
第 12 回	歴史を扱った文章 3	応用文の読解	
第 13 回	時事問題を読む 1	記事の構成を理解する	
第 14 回	時事問題を読む 2	記事を要約する	
第 15 回	時事問題を読む 3	記事をもとにしたディスカッション	

# 経済

授業番号	B200260002		
科目名 (英語表記)	日本語 III (Japanese I I I)		
担当者 (英語表記)	銅直 信子 (Nobuko Dobeta)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	アカデミックな場面で必要とされる応用的な日本語の口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。教科書に掲載されている論説文を読んだり、論文分析を行うことで、読む力、書く力を向上させる。特にこの授業では日本語という言語を通して日本の文化や社会について考えることを目的とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	まず、教科書・論文・ビデオやDVDの中に出てくる語彙を理解する。意味や用法を確認し、小レポートを書く際に使えるように準備する。全員が情報を共有した後、各自小レポートにまとめて提出する。		
成績評価方法	定期試験 50%、レポート・クラス内テスト 30%、発表点 10%、クラス活動点 10%で評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：語彙リストの中の漢字の読み方・語彙の意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。 復習：返却された小レポート類の誤用の原因を確認し、正しい用法を理解する。各課の漢小テストがあるので準備しておく。		
教科書	『ストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』一橋大学留学生センター スリーエーネットワーク 1,200円＋税		
参考文献	『大学・大学院 留学生の日本語』③論文読解編④論文作成編		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	1 何の話かをつかむ	漢字・語彙の確認	
第2回	何の話かをつかむ	本文を精読し設問に答える。	
第3回	何の話かをつかむ	練習問題と要約文 漢字小テスト	
第4回	2 何が問題かをつかむ	漢字・語彙の確認 論文を読む①	
第5回	何が問題かをつかむ	本文を精読し設問に答える。	
第6回	何が問題かをつかむ	練習問題と要約文 漢字小テスト	
第7回	新聞教材を読む	設計図に沿って3段落の意見文を書く。 論文を読む②	
第8回	3 言いたいことをつかむ	序論・本論・結論の3部に分ける。	
第9回	言いたいことをつかむ	問題提起文・結論表示文をみつける。	
第10回	言いたいことをつかむ	本文を精読し設問に答える。 論文を読む③	
第11回	4 歴史を扱った文章	バブル経済について	
第12回	歴史を扱った文章	もはや戦後ではない	
第13回	歴史を扱った文章	出来事の前後関係と出来事の因果関係 論文を読む④	
第14回	少子高齢化	筆者の意見をまとめる。反論の日本語表現を学ぶ。	
第15回	少子高齢化	筆者が挙げる4点の中から一つを取り上げ反論する(800字)。	

経済

授業番号	B200260003		
科目名 (英語表記)	日本語 III (Japanese I I I)		
担当者 (英語表記)	銅直 信子 (Nobuko Dobeta)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	アカデミックな場面で必要とされる応用的な日本語の口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。教科書に掲載されている論説文を読んだり、論文分析を行うことで、読む力、書く力を向上させる。特にこの授業では日本語という言語を通して日本の文化や社会について考えることを目的とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	まず、教科書・論文・ビデオやDVDの中に出てくる語彙を理解する。意味や用法を確認し、小レポートを書く際に使えるように準備する。全員が情報を共有した後、各自小レポートにまとめて提出する。		
成績評価方法	定期試験 50%、レポート・クラス内テスト 30%、発表点 10%、クラス活動点 10%で評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：語彙リストの中の漢字の読み方・語彙の意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。 復習：返却された小レポート類の誤用の原因を確認し、正しい用法を理解する。各課の漢小テストがあるので準備しておく。		
教科書	『ストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』一橋大学留学生センター スリーエーネットワーク 1,200円＋税		
参考文献	『大学・大学院 留学生の日本語』③論文読解編④論文作成編		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	1 何の話かをつかむ	漢字・語彙の確認	
第2回	何の話かをつかむ	本文を精読し設問に答える。	
第3回	何の話かをつかむ	練習問題と要約文 漢字小テスト	
第4回	2 何が問題かをつかむ	漢字・語彙の確認 論文を読む①	
第5回	何が問題かをつかむ	本文を精読し設問に答える。	
第6回	何が問題かをつかむ	練習問題と要約文 漢字小テスト	
第7回	新聞教材を読む	設計図に沿って3段落の意見文を書く。 論文を読む②	
第8回	3 言いたいことをつかむ	序論・本論・結論の3部に分ける。	
第9回	言いたいことをつかむ	問題提起文・結論表示文をみつける。	
第10回	言いたいことをつかむ	本文を精読し設問に答える。 論文を読む③	
第11回	4 歴史を扱った文章	バブル経済について	
第12回	歴史を扱った文章	もはや戦後ではない	
第13回	歴史を扱った文章	出来事の前後関係と出来事の因果関係 論文を読む④	
第14回	少子高齢化	筆者の意見をまとめる。反論の日本語表現を学ぶ。	
第15回	少子高齢化	筆者が挙げる4点の中から一つを取り上げ反論する(800字)。	

経済

授業番号	B200270001		
科目名 (英語表記)	日本語 IV (Japanese I V)		
担当者 (英語表記)	沢野 美由紀 (Miyuki Sawano)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	日本語Ⅲ同様、論理的な日本語の文章を読むにはどのような技法が必要かということを中心に学び、それらを活用して専門にかかわるレポートが書けるようになることを到達目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	基本的にテキストに沿って行う。各課の理解を確認し、演習問題を行う。後半は各自が専門にかかわる課題を設定し、レポートの作成とプレゼンテーションを行う。		
成績評価方法	定期試験 (50%) 授業内小テスト (20%) レポート及びその他の課題 (30%)		
基準			
授業の予習・復習	予習として、事前に教材を読み、語彙や意味を調べておく。復習の内容と方法はその都度指示する。		
教科書	『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』一橋大学留学生センター		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	二項対立の文 1	対比を示す表現	
第 2 回	二項対立の文 2	二項対立の文の構造	
第 3 回	二項対立の文 3	応用文の読解	
第 4 回	明確な意見の表現 1	譲歩・逆接を示す表現	
第 5 回	明確な意見の表現 2	立場による主張の表現	
第 6 回	明確な意見の表現 3	応用文の読解	
第 7 回	順序を示す表現 1	列挙の構造と表現	
第 8 回	順序を示す表現 2	接続の表現	
第 9 回	順序を示す表現 3	応用文の読解	
第 10 回	レポート作成 1	テーマの設定	
第 11 回	レポート作成 2	参考文献を読む	
第 12 回	レポート作成 3	アウトラインを考える	
第 13 回	レポート作成 4	レポートを書く 1	
第 14 回	レポート作成 5	レポートを書く 2	
第 15 回	まとめ	プレゼンテーション・フィードバック	

# 経済

授業番号	B200270002		
科目名 (英語表記)	日本語 IV (Japanese I V)		
担当者 (英語表記)	銅直 信子 (Nobuko Dobeta)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	アカデミックな場面で必要とされる応用的な日本語の口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。教科書に掲載されている論説文を読んだり、論文分析を行うことで、読む力、書く力を向上させる。自分の思いや考えを説得力をもって話したり、書いたりするにはどのような技法が必要かをグループ学習を通して学んでいく。立論・反論を組み立て、最後にディベートマッチを行い、各自意見文を提出する (800~1000 字)。		
授業の進め方 (履修条件など)	まず、教科書・論文・ビデオやDVDの中に出てくる語彙を理解する。意味や用法を確認し、小レポートを書く際に使えるように準備する。全員が情報を共有した後、各自小レポートにまとめて提出する。		
成績評価方法	定期試験 50%、レポート・クラス内テスト 30%、発表点 10%、クラス活動点 10%で評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：語彙リストの中の漢字の読み方・語彙の意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。 復習：返却された小レポート類の誤用の原因を確認し、正しい用法を理解する。各課の漢字小テストがあるので準備しておく。		
教科書	『ストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』一橋大学留学生センター スリーエーネットワーク 1,200 円 + 税		
参考文献	『大学・大学院 留学生の日本語』③論文読解編④論文作成編 『留学生のための時代を読み解く上級日本語』スリーエーネットワーク 『石原千秋先生の国語教室』読売新聞社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	5 二項対立文	死刑制度廃止論	
第 2 回	二項対立文	外国人の参政権 論文を読む①	
第 3 回	二項対立文	ディベート教育	
第 4 回	二項対立文	小学生の英語教育 漢字小テスト	
第 5 回	6 筆者の立場	夫婦別姓制度 論文を読む②	
第 6 回	筆者の立場	環境税導入 漢字小テスト	
第 7 回	賛成・反対の意見	筆者に賛成か反対か。	
第 8 回	賛成・反対の意見	根拠は何か。漢字小テスト	
第 9 回	7 文章を整理して理解	NGO について 論文を読む③	
第 10 回	文章を整理して理解	DVD を視聴し意見を述べる。	
第 11 回	ディスカッションの技法	メンバーのアイデアを出しながらマッピングしていく。 各グループで話し合ったことを報告する。	
第 12 回	ディベート	テーマを決め、資料を収集する。論文を読む④	
第 13 回	ディベート	立論の根拠をを 3 つにまとめる。反論を予想し答えを考える。	
第 14 回	ディベートマッチ	4 グループに分かれディベートマッチを行う。	
第 15 回	意見文	ディベートのテーマについて各自意見文を書く。	

# 経済

授業番号	B200270003		
科目名 (英語表記)	日本語 IV (Japanese I V)		
担当者 (英語表記)	銅直 信子 (Nobuko Dobeta)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	アカデミックな場面で必要とされる応用的な日本語の口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。教科書に掲載されている論説文を読んだり、論文分析を行うことで、読む力、書く力を向上させる。自分の思いや考えを説得力をもって話したり、書いたりするにはどのような技法が必要かをグループ学習を通して学んでいく。立論・反論を組み立て、最後にディベートマッチを行い、各自意見文を提出する (800~1000 字)。		
授業の進め方 (履修条件など)	まず、教科書・論文・ビデオやDVDの中に出てくる語彙を理解する。意味や用法を確認し、小レポートを書く際に使えるように準備する。全員が情報を共有した後、各自小レポートにまとめて提出する。		
成績評価方法	定期試験 50%、レポート・クラス内テスト 30%、発表点 10%、クラス活動点 10%で評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：語彙リストの中の漢字の読み方・語彙の意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。 復習：返却された小レポート類の誤用の原因を確認し、正しい用法を理解する。各課の漢字小テストがあるので準備しておく。		
教科書	『ストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』一橋大学留学生センター スリーエーネットワーク 1,200円 + 税		
参考文献	『大学・大学院 留学生の日本語』③論文読解編④論文作成編 『留学生のための時代を読み解く上級日本語』スリーエーネットワーク 『石原千秋先生の国語教室』読売新聞社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	5 二項対立文	死刑制度廃止論	
第 2 回	二項対立文	外国人の参政権 論文を読む①	
第 3 回	二項対立文	ディベート教育	
第 4 回	二項対立文	小学生の英語教育 漢字小テスト	
第 5 回	6 筆者の立場	夫婦別姓制度 論文を読む②	
第 6 回	筆者の立場	環境税導入 漢字小テスト	
第 7 回	賛成・反対の意見	筆者に賛成か反対か。	
第 8 回	賛成・反対の意見	根拠は何か。漢字小テスト	
第 9 回	7 文章を整理して理解	NGOについて 論文を読む③	
第 10 回	文章を整理して理解	DVDを視聴し意見を述べる。	
第 11 回	ディスカッションの技法	メンバーのアイディアを出しながらマッピングしていく。 各グループで話し合ったことを報告する。	
第 12 回	ディベート	テーマを決め、資料を収集する。論文を読む④	
第 13 回	ディベート	立論の根拠をを 3 つにまとめる。反論を予想し答えを考える。	
第 14 回	ディベートマッチ	4 グループに分かれディベートマッチを行う。	
第 15 回	意見文	ディベートのテーマについて各自意見文を書く。	

# 経済

授業番号	B200050001				
科目名 (英語表記)	入門経営学 (Introduction business administration)			(A)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	新入生の皆さんに、経営学に興味をもってもらうことが目的です。授業の受講により、経営学科にある「アジアビジネスコース」、「企業経営・会計コース」と「スポーツビジネスコース」の3コースの学習内容を理解し、2年次以降の学習の方向性を定めることを到達目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件：2008年以前の入学者は履修登録することができません。 経営学科の教員が全員で分担し、各自の専門を中心に、わかりやすく講義します。 番号によるクラス分けを行ないますので、注意して下さい。				学籍
成績評価方法	レポートなどによって評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：『授業計画書』に目を通して、各コースの講義内容を確認しておいて下さい。 復習：教員が説明した専門用語を辞典等で確認して下さい。興味を持った事例についてメディアセンターで資料を探してみてください。				
教科書	指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	本科目の概要と運営方針 (青木)			
第2回	アジアビジネスコース導入①	アジアビジネスコースの概要 (森島)			
第3回	アジアビジネスコース導入②	情報社会と経営学 (森島)			
第4回	アジアビジネスコース導入③	立地論から見たトヨタの特色 (青木)			
第5回	アジアビジネスコース導入④	商業における構造と関係 (金)			
第6回	企業経営・会計コース導入①	企業経営・会計コースの概要 (高木)			
第7回	企業経営・会計コース導入②	企業活動と組織のマネジメント (高木)			
第8回	企業経営・会計コース導入③	企業と会計 (平屋)			
第9回	企業経営・会計コース導入④	付加価値ということ (森谷)			
第10回	企業経営・会計コース導入⑤	会社法上の会社とは (野口)			
第11回	スポーツビジネスコース導入①	クラブビジョンとサッカービジネス (講師：ジェフユナイテッド株式会社) (司会：岸本)			
第12回	スポーツビジネスコース導入②	首都圏に立地する球団の事業展開について (講師：株式会社千葉ロッテマリーンズ) (司会：藤井)			
第13回	スポーツビジネスコース導入③	消費者の態度形成と態度変容 (藤井)			
第14回	まとめ①	「経営学」とは、どのような学問? (岸本)			
第15回	まとめ②	レポート (岸本)			

# 経済

授業番号	B200050002				
科目名 (英語表記)	入門経営学 (Introduction business administration)			(B)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	新入生の皆さんに、経営学に興味をもってもらうことが目的です。授業の受講により、経営学科にある「アジアビジネスコース」、「企業経営・会計コース」と「スポーツビジネスコース」の3コースの学習内容を理解し、2年次以降の学習の方向性を定めることを到達目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件：2008年以前の入学者は履修登録することができません。 経営学科の教員が全員で分担し、各自の専門を中心に、わかりやすく講義します。 番号によるクラス分けを行ないますので、注意して下さい。				学籍
成績評価方法	レポートなどによって評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：『授業計画書』に目を通して、各コースの講義内容を確認しておいて下さい。 復習：教員が説明した専門用語を辞典等で確認して下さい。興味を持った事例についてメディアセンターで資料を探してみてください。				
教科書	指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	本科目の概要と運営方針 (青木)			
第2回	アジアビジネスコース導入①	アジアビジネスコースの概要 (森島)			
第3回	アジアビジネスコース導入②	情報社会と経営学 (森島)			
第4回	アジアビジネスコース導入③	立地論から見たトヨタの特色 (青木)			
第5回	アジアビジネスコース導入④	商業における構造と関係 (金)			
第6回	企業経営・会計コース導入①	企業経営・会計コースの概要 (高木)			
第7回	企業経営・会計コース導入②	企業活動と組織のマネジメント (高木)			
第8回	企業経営・会計コース導入③	企業と会計 (平屋)			
第9回	企業経営・会計コース導入④	付加価値ということ (森谷)			
第10回	企業経営・会計コース導入⑤	会社法上の会社とは (野口)			
第11回	スポーツビジネスコース導入①	クラブビジョンとサッカービジネス (講師：ジェフユナイテッド株式会社) (司会：岸本)			
第12回	スポーツビジネスコース導入②	首都圏に立地する球団の事業展開について (講師株式会社千葉ロッテマリーンズ) (司会：藤井)			
第13回	スポーツビジネスコース導入③	消費者の態度形成と態度要望 (藤井)			
第14回	まとめ①	「経営学」とは、どのような学問? (岸本)			
第15回	まとめ②	レポート (岸本)			



# 経済

授業番号	B200040001				
科目名 (英語表記)	入門経済学 (Introduction economics)			(B)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>経済学とはどのような学問であり、経済学を含むどのような社会現象についてかについて理解することが目標です。専門の先生による経済学のテーマやトピックスについて学ぶことで、経済学科で学べることを知り、どのコースで専門的な勉強をするのかを決めるのに役立ちます。もちろん、経済系の教員をすべて知ることができます。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>ガイダンスで授業の進め方、勉強の仕方と評価の仕方について詳しい説明があります。</p> <p>第2回から第13回までは、一人の先生が一つのテーマについて1回ずつ講義をしていきます。</p> <p>各コースで学べる内容の簡単な説明については、各コースの最初の回に説明があります。</p> <p>第2回から第5回までは現代経済コース、 第6回から第9回までは公共経済コース、 第10回から第13回までは金融・情報コースです。</p>				
成績評価方法 基準	<p>予習・復習を含めた毎回の平常点と、最終回のレポートの内容によって決めます。</p> <p>レポートのテーマについては第14回に各コースの先生から30分程度説明・解説・質疑応答があります。</p> <p>それを踏まえて第15回ではレポート作成指導があります。</p>				
授業の予習・復習	<p>原則として予習は、数日前に添付ファイルなどで示される資料を読んで、場合によって問題に答えることによって行われます。</p> <p>復習は、原則として小テストや小レポートによって行われます。</p>				
教科書	<p>さまざまな先生が行うオムニバス授業ですので、予習用、講義用に用いられるプリントや配布資料などが教科書の代わりとなります。</p>				
参考文献	<p>各授業内で各先生から提示されます。</p>				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス (学科長)	この授業のねらい、効果的な勉強法、評価方法について			
第2回	現代経済コース 経済学の生誕 (折原)	経済学の父 アダム・スミス			
第3回	現代経済コース 経済学史 (加茂川)	経済学の歩み			
第4回	現代経済コース 一般経済史 (牧野)	世界経済の歩み			
第5回	現代経済コース 日本経済史 (小山)	日本経済の歩み			
第6回	公共経済コース 公共経済学 (仁平)	政府の意義と役割			
第7回	公共経済コース 財政学 (金子)	政府の収入と支出			
第8回	公共経済コース 社会政策 (星)	社会政策の意義			
第9回	公共経済コース メカニズムデザイン (和田)	政府の制度設計			
第10回	金融・情報コース 金融入門 (添田)	金融論を学ぶ意義			
第11回	金融・情報コース 金融政策 (馬場)	中央銀行の役割			
第12回	金融・情報コース 国際金融論 (土井)	国際社会と金融			
第13回	金融・情報コース 金融と情報社会 (飯野)	金融と情報の接点			
第14回	まとめ1 各コースのまとめ	各コース内容の振り返りとまとめ			
第15回	まとめ2	レポートの作成指導			

# 経済

授業番号	B200040002				
科目名 (英語表記)	入門経済学 (Introduction economics)			(A)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>経済学とはどのような学問であり、経済学を含むどのような社会現象についてかについて理解することが目標です。専門の先生による経済学のテーマやトピックスについて学ぶことで、経済学科で学べることを知り、どのコースで専門的な勉強をするのかを決めるのに役立ちます。もちろん、経済系の教員をすべて知ることができます。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>ガイダンスで授業の進め方、勉強の仕方と評価の仕方について詳しい説明があります。</p> <p>第2回から第13回までは、一人の先生が一つのテーマについて1回ずつ講義をしていきます。</p> <p>各コースで学べる内容の簡単な説明については、各コースの最初の回に説明があります。</p> <p>第2回から第5回までは現代経済コース、 第6回から第9回までは公共経済コース、 第10回から第13回までは金融・情報コースです。</p>				
成績評価方法 基準	<p>予習・復習を含めた毎回の平常点と、最終回のレポートの内容によって決めます。</p> <p>レポートのテーマについては第14回に各コースの先生から30分程度説明・解説・質疑応答があります。</p> <p>それを踏まえて第15回ではレポート作成指導があります。</p>				
授業の予習・復習	<p>原則として予習は、数日前に添付ファイルなどで示される資料を読んで、場合によって問題に答えることによって行われます。</p> <p>復習は、原則として小テストや小レポートによって行われます。</p>				
教科書	<p>さまざまな先生が行うオムニバス授業ですので、予習用、講義用に用いられるプリントや配布資料などが教科書の代わりとなります。</p>				
参考文献	<p>各授業内で各先生から提示されます。</p>				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス (学科長)	この授業のねらい、効果的な勉強法、評価方法について			
第2回	現代経済コース 経済学の生誕 (折原)	経済学の父 アダム・スミス			
第3回	現代経済コース 経済学史 (加茂川)	経済学の歩み			
第4回	現代経済コース 一般経済史 (牧野)	世界経済の歩み			
第5回	現代経済コース 日本経済史 (小山)	日本経済の歩み			
第6回	公共経済コース 公共経済学 (仁平)	政府の意義と役割			
第7回	公共経済コース 財政学 (金子)	政府の収入と支出			
第8回	公共経済コース 社会政策 (星)	社会政策の意義			
第9回	公共経済コース メカニズムデザイン (和田)	政府の制度設計			
第10回	金融・情報コース 金融入門 (添田)	金融論を学ぶ意義			
第11回	金融・情報コース 金融政策 (馬場)	中央銀行の役割			
第12回	金融・情報コース 国際金融論 (土井)	国際社会と金融			
第13回	金融・情報コース 金融と情報社会 (飯野)	金融と情報の接点			
第14回	まとめ1 各コースのまとめ	各コース内容の振り返りとまとめ			
第15回	まとめ2	レポートの作成指導			

# 経済

授業番号	B201400001		
科目名 (英語表記)	ネットワークシステム論 (Network system theory)		
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>情報化の進んだ今日では、インターネットを扱えることが必須となっています。授業のねらいはコンピュータネットワーク、特にインターネットの仕組みに関する知識を学ぶことです。情報通信の仕組みを理解することで、より良い情報の管理とその利用が可能になります。そのための深い知識の習得が到達目標です。</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	<p>履修条件は、「ハードウェアシステム論」と「OS 論」を履修済みか、パソコンのハード・ソフトに関する基本的知識があることです。配布資料と PowerPoint を用いて講義を行います。配布資料はキーワードが抜けていますので、講義を聞きながら穴埋めしてもらいます。最後に論述式の小テストを毎回行います。次回の講義で小テストの解説をします。</p>		
成績評価方法	<p>期末試験 (60%)、小テスト (40%) で評価します。</p>		
基準			
授業の予習・復習	<p>授業の最後に次回の予習項目を示しますので、予習しておいてください。また、その授業で説明した内容は次回以降利用しますので、復習して、よく理解しておいてください。</p>		
教科書	<p>毎回、資料を配布します。</p>		
参考文献	<p>熊谷誠治 著『誰も教えてくれなかったインターネットのしくみ』日経 B P 社 日経バイト編『最新パソコン技術体系 2003 ハードウェア編』日経 B P 社</p>		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認、講義の概要	
第 2 回	ネットワークの仕組み	OSI 参照モデル、ネットワークとインターネット	
第 3 回	Ethernet	MAC アドレスと CSMA/CD によるデータ通信の仕組み	
第 4 回	ハブ	LAN ボード、共有ハブ / スイッチングハブの仕組み	
第 5 回	ルーター	ルーターによるネットワーク間の通信	
第 6 回	レイヤー 3 スイッチングハブ	レイヤー 3 スイッチングハブと VLAN	
第 7 回	ネットワークプロトコル	TCP/IP の仕組み	
第 8 回	中間テスト	第 7 回目までの範囲の論述試験	
第 9 回	DNS	DNS の仕組み	
第 10 回	NAPT	グローバルアドレス、プライベートアドレスと NAPT	
第 11 回	経路制御	IP アドレスと経路制御の仕組み	
第 12 回	ISP と IX	プロバイダと IX の役割と経路制御	
第 13 回	電子メール	メールの仕組みと DNS の役割	
第 14 回	WWW	WWW とインターネットの混雑	
第 15 回	まとめ	要点と試験対策	

# 経済

授業番号	B201950001		
科目名 (英語表記)	農業政策 (Agricultural policy)		
担当者 (英語表記)	稲葉 弘道 (Hiromichi Inaba)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	わが国の食料需給率は50%を割り先進国では最低である。しかし、米のように自給率の高い農産物もあり、自給率が高いものと低いものとの二重構造が存在する。この二重構造には農業政策の関与も大きい。農業政策はいかにあるべきかを考える。		
授業の進め方 (履修条件など)	食料経済論 (前期) の内容を理解しているものとして授業を進めるので、食料経済学を受講していることが望ましい。食料需給と農業政策の関わりを説明する。説明にはパワーポイントを利用する。		
成績評価方法	定期試験 ( 60 %) ・ 課題作成および授業参加態度 ( 40 % )		
基準			
授業の予習・復習	予習：教科書と配布資料により予習をしておくこと。 復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行っておく。		
教科書	高橋正一郎編著『食料経済』理工学社		
参考文献	農林水産省『農業白書』農林統計協会		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要	
第2回	成熟期にきた食の需給	食料の需給システム	
第3回	成熟期にきた食の需給	成熟期にきたわが国の食料需要	
第4回	成熟期にきた食の需給	高齢化社会の食スタイル	
第5回	すすむ食の外部化	食の外部化	
第6回	すすむ食の外部化	飲食業と外食産業	
第7回	すすむ食の外部化	外食産業の食材調達	
第8回	日本の食料政策と食品政策	フードシステム観点からの政策課題	
第9回	日本の食料政策と食品政策	戦前から続く米政策とその変貌	
第10回	日本の食料政策と食品政策	ガット、WTO 体制化の農産物貿易交渉	
第11回	食料の安全性と環境問題	なぜ安全な食料が供給されないか	
第12回	食料の安全性と環境問題	安全な食料の安定的供給に向けた対応策	
第13回	食料の安全性と環境問題	環境問題への食品企業の対応	
第14回	食料の安全性と環境問題	21世紀の食生活の展望	
第15回	まとめ	まとめと質疑応答	

# 経済

授業番号	B201770001				
科目名 (英語表記)	ハードウェアシステム論 (Hardware system theory)				
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	情報化の進んだ今日では、コンピュータを扱えることが必須となっています。授業のねらいはコンピュータのハードウェアの仕組みに関する知識を学ぶことです。パソコンの全体構成および各装置の仕組み、特にパソコンの中心である中央処理装置 (CPU) とメモリスシステムの機能と仕組みの理解が到達目標です。				
授業の進め方 (履修条件など)	配布資料と PowerPoint を用いて講義を行います。配布資料はキーワードが抜けていますので、講義を聞きながら穴埋めしてもらいます。最後に穴埋め式の小テストを毎回行います。				
成績評価方法	期末試験 (60%)、小テスト (40%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	授業の最後に次回の予習項目を示しますので、予習しておいてください。また、復習としてキーワードとその内容をよく理解しておいてください。				
教科書	毎回、資料を配布します。				
参考文献	日経バイト編『最新パソコン技術体系 2003 ハードウェア編』日経 B P 社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認、講義の概要			
第 2 回	コンピュータの構成	五大機能と構成			
第 3 回	インターフェース	インターフェースの種類と仕組み			
第 4 回	情報の表現	十進数と二進数、十六進数			
第 5 回	論理回路	基本素子、組み合わせ回路、順序回路			
第 6 回	CPU の構造	レジスタ、算術論理演算回路、制御回路			
第 7 回	CPU の動作	命令セットと命令サイクル			
第 8 回	中間テスト	第 7 回目までの範囲の論述試験			
第 9 回	高速化実装技術	パイプライン、スーパースカラ			
第 10 回	メモリスシステム 1	メモリスシステムと半導体メモリ			
第 11 回	メモリスシステム 2	ハードディスクの仕組み			
第 12 回	メモリスシステム 3	光ディスクの種類と仕組み			
第 13 回	グラフィックス	グラフィックス機構、CRT と LCD			
第 14 回	プリンタ、その他周辺装置	ページプリンタ、インクジェットプリンタ、PC カード、キーボード、マウス他			
第 15 回	まとめ	要点と試験対策			

経済

授業番号	B200320001				
科目名 (英語表記)	ビジネス英語 III (Business English I I I)				
担当者 (英語表記)	内野 泰子 (Yasuko Uchino)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>経済がグローバル化する中で、日本企業においても、英語が公用語化される、上司が外国人になる、英語による会議が頻繁に行われる、TOEIC 受験が必須になるなど、ビジネス英語の必要性がさらに高まっています。この授業では、こうした状況に対応できるよう、様々なビジネス場面で英語を使って簡単なコミュニケーションがはかれるよう、ビジネス英語の基礎力を築くことを目指します。TOEIC の受験準備にも対応できるようにしていきます。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>テキストを使い、様々なビジネス場面で求められるスピーキング、リスニング、ライティング、リーディングの基本スキルやビジネス英語の基本表現などを学習します。また、テレビ番組なども見ながら、色々な職業でどのようにビジネス英語が使われているのかについても学びます。</p>				
成績評価方法	<p>平常点 50 パーセント、期末テスト 50 パーセントで評価します。</p>				
基準					
授業の予習・復習	<p>授業内で指示しますので、指示に必ず従って次の授業にのぞんで下さい。</p>				
教科書	<p>First Steps to Office English (Tae Kudo 著、センゲージ・ラーニング) ならびに配布プリント</p>				
参考文献	<p>必要に応じて授業内で指示します。</p>				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	導入	グローバル化の中でのビジネス英語とは？			
第 2 回	Unit 1-1	ビジネスマンの自己紹介			
第 3 回	Unit1-2	ビジネスマンの自己紹介、Eメールの基本			
第 4 回	Unit 2-1	英語が分からない時の聞き直し方			
第 5 回	Unit 2-2	英語が分からない時の聞き直し方、レターの基本			
第 6 回	Unit 3-1	電話の会話			
第 7 回	Unit 3-2	電話の会話			
第 8 回	Unit 4-1	伝言・留守電			
第 9 回	Unit 4-2	伝言・留守電			
第 10 回	Unit 5-1	職場でのあいさつ			
第 11 回	Unit 5-2	職場でのあいさつ			
第 12 回	Unit 6-1	面会の約束・会議			
第 13 回	Unit 6-2	面会の約束、会議			
第 14 回	Unit 7-1	会社訪問者への対応			
第 15 回	Unit 7-2	会社訪問者への対応、まとめ			

# 経済

授業番号	B200330001				
科目名 (英語表記)	ビジネス英語 IV (Business English I V)				
担当者 (英語表記)	内野 泰子 (Yasuko Uchino)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>経済がグローバル化する中で、日本企業においても、英語が公用語化される、上司が外国人になる、英語による会議が頻繁に行われる、TOEIC 受験が必須になるなど、ビジネス英語の必要性がさらに高まっています。この授業では、こうした状況に対応できるよう、様々なビジネス場面で英語を使って簡単なコミュニケーションがはかれるよう、ビジネス英語の基礎力を築くことを目指します。TOEIC の受験準備にも対応できるようにしていきます。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>テキストを使い、様々なビジネス場面で求められるスピーキング、リスニング、ライティング、リーディングの基本スキルやビジネス英語の基本表現などを学習します。また、テレビ番組なども見ながら、色々な職業でどのようにビジネス英語が使われているのかについても学びます。</p>				
成績評価方法	<p>平常点 50 パーセント、期末テスト 50 パーセントで評価します。</p>				
基準					
授業の予習・復習	<p>授業内で指示しますので、指示に必ず従って次の授業にのぞんで下さい。</p>				
教科書	<p>First Steps to Office English (Tae Kudo 著、センゲージ・ラーニング) ならびに配布プリント</p>				
参考文献	<p>必要に応じて授業内で指示します。</p>				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	導入	後期授業について			
第 2 回	Unit 8-1	招待・誘い、返事			
第 3 回	Unit8-2	招待・誘い、返事			
第 4 回	Unit 9-1	職場での雑談			
第 5 回	Unit 9-2	職場での雑談			
第 6 回	Unit 10-1	会社の所在地や配置			
第 7 回	Unit 10-2	会社の所在地や配置			
第 8 回	Unit 11-1	道案内			
第 9 回	Unit 11-2	道案内			
第 10 回	Unit 12	オフィス機器の使い方			
第 11 回	Unit 13	海外出張 (1)			
第 12 回	Unit 14	海外出張 (2)			
第 13 回	Unit 15	海外出張 (3)			
第 14 回	応用	学習事項の応用			
第 15 回	まとめ	学習事項の総まとめ			

経済

授業番号	B201140001		
科目名 (英語表記)	福祉経済論 (Welfare economy theory)		
担当者 (英語表記)	星 真実 (Masami Hoshi)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	「豊かな社会」と言われるわが国では、貧困問題は既に解消された過去のものとして扱われることが多い。しかし、国際的に貧困は現代的課題であり、わが国でも高齢者を中心に、全国民が貧困に陥る危険性があることを認識するため、実態調査を中心に考察を行う。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。		
成績評価方法	授業内小テスト (感想文) と、期末試験により判定する。		
基準			
授業の予習・復習	講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。		
教科書	特に使用しない。		
参考文献	日本労働研究機構『フリーターの意識と実態 - 97人へのヒアリング結果より』		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	ガイダンス	
第2回	はじめに	「福祉経済論」とは何か	
第3回	実態調査に見る高齢者問題	路上生活者問題 I	
第4回	実態調査に見る高齢者問題	路上生活者問題 II	
第5回	実態調査に見る高齢者問題	路上生活者問題 III	
第6回	実態調査に見る高齢者問題	日雇労働者問題 I	
第7回	実態調査に見る高齢者問題	日雇労働者問題 II	
第8回	実態調査に見る労働者問題	失業者問題 I	
第9回	実態調査に見る労働者問題	失業者問題 II	
第10回	実態調査に見る労働者問題	フリーター問題 I	
第11回	実態調査に見る労働者問題	フリーター問題 II	
第12回	生活保障とその課題	医療保障	
第13回	生活保障とその課題	医療供給体制	
第14回	生活保障とその課題	雇用保障	
第15回	おわりに	まとめ	



経済

授業番号	B200140001				
科目名 (英語表記)	フランス語 III (French I I I)			(A)	
担当者 (英語表記)	寺尾 いつみ (Izumi Terao)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	昨年度に引き続き、パリで暮らす日本人留学生の会話を通して、観光などに必要な表現を学ぶ。仏検 5 級相当の文法事項の習得を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	会話の音読と簡単なやりとりの練習で、文法事項の定着をはかる。必要に応じて補足プリントを用い、理解度を確認する。原則として、昨年度フランス語 I A・II A を履修した学生を対象とする。				
成績評価方法	授業内小テスト (25%)、f 仏作文レポート 3 回 (25%)、定期試験 (50%) の合計点で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：学習中の課の会話文を、教科書添付の CD を聞きながら音読する。わからない単語を辞書で調べる。 復習：学習した文法事項を使って、自分が実際に言いそうな文を作ってみる。				
教科書	『ヌーヴォー・ユビー!』黒田恵梨子、小溝佳代子、平山弓月著、朝日出版社、2010 年 (1 年次で前半を使用)。				
参考文献	仏和辞典 (書名は指定しない。電子辞書可)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	1 年次の学習内容の補足と復習			
第 2 回	7 課：クロエの部屋で	直接補語人称代名詞			
第 3 回	7 課：クロエの部屋で	間接補語人称代名詞			
第 4 回	7 課：クロエの部屋で	強勢形			
第 5 回	7 課：クロエの部屋で	疑問代名詞			
第 6 回	7 課：クロエの部屋で	疑問副詞			
第 7 回	8 課：ヴェルサイユ宮殿で	複合過去 (1)			
第 8 回	8 課：ヴェルサイユ宮殿で	複合過去 (2)			
第 9 回	8 課：ヴェルサイユ宮殿で	中性代名詞			
第 10 回	8 課：ヴェルサイユ宮殿で	日付の表現、数字 (100 ~ 2000)			
第 11 回	9 課：レストランで	代名動詞 (現在形)			
第 12 回	9 課：レストランで	代名動詞 (複合過去形)			
第 13 回	9 課：レストランで	関係代名詞			
第 14 回	9 課：レストランで	レストランやカフェで注文する			
第 15 回	まとめ	7 ~ 9 課の復習			

経済

授業番号	B200140002		
科目名 (英語表記)	フランス語 III (French I I I)	(B)	
担当者 (英語表記)	浅野 信二 (Shinji Asano)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	一年次に引き続き、日常よく使う簡単な会話表現を中心に、フランス語を「聞く」「話す」「読む」「書く」能力をバランスよく総合的に習得することを目指す。また、フランスの文化面についても毎回紹介する。		
授業の進め方 (履修条件など)	AV 教材を活用し、繰り返し「読む練習」「書く練習」を行う。また、教科書などの練習問題を解くことで、基礎文法と語彙力をつけていく。毎回の積み重ねを前提に授業を進めていくので、できるだけ欠席しないこと。		
成績評価方法	定期試験 50%・授業中に行う小テスト 30%・授業参加態度 20%		
基準			
授業の予習・復習	短い文章の書きとりを毎回授業の冒頭で行うので、よく練習しておくこと。		
教科書	藤田裕二『バスカル・オ・ジャポン』(白水社)		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明・一年次の復習	
第 2 回	Leon9 (1)	家族を語る (否定文における冠詞の変形)	
第 3 回	Leon9 (2)	家族を語る (女性形容詞の特殊な形)	
第 4 回	Leon10 (1)	年齢を言う (数字)	
第 5 回	Leon10 (2)	年齢を言う (疑問副詞)	
第 6 回	Leon11 (1)	時刻を言う (時刻の言い方)	
第 7 回	Leon11 (2)	時刻を言う (時の前置詞)	
第 8 回	Exercices 3	Leon9 ~ Leon11 のまとめ・フランスの文化	
第 9 回	Leon12 (1)	紹介する (補語人称代名詞)	
第 10 回	Leon12 (2)	紹介する (指示代名詞 a)	
第 11 回	Leon12 (3)	紹介する (attendre)	
第 12 回	Leon13 (1)	日常生活の表現 (代名動詞)	
第 13 回	Leon13 (2)	日常生活の表現 (近接未来)	
第 14 回	Leon13 (3)	日常生活の表現 (近接過去)	
第 15 回	前期のまとめ	前期のまとめ・フランスの文化	

# 経済

授業番号	B200150001				
科目名 (英語表記)	フランス語 IV (French I V)			(A)	
担当者 (英語表記)	寺尾 いつみ (Izumi Terao)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	前期に続き、買い物・ストライキ・パーティーなどの場面でのやりとりを通して、仏検 4 級に相当する文法事項を学ぶ。フランス語特有の事象のとらえ方にも触れる。				
授業の進め方 (履修条件など)	会話の音読と簡単なやりとりの練習で、文法事項の定着をはかる。必要に応じて補足プリントを用い、理解度を確認する。原則として、昨年度フランス語 I A・II A を履修した学生を対象とする。前期にフランス語 III A を履修した学生を対象とする。				
成績評価方法	授業内小テスト (25%)、仏作文レポート 3 回 (25%)、定期試験 (50%) の合計点で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：学習中の課の会話文を、教科書添付の CD を聞きながら音読する。わからない単語を辞書で調べる。 復習：学習した文法事項を使って、自分が実際に言いそうな文を作ってみる。				
教科書	『ヌーヴォー・ユビー!』黒田恵梨子、小溝佳代子、平山弓月著、朝日出版社、2010 年 (1 年次で前半を使用)。				
参考文献	仏和辞典 (書名は指定しない。電子辞書可)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	前期の学習内容の補足と復習			
第 2 回	10 課：蚤の市にて	比較級			
第 3 回	10 課：蚤の市にて	最上級			
第 4 回	10 課：蚤の市にて	強調構文			
第 5 回	10 課：蚤の市にて	直説法半過去			
第 6 回	10 課：蚤の市にて	半過去と複合過去の使い分け			
第 7 回	11 課：ストライキ	直説法単純未来			
第 8 回	11 課：ストライキ	現在分詞			
第 9 回	11 課：ストライキ	ジェロンディフ			
第 10 回	11 課：ストライキ	指示代名詞を使った表現			
第 11 回	12 課：おおみそかの夜	条件法現在 (1)			
第 12 回	12 課：おおみそかの夜	条件法現在 (2)			
第 13 回	12 課：おおみそかの夜	接続法現在			
第 14 回	12 課：おおみそかの夜	希望の表現			
第 15 回	まとめ	10 ~ 12 課の復習			

経済

授業番号	B200150002				
科目名 (英語表記)	フランス語 IV (French I V)		(B)		
担当者 (英語表記)	浅野 信二 (Shinji Asano)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	前期に続いて、日常よく使う簡単な会話表現を中心に、フランス語を「聞く」「話す」「読む」「書く」能力をバランスよく総合的に習得することを目指す。また、フランスの文化面についても毎回紹介する。				
授業の進め方 (履修条件など)	AV 教材を活用し、繰り返し「読む練習」「書く練習」を行う。また、教科書などの練習問題を解くことで、基礎文法と語彙力をつけていく。毎回の積み重ねを前提に授業を進めていくので、できるだけ欠席しないこと。				
成績評価方法	定期試験 50%・授業中に行う小テスト 30%・授業参加態度 20%				
基準					
授業の予習・復習	短い文章の書きとりを毎回授業の冒頭で行うので、よく練習しておくこと。				
教科書	藤田裕二『バスカル・オ・ジャポン』(白水社)				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明・前期の復習			
第 2 回	Leon14 (1)	量を表す (部分冠詞)			
第 3 回	Leon14 (2)	量を表す (中性代名詞 en)			
第 4 回	Leon15 (1)	天候を言う (命令形)			
第 5 回	Leon15 (2)	天候を言う (中性代名詞 y)			
第 6 回	Leon15 (3)	天候を言う (天候の表現)			
第 7 回	Exercices 4	Leon12 ~ Leon15 のまとめ・フランスの文化			
第 8 回	Leon16 (1)	比較する (比較級)			
第 9 回	Leon16 (2)	比較する (指示代名詞 celui, celle)			
第 10 回	Leon17 (1)	過去のことを語る (avoir で作る複合過去形)			
第 11 回	Leon17 (2)	過去のことを語る (tre で作る複合過去形)			
第 12 回	Leon17 (3)	過去のことを語る (複合過去形の用法)			
第 13 回	Leon18 (1)	未来のことを語る (単純未来形)			
第 14 回	Leon18 (2)	未来のことを語る (単純未来形の用法)			
第 15 回	Exercices 5	Leon16 ~ Leon18 のまとめ・フランスの文化			

経済

授業番号	B201750001				
科目名 (英語表記)	プレゼンテーション論 II (Presentation II)				
担当者 (英語表記)	井手 雅哉 (Masaya Ide)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	プレゼンテーションに際して心がけておくこと、ツールとしての Powerpoint の利用法について学習する。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件：「情報基礎」履修済相当 (学外サイトへのアクセス権とある程度のワープロソフト操作能力が必要) プレゼンテーションの準備から実行までを順を追って進めていく。				
成績評価方法	授業内小テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (20%)・取組姿勢 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：発表の構想を練ったり、資料・素材を集めておく。				
教科書	教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。				
参考文献	山口弘明、『プレゼンテーションの進め方』, 日本経済新聞社 (日経文庫) 技術評論社編集部著、『今すぐ使えるかんたん PowerPoint2007』, 技術評論社, 2008.7.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業内容・進め方・評価に関する説明			
第 2 回	テーマ設定	発表の目的等の考察			
第 3 回	発表内容の具体化	「アウトライン」機能の利用			
第 4 回	スライドの大まかなデザイン	「レイアウト」機能			
第 5 回	字句の配置	テキスト編集			
第 6 回	口述メモの準備	「ノート」機能の利用			
第 7 回	図表の準備 1	画像ファイルの準備			
第 8 回	図表の準備 2	画像ファイルの配置			
第 9 回	図表の準備 3	グラフの編集			
第 10 回	図表の準備 4	階層図等の編集			
第 11 回	スライドの仕上げ 1	「アニメーション」の基本設定			
第 12 回	スライドの仕上げ 2	種々の「アニメーション」			
第 13 回	発表の予行演習	「スライドショー」機能			
第 14 回	発表 1	発表と検討 1			
第 15 回	発表 2	発表と検討 2			

経済

授業番号	B201740001				
科目名 (英語表記)	プレゼンテーション論 I (Presentation I)			(A)	
担当者 (英語表記)	成富 慶子 (Keiko Naritomi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている 本講義では実習を通して、Microsoft PowerPoint を習熟してもらう				
授業の進め方 (履修条件など)	Microsoft PowerPoint を使用して、プレゼンテーション資料を作成する (対象学年：全学年)				
成績評価方法	実技テストで総合評価する				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書を見ながら操作する 復習：授業内に行った操作を練習問題などで復習する				
教科書	FOM 出版 Microsoft Power Point 2010 978-4-89311-851-6				
参考文献	FOM 出版 Microsoft PowerPoint 2010 応用				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・講義概要			
第 2 回	基本的なプレゼンテーションの作成	PowerPoint の概要、画面構成、新しいプレゼンテーションの作成、プレースホルダー、簡条書きテキスト、文字・段落に書式の設定、プレゼンテーションの構成の変更、スライドショーの実行、プレゼンテーションの保存			
第 3 回	表の作成	表の作成、行列の操作、表の書式設定			
第 4 回	グラフの作成	グラフの作成、グラフのレイアウト変更 グラフの書式設定、グラフデータ修正			
第 5 回	図形や SmartArt グラフィックの作成	図形の作成、図形の書式設定、SmartArt グラフィックの作成、SmartArt グラフィックの書式設定、簡条書きテキストを SmartArt グラフィックに変換			
第 6 回	図・クリップアート・ワードアートの挿入	図の挿入、クリップアートの挿入、ワードアートの挿入			
第 7 回	画像の加工	図の外観の変更、図の回転、図のトリミング、図のスタイルカスタマイズ、図の背景の削除			
第 8 回	グラフィックの活用	ページ設定変更、スライドの背景設定、グリッド・ガイドを表示、図形の作成、図形の書式設定、オブジェクトの配置調整、クリップアートの配置、テキストボックスの配置			
第 9 回	マルチメディアの活用	ビデオの挿入、ビデオの編集、オーディオの挿入 プレゼンテーションのビデオ作成			
第 10 回	特殊効果とスライドのデザイン設定	アニメーション効果の設定、スライドの自動実行			
第 11 回	プレゼンテーションのサポート機能	ノートの作成、配布資料の作成、スライドの効率的な切り替え、プレゼンテーションの印刷、リハーサル、目的別スライドショーの作成			
第 12 回	スライドのカスタマイズ	スライドマスターの編集、タイトルスライドのスライドマスター編集、ヘッダーとフッターを挿入、オブジェクト動作設定、動作設定ボタンの作成			
第 13 回	ほかのアプリケーションとの連携	Word のデータの利用、Excel のデータの利用、ほかの PowerPoint のデータの利用、スクリーンショットの挿入			
第 14 回	総合練習問題 1	総合練習問題 1			
第 15 回	総合練習問題 2	総合練習問題 2			

経済

授業番号	B201740002				
科目名 (英語表記)	プレゼンテーション論 I (Presentation I)			(B)	
担当者 (英語表記)	成富 慶子 (Keiko Naritomi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている 本講義では実習を通して、Microsoft PowerPoint を習熟してもらう				
授業の進め方 (履修条件など)	Microsoft PowerPoint を使用して、プレゼンテーション資料を作成する (対象学年：全学年)				
成績評価方法	実技テストで総合評価する				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書を見ながら操作する 復習：授業内に行った操作を練習問題などで復習する				
教科書	FOM 出版 Microsoft Power Point 2010 978-4-89311-851-6				
参考文献	FOM 出版 Microsoft PowerPoint 2010 応用				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・講義概要			
第 2 回	基本的なプレゼンテーションの作成	PowerPoint の概要、画面構成、新しいプレゼンテーションの作成、プレースホルダー、簡条書きテキスト、文字・段落に書式の設定、プレゼンテーションの構成の変更、スライドショーの実行、プレゼンテーションの保存			
第 3 回	表の作成	表の作成、行列の操作、表の書式設定			
第 4 回	グラフの作成	グラフの作成、グラフのレイアウト変更 グラフの書式設定、グラフデータ修正			
第 5 回	図形や SmartArt グラフィックの作成	図形の作成、図形の書式設定、SmartArt グラフィックの作成、SmartArt グラフィックの書式設定、簡条書きテキストを SmartArt グラフィックに変換			
第 6 回	図・クリップアート・ワードアートの挿入	図の挿入、クリップアートの挿入、ワードアートの挿入			
第 7 回	画像の加工	図の外観の変更、図の回転、図のトリミング、図のスタイルカスタマイズ、図の背景の削除			
第 8 回	グラフィックの活用	ページ設定変更、スライドの背景設定、グリッド・ガイドを表示、図形の作成、図形の書式設定、オブジェクトの配置調整、クリップアートの配置、テキストボックスの配置			
第 9 回	マルチメディアの活用	ビデオの挿入、ビデオの編集、オーディオの挿入 プレゼンテーションのビデオ作成			
第 10 回	特殊効果とスライドのデザイン設定	アニメーション効果の設定、スライドの自動実行			
第 11 回	プレゼンテーションのサポート機能	ノートの作成、配布資料の作成、スライドの効率的な切り替え、プレゼンテーションの印刷、リハーサル、目的別スライドショーの作成			
第 12 回	スライドのカスタマイズ	スライドマスターの編集、タイトルスライドのスライドマスター編集、ヘッダーとフッターを挿入、オブジェクト動作設定、動作設定ボタンの作成			
第 13 回	ほかのアプリケーションとの連携	Word のデータの利用、Excel のデータの利用、ほかの PowerPoint のデータの利用、スクリーンショットの挿入			
第 14 回	総合練習問題 1	総合練習問題 1			
第 15 回	総合練習問題 2	総合練習問題 2			

# 経済

授業番号	B201670001				
科目名 (英語表記)	プログラミング入門 C (Programming introduction( C ))				
担当者 (英語表記)	染谷 広幸 (Hiroyuki Someya)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	C言語を用いた実習形式による基本的な短いプログラムの作成を通し、基礎的な知識の習得と、プログラミングに対する理解を目的とします。また、実際のプログラミングの問題点、OSやハードに関する理解を深めます。到達目標は、ある目的を達成するために、知らない部分は資料を見ながらでもプログラムを作成できることです。				
授業の進め方 (履修条件など)	C言語の文法など必要な事項について講義形式で説明を行った後に、コンピュータを用いて入力・コンパイル、バグ修正等の実習を行い実際の知識を身に付けます。 ほぼ毎回、課題を期限内に提出することが必要です。				
成績評価方法	定期試験 ( 3 0 %) ・ 授業取組姿勢 ( 4 0 %) ・ 課題提出 ( 3 0 %)				
基準					
授業の予習・復習	授業中に動かせなかったプログラムは次回までに修正を行う。難しい時には問題点を示し質問すること。				
教科書	配付資料				
参考文献	高橋麻奈『やさしいC』ソフトバンククリエイティブ 内田智史『C言語によるプログラミング 基礎編』オーム社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	講義方法・成績評価方法など			
第 2 回	プログラミングとは	プログラミングで行うこと			
第 3 回	プログラミングのための基礎知識	作業方法と文字の表示			
第 4 回	C言語の初歩	文字や数字を表示する			
第 5 回	表示の方法を指定する	表示の種類や桁数を整える			
第 6 回	計算プログラムの作成	変数を用いた数値計算			
第 7 回	条件分岐	条件により処理を変える			
第 8 回	条件と選択	入力により処理を選ぶ			
第 9 回	反復型プログラム (1)	while 文を使った繰り返し			
第 10 回	反復型プログラム (2)	for 文を使った繰り返し			
第 11 回	いろいろな値の入力	キーボードからのデータ入力			
第 12 回	関数の作成と利用	処理をまとめる			
第 13 回	配列と構造体	複数の数値や文字の扱い			
第 14 回	ポインタ	データの物理的位置を利用する			
第 15 回	ファイルの操作	ファイルへの入出力を行う			



経済

授業番号	B201680001				
科目名 (英語表記)	プログラミング入門 Perl (Programming introduction(Perl))				
担当者 (英語表記)	染谷 広幸 (Hiroyuki Someya)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	WWWサーバなどで使われているプログラミング言語 Perl に関する基礎的な知識の習得を目的とします。プログラミングを行うときに必要なOSやハードなどの周辺知識も学習します。到達目標はプログラムとは何かを理解し、ある目的を達成するために知らない部分は資料を見ながらでもプログラムを作成できることです。				
授業の進め方 (履修条件など)	Perl 言語の文法など必要な事項について講義形式で説明を行った後に、コンピュータを用いて入力・実行、バグ修正等の実習を行い実的な知識を身に付けます。 ほぼ毎回、課題を期限内に提出することが必要です。				
成績評価方法	定期試験 (30%)・授業取組姿勢 (40%)・課題提出 (30%)				
基準					
授業の予習・復習	授業中に動かせなかったプログラムは次回までに修正する。難しい時には問題点を示し質問すること。				
教科書	配付資料				
参考文献	結城浩 『新版 Perl 言語プログラミングレッスン入門編』 SBCr Schwart 『はじめての Perl』				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	講義方法・成績評価方法など			
第2回	プログラミングとは何か	プログラミングで行うこと			
第3回	プログラミングのための基礎知識	作業で使うソフトの操作方法など			
第4回	Perl プログラムの初歩	文字を表示する			
第5回	データの種類と演算子	いろいろな計算をする			
第6回	変数	数値や文字列を入れ替える			
第7回	条件判断	条件により処理を変える			
第8回	反復型プログラム	繰り返して処理を行う			
第9回	リスト	複数データの取り扱い			
第10回	配列	配列を用いた処理			
第11回	ハッシュ	データと名前の組み合わせ			
第12回	サブルーチン	処理をまとめる			
第13回	正規表現の基本	文字や数字を比べる			
第14回	ファイルの入出力	ファイルとして扱うデータの入出力			
第15回	プログラムの動作とモジュール	スクリプトを分ける			

経済

授業番号	B201660001				
科目名 (英語表記)	プログラミング入門 VB (Programming introduction(VB))				
担当者 (英語表記)	小林 忠 (Tadashi Kobayashi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	プログラミングに必要な基礎知識を解説します。簡単なサンプルを介してプログラムの構造、流れを説明します。				
授業の進め方 (履修条件など)	受講者は「情報処理」を履修済みのこと。初回または二回目の講義に必ず出席すること。尚、受講者は 15 名以内とします。言語は VB を使用し、コードを記述するだけで動作する環境を用意します。				
成績評価方法	試験成績 50%、授業参加態度 50%				
基準					
授業の予習・復習	予習：前回の授業で強調した箇所を確り復習して、授業に臨んで下さい。 復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。				
教科書	プリントを用意します。				
参考文献	林晴比古著『新 VisualBasic 入門』ソフトバンク				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	概論	概論			
第 2 回	概論	OS、言語の歴史			
第 3 回	概論	CPU、メモリー、二進数			
第 4 回	概論	p 進数、補数			
第 5 回	乱数機能	サイコロを一億回振る			
第 6 回	乱数機能	円の面積を求める			
第 7 回	乱数機能	数当てゲーム			
第 8 回	計算機能	浮動小数点数 (1)			
第 9 回	計算機能	浮動小数点数 (2)			
第 10 回	計算機能	桁の大きい整数の四則演算 (1)			
第 11 回	計算機能	桁の大きい整数の四則演算 (2)			
第 12 回	計算機能	桁の大きい整数の四則演算 (3)			
第 13 回	計算機能	階乗の計算 (1)			
第 14 回	計算機能	階乗の計算 (2)			
第 15 回	計算機能	階乗の計算 (3)			

経済

授業番号	B200010001				
科目名 (英語表記)	文章表現 (Sentence expression)			(1)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	文章作成技法および語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。この講義の最終到達目標は、TPO にあった日本語を使いこなせるようになることである。				
授業の進め方 (履修条件など)	オリジナルプリント教材をもとにして、講義と演習をおこなう。 また、自らが作成した文章を発表する機会を設ける。 なお、語彙力増強のため、漢字テストや作文を実施する。				
成績評価方法 基準	出席の状況や課題への取り組み、定期テストなどから総合的に評価する。 積極的に授業へ参加していないと判断した場合 (私語、内職、居眠り、携帯電話の操作等) 成績評価に影響する。				
授業の予習・復習	授業で扱った内容は、次回までにしっかり復習しておくこと。 次の授業で書くと指示された内容について、前もって準備しておくこと。 授業中に完成しなかった作文・小論文・手紙などを完成させて次回提出すること。				
教科書	オリジナルプリント教材を使用する。各自ファイルすること。				
参考文献	表記の手引き 第四版 (教育出版編集局編、教育出版) 新装版 日本語の作文技術 (本多勝一著、講談社) 文章は接続詞で決まる (石黒圭著、光文社新書)、国語便覧 (出版社は問わない)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス 自己紹介文を書く	講義の進め方、注意事項の確認			
第 2 回	自己紹介をする 友達紹介をする	質問カードによる応答練習 友達を紹介する文を書き、読み合う。			
第 3 回	わかりやすい文を書く (1)	文の乱れ (呼応関係、主語と述語のねじれ)			
第 4 回	わかりやすい文を書く (2) 漢字テスト (1)	主述関係、あいまいな表現、修飾関係			
第 5 回	敬語 (1) 漢字テスト (2)	敬語 1 手紙の書き方			
第 6 回	敬語 (2) 漢字テスト (3)	敬語 2 手紙の書き方			
第 7 回	敬語 (3) 漢字テスト (4)	敬語 3 電話のかけ方			
第 8 回	中間テスト	第 1 ～ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	小論文とは (1) 漢字テスト (5)	小論文の考え方・接続詞の使い方 小論文の書き方の基本を理解する。			
第 10 回	小論文 (2) 漢字テスト (6)	フリーターについての賛否 小論文の書き方			
第 11 回	小論文 (3) 漢字テスト (7)	女性が働くことについての小論文			
第 12 回	小論文作成 (1) 漢字テスト (8)	大学秋入学・英語社内公用語化について			
第 13 回	小論文作成 (2) 漢字テスト (9)	小論文を書くためのテーマを探す。現代日本の現状から問題点を見つける。			
第 14 回	小論文作成 (3)	800 字で、小論文を完成させる。			
第 15 回	小論文作成 (4)	小論文の相互評価をする。			

経済

授業番号	B200010002				
科目名 (英語表記)	文章表現 (Sentence expression)			(3)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	文章作成技法および語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。この講義の最終到達目標は、TPO にあった日本語を使いこなせるようになることである。				
授業の進め方 (履修条件など)	オリジナルプリント教材をもとにして、講義と演習をおこなう。 また、自らが作成した文章を発表する機会を設ける。 なお、語彙力増強のため、漢字テストや作文を実施する。				
成績評価方法 基準	出席の状況や課題への取り組み、定期テストなどから総合的に評価する。 積極的に授業へ参加していないと判断した場合 (私語、内職、居眠り、携帯電話の操作等) 成績評価に影響する。				
授業の予習・復習	授業で扱った内容は、次回までにしっかり復習しておくこと。 次の授業で書くと指示された内容について、前もって準備しておくこと。 授業中に完成しなかった作文・小論文・手紙などを完成させて次回提出すること。				
教科書	オリジナルプリント教材を使用する。各自ファイルすること。				
参考文献	表記の手引き 第四版 (教育出版編集局編、教育出版) 新装版 日本語の作文技術 (本多勝一著、講談社) 文章は接続詞で決まる (石黒圭著、光文社新書)、国語便覧 (出版社は問わない)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス 自己紹介文を書く	講義の進め方、注意事項の確認			
第 2 回	自己紹介をする 友達紹介をする	質問カードによる応答練習 友達を紹介する文を書き、読み合う。			
第 3 回	わかりやすい文を書く (1)	文の乱れ (呼応関係、主語と述語のねじれ)			
第 4 回	わかりやすい文を書く (2) 漢字テスト (1)	主述関係、あいまいな表現、修飾関係			
第 5 回	敬語 (1) 漢字テスト (2)	敬語 1 手紙の書き方			
第 6 回	敬語 (2) 漢字テスト (3)	敬語 2 手紙の書き方			
第 7 回	敬語 (3) 漢字テスト (4)	敬語 3 電話のかけ方			
第 8 回	中間テスト	第 1 ～ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	小論文とは (1) 漢字テスト (5)	小論文の考え方・接続詞の使い方 小論文の書き方の基本を理解する。			
第 10 回	小論文 (2) 漢字テスト (6)	フリーターについての賛否 小論文の書き方			
第 11 回	小論文 (3) 漢字テスト (7)	女性が働くことについての小論文			
第 12 回	小論文作成 (1) 漢字テスト (8)	大学秋入学・英語社内公用語化について			
第 13 回	小論文作成 (2) 漢字テスト (9)	小論文を書くためのテーマを探す。現代日本の現状から問題点を見つける。			
第 14 回	小論文作成 (3)	800字で、小論文を完成させる。			
第 15 回	小論文作成 (4)	小論文の相互評価をする。			

経済

授業番号	B200010003				
科目名 (英語表記)	文章表現 (Sentence expression)			(4) 留学生	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	文章作成技法および語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。この講義の最終到達目標は、TPO にあった日本語を使いこなせるようになることである。				
授業の進め方 (履修条件など)	オリジナルプリント教材をもとにして、講義と演習をおこなう。 また、自らが作成した文章を発表する機会を設ける。 なお、語彙力増強のため、漢字テストや作文を実施する。				
成績評価方法 基準	出席の状況や課題への取り組み、定期テストなどから総合的に評価する。 積極的に授業へ参加していないと判断した場合 (私語、内職、居眠り、携帯電話の操作等) 成績評価に影響する。				
授業の予習・復習	授業で扱った内容は、次回までにしっかり復習しておくこと。 次の授業で書くと指示された内容について、前もって準備しておくこと。 授業中に完成しなかった作文・小論文・手紙などを完成させて次回提出すること。				
教科書	オリジナルプリント教材を使用する。各自ファイルすること。				
参考文献	表記の手引き 第四版 (教育出版編集局編、教育出版) 新装版 日本語の作文技術 (本多勝一著、講談社) 文章は接続詞で決まる (石黒圭著、光文社新書)、国語便覧 (出版社は問わない)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス 自己紹介文を書く	講義の進め方、注意事項の確認			
第 2 回	自己紹介をする 友達紹介をする	質問カードによる応答練習 友達を紹介する文を書き、読み合う。			
第 3 回	わかりやすい文を書く (1)	文の乱れ (呼応関係、主語と述語のねじれ)			
第 4 回	わかりやすい文を書く (2) 漢字テスト (1)	主述関係、あいまいな表現、修飾関係			
第 5 回	敬語 (1) 漢字テスト (2)	敬語 1 手紙の書き方			
第 6 回	敬語 (2) 漢字テスト (3)	敬語 2 手紙の書き方			
第 7 回	敬語 (3) 漢字テスト (4)	敬語 3 電話のかけ方			
第 8 回	中 間 テ ス ト	第 1 ～ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	小論文とは (1) 漢字テスト (5)	小論文の考え方・接続詞の使い方 小論文の書き方の基本を理解する。			
第 10 回	小論文 (2) 漢字テスト (6)	フリーターについての賛否 小論文の書き方			
第 11 回	小論文 (3) 漢字テスト (7)	女性が働くことについての小論文			
第 12 回	小論文作成 (1) 漢字テスト (8)	大学秋入学・英語社内公用語化について			
第 13 回	小論文作成 (2) 漢字テスト (9)	小論文を書くためのテーマを探す。現代日本の現状から問題点を見つける。			
第 14 回	小論文作成 (3)	800字で、小論文を完成させる。			
第 15 回	小論文作成 (4)	小論文の相互評価をする。			

経済

授業番号	B200010004		
科目名 (英語表記)	文章表現 (Sentence expression)	(2)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	文章作成技法および語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。この講義の最終到達目標は、TPO にあった日本語を使いこなせるようになることである。		
授業の進め方 (履修条件など)	オリジナルプリント教材をもとにして、講義と演習をおこなう。 また、自らが作成した文章を発表する機会を設ける。 なお、語彙力増強のため、漢字テストや作文を実施する。		
成績評価方法 基準	出席の状況や課題への取り組み、定期テストなどから総合的に評価する。 積極的に授業へ参加していないと判断した場合 (私語、内職、居眠り、携帯電話の操作等) 成績評価に影響する。		
授業の予習・復習	授業で扱った内容は、次回までにしっかり復習しておくこと。 次の授業で書くと指示された内容について、前もって準備しておくこと。 授業中に完成しなかった作文・小論文・手紙などを完成させて次回提出すること。		
教科書	オリジナルプリント教材を使用する。各自ファイルすること。		
参考文献	表記の手引き 第四版 (教育出版編集局編、教育出版) 新装版 日本語の作文技術 (本多勝一著、講談社) 文章は接続詞で決まる (石黒圭著、光文社新書)、国語便覧 (出版社は問わない)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス 自己紹介文を書く	講義の進め方、注意事項の確認	
第2回	自己紹介をする 友達紹介をする	質問カードによる応答練習 友達を紹介する文を書き、読み合う。	
第3回	わかりやすい文を書く (1)	文の乱れ (呼応関係、主語と述語のねじれ)	
第4回	わかりやすい文を書く (2) 漢字テスト (1)	主述関係、あいまいな表現、修飾関係	
第5回	敬語 (1) 漢字テスト (2)	敬語 1 手紙の書き方	
第6回	敬語 (2) 漢字テスト (3)	敬語 2 手紙の書き方	
第7回	敬語 (3) 漢字テスト (4)	敬語 3 電話のかけ方	
第8回	中間テスト	第1～7講までの範囲で出題	
第9回	小論文 (1) 漢字テスト (5)	小論文の考え方・接続詞の使い方 小論文の書き方の基本を理解する。	
第10回	小論文 (2) 漢字テスト (6)	フリーターについての賛否 小論文の書き方	
第11回	小論文 (3) 漢字テスト (7)	女性が働くことについての小論文	
第12回	小論文作成 (1) 漢字テスト (8)	大学秋入学・英語社内公用語化について	
第13回	小論文作成 (2) 漢字テスト (9)	小論文を書くためのテーマを探す。現代日本の現状から問題点を見つける。	
第14回	小論文作成 (3)	800字で、小論文を完成させる。	
第15回	小論文作成 (4)	小論文の相互評価をする。	

# 経済

授業番号	B202070001		
科目名 (英語表記)	簿記論 I (Bookkeeping theory I)	(B)	
担当者 (英語表記)	塚本 利平 (Toshihira Tsukamoto)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	会計は「ビジネスの言語」とも言われ、企業の財政状態や経営成績の理解に不可欠なものである。この会計における基本原理が複式簿記である。本講義では、その最も基本となる部分を学習することを到達目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	まず各論点についての講義を行い、次に理解を深めるために練習問題を解いてもらう形式で授業を進めていく。		
成績評価方法	おおむね、定期試験 (80%)・授業内小テストあるいはレポート及びその他の課題 (20%)		
基準			
授業の予習・復習	予習：特に必要はないが、時間に余裕がある人は、参考文献にあげた教材を購入し読んでおくことよい。復習：配布プリントの説明内容、練習問題の再確認を必ず行ってほしい。		
教科書	特に指定しない。毎回プリントを配布する。		
参考文献	「日商簿記3級」TAC簿記検定講座著 TAC出版		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	授業の概要	
第2回	簿記の仕組み	簿記の流れと複式の意味、仕訳の基礎	
第3回	簿記の仕組み	利益算定と決算書	
第4回	取引の仕分と勘定記入	取引の概念と仕訳の法則	
第5回	取引の仕分と勘定記入	勘定記入の仕組み	
第6回	取引の仕分と勘定記入	仕訳帳と元帳	
第7回	試算表の作成	各種試算表の仕組み	
第8回	試算表の作成	試算表の作成	
第9回	決算1 - 決算基本的な流れ	決算の意味	
第10回	決算1 - 決算基本的な流れ	精算表の作成	
第11回	決算1 - 決算基本的な流れ	決算本手続：損益勘定と決算振替	
第12回	決算1 - 決算基本的な流れ	繰越記入と締切	
第13回	決算1 - 決算基本的な流れ	繰越試算表と仕訳帳の締切、決算振替	
第14回	決算1 - 決算基本的な流れ	大陸式決算法	
第15回	まとめ	修得した知識のまとめ	

# 経済

授業番号	B202070002				
科目名 (英語表記)	簿記論 I (Bookkeeping theory I)			A	
担当者 (英語表記)	鈴木 明男 (Akio Suzuki)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	簿記は企業経営に不可欠な業績把握と財務管理の基礎となる。本講義は簿記の基本構造や決算までの仕組みを、社会人として必要な常識程度まで学ぶ。				
授業の進め方 (履修条件など)	簿記は人工言語といわれるように特有のルールによって成り立っている。それゆえ簿記を理解するには繰り返し反復練習する必要がある。授業はできるだけ教科書を利用するが、頻繁にプリントを配布して練習する。毎回、講義の流れを説明する。				
成績評価方法	定期試験 80%、授業内小テスト及び課題 20%を目安とする。				
基準					
授業の予習・復習	特に会計関連資格の受験者には練習問題と最近の出版物の予習・復習が望ましい。				
教科書	「簿記入門」 小野保之、霧日出郎他 森山書店				
参考文献	「検定簿記講義 2・3 級」 中央経済社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と今後の運営方針 複式簿記の重要性と会計法規			
第 2 回	基礎概念	資産と負債・純資産の均衡、収益と費用			
第 3 回	複式簿記の基本構造	取引の意義と複式記入、借方・貸方、勘定、仕訳、仕訳帳、元帳			
第 4 回	取引から決算まで I	貸借平均の原理、取引の仕訳から決算まで			
第 5 回	取引から決算まで II	試算表の構造、貸借対照表と損益計算書の構造			
第 6 回	資産勘定の処理 I	現金・預金・売掛金の仕訳、元帳転記			
第 7 回	資産勘定の処理 II	土地・建物・車両等の仕訳、元帳転記			
第 8 回	負債・資本勘定の処理	買掛金・借入金・資本金等の仕訳、元帳転記			
第 9 回	収益・費用勘定の処理	売上・受取利息等の収益と給料・交通費・支払利息等の費用の仕訳、元帳転記			
第 10 回	諸勘定の仕訳と元帳転記 I	若干複雑な取引と元帳転記			
第 11 回	諸勘定の仕訳と元帳転記 II	若干複雑な取引と元帳転記			
第 12 回	決算整理	試算表の作成			
第 13 回	決算 I	簡単な貸借対照表と損益計算書の作成			
第 14 回	決算 II	簡単な貸借対照表と損益計算書の作成			
第 15 回	取引記録の仕組	帳簿組織の意義と内容			



経済

授業番号	B202070003				
科目名 (英語表記)	簿記論 I (Bookkeeping theory I)				
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、簿記の基本構造や決算までの仕組みを理解できるようになることである。また到達目標は、日商簿記3級レベルの仕訳ならびに精算表・財務諸表の作成ができることである。				
授業の進め方 (履修条件など)	簿記はビジネスの言語といわれるように、特有のルールに基づいて成り立っている。それゆえ、簿記を理解するには問題演習を繰り返す必要がある。この授業では、取り上げるテーマごとの講義と、それに対応する問題演習を行うことによって進めていく。				
成績評価方法	小テスト: 30% (簿記論 I では、3回の小テストを行う。100点満点で採点し、それを成績評価の30%に換算する。)				
基準	期末試験: 70% (期末試験は100点満点で採点し、それを成績評価の70%分に換算する。)				
授業の予習・復習	次の授業までに、テキストの該当箇所を熟読して授業に臨むこと。またレポートについては、期日までに提出できるよう授業で取り上げた箇所の復習を怠らないこと。				
教科書	森久・長吉眞一・浅野千鶴・石川文子・蔣飛鴻・関利恵子著『企業簿記論』創成社、2010年				
参考文献	桑原知之・新田忠誓著『全経簿記能力検定試験公式テキスト3級』ネットスクール、2010年。 森久・関利恵子・長野史麻・徳山英邦・蔣飛鴻著『財務分析からの会計学 第二版』森山書店、2011年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	本授業の概要と今後の進め方、成績評価について説明			
第2回	簿記の基礎概念	資産と負債・純資産の均衡、収益と費用			
第3回	複式簿記の基本構造	取引の意義と複式記入、借方・貸方、勘定、仕訳、仕訳帳、元帳			
第4回	取引から決算まで I	貸借平均の原理、取引の仕訳から決算まで			
第5回	取引から決算まで II	試算表の構造、貸借対照表と損益計算書の構造			
第6回	資産勘定の処理 I	現金・預金・売掛金の仕訳、元帳転記			
第7回	資産勘定の処理 II	土地・建物・車両等の仕訳、元帳転記			
第8回	負債・資本勘定の処理	買掛金・借入金・資本金等の仕訳、元帳転記			
第9回	収益・費用勘定の処理	売上・受取利息等の収益と給料・交通費・支払利息等の費用の仕訳、元帳転記			
第10回	諸勘定の仕訳と元帳転記 I	複雑な取引と元帳転記			
第11回	諸勘定の仕訳と元帳転記 II	複雑な取引と元帳転記			
第12回	決算整理	試算表の作成			
第13回	決算 I	貸借対照表と損益計算書の作成			
第14回	決算 II	貸借対照表と損益計算書の作成			
第15回	取引記録の仕組み	帳簿組織の意義と内容			

# 経済

授業番号	B202080001				
科目名 (英語表記)	簿記論 II (Bookkeeping theory II)			(B)	
担当者 (英語表記)	塚本 利平 (Toshihira Tsukamoto)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	企業の財政状態や経営成績を理解するために不可欠な基本原理である複式簿記の理解を深めるための知識の習得を目指す。各取引事例、決算整理の処理を通して、前期に比べより、具体的に複雑な取引・仕訳を学習する。日商簿記3級程度の知識習得を到達目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	各論点についての講義を行い、学習上の基本ポイントを理解してもらい、さらに授業中に練習問題を解くことにも取り組んでいく。				
成績評価方法	おおむね、定期試験 (80%)・授業内小テストあるいはレポート及びその他の課題 (20%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：特に必要はないが、時間に余裕がある人は、参考文献にあげた教材を購入し読んでおくことよい。復習：配布プリントの説明内容、練習問題の再確認を必ず行ってほしい。				
教科書	特に指定しない。毎回プリントを配布する。				
参考文献	「日商簿記3級」TAC簿記検定講座著 TAC出版				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の概要			
第2回	各取引事例の分析	現金・預金			
第3回	各取引事例の分析	売掛金と買掛金			
第4回	各取引事例の分析	手形			
第5回	各取引事例の分析	各種債権・債務			
第6回	各取引事例の分析	有価証券、有形固定資産			
第7回	決算2 - 決算整理 -	決算整理の意味			
第8回	決算2 - 決算整理 -	現金過不足			
第9回	決算2 - 決算整理 -	引当金			
第10回	決算2 - 決算整理 -	有価証券の評価替え			
第11回	決算2 - 決算整理 -	売上原価の算定			
第12回	決算2 - 決算整理 -	減価償却費			
第13回	決算2 - 決算整理 -	収益費用の見越・繰延			
第14回	決算2 - 決算整理 -	8桁精算表			
第15回	まとめ	修得した知識のまとめ			

# 経済

授業番号	B202080002				
科目名 (英語表記)	簿記論 II (Bookkeeping theory II)			A	
担当者 (英語表記)	鈴木 明男 (Akio Suzuki)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	簿記の基礎知識を持つ学生を対象に、簿記論 I より高度な知識習得を旨とする。最終的には貸借対照表と損益計算書作成を目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業内容が一層複雑になることから、繰り返し勉強することが必要となる。プリント配布により頻繁に練習するが、欠席すると途端に理解不能となる。欠席は禁物である。毎回、講義の流れを説明する。				
成績評価方法	定期試験 80% 授業内小テスト及び課題 20.%を目安とする。				
基準					
授業の予習・復習	特に会計関連資格の受験者には練習問題と最近の出版物の予習・復習が望ましい。				
教科書	「簿記入門」 小野保之、霧日出郎他 森山書店				
参考文献	「検定簿記講義 2・3 級」 中央経済社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	現金・預金の処理	小切手、小口現金、普通預金、当座預金等			
第 2 回	資産勘定の処理 I	受取手形、売掛金、有価証券、前渡金、未収金等			
第 3 回	資産勘定の処理 II	構築物、土地、建設仮勘定等			
第 4 回	負債・資本勘定の処理	支払手形、買掛金、前受金、借入金等			
第 5 回	収益・費用勘定の処理と商品売買の処理	種々の収益・費用勘定の理解 商品売買の分割法			
第 6 回	手形取引の処理	手形の意義、約束手形、為替手形の処理、裏書・割引、不渡、金融手形の意味			
第 7 回	決算の仕方と試算表	決算の意義・構造、試算表の構造			
第 8 回	決算整理 I	現金・預金・売掛金・商品等の残高照合と評価			
第 9 回	決算整理 II	貸倒引当金、諸引当金			
第 10 回	決算整理 III	減価償却			
第 11 回	決算整理 IV	収益・費用の見越と繰延			
第 12 回	精算表 I	精算表の仕組と作成			
第 13 回	精算表 II	精算表の仕組と作成			
第 14 回	財務諸表の作成 I	貸借対照表と損益計算書の構造と作成			
第 15 回	財務諸表の作成 II	貸借対照表と損益計算書の作成練習			

# 経済

授業番号	B202080003				
科目名 (英語表記)	簿記論 II (Bookkeeping theory II)				
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、簿記の基本構造や決算までの仕組みを理解できるようになることである。また到達目標は、日商簿記3級レベルの仕訳ならびに精算表・財務諸表の作成ができることである。				
授業の進め方 (履修条件など)	簿記はビジネスの言語といわれるように、特有のルールに基づいて成り立っている。それゆえ、簿記を理解するには問題演習を繰り返す必要がある。この授業では、取り上げるテーマごとの講義と、それに対応する問題演習を行うことによって進めていく。				
成績評価方法	小テスト: 30% (簿記論 II では、3回の小テストを行う。100点満点で採点し、それを成績評価の30%に換算する。)				
基準	期末試験: 70% (期末試験は100点満点で採点し、それを成績評価の70%分に換算する。)				
授業の予習・復習	次の授業までに、テキストの該当箇所を熟読して授業に臨むこと。またレポートについては、期日までに提出できるように授業で取り上げた箇所の復習を怠らないこと。				
教科書	森久・長吉眞一・浅野千鶴・石川文子・蔣飛鴻・関利恵子著『企業簿記論』創成社、2010年				
参考文献	桑原知之・新田忠誓著『全経簿記能力検定試験公式テキスト3級』ネットスクール、2010年。 森久・関利恵子・長野史麻・徳山英邦・蔣飛鴻著『財務分析からの会計学 第二版』森山書店、2011年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	本授業の概要と今後の進め方、成績評価について説明			
第2回	現金・預金の処理	小切手、小口現金、普通預金、当座預金等			
第3回	資産勘定の処理 I	受取手形、売掛金、有価証券、前渡金、未収金等			
第4回	資産勘定の処理 II	構築物、土地、建設仮勘定等			
第5回	負債・資本勘定の処理	支払手形、買掛金、前受金、借入金等			
第6回	収益・費用勘定の処理と商品売買の処理	種々の収益・費用勘定の理解、商品売買の分割法			
第7回	手形取引の処理	手形の意義、約束手形、為替手形の処理、裏書・割引、不渡、金融手形の意味			
第8回	決算の仕方と試算表	決算の意義・構造、試算表の構造			
第9回	決算整理 I	現金・預金・売掛金・商品等の残高照合と評価			
第10回	決算整理 II	貸倒引当金、諸引当金			
第11回	決算整理 III	減価償却			
第12回	決算整理 IV	収益・費用の見越と繰延			
第13回	精算表 I	精算表の仕組と作成			
第14回	精算表 II	精算表の仕組と作成			
第15回	財務諸表の作成	貸借対照表と損益計算書の構造と作成			

経済

授業番号	B201360001				
科目名 (英語表記)	保険論 (Insurance theory)				
担当者 (英語表記)	千々松 愛子 (Aiko Chijimatsu)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義では、保険とはどのような制度であり、われわれの経済生活においてどのように機能しているのか、経済学的・法的・史的側面等、多面的な視点で概観する。そうした視点を通して、最終的に、われわれの生活に密着している保険制度の基本概念と理論を理解することを目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は特に要求しない。レジュメを配布し、基本的に講義形式で行う。新聞等で取り上げられる最新情報や、耳目を集めた事件の解説も適宜行う。また、視聴覚教材等を利用した時間も設ける予定である。				
成績評価方法	学期末に行われる定期試験によって評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：日々報道される保険関連のニュースに目を通し、自分なりに理解しておくことが最良の予習である。 復習：ノートを見直し、理解できていなかった点、わからなかった用語等をチェックすること。				
教科書	テキストは使用しない。				
参考文献	近見正彦ほか『新・保険学』(有斐閣アルマ、2006年)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	講義内容、授業の到達目標について説明する			
第2回	保険制度の役割としくみ	経済的損失に備える制度のしくみを概観する。			
第3回	保険制度の生成と発展	英国を中心に、保険制度生成の背景について説明する			
第4回	近代保険制度の生成とわが国への導入	わが国における近代保険制度導入の経緯。			
第5回	保険とリスクⅠ	われわれを取り巻くリスクとその対処手段を知る。			
第6回	保険とリスクⅡ	保険制度におけるリスク概念について理解する。			
第7回	保険制度の構造	三大原則などの基礎概念について理解する。			
第8回	保険契約とは	保険制度の契約としての側面を知る。			
第9回	契約当事者の権利義務	保険者と保険契約者等の権利義務につき解説する。			
第10回	損害保険契約Ⅰ	損害保険契約の特色と特有のルールを学ぶ。			
第11回	損害保険契約Ⅱ	契約の成立から損害の填補までの流れを知る。			
第12回	生命保険契約Ⅰ	生命保険契約の特色と特有のルールを学ぶ。			
第13回	生命保険契約Ⅱ	契約の成立から支払いまでの流れを知る。			
第14回	保険法の解説	保険法重要論点と実務上の問題を解説する。			
第15回	まとめ	全体のまとめとポイント			

# 経済

授業番号	B202120001				
科目名 (英語表記)	Marketing Management (Marketing Management)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、英語による経営専門書を購読しながらマーケティングのコンセプトを理解することを目標とします。実業界でどのようなマーケティング活動がおこなわれているのかを学び、マーケティング展開において活用される様々なコンセプトを英語の経営書を通じて学習します。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業では、マーケティング・ミックスにかかわるコンセプトを中心にディスカッション形式で理論とケースを学びます。必要に応じて、ケーススタディのためのビデオ教材を用います。				
成績評価方法	中間レポート第1回 (50%)、中間レポート第2回 (50%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：毎回配布される英文のプリントを読んでください。 復習：前回の配布資料を再読しておくことをお勧めします。				
教科書	特にありません。毎回必要な資料を配布します。				
参考文献	Kotler, Philip. (2003), Marketing Insights from A to Z: 80 Concepts Every Manager Needs to Know, Wiley.				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方についての説明			
第2回	Customer Orientation	Customers			
第3回	Customer Orientation	Customer Needs			
第4回	Customer Orientation	Customer Satisfaction			
第5回	Marketing Mix	Products			
第6回	Marketing Mix	Price			
第7回	Marketing Mix	Communication and Promotion			
第8回	Marketing Mix	Distribution and Channels			
第9回	STP	Segmentation			
第10回	STP	Target Markets			
第11回	STP	Positioning			
第12回	Brand	Brands			
第13回	Brand	Corporate Branding			
第14回	Relationship Marketing	Customer Relationship Management (CRM)			
第15回	Relationship Marketing	Database Marketing			

経済

授業番号	B202250001				
科目名 (英語表記)	マーケティングリサーチ I (Market research I)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、マーケティングの基本的な考え方を理解し、市場調査を行ううえで必要とされる知識を習得することを目標とします。また、リサーチ手法を実習することによって、リサーチのプロセスと問題の定式化についての理解を深めます。マーケティング・リサーチ I では、リサーチ・デザインとデータの収集方法について学びます。				
授業の進め方 (履修条件など)	パワーポイントを用いたプレゼンテーション方式で講義し、必要に応じて、ケース・スタディのためのビデオ教材を用います。また、調査手法や分析手法を実習することによって、マーケティング・リサーチに必要なスキルを身につけます。				
成績評価方法	中間レポート (40%)、定期試験 (60%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の進行に合わせ参考文献を読んでおくことをおすすめします。 復習：前回の講義資料を再読しておくことをおすすめします。				
教科書	特にありません。毎回必要な資料を作成し講義します。				
参考文献	高田博和・上田隆穂・奥瀬喜之・内田学『マーケティングリサーチ入門』PHP 研究所、2008 年。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方についての説明			
第 2 回	イントロダクション	消費者志向のマーケティング			
第 3 回	イントロダクション	マーケティングリサーチとは			
第 4 回	イントロダクション	リサーチプロセス			
第 5 回	イントロダクション	課題の発見・定義			
第 6 回	リサーチ・デザイン	探索的リサーチ			
第 7 回	リサーチ・デザイン	記述的リサーチ			
第 8 回	リサーチ・デザイン	因果的リサーチ			
第 9 回	データの収集	データの形式			
第 10 回	データの収集	二次データの収集方法			
第 11 回	データの収集	一次データの収集方法			
第 12 回	データの収集	質問紙のタイプと収集方法			
第 13 回	データの収集	質問紙の作成			
第 14 回	データの収集	実習 (質問紙の作成)			
第 15 回	データの収集	プレゼンテーションと評価			

# 経済

授業番号	B202260001				
科目名 (英語表記)	マーケティングリサーチ II (Market research II)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、マーケティングの基本的な考え方を理解し、市場調査を行ううえで必要とされる知識を習得することを目標とします。また、リサーチ手法を実習することによって、分析から得られた結果を解釈する能力、考察する能力を身につけます。				
授業の進め方 (履修条件など)	マーケティングリサーチ I と II を合わせて受講することをお勧めします。パワーポイントを用いたプレゼンテーション方式で講義し、必要に応じて、ケーススタディのためのビデオ教材を用います。また、調査手法や分析手法を実習することによって、マーケティングリサーチに必要なスキルを身につけます。				
成績評価方法	中間レポート (40%)、定期試験 (60%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の進行に合わせ参考文献を読んでおくことをおすすめします。 復習：前回の講義資料を再読しておくことをおすすめします。				
教科書	特にありません。毎回必要な資料を作成し講義します。				
参考文献	高田博和・上田隆穂・奥瀬喜之・内田学『マーケティングリサーチ入門』PHP 研究所、2008 年。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方についての説明			
第 2 回	サンプルデザイン	質問紙作成のプロセス			
第 3 回	サンプルデザイン	サンプリング			
第 4 回	サンプルデザイン	データの収集			
第 5 回	データ分析・結果の解釈	データ分析			
第 6 回	データ分析・結果の解釈	実習 (データ入力とコーディング)			
第 7 回	データ分析・結果の解釈	仮説検定の手続き			
第 8 回	データ分析・結果の解釈	カイ二乗検定			
第 9 回	データ分析・結果の解釈	T 検定			
第 10 回	データ分析・結果の解釈	分散分析			
第 11 回	データ分析・結果の解釈	相関分析			
第 12 回	データ分析・結果の解釈	回帰分析			
第 13 回	データ分析・結果の解釈	実習 (相関分析と回帰分析)			
第 14 回	データ分析・結果の解釈	多変量解析			
第 15 回	データ分析・結果の解釈	因子分析とクラスター分析			



# 経済

授業番号	B202110001				
科目名 (英語表記)	マーケティング論 (Introduction to Marketing)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本授業は、初めてマーケティングを学ぶ学生が、マーケティングの基本概念とその全体像を理解することを目指します。マーケティングとは、市場での交換を通じて顧客価値を実現するプロセスです。この交換の連鎖を生み出す生産者、販売者、消費者の活動を考察の対象にしなが、マーケティングの基礎を学びます。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式で理論とケースを学びます。パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で講義し、必要に応じて、ケース・スタディのためのビデオ教材を用います。				
成績評価方法	中間レポート (40%)、定期試験 (60%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の進行に合わせ参考文献を読んでおくことをおすすめします。 復習：前回の講義資料を再読しておくことをおすすめします。				
教科書	特にありません。毎回必要な資料を作成し講義します。				
参考文献	石井淳蔵・廣田章光編著『1からのマーケティング 第3版』碩学舎、2009年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方についての説明			
第2回	マーケティングとは	マーケティング発想の経営			
第3回	マーケティングとは	マーケティング論のなりたち			
第4回	マーケティングとは	マーケティングの基本概念			
第5回	マーケティングとは	戦略的マーケティング			
第6回	マーケティング・ミックス	製品のマネジメント			
第7回	マーケティング・ミックス	価格のマネジメント			
第8回	マーケティング・ミックス	広告のマネジメント			
第9回	マーケティング・ミックス	チャネルのマネジメント			
第10回	ブランド	ブランド構築のマネジメント			
第11回	ブランド	ブランド組織のマネジメント			
第12回	県庁担当者による講義	観光地活性化の取り組み			
第13回	リレーションシップ・マーケティング	顧客関係のマネジメント			
第14回	リレーションシップ・マーケティング	顧客理解のマネジメント			
第15回	サプライチェーン	サプライチェーンのマネジメント			

# 経済

授業番号	B200870001				
科目名 (英語表記)	マクロ経済学 I (Macro-economics I)				
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	マクロ経済学は国民経済あるいは国際間の経済関係を理論的に明らかにし、金融・財政政策の基礎理論を習得することを目的とする。具体的には、景気変動や物価変動のメカニズム、実物経済と貨幣経済、国際取引が国内の経済に及ぼす影響など、より専門的な経済分析に必要な知識を身につけさせることをねらいとしている。				
授業の進め方 (履修条件など)	必要があればプリントを配布するが、授業は板書を中心に進めていくので、しっかりノートをとること。また重要項目を授業で説明した後、理解を深めるため、演習問題を課題として出すので、必ず自分で解くこと。				
成績評価方法	定期試験 (70%)・授業内小テスト (15%)・レポート及びその他の課題 (15%)				
基準					
授業の予習・復習	下記の参考文献は予習、復習に最適であるから利用すること。 復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。				
教科書	使用しない				
参考文献	『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版、西村和雄、八木尚志 『スティグリッツ マクロ経済学』東洋経済新報社、J.E. スティグリッツ、 C.E. ウォルシュ				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	マクロ経済学の範囲と手段	マクロ経済政策の課題と均衡分析			
第 2 回	国民経済計算 (1)	国内総生産と三面等価の原則, 名目値と実質値			
第 3 回	国民経済計算 (2)	国内総生産と国内純生産、国民所得			
第 4 回	物価指数	物価指数の種類、ラスパイレス指数とパーシェ指数			
第 5 回	国民所得の決定 (1)	三面等価と均衡国民所得の決定			
第 6 回	国民所得の決定 (2)	インフレギャップとデフレギャップ			
第 7 回	乗数効果 (1)	投資乗数と政府支出乗数			
第 8 回	乗数効果 (2)	租税乗数と均衡乗数			
第 9 回	貨幣の役割	貨幣の定義と機能			
第 10 回	貨幣供給 (1)	ハイパワード・マネーとマネーサプライ			
第 11 回	貨幣供給 (2)	信用創造の考え方			
第 12 回	貨幣供給 (3)	金融政策のメカニズムと手段			
第 13 回	貨幣需要 (1)	貨幣数量説と貨幣ヴェール観			
第 14 回	貨幣需要 (2)	ケインズの流動性選好理論			
第 15 回	授業のまとめ	マクロ経済政策への適用			

# 経済

授業番号	B200880001		
科目名 (英語表記)	マクロ経済学 II (Macro-economics II)		
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	マクロ経済学は国民経済あるいは国際間の経済関係を理論的に明らかにし、金融・財政政策の基礎理論を習得することを目的とする。具体的には、景気変動や物価変動のメカニズム、実物経済と貨幣経済、国際取引が国内の経済に及ぼす影響など、より専門的な経済分析に必要な知識を身につけさせることをねらいとしている。		
授業の進め方 (履修条件など)	必要があればプリントを配布するが、授業は板書を中心に進めていくので、しっかりノートをとること。また重要項目を授業で説明した後、理解を深めるため、演習問題を課題として出すので、必ず自分で解くこと。		
成績評価方法	定期試験 (70%)・授業内小テスト (15%)・レポート及びその他の課題 (15%)		
基準			
授業の予習・復習	下記の参考文献は予習、復習に最適であるから利用すること。復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。		
教科書	使用しない		
参考文献	『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版、西村和雄、八木尚志 『スティグリッツ マクロ経済学』東洋経済新報社、J.E. スティグリッツ、C.E. ウォルシュ		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	IS-LM 分析 (1)	均衡国民所得と均衡利子率	
第 2 回	IS-LM 分析 (2)	IS-LM モデルによる財政・金融政策	
第 3 回	IS-LM 分析 (3)	IS-LM 曲線の形状と流動性トラップ	
第 4 回	IS-LM 分析 (4)	政策効果の計算	
第 5 回	総需要と総供給 (1)	総需要曲線の導出	
第 6 回	総需要と総供給 (2)	総需要曲線のシフト	
第 7 回	総需要と総供給 (3)	労働市場と総供給曲線	
第 8 回	総需要と総供給 (4)	総供給曲線の導出	
第 9 回	総需要と総供給 (5)	総供給曲線のシフト	
第 10 回	総需要と総供給 (6)	物価水準の決定	
第 11 回	総需要と総供給 (7)	政府支出の物価と国民所得に及ぼす効果	
第 12 回	開放マクロ経済 (1)	総需要・インフレ曲線に及ぼす国際的要因	
第 13 回	開放マクロ経済 (2)	為替レートの変動のインフレに及ぼす影響	
第 14 回	開放マクロ経済 (3)	開放経済における金融政策の有効性	
第 15 回	まとめ	閉鎖体系と開放体系の比較	

# 経済

授業番号	B200850001		
科目名 (英語表記)	ミクロ経済学 I (Micro-economics I)		
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	ミクロ経済学の考え方によって経済事象や毎日の生活の行動原理を理解します。ミクロ経済学の最終的な目標が、効率的な資源配分にあることを繰り返し学び、理解していきます。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義ののち、小テストを毎回出します。これによって、復習と予習を促します。ノートを必ず取り、毎回の理解を積み上げていくこと。		
成績評価方法	小テストによって 6 割, 期末テストによって 4 割を評価の対象とします。		
基準			
授業の予習・復習	予習: 小テストによって行います。 復習: 小テストによって行います。		
教科書	井堀利宏 『コンパクト経済学』 新世社		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	イントロダクション	ミクロ経済学とはどのような学問か	
第 2 回	ミクロ経済学の目標	ミクロ経済学の理解目標と応用事例	
第 3 回	消費理論 1	選ぶということ, 最も良い選び方, 選好の仮定と効用	
第 4 回	消費理論 2	選好の仮定と効用関数	
第 5 回	消費理論 3	無差別曲線, 予算制約	
第 6 回	消費理論 4	限界代替率, 効用の最大化	
第 7 回	配分 1	配分とはなにか, 配分方法, 価格メカニズム	
第 8 回	配分 2	パレート効率性, アローの一般不可能性	
第 9 回	生産理論 1	企業の活動目的, ステークホルダー	
第 10 回	生産理論 2	技術と生産関数	
第 11 回	生産理論 3	利益の最大化と生産の理論	
第 12 回	生産理論 4	費用最小化問題, 平均費用, 限界費用	
第 13 回	社会選択の理論	選挙と多数決原理, マッチング理論	
第 14 回	ゲームの理論	ゲームの理論, 囚人のジレンマ	
第 15 回	まとめと応用	環境経済学への応用	

# 経済

授業番号	B200860001		
科目名 (英語表記)	ミクロ経済学 II (Micro-economics II)		
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>ミクロ経済学の理論の理解を深めます。また、ミクロ経済学 I では扱うことができなかった応用を扱います。I よりも丁寧な定義のもとで、厳密な理論を学ぶことが目標です。</p> <p>厚生経済学、社会選択の理論、労働市場や結婚市場のマッチング理論、ゲームの理論などについて理解し、世の中を経済学によって捉える視点を手に入れます。</p> <p>また、規範的な経済学だけでなく、よりプラクティカルな経済学を学びます。行動経済学、実験経済学を紹介します。</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	<p>ミクロ経済学 II では、履修を制限します。</p> <p>定義をきちんとするため、添え字が多いので、字が正確に見えるように、パソコン教室を使います。</p> <p>PPT とホワイトボードを使って講義をします。</p> <p>最初に実験をして直観的理解を進めます。実験と理論を組み合わせることで、難解な理論もすんなり理解できるようにします。</p>		
成績評価方法	授業のあとの小テストへの回答が 60%、最終テストが 40%です。		
基準			
授業の予習・復習	予習はありませんが、小テストを行うことで復習になります。		
教科書	教科書は白桃書房から出版予定。		
参考文献	授業内容に応じて指示します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	選好の理論	合理的選好の条件、合理的でない選好、 顕示選好の理論と公理。選好の意味を掘り下げます。	
第 2 回	演習による (非) 合理的選好の理解	個人の合理的選好の条件が必要とする、推移性、独立性が敗れる例を体験する。 また、社会選択において、推移性が簡単に敗れることを体験する。	
第 3 回	厚生経済学、パレート効率性による配分の評価	配分の定義、エッジワースボックスの理解、パレート効率性の定義、 パレート改善について理解する。	
第 4 回	社会選択の理論、多数決の評価、アローの一般可能性定理についての演習	演習としてはアローの一般可能性定理の証明を実験によって直観的に理解します。どの公理を緩めるべきなのか考えます。	
第 5 回	ゲームの理論とナッシュ均衡	非協力ゲームの定義をし、利得構造を理解します。戦略における支配的戦略を理解します。 また、ナッシュ均衡があるゲームとないゲームについて理解します。	
第 6 回	協力ゲーム理論	協力ゲームの理解をします。さまざまな利得構造のもとで、協力ゲームにおけるシャープレー値を求めます。合併などの実例を用いて現実妥当性を評価します。	
第 7 回	社会選択の理論：マッチング	スクールチョイスや、医療制度において用いられるマッチングのアルゴリズムを学びます。ゲール・シャープレー方式、ポストン方式の違いを学びます。	
第 8 回	マッチングの実用例	公立高校のスクールチョイスの都道府県による違いを実証的に検証します。	
第 9 回	不確実性下の理論	セント・ペテルスブルグのパラドックスにより、期待値の問題を知ります。その後、期待効用理論を学びます。期待効用理論が説明できない、アレのパラドックスを学びます。	
第 10 回	不確実性下の選択： プライオア理論およびプロスペクト理論	確率がわかっているときの人々の選択によって、プロスペクト理論を学びます。また、確率が客観的に与えられないときの選択によって、 プライオア理論を学びます。	
第 11 回	主観的確率による選択	確率が与えられているのに、その通りに評価しない主観的確率とは何かを選択により学びます。また、エルスバークパラドックスによって、あいまいさ回避を学びます。	
第 12 回	あいまいさ回避と主観的確率形成	保険選択などのベースになるあいまいさ回避について、くじのチョイスを使って理解します。	
第 13 回	利他主義の存在と最後通牒ゲーム	公平さとは何か、望ましい分配とはなにか、利他主義とは何かを直観的に学びます	
第 14 回	市場の失敗：公共財と市場	公共財があるときの市場の失敗を、ゲームを用いて直観的に理解します。ただ乗りの存在を理解し、メカニズムデザインを理解します。	
第 15 回	外部性の理論	外部性があるときの市場の失敗を、環境経済学のフレーミングで理解する	

経済

授業番号	B201190001		
科目名 (英語表記)	民法 I (Civil Code I)		
担当者 (英語表記)	古川 晴雄 (Haruo Furukawa)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	民法は私法の基本であり、民法総則及び物権を学び理解することは社会生活を営む上で、有益であり、寧ろ必要最小限度の知識は必須であると言える。 民法の基礎理論及び物権について講義し、社会人となった際に、私法問題について自らの判断で対処できるに足る基礎的知識を習得することを目的とする		
授業の進め方 (履修条件など)	民法を学んだことのない学生が理解できるように、基本原則を中心に、裁判案件、相談案件、判例等の具体的事例をとりいれて出来るだけわかりやすく講義を進める予定である。 また、物権法については、学生が理解し易いように、所有権、抵当権等の各論を先に講義し、その後総論部分を講義する予定である。 なお、レジメを配布し、レジメを中心に講義を行う予定である。		
成績評価方法 基準	試験成績により成績評価を決定したい。		
授業の予習・復習	基本書による予習、レジメによる復習が望まれる。		
教科書	民法入門の入門 財産編 (中川淳編 法律文化社)		
参考文献	プリメール民法 1 (民法入門・総則 安井宏ほか共著)、 プリメール民法 2 (物権・担保物件 松井宏興ほか共著) (法律文化社)		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	民法の意義と基本原則	民法の意義、民法の基本原則	
第 2 回	権利能力論、行為能力制度	制限行為能力者の保護と相手方保護	
第 3 回	法人論	法人の成立、能力、役割	
第 4 回	権利の客体	物の意義と分類	
第 5 回	法律行為論	法律行為の意義、分類、解釈、目的	
第 6 回	意思表示 1	心裡留保、虚偽表示、錯誤	
第 7 回	意思表示 2	詐欺、強迫	
第 8 回	代理制度 1	代理の意義、代理の構造、復代理	
第 9 回	代理制度 2	無権代理、表見代理	
第 10 回	時効制度	取得時効、消滅時効	
第 11 回	物権総則	物権の意義、種類	
第 12 回	所有権	所有権の意義と効力	
第 13 回	各種物権	占有権、抵当権等の意義と効力	
第 14 回	物権の効力・変動	物権の効力と物権変動と対抗問題	
第 15 回	まとめ	民法総則・物権まとめ	

経済

授業番号	B201200001				
科目名 (英語表記)	民法 II (Civil Code II)				
担当者 (英語表記)	古川 晴雄 (Haruo Furukawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>講義は債権法が中心である。現代社会は多様化し、その対応は社会生活を営む上で、極めて重要となっている。債権法についての最低限の知識を理解をすることは極めて有益である。</p> <p>民法総則・物権 (民法1 前期) とあわせ、学生が、社会生活における私法問題について対処できるに足る基礎的知識の習得に努めたい。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>債権法の分野は極めて広範囲であり多岐にわたっている。そこで、基本原則と重要分野を中心に、できるだけ裁判案件、相談案件、判例等の具体的事例をとりいれてわかりやすく講義を進める予定である。</p> <p>また、学生が理解しやすいように、各論を講義して、その後、総論部分を講義する方法で進めたい。</p> <p>分野が広範囲なこともあり、レジメを配布し、レジメを中心とした講義を行う予定である。</p>				
成績評価方法 基準	試験成績により成績評価を決定したい。				
授業の予習・復習	債権法は、分野が広く多岐にわたるため、基本書による予習、レジメによる復習が望まれる。				
教科書	民法入門の入門 財産編 (中川淳編 法律文化社)				
参考文献	<p>プリメール民法3 (債権総論 宇佐見大司ほか共著)</p> <p>プリメール民法4 (債権各論 大島俊之ほか共著)</p> <p>(法律文化社)</p>				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	物権と債権の相違	物権と債権の違い			
第2回	売買契約	売買契約の要件、機能、効力			
第3回	貸借契約	賃貸借、消費貸借契約等の要件と効果			
第4回	その他契約	贈与、請負、雇用、委任等の要件と効果			
第5回	契約総論1	契約の成立、契約の機能について			
第6回	契約総論2	契約の効力			
第7回	契約総論3	契約の解除			
第8回	事務管理・不当利得	事務管理・不当利得の意義と効果			
第9回	不法行為論1	不法行為 (709条) の要件			
第10回	不法行為論2	不法行為の効果			
第11回	不法行為論3	特殊不法行為 (使用者責任等)			
第12回	債権総論1	債権の効力			
第13回	債権総論2	詐害行為取消権、債権者代位権、債権譲渡等			
第14回	債権総論3	多数当事者関係、弁済、相殺			
第15回	債権法のまとめ	債権法全般のまとめ			

# 経済

授業番号	B201370001				
科目名 (英語表記)	有価証券法 (Negotiable-securities method)				
担当者 (英語表記)	野口 明宏 (Akihiro Noguchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	手形・小切手法のなかで、手形・小切手の定義から白地手形の範囲を解説します。 手形・小切手が経済社会で果たしている役割とその法規制を学んでください。				
授業の進め方 (履修条件など)	要点を黒板に書きながら、授業を進めます。 ノートをとって、知識をまとめるようにしましょう。				
成績評価方法	定期試験と小テストの成績にもとづいて評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習—あらかじめテキストを読んできてください。 復習—自分のノートをもとにテキストを読み返してください。				
教科書	近藤光男編「現代商法入門 (第8版)」有斐閣				
参考文献	必要がある時に、授業の中で紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	受講上の注意、試験の方法			
第2回	約束手形とは	信用の道具、延払いの手段、手形割引			
第3回	為替手形、小切手とは	送金・取立の道具、支払委託証券、自己宛小切手			
第4回	有価証券としての特性	定義、完全有価証券、設権・無因・呈示証券			
第5回	手形行為とは	振出・裏書・保証、要式性・文言性、客観解釈の原則			
第6回	手形行為の無因性、独立性	原因債務の影響を受けない、手形行為の独立性			
第7回	手形行為の成立	署名、記名捺印、手形の交付、手形理論の対立			
第8回	意思表示の瑕疵	制限能力者、心裡留保、錯誤、詐欺、強迫			
第9回	他人による手形行為	代理方式、機関方式			
第10回	手形の偽造	追認、表見代理の成立、偽造者の手形責任			
第11回	手形の変造	手形行為内容の偽り、変造文言による責任			
第12回	手形の振出	振出人の絶対的責任、手形債務と原因債務の併存			
第13回	基本的手形行為	絶対的・有益的・有害的記載事項			
第14回	白地手形1	受取人白地手形、主観・客観・折衷説			
第15回	白地手形2	白地の不当補充、補充期間			



経済

授業番号	B201380001				
科目名 (英語表記)	有価証券法 II (Negotiable-securities method II)				
担当者 (英語表記)	野口 明宏 (Akihiro Noguchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	手形・小切手法のなかで、手形の裏書から小切手の範囲を解説します。 この法律の重要な柱は、善意取得と人的抗弁切断の制度です。 これらの制度は、確実に理解してください。				
授業の進め方 (履修条件など)	要点を黒板に書きながら授業を行います。 ノートをとって、知識をまとめてください。				
成績評価方法	定期試験と小テストの成績にもとづいて評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習—あらかじめテキストを読んでください。 復習—ノートをもとにテキストを読み返してください。				
教科書	近藤光男編「現代商法入門 (第8版)」有斐閣				
参考文献	必要な時に、授業の中で紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	手形の裏書1	当然の指図証券、裏書の方式・効力			
第2回	手形の裏書2	裏書の連続、形式的資格者、裏書の不連続			
第3回	善意取得	即時取得の要件緩和、成立要件			
第4回	手形抗弁	物的・人的抗弁、無権利の抗弁			
第5回	人的抗弁の切断	原則として切断される、悪意の抗弁、権利濫用の抗弁			
第6回	特殊な裏書1	白地式・無担保・裏書禁止・戻裏書			
第7回	特殊な裏書2	期限後・取立委任・質入裏書			
第8回	手形保証	保証債務の附従性、合同責任			
第9回	手形の支払	支払呈示、支払免責、満期前の支払			
第10回	遡求	手形の不渡、銀行取引停止処分			
第11回	消滅時効	短期時効期間、時効の中断			
第12回	利得償還請求権	不公正の是正、手形の所持不要			
第13回	手形の喪失	公示催告、除権決定、催告期間中の善意取得			
第14回	為替手形	支払人が主たる債務者、引受呈示			
第15回	小切手	現金代用物、先日付・自己宛・線引小切手			

# 経済

授業番号	B202660001				
科目名 (英語表記)	流通情報論 (IT and Distribution Industry)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、私たちの生活と密接にかかわる流通についての基礎知識を身につけ、実際の産業界で見られる流通現象を理解することを目標とします。また、流通における新たな動きとしての情報化の流れを概観し、生産者、商業者、消費者等、様々なメンバーが参加する流通システムにおいて観察される変化について理解を深めます。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式で理論とケースを学びます。パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で講義し、必要に応じて、ケース・スタディのためのビデオ教材を用います。流通とは何かを理論的に学び、身近な流通現象についての理解を深めます。				
成績評価方法	中間レポート (40%)、定期試験 (60%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の進行に合わせ参考文献を読んでおくことをおすすめします。 復習：前回の講義資料を再読しておくことをおすすめします。				
教科書	特にありません。毎回必要な資料を作成し講義します。				
参考文献	高嶋克義『現代商業学』有斐閣アルマ、2002年。 石原武政・竹村正明『1からの流通論』碩学舎、2008年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方についての説明			
第2回	小売業者による製販統合	小売業者による製販統合			
第3回	小売業者による製販統合	延期型の流通システム			
第4回	小売業者によるPB開発	小売業者によるPB開発			
第5回	小売業者によるPB開発	製販同盟に基づく共同商品開発			
第6回	商業における革新	商業における革新			
第7回	商業における革新	環境適応と革新			
第8回	変化する小売業	小売業態革新の展開			
第9回	変化する小売業	小売業態革新のパターン			
第10回	変化する卸売業	変化する卸売業			
第11回	変化する卸売業	製販統合への戦略的対応			
第12回	ケース・スタディ	セブン・イレブン			
第13回	中小商業問題	中小商業問題			
第14回	中小商業問題	商業集積における革新の難しさ			
第15回	流通の国際化	流通の国際化			

# 経済

授業番号	B202170001				
科目名 (英語表記)	流通論 (Distributive System)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	私たちの生活に必要な様々な商品・サービスを得るうえで流通は重要な役割を果たします。本講義は、私たちの生活と密接にかかわる流通についての基礎知識を身につけ、実際の産業界で見られる流通現象を理解することを目標とします。加えて、流通の国際化や近年の流通における新たな動きについて学びます。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式で理論とケースを学びます。パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で講義し、必要に応じて、ケース・スタディのためのビデオ教材を用います。流通とは何かを理論的に学び、身近な流通現象についての理解を深めます。				
成績評価方法	中間レポート (40%)、定期試験 (60%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の進行に合わせ参考文献を読んでおくことをおすすめします。 復習：前回の講義資料を再読しておくことをおすすめします。				
教科書	特にありません。毎回必要な資料を作成し講義します。				
参考文献	高嶋克義『現代商業学』有斐閣アルマ、2002年。 石原武政・竹村正明『1からの流通論』碩学舎、2008年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方についての説明			
第2回	商業とは何か	流通の定義と機能			
第3回	商業とは何か	直接流通と間接流通			
第4回	小売商業の構造	小売商業の構造			
第5回	小売商業の構造	商品特性と消費者行動			
第6回	卸売商業の構造	卸売商業の構造			
第7回	卸売商業の構造	多段階流通と消費者費用			
第8回	現代の流通構造	現代の流通構造			
第9回	現代の流通構造	インターネット販売			
第10回	商業における信頼関係	商業における信頼関係			
第11回	商業における信頼関係	信頼関係と市場取引			
第12回	学生によるプレゼンテーション	中間レポートのプレゼンテーション			
第13回	商業におけるパワー関係	商業におけるパワー関係			
第14回	商業におけるパワー関係	パワー関係の形成			
第15回	生産者による流通系列化	生産者による流通系列化			

# 経済

授業番号	B201560001				
科目名 (英語表記)	労働経済論 I (Labor economy theory I)				
担当者 (英語表記)	星 真実 (Masami Hoshi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	総論的講義として、政策史を辿る中から、その法則性・必然性と本質の把握を行う。具体的には、ドイツに始まる「学」としての社会政策が、わが国の「労働経済」として定着するまでの史的考察を行う。「歴史的必然性」と「限界」とをキー概念として用いる。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。				
成績評価方法	授業内小テスト (感想文) と、期末試験により判定する。				
基準					
授業の予習・復習	講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。				
教科書	特に使用しない。				
参考文献	大河内一男『社会政策 (総論)』有斐閣				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス			
第 2 回	はじめに	「労働経済論」の学問領域概説			
第 3 回	労働経済論の対象領域	実践としての労働経済論			
第 4 回	労働経済論の対象領域	学問としての労働経済論			
第 5 回	古典的政策論	成立の歴史的背景			
第 6 回	古典的政策論	ビスマルクの労働者政策			
第 7 回	古典的政策論	「新歴史学派」の政策論			
第 8 回	古典的政策論	日本における「新歴史学派」の継承			
第 9 回	Max Weber の社会科学方法論	「価値自由性」とは			
第 10 回	Max Weber の社会科学方法論	Weber 方法論の検討			
第 11 回	新たな政策論の三潮流	第二次大戦までの政策論概説			
第 12 回	大河内一男の政策「理論」	大河内「理論」概説			
第 13 回	大河内一男の政策「理論」	「社会政策本質論争」とは			
第 14 回	大河内一男の政策「理論」	大河内「理論」の検討			
第 15 回	おわりに	まとめ			

# 経済

授業番号	B201570001				
科目名 (英語表記)	労働経済論 II (Labor economy theory II)				
担当者 (英語表記)	星 真実 (Masami Hoshi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	各論的講義として、労働者・国民の労働・生活条件に密接に関わる現代的な社会問題について、資本制社会という枠組みの中で考察を行う。具体的には、国際比較を交えながら、現代の日本の労働問題について検討する。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。				
成績評価方法	授業内小テスト (感想文) と、期末試験により判定する。				
基準					
授業の予習・復習	講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。				
教科書	特に使用しない。				
参考文献	戸塚秀夫・徳永重良『現代日本の労働問題』ミネルヴァ書房				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス			
第 2 回	日本的雇用慣行の転換	「日本の経営」の三種の神器とは			
第 3 回	労働組合	労働組合とは			
第 4 回	労働組合	労働組合をめぐる政策史			
第 5 回	労働組合	日本の労働組合			
第 6 回	労働組合	いわゆる「連合の時代」のいま			
第 7 回	最低賃金制度	最賃制の成立、決定方式、基準			
第 8 回	最低賃金制度	日本の最低賃金制度 I			
第 9 回	最低賃金制度	日本の最低賃金制度 II			
第 10 回	女子労働	女子労働をめぐる学問			
第 11 回	女子労働	女性の「社会進出」とは			
第 12 回	女子労働	「同一価値労働同一賃金」とは			
第 13 回	女子労働	日本の女子労働 I			
第 14 回	女子労働	日本の女子労働 II			
第 15 回	おわりに	まとめ			

経済

授業番号	B201580001				
科目名 (英語表記)	労働法 (Labor law I)				
担当者 (英語表記)	高橋 良裕 (Yoshihiro Takahashi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	労働基準法の基本的な枠組みの理解を図りつつ、限られた時間の中で、個々の問題に対しアプローチする思考力を養うことを目指したいと思います。				
授業の進め方 (履修条件など)	労働基準法上の制度と解釈論を同法の基本的な枠組みや関係者の利益調整という視点を示しつつ解説を行いたいと思います。また、近年の社会情勢を受けた労働法の改正の動きについても、このような視点からできるだけフォローしたいと思います。				
成績評価方法	定期試験 (80%)・授業参加態度 (20%)。レポートは救済措置とします。骨太な考え方が身に付いているかを重視して評価を行います。				
授業の予習・復習	レジュメの項目から予め流れを掴み、授業のメモ、教科書等を参照して理解を深めてもらいたいと思います。				
教科書	新世社「ライブラリ法学基本講義 労働法」(土田道夫著)				
参考文献	六法、有斐閣「別冊ジュリスト 労働判例百選 (第8版)」, 弘文堂「労働法 (第10版)」(菅野和夫著)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	ガイダンス			
第2回	労働法総論	労働法の意義・理念・指導原理			
第3回	労働契約関係 (1)	労働契約・労働協約			
第4回	労働契約関係 (2)	就業規則			
第5回	労働契約の成立に関する法規整	採用の事由, 採用内定, 試用			
第6回	非典型的労働契約 (1)	有期雇用, パートタイム労働者			
第7回	非典型的労働関係 (2)	他企業労働者			
第8回	賃金 (1)	賃金の意義と体系			
第9回	賃金 (2)	労基法による賃金保護, 最低賃金制度, 賃金債権の履行確保			
第10回	労働時間・休暇 (1)	労働時間・休日の原則, 時間外・休日労働			
第11回	労働時間・休暇 (2), 少子高齢化と労働関係	法定労働時間の弾力化, 柔軟な労働時間制度, 年次有給休暇, 高齢・少子社会の就業援助			
第12回	労働災害の補償	労災補償制度, 労災保険制度, 法定外補償			
第13回	企業秩序と懲戒	服務規律, 企業秩序, 内部告発の保護, 懲戒の意義・根拠と限界等			
第14回	人事	教育訓練, 昇進・昇給・降給			
第15回	労働契約関係終了に関する法規整	解雇以外の終了事由, 解雇			

国際

授業番号	B102590001		
科目名 (英語表記)	アグリ・フードサイエンス (Agriscience and Foodscience)		
担当者 (英語表記)	平井 静 (Shizuka Hirai)、鈴木 祐嘉合 (Yukari Suzuki)、加藤 顕 (Akira Kato)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	日々の生活の中で我々が食している農産物やその生産に関わる地球環境、および加工食品の特性、生理機能、製造・開発、衛生管理などに関する知識の習得を通じて、食品および環境ビジネスにおいて重要な、食の安全・安心の問題や、食品の製造・開発等について自ら考える力を習得することを目的とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業は3名の教官によるリレー方式で行う。パワーポイントまたはプリントを用いた講義を行う。講義時間内に簡単な小テストを行い、理解度を確認する。		
成績評価方法	学習態度、講義時間内に行う小テスト、レポートについて、およそ50:30:20の割合で総合的に評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：講義内容に関する書籍や新聞記事などを読み、予備知識を得ておくことが望ましい。 復習：講義時間内に指示する。		
教科書	オリジナルプリントを配付する。 参考図書は講義時間内に適宜紹介する。		
参考文献	なし		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	アグリフードサイエンス概要	講義内容・講義の進め方など (平井)	
第2回	食品材料とビジネス1	穀類 (鈴木)	
第3回	食品材料とビジネス2	肉・卵 (平井)	
第4回	食品の科学と生理機能1	アミノ酸 (鈴木)	
第5回	食品材料とビジネス3	乳製品 (平井)	
第6回	食品の科学と生理機能2	ビタミン (鈴木)	
第7回	食品の科学と生理機能3	脂質 (平井)	
第8回	食品の科学と生理機能4	糖・食物繊維 (鈴木)	
第9回	地球環境とビジネス1	環境問題とビジネス (加藤)	
第10回	地球環境とビジネス2	排出量取引ビジネス (加藤)	
第11回	地球環境とビジネス3	生物多様性ビジネス (加藤)	
第12回	地球環境とビジネス4	緑化ビジネス (加藤)	
第13回	加工食品と食品開発1	食品添加物概論 (鈴木)	
第14回	加工食品と食品開発2	食品添加物各論 (平井)	
第15回	加工食品と食品開発3	栄養機能食品 (平井)	

国際						
授業番号	B102650001					
科目名 (英語表記)	アグリ・フードビジネス (Agribusiness and foodbusiness)					
担当者 (英語表記)	平井 静 (Shizuka Hirai)、鈴木 祐嘉合 (Yukari Suzuki)、加藤 顕 (Akira Kato)	対象学年	3	単位数	2	
授業のねらいと到達目標	農業に関連した地球環境問題や食の安全性の問題などを理解するとともに、持続的社会的な実現のためのエコシステムやフードビジネスへの展開について、自ら考える力を習得することを目的とする。					
授業の進め方 (履修条件など)	授業は3名の教官によるリレー方式で行う。パワーポイントまたはプリントを用いた講義を行う。講義時間内に簡単な小テストを行い、理解度を確認する。					
成績評価方法	学習態度、講義時間内に行う小テスト、レポートについて、およそ50:30:20の割合で総合的に評価する。					
基準						
授業の予習・復習	予習：講義内容に関する書籍や新聞記事などを読み、予備知識を得ておくことが望ましい。 復習：講義時間内に指示する。					
教科書	オリジナルプリントを配付する。 参考図書は講義時間内に適宜紹介する。					
参考文献	なし					
回数	授業項目	授業内容				
第1回	地球環境とアグリカルチャー1	食品容器とリサイクル (平井)				
第2回	食の安全性1	食品衛生の制度 (鈴木)				
第3回	食の安全性2	食品汚染 (平井)				
第4回	食の安全性3	食中毒 (鈴木)				
第5回	食の安全性4	寄生虫、狂牛病 (鈴木)				
第6回	地球環境とアグリカルチャー2	食料自給率 (平井)				
第7回	食品の科学とフードビジネス1	酒の科学 (平井)				
第8回	副産物の利用とフードビジネス1	食品としての利用～肝障害抑制作用 (鈴木)				
第9回	地球環境とアグリカルチャー3	世界の資源 (加藤)				
第10回	地球環境とアグリカルチャー4	地球温暖化と環境保護 (加藤)				
第11回	地球環境とアグリカルチャー5	森林資源モニタリング (加藤)				
第12回	地球環境とアグリカルチャー6	排出量取引と環境政策 (加藤)				
第13回	食品の科学とフードビジネス2	おいしさの科学～味 (平井)				
第14回	副産物の利用とフードビジネス2	化粧品としての利用 (鈴木)				
第15回	食品の科学とフードビジネス3	おいしさの科学～香り (平井)				



国際

授業番号	B101570001		
科目名 (英語表記)	アフリカ (Area Studies: Africa)		
担当者 (英語表記)	大月 隆成 (Takashige Otsuki)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本から見た場合、アフリカという地域は最もなじみが薄く、様々な面でかけ離れた存在であるため、偏った情報に基づく歪んだイメージが形成されやすい。この授業の狙いは、こうした関係の特殊性に注意しながら、アフリカについての基本的な知識とバランスの取れた見方を身につけてもらうことである。		
授業の進め方 (履修条件など)	ドラマや音楽、文学作品、ドキュメンタリーなどを手がかりに、「アフリカ初心者」にも配慮した「敷居の低い」授業を実施する予定である。		
成績評価方法	課題の提出状況および学期末試験の結果に基づいて行う。		
基準			
授業の予習・復習	予習：日頃からアフリカに関心を持ち、積極的に情報収集を心がける。 復習：授業で出された課題や関連するテーマについて、調べてみる。		
教科書	特定の教科書は使用しない。		
参考文献	伊谷純一郎ほか『アフリカを知る事典』平凡社 大迫秀樹『アフリカのことがマンガで3時間でわかる本』アスカ		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	アフリカ入門 (1)	アフリカの多様性と共通性	
第2回	アフリカ入門 (2)	北アフリカとサハラ以南アフリカ	
第3回	アフリカ入門 (3)	共通性の起源～共通の歴史的経験	
第4回	アフリカの歴史を知る (1)	「ルーツ」～アフリカの伝統社会	
第5回	アフリカの歴史を知る (2)	「ルーツ」～大西洋奴隷貿易	
第6回	アフリカの歴史を知る (3)	「不可思議な国境線」～アフリカ分割	
第7回	アフリカの歴史を知る (4)	「シャーロック・ホームズとアフリカ」～植民地支配	
第8回	アフリカの歴史を知る (5)	「地図のない国」～ギニアの独立	
第9回	アフリカの現在を知る (1)	「ルワンダの義足工房」～アフリカの内戦 (1)	
第10回	アフリカの現在を知る (2)	「ブラッド・ダイヤモンド」～アフリカの内戦 (2)	
第11回	アフリカの現在を知る (3)	「ブラッド・ダイヤモンド」～天然資源の「恵み」	
第12回	アフリカの現在を知る (4)	「ブラッド・ダイヤモンド」～少年兵	
第13回	アフリカの現在を知る (5)	「ディマクコンダ」～深刻なエイズ問題	
第14回	南アフリカを知る (1)	「インビクタス」～アパルトヘイトとネルソン・マンデラ	
第15回	南アフリカを知る (2)	「インビクタス」～アパルトヘイト後の南アフリカ	

国際

授業番号	B101480001				
科目名 (英語表記)	アフリカの歴史と社会 (African History and Society)				
担当者 (英語表記)	大月 隆成 (Takashige Otsuki)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	アフリカは日本人やアジア各地からの留学生にとって、最もなじみの薄い地域である。現在はアフリカに関する情報も溢れているが、日常生活の中でそれらに接する機会は限られている。この授業では、アフリカをほとんど知らない者が、アフリカに関心を持ち、その歴史と社会、問題について理解できるようになることを目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、アフリカを舞台にした映画やドラマ作品を見て学んでいく、「アフリカ初心者」に配慮した授業を実施する予定である。				
成績評価方法	課題の提出状況と期末試験の結果に基づいて評価を行う。				
基準					
授業の予習・復習	予習：日頃からアフリカに関心を持ち、積極的に情報収集を心がける。 復習：授業で出された課題や関連するテーマについて、調べてみる。				
教科書	特定の教科書は使用しない。				
参考文献	伊谷純一郎ほか『アフリカを知る事典』平凡社 大迫秀樹『アフリカのことがマンガで3時間でわかる本』アスカ				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	「ようこそ No.1 レディース探偵社へ」(1)	アフリカの日常風景			
第2回	「ようこそ No.1 レディース探偵社へ」(2)	アフリカの民族と言語			
第3回	「ようこそ No.1 レディース探偵社へ」(3)	ボツワナってどんな国？			
第4回	「ルーツ」(1)	アフリカの伝統社会			
第5回	「ルーツ」(2)	奴隷貿易とは？			
第6回	「ルーツ」(3)	奴隷貿易の残したのもの			
第7回	「ブラッド・ダイヤモンド」(1)	天然資源があるのはいいことか？			
第8回	「ブラッド・ダイヤモンド」(2)	アフリカの内戦			
第9回	「ブラッド・ダイヤモンド」(3)	少年兵を知っていますか？			
第10回	「インビクタス」(1)	南アフリカのアパルトヘイト			
第11回	「インビクタス」(2)	ネルソン・マンデラの人物と生涯			
第12回	「インビクタス」(3)	アパルトヘイト後の南アフリカ			
第13回	「ER 緊急救命室IX」第22話キサンガニ	アフリカの医療事情			
第14回	「ナイロビの蜂」(1)	製薬会社の陰謀			
第15回	「ナイロビの蜂」(2)	背景にある貧困問題			

国際

授業番号	B101620001				
科目名 (英語表記)	アメリカの経済 (American Economy)				
担当者 (英語表記)	織井 啓介 (Keisuke Orii)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	アメリカ経済の最新動向にアプローチします。アメリカのマーケット、マクロ経済、主要企業、金融政策を学べば、世界経済の理解にも役立ちます。英文記事・ニュースも学び、時事英語力も伸ばします。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義とプリントによる簡単な演習が中心です。ノートをしっかり取り、章ごとに整理・復習しましょう。				
成績評価方法	①期末試験 (教場試験またはレポート) 50%、②平常点 50%が評価の目安です。				
基準					
授業の予習・復習	予習：配布プリントで予習するとともに、新聞・テレビで米国の経済ニュースに親しみましょう。 復習：練習問題を自宅で演習し、次の授業時間に答え合わせをしましょう。				
教科書	とくに使用しません。				
参考文献	M.B.Lehman, The Irwin Guide to Using the Wall Street Journal, McGraw Hill, 2005. 地主敏樹他『現代アメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2012年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	「アメリカの経済」講義の概要	講義スケジュール等を説明			
第2回	第1章：市場①	株式市場			
第3回	第1章：市場②	金融市場			
第4回	第1章：市場③	外為市場と商品市場			
第5回	第2章：マクロ経済①	景気サイクル			
第6回	第2章：マクロ経済②	GDP 指標			
第7回	第2章：マクロ経済③	生産・雇用指標			
第8回	第2章：マクロ経済④	物価・国際収支指標			
第9回	第3章：企業動向①	主要企業四半期業績			
第10回	第3章：企業動向②	アグリ・エネルギービジネス			
第11回	第3章：企業動向③	自動車・IT・航空ビジネス			
第12回	第4章：金融・財政①	主要金融機関			
第13回	第4章：金融・財政②	中央銀行と金融政策			
第14回	第4章：金融・財政③	財政と予算プロセス			
第15回	「アメリカの経済」講義のまとめ	総括と補遺事項			

国際

授業番号	B101630001				
科目名 (英語表記)	アメリカの社会 (American Society)				
担当者 (英語表記)	村川 庸子 (Yoko Murakawa)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	アメリカは伝統的な移民国家である。移民は時代毎にアメリカの都市や農村の景観、人種間関係を構築・再構築し、労働市場、家族、教育、文化、宗教、政治など社会のあらゆる部分に影響を与えてきた。本授業ではアメリカの移民政策とこれをめぐる政治について歴史的・現代的視点から考察する。				
授業の進め方 (履修条件など)	事前に配布する資料に基づき、授業開始時に小テストを行う。コーネル式ノート作成法を活用する。積極的な授業への参加を期待する。				
成績評価方法	成績評価は次の方法で行う。①小テスト 40% ②ノート (特にコメント部分を中心に) 60%				
基準	尚、自主的な学習を奨励する意味で、提出されるレポートなどについては加点の対象とする。				
授業の予習・復習	予習：配布資料を読み、概要をまとめること、共感する部分、疑問に思う部分を抜き出しておくこと。 復習：ノートの「コメント」欄を中心にまとめておくこと。				
教科書	特に無し				
参考文献	論文や新聞雑誌記事を事前に配布する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	導入	授業の進め方、成績評価の方法、等 [移民国家であることの意味]			
第2回	講義①	アメリカの歴史と移民政策 --18 - 19 世紀			
第3回	講義②	アメリカの歴史と移民政策 —20 世紀			
第4回	講義③	移民に関する理論—ブッシュ = プル仮説			
第5回	講義④	移民に関する理論—るつぼ、同化、サラダボール			
第6回	講義⑤	移民に関する理論—差別と偏見			
第7回	講義⑥	移民に関する理論—エスニック・アイデンティティ			
第8回	ビデオ	アメリカの公民権運動			
第9回	講義⑦	アメリカの市民権制度—外国人、市民、不法入国者			
第10回	講義⑧	不法入国者政策			
第11回	講義⑨	難民受入政策			
第12回	講義⑩	移民と福祉政策			
第13回	講義⑪	戦争と移民			
第14回	講義⑫	9.11 後の移民政策—ナショナル・セキュリティとの関連で			
第15回	総括	まとめ			

# 国際

授業番号	B101510002		
科目名 (英語表記)	アメリカの政治 (American Politics)		
担当者 (英語表記)	榎田 久代 (Hisayo Kushida)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	授業では、アメリカの政治と社会について、大統領選挙を中心に多方面から取り上げます。特移民の国といわれるアメリカの人口構成とその変化、政治文化の特徴、選挙と代表制、州と連邦の関係、民主党と共和党の二大政党を通して、現代のアメリカ政治および社会に対する理解を深めることを目標としています。		
授業の進め方 (履修条件など)	配布するプリントを中心に進めます。授業参加者の規模にもよりますが、少人数の場合は、時折、みなさんの理解を確認するために、演習形式で行います。		
成績評価方法	期末試験 80%、授業内に適宜行う小レポート 20%。		
基準			
授業の予習・復習	予習：日頃から時事ニュースに関心を持って下さい。 復習：授業内でわからなかったことは、解決するようにして下さい。		
教科書	なし。		
参考文献	渡辺 靖編『現代アメリカ』有斐閣、2009年。他。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	アメリカの今	
第2回	2012年大統領選挙(1)	大統領選挙の仕組み	
第3回	2012年大統領選挙(2)	大統領選挙の結果分析	
第4回	2012年大統領選挙(3)	民主党と共和党の二大政党	
第5回	アメリカの連邦制(1)	The United States of America	
第6回	アメリカの連邦制(2)	連邦政府と州政府	
第7回	アメリカ人と社会(1)	2010年国勢調査の結果とアメリカの民族構成	
第8回	アメリカ人と社会(2)	移民の国と不法移民	
第9回	テロとの戦い(1)	9.11テロの傷跡	
第10回	テロとの戦い(2)	アフガニスタン戦争、イラク戦争	
第11回	超大国の動揺(1)	9.15リーマン・ショック	
第12回	超大国の動揺(2)	アメリカン・ドリーム	
第13回	超大国の動揺(3)	アフターマティプ・アクションの今	
第14回	超大国の同様(4)	世界の中のアメリカ	
第15回	期末試験	期末試験と試験後、試験問題の解説	

国際

授業番号	B102880001				
科目名 (英語表記)	アメリカの文化と社会 (American Culture and Society)				
担当者 (英語表記)	増井 由紀美 (Yukimi Masui)	対象学年	1	単位数	2

授業のねらいと到達目標	アメリカ社会は常に変化し続けています。今あるアメリカ社会／文化はどのようにして作られてきたのでしょうか。植民地時代から現代までを通史的に見て行くことにより、歴史が過去のものではなく現在に生きていることが理解します。
授業の進め方 (履修条件など)	講義が中心となりますが、テーマによっては、授業内討論会、ビデオ鑑賞、リサーチ及び発表が課されます。
成績評価方法	授業内提出物が2点 (それぞれ20%)。期末試験 (60%)。
基準	
授業の予習・復習	授業に関連するテーマの読み物／ビデオが与えられます。それについての感想文が求められます。
教科書	授業内配布資料。
参考文献	

回数	授業項目	授業内容
第1回	アメリカって何?	授業の進め方の説明及びアンケート。
第2回	アメリカ史のはじまりは?	インディアンと入植者、その関係について学びます。
第3回	ピューリタンと現代	17世紀のアメリカ社会を映像を用いながら見て行きます。そして、ピューリタンのものが現代アメリカにどのような形で残されているかを考えます。
第4回	アメリカ建国期の絵画／工芸品	歴史的な人物の顔は、どのように記憶されて行くのでしょうか。有名な絵画、及び工芸品からその秘密を探ります。
第5回	南北戦争、及びその語られ方	リンカーン大統領、『風と共にさりぬ』と外国人にも馴染みのある時代です。当時「人種」がどのように議論されていたのかを見て行きます。
第6回	再建の時代 (工業化と万国博覧会)	近代化のはじまりはどのように起こったのでしょうか。機械と文化がどのように紹介されていたか 1876年のフィラデルフィア万国博覧会について学びます。
第7回	工業化と移民	「都会」がどのように作られて行き、移民がどのようにコミュニティーを作っていたかを見て行きます。
第8回	人権問題と女性活動家	近代化がもたらしたのものには、「市民」の意識改革があります。女性及びマイノリティを焦点に世紀転換期の価値観の変遷を見て行きます。
第9回	都会の問題	20世紀になると写真や映像で記録が残されています。それらを用いながら、20世紀初めの子供の労働やストライキ、都市の腐敗などを見て行きます。
第10回	理論でみる人種問題	アメリカは「るつぼ」「サラダボール」「オーケストラ」「モザイク」? 議論をしながら考えます。
第11回	文学に描かれた人種問題 (1950年代)	バーナード・マラマッドの作品を用いながらユダヤ性について考えます。
第12回	文学に表された人種問題 (1980年代)	アリス・ウォーカーの作品を用いながらアフリカ系アメリカ人の社会について考えます。
第13回	作られ続ける記念碑	アメリカの記念碑について各人が調べて、授業内で報告します。
第14回	変わり続けるアメリカ	1990年代からマルティ・カルチャリズムの教育が盛んになりました。20年経った今、どのような変化が見えるでしょうか。教育、宗教、祭り、コマーシャルなどを取り上げながら、21世紀のアメリカを分析します。
第15回	まとめ&復習	この講義を受ける前と後で、あなたのアメリカ観に変化が生まれ了吗か。意見交換をしながら今学期の学びを振り返ります。

国際

授業番号	B101460001		
科目名 (英語表記)	アメリカの歴史と社会 (American History and Society)		
担当者 (英語表記)	土田 宏 (Hiroshi Tsuchida)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	ジェファソン、リンカン、ケネディの三人の大統領とその時代に焦点を当てて、アメリカ合衆国の歴史を概観し、その在り方を考える。造られた国アメリカの本質を理解することを目標としたい。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義が中心となるが、授業中の積極的な質問や発言などを期待したい。上に述べた三人の大統領に関しては彼らの演説などを読むことになるだろう。		
成績評価方法 基準	定期試験 (筆記) を主な評価基準とする。出席が70パーセントに満たない場合は、自動的に登録放棄と判断する。		
授業の予習・復習	予習: 初回の授業で配る予定表に従って、教科書を読んでおくこと 復習: 毎回の授業内容を確認しておくこと。不明な点は次回の授業で質問すること。		
教科書	土田 宏 『ケネディ [神話] と実像』 中公新書		
参考文献	明石紀雄 『トマス・ジェファソンと「自由の帝国」』 ミネルヴァ 土田 宏 『リンカン 神になった男の功罪』 彩流社		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	はじめに	アメリカ合衆国の意義 独立に至る道	
第2回	独立宣言書 1	宣言書の目的と内容 自明の真理	
第3回	独立宣言書 2	独立宣言書の意義: その後の世代への影響	
第4回	ジェファソン大統領 1	その生涯と人間観: 平等と権利	
第5回	ジェファソン大統領 2	農業への強い思いと教育観	
第6回	ジェファソン大統領 3	合衆国観と大統領としての業績	
第7回	「1830年代」の風潮	「コモンマン」と新しい価値観	
第8回	リンカン大統領 1	その生涯と黒人奴隷観	
第9回	リンカン大統領 2	南北戦争の指揮官としての問題点	
第10回	リンカン大統領 3	奴隷解放宣言の真の意味とは?	
第11回	リンカン大統領 4	ゲティスバーグの演説 赦しの精神	
第12回	リンカン大統領 5	第二次就任演説 国家再統合への呼びかけ	
第13回	1950年代 冷戦	対ソ封じ込め政策 ヨーロッパとアジアと	
第14回	ケネディ大統領 1	その生涯と就任演説	
第15回	ケネディ大統領 2	政策と夢 新しい世界の構築に向けて	

国際					
授業番号	B102930001				
科目名 (英語表記)	アメリカ文学史 (History of American Literature)				
担当者 (英語表記)	有馬 容子 (Yoko Arima)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	17世紀の植民地時代からはじまって、アメリカ文学が成熟する20世紀初頭までの歴史をそれぞれの時代を代表する作品とともに概観します。取り上げる作品はいずれも時代を越えて評価され続けているアメリカを代表する古典ばかりです。古典という敬遠されがちですが、映画やドキュメンタリーなど視覚教材を適宜用いて親しみやすく紹介します。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業中に配布するプリントは学期末レポート作成に欠かせない資料です。配布は各授業時間中に限られるので欠席しないこと。				
成績評価方法	平常点 (毎回作品の内容について自分の考えおよび評価を提出) (60%)、学期末にレポート提出 (40%)。第1回、第2回の授業の両方を欠席した場合は平常点合計の20%を減点する。				
基準					
授業の予習・復習	復習: 興味を持った作品について全体を読み、学期末レポートに備える。				
教科書	プリントおよび作品リストを配布				
参考文献	『はじめて学ぶアメリカ文学史』板橋・高田編著 ミネルヴァ書房 『アメリカ文学史講義』〈1〉～〈3〉亀井 俊介著 南雲堂 『講義 アメリカ文学史』第I巻～III巻 渡辺利雄著 研究社				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義概要	アメリカ文学の背景			
第2回	植民地時代	ベンジャミン・フランクリン『自伝』			
第3回	アメリカ文学の独立期 (1)	①アーヴィング Washington Irving 「スリーピー・ホロー伝説」			
第4回	アメリカ文学の独立期 (2)	②クーパー James Fenimore Cooper 『モヒカン族の最後』			
第5回	アメリカ文学の開花 (1)	①ソーロー Henry David Thoreau 『ウォールデン』			
第6回	アメリカ文学の開花 (2)	②ポー Edgar Allan Poe 「モルグ街の殺人事件」			
第7回	アメリカ文学の開花 (3)	③ホーソーン Nathaniel Hawthorne 『緋文字』			
第8回	アメリカ文学の開花 (4)	④メルヴィル Herman Melville 『白鯨』			
第9回	リアリズムと自然主義 (1)	①トウェイン Mark Twain 『ハックルベリィ・フィンの冒険』			
第10回	リアリズムと自然主義 (2)	②ヘンリー・ジェームズ Henry James 『ある貴婦人の肖像』			
第11回	リアリズムと自然主義 (3)	③ロンドン Jack London 『野生の呼び声』			
第12回	リアリズムと自然主義 (4)	④ドライサー T. Dreiser 『アメリカの悲劇』			
第13回	アメリカ文学の成熟 (1)	①フィッツジェラルド F. Scott Fitzgerald 『偉大なるギャツビー』			
第14回	アメリカ文学の成熟 (2)	②スタインベック John Ernst Steinbeck 『怒りの葡萄』			
第15回	アメリカ文学の成熟 (3)	③ヘミングウェイ Ernest Hemingway 『老人と海』			



国際

授業番号	B102890001				
科目名 (英語表記)	イギリスの文化と社会 (Culture and Society of Great Britain)				
担当者 (英語表記)	新堀 司 (Tsukasa Niibori)	対象学年	1	単位数	2

授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、イギリスの文化と社会の諸相を学習することを通じて、イギリスという異文化社会に対する理解を深めることである。到達目標としては、イギリスの文化と社会に関する基礎的な知識を身につけることである。
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、異なるテーマ (多様性など) にそって解説を行う。その際、Power Point などを用いる。授業の最後に、まとめとして問題演習 (プリント、提出) を行う。
成績評価方法	提出物 (問題演習、35%)、学期末の試験の結果 (65%) による総合的評価。
基準	
授業の予習・復習	予習：必要に応じて指示。 復習：必要に応じて指示。
教科書	プリントおよび Power Point を使用する。
参考文献	授業中に指示する。

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方などの説明
第 2 回	多様性	イギリスの各地域の概要など
第 3 回	イギリスとヨーロッパ	イギリスとヨーロッパの関わり
第 4 回	ロンドン	ロンドンの形成など
第 5 回	王室	王室の概要など
第 6 回	政治	政治システムなど
第 7 回	教育	教育制度など
第 8 回	祭り	主だった祭りなど
第 9 回	スポーツ	サッカーなど
第 10 回	食生活	紅茶など
第 11 回	交通	鉄道など
第 12 回	環境保護	ナショナル・トラストなど
第 13 回	神話・伝説	ケルト神話など
第 14 回	芸術	絵画など
第 15 回	まとめ	授業内容の総まとめ

国際						
授業番号	B102940001					
科目名 (英語表記)	イギリス文学史 (History of English Literature)					
担当者 (英語表記)	新堀 司 (Tsukasa Niibori)	対象学年	2	単位数	2	
授業のねらいと到達目標	この授業では、イギリスの中世文学期から 20 世紀文学期ぐらいまでをとりあげる。授業のねらいは、それぞれの文学期の概要、主要作家・作品などを学習することによって、イギリスの文学に関する理解を深めることである。到達目標は、各文学期の概要、主要作家・作品、用語などに関する基礎的な知識を身につけることである。					
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を通じて、イギリスの各文学期の特徴、主要作家・作品、用語などを学び、その後各文学期に関連した作品からの引用 (原文、訳文) を読み、最後に問題演習 (主要作家・作品の穴埋め、用語の説明) を行う。					
成績評価方法	提出物 (問題演習プリント : 35%)、試験の結果 (65%) による総合的評価。					
基準						
授業の予習・復習	予習 : 毎回 1 つの章程度進むので、それに応じて教科書を読んでくること。 復習 : 必要に応じて指示。					
教科書	川崎寿彦、『イギリス文学史入門』、研究社、およびプリント。					
参考文献	授業中に指示。					
回数	授業項目	授業内容				
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方などの説明				
第 2 回	古期から中世へ	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習				
第 3 回	ルネッサンスが花ひらく	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習				
第 4 回	演劇の時代の到来	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習				
第 5 回	そしてシェイクスピア登場	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習				
第 6 回	シェイクスピアの劇場	ルネッサンス期の劇場、名台詞など				
第 7 回	時代は清教徒革命に向かう	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習				
第 8 回	清教徒革命の後	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習				
第 9 回	十八世紀の散文、詩、そして劇	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習				
第 10 回	小説時代の到来	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習				
第 11 回	ロマン主義の光と影	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習				
第 12 回	ヴィクトリア朝の詩と散文	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習				
第 13 回	ヴィクトリア朝の小説	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習				
第 14 回	20 世紀の文学	主要作家・作品など				
第 15 回	まとめ	授業内容の総まとめ				

国際					
授業番号	B101500001				
科目名 (英語表記)	イスラムの歴史と社会 (Islamic History and Society)				
担当者 (英語表記)	水口 章 (Akira Mizuguchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	今日の「世界史」の観点では、かつて「中洋」といわれた地域の歴史の欠落がしばしば見られます。本講義では、そこを埋め、バランスのとれた歴史認識を身につけてもらうため、イスラム商業圏やモンゴル帝国の歴史を取り上げます。そのことで、新たな「世界史」の起点について考え、歴史観を形成することを到達目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	各回授業は基本的には講義形式をとります。また、毎回授業の終わりに、授業内容について意見をまとめた短文を書いてもらいます。				
成績評価方法	学習態度 (課題レポート、討論参加、出席状況) 20%、定期試験 80% で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。 復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べて理解を深めてください。				
教科書	宮崎正勝『世界史の誕生とイスラーム』原書房、2009年3月				
参考文献	タミム・アンサーリー (小沢千重子訳)『イスラームから見た「世界史」』紀伊國屋書店、2011年9月 三木亘『世界史の第二ラウンドは可能か』平凡社、1998年9月				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	はじめに	「世界史」における西アジア史のとらえ方			
第2回	イスラムの成立	イスラムの教義について			
第3回	教団の発展	イスラム共同体について			
第4回	世俗的イスラム王朝 1	大征服運動の世界史的意義			
第5回	世俗的イスラム王朝 2	ウマイヤ朝について			
第6回	世俗的イスラム王朝 3	アッバース朝について			
第7回	巨大商業圏の成立	交易路について			
第8回	巨大商業圏の実態	商業ネットワークについて			
第9回	巨大商業圏の拡大	海が結ぶ商業圏について			
第10回	イスラム文明の国際性	文明の交流について			
第11回	騎馬遊牧民の支配 1	トルコ人の台頭について			
第12回	騎馬遊牧民の支配 2	モンゴル帝国のユーラシア世界の再編について			
第13回	騎馬遊牧民の世界 3	モンゴル帝国崩壊後の世界について			
第14回	騎馬遊牧民の支配 4	オスマントルコについて			
第15回	まとめ	「世界史」の起点とは			

国際					
授業番号	B104460001				
科目名 (英語表記)	いのちと環境 (Life and Environmental)				
担当者 (英語表記)	池谷 美佐子 (Misako Ikeya)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	身近な生物の生態や現状を、環境とのかかわりを通してとらえ、「いのち」と環境への関心を深めていく。さらに、人間と身近な生物・人間と自然環境・人間の日常生活や人間と科学等についての理解を深めながら、地球の環境問題への関心を高めていく。また、それらをふまえ、小学校における環境教育についての関心と理解につなげていく。				
授業の進め方 (履修条件など)	環境問題について、身近な問題として関心を持ち、情報収集を実践できることが必要である。				
成績評価方法	リアクションペーパー	授業への関心意欲	期末試験		
基準					
授業の予習・復習	予習： 授業内容に関連する情報を収集整理しておく。 復習： 授業内容をまとめ、情報整理しておく。				
教科書	プリント配布				
参考文献	適宜紹介				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方について解説			
第2回	身近な生き物たち	里山、河川、海、都会など身近に生息する生き物について種類や生息の現状を知り、生き物たちと環境について関心を高める。			
第3回	生き物と環境	動植物が生きるための環境について考える。			
第4回	生き物相互の関係	動植物の生息における相互の関係を「いのち」と環境の視点で考える。			
第5回	人間の生活と動植物	人間が生きることと動植物とのかかわりについて考える。			
第6回	人間生活の変化と動植物	近・現代社会における人間生活の変化と動植物の関係について考える。			
第7回	人間の生活と環境 ( 1 )	人間生活における「衣」と動植物や環境とのかかわりについて考える。			
第8回	人間生活と環境 ( 2 )	人間生活における「食」と動植物や環境とのかかわりについて考える。			
第9回	人間生活と環境 ( 3 )	人間生活における「住」と動植物や環境とのかかわりについて考える。			
第10回	地球環境の変化	最近の地球環境の変化とその原因について考える。			
第11回	日本の環境問題	日本の環境問題の変遷と各時代の対応について考える。			
第12回	地球の環境問題	地球の環境問題について知り、様々な取り組みをもとに地球の環境問題の解決について考える。			
第13回	環境教育	日本の小学校における環境教育の現状と課題について考える。			
第14回	環境教育の実践	環境教育の実践について学び、今後の望ましい実践の在り方について考える。			
第15回	まとめ	いのちと環境という視点から環境問題をまとめ、環境教育の今後の在り方を考え、討論する。			

国際		
授業番号	B102950002	
科目名 (英語表記)	異文化コミュニケーション (Intercultural Communication)	
担当者 (英語表記)	嶋川 洋一 (Youichi Shimakawa) 対象学年 2 単位数 2	
授業のねらいと到達目標	国内外で多様化する生活、教育、そして労働環境下で、異なる考え方や行動様式を持つ人々と協働し、共生していくために必要な姿勢、技能、知識 (英語では Attitude, Skill, Knowledge 略して ASK) を身につけることを目標にしています。	
授業の進め方 (履修条件など)	教科書の事例や講師が選んだケースや映画などの場面を中心に異文化コミュニケーションの様々な側面を学生同士、講師とともにディスカッションして行きます。日本語を聞く、話す、読む、書く能力とコミュニケーションに参加する積極的な態度が必要です。異文化コミュニケーションのケース・映画には英語のものも含まれますので、英語の理解力もある程度必要です。	
成績評価方法 基準	遅刻は2回で1回欠席となります。出席は前提条件です。出席が3分の2以下になると、仮にレポートなどの評価が良くても、不合格となります。 1. 参加度 (30点満点) 2. 個人の提出物・レポート (30点満点) 3. 調査プロジェクトのチーム発表とチーム・レポート (それぞれ20点、計40点満点) 以上を総合して100点満点で評価します。	
授業の予習・復習	予習：指定された課題は期限までに指定の形式厳守で用意してください。ディスカッションに参加するためには指定された教科書の予習が必要です。	
教科書	久米昭元・長谷川典子『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』 (有斐閣選書2007) ISBN978-4-641-28108-0 1800円 (税別)	
参考文献		
回数	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション 異文化コミュニケーション入門	コース概観 異文化コミュニケーションとは?
第2回	国内で起きる摩擦 第1章:	異文化コミュニケーションモデル 異文化分析 (映画) 日本在住外国人に関する課題についてディスカッション
第3回	国内で起きる摩擦第2章:	帰国日本人に関する課題についてディスカッション
第4回	国内で起きる摩擦第3章	異文化コミュニケーションに関する課題についてディスカッション
第5回	異文化コミュニケーション事例分析	海外留学体験事例に関してのディスカッション
第6回	海外で起きる摩擦 第4章:	海外留学に関する課題についてディスカッション
第7回	海外で起きる摩擦 第5章:	海外赴任に関する課題についてディスカッション
第8回	海外で起きる摩擦 第6章:	海外旅行に関する課題についてディスカッション
第9回	異文化適応プロセス	映画鑑賞と分析 個人レポート提出締切
第10回	国際舞台で起きる摩擦 第7章:	国際交渉に関する課題についてディスカッション
第11回	国際舞台で起きる摩擦 第8章:	国際協力に関する課題についてディスカッション 「郷に入っては郷に従え?」
第12回	国際舞台で起きる摩擦 第9章:	マスメディアとパーセプション・ギャップ 「ルワンダの悲劇」
第13回	終章: 異文化摩擦の要因	たとえば話に見られる価値観、倫理観の考察とディスカッション
第14回	調査プロジェクト発表	チーム毎の調査結果の発表1
第15回	調査プロジェクト発表続き	チーム毎の調査結果の発表2 総括

国際

授業番号	B102950003				
科目名 (英語表記)	異文化コミュニケーション (Intercultural Communication)				
担当者 (英語表記)	田村 孝 (Takashi Tamura)	対象学年	2	単位数	2

授業のねらいと到達目標 学校の教室に異なる文化的背景をもった子どもたちが入ってきた場合にどのようなことが起こるのかを、フランスを例にとって学ぶことを目的とする。

授業の進め方 (履修条件など) 簡単なオリエンテーションの後、映画「パリ 20 区僕たちのクラス」(原作フランソワ・ペゴドー) を教室で見る。ついで移民社会フランスの抱えている諸問題を検討する。これらの問題が将来日本の学校の教室に現れる可能性があるからである。

成績評価方法 試験による。評価基準は、講義内容をどれぐらい理解しているか、またどの程度明快な日本語で書けているかによる。

授業の予習・復習 どちらも特に必要とはしないが、日常、新聞・TV などの記事や報道で移民の動向などを見ておくことが望ましい。

教科書 特になし

参考文献 フランソワ・ペゴドー『教室へ』早川書房 1500 円? 税  
増田ユリヤ『移民社会フランスで生きる子どもたち』岩波書店 1900 円? 税  
宮島喬『移民社会フランスの危機』岩波書店 2800 円? 税

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	オリエンテーション	受講上の注意
第 2 回	映画「パリ 20 区僕たちのクラス」鑑賞 (1)	簡単な説明ののち鑑賞
第 3 回	同 上 (2)	同 上
第 4 回	19 世紀ヨーロッパ史	列強の植民地獲得競争について
第 5 回	フランスという国	地誌、民族、産業、学校制度
第 6 回	移民とフランス社会	移民受け入れの変遷
第 7 回	移民とフランス社会 (2)	フランス国家の理念
第 8 回	移民とフランス社会 (3)	統合と多様性
第 9 回	移民とフランス社会 (4)	平等と失業
第 10 回	移民とフランス社会 (5)	宗教
第 11 回	移民とフランス社会 (6)	スカーフ事件
第 12 回	移民とフランス社会 (7)	ライシテと排除
第 13 回	フランスの学校	小学校の例
第 14 回	フランスの学校 (2)	教育困難な中学校
第 15 回	総括	まとめ

国際

授業番号	B100910001				
科目名 (英語表記)	English for Children I (English for Children I)				
担当者 (英語表記)	Jayne Ikeshima (Jayne Ikeshima)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This is a course to introduce students to the traditional rhymes, games, and songs played and sung by American children. At the end of the course students will understand and be able to sing or recite all of the items in the syllabus.				
授業の進め方 (履修条件など)	Class space is limited so students who want to be in the class should attend on the first day.				
成績評価方法 基準	Grading will be based on attendance and classwork, homework, quizzes, and tests.				
授業の予習・復習	Students should try to use as much English as possible in their daily lives. Students should review the class material after each class and do any homework that was assigned.				
教科書	Printed material				
参考文献	Students should bring a dictionary to class.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Lesson 1	Introductions			
第 2 回	Lesson 2	Eensy Weensy Spider			
第 3 回	Lesson 3	Peanut Butter			
第 4 回	Lesson 4	Head and Shoulders			
第 5 回	Lesson 5	Rain Rain Go Away			
第 6 回	Lesson 6	Bingo			
第 7 回	Lesson 7	Review			
第 8 回	Lesson 8	Test			
第 9 回	Lesson 9	The Ants go marching			
第 10 回	Lesson 10	Skinamarink			
第 11 回	Lesson 11	Word puzzles and jokes			
第 12 回	Lesson 12	There was an old woman			
第 13 回	Lesson 13	U.S. animated cartoons			
第 14 回	Lesson 14	Review			
第 15 回	Lesson 15	Test			

国際

授業番号	B100920001				
科目名 (英語表記)	English for Children II (English for Children II)				
担当者 (英語表記)	Jayne Ikeshima (Jayne Ikeshima)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This course is a continuation of English for Children I. It will introduce students to more of the traditional rhymes, games, and songs played and sung by American children. At the end of the course students will understand and be able to play, sing, and recite a variety of songs and games.				
授業の進め方 (履修条件など)	Class space is limited so students who want to be in the class should attend on the first day.				
成績評価方法 基準	Grading will be based on attendance and classwork, quizzes, and tests.				
授業の予習・復習	Students should try to use as much English as possible in their daily lives. Students should review the class material after each class and do any homework that was assigned.				
教科書	Printed material.				
参考文献	Students should bring a dictionary to class.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Lesson 1	Introductions			
第 2 回	Lesson 2	Counting games			
第 3 回	Lesson 3	Alphabet games			
第 4 回	Lesson 4	Songs			
第 5 回	Lesson 5	Rhymes and Rhythms			
第 6 回	Lesson 6	Poems			
第 7 回	Lesson 7	Reading stories			
第 8 回	Lesson 8	Test			
第 9 回	Lesson 9	Jazz chants			
第 10 回	Lesson 10	Jokes and riddles			
第 11 回	Lesson 11	Word puzzles			
第 12 回	Lesson 12	Vocabulary and hidden pictures			
第 13 回	Lesson 13	Television and cartoons			
第 14 回	Lesson 14	Review			
第 15 回	Lesson 15	Test			



国際

授業番号	B102760001				
科目名 (英語表記)	英語学概論 (Introduction to English Philology)				
担当者 (英語表記)	加藤 希 (Nozomi Kato)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	英語学とは、言語学の一部門で、English Philology (Linguistics)、すなわち英語「言語学」ということです。つまり単なる英語の勉強ではなく、人間というものの性質を総合的に捉えようとする「認知科学」の一部といえます。英語の音・語・文・変遷等を、具体例を通して分析し、英語力だけでなく認知科学的思考力を高めることが、この授業の目標です。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業は、講義・演習・ディスカッション・発表を織り交ぜた形で進めますので、受動的ではなく能動的な参加が求められます。また、毎回授業の「始め」に小テストを行い、前回の授業内容の理解を確認します。				
成績評価方法	毎回の小テスト (50%)・中間・期末試験 (40%)・課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書の問題を解いておくこと 復習：問題を解き直し、解答に至るプロセスを確認すること				
教科書	影山太郎他著 First Steps in English Linguistics 2nd Edition くろしお出版				
参考文献	授業中に提示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講上の諸注意、導入活動			
第 2 回	Knowledge of Language	Why Study English Linguistics			
第 3 回	History of English	How English Has Changed over the Centuries			
第 4 回	Morphology	How Words Are Made			
第 5 回	Semantics I	How Words Mean			
第 6 回	Syntax I	How English Phrases Are Formed			
第 7 回	Syntax II	How English Sentences Are Formed			
第 8 回	Semantics II	How Sentences Mean			
第 9 回	中間試験	試験、解説、前半の総復習			
第 10 回	Pragmatics	How to Communicate with Other People			
第 11 回	Phonetics and Phonology	The Sounds of English			
第 12 回	Sociolinguistics I	Regional Varieties of English			
第 13 回	Sociolinguistics II	English in Society			
第 14 回	Psycholinguistics	How English Is Acquired			
第 15 回	Applied Linguistics	How English as a Second/Foreign Language Is Acquired			

国際

授業番号	B102850001		
科目名 (英語表記)	英語学特講 II (English Philology II)		
担当者 (英語表記)	加藤 希 (Nozomi Kato)	対象学年	3
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	英語学特講 II では、英語学の中でも「生成文法」を学びます。生成文法では、いわゆる「学習文法」と違い、人の脳に生まれつきインプットされていると予測される文法体系を解明することを研究目標としています。先行研究で議論されている仮説とその検証の方法を理解し、科学的分析の方法を学ぶことが、この授業の目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業は、講義・演習・ディスカッション・発表を織り交げた形で進めます。また、毎回授業の「始め」に小テストを行い、前回の授業内容の理解を確認します。「英語学概論」を履修済みであることを望みます。		
成績評価方法	毎回の小テスト (50%)・中間・期末試験 (40%)・課題 (10%)		
基準			
授業の予習・復習	予習：教科書を読んで、課題問題を解くこと 復習：問題を解き直し、解答に至るプロセスを確認すること		
教科書	岸本秀樹著 『ベーシック生成文法』 ひつじ書房		
参考文献	授業中に提示します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	受講上の諸注意、導入活動	
第 2 回	ことばに対する考え方	科学的なことばの分析方法	
第 3 回	ことばの獲得の不思議	合理主義と経験主義	
第 4 回	普遍文法	原理と変数	
第 5 回	ことばの部品	語彙範疇と機能範疇	
第 6 回	文法の核心	統語構造	
第 7 回	構造の一般化	X バー理論	
第 8 回	文の構造を考え直す	普段は見えない構造	
第 9 回	中間試験	試験、解説、前半の総復習	
第 10 回	意味役割	意味役割とその種類	
第 11 回	能動と受動	「格」の存在意義	
第 12 回	名詞らしくない名詞	数量詞と代名詞	
第 13 回	目に見えない主語	コントロールと上昇	
第 14 回	目的語のような主語	自動詞の日英比較	
第 15 回	主語の本当の出所	動詞句内主語仮説	

国際

授業番号	B103950001				
科目名 (英語表記)	英語科指導法 I (Teaching Methods in English I)				
担当者 (英語表記)	柳原 由美子 (Yumiko Yanagihara)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	英語科指導法 I では、中学校・高等学校の英語教員として知っておくべき英語教育理論や各種教授法の概要を理解することを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回レジメを配布し、その単元で習得すべき事柄を最初に表示し、それに沿って授業を展開していきます。教科書を用いて講義を行っていきますので、履修者は必ず教科書を購入してください。				
成績評価方法 基準	1) 筆記試験 (中間・期末) 50% 2) 英語教授法に関する英語文献の要約 (発表とデモンストレーション) 30% 3) 授業への参加度 20%				
授業の予習・復習	予習: 予告されている次回の授業に関する教科書の各章を読んでおくこと 復習: 毎回配布されるレジメに書かれている、各単元での重要事項の理解がなされているかどうか、各自確認すること				
教科書	望月昭彦 編著 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 大修館書店				
参考文献	初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	クラス・オリエンテーション	授業の進め方、評価、参考文献、プレゼンテーションなどについての説明			
第 2 回	英語教育と英語教育学	英語教育の目的、日本における英語教育の存廃論・実用論・教養論、英語教育と英語科教育、英語教育学とは何か			
第 3 回	英語の国際化と日本の英語教育 (1)	国際化時代の英語の役割、国際語としての英語			
第 4 回	英語の国際化と日本の英語教育 (2)	国際語としての英語の特徴、国際コミュニケーションとしての英語教育、EIL と日本の英語教育			
第 5 回	学習指導要領	学習指導要領とは、その変遷と特色 (中学と高校)			
第 6 回	学習者	発達の要因、適正要因、認知的要因、動機づけなど			
第 7 回	英語教員	英語教師の役割、教師が関わるさまざまな要因、学習内容定着への工夫など			
第 8 回	中間試験	試験の解説 (復習)			
第 9 回	小学校における外国語 (英語) 活動	外国語活動新設の経緯、教育課程上の位置づけ、外国語活動の目標と内容、コミュニケーション能力の「素地」と「基礎」、英語ノート			
第 10 回	英語教授法 1 (はじめに)	英語教授法に関する英語文献の概略説明			
第 11 回	英語教授法 2 (発表と実践)	Grammar Translation Method, Oral Method			
第 12 回	英語教授法 3 (発表と実践)	Direct Method, Reading Method			
第 13 回	英語教授法 4 (発表と実践)	Audio Lingual Method, Restoring the Cognitive Element			
第 14 回	英語教授法 5 (発表と実践)	Natural Language Learning, Eclectic Approach			
第 15 回	英語教授法 (まとめ)	論争分野			

国際

授業番号	B103960001				
科目名 (英語表記)	英語科指導法 II (Teaching Methods in English II)				
担当者 (英語表記)	柳原 由美子 (Yumiko Yanagihara)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	英語科指導法 II では、英語科指導法 I (前期) で学習した基礎理論を踏まえて、実践に必要な知識と技術を習得することを目的とします。特に英語の 4 技能 (リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング) の指導方法や指導上の問題点、留意点などについて、具体例や授業のビデオなどを用いながら解説します。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回レジュメを配布し、その単元での習得すべき事柄を最初に提示し、それに沿って授業を展開していきます。原則として、「英語科指導法 I」を履修済みの学生を対象とします。				
成績評価方法	1) 筆記試験 (中間・期末) 60%				
基準	2) 4 技能の一つを選択し、簡単な指導案の作成と模擬授業 (実習) 40%				
授業の予習・復習	予習: 予告されている次回の授業に関する教科書の各章を読んでおくこと 復習: 毎回配布されるレジュメに書かれている、各単元での重要事項の理解がなされているかどうか、各自確認すること				
教科書	望月 昭彦 編著 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 大修館書店				
参考文献	初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	クラス・オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、参考文献、プレゼンテーションなどについての説明			
第 2 回	題に言語習得と英語教育 (1)	英語教育における第二言語習得研究の意義、第二言語とは、第二言語の習得と言語観			
第 3 回	第二言語習得と英語教育 (2)	第二言語習得研究と英語教育、教室内第二言語習得の諸問題			
第 4 回	コミュニケーション能力の育成	コミュニケーションとは、コミュニケーション能力とは、コミュニケーション・ストラテジーとは、コミュニケーション活動の特徴			
第 5 回	リスニング (1)	リスニングとは、その諸相と指導の視点、指導過程			
第 6 回	リスニング (2)	リスニングに関する授業のビデオ視聴と討論			
第 7 回	中間試験	試験の解説 (復習)			
第 8 回	スピーキング (1)	スピーキングとは、その諸相と指導の視点、指導過程			
第 9 回	スピーキング (2)	スピーキングに関する授業のビデオ視聴と討論			
第 10 回	リーディング (1)	リーディングとは、その諸相と指導の視点、指導過程			
第 11 回	リーディング (2)	リーディングに関する授業のビデオ視聴と討論			
第 12 回	ライティング (1)	ライティングとは、その諸相と指導の視点、指導過程			
第 13 回	ライティング (2)	ライティングに関する授業のビデオ視聴と討論			
第 14 回	ミニ授業 (1)	学生による模擬授業 (15 分間) (4 技能のどれかを選択して)			
第 15 回	ミニ授業 (2)	学生による模擬授業 (15 分間) (4 技能のどれかを選択して)			

国際					
授業番号	B103970001				
科目名 (英語表記)	英語科指導法 III (Teaching Methods in English III)				
担当者 (英語表記)	柳原 由美子 (Yumiko Yanagihara)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	英語科指導法Ⅲでは、実際に授業をする場合必要となる1コマ(45分)の授業案の作成ができるようになることを目的とします。そのために、チーム・ティーチング、テストングと評価、マルチメディア機器の活用、教材、授業の運営、学習指導案の書き方などについて学習します。				
授業の進め方(履修条件など)	毎回レジュメを配布し、その単元で習得すべき事柄を最初に提示し、それに沿って授業を展開していきます。原則として、「英語科指導法Ⅱ」を履修済みの学生を対象とします。				
成績評価方法	1) 筆記試験(中間・期末) 80%				
基準	2) 試験の作成と採点(実習) 20%				
授業の予習・復習	予習: 予告されている次回の授業に関する教科書の各章を読んでおくこと 復習: 毎回配布されるレジュメに書かれている、各単元での重要事項の理解がなされているかどうか、各自確認すること				
教科書	望月 昭彦 編著 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 大修館書店				
参考文献	初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	クラス・オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法、参考文献、プレゼンテーションなどの説明			
第2回	チーム・ティーチング	JETプログラム、TTの理論・定義とその課題、効果的な役割分担、具体的な指導方法			
第3回	測定と評価(1)	測定とは、評価とは、テストの種類、テスト作成の条件			
第4回	測定と評価(2)	実験結果の簡単な処理方法、実習を含む			
第5回	EラーニングとCALL教室	ICTと語学教育(LLからCALLへ)、CALLの機能と活用、さまざまな授業場面における利用方法			
第6回	教科書と教材研究	教材とは、教材研究の意義、教科書で教えるということ、教材分析と評価の視点、教材の全体的/個別的分析			
第7回	中間試験	試験の解説(復習)			
第8回	文法の学習と指導(1)	コミュニケーションと文法の知識、文法指導の目的と課題、習得の補助手段としての学校文法、文法指導の理論と方法			
第9回	文法の学習と指導(2)	コミュニケーションを指向した文法指導、文法指導に関する授業のビデを視聴と討論			
第10回	語彙と辞書検索指導	語の形態的特徴、語と語の意味関係、語と語の連結、意味の透明性、語義検索と品詞・連結など			
第11回	授業運営	1コマの授業の流れ(授業の前に、復習・ウォームアップ・導入、展開、まとめ)、授業分析の目的、代表的な授業分析方法			
第12回	学習指導案の書き方	学習指導案作成の目的、学習指導案の書き方、作成			
第13回	模擬授業(1)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論			
第14回	模擬授業(2)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論			
第15回	模擬授業(3)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論			

国際

授業番号	B103980001		
科目名 (英語表記)	英語科指導法 IV (Teaching Methods in English IV)		
担当者 (英語表記)	柳原 由美子 (Yumiko Yanagihara)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	「英語科指導法 I、II、III」で学習した英語教育理論やさまざまな教授法の理論を踏まえて、実際に授業をする場合の準備、および進め方の演習を行います。したがって、履修者は実際に作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行い、授業後に全員でディスカッションをし、教育実習に向けての準備を目的とします。		
授業の進め方 (履修条件など)	はじめに外部講師を招いて、教育実習の心構え等を話してもらいます。その後は各自学習指導案を作成し、模擬授業を実施、討論をします。原則として「英語科指導法 I、II、III」を履修済みの学生を対象とします。		
成績評価方法 基準	1) 学習指導案の作成 30% 2) 模擬授業の実施 (実習) 40% 3) 模擬授業後の討論への参加 30%		
授業の予習・復習	予習: 学習指導案の作成・模擬授業の準備		
教科書	望月 昭彦 編著 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 大修館書店		
参考文献	初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	外部講師による講義 (1)	英語教育現場の現状と問題点、教員採用試験などについての講義、夏休みの宿題であった学習指導案の提出	
第 2 回	外部講師による講義 (2)	提出した学習指導案についての総評、模擬授業の実施と討論	
第 3 回	模擬授業 (1)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第 4 回	模擬授業 (2)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第 5 回	模擬授業 (3)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第 6 回	模擬授業 (4)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第 7 回	模擬授業 (5)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第 8 回	模擬授業 (6)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第 9 回	模擬授業 (7)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第 10 回	模擬授業 (8)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第 11 回	模擬授業 (9)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第 12 回	模擬授業 (10)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第 13 回	模擬授業 (11)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第 14 回	模擬授業 (12)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第 15 回	模擬授業 (13)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	

国際					
授業番号	B102780001				
科目名 (英語表記)	英語史 (History of the English Language)				
担当者 (英語表記)	新堀 司 (Tsukasa Niibori)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいはイギリスの歴史・文化を学びながら、英語という言葉に関する理解を深めることである。到達目標は英語の歴史 (古英語期、中英語期、近代英語期、現代英語期) に関する基礎的な知識を身につけることである。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を用いて解説を行い、その後問題演習 (提出) を実施する。問題演習の内容はその都度指示する。なお、必要に応じてプリントを配布する。				
成績評価方法	提出物 (問題演習、35%)、学期末の試験の結果 (65%) による総合的評価。				
基準					
授業の予習・復習	予習：指定した教科書の部分を読むこと。 復習：必要に応じて指示。				
教科書	中尾俊夫・寺島廸子、『図説 英語史入門』、大修館書店。加えて、プリントを用いる。				
参考文献	授業中に指示。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業内容などの説明			
第 2 回	英語の始まりー古英語期 ①	時代背景、方言、借入語			
第 3 回	英語の始まりー古英語期 ②	アルファベット、発音			
第 4 回	英語の始まりー古英語期 ③	古英語の語形など			
第 5 回	中英語期 ①	時代背景、方言、借入語			
第 6 回	中英語期 ②	チョーサーの英語、発音			
第 7 回	中英語期 ③	中英語の語形など			
第 8 回	近代英語期 ①	時代背景、コクニー、借入語			
第 9 回	近代英語期 ②	シェークスピアの英語など			
第 10 回	近代英語期 ③	アメリカ英語、発音、近代英語の語形など			
第 11 回	19 世紀から現代英語期へ ①	時代背景、借入語			
第 12 回	19 世紀から現代英語期へ ②	意味の変化、語形成			
第 13 回	主な文法的発達 ①	語順、否定文など			
第 14 回	主な文法的発達 ②	完了形、受動態など			
第 15 回	まとめ	授業内容の総まとめ			

国際		
授業番号	B102790001	
科目名 (英語表記)	英語の音声 (Phonetics)	
担当者 (英語表記)	柳原 由美子 (Yumiko Yanagihara)	
対象学年	2	
単位数	2	
授業のねらいと到達目標	英語の音声についての基礎的な知識を学ぶことを目的とします。日本語の音声との比較を考慮しながら、特に英語教育への実践的応用ができるようにすることも目的とします。英語の発音、および聞き取りに関する実際の練習も重点的に行います。	
授業の進め方 (履修条件など)	基礎的な知識に関しては、教科書に沿って授業を進めていきます。したがって、履修者は必ず教科書を購入してください。	
成績評価方法	1) 筆記試験 (中間・期末) 80%	
基準	2) 英語の音声に関する英語文献の読解とプレゼンテーション、または発音記号の読解 20%	
授業の予習・復習	予習: 次回の授業予告があった単元を読んでおくこと 復習: 毎回配布されるレジュメのタイトルの下に書かれている、各単元での重要事項の理解がなされているかどうか、各自確認すること	
教科書	佐藤 寧/佐藤 努 著 『現代の英語音声学』 金星堂	
参考文献	初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。	
回数	授業項目	授業内容
第1回	1) クラス・オリエンテーション 2) 音声学とは?	1) 授業の進め方・評価、プレゼンテーションなど 2) なぜ音声学が必要か、音声学の3分野など
第2回	発生のメカニズム	発音器官の名称と場所、発声過程など
第3回	音声表記	R P と G A の相違、I P A とは何か、精密表記と簡略表記
第4回	母音の調音 1	母音の特徴と分類の仕方、母音の音声記号を用いての表記
第5回	母音の調音 2	母音の正しい発音練習とその聞き分け
第6回	子音の調音 1	子音の特徴と分類の仕方、子音の音声記号を用いての表記
第7回	子音の調音 2	子音の正しい発音練習とその聞き分け
第8回	子音の調音 3	子音表の作成
第9回	中間試験	試験の解説 (復習)
第10回	音節	音節の切れ目のルール、音節に分ける、音節構造
第11回	語強勢	語強勢の生成と知覚、強勢の有無と音節、強勢と品詞
第12回	イントネーション	ピッチとイントネーション、音調句、音調核、核音調
第13回	音変化 1	音の短縮、音の消失、発音と聞き取り練習
第14回	音変化 2	音の脱落、音の連結、発音と聞き取り練習
第15回	音変化 3	音の同化、音の弱化、発音と聞き取り練習



# 国際

授業番号	B102770001		
科目名 (英語表記)	英文法 (English grammar)		
担当者 (英語表記)	加藤 希 (Nozomi Kato)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	英文法は、英語の4技能(きく、話す、読む、書く)全ての運用の基礎となります。また、TOEIC等の資格試験においても、英文法の知識が問われる問題が出題されます。この授業では、英文法が実用的に機能する具体例に数多く触れて理解することにより、英文法の知識を深め、かつ英語の運用能力を高めることを目標とします。		
授業の進め方(履修条件など)	授業は、講義・演習・ディスカッション・発表を織り交ぜた形で進めますので、受動的ではなく能動的な参加が求められます。また、毎回授業の「始め」に小テストを行い、前回の授業内容の理解を確認します。		
成績評価方法	毎回の小テスト(50%)・中間・期末試験(40%)・課題(10%)		
基準			
授業の予習・復習	予習：課題問題を解き、語句を辞書で調べること 復習：問題を解き直し、解答に至るプロセスを確認すること		
教科書	古家聡他著 Practical Grammar for the TOEIC Test 南雲堂		
参考文献	授業中に提示します。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	受講上の諸注意、導入活動、実力テスト	
第2回	品詞の種類	品詞の見分け方と並べ方(文型)	
第3回	動詞(1)	時制と態に応じた動詞の形	
第4回	動詞(2)	様々な接続詞節内での動詞の形	
第5回	助動詞	法助動詞の基本的な意味と派生的な意味	
第6回	準動詞(1)	不定詞と動名詞を用いた表現	
第7回	準動詞(2)	分詞を用いた表現	
第8回	形容詞と副詞	修飾語句の語順と形	
第9回	中間試験	試験、解説、前半の総復習	
第10回	前置詞	前置詞の基本イメージと前置詞句の形	
第11回	接続詞	接続詞の種別用法と紛らわしい前置詞との区別	
第12回	名詞	名詞の種類と冠詞	
第13回	代名詞	人称代名詞の格と不定代名詞の用法	
第14回	比較	比較の基本表現と慣用表現	
第15回	関係詞	先行詞による種類分けおよび複合関係詞の用法	

国際					
授業番号	B102900001				
科目名 (英語表記)	英米文学概論 (Introduction to British and American Literature)				
担当者 (英語表記)	有馬 容子 (Yoko Arima)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	優れた文学作品には時代と国境を越えた普遍的なテーマが描かれています。この講義では特に英米の現代的なテーマを扱った古典的作品とそれらから影響を受けて書かれた現代作品を読み、具体的に鑑賞します。将来的には原文で読めるようになることを目標に、主な作品については適宜、原文の一部を配布し精読してもらいますので、受講者はある程度の英語力が必要です。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業中に配布するプリントは学期末試験の範囲となります。プリントの配布は各授業時間中に限られるので欠席しないこと。				
成績評価方法 基準	毎回実施の小テスト (英文訳) (30%)、学期末試験およびレポート (70%)。第1回、第2回の授業の両方を欠席した場合は平常点合計の20%を減点する。				
授業の予習・復習	復習：プリントの内容および作品の一部 (英語) を熟読する。 興味を持った作品は全体を読み定期試験に備える。				
教科書	プリントおよび作品リストを配布				
参考文献	『サロン・ドット・コム——現代英語作家ガイド』ローラ・ミラー著 柴田元幸訳 研究社 その他、参考文献リストを配布				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義概要	取り上げる作家の概要とその作品の特徴について			
第2回	ホーソーン Nathaniel Hawthorne (1)	「ヤンググッドマン・ブラウン」			
第3回	ホーソーン (2)	「ウェイクフィールド」			
第4回	キング Stephen King	「黒いスーツの男」			
第5回	オースター Paul Auster	「幽霊たち」			
第6回	メルヴィル Herman Melville	『代書人バートルビー』			
第7回	トウェイン Mark Twain	『不思議な少年4号』			
第8回	ヴォネガット Kurt Vonnegut (1)	『スローターハウス 5』(前半)			
第9回	ヴォネガット (2)	『スローターハウス 5』(後半)			
第10回	ヘンリー・ジェイムズ Henry James	『ねじの回転』			
第11回	カズオ・イシグロ (1)	『日の名残り』			
第12回	カズオ・イシグロ (2)	『わたしを離さないで』			
第13回	ウエルズ H.G.Wells	『タイム・マシン』			
第14回	クロウリー John Crowley	『時の偉業』			
第15回	総括筆記試験	解説			

国際

授業番号	B103000001				
科目名 (英語表記)	英米文学講読 II (Reading (British and American Literature ) II)			(英語授業)	
担当者 (英語表記)	増井 由紀美 (Yukimi Masui)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	平易な文章 (若者の語り) で書かれた作品をテキストに、話の流れ、風景描写、心の動き、が読み取れるように指導します。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業は英語で行われます。受講者は前もって課題を読んでから出席しなければなりません。				
成績評価方法 基準	授業内発表 20 % 中間試験 30 % 期末試験 50 %				
授業の予習・復習	指定されたところを必ず読みます。				
教科書	The Catcher in the Rye by J. D. Salinger				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	アメリカ文学概説	アメリカ史の中でこの作品を位置づけます。また作家の紹介をします。			
第 2 回	Chapters 1-2	How does Holden introduce himself to the readers? What kind of problems does he have?			
第 3 回	Chapters 3-4	What kind of relationship does Holden have with his dormitory friends?			
第 4 回	Chapters 5-6	What is the role of Holden's younger brother in this novel?			
第 5 回	Chapters 7-8	What makes Holden feel so lonely?			
第 6 回	Chapters 9-10	How does Holden spend the first night in New York?			
第 7 回	Mid-term examination	Mid-term examination (with the text and dictionary)			
第 8 回	Chapters 11-12	Does Holden have any good memories in the past?			
第 9 回	Chapters 13-14	What makes Holden very furious?			
第 10 回	Chapters 15-16	What does Holden seek after?			
第 11 回	Chapters 17-18	Find your favorite scene, and describe it.			
第 12 回	Chapters 19-20	Is Holden a bad boy?			
第 13 回	Chapters 21-22	Do you think that the role of Antolini is big in this novel?			
第 14 回	Chapters 23-24	What does Phoebe give to her brother Holden?			
第 15 回	Chapters 25-26	Do you like the last scene of the novel?			

国際

授業番号	B103010001				
科目名 (英語表記)	英米文学特講 I (British and American Literature I)				
担当者 (英語表記)	平出 昌嗣 (Shoji Hiraide)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>文学に親しむとともに、イギリスの古典的作品を通して、西欧の人たちが人生や社会をどのように捕らえてきたかを理解します。</p> <p>また日本人の人生や社会に対する見方との違いも考えます。</p> <p>英文学を通して、人生や社会に対し、より深い認識を得ることが目標になります。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>授業は、テキストに基づき、1時間に1章の割合で進めます。</p> <p>学生にはあらかじめ読んできてもらい、授業では、引用文の解釈を中心に、重要な箇所を説明していきます。</p>				
成績評価方法 基準	<p>筆記テスト70%、授業における態度30%</p> <p>筆記テストでは、授業で扱った作家や作品についてまとめてもらいます。</p>				
授業の予習・復習	<p>予習として、必ず該当する章を読んでくるようにします。</p> <p>授業外学習として、作品を実際に読んだり、授業で扱わない章にも目を通し、文学に対する理解を深めてください。</p>				
教科書	平出昌嗣著『イギリス文学名作30選』(鷹書房弓プレス) 3,000円				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	文学およびイギリス文学について			
第2回	(小説) 嵐が丘	ブロンテの小説の理解と鑑賞			
第3回	(小説) 大いなる遺産	ディケンズの小説の理解と鑑賞			
第4回	(小説) ロード・ジム	コンラッドの小説の理解と鑑賞			
第5回	(小説) 鳩の翼	ジェームズの小説の理解と鑑賞			
第6回	(小説) 灯台へ	ウルフの小説の理解と鑑賞			
第7回	(詩) こだます草原	ブレイクの詩の理解と鑑賞			
第8回	(詩) 列車に乗って	トムソンの詩の理解と鑑賞			
第9回	(詩) 砕けろ、砕けろ、砕けろ	テニソンの詩の理解と鑑賞			
第10回	(詩) 老水夫の歌	コールリッジの詩の理解と鑑賞			
第11回	(戯曲) ロミオとジュリエット	シェイクスピアの戯曲の理解と鑑賞			
第12回	(戯曲) ヴェニス商人	シェイクスピアの戯曲の理解と鑑賞			
第13回	(戯曲) リア王	シェイクスピアの戯曲の理解と鑑賞			
第14回	(戯曲) マクベス	シェイクスピアの戯曲の理解と鑑賞			
第15回	まとめ	まとめ			

国際					
授業番号	B103020001				
科目名 (英語表記)	英米文学特講 II (British and American Literature II)				
担当者 (英語表記)	増井 由紀美 (Yukimi Masui)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	1920年代のアメリカを代表する作品 The Great Gatsby をとりあげ、第一次世界大戦後のアメリカ及びアメリカ文学が実験的な作家の手によりどのように表現されたかに焦点をあて、受講者に文学作品のひとつの読み方を提示します。				
授業の進め方 (履修条件など)	学生は授業が終わるまでに1冊を原書で読むことが要求されます。英語力が十分でない学生の場合は日本語で読んでもかまいません。但し、試験問題は英文中心になります。(解答は日本語も可)				
成績評価方法	授業内提出物 2点 (2x20%)				
基準	期末試験 (60%)				
授業の予習・復習	テキストを読む				
教科書	The Great Gatsby by Scott Fitzgerald				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	導入	映画を見せながら、ストーリーの要約をします。			
第2回	「語り」について	作品の始まりを丁寧に読み、ナレーターである Nick を分析します。			
第3回	アメリカ史 (1920年代)	作品が書かれた時代背景、「失われた世代」、パリのアメリカ人、などについて学びます。			
第4回	「色」の使い方	洋服、街、建物、車、食べ物、などカラフルな描写を探しましょう。			
第5回	人種問題の描写	登場人物の語りの中に当時の人種問題が見えてきます。それを分析します。			
第6回	東部、中西部、南部の意味	登場人物の出身地、生活の場所などに着目し、その意味をとらえます。			
第7回	都会の風景の描き方	舞台は New York です。どのように描かれているか分析します。			
第8回	個々の分析	関心の在る登場人物の分析をします。(提出)			
第9回	関係性の分析	関心のあるペアを選び、どの点が物語を面白くするのか説明します。			
第10回	家族について	この作品では家族はどのように描かれていますか。考えましょう。			
第11回	悲劇か喜劇か?	悲劇の側面と喜劇の側面があります。どの場面に顕著に表れているか考えます。			
第12回	シュールな表現	絵画的な表現が多く見られます。それもシュールリアリズムな絵画です。一緒に楽しみましょう。			
第13回	スコット・フィッツジェラルドについて	この美しい世界を創作した作家の人生とはどのようなものだったのでしょうか。			
第14回	復習 (1)	映像を見ながら、意見交換をします。			
第15回	復習 (2)	今学期のまとめになります。試験準備として利用して下さい。			

国際

授業番号	B103030001				
科目名 (英語表記)	英米文学特講 III (British and American Literature III)				
担当者 (英語表記)	新堀 司 (Tsukasa Niibori)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、第 19 世紀前半に活躍したイギリス・ロマン派の詩人、ウィリアム・ワーズワス (1770 - 1850) の詩をとりあげる。授業のねらいは、彼の主だった詩篇を通じて、イギリスの詩の鑑賞力を養うことである。また到達目標は、詩の基礎的な読解力・鑑賞力を身につけることである。				
授業の進め方 (履修条件など)	受講生の発表を主体とした演習形式。担当者による発表の後に、他の受講生を含めて詩を検討、鑑賞する。なお、とりあげる詩篇の順番は講義スケジュール参照 (状況に応じて進度を調整する)。				
成績評価方法	平常点 (40%)、試験の結果 (60%) による総合的評価。				
基準					
授業の予習・復習	予習：次回にとりあげる詩の予習 (不明な単語の発音・意味調べなど)。 復習：必要に応じて指示。				
教科書	プリントを用いる。				
参考文献	授業中に指示。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業内容などの説明			
第 2 回	ワーズワスの詩 ①	'To the Cuckoo' の鑑賞			
第 3 回	ワーズワスの詩 ②	'I wandered lonely as a Cloud' の鑑賞			
第 4 回	ワーズワスの詩 ③	Poems on the Naming of Places の鑑賞			
第 5 回	ワーズワスの詩 ④	'The Tables Turned' の鑑賞			
第 6 回	ワーズワスの詩 ⑤	'My heart leaps up when I behold' の鑑賞			
第 7 回	ワーズワスの詩 ⑥	'Poor Susan' の鑑賞			
第 8 回	ワーズワスの詩 ⑦	'The Solitary Reaper' の鑑賞			
第 9 回	ワーズワスの詩 ⑧	Lucy Poems 鑑賞			
第 10 回	ワーズワスの詩 ⑨	'We Are Seven' の鑑賞			
第 11 回	ワーズワスの詩 ⑩	'Composed upon Westminster Bridge' の鑑賞			
第 12 回	ワーズワスの詩 ⑪	'It is a beauteous Evening, calm and free' の鑑賞			
第 13 回	ワーズワスの詩 ⑫	The Prelude の一部鑑賞①			
第 14 回	ワーズワスの詩 ⑬	The Prelude の一部鑑賞②			
第 15 回	まとめ	授業内容の総まとめ			

国際

授業番号	B103040001				
科目名 (英語表記)	英米文学特講 IV (British and American Literature IV)				
担当者 (英語表記)	増井 由紀美 (Yukimi Masui)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	アメリカ現代演劇の古典に数えらる Tennessee Williams の The Glass Menagerie を扱います。精読するだけでなく、演じることにより、drama, theater, text, audience の意味を考えます。				
授業の進め方 (履修条件など)	受講者の人数により、グループに分けます。登場人物 4 名 (母、娘、息子、息子の友人) がひとつのグループになり、テキストの中から一場面を選び、演じます。				
成績評価方法	グループワーク (作品発表) 50 %				
基準	期末試験 50 %				
授業の予習・復習	テキスト精読 発表のための練習				
教科書	The Glass Menagerie by Tennessee Williams				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	導入	授業の進め方の説明、及びグループ分け。			
第 2 回	作家について	テネシーウィリアムを他のアメリカ劇作家の中に位置づけます。			
第 3 回	舞台作品の比較	これまで上演/上映されてきた本作品をとりあげ比較分析します。			
第 4 回	テキスト精読	テキストに説明された舞台設定を良く読み、時代のムードを捉えます。			
第 5 回	Amanda の分析	彼女の年齢は? 仕事は? 悩みは? 問題は?			
第 6 回	Tom の分析	テネシー・ウィリアムズは何故 Tom に語り手の役割を与えたかを考えます。			
第 7 回	Laura の分析	彼女はなぜガラスの動物たちを集めているのでしょうか。その役割を与えた作家の意図はどこにあるのでしょうか。			
第 8 回	Gentleman Caller の役割	どのような人物設定か、彼はこの家族に何をもちたか、或は何を奪うことになるのか、考えます。			
第 9 回	配役を決定	グループの話し合いで配役を決めます。またなぜその配役を受け入れたか積極的な理由を書いて提出します。			
第 10 回	グループワーク (1)	受講者は担当箇所を音読。教師は個々を指導。			
第 11 回	グループワーク (2)	グループになって音読。教師はグループを指導。			
第 12 回	グループワーク (3)	ふたつのグループが一緒になって音読の練習。教師はそれぞれを指導。			
第 13 回	グループワーク (4)	映像による確認をしながら、来週の発表会に向けて練習。			
第 14 回	発表会 (1)	全てのグループに対する批評を書いて提出。			
第 15 回	発表会 (2)	全てのグループに対する批評を書いて提出。			

# 国際

授業番号	B101790001				
科目名 (英語表記)	援助政策 (Social Development in DevelopingCountry)				
担当者 (英語表記)	大月 隆成 (Takashige Otsuki)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	途上国に対する援助が行われるようになったのは、第2次世界大戦後のことであり、まだ七十年に満たない歴史しかないが、この間に国際情勢も開発援助のあり方も大きく変化した。この授業では、この間の経緯を振り返りつつ、現代の援助がどのような特徴を持つものであるか、様々な角度から検証してみたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	この授業では、途上国の政治経済、国際政治、国際経済、経済政策等に関する様々な知識を前提に、議論を進めていくことになる。したがって、これらに関連する科目を履修した後に受講するのが望ましい。				
成績評価方法	期末試験 (論述式) の結果に基づいて行う。				
基準					
授業の予習・復習	配布された資料をよく読む。演習問題を解く。				
教科書	授業中に参考資料を配布する。特定の教科書は使用しない。				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下村恭民・中川淳司・齋藤淳「ODA 大綱の政治経済学」有斐閣</li> <li>・ 白鳥正喜「開発と援助の政治経済学」東洋経済新報社</li> <li>・ 世界銀行「世界開発報告」各年版</li> <li>・ 国連開発計画「人間開発報告」各年版</li> </ul>				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	開発援助の始まり (1)	ブレトン・ウッズ体制の成立			
第2回	開発援助の始まり (2)	戦後復興から開発援助へ			
第3回	開発援助の始まり (3)	初期の開発援助理論			
第4回	工業化の光と影 (1)	工業化の理論と実際			
第5回	工業化の光と影 (2)	輸入代替工業化とその失敗			
第6回	工業化の光と影 (3)	輸出指向型工業化とその成功例			
第7回	70年代の開発援助理論 (1)	OPECと資源ナショナリズム			
第8回	70年代の開発援助理論 (2)	従属論～世界システム論			
第9回	70年代の開発援助理論 (3)	BHN——経済開発から社会開発へ			
第10回	構造調整後の開発援助 (1)	累積債務問題と途上国の経済危機			
第11回	構造調整後の開発援助 (2)	構造調整の始まり			
第12回	構造調整後の開発援助 (3)	ガバナンスと政治的コンディショナリティ			
第13回	開発援助の現在と今後の課題 (1)	主要先進国の開発援助 (1)			
第14回	開発援助の現在と今後の課題 (2)	主要先進国の開発援助 (2)			
第15回	開発援助の現在と今後の課題 (3)	21世紀の開発援助に求められるもの			



国際					
授業番号	B104180002				
科目名 (英語表記)	音楽 (Music)			(A)	
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校教員として必要な音楽に対する素養・教養を身につけることを目的とします。現在の音楽の基礎となっている西洋音楽を中心に、音楽についての基本的な知識 (楽典・歴史等) を理解します。日本の楽器にも触れます。人間と音楽の関係を考えることを通して、学校教育のなかで音楽が果たす役割についても考えられるようにしたいと思います。				
授業の進め方 (履修条件など)	日常生活に溶け込んでいる音楽ですが、人間にとって音楽とは何なのかということを一度深く考えてほしいと思います。自分自身の音楽経験を振り返り、一人一人の音楽に対する疑問や問題意識を大切にしながら、音楽の基本を学んでほしいと思います。				
成績評価方法	授業への取り組み、毎時間の提出物 (平常点)、テストなどを総合的に評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書をあらかじめ読んで、疑問等を整理しておきます。 復習：学んだことを教科書等で確認・定着させる。プリントを整理します。				
教科書	「改訂音楽通論」教育芸術社 (2010)				
参考文献	「小学校学習指導要領解説音楽編」文部科学省				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	音楽ってなんだろう			
第2回	音楽の基礎的な理解①	音の長さ・音の高さ			
第3回	音楽の基礎的な理解②	記号・楽器			
第4回	日本の楽器に触れる①	箏 (楽器の特徴・奏法) に親しむ			
第5回	日本の楽器に触れる②	三弦 (楽器の特徴・奏法) に親しむ			
第6回	音楽の基礎的な理解③	音程① 長音程・短音程			
第7回	音楽の基礎的な理解④	音程② 完全音程 増音程 減音程			
第8回	音楽の基礎的な理解⑤	音階① 長音階			
第9回	音楽の基礎的な理解⑥	音階② 短音階			
第10回	音楽の基礎的な理解⑦	和音			
第11回	音楽の基礎的な理解⑧	コード① メジャーコード 7th コード			
第12回	音楽の基礎的な理解⑨	コード② マイナーコード dim aug			
第13回	音楽の基礎的な理解⑩	音楽の歴史			
第14回	人間と音楽	生活の中の音楽 人間にとっての音楽			
第15回	まとめ	音楽を学ぶことの意味			

国際

授業番号	B104280001				
科目名 (英語表記)	音楽と表現 I (合唱) (Music Performance I)				
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>自分自身の声で表現する歌唱は音楽の基本です。発声の基本や音程感・リズム感を身につけます。音楽表現の基礎となる平易な楽譜を読み取る読譜力や移動ド唱法による音程感を学びます。</p> <p>小学校レベルの歌唱教材を中心に響き合う感覚を体感し、歌う心地よさ・合わせる楽しさを味わいます。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>合わせる楽しさを味わうことを目指します。音程感を身につけ、読譜力をつけるための基礎練習を積み重ねます。歌集を使ってレパートリーを増やします。希望でピアノ伴奏もしていただきます。</p>				
成績評価方法	課題への取り組みの姿勢、個人の伸長度、音楽性などを総合的に評価します。				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習：配布された楽譜や歌集をあらかじめ見ておきます。</p> <p>復習：レパートリーを定着させる。プリント類を整理してファイルします。</p>				
教科書	適宜プリントを配布します。				
参考文献	ポケット歌集を使用します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	事前調査 授業の内容の確認			
第 2 回	発声の基本①	斉唱① 自然な発声			
第 3 回	発声の基本②	斉唱② 曲想にあった表現			
第 4 回	読譜の基礎①	リズムの読譜			
第 5 回	読譜の基礎②	音程 全音と半音 移動ド唱法			
第 6 回	読譜して歌う①	拍子を意識して			
第 7 回	読譜して歌う②	リズム唱 階名唱			
第 8 回	音の重なり①	輪唱			
第 9 回	音の重なり②	2部合唱			
第 10 回	合唱の基本①	声部の役割			
第 11 回	合唱の基本②	互いに聴き合って			
第 12 回	合唱①	響きを感じ取って			
第 13 回	合唱②	表現の工夫			
第 14 回	合唱③	曲想表現の工夫 聴き合って			
第 15 回	合唱④	発表会 録音			

国際

授業番号	B104320001				
科目名 (英語表記)	音楽と表現 II (リコーダ) (Music Performance II)				
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	小学校で使用するソプラノリコーダーを中心に学びます。リコーダーの導入指導の実際や個人、ペア、アンサンブルなどの活動を通して音楽に対する理解を深めます。コードネームから、簡易な伴奏やベースの付け方等を知り、実践的に音楽に親しみ、いろいろな楽器を合わせる楽しさを味わいます。				
授業の進め方 (履修条件など)	各自ソプラノリコーダーを用意してください。そのほか個人持ちの楽器があれば持参し、音楽室にある楽器と合わせた合奏もしたいと思います。				
成績評価方法	課題への取り組みの姿勢や個人の伸長度、音楽性などを総合的に評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：ソプラノリコーダー等の楽器を準備し、楽譜を用意します。 復習：演奏表現の工夫を考えたり練習をしたりします。				
教科書	特に使用しません。必要に応じてプリント等配布します。				
参考文献	授業時間内に適宜紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業の進め方 事前調査			
第2回	リコーダーの基本①	姿勢 構え方 タンギング			
第3回	リコーダーの基本②	シ～ソ、高いド・レ			
第4回	リコーダーの基本③	ファ～ド、高いミ～ラ			
第5回	リコーダー2重奏①	輪奏を中心に			
第6回	リコーダー2重奏②	メロディと副・対旋律			
第7回	リコーダー2重奏③	フレーズ			
第8回	音楽の仕組み	楽器の役割と分担 特性			
第9回	コードの理解	メロディとコード			
第10回	簡単な伴奏①	ベースの付け方			
第11回	簡単な伴奏②	メロディとコード ベース 音の重なり			
第12回	アンサンブル①	編曲のポイント			
第13回	アンサンブル②	楽器の工夫 パートの工夫			
第14回	アンサンブル③	互いに聴き合って			
第15回	まとめ	発表会			

国際

授業番号	B104330001				
科目名 (英語表記)	音楽と表現 III (ピアノ) (Music Performance III)				
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	電子ピアノ (鍵盤楽器) を中心に、音楽の基本を学びます。コードネームを理解し、簡易な伴奏法等、実際の場面で使える実践的な伴奏の方法を身につけながら、音楽に親しみます。合わせることの楽しさを体感し、よりよい表現を目指していきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	ピアノの経験の有無は問いません。希望者が多い場合は音楽室の設備・スペースから人数を制限することがあります。(28名以下)				
成績評価方法	課題への取り組みの姿勢、個人の伸長度、音楽性などを総合的に評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：楽譜を歌えるようにしておきます。 復習：学んだことを各自練習して定着させます。				
教科書	特にありません。必要に応じてプリントを配布します。				
参考文献	授業時間内に適宜紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業の進め方 事前調査			
第2回	ピアノ奏法の基本①	楽譜を読む 運指の基本			
第3回	ピアノ奏法の基本②	リズムに合わせて指を動かす 指使いの基本			
第4回	メロディとコード	メロディに合うコードの選び方 I・IV・V (7)			
第5回	コードネームの意味と理解	調とコードの関係			
第6回	ピアノ伴奏の実際①	低音 (単音) で伴奏をつける			
第7回	ピアノ伴奏の実際②	コード (和音) 伴奏をつける			
第8回	ピアノ伴奏の実際③	二人組 (ペア) で合わせる 分担奏			
第9回	ピアノ伴奏の実際④	伴奏のリズム型や低音の工夫を知る			
第10回	ピアノ伴奏の実際⑤	メロディと伴奏を合わせる へ長調 ト長調			
第11回	ピアノ伴奏の実際⑥	曲想に合う伴奏の工夫			
第12回	ピアノ伴奏の実際⑦	互いに聴き合う			
第13回	オリジナル伴奏づくり①	各自選曲し、適切なコード付け、伴奏を工夫する			
第14回	オリジナル伴奏づくり②	ペアで伴奏を工夫する			
第15回	まとめ	発表会 よく聴き合って			

国際						
授業番号	B101200002					
科目名 (英語表記)	外国語特殊 I (A foreign language I)				(ハングル)	
担当者 (英語表記)	森 万佑子 (Mayuko Mori)	対象学年	1	単位数	1	
授業のねらいと到達目標	本授業は、はじめて朝鮮語を学ぶ学生を対象とし、まずハングル (文字) の書き方と読み方を学び、文字自体になれることを目指します。そのうえで、基礎的な単語や構文を習得し、最終的には簡単な会話や作文ができるようになることを目標とします。					
授業の進め方 (履修条件など)	授業では、韓国・朝鮮の文化的背景に関する説明も随時行うことで、学生にはハングルの向こう側に広がる世界への想像力をかき立ててもらいたいと考えています。					
成績評価方法	出席状況 (7割以上が必須) や毎授業後に実施する小テストのほか、最終試験によって総合的に評価します。					
基準	す。					
授業の予習・復習	短時間でも毎日、朝鮮語に触れることを望みます。					
教科書	"?? ?? 1 (??)" , ????? ????? ? , ????? ?? , 2011? (『延世韓国語 1』(日本語版)、延世大学校韓国語学堂編、延世大学校出版部、2011年)					
参考文献	辞書は『朝鮮語辞典』(小学館 1993年 7,767円) を強くお勧めします。					
回数	授業項目	授業内容				
第1回	はじめに	ハングルに慣れよう 1 (母音)				
第2回	ハングルの習得	ハングルに慣れよう 2 (子音)				
第3回	ハングルの習得	ハングルに慣れよう 3 (パッチム)				
第4回	第1課「あいさつ」1. 2	名前を話す／国籍を話す				
第5回	第1課「あいさつ」3. 4	職業を話す／挨拶を交わす				
第6回	第2課「学校と家」1. 2	物の名前を話す／教室にあるものを話す				
第7回	第2課「学校と家」3. 4	学校にある施設の位置を話す／家の位置を話す				
第8回	復習	復習				
第9回	第3課「家族と友達」1. 2	今していることを話す／家族を紹介する				
第10回	第3課「家族と友達」3. 4	故郷について話す／友達について話す				
第11回	第4課「料理」1. 2	食堂に行く／好きな食べ物を話す				
第12回	第4課「料理」3. 4	料理を勧める／料理を注文する				
第13回	第5課「一日の生活」1. 2	時間を話す／日にちと曜日を話す				
第14回	第5課「一日の生活」3. 4	一日を話す／過去時制 (行動) で話す				
第15回	まとめ	総復習				

国際

授業番号	B101210002				
科目名 (英語表記)	外国語特殊 II (A foreign language II)			(ハングル)	
担当者 (英語表記)	森 万佑子 (Mayuko Mori)	対象学年	1	単位数	1

授業のねらいと到達目標	本授業は、はじめて朝鮮語を学ぶ学生を対象とし、まずハングル (文字) の書き方と読み方を学び、文字自体になれることを目指します。そのうえで、基礎的な単語や構文を習得し、最終的には簡単な会話や作文ができるようになることを目標とします。
授業の進め方 (履修条件など)	授業では、韓国・朝鮮の文化的背景に関する説明も随時行うことで、学生にはハングルの向こう側に広がる世界への想像力をかき立ててもらいたいと考えています。
成績評価方法	出席状況 (7割以上が必須) や毎授業後に実施する小テストのほか、最終試験によって総合的に評価します。
基準	
授業の予習・復習	短時間でも毎日、朝鮮語に触れることを望みます。
教科書	"?? ?? 1 (??)" , ????? ????? ? , ????? ?? , 2011? (『延世韓国語 1』(日本語版)、延世大学校韓国語学堂編、延世大学校出版部)
参考文献	辞書は『朝鮮語辞典』(小学館 1993年 7,767円) を強くお勧めします。

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	ガイダンス	授業のすすめ方の説明と前期の復習
第 2 回	第 6 課「買い物」1.2	買い物に行く／物の質と大きさを話す
第 3 回	第 6 課「買い物」3.4	値段を聞く／値段を値切る
第 4 回	第 7 課「交通」1.2	位置、道を聞く／交通の便とかかる時間を聞く
第 5 回	第 7 課「交通」3.4	交通手段を利用する／タクシーを利用する
第 6 回	復習	復習
第 7 回	第 8 課「電話」1.2	電話番号を話す／電話をかける
第 8 回	第 8 課「電話」3.4	電話で約束する／電話で相手を換わってもらう
第 9 回	復習	復習
第 10 回	第 9 課「天気と季節」1.2	季節について話す／今日の天気について話す
第 11 回	第 9 課「天気と季節」3.4	天気を比べる／季節に合った余暇生活
第 12 回	復習	復習
第 13 回	第 10 課「休日と学校の休み」1.2	計画を話す／趣味について話す 1
第 14 回	第 10 課「休日と学校の休み」3.4	趣味について話す 2 / 週末にすることについて話す
第 15 回	まとめ	総復習

# 国際

授業番号	B104230001		
科目名 (英語表記)	数の不思議 (Wonder of numbers)		
担当者 (英語表記)	辻山 洋介 (Yosuke Tsujiyama)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校で扱う「数」の範囲は限られていますが、その数の背後には様々な現象が潜んでいます。数を使うことで捉えられる不思議な規則性や、規則性を捉えるために必要な見方や考え方を中心に、小学校教師に必要な素養を身に付けることを目標とします。		
授業の進め方 (履修条件など)	問題解決を中心に授業を進めます。数に関する問題を解決し、解決を発表・討議する中で、どのような知識・技能や見方・考え方が潜んでいるか、また必要なかを把握してもらいます。		
成績評価方法 基準	授業中の発表や討議 (60%) および期末試験 (40%)。ただし、点数配分は変更する可能性があります。		
授業の予習・復習	予習：前時に指定されたプリントをよくよんでおくこと。授業時に問題を出します。 復習：授業の内容をよく振り返っておくこと。授業時に、適宜復習用の課題を出します。		
教科書	プリント教材を配布します。		
参考文献	佐藤修一著『自然にひそむ数学：自然と数学の不思議な関係』(1998年、講談社) 一松信監修『世界の基礎数学 2 数と式の基礎』(2008年、数研財団)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	導入問題を出し、授業の概要を説明します	
第2回	数の規則 (1)	かけ算九九表を用いた数の規則の探究	
第3回	数の規則 (2)	おはじきを用いた数の規則の探究	
第4回	数の規則 (3)	図を用いた数の規則の探究	
第5回	図に潜む数列 (1)	三角数と四角数	
第6回	図に潜む数列 (2)	等差数列と等比数列	
第7回	図に潜む数列 (3)	階差数列	
第8回	数に関する見方・考え方 (1)	特殊と一般、具体と抽象	
第9回	数に関する見方・考え方 (2)	文字とその意味	
第10回	数に関する見方・考え方 (3)	文字の活用	
第11回	自然現象に潜む数列 (1)	フィボナッチ数列	
第12回	自然現象に潜む数列 (2)	黄金比	
第13回	社会現象に潜む数量関係 (1)	統計的データの処理	
第14回	社会現象に潜む数量関係 (2)	統計的資料の活用	
第15回	授業のまとめ	数の問題解決に必要な知識・技能と見方・考え方	

国際

授業番号	B104240001		
科目名 (英語表記)	かたちの数学 (Mathematics of figures)		
担当者 (英語表記)	辻山 洋介 (Yosuke Tsujiyama)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	私たちの身のまわりには、様々なものの「かたち」が存在します。算数や数学を用いることによって、その「かたち」の見え方が変わってきます。平面図形や空間図形に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、その知識を活用することによって、ものの「かたち」を捉え直すことを目標とします。		
授業の進め方 (履修条件など)	問題解決を中心に授業を進めます。ものの「かたち」に関する問題を解決し、解決を発表・討議する中で、どのような知識・技能や見方・考え方が潜んでいるか、また必要なかを把握してもらいます。		
成績評価方法 基準	授業中の発表や討議 (50%) および期末試験 (50%)。ただし、点数配分は変更する可能性があります。		
授業の予習・復習	予習：前時に指定されたプリントをよくよんでおくこと。授業時に問題を出します。 復習：授業の内容をよく振り返っておくこと。授業時に、適宜復習用の課題を出します。		
教科書	プリント教材を配布します。		
参考文献	W. W. ソーヤー著『数学のおもしろさ』(1955年, 岩波) L. A. スティーン編著『世界は数理でできている』(2000年, 丸善)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	導入問題を出し、授業の概要を説明します	
第2回	平面図形 (1)	三角形の性質と多角形の分解	
第3回	平面図形 (2)	円の性質と対称性	
第4回	平面図形 (3)	三角比を用いた一般化	
第5回	量と測定 (1)	図形の面積と体積	
第6回	量と測定 (2)	平面図形の計量	
第7回	量と測定 (3)	空間図形の計量	
第8回	平面図形と空間図形	図形の構成要素と次元	
第9回	関数 (1)	関数とグラフ (1次関数, 2次関数)	
第10回	関数 (2)	方程式と軌跡 (円, 楕円)	
第11回	関数 (3)	方程式と軌跡 (放物線, 双曲線)	
第12回	図形と証明 (1)	作図と証明	
第13回	図形と証明 (2)	前提と結論	
第14回	図形と証明 (3)	証明に基づいて図形を見返す	
第15回	授業のまとめ	図形の問題解決に必要な知識・技能と見方・考え方	



国際

授業番号	B104210002		
科目名 (英語表記)	家庭 (Housecraft)	(A)	
担当者 (英語表記)	関 弘子 (Hiroko Seki)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校学習指導要領に基づいた「家庭」で扱う内容について、広く一般的な見地から理解を深める。学習指導要領に示されている目標や内容の理解と衣・食・住・消費生活や環境教育の各領域について、指導者としての基本的な知識理解や技能の習得を目指す。		
授業の進め方 (履修条件など)	「家庭」の指導者としての基礎力を身につけるために、学習指導要領やテキストを基に講義や実習、製作活動等を行う。		
成績評価方法	レポート、実習、作品製作、試験等により評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習： 次週の講義内容をテキストや資料集で確認しておく。 示された課題について取り組む。		復習：
教科書	・小学校学習指導要領解説家庭編：東洋館出版社 小学校家庭科教育研究：教師養成研究会編著 学芸図書出版		
参考文献	家庭一般、子どもが見つめる「家庭の未来」、ビジュアルワイド食品成分表、技術家庭科(家庭分野)、改訂家庭概説		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	講義の内容や進め方の概要	
第2回	家庭科の目標と内容	学習指導要領に示されている家庭科の「目標」と「内容」の概要	
第3回	自分の成長と家族	自分の成長と家族の関わり	
第4回	家庭生活と仕事	家庭における生活時間と仕事の分担	
第5回	食事の役割	栄養素の種類と働き、食品の栄養的な特徴	
第6回	栄養を考えた食事	食品の組み合わせと一食分の献立	
第7回	調理の基礎 (調理用具)	調理用具の名称や安全な取り扱い方	
第8回	調理の基礎 (調理実習)	野菜サラダづくり	
第9回	衣服の着方と手入れ	快適な着方と洗濯	
第10回	快適な住まい方	暑さ・寒さ、通風・換気、採光	
第11回	整理整頓・清掃	整理整頓、住まいの汚れ落とし	
第12回	被服製作の基礎 (製作用具)	裁縫用具の名称と取り扱い方、ミシンの操作	
第13回	基礎的な作品製作	製作活動	
第14回	身近な消費生活	消費者問題	
第15回	環境に配慮した生活	消費生活と環境	

国際			
授業番号	B100430005		
科目名 (英語表記)	College English I (College English I)		(f)
担当者 (英語表記)	国際学部英語教員	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	英語の4技能(読む、聞く、話す、書く)を伸ばすための基礎となる知識を固めることが目的です。クラスは3レベル(初級、中級、上級)6クラスに分かれ、受講者はそれぞれの英語運用能力に適った環境で学びます。上から3クラスは定期試験(年2回)としてTOEIC IPテストを受験します(学生負担無し)。1年次に受験する機会がなかった人も2年以降College English III・IVを受講することで、同じようにTOEIC IPテストを受けることができます。College English I・IIでしっかり実力をつけ、卒業までに高得点を獲得できるようにしましょう。		
授業の進め方(履修条件など)	小テストの方法や授業の内容、進め方はレベルにより異なりますが、初回の授業で担当教員が説明しますので、受講者はそれぞれの先生の指示に従ってください。なお、上級・中級クラスは教科書のExerciseやCD-ROMを活用して、文法の知識を予習しておくこと。		
成績評価方法	平常点(小テストなど)(40%)、中間試験(30%)、TOEIC IPテストのスコア(30%)		
基準			
授業の予習・復習	予習・復習: 教科書のCD-ROMを使用し、指示に従って問題演習を終わらせ、小テストに備えること(上級・中級)。演習の量、範囲はレベルにより異なるため、担当教員の指示に従ってください。		
教科書	上級 Grammar in Use: Intermediate with CD-ROM. Raymond Murphy et.al. Cambridge University Press. またはマーフィーのケンブリッジ英文法(中級編) 中級 Grammar in Use: Basic with CD-ROM. Raymond Murphy et.al. Cambridge University Press. またはマーフィーのケンブリッジ英文法(初級編) 初級 担当者によるテキスト		
参考文献	Oxford Wordpower Dictionary for Learners of English. Oxford University Press; 3rd Revised edition 版		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	授業の進め方について	教科書の概要。TOEIC IPテストについて。	
第2回	Grammar ①	Present Continuous and Simple Present	
第3回	Reading Comprehension ①	※テキストは各レベルにより異なります。受講者の上達の度合いに応じて随時適切な教材を配布。	
第4回	Grammar ②	Present Perfect and Past	
第5回	Reading Comprehension ②	※参照	
第6回	Grammar ③	Will	
第7回	Reading Comprehension ③	※参照	
第8回	Grammar ④	I will and I'm going to Will be doing and will have done	
第9回	Reading Comprehension ④	※参照	
第10回	中間試験 (50分)	要点について解説	
第11回	Grammar ⑤	Could (do) and could have (done), Must	
第12回	Reading Comprehension ⑤	※参照	
第13回	Grammar ⑥	May and might	
第14回	Reading Comprehension ⑥	※参照	
第15回	Grammar ⑦	Should, Would	

国際					
授業番号	B100440002				
科目名 (英語表記)	College English II (College English II)			(f)	
担当者 (英語表記)	国際学部英語教員	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	英語の4技能(読む、聞く、話す、書く)を伸ばすための基礎となる知識を固めることが目的です。クラスは3レベル(初級、中級、上級)6クラスに分かれ、受講者はそれぞれの英語運用能力に適った環境で学びます。上から3クラスは定期試験(年2回)としてTOEIC IPテストを受験します(学生負担無し)。1年次に受験する機会がなかった人も2年以降College English III・IVを受講することで、同じようにTOEIC IPテストを受けることができます。College English I・IIでしっかり実力をつけ、卒業までに高得点を獲得できるようにしましょう。				
授業の進め方(履修条件など)	小テストの方法や授業の内容、進め方はレベルにより異なりますが、初回の授業で担当教員が説明しますので、受講者はそれぞれの先生の指示に従ってください。なお、上級・中級クラスは教科書のExerciseを活用して、文法の知識を予習しておくこと。				
成績評価方法	平常点(小テストなど)(40%)、中間試験(30%)、TOEIC IPテストのスコア(30%)				
基準					
授業の予習・復習	予習・復習: 教科書のCD-ROMを使用し、指示に従って問題演習を終わらせ、小テストに備えること(上級・中級)。演習の量、範囲はレベルにより異なるため、担当教員の指示に従ってください。				
教科書	上級 Grammar in Use: Intermediate with CD-ROM. Raymond Murphy et.al. Cambridge University Press. 中級 Grammar in Use: Basic with CD-ROM. Raymond Murphy et.al. Cambridge University Press. 初級 担当者によるテキスト				
参考文献	Oxford Wordpower Dictionary for Learners of English. Oxford University Press; 3rd Revised edition 版				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	TOEIC IPテスト結果について	教科書の概要。TOEIC IPテストについて。			
第2回	Grammar ①	If and Wish			
第3回	Reading Comprehension ①	※テキストは各レベルにより異なります。受講者の上達の度合いに応じて随時適切な教材を配布。			
第4回	Grammar ②	Passive			
第5回	Reading Comprehension ②	※参照			
第6回	Grammar ③	Reported Speech			
第7回	Reading Comprehension ③	※参照			
第8回	Grammar ④	Articles and Nouns, -ing and the Infinitive			
第9回	Reading Comprehension ④	※参照			
第10回	中間試験 (50分)	要点について解説			
第11回	Grammar ⑤	Relative Clauses			
第12回	Reading Comprehension ⑤	※参照			
第13回	Grammar ⑥	Adjectives and Adverbs			
第14回	Reading Comprehension ⑥	※参照			
第15回	Grammar ⑦	Conjunctions and Prepositions			

国際

授業番号	B100450002				
科目名 (英語表記)	College English III (College English III)				
担当者 (英語表記)	George Whalley (George Whalley)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	This class is designed for students who wish to further develop and apply the skills learned in College English I and II. The majority of class time will be spent building vocabulary, reviewing grammar, practicing conversations and reading short stories. Emphasis will be placed on improving students verbal and written communication skills. There will also be a portion of this class devoted to TOEIC test contents and strategies. Students are highly encouraged to take the TOEIC IP test free of charge as part of this course.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have passed College English I and II to take this class.				
成績評価方法	Grading will be equally based on participation, classwork and TOEIC test results.				
基準					
授業の予習・復習	Students will be asked to briefly explain current events in their lives and in the news to the instructor each class. Preparation for this task is required.				
教科書	The instructor will provide materials for this class. No textbook is assigned.				
参考文献	Students should bring a dictionary to each class.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Food Restaurants and Cooking	Food Q&A, Current Topics, Grammar (Questions)			
第 2 回	Shopping Department Stores and Clothing	Shopping Q&A, Current Topics, Grammar (Questions)			
第 3 回	Music Styles and Singers	Music Q&A, Current Topics, Grammar (Auxiliary Verbs)			
第 4 回	Transportation Public Transportation and Travel	Transportation Q&A, Current Topics, Grammar (Tag Questions)			
第 5 回	Work and Lifestyle	Work Q&A, Current Topics, Grammar (Verbs - ing)			
第 6 回	Movie	Slumdog Millionaire			
第 7 回	Slumdog Millionaire	Story Telling, Current Topics, Grammar (Verb- to)			
第 8 回	Family Marriage and Children	Family Q&A, Current Topics, Grammar (Verb - Object - to)			
第 9 回	Airports Airplanes and Destinations	Airport Q&A, Current Topics and Grammar (prefer vs rather)			
第 10 回	Famous People Stars and Legends	Famous People Q&A, Current Topics, Grammar (Prepositions)			
第 11 回	Sports Olympics and Games	Sports Q&A, Current Topics and Grammar (Be/Get used to)			
第 12 回	Home and Housework	Home Q&A, Current Topics, Grammar (Purpose)			
第 13 回	TOEIC Preparation	TOEIC Contents and practice questions			
第 14 回	TOEIC Preparation	TOEIC Strategies, WH- Questions, Frequent Errors			
第 15 回	TOEIC Preparation	TOEIC Practice Test and Review			

国際					
授業番号	B100450003				
科目名 (英語表記)	College English III (College English III)				
担当者 (英語表記)	増井 由紀美 (Yukimi Masui)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	NHKのニュース程度の英語がすらすらと読めるようになることが目標です。基本的文法のミスを極力少なくし、より正確な英語力向上へと導きます。TOEIC 470~700 点台の受講者が対象ですが 50~100 点伸びることを目指しましょう。				
授業の進め方 (履修条件など)	College English I, II を修了し、TOEIC 470 以上であることが履修条件です。				
成績評価方法	授業内評価 30%、TOEIC 試験結果 30%、クイズおよび提出物など 40%				
基準					
授業の予習・復習	予習： 教員の指示に従い、授業で扱う範囲の文章を読みます。 復習： 語彙・文法事項の理解度を試験および提出物で確認します。				
教科書	Better Reading, Better Writing with NHK World News, Tomoyasu Kimura and others ed., Nan-un-do, 2013.				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	授業の進め方を説明します。英語力確認のために短いエッセイを読みます。			
第 2 回	Massive Earthquake	2011 年 3 月 11 日の大地震についての記事がテーマです。まず聞き取りから入ります。			
第 3 回	Extremely High Tsunami	前回学んだ語彙に加え、津波関連の記事を読むことによりさらに語彙力を増やします。			
第 4 回	Nuclear Accident	原子力発電の問題は日本に限りません。ここで学ぶ内容は国際社会で議論されている hot issue です。			
第 5 回	International Offers of Help	大震災では世界中から支援が集まりました。国際協力のシーンを読み、同テーマの英文を聞きます。			
第 6 回	Recovery Efforts	復興に向けて、様々な動きがありました。政治家だけでなく芸術家による支援も印象的でした。その英文にはどのような特徴が見えるか考えながら読みます。			
第 7 回	Tohoku Festivals	伝統、文化に関する語彙を学びます。震災と伝統に関するニュースを聞き、記事を読みます。			
第 8 回	Encouragement form the World	世界からの支援で実現できたイベントに関するニュースを聞き、記事を読み、励ましの手紙の書き方を学びます。			
第 9 回	Impacts of the March 11th Disaster	3.11 の影響を世界中はどのように知らされたでしょうか。それを確認しつつ、具体的な文言の分析をします。			
第 10 回	Review of the Great East Japan Earthquake and Tsunami	3.11 から一年間の日本の取り組みをニュースで追います。			
第 11 回	From Kan to Noda	3.11 の影響で政治にも変化がありました。政治や政府関連の語彙を増やしなが、その関連記事を読みます。			
第 12 回	National Debt	3.11 は日本の経済活動にも打撃を与えました。経済関連の語彙の勉強をしなが、その関連記事を読みます。			
第 13 回	Strong Yen	前の週に引き続き、経済関連用語を学びます。そしてそのニュースを聞きます。			
第 14 回	Trans-Pacific Partnership	世界の経済活動に日本はどのように関わって行くのか。TPP を巡る熱い議論を聞きながら、読みなが経済関連の語彙力を伸ばします。			
第 15 回	Review	これまで学んだことを整理します。			

国際

授業番号	B100460001				
科目名 (英語表記)	College English IV (College English IV)				
担当者 (英語表記)	George Whalley (George Whalley)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	This class is designed for students who wish to develop and apply the skills learned in College English I and II. It is a continuation of College English III but can be taken as a separate course. The majority of class time will be spent on building vocabulary, reviewing grammar, practicing conversations and reading short stories. Emphasis will be placed on improving verbal and written communication skills. There will also be a portion of this class devoted to TOEIC test contents and strategies. Students are highly encouraged to take the TOEIC IP test free of charge as part of this course.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have passed College English I and II to take this class				
成績評価方法 基準	Grading will be based equally on participation, classwork and TOEIC test scores.				
授業の予習・復習	Students will be asked to explain current events in their lives and in the news to the instructor each class. Preparation for this task is required.				
教科書	The instructor will provide all materials for this class. No textbook is assigned.				
参考文献	Students should bring a dictionary to each class.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Mental and Physical Health	Mental and Physical Health Q&A, Current Topics, Grammar (Adjective + to)			
第 2 回	Entertainment Movies and Music	Entertainment Movies and Music Q&A, Current Topics, Grammar (See somebody do)			
第 3 回	Pets and Animals	Pets and Animals Q&A, Current Topics, Grammar (Countable and Uncountable Nouns)			
第 4 回	Weather Disasters and Seasons	Weather Disasters and Seasons Q&A, Current Topics, Grammar (Articles)			
第 5 回	America People Places and Things	America People Places and Things Q&A, Current Topics, Grammar (Singular and Plural)			
第 6 回	Forrest Gump (movie)	Movie			
第 7 回	Forrest Gump Review	Forrest Gump Q&A, Current Topics, Grammar (Possessive Pronouns)			
第 8 回	Religion Faith and Values	Religion Faith and Values Q&A, Current Topics, Grammar (Agreement)			
第 9 回	Education University and Study	Education University and Study Q&A, Current Topics, Grammar (Relative Clauses)			
第 10 回	Nations and Nationalities	Nations and Nationalities Q&A, Current Topics, Grammar (Comparisons)			
第 11 回	Children and Parenting	Children and Parenting Q&A, Current Topics, Grammar (Word Order)			
第 12 回	Choices in Life	Choices in Life Q&A, Current Topics, Grammar (Word Order con` t)			
第 13 回	TOEIC test preparation	TOEIC test review and practice test questions			
第 14 回	TOEIC test preparation	TOEIC test strategies (Listening for key words)			
第 15 回	TOEIC test preparation	TOEIC test strategies (key vocabulary)			

国際

授業番号	B100460003		
科目名 (英語表記)	College English IV (College English IV)		
担当者 (英語表記)	増井 由紀美 (Yukimi Masui)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	NHKの英語ニュースが正確に聞き取れ、同程度の英文がすらすら読めるようになることを目指します。集中力が持続できるように訓練をします。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業では週に一度クイズを行います。これを基に弱点に気づき、効果的な自習が出来るように導きます。受講者は教員の指示に従い、読解、聴解の訓練を受けます。		
成績評価方法	授業内評価 30%、TOEIC 30%、クイズ及び提出物 40%		
基準			
授業の予習・復習	予習：教員の指示に従い、授業範囲を読んでおくこと。 復習：授業で学んだことを自分のものにするために繰り返し聞き、読む。		
教科書	Better Reading, Better Writing with NHK World News, ed. by Tomoyasu Kimura, Takehiko Sato, Yukimi Asai, Nan'un-do, 2013.		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第1回	Introduction & "Consumption Tax"	最初に、授業の進め方の説明をしますが、すぐに授業に入ります。第一回目のテーマは「政治経済」です。	
第2回	Global Supporters of Northeastern Japan	3.11 は世界中から注目を集めました。日本及び被災地への支援は続いています。様々な支援の形をニュースで確認します。	
第3回	Global Reviewers of Fukushima	原子力発電の問題は日本に留まりません。私たちは議論して行かなければなりません。この分野の語彙力を付けましょう。	
第4回	iPS Cells	世界は進化しています。山中伸弥教授のノーベル賞受賞でiPS細胞が注目を浴びています。化学の英語を学びましょう。	
第5回	"Nadeshiko" Japan and Other Japanese Feats	サッカーは世界中に愛されているスポーツですが、女子サッカーも男子に負けずに活躍しています。「なでしこジャパン」に関するニュースをきっかけに、スポーツ関連の語彙を増やしましょう。	
第6回	Uneasiness over Nuclear Power	今回も再び「原子力発電」関連のニュースを扱います。ドイツ、ロシア、スイスなど、世界はどのように対処しているのか、ニュースを聞き、読みます。	
第7回	"Arab Spring" Movement	中東についてのニュースが増えてきた昨今ですが、どのように報道されているのでしょうか。いくつかの記事を紹介します。	
第8回	European Credit Worries	今週は場所をヨーロッパに移します。ユーロ圏の経済問題は深刻です。ヨーロッパの経済問題に関するニュースを扱います。	
第9回	Palestinian Membership	パレスチナ問題は長い間、世界の注目を集めてきました。今、各国はどのように対処しようとしているのでしょうか。	
第10回	Extreme Weather and Global Warming	環境問題は世界の問題です。ニュースを聞いて環境関連の語彙を増やしましょう。	
第11回	U.S. Presidential Election	2012年秋、アメリカは大統領選でにぎわいました。そして2013年オバマ大統領が2期目を迎えることになりました。大統領選関連のニュースからアメリカの時事問題を学びます。	
第12回	President Once Again	ロシアの現在を、こちらで大統領選から見て行きましょう。選挙関連の語彙を増やします。	
第13回	What is Happening in China	中国の進出が目立つ昨今ですが、中国の人々の暮らしに関してはどのように報道されているのでしょうか。ニュースを聞きます。	
第14回	Like Father, Like Son	北朝鮮事情に関してはニュース源が限られていますが、日本ではどのように報道されているのでしょうか。一緒に読みましょう。	
第15回	Myanmar Bracing for Democracy	自宅軟禁をおよそ8年ぶりに解かれたアウンサン・スーチー氏で注目されることの多いミャンマー関連記事から民主主義について考えます。	

国際

授業番号	B102620001				
科目名 (英語表記)	環境資源エネルギー論 (Environment Resources/ Energy Study)				
担当者 (英語表記)	松本 太 (Futoshi Matsumoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	現代の大量生産、消費が地球温暖化など環境問題の原因となる一方、石油、石炭などの化石エネルギーの枯渇が懸念される。この講義ではこれらの対策としてクリーンエネルギーの有効性や、省資源やリサイクルなどの可能性について考えつつ、持続可能な社会の実現のために何が出来るかを講義する。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件等は特になし。授業中の私語、携帯電話は厳禁、授業態度の悪い学生は受講を中止させることがある。進行状況により授業内容が変更になることがある。				
成績評価方法	レポート、試験、学習意欲、授業態度により、総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習、復習は特に必要ないが、宿題を出すことがある。				
教科書	テキストは使用しない。				
参考文献	特になし。 適宜プリントを配布する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義全体の内容やすすめ方を概説			
第 2 回	世界のエネルギー需給	世界のエネルギー消費の現状や資源の有限性			
第 3 回	日本のエネルギー問題	日本のエネルギー消費と抱える問題について講義			
第 4 回	地球規模の環境問題①	地球規模の森林破壊や砂漠化			
第 5 回	地球規模の環境問題②	地球規模の生態系の変化			
第 6 回	地球規模の環境問題③	地球温暖化と酸性雨			
第 7 回	地球温暖化とその影響	地球温暖化のメカニズムと、人間や生態系に及ぼす影響			
第 8 回	地球温暖化への国際的な取り組み	地球温暖化防止のための温室効果ガス削減などについて			
第 9 回	再生可能 (クリーン) エネルギー	風力発電、太陽光発電など環境負荷の少ないエネルギーについて			
第 10 回	エネルギーの有効利用	省エネルギーやコジェネレーションなどについて			
第 11 回	高効率エネルギーの技術開発と普及	高効率なエネルギー供給 (給湯器や燃料電池等)			
第 12 回	ゴミ問題とリサイクル	国内外におけるゴミ問題やリサイクルの有効性			
第 13 回	環境マネジメントの必要性	省資源やリサイクルのための環境マネジメントの必要性			
第 14 回	地域的な省資源への取り組み	自治体や家庭などでの身近な省資源の取り組み			
第 15 回	低炭素社会の実現に向けて	エネルギー論からみた持続可能な社会の実現の可能性			



国際

授業番号	B102700001				
科目名 (英語表記)	環境マネジメント (Environmental Management)				
担当者 (英語表記)	松本 太 (Futoshi Matsumoto)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	近年様々な環境問題が顕在化する中、環境保全や環境と調和したまちづくりなどが注目されている。この講義では身近な環境問題をライフスタイルや社会システムの側面から考えつつ、問題を解決するために企業や自治体、地域が取り組んでいる環境マネジメントについて講義する。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件等は特になし。 授業中の私語、携帯電話は厳禁、授業態度の悪い学生は受講を中止させることがある。 進行状況により、授業内容を変更することがある。				
成績評価方法	レポート、試験、学習意欲、授業態度により、総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習、復習は特に必要ないが、宿題を課すことがある。				
教科書	テキストは特に使用しない。				
参考文献	特になし。 適宜プリントを配布する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	講義全体の内容や進め方を概説			
第2回	環境問題の変遷と現代の課題	環境問題の歴史や現代の課題について			
第3回	身近な地域の環境	生活スタイルの変化に伴う環境の変化			
第4回	身近な地域の気候、水環境	身近な地域の気候、水環境の変化と現状の課題			
第5回	身近な地域の生態系	身近な地域の生態系の変化と現状の課題			
第6回	ゴミ問題	大量生産・消費が引き起こしたゴミ問題の現状			
第7回	地域における環境保全の取り組み	身近な地域における環境保全への取り組みについて			
第8回	自治体、企業などの環境マネジメント	自治体や企業、学校などで進める環境マネジメントについて			
第9回	市民による環境マネジメント	家庭や個人でできる環境マネジメントについて			
第10回	循環型のシステムの必要性	地域における省エネルギーやリサイクルの必要性について			
第11回	環境マネジメント実習①	既存のデータ (地図や資料など) による地域環境の評価			
第12回	環境マネジメント実習②	空間データ (GIS) の利用による地域環境の評価			
第13回	都市の人間生活と自然環境	都市の人間生活や自然環境の変化と現状の課題			
第14回	環境と調和したまちづくり	環境に配慮した快適なまちづくりの可能性			
第15回	まとめ	講義全体のまとめ			

国際

授業番号	B100030003				
科目名 (英語表記)	基礎数学 (Basic Mathematics)				
担当者 (英語表記)	大月 隆成 (Takashige Otsuki)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	数学が苦手 (嫌い) という人は少なくないが、数学とは本来、美しく面白いものである。この授業の目的は、数学の魅力を十分に味わう機会がなかった人を対象に、数学を基本からやり直し、数学アレルギーを取り除くことである。また、就職試験で課される適性検査対策も随時行っていく。				
授業の進め方 (履修条件など)	数学的なものの見方や考え方に慣れ、なぜそうなるのか理解することに主眼を置いて授業を行う。そのため、授業内で行うことのできる問題演習は限られるので、その分を課題で補ってもらうことになる。				
成績評価方法	授業内で行うまとめテストおよび期末試験の結果に基づいて行う。				
基準					
授業の予習・復習	事前に問題を自分の頭で考えて解いてみる。授業の後で自分で解けるかできるかどうか確認する				
教科書	特定の教科書は使用しない。				
参考文献	何森仁・小沢健一『数学がまるごと8時間でわかる』明日香出版社 1994年				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	四則演算、正の数・負の数	四則演算の基本、負の数の考え方、負の数の計算			
第2回	分数の計算	分数の考え方、分数の足し算・引き算、分数の掛け算・割り算、分数の応用計算			
第3回	有理数と無理数	無理数とは?、平方根の計算			
第4回	指数の基本	指数の考え方、指数の計算			
第5回	さまざまな方程式 (1)	文字式の計算、一次方程式の基本			
第6回	さまざまな方程式 (2)	連立方程式の基本、方程式の応用問題			
第7回	さまざまな方程式 (3)	展開と因数分解			
第8回	さまざまな方程式 (4)	二次方程式の基本と応用			
第9回	比と割合	割合の考え方、比と割合の応用問題			
第10回	関数とグラフ (1)	比例と反比例			
第11回	関数とグラフ (2)	一次関数とグラフ			
第12回	関数とグラフ (3)	二次関数とグラフ			
第13回	図形の基礎と応用 (1)	三角形と四角形、円と楕円、面積の計算			
第14回	図形の基礎と応用 (2)	空間図形、体積と表面積			
第15回	図形の基礎と応用 (3)	合同と相似、三平方の定理			

国際

授業番号	B103230001				
科目名 (英語表記)	キャリア基礎教養 I (Career Designing for Freshmen I)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本文化、日本の常識、ビジネス社会に必要な言葉遣い、マナー、ビジネス文書記述、およびプレゼンテーション力を学びます。就職活動においても有意義な内容になっています。				
授業の進め方 (履修条件など)	日本の社会での常識を積極的に学びたい人。 聴く、書く、まとめる、話す、立ち振る舞う、等々を実践的に行動に移す講座です。 ・2年生推奨科目です ・4年生も履修が可能です				
成績評価方法	出席・定期試験・授業内小テスト・レポート及びその他の課題をもとに採点します。				
基準					
授業の予習・復習	講師からの課題は、事前に必ず準備しておいてください。 また講義終了後に配布したプリントには必ず目を通しファイリングして下さい。				
教科書	プリントを配布します。				
参考文献	その都度紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	ビジネス最前線と授業のねらいを説明します。			
第2回	ビジネスマナーとは	「知らなかった」では済まされない 「知る」ことの必要性、重要性の講義をします。			
第3回	ビジネスマナーの基本	第一印象の重要性と身だしなみについて			
第4回	言葉遣い ①	尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い方について			
第5回	言葉遣い ②	言葉遣いの間違いについて			
第6回	ビジネス文書 ①	文書の基本と作成手順について			
第7回	ビジネス文書 ②	文書の作成を実践します。			
第8回	電子メールの基本	メールの基本、ルールとマナーについて			
第9回	電話のかけ方と訪問の仕方	電話応対の基本について講義をします。			
第10回	自己紹介の仕方	プレゼンテーションの仕方について			
第11回	面接の対応 ①	自己PRについて考えてみます。			
第12回	面接の対応 ②	志望動機について考えてみます。			
第13回	面接の対応 ③	グループディスカッションについて考えてみます。			
第14回	ビジネスマナーの訓練	マナーの実践			
第15回	まとめ	いままでの講義について振り返りと 質疑応答します。			

国際					
授業番号	B103180001				
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン I (Career Designing I)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	PBL (Problem Based Learning : 課題解決型) の授業。ビジネスシーンでの課題に向き合うことで、働くことの厳しさ、やりがいを感じてもらえることが目標です。自分に関する情報、企業など目標に対する情報、それらを取りまく社会に関する情報の 3 情報の収集の仕方、分析の仕方を学び、それらで発掘できた自分自身のリソースを活用した自分提案のトレーニングは、就活力向上に直結します。				
授業の進め方 (履修条件など)	5～6名程度のグループワーク (最大 15 グループ程度) で授業を進めます。 授業には 10 社の企業様にご参加いただき、授業運営や“チバイチバン”力の評価についてご協力をいただきます。評価結果は、採用試験の可否判断の材料として活用されます。 ・3年生推奨科目 (定員 100名) ・4年生も履修が可能です。 ・履修申し込みは、キャリアセンターとします。				
成績評価方法 基準	出席、レポート、授業取組姿勢、“チバイチバン”力評価、などで総合的に評価します。				
授業の予習・復習	授業内に指示します。				
教科書	授業内で資料などを配布します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	Time Table、授業への取り組み方			
第 2 回	事例 1 (A 社の紹介)	課題提示と状況の推測、課題分析			
第 3 回	分析内容のプレゼン	分析内容の共有、視点確認			
第 4 回	インタビュー	社員の方からのヒアリング			
第 5 回	問題分析とプレゼン	ヒアリングを受けて課題分析と発表			
第 6 回	ソリューション企画	課題解決策の立案と発表			
第 7 回	プレゼンと評価	社員の方向けに発表			
第 8 回	再企画	社員の方からの評価を受けて、再立案			
第 9 回	事例 2 (B 社の紹介)	課題提示と状況の推測、課題分析			
第 10 回	分析内容のプレゼン	分析内容の共有、視点確認			
第 11 回	インタビュー	社員の方からのヒアリング			
第 12 回	問題分析とプレゼン	ヒアリングを受けて課題分析と発表			
第 13 回	ソリューション企画	課題解決策の立案と発表			
第 14 回	プレゼンと評価	社員の方向けに発表			
第 15 回	再企画	社員の方からの評価を受けて、再立案			

国際

授業番号	B103190001				
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン II (Career Designing II)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	3	単位数	2

授業のねらいと 到達目標	産業界の研究をするためには、各種業界を知る必要があります。 業界・業種を知るためには数多くの方法がありますが、 業界で営業を経験したことのある方から話を聞くこと重要だと考え、営業管理職経験者を招聘します。 業界研究は就職活動の基本です。
授業の進め方 (履修条件など)	外部担当講師による講義となります。業界により異なる営業のシステムを学んでいただきます。 厳しい部分と楽しい部分仕事のやりがいを語っていただきます。 ・4年生対象です
成績評価方法 基準	出席、各回ごとの感想文、“チバイチバン”力評価、及び最終レポートを参考にします。 遅刻、途中退回は絶対認めません。
授業の予習・復習	予習 : 該当業界の事前研究 復習 : 興味業界の場合一層の研究
教科書	プリントを配布
参考文献	プリントを配布

回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス 製造業：電機メーカー	授業の案内 株式会社東芝、芝浦メカトロニクス株式会社
第2回	製造業：タイヤメーカー	株式会社ブリヂストン
第3回	製造業：造船	三菱重工株式会社
第4回	商社：水産	丸紅株式会社、株式会社ベニレイ、株式会社マルナミフーズ
第5回	商社：非鉄金属	古河電気工業株式会社
第6回	～ 特別授業 ～	～ インターンシップ報告会へ参加 ～
第7回	メーカー：飲料	アサヒビール株式会社
第8回	商社：農業	丸紅株式会社
第9回	商社：トイレタリー (住宅設備)	花王株式会社
第10回	金融：証券	山一証券株式会社
第11回	情報：IT	日本アイ・ビー・エム株式会社
第12回	サービス：レジャー	株式会社オリエンタルランド (ディズニーランド)
第13回	サービス：映画	株式会社ワーナー・マイカル
第14回	物流：通販ビジネス	株式会社リクルートホールディングス、株式会社セガ
第15回	サービス：旅行	近畿日本ツーリスト株式会社

国際						
授業番号	B103120001					
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン1 (Career Designing I)					
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	1	単位数	2	
授業のねらいと到達目標	日本文化、日本の常識、ビジネス社会に必要な言葉遣い、マナー、ビジネス文書記述、およびプレゼンテーション力を学びます。就職活動においても有意義な内容になっています。					
授業の進め方 (履修条件など)	日本の社会での常識を積極的に学びたい人。 聴く、書く、まとめる、話す、立ち振る舞う、等々を実践的に行動に移す講座です。 ・2年生を優先します ・3年生も履修が可能です					
成績評価方法	出席、定期試験・授業内小テスト・レポート及びその他の課題をもとに採点します。					
基準						
授業の予習・復習	講師からの課題は、事前に必ず準備しておいてください。 また講義終了後に配布したプリントには必ず目を通しファイリングして下さい。					
教科書	プリントを配布します。					
参考文献	その都度紹介します。					
回数	授業項目	授業内容				
第1回	ガイダンス	ビジネス最前線と授業のねらいを説明します。				
第2回	ビジネスマナーとは	「知らなかった」では済まされない 「知る」ことの必要性、重要性の講義をします。				
第3回	ビジネスマナーの基本	第一印象の重要性と身だしなみについて				
第4回	言葉遣い ①	尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い方について				
第5回	言葉遣い ②	言葉遣いの間違いについて				
第6回	ビジネス文書 ①	文書の基本と作成手順について				
第7回	ビジネス文書 ②	文書の作成を実践します。				
第8回	電子メールの基本	メールの基本、ルールとマナーについて				
第9回	電話のかけ方と訪問の仕方	電話応対の基本について講義をします。				
第10回	自己紹介の仕方	プレゼンテーションの仕方について				
第11回	面接の対応 ①	自己PRについて考えてみます。				
第12回	面接の対応 ②	志望動機について考えてみます。				
第13回	面接の対応 ③	グループディスカッションについて考えてみます。				
第14回	ビジネスマナーの訓練	マナーの実践				
第15回	まとめ	いままでの講義について振り返りと 質疑応答します。				

国際

授業番号	B103130001				
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン2 (Career Designing II)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	1 (こども 学科のみ2)	単位数	2
授業のねらいと 到達目標	先入観や自分に縛られた将来像から脱却し、環境変化や自分の成長を入れ、選択肢を広げる。 ツールとしてコンビニエンスストアを素材としたソフトを使用します。				
授業の進め方 (履修条件など)	グループディスカッション、プレゼンテーション、質疑応答をファシリテートしていく形進行していきます。 シュミレーション教材を使用し、情報活用、合意形成、意思決定など 今の社会で必要とされているスキルを体験プログラムの中で身につけていきます。 ・3年生を優先します。(各クラス 定員28名) ・履修申し込みは、キャリアセンターとします。				
成績評価方法 基準	出席、レポート、“チバイチバン”力評価、及びその他の課題 グループごとの相互評価と自己評価を成績評価に加味します。				
授業の予習・復習	前回講義のワークシート作成				
教科書	マイキャリアカードビジネスシュミレーション、コンビニ model、ワークシート				
参考文献	得になし				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	ビジネスシュミレーション講座の進め方			
第2回	行動へのキャリアデザイン	なぜ今キャリアデザイン？			
第3回	MYキャリアカード	キャリア占いゲーム編			
第4回	MYキャリアデザイン シート①	自分資源探索編			
第5回	MYキャリアデザイン シート②	ワークスタイル読解編			
第6回	求人情報からみた企業データ	求人情報読解編			
第7回	コンビニ model シュミレーショ ン①	買う側から売る側への視点転換			
第8回	コンビニ model シュミレーショ ン②	データから絵を読む情報読解			
第9回	コンビニ model シュミレーショ ン③	仮説 ・ 検証 ・ 修正の実践			
第10回	コンビニ model シュミレーショ ン④	欲しい情報を引き出す質問			
第11回	コンビニ model シュミレーショ ン⑤	自分リソース活用との重ね合わせ			
第12回	志望企業調査 ①	エントリーシートの作成 ①			
第13回	志望企業調査 ②	エントリーシートの作成 ②			
第14回	調査発表 ①	プレゼンテーション、振り返り ①			
第15回	調査発表 ②	プレゼンテーション、振り返り ②			

国際

授業番号	B103130002				
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン2 (Career Designing II)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	1 (こども 学科のみ2)	単位数	2
授業のねらいと 到達目標	先入観や自分に縛られた将来像から脱却し、環境変化や自分の成長を入れ、選択肢を広げる。 ツールとしてコンビニエンスストアを素材としたソフトを使用します。				
授業の進め方 (履修条件など)	グループディスカッション、プレゼンテーション、質疑応答をファシリテートしていく形進行していきます。 シュミレーション教材を使用し、情報活用、合意形成、意思決定など 今の社会で必要とされているスキルを体験プログラムの中で身につけていきます。 ・3年生を優先します。(各クラス 定員28名) ・履修申し込みは、キャリアセンターとします。				
成績評価方法 基準	出席、レポート、“チバイチバン”力評価、及びその他の課題 グループごとの相互評価と自己評価を成績評価に加味します。				
授業の予習・復習	前回講義のワークシート作成				
教科書	マイキャリアカードビジネスシュミレーション、コンビニ model、ワークシート				
参考文献	得になし				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	ビジネスシュミレーション講座の進め方			
第2回	行動へのキャリアデザイン	なぜ今キャリアデザイン？			
第3回	MYキャリアカード	キャリア占いゲーム編			
第4回	MYキャリアデザイン シート①	自分資源探索編			
第5回	MYキャリアデザイン シート②	ワークスタイル読解編			
第6回	求人情報からみた企業データ	求人情報読解編			
第7回	コンビニ model シュミレーション①	買う側から売る側への視点転換			
第8回	コンビニ model シュミレーション②	データから絵を読む情報読解			
第9回	コンビニ model シュミレーション③	仮説 ・ 検証 ・ 修正の実践			
第10回	コンビニ model シュミレーション④	欲しい情報を引き出す質問			
第11回	コンビニ model シュミレーション⑤	自分リソース活用との重ね合わせ			
第12回	志望企業調査 ①	エントリーシートの作成 ①			
第13回	志望企業調査 ②	エントリーシートの作成 ②			
第14回	調査発表 ①	プレゼンテーション、振り返り ①			
第15回	調査発表 ②	プレゼンテーション、振り返り ②			



国際

授業番号	B103140001				
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン3 (Career Designing III)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	1年次に履修したキャリア特殊1の2年生向け授業です。 就業力向上・社会化の推進に向けて、社会情勢・就職活動の実態の理解や社会人へのインタビュー等を通じ、社会を知ると同時に自己理解を促します。 また、講座を通じ幅広いコミュニケーション能力及び主体性の向上をはかります。				
授業の進め方 (履修条件など)	具体的事例を取り入れながら、裏付けとなる理論、考え方を解説し座学と実践演習を併用して進めていきます。 ・2年生を優先します (定員80名) ・3年生も履修が可能です。 ・履修申し込みは、キャリアセンターとします。				
成績評価方法	出席、レポート、“チバイチバン”力評価、及びその他の課題により判断します。				
基準					
授業の予習・復習	講師より出題された課題は事前に準備をしておいてください。				
教科書	プリントを配布します。				
参考文献	その都度紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス「社会を知る」ことの重要性	導入 動機づけ 現状把握			
第2回	業界動向と就職活動の実態	業界動向 就職活動の実態 就職活動の流れ			
第3回	興味を知る	興味ある職業領域・職業分類について目途を付ける			
第4回	コミュニケーション① (社会人と接する / 質問する)	マナー 質問の仕方			
第5回	ゲストスピーチ①幅広いジャンルより選定	生き様に学ぶ			
第6回	ゲストスピーチ② 実績ある企業人より選定	生き様に学ぶ			
第7回	コミュニケーション② (レポート作成の基礎)	レポート作成			
第8回	OB / OGスピーチ ①	生き様に学ぶ			
第9回	OB / OG スピーチ②	生き様に学ぶ			
第10回	コミュニケーション ③ (インタビューの基礎)	インタビュー			
第11回	コミュニケーション ④ (プレゼンテーションの基礎)	プレゼンテーション			
第12回	発表会	グループ発表			
第13回	自己棚卸・自己理解	タイプの類型と目標			
第14回	活動計画 ①	1回～7回まとめ			
第15回	活動計画 ②	8回～13回まとめ			

国際

授業番号	B103150001				
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン4 (Career Designing IV)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	PBL (Problem Based Learning : 課題解決型) の授業。ビジネスシーンでの課題に向き合うことで、働くことの厳しさ、やりがいを感じてもらえることが目標です。自分に関する情報、企業など目標に対する情報、それらを取りまく社会に関する情報の3情報の収集の仕方、分析の仕方を学び、それらで発掘できた自分自身のリソースを活用した自分提案のトレーニングは、就活力向上に直結します。				
授業の進め方 (履修条件など)	5～6名程度のグループワーク (最大15グループ程度) で授業を進めます。 授業には10社の企業様にご参加いただき、授業運営や“チバイチバン”力の評価についてご協力をいただきます。評価結果は、採用試験の可否判断の材料として活用されます。 ・3年生を優先します (定員100名) ・履修申し込みは、キャリアセンターとします。				
成績評価方法	出席、レポート、授業取組姿勢、“チバイチバン”力評価、などで総合的に評価します。				
基準					
授業の予習・復習	授業内に指示します。				
教科書	授業内で資料などを配布します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	Time Table、授業への取り組み方			
第2回	事例1 (A社の紹介)	課題提示と状況の推測、課題分析			
第3回	分析内容のプレゼン	分析内容の共有、視点確認			
第4回	インタビュー	社員の方からのヒアリング			
第5回	問題分析とプレゼン	ヒアリングを受けて課題分析と発表			
第6回	ソリューション企画	課題解決策の立案と発表			
第7回	プレゼンと評価	社員の方向けに発表			
第8回	再企画	社員の方からの評価を受けて、再立案			
第9回	事例2 (B社の紹介)	課題提示と状況の推測、課題分析			
第10回	分析内容のプレゼン	分析内容の共有、視点確認			
第11回	インタビュー	社員の方からのヒアリング			
第12回	問題分析とプレゼン	ヒアリングを受けて課題分析と発表			
第13回	ソリューション企画	課題解決策の立案と発表			
第14回	プレゼンと評価	社員の方向けに発表			
第15回	再企画	社員の方からの評価を受けて、再立案			

国際

授業番号	B103160001				
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン5 (Career Designing V)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと 到達目標	<p>産業界の研究をするためには、各種業界を知る必要があります。          業界・業種を知るためには数多くの方法がありますが、          業界で営業を経験したことのある方から話を聞くこと重要だと考え、営業管理職経験者を招聘します。          業界研究は就職活動の基本です。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>外部担当講師による講義となります。業界により異なる営業のシステムを学んでいただきます。          厳しい部分と楽しい部分仕事のやりがいを語っていただきます。          ・1、2年生も聴講できます (正課外)</p>				
成績評価方法	出席、各回ごとの感想文、“チバイチバン”力評価、及び最終レポートを参考にします。				
基準	遅刻、途中退回は絶対認めません。				
授業の予習・復習	<p>予習 : 該当業界の事前研究          復習 : 興味業界の場合一層の研究</p>				
教科書	プリントを配布				
参考文献	プリントを配布				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の案内			
	製造業：電機メーカー	株式会社東芝、芝浦メカトロニクス株式会社			
第2回	製造業：タイヤメーカー	株式会社ブリヂストン			
第3回	製造業：造船	三菱重工株式会社			
第4回	商社：水産	丸紅株式会社、株式会社ベニレイ、株式会社マルナミフーズ			
第5回	商社：非鉄金属	古河電気工業株式会社			
第6回	～ 特別授業 ～	～ インターンシップ報告会へ参加 ～			
第7回	メーカー：飲料	アサヒビール株式会社			
第8回	商社：農業	丸紅株式会社			
第9回	商社：トイレタリー (住宅設備)	花王株式会社			
第10回	金融：証券	山一証券株式会社			
第11回	情報：IT	日本アイ・ビー・エム株式会社			
第12回	サービス：レジャー	株式会社オリエンタルランド (ディズニーランド)			
第13回	サービス：映画	株式会社ワーナー・マイカル			
第14回	物流：通販ビジネス	株式会社リクルートホールディングス、株式会社セガ			
第15回	サービス：旅行	近畿日本ツーリスト株式会社			

国際					
授業番号	B103170001				
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン7 (成田プログラム) (Career Designing VII)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	4	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>「2週間以内で何が何でも内定をとるぞ」「就職先を決める」というおなじ目標を持つ仲間とチームワークを大事にしながら取り組んでもらう2週間プログラムです。</p> <p>自分により合った職場を選べるよう志向や考えを認識したり、今までしなかった意外な自分が見つかったり、きっと有意義な時間になると思います。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成田空港の内部を見学</li> <li>・求人票の見方</li> <li>・企業への取材・コーナ企画制作企業カタログの制作</li> <li>・取材に応じて頂いた企業を招いての発表</li> <li>・就職エントリーの準備 等</li> </ul> <p>企業活動の現場を知るとともに、将来の進路決定の一助としてもらうことを目的としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生も履修が可能です</li> </ul>				
成績評価方法 基準	出席、レポート及びその他の課題で評価します。				
授業の予習・復習	<p>予習 : 講師より出題された課題は事前に調べおくこと。</p> <p>復習 : 興味業界の場合は一層の業界研究をする。</p>				
教科書	プリントを配布します。				
参考文献	特別なものはありません				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	事前説明会	プログラム履修希望者にプログラム参加における留意点や参加意義などを話します。			
第2回	ガイダンス	プログラムの説明 モチベーションアップセミナー			
第3回	成田国際空港見学	成田国際空港へ行き空港第2ビル他見学 チーム毎に空港での仕事探し			
第4回	企業取材準備	「求人シート」の作成 (企業の立場を理解) 企業訪問をして求人に関する取材準備			
第5回	企業取材	チーム毎に直接企業に出向いて取材			
第6回	企業取材	取材終了後、チーム毎に取材報告書作成 報告資料をパワーポイントで作成する。			
第7回	プレゼンテーション資料作成	チーム毎に作成資料の点検 完成した資料の提出			
第8回	プレゼンテーション準備	発表会前の機会利用しリハーサルを実施 リハーサル			
第9回	プレゼンテーション	取材に応じて頂いた企業を招いての発表			
第10回	プレゼンテーション	各チーム毎、メンバー全員が分担して発表			
第11回	就職エントリー準備	エントリー企業の決定			
第12回	就職エントリー準備	履歴書の作成			
第13回	就職エントリー準備	受験対策の指導			
第14回	就職活動	各個人が、エントリー先で就職活動を行う。			
第15回	プログラム終了にあたって	感想文発表 エールの交換			

国際

授業番号	B103250001				
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン基礎 I (Career Designing for Sophomores I)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	2	単位数	2

授業のねらいと到達目標	先入観や自分に縛られた将来像から脱却し、環境変化や自分の成長を入れ、選択肢を広げる。 ツールとしてコンビニエンスストアを素材としたソフトを使用します。
授業の進め方 (履修条件など)	グループディスカッション、プレゼンテーション、質疑応答をファシリテートしていく形進行していきます。 シュミレーション教材を使用し、情報活用、合意形成、意思決定など 今の社会で必要とされているスキルを体験プログラムの中で身につけていきます。 ・3年生推奨科目 (各クラス 定員 28名) ・4年生も履修が可能です。 ・履修申し込みは、キャリアセンターとします。
成績評価方法 基準	出席、レポート、“チバイチバン”力評価、及びその他の課題 グループごとの相互評価と自己評価を成績評価に加味します。
授業の予習・復習	前回講義のワークシート作成
教科書	マイキャリアカードビジネスシュミレーション、コンビニ model、ワークシート
参考文献	得になし

回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	ビジネスシュミレーション講座の進め方
第2回	行動へのキャリアデザイン	なぜ今キャリアデザイン？
第3回	MYキャリアカード	キャリア占いゲーム編
第4回	MYキャリアデザイン シート①	自分資源探索編
第5回	MYキャリアデザイン シート②	ワークスタイル読解編
第6回	求人情報からみた企業データ	求人情報読解編
第7回	コンビニ model シュミレーション①	買う側から売る側への視点転換
第8回	コンビニ model シュミレーション②	データから絵を読む情報読解
第9回	コンビニ model シュミレーション③	仮説 ・ 検証 ・ 修正の実践
第10回	コンビニ model シュミレーション④	欲しい情報を引き出す質問
第11回	コンビニ model シュミレーション⑤	自分リソース活用との重ね合わせ
第12回	志望企業調査 ①	エントリーシートの作成 ①
第13回	志望企業調査 ②	エントリーシートの作成 ②
第14回	調査発表 ①	プレゼンテーション、振り返り ①
第15回	調査発表 ②	プレゼンテーション、振り返り ②

国際

授業番号	B103250002				
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン基礎 I (Career Designing for Sophomores I)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	先入観や自分に縛られた将来像から脱却し、環境変化や自分の成長を入れ、選択肢を広げる。 ツールとしてコンビニエンスストアを素材としたソフトを使用します。				
授業の進め方 (履修条件など)	グループディスカッション、プレゼンテーション、質疑応答をファシリテートしていく形進行していきます。 シュミレーション教材を使用し、情報活用、合意形成、意思決定など 今の社会で必要とされているスキルを体験プログラムの中で身につけていきます。 ・3年生推奨科目 (各クラス 定員 28名) ・4年生も履修が可能です。 ・履修申し込みは、キャリアセンターとします。				
成績評価方法	出席、レポート、“チバイチバン”カ評価、及びその他の課題				
基準	グループごとの相互評価と自己評価を成績評価に加味します。				
授業の予習・復習	前回講義のワークシート作成				
教科書	マイキャリアカードビジネスシュミレーション、コンビニ model、ワークシート				
参考文献	得になし				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	ビジネスシュミレーション講座の進め方			
第2回	行動への キャリアデザイン	なぜ今キャリアデザイン？			
第3回	MYキャリアカード	キャリア占いゲーム編			
第4回	MYキャリアデザイン シート ①	自分資源探索編			
第5回	MYキャリアデザイン シート ②	ワークスタイル読解編			
第6回	求人情報からみた 企業データ	求人情報読解編			
第7回	コンビニ model シュミレーション ①	買う側から売る側への視点転換			
第8回	コンビニ model シュミレーション ②	データから絵を読む情報読解			
第9回	コンビニ model シュミレーション ③	仮説 ・ 検証 ・ 修正の実践			
第10回	コンビニ model シュミレーション ④	欲しい情報を引き出す質問			
第11回	コンビニ model シュミレーション ⑤	自分リソース活用との重ね合わせ			
第12回	志望企業調査 ①	エントリーシートの作成 ①			
第13回	志望企業調査 ②	エントリーシートの作成 ②			
第14回	調査発表 ①	プレゼンテーション、振り返り ①			
第15回	調査発表 ②	プレゼンテーション、振り返り ②			

国際

授業番号	B103260001				
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン基礎 II (Career Designing for Sophomores II)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	2	単位数	2

授業のねらいと到達目標	1 年次に履修したキャリア特殊 1 の 2 年生向け授業です。 就業力向上・社会化の推進に向けて、社会情勢・就職活動の実態の理解や社会人へのインタビュー等を通じ、社会を知ると同時に自己理解を促します。 また、講座を通じ幅広いコミュニケーション能力及び主体性の向上をはかります。
授業の進め方 (履修条件など)	具体的事例を取り入れながら、裏付けとなる理論、考え方を解説し 座学と実践演習を併用して進めていきます。 ・ 2 年生を優先します (定員 8 0 名) ・ 4 年生も履修が可能です。 ・ 履修申し込みは、キャリアセンターとします。
成績評価方法 基準	出席、レポート、“チバイチバン” 力評価、及びその他の課題により判断します。
授業の予習・復習	講師より出題された課題は事前に準備をしておいてください。
教科書	プリントを配布します。
参考文献	その都度紹介します。

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	ガイダンス「社会を知る」ことの重要性	導入 動機づけ 現状把握
第 2 回	業界動向と就職活動の実態	業界動向 就職活動の実態 就職活動の流れ
第 3 回	興味を知る	興味ある職業領域・職業分類について目途を付ける
第 4 回	コミュニケーション① (社会人と接する / 質問する)	マナー 質問の仕方
第 5 回	ゲストスピーチ① 幅広いジャンルより選定	生き様に学ぶ
第 6 回	ゲストスピーチ② 実績ある企業人より選定	生き様に学ぶ
第 7 回	コミュニケーション② (レポート作成の基礎)	レポート作成
第 8 回	OB / OGスピーチ ①	生き様に学ぶ
第 9 回	OB / OG スピーチ②	生き様に学ぶ
第 10 回	コミュニケーション ③ (インタビューの基礎)	インタビュー
第 11 回	コミュニケーション ④ (プレゼンテーションの基礎)	プレゼンテーション
第 12 回	発表会	グループ発表
第 13 回	自己棚卸・自己理解	タイプの類型と目標
第 14 回	活動計画 ①	1 回～7 回まとめ
第 15 回	活動計画 ②	8 回～1 3 回まとめ

国際					
授業番号	B103270001				
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン実習 (Workshop for Career Designing)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>「2週間以内で何が何でも内定をとるぞ」「就職先を決める」というおなじ目標を持つ仲間とチームワークを大事にしながら取り組んでもらう2週間プログラムです。自分により合った職場を選べるよう志向や考えを認識したり、今までしなかった意外な自分が見つかったり、きっと有意義な時間になると思います。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成田空港の内部を見学</li> <li>・求人票の見方</li> <li>・企業への取材・コーナ企画制作企業カタログの制作</li> <li>・取材に応じて頂いた企業を招いての発表</li> <li>・就職エントリーの準備 等</li> </ul> <p>企業活動の現場を知るとともに、将来の進路決定の一助としてもらうことを目的としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生も履修が可能です</li> </ul>				
成績評価方法 基準	出席、レポート及びその他の課題で評価します。				
授業の予習・復習	<p>予習 : 講師より出題された課題は事前に調べおくこと。</p> <p>復習 : 興味業界の場合は一層の業界研究をする。</p>				
教科書	プリントを配布します。				
参考文献	特別なものはありません				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	事前説明会	プログラム履修希望者にプログラム参加における留意点や参加意義などを話します。			
第2回	ガイダンス	プログラムの説明 モチベーションアップセミナー			
第3回	成田国際空港見学	成田国際空港へ行き空港第2ビル他見学 チーム毎に空港での仕事探し			
第4回	企業取材準備	「求人シート」の作成 (企業の立場を理解) 企業訪問をして求人に関する取材準備			
第5回	企業取材	チーム毎に直接企業に出向いて取材			
第6回	企業取材	取材終了後、チーム毎に取材報告書作成 報告資料をパワーポイントで作成する。			
第7回	プレゼンテーション資料作成	チーム毎に作成資料の点検 完成した資料の提出			
第8回	プレゼンテーション準備	発表会前の機会利用しリハーサルを実施 リハーサル			
第9回	プレゼンテーション	取材に応じて頂いた企業を招いての発表			
第10回	プレゼンテーション	各チーム毎、メンバー全員が分担して発表			
第11回	就職エントリー準備	エントリー企業の決定			
第12回	就職エントリー準備	履歴書の作成			
第13回	就職エントリー準備	受験対策の指導			
第14回	就職活動	各個人が、エントリー先で就職活動を行う。			
第15回	プログラム終了にあたって	感想文発表 エールの交換			



国際

授業番号	B103200001				
科目名 (英語表記)	キャリア特殊1 (Career Advanced I)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	入学時より充実した学生生活を過ごすことがなぜ重要なのか、大学生活と卒業後の社会生活がどのように結びついているのか、を学びます。最終的には、卒業後に目標とする人物像、(ロールモデル) を作成し、主体的な学生生活を過ごす姿勢を身につけることを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	20名前後のゼミ方式で、グループワークを中心に授業を進めます。それぞれのグループ (ゼミ) でワイワイガヤガヤとディスカッションをします。 .				
成績評価方法	出席、提出物の内容、“チバイチバン” カ評価、併せて受講態度を加味して総合的に判断します。				
基準					
授業の予習・復習	予習 ・ 復習 : 講師より出題された課題は事前に準備をしておいて下さい。				
教科書	必要に応じて、プリント等を配布致します。				
参考文献	その都度、紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	キャリアとは	全体講義			
第2回	コミュニケーションの基礎 ①	～ 自分を語ろう ・ 相手を知ろう ～			
第3回	コミュニケーションの基礎 ②	～ 姿勢 ・ 動作 ・ 表情の基礎を知ろう ～			
第4回	コミュニケーションの基礎 ③	～ 話し方の基本 ・ 話し方の違いによる違いを知ろう ～			
第5回	ゲスト ・ スピーカー	全体講義			
第6回	ビジョンボードを創ろう	少人数制クラスでのファシリテーション			
第7回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ①			
第8回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ②			
第9回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ①			
第10回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ②			
第11回	チバイチバンカ«イ»	イノベーション			
第12回	チバイチバンカ«チ»	知識			
第13回	チバイチバンカ«バ»	バランス感覚			
第14回	チバイチバンカ«ン»	気づき notice			
第15回	まとめ	コンピテンシーモデルの作成			

国際

授業番号	B103200002				
科目名 (英語表記)	キャリア特殊1 (Career Advanced I)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Carrier Center)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	入学時より充実した学生生活を過ごすことがなぜ重要なのか、大学生活と卒業後の社会生活がどのように結びついているのか、を学びます。最終的には、卒業後に目標とする人物像、(ロールモデル) を作成し、主体的な学生生活を過ごす姿勢を身につけることを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	20名前後のゼミ方式で、グループワークを中心に授業を進めます。それぞれのグループ (ゼミ) でワイワイガヤガヤとディスカッションをします。				
成績評価方法	出席、提出物の内容、“チバイチバン” カ評価、併せて受講態度を加味して総合的に判断します。				
基準					
授業の予習・復習	予習 ・ 復習 : 講師より出題された課題は事前に準備をしておいて下さい。				
教科書	必要に応じて、プリント等を配布致します。				
参考文献	その都度、紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	キャリアとは	全体講義			
第2回	コミュニケーションの基礎 ①	～ 自分を語ろう ・ 相手を知ろう ～			
第3回	コミュニケーションの基礎 ②	～ 姿勢 ・ 動作 ・ 表情の基礎を知ろう ～			
第4回	コミュニケーションの基礎 ③	～ 話し方の基本 ・ 話し方の違いによる違いを知ろう ～			
第5回	ゲスト ・ スピーカー	全体講義			
第6回	ビジョンボードを創ろう	少人数制クラスでのファシリテーション			
第7回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ①			
第8回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ②			
第9回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ①			
第10回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ②			
第11回	チバイチバンカ«イ»	イノベーション			
第12回	チバイチバンカ«チ»	知識			
第13回	チバイチバンカ«バ»	バランス感覚			
第14回	チバイチバンカ«ン»	気づき notice			
第15回	まとめ	コンピテンシーモデルの作成			

国際

授業番号	B103930001		
科目名 (英語表記)	教育原論 I (Principles of Education I)		
担当者 (英語表記)	武内 清 (Kiyoshi Takeuchi)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	教育の思想、歴史を通して、教育の哲学、原理を学ぶ。教育を成り立たせている学校の制度、組織、集団的特質、教育改革について講義する。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義、小集団討論、リアクションペーパーなどで、進める。		
成績評価方法	授業・討論への積極的参加 20%、リアクションペーパー 20%、試験 60%。		
基準			
授業の予習・復習	予習は教科書を読み、復習は配布プリントを中心に行うこと。		
教科書	武内清編『子どもと学校』学文社、2010。		
参考文献	授業時に指示		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	イントロダクション	教育とは	
第 2 回	学校 1	学校の特質	
第 3 回	学校 2	学校の歴史、学校の社会的背景	
第 4 回	学校 3	教育法規 (教育基本法、学校教育法、ほか)	
第 5 回	学校 4	学校組織の特質	
第 6 回	学級	学級成立の歴史	
第 7 回	教育思想 1	西洋の教育思想 1	
第 8 回	教育思想 2	西洋の教育思想 2	
第 9 回	教育思想 3	日本の教育思想	
第 10 回	教育言説 1	教育言説とは	
第 11 回	教育言説 2	教育言説の特質	
第 12 回	教育言説 3	子ども言説	
第 13 回	教育改革 1	教育改革の思想	
第 14 回	教育改革 2	教育改革の流れ	
第 15 回	まとめ	教育の原理について考える。	

国際					
授業番号	B103940001				
科目名 (英語表記)	教育原論 II (Principles of Education II)				
担当者 (英語表記)	武内 清 (Kiyoshi Takeuchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	現代の教育や学校のシステムや制度、組織、集団の実態を講義する。また、実際の学校の中でどのような教育や学習がなされているのか、さらに意図しないことでもどのような影響が子どもたちに及んでいるのかを講義し、また体験に基づく討論も行う。教育に及ぼす、国際社会、国家、政治、経済、文化、地域社会の影響も考察する。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義を中心にすすめるが、討論も取り入れ、皆の意見も聞きながら進める。				
成績評価方法	授業・討論への積極的参加 20%、リアクション・ペーパー 20%、期末試験 60%。				
基準					
授業の予習・復習	配布されたプリントを読み返し、授業の復習を必ず行うこと。				
教科書	武内清編『子どもと学校』(学文社、2010)。さらに授業時にプリントを配布する。				
参考文献	授業時に指示。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	教育の社会的側面 1	現代社会と教育			
第2回	教育の社会的側面 2	政治、経済と教育			
第3回	脱学校論	学校教育の可能性と制約			
第4回	学習指導要領	その変遷			
第5回	教師と子ども	その関係性を問う			
第6回	教育現場	教育現場と子ども			
第7回	子どもの成長	子どもの成長と学校			
第8回	カリキュラム	その思想的背景と子ども			
第9回	進路指導	キャリア教育の思想と実際			
第10回	道徳教育	小学校でのキャリア教育			
第11回	部活動	中学校でのキャリア教育			
第12回	多文化教育	高等学校でのキャリア教育			
第13回	ジェンダーと教育	大学でのキャリア教育と進路			
第14回	情報教育	教育改革			
第15回	まとめ	教育の理念と実際を考える			

# 国際

授業番号	B104080001				
科目名 (英語表記)	教育実践研究 (小学校) (Educational Practice)				
担当者 (英語表記)	山口 政之 (Masayuki Yamaguchi)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	教育実習では授業を行うだけでなく、休み時間には子供と遊び、放課後には担任の先生の仕事の手伝いをし、自分の授業の準備をします。子供と指導教諭から謙虚に学ぶという心構えと具体的な行動・判断の仕方を学んでください。あなたの教師としての資質・人間性が総合的に問われています。				
授業の進め方 (履修条件など)	この授業では学生を教育実習生と見做します。資料に基づいてグループで話し合ったり、意見交換をしたりします。実習生ですから、無遅刻無欠席を求めますし、飲食・携帯操作は厳禁です。				
成績評価方法 基準	課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえ総合的に評価します。遅刻・熟睡は大きく減点し、ガイダンスの欠席者は履修放棄とみなします。				
授業の予習・復習	予習：新聞を読み、教育関連の話題には意見が言えるようにしておく。 復習：資料やノートを読み返し、授業内容の理解に努める。				
教科書	授業中、適宜印刷物を配布します。				
参考文献	灰谷健次郎『兎の眼』角川文庫				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス (欠席者は履修不可)	教育実習で何を学ぶのか (立場やマナー等の理解)			
第2回	発問と机間指導	国語の模擬授業を通して教師の役割を理解する			
第3回	机間指導と指名計画	算数の模擬授業を通して教師の役割を理解する			
第4回	自己紹介	自分の長所を端的に表現し子供の心をつかむ			
第5回	児童理解のために①	教室で花瓶が割れた時、嘔吐があった時等の対応			
第6回	児童理解のために②	放課後の備品から (机、ロッカー、靴箱から)			
第7回	指導案	指導案作成上の留意点			
第8回	生活指導の実際	授業以外の場面で教師はどんな指導をしているのか			
第9回	実習記録簿の書き方①	記録簿の役割と記載事項を理解する			
第10回	実習記録簿の書き方②	日々の実践記録として実践場面を描写し考察する			
第11回	4年生4月・教育実習の事前指導	教育実習に関する事務的な手続きを確認する			
第12回	4月・実習期間中の教科指導の教材研究	実習先の年間指導計画から、自分が担当する教科の単元を把握し、教材研究を進める			
第13回	5月・精練指導案の作成	学級の児童の実態を踏まえて指導案を作成し、指導を受ける			
第14回	6月・教育実習報告会	教員採用試験の前に、教育実習で把握した課題や、仕事へのやりがい等を報告する会に参加する			
第15回	7月・教育実習記録簿提出と面談	実習校より記録簿が返却されたら、すみやかにゼミ担当に実習の報告をする			

# 国際

授業番号	B104100001				
科目名 (英語表記)	教職実践演習 (Teacher Training Practical Seminar)			(小学校)	
担当者 (英語表記)	田村 孝 (Takashi Tamura)	対象学年	4	単位数	2
授業のねらいと到達目標	教員になる上で、受講生一人一人にとって必要と思われる課題を把握し、不足している知識や技能等を補完する。①教師としての使命・責任・教育愛、②社会人としての社会性・対人関係能力、③授業の根幹をなす児童理解・学級経営、④教科内容の理解と指導力				
授業の進め方 (履修条件など)	担当教員による講義時間を少なくし、学生主体の発表、役割演技、模擬授業を積極的に取り入れ、実際の教育場面を想定した演習の時間を多くする。模擬授業も1単位時間にこだわらず、導入場面や朝の会でのスピーチ、保護者会での挨拶等、実践的な場面に焦点を当てる。その際、大学4年間で学んだ知識や表現力が十分に発揮させつつも、不足している部分の自覚を促し、指導を重ねていく。				
成績評価方法	授業への参加姿勢、小テスト、発表内容、レポート等を総合的に評価する。その際、複数の教員が多角的な角度から評価を行うようにする。				
基準					
授業の予習・復習	討議参加の準備として調査を求める場合がある。				
教科書	毎時間、必要な印刷物を配布する。				
参考文献	適宜紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	教育の場面を素材として教師・社会人に求められる基礎力の存在を理解する。			
第2回	教師の話術	場に応じた話題の選び方や話し方を考える。			
第3回	学校教育と校務分掌	組織として教育に取り組むための方策を理解する。			
第4回	現職教員による講義	学校経営における諸問題			
第5回	ICT教育	電子黒板やデジタル教科書の可能性を理解する。			
第6回	ICT活用授業の参観	ICTに取り組んでいる小学校の授業を参観する。			
第7回	小学校の外国語活動	中学英語との違いを理解し、担任に求められる英語力・授業力を理解する。			
第8回	現職教員による講義	校内研修の取り組み			
第9回	いじめに関する事例研究	役割演技を通して、当事者の心情を理解していく。			
第10回	体罰に関する事例研究	事例の分析を通して体罰が起きる背景を理解する。			
第11回	クレームに関する事例研究	保護者の言い分を理解しつつ、よりよい解決を求めるという立場を理解する。			
第12回	現職教員による講義	公立小学校における特別支援教育の課題			
第13回	教師と情報	社会人として新聞やネットとどのように付き合うべきかを考える。			
第14回	教師と文章表現	通知表や報告書、連絡帳など様々な場面で適切な文章表現力が求められることを理解する。			
第15回	まとめ	学生の要望に応える形で課題を用意する。			

# 国際

授業番号	B104100002				
科目名 (英語表記)	教職実践演習 (Teacher Training Practical Seminar)			(小学校)	
担当者 (英語表記)	山口 政之 (Masayuki Yamaguchi)	対象学年	4	単位数	2
授業のねらいと到達目標	教員になる上で、受講生一人一人にとって必要と思われる課題を把握し、不足している知識や技能等を補完する。①教師としての使命・責任・教育愛、②社会人としての社会性・対人関係能力、③授業の根幹をなす児童理解・学級経営、④教科内容の理解と指導力				
授業の進め方 (履修条件など)	担当教員による講義時間を少なくし、学生主体の発表、役割演技、模擬授業を積極的に取り入れ、実際の教育場面を想定した演習の時間を多くする。模擬授業も1単位時間にこだわらず、導入場面や朝の会でのスピーチ、保護者会での挨拶等、実践的な場面に焦点を当てる。その際、大学4年間で学んだ知識や表現力が十分に発揮させつつも、不足している部分の自覚を促し、指導を重ねていく。				
成績評価方法	授業への参加姿勢、小テスト、発表内容、レポート等を総合的に評価する。その際、複数の教員が多角的な角度から評価を行うようにする。				
基準					
授業の予習・復習	討議参加の準備として調査を求める場合がある。				
教科書	毎時間、必要な印刷物を配布する。				
参考文献	適宜紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	教育の場面を素材として教師・社会人に求められる基礎力の存在を理解する。			
第2回	教師の話術	場に応じた話題の選び方や話し方を考える。			
第3回	学校教育と校務分掌	組織として教育に取り組むための方策を理解する。			
第4回	現職教員による講義	学校経営における諸問題			
第5回	ICT教育	電子黒板やデジタル教科書の可能性を理解する。			
第6回	ICT活用授業の参観	ICTに取り組んでいる小学校の授業を参観する。			
第7回	小学校の外国語活動	中学英語との違いを理解し、担任に求められる英語力・授業力を理解する。			
第8回	現職教員による講義	校内研修の取り組み			
第9回	いじめに関する事例研究	役割演技を通して、当事者の心情を理解していく。			
第10回	体罰に関する事例研究	事例の分析を通して体罰が起きる背景を理解する。			
第11回	クレームに関する事例研究	保護者の言い分を理解しつつ、よりよい解決を求めるという立場を理解する。			
第12回	現職教員による講義	公立小学校における特別支援教育の課題			
第13回	教師と情報	社会人として新聞やネットとどのように付き合うべきかを考える。			
第14回	教師と文章表現	通知表や報告書、連絡帳など様々な場面で適切な文章表現力が求められることを理解する。			
第15回	まとめ	学生の要望に応える形で課題を用意する。			

# 国際

授業番号	B104100003		
科目名 (英語表記)	教職実践演習 (Teacher Training Practical Seminar)		(小学校)
担当者 (英語表記)	田中 未央 (Mio Tanaka)	対象学年	4
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	教員になる上で、受講生一人一人にとって必要と思われる課題を把握し、不足している知識や技能等を補完する。①教師としての使命・責任・教育愛、②社会人としての社会性・対人関係能力、③授業の根幹をなす児童理解・学級経営、④教科内容の理解と指導力		
授業の進め方 (履修条件など)	担当教員による講義時間を少なくし、学生主体の発表、役割演技、模擬授業を積極的に取り入れ、実際の教育場면을想定した演習の時間を多くする。模擬授業も1単位時間にこだわらず、導入場面や朝の会でのスピーチ、保護者会での挨拶等、実践的な場面に焦点を当てる。その際、大学4年間で学んだ知識や表現力が十分に発揮させつつも、不足している部分の自覚を促し、指導を重ねていく。		
成績評価方法	授業への参加姿勢、小テスト、発表内容、レポート等を総合的に評価する。その際、複数の教員が多角的な角度から評価を行うようにする。		
基準			
授業の予習・復習	討議参加の準備として調査を求める場合がある。		
教科書	毎時間、必要な印刷物を配布する。		
参考文献	適宜紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	教育の場면을素材として教師・社会人に求められる基礎力の存在を理解する。	
第2回	教師の話術	場に応じた話題の選び方や話し方を考える。	
第3回	学校教育と校務分掌	組織として教育に取り組むための方策を理解する。	
第4回	現職教員による講義	学校経営における諸問題	
第5回	ICT教育	電子黒板やデジタル教科書の可能性を理解する。	
第6回	ICT活用授業の参観	ICTに取り組んでいる小学校の授業を参観する。	
第7回	小学校の外国語活動	中学英語との違いを理解し、担任に求められる英語力・授業力を理解する。	
第8回	現職教員による講義	校内研修の取り組み	
第9回	いじめに関する事例研究	役割演技を通して、当事者の心情を理解していく。	
第10回	体罰に関する事例研究	事例の分析を通して体罰が起きる背景を理解する。	
第11回	クレームに関する事例研究	保護者の言い分を理解しつつ、よりよい解決を求めるという立場を理解する。	
第12回	現職教員による講義	公立小学校における特別支援教育の課題	
第13回	教師と情報	社会人として新聞やネットとどのように付き合うべきかを考える。	
第14回	教師と文章表現	通知表や報告書、連絡帳など様々な場面で適切な文章表現力が求められることを理解する。	
第15回	まとめ	学生の要望に応える形で課題を用意する。	



# 国際

授業番号	B104100004		
科目名 (英語表記)	教職実践演習 (Teacher Training Practical Seminar)		(小学校)
担当者 (英語表記)	辻山 洋介 (Yosuke Tsujiyama)	対象学年	4
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	教員になる上で、受講生一人一人にとって必要と思われる課題を把握し、不足している知識や技能等を補完する。①教師としての使命・責任・教育愛、②社会人としての社会性・対人関係能力、③授業の根幹をなす児童理解・学級経営、④教科内容の理解と指導力		
授業の進め方 (履修条件など)	担当教員による講義時間を少なくし、学生主体の発表、役割演技、模擬授業を積極的に取り入れ、実際の教育場面を想定した演習の時間を多くする。模擬授業も1単位時間にこだわらず、導入場面や朝の会でのスピーチ、保護者会での挨拶等、実践的な場面に焦点を当てる。その際、大学4年間で学んだ知識や表現力が十分に発揮させつつも、不足している部分の自覚を促し、指導を重ねていく。		
成績評価方法	授業への参加姿勢、小テスト、発表内容、レポート等を総合的に評価する。その際、複数の教員が多角的な角度から評価を行うようにする。		
基準			
授業の予習・復習	討議参加の準備として調査を求める場合がある。		
教科書	毎時間、必要な印刷物を配布する。		
参考文献	適宜紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	教育の場面を素材として教師・社会人に求められる基礎力の存在を理解する。	
第2回	教師の話術	場に応じた話題の選び方や話し方を考える。	
第3回	学校教育と校務分掌	組織として教育に取り組むための方策を理解する。	
第4回	現職教員による講義	学校経営における諸問題	
第5回	ICT教育	電子黒板やデジタル教科書の可能性を理解する。	
第6回	ICT活用授業の参観	ICTに取り組んでいる小学校の授業を参観する。	
第7回	小学校の外国語活動	中学英語との違いを理解し、担任に求められる英語力・授業力を理解する。	
第8回	現職教員による講義	校内研修の取り組み	
第9回	いじめに関する事例研究	役割演技を通して、当事者の心情を理解していく。	
第10回	体罰に関する事例研究	事例の分析を通して体罰が起きる背景を理解する。	
第11回	クレームに関する事例研究	保護者の言い分を理解しつつ、よりよい解決を求めるという立場を理解する。	
第12回	現職教員による講義	公立小学校における特別支援教育の課題	
第13回	教師と情報	社会人として新聞やネットとどのように付き合うべきかを考える。	
第14回	教師と文章表現	通知表や報告書、連絡帳など様々な場面で適切な文章表現力が求められることを理解する。	
第15回	まとめ	学生の要望に応える形で課題を用意する。	

国際

授業番号	B104110001				
科目名 (英語表記)	教職実践演習 (中・高) (Teacher Training Practical Seminar)				
担当者 (英語表記)	奈良 明 (Akira Nara)	対象学年	4	単位数	2
授業のねらいと到達目標	教育実習終了後、これまでの履修状況をふまえ、教員として求められる資質能力の土台強化を図るとともに、求められる心構えや知識、教育技術を補完する。				
授業の進め方 (履修条件など)	教育実習を振り返り、教科の授業計画の立案と授業の方法について、模擬授業と相互の講評を通して多面的に追究する。また、学校教育において重要な学級経営の在り方について、講義とグループ討論を中心に探求する。				
成績評価方法	指導案 (40 点)、模擬授業 (20 点)、レポート作成 (40 点)				
基準					
授業の予習・復習	予習：前時の内容に目を通しておく。 復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておく。				
教科書	特に指定しない				
参考文献	授業の中で適宜紹介する				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と進め方			
第 2 回	講義・討論	よりよい授業計画と授業実践			
第 3 回	〃	学習指導要領の確認			
第 4 回	実習・討論	教科指導について (学習指導案作成の現状と課題)			
第 5 回	〃	〃 (模擬授業①)			
第 6 回	〃	〃 (模擬授業②)			
第 7 回	講義・討論	いじめ、不登校への対応			
第 8 回	〃	学校教育と家庭・地域社会との連携			
第 9 回	〃	職場としての学校での人間関係づくり			
第 10 回	〃	学級経営を考える① (学級経営とは)			
第 11 回	〃	〃 ② (生徒指導を生かした学級経営)			
第 12 回	〃	〃 ③ (発達障害の生徒についての対応)			
第 13 回	〃	〃 ④ (よりよい学級づくりへのアプローチ)			
第 14 回	講義・実習	〃 ⑤ (学級経営案の作成)			
第 15 回	〃	教員としての今後の課題について			

国際					
授業番号	B102250001				
科目名(英語表記)	金融論 (Monetary Theory)				
担当者(英語表記)	織井 啓介 (Keisuke Orii)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	金融の基礎知識を平易に講義します。①金融の役割、②家計・企業の金融ニーズ、③銀行業務と金融機関の種類、④中央銀行の役割が主な内容です。近い将来社会人となる皆さんが、経済活動を営むのに不可欠な「金融」について包括的な知識が得られます。				
授業の進め方(履修条件など)	講義とプリントによる簡単な演習が中心です。毎時間ノートをしっかり取り、章ごとに整理・復習しましょう。				
成績評価方法	①期末試験(教場試験またはレポート) 50%、②平常点 50%が評価の目安です。				
基準					
授業の予習・復習	予習: 配布プリントを予習するとともに、TV・新聞で経済ニュースに親しみましょう。 復習: 練習問題を自宅で演習し、次の授業時間に答え合わせをしましょう。				
教科書	とくに使用しません。				
参考文献	藤田康範『よくわかる金融と金融理論』学陽書房、2004年。 日本銀行金融研究所『日本銀行の機能と業務』有斐閣、2011年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	「金融論」講義の概要	講義スケジュール等を説明			
第2回	第1章: 金融の役割	直接金融と間接金融			
第3回	第2章: 家計と金融①	金利の種類と利回り計算			
第4回	第2章: 家計と金融②	債券・株式投資と投資信託			
第5回	第3章: 企業と金融	資金繰と設備投資			
第6回	第4章: 銀行業務①	預金・貸出業務			
第7回	第4章: 銀行業務②	為替・付随業務			
第8回	第5章: 金融制度①	民間金融機関			
第9回	第5章: 金融制度②	公的金融機関			
第10回	第6章: 中央銀行	日本銀行の組織と役割			
第11回	第7章: 貨幣①	現金通貨と預金通貨			
第12回	第7章: 貨幣②	貨幣の需要と供給			
第13回	第8章: 金融政策①	金融政策の概要			
第14回	第8章: 金融政策②	日本銀行の金融政策			
第15回	「金融論」講義のまとめ	総括と補遺事項			

国際					
授業番号	B102240001				
科目名 (英語表記)	経営学 (Business Administration)				
担当者 (英語表記)	岸本 太一 (Taichi Kishimoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、大きく2つあります。一つは、経営学の基礎的な内容を理解することです。ただし、時間の関係上、経営学の全ての分野に触れることはできません。もう一つは、学んだ理論を用いて現実の企業を分析するための初歩的なスキルを身につけることです。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義内容は大きく2つに分かれます。一つは、理論に関するレクチャーです。もう一つは、紹介した理論に関連する企業の事例を紹介するという内容です。この二つの内容を交互に進めていきます。				
成績評価方法	中間レポート (40%)、期末レポート (40%)、授業への貢献 (20%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：次回のテーマに関連しそうな企業について、調べておいてください。 復習：講義で板書したノートを再読し、理解を深めて下さい。				
教科書	伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞社				
参考文献	講義にて、適時紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図など			
第2回	経営学とは	経営学の全体像			
第3回	マーケティング①	理論編			
第4回	マーケティング②	事例編			
第5回	経営戦略①	理論編			
第6回	経営戦略②	事例編			
第7回	ビジネスシステム	理論編 & 事例編			
第8回	中間レポートセッション	優秀レポートを用いた発表セッション			
第9回	資本構造のマネジメント	理論編 & 事例編			
第10回	雇用構造のマネジメント①	理論編			
第11回	雇用構造のマネジメント②	事例編			
第12回	人材マネジメント①	理論編			
第13回	人材マネジメント②	事例編			
第14回	組織構造①	理論編			
第15回	組織構造②	事例編			

国際					
授業番号	B102170001				
科目名 (英語表記)	経営学入門 (Introduction to Business Administration)				
担当者 (英語表記)	畑野 浩 (Hiroshi Hatano)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	企業の経営全般に関する基本的な用語・理論を理解し。2年次以降で国際ビジネスに関連する専門科目を学習するための基礎を作る。企業は、社会人基礎力を重視しており、働きかけ力、計画力、課題発見力を求めている。現地調査をとりいれ、企業研究と就職活動の実践的な訓練をする。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回配布するレジュメ、事例に沿って、講義形式で進めるが、ディスカッションもとりいれる。学生がなるべく授業中に発言してもらうように指導していく。				
成績評価方法 基準	出席 30% オンラインによる理解度テスト 50% 現地調査およびレポート提出 20%				
授業の予習・復習	予習：配布資料を予習しましょう。 復習：授業内でのディスカッションを復習しましょう。 ビジネス関連の時事ニュースには関心を持って、読み、かつ聞くこと。				
教科書	特になし。				
参考文献	伊丹敬之著「ゼミナール経営学入門」 日本経済新聞出版社 上林憲雄他「経営学入門」 有斐閣				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	講義の進め方、経営学の概要			
第2回	会社の経営	会社とは何か、経営資源とは			
第3回	会社の役割	会社はどのように社会に役立っているか			
第4回	会社の形態と統治	誰が会社を動かしているか			
第5回	経営理念	会社はどのような方針で動いているか			
第6回	経営戦略	会社の戦略、事業戦略			
第7回	競争戦略	ポーターの競争戦略			
第8回	マーケティング I	マーケティングの領域			
第9回	マーケティング II	マーケティング戦略の策定			
第10回	現地調査	マーケットリサーチ			
第11回	国際経営	海外でどのように経営するか			
第12回	企業会計	財務諸表の読み方			
第13回	リーダーシップ	人を動かすリーダーの役割			
第14回	企業統治	所有と経営の分離、ガバナンス改革			
第15回	企業の社会的責任	企業文化と CSR			

国際

授業番号	B102180001				
科目名 (英語表記)	経済学概論 I (マクロ経済学) (Introduction to Economics I)				
担当者 (英語表記)	小林 啓祐 (Keisuke Kobayashi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は前・後期の講義を通して、経済学 (マクロ経済学・ミクロ経済学) の知識、およびその知識を用いて日本経済の構造を理解することを目的とする。前期は主にマクロ経済学について学ぶ。講義では、時事問題を扱うことにより、現代の日本経済がどのような構造にあるのかを理解することを目標とした。				
授業の進め方 (履修条件など)	小テストを 3 回行うので、すべて受けること。				
成績評価方法	毎講義中の参加態度 (10%)、および 3 回の小テスト (30%) をあわせて評価する				
基準					
授業の予習・復習	シラバスを事前に確認し、教科書にて予習をすること。				
教科書	辻正次・八田英二『What's 経済学』(第三版), 有斐閣, 2010 年。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	本講義のガイダンスを行い、経済学が射程とする問題領域について学ぶ			
第 2 回	GDP と景気変動	GDP がどのような指標であるか、またなぜ景気変動がおこるのかについて学ぶ			
第 3 回	金融政策と経済	金融市場の特徴と金融政策が同市場に与える影響について学ぶ			
第 4 回	為替と経済	為替がなぜ変動するのかについて学ぶ			
第 5 回	第 1 回小テスト	第 2 回から 4 回までの講義内容の小テストを行う			
第 6 回	貿易と国際収支	貿易黒字・赤字が経済にどのような影響を与えているのかについて学ぶ			
第 7 回	バブル経済	バブル経済と言われる経済状況がなぜ起こるのかについて学ぶ			
第 8 回	貯蓄と経済	貯蓄率の変動が持つ意味について学ぶ			
第 9 回	第 2 回小テスト	第 6 回から 8 回までの内容の小テストを行う			
第 10 回	国債と経済	国債が政府の財政、経済に与える影響について学ぶ			
第 11 回	インフレとデフレ	物価があがる、さがるという変化が経済に与える影響について学ぶ			
第 12 回	様々な経済成長のかたち	経済成長をするということとはどのようなことなのか、様々なケースを用いて考察する			
第 13 回	経済構造の変化	日本を事例として、なぜ経済構造に変化が必要なのかについて学ぶ			
第 14 回	第 3 回小テスト	第 10 回から 13 回までの内容の小テストを行う			
第 15 回	まとめ	マクロ経済学のまとめと総復習を行う			

国際

授業番号	B102210001				
科目名 (英語表記)	経済学概論 II (ミクロ経済学) (Introduction to Economics II)				
担当者 (英語表記)	小林 啓祐 (Keisuke Kobayashi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は前・後期の講義を通して、経済学 (マクロ経済学・ミクロ経済学) の知識、およびその知識を用いて日本経済の構造を理解することを目的とする。後期は主にミクロ経済学について学ぶ。講義では、時事問題を扱うことにより、現代の日本経済がどのような構造にあるのかを理解することを目標とした。				
授業の進め方 (履修条件など)	小テストを 3 回行うので、すべて受けること。				
成績評価方法	毎講義中の発言・参加態度 (10%)、および 3 回の小テスト (90%) をあわせて評価する				
基準					
授業の予習・復習	シラバスを事前に確認し、教科書にて予習をすること。				
教科書	辻正次・八田英二『What's 経済学』(第三版), 有斐閣, 2010 年。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	価格と市場	価格決定のメカニズムについて学ぶ			
第 2 回	所得の変化と経済	所得の変化が価格や賃金などにどのように影響を与えるのかについて学ぶ			
第 3 回	企業の供給行動	企業が様々な条件のもとでどのような生産を行うのかについて学ぶ			
第 4 回	価格変動のメカニズム	価格が様々な条件のもと、どのようにして変化していくのかについて学ぶ			
第 5 回	第 4 回小テスト	第 1 回から 4 回までの内容について小テストを行う			
第 6 回	独占の功罪	独占企業の存在が経済にどのような影響を与えているのかについて学ぶ			
第 7 回	不完全競争	市場における不完全競争がどのような結果をもたらすかについて学ぶ			
第 8 回	公共財と経済	国などが管理する公共財が経済活動にどのような意味をもっているのかについて学ぶ			
第 9 回	第 5 回小テスト	第 6 回から 8 回までの内容について小テストを行う			
第 10 回	外部性の発生	他人の経済活動からなんらかの影響をうけることが、どのような変化をもたらすかについて学ぶ			
第 11 回	情報と市場	情報の不足が市場にもたらす影響について学ぶ			
第 12 回	日本型経営システム	世界的にみて特殊ともいえる日本型の経営システムがどのような特徴をもっているのかについて学ぶ			
第 13 回	様々な市場と経済	具体的な事例を用いて、いろいろな市場・価格について考察する			
第 14 回	第 6 回小テスト	第 10 回から 13 回までの内容について小テストを行う			
第 15 回	まとめ	ミクロ経済学のまとめを行ったのち、総復習を行う			

国際

授業番号	B102160001				
科目名 (英語表記)	経済学入門 (Introduction to Economics)				
担当者 (英語表記)	小林 啓祐 (Keisuke Kobayashi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は経済学をはじめて学ぶ学生のために、その入門的な知識を与えることを目的とする。講義では、理論のみに徹することなく、日本が歩んできた歴史をもとに、身近な話題を抱負に盛り込むことで理解を深めていきたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	小テストを 3 回行うので、すべて受けること。				
成績評価方法	毎講義中の参加態度 (10%)、および 3 回の小テスト (各 30%) をあわせて評価する				
基準					
授業の予習・復習	シラバスを事前に確認し、教科書にて予習をすること。				
教科書	中谷武 中村保編著『1からの経済学』碩学社, 2010 年				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義方法の説明などを行う			
第 2 回	経済学とは	そもそも経済学とはどういう学問かを学びます			
第 3 回	分業とは	経済学で最も基本的な概念といえる分業について学びます			
第 4 回	需要と供給	需要と供給がどのように関係しているのかを学びます			
第 5 回	小テスト 1	第 2 回から第 4 回までの小テストを行います			
第 6 回	価格メカニズムと市場の効率性	価格決定と市場の基本的なメカニズムについて学びます			
第 7 回	市場の失敗と限界	市場が失敗する要因とその限界について学びます			
第 8 回	労働市場	労働市場の動きについて学びます			
第 9 回	小テスト 2	6 回～8 回の範囲の小テストを行う			
第 10 回	GDP とは	GDP とは何か、そしてどのようにして決まるのかについて学びます			
第 11 回	消費需要と投資需要	消費と投資がもたらす経済への影響について学びます			
第 12 回	貨幣と金融	貨幣の基本的な役割と金融について学びます			
第 13 回	政府の役割と経済成長率	政府が行う経済政策と経済指標の一つである成長率について学びます			
第 14 回	外国貿易と為替レート	貿易と為替がどのようにして変動するのか、そのメカニズムについて学びます			
第 15 回	小テスト 3	第 10 回～14 回の範囲の小テストを行う			



国際					
授業番号	B102000001				
科目名 (英語表記)	刑法 (Criminal Law)				
担当者 (英語表記)	寛正 豊和 (Toyokazu Kakusho)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>現代社会におけるさまざまな犯罪現象に対して、刑法がどのように対応しているかについて明らかにしていきたいと思ます。</p> <p>一般的に刑法の講義は、「刑法総論」と「刑法各論」に分かれています。刑法総論は犯罪の成立要件と刑罰の内容を説明する部分で、刑法各論は法律上犯罪とされる行為はどのようなものであるかについて各条文を一つ一つ検討していくものです。この講義では、公務員試験をはじめとする各種試験に向けた入門としての役割をも持たせようと考えています。よって、刑法の全体的概要、基本的しくみ、理念、解釈などについてわかり易く説明していくつもりです。ぜひ、興味をもって受講されることを望んでいます。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	特にありません。				
成績評価方法 基準	初回の授業において、指示します。				
授業の予習・復習	初回の授業において、指示します。				
教科書	齊藤静敬・寛正豊和 共著『刑法(総論)への招待』 創成社 齊藤静敬・寛正豊和 共著『刑法(各論)への招待』 創成社				
参考文献	授業において指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	導入	受講のガイダンス			
第2回	刑法の意義と機能	刑法の内容、構造、犯罪と刑罰、刑法解釈など			
第3回	刑法の基本原則	罪刑法定主義、謙抑主義、学派の対立、適用範囲など			
第4回	構成要件該当性	構成要件論、行為論、不作為犯論、因果関係論、故意論、錯誤論、過失論			
第5回	違法性	違法性の本質、正当行為、緊急行為、安楽死など			
第6回	有責性	責任の本質、責任能力、期待可能性など			
第7回	未遂犯・不能犯	実行の着手、中止犯、不能犯など			
第8回	共犯	共同正犯、教唆犯、幫助犯など			
第9回	個人的法益に対する罪	生命・身体に対する犯罪			
第10回	個人的法益に対する罪	自由、プライバシー、名誉・信用に対する犯罪			
第11回	個人的法益に対する罪	財産に対する犯罪			
第12回	社会的法益に対する罪	放火罪、通貨・有価証券・文書偽造罪・風俗罪			
第13回	国家的法益に対する罪	公務執行妨害罪、偽証罪、賄賂罪			
第14回	基本知識チェック	練習問題			
第15回	総括	まとめおよび質疑			

国際					
授業番号	B100140001				
科目名 (英語表記)	健康運動科学 (Health Sports Science)			国際専用	
担当者 (英語表記)	岩井 幸博 (Yukihiro Iwai)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	様々な運動遊びやスポーツ、あるいは日本の伝承遊びを通して、からだを動かす心地よさや楽しさを十分に味わい、仲間作りや健康・体力の維持・増進を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	上記のねらいを達成するために、各種運動遊び・伝承遊び・スポーツを経験する。運動着および運動靴を必ず着用する。				
成績評価方法	出席状況 (50%)、授業態度 (30%)、実技課題 (20%) を総合的に判断して評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：どんな運動遊び・スポーツを経験してきたか、自身の運動経験を振りかえっておく。 復習：授業で取り上げる運動遊び・スポーツの課題に取り組む。適宜プリント資料を配付するので各自復習する。				
教科書	なし				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業概要の説明等			
第2回	移動運動①・ソフトバレーボール①	基本ステップ①・ソフトバレーボール①円陣パス			
第3回	移動運動②・伝承遊び①・ソフトバレーボール②	基本ステップ②・お手玉①・ソフトバレーボール②基本技能			
第4回	伝承遊び②・ソフトバレーボール③	お手玉②・ソフトバレーボール③試合 (リーグ戦)			
第5回	伝承遊び③・ソフトバレーボール④	お手玉③・ソフトバレーボール④試合 (トーナメント戦)			
第6回	伝承遊び④・バスケットボール①	長なわとび①・バスケットボール①基本技能			
第7回	伝承遊び⑤・バスケットボール②	長なわとび②・バスケットボール②試合 (リーグ戦)			
第8回	伝承遊び⑥・バスケットボール③	長なわとび③・バスケットボール③試合 (トーナメント戦)			
第9回	伝承遊び⑦・インドアサッカー①	竹トンボ・インドアサッカー①基本技能			
第10回	伝承遊び⑧・インドアサッカー②	コマ回し①・インドアサッカー②試合			
第11回	伝承遊び⑨・インドアサッカー③	コマ回し②・インドアサッカー③試合 (リーグ戦)			
第12回	運動遊び①・インドアサッカー④	紙ブーメラン・インドアサッカー④試合 (トーナメント戦)			
第13回	運動遊び②・ドッジボール①	紙フリスビー①・ドッジボール①投捕の動作			
第14回	運動遊び③・ドッジボール②	紙フリスビー②・ドッジボール②試合			
第15回	まとめ	授業の振り返り			

国際

授業番号	B100140002				
科目名 (英語表記)	健康運動科学 (Health Sports Science)			こども専用 (A)	
担当者 (英語表記)	西野 明 (Akira Nishino)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講座は、教員免許取得に必要な必須科目である。本講座においては、色々な運動・スポーツの実践を通して、スキルの上達のみならず、運動・スポーツが心身に及ぼす影響などについても理解を深める。また、改めて自分自身の健康についても再認識し、生涯スポーツ実践者を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には実技を行うので、それにふさわしい恰好を準備し、お互いが協力できるように、仲間と積極的にかかわる。				
成績評価方法	授業に参加するだけでなく、スキル上達や授業への取り組みなどを判断して評価する。				
基準	出席状況 (40%)、実技テスト (40%)、その他 (20%)				
授業の予習・復習	授業の予習としては、実施する運動の特徴などを理解し、スキル向上への取り組みが必要で、復習としては、授業内容を中心に実技の向上や知識習得を目指してほしい。				
教科書	なし				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業に関する詳細説明など			
第 2 回	ソフトバレーボール (1)	歴史、特性、ルールなどの理解			
第 3 回	ソフトバレーボール (2)	基本的スキル (パス、スパイクなど) の練習・実践			
第 4 回	ソフトバレーボール (3)	三段攻撃やブロックの練習・実践			
第 5 回	ソフトバレーボール (4)	試合形式による実践			
第 6 回	バレーボール (1)	基本的スキルの確認・実践			
第 7 回	バレーボール (2)	試合形式の実践 (1)			
第 8 回	バレーボール (3)	試合形式の実践 (2)			
第 9 回	バスケットボール (1)	基本的スキルの確認・実践			
第 10 回	バスケットボール (2)	応用的スキルの練習・実践			
第 11 回	バスケットボール (3)	試合形式の実践 (1)			
第 12 回	バスケットボール (4)	試合形式の実践 (2)			
第 13 回	運動・スポーツが人体に与える影響 (1)	身体的側面への影響			
第 14 回	運動・スポーツが人体に与える影響 (2)	心理的 (精神的) 側面への影響			
第 15 回	まとめ	実技・講義を通じた内容の理解			

国際

授業番号	B103800001				
科目名 (英語表記)	言語学入門 (Introduction to Linguistics)				
担当者 (英語表記)	黄麗華 (Ko Reika)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本語教育を視野に入れながら、言語全般に関する基本的な知識の理解・習得を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には講義形式であるが、適宜さまざまな練習問題を解くことで理解を深めていく。 留学生で受講を希望する者は、日本語能力試験2級相当の日本語力を必要とするので、注意すること。				
成績評価方法 基準	定期試験7割、平常点3割。 3回以上欠席した者、または受講態度の良くない者は評価から外す。遅刻も認めない。				
授業の予習・復習	予習：授業時に指示する。 復習：授業時に指示する。				
教科書	教科書は使用せず、プリントを配布する。				
参考文献	授業時に適宜紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	概要			
第2回	音声学 1	人間の発する音声について その1			
第3回	音声学 2	人間の発する音声について その2			
第4回	音韻論 1	日本語で使われる音の概要			
第5回	音韻論 2	アクセントやイントネーション			
第6回	形態論 1	日本語の単語を中心に その1			
第7回	形態論 2	日本語の単語を中心に その2			
第8回	統語論 1	日本語の文法を中心に その1			
第9回	統語論 2	日本語の文法を中心に その2			
第10回	意味論 1	ことばや表現の意味について考える その1			
第11回	意味論 2	ことばや表現の意味について考える その2			
第12回	意味論 3	ことばや表現の意味について考える その3			
第13回	文字論 1	日本語の文字を中心に			
第14回	文字論 2	世界の文字			
第15回	まとめ	総まとめ			

国際		
授業番号	B100060002	
科目名 (英語表記)	憲法 (The Japanese Constitution) 国際	
担当者 (英語表記)	寛正 豊和 (Toyokazu Kakusho) 対象学年 1 単位数 2	
授業のねらいと到達目標	<p>憲法の概要は、すでに中学の「公民」や高等学校の「現代社会」「政治・経済」などで理解してきているように、国家の根本原則、すなわち国家の統治組織・統治作用や権利保障(人権)のあり方について定めた基本となる法律です。したがって、憲法をさらに把握理解し、よりよい社会の創造にむけていくことは、国民としての必須の事柄です。</p> <p>本講義は、憲法の保障する原理や思想を近代憲法発展の歴史のなかで捉え、また、問題点などについて諸外国との比較や判例・学説を素材として平易に具体的に理解していくことを目的とします。</p>	
授業の進め方(履修条件など)	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開していきますが、法学入門を併せて履修することが望ましいです。	
成績評価方法	平常点(授業内に適応おこなうリアクションペーパー等や任意課題レポート) 30%、定期試験 70%で評価します。	
基準		
授業の予習・復習	教科書等を読みよく理解できない点を把握し、確認しましょう。	
教科書	斉藤静敬・寛正豊和 共著『法学・憲法』八千代出版	
参考文献	各回の授業時において適宜紹介します。	
回数	授業項目	授業内容
第1回	導入	憲法を学ぶ意義
第2回	憲法概念(1)	憲法の意義・憲法の種類
第3回	憲法の概要(2)	法の支配、三権分立
第4回	日本国憲法の成立過程	日本国憲法の内容の概観と理解
第5回	憲法の制定・改正および変遷	憲法の制定・改正および変遷とは
第6回	憲法改正と限界	改正限界説と改正無限界説
第7回	憲法の基本原理	憲法の基本原理とは・基本的人権の種類
第8回	国民主義	国民主義とは
第9回	基本的人権(1)	精神的自由(思想、良心)
第10回	基本的人権(2)	精神的自由(信教、学問、表現、集会、結社)
第11回	基本的人権(3)	経済的自由(職業選択、財産権)
第12回	基本的人権(4)	人身の自由
第13回	平和主義	平和主義とは
第14回	統治機構・地方自治	統治機構とは・地方自治の基本原則、地方公共団体、地方自治特別法
第15回	総括	まとめおよび質疑

国際			
授業番号	B100010003		
科目名 (英語表記)	口頭表現 (Colloquial Expression)		留学生 (B)
担当者 (英語表記)	櫻木 紀子 (Noriko Sakuragi)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	表現力、即ち、まとまった内容を伝える能力を身につける。 また、会話力、例えば、発表時の質問に答える能力を養う。		
授業の進め方 (履修条件など)	(1) 発表のための下書原稿を普通体で作成。 (2) 発表のための原稿を丁寧体で作成。 (3) イントネーション等、発音練習。 (4) 発表の練習。(小人数又は2人一組で行う) (5) 全体への発表。 (6) 各原稿をワープロで清書。		
成績評価方法 基準	原稿や授業中の作業課題の提出および発表で評価する。期末試験はしない。但し、課題全てを提出することといずれも60%以上であることが必須条件。		
授業の予習・復習	予習：(1) 下書原稿や発表原稿を準備する。 (2) 発表原稿を充分読む練習をする。 復習：各自、授業中、あるいは返却された原稿の注意点などを復習する。		
教科書	なし。但し、新聞やテレビの番組をまとめたり意見を述べたる材料とすることがある。		
参考文献	なし。但し、授業中に適当な参考文献が紹介されることもある。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	利[ンテ]ン。原稿①の1	情報収集と整理の練習。「他己紹介」の下書原稿作成。	
第2回	原稿①の2：発表原稿作成	発表するための工夫。決まった表現等を考える。	
第3回	原稿①の3：発表。清書原稿提出	小人数又は全体に発表。宿題：原稿②を準備する	
第4回	原稿②の1：論理的、客観的に述べる	教師から示された推敲ポイントに気を付けて自分で直す。	
第5回	原稿②の2：発表原稿作成	原稿①の表現等を参考に仕上げる。。	
第6回	原稿②の3：発表。清書原稿提出	小人数又は全体に発表。宿題：原稿③を準備する。	
第7回	原稿③の1：自分の考えを述べる	自他の意見を区別し論理的に述べる下書原稿作成。	
第8回	原稿③の2：発表原稿作成	推敲ポイント：論理の矛盾、自他の意見の区別が明瞭か等を検討する。	
第9回	原稿③の3：発表。清書原稿提出	小人数あるいは全体に発表。宿題：原稿④を準備する。	
第10回	原稿④の1：他者の意見にコメントする	賛成意見を述べる	
第11回	原稿④の2：発表原稿作成	小人数あるいは全体で各自のコメント内容を検討する。	
第12回	原稿⑤の1：他者の意見にコメントする。原稿④清書提出	反対意見を述べる	
第13回	原稿⑤の2：発表原稿作成	小人数又は全体で各自のコメント内容を検討する。宿題：原稿⑥各自自由に話題を選び発表原稿を作成する。	
第14回	原稿⑥：発表。。原稿⑤清書提出。	発表内容についてコメントを言う。またそれを文字化する。	
第15回	原稿⑦：今学期を振り返り、自分の能力を分析してみる。原稿集作成。	文章構成力、語彙、発音等について考えてみる。	

国際

授業番号	B100010004		
科目名 (英語表記)	口頭表現 (Colloquial Expression)		留学生 (A)
担当者 (英語表記)	本多 久美子 (Kumiko Honda)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、身近なテーマについて話したり書いたりする練習をしながら、大学生活に必要な発表やスピーチを行うことができるような日本語力を身につけることを目標にしている。 授業でパソコンを使うことがあるので、USB メモリーをいつも持ってくることを目標にしている。		
授業の進め方 (履修条件など)	(1) グループを作りテーマについて話し合う。(2) 内容をまとめて発表する。(3) 他の人の発表について自分の意見を述べる。		
成績評価方法	毎回、発表とワークシートを提出。学期中に3回発表会を行う。		
基準			
授業の予習・復習	予習：発表内容について調査をし、発表の準備をしておく。 復習：発表した内容をワープロで清書して、提出する。		
教科書	毎回、プリントを配るので、なくさないようにファイルしておくこと。		
参考文献	特になし。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	説明Ⅰ 自己紹介と他者紹介	発表課題「自分を紹介する」	
第2回	説明Ⅱ 意味を説明する	発表課題「私の生まれた町」	
第3回	説明Ⅲ 理由を説明する	発表課題「〇〇はなぜ人気があるのか」	
第4回	第1回発表会の準備	発表課題「私の大切なもの」	
第5回	第1回発表会	発表課題「私の大切なもの」	
第6回	説明Ⅴ 状態を説明する(1)	発表課題「ネガボ辞典」を作ろう①	
第7回	説明Ⅵ 状態を説明する(2)	発表課題「ネガボ辞典」を作ろう②	
第8回	第2回発表会の準備	スピーチのための発音練習	
第9回	第2回発表会	発表課題「私の生まれた町」	
第10回	意見Ⅰ 短く自分の意見を述べる	発表課題「〇〇と〇〇とどちらが重要か」	
第11回	意見Ⅱ わかりやすく自分の意見を述べる	発表課題「〇〇はなぜ〇〇なのか」	
第12回	意見Ⅲ 段落構成を考えて自分の意見を述べる	発表課題「〇〇の是非」	
第13回	意見Ⅳ 対立する2つの意見を対比させる	発表課題「〇〇の功罪」	
第14回	第3回発表会の準備	発表用スライドとハンドアウトの作成と発表練習	
第15回	第3回発表会	発表課題は自由	

国際		
授業番号	B100010006	
科目名 (英語表記)	口頭表現 (Colloquial Expression) 日本人 (C)	
担当者 (英語表記)	坂東 実子 (Jitsuko Bando) 対象学年 1 単位数 2	
授業のねらいと到達目標	大学で学んで行くうえで必要な、口頭表現 (スピーチ、プレゼンテーション、敬語劇)などを学ぶ。 自分でテーマを決めて、アンケート調査・報告・考察したレポートを作成し、パワーポイントを用いてプレゼンテーションする。 作成したレポートやスピーチスクリプトをまとめた個人文集を完成させる。	
授業の進め方 (履修条件など)	①「私のおすすめの本」の推薦文スピーチ。 ②敬語劇の台本作成と寸劇発表。 ③アンケート調査報告のプレゼンテーション。 これらをまとめた個人文集を完成させる。	
成績評価方法	上記の3つの課題への取り組みと、最後にまとめる個人文集の完成度で判定します。	
基準		
授業の予習・復習	予習は、授業で行っていることを考えてくる。 復習は、返却された課題をPCで清書してメールで送る。	
教科書	2013年3月に出版予定。学期が始まってから教室で販売します。	
参考文献	特になし	
回数	授業項目	授業内容
第1回	授業概要。課題①「私のおすすめの本」	メディアセンターで本を選び、紹介文を書く。A「だ・である体」
第2回	課題①B「私のおすすめの本」スピーチスクリプト	前週に書いた紹介文をB「です・ます体」のスピーチスクリプトに書きかえる。※A・BともにPCで清書してメールで提出。
第3回	課題①「私のおすすめの本」スピーチ練習 課題③「アンケート調査レポート」導入	スピーチのポイント。練習。/アンケート調査レポートの計画書 (テーマ・目的・動機) 作成・提出。アンケート対象は敬愛大学国際学部1年生。
第4回	課題①「私のおすすめの本」スピーチ・審査 課題③「アンケート調査レポート」研究計画書	順にスピーチし、審査用紙に記入・提出。/アンケート調査レポートの計画書見直し。
第5回	課題①「私のおすすめの本」スピーチ・審査続き 課題③「アンケート調査レポート」質問項目作成	前週の続き、スピーチ・審査。/アンケート調査レポートの質問項目 (4つの問いと各問の選択肢4~6) 作成。アンケートの結果を事前に考察する。
第6回	課題②「敬語劇」導入 課題③「アンケート調査レポート」アンケート調査	敬語劇のグループ (4人程度) を決め、場面やシナリオを考える。/全員のアンケートに回答する。
第7回	課題②「敬語劇」シナリオ作成 課題③「アンケート調査レポート」アンケート集計	グループごとに敬語劇のシナリオを作る。/アンケート集計結果から自分のテーマに関する解答を抽出し男女別の表にする。
第8回	課題②「敬語劇」練習 課題③「アンケート調査レポート」アンケート結果考察	敬語劇のシナリオ修正・練習/アンケート結果と事前に考察したものを比べ、予想通りだったこと、予想外だったことを挙げ、その理由を考察する。
第9回	課題②「敬語劇」発表・審査 課題③「アンケート調査レポート」レポート作成	敬語劇を発表し、それぞれの発表を審査する。/レポート・ハンドアウト作成
第10回	課題②「敬語劇」発表・審査続き 課題③「アンケート調査レポート」レポート作成続き	敬語劇を発表し、それぞれの発表を審査する。※敬語劇台本をPCで清書しメールで提出。 /レポート・ハンドアウト完成 ※メールで提出。
第11回	課題③「アンケート調査レポート」発表資料作成	PCのある教室で発表資料 (パワーポイント) 作成
第12回	課題③「アンケート調査レポート」発表資料作成続き	PCのある教室で発表資料 (パワーポイント) 作成。※メールで提出。
第13回	文集作成	PCのある教室で、文集 (表紙、目次、課題①A・B、課題②シナリオ、課題③レポート・パワーポイント資料・あとがき) を作成する。
第14回	文集作成続き	PCのある教室で、文集 (表紙、目次、課題①A・B、課題②シナリオ、課題③レポート・パワーポイント資料・あとがき) を完成させ提出する。口頭発表の練習をする。
第15回	口頭表現発表会、まとめの授業	パワーポイントを使って、アンケート調査レポートを口頭発表。/発表の後、完成した文集の返却を受ける。



国際

授業番号	B100010007				
科目名 (英語表記)	口頭表現 (Colloquial Expression)			(A) こども専用	
担当者 (英語表記)	山口 政之 (Masayuki Yamaguchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	大学生活及び教育実習で求められる口語表現能力を高めるために、様々な聞く話す活動を行います。また、ライセンス取得を支援するために、問題集等を適宜活用しますので、進んで挑戦してください。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、次のように進めます。①出席確認 (簡単なスピーチを含む)、②小テスト・課題発表、③本時の課題。電子辞書は必要ですが、原則として携帯電話の使用は認めません。				
成績評価方法	出席の状況、課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえて総合的に評価します。自己責任による遅刻は減点し、欠席 4 回は履修放棄とみなします。				
授業の予習・復習	予習：その都度指示します。 復習：授業で出た課題は、次の時間に各自が発表するので必ず取り組んでください。				
教科書	適宜、印刷物を配布します。				
参考文献	『伝える力』池上彰、PHP ビジネス新書 (この著者の児童向けの本も読んでおきたい)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	教職を目指す学生として求められる口頭表現力を考える。			
第 2 回	口頭表現の基礎	表現内容への理解と、伝えたい思いの大切さ			
第 3 回	自己紹介①	相手に応じて自分を売り込む (資料集め)			
第 4 回	子供にニュースを伝える	教育実習で子供に話すことを想定して、ニュースを要約して話す。			
第 5 回	プレゼンテーション①	自分の住んでいる町 (市、県) のよいところを発表する。			
第 6 回	プレゼンテーション②	実技試験			
第 7 回	意見を述べる	自分が何を学んだのかを明らかにする意見の述べ方。			
第 8 回	質問の仕方	よりよい聴き手とよりよく理解するための質問			
第 9 回	ディベート①	論題の設定から立論の仕方			
第 10 回	ディベート②	論点を絞り込むための質問			
第 11 回	自己紹介②	集めた資料を用いて実技試験を行う。			
第 12 回	対談	友達の自己紹介を受けて対談をする。			
第 13 回	インタビュー	目的を明確にして、事前準備行う。			
第 14 回	面接	「なぜ教職を目指すのか」という質問に答える。			
第 15 回	まとめ	自分の口頭表現力を今後いかにして伸ばしていくか。			

国際

授業番号	B104140002				
科目名 (英語表記)	国語 (Japanese language)			(A)	
担当者 (英語表記)	畑中 千晶 (Chiaki Hatanaka)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>国語は小学校で学ぶあらゆる科目の基礎となります。子どもたちの国語力を十分に伸ばすことのできる教員を目指し、</p> <p>①教科に必要な国語の専門知識 ②教員にふさわしい国語運用能力</p> <p>この二つを身につけることを到達目標として本講義を進めていきます。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	講義中心ですが、自発的に考える力を伸ばすため、適宜、グループ討議なども行っていきます。				
成績評価方法	小テスト (25%)、クラス内活動への取り組み (25%)、期末試験 (50%)				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習：テキスト、配付資料に目を通す。小テスト準備。</p> <p>復習：宿題として課されたタスクに取り組む。</p>				
教科書	鈴木真喜男 / 長尾勇 (2012) 『新編 日本語要説』学芸図書 (修正版第2刷)				
参考文献	このほか適宜配布資料を追加する。 授業時に適宜指示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	イントロダクション	授業の進め方、評価方法など			
第2回	総論「言葉というもの」	基本的な考え方、要約作成			
第3回	総論「言葉の種々相」	言葉の分析方法			
第4回	音声	音が出る仕組み			
第5回	音声	鼻音化・わたり・連音などの諸現象			
第6回	意味	言葉の意味とは			
第7回	語彙	単語量、語種 (和語・漢語・外来語)、位相、新語			
第8回	語彙	教科書の設問分析 (和語・漢語・外来語)			
第9回	語彙	グループに分かれて考察・発表			
第10回	文法	代表的な文法論、文・文節・品詞			
第11回	文法	考える楽しみを知る			
第12回	敬語	新分類について知る、実際の運用場面に即した考察			
第13回	文字	六書、仮名、ローマ字			
第14回	方言	標準語と共通語、方言とは、共通語と方言			
第15回	書写	書写教育の要点			

国際					
授業番号	B101830001				
科目名 (英語表記)	国際移動論 (International Migration)				
担当者 (英語表記)	村川 庸子 (Yoko Murakawa)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	現代の国際的労働力移動の問題を、人口学、経済学、政治学、社会学、比較文化・社会など様々な角度から考察する。「国境」「国家」の持つ意味もあわせて考えていきたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義中心の授業となるが、統計・地図・新聞雑誌記事・映像資料などを用い、その扱い方の習得も目指したい。コーネル式ノート作成法を用いて成績評価を行う。				
成績評価方法 基準	コーネル式ノート作成法を用いて成績評価を行う。(確認テスト 30% ; ノートのコメント欄を中心に 70%) 尚、主体的な学びを奨励する意味で、自主的に提出されるレポートなどは加点の対象とする。				
授業の予習・復習	予習：授業の参考になる新聞雑誌記事などを事前に配布し、授業のはじめに簡単な確認テストを行う。 復習：ノートの「コメント」欄の記述を重視する。				
教科書	特に使用しない。				
参考文献	必要に応じ資料を配布する				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	導入	「国際的労働力移動」を学ぶ意味 講義の進め方			
第 2 回	講義	統計に見る「国際移動」 -- 伝統的移民国家と近年の移民国家			
第 3 回	講義	統計に見る「国際移動」 -- 人口の地域的偏在と移動			
第 4 回	講義	移民をめぐる諸問題—イギリス・フランスの場合			
第 5 回	講義	移民をめぐる諸問題—ドイツの場合			
第 6 回	講義	入移民のメリット・デメリット—アメリカの場合			
第 7 回	講義	出移民のメリット・デメリット—フィリピンの場合			
第 8 回	講義	外国人・市民・非合法移民—米国の市民権制度			
第 9 回	講義	移民とアイデンティティ			
第 10 回	講義	グローバル化の時代の国際移動			
第 11 回	講義	日本と国際労働力移動—移民送出国の歴史			
第 12 回	講義	日本と国際労働力移動—移民受入政策の現状			
第 13 回	講義	日本と国際労働力移動—外国人花嫁			
第 14 回	講義	ポスト 9. 1 1 の移民政策—ナショナル・セキュリティとの関連で			
第 15 回	総括	まとめ			

国際					
授業番号	B102360001				
科目名 (英語表記)	国際会計 (International Accounting)				
担当者 (英語表記)	織井 啓介 (Keisuke Orii)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	「英語・パソコン・国際会計」は現代ビジネスパーソン「三種の神器」と言われます。①英文簿記の基本、②IFRS (国際財務報告基準) の概要を学び、国際化時代に必要な会計の基礎知識を身につけます。①②の学習を通じて、英文表記の企業決算書が読めるようになります。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義とプリントによる簡単な演習が中心です。簿記会計の基礎知識 (「簿記会計基礎」受講程度) とビジネス英語の基礎力のあることが望ましいです。電卓を常備してください。				
成績評価方法	①期末試験 (教場試験またはレポート) 50%、②平常点 50%が評価の目安です。				
基準					
授業の予習・復習	予習：配布プリントを予習しましょう。 復習：練習問題を自宅で演習し、次の授業時間に答え合わせをしましょう。				
教科書	とくに使用しません。				
参考文献	東京商工会議所編『BATIC 公式テキスト』中央経済社、各年版。 Hennie van Greuning, International Financial Reporting Standards: A Practical Guide, The World Bank, 2009.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	「国際会計」講義の概要	講義スケジュールの説明等			
第 2 回	第 1 部：英文簿記①	簿記の基礎概念			
第 3 回	第 1 部：英文簿記②	取引と仕訳			
第 4 回	第 1 部：英文簿記③	試算表			
第 5 回	第 1 部：英文簿記④	決算整理			
第 6 回	第 1 部：英文簿記⑤	精算表と締切仕訳			
第 7 回	第 2 部：国際会計①	IFRS の概要			
第 8 回	第 2 部：国際会計②	財務諸表表示			
第 9 回	第 2 部：国際会計③	キャッシュフロー計算書			
第 10 回	第 2 部：国際会計④	連結財務諸表			
第 11 回	第 2 部：国際会計⑤	財政状態計算書①資産の会計基準			
第 12 回	第 2 部：国際会計⑥	財政状態計算書②負債の会計基準			
第 13 回	第 2 部：国際会計⑦	包括利益計算書①収益の認識基準			
第 14 回	第 2 部：国際会計⑧	包括利益計算書②研究開発費他			
第 15 回	「国際会計」講義のまとめ	総括と補遺事項			

国際					
授業番号	B100040001				
科目名 (英語表記)	国際関係入門 (International Relations)				
担当者 (英語表記)	榎田 久代 (Hisayo Kushida)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	授業では、第2次世界大戦後の国際関係を政治学、経済学、歴史学、社会学の観点から扱います。様々な意味でグローバル化が進行する今日の世界が抱える問題について多角的に理解するだけでなく、みなさんがこれから4年間本学部で国際学を学ぶ意味を考えることを目的としています。				
授業の進め方 (履修条件など)	配布したプリントを中心に授業を進めます。国際関係論は、国際学部の中でも数少ない必修科目です。そのため、履修条件を厳しくします。3分の2以上出席していない場合は、期末試験受験資格はありません。				
成績評価方法	期末試験 80%と授業内に適宜行う小レポート 20%により総合的に評価します。				
基準					
授業の予習・復習	期末試験 80%と授業内に適宜行う小レポート 20%。				
教科書	なし				
参考文献	原 彬久編『国際関係学 講義 [第四版]』(有斐閣、2011年)。他。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	国際関係を見る視点			
第2回	国際関係のトピック	ビデオ鑑賞			
第3回	国際関係理解の基礎 (1)	国際関係のアクター			
第4回	国際関係理解の基礎 (2)	国際政治からみた国際関係			
第5回	国際関係理解の基礎 (3)	国際経済からみた国際関係			
第6回	国際関係理解の基礎 (4)	南北問題			
第7回	国際関係理解の基礎 (5)	国際法からみた国際関係			
第8回	国際関係理解の基礎 (6)	国際連合			
第9回	国際関係理解の基礎 (7)	人の移動からみた国際関係			
第10回	冷戦という時代 (1)	第2次世界大戦後の世界秩序			
第11回	冷戦という時代 (2)	米ソ対立			
第12回	冷戦後の世界 (1)	民主化と民族紛争			
第13回	冷戦後の世界 (2)	テロの時代			
第14回	冷戦後の世界 (3)	グローバリゼーション			
第15回	期末試験	期末試験、試験後に問題の解説			

国際					
授業番号	B100040002				
科目名 (英語表記)	国際関係入門 (International Relations)				
担当者 (英語表記)	高田 洋子 (Yoko Takada)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	現代世界の仕組みを理解する上で、最も大切な基礎単位である「国民国家」について学びます。近代社会における国民国家システムの起源は西欧にあります。その概念の定義、歴史的展開、メリット・デメリット、現在のグローバル化のなかの国民国家・民族、トランスナショナルな動きなどについても基礎的知識を身につけましょう。				
授業の進め方 (履修条件など)	世界地図を広げてみましょう。世界中が国境線で区切られています。これらの境界線はいつ、どのように決まってきたのでしょうか？ 授業では知識の習得と同時に、問題発見的なアプローチを重視します。				
成績評価方法 基準	授業への取り組みの真剣さ (出席回数、授業参加の態度、課題提出など)、期末試験の結果を通して、成績を評価します。				
授業の予習・復習	予習：国内外のさまざまな問題や紛争にも興味をもち、新聞を読みましょう。 復習：授業内容を十分に理解してもらうために、しばしば宿題の提出を求めます。				
教科書	指定しません。				
参考文献	百瀬宏著『国際関係学』東京大学出版会ほか。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	序：現代はどんな時代か	今、世界で何が起きているだろうか？			
第2回	現代世界の課題	19世紀、20世紀、そして21世紀へ			
第3回	近代の幕開け	近代国民国家の起源：フランス型 (西欧型)			
第4回	フランス革命の国	(ベルサイユ宮殿の一日)			
第5回	ヨーロッパ世界の国際関係	国民国家の類型と国家の安全保障 勢力均衡の原理			
第6回	ヨーロッパ近代の拡大	資本主義、植民地、移民国家アメリカ、移動する人びと			
第7回	国民国家と民主主義	民主主義の起源、発展、そして逸脱			
第8回	帝国主義とは何か	多様な非ヨーロッパ世界との対峙、侵略			
第9回	帝国主義と民族 (1)	植民地ナショナリズムと独立のための戦い			
第10回	帝国主義と民族 (2)	国民国家形成の課題 内なる帝国：多民族国家の課題			
第11回	戦争はなぜ起こるのか	20世紀における2つの世界大戦 戦後の地域紛争			
第12回	冷戦体制とその溶解	<核> を持った人類			
第13回	世界システムの変化	グローバル化 新しい巨大国家の台頭			
第14回	21世紀 国民国家の内部構造	グローバルとローカルの交錯 新しい地域主義・地域協力を求めて			
第15回	まとめ：世界平和への貢献	変わりゆく国の姿 拡大する民主化 連携する市民社会			

# 国際

授業番号	B101720001				
科目名 (英語表記)	国際協力入門 (Introduction to International Cooperation)				
担当者 (英語表記)	水口 章 (Akira Mizuguchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本授業では、国際協力の基本認識を深め、国際協力の仕組みや動向について学びます。そのことで、国際協力が身近なものであるとの認識を持ち、実践するための基礎的知識を修得することが到達目標です。				
授業の進め方 (履修条件など)	各回授業は基本的には講義形式をとります。また、授業を3区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討論を行います。				
成績評価方法	学習態度 (課題レポート、討論参加、出席状況) 20%、定期試験 80%で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。 復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めてください。				
教科書	特に指定しませんが、適宜プリントを配布します。				
参考文献	高木保興編『国際協力学』、東京大学出版会、2004年6月 内海成治編『国際協力論を学ぶ人のために』世界思想社、2005年1月				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	今なぜ国際協力が必要か	国際社会に生きる者としての責任と分担について			
第2回	国際政治・経済システムの潮流	「フラット化」「パワー・シフト」について			
第3回	貧困問題	貧困と経済成長の関係について			
第4回	環境問題	開発と環境の関係について			
第5回	グループ討論「自分ができる国際協力」	「思いやり」という社会行動を考える			
第6回	ジェンダーと開発	ジェンダー差別意識について			
第7回	教育開発	人間開発の考え方について			
第8回	保健医療	保健医療協力に関する動向について			
第9回	人口問題	人口増加と貧困の関係について			
第10回	グループ討論「国際機関の役割の限界」	NGO組織の現状と問題点を考える			
第11回	政治協力	政府間援助の仕組みについて			
第12回	文化協力	文化協力の考え方について			
第13回	民間ベースの国際協力	民間の貿易、投資、援助での役割について			
第14回	国際協力のマネジメント	異文化組織マネジメントのあり方について			
第15回	グループ討論「国際協力の意義」	どのような国際協力が望ましいかを考える			

国際					
授業番号	B101730001				
科目名 (英語表記)	国際協力の理念と実践 (Idea and Practice of International Cooperation)				
担当者 (英語表記)	清水 俊弘 (Toshihiro Shimizu)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発 (貧困) 問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。 この講座では政府、非政府の立場で行われている国際協力活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタンなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。				
成績評価方法	レポート提出。平常授業の課題など。				
基準					
授業の予習・復習	各授業の前に予備知識として必要な事柄を説明し、事前の準備をしてもらう。				
教科書	日本国際ボランティアセンター著『NGOの選択』めこん 2005年				
参考文献	『クラスター爆弾なんてもういらぬ』合同出版 2008年				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	本講座受講に際して	オリエンテーション			
第2回	世界各地の紛争と国際協力①	アフガニスタンにおける「対テロ戦争」と復興協力の実態について考える。その1.			
第3回	世界各地の紛争と国際協力②	アフガニスタンにおける...、その2.			
第4回	世界各地の紛争と国際協力③	イラク戦争と国際社会の関わり、その1.			
第5回	世界各地の紛争と国際協力④	イラク戦争と...、その2.			
第6回	世界各地の紛争と国際協力⑤	パレスチナ問題と国際社会の関わり			
第7回	紛争予防を考える	東アジアにおける平和と私たち			
第8回	紛争後の開発協力を考える①	カンボジアの復興過程と開発、その1			
第9回	紛争後の開発協力を考える②	カンボジアの...、その2			
第10回	紛争後の開発協力を考える③	ラオスにおける開発問題、その1			
第11回	紛争後の開発協力を考える④	ラオスにおける...、その2			
第12回	国際的課題に取り組む①	ミレニアム開発目標とHIV/AIDS①			
第13回	国際的課題に取り組む②	南アフリカにおけるHIV/AIDSとNGOの取り組み			
第14回	無差別兵器の廃絶と国際社会①	対人地雷禁止条約の成立過程における市民社会の役割			
第15回	無差別兵器の廃絶と国際社会②	クラスター爆弾禁止条約の成立過程と市民社会の役割			



国際					
授業番号	B101780001				
科目名 (英語表記)	国際協力法 (International Cooperation I aw)				
担当者 (英語表記)	庄司 真理子 (Mariko Shoji)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	基本的な国際法の知識に加えて、国際法学をひととおり勉強することを目指します。まずは国際責任と紛争の解決、裁判について学びます。次に、国際法と領域について、陸・海・空さらに時間があれば宇宙空間についても学びます。公務員試験および教員採用試験などにも役立つように講義を進めます。				
授業の進め方 (履修条件など)	国際法をすでに履修した学生のみを対象とする。 公務員試験、教員採用試験などを念頭において履修する学生も多いため、すでに国際法の基礎的な内容を習得しているものを対象として講義をすすめる。				
成績評価方法 基準	授業の参加態度 40%、中間のテスト 30%、期末試験 30%				
授業の予習・復習	教科書を中心に予習をしてきてください。講義のあとで、講義ノート、配布資料、教科書をみながら復習してください。				
教科書	中谷・河野・山本・植木・森田著『国際法』有斐閣アルマ				
参考文献	奥脇直也『国際条約集』有斐閣				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	国際紛争の法的解決と地的管轄権			
第2回	国際紛争の法的解決 I	国際責任 I 中心的帰属と周辺の帰属			
第3回	国際紛争の法的解決 II	国際責任 II 外交的保護権			
第4回	国際紛争の法的解決 III	国際責任 III コンセッションの破棄 カルボー条項			
第5回	国際紛争の法的解決 IV	第三者の仲介と法的解決、平和的解決、仲裁裁判			
第6回	国際紛争の法的解決 V	国際司法裁判所 選択条項受託宣言 勧告的意見			
第7回	中間まとめ	中間テストを行う			
第8回	海の国際法 I	海の法秩序			
第9回	海の国際法 II	領海の幅 公海自由の原則			
第10回	海の国際法 III	接続水域・排他的経済水域をめぐる諸問題			
第11回	海の国際法 V	国際河川 国際海峡をめぐる諸問題			
第12回	海の国際法 VI	海底の秩序			
第13回	南極	南極について学ぶ			
第14回	空と宇宙の国際法	領空と宇宙について学ぶ			
第15回	まとめ	国際法学について習得した知識を確認します。			

# 国際

授業番号	B102310001		
科目名 (英語表記)	国際金融論 (International Finance)		
担当者 (英語表記)	織井 啓介 (Keisuke Orii)	対象学年	3
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	国際金融の主要テーマを紹介します。①金融為替市場、②国民所得計算 (GDP)、③国際収支、④外国為替、⑤国際金融の諸課題について講義します。グローバル化とともに、ますます必要性の増す金融・為替の知識を身につけましょう。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義とプリントによる簡単な演習が中心です。予備知識はとくに必要ありません。毎時間ノートをしっかり取り、章ごとに復習しましょう。電卓を常備してください。		
成績評価方法	①期末試験 (教場試験またはレポート) 50%、②平常点 50%が評価の目安です。		
基準			
授業の予習・復習	予習：配布プリントで予習するとともに、TV・新聞で経済ニュースに親しみましょう。 復習：練習問題を自宅で演習し、次の授業時間に答え合わせをしましょう。		
教科書	とくに使用しません。		
参考文献	高木信二『入門国際金融 (第4版)』日本評論社、2011年。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	「国際金融論」講義の概要	講義スケジュール等を説明	
第2回	第1章：金融為替市場①	証券市場と金融市場	
第3回	第1章：金融為替市場②	外国為替市場	
第4回	第2章：国民所得計算①	GDPの概要	
第5回	第2章：国民所得計算②	実質成長率と1人当たりGDP	
第6回	第2章：国民所得計算③	その他の国民所得指標	
第7回	第3章：国際収支①	国際収支の概要	
第8回	第3章：国際収支②	経常収支と資本収支	
第9回	第3章：国際収支③	経済発展と国際収支	
第10回	第4章：外国為替①	外国為替の概要	
第11回	第4章：外国為替②	外国為替市場	
第12回	第4章：外国為替③	外国為替相場制度	
第13回	第4章：外国為替④	為替レートの決定理論	
第14回	第5章：国際金融の諸課題	欧州債務危機とBasel III	
第15回	「国際金融論」講義のまとめ	総括と補遺事項	

国際					
授業番号	B102340001				
科目名 (英語表記)	国際経営 (Internationa Management)				
担当者 (英語表記)	畑野 浩 (Hiroshi Hatano)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済がグローバル化する中で増加している企業の海外進出に関し、経営学の視点からその背景と諸問題について学習する。企業は、社会人基礎力を重視しており、働きかけ力、計画力、課題発見力を求めている。企業研究と就職活動の心構えも学習する。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回配布するレジュメ、事例にそって、講義形式で進め、一部ディスカッションを行う。TV番組によるグローバル化の視聴もとられる。				
成績評価方法 基準	出席 30% オンラインによる理解度テスト 50% 中間および最終発表 (または、レポート提出) 20%				
授業の予習・復習	予習: 配布資料を予習しましょう。 復習: 授業内でのディスカッションを復習しましょう。 日頃から、国際経営あるいは企業の海外進出関連のニュースに関心を持って、新聞やTV・ネット等を読み、視聴すること。				
教科書	特になし。				
参考文献	吉原英樹編「国際経営への招待」 有斐閣 伊丹敬之著「ゼミナール経営学入門」 日本経済新聞出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	講義の進め方の説明、国際化とは			
第2回	国際経営とは	国際経営の形態と特徴、なぜ国際化するか			
第3回	グローバルマーケティング	グローバルマーケティングの領域			
第4回	企業研究 (1)	吉野家のグローバルブランド管理			
第5回	進出事例研究 (1)	吉野家 (台湾)			
第6回	企業研究 (2)	ユニクロのグローバルマーケティング			
第7回	進出事例研究 (2)	ユニクロ (中国)			
第8回	企業研究 (3)	花王 (米国)			
第9回	進出事例研究 (3)	花王のグローバルマーケティング			
第10回	中間発表	プロジェクト選択 (企業、商品、国)			
第11回	企業研究 (4)	INAXのグローバルマーケティング			
第12回	進出事例研究 (4)	INAX (ベトナム)			
第13回	企業研究 (5)	キッコーマンのグローバルモデル			
第14回	進出事例研究 (5)	キッコーマン (シンガポール)			
第15回	最終発表	プロジェクト発表			

国際					
授業番号	B102320001				
科目名 (英語表記)	国際経済学 (International Economics)				
担当者 (英語表記)	織井 啓介 (Keisuke Orii)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	①国際経済の基礎知識、②外国貿易の仕組み、③ WTO と FTA、④外国為替の基礎を中心に平易に紹介します。グローバル化に対応するための国際経済の基礎知識がスピーディに身につきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義とプリントによる簡単な演習が中心です。予備知識はとくに必要としませんが、上記②で貿易英語を学ぶため、一定の英語力が必要です。毎時間ノートをしっかり取り、章ごとに復習しましょう。				
成績評価方法 基準	①期末試験 (教場試験またはレポート) 50%、②平常点 50%が評価の目安です。				
授業の予習・復習	予習：配布プリントで予習します。TV・新聞で経済ニュースに親しみましょう。 復習：練習問題を自宅で演習し、次の授業時間に答え合わせをしましょう。				
教科書	とくに使用しません。				
参考文献	浦田秀次郎・小川英治・澤田康幸『はじめて学ぶ国際経済』有斐閣アルマ、2011年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	「国際経済学」講義の概要	講義スケジュール等を説明			
第2回	第1章：国際経済の基礎①	経済の基礎用語			
第3回	第1章：国際経済の基礎②	国際機関と地域連合			
第4回	第1章：国際経済の基礎③	主要国の経済動向			
第5回	第2章：外国貿易の基礎①	貿易のプロセス			
第6回	第2章：外国貿易の基礎②	信用状取引の仕組み			
第7回	第3章：自由貿易の推進①	WTO(世界貿易機関)			
第8回	第3章：自由貿易の推進②	FTA(自由貿易協定)			
第9回	第4章：外国為替の基礎①	為替レートの見方			
第10回	第4章：外国為替の基礎②	外国為替市場の仕組み			
第11回	第4章：外国為替の基礎③	円高・円安と貿易			
第12回	第5章：国際移動①	労働の国際移動			
第13回	第5章：国際移動②	資本と技術の国際移動			
第14回	第6章：国際貿易の理論	リカードモデルとHOモデル			
第15回	「国際経済学」講義のまとめ	総括と補遺事項			

国際

授業番号	B101820001				
科目名 (英語表記)	国際社会学 (International Sociology)				
担当者 (英語表記)	水口 章 (Akira Mizuguchi)	対象学年	3	単位数	2

授業のねらいと到達目標	本授業では、現代を代表する社会学者の1人サスキア・サッセンの著作をもとに情報通信技術の発達と社会変化の関係を考察します。そのことで、21世紀の社会システムについて認識を深めることを到達目標とします。
授業の進め方 (履修条件など)	各回授業は基本的には講義形式をとります。また、授業を3区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討論を行います。
成績評価方法	学習態度 (課題レポート、討論参加、出席状況) 20%、定期試験 80%で評価します。
基準	
授業の予習・復習	予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。 復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めてください。
教科書	特に指定しませんが、適宜プリントを配布します。
参考文献	サスキア・サッセン『グローバル空間の政治経済学』岩波書店、2004年12月 同『グローバル・シティ』筑摩書房、2008年11月

回数	授業項目	授業内容
第1回	時空の圧縮のとらえ方	地球規模の社会変化について
第2回	技術革新と社会変化	インターネット社会について
第3回	帝国の通信ネットワーク	情報と経済発展について
第4回	新聞の創業	国民意識の形成について
第5回	グループ討論「情報と国家」	情報が社会変化をどのようにもたらすかを考える
第6回	通信社	情報のスピードと正確性について
第7回	ラジオとテレビ	一対多の通信と社会変化
第8回	グローバルメディアの誕生	国境を越えた連帯について
第9回	地域意識と社会運動	社会運動の実態について
第10回	グループ討論「同一性と公共性」	「公共空間の生成」を考える
第11回	グローバル・シティ論	都市の公共空間について
第12回	リチャード・フロリダの都市論	発展する都市について
第13回	世界都市と移民	都市の生活スタイルの多様性について
第14回	グローバル化と市民社会	異文化理解を深めた政策について
第15回	グループ討論「21世紀の都市と社会」	「近未来の日本社会の都市」の暮らしを考える

国際

授業番号	B101810001				
科目名 (英語表記)	国際社会と犯罪 (Criminology)				
担当者 (英語表記)	寛正 豊和 (Toyokazu Kakusho)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	犯罪とは何か、刑罰とは何か、非収容者の処遇の実態、犯罪者をどのように再社会化させるかなどについて単なる犯罪対策にとどまるのではなく、その社会的・文化的要因や身体的要因、犯罪学仮説、警察機構、刑事司法対策等の諸問題にわたり比較犯罪学的展開を踏まえた上で理解していきます。そして、犯罪学における基本理念をわが国の理論的現状をも対比しつつ、国際的動向との関係から正しく捉え犯罪を防衛するための合理的、合理的な手段・方法を探求していくことを目的とします。今日、とうとうと流れる国際社会において、犯罪者という社会のもっとも片隅においやられた人権の在り方を考えるということは、ますます重要な問題になってくるはずです。講義を通じてそれを概観していきたいと思います。				
授業の進め方 (履修条件など)	分かりやすい授業を展開するので、特にありません。				
成績評価方法	初回の授業において指示します。				
基準					
授業の予習・復習	初回の授業において指示します。				
教科書	斉藤静敬・寛正豊和 共著『刑事政策論』八千代出版				
参考文献	授業において指示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	受講のガイダンス	犯罪学と規範学との相違について学ぶ。			
第2回	犯罪の概念	犯罪とはなにか。日常わたしたちが用いるよりも広義なものであることを学ぶ。			
第3回	現代犯罪学の課題	ラベリング理論、非犯罪化、非刑罰化、社会的統制理論などについて学ぶ。			
第4回	刑事政策と暗数	犯罪統計と暗数の意味、被害調査、¥事故報告調査などについて学ぶ。			
第5回	犯罪の原因 1	身体的・生理的要因について学ぶ。			
第6回	犯罪の原因 2	個人環境的要因について学ぶ。			
第7回	犯罪の原因 3	社会環境的要因について学ぶ。			
第8回	刑罰の意義	機能・沿革－意義、機能はもちろん一般予防、特別予防、抑止主義、刑罰の種類などについて学ぶ。			
第9回	死刑	憲法と死刑、存廃論、代替刑などについて学ぶ。			
第10回	自由刑・財産刑	意義、歴史的考察、短期自由刑、不定期刑、罰金の特質、罰金と科料などについて学ぶ。			
第11回	保安処分	意義、種類、要件などについて学ぶ。			
第12回	被害者補償	意義、歴史、必要性、法的制度などについて学ぶ。			
第13回	各種犯罪と対策 1	少年非行、女性犯罪などについて学ぶ。			
第14回	各種犯罪と対策 2	組織犯罪、ホワイトカラー犯罪、薬物、アルコール犯罪などについて学ぶ。			
第15回	総括	まとめおよび質疑			

# 国際

授業番号	B101800001		
科目名 (英語表記)	国際政治学 (International Politics)		
担当者 (英語表記)	金子 新 (Shin Kaneko)	対象学年	3
		単位数	2

**授業のねらいと到達目標**  
 激動のグローバル化。国際政治は大きな変化に時代にあります。シリアやパレスチナなど紛争やテロに苦しむ中東地域もあれば、深刻な金融危機にあえぐヨーロッパ地域もあります。ダイナミックな経済成長を続ける中国やインドのような新興国がある一方で、長引く不況と少子高齢化に悩む日本のような先進国もあります。いま日本は、どのような国際環境の中に置かれているのでしょうか？ 周辺諸国との領土・国境問題はどうか？ TPPには参加すべきでしょうか？ 沖縄の米軍基地問題など日米同盟の将来はどうか？ 具体的なテーマに即しながら、国際政治の歴史、理論を手がかりに、私たちの生きる世界の政治的現状を探究してみませんか？

**授業の進め方 (履修条件など)**  
 毎回レジュメを用意します。また映像や DVD を使って、国際政治の具体的なイメージをよりリアルに感じられるように工夫します。また各授業は積極的なディスカッションに参加してもらいます。なお国際政治学は 20 世紀、特に第 2 次大戦後に発達した分野ですから、20 世紀の世界史をざっとおさらいしておきましょう。

**成績評価方法 基準**  
 期末試験 50%、レポート 30%、授業での発言 20%。

**授業の予習・復習**  
 予習：授業内容について教科書の該当箇所を事前に読んでみよう。復習：レジュメと教科書をよく読み返し、学んだ知識を活かして、国際政治の具体的な出来事を自分なりに分析してみよう。

**教科書**  
 細谷雄一・矢澤達宏 (編) 『国際学入門』(創文社、2004 年)

**参考文献**  
 村田 晃嗣、君塚 直隆、石川 卓、栗栖 薫子『国際政治学をつかむ』(有斐閣、2009 年)

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	国際政治の見方	国際政治での 3 つの競争一力、利益、理念
第 2 回	国際政治と国際システム	国際政治を動かす基本単位、主権国家とは何か？
第 3 回	リアリズムの国際政治理論	大国の存在は危険？ それとも大国がいたほうが安全？
第 4 回	リベラリズムの国際政治理論	国際機関は何のためにあるのか？ 地域統合のメリットは何か？
第 5 回	構造主義の国際政治理論	先進国が途上国を支配したり搾取したりしているという主張は本当か？
第 6 回	グローバル化①	グローバル化の光と影、長所と短所は何か？
第 7 回	グローバル化②	グローバル化は、超大国アメリカだけが得をする現象なのか？
第 8 回	グローバル化③	環境破壊、感染症、テロなど国境を超えるマイナス要素への対応策は？
第 9 回	開発と援助のグローバル化	途上国への開発援助、「人間の安全保障」とはどのような考えか？
第 10 回	価値と規範のグローバル化	人権、自由、民主主義は、万国共通の価値観なのか？
第 11 回	グローバリズムとナショナリズム	TPP での自由貿易よりも農家を守るべき。この主張をどう評価するか？
第 12 回	岐路にある国連と PKO	頻発する紛争やテロに、国連や国際社会はどう立ち向かうか？
第 13 回	戦後日本の外交①	日米安保体制と国連中心主義、それぞれどのような意義があるのか？
第 14 回	戦後日本の外交②	アジア諸国との和解、先進国としての国際貢献を求めて。
第 15 回	戦後日本の外交③	領土問題、日米同盟問題、TPP 問題などを具体的に考えてみよう。

国際					
授業番号	B101750001				
科目名 (英語表記)	国際政治史 (History of International Politics)				
担当者 (英語表記)	家近 亮子 (Ryoko Iechika)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	20世紀以降の国際政治史を概説します。20世紀は帝国主義と民族主義、社会主義と資本主義などという二極分離的対立が特徴的な時代でありました。また、二つの世界大戦を経験した時代でもあり、国際連盟や国際連合などの国際的安定システムを導入、確立した時代でもありました。授業においては、現在の国際社会がどのような歴史を経て形成されたのかを明らかにしていきます。到達目標は、国際政治の歴史の流れを知り、なぜ現在のような世界ができあがったのかを理解することにあります。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は特にありません。授業は配布プリントを中心に適宜、映像資料を使いながら進めていきます。				
成績評価方法	平常点 10%、小テスト 30%、学期末試験 60%で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：ニュースや新聞等で国際政治に関心をもつこと。次週の授業内容の予習 復習：配付資料・ノートの整理。疑問点を書いて提出すること				
教科書	教科書はありません。毎時間配布するプリントが教科書代わりになります。全部で 30 頁になります。欠ける頁がないように注意してください。				
参考文献	授業内容をすべてカバーする参考文献はないため、授業項目に合わせて、適宜紹介していきます。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義の概要と授業の進め方の説明、20 世紀			
第 2 回	20 世紀の国際政治の特徴	帝国主義、社会主義、ファシズム、民族主義の説明			
第 3 回	第一次世界大戦への道①	産業革命とアジア・アフリカの植民地化			
第 4 回	第一次世界大戦の勃発	バルカン半島情勢と第一次世界大戦の拡大と特徴			
第 5 回	ロシア革命	ロシアの情勢とレーニン革命、社会主義国の誕生			
第 6 回	アメリカの台頭	アメリカの外交戦略 (モンロー主義) と第一次世界大戦			
第 7 回	日本の参戦と中国進出	「対華二十一カ条の要求」と中国の対応			
第 8 回	第一次世界大戦の戦後処理	ウィルソンの民族自決主義と国際連盟の設立			
第 9 回	第一次世界大戦後の国際政治	対ドイツ賠償問題とアメリカ中心経済体制の確立			
第 10 回	第二次世界大戦への道	イタリア・ドイツにおけるファシズムの台頭			
第 11 回	第二次世界大戦の勃発	戦争の展開と終息			
第 12 回	第二次世界大戦の戦後処理	国際連合の成立と冷戦構造の創出			
第 13 回	冷戦下の国際政治	朝鮮戦争とベトナム戦争			
第 14 回	冷戦の終結	ソ連邦解体と東欧の民主化、独立			
第 15 回	冷戦後の国際社会	グローバリズムとリージョナリズム—その問題点			



国際					
授業番号	B101740001				
科目名 (英語表記)	国際法 (International law)				
担当者 (英語表記)	庄司 真理子 (Mariko Shoji)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	法とは何か? 法 の概念と歴史などの視点を織り込みつつ、法のなかでも国際法に焦点をあてて考察します。国際法とは何か? 国際法はどのような形をした法律であるか? などの観点から考察を深めていきます。次に国際法の主体、特に国家についてどのように捉えているかを考察します。最後に、外交関係と国際法の関連についても言及します。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式で進めます。講義への参加度、各自が自分で主体的にものを考えているかを確認しながらすすめます。				
成績評価方法	講義の参加態度 40%、中間のテスト 30%、期末試験 30%				
基準					
授業の予習・復習	予習としては、講義予定の箇所の教科書を読んできて下さい。基本的に授業中が勝負です。授業に真剣に取り組んで欲しいと思います。教科書を中心に復習をしてください。				
教科書	中谷・河野・山本・植木・森田著『国際法』有斐閣アルマ				
参考文献	奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。 門広・船尾・降矢・松田『INVITATION 法律学入門』不磨書房。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	授業のガイダンス	この授業の内容を概観する			
第2回	法源論の基本的考察	法とは何か?			
第3回	国際法とは何か	国際法の法源について考察します。			
第4回	条約 I	成文法としての条約について、条約の定義について学ぶ			
第5回	条約 II	条約の成立プロセス、留保などを学ぶ。			
第6回	国際慣習法	不文法としての国際慣習法: 国際慣習法について学ぶ			
第7回	国際法の主体	国際社会の多様なアクター			
第8回	中間まとめ	中間のテストをする			
第9回	国家	国家をめぐる国際法上の諸問題、国家承認論			
第10回	承認論	政府承認論、交戦団体の承認			
第11回	国家承継論	外国承継について学ぶ			
第12回	国家と国際関係	外交使節と領事: 外交使節、外交特権			
第13回	領事について	その職務内容は何か。外交特権、領事特権			
第14回	主権、平等、国内事項不干涉	国家主権、平等、国内事項不干涉			
第15回	まとめ	国際法学について習得した知識を確認します。			

国際							
授業番号	B101760001						
科目名 (英語表記)	国際連合の仕組みと活動 (System and Activities of the UN)				日本語授業		
担当者 (英語表記)	庄司 真理子 (Mariko Shoji)			対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	国連をはじめとする国際機構について考えます。本講義では、国連の組織構造を考察することに重点を置きながら、国連に私たちがどうコミットしていったら良いのかを考えます。国連は国際機構だから、国家間関係中心の組織構造で、などと堅く考えずに、地球上に住む人を中心に据えた組織構造を考えていきます。						
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式で進めます。授業の参加度を重視します。						
成績評価方法	講義の参加度 40%、中間テスト 30%、期末試験 30%						
基準							
授業の予習・復習	予習については授業中に指示する。授業中が勝負です。授業に真剣に取り組んでください。復習については、講義内容をしっかり把握すること。						
教科書	使用しない。						
参考文献	横田洋三編著『新国際機構論』国際書院						
回数	授業項目	授業内容					
第1回	国連を疑似体験	ビデオをとおして国連を疑似体験。					
第2回	国際機構の誕生と歴史	国際機構の誕生の歴史と、国際機構、国連システム、国連の定義を学ぶ					
第3回	国際連盟の成立	国際連盟の成立までの歴史を学ぶ					
第4回	国連の創設	国連の創設と第二次世界大戦後の世界秩序。					
第5回	国連の目的および原則	国連の目的および原則と、国連加盟。					
第6回	国連総会	世界の議会をめざす国連総会					
第7回	安全保障理事会	安全保障理事会と大国による平和。					
第8回	中間まとめ	中間試験をする。					
第9回	経済社会理事会	機能強化が望まれる経済社会理事会。					
第10回	国際司法裁判所	国際司法裁判所と真の司法機関への展望。					
第11回	事務局	機構改革の要としての事務局。					
第12回	国連事務総長	世界で最も難しい役割、国連事務総長。					
第13回	人権理事会と平和構築委員会	21世紀の新しい組織、人権理事会と平和構築委員会					
第14回	国連と難民問題	国連と難民問題					
第15回	国連と企業	地球市民社会と国連 企業との関係					

国際		
授業番号	B101760002	
科目名 (英語表記)	国際連合の仕組みと活動 (System and Activities of the UN) 英語授業	
担当者 (英語表記)	庄司 真理子 (Mariko Shoji) 対象学年 2 単位数 2	
授業のねらいと到達目標	This course studies the United Nations (UN) as well as the International Organizations. The main objective of this course is to study the structure of the United Nations. From the viewpoint of the UN structure, we will discuss how we can access this world organ. The UN is not out of reach for the common people but it is an important factor in all our lives. "We the people of the United Nations", this one sentence is written in the preamble of the UN Charter. The UN is the organization for us, civil society.	
授業の進め方 (履修条件など)	Lecture, Class participation will be strongly required.	
成績評価方法 基準	1) Class Participation 40% 2) in class short Reports 30% 3) Final examination 30%	
授業の予習・復習	At the orientation, reading materials will be introduced. Class participation is the most important. Students are required to take active role in the class. Students need to read the suggested materials before and after the class.	
教科書	Teacher will distribute materials.	
参考文献	United Nations, United Nations Today, United Nations (August 10, 2008) Linda Fasulo, An Insider's Guide to the UN, Yale University Press; 2 edition (June 9, 2009)	
回数	授業項目	授業内容
第1回	Video of the UN	Simulated experience of the UN by Video
第2回	History and birth of the IO	History and birth of the International Organizations
第3回	Definition	Definition of the International Organizations
第4回	The League of Nations	The birth of The League of Nations
第5回	The birth of the UN	The birth of the UN and the World Order after WWII
第6回	Purposes and Principles	Purposes and Principles of the UN: accession
第7回	The UN General Assembly	The UN General Assembly as the World Congress
第8回	The Security Council	The Security Council and the Peace by the Powers
第9回	ECOSOC	Functional enhancement of Economic and Social Council
第10回	The ICJ	The International Court of Justice: Real judicial organ
第11回	The Secretariat	The Secretariat; center of the reform
第12回	The Secretary-General	The SG: The most difficult role in the world
第13回	The HRC and the PBC	The Human Rights Council and the Peacebuilding Commission
第14回	The UN and refugees	The UN and refugees
第15回	The UN and corporations	The UN, Global Civil Society and Corporations

国際					
授業番号	B100250001				
科目名 (英語表記)	こどもと科学教育 (Child and science education)				
担当者 (英語表記)	田口 功 (Isao Taguchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	自然科学分野の基礎的な原理や法則を身につけ、それをもとに、小学校で役立つ簡単な実験装置を作り、原理や法則を深く身につけることを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	前半、後半を通し歴史的な背景の記述文書を見ながら、原理や法則の成り立ちを把握する。また、非常に易しい教材を取り入れ、目に見える形の実験装置を作成していく。				
成績評価方法	授業で作成したものを提出する。小試験も行い総合評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：与えられた問題についてインターネットなどで調査し、よく資料を見て研究して下さい。 復習：授業中に指摘された事柄などについて良く復習して下さい。				
教科書	授業でプリントを配布				
参考文献	ゆかいな物理実験 K. ギブス著 笠 耐 訳 朝倉書店 平成 12 年				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について			
第 2 回	風力発電や太陽光発電	太陽電池を使って発光ダイオードを点灯してみよう			
第 3 回	1 次電池	異種金属による発電，果物電池作成			
第 4 回	静電気による発電装置	静電気による発光ダイオード点灯回路作成			
第 5 回	磁石と電気 - (1)	電磁石から電磁誘導実験装置の作成			
第 6 回	磁石と電気 - (2)	電磁誘導回路と発電装置の利用法			
第 7 回	シャボン玉	シャボン玉の形，大きさについて色々工夫してみよう			
第 8 回	力と安定性 - (1)	力と安定性，テングスリティーの作成の説明			
第 9 回	力と安定性 - (2)	実際にテングスリティーを作ってみよう			
第 10 回	ばねと力 - (1)	ばねとフックの法則			
第 11 回	ばねと力 - (2)	ばねを用いたおもちゃの作成			
第 12 回	光とレンズ - (1)	凹レンズ凸レンズによる光の進み方の数式的理解			
第 13 回	光とレンズ - (2)	凹レンズ凸レンズによる像のでき方			
第 14 回	フリップフロップ回路	電子部品の組み合わせでフリップフロップ回路作成			
第 15 回	全体のまとめ	提出物の確認			

国際

授業番号	B104560001				
科目名 (英語表記)	こどもと家庭の関係論 (The related theory of a child and a home)				
担当者 (英語表記)	池谷 美佐子 (Misako Ikeya)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	学校教育の現場において、子どもに関わる様々な話題や課題対応は、親子の関係や家庭教育の在り方を抜きには語れない。子どもの心の発達・社会性・コミュニケーション能力等を中心に子どもと家庭との関係を、「人と家屋」についての人間学的な見地も加えながら考察し理解を深める。				
授業の進め方 (履修条件など)	課題意識を持って積極的な理解に努める意欲と態度を重視します。				
成績評価方法	リアクションペーパー, 期末試験				
基準					
授業の予習・復習	予習 子どもたちにかかわる最近の話題に関心を持ち、自分の課題を明確にしておく。 復習 課題を整理し、まとめておく。				
教科書	使用しない。				
参考文献	O.F. ボルノー 「問いへの教育」 川島書店 門脇厚司 「親と子の社会力」 朝日新聞社				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明			
第2回	子どもについての理解	最近の子どもたちの実態			
第3回	子どもについての理解	子どもたちの一日の生活の変化について			
第4回	親と子どものかかわり	親の価値観と子どもの生活について			
第5回	親と子どものかかわり	親と子どものかかわりに見られる課題			
第6回	親の役割	親が子にしてやるべきこと			
第7回	家庭の役割	子どもにとって家庭とは何か			
第8回	家庭と地域のかかわり	家庭と地域のかかわりと、子どもとの関係			
第9回	家庭の機能と教育力	家庭の機能の変化と教育力の変容について			
第10回	家族の一員としての子ども	家族の一員としての子どもの立場・役割の変化			
第11回	人間と家屋についての人間学的考察	ボルノー「人と家屋」についての解説			
第12回	子どもと家庭についての人間学的考察	子どもと家庭についての人間学的な考察			
第13回	家庭と学校のかかわり	学校から見えてくる家庭の実態について			
第14回	家庭と学校の望ましい連携	家庭と学校の望ましい連携の在り方について検討する。			
第15回	子どもと家庭の関係論	子どもと家庭の望ましいあり方について討論する。			

# 国際

授業番号	B104490001				
科目名 (英語表記)	こどもと国際交流 (Child and international exchange)				
担当者 (英語表記)	庄司 真理子 (Mariko Shoji)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本の内なる国際化にともなって、こどもたちも他の国のこどもの生活、遊び、社会問題などを学ぶ必要が出てくる。言語、生活習慣の異なる国のこどもたちへの人間的な共感と理解を深めることを本講義のねらいとします。なお、講義の前半は、こどもをめぐる国際問題について勉強する。後半は、ゲスト講師にそれぞれの観点から「こどもと国際交流」についてお話しただくとともに、他の国のこどもの生活、遊び、社会問題について、グループごとに調べてもらう。				
授業の進め方 (履修条件など)	前半は講義形式で進めます。後半は、ゲストの先生の講義およびグループ発表をおこないます。				
成績評価方法 基準	授業の参加度で20%。中間まとめのテスト(25%)をします。ゲスト講師の授業(30%)は、授業内レポートを書いてもらう。後半はグループ発表の内容とそのレポート(25%)で成績をつける。				
授業の予習・復習	予習としては、グループ発表の際の準備をすることが必要となる。これについては初回の講義時に説明する。復習については、特にこの講義の前半の内容は、きちんと配布資料を読んで予習して欲しい。後半の内容については、各自、考察を深めて最終的にはレポートを提出してもらう。				
教科書	特に使用しない。				
参考文献	グループごとにメディアセンターに相談に行つて、必要な文献を紹介してもらってください。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	授業のガイダンス	この授業の進め方を説明する			
第2回	国際問題とこどもⅠ	何歳までがこどもか? 大人への反抗権はあるか?			
第3回	アメリカのこども	こどもと遊び、おやつ、歌、習慣、アニメについて			
第4回	国際問題とこどもⅡ	児童労働・貧困について学ぶ			
第5回	国際問題とこどもⅢ	こども兵について学ぶ			
第6回	国際問題とこどもⅣ	女子教育について考える			
第7回	国際問題とこどもⅤ	ユニセフ・ユネスコについて学ぶ			
第8回	中間まとめ	ここまでの内容をテストする			
第9回	ゲスト講師のお話1	こどもと国際交流についてゲスト講師のお話を伺う			
第10回	ゲスト講師のお話2	こどもと国際交流についてゲスト講師のお話を伺う			
第11回	ゲスト講師のお話3	こどもと国際交流についてゲスト講師のお話を伺う			
第12回	グループ発表Ⅰ	グループごとに選んだ国のこどもについて発表する			
第13回	グループ発表Ⅱ	グループごとに選んだ国のこどもについて発表する			
第14回	グループ発表Ⅲ	グループごとに選んだ国のこどもについて発表する			
第15回	グループ発表Ⅳとまとめ	グループごとに選んだ国のこどもについて発表する			

国際						
授業番号	B104500001					
科目名 (英語表記)	こどもとメディア (Child and media)					
担当者 (英語表記)	武内 清 (Kiyoshi Takeuchi)	対象学年	2	単位数	2	
授業のねらいと到達目標	現代の子どもは、多様なメディア環境の中で育っている。その実態を明らかにし、そこにどのような指導や教育が必要かを考察する。					
授業の進め方 (履修条件など)	講義と演習 (グループ発表、討議) によって進める。					
成績評価方法 基準	グループ発表 30%、討論への積極的参加 10%、授業時のコメント (リアクション) 20%、学期末レポート 40%。					
授業の予習・復習	配布プリントをよく読むこと。					
教科書	授業時に指示。					
参考文献	授業時に指示。					
回数	授業項目	授業内容				
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方に関して説明する。				
第 2 回	子どもとメディア 1	子どもとメディアに関する理論と言説				
第 3 回	子どもとメディア 2	子どもの発達とメディア				
第 4 回	仲間集団とメディア	メディア接触に仲間の影響はどのように及ぶか				
第 5 回	学校とメディア	学校のメディア環境				
第 6 回	社会とメディア	情報化社会と子ども				
第 7 回	個人のメディア環境	インターネットとケイタイ				
第 8 回	ユース カルチャー	サブ カルチャーとメディア				
第 9 回	メディア環境 1	テレビの影響				
第 10 回	メディア環境 2	マンガと子ども				
第 11 回	メディア環境 3	子どもとスマホ				
第 12 回	メディアと社会格差	家庭環境とメディア環境				
第 13 回	国際社会とメディア	メディア環境の各国比較				
第 14 回	教師とメディア	デジタル教科書				
第 15 回	まとめ	総括と討論				

国際

授業番号	B100380001		
科目名 (英語表記)	こどもの心と体 (A child's heart and the body)		
担当者 (英語表記)	田中 未央 (Mio Tanaka)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	① 子どもの心と体が成長し、発達するしくみを学習する。 ② 子どもが健全に成長する環境 (親子関係, 生育環境など) について考察する。 ③ 子ども心の問題に関する事例から, 対処法と予防法を考察する。		
授業の進め方 (履修条件など)	①原則として講義形式で授業を進めるが, 授業内で簡単な実習やグループワークを求める場合がある。 ②実習やグループワークを行った際にはリアクションペーパーの提出を求める。 ③必要に応じてビデオなどの映像資料も使用する。		
成績評価方法	学期末試験・リアクションペーパーを成績評価の対象とする。		
基準	評価基準は学期末試験 (80%)・リアクションペーパー (20%) である。		
授業の予習・復習	予習: 次回のテーマに関連した書籍や新聞記事を読む。 復習: 授業の内容を整理し、まとめる。		
教科書	指定なし。必要に応じて資料を配布する。		
参考文献	・『子どものこころ—児童心理学入門』 桜井茂男・向井隆代・浜口佳知 (著) 有斐閣 ・子どもの「10歳の壁」とは何か? 乗り越えるための発達心理学 (光文社新書)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	講義の概要, 授業の進め方, 評価方法, 受講マナーについて	
第2回	子どもとは?	"子ども" の定義, 児童期の位置づけ	
第3回	子どもの生活	家庭環境, 学校生活, コミュニケーション	
第4回	子どもの体①	身体の成長と発達, 運動機能の発達	
第5回	子どもの体②	子どもの体と心の問題 (肥満と痩せ・思春期やせ症)	
第6回	子どもの学力①	子どもの学力は低下しているのか?・学習遅滞児の問題	
第7回	子どもの学力②	学習意欲と動機づけ (達成動機・無気力)	
第8回	子どものパーソナリティ①	パーソナリティの発達, 自己概念	
第9回	子どものパーソナリティ②	自分探しのはじまり (アイデンティティについて)	
第10回	子どもを取り巻く人間関係①	社会性の発達, 向社会的行動, 社会的相互作用	
第11回	子どもを取り巻く人間関係②	友人関係・異性との関係	
第12回	子どもの心に関する問題①	不登校	
第13回	子どもの心に関する問題②	児童虐待	
第14回	発達障がい	広汎性発達障害 (PDD)・注意欠陥多動性障害 (ADHD)	
第15回	まとめ	第2回~第14回で扱ったテーマのレビュー, 質問への対応	



国際

授業番号	B104150001		
科目名 (英語表記)	算数 (Elementary school mathematics)		
担当者 (英語表記)	辻山 洋介 (Yosuke Tsujiyama)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	算数の授業を行うためには、基礎的な数学を学んでおく必要があります。本授業では、算数の授業と教員採用試験に必要な数学的知識・技能を身に付けることを目標とします。算数科や数学科の内容に関する実践的な考察を中心として授業を行います。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書の教材や教員採用試験の過去問題等を取り上げ、問題解決や議論を交えながら授業を進めます。「算数科指導法」を履修する前提として、本科目を履修する必要があります。		
成績評価方法	授業中の発表や課題 (50%) および期末試験 (50%)。ただし、点数配分は変更する可能性があります。		
基準			
授業の予習・復習	予習：前時に指定された教科書やプリントの箇所をよくよんでおくこと。授業時に、適宜課題を出します。 復習：授業の内容をよく振り返っておくこと。授業時に、適宜課題を出します。		
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』(2008年, 東洋館出版) およびプリント教材。		
参考文献	杉山吉茂『初等科数学科教育序節』(2008年, 東洋館出版)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	算数科の目標, 一般教養および専門教養としての数学	
第2回	数と計算 (1)	加法・減法の意味と群の構造	
第3回	数と計算 (2)	乗法・除法の意味と環・体の構造	
第4回	数と計算 (3)	数の体系と代数的構造	
第5回	量と測定 (1)	任意単位と普遍単位による数量の測定	
第6回	量と測定 (2)	多角形の面積と単位面積の意味	
第7回	量と測定 (3)	円や立体の面積や体積の測定	
第8回	図形 (1)	平面図形の種類と性質	
第9回	図形 (2)	立体図形の種類と性質	
第10回	図形 (3)	図形間の関係, 対称性, 移動	
第11回	数量関係 (1)	伴って変わる数量の関係, 変化と対応	
第12回	数量関係 (2)	比例, 反比例, 関数的な考え	
第13回	数量関係 (3)	確率, 統計, 資料の活用	
第14回	算数的活動・数学的活動	既習の算数や数学に基づく発見と発展	
第15回	授業のまとめ	小学校教師に必要な数学的知識・技能	

国際

授業番号	B104000001				
科目名 (英語表記)	算数科指導法 (Teaching Elementary School Mathematics)				
担当者 (英語表記)	辻山 洋介 (Yosuke Tsujiyama)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	算数科の授業を行うためには、基礎的な数学の教養とともに、授業の目標や方法を教育的な視点から学んでおく必要があります。本授業では、算数科の授業をみる目と学習指導案を作成する力を養うことを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	学習指導要領解説や全国学力・学習状況調査を用いて算数科の目標と現状を押さえながら、模擬授業のDVDや現場教師の講義を交えて授業を進めます。履修条件は、「算数」が履修済みであることです。				
成績評価方法	授業中の発表や課題 (50%) および期末試験 (50%)。ただし、点数配分は変更する可能性があります。				
基準					
授業の予習・復習	予習：前時に指定された教科書の箇所をよくよんでおくこと。授業時に、適宜課題を出します。 復習：授業の内容をよく振り返っておくこと。授業時に、適宜課題を出します。				
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 数学編』(2008年, 教育出版) およびプリント教材				
参考文献	新算数教育研究会『算数授業の新展開 7 算数的活動』(2010年, 東洋館出版)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	算数科の目標と内容の概観			
第2回	算数科授業の実際 (1)	模擬授業のDVD および学習指導案の検討			
第3回	数と計算の指導 (1)	数と計算に関する指導目標とその変遷			
第4回	数と計算の指導 (2)	数と計算に関する学習状況			
第5回	算数科授業の実際 (2)	模擬授業のDVD および学習指導案の再検討			
第6回	量と測定の指導 (1)	量と測定に関する指導目標とその変遷			
第7回	量と測定の指導 (2)	量と測定に関する学習状況			
第8回	算数科授業の構成 (1)	学習指導案の構想			
第9回	図形 (1)	図形に関する指導目標とその変遷			
第10回	図形 (2)	図形に関する学習状況			
第11回	算数科授業の構成 (2)	指導計画の作成と学習指導、評価規準の作成			
第12回	数量関係 (1)	数量関係に関する指導目標とその変遷			
第13回	数量関係 (2)	数量関係に関する学習状況			
第14回	学習指導案の作成	グループに分かれて学習指導案を作成する			
第15回	学習指導案の発表・検討	グループごとに学習指導案を発表し、討議する			

国際

授業番号	B102640001		
科目名 (英語表記)	自然地理学 (Physical Geography)		
担当者 (英語表記)	谷地 隆 (Takashi Yachi)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	21世紀は環境の世紀と言われています。地形・気候・生物などの地球上の自然環境に関わる基礎的な知識を理解した上で、種々の環境問題や自然保護を地域から地球規模までのスケール別の視点で考察していきます。これらを理解する上では、まずは自然地理学の基本的理解にあります。自然地理学を学習することにより周囲の自然環境が身近になります。		
授業の進め方 (履修条件など)	最初に自然地理学に関する基礎的な知識を習得します。ビジュアルなどの映像を用いて、地形・気候・水環境などを紹介し、自然地理学を多面的・立体的に理解できるようにします。毎時間の講義が、バーチャルリラベルが体験でき、海外旅行において不可欠な知識・教養が身につくような講義を行います。		
成績評価方法	積極的な授業参加、レポートなどにより評価します。		
基準			
授業の予習・復習	平素から自然地理・自然環境に関心を持ち、新聞・テレビなどのマスメディアから情報を得ておくのも有効な参考書となりますので、これらを通して予備知識を得ておくことが授業をより一層理解が深まります。		
教科書	特に指定しませんが、授業毎にプリントを配布します。地図帳を持参して下さい。		
参考文献	『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	自己紹介、講義の概要、受講方法、成績評価など	
第2回	大地形	地球のすがた、プレート	
第3回	小地形 1	山地、火山	
第4回	小地形 2	平野、海岸	
第5回	気候 1	気温、風、降水量	
第6回	気候 2	世界の気候区分	
第7回	気候 3	植生、土壌	
第8回	水環境	陸水と海洋	
第9回	自然・環境保護 1	自然災害	
第10回	自然・環境保護 2	環境問題 (地球温暖化・森林破壊)	
第11回	自然・環境保護 3	環境問題 (酸性雨・砂漠化・オゾンホール)	
第12回	自然・環境保護 4	生態系・生物多様性	
第13回	世界自然遺産 1	世界の自然遺産	
第14回	世界自然遺産 2	日本の自然遺産	
第15回	まとめ	総整理・疑問点の解明	

国際

授業番号	B102810001				
科目名 (英語表記)	実践英語 II (Practical English II)				
担当者 (英語表記)	George Whalley (George Whalley)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	This is an elective English course. It is designed for students with an interest in improving their health, fitness and basketball skills through the medium of English. Each class will be divided into a physical activity part and a classroom part. Students will go through a variety of physical activities and learn about healthy lifestyles each class. It is open to both female and male students.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students must wear clothing appropriate for physical activity, including clean sports shoes to each class.				
成績評価方法	Grading will be equally based on the participation and effort in the activity part of class and a report based on material covered in the classroom.				
基準					
授業の予習・復習	The instructor will provide all materials.				
教科書	There is no book for this class.				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	Ten Things About This Class, Survey			
第 2 回	Gym + Living to 100	Core Training + Aging Factors			
第 3 回	Gym + Cancer Prevention	Stretching + Reducing your cancer risk			
第 4 回	Gym + Smoking	Aerobic activity + Tobacco Facts			
第 5 回	Gym + Passive Smoking	Aerobic Activity (jump rope) + Effects of passive smoking			
第 6 回	Gym + Exercise	Strength Training + The Benefits of Exercise			
第 7 回	Gym + Exercising the Brain	Strength Training + Increasing Brain Power			
第 8 回	Gym + Food	Speed Training + Movie (Supersize Me)			
第 9 回	Gym + Food	Quickness Training + Movie (Supersize Me)			
第 10 回	Gym + Super Foods	Endurance + 8 Super foods			
第 11 回	Gym + Alcohol	Endurance + Dangers of Alcohol			
第 12 回	Gym + Stress	Yoga + Fighting Stress			
第 13 回	Gym + Obesity	Relays + Dieting			
第 14 回	Gym + Healthy Teeth	1 on 1 basketball + Good oral hygiene habits			
第 15 回	Presentations	Student Report Presentations			

国際

授業番号	B102830001				
科目名 (英語表記)	実践英語 III (Practical English III)				
担当者 (英語表記)	増井 由紀美 (Yukimi Masui)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	身体と頭を同時に働かせながら英語を学習します。丸暗記ではなく、生きた言葉として伝達できるように指導します。方法としては、Story-telling の技術 (存在しないものがあたかもそこにあるように伝える技法) を用います。				
授業の進め方 (履修条件など)	最初の 10 分間は身体を動かします。イメージトレーニングをしながら言葉の伝達の意味を学びます。200 words から 1000 words の物語を読み、それを教室で演じます。				
成績評価方法	作品を演じることが授業内で課されますが、パフォーマンスの出来具合が評価基準になります。				
基準					
授業の予習・復習	授業で扱う作品を自分のものにするために、パフォーマンスの練習が課されます。				
教科書	授業内で配布される英文の物語。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Story-telling って何?	授業の進め方を説明します。			
第 2 回	スペースを意識する。	自分を中心にして、スペースがどこまで広がるか体感します。それぞれの物語を英語で話してもらいます。			
第 3 回	This is a key of a kingdom. (紹介)	まず、This is a key of a kingdom. を身体で表現します。次に、この物語を聴きます。そして表現してみます。最後にこの物語を読みます。			
第 4 回	This is a key of a kingdom. (訓練)	音や匂いや空気を意識できるように練習します。			
第 5 回	This is a key of a kingdom. (発表)	クラスの中で作品発表です。それぞれ、仲間へのコメントが課されます。			
第 6 回	記憶力について (1)	3 週間扱ってきた作品で英語がどの程度自分のものになったかを確認します。			
第 7 回	A Stonecutter (紹介)	最初の部分をまず聞き取りによって理解し、次に物語を読みます。			
第 8 回	A Stonecutter (場面 1)	第一作品を演じた時のことを思い出しながら、Stonecutter になってみます。物語の最初の場面を作りあげます。			
第 9 回	A Stonecutter (場面 2)	第一場面から第二場面に移動する時の方法を考えながら、舞台を創造します。			
第 10 回	A Stonecutter (場面 3)	登場人物が増えてきます。自分の位置をどこに置くか考えましょう。			
第 11 回	A Stonecutter (場面 4)	最後をどのように終わらせるか、それぞれが工夫します。			
第 12 回	A Stonecutter (発表会)	クラス内での作品発表会です。全員に批評家の目を持つことが要求されます。			
第 13 回	記憶力について (2)	最初に扱った作品に比べて、A Stonecutter は比較的に長い物語です。それでも覚えられたことを体験したはず。なぜそれが可能になったのか話し合います。			
第 14 回	創作してみましょう	自由に表現してみてください。他の学生にどのように伝わるか、お互いに楽しみましょう。			
第 15 回	映像で復習	実際にプロの Story-teller のパフォーマンスを映像で見ます。			

国際					
授業番号	B101340002				
科目名 (英語表記)	実践日本語 I (Practice Japanese I)				
担当者 (英語表記)	銅直 信子 (Nobuko Dobeta)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	アカデミックな場面で必要とされる実践的な口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。新聞の論説文や新書本の文章を読み、考える力を身につけていく。また、ビデオ・DVDを視聴し、内容や意見を発表することで聞く力、話す力を養っていく。最後に各グループでテーマを決めディベートマッチを行う。資料を収集し、立論・反論を組み立てる。ディベートマッチ後、各自の意見をまとめ提出する(800～1000字)。要望に応じて日本語能力試験N1対策を随時行う。				
授業の進め方 (履修条件など)	日本語能力試験N1レベルの日本語能力を有する学生を想定して授業を進める。新聞教材を読んだり、DVDを視聴した後、内容や意見をまとめ授業終了後、提出する。添削して返却するので、正しい日本語表現を確認する。リーダーに頼らず全員が協力してグループ活動を行う。				
成績評価方法	定期試験 50%、レポート・クラス内テスト 30%、発表点 10%、クラス活動点 10%で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：語彙リストの中の漢字の読み方・意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。 復習：返却された小レポート類の正しい日本語表現をよく復習する。				
教科書	教科書は使わず、プリントを配布する。各自ファイルしていつでも使えるように準備しておく。				
参考文献	『大学・大学院 留学生の日本語』③論文読解編 『大学・大学院 留学生の日本語』③論文作成編 アカデミック・ジャパニーズ研究会 アルク 『聴解・発表ワークブック』犬飼康弘 スリーエーネットワーク				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス・読解文テスト	ガイダンス後、読解文(オリジナル)の試験を行う。			
第2回	貧困問題	語彙の確認。論文を読む①			
第3回	貧困問題	マイクロクレジットとは。			
第4回	社会的起業家	ビデオを視聴し、内容をまとめる。 有識者の意見をまとめ、それに対する各自の意見を書く。			
第5回	日本における社会的起業家 NPOとは何か。	インターネットで調べたことを発表する。			
第6回	NGOとは何か。	新聞教材を読む。論文を読む②			
第7回	ベシヤワール会	DVDを視聴し、内容をまとめる。			
第8回	国際関係におけるNGO	本文を精読し、問題点を整理する。論文を読む③			
第9回	リーダーの資質とは何か。	ユニクロの店舗拡大			
第10回	外国人の参政権 ディベートについて	反対論・賛成論を読む。			
第11回	賛成論と反対論	モデルを参考にして賛成か反対かを述べた後、書いて提出する。 論文を読む④			
第12回	環境税の導入 ディスカッションの技法	ディスカッションしてテーマを絞る。			
第13回	死刑制度 立論と反論	根拠を絞り、立論を組み立てる。			
第14回	夫婦別姓制度 立論と反論	相手の立論を予想し、質問・反論を準備する。			
第15回	ディベートマッチ	ディベートマッチを行う。ディベーター以外は評価表に点数とコメントを記入する。各自の意見文を提出する(800～1000)。			

国際					
授業番号	B101340003				
科目名 (英語表記)	実践日本語 I (Practice Japanese I)				
担当者 (英語表記)	本多 久美子 (Kumiko Honda)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	この授業では、現代社会のさまざまな問題について読んだり話したりしながら、大学生活に必要なレポートやレジュメを書いたり、発表したりすることができるような日本語力を身につけることを目標にしている。授業でパソコンを使うことがあるので、USB メモリをいつも持ってくること。				
授業の進め方 (履修条件など)	(1) N1 レベルの語彙や文法を学ぶ。(2) 新聞などの記事を読む。(3) 内容について議論し、自分の意見をまとめる。				
成績評価方法	毎回ワークシートを提出、学期末には口頭発表を行う。				
基準					
授業の予習・復習	予習：事前に予習して授業に参加することが望ましい。 復習：授業で学んだ語彙や文法を復習しておくこと。				
教科書	講師作成の教材を使用。プリントは、なくさないようにファイルしておくこと。				
参考文献	特になし。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	社会と家族について考える I	「絆ビジネス：震災後の「絆」ブーム」			
第 2 回	社会と家族について考える II	「結婚しない」という新しい生き方			
第 3 回	社会と家族について考える III	「正規か非正規か：雇用問題について考えよう」			
第 4 回	社会と家族について考える IV	「夫は外、妻は家庭」なぜ増加			
第 5 回	職業について考える I	「就職はしたけれど：転職する理由」			
第 6 回	職業について考える II	「希望は女子：男性不況と元気女子」			
第 7 回	職業について考える III	総合復習			
第 8 回	レポート演習 I	「記憶と記録：私たちはなぜ写真をとるのか」			
第 9 回	レポート演習 II	「差異と差別：いじめはなぜ生まれるのか」			
第 10 回	レポート演習 III	「LOVE と LIKE」			
第 11 回	レポート演習 IV	「はじめての ONE PIECE」			
第 12 回	レポート演習 V	「はじめての村上春樹」			
第 13 回	スピーチ演習 I	スピーチのための日本語発音練習			
第 14 回	スピーチ演習 II	スピーチ・プレゼンを成功させるには			
第 15 回	スピーチ演習 III	最終発表会			

国際

授業番号	B101350001				
科目名 (英語表記)	実践日本語 II (Practice Japanese II)				
担当者 (英語表記)	櫻木 紀子 (Noriko Sakuragi)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	現実の社会現象などについて聞いたり話したりする力を身につける。レポートを書く、発表するなどの練習を積む。グループで協力しながらの作業を経験する。また日本語力だけでなくその発話をするときの態度などについても学ぶ。				
授業の進め方 (履修条件など)	(1) 課題について調べる。 (2) 文章化する。 (3) 発表する。2回を予定。				
成績評価方法	授業中の活動。課題の提出。発表等の合計。配点はその都度知らせる。課題全ての提出及び全て60%以上とることが必須条件				
基準					
授業の予習・復習	予習：発表内容の準備。 復習：発表した内容を清書。				
教科書	なし。櫻木オリジナルの資料が配付されることがある。テレビの番組を視聴することがある				
参考文献	なし。学期中に適当と思われるものがあれば紹介する				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション。課題①の1：情報収集	ビデオを視聴し、情報を集める。メモをとる。「近い将来の日本の人口」			
第2回	課題①の2：集めた情報を整理する	二人又は数人のグループで行う			
第3回	課題①の3：レポート作成	書く内容を検討。何をどの順に書くか、どのような具体例を示すかなどを考えて書く			
第4回	課題②の1：複数のものから調べる	出版物（書籍、雑誌等）やインターネットで調べる「資源・エネルギー」			
第5回	f 課題②の2：集めた資料を整理する	小グループで話ながら行う。出典を明らかにしながらすすめる			
第6回	課題②の3：発表（1）：発表の準備をする	限られた時間内に、どの話題を、どのように発表するかグループで話しあう。話題は自由			
第7回	課題②の4：発表（1）：発表原稿作成。発表練習	原稿を作成し、グループ全員が発表練習。発音等に気を付ける。発表の形を検討する。全員が少しずつ発表する、一人が発表するなど。			
第8回	発表（1）	発表。質疑応答。聞く側はコメントを作成			
第9回	課題③の1：インタビュー	「教育」に関し日頃感じたり考えたりしていることを話しあう。ビデオ視聴。新聞等の資料を読む			
第10回	課題③の2：インタビューの内容を検討	インタビューの質問を考え文章化する。話題は自由。視聴した「人口」や「教育」についてでもよい。グループで決める			
第11回	課題③の3：インタビューの練習	インタビュー依頼の文を考える。印刷物の準備。口頭で行う場合の練習			
第12回	課題③の4：発表（2）：発表の準備	発表の言葉を文章化する。課題③の資料は未完成でよい。表・グラフ作成練習			
第13回	課題③の5：発表（2）：中間報告	誰にどこでインタビューしているか。困難などを報告			
第14回	課題③の6：発表（2）：発表原稿作成	発表のための原稿や配布資料を準備。発音などの練習			
第15回	発表（3）と文集作成	発表する。聞く側はコメントを書く。課題集を作成			



国際						
授業番号	B104610001					
科目名 (英語表記)	児童福祉論 (Child welfare)					
担当者 (英語表記)	矢作 由美子 (Yumiko Yahagi)	対象学年	2	単位数	2	
授業のねらいと到達目標	児童・家庭福祉分野では、児童への福祉的対応の課題を見つけることが重要です。児童の権利が保障されるようになったのはごく最近のことです。児童福祉という領域は、時代とともに広がりを見せていますが、「児童の福祉」という観点から、一体どのように各時代で考えられてきたのでしょうか。わが国における児童・家庭福祉制度の発展過程の中では、「児童保護」から「児童福祉」へとつくり変わってきました。その意義はどのにあったのでしょうか。歴史を知りながら、「児童福祉法」以外にも児童・家庭福祉の法制度があります。そして、実際の現場は今どのように取り組んでいるのでしょうか。本授業では、児童への福祉的対応について理解を深めることを目標にしながら、児童や家庭に対する支援とは何かを一緒に考えたいと思います。さらに、家庭以外の場所で暮らす子どもたちがいます。また、多言語多文化をもつ子どもたちの存在や、子どもの成長段階において、早期にセクシャルマイノリティの視点を加えることも必要です。その為には、当事者の声を知り、児童福祉、家庭支援の現場で働く人たちの声を聞く機会を提供できればと考えています。					
授業の進め方 (履修条件など)	初回の授業に、今後のスケジュールについて説明します。この授業は当事者の声や現場の声を重視した授業となります。児童福祉にかかわる方々の声を集め、映像から、そして、直接、現場の声を聞く機会をもうけます。また、各自、児童福祉分野に関連した課題を見つけて頂き、報告とまとめる作業があります。そのまとめた内容が、最終的に試験の際に活用することになります。					
成績評価方法	レポート報告と期末試験を含めて総合点で判断します。					
基準						
授業の予習・復習	児童への福祉的対応の課題を見つけることが重要です。まず、資料を探し、行政が発表する統計やグラフなどから、その数字をどう読み込むかです。表面的な数字だけをみて本当に「減少」、「増加」と言えるのでしょうか。積極的に情報収集してください。					
教科書	授業時にプリントを配布します。					
参考文献	【サイト検索】47News (よんななにゅーす) 全国地方新聞社参加「47 スクール」					
回数	授業項目	授業内容				
第1回	本授業の概略と視点－児童福祉の生成と発展－	児童・家庭の生活実態と社会情勢及び児童・家庭福祉制度の発展過程				
第2回	児童・家庭福祉制度における関連機関と役割	児童相談所の役割と各機関との連携				
第3回	児童福祉法の改正	児童福祉法改正ポイントと児童福祉施設の種類				
第4回	現場の声 (報道から)	新聞報道の現場の声 (1)				
第5回	児童への福祉的対応の課題を見つける (1)	各自の関心事を紹介する。				
第6回	児童・家庭福祉の法制度 (1)	児童虐待について				
第7回	子どもへの新たな視点	セクシャルマイノリティの視点から (現場の声)				
第8回	発達障害とは何か	障害について理解を深める。DVD を活用し当事者の声を聞く。				
第9回	児童福祉関連機関の現場の声	現場の声を含む DVD の活用 (1)				
第10回	里親制度について	DVD を活用してその概要と現場の声を紹介する。				
第11回	障害者施設から (現場の声)	現場の声を聞く (2)				
第12回	家族支援 (現場の声)	現場の声を聞く (3)				
第13回	ふりかえり	児童や家庭に対する支援と児童福祉施策について				
第14回	児童への福祉的対応の課題を見つける (2)	各自レポート報告				
第15回	まとめ	各自レポート発表				

国際					
授業番号	B104600001				
科目名 (英語表記)	児童文学論 (Children's literature)				
担当者 (英語表記)	畑中 千晶 (Chiaki Hatanaka)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	児童文学とは何か、歴史・ジャンル・テーマなどについて基本的な知識を得るとともに、具体的な作品の分析を通じて、読み深めるための方法を学ぶ。子どもに本を手渡す大人として、児童文学の価値を見定める力を身につけることが到達目標である。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式を基本としつつ、毎回、5分程度、学生の個人発表を取り入れていく。 なお、受講生には、興味を覚えた作品を実際に手に取り、積極的に読み進めていくことを求める。メディアセンターの教員推薦図書コーナー参照のこと。				
成績評価方法	クラス内の活動への参加度 (予習・復習の成果を示す発言や発表活動等) 50%、期末試験 50%。				
基準					
授業の予習・復習	予習：テキストの当該ページを読み、疑問点、注目箇所等をマークする。 復習：講義内容を整理し、次週、クラスでコメントを求められた際、発表できるように用意を行う。				
教科書	川端有子『児童文学の教科書』玉川大学出版部 ISBN978-4-472-40463-4				
参考文献	桂有子 / 牟田おりえ編『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房 鳥越信編『はじめて学ぶ日本児童文学史』ミネルヴァ書房 ひこ・田中『大人のための児童文学講座』徳間書店 宮崎駿『本へのとびら 一岩波少年文庫を語る』岩波新書				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	イントロダクション	講義の進め方、テキストの分担等			
第2回	序章	児童文学とはなにか			
第3回	第1章 子どもの本の分類	形式別、対象年齢別、ジャンル別			
第4回	第2章 英米の子どもの本の歴史	1 ヨーロッパにおける「子ども概念」の出現～3 二つの「子ども観」			
第5回	第2章 英米の子どもの本の歴史	4 伝承文芸から (中略) ファンタジーへ～6 二〇世紀後半から現在へ			
第6回	第3章 日本の子どもの本の歴史	1 明治以前～3 大正デモクラシーのもとで			
第7回	第3章 日本の子どもの本の歴史	4 戦中の児童文学～6 現代の動向			
第8回	第4章 伝承から子どものための物語へ	神話・伝説・昔話			
第9回	第5章 ファンタジー	1 創作昔話、象徴童話～2 現実＝別世界の行き来を描くファンタジー			
第10回	第5章 ファンタジー	3 異界のみで成立する別世界ファンタジー～4 日常のファンタジー			
第11回	第6章 リアリズム	日常・家族・学校・友情・人生			
第12回	第7章 冒険物語	探索・試練・挑戦・救出・サバイバル			
第13回	第14章 絵本のいろいろ	赤ちゃん絵本、物語絵本、しかけ絵本			
第14回	第15章 幼年文学とYA文学	幼年文学、YA文学			
第15回	まとめ、発展項目	総復習、および、児童図書館サービスについて			

国際					
授業番号	B104160001				
科目名 (英語表記)	社会 (Society)			(A)	
担当者 (英語表記)	田村 孝 (Takashi Tamura)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校社会科という科目の構造とその内容について学ぶことをねらいとする。戦後の教育の中で、社会科という科目がどのように構想されつられていったか、また現在の学習指導要領には何がうたわれているのかを学ぶ。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式による。今年度は歴史分野と公民分野とに分けて個別のテーマを設け、これに沿って講義をする予定である。				
成績評価方法	出席状況と試験による。授業内容をどれくらい理解しているかが評価の基準となる。				
基準					
授業の予習・復習	特に必要とはしないが、特別に課題を出すこともあるので、その場合は期日までに提出すること。				
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領 平成 20 年 3 月告示』 東京書籍				
参考文献	文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編 平成 20 年 8 月』 東洋館出版社 そのつど指示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講上の注意 その他			
第 2 回	人物史学習のポイントと学習指導要領	ある時代を理解するには単に個人の歴史的業績を理解するだけでは不十分で、当該時代の歴史的な背景とともに学ぶことが重要である。これを数回にわたって実例をあげて学ぶこととする。			
第 3 回	古代の首長とその社会	卑弥呼を取り上げる。			
第 4 回	摂関政治を学ぶ。	藤原氏の権力掌握過程を取り上げる。			
第 5 回	武家政治を学ぶ。	源頼朝と鎌倉幕府の成立			
第 6 回	鎖国の実態を学ぶ。	近世の東アジアと日本			
第 7 回	近代化を学ぶ。	幕末と明治維新			
第 8 回	民主主義とは何か	第二次大戦前の政治制度			
第 9 回	戦後民主主義	敗戦と民主化の過程			
第 10 回	日本国憲法の制定	日本国憲法の内容とその精神			
第 11 回	教育の民主化 (その 1)	戦前の実態 (教育勅語下の教育)			
第 12 回	教育の民主化 (その 2)	教育基本法の制定と民主教育			
第 13 回	選挙制度の変遷	普通選挙法の制定と戦後民主主義			
第 14 回	家族のあり方	家父長制度と戦後の家族のあり方			
第 15 回	基本的人権	自由を考える。			

国際

授業番号	B104420001				
科目名 (英語表記)	小学校英語 I (Junior school English I)				
担当者 (英語表記)	佐藤 佳子 (Keiko Sato)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	公立小学校 5・6 年生の授業に「外国語活動 (英語)」が必修として導入されました。本授業では、小学校英語教育の目標と内容を理解し、現状と課題について考察します。授業計画や指導内容などの実践例を取り上げながら、小学校英語教育のあり方について学んでいきます。小学校英語教員としての必要な英語運用能力、発音の習得を目指すとともに、小学校英語教育について幅広く知ってもらいます。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業は原則として講義形式で進めていきます。必要に応じて資料を配布する予定。また、必要に応じて DVD などの映像資料も使用します。				
成績評価方法	小テスト、課題への取り組み、リアクションペーパー (50%)、定期試験 (50%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：次週の内容に関する資料、教科書の該当箇所を読む。 復習：授業内容を整理し、理解を深めること。				
教科書	『小学校学習指導要領解説：外国語活動編』 文部科学省 『小学校外国語活動の進め方－「ことばの教育」として－』 岡秀夫・金森強 編著 成美堂				
参考文献	『語研ブックレット 3 小学校英語』 語学教育研究所 他、必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、評価方法			
第 2 回	海外における外国語教育について	欧州、東アジア諸国の初等外国語教育			
第 3 回	「外国語活動」とは	目標と内容について			
第 4 回	英語を始める時期	早期英語教育について			
第 5 回	精神発達段階と指導 1	低学年			
第 6 回	精神発達段階と指導 2	中学年			
第 7 回	精神発達段階と指導 3	高学年			
第 8 回	子どもの語彙力について	語彙の習得と理解力について			
第 9 回	子どもの発話について	「早口ことば」の活用法			
第 10 回	英語の歌について	歌の指導			
第 11 回	ことばへの気づき	文字の指導について			
第 12 回	授業で使える英語表現	クラスルーム・イングリッシュの練習			
第 13 回	授業計画について	授業プランの立て方			
第 14 回	教材について	選び方・作り方について			
第 15 回	まとめ	第 1～14 回の授業内容をふりかっ			

国際

授業番号	B104430001		
科目名 (英語表記)	小学校英語 II (Junior school English II)		
担当者 (英語表記)	佐藤 佳子 (Keiko Sato)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	平成 23 年度から公立小学校 5・6 年生の授業に「外国語活動 (英語)」が導入されました。小学校英語のあり方についてはさまざまな議論がなされています。本授業では、「外国語活動」の目標や内容を理解し、現状と今後の課題について考えていきます。子どもの特徴と英語の習得方法について学び、指導法、学習指導案、授業風景などの実践例を通して、授業プランの組み方についても習得していきます。小学校教員としての必要な理論や技術、英語指導の基本的な考え方と、英語教師として必要とされる英語運用能力を身につけていきます。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業は原則として講義形式で進めていきます。必要に応じて資料を配布する予定。また、DVD などの映像資料も適宜使用します。		
成績評価方法	小テスト、課題への取り組み、リアクションペーパー (50%)、定期試験 (50%)		
基準			
授業の予習・復習	予習：次週の内容に関する資料、教科書の該当箇所を読む。 復習：授業の内容を整理し、理解を深めること。		
教科書	『語研ブックレット 3 小学校英語』 語学教育研究所		
参考文献	『小学校学習指導要領解説：外国語活動編』 文部科学省 『小学校外国語活動の進め方－「ことばの教育」として』 岡秀夫・金森強 (編著) 成美堂 他、必要に応じて紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、評価方法	
第 2 回	「外国語活動」とは	概要、現状と課題について	
第 3 回	子どもの学習能力について	子どもの聞く力	
第 4 回	精神発達段階に合った指導 (1)	低学年と中学年の特徴	
第 5 回	精神発達段階に合った指導 (2)	高学年の特徴	
第 6 回	子どもの語彙力	発話に向かわせる指導について	
第 7 回	子どもの歌	歌、チャンツの活用法	
第 8 回	授業で使える英語表現	クラスルームイングリッシュの練習	
第 9 回	授業プランについて	授業の年間計画、45 分授業の組み立て方	
第 10 回	模擬授業 (1)	"Hi, friends!"、視聴覚教材を用いて	
第 11 回	模擬授業 (2)	他教科との関連で	
第 12 回	教材研究	絵本の活用	
第 13 回	評価について	評価の実際	
第 14 回	「外国語活動」の今後について	今後の課題、あり方について	
第 15 回	まとめ	第 1～14 回の授業内容をふりかえって	

国際

授業番号	B104440001		
科目名 (英語表記)	小学校英語指導法 I (Elementary school English method of instruction I)		
担当者 (英語表記)	佐藤 佳子 (Keiko Sato)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校「外国語活動」の目的と内容について理解し、授業計画、学習指導案の作成について学びます。模擬授業やグループワークなどの実践活動を通じて、子どもたちに英語を教えるために必要な理論や技術、英語指導の基本的な考え方についての習得を目指します。また、英語の運用能力を高めるために、発音の練習にも力を入れていきます。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業は、ゼミ形式で進めていきます。必要に応じて資料を配布する予定。		
成績評価方法	授業への参加、課題への取り組み (50%)、レポート (50%)		
基準			
授業の予習・復習	予習：次週の学習内容について、テキストや資料で確認しておくこと。 復習：授業の内容を整理し、理解を深めること。		
教科書	『語研ブックレット 5 小学校英語 2』 語学教育研究所 "Hi, friends! 1,2" 文部科学省		
参考文献	『小学校学習指導要領解説：外国語活動編』 文部科学省 『小学校外国語活動研修ガイドブック』 文部科学省 『語研ブックレット 3 小学校英語』 語学教育研究所 『小学校英語教育の進め方－「ことばの教育」として（改訂版）』 岡秀夫・金森強（編著） 成美堂		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、評価方法	
第 2 回	「外国語活動」とは	概要、現状と課題について	
第 3 回	英語活動	子どもの発達段階を踏まえて	
第 4 回	さまざまな教授法	歌、チャンツ、絵本など	
第 5 回	教材研究 (1)	『英語ノート』から "Hi, friends!" へ	
第 6 回	教材研究 (2)	視聴覚教材の活用法	
第 7 回	学習指導案作成 (1)	授業計画の立て方、年間シラバスの組み立て方	
第 8 回	学習指導案作成 (2)	45 分授業のプラン	
第 9 回	模擬授業 (1)	グループワーク (1)	
第 10 回	模擬授業 (2)	グループワーク (2)	
第 11 回	模擬授業 (3)	グループワーク (3)	
第 12 回	模擬授業 (4)	グループワーク (4)	
第 13 回	評価について	評価方法の実際	
第 14 回	「外国語活動」の今後について	今後の課題について、ディスカッション	
第 15 回	まとめ	第 1 ～ 14 回の授業内容をふりかっ	

国際						
授業番号	B101420001					
科目名(英語表記)	情報処理 I (情報基礎) (Information Processing I)			(A) こども専用		
担当者(英語表記)	田口 功 (Isao Taguchi)	対象学年	1	単位数	1	
授業のねらいと到達目標	情報社会では、コンピュータについて正しく理解し、上手に利用できる能力(コンピュータリテラシー)が必要である。本講義では、コンピュータリテラシーを身につける。また、パソコン使用で最も基本的な使い方として、Word2007を用いて文書作成の方法を学ぶ。MOUS 検定を意識した演習問題や実用的な資料を多く取り入れる。					
授業の進め方(履修条件など)	Word ソフト使用している学生は多い。前半、後半を通し実用的な演習課題を多くした。各自課題を作成し提出をする。					
成績評価方法	提出物を重視する。小試験も授業中に行ない総合評価します。					
基準						
授業の予習・復習	予習：教科書には Word, Excel, Power point について要点がまとめてある。目をとおしておくことが望まれる。課題についてよく資料を見て研究をして下さい。復習：授業中に指摘された事柄などについて良く復習して下さい。					
教科書	情報リテラシー Office 2007 実教出版					
参考文献						
回数	授業項目	授業内容				
第 1 回	情報処理の基本	オリエンテーション授業の進め方を説明、パソコンの構成やソフトについての説明、キータッチの説明、テキスト内容紹介				
第 2 回	文字列の入力	文字列や記号の入力方法と編集の仕方、ファイルの基本的操作				
第 3 回	文字列の入力と編集	文字列や記号の入力と編集、簡単な図表の作成、演習問題				
第 4 回	検索および編集	文字列や記号の入力と編集、検索、置換、図表の作成、インデントとタブ、演習問題、印刷の仕方				
第 5 回	書式設定	文字や段落についての書式設定、段組、ヘッダーおよびフッター、ページ設定、図の挿入、演習問題				
第 6 回	表の作成と画像の挿入	表の作成、クリップアート、文字や段落についての書式設定、ページ設定、演習問題				
第 7 回	箇条書き	箇条書きやアウトライン作成、ハイパーリンクや表の挿入方法、演習問題				
第 8 回	ブロック図の作成	箇条書、図形の作成、ブロック図の作成、表の挿入方法、演習問題				
第 9 回	ポスター作成	ページ罫線を用いたポスター作成、箇条書、罫線の種類、色、演習問題				
第 10 回	ポスター作成(2)	まとめとしての大学祭のポスター作成				
第 11 回	Power Point の基本事項	Power Point の使用方法の基本画面を Word と対応させ説明し、今まで作成した資料を紹介する。スライドショー表示する。押さえておく基本事項の説明をする。				
第 12 回	スライド作成	自己紹介のスライドを作成する。提出をする。				
第 13 回	テキストボックス	イラストや画像の挿入、グラフの作成と画像挿入の仕方、文字の選択、テキストボックスの使い方				
第 14 回	図表グラフの作成	図表、グラフ、表の作成を取り入れたプレゼンテーションの作成、提出				
第 15 回	印刷、まとめ	スライドの印刷方法、まとめ、印刷提出				

国際

授業番号	B101420002		
科目名 (英語表記)	情報処理 I (情報基礎) (Information Processing I)	(A)	
担当者 (英語表記)	佐竹 勇子 (Yuko Satake)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>大学生生活や日常においてコンピュータを扱うために必要なリテラシー（活用能力）を身につけることを目標とする。MS Office ソフトを活用して、文書作成 (Word) 表計算 (Excel) を実習し基礎力修得を目指す。</p> <p>MOS 資格取得のために、毎年ライセンス講座を開催している。この講義を基礎力として MOS 対策講座への参加および資格取得を期待する。</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書および配布プリントをもとにインターネットやメール、Word2010、Excel2010 を実習する。		
成績評価方法	平常点及び課題提出 (40%)・定期試験 (60%)		
基準			
授業の予習・復習	<p>予習：タイピングが苦手な学生は、タイピング練習を心がけてください。</p> <p>復習：教科書を見直して機能や操作方法を覚えてください。</p>		
教科書	『30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2010』実教出版		
参考文献	<p>MOS Word2010 対策テキスト&amp;問題集 FOM 出版</p> <p>MOS Excel?2010 対策テキスト&amp;問題集 FOM 出版</p>		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と評価方法・パスワード管理	
第 2 回	大学のコンピュータと OS	Windows の基本操作と大学での使い方 タイピング	
第 3 回	インターネット	ブラウザと情報倫理、情報セキュリティ	
第 4 回	電子メール	G-Mail の使い方	
第 5 回	Word-(1)	Word2010 の画面構成・ファイル管理	
第 6 回	Word-(2)	文書の作成と表の作成	
第 7 回	Word-(3)	文書の編集	
第 8 回	Word-(4)	表現力をアップするツール	
第 9 回	Word-(5)	長文作成をサポートするツール	
第 10 回	Excel-(1)	Excel2010 の画面構成・データ入力	
第 11 回	Excel-(2)	表の作成 (1)	
第 12 回	Excel-(3)	表の作成 (2)	
第 13 回	Excel-(4)	計算式と関数の入力	
第 14 回	Excel-(5)	表の印刷	
第 15 回	まとめ	復習と試験対策	



国際						
授業番号	B101430001					
科目名 (英語表記)	情報処理 II (プレゼンテーション演習) (Information Processing II) (A)					
担当者 (英語表記)	佐竹 勇子 (Yuko Satake)	対象学年	1	単位数	1	
授業のねらいと到達目標	<p>情報処理 I に引き続き情報処理 II においてもコンピュータリテラシーを身につけることを目標とする。プレゼンテーション (Power Point) 表計算 (Excel) を実習し基礎力修得を目指す。</p> <p>MOS 資格取得のために、毎年ライセンス講座を開催している。この講義を基礎力として MOS 対策講座への参加および資格取得を期待する。</p>					
授業の進め方 (履修条件など)	教科書および配布プリントをもとに Power Point2010、Excel 2010 を実習する。					
成績評価方法	平常点及び課題提出 (40%)・定期試験 (60%)					
基準						
授業の予習・復習	<p>予習：タイピングが苦手な学生は、タイピング練習を心がけてください。</p> <p>復習：教科書を見直して機能や操作方法を覚えてください。</p>					
教科書	『30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2010』実教出版					
参考文献	<p>MOS PowerPoint?2010 対策テキスト &amp; 問題集 FOM 出版</p> <p>MOS Excel?2010 対策テキスト &amp; 問題集 FOM 出版</p>					
回数	授業項目	授業内容				
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と評価方法				
第 2 回	Power Point-(1)	画面構成とプレゼンテーションの操作				
第 3 回	Power Point-(2)	スライドの作成とデザインの適用				
第 4 回	Power Point-(3)	図表・グラフ・表の挿入と編集				
第 5 回	Power Point-(4)	特殊効果の設定とスライドショー				
第 6 回	Power Point-(5)	配布資料の作成と印刷				
第 7 回	Power Point-(6)	プレゼンテーション実習 (1)				
第 8 回	Power Point-(7)	プレゼンテーション実習 (2)				
第 9 回	Excel-(1)	相対参照と絶対参照				
第 10 回	Excel-(2)	いろいろな関数の利用				
第 11 回	Excel-(3)	グラフ作成				
第 12 回	Excel-(4)	グラフと図形				
第 13 回	Excel-(5)	データベース機能				
第 14 回	Excel-(6)	Excel データを Word や Power Point に利用する				
第 15 回	まとめ	復習と試験対策				

国際		
授業番号	B101430003	
科目名 (英語表記)	情報処理 II (プレゼンテーション演習) (Information Processing II) (A) こども専用	
担当者 (英語表記)	田口 功 (Isao Taguchi) 対象学年 1 単位数 1	
授業のねらいと到達目標	本講義では、最初Windowsの基本的な扱い方について学ぶ。情報処理 I に引き続き、コンピュータリテラシーとして必要表計算ソフト Excel の使い方を学ぶ。表計算ソフトは、Excel2007 を使用し、MOUS 検定に適した内容をおこむ。時間に応じて文書作成ソフト Tex の簡単な演習も行なう。	
授業の進め方 (履修条件など)	前半、後半を通し、教科書を使いながら演習課題を各自作成し、授業を進めます。説明、実技、説明、実技という繰り返しの授業を進める。	
成績評価方法	前期と同様に提出物、小試験の 2 点により総合評価します。	
基準		
授業の予習・復習	予習：教科書に Excel については詳しくまとめられている。目を通しておくことが望まれる。復習：授業中に指摘された事柄について良く復習してください。	
教科書	情報リテラシー Office 2007 実教出版	
参考文献		
回数	授業項目	授業内容
第 1 回	Excel の基本	Excel2007 の初期画面について、Word、Power Point の画面と比較しながら、画面構成を説明。できるだけたくさんの関数を用いて計算を行い簡単な文字入力、演算機能に慣れる。
第 2 回	Excel の基本 (2)	文字型データと数値型データがあることを確認する。両データの入力に関する規則を学び作表を行ないセルの概念も習得する。
第 3 回	相対番地、絶対番地、混合番地	式のコピーをするうえで、相対番地、絶対番地、混合番地の概念が必要となる。2 個の表作成を通して、相対番地、絶対番地、混合番地の有効な使用法を学ぶ。
第 4 回	基本関数	Excel 関数の最も基本となる関数の使い方、合計、平均、最大、最小の使い方と式の書き方について例題を通して学習する。
第 5 回	データの作成とグラフ	数学でよく使用される sin 関数や cos 関数のグラフを書く前にどのようにデータを作成したらよいかを説明する。例題を通して点の集まりとしての簡単なグラフを作成し、グラフの基本を学ぶ。
第 6 回	グラフと根	折れ線グラフを作成し、多項式の根を求める。さらに、ニュートン法を用い、公式を説明し、繰り返し計算の概念を学ぶ。電卓と同じように繰り返し計算によって根が求められることを学ぶ。
第 7 回	グラフ	与えられた例題データに対して、棒グラフや円グラフ、折れ線グラフをによって作成する。タイトルや x 軸のラベルの表示方法、y 軸のラベルの表示方法も覚え、グラフを見やすくする。
第 8 回	演習問題	グラフ、関数の作り方、ニュートン法を用いて多項式の根を求める。グラフ、根を求め、画面にその過程を表示し、印刷し提出する。
第 9 回	表の作成	売上管理票を通して、さまざまな機能を用い表を作成する。文字の表示形式、配置の仕方、列幅や行の高さを調節する。フォントの書式、配置の仕方についても例題を通して学ぶ。
第 10 回	表の作成 (2)	表作成に対して、セルの分割、結合を行ない表を整えることを学ぶ。罫線の色や種類についてもいろいろ取り入れる。行の削除や挿入概念についても例題を通して学ぶ。
第 11 回	式の作り方	例題を通して、式の作り方を学習する。比率の計算、すなわち、構成比や達成率などを求める例題を行なう。if 文も取り入れ表を完成させる。
第 12 回	条件指定関数	野球の成績表を用い countif 文、sumif 文についても使用方法を学ぶ。打率や出塁率なども計算し、表としてまとめ印刷を行ない提出する。
第 13 回	関数の使い方と印刷	条件指定関数や if 文、RANK 関数などを用い、順位などを求め、表を完成する。式のコピーについて理解を深め、印刷の仕方についても注意をする。
第 14 回	参照関数	商品一覧表を例として用い、vlookup 関数、切り捨て、切り上げ、四捨五入を行なって明細票を完成させる。印刷を行ない提出を行なう。
第 15 回	まとめ	まとめとして、EXCEL で作成したデータ、Word で作成した文章を用い、グラフや表を作成し、POWER POINT で発表するスライドを作成する。

国際
----

授業番号	B101440001				
科目名 (英語表記)	情報処理 III (データベース) (Information Processing III)				
担当者 (英語表記)	佐竹 勇子 (Yuko Satake)	対象学年	1	単位数	1

授業のねらいと到達目標	<p>コンピュータを利用した情報の管理、整理方法としてデータベースがある。この講義では、MS Office ソフトのリレーショナル型データベース Access を習得することを目的とする。</p> <p>MOS 資格取得のために、毎年ライセンス講座を開催している。この講義を基礎力として MOS 対策講座への参加および資格取得を期待する。</p>
-------------	---

授業の進め方 (履修条件など)	教科書および課題ファイルをもとに Access 2010 を実習する。
-----------------	-------------------------------------

成績評価方法	平常点及び課題提出 (40%) ・ 定期試験 (60%)
--------	------------------------------

基準	
----	--

授業の予習・復習	<p>予習：タイピングが苦手な学生は、タイピング練習を心がけてください。</p> <p>復習：教科書を見直して機能や操作方法を覚えてください。</p>
----------	---

教科書	『30 時間でマスター Access2010』実教出版
-----	-----------------------------

参考文献	MOS Access2010 対策テキスト & 問題集 FOM 出版
------	------------------------------------

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と評価方法
第 2 回	Access の基本操作	画面構成・Excel との違い
第 3 回	テーブル-(1)	データの検索・選択フィルタ
第 4 回	テーブル-(2)	フォームフィルタ・レコードの並べ替え
第 5 回	テーブル-(3)	外部データ・データ型・画像
第 6 回	フォーム	作成とデータ入力
第 7 回	クエリ-(1)	作成方法と集計
第 8 回	クエリ-(2)	パラメータの利用・クロス集計
第 9 回	クエリ-(3)	アクションクエリ
第 10 回	クエリ-(4)	SQL 文
第 11 回	データベースの設計	テーブル作成・リレーションシップ
第 12 回	レポート	レポートでの計算・印刷・グラフ
第 13 回	総合演習	新規データベースの構築
第 14 回	マクロ	メニュー画面の作成
第 15 回	まとめ	復習と試験対策

国際					
授業番号	B102380001				
科目名 (英語表記)	情報ビジネス論 (Business Intelligence)				
担当者 (英語表記)	高橋 和子 (Kazuko Takahashi)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	加速する情報社会にあって、企業の意思決定を高度し迅速化するためには、誰もが情報を有効に利用し分析できる必要があります。授業のねらいは、経営戦略とIT戦略を融合させた新しい経営組織・管理・活動について解説することです。到達目標は、これらの知識を得ることで、新しい経営感覚を身につけることです。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は特にありません。理解を深めるために、毎回、授業の途中で小テスト (クイズ) を数回行います				
成績評価方法	平常点：授業内小テスト (毎回) 40% 定期試験：60%				
基準					
授業の予習・復習	予習：日頃から企業のIT活用に関連するニュースに注意してください。 復習：専門用語が多いので、授業中によく理解をし、復習に努めるようにして下さい。				
教科書	『ビジネス情報学概論』 定道宏著 オーム社 2006年				
参考文献	適宜、プリントを配布します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	経営と情報活用 (1)	企業経営の変化、IT投資、戦略的経営のためのIT基盤			
第2回	経営と情報活用 (2)	事例の紹介			
第3回	全社企業システム体系	EAとは、EAの役割、フレームワーク、利用者			
第4回	データウェアハウス	データウェアハウス、データマート、多次元データベース			
第5回	BI (ビジネスインテリジェンス) (1)	BIとは、BIの目的、バランススコアカード			
第6回	BI (ビジネスインテリジェンス) (2)	BIソリューション、データマイニングとOLAPの比較			
第7回	BI (ビジネスインテリジェンス) (3)	テキストマイニング			
第8回	ERP (全社業務資源管理)	ERPとは、ERPの役割、フレームワーク			
第9回	SCM (サプライチェーン生産管理)	SCMとは、SCMの役割、生産ERP			
第10回	DCM (デマンドチェーン顧客管理)	DCMとは、CRM、DCMの役割			
第11回	BPM (ビジネスプロセス管理)	BPMとは、BPMシステムの構成、SOA、EAI			
第12回	EC (電子商取引)	ECとは、EDI、セキュリティ			
第13回	今後の情報ビジネス (1)	アジャイルなビジネスとシステムの実現			
第14回	今後の情報ビジネス (2)	ビッグデータの活用、BIからBAへ			
第15回	総括	情報ビジネスに関する知識のまとめ			

国際					
授業番号	B104270002				
科目名 (英語表記)	書写 (Calligraphy)				
担当者 (英語表記)	板倉 由香里 (Yukari Itakura)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	小学校国語科書写に関する授業担当者としての書写力 (知識・技能)・基礎基本を習得することをねらいとしています。小学校国語科書写に関する授業担当者としての書写力・基礎基本を習得し、文字を正しく美しく整えて書くことを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	小学校学習指導要領の書写に関する事項を踏まえ、小学校国語科書写の基本的な内容を講義します。文字について、基礎的能力を理論と実技の両面から培います。硬筆および毛筆で仮名 (ひらがな・カタカナ)、漢字 (楷書) の実技を通して、その指導法を学びます。				
成績評価方法	学習目標の到達度、個人の伸長を評価の主とし、毎時間の提出物により評価します。また、学習態度、意欲も評価の対象とします。				
授業の予習・復習	予習：授業に使用する用具用材を準備してください。 復習：学んだことを振り返りノートをまとめよう。また、実技は繰り返し練習してください。				
教科書	『新編 書写指導』 (萱原書房) 全国大学書道教育学会編				
参考文献	学習指導要領準拠 漢字指導の手引き』 久米公編著 教育出版 小学校学習指導要領 国語編 文部科学省				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・用具用材などについて			
第 2 回	目標と指導事項	国語科書写の目標と指導事			
第 3 回	実技 1	書写で使用する用具用材			
第 4 回	実技 2	姿勢・執筆法			
第 5 回	実技 3	漢字に基本点画			
第 6 回	実技 4	点画の長短・接し方・交わり方			
第 7 回	実技 5	文字の組み立て 1			
第 8 回	実技 6	文字の組み立て 2			
第 9 回	実技 7	ひらがな			
第 10 回	実技 8	カタカナ			
第 11 回	実技 9	文字の形・大きさ・配列 1			
第 12 回	実技 10	文字の配列・大きさ・配列 2			
第 13 回	文部科学省後援書写技能検定 (硬筆)	検定			
第 14 回	文部科学省後援書写技能検定 (毛筆)	検定			
第 15 回	まとめ	講評・作品返却			

国際

授業番号	B104030001				
科目名 (英語表記)	初等音楽科指導法 (Elementary music department method of instruction) (A)				
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校音楽科教育の意義を理解し、基本的な授業づくりを行う能力を養うことを目指します。学習指導要領の小学校音楽科の目標と内容、指導計画、評価などを知り、実際の音楽科授業についての理解を深めます。				
授業の進め方 (履修条件など)	「音楽」の履修済を原則とします。音楽に対する基礎的な理解を前提に、実際の授業について具体的な事例を取り上げながら、進めます。				
成績評価方法	毎時間の取り組み、課題レポート、実際の活動、試験等 総合的に評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：あらかじめ教科書を読んで、疑問や課題意識をもてるようにします。 復習：学んだこと、活動したことを記録・整理します。				
教科書	「小学校学習指導要領解説音楽編」文部科学省 授業内で指示します。				
参考文献	教育芸術社 教育出版 東京書籍 の教科書				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	音楽教育の目的と意義	なぜ音楽を学ぶのか			
第2回	学習指導要領	音楽科の目標 各学年の目標と内容			
第3回	音楽教育の変遷	有史以来の音楽教育の歴史 明治以降の日本の音楽教育			
第4回	授業づくりに向けて①	年間指導計画と題材 共通事項と音楽の理解			
第5回	授業づくりに向けて②	子どもの発達と音楽の理解			
第6回	授業づくりに向けて③	音楽科の評価			
第7回	授業づくりの実際①	発達段階による授業づくりのポイント			
第8回	授業づくりの実際②	低学年の授業			
第9回	授業づくりの実際③	中学年の授業			
第10回	授業づくりの実際④	高学年の授業			
第11回	授業づくりの実際⑤	低学年授業の実際① 題材を選んで			
第12回	授業づくりの実際⑥	低学年授業の実際② グループで話し合っ			
第13回	授業づくりの実際⑦	低学年授業の実際③ 発表を見合っ①			
第14回	授業づくりの実際⑧	低学年授業の実際④ 発表を見合っ②			
第15回	授業づくりの実際⑨	まとめ			

国際

授業番号	B104060001				
科目名 (英語表記)	初等家庭科指導法 (Elementary homemaking course) (A) method of instruction)				
担当者 (英語表記)	関 弘子 (Hiroko Seki)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校「家庭」の指導者育成を目指して、家庭科の基本的な指導法の理解を図り、実践的な力を培う。目標として学習の指導計画の立案や学習指導案の作成を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	学習の指導計画や指導法、評価等について理解した上で、授業場面を想定し、題材について指導内容を確認したり、指導方法を工夫したりして学習指導案を作成する。				
成績評価方法	提出物 (レポート、学習指導案等)、実習、作品製作、試験等により評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習： 次週の授業内容をテキストや資料で確認しておく。 復習： 示された課題について取り組む。				
教科書	・小学校学習指導要領解説家庭編：東洋館出版社 小学校家庭科の指導：中間美砂子・多々納道子編著 建白社				
参考文献	・家庭科教育法：高陵社、小学校家庭科の研究：学芸図書、小学校5,6年家庭科：開隆堂				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	家庭科の歩み	「目標」や「内容」の変遷、課題			
第2回	家庭科の指導法	指導法の諸方式			
第3回	家庭科の評価	評価の意義、評価の計画・観点・基準・方法			
第4回	家庭科の指導計画	指導計画の意義、作成上の留意事項			
第5回	学習指導案	題材案、時案			
第6回	「日常の食事と調理の基礎」の授業設計	指導内容の確認			
第7回	「日常の食事と調理の基礎」の題材案作成	学習活動の工夫と「内容」			
第8回	「日常の食事と調理の基礎」の題材案作成	学習活動の工夫と「目標」			
第9回	「日常の食事と調理の基礎」の題材案作成	「題材設定の理由」			
第10回	「日常の食事と調理の基礎」の題材案作成	「指導計画」と「指導過程」			
第11回	「ごはんのみそ汁」の調理実習計画	調理実習計画と指導内容の確認			
第12回	「ごはんのみそ汁」の調理実習	調理実習と評価			
第13回	「快適な衣服と住まい」の授業設計	指導内容の確認			
第14回	「生活に役立つ物」の作成計画	指導内容の確認 (「C3」)、ミシンを活用して作品製作の計画			
第15回	「生活に役立つ物」の製作と評価	作品製作と作品評価			

国際					
授業番号	B103990001				
科目名 (英語表記)	初等国語科指導法 (Elementary Japanese method of instruction)				
担当者 (英語表記)	山口 政之 (Masayuki Yamaguchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	国語科教育の現状と課題をふまえて、これからの時代に求められる適切な表現力や正確な理解力を養うための国語科学習のあり方を学習指導要領の内容に即して理解することをねらいます。初等国語科におけるキーワードが口頭で説明できるように理解してください。				
授業の進め方 (履修条件など)	学習指導要領に示された内容と、学習材 (授業では主に教科書教材)、学習者の実態、学習指導案の4者のつながりを踏まえて、実際の授業における教師の役割や教育方法等について理解を深めてもらいます。電子辞書は必要ですが、原則として携帯電話の使用は認めません。				
成績評価方法	出席の状況、課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえ総合的に評価します。自己責任による遅刻は減点し、欠席4回は履修放棄とみなします。				
授業の予習・復習	予習：『小学校学習指導要領解説国語編』を読んでおいて下さい。 復習：資料やノートを読み返し、授業内容の理解に努めて下さい。				
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版社				
参考文献	西本鶏介監修『教科書にでてくるお話5年生』ポプラ社。その他、授業の中で適宜紹介していく。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	国語科の本質と目的	なぜ国語を学ぶのか、国語教育と国語科教育の違いなどを考察する。			
第2回	教育課程と言語活動	明治期からの国語科指導を概観し、現行の学習指導要領に示された言語活動を理解する。			
第3回	「話すこと・聞くこと」の指導法①話題設定	2年「きき方名人になろう」の学習展開を例に学習の導入である話題設定の意義を理解する。			
第4回	「話すこと・聞くこと」の指導法②話し合うこと	6年「パネルディスカッション」の学習展開を例に話し合いの指導法を理解する。			
第5回	「書くこと」の指導法①生活的な内容	1年「めいしでじこしょうかいしよう」の学習展開を例に子供の生活に役立つ表現活動の指導法を理解する。			
第6回	「書くこと」の指導法②創造的な内容	5年「コラムを書こう」の学習展開を例に楽しんで書ける表現活動の指導法を理解する。			
第7回	「書くこと」の指導法③日記・文集	学級で取り組む日記指導や、文集作りの意義と具体的な指導過程を理解する。			
第8回	「読むこと」の指導法①説明的な文章	4年「花を見つける手がかり」の学習展開を例に段落や要約などに関する指導法を理解する。			
第9回	「読むこと」の指導法②文学的な文章	3年「わすれられないおくりもの」の学習展開を例に場面描写や登場人物の相互関係などを押さえた指導法を理解する。			
第10回	「読むこと」の指導法③読書活動	図書館の機能活用を促す学習や読書会などの指導法を理解する。			
第11回	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導法①伝統的な言語文化	4年「短歌の世界」や「故事成語」の学習展開を例に、中学での古典学習との違いに留意して小学古典の指導法を理解する。			
第12回	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導法②言葉の特徴 やきまり、文字	3年「ローマ字」や「文の組立て」の学習展開を例に、教え込みにならない学習活動の指導法を理解する。			
第13回	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導法③書写	2年「手紙でつたえよう」の学習活動を例に書写学習の目的を自覚させる指導法を理解する。			
第14回	総合学習の中での言語活動	4年「房総学」の実践事例を通して、総合学習における言語活動とその指導法を理解する。			
第15回	総括・国語科教育と学級経営	14回の講義内容を踏まえて、小学校の学級担任の仕事为国語科教育の観点から理解する。			



国際

授業番号	B104010002				
科目名 (英語表記)	初等社会科指導法 (Elementary social-studies) (A) method of instruction)				
担当者 (英語表記)	田村 孝 (Takashi Tamura)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校社会科の授業をどのように作り、指導していくのかを講義する。あわせて将来の教育実習へ向けて、受講生には授業の指導案を作成してもらい、それに基づいて模擬授業を実践し、その後に模擬授業について皆で論評する。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義と受講生の実践作業により展開する予定であるが受講生の人数によって臨機応変に進める。				
成績評価方法	地域調査レポート、模擬授業指導案、および課題レポートもしくは試験による。				
基準					
授業の予習・復習	地域調査レポートや模擬授業指導案作りなど自宅での予習を必要とする。				
教科書	小学校社会科教科書 「新しい社会」3・4 上下 「新しい社会」5 上下 「新しい社会」6 上下 (いずれも東京書籍)				
参考文献	そのつど指示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	受講上の注意			
第2回	学習指導要領と小学校社会科	教科の構造と理念			
第3回	子どもたちを取りまく社会 (1)	戦後から 1960 年代まで			
第4回	同 上 (2)	1960 年代から高度経済成長の終焉まで			
第5回	中学年	社会科 (地域学習) のカリキュラム構造と授業づくり			
第6回	中学年	任意の単元を選び、授業指導案をつくる。			
第7回	中学年	有志による指導案に基づいた模擬授業の実践と講評 (1)			
第8回	中学年	有志による指導案に基づいた模擬授業の実践と講評 (2)			
第9回	高学年	5年生社会科 (地理的分野) のカリキュラム構造と授業づくり			
第10回	高学年	6年生社会科 (歴史的分) のカリキュラム構造と授業づくり			
第11回	高学年	5~6年生のどちらかの任意の単元を選び授業指導案をつくる。			
第12回	高学年	有志による指導案に基づいた模擬授業の実践と講評 (1)			
第13回	高学年	有志による指導案に基づいた模擬授業の実践と講評 (2)			
第14回	高学年	有志による指導案に基づいた模擬授業の実践と講評 (3)			
第15回	まとめ	実践や講評を踏まえて、小学校社会科授業の指導案をつくりなおす。			

国際

授業番号	B104050002				
科目名 (英語表記)	初等体育科指導法 (Elementary athletics method of instruction) (B)				
担当者 (英語表記)	藤井 喜一 (Kiichi Fujii)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校学習指導要領「体育科」の目標及び内容を理解し、学習内容や学習の進め方に関する基礎的な考え方を理解する。さらに、学習計画立案の手順を理解し、学習指導案の作成を行うことができるようにする。				
授業の進め方 (履修条件など)	学習指導案の内容と授業の組み立て方を学んだ後、グループ、あるいは個人で学習指導案を作成し、模擬授業を行う。そして、授業後に研究協議を行う。				
成績評価方法	模擬授業に対する積極性、作成した学習指導案 論述試験により評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：指導要領解説の各領域を読み内容をノートにメモすること。 復習：授業の要点をまとめる。また、模擬授業のj授業内容、研究協議については詳細に記録すること。				
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領解説体育編 東洋館出版社 文部科学省 中学校学習指導要領解説保健体育編 東山書房				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	体育科で学ぶものは何か			
第2回	小学校学習指導要領 (体育編)	学習指導要領の全体を概観する			
第3回	体育科の歴史	基本的性格、目標、内容の変遷			
第4回	体育のカリキュラム	カリキュラムの構造と授業設計			
第5回	評価について	体育の授業評価の方法			
第6回	教師の指導技術	体育の授業における教師の指導技術とは			
第7回	指導計画について	指導計画をどのように作成するか			
第8回	学習指導案の作成①	模擬授業に向けての学習指導案づくり			
第9回	学習指導案の作成②	模擬授業に向けての学習指導案づくり			
第10回	模擬授業①	模擬授業と授業後の協議会			
第11回	模擬授業②	模擬授業と授業後の協議会			
第12回	学習指導案の作成③	模擬授業に向けての学習指導案づくり			
第13回	学習指導案の作成④	模擬授業に向けての学習指導案づくり			
第14回	模擬授業③	模擬授業と授業後の協議会			
第15回	模擬授業④	模擬授業と授業後の協議会			

国際

授業番号	B104020002				
科目名 (英語表記)	初等理科指導法 (Department method of instruction (A) of first Tomomichi)				
担当者 (英語表記)	土井 仁 (Jin Doi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校理科の目標や内容を十分に理解し、目標達成のための実践的な方法について学習します。教材研究の進め方、授業の構成、実験・観察の実際、子どもの活動の場づくりを学び、授業の指導案をつくらることができる。安全管理・安全指導を踏まえ、授業を実験や観察の指導ができる。				
授業の進め方 (履修条件など)	『理科』を履修した学生が対象です。毎時間授業プリントを配布します。各分野から小単元を選び、小学校の授業を念頭に、観察・実験を中心に据えた実践的な学習を行います。				
成績評価方法 基準	①学習意欲・態度、②実験・観察、表現、③レポート、④定期テスト (めやす① 20%、② 10%、③ 20%、④ 50%)				
授業の予習・復習	〔予習〕次時の学習、予習内容を指示します。〔復習〕配布プリントをもとに学習を深めてください。				
教科書	小学校学習指導要領解説「理科編」文部科学省 小学校理科用教科書 (大日本図書)				
参考文献	小学校理科用教科書 (各出版社)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	「教師に必要な資質・能力」「授業の構成と進め方」「理科の評価」			
第 2 回	理科授業の創造	「学習意欲と導入」「実験の指導 (化学実験法)」「授業展開と思考活動」			
第 3 回	『物質』(1) 授業研究	VTR 視聴「模範授業」(金属を溶かす水溶液) 授業の構成と展開を学ぶ。			
第 4 回	『物質』(2) 指導案	「金属と酸の反応」指導案 (略案) の作成。授業準備 (予備実験、板書計画)			
第 5 回	『物質』(3)	「水の加熱」実験・観察と推論。安全な実験と指導。			
第 6 回	授業場面の検討	「理科授業の進め方」導入、課題把握、実験・観察、安全管理・安全指導。			
第 7 回	『エネルギー』(1)	「振り子の運動」導入場面の研究。実験条件の制御。			
第 8 回	『エネルギー』(2)	「てこの規則性」教具の効果的な演示法。モデル思考。ものづくり。			
第 9 回	『エネルギー』(3)	「電流の働き」電気回路、電流計、電圧計。回路作りと測定実習。			
第 10 回	『生命』(1)	「水の中の小さな生物」の指導。観察器具の使い方と指導。記録の方法。			
第 11 回	『生命』(2)	「植物の養分と水の通り道」観察試料の準備。観察器具の習熟と記録法の指導。			
第 12 回	『生命』(3)	「人の体のつくりと働き」指導資料の作成と活用。			
第 13 回	『地球』(1)	「月の形と動き」「月の位置や形と太陽の位置」モデルの活用。指導案。			
第 14 回	『地球』(2)	「流水の働き」簡易実験器具の活用と説明の工夫。視聴覚教材の活用。			
第 15 回	『地球』(3)	「土地のつくりと変化」地層の観察。火山灰の観察と指導。			

国際

授業番号	B103910001				
科目名 (英語表記)	人文地理学 (Human Geography)				
担当者 (英語表記)	松尾 宏 (Hiroshi Matsuo)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	地理学の重要なテーマは、問題意識をもって如何に地域を捉えるかが重要です。人間の暮らしをテーマに、私たちが目にする空間や社会の動き、話題性のある地域などについて多角的に捉え、地域を見る目を養う基礎力を養成する。				
授業の進め方 (履修条件など)	人文地理学の基本的なテーマを学習するとともに、現在起こっている話題や各地の情報、地域の問題、地域資源などについてもとりあげ、プリントやPPT (パワーポイント) で紹介しながら講義を行い、学生参加型の授業内容を展開する。				
成績評価方法	課題レポート、期末テストを総合して成績を評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：世の中で起こっていること、見てきた風景などから問題、疑問を整理予習しておくこと。 復習：学習した授業内容に関し、復習しておくこと。				
教科書	指定する教科書はありません、地図帳を利用します。詳細は講義で説明します。				
参考文献	その他読んで欲しい本は、講義で紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	地理学の概念と地理学史	地理学について、自然と人文、領域			
第2回	地域と地域区分	地域概念と地域区分、日本の市町村			
第3回	地理学の自然的基礎	地域にとっての水、地形、気候			
第4回	日本の地理	日本の特徴と地方の特色			
第5回	地図学	古地図と現代地図、地形図などについて			
第6回	食料と生産活動	農業と生産地域、食料問題			
第7回	資源・エネルギー	資源・エネルギー利用とその問題			
第8回	国土と地域変化	国土の変貌と地域変化			
第9回	災害の地理	日本の災害史と地域の生活			
第10回	川と平野、山地と生活	水利用と暮らしを通じて、川、平野、山の特色、人々の暮らしを知る			
第11回	集落・景観地理	村落・都市の風景と地域の風土			
第12回	環境と環境問題	環境論、世界や日本の環境問題			
第13回	観光と地域	交通と観光、観光資源と地域文化			
第14回	地域問題	地域の課題と町おこし、村おこし			
第15回	地域資源と活用	土木遺産、産業遺産、世界遺産など			

国際

授業番号	B100050001		
科目名 (英語表記)	心理学 (Psychology)		
担当者 (英語表記)	田中 未央 (Mio Tanaka)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	心理学の基礎的な理論を学び、我々の日常生活における行動の理解に役立てることを目指す。		
授業の進め方 (履修条件など)	①原則として講義形式で授業を進めるが、授業内で簡単な実習やグループワークを求める場合がある。 ②実習やグループワークを行った際にはリアクションペーパーの提出を求める。 ③必要に応じてビデオなどの映像資料も使用する。		
成績評価方法	学期末試験・リアクションペーパーを成績評価の対象とする。		
基準	評価基準は学期末試験 (80%)・リアクションペーパー (20%) である。		
授業の予習・復習	予習：次回のテーマに関連した書籍や新聞記事を読む。 復習：授業の内容を整理し資料をまとめる。		
教科書	使用しない。必要に応じて資料を配布する。		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学ってどんなもの (岩波ジュニア新書)</li> <li>・心理学・入門 -- 心理学はこんなに面白い (有斐閣アルマ) サトウタツヤ・渡邊芳之 (著) 有斐閣</li> </ul>		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	講義の概要, 授業の進め方, 評価方法, 受講マナーについて	
第2回	パーソナリティ①	性格とは何か?・性格の違いを説明する理論について	
第3回	パーソナリティ②	パーソナリティ障害に関する問題	
第4回	パーソナリティ③	性格検査 (エゴグラム) を体験する。	
第5回	知覚・認知①	錯覚について	
第6回	知覚・認知②	注意力はなぜ必要か?・ヒューマンエラーの問題	
第7回	知覚・認知③	記憶の不思議	
第8回	社会心理学①	囚人のジレンマゲームを体験する。	
第9回	社会心理学②	自分さえ良ければ... は損をする (社会的ジレンマ)	
第10回	社会心理学③	恋愛を科学的に考えてみる	
第11回	犯罪心理学①	なぜ人は犯罪に走るのか?	
第12回	犯罪心理学②	ストーカーから身をまもるために ドメスティックバイオレンスに陥らないために	
第13回	臨床心理学①	ストレスが心に与える影響について	
第14回	臨床心理学②	現代人が抱える心の病について (うつ病・ストレス障害など)	
第15回	まとめ	第2回~第14回で扱ったテーマのレビュー, 質問への対応	

国際

授業番号	B103810001				
科目名 (英語表記)	心理言語学 (Psychological linguistics)				
担当者 (英語表記)	黄麗華 (Ko Reika)	対象学年	2	単位数	2

授業のねらいと到達目標	人間はことばを用いてどのようにコミュニケーションを図るのか、その様々な側面を理解する。また、言語的/非言語的コミュニケーションや異文化間コミュニケーションなども考慮に入れ、人間とことばについて総合的に考える。
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には講義形式であるが、適宜さまざまな資料を読んだり、グループワークを行ったりしながら理解を深める。留学生で受講を希望する者は、日本語能力試験2級相当の日本語力を必要とするので、注意すること。
成績評価方法 基準	定期試験7割、平常点3割。 3回以上欠席した者、または受講態度の良くない者は評価から外す。遅刻も認めない。
授業の予習・復習	予習：授業時に指示する。 復習：授業時に指示する。
教科書	教科書は使用せず、プリントを配布する。
参考文献	授業時に適宜紹介する。

回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	概要
第2回	言語的コミュニケーション1	記号とことば
第3回	言語的コミュニケーション2	言語の特徴
第4回	言語的コミュニケーション3	コミュニケーションの諸相
第5回	言語的コミュニケーション4	言語的コミュニケーション
第6回	言語的コミュニケーション5	非言語的コミュニケーション
第7回	異文化間コミュニケーション1	コンテキストについて
第8回	異文化間コミュニケーション2	言語運用能力について
第9回	異文化間コミュニケーション3	会話の公準
第10回	異文化間コミュニケーション4	異文化接触1
第11回	異文化間コミュニケーション5	異文化接触2
第12回	バイリンガリズム1	バイリンガリズムの基礎
第13回	バイリンガリズム2	ダイグロシアについて
第14回	バイリンガリズム3	中間言語について
第15回	バイリンガリズム4	国家レベルで見た中間言語の形成

国際

授業番号	B104190001				
科目名 (英語表記)	図画工作 (Arts and crafts)			(A)	
担当者 (英語表記)	山口 荘一 (Souichi Yamaguchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>小学校図画工作科を指導する上で必要な実技と造形理論の習得を目標とします。</p> <p>授業では、小学校図画工作科で扱う基本的な材料や道具、用具を知り、その特徴に応じた扱い方や表現方法について実技を通して学びます。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>小学校図画工作科の教科書に掲載されている題材を基に、安全な用具や道具の取り扱い方、多様な材料体験を含んだの造形活動を実技形式で行います。</p>				
成績評価方法 基準	<p>材料や用具、道具の事前準備 (20%)、課題提出状況 (50%)、レポート、授業態度等 (30%) を総合的に判断します。</p>				
授業の予習・復習	<p>予習：課題に対する材料集めや用具、道具の準備をしっかりと行う。</p> <p>復習：配布資料、作品、活動のプロセス等の記録をファイリング保存する。</p>				
教科書	<p>授業の第一回目に指定します。</p>				
参考文献	<p>必要に応じて適時紹介します。</p>				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	小学校図画工作科の内容についてと、使用する道具、用具の解説。			
第 2 回	低学年向け実技 1・絵に表す	クレヨン、パス、水彩絵の具を使つての実技。			
第 3 回	低学年向け実技 2・工作	紙を基にした工作の実技。			
第 4 回	低学年向け実技 3・立体に表す	粘土等を基にした立体の実技。			
第 5 回	低学年造形遊びについて	材料を基にした造形遊びの実技。			
第 6 回	中学年向け実技 1・絵に表す	ローラー等用具を使つての実技。			
第 7 回	中学年向け実技 2・工作	動く仕組み等を基にした工作の実技。			
第 8 回	中学年向け実技 3・立体に表す	雑材を基にした立体の実技。			
第 9 回	中・高学年造形遊び	材料や場所を基にした造形遊びの実技。			
第 10 回	高学年向け実技 1・絵に表す	モダンテクニックを用いての実技。			
第 11 回	高学年向け実技 2・版に表す	彫り進み版画等版に表す活動の実技。			
第 12 回	高学年向け実技 3・工作、立体	材料を総合的に用いての実技。 計画・活動			
第 13 回	高学年向け実技 4・工作、立体	材料を総合的に用いての実技。 活動、発表			
第 14 回	鑑賞について	鑑賞と表現の実際と美術史との関連についての講義等。			
第 15 回	造形理論について	造形理論と小学校図画工作科との関連についての講義等。			

国際

授業番号	B100800001				
科目名 (英語表記)	S p e a k i n g I (Speaking I)				
担当者 (英語表記)	Scot Hill (Scot Hill)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This is a course for high beginners. It will include study in speaking, listening, vocabulary and grammar. Class work will be interactive, and students will be expected to work together in pairs as well as individually.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have a basic high school level knowledge of English.				
成績評価方法	Evaluation will be based on attendance, class participation and tests.				
基準					
授業の予習・復習	Reading lessons before class and bringing a dictionary are recommended.				
教科書	American HEADWAY 1 - Second Edition (Oxford) by Liz and John Soars				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	Introductions / greetings			
第 2 回	Questions	Question and answer practice			
第 3 回	Meeting people	Meeting people / Family			
第 4 回	Be verbs	Be verbs; negatives; possessives			
第 5 回	Work	Work / occupations			
第 6 回	Leisure	Leisure activities / hobbies			
第 7 回	Review	Questions and negatives; review			
第 8 回	Test	Test			
第 9 回	Leisure 2	Leisure activities / hobbies			
第 10 回	Present simple	Verbs - present simple tense			
第 11 回	Prepositions	Locations; prepositions			
第 12 回	Things and places	Household items / places; using some and any			
第 13 回	Abilities	Abilities; can / can't			
第 14 回	Past 2	Talking about the past; review			
第 15 回	Test	Test			



国際

授業番号	B100800002				
科目名 (英語表記)	S p e a k i n g I (Speaking I)				
担当者 (英語表記)	Thomas O'Leary (Thomas O'leary)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This course will help students become re-introduced to basic English vocabulary and simple phrases for everyday conversation.				
授業の進め方 (履修条件など)	We will slowly introduce key vocabulary and study points to build our skills.				
成績評価方法	Students will need a notebook to copy our lesson material week by week.				
基準					
授業の予習・復習	Class attendance is very important.40% of the final score will be your attendance.				
教科書	The teacher will supply new prints each week.				
参考文献	Work with a good attitude and enjoy our course.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	We start with basic points.			
第 2 回	Phrases of Locaion	We speak in English about a place.			
第 3 回	Places you know	We group places in easy ways.			
第 4 回	Talking about Home	We focus on talk of our homelife.			
第 5 回	Review and Quiz	We test our basic vocabulary.			
第 6 回	Word to Express Time	We think with verbs of time.			
第 7 回	The Present	We use adverbs and contrast events.			
第 8 回	The Future	We imagine a future time in life.			
第 9 回	Quiz on Patterns	We revies our time vocabulary			
第 10 回	Verb Families	We compare places with times.			
第 11 回	Place and Things	We select 3 well-known places as topics.			
第 12 回	Phrase Families	We list groups of words for mastery.			
第 13 回	Using Description Well	We speak by relating two or more topics.			
第 14 回	Review Test	We review the important things learned.			
第 15 回	Final Appraisal	We sum up our initial goals.			

国際					
授業番号	B100800003				
科目名 (英語表記)	S p e a k i n g I (Speaking I)				
担当者 (英語表記)	Scot Hill (Scot Hill)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This is a course for high beginners. It will include study in speaking, listening, vocabulary and grammar. Class work will be interactive, and students will be expected to work together in pairs as well as individually.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have a basic high school level knowledge of English.				
成績評価方法	Evaluation will be based on attendance, class participation and tests.				
基準					
授業の予習・復習	Reading lessons before class and bringing a dictionary are recommended.				
教科書	American HEADWAY 1 - Second Edition (Oxford) by Liz and John Soars				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	Introductions / greetings			
第 2 回	Questions	Question and answer practice			
第 3 回	Meeting people	Meeting people / Family			
第 4 回	Be verbs	Be verbs; negatives; possessives			
第 5 回	Work	Work / occupations			
第 6 回	Leisure	Leisure activities / hobbies			
第 7 回	Review	Questions and negatives; review			
第 8 回	Test	Test			
第 9 回	Leisure 2	Leisure activities / hobbies			
第 10 回	Present simple	Verbs - present simple tense			
第 11 回	Prepositions	Locations; prepositions			
第 12 回	Things and places	Household items / places; using some and any			
第 13 回	Abilities	Abilities; can / can't			
第 14 回	Past 2	Talking about the past; review			
第 15 回	Test	Test			

国際

授業番号	B100800004				
科目名 (英語表記)	S p e a k i n g I (Speaking I)				
担当者 (英語表記)	Thomas O'Leary (Thomas O'leary)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This course will help students become re-introduced to basic English vocabulary and simple phrases for everyday conversation.				
授業の進め方 (履修条件など)	We will slowly introduce key vocabulary and study points to build our skills.				
成績評価方法	Students will need a notebook to copy our lesson material week by week.				
基準					
授業の予習・復習	Class attendance is very important.40% of the final score will be your attendance.				
教科書	The teacher will supply new prints each week.				
参考文献	Work with a good attitude and enjoy our course.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	We start with basic points.			
第 2 回	Phrases of Locaion	We speak in English about a place.			
第 3 回	Places you know	We group places in easy ways.			
第 4 回	Talking about Home	We focus on talk of our homelife.			
第 5 回	Review and Quiz	We test our basic vocabulary.			
第 6 回	Word to Express Time	We think with verbs of time.			
第 7 回	The Present	We use adverbs and contrast events.			
第 8 回	The Future	We imagine a future time in life.			
第 9 回	Quiz on Patterns	We revies our time vocabulary			
第 10 回	Verb Families	We compare places with times.			
第 11 回	Place and Things	We select 3 well-known places as topics.			
第 12 回	Phrase Families	We list groups of words for mastery.			
第 13 回	Using Description Well	We speak by relating two or more topics.			
第 14 回	Review Test	We review the important things learned.			
第 15 回	Final Appraisal	We sum up our initial goals.			

国際

授業番号	B100810001				
科目名 (英語表記)	S p e a k i n g II (Speaking II)				
担当者 (英語表記)	Scot Hill (Scot Hill)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This is a course for high beginners continuing from Speaking I. It will include study in speaking, listening, vocabulary and grammar. Class work will be interactive and students will be expected to work together in pairs as well as individually.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have a basic high school level ability in English.				
成績評価方法	Evaluation will be based on attendance, classroom work and tests.				
基準					
授業の予習・復習	Students should prepare by reading lessons before class and bringing a dictionary to class.				
教科書	American HEADWAY 1 - Second Edition (Oxford) by Liz and John Soars				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction 1	Introductions / greetings			
第 2 回	Introduction 2	Question and answer practice			
第 3 回	Verbs 1	Past simple tense; irregular verbs			
第 4 回	Verbs 2	Past simple tense; times and dates			
第 5 回	Time	Time expressions / negatives			
第 6 回	Nouns	Count / non-count nouns; a and some			
第 7 回	Much / many	Using much and many; review			
第 8 回	Test	Test			
第 9 回	Verbs 3	Present continuous; clothes			
第 10 回	Descriptions	Describing people and feelings			
第 11 回	Weather	Weather / the future			
第 12 回	Adjectives	Comparatives and superlatives			
第 13 回	Verbs 4	Talking about things you have done			
第 14 回	Adverbs	Using ever and never; review			
第 15 回	Test	Test			

国際

授業番号	B100810002				
科目名 (英語表記)	S p e a k i n g II (Speaking II)				
担当者 (英語表記)	Thomas O'Leary (Thomas O'leary)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This course will improve English speaking skills and give students confidence in better self-expression.				
授業の進め方 (履修条件など)	We will concentrate on reviewing students vocabulary and understanding of structure.				
成績評価方法	At first we will outline our communication goals and re-develop the student's speaking skills.				
基準					
授業の予習・復習	Attending class regularly is needed for a good score. Attendance will count as 40% of the final score.				
教科書	The teacher will supply the study materials.				
参考文献	Study with a good attitude and participate.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	We find out how much English we know.			
第 2 回	The Topic of People	We begin with family member impressions.			
第 3 回	Using Simple Description	We group our vocabulary for usefulness.			
第 4 回	Vocabulary Work	We introduce some key new words.			
第 5 回	Kinds of Occupations	We study people by the jobs they have.			
第 6 回	Review Quiz	We test our review skills.			
第 7 回	Words about Experiences	Events have a story to tell			
第 8 回	Action and Performing	We speak about doing various actions.			
第 9 回	How People Interact	We communicate with others about actions.			
第 10 回	Second Quiz	We test vocabulary use.			
第 11 回	Dialog Structuring	We consider conversation as a goal.			
第 12 回	Playing Speaking Roles	We make a role by using definitions.			
第 13 回	Practicing Roles	We make dialogs using creativity.			
第 14 回	Review of Skills	We compare our new and former skills.			
第 15 回	Final Appraisal	We assess how best to improve more skills.			

国際

授業番号	B100810003				
科目名 (英語表記)	Speaking II (Speaking II)				
担当者 (英語表記)	Jayne Ikeshima (Jayne Ikeshima)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This is a continuation of Speaking I. Students should be fairly confident with the basics of English conversation and be willing to speak up in class frequently. The course will be topic-oriented and students will speak about a variety of topics.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should attend the class on the first day for further explanation.				
成績評価方法	Class participation will count heavily toward the final grade. Grading will be based on attendance, classroom work, and tests.				
基準					
授業の予習・復習	Students should try to use as much English as possible in their daily lives. Students should review after each class.				
教科書	Printed material.				
参考文献	Students should bring a dictionary to every class.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Lesson 1	Introductions			
第 2 回	Lesson 2	Talking about work			
第 3 回	Lesson 3	Talking about different countries			
第 4 回	Lesson 4	Talking about experiences			
第 5 回	Lesson 5	Talking about food			
第 6 回	Lesson 6	Suggesting and inviting			
第 7 回	Lesson 7	Test			
第 8 回	Lesson 8	Talking about the future			
第 9 回	Lesson 9	Feelings and emotions			
第 10 回	Lesson 10	Requesting			
第 11 回	Lesson 11	Giving advice and making suggestions			
第 12 回	Lesson 12	Talking about movies and television			
第 13 回	Lesson 13	Giving directions			
第 14 回	Lesson 14	Making predictions			
第 15 回	Lesson 15	Test			

国際

授業番号	B100810004				
科目名 (英語表記)	S p e a k i n g II (Speaking II)				
担当者 (英語表記)	Scot Hill (Scot Hill)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This is a course for high beginners continuing from Speaking I. It will include study in speaking, listening, vocabulary and grammar. Class work will be interactive and students will be expected to work together in pairs as well as individually.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have a basic high school level ability in English.				
成績評価方法	Evaluation will be based on attendance, classroom work and tests.				
基準					
授業の予習・復習	Students should prepare by reading lessons before class and bringing a dictionary to class.				
教科書	American HEADWAY 1 - Second Edition (Oxford) by Liz and John Soars				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction 1	Introductions / greetings			
第 2 回	Introduction 2	Question and answer practice			
第 3 回	Verbs 1	Past simple tense; irregular verbs			
第 4 回	Verbs 2	Past simple tense; times and dates			
第 5 回	Time	Time expressions / negatives			
第 6 回	Nouns	Count / non-count nouns; a and some			
第 7 回	Much / many	Using much and many; review			
第 8 回	Test	Test			
第 9 回	Verbs 3	Present continuous; clothes			
第 10 回	Descriptions	Describing people and feelings			
第 11 回	Weather	Weather / the future			
第 12 回	Adjectives	Comparatives and superlatives			
第 13 回	Verbs 4	Talking about things you have done			
第 14 回	Adverbs	Using ever and never; review			
第 15 回	Test	Test			

国際

授業番号	B100810005				
科目名 (英語表記)	S p e a k i n g II (Speaking II)				
担当者 (英語表記)	池嶋 保幸 (Yasuyuki Ikeshima)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This is a continuation of Speaking I, so students who wish to take the course should have fairly good speaking ability. In other words, beginner level students are advised not to take the course. The course will be topic based and students will practice speaking on various topics.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students are expected to talk about various topics as a group or sometimes individually. Students who have taken Speaking I are eligible to take this course.				
成績評価方法 基準	The grades will be based on small tests which are given frequently. Students are evaluated based on class participation. Therefore, good attendance is expected.				
授業の予習・復習	Students will be asked to prepare to talk about topics which are notified beforehand.				
教科書	Printed materials will be used. No textbooks will be used.				
参考文献	None				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Lesson 1	Introduction			
第 2 回	Lesson 2	Talk about work.			
第 3 回	Lesson 3	Talk about different countries.			
第 4 回	Lesson 4	Talk about environmental issues.			
第 5 回	Lesson 5	Talk about environmental issues 2.			
第 6 回	Lesson 6	Talk about peoples health			
第 7 回	Lesson 7	Talk about future of the world			
第 8 回	Lesson 8	Talk about movies and television			
第 9 回	Lesson 9	Talk about religion			
第 10 回	Lesson 10	Talk about mind and feelings			
第 11 回	Lesson 11	Talk about world economy			
第 12 回	Lesson 12	Talk about life and happiness			
第 13 回	Lesson 13	Talk about aging			
第 14 回	Lesson 14	Talk about peace and war			
第 15 回	Lesson 15	Overall review			



国際

授業番号	B104410001				
科目名 (英語表記)	スポーツ教育 (実技) (Sport education)				
担当者 (英語表記)	藤井 喜一 (Kiichi Fujii)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	体育の指導実践者としての基礎的な体力を得るとともに子どもの遊び、運動の基本的な知識と技術の習得を目指す。また、生涯体育という観点から、技術とルールを考え初心者から楽しめるスポーツのあり方等も追求する。				
授業の進め方 (履修条件など)	体育館において実技を行う。その実技を通して技術の獲得をはかれるようにする。				
成績評価方法	出席 60%、受講態度 20%、論述試験 20%				
基準					
授業の予習・復習	予習：技術の系統、ゲームのルール等を調べる。 復習：授業の内容、感想、反省等をまとめておくこと。				
教科書	無し				
参考文献	体育科教育別冊 新しいマット運動の授業づくり (大修館書店) 体育科教育別冊 新しい跳び箱運動の授業づくり (大修館書店)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の 0 進め方、評価方法、諸注意			
第 2 回	からだほぐしの運動①	体づくり			
第 3 回	からだほぐしの運動②	仲間とともに			
第 4 回	器械運動	マット運動①			
第 5 回	器械運動	マット運動②			
第 6 回	器械運動	とびばこ運動①			
第 7 回	器械運動	とびばこ運動②			
第 8 回	ボール運動	バレーボール①			
第 9 回	ボール運動	バレーボール②			
第 10 回	ボール運動	バスケットボール①			
第 11 回	ボール運動	バスケットボール②			
第 12 回	ボール運動	アルティメット①			
第 13 回	ボール運動	アルティメット②			
第 14 回	ボール運動	フットサル①			
第 15 回	ボール運動	フットサル②			

国際		
授業番号	B104220001	
科目名 (英語表記)	生活 (Life)	
担当者 (英語表記)	池谷 美佐子 (Misako Ikeya)	
対象学年	1	
単位数	2	
授業のねらいと到達目標	小学校学習指導要領が示す生活科の目標や内容について学びながら、小学校生活科という教科の特性をとらえる。また、小学校低学年の児童の興味や関心を理解し、生活科指導と教材の関連についてもその特徴をとらえていく。	
授業の進め方 (履修条件など)	毎回の授業の積み重ねで理解を深めていくことを目指しているため、出席を重視します。授業には積極的な態度で臨んでいただきたい。	
成績評価方法	授業毎のリアクションペーパー 期末試験	
基準		
授業の予習・復習	予習： 次回の授業内容に関する教科書の部分を読み、概要をとらえておく。連絡された学習材は準備する。 復習： 教科の独自性がかめられるように各自ノートの整理をする。	
教科書	小学校学習指導要領 生活編 (文部科学省) 必ず各自購入し毎時間持参すること。	
参考文献	必要に応じて紹介	
回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明
第2回	生活科の目標・主旨	教科の目標の構成と主旨について解説
第3回	生活科の学年目標	学年目標の構成・主旨について解説
第4回	生活科の内容構成	内容構成の考え方について解説
第5回	内容(1)「学校と生活」	内容(1)について具体的な事例を含めて学ぶ
第6回	内容(2)「家庭と生活」	内容(2)について具体的な事例を含めて学ぶ
第7回	内容(3)「地域と生活」	内容(3)について具体的な事例を含めて学ぶ
第8回	内容(4)「公共物や公共施設の利用」	内容(4)について具体的な事例を含めて学ぶ
第9回	内容(5)「季節の変化と生活」	内容(5)について具快適な事例を含めて学ぶ
第10回	内容(6)「自然や物をつかった遊び」	内容(6)について具体的な事例を含めて学ぶ
第11回	内容(7)「動植物の飼育・栽培」	内容(7)について具体的な事例を含めて学ぶ
第12回	内容(8)「生活の出来事の交流」	内容(8)について具体的な事例を含めて学ぶ
第13回	内容(9)「自分の成長」	内容(9)について具体的な事例を含めて学ぶ
第14回	生活科の教材と学習指導	内容(4)(5)(6)を中心に教材化について考える
第15回	生活科の活動や体験の表現	表現する学習活動を具体化して検討する

国際

授業番号	B104070001				
科目名 (英語表記)	生活科指導法 (Home economics method of instruction)				
担当者 (英語表記)	池谷 美佐子 (Misako Ikeya)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	生活科の特性をふまえ、児童の生活圏における「人、社会、自然」についての理解を深めたり、児童の発達特性をもとに行動や思いについての理解を深めたりしながら、生活科の教材化について学び、実践をふまえた指導計画の作成並びに学習指導案の作成に取り組みます。また、生活科の指導に必要な、基礎的なことから・習慣・技能についても具体的に理解し、実践に生かせるように取り組みます。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回の授業の取り組み内容を積み重ねていくので、出席を重視します。				
成績評価方法	授業毎に作成するリアクションペーパー 指導案と模擬授業 期末試験				
基準					
授業の予習・復習	予習 生活科の指導計画についての理解を深めてくる 復習 授業内に完成しなかった課題をしあげる				
教科書	小学校学習指導要領解説 生活科 (文部科学省)				
参考文献	必要に応じて紹介				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明			
第2回	低学年児童についての理解	低学年児童の発達特性についての理解			
第3回	低学年児童の生活圏と学習の場や学習対象	地域の公園の活用について考える			
第4回	学習の場と対象の教材化	学習対象の教材化について考える			
第5回	指導計画の作成 (1)	学習指導の特質について解説			
第6回	指導計画の作成 (2)	年間指導計画の作成について解説			
第7回	指導計画の作成 (3)	単元指導計画についての解説			
第8回	単元指導計画の作成 (1)	学習指導案の作成について解説			
第9回	単元指導計画の作成 (2)	学習指導案について話し合い、単元指導計画を作成する			
第10回	単元指導計画の作成 (3)	学習指導案の本事案の検討と作成			
第11回	授業実践について	学習指導の進め方についての解説			
第12回	模擬授業 (1)	模擬授業の準備をする			
第13回	模擬授業 (2)	模擬授業を行い、相互討論により検討する。			
第14回	模擬授業 (3)	模擬授業を行い、相互討論し検討する			
第15回	生活科で指導する「生活に必要な技能」	「生活上必要な技能」について確認し、具体的に理解する			

国際					
授業番号	B104590001				
科目名 (英語表記)	世界のこども教育 (Child education in the world)				
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本や世界の教育制度、現状など、情報を交換しながら学びます。また言葉のもつ力についても考えます。各国および地域の教育の歴史や考え方、こどもに対するとらえ方などを比較して理解を深めます。 留学生の母国での教育について聞いたり、現地の教育を知る教員や海外スクーリングに参加した学生などからの情報を通して、多様なこども教育を知り、現在の日本のこども教育のよさや問題点などを考えます。				
授業の進め方 (履修条件など)	これまでのこども学科での学びを通して感じたことを大切に、課題意識を明確にして、グループで意見交換しながら授業に取り組めるようにします。				
成績評価方法	課題への取り組みの姿勢、意見交換、さまざまな情報などから自分の考えを深めていく過程を総合的に評価します。				
基準					
授業の予習・復習	授業内容について自分で調べたり、広げたり、深めたりして、自分の課題解決の方法を探ります。				
教科書	授業内で紹介します。				
参考文献	適宜紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方 事前調査			
第 2 回	感性と創造性①	心と言葉			
第 3 回	感性と創造性②	言葉の力			
第 4 回	日本の教育①	自分の受けた教育			
第 5 回	日本の教育②	日本の教育の特徴 よさ 問題点			
第 6 回	各国の教育①	教育制度			
第 7 回	各国の教育②	教育の現状①			
第 8 回	各国の教育④	教育の現状②			
第 9 回	各国の教育⑤	日本の教育との共通点・相違点			
第 10 回	各国の教育⑥	日本の教育に生かせるもの			
第 11 回	各国の教育⑦	こども教育の意味・意義			
第 12 回	各国の教育⑧	各国の教育まとめ			
第 13 回	私の目指すこども教育①	目指すこども教育について考えをまとめる。			
第 14 回	私の目指すこども教育②	目指すこども教育について発表する。			
第 15 回	まとめ	自分の課題を深めたり、解決したりする。			

# 国際

授業番号	B102570001				
科目名 (英語表記)	世界の食と農 (World food and agriculture)				
担当者 (英語表記)	原山 浩介 (Kosuke Harayama)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、食と農業をめぐって、広い視野の下でその問題点と可能性を探っていく。日本および世界の農業の現状を、世界政治・経済の動向との関連から読み解くとともに、「食の安全」や農村の過疎化、都市と農村の経済格差といった、今日的なトピックスにも目配りしつつ、それが世界の政治・経済の潮流とどう絡むのかを見ていく。				
授業の進め方 (履修条件など)	概論的な講義の中に、適宜、具体的な事例やニュース、あるいはマンガなどを織り込み、多角的に食と農業が見えるような講義にしたいと考えている。受講生には、農業や食に興味を持ちながら講義に参加してほしい。				
成績評価方法	提出物とレポートによって評価を行う。				
基準					
授業の予習・復習	予習：特になし。 復習：各回の講義内容に関わる新聞記事や書籍を探し、情報収集に努め、知識の定着を図ること。				
教科書	池上甲一・原山浩介編『食と農のいま』ナカニシヤ出版、2011				
参考文献	随時指示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	イントロダクション	講義の方針と、進め方に関する説明。			
第2回	起点としての戦争時代の原体験	とりわけ日本において戦後農業政策の起点となった、食料の欠乏の経験を考える。			
第3回	食料増産の現代史	現代における食料増産の歴史とその問題点を考える。			
第4回	主食としてのコメ	日本ならびにアジア世界におけるコメの持つ意味について考える。			
第5回	経済成長と自給率	経済成長に伴う、食料需要の拡大と、農業生産の減少という、アンビバレントな現象をめぐって考察する。			
第6回	食品公害の発生と日本の有機農業	農業の近代化の弊害と、これを克服しようとした取り組みとして有機農業を捉え直す。			
第7回	ファストフードと食の変容	ファストフードの世界への浸透とその問題点を考える。			
第8回	遺伝子組換えとは何か	技術水準の現状とその可能性を考えるとともに、農業に対する食料メジャーによる支配の問題点を検討する。			
第9回	食の「安心・安全」とその問題点	食の安全に関わる身近な制度を踏まえ、今日の安心・安全をめぐる発想の限界や問題点を考える。			
第10回	食のローカライゼーションの動き	地産地消・スローフードなど、日本の内外の取り組みを概観する			
第11回	農地と水の争奪	グローバルに展開する農地と農業用水をめぐる攻防を起点に、世界の食料需給を考える。			
第12回	バイオ燃料と食料市場	新たな農産物需要の現状と、これによって引き起こされる食料需給の逼迫などの問題点を考える。			
第13回	農業生産と移民労働	今日の移民労働力と農業生産の関係を批判的に検討する。			
第14回	原発事故が提起する問題	事故の推移に即して、農業と食の観点から原子力災害を考える。			
第15回	まとめ	講義の総括をする			

国際

授業番号	B101850001				
科目名 (英語表記)	世界の人権論 (Theory of Human Rights)				
担当者 (英語表記)	寛正 豊和 (Toyokazu Kakusho)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	アメリカ社会において、人権、マイノリティ、ジェンダー、階級、セクシャリティなどの差異性を発端とする人種問題は、さまざまな社会問題として露呈または隠蔽されてきています。この講義では、そうした人権問題の現状を正しく捉え人道主義的立場から理解し、解決の方途についても模索していきます。すなわち、自由権保障、人身保護権保障、人権保障制度等がどのように運用されているかなど基礎的事項についても整理、理解していくことを目的とします。同時にそれは、グローバルなボーダレス化した社会のなかで私達が生きていく意味と異文化状況を的確に判断する能力、よりよい国際人としての能力を身につけていくためにも必要なものです。				
授業の進め方 (履修条件など)	分かりやすい授業を展開するので、特にありません。				
成績評価方法	初回の授業において指示します。				
基準					
授業の予習・復習	初回の授業において指示します。				
教科書	初回の授業において指示します。				
参考文献	授業において指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	受講のガイダンス	人権擁護の推進と啓発			
第2回	比較分析のためのフレームワーク	人権と社会常識のあいだ			
第3回	ヒューマン・ライツ 1	基本的人権の原理・性格			
第4回	ヒューマン・ライツ 2	基本的人権の歴史・国際化			
第5回	ヒューマン・ライツ 3	開かれた社会と情報			
第6回	人権問題 1	各種人権問題その 1			
第7回	人権問題 2	各種人権問題その 2			
第8回	人権問題 3	各種人権問題その 3			
第9回	人権問題 4	各種人権問題その 4			
第10回	人権問題 5	各種人権問題その 5			
第11回	人権と法 1	人権条約－イノベーション、モニタリング、グローバリゼーション			
第12回	人権と法 2	司法解決と限界 (国際刑事裁判所)			
第13回	人権と法 3	リーガルエイド－諸外国の実践と対応			
第14回	人権と展望	まとめと展望			
第15回	総括	全体のまとめと質疑			

国際

授業番号	B104380001				
科目名 (英語表記)	造形と表現 I (Expression and formative arts I)				
担当者 (英語表記)	山口 荘一 (Souichi Yamaguchi)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>発想、構想、表現活動、鑑賞のプロセスをふまえて、作品を制作する。</p> <p>制作を通して必要な技術や技能を習得し、活用する力を培う。</p> <p>また、鑑賞を通して自他の違いやよさに気づき、相互理解の大切さを知る。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>造形 1 では、立体、工作の表現活動を通して多様な材料を知り、用具や道具の基本的な取り扱いについて学ぶ。</p> <p>造形 1 と造形 2 は継続して学ぶことが望ましい。</p>				
成績評価方法	材料や用具、道具の事前準備 (20%)、課題提出状況 (50%)、授業態度等 (30%) を総合的に判断します。				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習：材料や用具、道具等を含む準備を行う。</p> <p>復習：作品の記録や活動のプロセス等をファイリングする。</p>				
教科書	授業ごとにレジュメを配布。				
参考文献	必要に応じて適時紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について。 材料、用具、道具についての説明。			
第 2 回	紙での立体表現 1・計画	紙を切る、折る、貼る等の操作を知る。			
第 3 回	紙での立体表現 2・制作	紙の操作から発想して立体に表す。			
第 4 回	紙での立体表現 3・鑑賞	作品を相互に見せ合い、違いやよさについて話し合う。			
第 5 回	粘土での立体表現 1・計画	丸める、伸ばす、よる等の粘土の操作を知る。			
第 6 回	粘土での立体表現 2・制作	粘土の操作から発想して立体に表す。			
第 7 回	粘土での立体表現 3・鑑賞	作品を相互に見せ合い、違いやよさについて話し合う。			
第 8 回	液体粘土の立体表現 1・計画	液体粘土の特徴を知る。			
第 9 回	液体粘土の立体表現 2・制作	他の材料との組み合わせを考えて立体に表す。			
第 10 回	液体粘土の立体表現 3・鑑賞	作品を相互に見せ合い、違いやよさについて話し合う。			
第 11 回	金属の立体表現 1・計画、制作	金属の特徴を知り、その特徴から発想する。			
第 12 回	金属の立体表現 2・制作、鑑賞	金属の特徴から発想して、立体に表し、発表し合う。			
第 13 回	木材での立体表現 1・計画	木工用の用具、道具について知る。			
第 14 回	木材での立体表現 2・制作	木材の形を生かして立体に表す。			
第 15 回	木材での立体表現 3・鑑賞	作品を相互に見せ合い、違いやよさについて話し合う。			

国際						
授業番号	B104390001					
科目名 (英語表記)	造形と表現 II (Expression and formative arts II)					
担当者 (英語表記)	山口 荘一 (Souichi Yamaguchi)	対象学年	2	単位数	1	
授業のねらいと到達目標	発想、構想、表現活動、鑑賞のプロセスをふまえて、作品を制作する。 制作を通して基本的、基礎的な技術や技能を習得し、活用する力を培う。 鑑賞を通して自他の違いやよさに気づき、相互理解の大切さについて知る。					
授業の進め方 (履修条件など)	造形 2 では、平面表現の活動を通して、多様な表現様式や形式について学ぶ。 造形 1 と造形 2 は継続して学ぶことが望ましい。					
成績評価方法 基準	材料や用具、道具の事前準備 (20%)、課題提出状況 (50%)、授業態度等 (30%) を総合的に判断します。					
授業の予習・復習	予習：材料や用具、道具の準備を行う。 復習：作品の記録や活動のプロセス等をファイリングする。					
教科書	授業ごとにレジュメを配布。					
参考文献	必要に応じて適時紹介します。					
回数	授業項目	授業内容				
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について。 平面表現の様式、形式についての説明。				
第 2 回	発想法 1・お花紙を使って	操作を生かしてお花紙を貼り、平面に表す。				
第 3 回	発想法 2・シャボン玉から生まれた形で	シャボン玉から生まれた偶然の形を見立てて絵に表す。				
第 4 回	ドローイング 1・発想、構想	テーマに合わせて材料を選び、構想を練る。				
第 5 回	ドローイング 2・制作	テーマに合わせて表現方法を工夫して絵に表す。				
第 6 回	ドローイング 3・鑑賞	作品を相互に見せ合い、違いやよさについて話し合う。				
第 7 回	ペインティング 1・発想、構想	テーマに合わせて表し方の構想を練る。				
第 8 回	ペインティング 2・制作	テーマに合わせて、ペインティングの方法を活用して絵に表す。				
第 9 回	ペインティング 3・鑑賞	作品を相互に見せ合い、違いやよさについて話し合う。				
第 10 回	モダンテクニック 活動その 1	フロッタージュの技法について知り、活動に取り組む。				
第 11 回	モダンテクニック 活動その 2	デカルコマニーの技法について知り、活動に取り組む。				
第 12 回	モダンテクニック 活動その 3	スパッタリングの技法について知り、活動に取り組む。				
第 13 回	モダンテクニック 活動その 4	コラージュの技法について知り、活動に取り組む。				
第 14 回	版に表す 活動その 1	版画の種類を知り、彫刻刀の安全な扱い方に慣れる。				
第 15 回	版に表す 活動その 2	インクのつけ方や刷りを経験して凸版版画を制作する。				



国際

授業番号	B103070001				
科目名 (英語表記)	総合講座 II (Integrated Study II)				
担当者 (英語表記)	Steve Ryan (Steve Ryan)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	The goal: To learn filmmaking; to learn English.				
授業の進め方 (履修条件など)	Harvard case study approach. We'll watch a film. We'll talk about how the film was made. We'll make conclusions about filmmaking.				
成績評価方法 基準	Attendance is everything. You don't need to study before the class. You don't need to study after the class. You just need to come to class. And try your hardest while you're there. There are no tests. There are no assignments. But during class, and in the last twenty minutes of class, you need to write something in English (about the class, or filmmaking, or anything).				
授業の予習・復習	Preparation: Improve your English. Review: Go over the new words and expressions you picked up from the class (to improve your English).				
教科書	There is no textbook for this class.				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	The Adventure of Filmmaking.	An introduction to the course and style of teaching.			
第 2 回	On Writing.	How to get ideas. How to be a good writer.			
第 3 回	On Writing for Film.	How to write a movie.			
第 4 回	On Directing.	Directing actors. Directing the crew.			
第 5 回	Directing Again.	Advanced directing techniques. Taking opportunities. Making compromises.			
第 6 回	On Acting.	How to act for film.			
第 7 回	Acting Again.	Acting mistakes and tips. Reacting.			
第 8 回	On the camera.	Simple ways to take good pictures.			
第 9 回	Camera Again.	Advanced ways to take good pictures.			
第 10 回	On Sound.	How to get good sound in your pictures.			
第 11 回	On Producing.	How to put together a film with no money.			
第 12 回	On Editing.	How to put the cuts together.			
第 13 回	Pre to Production.	How to prepare for making a film. And how to enjoy making it.			
第 14 回	Production to Post.	How to enjoy making a film. And how to finish it.			
第 15 回	The Adventure of Filmmaking Again.	A review of the main points made in the course.			

国際

授業番号	B104200002				
科目名 (英語表記)	体育 (Physical education)			(A)	
担当者 (英語表記)	藤井 喜一 (Kiichi Fujii)	対象学年	1	単位数	2

授業のねらいと到達目標	小学校体育科の目的・目標、学習内容、方法、評価等についての基本理論を学習する。また、小学校学習指導要領「体育科」の運動領域の内容についてもとりあげる。これらの学習を通して、小学校における体育科の意義について理解を深める。
授業の進め方 (履修条件など)	講義が中心であるが、実技も適宜行い、理論との整合性を図れるように進める。
成績評価方法	受講態度、通常時における小レポート、論述試験等によって評価する。
基準	
授業の予習・復習	予習：教科書である指導要領解説書の次時の領域に目を通す。 復習：ノートに授業の要点等をまとめる。
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領解説体育編 東洋館出版社 文部科学省 中学校学習指導要領解説保健体育編 東山書房
参考文献	

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、諸注意
第 2 回	体育・スポーツの概念	体育科の学習内容について
第 3 回	体育科の目標と内容	指導要領の変遷をたどりながら
第 4 回	体育科の学習計画	学習計画の構成について
第 5 回	体育科の学習指導と評価	学習の評価の方法について
第 6 回	運動領域①	小学校低学年の構成について
第 7 回	運動領域②	器械運動 (マット運動)
第 8 回	運動領域③	器械運動 (跳び箱運動)
第 9 回	運動領域④	器械運動 (鉄棒運動)
第 10 回	運動領域⑤	水泳
第 11 回	運動領域⑥	陸上運動
第 12 回	運動領域⑦	ボール運動 (ゴール型)
第 13 回	運動領域⑧	ボール運動 (ベースボール型)
第 14 回	運動領域⑨	体づくりの運動
第 15 回	保健領域	保健の学習について

国際

授業番号	B102610001				
科目名 (英語表記)	大気・水環境論 (Land/Water Environmental Studies)				
担当者 (英語表記)	中村 圭三 (Keizo Nakamura)	対象学年	2	単位数	2

授業のねらいと到達目標	本講義では、都市域における大気環境および水環境について、理論と測定法を講義する。特に、都市の大気環境に関しては、本学周辺における『ヒートアイランド』についての観測を実施し、講義内容を体験させる。
授業の進め方 (履修条件など)	最初に各週の授業内容に関する基礎事項について説明し、その上で、調査事例を中心とした授業内容を展開する。
成績評価方法	授業態度と定期試験で成績を評価する。
基準	
授業の予習・復習	予習：テキストの「基礎技法」を学習しておくこと。 復習：学習した授業内容に関連する環境問題に関心を持って生活すること。
教科書	『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社 2007.
参考文献	授業の中で、適宜指示する。

回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	大気・水環境論概説
第2回	都市の大気環境 (1)	都市の大気環境の成り立ち
第3回	都市の大気環境 (2)	大気環境観測法
第4回	都市の大気環境 (3)	ヒートアイランド 観測
第5回	都市の大気環境 (4)	都市大気環境図の作成 (1)
第6回	都市の大気環境 (5)	都市大気環境図の作成 (2)
第7回	都市の大気環境 (6)	都市大気環境図の作成 (3)
第8回	山岳と海洋	長野の山岳気候とオホーツク海の海氷
第9回	水環境 (1)	都市の水環境
第10回	水環境 (2)	雨水の利用
第11回	水環境 (3)	河川の汚染
第12回	水環境 (4)	湖沼の汚染
第13回	水環境 (5)	地下水の汚染
第14回	水環境 (6)	水の汚染と環境問題
第15回	まとめ	総括

国際

授業番号	B102630001				
科目名 (英語表記)	地図学 (Cartography)				
担当者 (英語表記)	松尾 宏 (Hiroshi Matsuo)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	地域調査に欠かせない地図学の基本について学習する。本講義では、地図学を系統的に学び、今後の調査・研究に活用するための基礎力を養成する。				
授業の進め方 (履修条件など)	最初に各週の授業内容に関する基礎事項を学習する。授業の中では、できるだけ作業を取り入れ、学生参加型の授業内容を展開する。				
成績評価方法	課題整理と期末テストなどを総合して成績を評価する。				
基準					
授業の予習・復習	各回講義の整理と地図に関する情報収集 (生活や街中での地図情報など) を行う。				
教科書	「地形図の手引き (五訂版)」 日本地図センター 2005 年				
参考文献	「地図を学ぶ」 菊地俊夫・岩田修二 二宮書店 2005 年				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	地図の概念	地図、地図表現のいろいろ			
第 2 回	地図の歴史	世界と日本の地図の歴史			
第 3 回	地図投影法と座標系	地図の作成と地球、方位、位置			
第 4 回	地形図 I (縮尺と投影法)	地図の縮尺と地形図の作成			
第 5 回	地形図 II (図式と記号)	地形図の図式変化、地図記号と読図			
第 6 回	地形図を読む I (等高線)	地形図の読図・・等高線、平野、山岳他			
第 7 回	地形図を読む II (地形)	地形図の読図・・地形を読む、知る			
第 8 回	地形図を読む III (土地利用)	地形図の読図・・土地利用と地域性を読む			
第 9 回	地形分類図	地形分類の方法と作成			
第 10 回	自然条件を対象とした主題図	地形、地質、気候などの主題図と自然の状況を探る			
第 11 回	人文条件を対象とした主題図	都市、人口、産業、交通などの主題図と人文条件を探る			
第 12 回	メッシュマップ	メッシュマップについて、メッシュマップのいろいろ			
第 13 回	統計地図	統計地図のいろいろと作成			
第 14 回	地図の利用	市販地図、インターネット地図情報の活用			
第 15 回	まとめ	地図の応用、野外調査			

国際

授業番号	B100150001				
科目名 (英語表記)	千葉学 I (Manabu Chiba I)				
担当者 (英語表記)	宿城 高興 (Takaoki Yadoshiro)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	房総という身近な地域について学ぶことは、変化が激しい現在社会の中で具体的に物事を判断し、進むべき方向や生活していく心構えをつくりあげる一つの契機になると考えます。この授業は、房総半島の自然の特色を概観し、房総各地域の主な産業と自然・社会とのかかわりや主な歴史や文化等について理解します。一方、教師を志す学生にとっては、地理や歴史分野の地域素材の教材化をどう図ればよいか、基礎的な教材研究としても役立てます。				
授業の進め方 (履修条件など)	遅刻や欠席は、他人に迷惑をかけるので、特に厳しく対処します。また、3分の2以上出席していない場合は、期末受験資格はありません。				
成績評価方法	学習意欲、授業態度等平常点を40%、定期試験を60%としますが、この配分は変更することもあります。				
基準					
授業の予習・復習	予習：事前に本時のプリント資料を配布しますので必ず読み、疑問や問題を持って授業に参加してください。 復習：不明な点を残さないように、毎回必ず復習してください。				
教科書	プリント資料を配布して授業を進めますので、必ずファイルしてください。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	房総半島の概要	房総半島の成立や地域区分等			
第2回	房総の自然と産業 1	房総半島の地形の特色			
第3回	房総の自然と産業 2	房総半島の気候の特色			
第4回	房総の自然と産業 3	房総半島の農業の特色			
第5回	房総の自然と産業 4	房総半島の漁業の特色			
第6回	房総の自然と産業 5	房総半島の工業の特色			
第7回	房総の自然と産業 6	房総半島の観光業等の特色			
第8回	房総の歴史や文化 1	先土器・縄文・弥生時代の房総			
第9回	房総の歴史や文化 2	古墳・大和時代の房総			
第10回	房総の歴史や文化 3	奈良・平安時代の房総			
第11回	房総の歴史や文化 4	鎌倉時代の房総			
第12回	房総の歴史や文化 5	室町時代の房総			
第13回	房総の歴史や文化 6	江戸時代 (前期) の房総			
第14回	房総の歴史や文化 7	江戸時代 (後期) の房総			
第15回	房総の歴史や文化 8	明治・大正・昭和時代の房総			

国際

授業番号	B100180001				
科目名 (英語表記)	千葉学 II (Manabu Chiba II)				
担当者 (英語表記)	小林 啓祐 (Keisuke Kobayashi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本でも有数の工業地域である京葉工業地域を有し、農業生産額は日本で常に上位に入り続ける千葉県。さらに日本の空の玄関である成田空港や、来園者数が年 2000 万人を超えるテーマパークを県内に有する千葉県だが、この姿は最近できたものではない。講義では千葉県経済の歴史と現在を学び、その構造をつかむことを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義中に配るコメントシートよりえられる学生の興味関心にそった内容も適宜盛りこんでいく。				
成績評価方法	全部で 3 回小テストを行う。すべての小テストの合計点 (90%)、および参加態度 (10%) をあわせて評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：千葉県の公共図書館の郷土資料コーナーから、千葉県の経済に関する書籍を読了していることが望ましい。 復習：講義中に配布するレジュメ、講義ノートにより復習すること。				
教科書	特に使用しません				
参考文献	千葉県史料研究財団『千葉県の歴史』近現代編、三浦茂一『千葉県の百年』1990 年 山川出版				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	本講義のガイダンスを行う			
第 2 回	醤油の町－商工業 1	伝統的な産業である醤油生産について学ぶ			
第 3 回	工業化する千葉－商工業 2	戦後の急速な工業化と劇的に変化する商業について学ぶ			
第 4 回	商工業まとめ	商工業のまとめと現在をみる			
第 5 回	伝統的な農漁業と大都市近郊農業－農漁業 1	千葉県の伝統的な農漁業と、戦後に急成長する大都市近郊農業について学ぶ			
第 6 回	多様化する農漁業－農漁業 2	昨今の多様化する千葉県農漁業について学ぶ			
第 7 回	農漁業まとめ	農漁業のまとめを行ったのち現在をみる			
第 8 回	人口増加と住宅団地－人口 1	戦後に急成長する千葉県の人口について、住宅団地を中心として学ぶ			
第 9 回	宅地開発の新展開－人口 2	昨今の千葉県の人口動態について、経済状況の変化とあわせて学ぶ			
第 10 回	鉄道と千葉－交通 1	千葉県内鉄道網の成り立ちについて学ぶ			
第 11 回	開発と交通網整備－交通 2	最近の交通網整備について、開発動向の変化に関連させながら学ぶ			
第 12 回	人口交通まとめ	人口と交通のまとめを行ったのち、現状をみる			
第 13 回	房総半島の観光－観光 1	千葉県の伝統的な観光業について房総半島を中心にして学ぶ			
第 14 回	テーマパーク型の観光－観光 2	伝統的な観光とは違った、テーマパーク型の観光業について学ぶ			
第 15 回	観光まとめ	観光のまとめを行ったのち、現状をみる			

国際					
授業番号	B100190001				
科目名 (英語表記)	千葉学 III (Manabu Chiba III)				
担当者 (英語表記)	三幣 利夫 (Toshio Sampei)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	国際ビジネスを展開する千葉県在の企業経営者から、経営戦略や実際の企業活動に関し直接話を伺い、県内の経済活動と国際ビジネスについての理解を深める。また、就職に向けてのキャリア教育も兼ねる。				
授業の進め方 (履修条件など)	企業経営者によるオムニバス形式の講義を中心に、企業訪問も行う。 これらを通じ学習したことを、レポートにまとめ、教室で発表し議論も行う。				
成績評価方法	企業ごとにレポートを必ず提出する。 また、授業における発表・議論を通じての参加度合を重視する。				
基準					
授業の予習・復習	予習： 経営者からの講義前に、各自で企業について調べ、質問も用意する。 復習： レポートを作成する。				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方の説明、千葉県経済の概要			
第 2 回	空港関連ビジネス (1)	経営者の講義 (成田国際空港)			
第 3 回	空港関連ビジネス (2)	空港見学			
第 4 回	空港関連ビジネス (3)	成田空港関連の事業活動についての復習			
第 5 回	空港関連ビジネス (4)	レポート発表			
第 6 回	千葉港関連ビジネス (1)	経営者の講義 (千葉共同サイロ)			
第 7 回	千葉港関連ビジネス (2)	企業見学			
第 8 回	千葉港関連ビジネス (3)	千葉港関連の事業活動についての復習			
第 9 回	千葉港関連ビジネス (4)	レポート発表			
第 10 回	物流関連ビジネス (1)	経営者の講義 (住商ロジスティクス)			
第 11 回	物流関連ビジネス (2)	物流施設見学			
第 12 回	物流関連ビジネス (3)	物流関連の事業活動についてのまとめ			
第 13 回	物流関連ビジネス (4)	レポート発表			
第 14 回	輸出関連ビジネス (1)	経営者の講義			
第 15 回	輸出関連ビジネス (2)	レポート発表			

国際						
授業番号	B101060001					
科目名 (英語表記)	中国語 I (Chinese I)					
担当者 (英語表記)	山影 統 (Subaru Yamakage)	対象学年	1	単位数	1	
授業のねらいと到達目標	中国語 I では、中国語の基礎を身につけることを目的とする。 具体的には、発音の学習を重点的に行い、併せて最も基本的な文法を同時に学んでいく。					
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には指定した教科書に沿って行う。 履修条件：中国 (語) に興味があること。母語が中国語でない者。					
成績評価方法	中間・期末テスト 60%、平常点 (授業参加度、小テスト等) 40%					
基準						
授業の予習・復習	予習：付属の CD を聞きながら教科書の本文を読んでおくこと。 復習：教科書に付録されている問題集をやること。					
教科書	竹島金吾 監修、尹景春・竹島毅 著 『< 最新 2 訂版 > 中国語ははじめの一步』(白水社、2012 年)					
参考文献						
回数	授業項目	授業内容				
第 1 回	中国と「中国語」	オリエンテーション				
第 2 回	発音①四声と母音	「四声」と母音の練習				
第 3 回	発音②子音の発音	子音の練習				
第 4 回	発音③鼻母音の発音	鼻母音の練習				
第 5 回	発音④複合母音	複合母音の練習				
第 6 回	発音学習の総復習	これまで学んできた発音の総復習				
第 7 回	中間テスト	発音のテスト				
第 8 回	教科書第一課「? 是中国人??」	新出単語、文法 (人称代名詞、「是」の文)				
第 9 回	教科書第一課②	本文精読				
第 10 回	教科書第二課「? 是什??」	新出単語、文法 (指示代名詞、疑問詞疑問文)				
第 11 回	教科書第二課②	文法の続き (「的」の用法、副詞)、本文精読				
第 12 回	教科書第三課「? 去? 儿??」	新出単語、文法 (動詞の文、所有の「有」)				
第 13 回	教科書第三課②	文法の続き (省略疑問文)、本文精読				
第 14 回	教科書第四課「? 个包多少??」	新出単語、文法 (助数詞、指示代名詞②)、形容詞				
第 15 回	教科書第四課②	文法の続き (数を問う疑問詞)、本文精読				



国際

授業番号	B101070001		
科目名 (英語表記)	中国語 II (Chinese II)		
担当者 (英語表記)	山影 統 (Subaru Yamakage)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	中国語 II では、中国語 I で身に付けた基本的な発音と文法の知識の底上げと共に、使用頻度の高い語彙と文法を習得することを目的とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には指定された教科書に沿って行う。 履修条件：中国語 I を履修済みであること。		
成績評価方法	テスト 60%、平常点 (授業参加度、小テスト等) 40%		
基準			
授業の予習・復習	予習：付属の CD を聞きながら教科書の本文を読んでおくこと。 復習：教科書に付録されている問題集をやること。		
教科書	竹島金吾 監修、尹景春・竹島毅 著 『<最新 2 訂版> 中国語はじめの一步』(白水社、2012 年)		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	中国語 I の復習①	復習	
第 2 回	中国語 I の復習②	復習	
第 3 回	教科書第五課「?? 上有事??」	新出単語、文法 (数字、日付・時刻)	
第 4 回	教科書第五課②	文法の続き (動作の時点の使い方)、本文精読	
第 5 回	教科書第六課「? 吃? 了??」	新出単語、文法 (完了の「了」、所在の「在」)	
第 6 回	教科書第六課②	文法の続き (助動詞「想」)、本文精読	
第 7 回	教科書第七課「? 家有几口人?」	新出単語、文法 (介詞の「在」・「?」、所在の「有」)	
第 8 回	教科書第七課②	文法の続き (反復疑問文)、本文精読	
第 9 回	中間テスト	中間テスト	
第 10 回	中間テスト②	中間テストの答え合わせ	
第 11 回	教科書第八課「? 从几点? 始打工?」	新出単語、文法 (時間量、助動詞「得」)	
第 12 回	教科書第八課②	文法の続き (介詞「从」)、本文精読	
第 13 回	教科書第九課「? 去? 美国??」	新出単語、文法 (経験の「?」、「是～的」の文)	
第 14 回	教科書第九課②	文法の続き (介詞の「跟」・「?」)、本文精読	
第 15 回	総復習	総復習	

# 国際

授業番号	B101530001				
科目名 (英語表記)	中国の政治 (Chinese Politics)				
担当者 (英語表記)	家近 亮子 (Ryoko Iechika)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	中国は 1978 年 12 月以降「改革・開放」政策を実施し、経済成長を続け、2010 年には国別 GDP が世界第 2 位になりました。これは、経済において資本主義を導入した結果であります。政治的には社会主義を堅持し、共産党の一党支配を続けています。授業においては、格差の拡大する中国の抱える諸問題を歴史的視点から分析し、その原因を探っていきます。到達目標は、建国以来の中国の歴史を理解し、その上で現状を知ることにあります。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は特にありません。 中国の社会、政治、国際情勢などのニュースを解説しながら、教科書・配布プリントを中心に、適宜映像資料を使いながら授業を進めていきます。				
成績評価方法 基準	小テスト 30%、期末試験 60%、平常点 10%				
授業の予習・復習	予習：教科書を読んでくること。新聞・ニュース等で中国の動向に関心をもつこと 復習：教科書による復習。授業で配布した資料とノートの整理。疑問点の提出				
教科書	家近亮子・唐亮・松田康博編著『改訂版 5 分野から読み解く現代中国 一歴史・政治・経済・社会・外交一』（晃洋書房、2009 年）				
参考文献	授業では、詳細なプリントを配布します。授業項目に応じて、適宜紹介していきます。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の内容と進め方、評価の方法の説明 中国に関する基礎知識			
第 2 回	中華人民共和国史—①	建国期の政治・経済・社会・外交			
第 3 回	中華人民共和国史—②	社会主義建設期の政治・経済・社会・外交			
第 4 回	中華人民共和国史—③	経済調整期の政治・経済・社会・外交			
第 5 回	中華人民共和国史—④	文化大革命期の政治・経済・社会・外交			
第 6 回	中華人民共和国史—⑤	改革開放政策の特徴について			
第 7 回	中国の現状	経済発展と格差の拡大			
第 8 回	中国の政治体制—①	中国の国家制度の特徴・・・人代制度と不完全な三権分立			
第 9 回	中国の政治体制—②	中国共産党の一党支配の構造			
第 10 回	中国の政治体制—③	民族政策と民族問題			
第 11 回	中国の社会問題—①	人口問題—「一人っ子政策」の特徴と問題点			
第 12 回	中国の社会問題—②	教育制度の変遷と現状			
第 13 回	中国の社会問題—③	格差の要因としての戸籍制度			
第 14 回	中国の社会問題—④	社会保障制度の崩壊と再構築・・・医療問題			
第 15 回	中国の外交政策	国連中心主義と大国化外交への転換			

国際					
授業番号	B101560001				
科目名 (英語表記)	中東イスラム圏 (Area Studies: Middle East/ Islamic Countries)				
担当者 (英語表記)	水口 章 (Akira Mizuguchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本授業では、中東・イスラム諸国の社会空間の特性を学びます。そのことで、同地域を取り巻く国際環境の今後の動向を分析できる基礎能力を養うことを到達目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	各回授業は基本的には講義形式をとります。また、授業を2区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討論を行います。				
成績評価方法	学習態度 (課題レポート、討論参加、出席状況) 20%、定期試験 80%で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。 復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めてください。				
教科書	水口章『中東を理解する』日本評論社、2010年3月				
参考文献	山崎孝史『政治・空間・場所―「政治の地理学」にむけて』ナカニシヤ出版、2011年1月				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	社会空間の考え方	人間生活と空間について			
第2回	人間行動と空間の特性	人と基層文化の関係について			
第3回	イスラムの基礎知識1	イスラムの教義について			
第4回	イスラムの基礎知識2	ムスリムの日常生活について			
第5回	法と統治	イスラム法について			
第6回	国家を超える連帯意識	アラブ主義、イスラム主義について			
第7回	イスラム過激思想	ジハード論について			
第8回	グループ討論「社会空間の特性とは」	「高度情報通信社会がもたらす変化」を考える			
第9回	東南アジア地域のイスラム	インドネシア、マレーシアなど			
第10回	アラビア半島地域のイスラム	カタール、サウジアラビアなど			
第11回	東地中海地域のイスラム	シリア、ヨルダンなど			
第12回	北アフリカ地域のイスラム	チュニジア、リビアなど			
第13回	中央アジア地域のイスラム	カザフスタン、キルギスタンなど			
第14回	グループ討論「経済発展と中東・イスラム諸国」	「イスラム諸国の特性」を考える			
第15回	まとめ	21世紀の中東・イスラム社会の課題について			

国際		
授業番号	B101540001	
科目名 (英語表記)	朝鮮 (Area Studies: Korea) 集中	
担当者 (英語表記)	森 万佑子 (Mayuko Mori) 対象学年 2 単位数 2	
授業のねらいと到達目標	韓国は、歴史的な関係だけでなく、現在の政治、経済、文化にいたるまで、あらゆる側面において、日本と密接な関係を持っています。本授業は、隣人である韓国を知るために必要な知識の習得を目的とするものです。特に本授業では現代韓国に焦点をあてるものとし、歴史的な背景や知識については科目「日韓関係」で講述します。	
授業の進め方 (履修条件など)	本授業では、できるかぎり多様な視聴覚教材 (映画やドキュメンタリー、音楽) を使用することで、現代韓国に関する知識と理解の定着を目指します。そして、講師が一方向的に講義をするのではなく、インタラクティブな授業形態を採用し、講師と学生がともに「考える」というプロセスを大切にしたいと考えています。なお、可能な限り科目「日韓関係」とあわせて受講してください。	
成績評価方法 基準	出席状況 (7割以上が必須) や授業後に提出してもらったコメント内容、レポートで総合的に評価します。	
授業の予習・復習	予習: 毎日、必ず新聞に目を通して下さい。 復習: 各授業でお知らせする関連文献を読むほか、知人や友人と関連トピックについて、たくさん議論してください。	
教科書	授業時に詳細なレジュメ (プリント) を配付します。	
参考文献	木宮正史『韓国一民主化と経済発展のダイナミズム』ちくま新書、2003年 石坂 浩一、館野 哲 (編著)『現代韓国を知るための55章』明石書店、2000年 石坂 浩一 (編著)『北朝鮮を知るための51章』明石書店、2006年 上記以外については、授業の際に随時紹介します。	
回数	授業項目	授業内容
第1回	はじめに	授業の目的とすすめ方
第2回	「韓国」を考える (1)	歴史のなかの韓国、世界のなかの韓国
第3回	「韓国」を考える (2)	日韓世論調査から見る相互認識
第4回	政治 (1)	権威主義体制と民主主義体制
第5回	政治 (2)	選挙と地域感情
第6回	政治 (3)	韓国政治の特徴
第7回	経済 (1)	開発独裁と冷戦
第8回	経済 (2)	財閥と経済成長
第9回	経済 (3)	韓国経済の特徴
第10回	社会 (1)	メディアと権力
第11回	社会 (2)	学歴社会と階層問題
第12回	社会 (3)	徴兵制度と南北分断
第13回	北朝鮮 (1)	北朝鮮の社会
第14回	北朝鮮 (2)	日朝、南北関係
第15回	まとめ	講義全体を通じたまとめ

国際

授業番号	B100880001				
科目名 (英語表記)	D e b a t e I (Debate I)				
担当者 (英語表記)	増井 由紀美 (Yukimi Masui)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本授業では Debate とは何かを知り、その練習を繰り返すことにより、論理的な思考、及び相手の意見を尊重しながら対話する技術を身につけます。教材及びクラス内での言語を英語に限ることにより、英語の上達を促します。				
授業の進め方 (履修条件など)	グループで練習する場面が多いので、遅刻や欠席をしないということを守って下さい。授業はまず教師の与える配布資料、あるいは板書での指示に従い、各回目的を押さえます。グループに分かれて訓練します。提出物などの課題は個々で完成させます。				
成績評価方法	出席 3 0 %、提出物 3 0 %、期末試験 4 0 %				
基準					
授業の予習・復習	各回、宿題を課します。				
教科書	授業内配布資料を用います。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Debate って何？	そもそも Debate って何でしょう？意見交換との違いを学びます。			
第 2 回	事実と意見	賛成する、あるいは反対する時に役に立つ表現を学びます。			
第 3 回	事実、意見、主義、価値観	正しいとか間違いは、何が根拠になって決められるのでしょうか。			
第 4 回	Debate の型	事実と意見はどちらが説得力がありますか。			
第 5 回	理由	効果的な理由づけを考えます。			
第 6 回	説得力	どんな例をあげたら説明しやすいですか。専門家の意見や統計は役に立ちますか。			
第 7 回	説得できないものは？	偏見、肩書き、統計などにゆがめられていませんか？			
第 8 回	理解 (基礎)	簡単な Debate の例 (1 ページ) を読む、あるいは聞いて分析します。			
第 9 回	実践 (基礎)	先週の例を用いながら実際に作ります。			
第 10 回	理解 (初級)	2 ページ程の例文を読んで分析します。			
第 11 回	実践 (初級)	先週の例を参考に、実際に Debate をします。			
第 12 回	理解 (中級)	Debate 大会のテーマを決めます。			
第 13 回	実践 (中級)	用いる資料について話し合います。			
第 14 回	実践 (中級)	グループに分かれて Debate 大会です。			
第 15 回	Debate はどんな場面で役立つか？	Debate はどんな場面で役に立つか、意見交換しながらこの授業で学んだことを総復習します。			

国際

授業番号	B100890001				
科目名 (英語表記)	D e b a t e II (Debate II)				
担当者 (英語表記)	Thomas O'Leary (Thomas O'leary)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This course will introduce students to debate topics and review basic devate points.Later we will build new vocabulary and test skills.				
授業の進め方 (履修条件など)	We will begin with the study of alive debate and each week learn to master its goals.				
成績評価方法	Students will use a classroom notebook for recording key points and for homework.				
基準					
授業の予習・復習	Regular class attendance is important for a good final score - attendance counts for 40%.				
教科書	The teacher will supply the weekly study materials.				
参考文献	Effort and a good attitude are most important.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	We talk about debate basics.			
第 2 回	How Debates Take Place	We describe an actual debate.			
第 3 回	The Debate Team Members	We give each member tasks.			
第 4 回	How a Team Prepares	We plan a debate performance.			
第 5 回	Key Points about Skills	We group our objectives carefully.			
第 6 回	First Test	We test our introductory points.			
第 7 回	Reserch Strategies	We learn how to do research.			
第 8 回	Making a Debate Speech	We draw up a model speech.			
第 9 回	Organizing Well	We study how to debate by steps			
第 10 回	The Role of the Judge	We try to discover our weak points.			
第 11 回	Second Test	We describe a team's preparation.			
第 12 回	Making a Presentation	We improve our thinking skills.			
第 13 回	Checking Your Skills	We try to analyze our skill level.			
第 14 回	Outlining a Project	We outline a full two-team debate.			
第 15 回	Final Appraisal	We test our mastery of debate points.			

国際

授業番号	B101550001				
科目名 (英語表記)	東南アジアの地誌 (Southeast Asia topography)				
担当者 (英語表記)	田中 和彦 (Kazuhiko Tanaka)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、東南アジアの地誌を、まず広い視野で把握するため、東南アジア全体の地形、気候、植物相と動物相、鉱山資源を概観する。その上で、筆者がフィリピンで行っているフィールドワークをふまえ、フィリピンの民族と食文化についての講義を行う。また、講義の中では、私自身が現地で実際に撮影した写真や現地で入手した現物を提示しながら、授業を行う。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式ですすめる。				
成績評価方法	リアクションペーパー 20%、学期末に課題本を読んだレポート 80%で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：当該する地域を見ておくこと。 復習：ノートをまとめ、見直しておくこと。				
教科書	特に指定しない。				
参考文献	授業の中で、その都度指示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	本講義に関する参考文献の紹介。			
第 2 回	東南アジアの地形	大陸部と群島部の地形。			
第 3 回	東南アジアの気候帯	モンスーンの影響と雨季、乾季。			
第 4 回	東南アジアの植物相	熱帯雨林。			
第 5 回	東南アジアの動物相	大形獣と小形動物。			
第 6 回	東南アジアの鉱物資源	鉄、金、銀の産地と採掘技術。			
第 7 回	フィリピンの地形と気候	山地と気候帯。			
第 8 回	フィリピンの民族 - 1	狩猟採集民①。			
第 9 回	フィリピンの民族 - 2	狩猟採集民②。			
第 10 回	フィリピンの民族 - 3	漁撈民①。			
第 11 回	フィリピンの民族 - 4	漁撈民②。			
第 12 回	フィリピンの食物	稲作と米。			
第 13 回	フィリピンの食物調理 - 1	フィリピンの土器作り①。			
第 14 回	フィリピンの食物調理 - 2	フィリピンの土器作り②。			
第 15 回	フィリピンの食物調理 - 3	フィリピンの土器作り③。			

# 国際

授業番号	B101770001		
科目名 (英語表記)	途上国社会経済論 (Societies and Economies of Developing Countries)		
担当者 (英語表記)	高田 洋子 (Yoko Takada)	対象学年	3
		単位数	2

授業のねらいと到達目標	世界の大半を占める発展途上国の経済・社会を学びます。途上国の多くは、欧米列強に植民地支配を被った歴史を共有しています。その影響と独立後の諸課題、その後の多様な発展現象への理解を深めましょう。途上国と先進国の互いの関係性も大切な学習のポイントです。両者のよりよい関係性の構築を、考察する力を涵養します。
授業の進め方 (履修条件など)	シラバスにそって進めます。2年次までにアジア、アフリカ、ラテンアメリカなどの地域に関する授業を履修しておくようにしましょう。基本的な概念や社会理論を分かりやすく講義します。国際社会に発生する諸紛争、新しい動きも適宜取りあげ、現代の途上国が抱える課題を解説します。学生によるグループ学習・発表なども取り入れるつもりです。
成績評価方法	出席を重視します。授業中の討論、理解度を確かめる小テストを多く実施します。そのほか宿題の提出内容などもみて、平常点を中心に成績をつけます。
授業の予習・復習	新聞の国際面を読む習慣をつけましょう。授業で学んだことを基にして、興味を抱いた問題について情報を自分で集め、日頃から考えることが大切です。
教科書	指定しません。授業中にレジュメと資料・統計等のプリントを配付します。
参考文献	

回数	授業項目	授業内容
第1回	はじめに：途上国はどのような国か？	マクロ指標を基に途上国をみる。定義をしてみよう。
第2回	世界地図から先進国と途上国を捉える	先進国と途上国の関係を、植民地支配、地理的位置、国境線、アジア・アフリカ・ラテンアメリカの3大陸の比較等を通して、概観する。
第3回	独立年を比較する	途上国を独立国家としての誕生から現在までの長さで分類し、比較してみよう。資料をみて、各自で作業し、まとめ、発表する。
第4回	国民国家としての独立の初期条件 (1)	植民地の社会構造：ファーニヴァルの「複合社会論」から、多民族社会の形成と特徴について学ぶ。
第5回	独立国家の初期条件 (2)	植民地の経済構造：モノカルチャ経済論、ブーケの「二重経済論」から従属的経済の形成を学ぶ。
第6回	国家形成の課題 (1)	植民地ナショナリズムの発生、発展と独立の達成、その後の国家統一のための独裁体制について学ぶ。
第7回	国家形成の課題 (2)	国民づくりのための言語、教育等の近代化諸政策について学ぶ。
第8回	経済的自立の課題 (1)	独立後の途上国が直面した「人口爆発」について学ぶ。
第9回	経済的自立の課題 (2)	食糧自給と「緑の革命」について学ぶ。
第10回	経済的自立の課題 (3)	工業化のための戦略と達成について学ぶ。
第11回	途上国と先進国の関係 (1)	経済発展と外資導入の関係を学ぶ。外資導入のメリットおよびデメリット (累積債務等) について、さらに詳しく公的投資、企業進出の諸事例をとりあげながら、途上国と先進国の相互依存関係を考える。
第12回	途上国と先進国の関係 (2)	グローバル化する現代世界において、途上国と先進国が対立する基本的問題とは何かを考える。
第13回	都市と農村	途上国の農村から都市への労働移動、都市化の現象について、先進国との比較を通して学ぶ。
第14回	途上国間の分化および地域協力	発展する途上国、低迷する途上国、そのような分化が生じる諸要因について考察する。また途上国間の地域協力の事例を学ぶ。
第15回	まとめとテスト、その解説	授業全体を通して振り返り、途上国への関心の高まりを確認する。世界における途上国の存在状況とその貢献について、知見を文章にまとめて表現する。



国際

授業番号	B102060001				
科目名 (英語表記)	日米関係 (Japan-US Relations)				
担当者 (英語表記)	村川 庸子 (Yoko Murakawa)	対象学年	3	単位数	2

授業のねらいと到達目標	戦後の日本と日米関係の有り様に決定的な影響を与えたと言われる占領期。近年、日米両国において新たな資料が公開されていることから、この時期に関する研究が相次いで発表されている。これら最新の研究業績を踏まえてこの時代を、そして我々の時代に対する影響を考えてみたい。
授業の進め方 (履修条件など)	講義を中心とするが、できるだけ学生の皆さんの議論を引き出せるようにしたい。積極的に参加してくれることを希望している。
成績評価方法	コーネル式ノート作成法を活用する。
基準	
授業の予習・復習	事前に配布する新聞雑誌記事を読み、概要をまとめること。 授業後はノートの特に「コメント」欄の作成に注力すること。
教科書	特に指定しない。
参考文献	新聞・雑誌記事などを適宜配布する。

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	導入	「日米関係」をどう考える？ 講義の進め方
第 2 回	講義	「第一の開国」
第 3 回	講義	日米開戦への道
第 4 回	講義	戦争と日米相互イメージ
第 5 回	講義	戦争と日系人
第 6 回	講義	マッカーサーと日本人
第 7 回	講義	日本国憲法
第 8 回	講義	冷戦と逆コース、55 年体制の成立
第 9 回	講義	マッカーシズムの時代
第 10 回	講義	日本の教育改革
第 11 回	講義	天皇制
第 12 回	講義	在日米軍基地と沖縄
第 13 回	講義	原爆をめぐる論争
第 14 回	講義	戦争の記憶
第 15 回	まとめ	総括

国際					
授業番号	B102100001				
科目名 (英語表記)	日韓関係 (Japan-Korea Relation)				
担当者 (英語表記)	森 万佑子 (Mayuko Mori)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義では、朝鮮半島の人びとが経験した 20 世紀の歴史について、日本との関係を踏まえながら、たどっていかうとするものです。日韓関係について歴史的な観点から考えることは、隣国そして日本自身の姿を、より深く学ぶための必要不可欠な知的営みとなります。				
授業の進め方 (履修条件など)	本授業では、朝鮮半島情勢に対する時事解説も交えながら、朝鮮半島の歴史的展開について説明していきます。講師が一方的に講義をするのではなく、インタラクティブな授業形態を採用し、講師と学生がともに「考える」というプロセスを大切にしたいと考えています。なお、可能な限り科目「朝鮮」とあわせて受講してください。				
成績評価方法	出席状況 (7 割以上が必須) や授業後に提出してもらうコメント内容、レポートで総合的に評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：毎日、必ず新聞に目を通して下さい。 復習：各授業でお知らせする関連文献を読むほか、知人や友人と関連トピックについて、たくさん議論してください。				
教科書	授業時に詳細なレジュメ (プリント) を配付します。				
参考文献	ブルース・カミングス『現代朝鮮の歴史－世界のなかの朝鮮』横田安司、小林知子訳、明石書店、2003 年 文京洙『韓国現代史』岩波書店、2005 年 韓洪九『韓国とはどういう国か』李尚珍 [ほか] 訳、平凡社、2003 年 上記以外については、授業の際に随時紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	はじめに	講義のすすめ方			
第 2 回	日韓関係の現住所	日韓関係の現在について考えます。			
第 3 回	19 世紀東アジア世界と朝鮮	朝鮮の開国と開化について考えます。			
第 4 回	朝鮮植民地化への道程	日露戦争から韓国併合までの時代について考えます。			
第 5 回	植民地支配 (1)	1910 年代の植民地朝鮮を考える。			
第 6 回	植民地支配 (2)	1920 ～ 30 年代の植民地朝鮮を考える。			
第 7 回	植民地支配 (3)	1940 年代の植民地朝鮮を考える。			
第 8 回	アジア太平洋戦争	日本・朝鮮にとって、あの「戦争」とは何だったのかについて考えます。			
第 9 回	敗戦と解放	植民地支配からの解放が持つ意味について考えます。			
第 10 回	ソ連軍占領と北部朝鮮	朝鮮民主主義人民共和国成立への道程について考えます。			
第 11 回	米軍占領と南部朝鮮	大韓民国成立への道程について考えます。			
第 12 回	朝鮮戦争 (1)	朝鮮戦争の展開について考えます。			
第 13 回	朝鮮戦争 (2)	日本にとって朝鮮戦争とは何だったのかを考えます。			
第 14 回	朝鮮戦争後の南北朝鮮	南北分断体制の意味について考えます。			
第 15 回	まとめ	東アジアの現在と未来について考えます。			

# 国際

授業番号	B102070001				
科目名 (英語表記)	日中関係 (Japan-China Relations)				
担当者 (英語表記)	家近 亮子 (Ryoko Iechika)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	2006年9月小泉純一郎首相が退任し、安倍晋三が首相に就任した後、日中は戦略的互惠関係構築の方向に向い、07年4月の温家宝総理の訪日によって、「経冷政熱」関係は一応終息しました。その時期の対立の最大の原因は歴史認識問題と台湾問題でした。しかし、2010年9月におきた尖閣諸島沖の中国漁船衝突事件は、領土問題をクローズ・アップしました。本授業においては、日中間の諸争点を歴史の文脈の中で多角的に説明していきます。到達目標は、近代以降の日中関係史を知り、その問題点と現状を理解することにあります。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は特にありません。教科書と配付資料を中心に、適宜映像資料を使いながら授業を進めていきます。				
成績評価方法	平常点 10%、小テスト 30%、学期末試験 60%で評価していきます。				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書と配布資料を事前に読んでくること。日中関係のニュースに関心をもつこと。 復習：配付資料とノートの整理。教科書による確認。疑問点をまとめて次の授業の時に提出すること。				
教科書	家近亮子・松田康博・段瑞聡編著『岐路に立つ日中関係』(晃洋書房、2007年)				
参考文献	家近亮子『日中関係の基本構造』(晃洋書房、2004年)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の概説と進め方の説明、日本と中国の比較			
第2回	近代における日中関係①	日清戦争、対華二十一カ条の要求、満洲事変			
第3回	近代における日中関係②	日中戦争			
第4回	戦後の日中関係①	戦後処理問題、日華平和条約			
第5回	戦後の日中関係②	民間貿易、民間交流史			
第6回	日中国交正常化への道	中国をめぐる国際情勢の変化			
第7回	日中国交正常化	田中角栄と周恩来外交			
第8回	日中関係の諸問題①	歴史認識問題			
第9回	日中関係の諸問題②	教科書問題			
第10回	日中関係の諸問題③	台湾問題①			
第11回	日中関係の諸問題③	台湾問題②			
第12回	日中関係の諸問題④	靖国神社参拝問題			
第13回	日中関係の諸問題⑤	尖閣諸島問題、ガス田開発問題			
第14回	日中関係の諸問題⑥	安全保障問題			
第15回	今後の日中関係	日中関係の将来像			

国際

授業番号	B101110001				
科目名 (英語表記)	日中翻訳 (Japanese-Chinese translation)				
担当者 (英語表記)	家近 亮子 (Ryoko Iechika)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	日本人にとっては、中国語能力を、留学生にとっては日本語の文章力を高めることを目標とします。到達目標は、中級程度の中国語の文章をなめらかで分かりやすい文章に訳すことができるようになることです。				
授業の進め方 (履修条件など)	日本人学生と中国以外からの留学生は、1年の時に中国語を履修していることが条件となります。				
成績評価方法	授業への積極的な参加と取り組み。課題の提出状況によって評価します。				
基準					
授業の予習・復習	配付文章の予習、課題の完成と提出。				
教科書	特に定めません。『人民日報』などの記事や時事中国語の教科書から文章を選んで毎回配付します。				
参考文献	『漢日翻訳教程』(商務印書館、2008年)など。必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、授業評価の方法についての説明。 「翻訳とは何か？」について			
第2回	翻訳の定義・基準と過程について	翻訳の国際的定義とその方法 (準備・執筆・推敲) について			
第3回	中国語と日本語の比較	日中の「形同義同」「形異義同」「形同義異」文字について			
第4回	中国語の「多義詞」について	「多義詞」の使い分けの事例について。翻訳の実践。			
第5回	簡単な文章の翻訳	逐語訳と意識、抄訳の実践			
第6回	時事中国語の文章①の翻訳	逐語訳の実践			
第7回	時事中国語の文章①の推敲	翻訳原稿の発表と討論。推敲と完成。			
第8回	時事中国語の文章②の翻訳	逐語訳の実践			
第9回	時事中国語の文章②の推敲	翻訳原稿の発表と討論。推敲と完成。			
第10回	『人民日報』記事の翻訳—①	逐語訳の実践。			
第11回	『人民日報』記事の翻訳—②	翻訳原稿の発表と討論。推敲と完成			
第12回	『人民日報』記事の翻訳—③	完成原稿の意識、抄訳の実践			
第13回	中国の小説の翻訳—①	逐語訳の実践			
第14回	中国の小説の翻訳—②	翻訳原稿の発表と討論。推敲と完成			
第15回	中国の小説の翻訳—③	完成原稿の意識、抄訳の実践			

# 国際

授業番号	B102130001				
科目名 (英語表記)	日本・アフリカ関係 (Japan-Africa Relations)				
担当者 (英語表記)	大月 隆成 (Takashige Otsuki)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本から見た場合、アフリカは重要な相手とは見なされておらず、偏った情報に基づく歪んだイメージが形成されてしまうことが少なくない。授業の主眼はこうした日本とアフリカの関係の特殊性とその結果について理解を深めてもらうことである。また、最近アフリカとの関係を深めている中国についても取り上げることしたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業では、様々な角度から日本・アフリカ関係を光を当ててみることにする。その上で、受講者諸君の自由な発想に基づくレポートの作成をお願いしたい。				
成績評価方法	学期末のレポートに基づいて行う。期末試験は実施しない。				
基準					
授業の予習・復習	予習：日頃からアフリカに関心を持ち、積極的に情報収集を心がける。 復習：授業で出された課題や関連するテーマについて、調べてみる。				
教科書	特定の教科書は使用しない。				
参考文献	伊谷純一郎ほか『アフリカを知る事典』平凡社 大迫秀樹『アフリカのことがマンガで3時間でわかる本』アスカ				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業の進め方およびレポート作成について			
第2回	アフリカ入門講座 (1)	アフリカの共通性と多様性			
第3回	アフリカ入門講座 (2)	北アフリカとサハラ以南アフリカ			
第4回	アフリカ入門講座 (3)	共通性の起源～共通の歴史的経験			
第5回	日本・アフリカ関係の特徴 (1)	日本から見たアフリカの重要性			
第6回	日本・アフリカ関係の特徴 (2)	関係の非対称性～経済規模の比較～			
第7回	レポート作成の進め方	テーマ設定のヒント、資料収集の方法			
第8回	日本とアフリカのつながり (1)	日本に住むアフリカ人、アフリカに住む日本人			
第9回	日本とアフリカのつながり (2)	貿易や援助などの経済関係			
第10回	日本とアフリカのつながり (3)	日本人のアフリカ・イメージ			
第11回	日本とアフリカのつながり (4)	教科書や文学作品などに見るアフリカ			
第12回	日本とアフリカのつながり (5)	日常生活におけるアフリカとの接点			
第13回	中国とアフリカ (1)	アフリカにあふれる中国製品			
第14回	中国とアフリカ (2)	アフリカの天然資源と中国			
第15回	中国とアフリカ (3)	政治と国際関係			

国際					
授業番号	B102110001				
科目名(英語表記)	日本・東南アジア関係 (Japan-Southeast Relations)				
担当者(英語表記)	高田 洋子 (Yoko Takada)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	東南アジアは日本と密接な歴史的・経済的関係をもつ近隣地域です。ベトナム・日本関係を中心に、前近代から現代までのさまざまな交流史について、基本的な事項と流れを把握しましょう。比較史の方法および民衆史の視点を学びます。その大切さ、意義をしっかりと理解しましょう。				
授業の進め方(履修条件など)	地域研究の「東南アジア I」または「東南アジア II」を履修した人を前提に、シラバスに沿ったトピックを講義します。				
成績評価方法	真剣な受講態度、授業への積極的取り組みと、期末のレポートによって評価をつけます。				
基準					
授業の予習・復習	予習：日頃から東南アジアと日本の関係についての情報を収集しましょう。 復習：毎回、授業内レスポンスペーパーを提出します。				
教科書	指定しません。				
参考文献	テーマ別レポート提出のための参考文献(数冊ずつ)リストを授業中に配布します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	序論：比較史および民衆史の手法を学ぶ意義	ベトナムはどんな国か 日越の比較のおもしろさ			
第 2 回	前近代の関係史	17世紀の経済交流：ベトナムの日本人町ホイアン			
第 3 回	近代の幕開け	明治日本のベトナム認識：エリートと大衆			
第 4 回	ふたつの近代国家	近代日本の国づくりと仏領インドシナ植民地体制の比較			
第 5 回	東アジアの連帯を求めて	ベトナム東遊(日本留学)運動：ファンボイチャウと浅羽村の人びと			
第 6 回	戦前日本の東南アジア経済進出	フランス植民地の保護主義と日本の貿易摩擦			
第 7 回	「大東亜共栄圏」の時代	日本軍の「仏印進駐」と「200万人餓死説」			
第 8 回	もう一つの太平洋戦争(1)	残留日本兵とベトナム独立同盟			
第 9 回	もう一つの太平洋戦争(2)	残留日本兵のこどもたち			
第 10 回	冷戦の時代	ベトナム戦争と日本			
第 11 回	インドシナの地域紛争	日本外交とインドシナ 失われた 1980 年代			
第 12 回	したたかな友人	ASEAN の 発展戦略と日本			
第 13 回	グローバル時代の社会主義国家	ベトナム、その " 眠れる市場 " を求めて (日本の企業進出ブーム)			
第 14 回	インドシナの地政学と日本	日本・ベトナム・中国、東南アジアの国際関係と大メコン経済圏			
第 15 回	授業の総括と質疑応答	21 世紀の東南アジア・日本関係への展望			

国際					
授業番号	B103720001				
科目名 (英語表記)	日本語学 I (Japanese Linguistics I)				
担当者 (英語表記)	長谷川 頼子 (Yoriko Hasegawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本語教育では、日本の国語文法では通用しません。日本語を一つの外国語として扱い、理解する必要があります。そこで、教科書に出てくる多くの例文を分析的に見る作業を通じて、背後に見られる文法に対する基本的な考え方を学びます。マルチリンガルに書かれた実際の日本語教材を使って、実践的に文法を見る目を養います。				
授業の進め方 (履修条件など)	外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生の受講を歓迎します。第1週の授業を欠席しないこと、全員の発言ですすめる講義形式に協力できることが履修条件です。				
成績評価方法	授業態度・提出物 30%と、期末試験 70%で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書の指定範囲を事前に予習すること。 復習：規則としての文法、使い分けの仕組みという点から整理しておくこと。				
教科書	長谷川頼子 (2009)『にほんご日記ノート』アルク				
参考文献	佐々木泰子 (編) (2007)「ベーシック日本語教育」ひつじ書房 庵功雄 (2001)「新しい日本語学入門-ことばのしくみを考える」スリーエーネットワーク				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義ガイダンス	イントロダクション：日本語学とは何か			
第2回	品詞①	日本語の品詞とはどういうものか			
第3回	品詞②	品詞の観点から非文を分析してみよう			
第4回	主な文型①	文とは何か、単文・複文について			
第5回	主な文型②	構造文型・表現文型について			
第6回	格①	格とは何か・必須の格・任意の格			
第7回	格②	必須格のさまざまなパターン			
第8回	格③	さまざまな格の使い分けについて分析する			
第9回	活用①	学校文法の活用について復習			
第10回	活用②	子音語幹動詞・母音語幹動詞・不規則動詞			
第11回	活用③	日本語教育から見た動詞の活用			
第12回	ヴォイス①	受動文のタイプ、動作主を表すマーカーについて			
第13回	ヴォイス②	受動文のさまざまな機能について			
第14回	ヴォイス③	使役文について			
第15回	総まとめ	「日本語教育の影響を受けた日本語文法」を読む			

国際					
授業番号	B103730001				
科目名 (英語表記)	日本語学 II (Japanese Linguistics II)				
担当者 (英語表記)	長谷川 頼子 (Yoriko Hasegawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本語学 I に引き続き、外国人に日本語を教えるために必要な日本語の知識を、初級文法を中心に取り上げ解説します。日本語教科書に書かれていることを、教師の立場で理解できるようになることが目標です。マルチリンガルに書かれた日本語教材も参考にしながら、理解できたという実感を持ち、文法に対する自信をつけます。				
授業の進め方 (履修条件など)	外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生の受講を歓迎します。日本語学 I を履修していることが望ましいです。				
成績評価方法	授業 (態度・提出物) 30%、期末試験 70% で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習: プリント等の指定範囲を事前に学習すること。 復習: 規則としての文法、使い分けの仕組みという観点から整理しておくこと。				
教科書	授業時に、テーマ毎のプリントを配布します。				
参考文献	佐々木泰子 (2007) 「ベーシック日本語教育」 ひつじ書房 庵功雄 (2001) 「新しい日本語学入門-ことばのしくみを考える」 スリーエーネットワーク				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義ガイダンス、イントロダクション	日本語学 I の総括、日本語学 II の概要・進め方・評価について説明			
第 2 回	テンス①	「テンス」とは何か、ル形とタ形			
第 3 回	テンス②	複文におけるテンス			
第 4 回	テンス③	テンスの特別な用法をめぐって			
第 5 回	テンス④	文章におけるテンス			
第 6 回	さまざまな文末表現①	可能の表現について			
第 7 回	さまざまな文末表現②	自発の表現について			
第 8 回	さまざまな文末表現③	依頼・勧誘の表現			
第 9 回	さまざまな文末表現④	命令の表現			
第 10 回	さまざまな文末表現⑤	許可・禁止の表現			
第 11 回	さまざまな文末表現⑥	義務の表現			
第 12 回	接続表現①	「バ」と「タラ」について			
第 13 回	接続表現②	「バ」と「タラ」と「ト」について			
第 14 回	接続表現③	「ナラ」について			
第 15 回	接続表現④	「バ」「タラ」「ト」「ナラ」の総まとめ			



国際

授業番号	B103710001				
科目名 (英語表記)	日本語学入門 (Introduction to Japanese Linguistics)				
担当者 (英語表記)	長谷川 頼子 (Yoriko Hasegawa)	対象学年	1	単位数	2

授業のねらいと到達目標	「やり・もらい」や「敬意表現」、「方言」など、日本語社会におけるコミュニケーションに特徴的に見られる項目をとりあげ、そこに関わる文化的背景についても理解を深めます。単なる知識の詰め込みではなく、練習問題にもとり組みつつ、自分が使うことばである日本語を客観的に観察し、そのありようを探っていきます。
授業の進め方 (履修条件など)	外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生なら誰でも受講を歓迎します。ただし、全員の発言で進める講義形式に協力できることが履修条件です。第一回の授業を休まないこと。
成績評価方法	授業 (態度・提出物) 30%、期末試験 70%で評価します。
基準	
授業の予習・復習	予習：自分の周りの日本人、留学生が話す日本語に関心を持ちましょう。 復習：ことばの多様性と、その背景にある規則性や使い分けについて整理しましょう。
教科書	とくに使用しません。講義時にプリントを配布します。
参考文献	佐々木泰子 (編) (2007) 『ベーシック日本語教育』 ひつじ書房

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	講義ガイダンス	講義の概要・進め方・評価について説明
第 2 回	総論	「日本語学」の各領域について
第 3 回	人称と視点①	「あげる・もらう・くれる」について
第 4 回	人称と視点②	授受動詞の補助動詞的用法について
第 5 回	人称と視点③	授受表現のバリエーション
第 6 回	敬語と敬意表現①	敬語と敬意表現
第 7 回	敬語と敬意表現②	敬語の五分類：尊敬語
第 8 回	敬語と敬意表現③	敬語の五分類：謙譲語 I
第 9 回	敬語と敬意表現④	敬語の五分類：謙譲語 II
第 10 回	敬語と敬意表現⑤	敬語の五分類：丁寧語・美化語
第 11 回	敬語と敬意表現⑥	敬意表現の役割と機能
第 12 回	日本語社会における言語行動①	言語行動を構成する要素
第 13 回	日本語社会における言語行動②	方言・共通語・標準語
第 14 回	日本語社会における言語行動③	話しことばの地域差
第 15 回	日本語社会における言語行動④	話しことばのダイナミズム

国際					
授業番号	B103900001				
科目名 (英語表記)	日本語教育実習 (Teaching Japanese as a Practicum)				
担当者 (英語表記)	長谷川 頼子 (Yoriko Hasegawa)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本語教員養成講座の総まとめとして、これまで各自が学んできた日本語及び日本語教育というものを、一人ひとりが体験的に認識することを学習の目的とします。具体的には、初級日本語教科書「みんなの日本語初級 I 本冊」の各課を分担して分析を行い、発表する演習形式で行います。				
授業の進め方 (履修条件など)	日本語教員養成講座科目をすべて履修していること。未履修科目を残して先に実習に参加することはできません。また、教員の資格認定に向け、高度な日本語能力が必要です。				
成績評価方法	提出課題、発表内容、発表者への質問などから総合的に評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：担当する課の前後を良く分析し、形式的にも揃ったレジュメを作成すること。 復習：各課のつながりを意識し、積極的に質問やコメントなどをすること。				
教科書	スリーエーネットワーク(2012)「みんなの日本語初級 I 第2 版本冊」を基本としますが、初版(1998)を持っている人はそちらを使用してもかまいません。				
参考文献	実習内で適宜紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	実習ガイダンス	実習生紹介、実習の進め方、発表の方法、教科書について解説			
第 2 回	模擬発表	「みんなの日本語初級 I 本冊」第 4 課模擬発表、担当課決め			
第 3 回	発表①	第 5 課			
第 4 回	発表②	第 6 課			
第 5 回	発表③	第 7 課			
第 6 回	発表④	第 8 課			
第 7 回	発表⑤	第 9 課			
第 8 回	発表⑥	第 10 課			
第 9 回	発表⑦	第 11 課			
第 10 回	発表⑧	第 12 課			
第 11 回	発表⑨	第 13 課			
第 12 回	発表⑩	第 14 課			
第 13 回	発表⑪	第 15 課			
第 14 回	発表⑫	第 16 課			
第 15 回	発表⑬	第 17 課			

国際

授業番号	B103840001				
科目名 (英語表記)	日本語教授法 I (Teaching Japanese as a Foreign Language I)				
担当者 (英語表記)	稲村 すみ代 (Sumiyo Inamura)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	第二言語としての日本語を日本語を母語としない学習者に教授する方法の基礎を学びます。日本語教育とは何か、言語教育の基礎など、基本的なことがらの理解と、日本語教育の実際について、学習し、「ことばを学ぶ」「ことばを教える」とは、どのようなことなのかを知り基礎を固めていきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	日本語を母語としない人へ日本語を教えてみようと思う人、ことなる母語話者とのコミュニケーションをことばの面から深めてみたい人を歓迎します。双方向授業中心であるため、積極的に授業に参加できる学生を対象とします。				
成績評価方法	授業 (態度・発表・提出物) 40% 期末試験・期末レポート 60%				
基準					
授業の予習・復習	予習：日本人学生留学生とも、基礎的な日本語力を確認し、コミュニケーション能力の向上に努めること。 復習：日本語教育とは何か、教師の資質役割は何かを常に意識し、第二言語 (外国語) としての日本語を教えるとはどのようなことか、整理します。				
教科書	授業中、必要に応じてプリントを配布します。				
参考文献	清水義昭 (2005) 『概説日本語学・日本語教育』おうふう 小島聡子 (2002) 『日本語の教え方』アルク 水谷信子 (1997) 『日本語教育概論』放送大学教育振興会				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義ガイダンス	講義の概要。進め方。評価について イントロダクション。ラポール形成			
第 2 回	日本語の特色①	第二言語としての日本語。日本語教育の概要			
第 3 回	日本語の特色②	日本語教師に必要な条件。資質。日本語力確認			
第 4 回	日本語の特色③	国語教育、外国語教育との比較。対照言語学の基礎			
第 5 回	日本語教育の現状と問題点①	日本国内の現状と問題点について			
第 6 回	日本語教育の現状と問題点②	海外事情①中国・韓国・アジア諸国			
第 7 回	日本語教育の現状と問題点③	海外事情②米欧諸国			
第 8 回	コースデザイン①	コースデザインとは何か			
第 9 回	コースデザイン②	ニーズとレディネス、カリキュラム			
第 10 回	コースデザイン③	さまざまなシラバスの種類			
第 11 回	授業計画・教案①	教案について 市販の教科書付属教案。教案の作成			
第 12 回	授業計画・教案②	日本語の授業、授業案と実際			
第 13 回	教材①	日本語教育における教材・教具			
第 14 回	教材②	教材開発について 初級・中級・上級の教科書			
第 15 回	総まとめ	日本語教育のまとめ。用語整理。			

国際

授業番号	B103840002				
科目名 (英語表記)	日本語教授法 I (Teaching Japanese as a Foreign Language I)				
担当者 (英語表記)	長谷川 頼子 (Yoriko Hasegawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	外国人に日本語を教えることの基本的な知識を学びます。国内・世界各国別にみた日本語教育の現状を紹介した上で、「日本語を教える」とは何をすることなのか、実例を挙げながら詳しく解説し、「ことばの教え方」を学ぶための基礎をしっかりと築きます。				
授業の進め方 (履修条件など)	外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生なら学年を問わず受講を歓迎します。全員の発言で進める講義形式に協力できることが履修条件です。第一回の授業を休まないこと。				
成績評価方法	授業 (態度・提出物) 30%、期末試験 70% で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：日本人・留学生が互いの日本語に関心を持ち、積極的にコミュニケーションしよう。 復習：「外国語としての日本語」に対する自分なりの見方を培うつもりで内容を整理しよう。				
教科書	とくに使用しません。講義時にプリントを配布します。				
参考文献	佐々木泰子 (2007) 『ベーシック日本語教育』 ひつじ書房 石田敏子 (1995) 『入門日本語教授法』 大修館書店				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義ガイダンス・イントロダクション	講義の概要・進め方・評価について説明			
第 2 回	日本語教育の特色①	日本語教育の概要			
第 3 回	日本語教育の特色②	日本語教師に必要な要件			
第 4 回	日本語教育の特色③	国語教育や外国語教育との比較			
第 5 回	日本語教育の現状と問題点①	日本国内の現状と問題点について			
第 6 回	日本語教育の現状と問題点②	海外事情①：中国・韓国・アメリカ			
第 7 回	日本語教育の現状と問題点③	海外事情②：アジア諸国について			
第 8 回	コースデザイン①	コースデザインとは何か			
第 9 回	コースデザイン②	ニーズとレディネス			
第 10 回	コースデザイン③	さまざまなシラバスの種類			
第 11 回	授業計画・教案①	教案作成について			
第 12 回	授業計画・教案②	日本語の授業について			
第 13 回	教材①	日本語教育における教材・教具			
第 14 回	教材②	教材開発について			
第 15 回	総まとめ	学習した用語の整理			

国際

授業番号	B103850001				
科目名 (英語表記)	日本語教授法 II (Teaching Japanese as a Foreign Language II)				
担当者 (英語表記)	長谷川 頼子 (Yoriko Hasegawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	「日本語教授法 I」に引き続き、さまざまな外国語教授法を紹介して具体的な指導の方法を検討します。それを通して、「外国語としての日本語」を教えることに、むきあうことが目標です。教材や評価法についても取り上げ、日本語教育の基礎的知識をしっかりと身につけ、次のステップへつなげます。				
授業の進め方 (履修条件など)	外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生なら学年を問わず歓迎します。全員の発言で進める講義形式に協力できることが履修条件です。日本語教授法 I を履修していることが望ましいです。				
成績評価方法	授業 (態度・提出物) 30%、期末試験 70% で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：自分の外国語学習経験を思い出しましょう。教師はどんな教え方をしていましたか？ 復習：留学生に日本語学習経験を聞いて、教授法を具体的にイメージしてみよう。				
教科書	とくに使用しません。講義時にプリントを配布します。				
参考文献	佐々木泰子 (2007) 「ベーシック日本語教育」ひつじ書房				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義ガイダンス	講義の概要・進め方・評価について説明、イントロダクション			
第 2 回	外国語教授法各論①	G T 方式～直説法			
第 3 回	外国語教授法各論②	オーラル・メソッド～アーミー・メソッド			
第 4 回	外国語教授法各論③	構造言語学の影響を受けた教授法			
第 5 回	外国語教授法各論④	心理学の影響を受けた教授法			
第 6 回	外国語教授法各論⑤	ナチュラル・アプローチ			
第 7 回	外国語教授法各論⑥	コミュニカティブ・アプローチ			
第 8 回	学習活動①	3つのレベルと学習項目			
第 9 回	学習活動②	初級の指導			
第 10 回	学習活動③	中級の指導			
第 11 回	学習活動④	上級の指導			
第 12 回	日本語教育評価法①	テストの種類、テストの妥当性・信頼性			
第 13 回	日本語教育評価法②	テストの諸形式について			
第 14 回	日本語教育評価法③	平均・分散・標準偏差について			
第 15 回	総まとめ	各教授法、用語の整理			

国際

授業番号	B103850002				
科目名 (英語表記)	日本語教授法 II (Teaching Japanese as a Foreign Language II)				
担当者 (英語表記)	稲村 すみ代 (Sumiyo Inamura)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	「日本語教授法 I」に引き続き、さまざまな外国語教授法を紹介し、具体的な指導の方法を検討します。学習段階を知り、段階に応じた教授方法を考察します。クラスアクティビティの実践を通して、学習活動教室活動の方法を学び、第二言語としての日本語を教えるための知識を深めていきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	日本語教授法 I を受講していることが望ましい。日本語を教えることに興味意欲を持ち、日本語を母語としている人と、そうでない人のコミュニケーションに関心を持つ学生を歓迎します。双方向で行われる授業であるため、授業に積極的に参加できる学生を対象とします。				
成績評価方法	授業 (態度・提出物・発表) 40% 期末試験レポート 60%				
基準					
授業の予習・復習	予習：自分自身の外国語学習経験を思い出し、どのように外国語を身につけてきたのかを整理しておきましょう。 復習：さまざまな教授法をまとめ、学習活動の種々相を整理しましょう。				
教科書	必要に応じて、プリントを配布します。				
参考文献	鎌田修 (編) (1996) 『日本語教授法ワークショップ』 凡人社 日本語教育学会 (編) (1995) 『タスク日本語教授法』 寺田和子 (他) 『日本語の教え方 A B C』 アルク				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義ガイダンス	講義の概要・進め方・評価について・イントロダクション。ラポール形成			
第 2 回	外国語教授法①	オーディオリンガル・メソッド他			
第 3 回	外国語教授法②	ダイレクトメソッド (直接法)、TPR 他			
第 4 回	外国語教授法③	心理学の影響を受けた教授法 サジェストベディア他			
第 5 回	外国語教授法④	ナチュラル・アプローチ コミュニカティブ・アプローチ CLL 他			
第 6 回	外国語教授法⑤	日本語教育と異文化トレーニング			
第 7 回	学習活動①	段階別教授法 初級・中級・上級・段階のシラバス (学習項目)			
第 8 回	学習活動②	初級レベルの教材と指導。文型積み上げ法			
第 9 回	学習活動③	中級レベルの教材と指導。四技能の指導			
第 10 回	学習活動④	上級レベルの教材と指導。生教材			
第 11 回	学習活動⑤	日本事情、その他の指導。超上級。			
第 12 回	日本語教育評価法①	テストの種類、テストの妥当性・信頼性			
第 13 回	日本語教育評価法②	テストの諸形式			
第 14 回	教授法と教材	視聴覚教材、コンピュータ教材の扱い方			
第 15 回	総まとめ	各教授法の整理。段階別教授法のまとめ			

国際

授業番号	B103860001				
科目名 (英語表記)	日本語教授法 III (Teaching Japanese as a Foreign Language III)				
担当者 (英語表記)	長谷川 頼子 (Yoriko Hasegawa)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本語教育の方法について、四技能（聞く・話す・読む・書く）別にみた指導のあり方について検討します。各技能について理解した上で、具体的な教え方や教材などを紹介します。				
授業の進め方 (履修条件など)	外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生の受講を歓迎します。日本語教授法 I・II を履修していることが望ましいです。				
成績評価方法	授業（態度・提出物）30%、期末試験 70% で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：これまでに学習した内容を良く復習し、思い出しておくこと。 復習：「自分が教師ならどう教えたいか」と想像しながら、授業内容を整理しましょう。				
教科書	基本的にはプリントを講義時に配布します。				
参考文献	国際交流基金日本語教授法シリーズ『話すことを教える』『読むことを教える』『書くことを教える』『聞くことを教える』ひつじ書房				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義ガイダンス	講義の概要・進め方・評価について説明、イントロダクション			
第 2 回	四技能とは何か①	子供の言語獲得について			
第 3 回	四技能とは何か②	外国語における四技能の学習について			
第 4 回	聞き方の指導①	聞くとはどういうことか			
第 5 回	聞き方の指導②	初級における「聞き方」の指導			
第 6 回	聞き方の指導③	中・上級における「聞き方」の指導			
第 7 回	話し方の指導①	日本語の話しことばの特徴			
第 8 回	話し方の指導②	初級における「話し方」の指導			
第 9 回	話し方の指導③	中・上級における「話し方」の指導			
第 10 回	読み方の指導①	「読み」に必要なストラテジー			
第 11 回	読み方の指導②	初級における「読み方」の指導			
第 12 回	読み方の指導③	中・上級における「読み方」の指導			
第 13 回	書き方の指導①	ひらがな・カタカナの指導について			
第 14 回	書き方の指導②	漢字の指導について			
第 15 回	書き方の指導③	作文の指導について			

国際

授業番号	B103870002				
科目名 (英語表記)	日本語教授法 IV (Teaching Japanese as a Foreign Language IV)				
担当者 (英語表記)	長谷川 頼子 (Yoriko Hasegawa)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本語教育における音声指導をテーマに取り上げ、日本語の音声に関する知識を体得します。日本語教育でも音声指導は難しいものの1つとされていますが、外国人学習者に対してどのような指導を行っていけばよいか、授業内で実際に発音練習も行いながら、項目別に詳しく検討していきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業の理解度に関わるので、日本語学関連の講義 (言語学入門、心理言語学、日本語学、日本語教授法) をすでに履修したか、履修中であること。				
成績評価方法	授業 (態度・提出物) 30%、期末試験 70% で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習: 自分の音声器官、発音の仕方をよく観察しよう。 復習: 学習した知識に基づいて、再度発音の仕組みを確認しよう。				
教科書	基本的には講義時に配布するプリントを使用します。				
参考文献	佐々木泰子 (編) (2007) 「ベーシック日本語教育」ひつじ書房 国際交流基金 (2009) 「音声を教える」日本語教授法シリーズ 2				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義ガイダンス	講義の概要・進め方・評価について説明、イントロダクション			
第 2 回	基本的用語	音声器官、音素・異音			
第 3 回	日本語の母音①	日本語の母音の作られ方			
第 4 回	日本語の母音②	日本語の母音にみられる特徴			
第 5 回	日本語の母音③	外国人学習者に見られる母音の発音上の問題点			
第 6 回	日本語の子音①	子音の作られ方、調音点・調音法			
第 7 回	日本語の子音②	カ、ガ、サ、ザ、タ、ダ行の子音			
第 8 回	日本語の子音③	ナ、ハ、バ、パ、マ、ラ行の子音			
第 9 回	日本語の子音④	半母音、撥音・促音・拗音・長音			
第 10 回	日本語の子音⑤	外国人学習者に見られる子音の発音上の問題点			
第 11 回	日本語の拍・リズム	拍と拍感覚について			
第 12 回	日本語のアクセント①	アクセントとは何か、アクセントの式と型			
第 13 回	日本語のアクセント②	外国人学習者に見られるアクセント上の問題点			
第 14 回	日本語のイントネーション①	イントネーションとは何か			
第 15 回	日本語のイントネーション②	外国人学習者に見られるイントネーションの問題点			



# 国際

授業番号	B102030001				
科目名 (英語表記)	日本社会と多文化共生 (Multiculturalization of Japanese Society)				
担当者 (英語表記)	小林 聡明 (Soumei Kobayashi)	対象学年	3	単位数	2

授業のねらいと到達目標	民族や国籍が違えば、何らかの「違い」を感じている人がいるかもしれません。この「違い」とは、いかなるものであり、どのように作られたものなのでしょうか。授業では日本社会における「他者」の観点から民族や国籍を考えることで、この「違い」が持つ政治的な意味と多文化共生の意義を考えたいと思います。
授業の進め方 (履修条件など)	授業では皆さんの理解を助けるために、できるだけ多くの視聴覚教材 (映画やドキュメンタリー) を活用するつもりです。可能な限り、皆さんとの対話を重視したインタラクティブな授業を目指したいと思っています。
成績評価方法	出席状況 (7割以上が必須) や授業後に提出してもらったコメント内容、レポートで総合的に評価します。
基準	
授業の予習・復習	予習: 毎日、欠かさず新聞を読んで下さい。 復習: 各授業でお知らせする関連文献を読むほか、知人や友人と関連トピックについてたくさん議論してください。
教科書	授業時に詳細なレジュメ (プリント) を配付します。
参考文献	各授業時に紹介します。

回数	授業項目	授業内容
第1回	はじめに	私たちの暮らす「社会」について考えます。
第2回	現代社会の課題	「多民族化」を手がかりに現代の課題を考えます。
第3回	国家と民族	国家、民族の概念について考えます。
第4回	国民国家	国民国家の概念について考えます。
第5回	「日本人」とは誰か	「日本人」の境界を考えます。
第6回	「移民」とは誰か	移民国家、移民政策について考えます。
第7回	移民政策の歴史	移民政策の歴史的展開について考えます。
第8回	「在日」とは誰か	在日コリアンの歴史的背景について考えます。
第9回	「在日」の法的地位	在日コリアンの法的地位と人権について考えます。
第10回	「外国人」とは誰か	「国籍」について考えます。
第11回	現代日本に暮らす「外国人」	日本在住の外国人の状況について考えます。
第12回	日本の外国人政策	入管法制や外国人の人権について考えます。
第13回	外国人学校	外国に繋がる子どもたちの教育について考えます。
第14回	多文化共生論の射程	「他者」とともに暮らしていくことについて考えます。
第15回	まとめ	講義全体のまとめをします。

国際						
授業番号	B101960001					
科目名 (英語表記)	日本の経済 (Japanese Economy)					
担当者 (英語表記)	小林 啓祐 (Keisuke Kobayashi)	対象学年	2	単位数	2	
授業のねらいと到達目標	本講義は日本の経済がどのような構造になっているのか、様々な視点・データによって学んでいく講義である。昨今の経済状況の変化はめまぐるしいものとなっている。その変化に対応するためには、どのような特徴を日本経済が持っているのかを知らなければいけない。講義を通じて、現代を分析する目を養って欲しいと思う。					
授業の進め方 (履修条件など)	小テストを3回行うので、すべて受けること。					
成績評価方法	毎講義中の参加態度 (10%)、および3回の小テスト (90%) をあわせて評価する					
基準						
授業の予習・復習	シラバスを事前に確認し、教科書にて予習をすること。					
教科書	小峰隆夫『Visual 日本経済の基本 第4版』日本経済新聞社, 2010年					
参考文献						
回数	授業項目	授業内容				
第1回	ガイダンス	講義方法の説明などを行い、日本経済に関する簡単なアンケートをとる				
第2回	日本のマクロデータ1	日本経済の基本的なマクロデータについて学ぶ				
第3回	日本のマクロデータ2	前回の続きを行う				
第4回	日本の雇用	日本における雇用情勢について学ぶ				
第5回	小テスト1	第2回から第4回までの小テストを行う				
第6回	日本企業の経営状況	日本企業の経営状況について学ぶ				
第7回	経済政策	日本政府が取り組む経済政策の特徴について学ぶ				
第8回	財政課題	日本政府が抱える財政問題について学ぶ				
第9回	金融課題	日本の金融機関が抱える問題について学ぶ				
第10回	小テスト2	6回～9回の範囲の小テストを行う				
第11回	日本の福祉	日本における福祉政策の現状を学ぶ				
第12回	世界の中の日本1	日本を中心とした貿易・為替について学ぶ				
第13回	世界の中の日本2	世界経済の動向を学ぶ				
第14回	小テスト3	第11回～13回の範囲の小テストを行う				
第15回	まとめ	全講義のまとめと講評を行う				

国際					
授業番号	B101990001				
科目名 (英語表記)	日本の歴史 (Japanese history)				
担当者 (英語表記)	家近 亮子 (Ryoko Iechika)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	幕末から現代に至る日本の近現代史を学びます。日本がどのような思想と政治過程を経て現在の政治、経済、社会、国際関係を構築するようになったかを解明します。到達目標は、日本の近現代史の基本的な流れをつかみ、その特徴を理解し、その上で日本の現状を分析することができるようになることにあります。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は特にありません。授業は、教科書と配付資料を中心に適宜映像資料を取り入れながら進めていきます。				
成績評価方法	平常点 10%、小テスト 30%、期末試験 60%				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書を読んでくること。 復習：授業の内容をまとめておくこと。 新聞やニュースでの日本の歴史に関することに興味を持つこと。				
教科書	宮地正人監修、大日方純夫・山田朗他著『日本近現代史を読む』、新日本出版社、2010年。				
参考文献	家近亮子『日中関係の基本構造』、晃洋書房、2004年。 テーマごとにその都度紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価の方法の説明。 今日の日本の政治、経済、社会、外交について。			
第2回	江戸という時代	江戸時代の政治・経済・社会・対外関係			
第3回	開国への道	幕末の政治と思想			
第4回	明治維新	日本の近代化はどのようにして行われたのか？ 明治の三大改革について			
第5回	大日本帝国憲法 (明治憲法) の成立	明治憲法の成立過程と特徴、解釈の問題点について			
第6回	明治時代の政治と思想、文化	自由民権運動—民衆の政治参加			
第7回	近代日本の対外認識と政策	福沢諭吉の「脱亜論」と日清・日露戦争			
第8回	大正時代	経済発展と大正デモクラシー			
第9回	第一次世界大戦と国際関係	「対華二十一カ条の要求」と中国進出、世界大恐慌			
第10回	「暗い昭和」への道	軍部の台頭とファシズム			
第11回	日中戦争の勃発と戦時体制	戦時下の社会と人々の生活、思想、文化			
第12回	太平洋戦争	戦争の要因、経過、戦後処理			
第13回	戦後の日本—①	GHQによる占領政策と「日本国憲法」			
第14回	戦後の日本—②	戦後の政治と社会の変容			
第15回	戦後の日本—③	経済発展と外交、思想、文化			

国際					
授業番号	B103770001				
科目名 (英語表記)	日本文化論 (Japanese Culture)				
担当者 (英語表記)	畑中 千晶 (Chiaki Hatanaka)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	「花札」に描かれた図柄を切り口として、日本文化の諸相を探究していく (文学、演劇、絵画、工芸、宗教など)。まず古典世界のコードを学び、次にそのコードを用いて読み解くことのできる具体例について学ぶ。最終的には、身近な生活の中に息づく伝統文化を自ら見出せるようになることが到達目標である。				
授業の進め方 (履修条件など)	パワーポイント、DVD 等の映像資料を多用する。古典芸能の視聴 (解説付) など含まれるので、留学生の場合は、日本語能力試験 N1 (1 級) 程度の日本語力が不可欠である。				
成績評価方法 基準	クラスで指示した課題への取り組み (50%)、期末試験 (50%)				
授業の予習・復習	予習: Eラーニングを用いて、授業内容に関連した Web サイト等に目を通す。 復習: Eラーニングを用いて、学習内容に関する意見交換を行う。				
教科書	毎回、レジユメと複数の資料を配布する。これらが教科書の代わりとなるので、必ずファイリング管理すること。				
参考文献	加藤周一『日本文学史序説 上・下』ちくま学芸文庫 青木美智男『全集 日本の歴史 別巻 日本文化の原型』小学館				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	イントロダクション	日本文化について考える方法			
第 2 回	「正月 松」	黄山 VTR、松のめでたさ・霊力			
第 3 回	「二月 梅」	菅原道真、飛梅伝説			
第 4 回	「二月 梅」	天神信仰、歌舞伎『菅原伝授手習鑑』			
第 5 回	発展項目	絵を読む (紅白梅図 映像視聴)			
第 6 回	「三月 桜」	桜のイメージの両義性			
第 7 回	「三月 桜」	禁忌の恋・・・『源氏物語』			
第 8 回	「三月 桜」	禁忌の恋・・・『菅原伝授手習鑑』			
第 9 回	「四月 藤」	藤のデザインと季節感の演出			
第 10 回	「五月 あやめ」	『伊勢物語』と琳派の絵			
第 11 回	「六月 牡丹」	牡丹と中国趣味、能楽 [『石橋』の世界			
第 12 回	「六月 牡丹」	蕪村の愛した牡丹、漢詩と俳句			
第 13 回	「七月 萩」	猪はポエティックな動物			
第 14 回	「八月～十二月」十二月概観	十二月の札に季節感のズレがある理由			
第 15 回	発展項目	ことば遊び、浮世絵に見る遊び			

国際

授業番号	B100120001				
科目名 (英語表記)	日本理解 I (日本の伝統文化と社会) (A Japanese understanding I)				
担当者 (英語表記)	土田 宏 (Hiroshi Tsuchida)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本の伝統文化の代表とされる「茶道」を主に考察することで、日本および日本人の底流にある精神を探り出すことを目的とする。よりよく日本を知ること、日本を見る新しい視点を提示したいと願っている。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義中心に進めるが、多くの人には馴染みのない「茶道用語」などが使われることになると思う。遠慮無く質問してほしい。適時、映像を利用して、理解を深めたいと願っている。				
成績評価方法	定期試験を評価基準とする。ただし、出席が 70 パーセントに満たない場合は、自動的に登録放棄と判断する。				
基準					
授業の予習・復習	毎回の授業のための予習として、初回の授業で配る予定表に従って教科書を読んでおく。毎回の授業の復習は必ずしておくこと。不明な点を残さないように。				
教科書	田中仙翁 『茶道の美学』 講談社学術文庫				
参考文献	桑田忠親 『茶道の歴史』 講談社学術文庫 土田隆宏 『利休 最期の半年』 彩流社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	はじめに	日本文化の基礎としての茶道			
第 2 回	茶道の歴史 その 1	室町時代まで			
第 3 回	茶道の歴史 その 2	武士から町人へ 戦国時代の発展			
第 4 回	茶道の歴史 その 3	元禄時代 (家元制度の確立) と明治維新時の存続の危機 (文明開化)			
第 5 回	茶道の歴史 その 4	現代まで 現在の生活に茶道は何を意味するか			
第 6 回	千利休の茶 その 1	町人の茶の完成 道具と精神性			
第 7 回	千利休の茶 その 2	茶室の工夫 1. 暗さの追求			
第 8 回	千利休の茶 その 3	茶室の工夫 2. 狭さの追求			
第 9 回	千利休の茶 その 4	茶禅一味 無の追求と「道」の完成			
第 10 回	千利休と茶庭 (露地)	日本庭園の変貌の中で			
第 11 回	茶懐石と日本料理	もてなしの心と食事作法 (マナー) を考える			
第 12 回	茶会と茶事	文化の伝承を考える			
第 13 回	日本の宗教 1	神道と伝統行事			
第 14 回	日本の宗教 2	仏教の真理と仏像の見方			
第 15 回	まとめ 奈良と京都	二つの都から見えるもの			

国際					
授業番号	B100130001				
科目名 (英語表記)	日本理解 II (日本の現代カルチャー) (A Japanese understanding II)				
担当者 (英語表記)	土田 環 (Tamaki Tsuchida)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	主として 1950 年代以降の日本映画史を大まかに学びつつ、映画を通して日本の政治・経済・社会の動向について考察する。講義は、基礎的な知識を学ぶための【歴史】と作品の見方について考えるための【テーマ】に分け、隔週ずつ、両者を交互に論じながら進めていく。映像を通して、その表現としての特殊性について考えることを目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は特になし。授業は講義形式を進める。様々な映像を見せる予定だが、作品を全編にわたって上映することはできないので、各自、映画を多く見ること (シネコンからミニ・シアターまで作品を問わない)。				
成績評価方法	出席および期末レポートによって評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業で取り扱う予定の映画作品をなるべく多く見ること。映画館に行くこと。 復習：授業で指示した映画、DVD をなるべく多く見ること。				
教科書	特になし。適宜プリントを配布する。				
参考文献	高峰秀子『わたしの渡世日記 上・下』(文春文庫、1998)、四方田犬彦『日本映画史 100 年』(集英社新書、2000)、日本映画専門チャンネル編『『踊る大捜査線』は日本映画の何を変えたのか』(幻冬舎、2010)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	イメージを見ること／読むこと			
第 2 回	【歴史 1】映画の「新しさ」	現在の日本映画の概況			
第 3 回	【テーマ 1】「日本製」映画のつくり方	「製作委員会」の役割			
第 4 回	【歴史 2】逆輸入の発想	1995 の日本映画—映画にとっての「外部」			
第 5 回	【テーマ 2】自己と他者	映画における「日本人」の表象			
第 6 回	【歴史 3】「アイドル」の時代	「低予算」映画と日本映画の 1980 年代			
第 7 回	【テーマ 3】フォーマット・セールスとは何か	日本映画史における国際文化交流			
第 8 回	【歴史 4】撮影所の崩壊①	「ニューヴェル・ヴァーグ」から ATG へ—1960-70 年代			
第 9 回	【テーマ 4】風景の変容	日本映画における「東京」および「郊外」の表象			
第 10 回	【歴史 5】撮影所の崩壊②	「真実」と「虚構」のはざまに—岩波映画製作所と「青の会」			
第 11 回	【テーマ 5】記憶の継承	映画における「記憶」の表象			
第 12 回	【歴史 6】弱りと輝きの波	「プログラム・ピクチャー」という概念—1960 年代			
第 13 回	【テーマ 6】「模倣」と「盗作」の境界	映画における「引用」とは何か			
第 14 回	【歴史 7】「戦後」の映画	「撮影所」と日本映画の第二の黄金期—1950 年代			
第 15 回	【テーマ 7】映画における「ジャンル」とは何か	日本映画における「幽霊」の表象			

国際

授業番号	B102960001		
科目名 (英語表記)	比較文化論 (Comparative Cultures)		
担当者 (英語表記)	村川 庸子 (Yoko Murakawa)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	今年度は、日米戦争中に戦略的な目的で書かれた、日米比較文化論の古典とも言うべき『菊と刀』(R. ベネディクト) と、これを厳しく批判した、日本在住の政治思想家 D. ラミスらの論説を読み比べてみたい。まずは「文化を比較する」という場合の主体の立ち位置の違いを意識すること、批判的に読み解くこと、最終的には受講者それぞれの目から見た文化論を展開することを目指す。		
授業の進め方 (履修条件など)	事前にテキストを読み、簡単に内容と、共感する部分、疑問に思う部分をまとめておくことを前提に授業を進める。コーネル式ノート作成法を用いた成績評価を行う。		
成績評価方法 基準	コーネル式ノート作成法を用いて成績評価を行う。(予習 30%; ノートの取りまとめ (コメント部分を中心に) 40%; ラミス氏の論考に対する批判 30%)		
授業の予習・復習	事前にテキストを読み、簡単に内容と、共感する部分、疑問に思う部分をまとめておくことを前提に授業を進めていきたい。授業後はノートの「コメント」欄を中心にまとめておくこと。		
教科書	ルース・ベネディクト『菊と刀 日本文化の型』(講談社学術文庫)		
参考文献	ダグラス・ラミス (2007) 『ふつうの国になりましょう』		

回数	授業項目	授業内容
第1回	導入	文化とは何か?文化を比較するとはどういうことか?
第2回	講義	日本論・日本人論の系譜
第3回	講義	第1章 [研究課題—日本].....文化人類学という学問
第4回	講義	第2章 「戦争中の日本人」.....戦争と日米の相互イメージ
第5回	講義	第3章 「各々其ノ所ヲ得」.....日本の階層制度
第6回	講義	第5章 「過去と世間に負目を負う者」・第6章 「万分の一の恩返し」.....「恩」
第7回	講義	第7章 「義理ほどつらいものはない」.....「義理」と「義務」
第8回	講義	第8章 「汚名をすすぐ」.....「堪へ難キヲ堪へ忍び難キヲ忍ぶ」
第9回	講義	第9章 「人情の世界」.....自己犠牲
第10回	講義	第12章 「子供は学ぶ」.....日本人は14歳?
第11回	講義	第13章 「降伏後の日本」.....「多過ぎもせず少な過ぎもしない寛大さ」
第12回	講義	D. ラミス『菊と刀 再考』を読む
第13回	グループ討論	私の『菊と刀 再考』
第14回	全体討論	私の『菊と刀 再考』
第15回	まとめ	総括

# 国際

授業番号	B100950001				
科目名 (英語表記)	ビジネス英語 (Business English)				
担当者 (英語表記)	嶋川 洋一 (Youichi Shimakawa)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	このコースでは、英語でビジネス・コミュニケーションを行う際に必要な2つの側面に注目します。1つは、自分の意図を正確に伝えるための英語表現、発音、抑揚など英語コミュニケーション能力です。2つ目は、相手の文化背景 (価値観や思考法、コミュニケーション・スタイル等) を考慮して、状況に応じて自分のスタイルを変える異文化コミュニケーション力です。				
授業の進め方 (履修条件など)	指定の教材を中心に授業を進めます。随所でビデオ分析やロールプレイなどを行い、授業中は英語を読んだり、英語で話したりします。積極的な参加を前提に授業を進め、参加度を評価します。				
成績評価方法 基準	参加度 (30)、小テスト4回 (10×4=40)、中間テスト (20)、最終発表 (10) の計100%で評価します。出席は前提条件です。出席が3分の2以下になると、テストの成績が仮にとても良くても、不合格になります。				
授業の予習・復習	予習：授業参加のために指定された教科書の予習をお願いします。				
教科書	Kadoyama, Teruhiko & Simon, Capper (2012) Let's Read Aloud & Learn English! Seibido ISBN978-4-7919-1284-1 2,200円 (税別)				
参考文献	入門ビジネス英語：ベストプラクティス1自己紹介からプレゼンまで/ジョン・ギレスピー&嶋川洋一・NHK出版/2009/第1刷/ISBN:978-4-14-039514-1				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	出迎え	オリエンテーション/人を紹介する			
第2回	出会い	仕事を尋ねる・説明する			
第3回	苦情対応	謝罪する・意向を尋ねる 小テスト1			
第4回	会議の準備	場所や時間を尋ねる			
第5回	出張打ち合わせ	依頼する			
第6回	使用法説明	使い方を説明する 小テスト2			
第7回	仕事の悩み	相談する・励ます			
第8回	電話対応	聞き返す・確認する 中間テスト			
第9回	会議の準備	指示する・確認する			
第10回	オフィス案内	場所を説明する・感謝する			
第11回	会議	比較する・詳細を尋ねる 小テスト3			
第12回	チェックイン	依頼する・希望を述べる			
第13回	再会	人を誘う・頻度を尋ねる 小テスト4			
第14回	スモールトーク	経験・予定を尋ねる			
第15回	将来の夢	計画・理由を尋ねる 最終発表			



国際					
授業番号	B102370001				
科目名 (英語表記)	ファイナンス (Corporate Finance)				
担当者 (英語表記)	織井 啓介 (Keisuke Orii)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	ビジネスパーソンの必須知識となってきた「企業ファイナンス」の基礎を平易に学習します。キャッシュフロー、割引現在価値、最適資本構成といった企業ファイナンスの基礎が理解できるようになり、ビジネスパーソンとなる準備ができます。財務に関する基本英語も身につきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義とプリントによる簡単な演習が中心です。ノートをしっかり取り、章ごとに整理・復習しましょう。複利計算など、基礎的な数学力が必要 (電卓必携) です。				
成績評価方法	①期末試験 (教場試験またはレポート) 50%、②平常点 50%が評価の目安です。				
基準					
授業の予習・復習	予習: 配布プリントを予習しましょう。 復習: 練習問題を自宅で演習し、次の授業時間に答え合わせをしましょう。				
教科書	とくに使用しません。				
参考文献	滝川好夫『入門ファイナンス理論』日本評論社、2007年。 Simon Benninga, Financial Modeling, The MIT Press, 2008.				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	「ファイナンス」講義の概要	講義スケジュール等を説明			
第2回	第1章: 財務諸表	貸借対照表と損益計算書			
第3回	第2章: 財務分析	安全性と収益性の指標			
第4回	第3章: キャッシュフロー①	キャッシュフローの概要			
第5回	第3章: キャッシュフロー②	フリーキャッシュフロー			
第6回	第4章: 資本コスト	加重平均資本コスト (WACC)			
第7回	第5章: 投資の決定	正味現在価値と内部収益率			
第8回	第6章: 企業価値	企業価値の算出			
第9回	第7章: 最適資本構成①	MM理論			
第10回	第7章: 最適資本構成②	法人税と倒産リスク			
第11回	第8章: 配当政策①	増配			
第12回	第8章: 配当政策②	自社株買い			
第13回	第9章: 財務戦略①	IPOとM&A			
第14回	第9章: 財務戦略②	TOBとMBO			
第15回	「ファイナンス」講義のまとめ	総括と補遺事項			

国際

授業番号	B102720001				
科目名 (英語表記)	フィールド調査 (Field Studies)				
担当者 (英語表記)	村川 庸子 (Yoko Murakawa)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、フィールドワークやインタビューの手法を用いた質的データの収集法及びデータの分析方法を学び、身につけることを目的とする。量的調査との比較において、質的調査のもつ可能性、方法を理論的に学び、基本的な概念の理解と論理的な思考力、構成力を養う。最終的に、簡単な調査を企画し、データ収集、整理、解析から報告書の作成までを実践することで、フィールド長さの可能性を体感させたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	前半は教科書を土台に講義形式で、後半はグループでフィールドワークを企画・実践し、報告書を作成する。実習を伴う科目であるので、定員を 30 名以内に制限する。				
成績評価方法	コーネル式ノート作成法を活用する。前半は講義のまとめに、後半の実習ではフィールドノートとして用いる。				
基準					
授業の予習・復習	予習：テキストの指定部分を読み、概要をまとめておくこと。 復習：ノートの「コメント」欄をまとめておくこと。				
教科書	佐藤郁哉『フィールドワーク 書を持って街へ出よう』(新曜社)				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	導入	フィールドワークとは何か テキスト 16-72			
第 2 回	講義	質的調査と量的調査 理論の「生成」 テキスト 74-93			
第 3 回	講義	質的研究におけるデータと「感受概念」 テキスト 94 - 116			
第 4 回	講義	社会調査の方法：フィールドワーク、サーベイ、実験、非干渉的技法 テキスト 116-146			
第 5 回	講義	研究の企画設計—関心領域の特定と研究対象 テキスト 149-157			
第 6 回	講義	質的データの収集法 (1) 参与観察の手法 テキスト 158-254			
第 7 回	講義	質的データの収集法 (2) 調査倫理、アクセス			
第 8 回	講義	質的データの収集法 (3) 半構造的インタビュー			
第 9 回	講義	質的データの収集法 (4) ライフヒストリー			
第 10 回	講義	質的データの整理と分析—データの文書化と分析			
第 11 回	グループワーク	フィールドワークの企画			
第 12 回	グループワーク	フィールドワークの実施			
第 13 回	グループワーク	分析結果の報告			
第 14 回	クラスワーク	調査結果の執筆			
第 15 回	まとめ	総括			

国際		
授業番号	B100020001	
科目名 (英語表記)	文章表現 (Writing Expression)	
担当者 (英語表記)	櫻木 紀子 (Noriko Sakuragi)	
対象学年	1	
単位数	2	
留学生 (A)		
授業のねらいと到達目標	レポート作成能力を身につける。自分で書いた文章を添削・推敲する力を養う。	
授業の進め方 (履修条件など)	(1) 課題の内容を要約し、過不足のない文章を作成する。 (2) 上記を充実させるための語・表現を増やす。 (3) 意見を述べる。 (4) 他者の意見に賛成する或いは反対する意見を述べる。 (5) 課題をワープロで清書し、提出する。	
成績評価方法 基準	宿題や授業中の課題の提出また授業中の活動で評価する。期末試験はなし。課題全ての提出及び全てにおいて60%以上とることが必須条件。	
授業の予習・復習	予習：課題について考えメモあるいは文章化する。 復習：指示された添削ポイントに注意しながら自ら添削・推敲する。	
教科書	なし。新聞等からの記事が資料として配布されることがある。この資料は可能な限り、授業直前に出たものから選ぶ。	
参考文献	ない。適当なものがあれば、授業中に紹介される。	
回数	授業項目	授業内容
第1回	課題①の1：普通体で書く	この授業への期待、決意等について考え、書く。提出する。
第2回	課題①の2：完成する	添削された課題①の1を各自書き直す。
第3回	課題②：事実を整理する。その1	配布された資料を読む或いは見る。要約する
第4回	課題②：事実を整理する。その1 完成	推敲するためのチェックポイントに従って各自推敲する
第5回	課題②：事実を整理する。その2	配布された資料を読む或いは見る。要約する
第6回	課題②：事実を整理する。その2 完成	推敲するためのチェックポイントに従って各自推敲する
第7回	課題③：その1。賛成又は反対意見を述べる	理由を述べて賛成又は反対する
第8回	課題③：その1。完成	内容に論理の矛盾がないか等検討する
第9回	課題③：その2。賛成又は反対意見を述べる	理由を述べて賛成或いは反対する
第10回	課題③：その2。完成	内容に論理の矛盾がないか等検討する
第11回	課題④：四段落文その1。異なる意見を認める	自分と異なる意見に同意点を認めつつ、自分の意見を述べる
第12回	課題④：四段落文その1。完成	内容に論理の矛盾がないか等検討する
第13回	課題④：四段落文その2。異なる意見を認める	自分と異なる意見に同意点を認めつつ、自分の意見を述べる
第14回	課題⑤：今学期の反省とこれからの抱負	自分について上達したことや反省点などを分析し、客観的に述べる
第15回	課題⑤：完成。各自文集作成	表紙を作成し、その表紙選択の理由を口頭で述べる。

国際

授業番号	B100020005				
科目名 (英語表記)	文章表現 (Writing Expression)			(A) こども専用	
担当者 (英語表記)	山口 政之 (Masayuki Yamaguchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	大学生活及び教育実習で求められる文章表現能力を高めるために、様々な書く活動を行います。また、ライセンス取得を支援するために、問題集等を適宜活用しますので、進んで挑戦してください。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、次のように進めます。①出席確認 (簡単なスピーチを含む)、②小テスト・課題発表、③本時の課題。電子辞書は必要ですが、原則として携帯電話の使用は認めません。				
成績評価方法	出席の状況、課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえて総合的に評価します。自己責任による遅刻は減点し、欠席4回は履修放棄とみなします。				
授業の予習・復習	予習：その都度指示します。 復習：授業で出た課題は、次の時間に各自が発表するので必ず取り組んでください。				
教科書	適宜、印刷物を配布します。				
参考文献	木下是雄『理科系の作文技術』中公新書、本多勝一『日本語の作文技術』朝日文庫、斎藤美奈子『文章読本さん江』ちくま文庫				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	教職員に求められる文章表現力とは何か			
第2回	ノート	動的聴解力を鍛えるために			
第3回	手帳	提出や発表、試験の準備を忘れないために			
第4回	読解と要約①	新聞記事を読み、要約する			
第5回	読解を要約②	書籍の一部を読み、要約する			
第6回	図書館の利用	大学メディアセンターと公立図書館の違いを知り、利用目的を明確にする			
第7回	レポート①	引用の仕方			
第8回	レポート②	授業内容との関連			
第9回	メール	端的に文章表現をする長所と短所を理解する			
第10回	手紙	手紙の形式を理解し、大学生活を知人に伝える			
第11回	小論文①	4年生になってあわてないために、今のうちから課題とするポイントを理解する。			
第12回	小論文②	課題の把握と構成、段落意識			
第13回	小論文③	模範となる小論文を読解し、論の構成や話題と取り上げ方等を理解する。			
第14回	エントリーシート①	相手の求める自分のよさを伝えるために			
第15回	エントリーシート②	今後の学生生活において文章表現を向上させるために			

国際			
授業番号	B100020006		
科目名 (英語表記)	文章表現 (Writing Expression)		日本人 (C)
担当者 (英語表記)	坂東 実子 (Jitsuko Bando)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>大学で学び、レポートや研究発表をする基礎となる文章表現の力を身につける。</p> <p>客観的分析と、主観的な判断も交えた考察をわけて、明快な文章が書けるようになる。</p> <p>大学二年生以降の学びに役に立つ個人文集を作成する。</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	<p>毎回、当日のテーマの概要説明を受け、練習問題に取り組んだ後、作文設計図または、作文課題を授業時間内に書いて提出する。</p> <p>添削された作文を受け取ったら速やかにテキスト文書に打ち、教師にメール送信する。</p>		
成績評価方法	授業で書いた7本の作文が収録された「個人文集」の完成度と、毎回の授業や提出する課題への取り組みによって判定する。		
基準			
授業の予習・復習	<p>予習は、授業で書く作文のテーマについて調べ、考える。</p> <p>復習は、添削・返却された自分の作文を、PCで清書し、教師にメールで送付。</p>		
教科書	現在執筆中、2013年3月刊行予定の教科書を学期が始まってから教室で販売予定。		
参考文献	特になし。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	授業概要。作文①(説明文)作成。	客観的記述と主観的記述を書き分ける。三段構成の説明文を書く。	
第2回	三段構成の意見文の導入。	作文①講評。作文②(意見文)の設計図を書く。	
第3回	作文②。賛成・反対の意見文を書く。	作文②、自分の反対意見の側の主張にも理解を示し、それを踏まえつつ自分の意見を展開する作文を書く。	
第4回	作文③(課題文を踏まえた意見文)設計図を作成する。	新聞記事などを読み、自分の反対意見にも理解を示しつつ、自分の意見を主張する作文③の設計図を作成する。	
第5回	作文③(課題文を踏まえた意見文)を書く。	作文③の設計図返却。それをもとに作文を完成させる。	
第6回	作文④ 敬語を使った手紙文	敬語の復習。手紙の書式、頭語と結語などを確認し、手紙(作文④)を書く。	
第7回	作文⑤: 履歴書を書く	履歴書を書く。欄の埋め方、志望動機の書き方、などを確認。作文⑤として作成・提出。	
第8回	作文⑥「before/after(自分のこと)」の作文。設計図。	作文⑥「before/after(自分の変化)」導入。ある出来事を軸に、それ以前とそれ以後を対比させる作文。 例:「大学生になる前/後」、「留学する前/後」など	
第9回	作文⑥「before/after(自分のこと)」の作文を完成させる。	作文⑥「before/after(自分の変化)」の設計図をもとに作文を書く。四段構成。	
第10回	作文⑦「before/after(社会のこと)」の作文。設計図。	作文⑦「before/after(社会の変化)」導入。ある出来事を軸に、それ以前とそれ以後を対比させ、社会が大きく変わったことを考察する作文。 例:「東北大震災」、「成田エクスプレス」	
第11回	作文⑦「before/after(社会のこと)」の作文を完成させる。	作文⑦「before/after(社会の変化)」。設計図をもとに作文を完成させる。	
第12回	作文⑧時間軸と対立項のある作文。設計図。	これまで学習した、対立項のある作文、時間軸のある作文の両方の要素をもつ作文の設計図を作成する。 例:国際比較の報告書のデータを参考にして、二国の10年前と現在を比較分析考察する。	
第13回	作文⑧時間軸と対立項のある作文を完成させる。	作文⑧時間軸と対立項のある作文を、設計図をもとに完成させる。	
第14回	個人文集作成。word文書の整え方。	情報処理の教室で、文集を完成させる。これまで授業で書き、清書をメールで送っていたものをまとめ、表紙・目次・あとがきも含めて、書式を整える。初心者でも大丈夫です。	
第15回	個人文集を完成させ、提出。	文集完成に向けて作業。終わった人は、文集を提出。教師がチェックし、文集を返却。	

国際			
授業番号	B100020007		
科目名 (英語表記)	文章表現 (Writing Expression)	留学生 (B)	
担当者 (英語表記)	櫻木 紀子 (Noriko Sakuragi)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	レポート作成能力を身につける。自分で書いた文章を添削・推敲する力を養う。		
授業の進め方 (履修条件など)	(1) 課題の内容を要約し、過不足のない文章を作成する。 (2) 上記を充実させるための語・表現を増やす。 (3) 意見を述べる。 (4) 他者の意見に賛成する或いは反対する意見を述べる。 (5) 課題をワープロで清書し、提出する。		
成績評価方法 基準	宿題や授業中の課題の提出また授業中の活動で評価する。期末試験はなし。課題全ての提出及び全てにおいて60%以上とることが必須条件。		
授業の予習・復習	予習：課題について考えメモあるいは文章化する。 復習：指示された添削ポイントに注意しながら自ら添削・推敲する。		
教科書	なし。新聞等からの記事が資料として配布されることがある。この資料は可能な限り、授業直前に出たものから選ぶ。		
参考文献	ない。適当なものがあれば、授業中に紹介される。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	課題①の1：普通体で書く	この授業への期待、決意等について考え、書く。提出する。	
第2回	課題①の2：完成する	添削された課題①の1を各自書き直す。	
第3回	課題②：事実を整理する。その1	配布された資料を読む或いは見る。要約する	
第4回	課題②：事実を整理する。その1 完成	推敲するためのチェックポイントに従って各自推敲する	
第5回	課題②：事実を整理する。その2	配布された資料を読む或いは見る。要約する	
第6回	課題②：事実を整理する。その2 完成	推敲するためのチェックポイントに従って各自推敲する	
第7回	課題③：その1。賛成又は反対意見を述べる	理由を述べて賛成又は反対する	
第8回	課題③：その1。完成	内容に論理の矛盾がないか等検討する	
第9回	課題③：その2。賛成又は反対意見を述べる	理由を述べて賛成或いは反対する	
第10回	課題③：その2。完成	内容に論理の矛盾がないか等検討する	
第11回	課題④：四段落文その1。異なる意見を認める	自分と異なる意見に同意点を認めつつ、自分の意見を述べる	
第12回	課題④：四段落文その1。完成	内容に論理の矛盾がないか等検討する	
第13回	課題④：四段落文その2。異なる意見を認める	自分と異なる意見に同意点を認めつつ、自分の意見を述べる	
第14回	課題⑤：今学期の反省とこれからの抱負	自分について上達したことや反省点などを分析し、客観的に述べる	
第15回	課題⑤：完成。各自文集作成	表紙を作成し、その表紙選択の理由を口頭で述べる。	

# 国際

授業番号	B101860001				
科目名 (英語表記)	平和・安全保障論 (Peace and National Securities)				
担当者 (英語表記)	庄司 真理子 (Mariko Shoji)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	グローバル化の今日、戦争とは全く縁もないと思われる日本の生活も、実は地球の裏側で起きている戦争に大きく関わっている。本講の目的は、最終的に今日のグローバル化における『新しい戦争』ともいえる現象に、どのように向き合っていって良いのかを検討することにある。その前提として、人類が戦争を克服し平和をもたらすために、どのような方途を編み出してきたのかを検討する必要がある。講義では、まずは古典的な形式である国家対国家の戦争の違法化の問題からはじめ、国連の平和と安全の維持制度の検討、その後の新しい平和への課題の模索へと議論をすすめる。講義の中で理解してほしいことは、旧来の戦争と異なり、今日の戦争の主体は国家ではなく地球市民、すなわち私たち一人一人となってきていることである。私たちの姿勢が、地球に戦争をもたらすか平和をもたらすかを決定づけていることを認識して欲しい。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式で授業をすすめる。平和研究を学ぶ上で、その裏返しの戦争の体験をした学生は少ない。授業にかかわる短いビデオなどを見ながら戦争を疑似体験してもらう予定である。				
成績評価方法 基準	授業の参加度 40%、中間のテスト 30%、中間試験 30%				
授業の予習・復習	予習については講義中に指示する。特に授業中が勝負である。真摯な授業態度で臨んでほしい。復習は、講義ノートを良く読むこと。講義中に示したビデオのいくつかは映画が出ているので、メディアセンターなどで借りて見るようにしてほしい。				
教科書	一つに限定しない。参考文献を参照のこと。				
参考文献	小柏・松尾『アクター発の平和学』法律文化社。 藤原・大芝・山田編『平和構築・入門』有斐閣コンパクト。 山田・小川・野本・上杉『新しい平和構築論』明石書店。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	イントロダクション	「平和」とは何か			
第2回	戦争法の時代	正戦論 無差別戦争観			
第3回	戦争の違法化	「西部戦線異状なし」			
第4回	国連による平和と安全の維持 I	集団安全保障制度 北朝鮮			
第5回	国連による平和と安全の維持 II	紛争の平和的解決 スリランカ			
第6回	国連平和維持活動	国連平和維持活動とレバノン			
第7回	平和への課題	予防外交 (紛争予防)、「スレブレニツァの悲劇」マケドニア予防展開軍			
第8回	中間まとめ	中間試験をする			
第9回	人間の安全保障	人間の安全保障とコンゴ			
第10回	人道的介入と保護する責任	リビアと保護する責任			
第11回	平和構築 I	平和構築とイラン			
第12回	平和構築 II	アフガニスタンと紛争後選挙			
第13回	平和構築 III	真実和解委員会と南アフリカ			
第14回	企業・地球市民社会と紛争	国連グローバルコンパクト			
第15回	武器商人・子ども兵・密輸	シエラレオネ			

国際

授業番号	B102260001				
科目名 (英語表記)	簿記会計基礎 (Bookkeeping and Accounting)				
担当者 (英語表記)	佐竹 勇子 (Yuko Satake)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、初めて簿記を学ぶ人に簿記のしくみを理解してもらい、実務で使用されている会計ソフトを利用してコンピュータによる簿記会計の基礎知識を修得することを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書と配布プリントをもとに簿記の一定のルールを学習しながら、会計ソフト弥生を実習する。				
成績評価方法	平常点及び課題提出 (40%)・定期試験 (60%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：特に必要としない 復習：教科書を見直して簿記用語を覚えてください。				
教科書	『図解でわかる簿記入門』実教出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と評価方法			
第 2 回	簿記のしくみ	複式簿記と管理会計について			
第 3 回	貸借対照表	資産・負債・資本			
第 4 回	損益計算書	収益・費用			
第 5 回	勘定と取引	5つの勘定と勘定科目・取引の2面性			
第 6 回	伝票と会計帳簿	伝票の種類と仕訳帳・元帳			
第 7 回	試算表と決算	決算整理と8桁精算表			
第 8 回	仕訳～精算表	取引をもとに精算表作成まで			
第 9 回	会計ソフト (弥生 1)	起動と環境設定・保存方法			
第 10 回	会計ソフト (弥生 2)	勘定科目と補助科目の作成および修正			
第 11 回	会計ソフト (弥生 3)	開始残高の入力			
第 12 回	会計ソフト (弥生 4)	仕訳入力画面の基本操作			
第 13 回	会計ソフト (弥生 5)	帳簿や伝票からの入力方法			
第 14 回	会計ソフト (弥生 6)	集計表と会計情報の活用			
第 15 回	まとめ	復習と試験対策			



国際					
授業番号	B103640001				
科目名 (英語表記)	ボランティア活動 I (Volunteerism and Society I)				
担当者 (英語表記)	水口 章 (Akira Mizuguchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本授業では、「ボランティア元年」といわれた阪神・淡路大震災における「まずはやってみよう！」という精神と、東日本大震災で問われた「ボランティアが持っていたい能力・スキル」について学びます。その知識をもとに、本学所在地でのボランティア活動の実施計画を立案することを到達目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業形式は、講義とブレインストーミングを組み合わせたものとなります。短期課題として、稲毛地区のボランティア活動の実態をグループ調査を行います。その調査を踏まえて、実施計画を作成します。				
成績評価方法	学習態度 (小レポート、出席状況) 20%、実施計画書と自己評価書 80%で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。 復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めてください。				
教科書	特に指定しませんが、適宜プリントを配布します。				
参考文献	特に指定しません。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	はじめに	ボランティア活動への期待			
第 2 回	学習手法	ブレインストーミング手法と KJ 法による整理			
第 3 回	ボランティアの現状	現状と「抱える課題」の紹介			
第 4 回	求められるボランティア像	精神・能力・スキルについて			
第 5 回	自由討論	「ボランティア活動疲れ」を考える			
第 6 回	ボランティア活動の実態報告 1	海外のボランティア組織			
第 7 回	ボランティア活動の実態報告 2	日本の国際ボランティア組織			
第 8 回	ボランティア活動の実態報告 3	教育機関 (高校、大学など) の活動より			
第 9 回	ボランティア活動の実態報告 4	企業の活動より			
第 10 回	自由討論	「千葉県ボランティア活動の課題」について			
第 11 回	グループ作業 1	ボランティア活動内容の検討			
第 12 回	グループ作業 2	実施計画書作成 (目的、目標)			
第 13 回	グループ作業 3	実施計画書作成 (実施方法・計画)			
第 14 回	グループ作業 4	実施計画の自己評価書			
第 15 回	まとめ	ボランティア活動の意義			

国際

授業番号	B103650001				
科目名 (英語表記)	ボランティア活動 II (Volunteerism and Society II)				
担当者 (英語表記)	大月 隆成 (Takashige Otsuki)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>ボランティアとは、ボランティアをしようとする人間の、自由な意思に基づいた行動であり、関わり方は人それぞれである。この授業では、実際にボランティアを経験することを通して、(1) 自ら積極的に物事に関わっていく姿勢を培い、(2) ボランティアとは自分が多くのことを学び身につける場であることを、体感的に会得することを目指す。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>ボランティア活動 I を履修していることが履修条件である。事前に計画書を提出した上で実際にボランティア活動を行い、報告書を提出した者に対して、単位認定の審査を行う。</p>				
成績評価方法	<p>ボランティア結果のレポートに基づいて評価を行う。どのようなボランティアをどの程度行ったかは、当然重要な要素となる。</p>				
基準					
授業の予習・復習	<p>事前に情報収集を行って、どのようなボランティアがあるかを調べる。ボランティアを通して自らが経験したことや得たものを、その都度記録しておく。</p>				
教科書	<p>特定の教科書は使用しない。</p>				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法等			
第 2 回	ボランティア計画の作成 (1)	ボランティア情報の収集			
第 3 回	ボランティア計画の作成 (2)	ボランティアを行うに当たっての留意点			
第 4 回	ボランティア計画の作成 (3)	ボランティア計画書の書き方			
第 5 回	ボランティア活動の実施 (1)	個別面談 (1)			
第 6 回	ボランティア活動の実施 (2)	個別面談 (2)			
第 7 回	ボランティア活動の実施 (3)	個別面談 (3)			
第 8 回	ボランティア活動の実施 (4)	個別面談 (4)			
第 9 回	ボランティア活動報告書の作成 (1)	ボランティア活動報告書の書き方			
第 10 回	ボランティア活動の実施 (5)	個別面談 2 回目 (1)			
第 11 回	ボランティア活動の実施 (6)	個別面談 2 回目 (2)			
第 12 回	ボランティア活動の実施 (7)	個別面談 2 回目 (3)			
第 13 回	ボランティア活動の実施 (8)	個別面談 2 回目 (4)			
第 14 回	ボランティア活動報告書の作成 (2)	報告書のポイントと留意事項			
第 15 回	まとめ	これからのボランティアのために			

国際

授業番号	B102300001				
科目名 (英語表記)	マーケティングリサーチ I (Marketing research I)				
担当者 (英語表記)	中嶋 励子 (Reiko Nakajima)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	社会調査で収集されるデータの分析方法を、社会科学統計パッケージソフト (SPSS) を用いて学びます。到達目標は、授業で扱うデータを用いて、記述統計量 (平均値、分散、標準偏差、中央値等)、単純集計、クロス集計 ( $\chi^2$ 検定を含む)、相関などの分析が行えるようになること、それぞれの統計値や分析に適切なグラフを示すことができるようになること、分析の結果について適切な解釈とレポートにまとめる力をつけることです。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は特にありませんが、パソコンによる基本操作 (エクセル、ワードなど) はできるようにしておいてください。統計用語の知識は、授業の中で適宜説明していきますので、特に必要ありません。				
成績評価方法 基準	平常点 (毎回の授業時間内に提出する小課題) 50% 最終課題 50%				
授業の予習・復習	予習: 特に必要はありません。 復習: 毎回の授業で学ぶ分析方法を確実に身につけるために、自習時間を利用して、授業内容や課題を理解するようにしてください。繰り返し行うことによって、分析や解釈を身につけるようにしてください。 特に、授業内に提出する課題については、講師のコメントや解説をよく見聞きし、十分に復習しておくこと。				
教科書	『社会調査のための統計学』 神林博史・三輪哲 評論社 (2011年)				
参考文献	『SPSS と Amos による心理・調査データ解析』 小塩真司著 東京図書 (2004年)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいと到達目標、評価方法など			
第 2 回	データ入力・編集	エクセルでのデータ入力、統計ソフト SPSS 用 (sav.) 変換			
第 3 回	尺度の種類、変数の種類	質的・量的変数、尺度の種類、変数ラベル・値ラベル			
第 4 回	分析のための基礎統計用語	データ分析を行うための基礎的な統計用語の説明			
第 5 回	データの単純集計	データの単純集計表の作成と見方の説明			
第 6 回	単純集計のまとめ方	変数の種類などに適したグラフの作成の仕方			
第 7 回	基本統計量	度数分布に関する基本統計量			
第 8 回	クロス集計 (2 変数)	質的データ 2 変数のクロス集計表の作成とその解釈			
第 9 回	$\chi^2$ 検定	$\chi^2$ 検定とその解釈			
第 10 回	クロス集計 (3 変数)	質的データ 3 変数のクロス集計表の作成とその解釈			
第 11 回	相関 (1)	散布図、相関係数、はずれ値			
第 12 回	相関 (2)	擬似相関、偏相関、相関と因果			
第 13 回	複数回答のデータ	複数回答の集計表の作成と解釈			
第 14 回	新しい変数の作成、ケース選択	複数カテゴリのまとめ方、必要なケースの選択			
第 15 回	データ分析のまとめ	データ分析を適切にまとめる方法			

国際

授業番号	B102390001				
科目名 (英語表記)	マーケティングリサーチ II (Marketing research II)				
担当者 (英語表記)	高橋 和子 (Kazuko Takahashi)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	授業のねらいは、経済・経営分野で用いられる量的なデータの分析方法と、そこで必要になる推測統計学について解説することです。また、地域調査に必要なデータの分析方法も解説します。到達目標は、社会科学分野における量的データの分析を行い、その結果をレポートに的確にまとめる能力を身につけることです。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義により基本的な統計用語を理解した後、社会科学統計パッケージソフト (SPSS) を用いて実際にデータ分析を行います。「マーケティングリサーチ I」を履修していることが望ましい。「社会調査士」「地域調査士」資格必須科目。				
成績評価方法	レポート：60% 授業参加態度：40%				
基準					
授業の予習・復習	予習：テキストを事前に読んでおくことが望ましい。 復習：授業で習った新しい知識を身につけるために自習時間を活用してください。				
教科書	『読む統計学 使う統計学』 広田すみれ著 慶應義塾大学出版会 2005年				
参考文献	適宜、プリントを配布します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	量的なデータと質的なデータの違い			
第2回	1変数の基本統計量	平均値、中央値、最頻値、レンジ、分散、標準偏差など			
第3回	2変数の関連 (1)	散布図、相関係数			
第4回	2変数の関連 (2)	偏相関係数、属性相関、変数のコントロールなど			
第5回	回帰分析 (1)	単回帰分析			
第6回	回帰分析 (2)	重回帰分析			
第7回	推測統計学 (1)	母集団と標本、標本抽出法			
第8回	推測統計学 (2)	確率論の基礎、正規分布、標準正規分布			
第9回	推測統計学 (3)	統計的推定・検定の考え方			
第10回	推測統計学 (4)	平均の差の検定、t分布			
第11回	推測統計学 (5)	比率の差の検定			
第12回	推測統計学 (6)	独立性の検定、カイ二乗分布			
第13回	統計地域	行政地域、国政統計区、地域メッシュなど			
第14回	地域特性分析	構成比、特化係数、BN分析			
第15回	レポート作成方法	分析結果のまとめ方			

国際

授業番号	B100930001				
科目名 (英語表記)	Mother Goose I (Mother Goose I)				
担当者 (英語表記)	佐藤 佳子 (Keiko Sato)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本授業では、古くからイギリスやアメリカの伝承童謡として知られている Mother Goose の唄について、文化的な背景を学びながらじっくり読んでいきます。唄の意味を理解するだけでなく、英語の詩 (韻)、語彙やリズムに親しみながら、リスニングと発音の力を身につけることも目指します。映画や文学作品、英語教材にもよく登場します。暗唱できるまで練習しましょう。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的にはテキストを活用して、必要に応じて資料を配布する予定。CD、DVD 等の音声や映像資料も使用しながら、理解を深めていく。				
成績評価方法	毎回の課題 (50%)、定期試験 (50%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業で取り上げる唄を読む。 復習：授業で学んだ唄を暗唱できるまで練習すること。				
教科書	Songs and Rhymes from Mother Goose (マザー・グースの歌) 英光社				
参考文献	平野敬一 『マザー・グースの唄—イギリスの伝承童謡』 (中公新書)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	イントロダクション	Mother Goose の唄について、概要			
第 2 回	Mother Goose とミュージカル	映像資料から			
第 3 回	Mother Goose の楽しみ方 (1)	1) Old King Cole 2) Mary Had a Little Lamb 3) Old Woman in a Basket			
第 4 回	Mother Goose の楽しみ方 (2)	4) Peter Piper 5) Tom Thumb			
第 5 回	Mother Goose の楽しみ方 (3)	6) Crooked Man 7) Humpty Dumpty			
第 6 回	Mother Goose の楽しみ方 (4)	8) Twinkle Twinkle Little Star 9) London Bridge 10) Little Miss Muffet			
第 7 回	Mother Goose の楽しみ方 (5)	11) Alphabet Song 12) Simple Simon			
第 8 回	Mother Goose の楽しみ方 (6)	13) Porridge Song 14) I See the Moon 15) Mulberry Bush			
第 9 回	文学作品から学ぶ Mother Goose (1)	16) I Knew a Little Person 17) Alphabet			
第 10 回	文学作品から学ぶ Mother Goose (2)	18) Queen of Hearts 19) This Is the House that Jack Built 20) One Two Buckle My Shoe			
第 11 回	文学作品から学ぶ Mother Goose (3)	21) Little Bo Peep 22) There Was an Old Woman Who Lived in a Shoe			
第 12 回	映画と Mother Goose (1)	23) Star Light Star Bright 24) Old Mother Hubbard 25) Jumping Joan			
第 13 回	映画と Mother Goose (2)	26) One Two Three Four 27) Itsy- Bitsy Spider 28) Jack and Jill			
第 14 回	映画と Mother Goose (3)	29) Tom the Piper' s Son 30) Gregory Griggs 31) Wee Willie Winkie			
第 15 回	まとめ	グループ発表			

国際					
授業番号	B100090001				
科目名 (英語表記)	ユニバーサルコミュニケーション (Universal communicator)				
担当者 (英語表記)	国際教務委員会 (Kokusai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	共生社会を実現するために、障害を持つ人たちへの偏見や差別意識をなくし、共に手を携えて同じ場所に生活する深い意味や、全ての人に参加し、平等に情報を得ることの意味について考える。その上で、実際に聴覚障害を持つ人との日常的な接し方、バリアフリー・コミュニケーションの手段として、初歩的な手話・要約筆記の実技を学ぶ。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は特にありません。授業はテキスト・配布プリントを中心に、適宜映像も使用する。手話実技に関しては学生一人一人の手話表現を確認、指導する。				
成績評価方法	平常点 (出席) を参考とし、学期末試験によって総合的に成績を評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習: ニュースや新聞等で障害者福祉に関心を持つこと。聴覚障害の特性を理解し、聴覚障害者のバリア解消の実践を行なう。 復習: 手話表現を正しく習得するため、繰り返し練習をする。				
教科書	「友だちをつくる手話」(改訂版) 発行元: 千葉聴覚障害者センター				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新・手話教室 (入門)」(財団法人全日本ろうあ連盟)</li> <li>・「50年のあゆみ」(財団法人全日本ろうあ連盟)</li> <li>・「聴覚・言語障害者とコミュニケーション」(全国手話通訳問題研究会編纂) 一ツ橋出版</li> <li>・「要約筆記奉仕員養成講座 基礎課程」テキスト、「要約筆記奉仕員養成講座 応用課程」テキスト、 ・日本聴覚障害新聞</li> </ul>				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義1	手話を学ぶにあたり (手話とは・聴覚障害とは・聴覚障害者の生活)			
第2回	実技1	あいさつをしてみましょう			
第3回	実技2	名前を紹介しましょう			
第4回	実技3	家族を紹介しましょう			
第5回	実技4	趣味について話しましょう			
第6回	実技5	スポーツについて話しましょう			
第7回	実技6	数字を覚えましょう			
第8回	講義2	聴覚障害者の歴史と社会福祉の変遷			
第9回	実技7	時の表し方を学びましょう			
第10回	実技8	仕事について話しましょう			
第11回	実技9	住所について話しましょう			
第12回	手話のまとめ	自己紹介してみましょう			
第13回	講義3	要約筆記とは			
第14回	実技10	聞きながら書く			
第15回	実技11	模擬実習			

国際					
授業番号	B101520002				
科目名 (英語表記)	ヨーロッパの政治 (European Politics)				
担当者 (英語表記)	山本 健 (Takeshi Yamamoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>昨今、壮大な経済統合を成し遂げている EU (欧州連合) はそのメリットは強調されているが、そのデメリットはどうか？この点を、ヨーロッパ諸国のこれまでの歴史との比較を通して明らかにし、私たちの今後の地域的な統合を考える上で参考にすることが本授業の狙いであり、到達目標である。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>前半で、壮大な経済統合の実験をしている EU の成り立ちとその現実に触れる。そして欧州の特質である民主主義 (政治思想、原理) の成り立ちを明らかにして、それらの観点から現実の EU の実態を批判してみたい。</p>				
成績評価方法	試験、レポート (点数化して) など評価する。なお、出席率が規定 (2/3) に達していない学生は評価外とする。				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習：変化する EU のニュースなどを点検して、問題点などを自分の言葉でまとめておくこと。  復習：配布されたプリントを読み返し、思想、制度、政策などの特徴を整理しておくこと。</p>				
教科書	毎回、配布するプリント				
参考文献	ハンジヤマン・アンジェル他『ヨーロッパ統合』(創元社、2005年)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についての説明			
第 2 回	冷戦構造とヨーロッパの戦後復興	アメリカの陣取り合戦に呼応するヨーロッパ			
第 3 回	ECSC (石炭鉄鋼共同体) の形成と経済統合	フランスの対ドイツ封じ込めを意識した手段としての経済統合			
第 4 回	EC (欧州共同体) から EU (欧州連合) の誕生	関税同盟 + 市場統合から経済統合 + 政治統合へ			
第 5 回	経済統合の功罪と困難な政治統合	自由なヒトの移動が劣等国民の再生産をもたらし、政治統一を危うくする			
第 6 回	世界同時不況と EU 経済	リーマン危機後の経済危機、財政危機、ユーロの危機			
第 7 回	EU の政治統合は可能か	民主主義、自由、平等の問題点			
第 8 回	民主主義の 4 大原則	基本的人権、国民主権、議会政治、権力分立			
第 9 回	基本的人権の成り立ち (17 ~ 18 世紀) を考える	市民革命を導いた啓蒙思想			
第 10 回	進化論の影響を考える	自然権に反する適者生存 / 自然淘汰の考え			
第 11 回	基本的人権 (18 ~ 20 世紀) を考える	人権の拡充と国家観の変容			
第 12 回	国民主権を考える	古代ギリシャの民主主義の実態			
第 13 回	EU 域内での分離・独立を考える	「国家」所属のメリットはあるのか			
第 14 回	EU 域内での異教徒への差別・排斥を考える	EU とはキリスト教徒を大前提とする連合体なのか			
第 15 回	旧宗主国として EU 域外での「支配」を考える	旧態依然の「植民地支配」の延長か			

国際					
授業番号	B101470001				
科目名 (英語表記)	ヨーロッパの歴史と社会 (European History and Society)				
担当者 (英語表記)	山本 健 (Takeshi Yamamoto)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	現在、世界は経済成長に伴ない消費ブームを迎えています。このような経済現象は、歴史的に見ると、19世紀のイギリスに現れていました。そこで、19世紀の経済的な発展過程の分析から、私たちが直面している諸問題（経済格差の問題、国家観など）を検討し、現代社会の方向性を考える素材を提供したいと思います。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、要点を記したプリントを配布します。また2回のビデオ（「オリバー・ツイスト」と「チャップリン」）を鑑賞し、その感想文の提出を義務とします。20分以上の遅刻は認めません。				
成績評価方法 基準	レポート（感想文と課題文）を点数化し、これらと試験の3点で評価します。なお原則として、出席率の規定（2/3）に達していない学生は評価外とする。				
授業の予習・復習	予習：政治経済・社会分野のニュースに目を通し、問題点を整理しておいて下さい。 復習：学習内容と現在の先進国と中進国の発展状況との比較を考えて、整理しておいて下さい。				
教科書	長島伸一『大英帝国』（講談社現代新書、1998年）				
参考文献	① Ch. ディケンズ（小池滋訳）『オリバー・ツイスト』（上・下）（ちくま文庫、2002年） ② J. ロンドン『どん底の人びとーロンドン1902』（岩波文庫、1995年） ③平岡敏夫編『漱石日記』（岩波文庫、1992年）				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明と問題点の提示			
第2回	「19世紀の世界」の誕生	資本主義経済と国民主権を結合した新システムの登場			
第3回	競争原理を正当化する進化論	資本主義の正当化とその欠陥を埋める社会主義の登場			
第4回	19世紀前期の貧困問題	農村出身労働者の貧困状態の分析：中国の民工との比較			
第5回	ビデオ鑑賞①	オリバー・ツイストに見る都市内での社会的弱者の状態			
第6回	19世紀中期の繁栄	「世界の工場」と労働者の生活向上策（穀物法の撤廃）			
第7回	19世紀中期の大衆社会の出現	鉄道時代と消費者としての労働者の再評価			
第8回	チャーチスト運動の行方	都市労働者への選挙権の付与と社会正義の目覚め			
第9回	19世紀後期の不況問題	イギリスの経済衰退と植民地帝国への転換			
第10回	第二次産業革命と帝国主義化	世界的な過剰生産に伴う各国の海外植民地争奪戦			
第11回	豊かなイギリスの都市問題	出生率の低下と若者の身体的な水準低下			
第12回	禁酒運動と健全な娯楽の提供	労働者を飲酒から遠ざけ、兵士の育成健全化			
第13回	ミュージック・ホールの意義	大衆の大国意識（愛国主義）の高揚させる手段			
第14回	ビデオ鑑賞②	Ch. チャップリンの生涯に見る大衆心理の表現			
第15回	マトメ	世界の工場から世界の銀行へ。その背後に金融資本主義の存在			



国際

授業番号	B100650001				
科目名 (英語表記)	W r i t i n g I (Writing I)				
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This class is for the students at pre-intermediate level who get used to writing English sentences. The purpose is to acquire functional writing skills with reviewing important English grammar for writing proper English. Students will learn various expressions through writing activities.				
授業の進め方 (履修条件など)	(1) Check your placement test score and class level. (2) Attend the first class for course registration. (3) Bring textbook and dictionaries to the lesson. (4) Turn in the Task sheet at the end of each unit.				
成績評価方法	(1) Class participation (2) Exercises (3) Task and homework (4) Final Test				
基準					
授業の予習・復習	Read the textbook and prepare for the next lesson. Complete the exercises and the task sheet.				
教科書	New English Composition Workbook				
参考文献	Reference books or study-aid materials will be indicated during lessons.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Guidance	Introduction of lesson / warm-up writing			
第 2 回	Unit 1	Self-Introduction (verbs)			
第 3 回	Unit 2	My Family, My Friends (noun, article, adjective)			
第 4 回	Unit 3	My Room (there, preposition)			
第 5 回	Unit 4	Everyday Activities (present and present continuous tense)			
第 6 回	Unit 5	Recipes (transitive and intransitive verbs)			
第 7 回	Unit 6	Introducing My Town (adverb, comparative)			
第 8 回	Unit 7	Asking Questions (wh-questions)			
第 9 回	Unit 8	Diary (five sentence structures)			
第 10 回	Unit 9	Making a Reservation (future tense, would like to)			
第 11 回	Unit 10	Writing a Postcard (passive voice)			
第 12 回	Unit 11	Job Hunting (can, be able to)			
第 13 回	Unit 12	Writing a Letter (infinitive)			
第 14 回	Unit 13	Giving Advice (auxiliary verbs)			
第 15 回	Unit 14	Invitation (would)			

国際

授業番号	B100650002				
科目名 (英語表記)	W r i t i n g I (Writing I)				
担当者 (英語表記)	Scot Hill (Scot Hill)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This is a beginning course in English writing. We will study grammar, punctuation and simple writing techniques. We will work toward increasing student's writing fluency as we study different types of writing.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have a basic level of ability in English (high school level).				
成績評価方法	Evaluation will be based on: 1) attendance, classroom work / attitude and 2) tests.				
基準					
授業の予習・復習	Students should have an English dictionary.				
教科書	Get Ready to Write - Second Edition (Pearson / Longman) by Blanchard / Root				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	Class introduction			
第 2 回	Punctuation	Punctuation / writing introductions			
第 3 回	Classmates	Writing about a classmate			
第 4 回	Family	Writing about your family			
第 5 回	Conjunctions	And, so and but; paragraphs			
第 6 回	Correspondence	Letters and postcards			
第 7 回	When	Using 'when' ; review			
第 8 回	Test	Test			
第 9 回	Activities	Writing about activities			
第 10 回	Time sequence	Writing in time sequence			
第 11 回	Daily schedule	Writing about your daily life			
第 12 回	Descriptions 1	Writing descriptions of people			
第 13 回	Descriptions 2	Writing descriptions of things			
第 14 回	Review	Review			
第 15 回	Test	Test			

国際					
授業番号	B100650003				
科目名 (英語表記)	W r i t i n g I (Writing I)				
担当者 (英語表記)	Scot Hill (Scot Hill)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This is a beginning course in English writing. We will study grammar, punctuation and simple writing techniques. We will work toward increasing student's writing fluency as we study different types of writing.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have a basic level of ability in English (high school level).				
成績評価方法	Evaluation will be based on: 1) attendance, classroom work / attitude and 2) tests.				
基準					
授業の予習・復習	Students should have an English dictionary.				
教科書	Get Ready to Write - Second Edition (Pearson / Longman) by Blanchard / Root				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	Class introduction			
第 2 回	Punctuation	Punctuation / writing introductions			
第 3 回	Classmates	Writing about a classmate			
第 4 回	Family	Writing about your family			
第 5 回	Conjunctions	And, so and but; paragraphs			
第 6 回	Correspondence	Letters and postcards			
第 7 回	When	Using 'when' ; review			
第 8 回	Test	Test			
第 9 回	Activities	Writing about activities			
第 10 回	Time sequence	Writing in time sequence			
第 11 回	Daily schedule	Writing about your daily life			
第 12 回	Descriptions 1	Writing descriptions of people			
第 13 回	Descriptions 2	Writing descriptions of things			
第 14 回	Review	Review			
第 15 回	Test	Test			

国際					
授業番号	B100650005				
科目名 (英語表記)	W r i t i n g I (Writing I)				
担当者 (英語表記)	榎田 久代 (Hisayo Kushida)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	英文の構成やルールを理解し、英文を書くことから始め、最終的に、主題文 (topic sentence) のあるパラグラフ・ライティング (Paragraph Writing) の練習をします。				
授業の進め方 (履修条件など)	参考になる英文を読んだり、英文の問題に取り組んだ後で、授業内でテーマに沿った作文を書きます。提出物は翌週返却します。				
成績評価方法	毎回の提出物に対する評価の積算				
基準					
授業の予習・復習	返却された提出物は、コメントにしたがって訂正し再提出してください。				
教科書	なし。毎回配布資料あり。				
参考文献	英語の辞書は必ず持参してください。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と最初の作文			
第 2 回	書くことを具体化する (1)	topic sentence のある文章			
第 3 回	書くことを具体化する (2)	topic sentence と support			
第 4 回	書くことを具体化する (3)	topic sentence と support			
第 5 回	説明する文章 (1)	クラスメートについて書く			
第 6 回	説明する文章 (2)	出身地について書く			
第 7 回	順番、連続性のある文章 (1)	first, then next, later を使う			
第 8 回	順番、連続性のある文章 (2)	明日のスケジュール			
第 9 回	文法 チェック	文法について再確認			
第 10 回	時間を明確にする文章 (1)	when を使う			
第 11 回	時間を明確にする文章 (2)	日記を書く			
第 12 回	自然な流れ (論理的な) 流れのある文章 (1)	because, so, when を使う			
第 13 回	自然な流れ (論理的な) 流れのある文章 (2)	理由を書く			
第 14 回	編集作業	クラスメート同士で英文チェックと相互評価			
第 15 回	まとめ	エッセイに向けて			

国際

授業番号	B100660001				
科目名 (英語表記)	W r i t i n g II (Writing II)				
担当者 (英語表記)	Jayne Ikeshima (Jayne Ikeshima)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	Guided writing practice on a variety of topics is provided in this course. Vocabulary study is included in each topic.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should bring all previous printed material to class.				
成績評価方法	Classroom participation will count heavily toward the final grade. Grading will be based on attendance, classwork, homework, and tests.				
基準					
授業の予習・復習	Students should review the material after each class and do the homework.				
教科書	Printed material.				
参考文献	Students should bring a dictionary to each class.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Lesson 1	Introductions			
第 2 回	Lesson 2	Introducing yourself			
第 3 回	Lesson 3	Identifying family and home			
第 4 回	Lesson 4	Describing a special place or event			
第 5 回	Lesson 5	Describing a typical activity			
第 6 回	Lesson 6	Describing an outing			
第 7 回	Lesson 7	Review			
第 8 回	Lesson 8	Test			
第 9 回	Lesson 9	Describing locations			
第 10 回	Lesson 10	Describing activities			
第 11 回	Lesson 11	Describing future activities			
第 12 回	Lesson 12	Describing future plans			
第 13 回	Lesson 13	Describing past events			
第 14 回	Lesson 14	Review			
第 15 回	Lesson 15	Test			

国際

授業番号	B100660002				
科目名 (英語表記)	W r i t i n g II (Writing II)				
担当者 (英語表記)	池嶋 保幸 (Yasuyuki Ikeshima)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	Project based writing practice will be given. Topics will be given and students will work on a specific topic. Such as email writing, creating brochures, and so on.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should bring A4 size folders and A4 size paper to class. Color markers may be used in class.				
成績評価方法	Class performance will be important part of the overall grades. The final grades will be based on class work, attendance, participation.				
基準					
授業の予習・復習	Students will prepare material and collect data which are needed for projects.				
教科書	NONE Printed materials will be provided.				
参考文献	NONE				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Lesson 1	Introduction			
第 2 回	Lesson 2	How to write email messages 1			
第 3 回	Lesson 3	How to write email messages 2			
第 4 回	Lesson 4	How to write email messages 3			
第 5 回	Lesson 5	Review			
第 6 回	Lesson 6	Test			
第 7 回	Lesson 7	How to write a resume 1			
第 8 回	Lesson 8	How to write a resume 2			
第 9 回	Lesson 9	TEST			
第 10 回	Lesson 10	How to write a brochre 1			
第 11 回	Lesson 11	How to write a brochure 2			
第 12 回	Lesson 12	Free writing			
第 13 回	Lesson 13	Free writing 2			
第 14 回	Lesson 14	Overall review of the course			
第 15 回	Lesson 15	TEST			

国際							
授業番号	B100660003						
科目名 (英語表記)	W r i t i n g II (Writing II)						
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	1	単位数	1		
授業のねらいと到達目標	This course is for the beginner or elementary learner of English. It aims to acquire the ability of writing E-mail in variety of situations. Through this course it is hoped that students will make good use of writing E-mail or sending messages using the Internet, not only in class, but also in their daily life.						
授業の進め方 (履修条件など)	(1) Check your placement test score. (2) Students should attend the first class to take this class. (3) Bring textbook and dictionaries to the lesson. (4) Turn in E-mail composition at the end of each unit.						
成績評価方法	(1) attendance (2) class exercises (3) homework (4) E-mail Composition (5) Final Test						
基準							
授業の予習・復習	Read the textbook and prepare for the next lesson. Complete the exercises and E-mail Composition on each unit.						
教科書	An Introductory Course in Writing College English E-Mail						
参考文献	Reference books or study-aid materials will be indicated during lessons.						
回数	授業項目	授業内容					
第 1 回	Course Guidance	Introduction of lesson / rules of writing E-mail / warm-up writing					
第 2 回	Unit 1	SELF-INTRODUCTION					
第 3 回	Unit 2	EXPRESSING THANKS					
第 4 回	Unit 3	GIVING ENCOURAGEMENT					
第 5 回	Unit 4	CONGRATULATIONS!					
第 6 回	Unit 5	EXPRESSING CONCERN					
第 7 回	Unit 6	AN INVITATION					
第 8 回	Unit 7	APOLOGIZING					
第 9 回	Unit 8	TALKING ABOUT A MOVIE					
第 10 回	Unit 9	ASKING FOR ADVICE					
第 11 回	Unit 10	GIVING AWAY A PET					
第 12 回	Unit 11	MAKING A SUGGESTION					
第 13 回	Unit 12	ASKING A FAVOR					
第 14 回	Unit 13	MAKING AN APPOINTMENT					
第 15 回	Unit 14	SENDING A GIFT					

国際

授業番号	B100660004				
科目名 (英語表記)	W r i t i n g II (Writing II)				
担当者 (英語表記)	George Whalley (George Whalley)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This class is designed to build on the writing skills developed in Writing I. Emphasis will be placed on paragraph writing and composition skills.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have completed Writing I.				
成績評価方法	Grading will be equally based on the quality and completion of weekly written assignments, participation in class and a final written test.				
基準					
授業の予習・復習	The instructor will provide materials however students should bring a dictionary to each class.				
教科書	There is no textbook for this class.				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Class Introduction	Student Information Card, 10 Things About This Class			
第 2 回	Understanding Paragraphs	The Topic Sentence, The Body, The Conclusion			
第 3 回	Organzing Information	Explaining events based on relative importance			
第 4 回	Organizing Information (continued)	Explaining events based on position			
第 5 回	Organizing Information (continued)	Explaining events based on time			
第 6 回	The Writing Process	Pre-writing, Writing, Correcting			
第 7 回	Supporting Main Ideas	Facts and Opinions			
第 8 回	Describing people, places and things	Using Adjectives and Adverbs			
第 9 回	Writing Letters	Business Letter Form			
第 10 回	E-mail	E-mail for Buisness			
第 11 回	Comparing and Contrasting	Using Comparative and Superlative Forms			
第 12 回	Reporting	Factual Reporting			
第 13 回	Reporting (continued)	Opinionated Reporting			
第 14 回	Creative Writing	Story Writing			
第 15 回	Creative Writing (continued)	Story Writing (continued)			



# 国際

授業番号	B101490001				
科目名 (英語表記)	ラテンアメリカの歴史と社会 (Latin American History and Society)				
担当者 (英語表記)	高橋 慶介 (Keisuke Takahashi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	ラテンアメリカの歴史をとらえたうえで、現代のラテンアメリカ社会を概説します。ヨーロッパ人による植民地化以降、ラテンアメリカは、常にほかの地域と密接に結びついてきました。したがって、ラテンアメリカの歴史と社会を知ることとは、同時に、ヒト・モノ・コトバのグローバルな流通を知ることになります。				
授業の進め方 (履修条件など)	プリントを配布して進めます。映像資料もできるかぎり使用する予定です。ラテンアメリカ地域に関心があれば、予備知識は必要ありません。				
成績評価方法	定期試験 (70%) と授業中のリアクション・ペーパー (30%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：参考文献に目を通して下さい。また、日頃からラテンアメリカについてのニュースを意識しておく、より具体的なラテンアメリカ像を想像する助けとなるでしょう。 復習：授業で配布するプリントや自分で書き込んだメモを再度見直して、わからない点や興味深い点を調べておきましょう。質問も歓迎します。				
教科書	テキストは指定しません。				
参考文献	参考文献：国本伊代・中川文雄編『ラテンアメリカ研究への招待』(新評論、2005)、国本伊代『概説ラテンアメリカ史』(新評論、2001)。他の参考文献についてはガイダンスや各授業で紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	「ラテン」と「アメリカ」			
第2回	現代ラテンアメリカ	今何が起きているのか			
第3回	歴史1	先住民社会とヨーロッパ人による征服			
第4回	映像資料1	「ミッション」(1986年、18世紀の新大陸におけるキリスト教布教)			
第5回	歴史2	植民地期から民主化まで			
第6回	歴史3	経済不況と「失われた10年」			
第7回	政治	政治体制と国際関係			
第8回	各国論	キューバの歴史と社会			
第9回	暴力	暴力と治安			
第10回	文化	文化と人種の多様性			
第11回	映像資料2	「ジンガ」(2005年、スポーツとリズム)			
第12回	経済1	産業と貿易			
第13回	経済2	格差と貧困			
第14回	ラテンアメリカと日本	日伯関係を中心に			
第15回	まとめ	さらにラテンアメリカを知るために			

国際

授業番号	B104170003		
科目名 (英語表記)	理科 (Science)	(A)	
担当者 (英語表記)	土井 仁 (Jin Doi)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校学習指導要領解説 (理科編) をもとに、理科の目標や内容等を十分に理解する。小学校理科の指導に関わる基礎的な知識や関連する知識を観察・実験やその他の資料をもとに実感的に理解する。獲得した知識や思考法を駆使し、資料なども準備し、わかりやすく説明することができる。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎時間授業資料を配布。小学校理科に関する重要な内容を選び (教科書や教員採用選考問題などから)、学生のプレゼンや応答などで理解を深めます。演示実験や学生実験も取り入れ理解を深めます。		
成績評価方法	①学習意欲、②プレゼン・表現、③レポート、④定期テスト。(めやす① 20%② 20%③ 10%④ 50%)		
基準			
授業の予習・復習	〔予習〕 次回の授業資料を配布。それをもとに予習をおこなう。 〔復習〕 配布プリントをもとに復習し理解を深める。		
教科書	小学校学習指導要領解説「理科編」文部科学省。小学校理科用教科書 (大日本図書) 5, 6 年用		
参考文献	小学校理科用教科書 (各出版社) 他		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	理科の目標と内容。講義内容と授業の進め方。学力評価問題の分析。	
第 2 回	理科学習の方法	授業の構成。理科教育と観察・実験。継続観察や記録の重要性。	
第 3 回	『生命』(1)	「花のつくり、被子植物の受精」「メダカの発生」【観察実習】(花、昆虫)	
第 4 回	『生命』(2)	「植物の養分と水の通り道」(光合成)【観察実習】(植物細胞、気孔)	
第 5 回	『生命』(3)	「人の体のつくりと働き」(心臓と血液の流れ、呼吸)	
第 6 回	『地球』(1)	「月と太陽」(月の形、見え方と時刻)。星の動き、惑星の運動。	
第 7 回	『地球』(2)	「土地のつくりと変化」(地層、柱状図)【観察実習】(地層、火山灰、化石)	
第 8 回	『地球』(3)	「天気の変化」(天気と気温、湿度、気圧)(前線の通過と天気の変化)	
第 9 回	理科学習論	理科学習の進め方。科学の方法。探究の進め方。実験と教具の活用。	
第 10 回	『エネルギー』(1)	「振り子の運動」「てこの規則性」(振り子の等時性)(モーメント)	
第 11 回	『エネルギー』(2)	「電気の通り道」「電気の働き」(回路、電流と磁界、電磁石)【実習】	
第 12 回	『エネルギー』(3)	「電気の利用」【実習】(手回し発電機を使った実験: 発電、蓄電等)	
第 13 回	『物質』(1)	「水溶液の性質」(試薬の調整、モル濃度)、「気体の性質」(熱分解)	
第 14 回	『物質』(2)	「燃焼の仕組み」(ろうそくの燃焼と気体)【実習】(気体検知管)	
第 15 回	『物質』(3)	「物の溶け方」(水の量や温度と溶ける量、物質による違い: 溶解度)	

国際

授業番号	B104170004		
科目名 (英語表記)	理科 (Science)	(C)	
担当者 (英語表記)	田口 功 (Isao Taguchi)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校学習指導要領解説にそって小学校理科の目標や内容を理解する。また、小学校教科書や市販ソフトを用い、小学校理科の指導に関する基礎知識とその根本的な原理を学ぶ。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業時にプリントを配布する。小学校指導要領を使用する。小学校教員採用試験の問題もなるべく多く取り入れ、理解を深める。		
成績評価方法	学習意欲、表現活動、提出レポート、小試験の成績で評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：学習内容は、ほぼ予測できるので下調べをしてください。 復習：学習資料を参考に学習を深めてください。		
教科書	「小学校学習指導要領解説 (理科編)」文部科学省 「小学校理科教科書」		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	小学校理科の目標と内容	
第 2 回	エネルギー (1)	ふりこの運動とその解析	
第 3 回	エネルギー (2)	てこの規則性、ニュートンの法則	
第 4 回	エネルギー (3)	電気の本質、電気の働き、電池、電気と磁気の関係	
第 5 回	エネルギー (4)	発電機、モーター、電磁石	
第 6 回	物質 (1)	物の溶け方	
第 7 回	物質 (2)	燃焼のしくみ	
第 8 回	物質 (3)	水溶液の性質	
第 9 回	物質 (4)	金属、水、空気と温度	
第 10 回	生命 (1)	発芽と成長、メダカの発生	
第 11 回	生命 (2)	人の体のつくりと働き、昆虫の体のつくりと働き	
第 12 回	生命 (3)	植物の養分と水の通り道	
第 13 回	地球 (1)	月と太陽	
第 14 回	地球 (2)	土地のつくりと変化、気象についての基礎知識	
第 15 回	まとめ	理科について的小レポートを書く	

国際

授業番号	B104510001				
科目名 (英語表記)	理科の観察実験 I (The observation experiment of science I)				
担当者 (英語表記)	土井 仁 (Jin Doi)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本科目は、小学校理科の学習領域のうち『物質』『生命』『地球』を学習対象とします。小学校の授業の中で出てくる重要な「観察や実験」や「発展実験」に取り組み、技能を高め、「観察・実験」を総合的に理解し、実践的な指導力を養います。				
授業の進め方 (履修条件など)	小単元の中から観察や実験を選び、実践的に学習します。小単元のねらい、観察や実験の必要性と方法を理解し、観察・実験に取り組みます。「観察・実験レポート」を作成し、理解を深めます。				
成績評価方法	①学習意欲、②実験の理解・技能、③レポート、④定期テスト (めやす① 20%、② 20%、③ 20%、④ 40%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：次回の「学習プリント」を配布します。プリントをもとに予習をします。 復習：「実験レポート」をまとめて理解を深めます。				
教科書	小学校学習指導要領解説「理科編」文部科学省、小学校理科用教科書 (大日本図書) 5, 6 学年用				
参考文献	小学校理科用教科書 (各出版社)、理科資料集等				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	小学校理科の目標と内容。理科における実験と観察。授業の進め方。			
第 2 回	『物質』(1)	加熱器具の構造と使い方。安全管理と指導。化学分野の系統。			
第 3 回	『物質』(2)	「物の燃え方」ものを燃やす働き。気体の生成と捕集。気体の性質。			
第 4 回	『物質』(3)	「水溶液の重さ」「物の溶け方」水に溶けるものの量 (水の量、温度)			
第 5 回	『物質』(4)	「物の溶け方」溶かしたものの取り出し方 (ろ過、蒸発)。			
第 6 回	『物質』(5)	「水溶液の性質」金属を溶かす水溶液。気体が溶けている水溶液。			
第 7 回	『生命』(1)	「植物の発芽」種子の中の養分。発芽の条件。ヨウ素デンプン反応。			
第 8 回	『生命』(2)	「花のつくり」「水中の小さな生物」顕微鏡等の使い方。微生物の世界。			
第 9 回	『生命』(3)	「植物の成長 (日光、水)」光合成。デンプンの有無。気孔の観察。			
第 10 回	『生命』(4)	「体のつくりと働き」吸気と呼気の違い。血液の循環。血流、血球の観察			
第 11 回	『地球』(1)	「天気の様子」一日の気温の変化。水の蒸発 (温度、風)			
第 12 回	『地球』(2)	「月と太陽」「月の形と変化」「星の観察、星の運動」観察と記録。			
第 13 回	『地球』(3)	「流水の働き」上流下流の石、地層、岩石の観察。流水、堆積実験器。			
第 14 回	パフォーマンステスト (1)	『物質』『加熱器具の使い方』『実験装置の組み立て』『実験実習』			
第 15 回	パフォーマンステスト (2)	『生命』『地球』『観察器具 (顕微鏡等) の使い方』『観察と記録実習』			

国際

授業番号	B100730001				
科目名 (英語表記)	Listening I (Listening I)				
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This class is for the high beginners and pre-intermediate level students. The purpose is to acquire basic listening skill. Through the variety of exercises students will listen everyday spoken English and become familiar with correct English pronunciation, rhythm and intonation.				
授業の進め方 (履修条件など)	(1) Check your placement test score and class level. (2) Attend the first class for course registration. (3) Bring textbook and dictionaries to the lesson. (4) Take review quiz of each unit.				
成績評価方法	(1) Class participation (2) Exercises (3) Review quiz (4) Final Test				
基準					
授業の予習・復習	Read the textbook and prepare for the next lesson. Practice what they learned in class and prepare for the review quiz.				
教科書	PRISM Listening red				
参考文献	Reference books or study-aid materials will be indicated during lessons.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Guidance	Introduction of lesson / What is listening? / warm-up			
第 2 回	Unit 1	Do You Want to Be Famous?			
第 3 回	Unit 2	Facebook Me			
第 4 回	Unit 3	Breaking the Rules			
第 5 回	Unit 4	The Sudoku Craze			
第 6 回	Unit 5	Here' s Your Allowance			
第 7 回	Unit 6	Picky Eaters			
第 8 回	Unit 7	Brain Training			
第 9 回	Unit 8	Fact or Fiction			
第 10 回	Unit 9	Green Cell Phones			
第 11 回	Unit 10	Pet Talk			
第 12 回	Unit 11	Stop Snoring			
第 13 回	Unit 12	Spare Time			
第 14 回	Unit 13	Street Art			
第 15 回	Unit 14	Hurricane Warning			

国際

授業番号	B100730002				
科目名 (英語表記)	Listening I (Listening I)				
担当者 (英語表記)	池嶋 保幸 (Yasuyuki Ikeshima)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This course is to improve listening comprehension by studying the basic English sound system. Students are encouraged to listen to real world English.				
授業の進め方 (履修条件など)	We will watch English movies, dramas, listen to various songs and watch news from various sources.				
成績評価方法	Small tests will be given frequently and the grades will be based on the test scores, which means that students participation is strongly encouraged.				
基準					
授業の予習・復習	Students will be asked to recite a passage or practice a song.				
教科書	Printed materials will be used. No textbooks necessary.				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Lesson 1	Introduction			
第 2 回	Lesson 2	Listen to a song and practice dictation and pronunciation 1			
第 3 回	Lesson 3	Listen to a song and practice dictation and pronunciation 2			
第 4 回	Lesson 4	Listen to a song and practice dictation and pronunciation 3			
第 5 回	Lesson 5	Listen to a song and practice dictation and pronunciation 4			
第 6 回	Lesson 6	Listen to a song and practice dictation and pronunciation 5			
第 7 回	Lesson 7	Listen to a song and practice dictation and pronunciation 6			
第 8 回	Lesson 8	Watch and listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 1			
第 9 回	Lesson 9	Watch and listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 2			
第 10 回	Lesson 10	Watch and listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 3			
第 11 回	Lesson 11	Watch and listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 4			
第 12 回	Lesson 12	Watch and listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 5			
第 13 回	Lesson 13	Watch and listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 6			
第 14 回	Lesson 14	Watch and listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 7			
第 15 回	Lesson 15	Overall review of the course			

国際

授業番号	B100740001				
科目名 (英語表記)	Listening II (Listening II)				
担当者 (英語表記)	池嶋 保幸 (Yasuyuki Ikeshima)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This course is a continuation of Listening 1. Students who wish to take this course should have taken Listening 1 and/ or should be able to speak and understand English fairly well. Students will listen to real world English.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students will watch segments from movies, TV dramas, and documentary. They will be encouraged to learn vocabulary and expressions as well as sounds.				
成績評価方法	Small tests will be given frequently. The grades will be based on the tests and class participation.				
基準					
授業の予習・復習	Students will be asked to study vocabulary and phrases so that they will be ready to listen to segments.				
教科書	Printed materials will be used.				
参考文献	None				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Lesson 1	Introduction			
第 2 回	Lesson 2	Watch segment 1			
第 3 回	Lesson 3	Watch segment 2			
第 4 回	Lesson 4	Watch segment 3			
第 5 回	Lesson 5	Watch segment 4			
第 6 回	Lesson 6	Watch segment 5			
第 7 回	Lesson 7	Watch segment 6			
第 8 回	Lesson 8	Watch segment 7			
第 9 回	Lesson 9	Review			
第 10 回	Lesson 10	Watch segment 8			
第 11 回	Lesson 11	Watch segment 9			
第 12 回	Lesson 12	Watch segment 10			
第 13 回	Lesson 13	Watch segment 11			
第 14 回	Lesson 14	Watch segment 12			
第 15 回	Lesson 15	Overall review			

国際

授業番号	B100740002				
科目名 (英語表記)	Listening II (Listening II)				
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This class is for the students at intermediate level. The purpose is to acquire four skills of English, focusing on mainly listening. Through the variety of exercises students will learn and practice many types of listening and speaking situations to communicate in English.				
授業の進め方 (履修条件など)	(1) Check your placement test score and class level. (2) Attend the first class for course registration. (3) Bring textbook and dictionaries to the lesson. (4) Take review quiz of each unit.				
成績評価方法	(1) Class participation (2) Exercises (3) Review quiz (4) Final Test				
基準					
授業の予習・復習	Read the textbook and prepare for the next lesson. Practice what they learned in class and prepare for the review quiz.				
教科書	AIRWAVES Basic -Developing Better Listening Skills- (Second Edition)				
参考文献	Reference books or study-aid materials will be indicated during lessons.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Guidance	Introduction of lesson / listening method / warm-up			
第 2 回	Unit 1	It' s Fun to Make Friends			
第 3 回	Unit 2	We Like the Same Things			
第 4 回	Unit 3	A Weekend to Enjoy			
第 5 回	Unit 4	Your Family' s Not Like Mine			
第 6 回	Unit 5	An Interesting Date			
第 7 回	Unit 6	A Good Day to Go Shopping			
第 8 回	Unit 7	Here' s a Good Restaurant			
第 9 回	Unit 8	First Day at Work			
第 10 回	Unit 9	I Need a Vacation			
第 11 回	Unit 10	What a Beautiful Voice!			
第 12 回	Unit 11	A Five-Year Plan			
第 13 回	Unit 12	It' s Only Money			
第 14 回	Unit 13	Staying Stylish			
第 15 回	Unit 14	Let' s Watch a Movie			



国際

授業番号	B100740003		
科目名 (英語表記)	Listening II (Listening II)		
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	This class is for the students at intermediate level. The purpose is to acquire four skills of English, focusing on mainly listening. Through the variety of exercises students will learn and practice many types of listening and speaking situations to communicate in English.		
授業の進め方 (履修条件など)	(1) Check your placement test score and class level. (2) Attend the first class for course registration. (3) Bring textbook and dictionaries to the lesson. (4) Take review quiz of each unit.		
成績評価方法	(1) Class participation (2) Exercises (3) Review quiz (4) Final Test		
基準			
授業の予習・復習	Read the textbook and prepare for the next lesson. Practice what they learned in class and prepare for the review quiz.		
教科書	AIRWAVES Basic -Developing Better Listening Skills- (Second Edition)		
参考文献	Reference books or study-aid materials will be indicated during lessons.		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Guidance	Introduction of lesson / listening method / warm-up	
第 2 回	Unit 1	It' s Fun to Make Friends	
第 3 回	Unit 2	We Like the Same Things	
第 4 回	Unit 3	A Weekend to Enjoy	
第 5 回	Unit 4	Your Family' s Not Like Mine	
第 6 回	Unit 5	An Interesting Date	
第 7 回	Unit 6	A Good Day to Go Shopping	
第 8 回	Unit 7	Here' s a Good Restaurant	
第 9 回	Unit 8	First Day at Work	
第 10 回	Unit 9	I Need a Vacation	
第 11 回	Unit 10	What a Beautiful Voice!	
第 12 回	Unit 11	A Five-Year Plan	
第 13 回	Unit 12	It' s Only Money	
第 14 回	Unit 13	Staying Stylish	
第 15 回	Unit 14	Let' s Watch a Movie	

国際

授業番号	B100740004		
科目名 (英語表記)	Listening II (Listening II)		
担当者 (英語表記)	池嶋 保幸 (Yasuyuki Ikeshima)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	This course is a continuation of Listening 1. Students who wish to take this course should have taken Listening 1 and/ or should be able to speak and understand English fairly well. Students will listen to real world English.		
授業の進め方 (履修条件など)	Students will watch segments from movies, TV dramas, and documentary. They will be encouraged to learn vocabulary and expressions as well as sounds.		
成績評価方法	Small tests will be given frequently. The grades will be based on the tests and class participation.		
基準			
授業の予習・復習	Students will be asked to study vocabulary and phrases so that they will be ready to listen to segments.		
教科書	Printed material will be used . No textbook is required.		
参考文献	None		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Lesson 1	Introduction	
第 2 回	Lesson 2	Watch segment 1	
第 3 回	Lesson 3	Watch segment 2	
第 4 回	Lesson 4	Watch segment 3	
第 5 回	Lesson 5	Watch segment 4	
第 6 回	Lesson 6	Watch segment 5	
第 7 回	Lesson 7	Review	
第 8 回	Lesson 8	Watch segment 6	
第 9 回	Lesson 9	Watch segment 7	
第 10 回	Lesson 10	Watch segment 8	
第 11 回	Lesson 11	Watch segment 9	
第 12 回	Lesson 12	Watch segment 10	
第 13 回	Lesson 13	Watch segment 11	
第 14 回	Lesson 14	Watch segment 12	
第 15 回	Lesson 15	Overall review	

国際

授業番号	B100860001				
科目名 (英語表記)	World English I (World English I)				
担当者 (英語表記)	Jayne Ikeshima (Jayne Ikeshima)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	People all over the world learn English from American songs. Students will learn and sing English songs in class every week, and then will practice using words and expressions from the songs. Students will also learn something about the singers and artists whose songs are studied. At the end of the course students will be able to sing a variety of English songs.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should attend the class on the first day for further explanation.				
成績評価方法	Grades will be calculated on the basis of attendance, homework, classwork, and tests.				
基準					
授業の予習・復習	Students should try to use as much English as possible in their daily lives. Students should review after each class.				
教科書	Printed material.				
参考文献	Students should bring a dictionary to class.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Lesson 1	Introductions			
第 2 回	Lesson 2	Song #1			
第 3 回	Lesson 3	Song #2			
第 4 回	Lesson 4	Song #3			
第 5 回	Lesson 5	Song #4			
第 6 回	Lesson 6	Song #5			
第 7 回	Lesson 7	Review			
第 8 回	Lesson 8	Test			
第 9 回	Lesson 9	Song #6			
第 10 回	Lesson 10	Song #7			
第 11 回	Lesson 11	Song #8			
第 12 回	Lesson 12	Song #9			
第 13 回	Lesson 13	Song #10			
第 14 回	Lesson 14	Review			
第 15 回	Lesson 15	Test			

国際

授業番号	B100870001				
科目名 (英語表記)	World English II (World English II)				
担当者 (英語表記)	Jayne Ikeshima (Jayne Ikeshima)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	People all over the world enjoy American movies. Students will study a scene from a movie every week. At the end of the course students will be able to understand and use the expressions they have learned from the movie scenes, and they will better understand the English in movies that they watch on their own.				
授業の進め方 (履修条件など)	Class space is limited so students should attend the class on the first day if they want to be in the class.				
成績評価方法	Grades will be calculated on the basis of attendance and classwork, quizzes, and tests.				
基準					
授業の予習・復習	Students should try to use English as much as possible in their daily lives. Students should review the class material after each class and do any assigned homework.				
教科書	Printed material				
参考文献	Students should bring a dictionary to class.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Lesson 1	Introductions			
第 2 回	Lesson 2	Movie Scene #1			
第 3 回	Lesson 3	Movie scene #2			
第 4 回	Lesson 4	Movie scene #3			
第 5 回	Lesson 5	Movie Scene #4			
第 6 回	Lesson 6	Movie scene #5			
第 7 回	Lesson 7	Review			
第 8 回	Lesson 8	Test			
第 9 回	Lesson 9	Movie scene #6			
第 10 回	Lesson 10	Movie scene #7			
第 11 回	Lesson 11	Movie scene #8			
第 12 回	Lesson 12	Movie scene #9			
第 13 回	Lesson 13	Movie scene #10			
第 14 回	Lesson 14	Review			
第 15 回	Lesson 15	Test			

# 国際

授業番号	B100210001		
科目名	1年基礎演習	通年	
担当者	国際学科専任教員	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	大学生生活を円滑に送るための基本項目（行動規範・知識・スキル）を体得することが第一のねらいです。演習は本学の重要な教育体系に位置づけられており、必ず参加しなければなりません。学生一人一人が、大学生活の中に具体的な目標を見出し、それに向けて行動できるようになること、これを到達目標とします。また今年度は、「文章を書くこと」を共通の課題として、取り組む予定です。		
授業の進め方（履修条件など）	クラス担任制をとっています。担当教員の指導の下、クラスの仲間と協力しながら、学習を進めてください。学習指針（6つの柱）は全クラス共通ですが、毎週の具体的な学習項目はクラスによって異なります。6指針とは、(1) スタートアップ、(2) キャンパス・スキル、(3) アカデミック・スキル、(4) コミュニケーション力、(5) 基礎知識、(6) 2年次へのブリッジです。		
成績評価方法	提出物（50%）、クラス内の諸活動の達成度（50%）を基本とし、出席状況、授業態度などを勘案して、総合的に評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：教員の提示した課題に取り組む。 復習：辞書などを用いて、理解不足を補う活動に取り込む。		
教科書	配布資料のほか、各担当教員が指定したものをを用います。今年度は、共通の基礎問題集、資料等も活用します。		
参考文献	随時紹介します。		

回数	授業項目	授業内容
第1回	スタートアップ(1)	ガイダンス、フレッシュマン・セミナーを終えて学んだことを確認する。履修登録の仕方について学ぶ。自己紹介などで、仲間をつくる。
第2回	キャンパス・スキル(1)	大学生活の基本を段階的に身に付ける。単位のとり方、掲示板の見方、諸手続の時期と方法、困ったときの対処法など。
第3回	キャンパス・スキル(2)	クラス別のキャンパス・ツアーを実施する。
第4回	アカデミック・スキル(1)	敬愛大学のことを知ろう。「野の花」を開いてみよう。クラスメイトと一緒に、先生の話や先輩の話聞く。
第5回	アカデミック・スキル(2)	大学で何を学ぶか考える。カリキュラムの見方、シラバスの読み方を学ぶ。
第6回	講演を聞く(1)	若者の薬物乱用を防止する講話を、専門家を招いて聞く。
第7回	講演を聞く(2)	先週の講話をもとにクラスで話しあう。自分の感想を書いてみる。互いの意見を聞く。討論してみよう。
第8回	アカデミック・スキル(3)	メディアセンターのガイダンスに参加する。文献の探し方、図書館の利用の仕方を学ぶ。2クラスずつ行う。
第9回	コミュニケーション(1)	みんなで楽しい時間を創ろう。クラスごとに、近隣への散歩、スポーツ、ゲームなど工夫する。
第10回	コミュニケーション(2)	身近なことを書いて、仲間に伝えよう。
第11回	コミュニケーション(3)	愛読書の紹介を通して、仲間の話に耳を傾けよう。
第12回	基礎知識(1)	国際社会について書かれた新聞記事を読み、討論する。興味のあることを様々な方法で調べてみよう。
第13回	基礎知識(2)	グループで調べたことを、レポートしてみよう。うまく伝える工夫をしよう。
第14回	レクリエーション	クラス対抗スポーツ大会の企画と運営。
第15回	前期のまとめ、課題の総括	前期授業をふり振り返り、達成できたことを書いておこう。
第16回	スタートアップ(2)	前期の成績表をもとに個人面談を実施する。
第17回	アカデミック・スキル(4)	各自が後期学習の目標をそれぞれ考える。目標を書き記しておこう。
第18回	基礎知識(3)	担当教員の専門研究について、分かりやすく教えてもらおう。
第19回	基礎知識(4)	担当教員の専門研究をさらに聞く。適宜、合同ゼミの形態をとる。
第20回	基礎知識(5)	取得できる資格、各自の将来を具体的にイメージしてみよう。
第21回	コミュニケーション(4)	大学祭に参加する準備をする。クラスで他者に伝えたい共通の「メッセージ」を企画しよう。
第22回	学外研修への参加	国立歴史民俗博物館のツアーに全員参加する。事前準備も行う。
第23回	学外研修を終えて	各自が博物館の視察から学んだこと、考えたことを文章化してみる。
第24回	レクリエーション	各ゼミで企画したレクリエーションを実施。近隣施設の研修をかねた屋外での研修、ITを活用したアクティヴ・ラーニングなど。
第25回	2年次専門研究へのブリッジ(1)	各自が興味を持ったことを文章化し、リサーチを試みる。ゼミ選択につなげる。
第26回	2年次専門研究へのブリッジ(2)	2年ゼミ選択の諸注意、専門研究の目的、取組みの準備を学ぶ。
第27回	基礎知識(6)	本を読もう。担当教員が指定した文章を丁寧に読む。
第28回	基礎知識(7)	本を読もう。詩を読もう。優れた文章に触れて考える習慣を身に付けよう。
第29回	講演を聞く(3)	国際学部国際学会主催の講演会に参加する。
第30回	1年間のゼミを学んで(発表会)	目標が達成されたか確認し、レポートをまとめる。

国際		
授業番号	B100210011	
科目名	1年基礎演習 通年	
担当者	こども学科専任教員 対象学年 1 単位数 2	
授業のねらいと到達目標	大学生生活を円滑に送るための基本項目（行動規範・知識・スキル）を体得することが第一のねらいです。演習は本学の重要な教育体系に位置づけられており、必ず参加しなければなりません。学生一人一人が、大学生活の中に具体的な目標を見出し、それに向けて行動できるようになること、これを到達目標とします。	
授業の進め方（履修条件など）	クラス担任制を取っています。担当教員の指導の下、クラスの仲間と協力しながら学習を進めてください。なお、学習内容は全クラス共通ですが、毎週の具体的な授業の進め方はクラスによって異なります。学年全体の行事については日程が前後することがあります。	
成績評価方法	提出物（50%）、クラス内諸活動の達成度（50%）を基本とし、出席状況、授業態度等を勘案して、総合的に評価します。	
基準		
授業の予習・復習	予習：教員の指示した課題に取り組む 復習：辞書、地図帳、年表等を用いて、理解不足を補う活動に取り組む	
教科書	配付資料のほか、各担当教員が指定したものを用います。	
参考文献	授業時随時紹介します。	
回数	授業項目	授業内容
第1回	イントロダクション	自己紹介、年間の基礎演習の進め方
第2回	大学生活の基本①	単位の取り方、履修登録等
第3回	大学生活の基本②	大学生になって
第4回	学生相談オリエンテーション	キャンパスサポートコーナーなど4か所の相談室の利用の仕方
第5回	自己表現	各自の特技について
第6回	メディアセンターオリエンテーション	図書館の利用の仕方
第7回	読書のすすめ	愛読書を持ち寄り紹介しあう
第8回	薬物乱用防止について	専門の先生の講演
第9回	基礎知識①	こども学科に必要な国語系の学び
第10回	基礎知識②	こども学科に必要な社会系の学び
第11回	基礎知識③	こども学科に必要な理数系の学び
第12回	コミュニケーション①	アンゲーム①
第13回	コミュニケーション②	思いを伝える
第14回	コミュニケーション③	相手を知る
第15回	半日参観実習に向けて	小学校半日参観実習に向けての留意事項など
第16回	半日参観実習	小学校現場を知る
第17回	レポートの書き方①	半日参観実習のまとめ
第18回	基礎知識④	こども学科に必要な国語系の学び
第19回	基礎知識⑤	こども学科に必要な社会系の学び
第20回	基礎知識⑥	こども学科に必要な理数系の学び
第21回	歴博見学のための事前授業	佐倉歴史民族博物館見学に向けて
第22回	課外授業	佐倉歴史民族博物館を見学する
第23回	レポートの書き方②	歴博見学を終えてレポート作成
第24回	新聞を読もう①	新聞を教材に社会を学ぶ
第25回	新聞を読もう②	新聞を教材に教育を学ぶ
第26回	コミュニケーション④	アンゲーム②
第27回	コミュニケーション⑤	相互理解
第28回	コミュニケーション⑥	自由ディスカッション
第29回	2年次へのブリッジ	2年次へ向けての各自の目標
第30回	1年間の総まとめ	1年間のふりかえり

国際			
授業番号	B103080001		
科目名	2年次専門研究		通年
担当者	大月 隆成	対象学年	2 単位数 4
授業のねらいと到達目標	現実の世界が抱える問題は複雑で、解決はもとより、本質を理解することもしばしば容易ではない。シミュレーション・ゲームは、複雑な問題を単純化する優れた手段である。このゼミでは、地球温暖化問題を扱った「キープ・クール」、世界規模の伝染病に対処する「パンデミック」を始め、東西冷戦や途上国の政治など様々なテーマを扱うゲームを通して、国際社会の抱える問題を理解し、解決策を考えるきっかけにしたい。		
授業の進め方(履修条件など)	ゲームの背景となっている問題や状況を理解した上で、実際にゲームをし、その後で分析を行うというのが、基本的な流れである。ゲームの実戦は真剣勝負であり、判断力・決断力・交渉力を磨く格好の場である。		
成績評価方法	課題の提出状況および学期末のレポートに基づいて行う。		
基準			
授業の予習・復習	課題をしっかりとこなし、ゲームの背景となる問題や状況を理解する。授業で扱ったテーマについて、独自に調べ理解を深める。		
教科書	特になし。		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第1回	感染爆発とパンデミック(1)	感染爆発の恐怖	
第2回	感染爆発とパンデミック(2)	感染症対策と国際協力	
第3回	感染爆発とパンデミック(3)	ゲーム構造の理解～単純協力型ゲーム～	
第4回	感染爆発とパンデミック(4)	戦術の立案と実行	
第5回	感染爆発とパンデミック(5)	ゲームの分析と評価	
第6回	感染爆発とパンデミック(6)	ゲームの様々なバリエーション	
第7回	パンデミックとバイオテロリスト(1)	対決型要素のある協力型ゲーム	
第8回	パンデミックとバイオテロリスト(2)	戦術の立案と実行	
第9回	パンデミックとバイオテロリスト(3)	ゲームの分析と評価	
第10回	地球温暖化とキープクール(1)	地球温暖化問題の基礎知識	
第11回	地球温暖化とキープクール(2)	各国の立場と利害	
第12回	地球温暖化とキープクール(3)	経済成長か？環境保護か？	
第13回	地球温暖化とキープクール(4)	想定可能なシナリオの様々な	
第14回	地球温暖化とキープクール(5)	ゲーム構造の理解～個別利益と共通利益～	
第15回	地球温暖化とキープクール(6)	ゲームの分析と評価	
第16回	国連憲章第27条 安全保障理事会決議(1)	国連安全保障理事会の仕組みと役割	
第17回	国連憲章第27条 安全保障理事会決議(2)	安保理で審議される議題と決議の実態	
第18回	国連憲章第27条 安全保障理事会決議(3)	戦術の立案と実行	
第19回	国連憲章第27条 安全保障理事会決議(4)	ゲーム構造の理解～交渉型ゲーム～	
第20回	国連憲章第27条 安全保障理事会決議(5)	ゲームの分析と評価	
第21回	モノポリー(1)	世界で最も有名なボードゲームの古典	
第22回	モノポリー(2)	ゲームの時代背景～世界恐慌後のアメリカ～	
第23回	モノポリー(3)	戦術の立案と実行	
第24回	モノポリー(4)	ゲーム構造の理解～交渉を行う競争型ゲーム～	
第25回	モノポリー(5)	ゲームの分析と評価	
第26回	ディプロマシー(1)	友人をなくすゲーム	
第27回	ディプロマシー(2)	ゲームの時代背景～帝国主義期のヨーロッパ～	
第28回	ディプロマシー(3)	ゲーム構造の理解～外交・協力・裏切り～	
第29回	ディプロマシー(4)	戦術の立案と実行	
第30回	ディプロマシー(5)	ゲームの分析と評価	

国際		
授業番号	B103080002	
科目名	2年次専門研究 通年	
担当者	田村 孝 対象学年 2 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	【ゼミのテーマ】生活を豊かにする言語活動 このゼミでは大学生としての「学び」に焦点を当て、実際に言語活動をしながら社会人としての素養を身につけることをねらいます。身近な所から問題を探り、仲間と資料をもとに話し合ったり、各自の調査をプレゼンしたりしながら、人間的な魅力と有能性を兼ね備えた大人・親になることを目指しましょう。	
授業の進め方(履修条件など)	・自分で調べ、準備をして発表することが多いので、しっかり課題を把握し、調べる必要があります。 ・前期・後期同一内容を受講学生を交代して実施します。	
成績評価方法	出席や毎時間の活動、記録、課題への取り組み、発表、レポート等を総合的に評価します。	
基準		
授業の予習・復習	予習：教員とともに課題を探し、取り組む。 復習：課題を整理して、自分なりにまとめる。	
教科書	適宜、印刷物を配布します。	
参考文献	藤本浩行『新任教師 はじめの一歩』さくら社	
回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	大人に求められる「豊かな人間性」とは何か。また、人間性を豊かにするためにはどうしたらよいかを考え、ゼミでの学びに見通しを持つ。
第2回	話す①自己紹介	自分の長所、あるいは長所としたい面を自覚し、それらを発展させるためにはどのような取り組みが必要なのかを考える。
第3回	話す②話題選び	新聞のニュースを要約して理解し、それらを話題とする技術に慣れる。
第4回	房総学①概説	千葉県の産業や工業、水産業、文学、観光名所などを、小学生はどのように学んでいるかを知り、千葉県をより深く理解する。
第5回	読む①新聞を読む習慣	自分の興味がある新聞記事を紹介し、フリートークをする。
第6回	読む②蔵書を育てる	大人になってからの読書生活について考え、新たな分野の作品を読む。
第7回	読む③新聞の投書欄	新聞の投書から効果的な意見文の書き方を考える。
第8回	遊ぶ①子供と外で	小学生が楽しめる外遊びを紹介し合い、文化の継承について考える。
第9回	遊ぶ②子供と室内で	屋内でのレク活動を紹介し合い、リーダーの役割を考える。
第10回	遊ぶ③言語文化	百人一首やいろは歌留多、一茶歌留多などを実際に経験し、内容に関する理解を深め、子供と楽しめるようにする。
第11回	書く①	季節の挨拶状の書き方を知り、実際に書いてみて投函する。
第12回	書く②	随筆の書き方を知り、いくつかの作品を読んだ上で実際に書く。そして書いたものを回覧する。
第13回	世界の教育	オランダにおけるイエナプランの実践から、教育思想と教育実践の関係について考える。
第14回	房総学②プレゼン i	自分の設定した課題について調べた内容を発表し、話し合う。
第15回	房総学③プレゼン ii	自分の設定した課題について調べた内容を発表し、話し合う。
第16回	ガイダンス・学級担任への道	小学校の学級担任に求められる「豊かな人間性」とは何か。また、人間性を豊かにするためにはどうしたらよいかを考え、ゼミでの学びに見通しを持つ。
第17回	子供に語る①・自己紹介	自分の長所、あるいは長所としたい面を自覚し、それらを発展させるためにはどうすべきなのかを考える。
第18回	子供に語る②・朝の先生の話	ニュースを要約して紹介し、最後に自分のメッセージを加えて話をする。
第19回	房総学①・概説	千葉県の農業、工業、水産業、昔話、観光名所など、小学生の学習に関連付けて千葉県をより深く理解する。
第20回	新聞を読む①・教育関係	自分の興味がある新聞記事を紹介し、そこからフリートークをする。
第21回	学級文庫を育てる	学級文庫はどのように活用され、充実していくことが望ましいのかを考える。
第22回	子供と遊ぶ	外遊びを紹介しあうことを通して、ルールの端的な説明の仕方や、安全面の配慮等について考える。
第23回	プロジェクト学習①・話し合いの指導	プロジェクトを想定して実際に話し合いながら、指導のポイントを理解する。
第24回	新聞を読む②・投書欄	新聞の投書から効果的な意見文の書き方を考える。
第25回	子供の遊び・レク活動	小学校の特定の学年の児童を想定して、レク活動のリーダーとなる。
第26回	プロジェクト学習②・活動	プロジェクト学習①での話し合いを受けて、実際の活動をする。
第27回	子供の遊び・言語文化	いろは歌留多や百人一首だけでなく、一茶歌留多や賢治歌留多、ご当地歌留多などを体験し、指導できるようにする。
第28回	世界の教育	オランダにおけるイエナプランの実践から、教育思想と教育実践の関係を考える。
第29回	房総学②	自分の選んだテーマに沿って調べた内容をプレゼンする。
第30回	総括・目指す教員像	自分が目指す教員像を明らかにし、理想に近づくためにこれから努力することを発表する。



国際					
授業番号	B103080006				
科目名	2年次専門研究			通年	
担当者	高橋 和子	対象学年	2	単位数	4
授業のねらいと到達目標	授業のねらいは、社会調査の専門家を育成するための基本的な内容を解説することです。到達目標は、3年次に実際に調査を実施できるだけの能力を身に付けることです。				
授業の進め方(履修条件など)	前期は社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項についてPCを使用しながら進めていきます。後期は社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく方法を説明します。				
成績評価方法	ゼミへの参加貢献度と提出物(課題レポートなど)				
基準					
授業の予習・復習	予習はテキストを事前に読んでおくことが望ましく、社会調査に必要な用語についてはよく復習をして理解をすること。				
教科書	『入門・社会調査法』 轟亮・杉野勇(編) 法律文化社 2010年				
参考文献	適宜、プリントを配布します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	社会調査とは(1)	社会調査法ゼミについて、社会調査士資格について			
第2回	社会調査とは(2)	社会調査史、社会調査の目的と意義			
第3回	社会調査の種類(1)	学術調査			
第4回	社会調査の種類(2)	マーケティング・リサーチ			
第5回	社会調査の種類(3)	世論調査			
第6回	社会調査の種類(4)	国勢調査と官庁統計			
第7回	社会調査の種類(5)	統計的調査と事例研究法			
第8回	社会調査の種類(6)	調査票調査とフィールドワーク			
第9回	調査倫理	調査倫理			
第10回	量的調査と質的調査(1)	量的調査			
第11回	量的調査と質的調査(2)	質的調査			
第12回	社会調査のプロセス	社会調査のプロセス			
第13回	調査プロセスの管理	調査プロセスの管理			
第14回	さまざまな調査	二次分析、パネル調査、国際比較調査など			
第15回	複数の調査の組み合わせ	複数の調査の組み合わせ			
第16回	調査目的と調査方法	調査目的と調査方法			
第17回	調査方法の決め方	面接調査、留置調査、電話調査、郵送調査、インターネット調査など			
第18回	調査企画と設計	調査企画と設計			
第19回	仮説構成	仮説構成			
第20回	調査票の構成と質問文の作り方(1)	質問文			
第21回	調査票の構成と質問文の作り方(2)	回答・全体の構成			
第22回	標本抽出(1)	全数調査と標本調査			
第23回	標本抽出(2)	無作為抽出			
第24回	標本抽出(3)	標本数と誤差			
第25回	標本抽出(4)	サンプリングの方法			
第26回	調査の実施方法(1)	実査の方法、調査票の配布・回収法など			
第27回	調査の実施方法(2)	インタビューの仕方など			
第28回	調査データの整理(1)	エディティング、コーディング、データ・クリーニング			
第29回	調査データの整理(2)	フィールドノート作成、コードブック作成など			
第30回	総括	調査設計と実施方法に関するまとめ			

国際

授業番号	B103080007				
科目名	2年次専門研究		通年		
担当者	中村 圭三	対象学年	2	単位数	4

授業のねらいと到達目標	本ゼミでは、「印旛沼流域鹿島川における自然環境調査」をテーマに、ゼミ活動を実施する。調査の準備・実施・成果の取りまとめを通して、調査研究の進め方を修得させる。
授業の進め方(履修条件など)	前期には、鹿島川に関する文献収集・土地利用調査・調査機器類の準備等を行う。夏期休暇中に現地調査を実施し、後期には成果のとりまとめを行う。
成績評価方法	授業態度、定期試験の成績で評価する。
基準	
授業の予習・復習	予習：ゼミの調査研究テーマに関する文献・資料等に目を通しておく。 復習：ゼミで取り上げた内容について、文献・図鑑等で確認する。
教科書	『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社 2007.
参考文献	授業の中で、適宜指示する。

回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	ゼミの進め方についての説明
第2回	印旛沼の水と生態(1)	印旛沼とその流域
第3回	印旛沼の水と生態(2)	水源としての印旛沼
第4回	印旛沼の水と生態(3)	自然環境
第5回	鹿島川の水と生態(1)	農業と漁業
第6回	鹿島川の水と生態(2)	水質悪化とその原因
第7回	鹿島川の水と生態(3)	生態系の変化
第8回	水質調査法学習(1)	水質調査機器
第9回	水質調査法学習(2)	pH, ECなどの測定
第10回	水質調査法学習(3)	バックテストによる水質調査
第11回	生態調査法学習(1)	水生生物の採取方法
第12回	生態調査法学習(2)	印旛沼流域に生息する水生生物
第13回	生態調査法学習(3)	水生生物の撮影方法
第14回	土地利用調査学習(1)	土地利用図による調査
第15回	土地利用調査学習(2)	衛星画像による調査
第16回	調査データ整理(1)	流量の計算(1)
第17回	調査データ整理(2)	流量の計算(2)
第18回	調査データ整理(3)	水質データの整理
第19回	調査データ整理(4)	水質データの整理・水生生物データの整理
第20回	調査データ整理(5)	水生生物データの整理
第21回	統計・グラフ解析(1)	統計・グラフ解析(1)
第22回	統計・グラフ解析(2)	水質(1)
第23回	統計・グラフ解析(3)	水質(2)
第24回	統計・グラフ解析(4)	水生生物(1)
第25回	統計・グラフ解析(5)	水生生物(2)
第26回	研究成果報告会準備(1)	パワーポイント作成(1)
第27回	研究成果報告会準備(2)	パワーポイント作成(2)
第28回	研究成果報告会準備(3)	パワーポイント作成(3)
第29回	報告	研究成果報告会
第30回	まとめ	総括

# 国際

授業番号	B103080009		
科目名	2 年次専門研究	通年	
担当者	庄司 真理子	対象学年	2 単位数 4

授業のねらいと到達目標	国連の活動について、平和、人権、環境、開発援助など、基礎的なことを幅広く勉強します。その中で、これからの地球社会の全体像をつかみます。学生時代でなければ考えることの少ない各自の世界観の深まりを期待しています。国際社会の問題を自分の力で考える人になってください。また、国連開発計画や国連グローバルコンパクトが推進している「社会貢献ビジネス」について学びます。教科書を輪読する折に、レポーターのプレゼン能力を高めること。英語でのディスカッションも一部取り入れます。
授業の進め方(履修条件など)	ゼミ形式で授業をすすめます。教科書を交代で輪読していく。参加者は全員が教科書の担当部分を精読して、レジュメを作成し、報告してもらいます。ゼミは学生が主体の授業です。講義中に学生が積極的に発言することが大切です。レポーターのみならず毎回、ゼミ生全員の授業の参加度を重視します。
成績評価方法基準	ゼミの参加度 40%、レポーターのやり方とレジュメの書き方 20%、学期末レポート 40%で成績をつけます。ゼミは参加度が重視されます。
授業の予習・復習	全員が、次の教科書の項目をを読んできて参加してください。レポーターになった人は事前にレジュメを作成して、授業時に報告をしてください。各自ゼミで関心を持ったテーマについて、それぞれ深く掘り下げて調べてレポートを書いてもらいます。
教科書	1) 菅原 秀幸(著), 大野 泉(著), 槌屋 詩野(著)『BOP ビジネス入門』中央経済社 2) 庄司・宮脇編『新グローバル公共政策』晃洋書房
参考文献	1) 国連開発計画 (UNDP) 著, 吉田 秀美 訳『世界とつながるビジネス』英治出版 2) 英語の文献も読みます。

回数	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション I	自己紹介とガイダンス
第2回	オリエンテーション II	各自の研究テーマを決め、教科書の分担を決める。
第3回	文献講読 I	国際公共政策とグローバル公共政策
第4回	文献講読 II	グローバル公共性
第5回	文献講読 III	グローバル公共政策と公共財
第6回	文献講読 IV	国際連合
第7回	文献講読 V	世界銀行・IMF・WTO
第8回	文献講読 VI	EU(欧州連合)
第9回	文献講読 VII	G8・G20 と国際レジーム
第10回	文献講読 VIII	アメリカー対外政策決定過程
第11回	文献講読 IX	アメリカー国際交渉と国内政治
第12回	文献講読 X	NGO と CSO(市民社会組織)
第13回	文献講読 XI	企業
第14回	文献講読 XII	人間の安全保障
第15回	文献講読 XIII	安全保障と軍備の規制
第16回	文献講読 XIV	民主化と人権
第17回	文献講読 XV	マイノリティ
第18回	文献講読 XVI	ジェンダー
第19回	文献講読 XVII	地球環境政策
第20回	文献講読 XV III	貧困問題と開発
第21回	文献講読 XIX	グローバル・コモンズー国家領域を超える公共圏
第22回	レポートの書き方	各自の興味のあるテーマを選択し、レポートを準備する
第23回	文献講読 XX	BOP の基本理解、なぜ今 BOP ビジネスなのか
第24回	文献講読 XXI	開発から BOP ビジネスをみる
第25回	レポート内容の中間報告	各自のレポートについて、10分ずつ報告する
第26回	文献講読 XXII	BOP ビジネスが組織を変える
第27回	文献講読 XXIII	BOP と日本の企業
第28回	文献講読 XIV	日本企業の BOP への挑戦
第29回	文献講読 XV	開発プロジェクトを BOP ビジネスにつなげる
第30回	レポート執筆相談 IV	各自の要望に応じてレポート内容をチェックする

国際			
授業番号	B103080010		
科目名	2年次専門研究	通年	
担当者	山口 政之	対象学年	2 単位数 4
授業のねらいと到達目標	児童文学を手がかりとして、子どもの心について考えていきます。河合隼雄『子どもの宇宙』をメインテキストとし、子どもと家族、子どもと秘密、子どもと動物などの話題について、ディスカッションを行っていきます。興味・関心を共有する仲間との議論を通じて、自分自身の考え方の幅を広げていけるようになることが到達目標です。		
授業の進め方(履修条件など)	テキスト輪読では配付資料の作成・発表を分担して行います。このほか、子ども関連の時事問題についての報告も求めます。前期・後期同一内容を、受講学生を交代して実施します。		
成績評価方法基準	テキスト輪読の担当内容(発表・配付資料の成果)と議論への参加度を合わせて40%、時事問題への取り組み30%、まとめのレポート30%を基準とする。		
授業の予習・復習	予習:当該章の下読みを行い、感想・疑問点を整理する。 復習:クラスでの活動内容を受け、さらに考察したことを書き留める。		
教科書	河合隼雄(2010)『子どもの宇宙』岩波新書386		
参考文献	瀬田貞二(2010、初版1980)『幼い子の文学』中公新書563 このほか、話題に応じて適宜紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	イントロダクション	分担決定、配付資料の作り方	
第2回	はじめに	子どもの宇宙とは	
第3回	I 子どもと家族	1 憎まれっ子	
第4回	I 子どもと家族	2 家出願望	
第5回	I 子どもと家族	3 変革者としての子ども	
第6回	II 子どもと秘密	1 秘密の花園	
第7回	II 子どもと秘密	2 秘密の意義	
第8回	II 子どもと秘密	3 秘密の保持と解禁	
第9回	II 子どもと秘密	4 秘密の宝探し	
第10回	III 子どもと動物	1 動物の知恵	
第11回	III 子どもと動物	2 登校拒否症と犬	
第12回	III 子どもと動物	3 ファンタジー	
第13回	IV 子どもと時空	1 時とは何か	
第14回	IV 子どもと時空	2 通路	
第15回	まとめ	前期ふりかえり、自由討議	
第16回	イントロダクション	分担決定、配付資料の作り方	
第17回	はじめに	子どもの宇宙とは	
第18回	I 子どもと家族	1 憎まれっ子	
第19回	I 子どもと家族	2 家出願望	
第20回	I 子どもと家族	3 変革者としての子ども	
第21回	II 子どもと秘密	1 秘密の花園	
第22回	II 子どもと秘密	2 秘密の意義	
第23回	II 子どもと秘密	3 秘密の保持と解禁	
第24回	II 子どもと秘密	4 秘密の宝探し	
第25回	III 子どもと動物	1 動物の知恵	
第26回	III 子どもと動物	2 登校拒否症と犬	
第27回	III 子どもと動物	3 ファンタジー	
第28回	IV 子どもと時空	1 時とは何か	
第29回	IV 子どもと時空	2 通路	
第30回	まとめ	後期ふりかえり、自由討議	

国際			
授業番号	B103080011		
科目名	2年次専門研究	通年	
担当者	山本 健	対象学年	2
		単位数	4
授業のねらいと到達目標	2年次ゼミは、経済の基礎を勉強します。まずは日本語能力試験の受験を想定して、前期ではテキストを利用して、日本語のブラッシュ・アップに努めます。後期では、「経済のしくみ」の基本用語の説明を行いません。		
授業の進め方(履修条件など)	テキストの輪読(音読)を中心に、課題や感想文の宿題は、必ず提出のこと。なお添削して返却します。次に、授業が1限目なので、遅刻や欠席をする場合は必ず連絡すること。ビデオを鑑賞した際は、その感想文の提出を義務とします。		
成績評価方法	提出物(課題と感想文)、討論への参加度などによる。		
基準			
授業の予習・復習	予習:発表者は必ず、それ以外の人も毎回、発表者のつもりになって、読んでくること。 復習:今より上位(級)の日本語能力試験の合格をめざして、整理をしておくこと。		
教科書	①蛇蔵 & 海野凧子『日本人の知らない日本語』(メディアファクトリー、2010年)		
参考文献	①蛇蔵 & 海野凧子『日本人の知らない日本語2』(メディアファクトリー、2010年) ②岸本重陳『経済のしくみ100話』(岩波ジュニア新書145、1993年)、 ③稲葉振一郎『増補 経済学という教養』(ちくま文庫、2008年)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	授業の進め方とグループ化についての説明	
第2回	テキストの輪読 1	3~4人の発表者による音読と質疑応答 第1章「外国人の素朴な疑問」	
第3回	テキストの輪読 2	第2章「そんな日本語使いません」	
第4回	テキストの輪読 3	第3章「間違いな敬語」	
第5回	テキストの輪読 4	第4章「トコロかわれば」	
第6回	テキストの輪読 5	第5章「知られざる仮名の過去」	
第7回	テキストの輪読 6	第6章「世界の漢字」	
第8回	テキストの輪読 7	第7章「標準語について」	
第9回	テキストの輪読 8	第8章「日本のルール」	
第10回	テキストの輪読 9	第9章「日本語学校にて」	
第11回	テキストの輪読 10	第10章「日本いいクニ」	
第12回	日本語の習熟度テスト①	敬語について	
第13回	日本語の習熟度テスト②	外来語について	
第14回	日本語の習熟度テスト③	文法について	
第15回	前期のまとめ	小試験とその解説、夏休みの課題(作文)について	
第16回	夏休みの課題の講評	個別的な課題についての意見交換	
第17回	経済のテキストの輪読 1	3~4人の発表者による音読と質疑応答 円高と円レート	
第18回	テキストの輪読 2	円高不況	
第19回	テキストの輪読 3	円高差益	
第20回	テキストの輪読 4	貿易摩擦と日米中経済摩擦	
第21回	テキストの輪読 5	貿易黒字と貿易赤字	
第22回	テキストの輪読 6	国際化と海外投資、そして産業空洞化	
第23回	テキストの輪読 7	内需拡大と外需依存	
第24回	テキストの輪読 8	ブラザ合意の意味	
第25回	テキストの輪読 9	赤字国債と税制改革	
第26回	テキストの輪読 10	高齢者社会	
第27回	テキストの輪読 11	金融の自由化と低金利時代	
第28回	テキストの輪読 12	カード社会とサラ金	
第29回	テキストの輪読 13	不動産の高騰と恐慌(バブル)	
第30回	後期のまとめ	「強欲的な」経済社会の実態の解説と意見交換	

国際					
授業番号	B103080013				
科目名	2 年次専門研究			通年	
担当者	畑中 千晶	対象学年	2	単位数	4
授業のねらいと到達目標	日本の現代社会が、どのようにヨーロッパの思想とつながっているのかを学ぶことを目的とする。具体的には、民主主義の成立過程を時代順に見て、現代日本の社会のありようを検討する。将来教員になるにせよ別の道を歩むにせよ、現代の世界、日本社会を理解することは極めて重要である。				
授業の進め方(履修条件など)	教科書として、小熊英二著『社会を変えるには』(講談社現代新書 503 ページ 2012年 1300円)を用い、報告担当者を決めて、輪読形式とする。報告者は担当ページに関するレジュメ(要約プリント)を作って受講生に配布し、プレゼンテーションをする。分厚い本なので前期・後期をとおして一冊の本を読みとおすことになる。				
成績評価方法基準	報告レジュメと報告内容、およびレポートによる。テキストを十分理解しているかどうかが基準となる。				
授業の予習・復習	受講学生は全員、授業までに該当部分を読んでくること。				
教科書	小熊英二 『社会を変えるには』 講談社現代新書 2012 1300円				
参考文献	そのつど指示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	受講上の注意			
第2回	テキストのまえがき	レジュメ・プリントのつくり方と報告のしかた			
第3回	pp.14-26.	報告と質疑応答			
第4回	pp.26-39.	報告と質疑応答			
第5回	pp.51-59.	報告と質疑応答			
第6回	pp.62-74	報告と質疑応答			
第7回	pp.74-83.	報告と質疑応答			
第8回	pp.86-103.	報告と質疑応答			
第9回	pp.104-124.	報告と質疑応答			
第10回	pp.124-146.	報告と質疑応答			
第11回	pp.146-167.	報告と質疑応答			
第12回	pp.167-186.	報告と質疑応答			
第13回	pp.188-210.	報告と質疑応答			
第14回	pp.211-235.	報告と質疑応答			
第15回	pp.236-260.	報告と質疑応答、まとめ			
第16回	オリエンテーション	受講上の注意			
第17回	pp.262-283	レジュメ・プリントのつくり方と報告のしかた			
第18回	pp.283-296.	報告と質疑応答			
第19回	pp.296-314.	報告と質疑応答			
第20回	pp.315-332.	報告と質疑応答			
第21回	pp.336-353.	報告と質疑応答			
第22回	pp.353-367.	報告と質疑応答			
第23回	pp.367-382.	報告と質疑応答			
第24回	pp.382-396.	報告と質疑応答			
第25回	pp.396-409.	報告と質疑応答			
第26回	pp.409-428.	報告と質疑応答			
第27回	pp.430-445.	報告と質疑応答			
第28回	pp.445-456.	報告と質疑応答			
第29回	pp.456-471.	報告と質疑応答			
第30回	pp.471-503.	報告と質疑応答 まとめ			

国際		
授業番号	B103080017	
科目名	2年次専門研究 通年	
担当者	水口 章 対象学年 2 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	本授業のねらいは「暮らしやすい町」の条件を考え出すことにあります。そのために、政策学の観点から、活力があり暮らしやすい町になるにはどのような仕組みが必要なのか、どうすればその仕組みをつくることができるのかについて考察します。到達目標は、学生一人一人が独自の「暮らしやすい町」のデザインを考え、提案できる力を身につけることです。	
授業の進め方(履修条件など)	前期は、政策デザインを行う上で必要になるアイデアづくりの方法や、「暮らしやすい町」「活力ある町」の複数のイメージづくりを中心に授業を進めます。後期は、政策学の観点から「町づくり」の方法について議論した上で、3年・4年の専門研究で各自が取り組む課題を見い出せるよう、ブレインストーミングを行います。	
成績評価方法	報告内容(レジュメ作成、説明、質疑応答)60%、課題レポート40%で評価します。	
基準		
授業の予習・復習	予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。 復習：キーワードや理論は図書館を利用し、内容を十分把握してください。	
教科書	特に指定しませんが、適宜プリントを配布します。	
参考文献	伊藤修一郎『政策リサーチ入門－仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会、2011年8月	
回数	授業項目	授業内容
第1回	はじめに	政策リサーチの考え方
第2回	方法論1	リサーチ・クエスションの立て方
第3回	方法論2	「問い」のかけ方を学ぶ
第4回	方法論3	ブレインストーミングの実施
第5回	方法論4	マインド・マップを使っのブレインストーミングの実施
第6回	方法論5	政治地理学の思考について
第7回	文献リサーチ1	リスト作成、入手・検討、リスト修正
第8回	文献リサーチ2	文献リサーチ結果の活用方法
第9回	世界の町と暮らしの紹介1	学生の個人発表
第10回	世界の町と暮らしの紹介2	学生の個人発表
第11回	世界の町と暮らしの紹介3	学生の個人発表
第12回	ブレインストーミング	「暮らしやすい町のイメージとは」
第13回	世界遺産と町について1	学生のグループ発表
第14回	世界遺産と町について2	学生のグループ発表
第15回	ブレインストーミング	「観光によって活力が生まれる町のイメージとは」
第16回	問題解決の考え方の変遷1	政策学の概念紹介
第17回	問題解決の考え方の変遷2	政策学の方法論などの紹介
第18回	自由討論：課題の検討の仕方	町づくりとアジェンダ
第19回	問題の構造を知る1	伝統的アプローチ(階層化分析、KJ法)について
第20回	問題の構造を知る2	新しいアプローチ(要因関連性分析ほか)について
第21回	問題の構造を知る3	フレーミングと意思決定について
第22回	自由討論：言説を考える	因果的物語の活用
第23回	政策の実現	供給、規制、誘因、啓発について
第24回	規範・価値を考える1	公共の利益について
第25回	規範・価値を考える2	バレット基準、カルドア・ヒックス基準について
第26回	自由討論：他者認識	「自由と平等」「安全・安心」について考える
第27回	ブレインストーミング	観光地「日光」の魅力とは
第28回	ブレインストーミング	地域振興と行政のかかわり方とは
第29回	ブレインストーミング	地域振興と市民のかかわり方とは
第30回	まとめ	「暮らしやすい町」の条件の確認

国際			
授業番号	B103080018		
科目名	2 年次専門研究	通年	
担当者	榎田 久代	対象学年	2
		単位数	4
授業のねらいと到達目標	3 年次専門研究では、アメリカ事情や「日本理解」について、深く学んでいきますが、2 年次は、専門的な勉強をするための基礎力養成を目的としています。		
授業の進め方(履修条件など)	アメリカおよび日本の時事ニュースを手掛かりに、政治、経済、社会、文化について幅広く学んでいきます。日本語の記事だけでなく、英文記事を取り上げますので、授業には英語の辞書を必ず持参してください。		
成績評価方法	授業への参加度と提出物により評価します。		
基準			
授業の予習・復習	授業内でわからなかったことを、そのままにしないようにしてください。		
教科書	なし		
参考文献	英語辞書		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	前期の授業の進め方	
第 2 回	新聞記事を読む (1)	新聞各紙の違い	
第 3 回	新聞記事を読む (2)	社説の比較	
第 4 回	新聞記事を読む (3)	記事を批判的に読む	
第 5 回	英文記事を読む (1)	記事を読んでみる	
第 6 回	英文記事を読む (2)	英語に親しむ	
第 7 回	日本についての英文記事 I (1)	内容理解	
第 8 回	日本についての英文記事 I (2)	分析と考察	
第 9 回	日本についての英文記事 II (1)	内容理解	
第 10 回	日本についての英文記事 II (2)	分析と考察	
第 11 回	リサーチの仕方 (1)	各種情報・文献・資料収集と整理	
第 12 回	リサーチの仕方 (2)	リサーチメモ	
第 13 回	小レポートを書く (1)	テーマの設定と構成	
第 14 回	小レポートを書く (2)	作成作業	
第 15 回	前期のまとめ	小レポートの返却	
第 16 回	ガイダンス	後期の授業の進め方	
第 17 回	発表の準備 (1)	レジユメの作成例	
第 18 回	発表の準備 (2)	レジユメの作成練習	
第 19 回	発表の準備 (3)	レジユメの作成練習	
第 20 回	文献講読 (1)	報告者による発表と質疑応答	
第 21 回	文献講読 (2)	報告者による発表と質疑応答	
第 22 回	文献講読 (3)	報告者による発表と質疑応答	
第 23 回	文献講読 (4)	報告者による発表と質疑応答	
第 24 回	文献講読 (5)	報告者による発表と質疑応答	
第 25 回	文献講読 (6)	報告者による発表と質疑応答	
第 26 回	文献講読 (7)	報告者による発表と質疑応答	
第 27 回	小レポートを書く (1)	テーマの設定と構成	
第 28 回	小レポートを書く (2)	作成作業と指導	
第 29 回	小レポートを書く (3)	作成作業と指導	
第 30 回	まとめ	小レポートの返却	



国際					
授業番号	B103080019				
科目名	2 年次専門研究			通年	
担当者	有馬 容子	対象学年	2	単位数	4
授業のねらいと到達目標	まずは1年次に修得した英語力をさらに伸ばしTOEIC 高得点を目指しましょう。特に、読解力の習得に力を入れ、短い文章から少し長めの文章まで決められた時間内に内容を把握する練習を重ねます。徐々に実用的な TOEIC 的文章だけでなく少し内容の深い作家のエッセイを取り入れていく予定です。また、英語のスピードに慣れることを重視し、TV の英語のニュースなど多量のオーディオ教材を活用します。				
授業の進め方(履修条件など)	毎週、次のゼミで演習する内容をプリントで配布しますのでしっかり準備してくること。いかに予習してきたかその質が重要な評価の対象となります。また、日本のみならず世界の情勢に対する問題意識を喚起する目的で、最新の英語ニュースを定期的にチェックします。				
成績評価方法基準	平常点(英文読解に取り組む態度、特に予習の度合い)(70%) 学期末英語読解力テストの成績(30%) TOEIC IP テストで 600 点以上を取得した場合その点数に応じて評価				
授業の予習・復習	予習: 毎週配布される英文プリントの内容を把握し、単語・表現を覚えてくる。				
教科書	プリントを配布				
参考文献	Jay Allison, ed. This I Believe II: More Personal Philosophies of Remarkable Men and Women. Henry Holt, 2008.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ゼミの取り組み方について説明	教材の概要			
第 2 回	ニュースの英語、TOEIC Part 6(1)	前週の英語ニュースより。Part 6 読解力問題演習			
第 3 回	TOEIC Part 6(2)	Part 6 読解力問題演習			
第 4 回	ニュースの英語、TOEIC Part 6(3)	前週の英語ニュースより。Part 6 読解力問題演習			
第 5 回	TOEIC Part7(1)	Part7 読解力問題演習			
第 6 回	ニュースの英語、TOEIC Part 7 (2)	前週の英語ニュースより。Part7 読解力問題演習			
第 7 回	TOEIC Part 7 (3)	Part7 読解力問題演習			
第 8 回	ニュースの英語、TOEIC Part 7 (4)	前週の英語ニュースより。Part7 読解力問題演習			
第 9 回	TOEIC Part 7 (5)	Part7 読解力問題演習			
第 10 回	ニュースの英語 要点まとめ Essay (1)	時事問題、基礎知識確認 "A Reverence for All Life"			
第 11 回	ニュースの英語、Essay (2)	前週の英語ニュースより。"Dancing All the Dances as Long as I Can"			
第 12 回	Reading Comprehension 問題, Essay (3)	"Doing Things My Own Way"			
第 13 回	ニュースの英語, Essay (4)	前週の英語ニュースより。"Learning True Tolerance"			
第 14 回	Reading Comprehension 問題, Essay (5)	"The Questions We Must Ask"			
第 15 回	前期英語読解力テスト	解答解説			
第 16 回	Reading Comprehension 問題, Essay (6)	"We Never Go Away"			
第 17 回	ニュースの英語, Essay (7)	前週の英語ニュースより。"A Way to Honor Life"			
第 18 回	Reading Comprehension 問題, Essay (8)	"The Person I Want to Bring into This World"			
第 19 回	ニュースの英語, Essay (1) ~ (8) まとめ	前週の英語ニュースより。Essay の書き方について			
第 20 回	Reading Comprehension 問題, Essay (9)	"Failure Is a Good Thing"			
第 21 回	ニュースの英語, Essay (10)	前週の英語ニュースより。"As I Grow Old"			
第 22 回	Reading Comprehension 問題, Essay (11)	"I Will Take My Voice Back"			
第 23 回	ニュースの英語, Essay (12)	前週の英語ニュースより。"Paying Attention to the Silver Lining"			
第 24 回	Reading Comprehension 問題, Essay (13)	"A Feeling of Wildness"			
第 25 回	ニュースの英語, Essay (14)	前週の英語ニュースより。"Inner Strength from Desperate Times"			
第 26 回	Reading Comprehension 問題, Essay (15)	"All the Joy the World Contains"			
第 27 回	ニュースの英語, Essay (16)	前週の英語ニュースより。"Untold Stories of Kindness"			
第 28 回	Reading Comprehension 問題, Essay (17)	"Do What You Love"			
第 29 回	後期まとめ	後期に読んだエッセイ全体について意見を出し合う。			
第 30 回	総括英語テスト	解答解説			

# 国際

授業番号	B103080020		
科目名	2年次専門研究	通年	
担当者	家近 亮子	対象学年	2
		単位数	4

授業のねらいと到達目標	今年度のゼミの目的は、国際的視野の養成にあります。また、「歴史とは何か？」ということについていくつかの事例で考えていきます。そのため、最初に年表を時系列ではなく、横に読む作業をおこない、最終的には自分の関心のある時代の特定の出来事の複合的な年表作成をおこなっていきます。
授業の進め方(履修条件など)	まず、自分の問題意識を明確にし、それについての調査と発表を中心に授業を進めていきます。夏休みには国会図書館に行き、地方の新聞や中国、欧米の新聞を調べます。
成績評価方法	授業への取り組みと発表内容、レポートによって総合的に判断します。
基準	
授業の予習・復習	予習：発表のための事前調査 復習：授業の中で新たに発見された課題の達成
教科書	特に定めません。
参考文献	それぞれの問題関心にあった文献を必要に応じて紹介します。

回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	自己紹介と親睦会
第2回	歴史とは何か	いくつかの学説を知るための文献調査。
第3回	歴史とは何か②	学説についての討論
第4回	自分が子どもであった時代の年表作成	自分が生まれた年はどうな年だったのか？
第5回	自分が子どもであった時代の年表作成②	日本はどんな時代だったか？
第6回	自分が子どもであった時代の年表作成③	中国や台湾はどうな時代だったか？
第7回	自分が子どもであった時代の年表作成④	韓国やアジアはどうな時代だったか？
第8回	自分が子どもであった時代の年表作成⑤	欧米はどうな時代だったか？
第9回	作成した年表の発表	どのような資料を使い、どのような歴史事実を選択したか。
第10回	作成した年表の発表②	どのような基準で事実を選択したかの分析
第11回	作成した年表の発表③	現在との比較の視点で分析する。
第12回	作成した年表の発表④	その時代の特徴と問題点
第13回	歴史書作成の試み	作成した年表をもとに歴史書を記述する。
第14回	歴史書作成の試み②	作成した年表をもとにした歴史の再構築
第15回	総括討論	各自の考える「歴史とは何か」について討論する。
第16回	ガイダンス	後期授業の進め方についての説明
第17回	問題関心についての発表	各自が関心のある時代と出来事の説明
第18回	問題関心についての発表②	各自が関心のある時代と出来事の説明
第19回	年表作成作業	既存の年表の調査
第20回	年表作成作業②	『朝日新聞』データベースの使用
第21回	年表作成作業③	『朝日新聞』データベース・国際欄検索
第22回	年表作成作業④	『朝日新聞』記事の分析
第23回	年表作成作業⑤	『人民日報』の調査
第24回	年表作成作業⑥	『人民日報』記事の調査
第25回	年表作成作業⑦	その他の新聞の調査
第26回	年表作成作業⑧	アメリカの新聞の調査
第27回	作成した年表の発表	各自が選択した歴史的出来事の意義について
第28回	作成した年表の発表②	当事国と各国の報道の比較
第29回	作成した年表の発表③	報道の違いの分析
第30回	総括討論	年表の役割と問題点

国際			
授業番号	B103080021		
科目名	2年次専門研究	通年	
担当者	寛正 豊和	対象学年	2 単位数 4
授業のねらいと到達目標	2年ゼミの目的は、3年次の専門ゼミの際に必要なとされる自主性に富んだ学習方法の確立にあると思います。そこで、2年ゼミでは各自の興味や関心をもちたて積極的な学習への導入を図るため、新聞などを活用して情報収集、資料の探し方や調べ方、ディスカッションやディベート能力の育成、さらにはレポートや論文の書き方やまとめ方などについて、わかりやすく指導していきたいと思っています。		
授業の進め方(履修条件など)	特にありません。		
成績評価方法	初回の授業において指示します。		
基準			
授業の予習・復習	初回の授業において指示します。		
教科書	特にありません。		
参考文献	授業において指示します。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション	
第2回	ガイダンス (1)	法学的諸問題とは (なぜ、人間社会に問題が生じ、法が必要か)	
第3回	ガイダンス (2)	問題・テーマの発見方法 (問題意識の明確化) 基本書六法の使い方	
第4回	ガイダンス (3)	文献の読み方	
第5回	ガイダンス (4)	判例の読み方 資料の集め方	
第6回	ガイダンス (5)	発表にあたっての諸原則	
第7回	ガイダンス (6)	レポート構成の方法などについて講じ、興味、関心、理解を深める	
第8回	演習 (1)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第9回	演習 (2)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第10回	演習 (3)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第11回	演習 (4)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第12回	演習 (5)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第13回	演習 (6)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第14回	演習 (7)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第15回	演習 (8)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第16回	演習 (9)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第17回	演習 (10)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第18回	演習 (11)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第19回	演習 (12)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第20回	演習 (13)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第21回	演習 (14)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第22回	演習 (15)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第23回	演習 (16)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第24回	演習 (17)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第25回	演習 (18)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第26回	演習 (19)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第27回	演習 (20)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第28回	演習 (21)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第29回	演習 (22)	担当者を決めて、各自が興味を持っている分野のミニ報告を行う	
第30回	まとめ	まとめ	

国際			
授業番号	B103080022		
科目名	2 年次専門研究	通年	
担当者	辻山 洋介	対象学年	2 単位数 4
授業のねらいと到達目標	子どもについての理解を深めていくことを目指し、時代の変遷と子どもの生活や学びの関係をみていくことや、教育哲学的な見地から子供を人間学的にみていくことに取り組みます。その活動を通して感じた課題や興味・関心をもとに互いに話し合ったり、自分の考えをまとめてみたりします。		
授業の進め方(履修条件など)	自分で調べること、教育学の本を読むこと、討論に積極的に参加すること、レポートを作成することなどを一緒に進めていきます。前期と後期それぞれのゼミで同様に展開します。		
成績評価方法	課題や討論に対する参加意欲、リアクションペーパー、レポート等で総合的に評価。		
基準			
授業の予習・復習	予習： 課題を調べてくる。 復習： 課題を整理し、まとめておく。		
教科書	プリントを準備します。		
参考文献	適宜紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	ゼミの進め方についての説明。	
第 2 回	子どもの生活と学び( 1 )	江戸後期・明治時代の子どもたちの生活と勉強について調べ考える。	
第 3 回	子どもの生活と学び( 2 )	大正・昭和(戦前)の子どもたちの生活や勉強について調べ、考える。	
第 4 回	子どもの生活と学び( 3 )	戦後の昭和期の子どもたちの生活や勉強について調べ、考える。	
第 5 回	子どもの生活と学び( 4 )	平成時代の子どもたちの生活と学びについて考える。	
第 6 回	教育哲学における子ども論( 1 )	教育哲学の教育論に見られる子ども論について調べる。	
第 7 回	教育哲学における子ども論( 2 )	「こどもの人間学」について考える。	
第 8 回	教育哲学における子ども論( 3 )	子どもの人間学的とらえ方について考え、討論する。	
第 9 回	教育哲学における子ども論( 4 )	子どもの教育哲学的な考えについて学び討論する。	
第 10 回	教育とは何か( 1 )	教育哲学的な見方から「教育とは何か」について考え、自分なりの考えをまとめる。	
第 11 回	教育とは何か( 2 )	「教育とは何か」についての各自の考えをもとに討論する。	
第 12 回	小論文の書き方( 1 )	各自の課題意識に基づいて小論文の資料を集める。	
第 13 回	小論文の書き方( 2 )	小論文の書き方の基本を参考にして、自分の考えをまとめる。	
第 14 回	小論文の書き方( 3 )	自分の課題についての小論文を書く。	
第 15 回	まとめ・発表	小論文を発表しあい、討論する。	
第 16 回	ガイダンス	ゼミの進め方についての説明。	
第 17 回	子どもの生活と学び( 1 )	江戸後期・明治時代の子どもたちの生活と勉強について調べ考える。	
第 18 回	子供の生活と学び( 2 )	大正・昭和(戦前)の子どもたちの生活や勉強について調べ、考える。	
第 19 回	子どもの生活と学び( 3 )	戦後の昭和期の子どもたちの生活や勉強について調べ、考える。	
第 20 回	子どもの生活と学び( 4 )	平成時代の子供の生活と学びについて考える。	
第 21 回	教育哲学における子ども論( 1 )	教育哲学の教育論に見られる子ども論について調べる。	
第 22 回	教育哲学における子ども論( 2 )	「こどもの人間学」について考える。	
第 23 回	教育哲学における子ども論( 3 )	子どもの人間学的とらえ方について考え、討論する。	
第 24 回	教育哲学における子ども論( 4 )	子どもの教育哲学的な考えについて学び討論する。	
第 25 回	教育とは何か( 1 )	教育哲学的な見方から「教育とは何か」について考え、自分なりの考えをまとめる。	
第 26 回	教育とは何か( 2 )	「教育とは何か」についての各自の考えをもとに討論する。	
第 27 回	小論文の書き方( 1 )	各自の課題意識に基づいて小論文の資料を集める。	
第 28 回	小論文の書き方( 2 )	小論文の書き方の基本を参考にして、自分の考えをまとめる。	
第 29 回	小論文の書き方( 3 )	自分の課題についての小論文を書く。	
第 30 回	まとめ・発表	小論文を発表しあい、討論する。	

国際		
授業番号	B103080023	
科目名	2 年次専門研究 通年	
担当者	増井 由紀美 対象学年 2 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	1. アメリカの歴史に関して基本的な知識を身につける。 2. バイリンガル(英語および日本語)の教科書を用いることにより英語力を身につける。 3. リサーチの仕方を身につける。 4. プレゼンテーションの仕方を身につける。	
授業の進め方(履修条件など)	1. 指示された箇所を読みます。(予習) 2. 担当者が報告します。 3. 資料を読みながら議論します。	
成績評価方法	出席 30%、報告 30%、提出物 40%	
基準		
授業の予習・復習	予習: 次の週に学ぶ箇所を必ず読むこと。 復習: 授業の終わりに指示された作業を行うこと。	
教科書	『アメリカの小学生が学ぶ歴史教科書』(What Young Americans Know about History) ジェームス・M・バーダマン著、村田薫編、Japan Book, 2005 年。	
参考文献		
回数	授業項目	授業内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方の説明。各人のアメリカ観について意見交換。
第 2 回	新世界としてのアメリカ	アメリカの歴史の始まりはどこにあるのでしょうか。インディアン文明、ヨーロッパ人による新大陸への関心。
第 3 回	植民地時代	ニューイングランドおよびバージニア植民地について学びます。
第 4 回	独立へ	独立戦争はどこで戦われたのでしょうか。独立宣言の内容とは?
第 5 回	南北戦争	南部と北部の社会経済システムの違い、価値観、文化の違いについて勉強します。
第 6 回	西へ	大陸横断鉄道により結ばれた東西。カリフォルニアへの移民。
第 7 回	南部再建と工業化	大きな変革をもたらした社会問題およびその対策。
第 8 回	新都市とレジャー社会	ボストン、ニューヨーク、シカゴをはじめ、その他の工業都市および社会改良運動を見ていきます。
第 9 回	1920 年代	この時代に流行った音楽、演劇、文学の紹介。
第 10 回	1930 年代	大恐慌後のアメリカ社会で人々の暮らしはどのように変わったか見ていきます。
第 11 回	第二次世界大戦	戦争をめぐる日本とのかかわりについて学びます。
第 12 回	1950 年代	冷戦時代、マッカーシズムについて学びます。
第 13 回	市民運動	人権運動について考えます。
第 14 回	1960 年代	ベトナム戦争、学生運動、などについて学びます。
第 15 回	1970 年代	フェミニズムについて勉強します。
第 16 回	後期授業の進め方についての説明	アメリカについて関心のあるテーマを交換しながら、後期報告の順番を決めます。
第 17 回	報告の仕方	レジュメ作成の練習をします。
第 18 回	報告 1 番	第一担当者の報告を聞き意見交換及び批評をします。
第 19 回	報告 2 番	第二担当者の報告を聞き意見交換及び批評をします。
第 20 回	報告 3 番	第三担当者の報告を聞き意見交換及び批評をします。
第 21 回	報告 4 番	第四担当者の報告を聞き意見交換及び批評をします。
第 22 回	報告 5 番	第五担当者の報告を聞き意見交換及び批評をします。
第 23 回	レポートの書き方	これまでの報告をレポートにまとめるための準備です。
第 24 回	資料収集の方法	図書館及びコンピュータを用いて資料を集めます。
第 25 回	課外授業(美術館)	アメリカ美術鑑賞
第 26 回	美術解説及び分析	アメリカ美術史
第 27 回	写真でみるアメリカ	20 世紀の写真(自然と都会)
第 28 回	文学と映画	文学作品と映画を比較します。
第 29 回	まとめ	一年間を振り返り、学んだことを整理します。
第 30 回	レポート提出	レポート作成の問題点などについて話し合います。

国際

授業番号	B103080024		
科目名	2年次専門研究	通年	
担当者	池谷 美佐子	対象学年	2
		単位数	4

授業のねらいと到達目標	こどもの教育に取り組むためには、教育に関する知識や技能だけでなく、それらを活用して問題を解決する力が必要です。本授業では、教育にかかわる課題を調べ、その課題の解決を構想し、実践し、評価・改善する活動を通して、問題解決能力を身に付けることを目標とします。課題は算数を中心としますが、それ以外でも構いません。
授業の進め方(履修条件など)	テーマに応じてグループに分かれ、グループごとに課題を調べ、課題の解決を構想し、発表と討議を行いながら進めていきます。学生相互の学び合いを広げ深めるため、「リアクション制度」を導入します。
成績評価方法	毎時間の課題への取り組みや、発表、討議、レポート等を総合的に評価します。
基準	
授業の予習・復習	予習：グループでの取り組みや発表のための準備をすること。 復習：疑問や論点を自分なりにまとめ、次の課題を見つける。
教科書	必要に応じてプリント教材を配布します。
参考文献	適宜紹介します。

回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	自己紹介, 授業の進め方
第2回	課題の設定(1)	算数を中心に, これまでの学習の振り返り
第3回	課題の設定(2)	教育目標の動向と算数的活動
第4回	課題の設定(3)	個人の課題の発表とグループ分け
第5回	課題解決の構想(1)	各グループで課題を特定するための情報収集
第6回	課題解決の構想(2)	課題の特定と発表
第7回	課題解決の構想(3)	課題を解決するための情報収集と構想
第8回	解決の実践(1)	テーマごとの発表と討議(1)
第9回	解決の実践(2)	テーマごとの発表と討議(2)
第10回	解決の実践(3)	テーマごとの発表と討議(3)
第11回	解決の実践(4)	テーマごとの発表と討議(4)
第12回	評価・改善(1)	発表と討議にもとづく解決の発展(1)
第13回	評価・改善(2)	発表と討議にもとづく解決の発展(2)
第14回	新たな課題の特定	一連の活動の振り返りにもとづく今後の課題の特定
第15回	授業のまとめ	教育に関する問題を解決するための力について
第16回	.	.
第17回	.	.
第18回	.	.
第19回	.	.
第20回	.	.
第21回	.	.
第22回	.	.
第23回	.	.
第24回	.	.
第25回	.	.
第26回	.	.
第27回	.	.
第28回	.	.
第29回	.	.
第30回	.	.

国際		
授業番号	B103090001	
科目名	3 年次専門研究 通年	
担当者	中村 圭三 対象学年 3 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	本ゼミでは、2 年生で実施した「印旛沼流域鹿島川における自然環境調査」について、さらにレベルアップした内容の調査を実施し、論文執筆に向けた準備をさせる。	
授業の進め方(履修条件など)	本ゼミでは、2 年生で実施した「印旛沼流域鹿島川における自然環境調査」について、さらにレベルアップした内容の調査を実施し、論文執筆に向けた準備をさせる。	
成績評価方法	授業態度と定期試験の成績で評価する。	
基準		
授業の予習・復習	予習：ゼミの調査研究テーマに関する文献・資料等に目を通しておく。 復習：ゼミで取り上げた内容について、文献・図鑑等で確認する。	
教科書	『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社 2007.	
参考文献	授業の中で、適宜指示する。	
回数	授業項目	授業内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの進め方についての説明
第 2 回	2 年次調査結果の検討	パワーポイントを見て検討
第 3 回	3 年次調査計画の策定	討論をして策定
第 4 回	印旛沼の水質研究	文献による調査・発表
第 5 回	文献による調査・発表	文献による調査・発表
第 6 回	鹿島川の水質研究	文献による調査・発表
第 7 回	鹿島川の生態研究	文献による調査・発表
第 8 回	水質調査準備 (1)	pH、EC、ORP、DO などの機器による測定準備
第 9 回	水質調査準備 (2)	分光光度計による測定準備
第 10 回	水質調査準備 (3)	イオンクロマトグラフによる測定準備
第 11 回	生態調査準備 (1)	採取器具類の準備
第 12 回	生態調査準備 (2)	同定資料文献準備
第 13 回	生態調査準備 (3)	撮影器具等の準備
第 14 回	土地利用調査実施 (1)	土地利用図による調査
第 15 回	土地利用調査実施 (2)	空中写真・衛星写真による調査
第 16 回	調査データ整理 (1)	流量の計算
第 17 回	調査データ整理 (2)	水質データの整理 (1)
第 18 回	調査データ整理 (3)	水質データの整理 (2)
第 19 回	調査データ整理 (4)	水生生物データの整理
第 20 回	調査データ整理 (5)	土地利用データの整理
第 21 回	統計・グラフ解析 (1)	流量
第 22 回	統計・グラフ解析 (2)	水質 (1)
第 23 回	統計・グラフ解析 (3)	水質 (2)
第 24 回	統計・グラフ解析 (4)	水生生物
第 25 回	統計・グラフ解析 (5)	土地利用
第 26 回	研究成果報告会準備 (1)	パワーポイント作成 (1)
第 27 回	研究成果報告会準備 (2)	パワーポイント作成 (2)
第 28 回	研究成果報告会準備 (3)	パワーポイント作成 (3)
第 29 回	発表	研究成果報告会
第 30 回	まとめ	総括



国際		
授業番号	B103090002	
科目名	3 年次専門研究 通年	
担当者	高田 洋子 対象学年 3 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	アジアの大国周辺に位置する諸地域、東南アジア、南アジア、日本、朝鮮半島などの社会を研究するゼミです。2 年次専門研究に引き続いて、これらの諸地域の基本問題を考察し、各自が興味を持ったテーマを探究します。	
授業の進め方(履修条件など)	第一に主体的に学びましょう。第二に知識を豊富に蓄積し、書くことを通して深く考えましょう。やや専門性のある文章を輪読し、各自の研究テーマを見つけ、順次発表します。	
成績評価方法	年度末までに提出するゼミ論の内容、完成度をみて成績を付けます。	
基準		
授業の予習・復習	予習：テキストを読んでくること。 復習：理解したことをノートにまとめる。	
教科書	川田他編著『発展途上国の政治経済論』東大出版会	
参考文献	各自のテーマに沿って個別に指定する。	
回数	授業項目	授業内容
第 1 回	3 年次演習の目標：ガイダンス	演習の目標および年間のゼミスケジュールを決める
第 2 回	問題提起：大国と小国	国際社会における「大国」、「小国」の具体的事例を討論する
第 3 回	問題提起：双方のまなざし	大国からみた小国・小国からみた大国について考える
第 4 回	討論：小国の戦略	多様な小国の例から学ぶ
第 5 回	討論：「中心」と「周辺」の関係性	それぞれのメリット、デメリット、関係の可変性を考える
第 6 回	討論：先進国と途上国	それぞれの定義と相互関係について考える
第 7 回	討論：東南・東アジアについて	域内の類似性、差異、関係性、国際問題を議論する
第 8 回	討論：東南アジア・南アジアについて	域内の類似性、差異、関係性、国際問題を議論する
第 9 回	テキストの輪読 1	途上国とは何か(概説)
第 10 回	テキストの輪読 2	途上国の社会経済理論(1)
第 11 回	テキストの輪読 3	途上国の社会経済理論(2)
第 12 回	発表：1	東南アジア：関心のテーマ、問題意識の萌芽を 2 人組で報告する
第 13 回	発表：2	東南アジア：同上
第 14 回	発表：3	南アジア：関心の有るテーマ、問題意識を 2 人組で報告する
第 15 回	発表：4	南アジア：同上
第 16 回	発表：5	東アジア：関心の有るテーマ、問題意識の萌芽を 2 人組で報告する
第 17 回	発表：6	東アジア：同上
第 18 回	学外研修	アジア経済研究所を訪問し、文献資料の所在、活用の仕方を学ぶ
第 19 回	論文を読む 1	東南アジアに関する優れた論文から学ぶ
第 20 回	論文を読む 2	南アジアに関する優れた論文から学ぶ
第 21 回	論文を読む 3	東アジアに関する優れた論文から学ぶ
第 22 回	論文を書く 1	大国・小国論、中心・周辺論などの見方を参考に、論文を書く
第 23 回	論文を書く 2	「序」の書き方を学ぶ
第 24 回	論文を書く 3	「第 1 章」の書き方を学ぶ
第 25 回	論文を書く 4	「終章」の書き方を学ぶ
第 26 回	論文を書く 5	「注」・「参考文献」などの書き方を学ぶ
第 27 回	論文を書く 6	資料の集め方、使い方、記録の仕方を学ぶ
第 28 回	ゼミ論文の発表会 1	東南アジアについてのゼミ論文の説明と批評
第 29 回	ゼミ論文の発表会 2	南アジアについてのゼミ論文の説明と批評
第 30 回	ゼミ論文の発表会 3	東アジアについてのゼミ論文の説明と批評



国際		
授業番号	B103090003	
科目名	3年次専門研究 通年	
担当者	田中 未央 対象学年 3 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	①性格検査や知能検査の実習を通して教育評価の理解を深める。 ②教育や学校現場に関するテーマを扱った質問紙調査を実施し、調査データの有効な利用法について学ぶ。	
授業の進め方(履修条件など)	①演習形式で実施する。 ②授業内で実習を行うので、遅刻・欠席は厳禁である。	
成績評価方法	発表(実習の経過報告)・授業態度・プレゼンテーションによって総合的に評価する。	
基準		
授業の予習・復習	予習:与えられたテーマに関する資料収集 復習:授業の内容を整理し、まとめる。	
教科書	使用しない。必要に応じて資料を配布する。	
参考文献		
回数	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション①	授業の進め方, 授業計画, 担当の決定
第2回	講義①	心理検査について
第3回	講義②	レポートの書きかた
第4回	【実習】性格検査①	YG 性格検査を体験する。
第5回	【実習】性格検査②	ロールシャッハテストを体験する。
第6回	【演習】性格検査についてのまとめ	YG 性格検査でわかる性格特徴とロールシャッハテストでわかる性格特徴の違いについてディスカッションを行う。
第7回	【実習】知能検査①	集団式知能検査(京大 NX 式)を体験する。
第8回	【実習】知能検査②	ウェクスラー式知能検査(WAIS)を体験する。(検査実施の練習)
第9回	【実習】知能検査③	ウェクスラー式知能検査を体験する(検査実施)。
第10回	【演習】知能検査についてのまとめ	①知能検査の結果を材料として、知能とは何か?についてディスカッションする。 ② WAIS で測定された知能と集団式検査で測定された知能の違いについてディスカッションする。
第11回	オリエンテーション②	プレゼンテーションについて、プレゼンの担当について
第12回	プレゼンテーションの準備①	プレゼンテーションに必要な資料収集・質問への対応
第13回	プレゼンテーションの準備②	プレゼンテーションに必要な資料(パワーポイント・レジュメなど)の作成 質問への対応
第14回	発表会	前期の実習内容についてのプレゼンテーションを行う。
第15回	まとめ	前期の活動についての総括
第16回	オリエンテーション③	後期の演習内容について・担当の決定
第17回	講義③	資料収集の方法について・レジュメの作り方について
第18回	調査テーマの検討①	調査テーマに関する情報収集と先行研究のまとめ
第19回	調査テーマの検討②および調査テーマの決定	調査テーマの候補に関するプレゼンを行い、採用するテーマを決定する。
第20回	調査票の作成①	質問項目の収集
第21回	調査票の作成②	収集した質問項目の内容を検討し、使用する項目を決定する。
第22回	調査票の作成③	予備調査用の調査票を作成し、予備調査を実施する。
第23回	データ集計①	予備調査のデータを集計し、本調査で使用する質問項目を決定する。
第24回	調査票の作成④	本調査用の調査票と調査依頼状を作成する。
第25回	データ集計②	調査データの入力
第26回	データ集計③	・データ入力 ・データの集計とまとめ
第27回	データ集計④	・データの集計とまとめ ・調査結果の分析と解釈(ディスカッション)
第28回	プレゼンテーション準備③	質問紙調査に関するプレゼンテーションの準備
第29回	プレゼンテーション準備④	・質問紙調査に関するプレゼンテーションの準備 ・リハーサル
第30回	まとめ	調査結果についての報告会

国際			
授業番号	B103090004		
科目名	3 年次専門研究	通年	
担当者	織井 啓介	対象学年	3 単位数 4
授業のねらいと到達目標	「時事英語と経済経営」のゼミです。英語ではビジネス英語に類出する英文法を復習しながら、新聞・雑誌の英文記事の読解力を高めます。経済経営では、フィナンシャルプランニングの学習を通じて、家計・企業の金融行動への理解を深めます。		
授業の進め方(履修条件など)	配布プリントを中心に演習します。2 年次に引き続いて、定期的に英検・TOEIC・秘書検等を受験し、時事英語・経済経営の実践力を養いましょう。		
成績評価方法	平常点で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：配布プリントでアサインメントをこなしましょう。 復習：ゼミで学んだことを復習しましょう。		
教科書	とくに使用しません。		
参考文献	Japan Times, International Herald Tribune など。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	今年度ゼミナールの進め方	
第 2 回	ビジネス英語①	基本 5 文型	
第 3 回	ビジネス英語②	関係代名詞	
第 4 回	ビジネス英語③	関係副詞	
第 5 回	ビジネス英語④	仮定法 (概要)	
第 6 回	ビジネス英語⑤	仮定法 (仮定法過去)	
第 7 回	ビジネス英語⑥	仮定法 (仮定法現在)	
第 8 回	ビジネス英語⑦	分詞構文 (現在分詞)	
第 9 回	ビジネス英語⑧	分詞構文 (過去分詞)	
第 10 回	経済経営①	FP の基礎 (仕事算)	
第 11 回	経済経営②	FP の基礎 (金利計算)	
第 12 回	経済経営③	FP の基礎 (順列・組み合わせ計算)	
第 13 回	経済経営④	FP の基礎 (確率計算)	
第 14 回	経済経営⑤	FP の基礎 (税額計算)	
第 15 回	前期のまとめ	前期の総括と夏休みの計画	
第 16 回	後期ガイダンス	夏休みの総括と後期の計画	
第 17 回	時事英語①	市場記事	
第 18 回	時事英語②	経済記事	
第 19 回	時事英語③	企業記事	
第 20 回	時事英語④	金融記事	
第 21 回	時事英語⑤	社会記事	
第 22 回	時事英語⑥	政治記事	
第 23 回	時事英語⑦	文化記事	
第 24 回	時事英語⑧	科学記事	
第 25 回	経済経営⑥	FP (ライフプランニング)	
第 26 回	経済経営⑦	FP (リスクマネジメント)	
第 27 回	経済経営⑧	FP (タックスプランニング)	
第 28 回	経済経営⑨	FP (不動産)	
第 29 回	経済経営⑩	FP (相続・事業承継)	
第 30 回	今年度のまとめ	総括と反省	

国際					
授業番号	B103090005				
科目名	3年次専門研究		通年		
担当者	山本 陽子	対象学年	3	単位数	4
授業のねらいと到達目標	小学校教育について音楽科を中心に、児童の発達段階や適時性などを踏まえながら、指導の目標や内容、評価などを具体的な音楽活動を通して学びます。「音楽とは何か」「音楽の何を学ぶのか」という視点から、教育全般についての基本的な理解を深め、小学校教員としての資質を高めることを目標とします。				
授業の進め方(履修条件など)	各自もっている疑問や問題意識を大切にします。特に音楽的な技術は必要ありませんが、自ら進んで取り組む姿勢、あきらめのないでやり遂げようとする力を求めます。コードネームによるピアノ伴奏法を継続して練習します。				
成績評価方法	課題に取り組む姿勢、問題解決のための努力などを総合的に評価します。				
基準					
授業の予習・復習	「音楽」「音楽科指導法」「音楽と表現」で学んだことを復習し、各自課題を見つけ解決を探ります。				
教科書	授業内で指示します。				
参考文献	適宜紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方 内容について			
第2回	音楽とは何か①	自分にとっての音楽			
第3回	音楽とは何か②	音楽の発生			
第4回	音楽とは何か③	人と音楽			
第5回	音楽と学び①	音楽から学ぶもの			
第6回	音楽と学び②	音楽で学ぶもの			
第7回	小学校の音楽科教育①	学習指導要領 音楽科の目標			
第8回	小学校の音楽科教育②	年間学習指導計画 題材と教材			
第9回	小学校の音楽科教育③	低学年の学習			
第10回	小学校の音楽科教育④	中学年の学習			
第11回	小学校の音楽科教育⑤	高学年の学習			
第12回	小学校の音楽科教育⑥	題材を選んで			
第13回	小学校の音楽科教育⑦	学習指導案作成①			
第14回	小学校の音楽科教育⑧	学習指導案の作成②			
第15回	前期のまとめ	模擬授業			
第16回	後期オリエンテーション	前期の総括 後期の目標			
第17回	教材研究①	歌唱教材 低学年			
第18回	教材研究②	歌唱教材 中学年			
第19回	教材研究③	歌唱教材 高学年			
第20回	教材研究④	器楽教材 低学年			
第21回	教材研究⑤	器楽教材 中学年			
第22回	教材研究⑥	器楽教材 高学年			
第23回	教材研究⑦	音楽づくり			
第24回	教材研究⑧	鑑賞教材①			
第25回	教材研究⑨	鑑賞教材②			
第26回	授業の実際①	模擬授業①			
第27回	授業の実際②	模擬授業②			
第28回	小学校教育②	子どもの発達段階			
第29回	小学校教育③	教師の役割・目指す教師像			
第30回	まとめ	1年間学んだことの振り返りと今後の課題			

国際					
授業番号	B103090006				
科目名	3 年次専門研究		通年		
担当者	田村 孝	対象学年	3	単位数	4
授業のねらいと到達目標	現代社会をどのように理解するのか、その中でどう生きていくのか、社会人として、または教師としてどのように生きていくべきかを考えることを目的とする。				
授業の進め方(履修条件など)	現代社会についての問題点を指摘し、分析を加えた書物を読み上げる。テキストは、最近発行された、暉峻淑子『社会人の生き方』(岩波新書 2012年 800円+税)。とても良い本なので将来を背負う学生にぜひ読んでほしい。そのほか、適宜現代社会の諸問題に関する新聞記事の読み合わせを行う。				
成績評価方法	受講の態度とレポートによる。基準はどれぐらい自学自修ができていくか、積極的に授業に参加したのかによる。				
基準					
授業の予習・復習	テキストや新聞記事を事前に読んで来ることが必要である。報告者は自分の発表内容を報告後にレポートとして提出しなければならない。				
教科書	暉峻淑子『社会人の生き方』(岩波新書 2012年 800円+税)				
参考文献	そのつど指示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	受講上の注意			
第2回	社会人とは何だろうか?	各自の思うことを書いてもらい、討論する。			
第3回	社会人のイメージ	当番学生による内容報告と質疑			
第4回	浸透した自己責任論	同上			
第5回	若ものたちの本当の悩み	同上			
第6回	働くことへの問い	同上			
第7回	会社人と社会人	同上			
第8回	閉ざされた村社会では	同上			
第9回	社会とのつながりへの飢餓	同上			
第10回	ロスタイム (アディショナル・タイム)	時間調整 (多分ここまで予定どおりに進まないのではないかとと思われるので、遅れを取り戻すために予定を空白にしておく)			
第11回	「分子」が織りなす関係へ	当番学生による内容報告と質疑			
第12回	ある先生との出会い	同上			
第13回	弱い人間たちの支え合い	同上			
第14回	新聞から始まる「社会」	同上			
第15回	個人から民主主義社会へ	同上			
第16回	老人同士が支え合う場	同上			
第17回	地域社会で起きた問題から	同上			
第18回	さまざまな人たちの中から	同上			
第19回	孤独で生きられるか	同上			
第20回	ロスタイム	第10回に同じ (時間調整)			
第21回	社会の中の労働	当番学生による内容報告と質疑			
第22回	労働を通じた和解と協力	同上			
第23回	働くことの喜びを通じて	同上			
第24回	仕事と個人生活と社会	同上			
第25回	未来に希望を持てるか	同上			
第26回	ホームレスになった若者	同上			
第27回	若者の意欲を失わせる社会	同上			
第28回	一つの希望	同上			
第29回	働く仲間であることのプラス	同上			
第30回	テキストを読み終わって	自由討論			

国際

授業番号	B103090007		
科目名	3年次専門研究	通年	
担当者	村川 庸子	対象学年	3
		単位数	4

授業のねらいと到達目標	学生個人の選択したテーマに関し、ゼミ論を執筆することを今年度の目標とする。 テーマは日本文化、日米比較文化、フード&アグリ、など多岐に及ぶが、前期はできるだけ共通する問題意識を育てるべく、論文・新聞雑誌記事などを読み進め、要約・コメントなどをまとめる技術の習得を目指す。英語の実践力を養えるよう、できるだけ多くの英文を読んでいきたい。
授業の進め方(履修条件など)	前期は共通に論文・新聞雑誌記事などを読み進め、要約・コメントの書き方などの技術の習得を目指す。後期は、400文字×20頁程度のレポートをまとめる。1、2度、博物館などの研修を取り入れる。
成績評価方法基準	プレゼンテーション 20% 議論への参加 20% 小レポート 30% 大レポート 30%
授業の予習・復習	事前に配布する資料を熟読・要約を授業の前提とする。
教科書	できるだけ新しい新聞雑誌記事などを資料として配布する。
参考文献	必要に応じ配布する。

回数	授業項目	授業内容
第1回	導入	ゼミの進め方
第2回	資料輪読	アメリカ社会の多様性
第3回	討論→論点のまとめ	同上
第4回	小レポート発表	同上
第5回	資料輪読	アメリカの「貧困」問題
第6回	議論→論点のまとめ	同上
第7回	小レポート発表	同上
第8回	グループ面接	レポートの書き方 個別指導
第9回	資料輪読	アメリカと日本人移民
第10回	議論→論点のまとめ	同上
第11回	小レポートの発表	同上
第12回	資料輪読	日本人にとっての「核」
第13回	議論→論点のまとめ	同上
第14回	博物館見学	江戸東京博物館見学
第15回	小レポートの発表	同上
第16回	演習	ゼミ論のテーマ設定
第17回	演習	アウトライン作成
第18回	演習	参考資料一覧作成
第19回	演習	文章の書き方―「段落」
第20回	演習	文章の書き方―「要約」の仕方
第21回	演習	文章の書き方―仮説の提示
第22回	演習	文章の書き方―論点の整理
第23回	演習	文章の書き方―「まとめ」の文
第24回	プレゼンテーション	個別発表①②
第25回	プレゼンテーション②	個別発表③④
第26回	プレゼンテーション③	個別発表⑤⑥
第27回	プレゼンテーション④	個別発表⑦⑧
第28回	プレゼンテーション⑤	個別発表⑨⑩
第29回	まとめ	論文集の編集
第30回	まとめ	総括

国際		
授業番号	B103090011	
科目名	3年次専門研究 通年	
担当者	田口 功 対象学年 3 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	前期は、パソコンを用いて MATLAB プログラムを作成する。さらに、理科実験装置の検討授業を行います。ここでは、資料の収集も行なう。後期は、理科教育に役立つ教材を開発する。さらに、MATLAB を用いシミュレーション練習を行なう。このことを通して自ら課題を持ち研究をする態度が得られることを到達目標とします。	
授業の進め方(履修条件など)	前期は、MATLAB の基本を理解する。基本事項をマスターしてからプログラムを作成する。 資料を見て実験との関連性を検討しながら、理科実験装置の検討を行なう。 後期は、理科教育に役立つ教材を開発する。さらに、MATLAB を用い、応用としてシミュレーション練習を行なう。このことを通して自ら課題を持ち研究をする態度が得られることを到達目標とします。	
成績評価方法	授業態度、提出物、小試験の3点により総合評価します。	
基準		
授業の予習・復習	予習：与えられた課題についてよく資料を見て研究をして下さい。 復習：授業中に指摘された事柄などについて良く復習して下さい。	
教科書	資料を配布します。	
参考文献		
回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方を説明
第2回	MATLAB の基礎知識 - (1)	MATLAB の基本操作、コマンドウィンドウについて
第3回	MATLAB の基礎知識 (2)	MATLAB による四則演算、ベクトルと行列の作り方
第4回	MATLAB の基礎知識 - (3)	MATLAB による四則演算、ベクトルと行列の作り方
第5回	2次元グラフィックス - (1)	関数データの作成と基本的折れ線グラフの作成
第6回	2次元グラフィックス - (2)	多量のデータの入力と種々のグラフの作成法
第7回	3次元グラフィックス - (1)	基本的な空間曲線を描く、meshgrid 命令の理解
第8回	数値解析 - (1)	方程式の数値解法 ニュートン法について
第9回	モンテカルロ法	円周率 $\pi$ の近似値
第10回	太陽光電池	太陽光電池の原理をインターネットで調査し、家庭の電源としてどのように使われているかを調査検討する。どのようにしたら教材に使用できるかを検討する。
第11回	電磁石とは	電磁石作成に対して発熱状況は、避けられない。どのようにしたら安全な実験ができるか電気部品を検討する。磁極の発生と確認、磁極の強さ、実験の難しさを体験する。
第12回	発電装置	電磁石の応用としての電磁誘導現象を式表示とともに理解する。静電気発電機と電池との関係についても考察する。
第13回	電流計と電圧計	電流計と電圧計の原理を資料をもとに検討する。
第14回	計器使用の注意点の検討	電気抵抗の大小を電流計、電圧計を使用し検討する。さらに、計器自身についても注意点と、なぜか、ということを検討する。
第15回	レンズ	レンズ使用による光の集光とその基本原理を検討する。作図による基本原理を習得。
第16回	力	ゴムやばねを用いての力、ニュートンの法則と力
第17回	ふりこ	振りこの運動を実験の実験器具を作成し、検討する。糸の長さをいろいろ変えて実験を行ってみる。周期と糸の長さとの関係性を、資料を検討したうえで、実際の実験との注意点の検討も行う。
第18回	静電気による発電装置	静電気による発光ダイオード点灯回路作成、トランスの原理を資料をもとに検討する。直流電源がそのまま使えない理由を考えてみよう。資料を収集し、検討する。
第19回	テングスリティー	力の安定を考えたテングスリティーの説明、資料の検討および作成を行なう。
第20回	レンズによる像のでき方。	凸レンズによる光の進み方の実際の実験装置の検討、数式的理解を資料を探しながら検討する。
第21回	レンズの性質	凸レンズによる光の進み方の数式的理解
第22回	電子部品について (1)	電子部品 (LED など) を用いて、フリップフロップ回路を作成してみよう。ほんだやエナメル線、銅線を用いる。資料をさがしてとにかく作成してみる。
第23回	電子部品について (2)	電子部品 (LED など) を用いて、フリップフロップ回路を作成する。問題は多い。動かない場合が多いため、基盤の種類を変えて作成を行なってみる。どの基盤が良いか検討を行なう。
第24回	風力発電機の作成 (1)	市販されている風力発電機を組み多々てみよう。
第25回	風力発電機の作成 (2)	市販されている電子部品を自分で購入し、風力発電装置を作成してみよう。
第26回	数値解析 - (2)	定積分の数値解法について、文献を見て数種類の方法で面積を求め、誤差の検討を行なう。グラフ化し、アルゴリズムを再検討する。
第27回	物体の運動、放物運動	直線運動、放物運動曲線を描くプログラムの作成を行ない、運動の合成をプログラムを通して理解する。
第28回	3次元グラフィックス - (2)	たくさんの空間曲線を描く。3次元グラフも数種類ある。地図データを見つけて3次元で書いてみよう。時間をかけてデータを探すことを課題とする。
第29回	教具の開発 (1)	理科教育において、問題となっているか、実験しにくい教具の開発および作成を行なう。資料を探す。
第30回	教具の開発 (2)	理科教育において、問題となっているか、実験しにくい教具の開発および作成を行なう。資料を探す。

国際			
授業番号	B103090013		
科目名	3年次専門研究	通年	
担当者	武内 清	対象学年	3
		単位数	4
授業のねらいと到達目標	現代の子どもと学校の現状を教育社会的に考察し、その在り方を皆で討議する。演習では、文献の購読、グループによる発表、討議、さらに自分たちでデータを集め分析することもある。子どもや教育の問題を、その実態をありのままに捉え、その上で、教育や教育実践のあり方を考える。同時に、視野を世界に広げ、比較し、また社会学、心理学、文学に関しても知識を広げ、教育のあり方を考える。		
授業の進め方(履修条件など)	個人やグループでテキストの発表の分担を決め、担当になった人やグループが報告し、討論の司会もし、いろいろ議論する。また、後半は、各自の研究テーマに関する発表も行う。		
成績評価方法	個人あるいはグループ発表40%、討論への積極的参加20%、最終レポート40%。		
基準			
授業の予習・復習	毎回テキストの文献を読み、A4,1枚のコメント書き、出席すること。		
教科書	授業時に指示する。およびプリントを配布する。		
参考文献	武内清編『子どもの「問題行動」』(学文社、2010)。他		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	導入	オリエンテーション	
第2回	教育とは	教育学の視点	
第3回	社会とは	社会学の視点	
第4回	人間とは	心理学の視点	
第5回	学校とは1	学校の歴史	
第6回	同 2	学校の制度と組織	
第7回	同 3	学校文化	
第8回	同 4	学校のカリキュラムと教科書	
第9回	子ども1	子どもの発達	
第10回	子ども2	幼児期の子ども	
第11回	子ども3	小学校と子ども	
第12回	子ども4	授業と子ども	
第13回	子ども5	教師と子ども	
第14回	子ども6	生徒文化、青年文化	
第15回	教育内容	教科書の内容分析1	
第16回	カリキュラム	教科書の内容分析2	
第17回	教育方法1	教育技術	
第18回	教育方法2	メディアの使用	
第19回	教育組織1	学校組織の構造	
第20回	教育組織2	学校経営の特質	
第21回	教育文化1	日米比較	
第22回	教育文化2	日米比較2	
第23回	教育文化3	学校風土、学級風土の研究	
第24回	教育文化4	教育の地域差の研究	
第25回	受験	受験と競争	
第26回	高等教育	小中高と大学の連携	
第27回	大学生	キャンパスライフ	
第28回	進路選択	キャリア教育	
第29回	地域社会	学社連携	
第30回	まとめ	まとめと討論	

国際					
授業番号	B103090014				
科目名	3 年次専門研究		通年		
担当者	高橋 和子	対象学年	3	単位数	4
授業のねらいと到達目標	授業のねらいは、「2 年次専門研究」で学習した内容を踏まえて、調査の企画から報告書の作成まで社会調査の全過程について、実習を通じて体験的に学習することです。到達目標は、調査を企画し、実査を行って得られたデータの分析結果を報告書としてまとめることができる能力を身につけることです。				
授業の進め方(履修条件など)	前期は、調査の企画から調査実施、データのクリーニングまでを行い、後期は、実査により得られたデータの入力から、社会科学統計パッケージソフト (SPSS) により分析し、その結果をレポートにまとめます。				
成績評価方法	ゼミへの参加貢献度と提出物 (課題レポートなど)				
基準					
授業の予習・復習	予習として、調査のための事前準備を十分しておくこと。実査やデータ解析では、ゼミ時間以外の活動も必要になります。				
教科書	『入門・社会調査法』 轟亮・杉野勇 (編) 法律文化社 2010 年				
参考文献	適宜、プリントを配布します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	調査実習の目的、進め方など			
第 2 回	社会調査とは何か (1)	社会調査からわかること			
第 3 回	社会調査とは何か (2)	社会調査の方法、調査対象者の選定方法			
第 4 回	社会調査とは何か (3)	仮説構成の方法			
第 5 回	社会調査とは何か (4)	調査票作成方法			
第 6 回	先行研究のレビューと問題設定	先行研究のレビューと問題設定			
第 7 回	調査の企画 (1)	テーマの設定			
第 8 回	調査の企画 (2)	調査対象者の選定、調査時期や作業分担など手続きの決定			
第 9 回	調査の企画 (3)	調査項目の設定			
第 10 回	調査の企画 (4)	調査票作成、調査票精査			
第 11 回	調査の実習 (1)	調査準備 (インストラクション、調査票印刷、袋詰めなど)			
第 12 回	調査の実習 (2)	調査票の配布と回収			
第 13 回	調査データの整理 (1)	調査票の点検			
第 14 回	調査データの整理 (2)	データ入力に向けた準備 (非該当、無回答のコード決定など)			
第 15 回	調査実習の反省とまとめ	調査実習の反省とまとめ			
第 16 回	後期ガイダンス	データ分析の方法やまとめ方の概要			
第 17 回	調査データの入力	調査データの入力			
第 18 回	調査データの分析 (1)	単純集計、グラフ			
第 19 回	調査データの分析 (2)	属性と質問のクロス集計、グラフ			
第 20 回	調査データの分析 (3)	質問と質問のクロス集計、グラフ			
第 21 回	調査データの分析 (4)	基本統計量			
第 22 回	調査データの分析 (5)	散布図、相関係数			
第 23 回	分析結果の検討	分析結果の検討			
第 24 回	報告書の作成 (1)	全体の構成、「はじめに」			
第 25 回	報告書の作成 (2)	「データと分析方法」			
第 26 回	報告書の作成 (3)	「単純集計結果」			
第 27 回	報告書の作成 (4)	「クロス集計結果」(属性とのクロス)			
第 28 回	報告書の作成 (5)	「クロス集計結果」(関連すると思われる質問同士のクロス)			
第 29 回	報告書の作成 (6)	「考察」			
第 30 回	報告書の作成 (7)	「おわりに」			



国際			
授業番号	B103090019		
科目名	3年次専門研究	通年	
担当者	山本 健	対象学年	3 単位数 4
授業のねらいと到達目標	3年次ゼミは、経済の基礎を勉強する。前期では日本の経済発展の流れをテキストを利用して学習し、後期では今日のグローバル経済時代に必要「経済のしくみ」の基本用語を学習する。来年のゼミ論「グローバル経済下の比較経済社会」の執筆を準備させる。		
授業の進め方(履修条件など)	前期は、テキストの輪読を中心に、日本経済の発展についてワークシートで再確認させ、また課題発表を通してお互いの意見交換を促す。また課題や感想文の宿題は、添削して返却します。、ビデオを鑑賞した際は、その感想文の提出を義務とします。このようにして各自の作文能力の向上をも促したい。		
成績評価方法	提出物(課題と感想文)、討論への参加度などによる。		
基準			
授業の予習・復習	予習：発表者は必ず、それ以外の人も毎回、発表者のつもりになって、読んでくること。 復習：ワークシートの再点検を通して、自分の弱点の再確認をすること。		
教科書	①岩波ブックレット、シリーズ昭和史 No 14 加藤哲郎 『戦後意識の変貌』(1990年)		
参考文献	①稲葉振一郎 『増補 経済学という教養』(ちくま文庫、2008年)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	授業の進め方とグループ化についての説明	
第2回	テキストの輪読 1	3～4人の発表者による音読と質疑応答 経済発展に対応した戦後40年の時代区分を説明	
第3回	テキストの輪読 2	第1期 アメリカ軍による占領時代の「生きること」の意義	
第4回	テキストの輪読 3	第1期 アメリカ軍の占領政策の変化—朝鮮戦争の意義	
第5回	テキストの輪読 4	第2期 「脱亜入米」による再建	
第6回	テキストの輪読 5	第2期 戦後民主主義の意味と相反する日米安保条約締結	
第7回	テキストの輪読 6	第3期 高度経済成長と利益政治の定着	
第8回	テキストの輪読 7	第3期 私生活主義の形成と企業従属	
第9回	テキストの輪読 8	第3期 アメリカの権威失墜と日本の自国中心・利益中心の国際意識	
第10回	テキストの輪読 9	第3期 石油ショック(1973年)とその意義	
第11回	テキストの輪読 10	第4期 世界不況への日本の対応—「輸出洪水」	
第12回	テキストの輪読 11	第4期 「不確実性の時代」と女性の社会進出・子どもの塾通い	
第13回	テキストの輪読 12	第4期 福祉よりも成長へ保守回帰・経済大国ナショナリズム	
第14回	テキストの輪読 13	第5期 貿易摩擦に伴う西側諸国の日本脅威論と国家意識の涵養	
第15回	テキストの輪読 14	私生活主義の揺らぎと「新人類」の登場	
第16回	夏休みの課題の講評	個別的な課題についての意見交換	
第17回	経済のテキストの輪読 1	3～4人の発表者による音読と質疑応答 円高と円レート	
第18回	テキストの輪読 2	円高不況	
第19回	テキストの輪読 3	円高差益	
第20回	テキストの輪読 4	貿易摩擦と日米中経済摩擦	
第21回	テキストの輪読 5	貿易黒字と貿易赤字	
第22回	テキストの輪読 6	国際化と海外投資、そして産業空洞化	
第23回	テキストの輪読 7	内需拡大と外需依存	
第24回	テキストの輪読 8	ブラザ合意の意味	
第25回	テキストの輪読 9	赤字国債と税制改革	
第26回	テキストの輪読 10	高齢者社会	
第27回	テキストの輪読 11	金融の自由化と低金利時代	
第28回	テキストの輪読 12	カード社会とサラ金	
第29回	テキストの輪読 13	不動産の高騰と恐慌(バブル)	
第30回	後期のまとめ	「強欲的な」経済社会の実態の解説と意見交換	

国際

授業番号	B103090020		
科目名	3年次専門研究	通年	
担当者	庄司 真理子	対象学年	3
		単位数	4

授業のねらいと到達目標	今年のみつつのこを課題とします。ひとつは昨年に引き続き、社会貢献ビジネスに冠する文献を読破します。次に、地球社会のあり方を考えるということで、グローバルな公共政策について考えます。学生時代でなければ考えられないような、幅広い世界観を培うことを目的とします。最後に、自分の考えをまとめてレポートが書けるようになることを目的とします。
授業の進め方(履修条件など)	ゼミ形式で授業をすすめます。教科書を交代で輪読していく。参加者は全員が教科書の担当部分を精読して、レジュメを作成し、報告してもらいます。ゼミは学生が主体の授業です。講義中に学生が積極的に発言することが大切です。レポーターのみならず毎回、ゼミ生全員の授業の参加度を重視します。
成績評価方法	ゼミの参加度 40%、レポーターのやり方とレジュメの書き方 20%、学期末レポート 40%で成績をつけます。ゼミは参加度が重視されます。
基準	
授業の予習・復習	全員が、次回の教科書の項目をを読んできて参加してください。レポーターになった人は事前にレジュメを作成して、授業時に報告してください。各自ゼミで関心を持ったテーマについて、それぞれ深く掘り下げて調べてレポートを書いてもらいます。
教科書	庄司・宮脇編『新グローバル公共政策』晃洋書房
参考文献	1) すでに購入した昨年度の教科書(BOP ビジネスに関する3冊)を、すべて読破します。 2) 国連開発計画(UNDP) 著, 吉田 秀美 訳『世界とつながるビジネス』英治出版

回数	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション I	ガイダンス
第2回	オリエンテーション II	各自の研究テーマを決め、教科書の分担を決める。
第3回	文献講読 I	国際公共政策とグローバル公共政策
第4回	文献講読 II	グローバル公共性
第5回	文献講読 III	グローバル公共政策と公共財
第6回	文献講読 IV	国際連合
第7回	文献講読 V	世界銀行・IMF・WTO
第8回	文献講読 VI	EU(欧州連合)
第9回	文献講読 VII	G8・G20 と国際レジーム
第10回	文献講読 VIII	アメリカー対外政策決定過程
第11回	文献講読 IX	アメリカー国際交渉と国内政治
第12回	文献講読 X	NGO と CSO(市民社会組織)
第13回	文献講読 XI	企業
第14回	文献講読 XII	人間の安全保障
第15回	文献講読 XIII	安全保障と軍備の規制
第16回	文献講読 XIV	民主化と人権
第17回	文献講読 XV	マイノリティ
第18回	文献講読 XVI	ジェンダー
第19回	文献講読 XVII	地球環境政策
第20回	文献講読 XV III	貧困問題と開発
第21回	文献講読 XIX	グローバル・コモンズー国家領域を超える公共圏
第22回	レポートの書き方	各自の興味のあるテーマを選択し、レポートを準備する
第23回	文献講読 XX	BOP の基本理解、なぜ今 BOP ビジネスなのか
第24回	文献講読 XXI	開発から BOP ビジネスをみる
第25回	レポート内容の中間報告	各自のレポートについて、10分ずつ報告する
第26回	文献講読 XXII	BOP ビジネスが組織を変える
第27回	文献講読 XXIII	BOP と日本の企業
第28回	文献講読 XIV	日本企業の BOP への挑戦
第29回	文献講読 XV	開発プロジェクトを BOP ビジネスにつなげる
第30回	レポート執筆相談 IV	各自の要望に応じてレポート内容をチェックする

国際			
授業番号	B103090021		
科目名	3年次専門研究	通年	
担当者	水口 章	対象学年	3 単位数 4
授業のねらいと到達目標	本授業では、社会空間を人間の生活実践の場としてとらえ、価値観の違いが大きい人々が暮らす空間において、どのように相互理解と信頼を育み、秩序をつくっていくかについて、政策形成の観点で考察します。したがって、本授業の到達目標は公共性を理解し、それを踏まえた行動ができるようになることです。		
授業の進め方(履修条件など)	発表者や質問者など役割分担をして授業を進めるので、責任を果たすこと。討論は積極的に参加してください。		
成績評価方法	報告内容(レジュメ作成、説明、質疑応答)60%、課題レポート40%で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習: 紹介された書籍・資料を読んでおいてください。 復習: キーワードや理論は図書館を利用し、内容を十分把握してください。		
教科書	E. ストーキー、R. ゼックハウザー著(佐藤隆三、加藤寛監訳)『新装版 政策分析入門』勁草書房、2004年7月		
参考文献	盛山和夫、上野千鶴子、武川正吾編『公共社会学1・2』東京大学出版会、2012年7月、8月		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	年間スケジュール・問題意識の確認	学習方針、役割分担の明確化	
第2回	政策学について	なぜ「政策」に注目するのか	
第3回	政策過程について	政策の中身、政策の取り扱いについて	
第4回	政策過程の理論1	ラスウェルと政策科学	
第5回	政策過程の理論2	キングダンの「政策の窓」モデルについて	
第6回	政策過程の理論3	ローズの「政策ネットワーク論」について	
第7回	政策過程の理論4	ピーターズとポーレの「ガバナンス論」について	
第8回	政策過程の理論5	ツェベリスの「拒否権プレイヤー論」について	
第9回	小まとめ	自由と公共性の関係性を考える	
第10回	公共選択理論	ブキャナンとタロウの理論について	
第11回	制度論1	ピアソンの制度論について	
第12回	制度論2	シュミットの制度論について	
第13回	官僚制論	ウェーバーの理論について	
第14回	公務員論	リプスキーの理論について	
第15回	小まとめ	市場と公共性の関係性を考える	
第16回	対外政策の分析理論1	スナイダー・モデルについて	
第17回	対外政策の分析理論2	アリソン・モデルについて	
第18回	対外政策の分析理論3	パットナムの「ツレーベルゲール」について	
第19回	対外政策の分析理論4	ヘルドの「グローバル化論」について	
第20回	対外政策の分析理論5	プロスペクト理論について	
第21回	小まとめ	国際社会における公共性を考える	
第22回	公共政策のアプローチ1	公共政策とは何か	
第23回	公共政策のアプローチ2	公共政策の基本構造	
第24回	公共政策のデザイン1	政策課題の検討のしかた	
第25回	公共政策のデザイン2	対応すべき問題のとらえ方	
第26回	公共政策のデザイン3	政策目的と実現	
第27回	公共政策と決定1	合理的な意思決定とは	
第28回	公共政策と決定2	利益調整と政策決定の関係性	
第29回	公共政策と決定3	制度と政策決定の関係性	
第30回	小まとめ	公共性と政治的意思を考える	

国際

授業番号	B103090022		
科目名	3年次専門研究	通年	
担当者	柳原 由美子	対象学年	3
		単位数	4
授業のねらいと到達目標	日常的な英語をできるだけ多く読み・聞くことにより、実践的な英語能力を向上させることを目的とします。ひとつは、様々な分野にわたる新聞記事・英語ニュース・エッセイなどを読むことより、速読力と語彙力をつけます。もうひとつは、ドラマ、映画の視聴学習より、聴解力と英語運用能力の向上を目指します。		
授業の進め方(履修条件など)	90分の授業を半分に区切って、次のように行います。 1) 新聞記事、ニュース、エッセイを役割分担して輪読していきます。 2) 映画、あるいはドラマを視聴し、Comprehension, Vocabulary, Grammar, Composition Exercise の後、吹き替え、スキットなどにも挑戦します。		
成績評価方法・基準	平常点： 予習の度合い、クラスでの活動への参加度 (70%) 期末試験： 英語読解力テストの成績 (30%)		
授業の予習・復習	毎回、予め配布されるプリント教材の内容を把握し、単語・表現を覚えてくること。		
教科書	プリント教材を配布		
参考文献	初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。		

回数	授業項目	授業内容
第1回	クラス・オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法、参考文献、輪読の担当者について
第2回	1) 新聞記事 (1) 2) Roman Holiday (1)	1) Electronic voting should be used for Diet 2) Part 1. Scene 1
第3回	1) 新聞記事 (2) 2) Roman Holiday (2)	1) Australia eyes Lapanese tour market 2) Part 1. Scene 2
第4回	1) 新聞記事 (3) 2) Roman Holiday (3)	1) Drug testing on children 2) Part 1. Scene 3
第5回	1) 新聞記事 (4) 2) Roman Holiday (4)	1) Revision of Fundamental Law of Education 2) Part 1. Scene 4
第6回	1) 新聞記事 (5) 2) Roman Holiday (5)	1) Anti-drug, anti-terrorism 2) Part 1. Scene 5
第7回	1) 新聞記事 (6) 2) Roman Holiday (6)	1) Everest off-limits to bottled drinks 2) Part 1. Scene 6
第8回	1) 新聞記事 (7) 2) Roman Holiday (7)	1) Gestures crucial to thinking, communication 2) Part 2. Scene 1
第9回	1) 新聞記事 (8) 2) Roman Holiday (8)	1) The convention on cyber crime 2) Part 2. Scene 2
第10回	1) 新聞記事 (9) 2) Roman Holiday (9)	1) Blacks in U.S. still feel effects of segregation 2) Part 2. Scene 3
第11回	1) 新聞記事 (10) 2) Roman Holiday (10)	1) Workers dislike seniority scale 2) Part 1. Scene 4
第12回	1) 新聞記事 (11) 2) Roman Holiday (11)	1) Youth crimes turning more gruesome 2) Part 2. Scene 5
第13回	1) 新聞記事 (12) 2) Roman Holiday (12)	1) Graduate college in three years, not four 2) Review 1 (dubbing)
第14回	1) 新聞記事 (13) 2) Roman Holiday (13)	1) Primate dads live longer if involved in child care 2) Review 2 (dubbing)
第15回	前期英語読解力テスト	試験の解説
第16回	1) 英語ニュース (1) 2) Love Story (1)	1) Mothers, activists march to protest vinyl chloride toys 2) Part 1. Scene 1
第17回	1) 英語ニュース (2) 2) Love Story (2)	1) Earlier risers may have a genetic link 2) Part 1. Scene 2
第18回	1) 英語ニュース (3) 2) Love Story (3)	1) Tear-free onions 2) Part 1. Scene 3
第19回	1) 英語ニュース (4) 2) Love Story (4)	1) CNN retracts report 2) Part 1. Scene 4
第20回	1) 英語ニュース (5) 2) Love Story (5)	1) US compromise leaves room to attack Iraq 2) Part 1. Scene 5
第21回	1) 英語ニュース (6) 2) Love Story (6)	1) Japan urged to deregulate 2) Part 1. Scene 6
第22回	1) 英語ニュース (7) 2) Love Story (7)	1) Assisted suicide 2) Part 1. Scene 7
第23回	1) エッセイ (1) 2) Love Story (8)	1) A survey: truancy and college graduate's unemployment 2) Part 1. Scene 8
第24回	1) エッセイ (2) 2) Love Story (9)	1) Couples want fewer babies 2) Part 1. Scene 9
第25回	1) エッセイ (3) 2) Love Story (10)	1) Hormone-disrupting chemicals 2) Part 2. Scene 1
第26回	1) エッセイ (4) 2) Love Story (11)	1) Chiropractic minimally effective 2) Part 2. Scene 2
第27回	1) エッセイ (5) 2) Love Story (12)	1) Protecting children from Net 2) Part 2. Scene 3
第28回	1) エッセイ (6) 2) Love Story (13)	1) When athletes become cyborgs 2) Part 2. Scene 4
第29回	1) エッセイ (7) 2) Love Story (14)	1) Animal abuse 2) Part 2. Scene 5, 6 & 7
第30回	後期英語読解力テスト	試験の解説

国際			
授業番号	B103090023		
科目名	3年次専門研究	通年	
担当者	山口 政之	対象学年	3 単位数 4
授業のねらいと到達目標	このゼミでは魅力ある授業づくりのため準備と実践に取り組みます。学習指導要領の解釈や先行実践の検討、ゼミ生による模擬授業などを通して、国語科の授業における原理や方法について考察を深め、具体的な実践方法に関する知識を増やしながら、学習支援の方法を理解していくことをねらいます。		
授業の進め方(履修条件など)	小学6年生の国語教科書を取り上げ、単元ごとに課題を設定し、教材研究をして指導案を書き、輪番で模擬授業を行います。そして模擬授業の内容をゼミ生同士で具体的に検討していきます。		
成績評価方法	提出された指導案、模擬授業、出席の状況、課題への取り組み、発言等をふまえて総合的に評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：課題に関する文献や資料を収集し、教材研究をします。 復習：模擬授業を振り返ります		
教科書	『小学校学習指導要領解説国語編』、『ひろがる言葉 小学国語6上』(教育出版)		
参考文献	授業の中で適宜紹介していく。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	国語科の教材研究と模擬授業による演習を中心とした1年間のゼミの進め方を理解し、参観の予定や発表の順番等を定める。	
第2回	学級担任による国語教育	国語科以外での言語活動とその指導の実際	
第3回	6年生国語科の年間指導計画	小学校6年間の国語科学習のまとめとして	
第4回	6年生・詩の学習・教材研究	『風景 純銀もぞいく』『雑草』	
第5回	6年生・詩の学習・略案と模擬授業	略案(音読指導を中心に)	
第6回	6年生・随筆の学習・教材研究	『薫風』『迷う』	
第7回	6年生・随筆の学習・略案と模擬授業	略案(発問・課題を中心に)	
第8回	6年生・スピーチの学習・教材研究	『リリーススピーチをしよう』	
第9回	6年生・スピーチの学習・略案と模擬授業	略案(事前指導を中心に)	
第10回	6年生・説明文の学習・教材研究	『日本語をコンピューターで書き表す』	
第11回	6年生・説明文の学習・略案と模擬授業	略案(要約指導を中心に)	
第12回	6年生・漢字の学習・教材研究	『漢字パズル』	
第13回	6年生・漢字の学習・略案と模擬授業	教材プリントの作成(学習ゲーム)	
第14回	6年生・敬語・教材研究	『敬意を表す言い方』	
第15回	6年生・敬語・略案と模擬授業	略案(国語学との関連)	
第16回	6年生・熟語の構成・教材研究	『三字以上の熟語の構成』	
第17回	6年生・熟語の構成・略案と模擬授業	教材カードの作成(学習ゲーム)	
第18回	6年生・熟語の意味・教材研究	『熟語の意味』	
第19回	6年生・熟語の意味・略案と模擬授業	略案(短文づくり)	
第20回	6年生・『春はあけぼの』・教材研究	『春はあけぼの』	
第21回	6年生・『春はあけぼの』・略案と模擬授業	模擬授業(電子黒板の活用)	
第22回	6年生・パネルディスカッション・教材研究	『パネルディスカッションをしよう』	
第23回	6年生・パネルディスカッション・略案と模擬授業	指導案検討(論題の吟味)	
第24回	6年生・物語文・教材研究	『川とノリオ』	
第25回	6年生・物語文・略案と模擬授業	略案(読書会の実際)	
第26回	6年生・伝記・教材研究	『伊能忠敬』	
第27回	6年生・伝記・略案と模擬授業	略案(ブックトークの導入)	
第28回	6年生・意見文・教材研究	『学んだことを生かして調べよう』	
第29回	6年生・意見文・略案と模擬授業	学習作品の見本づくり	
第30回	まとめ	公開研究会に参加し、理論と実践の関係を考える	

国際		
授業番号	B103090024	
科目名	3年次専門研究 通年	
担当者	長谷川 頼子 対象学年 3 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	前年度に引き続き、ゼミ生の興味や最新の情報を取り入れつつ、言語・文化・教育に関連した資料をもとに共に考えることで、日本語教育への関心・理解を深めます。ゼミ生間の意見交換や議論を2年次よりも活発に行うことをめざし、4年次専門研究のテーマを各自が絞り込んでいけるようになることが目的です。	
授業の進め方(履修条件など)	日本語教員養成講座科目の受講が必要です。課題や発表に取り組んだり、関連するDVDを視聴するなどして、調べたこと、分かったことを全員が共有するために必要な説明、質疑応答を通じ、4年次専門研究に必要な基本的態度を培います。	
成績評価方法	授業への積極的な態度、日本語教育への真剣な取り組み、また年度末のレポートから総合的に評価します。	
基準		
授業の予習・復習	日本語教員養成講座科目の学習項目との関連を考えること。積極的に情報収集し、また課題をきちんとこなすこと。	
教科書	あらかじめ指定するものはないが、学生の興味や関心に応じて柔軟に対応する。	
参考文献	アルク(編)『日本語ジャーナル』(季刊) アルク(編)(2012)『日本語教育能力検定試験に合格するための用語集』 佐々木泰子(編)(2007)『ベーシック日本語教育』ひつじ書房	
回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	年間スケジュールとゼミの進め方について確認
第2回	日本語教員には何かが必要か(1)	日本語教育能力検定試験について
第3回	日本語教員には何かが必要か(2)	日本語教育を副専攻することの意義
第4回	日本語教員には何かが必要か(3)	国内・外の就職状況を資料を基に検討する
第5回	日本語教員には何かが必要か(4)	自分で情報収集・整理をしていくためには
第6回	社会・文化・地域(1)	世界と日本(日本の社会と文化)
第7回	社会・文化・地域(2)	異文化接触(異文化適応・調整)
第8回	言語と社会(1)	言語と社会の関係(社会文化能力)
第9回	言語と社会(2)	異文化コミュニケーションと社会(多文化・多言語主義)
第10回	言語と心理(1)	言語習得・発達(学習方略・ストラテジー)
第11回	言語と心理(2)	異文化理解と心理(異文化受容・適応)
第12回	言語と教育(1)	異文化間教育・コミュニケーション教育(多文化教育)
第13回	言語と教育(2)	言語教育と情報(メディア/情報技術活用能力)
第14回	言語一般(1)	日本語の構造(各論)
第15回	言語一般(2)	コミュニケーション能力(5つの能力)
第16回	前期の総括	夏休み中の課題について確認
第17回	発表の準備	レジュメ作成に必要な手順とは何か
第18回	模擬発表	発表の仕方や流れをよく確認しよう
第19回	学生による発表(1)	自分自身が関心のあるテーマを選ぼう
第20回	学生による発表(2)	自分に必要な情報・文献を探そう
第21回	学生による発表(3)	レジュメの形式に従って作成してみよう
第22回	学生による発表(4)	既存の情報と自分の意見・考えを区別しよう
第23回	学生による発表(5)	他のゼミ生が理解できる発表を心がけよう
第24回	学生による発表(6)	他の発表内容と関連づけながら理解しよう
第25回	学生による発表(7)	発表を良く聞き積極的に質問や意見交換をしよう
第26回	学生による発表(8)	効果的なプレゼンの仕方を考えよう
第27回	学生による発表(9)	発表を経て理解できたことをレポートにまとめよう
第28回	学生による発表(10)	発表や質疑応答をふまえ今後の研究計画を立てよう
第29回	4年次への準備(1)	専門的な研究をするにはどういう力が必要か
第30回	4年次への準備(2)	春休み中の課題について確認



国際			
授業番号	B103090025		
科目名	3年次専門研究	通年	
担当者	辻山 洋介	対象学年	3 単位数 4
授業のねらいと到達目標	算数の授業は、単に「算数を教える」のではありません。「算数を通してどのような子どもを育てたいか」という教育観が必要です。教育観を洗練させるためには、教育の背景や現状を把握した上で、授業や教材のねらいを特定しなければなりません。本授業は、算数の授業を行うための実践的な力を身に付けることを目標とします。		
授業の進め方(履修条件など)	前期は学習指導要領や全国学力・学習状況調査、教科書を中心に、現在の算数教育の背景や現状、内容について、テーマごとに考察と発表をします。後期は教材研究を進めると同時に、模擬授業やレポート発表を行います。		
成績評価方法	毎時間の課題への取り組みや、模擬授業、討議、レポート発表等を総合的に評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：グループでの取り組みや模擬授業のための準備をすること。 復習：疑問や論点を自分なりにまとめ、次の課題をみつけること。毎回の授業で、前回の授業の振り返りを発表してもらいます。		
教科書	必要に応じてプリント教材を配布します。		
参考文献	適宜紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	前期のガイダンス	授業の内容と進め方	
第2回	算数科の目標とその背景(1)	学習指導要領の変遷	
第3回	算数科の目標とその背景(2)	平成20年告示の学習指導要領の背景と特徴	
第4回	算数科の目標とその背景(3)	算数科の目標についての発表とまとめ	
第5回	こどもの学習状況(1)	全国学力・学習状況調査A問題	
第6回	こどもの学習状況(2)	全国学力・学習状況調査B問題	
第7回	こどもの学習状況(3)	こどもの学習状況についての発表とまとめ	
第8回	算数科のカリキュラム(1)	内容領域の構成と系列	
第9回	算数科のカリキュラム(2)	算数的活動・数学的活動の意義と位置	
第10回	算数科のカリキュラム(3)	算数科のカリキュラムについての発表とまとめ	
第11回	算数科の教材(1)	数と計算、量と測定	
第12回	算数科の教材(2)	図形、数量関係	
第13回	算数科の教材(3)	算数科の教材についての発表とまとめ	
第14回	授業のねらいと教材の扱い	授業のねらいと教材の扱いについての発表とまとめ	
第15回	前期のまとめ	後期のテーマ設定	
第16回	後期のガイダンス	模擬授業とレポート発表の進め方	
第17回	学習指導案作成に向けて	単元の指導計画と本時のねらい	
第18回	こどもの考えをいかした授業	授業のねらいと、こどもの考えのいかし方	
第19回	模擬授業準備	学習指導案の発表と検討	
第20回	模擬授業(1)	数と計算についての模擬授業と討議	
第21回	教材研究(1)	学習指導案と教材の再検討・レポート	
第22回	模擬授業(2)	量と測定についての模擬授業と討議	
第23回	教材研究(2)	学習指導案と教材の再検討・レポート	
第24回	模擬授業(3)	図形についての模擬授業と討議	
第25回	教材研究(3)	学習指導案と教材の再検討・レポート	
第26回	模擬授業(4)	数量関係についての模擬授業と討議	
第27回	教材研究(4)	学習指導案と教材の再検討・レポート	
第28回	算数科授業を行う視点(1)	学習指導案、教材、模擬授業の課題や論点の特定	
第29回	算数科授業を行う視点(2)	学習指導と教材研究を行う視点	
第30回	後期のまとめ	算数科授業を行うために必要な実践力	

国際					
授業番号	B103090026				
科目名	3年次専門研究			通年	
担当者	大月 隆成	対象学年	3	単位数	4
授業のねらいと到達目標	3年次のゼミでは、国際関係に関する専門的知識とそれをシミュレーション・ゲームとして表現するための技法を学んだ後、全員で独自のゲームを考案し、完成させる作業を行っていく。それにより、知識や技術をただ学ぶだけでなく、新しいものを考え創り出すことのできる能動的な人格の育成を目指す。				
授業の進め方(履修条件など)	前期は、ゲームを制作するために必要な知識と技法の修得に重点を置く。後期は、全員で独自のゲームを開発する作業を通じて、プロジェクトを計画・実行する手法を学ぶことが主眼である。				
成績評価方法	授業への貢献、特に共同制作への貢献を重視して行う。				
基準					
授業の予習・復習	授業の時間だけではとても足りない。様々なゲームを体験し、新しいゲームのアイデアを考えることを、日常的に実践する必要がある。				
教科書	特になし。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ゲームタイプの分析(1)	CIA vs. KGB (対決型)			
第2回	ゲームタイプの分析(2)	パンデミック(協力型)			
第3回	ゲームタイプの分析(3)	パンデミック・バイオテロリストバージョン(協力型+対決)			
第4回	ゲームタイプの分析(4)	コンテナ(競争型)			
第5回	ゲームタイプの分析(5)	ライフポート(競争型+投票)			
第6回	ゲームタイプの分析(6)	モノポリー(競争型+交渉)			
第7回	ゲームタイプの分析(7)	ディプロマシー(競争型+交渉+裏切り)			
第8回	ゲームタイプの分析(8)	キープクール(競争型+共通利益)			
第9回	ゲームシステムの分析(1)	ゲーム内の公平(対称性・非対称性)			
第10回	ゲームシステムの分析(2)	資源その他の制約条件			
第11回	ゲームシステムの分析(3)	戦略と運(確率)のバランス			
第12回	ゲームシステムの分析(4)	ターン制			
第13回	ゲームシステムの分析(5)	入札制およびワーカープレースメント			
第14回	ゲームシステムの分析(6)	同時実施のための様々なシステム			
第15回	ゲームシステムの分析(7)	ゲームにおける時間の概念			
第16回	ゲーム制作のための技術(1)	DTPの基礎			
第17回	ゲーム制作のための技術(2)	DTPの応用			
第18回	ゲーム制作のための技術(3)	電子マニュアルの基礎			
第19回	ゲーム制作のための技術(4)	電子マニュアルの応用			
第20回	ゲーム制作のための技術(5)	試作ゲームの立案			
第21回	ゲーム制作のための技術(6)	試作ゲームの作成			
第22回	ゲーム制作のための技術(7)	試作ゲームの評価			
第23回	ゲームの制作(1)	テーマの選定			
第24回	ゲームの制作(2)	ゲームの基本設計			
第25回	ゲームの制作(3)	コンポーネントの設計			
第26回	ゲームの制作(4)	コンポーネントの試作			
第27回	ゲームの制作(5)	テストプレイと評価			
第28回	ゲームの制作(6)	修正と変更			
第29回	ゲームの制作(7)	コンポーネントの作製			
第30回	ゲームの制作(8)	マニュアルの作成			



国際		
授業番号	B103100002	
科目名	4年次専門研究 通年	
担当者	中村 圭三 対象学年 4 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	3年次専門研究で進めてきた研究テーマについて、さらに地域に関するデータ解析・地域調査・文献調査等を進め、卒業論文の完成まで指導する。	
授業の進め方(履修条件など)	前期には、データ解析・地域調査・文献調査、論文執筆指導を行い、最後にゼミ論文中間報告をさせる。後期には、論文執筆指導を中心に進め、卒業論文最終報告会を開催する。	
成績評価方法	授業態度とゼミ論で成績を評価する。	
基準		
授業の予習・復習	予習：日頃から「卒業論文論のテーマ」に関して問題意識を持って生活すること。 復習：執筆をすすめている地域に関連する環境問題に関心を持って生活すること。	
教科書	『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社 2007.	
参考文献	授業の中で、適宜指示する。	
回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	ゼミの進め方についての説明
第2回	文献調査(1)	地域に関するデータ解析(1)
第3回	文献調査(2)	地域に関するデータ解析(2)
第4回	文献調査(3)	地域に関するデータ解析(3)
第5回	文献調査(4)	地域に関するデータ解析(4)
第6回	文献調査(5)	地域に関するデータ解析(5)
第7回	文献調査(6)	地域に関するデータ解析(6)
第8回	論文執筆指導(1)	地域に関する研究(1)
第9回	論文執筆指導(2)	地域に関する研究(2)
第10回	論文執筆指導(3)	地域に関する研究(3)
第11回	論文執筆指導(4)	地域に関する研究(4)
第12回	論文執筆指導(5)	地域に関する研究(5)
第13回	論文執筆指導(6)	地域に関する研究(6)
第14回	報告会	卒業論文中間報告会
第15回	前期まとめ	総括
第16回	論文執筆指導(7)	地域に関する研究(7)
第17回	論文執筆指導(8)	地域に関する研究(8)
第18回	論文執筆指導(9)	地域に関する研究(9)
第19回	論文執筆指導(10)	地域に関する研究(10)
第20回	論文執筆指導(11)	地域に関する研究(11)
第21回	論文執筆指導(12)	地域に関する研究(12)
第22回	論文執筆指導(13)	地域に関する研究(13)
第23回	論文執筆指導(14)	地域に関する研究(14)
第24回	論文執筆指導(15)	地域に関する研究(15)
第25回	報告会	卒業ゼミ論文最終報告会
第26回	論文執筆指導(16)	地域に関する研究(16)
第27回	論文執筆指導(17)	地域に関する研究(17)
第28回	論文執筆指導(18)	地域に関する研究(18)
第29回	論文執筆指導(19)	地域に関する研究(19)
第30回	提出	卒業論文提出

国際		
授業番号	B103100004	
科目名	4年次専門研究 通年	
担当者	村川 庸子 対象学年 4 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	ゼミ生は既に3年次に卒論・ゼミ論のいずれを執筆するか決めており、各自、執筆に向けての作業と指導を行う。適宜、クラス、グループ、個別指導を織り交ぜて実施する。他のゼミ生のテーマも共有し、一緒に考えていく経験を大切にしたい。	
授業の進め方(履修条件など)	適宜、クラス、グループ、個別指導を織り交ぜて実施する。クラスでのプレゼンテーションや相互の議論により、論文の内容を深めていけるよう、積極的な参加を臨みたい。	
成績評価方法基準	クラスでのプレゼンテーション 30% 議論への参加 20% 論文 50%	
授業の予習・復習	論文の執筆については個別に行う。	
教科書	特に指定しない	
参考文献	特に指定しない	
回数	授業項目	授業内容
第1回	導入	ゼミの進め方、論文執筆にむけての心構え
第2回	導入	論文の書き方、資料の集め方、まとめ方を確認する
第3回	グループ指導①	テーマの確認・作業工程作成 第一グループ
第4回	グループ指導②	テーマの確認・作業工程作成 第二グループ
第5回	グループ指導③	テーマの確認・作業工程作成 第三グループ
第6回	講義	アウトライン作成・検討
第7回	講義	まえがき―問題意識―執筆・検討
第8回	プレゼン	第一回個人報告 ①
第9回	プレゼン	第一回個人報告 ②
第10回	プレゼン	第一回個人報告 ③
第11回	プレゼン	第一回個人報告 ④
第12回	プレゼン	第一回個人報告 ⑤
第13回	グループワーク①	参考図書 書評①
第14回	グループワーク②	参考図書 書評②
第15回	グループワーク③	夏休みの執筆活動予定確認
第16回	講義	執筆 進行状況の確認・第一章提出
第17回	演習	第一章 検討②
第18回	演習	第一章 検討③
第19回	演習	第二章 検討①
第20回	演習	第二章 検討②
第21回	演習	第二章 検討③
第22回	演習	第三章 検討①
第23回	演習	第三章 検討②
第24回	演習	第三章 検討③
第25回	演習	「まとめ」 検討①
第26回	演習	「まとめ」 検討②
第27回	演習	「まとめ」 検討③
第28回	プレゼン	最終報告会①
第29回	プレゼン	最終報告会②
第30回	まとめ	総括

国際			
授業番号	B103100005		
科目名	4年次専門研究	通年	
担当者	池谷 美佐子	対象学年	4
		単位数	4
授業のねらいと到達目標	初等教育の在り方について理論と実践を通して理解を深めるとともに、教師に必要な資質や能力に関心を高め、自身の向上に意欲的に取り組むことができるようにする。現在の小学校教育の現状について自ら関心を持ち、研究を進めることができるようにする。		
授業の進め方(履修条件など)	積極的な態度で課題解決に取り組み、小学校教育の意義や教師という仕事の内容や資質、必要な能力についての認識を高めていけるようにする。		
成績評価方法	課題への取り組み意欲、周囲との積極的な関わりや討論の質的な向上への貢献などの平常点、レポートなどで総合的に評価。		
基準			
授業の予習・復習	予習 次時の内容を各自調べてくる。 復習 レポートの作成に向けて課題を整理しておく。		
教科書	配布資料		
参考文献	必要に応じて紹介		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	授業の進め方について説明	
第2回	教育実習事前指導	小学校の一日の流れについての説明	
第3回	教育実習事前指導	小学校の教職員の仕事についての説明	
第4回	教育実習事前指導	学級担任の仕事についての理解	
第5回	教育実習事前指導	人権教育についての解説	
第6回	教員採用試験に向けて	教職教養についての復習と質疑	
第7回	教員採用試験に向けて	一般教養についての復習と質疑	
第8回	教員採用試験に向けて	小学校全科(国語・社会)の復習と質疑	
第9回	教員採用試験に向けて	小学校全科(算数・理科)の復習と質疑	
第10回	教員採用試験に向けて	小学校全科(生・音・図・家・体)の復習と質疑	
第11回	教員採用試験に向けて	模擬授業用の指導案についての検討	
第12回	教員採用試験に向けて	大学生活4年間の活動の分析と整理	
第13回	教員採用試験に向けて	求められる教師像についての理解	
第14回	教員採用試験に向けて	小論文練習	
第15回	教員採用試験に向けて	面接練習	
第16回	教育課題研究	小学校の今日的課題について検討	
第17回	教育課題研究	児童の学習意欲について	
第18回	教育課題研究	児童の体力低下について	
第19回	教育課題研究	学校と保護者とのかかわりについて	
第20回	教育課題研究	学校と地域とのかかわりについて	
第21回	教育課題研究	教師の心身の健康について	
第22回	論文の書き方	課題をとらえ、計画を立てる	
第23回	論文の書き方	調査・研究の進め方	
第24回	論文・レポートの作成	各自のテーマと方針を検討	
第25回	論文・レポートの作成	個別指導	
第26回	論文・レポート作成	個別指導	
第27回	論文・レポート作成	個別指導	
第28回	論文・レポート報告会	発表と討論、修正点の確認	
第29回	論文・レポート報告会	発表と討論、修正点の確認	
第30回	卒論、レポート提出	提出と感想の発表	

国際			
授業番号	B103100006		
科目名	4年次専門研究	通年	
担当者	高田 洋子	対象学年	4 単位数 4
授業のねらいと到達目標	三年次専門研究に引き続いて、各自が興味を持ったテーマについて論文を仕上げることを1年間の目標にします。論文をまとめるための文献資料の集め方、編別構成、文章・注の付け方のほか、各自の進路に沿った個別指導を1年を通して行います。		
授業の進め方(履修条件など)	論文書きのための共通指導と個別指導の両方を行います。学生は各自の論文の中間発表を準備し、報告会では互いに批評し合う中からも十分に学び取ることができます。		
成績評価方法	中間発表および提出した論文の完成度で成績評価を付けます。		
基準			
授業の予習・復習	予習：各自の研究テーマに沿って準備してください。		
教科書	指定しません。		
参考文献	論文のテーマにより個別に指定します。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ゼミ論文作成のスケジュールづくり	1年間の目標・各自の研究計画・ゼミ発表のスケジュールを作成する	
第2回	ITによる資料収集の実習	メディアセンターを利用した資料収集の方法を知る	
第3回	学外における資料収集の実習	JETRO アジア経済研究所の図書室で、研究論文・史料の検索を学ぶ	
第4回	論文作成の準備(1)	問題意識と収集資料の発表(1)	
第5回	論文作成の準備(2)	問題意識と資料収集の発表(2)	
第6回	論文作成の準備(3)	論文の章構成を考える	
第7回	論文作成の準備(4)	実際の専門論文を読んでみる	
第8回	論文作成の準備(5)	「注」の付け方を学ぶ	
第9回	論文作成の準備(6)	実際に「注」を書いてみる	
第10回	個別面談(1)	3名ずつ個別に初期論文指導を実施する	
第11回	個別面談(2)	3名ずつ個別に初期論文指導を実施する	
第12回	個別面談(3)	3名ずつ個別に初期論文指導を実施する	
第13回	個別面談(4)	3名ずつ個別に初期論文指導を実施する	
第14回	中間報告会(1)	各自の論文の「序」を発表する	
第15回	中間報告会(2)	各自の論文の「序」を発表する	
第16回	中間報告会(3)	各自の論文の「序」を発表する	
第17回	中間報告会(3)	各自の論文の「序」を発表する	
第18回	中間報告会(4)	各自の論文の「序」を発表する	
第19回	世界を見る眼(1)	卒業の準備として、国際社会への認識を高める。国内外のニュースについて議論する。	
第20回	世界を見る眼(2)	卒業の準備として、国際社会への認識を高める。国内外のニュースについて議論する。	
第21回	世界を見る眼(3)	卒業の準備として、国際社会への認識を高める。国内外のニュースについて議論する。	
第22回	大学院進学希望者(留学生)への指導(1)	大学院の選択と入試の準備	
第23回	大学院進学希望者(留学生)への指導(2)	大学院の選択と入試の準備	
第24回	大学院進学希望者(留学生)への指導(3)	大学院の選択と入試の準備	
第25回	論文発表会(1)	各自が本論の内容を発表する	
第26回	論文発表会(2)	各自が本論の内容を発表する	
第27回	論文発表会(3)	各自が本論の内容を発表する	
第28回	論文発表会(4)	各自が本論の内容を発表する	
第29回	まとめ：3年間を振り返って(1)	アルバム集の作成、ゼミ論文集の作成	
第30回	まとめ：3年間を振り返って(2)	大学生活の感想および卒業後の抱負を語り合う	

国際					
授業番号	B103100007				
科目名	4年次専門研究		通年		
担当者	織井 啓介	対象学年	4	単位数	4
授業のねらいと到達目標	「時事英語・国際経済経営」のゼミです。時事英語は、海外の標準的な新聞・雑誌記事が読みこなせるようになります。国際経済経営は、国際金融やファイナンスなどの講義で培った金融の基礎知識を基に、証券分析の手法を学びます。				
授業の進め方(履修条件など)	2年ゼミ・3年ゼミと同様、配布プリントを中心に学習します。				
成績評価方法	平常点で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：プリントでアサインメントをこなしましょう。 復習：授業の復習と関連学習に努めましょう。				
教科書	とくに使用しません。				
参考文献	Financial Times, Economist など。卒業論文の執筆希望者は小浜裕久・木村福成『経済論文執筆の作法』日本評論社、1998年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	今年度の計画			
第2回	上級時事英語①	海外紙株式市場記事			
第3回	上級時事英語②	海外紙金融市場記事			
第4回	上級時事英語③	海外紙外為市場記事			
第5回	上級時事英語④	海外紙商品市場記事			
第6回	上級時事英語⑤	海外紙マクロ経済記事			
第7回	上級時事英語⑥	海外紙企業記事			
第8回	上級時事英語⑦	海外紙金融政策記事			
第9回	上級時事英語⑧	海外紙財政記事			
第10回	上級時事英語⑨	海外誌日本経済記事			
第11回	上級時事英語⑩	海外誌米国経済記事			
第12回	上級時事英語⑪	海外誌アジア経済記事			
第13回	上級時事英語⑫	海外誌ファイナンス記事			
第14回	上級時事英語⑬	海外誌マーケット記事			
第15回	前期のまとめ	総括と夏休みの計画			
第16回	後期ガイダンス	夏休みの成果と後期の計画			
第17回	応用経済経営①	証券分析(株式市場)			
第18回	応用経済経営②	証券分析(債券市場)			
第19回	応用経済経営③	証券分析(投資収益率)			
第20回	応用経済経営④	証券分析(予想投資収益率:リターン)			
第21回	応用経済経営⑤	証券分析(予想投資収益率:リスク)			
第22回	応用経済経営⑥	証券分析(ポートフォリオのリターン)			
第23回	応用経済経営⑦	証券分析(ポートフォリオのリスク)			
第24回	応用経済経営⑧	証券分析(投資家の期待効用関数)			
第25回	応用経済経営⑨	証券分析(最適ポートフォリオの選択)			
第26回	応用経済経営⑩	証券分析(ヘッジなし外国証券投資)			
第27回	応用経済経営⑪	証券分析(ヘッジつき外国証券投資)			
第28回	応用経済経営⑫	証券投資(国際分散投資)			
第29回	応用経済経営⑬	証券分析(ローカルリスクとグローバルリスク)			
第30回	今年度のまとめ	総括と反省			

国際			
授業番号	B103100009		
科目名	4年次専門研究	通年	
担当者	寛正 豊和	対象学年	4
		単位数	4
授業のねらいと到達目標	<p>このゼミの目的は法学・刑事法学的諸問題をテーマに掲げています。例えば、わが国および諸外国の犯罪現象をとりあげ、犯罪とはなにか、どのようにすれば犯罪はなくなるのか、また、いかにして犯罪者を再社会化させるかなどについて、人道主義的立場から考察しようとするものです。</p> <p>ゼミにおいては、講義などで習得した基本事項の理解をもとに、学外学習としての刑務所、少年院、自立支援施設（教護院）等の見学や裁判傍聴のうえにたって個別テーマの検討を通じて、学生の知的好奇心を啓発し、理解、関心を深め、更にそれらをまとめていくことを目指していききたいと思います。</p>		
授業の進め方（履修条件など）	特にありません。		
成績評価方法	初回の授業において指示します。		
基準			
授業の予習・復習	初回の授業において指示します。		
教科書	初回の授業において指示します。		
参考文献	授業において指示します。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	3年次に修得した基本事項の理解のうえにたち、やや発展した個別テーマの検討を通じて各自の問題意識の発掘、展開をめざし、さらにそれをまとめていくことを指導していきます。	
第2回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第3回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第4回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第5回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第6回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第7回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第8回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第9回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第10回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第11回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第12回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第13回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第14回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第15回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第16回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第17回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第18回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第19回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第20回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第21回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第22回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第23回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第24回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第25回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第26回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第27回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第28回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第29回	演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて	
第30回	総括	まとめ	

国際			
授業番号	B103100010		
科目名	4年次専門研究		通年
担当者	家近 亮子	対象学年	4 単位数 4
授業のねらいと到達目標	本年度の最大の目的は、卒業論文を書くことです。そのための作業を順序をおってすすめていきます。テーマはこれまで授業で学んできたことのなかから自分が感心があるものを自由に選択します。字数は約1万5000～2万字です。大学院に進学する予定の人は進学する大学院の専攻につながるようなテーマで論文を書くこと、また、就職の場合も自分が希望する業種に関連するテーマを選択することをすすめます。卒論は大学で学んだことの集大成であると同時に、卒業後の進路につながるようになるよう高い問題意識をもって臨んでください。到達目標は、卒論の作成とその過程における問題の構成、資料の探索方法の習得、プレゼンテーションの方法の習得にあります。		
授業の進め方(履修条件など)	ゼミ生であること		
成績評価方法	卒論への取り組みとプレゼンテーション		
基準			
授業の予習・復習	予習：自分の卒論テーマの調査 復習：授業内での議論をまとめ、問題点を整理し、解決すること		
教科書	特にありません。		
参考文献	論文に必要な文献の紹介を個別におこないます。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	授業の進め方の説明発表担当の決定	
第2回	論文のテーマの決定	テーマの決定、参考文献の探し方の説明	
第3回	課外授業—アジア経済研究所図書館訪問	テーマ別文献検索と資料収集	
第4回	テーマの発表	各ゼミ生の卒論テーマの発表と討論、修正と決定	
第5回	論文構成および参考文献の発表	論文の構成作業、参考文献リストの提出	
第6回	問題の所在(序論)の発表—①	「問題の所在」の発表と質疑—①	
第7回	問題の所在(序論)の発表—②	「問題の所在」の発表と質疑—②	
第8回	問題の所在(序論)の発表—③	「問題の所在」の発表と質疑—③	
第9回	問題の所在(序論)の発表—④	「問題の所在」の発表と質疑—④	
第10回	第1章の発表—①	「第1章」の発表と質疑—①	
第11回	第1章の発表—②	「第1章」の発表と質疑—②	
第12回	第1章の発表—③	「第1章」の発表と質疑—③	
第13回	第1章の発表—④	「第1章」の発表と質疑—④	
第14回	第1章の発表—⑤	「第1章」の発表と質疑—⑤	
第15回	総括	卒論の進捗状況説明と今後の計画の発表	
第16回	後期ガイダンス	授業の進め方の説明、発表順番の決定	
第17回	夏休みの取り組みの発表	論文の進捗状況と問題点の発表	
第18回	第2章以降発表—①	「第2章」「第3章」の発表と質疑—①	
第19回	第2章以降発表—②	「第2章」「第3章」の発表と質疑—②	
第20回	第2章以降発表—③	「第2章」「第3章」の発表と質疑—③	
第21回	第2章以降発表—④	「第2章」「第3章」の発表と質疑—④	
第22回	第2章以降発表—⑤	「第2章」「第3章」の発表と質疑—⑤	
第23回	結論発表—①	「結論」の発表と総括討論—①	
第24回	結論発表—②	「結論」の発表と総括討論—②	
第25回	結論発表—③	「結論」の発表と総括討論—③	
第26回	論文仕上げと修正—①	論文の修正と完成—①	
第27回	論文仕上げと修正—②	論文の修正と完成—②	
第28回	論文仕上げと修正—③	論文の修正と完成—③	
第29回	論文仕上げと修正—④	論文の修正と完成—④	
第30回	論文提出	論文提出とサマリーの作成	

国際			
授業番号	B103100011		
科目名	4年次専門研究	通年	
担当者	山本 健	対象学年	4 単位数 4
授業のねらいと到達目標	4年ゼミは「バブル経済下の中国と日本の比較」（比較経済論）をテーマとする。まず前期では、今日の経済状況から予想される「恐慌」、特に「21世紀型恐慌」の特徴などを学び、現在のグローバル経済における両国の経済事情を理解させ、これらを参考にして後期では、ゼミ論の執筆に向けた準備に努める。		
授業の進め方（履修条件など）	前期は浜矩子『恐慌の歴史』をテキストにして輪読し、その内容をワークシートに要約させ、次回のゼミで発表・検討し、全員の共通理解に昇華させ、ゼミ論執筆の材料を提供する。		
成績評価方法基準	ワークシートの提出、討論への参加度合、中間発表そしてゼミ論の提出などで評価する。原則として、出席率の規定（2/3）に達していない学生は評価外とする。		
授業の予習・復習	予習：日頃から経済ニュースに関心を持って、ネット、新聞、TVに目を通してください。 復習：ワークシートを見ながら、授業で学習したことを自分の言葉で短くまとめておくこと。		
教科書	浜矩子『恐慌の歴史』（宝島社新書、2011年）		
参考文献	『ガイアの夜明け』（日経ビジネス人文庫）		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	授業の進め方とグループ化について	
第2回	はじめに－21世紀型恐慌時代の到来	グローバル時代の恐慌の内容の説明	
第3回	恐慌が発生する理由①	資本主義経済に伴う周期的な現象	
第4回	恐慌が発生する理由②	時代別の恐慌の種類	
第5回	金融恐慌の歴史①	アメリカでの投資ブームのメカニズム	
第6回	金融恐慌の歴史②	日本での戦争特需と昭和金融恐慌	
第7回	金融恐慌の歴史③	イギリスでの鉄道狂バブルと金本位制の関係	
第8回	アメリカのドル支配の功罪①	ブレトン・ウッズ体制（ドル基軸通貨制）の意義	
第9回	アメリカのドル支配の功罪②	終戦を境にインフレ加速でドルの陰り	
第10回	アメリカのドル支配の功罪③	ニクソン・ショック－金ドル本位制の崩壊	
第11回	アメリカのドル支配の功罪④	石油ショックによるインフレ加速とブラザ「合意」	
第12回	日本のバブル経済とその崩壊	2度にわたる石油危機による欧米余剰資金の日本へ集中投資	
第13回	IT革命とグローバル化と世界経済の変化	格差問題（富の集中とと貧困の注中）の出現と貧困対策	
第14回	世界同時不況の出現①	金融危機を招いたデリバティブ（金融派生商品）	
第15回	世界同時不況の出現②	アメリカでの住宅ローン投資（サブプライムローン）の過熱	
第16回	リーマンショック（恐慌）の意義	原因は金融緩和策の打ち切りと日本の余剰資金の投資	
第17回	まとめ－各自の意見・感想	自分が興味を持った問題二つについて発表	
第18回	テーマ選び	自分の関心を探す（日本留学を決意や日本での新たな関心などを参考にして）	
第19回	ゼミ論の作成の手順 1	問題提起（自分の関心）の役割	
第20回	ゼミ論の作成の手順 2	第1章以下の構成（起－承－転－結）	
第21回	ゼミ論の作成の手順 3	終わりに（結論と展望）	
第22回	ゼミ論の中間発表 1	発表（3人）	
第23回	ゼミ論の中間発表 2	発表（3人）	
第24回	ゼミ論の中間発表 3	発表（3人）	
第25回	ゼミ論の中間発表 4	発表（3人）	
第26回	個別指導 1	ゼミ論の修正（4人）	
第27回	個別指導 2	ゼミ論の修正（4人）	
第28回	個別指導 3	ゼミ論の修正（4人）	
第29回	個別指導 4	仕上げ指導（最終の加筆修正）	
第30回	ゼミ論の提出	学生全員での意見交換	



国際					
授業番号	B103100013				
科目名	4年次専門研究		通年		
担当者	武内 清	対象学年	4	単位数	4
授業のねらいと到達目標	卒業に向けて、教員としてまた社会人としての資質を高める。				
授業の進め方(履修条件など)	①教育実習に役立つ知識、技術の習得、②教員採用試験に向けた一般教養、教職教養、教科の知識の習得並びにプレゼン能力の向上、③自分の問題意識に基づく研究テーマの設定、資料の蒐集、ゼミ論文の作成				
成績評価方法	討議への参加20%、模擬授業20%、ゼミ論発表20%、ゼミ論40%。				
基準					
授業の予習・復習	毎時間、予習、復習を行うこと。特に、発表前のj準備は万全に。				
教科書	授業時に指示。				
参考文献	原田彰・望月重信『子ども社会学への招待』(ハーベスト社、2012年)他。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	教育実習の準備1	教育実習に必要な知識、技術の確認			
第2回	同2	教育実習の模擬授業1			
第3回	同3	同2			
第4回	同4	同3			
第5回	一般教養1	国語領域(漢字、文学、評論)			
第6回	一般教養2	社会領域(歴史、政治、経済、社会)			
第7回	一般教養3	理数領域(数学、理科)			
第8回	教職教養1	法律関係			
第9回	教職教養2	教育思想			
第10回	教職教養3	学校経営関係			
第11回	教職教養4	教師-子ども関係			
第12回	教職教養5	教育改革			
第13回	プレゼン能力1	資料の蒐集の方法			
第14回	プレゼン能力2	資料のまとめ方			
第15回	プレゼン能力3	プレゼンの方法			
第16回	プレゼン能力4	模擬1			
第17回	プレゼン能力5	模擬2			
第18回	自分の研究1	問題意識			
第19回	自分の研究2	テーマの設定			
第20回	自分の研究3	資料の蒐集			
第21回	自分の研究4	論理的展開(章構成の方法)			
第22回	自分の研究5	発表1			
第23回	自分の研究6	発表2			
第24回	自分の研究7	発表3			
第25回	自分の研究8	発表4			
第26回	自分の研究9	発表5			
第27回	自分の研究10	発表6			
第28回	自分の研究11	発表7			
第29回	自分の研究12	発表8			
第30回	まとめ	教育と教職についての議論			

国際					
授業番号	B103100015				
科目名	4年次専門研究			通年	
担当者	佐藤 佳子	対象学年	4	単位数	4
授業のねらいと到達目標	このゼミでは、小学校英語教育に関する研究課題を検討し、各自関心のある研究テーマを設定していきます。最終的には、研究テーマに基づいた卒業論文を執筆し、完成させることを目的とします。前期は、教育実習に向けての事前指導を行なうとともに、「外国語活動」の教材研究の方法についても学んでいきます。後期は、毎回、各自の研究内容について発表を行い、ディスカッションをしながら、英語教育についてさらに理解を深めていくことを目指します。				
授業の進め方(履修条件など)	各自の発表を中心としたゼミ形式で進めていきます。				
成績評価方法	授業への積極的な参加、発表内容、課題の提出状況、卒業論文などを総合して評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：研究テーマ設定のための資料収集。文献リストの作成。 復習：ゼミでの発表やディスカッション内容を整理し、次の発表につなげていくこと。				
教科書	必要に応じて資料を配布する予定。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	前期イントロダクション	ゼミの進め方について、評価方法			
第2回	教育実習に向けて	教育の理論と実践について			
第3回	教育実習事前指導(1)	学習指導案の作成(1)			
第4回	教育実習事前指導(2)	学習指導案の作成(2)			
第5回	教育実習事前指導(3)	模擬授業(1) プレゼンテーション			
第6回	教育実習事前指導(4)	模擬授業(2) プレゼンテーション			
第7回	教育実習事前指導(5)	模擬授業(3) プレゼンテーション			
第8回	「外国語活動」の教材研究(1)	歌、チャンツの活用法			
第9回	「外国語活動」の教材研究(2)	絵本の活用法			
第10回	「外国語活動」の教材研究(3)	視聴覚教材の使用			
第11回	教育実習事後指導(1)	教育実習をふりかえって			
第12回	教育実習事後指導(2)	教育実習のまとめ			
第13回	教育実習報告	前期実習体験者による発表(前半)			
第14回	教育実習報告	前期実習体験者による発表(後半)			
第15回	前期まとめ	研究の取り組み方について			
第16回	後期イントロダクション	ゼミの進め方、卒業論文執筆に向けて			
第17回	研究テーマについて	研究テーマの設定と確認			
第18回	論文執筆について	論文執筆に関する注意事項			
第19回	文献について	資料収集の仕方			
第20回	文献調査(1)	文献リスト例(1)			
第21回	文献調査(2)	文献リスト例(2)			
第22回	中間報告(1)	研究内容についての発表(1)			
第23回	中間報告(2)	研究内容についての発表(2)			
第24回	中間報告(3)	研究内容についての発表(3)			
第25回	論文の経過報告	ドラフト提出			
第26回	詳細報告(1)	個別指導			
第27回	詳細報告(2)	個別指導			
第28回	詳細報告(3)	個別指導			
第29回	詳細報告(4)	個別指導			
第30回	後期まとめ	卒業論文の提出、各自の発表			

国際		
授業番号	B103100017	
科目名	4年次専門研究 通年	
担当者	有馬 容子 対象学年 4 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	前期はニュースの英語および TOEIC テスト読解問題の演習を集中的に行うことにより、実践的な英語読解力の向上を目指す。後期はそれに作家によるエッセイを加え、限られた時間で内容を把握する練習をする。原文で意外に簡単に読めることを実感してもらいたい。	
授業の進め方(履修条件など)	定期的に最新の英語ニュースをチェックし字幕なしで理解できることを目標にする。また、前の週に配布されるプリントおよび TOEIC の問題から毎回小テストを行う。後期は Kurt Vonnegut の Armageddon in Retrospect を速読による読解力向上を意識して読む。	
成績評価方法基準	平常点(予習の度合い、毎回実施のテスト)(70%) 学期末英語読解力テストの成績(30%) ゼミ修了時にこれまでゼミで扱った文学作品についてレポートを提出し評価を受けることも可。	
授業の予習・復習	予習:毎週配布される英文プリントの内容を把握し、単語・表現を覚えてくる。	
教科書	プリントを配布	
参考文献	Kurt Vonnegut. Armageddon in Retrospect. Berkley, 2008.	
回数	授業項目	授業内容
第1回	ゼミの取り組み方について説明	教材の概要および取り上げる作品の特徴について
第2回	ニュースの英語、TOEIC Part 6(1)	前週の英語ニュースより。Part 6 読解力問題演習
第3回	TOEIC Part 6(2)	Part 6 読解力問題演習
第4回	ニュースの英語、TOEIC Part 6(3)	前週の英語ニュースより。Part 6 読解力問題演習
第5回	TOEIC Part7(1)	Part7 読解力問題演習
第6回	ニュースの英語、TOEIC Part 7(2)	前週の英語ニュースより。Part7 読解力問題演習
第7回	TOEIC Part 7(3)	Part7 読解力問題演習
第8回	ニュースの英語、TOEIC Part 7(4)	前週の英語ニュースより。Part7 読解力問題演習
第9回	TOEIC Part 7(5)	Part7 読解力問題演習
第10回	ニュースの英語、Armageddon in Retrospect (1)	"Introduction" より
第11回	ニュースの英語、Armageddon (2)	前週の英語ニュースより "Wailing Shall Be in All Streets" より
第12回	ニュースの英語、Armageddon (3)	"Wailing Shall Be in All Streets" より
第13回	ニュースの英語、Armageddon (4)	"Great Day" より
第14回	ニュースの英語、Armageddon (5)	"Great Day" より
第15回	前期英語読解力テスト	解答解説
第16回	Armageddon (6)	"Guns Before Butter" より
第17回	ニュースの英語、Armageddon (7)	前週の英語ニュースより "Guns Before Butter" より
第18回	Armageddon (8)	"Happy Birthday, 1951" より
第19回	ニュースの英語、Armageddon (5)~(8)まとめ	前週の英語ニュースより。"Happy Birthday, 1951" より
第20回	Armageddon (9)	"Brighten Up" より
第21回	ニュースの英語、Armageddon (10)	前週の英語ニュースより。"Brighten Up"
第22回	Armageddon (11)	"The Unicorn Trap" より
第23回	ニュースの英語、Armageddon (12)	前週の英語ニュースより。"The Unicorn Trap" より
第24回	Armageddon (13)	"Unknown Soldier" より
第25回	ニュースの英語、Armageddon (14)	前週の英語ニュースより。"Unknown Soldier" より
第26回	Armageddon (15)	"Just You and Me, Sammy" より
第27回	ニュースの英語、Armageddon (16)	前週の英語ニュースより。"Just You and Me, Sammy" より
第28回	Armageddon (17)	"Armageddon in Retrospect" より
第29回	後期まとめ	Armageddon 全体について意見を出し合う。
第30回	総括英語テストまたは文学作品についてのレポート提出	解答解説

国際			
授業番号	B103100018		
科目名	4年次専門研究	通年	
担当者	高橋 和子	対象学年	4 単位数 4
授業のねらいと到達目標	本ゼミでは卒業論文を書くことが要件です。ゼミでは、3年次に学内で実施した調査データに対してこれまで学んだデータ分析の方法を適用し、得られた分析結果を卒業論文としてまとめるための指導を行います。到達目標は、卒業論文を完成させることです。		
授業の進め方(履修条件など)	卒業論文作成に必要な共通の事項を解説しつつ、各自の作業を進めてもらいます。途中、パワーポイントにより成果を発表してもらいます。後期は、基本的なスケジュールはありますが、各自の進度が違いすぎる場合は個別に指導します。		
成績評価方法	ゼミへの参加貢献度：30% 卒業論文70%		
基準			
授業の予習・復習	予習：前回にゼミで指摘された事項を修正して望むこと。必ず、前回からの進捗があること。 復習：指摘された事項について修正すること。		
教科書	得jになし		
参考文献	各自のテーマに応じて適宜紹介します		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	卒業論文作成に向けてスケジュール説明 前期の目標	
第2回	卒業論文とは	卒業論文の構成・形式と実例紹介	
第3回	テーマ設定(1)	テーマ検討(仮説構成)	
第4回	テーマ設定(2)	タイトル検討	
第5回	1章 はじめに(1)	1章 解説(動機、背景、目的の検討)	
第6回	1章 はじめに(2)	1章 執筆と修正	
第7回	プレゼンテーション	発表・質疑応答(1人5分+3分)	
第8回	2章 データと分析方法(1)	2章1節 データ 解説(注、参考文献の書き方) 検討	
第9回	2章 データと分析方法(1)	2章1節 データ 解説(注、参考文献の書き方) 検討	
第10回	2章 データと分析方法(3)	2章2節 分析方法 解説 検討後、執筆と修正	
第11回	3章 分析結果(1)	3章1節 単純集計結果 解説	
第12回	3章 分析結果(2)	3章1節 単純集計結果 検討	
第13回	3章 分析結果(3)	3章1節 単純集計結果 執筆と修正	
第14回	前期まとめ	1章から3章1節まで完成	
第15回	プレゼンテーション	発表・質疑応答(1人7分+3分)	
第16回	3章 分析結果(4)	3章2節 クロス集計結果(属性とのクロス) 解説	
第17回	3章 分析結果(5)	3章2節 クロス集計結果(属性とのクロス) 検討	
第18回	3章 分析結果(6)	3章2節 クロス集計結果(属性とのクロス) 執筆と修正	
第19回	3章 分析結果(7)	3章3節 クロス集計結果(関連すると思われる質問同士) 解説	
第20回	3章 分析結果(8)	3章3節 クロス集計結果(関連すると思われる質問同士) 検討	
第21回	3章 分析結果(9)	3章3節 クロス集計結果(関連すると思われる質問同士) 執筆と修正	
第22回	4章 考察(1)	4章 解説(考察と結果の違い、文献調査)	
第23回	4章 考察(2)	4章 検討	
第24回	4章 考察(3)	4章 執筆と修正	
第25回	5章 おわりに(1)	5章 解説 検討	
第26回	5章 おわりに(2)	5章 執筆と修正	
第27回	注 参考文献	注 適宜修正 参考文献 執筆と修正	
第28回	全体まとめ	卒業論文として完成	
第29回	卒論発表会(1)	発表・質疑応答(1人10分+5分)	
第30回	卒論発表会(2)	発表・質疑応答(1人10分+5分)	

国際					
授業番号	B103100019				
科目名	4 年次専門研究		通年		
担当者	田口 功	対象学年	4	単位数	4
授業のねらいと到達目標	前期は、理科実験装置の検討授業を行います。そこでは、資料の収集も行なう。後期は、さらに理科教育に役立つ教材を開発する。また、MATLAB を用いシミュレーション練習を行なう。このことを通して自ら課題を持ち研究をする態度が得られることを到達目標とします。				
授業の進め方(履修条件など)	今使用されている教材を動かし、良い点悪い点の検討を行なう。資料を見て小学校理科実験との関連性を検討しながら、理科実験装置改善の検討を行行なう。 後期は、MATLAB を用い、応用としてシミュレーション練習も行なう。研究結果を論文としてまとめる。このことを通して自ら課題を持ち研究をする態度が得られることを到達目標とします。				
成績評価方法	小論文、発表、資料提出、小試験により総合評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：与えられた課題についてよく資料を見て研究して下さい。 復習：授業中に指摘された事柄などについて良く復習して下さい。				
教科書	資料を配布します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明			
第 2 回	ふりこの実験を実際に行なう。	現在ある材料で、ふりこの実験を行なえる装置の作成			
第 3 回	ふりこの実験に関する資料収集	図書館でふりこに関する資料を収集し、小学校で行われている実験を行っている			
第 4 回	ニュートンの力学に対して一般方程式を解く	近似的に微分方程式を解いてみる。解の式と現実の運動の検討を行なう。			
第 5 回	解の検討	微分方程式の解きかたを検討する。理解度を深める。			
第 6 回	装置の改善 (1)	ふりこの運動の 2 次元化を試みる。			
第 7 回	装置の改善 (2)	ブレのないふりこの運動を行なうための工夫			
第 8 回	数値解析 (1)	方程式の数値解法 ニュートン法について			
第 9 回	数値解析 (2)	ふりこの運動をシミュレーションする。MATLAB を使用し確かめる。			
第 10 回	太陽光電池	太陽光電池の原理をインターネットで調査し、家庭の電源としてどのように使われているかを調査検討する。どのようにしたら教材に使用できるかを検討する。			
第 11 回	電磁石 (1)	電磁石作成に対して発熱状況は、避けられない。どのようにしたら安全な実験ができるか電気部品を検討する。磁極の発生と確認、磁極の強さ、実験の難しさを体験する。			
第 12 回	電磁石 (2)	電磁石の強さの検討を行なう。線形性が成り立たないため、どのような工夫が必要かを検討する。			
第 13 回	電磁石 (3)	理論的に、小学生がわかりやすい電磁石をどのような巻線を選択し、実験を行なったらわかりやすい実験が行えるかを検討する。			
第 14 回	計器使用の注意点 (1)	電気抵抗の大小を電流計、電圧計を使用し検討する。さらに、計器自身についても注意点と、なぜか、ということを検討する。			
第 15 回	計器使用の注意点 (2)	計器の内部抵抗、負荷の抵抗、計器の構造などをすべて勘案し電流が流れていることを正確に理解する。			
第 16 回	力	ゴムやばねを用いての力、ニュートンの法則と力			
第 17 回	静電気による発光装置 (1)	振りこの運動を実際の実験器具を作成し、検討する。糸の長さをいろいろ変えて実験を行っている。周期と糸の長さとの関係を、資料を検討したうえで、実際の実験との注意点の検討も行う。			
第 18 回	静電気による発光装置 (2)	静電気による発光ダイオード点灯回路作成、トランスの原理を資料をもとに検討する。直流電源がそのまま使えない理由を考えてみよう。資料を収集し、検討する。			
第 19 回	テングスリティー	力の安定を考えたテングスリティーの説明、資料の検討および作成を行なう。			
第 20 回	レンズによる像のでき方。	凸レンズによる光の進み方の実際の実験装置の検討、数式的理解を資料を探しながら検討する。			
第 21 回	レンズの性質	凸レンズによる光の進み方の数式的理解			
第 22 回	電子部品について (1)	電子部品 (LED など) を用いて、フリップフロップ回路を作成してみよう。はんだやエナメル線、銅線を用いる。資料をさがしてとにかく作成してみる。			
第 23 回	電子部品について (2)	電子部品 (LED など) を用いて、フリップフロップ回路を作成する。問題は多い。動かない場合が多いため、基盤の種類を変えて作成を行なってみる。どの基盤が良いか検討を行なう。			
第 24 回	風力発電機の作成 (1)	市販されている風力発電機を組み立ててみよう。			
第 25 回	風力発電機の作成 (2)	市販されている電子部品を自分で購入し、風力発電装置を作成してみよう。			
第 26 回	数値解析 - (2)	定積分の数値解法について、文献を見て数種類の方法で面積を求め、誤差の検討を行なう。グラフ化し、アルゴリズムを再検討する。			
第 27 回	物体の運動、放物運動	直線運動、放物運動曲線を描くプログラムの作成を行ない、運動の合成をプログラムを通して理解する。			
第 28 回	3 次元グラフィックス - (2)	たくさん空間曲線を描く。3 次元グラフも数種類ある。地図データを見つけて 3 次元で書いてみよう。時間をかけもデータを探すことを課題とする。			
第 29 回	教具の開発 (1)	理科教育において、問題となっているか、実験しにくい教具の開発および作成を行なう。資料を探す。			
第 30 回	教具の開発 (2)	理科教育において、問題となっているか、実験しにくい教具の開発および作成を行なう。資料を探す。			

国際					
授業番号	B103100020				
科目名	4年次専門研究		通年		
担当者	田村 孝	対象学年	4	単位数	4
授業のねらいと到達目標	受講生は全員教員志望なので、教師に関する問題点や改善点を示し、良き教師をどのように育てるかを論じた書物を読み、将来自分が教員になるとはどういうことなのか、またそのために何をなすべきか、などを見つける手がかりを得ることを目的とする。				
授業の進め方(履修条件など)	まず、各自の抱えている教師像について意見を交換し、ついでテキストを輪読する形式にしたい。				
成績評価方法	受講の態度とレポートによる。基準はどれぐらい自学自修ができていないか、積極的に授業に参加したのかによる。				
基準					
授業の予習・復習	課題を出した場合は、きちんとレポートを提出する必要がある。また、テキストを事前に読んで来ることが必要である。				
教科書	今津孝次郎 『教師が育つ条件』(岩波新書 2012年 720円+税)				
参考文献	そのつど指示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	受講上の注意			
第2回	学級崩壊に直面	近年のニュースで現代の教育問題を、新聞の切り抜きなどを用いて、講義する。			
第3回	クラス再生の試み	当番学生による内容報告と質疑			
第4回	教師の声を聴く	同上			
第5回	余裕のない教師	同上			
第6回	保護者との信頼関係	同上			
第7回	政策に翻弄される教師	同上			
第8回	教師の質を解きほぐす	同上			
第9回	資質・能力の多様性	同上			
第10回	ロスタイム(アディショナル・タイム)	時間調整(多分ここまで予定どおりに進まないのではないかとと思われるので、遅れを取り戻すために予定を空白しておく)			
第11回	指導力不足の教員	当番学生による内容報告と質疑			
第12回	生涯学習としての教師教育	同上			
第13回	教員養成を通じた育ち	同上			
第14回	現職を通じた育ち	同上			
第15回	「出会い」に恵まれる	同上			
第16回	教師を支援する人々	同上			
第17回	生徒が育ち、保護者が育ち、教師も育つ	同上			
第18回	評価の時代にどう向き合うか	同上			
第19回	すべてが評価に収斂する時代	同上			
第20回	ロスタイム	第10回と同じ(時間調整)			
第21回	評価と査定	当番学生による内容報告と質疑			
第22回	評価で育つ教師	同上			
第23回	教師を育てる制度、教師が育つ道筋	同上			
第24回	さて、教師とは	同上			
第25回	現代の教育問題(1)	同上			
第26回	現代の教育問題(2)	同上			
第27回	みなさんはどう考えますか?	同上			
第28回	よい教師って何だろう	同上			
第29回	やりがいのある教育職	同上			
第30回	テキストを読み終わって	自由討論			

国際			
授業番号	B103100021		
科目名	4年次専門研究	通年	
担当者	山本 陽子	対象学年	4 単位数 4
授業のねらいと到達目標	音楽を中心に小学校教員として、また一人の大人として欠かさない教育についての理解を深めることを目標とします。前年までに学んだことを基礎に、各自の問題意識に基づいて課題を設定し、その解決に当たります。前期は教育実習・教員採用試験を意識した内容を主にします。後期は音楽理解を深めながら、集大成として全員で卒業制作をします。		
授業の進め方(履修条件など)	自ら課題を設定し、その解決に当たります。学生同士、教師との意見交換、実際の音や音楽を通して、考えや理解を深め、表現します。		
成績評価方法	課題意識や課題解決へ向けての取り組み、その内容や方法、意見交換による深化、表現など 総合的に評価します。		
基準			
授業の予習・復習	思いや意図をもって課題を設定し、解決へ向けて資料を収集したり実践したりします。		
教科書	授業内で指示します。		
参考文献	適宜紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	教育実習に向けて①	教育実習の意味	
第2回	教育実習に向けて②	教育実習の目当て	
第3回	教育実習に向けて③	教育実習の準備①	
第4回	教育実習に向けて④	教育実習の準備②	
第5回	各自の課題解決①	教員採用試験準備①	
第6回	各自の課題解決②	コードによるピアノ伴奏法①	
第7回	各自の課題解決③	教員採用試験準備②	
第8回	各自の課題解決④	コードによるピアノ伴奏法②	
第9回	各自の課題解決⑤	教員採用試験準備③	
第10回	各自の課題解決⑥	コードによるピアノ伴奏法③	
第11回	各自の課題解決⑦	教員採用試験準備④	
第12回	各自の課題解決⑧	コードによるピアノ伴奏法④	
第13回	教員採用試験準備	教員採用試験の心構え	
第14回	教育実習のまとめ	教育実習の反省・まとめ	
第15回	前期のまとめ	前期の成果と課題	
第16回	イントロダクション	後期の計画	
第17回	卒業制作準備①	企画・準備①	
第18回	卒業制作準備②	企画・準備②	
第19回	卒業制作準備③	分担①	
第20回	卒業制作準備④	分担②	
第21回	卒業制作に向けて①	練習①	
第22回	卒業制作に向けて②	練習②	
第23回	卒業制作に向けて③	練習③	
第24回	卒業制作①	録音・録画①	
第25回	卒業制作②	録音・録画②	
第26回	卒業制作③	録音・録画③	
第27回	卒業制作④	録音・録画④	
第28回	卒業制作⑤	編集①	
第29回	卒業制作⑥	編集②	
第30回	卒業制作⑦	まとめ	

国際

授業番号	B103100022				
科目名	4年次専門研究	通年			
担当者	Jayne Ikeshima	対象学年	4	単位数	4

授業のねらいと到達目標	This is a seminar in which students will learn about puppetry. Students will study about various types of puppets and techniques for using them to entertain audiences. Various puppet-related topics will be researched and discussed. Students will learn how to put on a puppet show for an audience.
授業の進め方 (履修条件など)	Students must have a high level of English ability to be in this class.
成績評価方法 基準	Students will be required to research one aspect of puppetry and write a report. The grade for the course will be based primarily on homework assignments and the final report and on attendance and class participation.
授業の予習・復習	Students should watch puppet shows on TV and youtube and learn about puppets. Students should review the class material after each class and do any homework assigned.
教科書	Printed material.
参考文献	Students should bring a dictionary to class.

回数	授業項目	授業内容
第1回	Lesson 1	Introductions
第2回	Lesson 2	Introductions
第3回	Lesson 3	The history of puppets
第4回	Lesson 4	The history of puppets
第5回	Lesson 5	Puppets around the world
第6回	Lesson 6	Puppets around the world
第7回	Lesson 7	Puppets around the world
第8回	Lesson 8	Famous Puppeteers
第9回	Lesson 9	Famous puppeteers
第10回	Lesson 10	Famous Puppeteers
第11回	Lesson 11	Puppets in Literature
第12回	Lesson 12	Puppets in Literature
第13回	Lesson 13	Puppets in Literature
第14回	Lesson 14	Review
第15回	Lesson 15	Review
第16回	Lesson 16	Test
第17回	Lesson 17	Types of puppets
第18回	Lesson 18	Types of puppets
第19回	Lesson 19	How to make puppets
第20回	Lesson 20	How to make puppets
第21回	Lesson 21	Puppet movement and expression
第22回	Lesson 22	Puppet movement and expression
第23回	Lesson 23	Puppet voices
第24回	Lesson 24	Puppet voices
第25回	Lesson 25	Elements of a puppet show
第26回	Lesson 26	Elements of a puppet show
第27回	Lesson 27	Performing with puppets
第28回	Lesson 28	Performing with puppets
第29回	Lesson 29	Performing with puppets
第30回	Lesson 30	Test



国際			
授業番号	B103100023		
科目名	4年次専門研究		通年
担当者	田中 未央	対象学年	4
		単位数	4
授業のねらいと到達目標	①教育実習に必要な心構えと準備をする。 ②教育実習の成果と反省を学生間で共有し、教員になるための心構えをする。 ③教育現場で必要とされる心理学の専門知識を身に付ける。 ④教員に必要な学生相談の知識やスキルを身に付ける。		
授業の進め方(履修条件など)	①演習形式で実施する。 ②授業では演習・実習・討論を実施するので、遅刻と欠席は厳禁である。 ③前期は教育実習の準備を中心に授業を進め、後期は教員に必要な心理学の知識やスキルを身に付けるための演習を中心に行う。		
成績評価方法	発表(実習の経過報告)・授業態度によって総合的に評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：授業で扱う課題に関する情報収集、レジュメの作成 復習：授業内で演習・討論した内容をまとめ、整理する。		
教科書	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション①	前期の予定・授業の進め方	
第2回	教育実習の準備①	教育実習までに必要な知識の確認・実習の心構えについて	
第3回	教育実習の準備②	指導案の準備と作成①	
第4回	教育実習の準備③	指導案の準備と作成②	
第5回	教育実習の準備④	模擬授業の実施(国語)	
第6回	教育実習の準備⑤	模擬授業の実施(算数)	
第7回	教育実習の準備⑥	模擬授業の実施(英語)	
第8回	教育実習の準備⑦	模擬授業の実施(社会)	
第9回	教育実習の準備⑧	模擬授業の実施(理科)	
第10回	教職教養①	教育心理学について	
第11回	教職教養②	教育評価について	
第12回	教職教養③	学習指導法について	
第13回	教育実習の報告①	教育実習の成果と今後の課題を報告する。	
第14回	教育実習の報告②	13回目の授業で報告された実習での課題を踏まえ、教員になるまでにどのような準備をするべきかについて議論する。	
第15回	まとめ	前期の総括と反省	
第16回	オリエンテーション②	後期の予定・授業の進め方	
第17回	教職教養④	学生相談について	
第18回	【演習】カウンセリングの技術を学ぶ①	『傾聴』の技術について	
第19回	【演習】カウンセリングの技術を学ぶ②	傾聴の技術をマスターする。 授業内でインタビュー(聞き取り)の実習をします。	
第20回	教育現場の諸問題について①	いじめ問題について考える	
第21回	教育現場の諸問題について②	体罰の問題について考える	
第22回	教育現場の諸問題について③	保護者支援について 保護者のメンタルヘルス・気になる保護者への対応	
第23回	教育現場の諸問題について④	発達障害への理解	
第24回	【演習】気になる子どもへの支援計画を考える①	学習障害児の特徴を理解し、普通学級での生活を支援するための対応方法について考える。	
第25回	【演習】気になる子どもへの支援計画を考える②	ADHDを持つ子どもの特徴を理解し、普通学級での生活を支援するための対応方法について考える。	
第26回	【演習】SST(ソーシャルスキルトレーニング)の実践①	SSTとは何か?	
第27回	【演習】SSTの実践②	SSTを体験する。	
第28回	【演習】SSTの実践③	SSTを応用したレクリエーションを考える。	
第29回	【演習】SSTの実践④	28回目で考案したレクリエーション方法についての発表会	
第30回	まとめ	1年間の総括	

国際			
授業番号	B103100024		
科目名	4年次専門研究	通年	
担当者	畑中 千晶	対象学年	4 単位数 4
授業のねらいと到達目標	<p>前期は教育実習を成功させること、そして、教員採用試験を突破すること、この2つを目標に掲げます。</p> <p>後期は4年間の集大成を目指します。知識・技能を教育実践の中でいかに展開していくか、自分なりの方法を模索してください。各人が具体的な研究課題を持ち、ゼミ論に結実させていくことが到達目標です。</p>		
授業の進め方(履修条件など)	<p>前期は模擬授業や集団討論等、実践力の養成に力を入れます。後期は、研究の方法論について、実際に論文を読み解く中で獲得していくことを目指します。論文は、日本近代文学研究に手本を求めます。</p>		
成績評価方法	平常のクラス内活動への参加度(50%)、ゼミ論(50%)		
基準			
授業の予習・復習	<p>予習: 模擬授業の事前準備、テキスト輪読の事前準備等。</p> <p>復習: 各自、克服すべき問題点を整理し、次の機会に備えていく。</p>		
教科書	夏目漱石(2009)『坊っちゃん』岩波文庫		
参考文献	このほか適宜配付資料を用いる。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	イントロダクション	年間スケジュール、目標設定	
第2回	教育実習事前指導	心構え、指導案作成	
第3回	教育実習事前指導	板書練習、指導案作成	
第4回	教育実習事前指導	模擬授業と相互批評	
第5回	教育実習事前指導	模擬授業の反省点を生かした指導案作成	
第6回	教員採用試験に向けて	一般教養(弱点克服)	
第7回	教員採用試験に向けて	教職教養(弱点克服)	
第8回	教員採用試験に向けて	小学校全科(弱点克服)	
第9回	教員採用試験に向けて	自己分析と面接練習	
第10回	教員採用試験に向けて	集団面接、集団討論の練習	
第11回	教員採用試験に向けて	場面指導練習	
第12回	教員採用試験に向けて	教育施策、教育課題等について情報交換	
第13回	教育実習事後指導	実習記録を踏まえ、自己分析	
第14回	教育実習事後指導	実習内容を生かした小論文・面接対策	
第15回	前期のまとめ	夏季休業中の課題、後期に向けての準備	
第16回	後期ガイダンス	今後の課題について、新たな目標の設定	
第17回	テキスト輪読	夏目漱石『坊っちゃん』一～四	
第18回	テキスト輪読	夏目漱石『坊っちゃん』五～八	
第19回	テキスト輪読	夏目漱石『坊っちゃん』九～十一	
第20回	論文の書き方	『坊っちゃん』論読解 問題提起について	
第21回	論文の書き方	『坊っちゃん』論読解 先行研究の整理について	
第22回	論文の書き方	『坊っちゃん』論読解 議論の展開方法について	
第23回	卒業研究	テーマ設定、問題提起	
第24回	卒業研究	章立て(論文の構成)について	
第25回	卒業研究	序論執筆	
第26回	卒業研究	分析と統合、各論執筆	
第27回	卒業研究、中間報告	テーマ、方法、問題点などを報告、相互批評を行う	
第28回	卒業研究、初稿提出	推敲、加筆修正	
第29回	卒業研究、完成稿提出	フォーマットの確認、誤字脱字のチェック	
第30回	四年間をふりかえって	四年間の歩みをふりかえり、今後の課題を検討	

国際		
授業番号	B103100025	
科目名	4年次専門研究 通年	
担当者	三幣 利夫 対象学年 4 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	前期は、卒業論文に関連する論文や資料を精読し、テーマを決める。後期は、卒業論文の作成に取り組む。	
授業の進め方(履修条件など)	前期は、論文や資料を読み込みながら解説しつつ、議論も行う。後期は、論文作成指導を中心に進める。	
成績評価方法基準	ゼミでの討議の参加度合と、卒業論文を総合評価する。	
授業の予習・復習	予習： 事前に課された課題について各自が研究しておくこと。 復習： 卒論の作成に備えること。	
教科書	特になし。	
参考文献	各自のテーマに沿って個別に指示する。	
回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	本年度の進め方
第2回	最近の日本経済(1)	貿易動向
第3回	最近の日本経済(2)	サービス貿易
第4回	最近の日本経済(3)	直接投資の動き
第5回	国際経営(1)	製造業の海外進出
第6回	国際経営(2)	非製造業の海外進出
第7回	業種別事例研究(1)	小売業
第8回	業種別事例研究(2)	物流業
第9回	業種別事例研究(3)	食品産業
第10回	中国経済(1)	対内直接投資
第11回	中国経済(2)	自動車産業
第12回	中国経済(3)	労働問題
第13回	アジア経済	日本からの直接投資
第14回	貿易体制	FTAネットワーク
第15回	TPPと日本	現状と課題
第16回	論文作成の指導(1)	課題の確認と構成
第17回	論文作成の指導(2)	問題提起と章立て
第18回	論文作成の指導(3)	課題提起と章立て
第19回	論文作成の指導(4)	本論の指導
第20回	論文作成の指導(5)	本論の指導
第21回	論文作成の指導(6)	本論の指導
第22回	論文作成の指導(7)	本論の指導
第23回	論文作成の指導(8)	まとめの指導
第24回	論文作成の指導(9)	まとめの指導
第25回	論文の報告会(1)	論文の発表と修正
第26回	論文の報告会(2)	論文の発表と修正
第27回	論文の報告会(3)	論文の発表と修正
第28回	論文仕上げの指導(1)	個別指導と最終の修正
第29回	論文仕上げの指導(2)	個別指導と最終の修正
第30回	総括	卒業論文の提出と、まとめ

国際		
授業番号	B101320001	
科目名	総合日本語 I (A)	
担当者	銅直 信子 対象学年 1 単位数 2	
授業のねらいと到達目標	アカデミックな場面で必要とされる基礎的な口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。教科書の各テーマに関して「知っていることを話す」「資料からの情報をまとめる」ことを中心に学ぶ。コンテキストの中での文法的、意味的関係の捉え方を学習することによって、読む力、書く力を養っていく。また、ビデオ・DVD を視聴し、内容や意見を発表することで聞く力、話す力を養っていく。加えて漢字力・語彙力・文法力の強化を図る。	
授業の進め方(履修条件など)	日本語能力試験 N2 レベルの日本語能力を有する学生を想定して授業を進める。各課の重要文型を学習した後、各自短文を作成し授業後に提出する。添削して返却するので、正しい表現を確認する。文法を中心とした授業では教科書に沿って各課の文法項目の理解を深め、上級文法へと繋げていく。また、口頭発表のモデルを聞き、レジュメを完成し各自発表する(練習は家庭学習)。	
成績評価方法	定期試験 60%、レポート・クラス内テスト 30%、クラス活動点 10% で評価する。	
基準		
授業の予習・復習	予習：語彙の中の漢字の読み方・意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。 文法の教科書の各課のポイントを読んでおく。 復習：返却された小レポート類の正しい表現をよく復習する。本文の首読を繰り返し行う。 文法問題で正答と違った答えを出した場合は、なぜ間違えたかを必ず確認する。	
教科書	『中・上級日本語教科書 日本への招待 第2版』東京大学出版会 2,400円 + 税 『中級日本語文法要点整理ポイント20』友松悦子 スリーエーネットワーク 2,000円 + 税	
参考文献	『大学で学ぶための日本語ライティング』佐々木瑞枝 The Japan Times 『聴解・発表ワークブック』犬飼康弘 スリーエーネットワーク 『小論文への12のステップ』友松悦子 スリーエーネットワーク	
回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス・記述文作成	ガイダンス後、「記述文」を400字以内で書く。
第2回	ガイダンス・文法テスト	ガイダンス後、文法テスト(オリジナル)を行う。
第3回	イメージの日本・日本人	語彙の確認。ステレオタイプについて話し合う。
第4回	1課	助詞の問題
第5回	「女性の生き方」資料1・2	文型を使って短文作り。本文を精読し、設問に答える。
第6回	2課	話題の取立て
第7回	資料3	本文を精読し、グラフからわかることをまとめる。
第8回	3課	助詞の働きをする言葉1
第9回	資料4・5	語彙の確認。文型を使って短文づくり。
第10回	4課	助詞の働きをする言葉2
第11回	「子どもと教育」資料1・2	語彙の確認。文型を使って短文作り。DVDを見て、内容をまとめる。
第12回	5課	助詞の働きをする言葉3
第13回	資料3・4	教育問題について話す。新聞教材を読む(ピザ到達度テスト)。
第14回	メモを取る	CDを聞いてメモを取り、重要点を発表する。
第15回	資料5・6	本文を精読する。各自の考えをまとめる。漢字小テスト
第16回	6課	名詞化の方法「こと」と「の」
第17回	「若者の感性」資料1・2	語彙の確認。文型を使って短文作り。
第18回	7課	複文構造 - 複文の中の「は」と「が」・時制
第19回	資料3・4	データから分かった特徴をまとめる。
第20回	8課	名詞修飾 小論文の書き方
第21回	資料5	分析による説明に使われる表現を学ぶ。本文を精読し設問に答える。 漢字小テスト
第22回	レジュメ完成	CDを聞いて口頭発表のレジュメを完成させ発表する。
第23回	課題文を書く。	3つのテーマから一つ選び、課題文を書き提出する。
第24回	9課	複文を作る言葉 1 - 時間
第25回	ブックレポート	各グループでテーマを決め、レジュメを作成する。
第26回	10課	複文を作る言葉 2 - 仮定の言い方
第27回	ブックレポート	プレゼンテーションの技法と作法を学ぶ。
第28回	レジュメ完成	CDを聞いて口頭発表のレジュメを完成させ発表する。
第29回	ブックレポート	各グループ発表→質疑応答→ディスカッション ブックレポートの発表内容をまとめて提出する(各自宿題)。
第30回	総合問題	課題 グラフを分析して考察する。

国際		
授業番号	B101320002	
科目名	総合日本語 I (B)	
担当者	中沢 佐企子 対象学年 1 単位数 2	
授業のねらいと到達目標	この授業では、社会的・文化的な知識を利用しながら、論理的な文章を読んだり書いたりするだけでなく、聞いたり話したりできるようになることを目標とする。	
授業の進め方(履修条件など)	(1) 授業では、いくつかのテーマに沿って文章を読み進めながら、その内容について議論する。(2) 読解や表現のための語彙力を養成するために、系統的に語彙を学習する。	
成績評価方法	1課ごとにワークシート、語彙・漢字クイズなどを行う。学期中に2回、総合復習のための時間を設ける。	
基準		
授業の予習・復習	予習：各回の本文を予習してから授業に臨むことが望ましい。 復習：毎回、語彙クイズを行うので、授業のあとで復習しておくこと。	
教科書	講師作成の教材を使用。プリントは、なくさないようにファイルしておくこと。	
参考文献	特になし。	
回数	授業項目	授業内容
第1回	聴解練習と文法練習1-(1)	既知の語彙を正確に聞き取る
第2回	学生生活について考えるI	「弁当男子とキッチン男子」内容把握とまとめ
第3回	聴解練習と文法練習1-(2)	正しい文法を選ぶ
第4回	学生生活について考えるII	「大学で『弁当の日』広がる」内容把握とまとめ
第5回	聴解練習と文法練習2-(1)	既知の語彙を正確に書く
第6回	学生生活について考えるIII	「大学生の朝食は今」内容把握とまとめ
第7回	聴解練習と文法練習2-(2)	正しい文法を選んだか確認する
第8回	家族について考えるI	「頑張り イクメン」内容把握とまとめ
第9回	聴解練習と文法練習3-(1)	同音異義語から正しく選ぶ
第10回	家族について考えるII	「ただいま婚活中」内容把握とまとめ
第11回	聴解練習と文法練習3-(2)	文法の意味を正しく理解する
第12回	家族について考えるIII	「いまどきの結婚」内容把握とまとめ
第13回	聴解練習と文法練習4-(1)	カタカナを正確に聞き取る
第14回	就活について考えるI	「就活—いつ何をするのか」内容把握とまとめ
第15回	聴解練習と文法練習4-(2)	文法の意味を正しく理解したか確認する
第16回	就活について考えるII	「就活—インターンシップとは」内容把握とまとめ
第17回	聴解練習と文法練習5-(1)	カタカナを正確に書く
第18回	就活について考えるIII	「就活—ミスマッチとは」内容把握とまとめ
第19回	聴解練習と文法練習5-(2)	文法を正確に使い、文を書く(単文)
第20回	就活について考えるIV	「就活—エントリーシートに何を書くか」内容把握とまとめ
第21回	聴解練習と文法練習6-(1)	未習の語彙を正確に聞き取る
第22回	先端技術について考えるI	「電子ブックは読書を変えるか」内容把握とまとめ
第23回	聴解練習と文法練習6-(2)	文法を正確に使い、文を書いたか確認する(単文)
第24回	先端技術について考えるII	「植物工場で野菜を作る」内容把握とまとめ
第25回	聴解練習と文法練習7-(1)	未習の語彙を正確に書く
第26回	先端技術について考えるIII	「2020年のロボットハウス」内容把握とまとめ
第27回	聴解練習と文法練習7-(2)	文法を正確に使い、わかりやすく書く(単文)
第28回	先端技術について考えるIV	「ゲーム革命」内容把握とまとめ
第29回	聴解練習と文法練習のまとめ	自分の弱点を自覚する
第30回	先端技術について考えるV	「AR技術の応用」内容把握とまとめ

国際		
授業番号	B101330001	
科目名	総合日本語 II (A)	
担当者	銅直 信子 対象学年 1 単位数 2	
授業のねらいと到達目標	アカデミックな場面で必要とされる応用的な口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。特に話すこと、書くことにおいて、説得力をもつにはどのような技法や作法が必要であるかをグループ学習を通して学び、最後にアンケート調査の結果を口頭発表する。	
授業の進め方(履修条件など)	教科書に沿って授業を進めていく。各課の重要文型をモデルに短文を作ったり課題に答え授業終了後提出する。添削して返却するので、正しい表現を確認する。また、ビデオや DVD を視聴し内容をまとめたり、意見を述べたりする。各課の終了時に漢字小テストを実施する。アンケート調査結果をグループで口頭発表後、各自アンケート調査レポートを提出する(700字)。文法の授業ではクラス内テストを実施し既習項目の定着を図る。	
成績評価方法	定期試験 60%、レポート・クラス内テスト 30%、クラス活動点 10%で評価する。	
基準		
授業の予習・復習	予習：語彙リストの漢字の読み方・意味を事前に調べておく。わからない語彙の意味は授業中に確認する。文法の教科書の各課のポイントを読んでくる。 復習：返却された小レポート類の正しい日本語表現をよく復習する。本文を繰り返し音読する。文法問題で正答と違った答えを出した場合、なぜ間違えたかを必ず確認する。	
教科書	『中・上級日本語教科書 日本への招待 第2版』東京大学出版会 2,400円＋税 『中級日本語文法要点整理ポイント20』友松悦子 スリーエーネットワーク 2,000円＋税	
参考文献	『ストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』一橋大学留学生センター スリーエーネットワーク 『聴解・発表ワークブック』犬飼康弘 スリーエーネットワーク 『小論文への12のステップ』友松悦子 スリーエーネットワーク	
回数	授業項目	授業内容
第1回	「仕事への意識」 資料1	語彙の確認。ことわざを学ぶ。
第2回	読解・文法テスト	読解・文法テストを行う。
第3回	資料2・3	DVDを見て、内容をまとめる。
第4回	11課・12課	決まった使い方の副詞 1・2
第5回	資料4・5	正規社員と非正規社員。オランダの例を考える。
第6回	13課・14課	接続の言葉 1・2
第7回	資料6	年功序列・終身雇用制度 漢字小テスト
第8回	15課	語彙を広げる 1
第9回	「日本の外国人」 資料1	在日外国人について
第10回	レジュメを完成	CDを聞いて口頭発表のレジュメを完成し発表する。
第11回	資料2・3	定住外国人子弟の日本語教育
第12回	16課	語彙を広げる 2
第13回	資料4・5	本文を精読し設問に答える。漢字小テスト
第14回	17課	語彙を広げる 3
第15回	「多様化する日本・日本人」	キーワードをマークする。
第16回	18課	硬い文章 1
第17回	脱ステレオタイプとは	本文を精読し、設問に答える。漢字小テスト
第18回	19課	硬い文章 2
第19回	アンケート調査について	何について調査を行うかディスカッションする。
第20回	20課	丁寧な言い方 1・2
第21回	テーマを絞る	テーマに関する資料を収集する。
第22回	20課	丁寧な言い方 3
第23回	アンケート調査	設問を作成する。
第24回	レジュメを完成	CDを聞いて口頭発表のレジュメを完成させる。
第25回	アンケート調査	どのような結果になるか予想をたて、まとめて提出する。
第26回	発表練習	レジュメに沿って発表練習する。
第27回	アンケート調査実施	アンケート調査の技法(実施は授業以外の時間)。
第28回	発表練習	レジュメに沿って発表練習をする。
第29回	調査結果	アンケート調査結果レポートの作成(700字)。
第30回	口頭発表	調査結果を口頭発表する。

国際		
授業番号	B101330002	
科目名	総合日本語 II (B)	
担当者	中沢 佐企子 対象学年 1 単位数 2	
授業のねらいと到達目標	この授業では、新聞やインターネットの記事を利用しながら、社会的・文化的な問題について、自分の意見を書いたり話したりできるような日本語力を身につけることを目標にしている。また、アンケート調査を行い、その結果を発表したり、レポートにまとめたりする力を養成する。	
授業の進め方(履修条件など)	(1) 授業では、少人数のグループを作り、話し合う。(2) 内容を自分のことばで話したり書いたりする。(3) プレゼンテーションで、自分の意見を発表する。	
成績評価方法	1課ごとにワークシートを課す。毎回、語彙・漢字クイズなどを行う。学期末に最終発表会を行う。	
基準		
授業の予習・復習	予習：各回の本文を予習してから授業に臨むことが望ましい。 復習：毎回、語彙クイズを行うので、授業のあとで復習しておくこと。	
教科書	講師作成の教材を使用。プリントは、なくさないようにファイルしておくこと。	
参考文献	特になし。	
回数	授業項目	授業内容
第1回	環境について考えるⅠ	「カーボンオフセット」内容把握とまとめ
第2回	聴解練習と文法練習8-(1)	意味を考えながら聞き取る
第3回	環境について考えるⅡ	「水説法」内容把握とまとめ
第4回	聴解練習と文法練習8-(2)	文法を正確に使い、文を書く(段落)
第5回	環境について考えるⅢ	「低炭素社会とは」内容把握とまとめ
第6回	聴解練習と文法練習9-(1)	聞き取ったものを正確にメモする
第7回	環境について考えるⅣ	「自転車で暮らす町」内容把握とまとめ
第8回	聴解練習と文法練習9-(2)	文法を正確に使い、文を書いたか確認する(段落)
第9回	環境都市について考えるⅠ	「UAEマスタートシティ」内容把握とまとめ
第10回	聴解練習と文法練習10-(1)	メモが正しく取れたか確認する
第11回	環境都市について考えるⅡ	「天津工コシティ」内容把握とまとめ
第12回	聴解練習と文法練習10-(2)	文法を正確に使い、わかりやすく書く(段落)
第13回	環境都市について考えるⅢ	「スマートシティとは」内容把握とまとめ
第14回	聴解練習と文法練習11-(1)	メモを参考に内容をまとめる
第15回	アンケート調査Ⅰ	アンケートのテーマと調査項目を考え、アンケート用紙を作成する
第16回	聴解練習と文法練習11-(2)	文法を正確に使い、わかりやすく書いた確認する(段落)
第17回	アンケート調査Ⅱ	アンケート結果を分析し、レポートにまとめる
第18回	聴解練習と文法練習12-(1)	内容が正しいか確認する
第19回	アンケート調査Ⅲ	アンケート結果を発表する
第20回	聴解練習と文法練習12-(2)	文法を正確に使い、事実を書く
第21回	コミュニケーションについて考えるⅠ	「敬語とは」内容把握とまとめ
第22回	聴解練習と文法練習13-(1)	内容のまとめ方を工夫する
第23回	コミュニケーションについて考えるⅡ	「ポライトネスとは」内容把握とまとめ
第24回	聴解練習と文法練習13-(2)	文法を正確に使い、意見を書く
第25回	レポート・発表演習Ⅰ	自分の意見を伝える、表現する
第26回	聴解練習と文法練習14-(1)	内容を制限字数内でまとめる
第27回	レポート・発表演習Ⅱ	プレゼンテーションを学ぶ
第28回	聴解練習と文法練習14-(2)	文法を正確に使い、意見を書いたか確認する
第29回	レポート・発表演習Ⅲ	「最終発表会」
第30回	聴解練習と文法練習のまとめ	更なる上達のために注意点をまとめる



経済・国際

授業番号	A300040001				
科目名 (英語表記)	敬愛プログラム (KEIAI Program)			集中	
担当者 (英語表記)	教務部委員会 (Kyoumubu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	自分で定めた目標をやり遂げる能力を高めるとともに、共同作業を通して目標を達成する経験を積む。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎週定期的に授業を行うわけではない。2人以上のグループで具体的なテーマを決め、その達成目標や段取りを修学支援室に提出し、承認を受けてから一定期間内に成果を上げられるよう取り組み、成果は公表する。テーマについては、下記の例を参考にすること。				
成績評価方法	公表された成果を教務部委員会が採点して評価する。				
基準					
授業の予習・復習	自分達のグループで文献や資料を調べ、調査に出かけたり、結果をまとめたりしなければならない。先輩や友人、先生方の助言も参考にしながら取り組んでほしい。				
教科書	使用しない。				
参考文献	テーマによって参考文献は異なる。メディアセンター等で適切な参考文献、資料を選定すること。				
授業内容					
<p>■敬愛プログラムのテーマ例</p> <p>①千葉を知る (歴史、地理、経済、文化、環境など)</p> <p>②大学を活性化する (教育環境、緑化、大学祭、食堂新メニュー、健康、ボランティアなど)</p> <p>③敬天愛人講座を実践する</p>					



経済

授業番号	B200510001				
科目名 (英語表記)	海外事情研修 I (アメリカ) (Foreign affairs (America))			集中	
担当者 (英語表記)	教務部委員会 (Kyoumubu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	①英語力または中国語力の向上 ②研修先の国 (アメリカ・イギリス・オーストラリア・中国・フィリピン) の社会に関する文化理解の増進				
授業の進め方 (履修条件など)	①事前の勉強会に必ず出席すること ②敬愛大学の学生であることを自覚し、責任を持って海外生活が送れること ③語学を積極的に学ぶ姿勢を持つこと				
成績評価方法	出席 70%、レポート 30% で評価する。レポートは帰国後提出すること				
基準					
授業の予習・復習	研修中は、授業の予習・復習に時間を十分に当てること				
教科書	各研修実施大学が指定する教材を使用				
参考文献					
授業内容					
①研修実施大学での語学研修 研修実施大学：ポートランド州立大学 (アメリカ)、国立ウルバーハンプトン大学 (イギリス)、国立ジェイムズ・クック大学 (オーストラリア)、北京第二外国語学院 (中国)、フィリピン大学 (フィリピン) ②本学での事前研修 帰国後にはレポートを提出 ③ホームステイ先または寮 (研修先により異なります) での英語による生活					

経済

授業番号	B200520001				
科目名 (英語表記)	海外事情研修 II (中国) (Foreign affairs (China))			集中	
担当者 (英語表記)	教務部委員会 (Kyoumubu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	①英語力または中国語力の向上 ②研修先の国 (アメリカ・イギリス・オーストラリア・中国・フィリピン) の社会に関する文化理解の増進				
授業の進め方 (履修条件など)	①事前の勉強会に必ず出席すること ②敬愛大学の学生であることを自覚し、責任を持って海外生活が送れること ③語学を積極的に学ぶ姿勢を持つこと				
成績評価方法	出席 70%、レポート 30% で評価する。レポートは帰国後提出すること				
基準					
授業の予習・復習	研修中は、授業の予習・復習に時間を十分に当てること				
教科書	各研修実施大学が指定する教材を使用				
参考文献					
授業内容					
①研修実施大学での語学研修 研修実施大学：ポートランド州立大学 (アメリカ)、国立ウルバーハンプトン大学 (イギリス)、国立ジェームズ・クック大学 (オーストラリア)、北京第二外国語学院 (中国)、フィリピン大学 (フィリピン) ②本学での事前研修 帰国後にはレポートを提出 ③ホームステイ先または寮 (研修先により異なります) での英語による生活					

経済

授業番号	B200530001		
科目名 (英語表記)	海外事情研修 III (オーストラリア) (Foreign affairs (Austraria))	集中	
担当者 (英語表記)	教務部委員会 (Kyoumubu)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	①英語力または中国語力の向上 ②研修先の国 (アメリカ・イギリス・オーストラリア・中国・フィリピン) の社会に関する文化理解の増進		
授業の進め方 (履修条件など)	①事前の勉強会に必ず出席すること ②敬愛大学の学生であることを自覚し、責任を持って海外生活が送れること ③語学を積極的に学ぶ姿勢を持つこと		
成績評価方法	出席 70%、レポート 30% で評価する。レポートは帰国後提出すること		
基準			
授業の予習・復習	研修中は、授業の予習・復習に時間を十分に当てること		
教科書	各研修実施大学が指定する教材を使用		
参考文献			
授業内容			
① 研修実施大学での語学研修 研修実施大学：ポートランド州立大学 (アメリカ)、国立ウルバーハンプトン大学 (イギリス)、国立ジェイムズ・クック大学 (オーストラリア)、北京第二外国語学院 (中国)、フィリピン大学 (フィリピン)			
② 本学での事前研修 帰国後にはレポートを提出			
③ ホームステイ先または寮 (研修先により異なります) での英語による生活			

経済

授業番号	B200540001				
科目名 (英語表記)	海外事情研修 IV (イギリス) (Foreign affairs (Britain))				集中
担当者 (英語表記)	教務部委員会 (Kyoumubu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	①英語力または中国語力の向上 ②研修先の国 (アメリカ・イギリス・オーストラリア・中国・フィリピン) の社会に関する文化理解の増進				
授業の進め方 (履修条件など)	①事前の勉強会に必ず出席すること ②敬愛大学の学生であることを自覚し、責任を持って海外生活が送れること ③語学を積極的に学ぶ姿勢を持つこと				
成績評価方法	出席 70%、レポート 30% で評価する。レポートは帰国後提出すること				
基準					
授業の予習・復習	研修中は、授業の予習・復習に時間を十分に当てること				
教科書	各研修実施大学が指定する教材を使用				
参考文献					
授業内容					
①研修実施大学での語学研修 研修実施大学：ポートランド州立大学 (アメリカ)、国立ウルバーハンプトン大学 (イギリス)、国立ジェイムズ・クック大学 (オーストラリア)、北京第二外国語学院 (中国)、フィリピン大学 (フィリピン) ②本学での事前研修 帰国後にはレポートを提出 ③ホームステイ先または寮 (研修先により異なります) での英語による生活					

経済

授業番号	B203060001		
科目名 (英語表記)	高等学校教育実習 (High school practice teaching)	集中	
担当者 (英語表記)	中山 幸夫 (Yukio Nakayama)	対象学年	4
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	実習校での授業の観察・参加・実習を通して、学習指導や教育に関する理論を自ら検証する。併せて、学校教育についての理解を深めながら、学校現場で教師として仕事をしていくための責任ある力量を身に付ける。		
授業の進め方 (履修条件など)	余裕をもって教育実習に臨むために、参加者は事前に必要な手続きを済ませ、十分な体調管理と準備の上で実習に臨むことが求められる。実習前の「教育実習直前指導」(4月下旬)、実習終了後の「教育実習報告会」(7月上旬)には必ず出席すること。なお、必要に応じて実習前後に個別指導を行う。		
成績評価方法 基準	教育実習校の実習生評価(50%)、「教育実習直前指導」「教育実習報告会」への出席、教育実習録の内容(50%)を勘案した総合評価とする。		
授業の予習・復習	十分な事前準備と心構えが求められる。 実習後も「付録」としての各行事への出席、教育実習体験記の執筆などが課せられる。		
教科書	敬愛大学教職課程年報 『教職への里程』(第17号) 2013		
参考文献			
授業内容	教室において定期的な授業を行う科目ではない。教育実習開始前の「直前指導」、「実習本体」、「実習後の総括」によって構成される科目である。		

# 経済

授業番号	B202710001				
科目名 (英語表記)	サイバー刑法 (Cyber-criminal code)			集中	
担当者 (英語表記)	山内 義廣 (Yoshihiro Yamauchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	現代社会ではサイバー機器の使用なくして経済活動等すべての活動は成り立たない。このような状況を念頭に、本講義はサイバ機器を使用して行われる犯罪の形態や処罰について理解し、それを将来の自分自身の生活に役立てることを目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義スケジュールに従って授業項目の内容を理解させる。その際、板書をしたり、コピーした資料を配布したりして出来るだけ細かい説明を試みる。また学生の理解度をはかるため、小テストを実施し、知識の習得度を確認する。集中講義のため、学生の集中力が途切れないよう様々な努力をする。				
成績評価方法	成績評価は次の基準によって行う。定期試験 (50%)・授業内小テスト (25%)・レポート (20%)・その他 (5%)。				
基準					
授業の予習・復習	予習については、シラバスに示している講義スケジュールにしたがって教科書をしっかり読むこと。復習については、授業の内容や配布した資料を再度確認・理解し、それに関する教科書の部分をしっかり読むこと。				
教科書	神山・斎藤他著「新経済刑法入門」 成文堂出版				
参考文献	野村稔著「経済刑法の論点」 現代法律出版				
授業内容					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サイバー犯罪に対する国際間の条約と各国の国内法</li> <li>2. 国際犯罪に対する捜査・裁判に関する 諸原則</li> <li>3. サイバー条約の意味とその性格</li> <li>4. サイバー条約の内容と国際協力</li> <li>5. コンピュータ犯罪の意味とその性格</li> <li>6. コンピュータ犯罪の形態とその利益保護</li> <li>7. キャッシュカードをめぐる犯罪</li> <li>8. クレジットカード及びプリペイドカードを めぐる犯罪</li> <li>9. 相場・株価操作に関する犯罪</li> <li>10. インサイダー取引に関する犯罪             <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 知的所有権犯罪の意味とその性格</li> <li>12. 知的所有権犯罪の形態とその利益保護</li> <li>13. マネーロンダリング規制の歴史</li> <li>14. マネーロンダリングの態様とその利益保護</li> </ol> </li> <li>15. 脱税犯罪</li> </ol>					

経済

授業番号	B202000001		
科目名 (英語表記)	地方自治論実習 (Local autonomy theory training)	集中	
担当者 (英語表記)	牧瀬 稔 (Minoru Makise)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	地方自治論実習は、夏季休暇等を活用して、地方自治体でのインターンシップの実施を想定しています。地方自治の現場で政策づくりを行い、最終的には自治体職員へプレゼンテーションを実施します。具体的なインターンシップ先としては、戸田市役所、三芳町役場、春日部市役所等を想定しています (変更もあります)。		
授業の進め方 (履修条件など)	夏季休暇の間に、地方自治体に出社し、自治体職員の指導のもと、政策づくりに励みます。その地方自治体への出社日や出社時間等の諸条件は、個別に相談して決定します (アルバイト料、交通費等は支給しません)。		
成績評価方法 基準	インターンシップ期間の勤務状況と提案されたレポートにより成績をつけます。		
授業の予習・復習	予習：インターンシップ先及び自分の住む地方自治体に関心を持ってください。 復習：一日のインターンシップの経験を振り返ってください。		
教科書	牧瀬稔・戸田市政策研究所 (2009)『政策開発の手法と実践』東京法令出版 牧瀬稔・戸田市政策研究所 (2010)『選ばれる自治体の条件』東京法令出版		
参考文献	特に指定しません。		
授業内容	地方自治論実習は、地方自治体への中・長期のインターンシップを意図しています。そのため、講義はありません。		

経済

授業番号	B203050001				
科目名 (英語表記)	中学校教育実習 (Junior high school practice teaching)	集中			
担当者 (英語表記)	中山 幸夫 (Yukio Nakayama)	対象学年	4	単位数	4
授業のねらいと到達目標	実習校での授業の観察・参加・実習を通して、学習指導や教育に関する理論を自ら検証する。併せて、学校教育についての理解を深めながら、学校現場で教師として仕事をしていくための責任ある力量を身に付ける。				
授業の進め方 (履修条件など)	余裕をもって教育実習に臨むために、参加者は事前に必要な手続きを済ませ、十分な体調管理と準備の上で実習に臨むことが求められる。実習前の「教育実習直前指導」(4月下旬)、実習終了後の「教育実習報告会」(7月上旬)には必ず出席すること。なお、必要に応じて実習前後に個別指導を行う。				
成績評価方法 基準	教育実習校の実習生評価(50%)、「教育実習直前指導」「教育実習報告会」への出席、教育実習録の内容(50%)を勘案した総合評価とする。				
授業の予習・復習	十分な事前準備と心構えが求められる。 実習後も「付録」としての各行事への出席、教育実習体験記の執筆などが課せられる。				
教科書	敬愛大学教職課程年報 『教職への里程』(第17号) 2013				
参考文献					
授業内容	教室において定期的な授業を行う科目ではない。教育実習開始前の「直前指導」、「実習本体」、「実習後の総括」によって構成される科目である。				



国際	
授業番号	B103600001
科目名 (英語表記)	海外語学研修 I (Language Study Abroad I) 集中
担当者 (英語表記)	国際教務委員会 (Kokusai Kyoumu) 対象学年 1 単位数 2
授業のねらいと到達目標	①英語力または中国語力の向上 ②研修先の国 (アメリカ・イギリス・オーストラリア・中国・フィリピン) の社会に関する文化理解の増進
授業の進め方 (履修条件など)	①事前の勉強会に必ず出席すること ②敬愛大学の学生であることを自覚し、責任を持って海外生活が送れること ③語学を積極的に学ぶ姿勢を持つこと
成績評価方法 基準	出席 70%、レポート 30% で評価する。レポートは帰国後提出すること
授業の予習・復習	研修中は、授業の予習・復習に時間を十分に当てること
教科書	各研修実施大学が指定する教材を使用
参考文献	
授業内容	
<p>①研修実施大学での語学研修          研修実施大学：ポートランド州立大学 (アメリカ)、国立ウルバーハンプトン大学 (イギリス)、国立ジェイムズ・クック大学 (オーストラリア)、北京第二外国語学院 (中国)、フィリピン大学 (フィリピン)</p> <p>②本学での事前研修          帰国後にはレポートを提出</p> <p>③ホームステイ先または寮 (研修先により異なります) での英語による生活</p>	

国際	
授業番号	B103620001
科目名 (英語表記)	海外スクーリング I (Study Abroad I) 集中
担当者 (英語表記)	国際教務委員会 (Kokusai Kyoumu) 対象学年 1 単位数 2
授業のねらいと到達目標	授業のねらいは、各授業で学んだことを実際に自分の目で見て、体験することで、知識に深みをもたせることにある。この海外研修の体験を通して、国際教養の向上及び国際交流の重要性を実感することが到達目標となる。
授業の進め方 (履修条件など)	①敬愛大学の学生としての自覚をもった団体行動ができること。 ② 研修先の諸事情を積極的に学び、現地の人々との交流をおこなう姿勢をもっていること。
成績評価方法 基準	出席 (事前授業・研修) 70% レポート (帰国後提出) 30%
授業の予習・復習	予習：事前授業への参加。研修先に関する情報の収集。研修先の言語の勉強。 復習：研修期間に得た知識や資料の整理。レポートの充実。
教科書	特にありません。
参考文献	事前授業の中で紹介します。
授業内容	
<p>①事前授業 (90分 × 4回程度)</p> <p>②研修 (8日～14日程度)</p> <p>③事後授業 (90分 × 1回程度)</p> <p>④研修先は、未定。5月中に学内に掲示する。</p> <p>⑤実施期間は、夏休み・冬休み・春休みの長期休暇期間中とする。</p> <p>⑥最低実施人数は原則として10名とする。</p> <p>⑦引率は原則として専任教員1名。</p>	

国際	
授業番号	B104090001
科目名 (英語表記)	教育実習 (小学校) (Practice Teaching) 集中 (こども専用)
担当者 (英語表記)	池谷 美佐子 (Misako Ikeya) 対象学年 4 単位数 4
授業のねらいと到達目標	教育実習は大学で履修し、学んだ、教育に関する科目・教職に関する科目・専門に関する科目等、すべての集大成として行うものです。小学校での実習を通して、初等教育全般への理解を深め、教師としての資質を確かめる貴重な経験となります。年度の初めに「教職ガイダンス」、実習後に「教育実習報告会」を行うほか、4年次専門研究で事前・事後の指導を行います。
授業の進め方 (履修条件など)	教職の意義に関する科目、教育の基礎理論に関する科目、教育課程及び指導法に関する科目、生徒指導・教育相談及び進路指導に関する科目、総合演習などの所定の単位を一定以上の成績で取得し、教職課程委員会より教育実習を認められることが条件です。
成績評価方法	教育実習校の評価、実習記録簿、大学における報告会、事前・事後指導への参加、
基準	レポート等を総合して評価します。
授業の予習・復習	予習 実習中は翌日の教材研究や教育活動の準備を確実にを行う。 復習 実習記録簿は毎日、その日のうちに必ず書き、実習の反省を行う。
教科書	参考資料プリントを配布
参考文献	必要に応じて紹介
授業内容	
教育実習事前指導参加。教育実習説明会参加。教育実習校との連絡。実習校での4週間の教育実習。教育実習事後指導参加。教育実習簿の作成・提出。教育実習報告会参加。レポート作成。	

国際					
授業番号	B104130001				
科目名 (英語表記)	高等学校教育実習 (Practice Teaching at High School)				集中
担当者 (英語表記)	柳原 由美子 (Yumiko Yanagihara)	対象学年	4	単位数	2
授業のねらいと到達目標	実習校での授業の観察・参加・実習を通して、学習指導や教育に関する理論を自ら検証する。併せて、学校教育についての理解を深めながら、学校現場で教師として仕事をしていくための責任ある力量を身に付ける。				
授業の進め方 (履修条件など)	余裕をもって教育実習に臨むために、参加者は事前に必要な手続きを済ませ、十分な体調管理と準備の上で実習に臨むことが求められる。実習前の「教育実習直前指導」(4月下旬)、実習終了後の「教育実習報告会」(7月上旬)には必ず出席すること。なお、必要に応じて実習前後に個別指導を行う。				
成績評価方法 基準	教育実習校の実習生評価 (50%)、「教育実習直前指導」「教育実習報告会」への出席、教育実習録の内容 (50%) を勘案した総合評価とする。				
授業の予習・復習	十分な事前準備と心構えが求められる。 実習後も「付録」としての各行事への出席、教育実習体験記の執筆などが課せられる。				
教科書	敬愛大学教職課程年報 『教職への里程』(第17号) 2013				
参考文献					
授業内容					
教室において定期的な授業を行う科目ではない。教育実習開始前の「直前指導」、「実習本体」、「実習後の総括」によって構成される科目である。					

国際					
授業番号	B103660001				
科目名 (英語表記)	国内スクーリング I (Study Tour in Japan I)	集中			
担当者 (英語表記)	国際教務委員会 (Kokusai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	スクーリングの国内版です。講義や演習で学習した内容を実践を通して確認していただく試みです。現在は夏休み期間中に長野県の農業大学校での実習などを検討中で、その他の企画も計画されています。教員と一緒にこの実習に参加してみましよう。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎週、定期的に授業を行うわけではありません。企画毎に集中的に事前講習への参加と実習 (3泊程度)、日誌・報告書の作成を求めます。経費はできるだけ抑えたいと思いますが、交通費・宿泊費・実習費などが別途必要となります。				
成績評価方法 基準	企画毎に参加者を募集し、実習への関わりと事前の講習、事後の報告書等の提出を含めて総合的に判断します。				
授業の予習・復習	予習：事前研修には必ず参加してください。 復習：実習中は日誌をまとめ、これを元に報告書を作成していただきます。				
教科書	使用しません。適宜、資料を配布します。				
参考文献	使用しません。適宜、資料を配布します。				
授業内容					
募集期間に説明します。					

国際					
授業番号	B103680001				
科目名 (英語表記)	実習特殊 I (Practical Advanced I)			集中	
担当者 (英語表記)	村川 庸子 (Yoko Murakawa)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	国際学科のフード&アグリ・ビジネス教育の一貫として、講義と現場での実習を組み合わせ、体系的に結びつける複合科目である。日本の農業のビジネスとしての可能性を探ることを目的としている。「千葉学 I・II・III」「世界の食と農」「生物と環境」「経営学入門」等の科目と併せて履修することを推奨する。				
授業の進め方 (履修条件など)	導入、まとめ、プレゼンのクラスワーク3回 (固定) 年間数回行う集中講義を4コマ以上 (選択)、農業実習 (近隣の高校 (八街) で行う一回2コマ程度) に4回以上参加する。				
成績評価方法 基準	全ての活動に関し、フィールド・ノートの作成と口頭報告による。主体的な参加状況と活動報告のまとめ方を中心に評価する。				
授業の予習・復習	通年、「フード&アグリ」に関する報道 (TV、新聞、雑誌) 等の収集と分析を行う。興味をもって取り組んで欲しい。				
教科書	特に無し				
参考文献	上記「予習・復習」の項目参照。				
授業内容					
講義については、現在、TPP 問題、種苗業 (遺伝子組換え) などに関する外部講師の講義を予定している。実習は大学の近隣の高校で行う (夏休み期間中も可。場合により交通費が発生することもある)。活動内容については敬愛大学 HP 国際学部の「フード&アグリ」コーナーを参照のこと。					

国際					
授業番号	B104120001				
科目名 (英語表記)	中学校教育実習 (Practice Teaching at Junior High School)			集中	
担当者 (英語表記)	柳原 由美子 (Yumiko Yanagihara)	対象学年	4	単位数	4
授業のねらいと到達目標	実習校での授業の観察・参加・実習を通して、学習指導や教育に関する理論を自ら検証する。併せて、学校教育についての理解を深めながら、学校現場で教師として仕事をしていくための責任ある力量を身に付ける。				
授業の進め方 (履修条件など)	余裕をもって教育実習に臨むために、参加者は事前に必要な手続きを済ませ、十分な体調管理と準備の上で実習に臨むことが求められる。実習前の「教育実習直前指導」(4月下旬)、実習終了後の「教育実習報告会」(7月上旬)には必ず出席すること。なお、必要に応じて実習前後に個別指導を行う。				
成績評価方法 基準	教育実習校の実習生評価(50%)、「教育実習直前指導」「教育実習報告会」への出席、教育実習録の内容(50%)を勘案した総合評価とする。				
授業の予習・復習	十分な事前準備と心構えが求められる。 実習後も「付録」としての各行事への出席、教育実習体験記の執筆などが課せられる。				
教科書	敬愛大学教職課程年報 『教職への里程』(第17号) 2013				
参考文献					
授業内容					
教室において定期的な授業を行う科目ではない。教育実習開始前の「直前指導」、「実習本体」、「実習後の総括」によって構成される科目である。					